外書講読 (SA) § 外国語文献研究 (SA)

13343

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代ドイツ語文献の初歩的理解を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業中に指示する	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Die ersten 180 Tage der neuen EU, 2004.(初級者向け)
J. Kocka, et. al., Europaeische Zivilgesellschaft in Ost und West, 2000.(中・上級者向け)
受講者の希望を基に、その他の文献の可能性を含め、それらの必要部分の資料を配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外書講読（SB） §　外国語文献研究（SB）

13344

担当者名 / Instructor　平本 毅

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、日常生活の社会学者アーヴィン・ゴフマンの『Encounters: Two Studies in the Sociology of Interaction』に収められた二つの論文『Fun in Games』と『Role Distance』の輪読を通じて、日常生活を社会学することの意義を学ぶ。この二つの論文で取り上げられるのは、まず『Fun in Games』で「なぜ我われは（トランプやスポーツなどの）ゲームを面白いと思うのか」、次に『Role Distance』で「我われが授業やサークルといった社会的場面において（学生や先輩／後輩といった）役割を演じるなかで、演じていない〈本当の〉自分はどこに見出されるのか」ということである。この二つの論点の間には一見何の関係もないようにみえるが、じつは重要な共通点を見いだすことができる。それは、一つには我われがどうやってゲームや社会的場面のリアリティ、言い換えれば〈空気〉を作り上げているかという問題であり、二つ目にはそのような〈空気〉の中で、どうすれば「〈空気〉が読めない人」になることなくゲームの勝利者や本当の自分といった「個人」になれるのか、という問題である。日常生活の中で、社会の一員として振舞うと同時に一個の個人であることを、我われはどうやって成し遂げているのか。ゲームや社会的場面における演技といった身近な例を豊富に取り上げて議論しながら、日常生活を社会学的に探究するセンスを身につける感覚を習得する。

到達目標 / Attainment Objectives

・身近な日常生活で行われる些細な行為を、社会学的な事象として捉える感覚を身につける。
・社会学の基本文献の内容を理解する程度の英文読解力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション「Erving Goffmanの社会学」	講義内容の紹介、進め方の決定等
2	『Fun in Games』（1）	輪読
3	『Fun in Games』（2）	輪読
4	『Fun in Games』（3）	輪読
5	『Fun in Games』（4）	輪読
6	『Fun in Games』（5）	輪読
7	『Fun in Games』（6）	輪読
8	『Fun in Games』（7）	輪読
9	『Role Distance』（1）	輪読
10	『Role Distance』（2）	輪読
11	『Role Distance』（3）	輪読
12	『Role Distance』（4）	輪読
13	『Role Distance』（5）	輪読
14	『Role Distance』（6）	輪読
15	『Role Distance』（7）	輪読

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に出席点と授業への取り組み状況を評価するが、レポート等の提出により加点する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

訳出は主に一行ずつの輪読形式で行うが、わからない場合はパスしてもかまわない。量をこなすことによって、皆で徐々に英文読解に慣れてゆくかたちをとる。

教科書 / Textbooks

Erving Goffman（1961）Encounters: Two studies in the sociology of interaction. Bobbs-Merrill.
適宜使用部分をコピーして渡すため、購入の必要はない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

英和辞書があるとよい。英英辞書もあればなおよし。

外書講読（SC） §　外国語文献研究（SC）

15498

担当者名 / Instructor　藤井 友紀

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

デュルケムは、19世紀末、当時の自殺統計をもとに『自殺論』を著しました。そこで示された彼の分析・理論は、現在でも社会分析に重要な役割を果たしています。

翻って現在、日本では、中高年男性の自殺率の増加やリストカット症候群など、自殺が重要な社会問題となっています。

この講義では、『Durkheim et le suicide』を通して『自殺論』の概要と現在のフランスの自殺の傾向について理解を深めつつ、『自殺論』の現代的意義や日本の自殺傾向についても考えていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

①辞書を有効に利用し、フランス語で書かれた文献の概要を正確に把握できるようになる。
②デュルケムと彼の自殺分析について基本的な理解を得る。
③社会理論についての知識を下敷きに、自分なりに社会現象を分析する視野を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	①講義の方針と計画に関する説明、受講者の語学力の確認、予習範囲および担当箇所の分担。 ②デュルケムと『自殺論』に関する説明。
2	introduction 1.Le suicide, un fait social①	
3	1.Le suicide, un fait social②	
4	1.Le suicide, un fait social③	
5	1.Le suicide, un fait social④	
6	2.Que valent les statistiques du suicide?①	
7	2.Que valent les statistiques du suicide?②	
8	2.Que valent les statistiques du suicide?③	
9	2.Que valent les statistiques du suicide?④	
10	3.Fait divers et fait socioal①	
11	3.Fait divers et fait socioal②	
12	4.Le suicide aujourd'hui①	
13	4.Le suicide aujourd'hui②	
14	Conclusion①	
15	Conclusion②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業への出席、予習、議論への参加の具合によって決定します。 ただ黙々とテキストを読み進めるだけでなく、各自が疑問に思ったことなどを積極的に議論していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・受講者は一通りフランス語の基本文法を修得していることが望ましいですが、意欲があれば初心者でも受講可能です。
・一回の予習範囲は少なくはありませんが、読みやすく、図表のページも多いので、辞書を片手に頑張って読んでみて下さい。
・受講者の数や語学力によっては、予習範囲を分担制にし、負担を軽減する場合もあります。

・また進度に応じてレジュメを作成し、それまでの議論の要点を纏めるとともに、疑問点を整理する時間を設けます。
・あまり気負わず、率直な意見交換を通して講義を活性化していきましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Durkheim et le suicide	C. Baudelot, R. Establet／Paris : Pr. Univ. de France ／978-2-13-056018-0／

コピーを用意しますので、購入の必要はありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Le suicide : étude de sociologie	Emile Durkheim／Paris : Pr. Univ. de France ／／
自殺論	デュルケム著、宮島喬訳／中央公論新社／／上記の邦訳版

事前に読んでおくことが望ましいですが、随時解説を加えていきますので、未読でも大丈夫です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外書講読（SD） §　外国語文献研究（SD）

13345

担当者名 / Instructor　吉田 幸治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、ランドル・コリンズによる社会学の入門書、Sociological Insight～An Introduction to Nonobvious Sociology～（『社会学的洞察力～脱常識の社会学への招待～』）を講読する。副題のタイトルにあるnonobvious（脱自明的/脱常識的）には、「わたしたちが社会の中で当たり前とみなしている知識、あるいはそうした理解のしかた（物事を自明視する理解のしかた）から脱する」という意味が込められている。そして著者は、そのための知的トレーニングとして、「社会学を学ぶ意義」を挙げるのである。序文において、著者は以下のように言っている。

「社会学はたしかに、この世界を動かしている重要な原理のいくつかを認識している・・中略・・しかも これらの原理は、私たちの日常的信念の表層よりも深いところで働いている。」（テキスト序文より）

本講義では、この「重要な原理」が示されている第1章「合理性の非合理的基盤」と第2章「神の社会学」を輪読することによって、これまでの社会学が培ってきた社会への脱自明的なものの見方を理解していく。すなわち、近代以降の私たちの社会を形作っている「合理性」の力は、歴史的にも実際的にも非合理的な基盤に支えられていること（M.ウェーバーらによる洞察）、あるいは人間集団を成立させるためには共通の感情と理念を生み出す何らかの非合理的メカニズムが必要とされ、そのメカニズムは宗教の本質を問うことによって明らかになること（E.デュルケムらによる洞察）などを理解していく。

以上のように、このテキストを読み進めることによって、近代社会における合理性の問題や、社会の秩序形成と宗教の関係など、社会の基本的なあり方を把握するうえで重要な論点が考察可能となる。講義ではそれらの考察を通して、社会学を学ぶ際に必要な基礎知識や発想の理解を深めることを目的としたい。なお、テキスト中で言及されているM.ウェーバーやE.デュルケム等の社会学に関する重要な基礎概念については、講義中で適宜解説を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

テキスト本文において論じられている内容の正確な訳出と、社会学的基礎知識の理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	第1回授業時において、次回の翻訳担当者を決定。以下、毎回翻訳担当者を決め、受講者全員によるテキストの読み合わせを進めながら、適宜内容の解説や議論を行う。ただし受講者の人数や講読の進度によって、読み合わせの方法や輪読スケジュールの変更もありうる。
第2回～8回	第1章　合理性の非合理的基盤（The Nonrational Foundations of Rationality）を輪読。	
第9回～14回	第2章　神の社会学（The Sociology of God）を輪読。	
第15回	講義総括	読み進めてきたテキストの内容について、総括を行う。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

事前に社会学史に関する簡単な概説書（入門書程度でよい）を講読しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況、担当箇所の翻訳、講義期間中に実施する小レポートによって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進めるが、その進め方については、第1回講義時に受講生と協議を行う。原則的には輪読形式を予定している。なお、受講にあたっての最低限のルールとして、自分の翻訳担当箇所だけでなく、他の担当者分の箇所も必ず読んでくることが求められる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Sociological Insight	Randall Collins ／Oxford University Press／／

上記テキストのうち、Chapter1.The Nonrational Foundations of Rationality、及びChapter2.The Sociology of Godを講読する。なお使用する部分は講義で配布するので、テキストを購入する必要はない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新睦人 他著／有斐閣（有斐閣新書） ／4641088578 ／
社会学のあゆみパート2～新しい社会学の展開～	新睦人 他著 ／有斐閣（有斐閣新書） ／4641090467 ／
リフレクション～社会学的な感受性へ～	野村一夫 著 ／文化書房博文社 ／4830106964 ／

現代社会学講義　　佐藤慶幸 著 ／有斐閣(有斐閣ブックス)／4641086281 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外書講読 (SE) § 外国語文献研究 (SE)

15585

担当者名 / Instructor　甘 琳樺

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

中国は現在目まぐるしい変化を遂げつつあります。そんな日進月歩の社会の表層を追いかけることを中国語学習の目的と考えているわけではありませんが、本テキストはたまたま中国の最新情報が紹介されています。当世学生気質から、日常生活に対する感覚まで内容は雑然と多方面にわたっており、これらを読むことで現代中国の実態の一端が窺えることでしょう。また、使われている文体も平易で日常的なものです。全体で10課ですから、3回で1課という進度で進めていきます。時間に余裕があるようなら、関連した資料やビデオ等も取り入れて、理解を深めることが出来たらと思っています。一緒に楽しく学んでいきましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

中国語検定2級、3級レベルの実力を身につけることを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

中国語学習歴のある学生の参加を望んでいます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第1課 校园生活	キャンパス・ライフについて
第2回	第1課 校园生活	キャンパス・ライフについて
第3回	第1課 校园生活	キャンパス・ライフについて
第4回	第2課 难关	大学受験について
第5回	第2課 难关	大学受験について
第6回	第2課 难关	大学受験について
第7回	第4課 爱情·亲情·友情	人件関係について
第8回	第4課 爱情·亲情·友情	人件関係について
第9回	第4課 爱情·亲情·友情	人件関係について
第10回	第5課 人是铁，饭是钢	飲食に関する風俗習慣について
第11回	第5課 人是铁，饭是钢	飲食に関する風俗習慣について
第12回	第5課 人是铁，饭是钢	飲食に関する風俗習慣について
第13回	第6課 消费新倾向	暮らしぶりやものの考え方について
第14回	第6課 消费新倾向	暮らしぶりやものの考え方について
第15回	第6課 消费新倾向	暮らしぶりやものの考え方について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『中国は今』	孟　広学・本間　史／白水社／／

参考書 / Reference Books

中日辞書を持参すること。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究 SA 「学生の意見10(より良い社会への提言づくり)」

本文無し

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SB） §　企画研究（自主企画研究）（SB）

14513

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】音楽・エンタテイメント産業の多面的研究
日本にレコード会社が設立されて100周年になるが、レコード産業を軸にした
音楽ビズネスは大きな曲がり角に直面している。アーティストの発掘を川上とするなら
音楽制作・販売は通過点で、今まで川下に位置づけられていたキャラクターグッズの販売に至るまで、経営哲学及び事業展開は「380度発想」に大きく舵をきることになった。

到達目標 / Attainment Objectives

キャンパス・ビジネスのモデルケースとして仮想「多面的ヒット創出集団」を発足させ、各自が業務を分担し、音楽・エンタテイメント産業界に対し学習成果をアピールすることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。産業界の現状と課題を理解し、「ヒット創出集団」を立ち上げる。	
2	日本のインデペンデントレーベルの歴史と現状を研究。	
3	音楽関連企業のオーディションの実態を研究。	
4	集団名、定款の作成。組織づくりと分担の決定。予算の作成。	
5	学外の関連団体、企業との連携に着手。	
6	アーティストの発掘・オーディション実施計画の作成。自薦も可。	
7	オーディションの運営に着手。有効な告知、選考法などを討議。	
8	学外の関連団体、企業との提携の研究と着手。	
9,10	視聴会の実施と研究発表。	
11	アーティストの決定。	
12	市場調査及び商品化・プロモーション計画の作成。	
13	企業と交流会の設定・実施（見学を含む）。	
14,15	学内外での活動成果報告	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学生らしい自由闊達な発想を生かし、積極的な参加を望みます。テーマ別に実態調査を行い、研究の成果を学外へ向けて発信することで、存在をアピールしたいと考えています。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

株式会社フォーライフ　エンタテイメント及びインディーズレーベル協議会のHPを閲覧しておいてください。

その他 / Others

企画研究（SC） § 企画研究（自主企画研究）（SC）

14514

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いえづくり・まちづくりの分野で女性の生き方や家族の変化を踏まえた設計思想を学び、並行して、現在取り組まれているコレクティブ・ハウジングなどのユニークな住まい方について当事者ヒアリングや現地調査を行い、その活動と成果の評価を試み、今後の住まい方を提案する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の現実に欧米に経験を持ち込むことには困難がある。が、現状を評価する重要な視点を提供してくれていることは間違いない。その視点を獲得することが第一の目標である。次に、その視点から、身の回りの居住空間を見直し、当事者や専門家の意見を聞きながら、大きな課題となりつつある高齢者の自立・自律生活をささえる住まいや地域のありかた、さらにその作り出し方について、自分の意見をもてるようになることが第二の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族・女性・地域・まちづくりなどに関連する科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ドロレス・ハイデン『アメリカン・ドリームの再構築ー住宅・仕事・家庭生活の未来ー』にみる設計思想を学ぶ　その1	変わる男女の役割・家族形態・仕事・空間
2	ドロレス・ハイデン『アメリカン・ドリームの再構築ー住宅・仕事・家庭生活の未来ー』にみる設計思想を学ぶ　その2	ジェンダー・公共空間・生活様式
3	ゲスト・スピーカー：働く女性と住まいかた　Hさんの設計思想と住まい方	ライフスタイル・コーポラティブハウス・いえづくり
4	1－3のまとめー個人の生きやすさをささえる住まいとは	個人・家族・ライフスタイル・
5	『女性のための草の根まちづくり』からーノルウェーの取り組みに学ぶーその1	地域計画・女性参画・民主主義と協働
6	『女性のための草の根まちづくり』から、ノルウェーの取り組みに学ぶーその2	地域計画・女性参画・民主主義と協働
7	子どもと市民意識ーまちへの関心ースウェーデンの社会科教科書に学ぶ	子ども・市民教育・地域を見る目
8	ゲスト・スピーカー：ノルウェーの住まいづくり	北欧のいえずくり・まちづくり
9	5－8のまとめー北欧のまちづりいえづくりから何を学ぶかー	市民・参加・協同・パートナーシップ
10	高齢女性のいえづくりー必要性と現状ーその1	単身・ケア・高齢女性・協同性・地域
11	高齢女性のいえづくりー必要性と現状ー	単身・ケア・高齢女性・協同性・地域
12	ゲスト・スピーカー：高齢女性のグループ・リビングに取り組む女性設計者	集まってつくる住まい、コーポラティブ・ハウス、グループ・リビング
13	ゲストスピーカー：高齢女性のグループ・リビングに取り組む当事者	自立と協同・単身・高齢女性
14	10－13のまとめ	自立と協同の住まいとすまいづくりの現在
15	全体のまとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	三回のまとめ二対応するレポート、および全体のまとめに対応するレポートを評価対象とする。
平常点評価	50 %	出席状況、およびディスカッションでの積極性を評価対象とする。

企画研究には自主性・能動性がもとめられるのはもちろんだが、自主研究を支える講義や相互のディスカッションへに必ず参加してほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SD） §　企画研究（自主企画研究）（SD）

14515

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映画興行における宣伝の重要性について、前期は、具体的な作品の事例研究、後期は、自分たちで選んだ作品の上映会を企画運営し、実践的に研究する。なお、上映作品は日本映画、必ず監督かプロデューサーをゲストとして招いて行う。

到達目標 / Attainment Objectives

映画興行における宣伝戦略の重要性の理解。宣伝戦略の立て方の理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	映画興行の現状	
2	映画の宣伝とは	
3	サンプル作品の具体的な宣伝方法について	
4	配給会社の宣伝プロデューサーによる講義	
5	後期上映作品の選定	
6	上映決定作品の宣伝戦略の検討1	
7	上映決定作品の宣伝戦略の検討2	
8	上映会に向けて　役割分担の決定	
9	宣伝チラシなど、宣伝物の作成1	
10	宣伝チラシ等、宣伝物の作成2	
11	上映会の動員対策、当日の役割分担、アンケートの準備	
12	上映会のまとめ　アンケート分析	
13	ゼミナール大会にむけての発表準備	
14	ゼミナール大会のまとめ	
15	論文作成のうちあわせ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業スケジュールは、ゲストの予定ならびに上映作品、上映会の日程等で変更することがあり得る。基本的に上映会は、11月の上旬が望ましい。京都シネマの協力で、作品等の選定は行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	ゼミナール大会への報告レポートで、評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SE） §　企画研究（自主企画研究）（SE）

14516

担当者名 / Instructor　赤井 正二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会学」は面白そうだけど何かいまいち全体がよく見えないという人が多いと思いますが、それは実際「いろいろな社会学」があるからです。柳田国男は民俗学者として有名ですが、その多くの著作は「社会学」といってもよいものだし、とくに『明治大正史世相篇』は、日本の社会学の古典と言えます。

この企画研究では、この本を輪読していきます。新聞に連載された記事がベースになっているので、さっと読んでしまうこともできますが、同時に味わい尽くせない魅力を持っています。色や音の感じ方、外食の普及、風景の感じ方、都市と田舎、旅行の変化、結婚相手の見つけ方、こういう内容を扱っているからこそ、この本が生きた社会学だと見ることもできるのです。この企画研究から「こういう社会学もある」ということを学んでもらいたい。

実際テキストをみんなで読みながら、解説や議論をして丁寧に進めていきます。

基本的な到達目標は、古典的なテキストをじっくり読む力を養うことです。

到達目標 / Attainment Objectives

柳田国男著『明治大正史世相篇』の精読を通して、社会学的研究方法の理解を深めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	柳田国男とはどんな人か？	生涯
2	柳田国男の時代	民俗学と社会学
3	第1章 眼に映ずる世相	1. 新色音論　2. 染物師と禁色　3. まぼろしを現実に　4. 朝顔の予言　5. 木綿より人絹まで　6. 流行に対する誤解　7. 仕事着の捜索　8. 足袋と下駄　9. 時代の音
4	第2章 食物の個人自由	1. 村の香　祭りの香　2. 小鍋立と鍋料理　3. 米大切　4. 魚調理法の変遷　5. 野菜と塩　6. 菓子と砂糖　7. 肉食の新日本式　8. 外で飯食う事
5	第3章 家と住み心地	1. 弱々しい家屋　2. 小屋と長屋の修錬　3. 障子紙から板ガラス　4. 寝間と木綿夜着　5. 床と座敷　6. 出居の衰微　7. 木の浪費　8. 庭園芸術の発生
6	第4章 風光推移	1. 山水と人　2. 都市と旧跡　3. 海の眺め　4. 田園の新色彩　5. 峠から畷へ　6. 武蔵野の鳥　7. 家に属する動物　8. 野獣交渉 5　故郷異郷
7	第5章 故郷異郷	1. 村の昂奮　2. 街道の人気　3. 異郷を知る　4. 世間を見る眼　5. 地方抗争　6. 島と五箇山　6　新交通と文化輸送者
8	第6章 新交通と文化輸送者	1. 人力車の発明　2. 自転車村に入る　3. 汽車の巡礼本位　4. 水路の変化　5. 旅と商業　6. 旅行道の衰頽
9	第7章 酒	1. 酒を要する社交　2. 酒屋の酒　3. 濁密地獄　4. 酒無し日　5. 酒と女性
10	第8章 恋愛技術の消長	1. 非小笠原流の婚姻　2. 高砂業の沿革　3. 変愛教育の旧機関　4. 仮の契り　5. 心中文学の起こり
11	第9章 家永続の願い	1. 家長の拘束　2. 霊魂と土　3. 明治の神道　4. 士族と家移動　5. 職業の分解　6. 家庭愛の成長
12	第10-12章 生産と商業、労力の配賦、貧と病	1. 本職と内職　2. 農業の1つの強味　3. 漁民家業の不安　4. 生産過剰　5. 商業の興味及び弊害
13	第13-14章 伴を慕う心、群を抜く力	1. 零落と貧苦　2. 災厄の新種類　3. 多くの病を知る　4. 医者の不自由　5. 孤立貧と社会病
14	第15章 生活改善の目標	1. 英雄待望　2. 選手の養成　3. 親分割拠　4. 落選者の行方　5. 悪党の衰運
15	いま『世相篇』から学ぶことができる事	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治大正史〈世相篇〉』	柳田国男著／(講談社学術文庫)／ISBN-10: 4061590820／講談社; 〔新装版〕版 (1993/07)

参考書 / Reference Books

授業の中で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SF） §　企画研究（自主企画研究）（SF）

14517

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：京のまち・参加のデザイン実践講座
京都で取り組まれている「参加のデザイン」に参加することで、実践的に参加のデザインを学ぶ演習です。
具体的な実践活動は、下記の通り、「場づくり・ものづくり」系と「政策系」のふたつ（どちらも、乾が関わっているプロジェクト）。受講者は希望により二つの班にわかれて活動します。具体的な取り組み方は受講者と相談のうえ決定。
①長屋を活用したシェアハウス計画（学生と地域をつなぐ）
町家所有者と協力して、町家（長屋）改造による「地域共生型学生居場所づくり」を行い、実践活動を通じて学生が地域に入ることの効果を検証する
②市民参加を考える市審議会支援隊
乾が座長をつとめている「市民参加フォーラム」と「京都市地域コミュニティ活性化を考える懇話会」の活動と連携しつつ（可能な限り委員会に参加し）、学生の立場から以下のような課題を検証し、その成果を委員会に提言する（市政に活かす）
・京都市の市民参加の仕組みの検証・再検討
・審議会における市民参加の検証
・地域コミュニティにおける参加の活性化と行政の役割　など

到達目標 / Attainment Objectives

活動に関わり、体験を通じて「現状を理解する・課題と可能性を考える・解決策（向かうべき方向性）を提起する」力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	課題の概説＜町家プロジェクト編＞	京都・町家・地域・学生・事業化
2	課題の概説＜参加の政策編＞	京都・地域コミュニティ・市民活動・市政参加
3	課題の解題・チーム編成・進め方の検討	
4	課題の展開（1）	チーム毎学習活動
5	課題の共有（1）	全体中間発表・議論
6	課題の展開（2）	チーム毎学習活動
7	課題の共有（2）	全体中間発表・議論
8	課題の展開（3）	チーム毎学習活動
9	課題の共有（3）	全体中間発表・議論
10	課題の展開（4）	チーム毎学習活動
11	課題の共有（4）	全体中間発表・議論
12	課題の展開（5）	チーム毎学習活動
13	課題の共有（5）	全体中間発表・議論
14	成果の発表	
15	成果の発表	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	継続的に活動したかどうか・積極性

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

二つのテーマとも、以下のような進め方をするため、講義時間以外に、会議の傍聴やヒアリング、検討会への参加等、実践活動のための時間を使います。そのことを理解して参加してください。
①町家所有者と企画研究メンバーで検討委員会をつくり、企画案を作成する
②年間を通じて定期的に開催される上記委員会（座長：乾）に傍聴者として参加し、委員会と課題を共有しつつ、調査・検証作業に取り組む

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

適宜指示します

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示します

その他 / Others

企画研究（SG） § 企画研究（自主企画研究）（SG）

20283

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

関西テレビ放送（関テレ）を対象に、関西ローカルにおけるテレビ放送の現状と将来についての考察を行う。デジタル化において、ローカル・コンテンツはその重要度を増している。その一方で、ローカル・コンテンツの中身に関しては、まだまだ模索が続いている。関西という地から、テレビのローカリティを考えるのがこの授業の狙いである。

到達目標 / Attainment Objectives

最終的に関西ローカル放送局の存在を理解し、学生の目線による将来像に関する一定の見解を関西テレビ側にプレゼンすることを目標とする。
中間総括と最終課題の内容は、4月以降に追って指示する。
09年度における主要なテーマは、以下の通り。
1．東京一極集中のテレビ状況における関西ローカルのあり方を考察。
2．関西ローカルの特色を生かしたテレビ番組の考察。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　授業概要説明及びテレビにおける関西とは	
2	関西テレビ担当者とディスカッション1	
3	関西ローカルについて	
4	関西テレビ担当者とディスカッション2	
5	テレビ番組の関西らしさとは	
6	関西テレビ担当者とディスカッション3	
7	関西タレントと関西らしさ	
8	前期総括プレゼンテーション	
9	関西テレビ担当者とディスカッション4	
10	最終課題内容発表・討議	
11	関西テレビ担当者とディスカッション5	
12	最終課題内容発表・討議	
13	関西テレビ担当者とディスカッション6	
14	最終課題内容発表・討議	
15	最終プレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	中間総括と最終課題両方の提出が、単位認定の条件。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テレビの制作現場ではなく、ローカル・テレビ局の現状と今後、あるいはテレビ・メディアにおけるローカリティに関心のある学生を対象とする。単にテレビ局にあこがれを持つのではなく、テレビ局が抱える問題に対して、学生独自の視点を持って積極的に考察を深めることが求められる。関西だけでなく、関西以外を出身とする学生の視点も重要な問題意識に発展するので、積極的な参加を期待する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SH） §　企画研究（自主企画研究）（SH）

14518

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2006年度から実施されていた現代GP「地域活性化ボランティア教育の深化と発展」の一部を継承し、企画研究として新たにスタートさせる。内容は、学生のボランティアに関する知識、実践、地域発信の3者を総合したボランティア教育研究。現代GPで行った知識、実践、発信の連携を基礎としながら、少人数の企画研究の形式において継続していくことを目的としている。学生は、ボランティアの知識修得をまず行い、地域におけるボランティア活動の実践体験を通じてボランティアと関わりを深める。そして、これらの知識・体験をふまえた上で、地域におけるボランティア活動の情報発信を行う。

本研究には、ボランティアセンターの協力を得、知識修得には学生アドバイザーを活用。学生が学生に対する知識の修得に参加することで、学生アドバイザー自身の学びにもつながる「ピア・エディケーション」を行う。また、ボランティア実践は、ボランティアセンターを通じて地域の活動を知り、各人がボランティア実践を行う。最後に、ボランティアに関する情報発信は、地域FM局「京都三条ラジオカフェ」の番組枠を使い、受講生たち自身が地域への情報発信を行う

到達目標 / Attainment Objectives

受講学生はボランティアの総合的な学びと地域への還元方法を修得できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	学生アドバイザーからの前期ボランティア・レクチャー	
2	教員とのディスカッション	
3	ボランティア団体取材1	
4	ボランティア団体取材2	
5	番組作成（スタジオ収録・編集作業）1	
6	番組作成（スタジオ収録・編集作業）2	
7	番組作成（スタジオ収録・編集作業）3	
8	学生アドバイザーからの後期ボランティア・レクチャー	
9	教員とのディスカッション	
10	ボランティア団体取材1	
11	ボランティア団体取材2	
12	番組作成（スタジオ収録・編集作業）1	
13	番組作成（スタジオ収録・編集作業）2	
14	番組作成（スタジオ収録・編集作業）3	
15	総括プレゼン	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	2／3以上の出席と取材、番組作りへの参加は必須。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ボランティアに感心が有る学生、情報発信に関心のある学生、ピア・エデュケーションに関心ある学生など、さまざまな関心をもち、積極的に参加できる学生はぜひ応募してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SI） § 企画研究（自主企画研究）（SI）

20284

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

VISUAL BASICによるプログラミングの学習を通して、情報処理リテラシーをさらに発展させ、応用能力を習得する。

到達目標 / Attainment Objectives

自作のCAIプログラムを作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	VISUAL BASICの特徴と構造	プログラム、イベント・ドリブン、コード
2	プログラミングの基本手順	フォーム
3	プログラミングの基本手順	プロパティ
4	問題の提示方法	デバッグ、ビルト
5	問題の提示方法	ボタン
6	問題の提示方法	button
7	問題の提示方法	textbox
8	反応の記録	label
9	反応の記録	Val関数、Rnd関数
10	課題プログラムの作成	Format
11	課題プログラムの作成	Int関数
12	課題プログラムの作成	Int関数
13	課題プログラムの作成	If文、配列
14	課題プログラムの作成	サブルーチン
15	課題プログラムの作成	ファイル操作

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

隔週通年で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストとなる資料を配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

//www.ritsumei.ac.jp/~monden

その他 / Others

企画研究（SJ） §　企画研究（自主企画研究）（SJ）

14519

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

音楽のあり方を通じて、「現代（の特徴）を明るみに出すこと」を目的としています。注意！音楽史における「現代」（現代音楽）の探求ではございません。音楽を楽しむ上での手段、ネットワーク、「場」等などの現代的姿を見て、現代というモノを解読する試みです。

当然毎回のようにさまざまなジャンルの音楽を聴くことになります。というか、一般的にいった「ジャズ、ロック…」など様式上のジャンルではなく、「これが音楽か？？」というジャンル越えを多々経験していただくことになると思います。最終的には、「音楽とはそもそも何か？」という問いに立ち返る訓練をつうじ、哲学する心を磨きます。

到達目標 / Attainment Objectives

音楽とは何か？という問いが自分の中に生まれること
音楽を通じ、文化的「食わず嫌い」を矯正すること
20世紀というものを鳥瞰できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「音楽とは何か」とは何か	音楽
2	音楽を成立させる、場と手段の考察	楽器　演奏　メディア
3	音楽の時代区分と歴史区分の関係	現代　近代　音楽史
4	20世紀とは何か1　19世紀「世界」の終焉	19世紀　世紀末
5	20世紀とは何か2　20世紀の哲学	20世紀　現代
6	20世紀と音楽1ラジオ	ラジオ
7	20世紀と音楽2レコード	レコード
8	20世紀と音楽3大衆	ポップ　軽音楽
9	20世紀と音楽4民族	民族音楽
10	20世紀と音楽5電気	電気楽器　音響製品
11	20世紀と音楽6電子	電子楽器　デジタル
12	20世紀と音楽7アバンギャルド	前衛　アバンギャルド
13	20世紀と音楽8ノイズ	ノイズ　アンビエント
14	「21世紀の音楽考」	未来派
15	「音楽における現代とは何か」	時間

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の議論を通じて芽生えた考えを 最終的には「成果」としてまとめます

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

とにかく食わず嫌いをする人はだめです
音楽が好きというより　音楽について考えることが好きな人を求めます

教科書 / Textbooks

ありません

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
響きの考古学	藤枝守／音楽の友　／ISBN4-276-33084-X／

他とにかく多数紹介していきます

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

いろいろあり

その他 / Others

企画研究（SK） §　企画研究（自主企画研究）（SK）

20285

担当者名 / Instructor　景井 充、坂田 謙司、山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本企画研究のテーマは、日本の高等教育のあり方に対する批判的検討を行うことである。その際、抽象的な議論だけおこなっても意味がないので、産業社会学部の学際性という学部特性に即した形での「学ぶ主体」とはどのようなものなのかについて、その中身、その形成、そしてそれを実現する具体的な仕掛けのあり方などを論点としながら、学生と共にインテンシブな学習と検討を重ね、実際にその開発に取り組む（産社らしいアクティブ・ラーニング！）。具体的には、大学における学際的教育の取り組みの現状についての調査を踏まえ、大学におけるピア・エデュケーションの可能性を検討することや、「学ぶ主体」を形成する仕掛けとして学生の自主活動・自治活動を脱構築・再構築することなどに取り組んでみたいと考えている。

授業における具体的な活動には、文献や資料を素材とする学習や討論に加えて、他大学への視察、シンポジウムの企画・開催も含めたいと考えている。

前半期（前期セメスター）は、基礎的な資料と文献を素材とする学習と、他大学への視察や専門家へのインタビューを含めた調査活動を行い、シンポジウムへと結実させる。基礎的な文献・資料としては、「学ぶ主体」の内容やその形成を構想することに資する文献および資料を取り上げる。調査・視察の対象としては、九州大学の21世紀プログラム課程など先進的な学際的教育に挑戦している大学やその関係者、また学生の主体的な学びの具体的な中身となる学習理論（教育理論に対応する）や発達科学（発達心理学や学習心理学、青年期研究など）の諸研究・実践に取り組んでいる大学や研究者を考えている。以上の取り組みを総括するものとして、7月中旬頃にシンポジウムを企画・開催したい。

後半期は、前期の活動をフォローする形で文献・資料等を通じた学習・検討および調査・視察活動を継続しつつ、発信・提言能力を育成する観点から、公刊を含めたなんらかの形で本企画研究の成果を社会的に提案することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

本企画は2年間の継続事業として構想しているが、今年度の最終的な到達目標は、シンポジウムや視察の成果を学部内外に向けて広く継続的に情報発信し、また積極的な提言を行うことである。何らかの形で成果を公刊することも視野に入れている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ・活動内容の検討（教員より話題提供および討論）	
第2回	テーマ・活動内容の決定（分野と分担の決定、日程等の決定）	
第3回	シンポジウム開催準備①・調査活動準備（調査先の特定、調査内容の検討など）①	
第4回	シンポジウム開催準備②・調査活動準備①・事前学習①	
第5回	調査活動準備②・事前学習②	
第6回	調査活動①・事前学習③	
第7回	シンポジウム開催準備③・調査活動②・事前学習④	
第8回	シンポジウム開催準備④・調査活動③	
第9回	シンポジウム開催（於：以学館）	
第10回	シンポジウムの総括①、後半のテーマ・活動内容について検討・確定	
第11回	シンポジウムの総括②、事後学習①	
第12回	事後学習②	
第13回	事後学習③、成果の取りまとめ・成果公表に向けた準備①	
第14回	事後学習④、成果の取りまとめ・成果公表に向けた準備②	
第15回	成果公表に向けた最終準備、全体の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

産業社会学部において、大学・学部教育それ自体が検討される機会は今までなかった。大学における学びのあり方について関心を持つ学生の参加を広く求めたい。大学・学部に対する“消費者主権的依存”状態からも、シニカルな傍観者的態度からも自由になって、大学での学びを自分自身にとって意義あるものとしたいと思う学生は、ぜひ参加してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SL） §　企画研究（自主企画研究）（SL）

14609

担当者名 / Instructor　景井 充、高嶋 正晴、中西 仁

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】大学とNPOの協働による地域活性化（京北プロジェクトを中心に）
【概　要】京都市京北町をフィールドワークの対象地として、納豆づくりや、その他、
当該地域での農林業活動を体験し、それらを通じて地域の生活・産業を具体的に知る
とともに、京北地域の課題と活性化に向けての可能性について調査研究を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

本プロジェクトの活動を通じて、大学とNPOの協働による地域活動について、各人の
関心・テーマからフィールドワークや調査研究を行い、その成果を学内・学外で発表する
とともに、年度末に成果報告書としてまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに　～京北プロジェクトの活動の概要および予定の確定～	
第2回	京北の概要　～現地視察から地域的特性を知る～	
第3回	京北の農業と納豆づくり①　～圃場の整備と大豆種まき体験～	
第4回	京北の林業と栃の木植林活動①　～植林現場の視察～	
第5～7回	京北の地域活性化活動の実施　～地域・NPO・大学の協働で～	（7月10日、学内で第2回「京北納豆フェスタ」開催とその企画策定・準備、 また、同下旬には、京北での「カブトムシドーム」イベントのサポートも）
第8回	京北の農業と納豆づくり②　～大豆収穫体験～	
第9回	京北の歴史文化資源　～古城調査の実践から～	
第10回	京北の農業と納豆づくり③　～納豆作りと藁つと作りを体験～	
第11回	京北の林業と栃の木植林活動②　～栃の木植林を体験～	
第12、13回	大学の地域貢献事例の視察　～本学他学部の取組を中心に～	
第14、15回	学内外での活動成果報告（11、12月を予定：納豆フォーラムなど）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義への出席、活動への参加、および学内外のフォーラムでの成果報告など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

京北プロジェクトを中心として、フロンティア協会がアレンジする各種現地活動や
ボランティア活動への積極的参加、とりわけ、毎年の納豆フォーラムや栃の木
フォーラムなど学内外での成果・活動事例の発表への参加を望みます。
（※なお、フィールドワークや地域行事などは、土曜日、日曜日に実施することが
多いので、なるべく多くの活動への参加ができるよう、留意して下さい。）

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
聞き書京都の食事（日本の食生活全集　第26巻）	「日本の食生活全集 京都」編集委員会（編）／農山漁村文化協会／／
伝承写真館　日本の食文化　第8巻　近畿	農文協（編）／農山漁村文化協会／／

納豆本―やっぱり納豆が好き―　／フロム出版／9784894472037／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・京北プロジェクトのブログHP「京北プロジェクト」 http://ritskeihoku.kyo2.jp/
・特定非営利法人フロンティア協会ホームページ http://www.nethousing.co.jp/frontier/
・京北商工会ホームページ http://keihoku.kyoto-fsci.or.jp/
など

その他 / Others

京北プロジェクトの2008年度活動を報告する掲示板が以学館1Fにあります。
納豆フェスタや納豆フォーラムを報じる新聞記事なども掲示されています。
ブログやHPとともに、2009年度の活動の参考としてください。

企画研究（SM） § 企画研究（自主企画研究）（SM）

14610

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

Kielburger兄弟らによって執筆されたカナダにおけるボランティア活動入門書、TAKE ACTION:A GUIDE TO ACTIVE CITIZENSHIPおよびTAKE MORE ACTIONを翻訳を試みたうえで、日本版テイク・アクションを開発・作成していくことを目指す。

日本のあらゆる若者たちを、市民的な行動へと誘うテキストとして、いかなるコンテンツが好ましいかを、上記テキスト読解・分析のうえ、参加者とディスカッションを進めていく、それと並行して、その他参考文献の調査、NPOへのインタビュー調査などフィールド調査も実施していく。

到達目標 / Attainment Objectives

1）英語読解力を増進する。
2）日本版テイク・アクションを開発することによって、自ら、創造的な力量を獲得する。
3）若者たちの社会的活動を活性化しているNPOを調査することにより、ネットワーク形成をめざすとともに、調査能力の獲得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テキストの紹介とメンバー紹介	TAKE ACTION:A GUIDE TO ACTIVE CITIZENSHIP TAKE MORE ACTION
第2回	TAKE ACTION：PATR1 検討会	How to Get Involved
第3回	TAKE ACTION：PATR2 検討会	The How-To Guide
第4回	TAKE ACTION：PATR3 検討会	Where You Can Get Involved---Everywhere
第5回	TAKE ACTION：PATR4 検討会	Tackling Social Issues
第6回	TAKE ACTION：PATR5 検討会	Sources and Resources
第7回	テラ・ルネッサンスについて学習会	テラ・ルネッサンスの活動・組織・スタッフ
第8回	鬼丸昌也著『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』学習会	鬼丸氏のライフヒストリーの分析
第9回	テラ・ルネッサンスとの交流	日本版テイク・アクションの設計と作業分担
第10回	夏休みに実施するNPOインタビューのまとめ・分析　その1	日本におけるパワフルNPOの調査
第11回	夏休みに実施するNPOインタビューのまとめ・分析　その2	日本におけるパワフルNPOの調査
第12回	日本版テイク・アクションの作成　その1	テキスト開発
第13回	日本版テイク・アクションの作成　その2	テキスト開発
第14回	日本版テイク・アクションの作成　その3	テキスト開発
第15回	日本版テイク・アクションの作成　その4	テキスト開発

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	本企画研究への参加度・貢献度によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

一定の英語能力が求められる。また、NPO調査などにおいては、フィールドワークが重視されるので、アクティブな参加姿勢が求められる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
TAKE ACTION:A GUIDE TO ACTIVE CITIZENSHIP	M &C Kielburger／Wiley／0-471-27132-2／

テキストは、こちらで準備する。

参考書 / Reference Books

適時、授業中に紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

こうしたサイトを調査すること自体が、本企画研究の活動テーマとなる。

その他 / Others

本企画研究は、実際に、テキストを開発していくことを目指すことから、高い参加意識が要求される。その点、覚悟のうえで、参加してほしい。

企画研究（SN） §　企画研究（自主企画研究）（SN）

14611

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市ユースアクションプラン（2002年）では、ユースサービスを基本理念に子どもから責任ある大人へ成長する青少年を支援することが示されている。その支援とは、青少年が家庭、学校、地域社会等においてあらゆる場面への参加をとおして、社会と交わり、青少年の興味・関心を豊にし、青少年が必要として場合に助言、情報の提供や人的・物的資質が得られるような機会を提供するものである。このプランの実現にむけて京都市の青少年活動センターでは、様々な事業が展開されている。その後、このプランに関する中間見直しが行なわれ、新たに青少年のキャリアに関する支援を充実させようとする改定版（2007年）が策定された。この授業では、この改定版を再検討し、青少年活動センターの現状を様々な観点から検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

京都市のユースアクションプランを知り、京都市の青少年活動センターの実態調査を行なう力、青少年活動センターに関するレポートをまとめる力、プレゼンテーションする力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業内容と到達目標に関する概要	授業内容、目標、スケジュール確認
第2回	京都市ユースアクションプラン（基本方針1）に関する考察	若き市民、自主活動、体験活動、社会参加活動
第3回	京都市ユースアクションプラン（基本方針2）に関する考察	創造性、国際性、高度情報化社会、人権感覚、環境学習
第4回	京都市ユースアクションプラン（基本方針3）に関する考察	地域社会、活動の場、活動支援、人的支援
第5回	京都市ユースアクションプラン（基本方針4）に関する考察	生きる力、キャリア教育、就業課題、就業支援
第6回	京都市ユースアクションプラン（基本方針5）に関する考察	課題解決、課題解決支援策、社会環境
第7回	出前講義：京都市役所青少年課関係者による上記プランの説明、質疑	ユースサービスの理念、自然・社会・文化、プランの到達目標
第8回	出前講義：京都市ユースサービス協会事業部長による青少年活動センターの説明、質疑	ユースサービス協会の概要、北、中京、東山、南、山科、下京、伏見青少年活動センター
第9回	中京青少年活動センターの実態調査1：事業全体に関する実態調査	相談業務、リーダーバンク、青少年団体支援ネットワーク
第10回	中京青少年活動センターの実態調査2：若者サポートステーションに関する調査	相談事業、就労体験事業、就労支援セミナー、いつでもどこでもサポートモデル
第11回	北青少年活動センターの実態調査1：事業全体に関する実態調査	エコカフェ、エコフェスタ、若者の居場所
第12回	北青少年活動センターの実態調査2：伝記プロジェクトに関する実態調査	伝記プロジェクト、サンタクロースプロジェクト、自主的活動の育成・支援
第13回	プランと青少年活動センターとのかかわりに関する考察1	ユースシンポジウム、アドアドプラス、ボランティア
第14回	プランと青少年活動センターとのかかわりに関する考察2	キャリアサポート、現代の若者像、将来のユースアクションプラン
第15回	プレゼンテーション、質疑応答、まとめ	実態調査のまとめ方、プレゼンテーション力、討論、総括

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	論理的思考 まとめ方 実態把握力 プレゼンテーション力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

これまでの京都市基本計画、第1次京都市青少年基本計画、第2次京都市青少年基本計画(京都市ユースアクションプラン)を調べてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

財団法人京都市ユースサービス協会

その他 / Others

企画研究（SO） § 企画研究（自主企画研究）（SO）

14612

担当者名 / Instructor　荒木 穂積、桂 良太郎、津止 正敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：ベトナムの障害児教育・福祉の調査研究

到達目標 / Attainment Objectives

2009年8月にホーチミン市（予定）で開催される、日本ベトナム友好障害児教育・福祉セミナーに参加し、ベトナムの障害児教育・福祉の現状を調査研究する。

帰国後、調査もとに報告書（レポート）を作成する。また、この調査をもとに2009年12月に開催される産業社会学会主催のゼミナール大会で発表をおこなう。また、日本とベトナムの学生・研究者の交流活動に参加したり、学部内外の関連する授業に参加したりして本授業の補いとする。また、他大学学生との共同研究も積極的にすすめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	顔合わせ/各自の興味や関心を出し合う。	
第2回～4回	昨年度までのセミナーの様子をビデオや写真で見たり、先輩や関係者の話を聞いたりして、研究の方法やイメージをつかむ。	
第5回～8回	8月のセミナーでのフィールド調査、観察、文献研究などの準備を始める。	
第9回～10回	セミナーでの役割分担や、調査方法について打ち合わせを行い、準備をすすめる。	
第11回～12回	帰国後、セミナーおよび調査のふりかえりや反省。ゼミナール大会に向けての発表の打ち合わせを行う。必要に応じて追加調査を実施する。	
第13回	ゼミナール大会にむけての資料とパワーポイントを準備する。	
第14回	ゼミナール大会で発表する。	
第15回	1年間の活動のまとめと来年の課題の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

上記以外に発表（セミナーおよびゼミナール大会）の準備のために集まることがある。
2単位ですが、後期のゼミナール大会をめざして活動する予定です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	ゼミナール大会の発表をレポートとして評価します。
平常点評価	50 %	企画研究への参加度、積極性、役割などを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SP） § 企画研究（自主企画研究）（SP）

14521

担当者名 / Instructor　文 楚雄、野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この企画研究の授業は、教員の指導の下に中国の文化や社会について、学生がそれぞれの関心領域やテーマを設定して、前期の学習、夏休みにおける蘇州大学での特別講義の受講や現地調査及び後期のレポート作成向けての学習の三セクションの勉強を通じて、激変している中国の社会や文化に対する認識を深めると同時に、実用の中国語会話も身につけていくことを目標とする。

前期では、自主的学習や研究を行うと同時に、8回ほどの授業を予定している。夏休みの9月17—23日（予定）は中国の蘇州市へ出かけ、現地調査を行う。と同時に、蘇州大学の教授による特別講義3回を受ける。また、蘇州大学の学生との交流も大いに進めていく。蘇州は二千数百の歴史持つ古い街であると同時に、最先端な工業都市でもある。日本企業が300社あまり進出している。日系企業の調査・見学も視野に入れていく。蘇州大学での特別の講義、蘇州の現地調査などは授業3回分に換算する。後期では、前期の学習、夏休みの現地調査を踏まえて、研究課題を整理学習し、レポート作成の作業を進めていく。レポート集を作る予定。後期では4回程度の授業を予定している。

到達目標 / Attainment Objectives

中国の社会や文化に対する認識を深めることができる。
実用の中国語会話も身につけていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	この授業の性格、内容、達目標などの説明。各自の関心領域やテーマの設定	
第2回	各自の関心領域やテーマの設定、紹介	
第3回	関心領域の先行研究の調査	
第4回	研究討論、言葉の学習	
第5回	研究討論、言葉の学習	
第6回	研究討論、言葉の学習	
第7回	蘇州についての学習	
第8回	上海についての学習	
第9回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（1）を受ける	
第10回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（2）を受ける	
第11回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（3）を受ける	
第12回	現地調査を踏まえた研究討論（1）	
第13回	現地調査を踏まえた研究討論（2）	
第14回	レポート作成の討論学習	
第15回	レポート集の完成・編集	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	現地調査、普段学習50%、最終レポート50%。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

中国語の能力を問わないが、現地へ行って学んでみたい、現地の大学生と交流してみたいという意欲のある者を優先する。中国を訪問して見たい、現地の人々と中国語を使ってみたいという動機の強い者はこのパートに応募してください。

中国現地調査のための渡航費用は10万円程度が必要である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SA）

12725

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1)（テキスト第5章、第 10 章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2)（テキスト第5章、第 10 章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2)（テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SB）

12726

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SC）

12727

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SD）

12728

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SE）

12729

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第 10 章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第 10 章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

経済学理論（S）

13311

担当者名 / Instructor　伊藤 正純

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

まず現実の経済を認識するための基礎タームである、国民所得、GDP成長率、国際収支、財政（歳入・歳出）などを説明する。次いで、アメリカ流の「金融資本主義」とは何であったかを考える。アメリカ追随の日本の経済政策は、小さすぎる政府による「公貧社会」、外需依存型の脆弱な経済、大きな格差社会をもたらしている。日本とは対極にある北欧諸国の経済政策を念頭に、日本の経済政策の問題点を考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、新聞の経済欄に興味をもてるようになること、そして実際に読んでみて、少しはわかったという実感がもてるようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4／8	国民所得とは何か	市場経済　GDP（国内総生産）　国民所得　経済成長率
4／15	経済は市場だけでは成り立たない	市場と財政は相互補完関係　「小さな政府」「大きな政府」
4／22	国際収支とは何か	経常収支　資本収支　為替　円高　円安
4／29	アメリカ「金融資本主義」の発生	金融の自由化、グローバル化、直接金融、間接金融、BS規制
5／13	アメリカ「金融資本主義」の繁栄（1）	新自由主義　双子の赤字（財政の赤字と経常収支の赤字）、資本収支の黒字、高金利、低金利
5／20	アメリカ「金融資本主義」の繁栄（2）	過剰な消費、世界の資金循環、外需依存型経済（日本、中国）
5／27	アメリカ「金融資本主義」の破綻	証券化、CDF（クレジット・デフォルト・スワップ）、格付会社
6／3	外需依存型日本経済の「繁栄」	規制緩和、財界の変貌、損益分岐点の「改善」
6／10	外需依存型日本経済の「貧困」	労働分配率　労働市場の規制緩和、ワーキング・プア、労働組合
6／17	「貧困大国」の双璧、アメリカと日本	「トリクル・ダウン」論、税制の問題点、所得再分配機能の放棄
6／24	アメリカン・ドリームとヨーロッピアン・ドリーム	自己責任、「機会平等」、勝者の論理、社会的包摂、「包摂される権利」、システムの責任
7／1	政府の役割　財政と社会保障	北欧諸国にみる「生活の安全」、強い経済と強い財政は両立する
7／8	フレキシキュリティ（Flexicurity）とは何か	デンマーク、オランダ、スウェーデン
7／15	知識基盤社会における人材育成	エンプロイアビリティ　生涯学習
7／22	ワーク・ライフ・バランスを考える	貧困をなくした国、貧困にあえぐ国

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	記述式論文試験。持ち込み不可。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純／桜井書店／ISBN4-921190-16-X／
日本経済を問う	伊東光晴／岩波書店／ISBN4-00-024243-1／
入門社会経済学	宇仁宏幸他／ナカニシヤ出版／ISBN4-88848-879-7／
希望の構想	神野直彦・井手英策／岩波書店／ISBN4-00-022553-7／
貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン	竹崎孜／あけび書房／ISBN978-4-87154-078-0／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

計量社会学（SA） § 計量社会学（SA）

13448

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
第2回目	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
第3回目	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
第4回目	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
第5回目	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
第6回目	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
第7回目	分析実習1	度数分布表、代表値
第8回目	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
第9回目	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
第10回目	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
第11回目	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
第12回目	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
第13回目	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
第14回目	分析実習4	多変量解析
第15回目	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	40 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる

[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。

[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本人の姿	岩井紀子・佐藤博樹編／有斐閣／4641280681／

社会調査へのアプローチ　　大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武／ミネルヴァ書房／4623041042／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

その他 / Others

計量社会学（SB） § 計量社会学（SB）

13459

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
第2回目	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
第3回目	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
第4回目	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
第5回目	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
第6回目	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
第7回目	分析実習1	度数分布表、代表値
第8回目	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
第9回目	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
第10回目	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
第11回目	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
第12回目	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
第13回目	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
第14回目	分析実習4	多変量解析
第15回目	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	40 %	学期中に2～3度程度の平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って参加する態度が望まれる。
[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことをより明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。
[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本人の姿	岩井紀子・佐藤博樹編／有斐閣／4641280681／

社会調査へのアプローチ　　大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武／ミネルヴァ書房／4623041042／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

その他 / Others

現代教育社会論 (S)

10082

担当者名 / Instructor　中山 一樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

高校までの中等教育とはどのような目的をもち、どのように機能してきたのか。大学における学び・研究を展望するために、履修生の被教育体験を更新することをねらいとする。

戦後の日本社会における人間の再生産について、社会構造と日常的に経験することがらの双方から検討する。教育経験は産育、学校体験、そして労働による社会参加という過程のなかで、個別に又は同世代に共通なこととして体験されると考えられやすい。そのために、自分の体験が普遍的世界であるかのような陥穽に陥りがちである。そこで本講義では、固定化しやすい教育体験を、戦後の歴史や、生きる世界の差異、ひとり一人の将来展望など条件の差異などを検討としながら、それらを相対化する視点を提供する。

到達目標 / Attainment Objectives

・教育体験の目的と手段を峻別する。
・学びの空洞化という現象を理解する。
・私は学びを欲しているのかどうかを再審にかけることができる。
・人間の再生産という時代の構造のなかで学びをとらえることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の構成　学校体験と教育イメージ	多様な被教育体験
2	再生産システムとしての教育・社会的カテゴリーとしての教育	自己形成　教育　教化
3	労働と生活に埋めこまれた再生産(再生産の共同性)	生活と再生産　教育の共同的性格
4	制度としての教育	普通教育　専門教育　職業教育
5	教育機会の拡大と学校化社会	メリトクラシー　能力主義
6	教育家族と学校化社会	近代家族　学校化社会
7	「家族・学校・生活=労働世界」から「家族・学校・消費文化世界」	再生産システムの転換
8	パターナリズムから社会的シティズンシップ形成へ	教育の主体
9	中間まとめとディスカッション	被教育体験認識
10	知識と技能を教え伝える過程について	周辺参加論
11	教育のレリバンスと公共的支援	社会的生存権
12	学び=教える関係のかたち	戦後の教育課程
13	学校文化と若者文化の対抗から消費文化世界へ	能力主義　自己責任の矛盾
14	社会参加の展望　学ぶことと労働	社会参加　労働世界へのトランジション
15	総括的まとめとレポートの講評	納得知　手続知

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	複数回のレポート執筆によって、教育を構造的に認識するための基本枠組みが受講生自身の言葉に変換されているかどうかを確認します。
平常点評価	30 %	出席をとります。受講生数によっては、発言等により、高等教育機関において学ぶ意思の確認をします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各回の講義でレジュメを配付する。また、資料と参考文献を適宜紹介する。
教育現象は時系列で生起することなので、適宜映像資料を提供する。
受講人数にもよるが、レポートやプレゼンテーションを行う。

教科書 / Textbooks

・講義時にはレジュメと資料を配付します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代史 (S)

15514

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:現代日本の世界史的位置。

現代は,多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。この講義では、①20世紀の歴史を振り返り、今日的な諸問題が形成されてきた経過を確認し、そのうえで、②世界的な視点から、今日の日本の産業・労働環境，教育・福祉などをめぐる問題と今後の課題を検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と、日本の経済社会との重層的な構造的連関を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に希望はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	グローバル化のなかで「現代」を考える	現代は、いつから始まるか　近代の再帰性 国民国家の誕生、国軍と司法、国民教育、産業振興
第2回	19世紀末の世界ー 帝国主義と社会主義	後発資本主義国の発展　パックス・ブリタニカ 大衆デモクラシーの台頭　19世紀末の文化
第3回	第1次世界大戦—大衆デモクラシー時代への本格的移行の転機ー	総力戦体制　日本の対応
第4回	戦後の新しい世界秩序	ヴェルサイユ体制とワシントン会議
第5回	1920年代における太平洋地域と中東の新秩序	中東とインド　中国の内戦　　日本の大陸政策
第6回	世界恐慌の諸相	アメリカの恐慌　スターリン体制　日本の恐慌
第7回	ファシズムの台頭	ナチス・ドイツ，イタリア，スペイン
第8回	第二次世界大戦の構図	ファシズム対反ファシズム　日本の総力戦
第9回	東西冷戦と戦後復興	東西冷戦のはじまり　　国際連合　　マーシャル・プラン 朝鮮戦争
第10回	福祉国家の形成と展開	社会主義圏の社会福祉　資本主義諸国の「福祉国家」化とその性格
第11回	ラテンアメリカとアフリカ	移民社会　開発と国際協力　　アフリカの独立
第12回	1970年代の世界の重層構造	フォーディズムからフレキシブル生産体制へ　アジア諸地域の脱植民地化
第13回	新自由主義の世界的な潮流	福祉国家の変質　途上国の債務と経済協力の性格
第14回	教育・文化をめぐる先進国と途上国	少子化　教育　グローバル・メディア
第15回	現代世界とモダニティの変容－1つのまとめー	グローバリズムとセフティーネット

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	基本的に定期試験で評価。
平常点評価	10 %	出席票を配布する際、講義に関する質問を書いて頂き、授業のなかで返事をする機会をつくる。その対応を若干、定期試験の評価に加味する。

出席が一度も確認できなかった受講生は、定期試験を受けても単位を認定しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この講義は、現代社会に生起している諸問題を考える視点や射程を私なりに紹介するものであり，それを、歴史学の方法で、進めているにすぎない。

講義で話題にしたことについて、それに関連する書籍・文献を独自に読み進め、理解を深める学習を切に希望する。

教科書 / Textbooks

教科書は、このシラバスを出稿する時点では、使用しないとする(変更する際は、授業で説明する)。

毎回、レジメにて講義をし、テーマに関連する文献は適宜、講義の中で紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代史への視座	竹内　啓／東洋経済新報社／978-4-492-06143-5／多少刺激的である
新自由主義	デヴィド・ハーヴェイ／作品社／978-4-86182-106-6／一度、通読されることを薦める
昭和史　全2巻	中村隆英／東洋経済新報社／／日本の戦後史の概説書

このほか，講義のなかで，先にも述べたように適宜、参考文献紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

最近は、歴史に関する用語やキー概念を、サーチ・エンジンに入力すれば、関連する用語解説が簡単に検索できるので、まずはどのような用語でも良いから検索してみることである。

その他 / Others

特になし

現代政治論（S）

13310

担当者名 / Instructor　國廣 敏文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

20世紀の科学＝技術や医学の飛躍的進歩によって、人類は宇宙旅行を現実のものとしクローンを作り出すまでになった。だが同時に20世紀は〝紛争と革命の世紀〟でもあり、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など未解決の問題が山積しており、その意味で、人類は自然と社会を統治しえていない。政治学の観点から見ると、20世紀は「国民国家」の時代であるが、その国家が世紀末に至って〝ゆらぎ〟始めている。本講義では、分裂と統合との間を揺れ動く現代国家および世界政治の諸相と諸問題を把握するとともに、現代世界の構造と動態についての政治学的分析に必要な基礎概念や視点・方法を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

・グローバル化の進む中で、国家や人々が解決を迫られている現代的諸問題を広く理解する。
・それらの解決のための方策を考える。
・現代世界を捉えるための理論的枠組みについて理解を深め、自らの社会的視座を形成するとこをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代政治論はグローバルな視点から現代世界の諸問題を考察しますので、各国政治を、より具体的に見ていくには、「比較政治論」もあわせて履修することを推奨します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ．歴史認識と政治学の視点	現代という時代―20世紀から21世紀へ― 科学技術・医学発展の世紀、戦争と革命の世紀 20世紀
第2回	政治学の方法と課題 ―グローバル・プロブレマティークとは何か―	政治学、グローバル・プロブレマティーク
第3回	Ⅱ．現代政治の諸相―国家、民族、紛争―、	「国民国家」の拡大と〝ゆらぎ〟―「相対化の時代」か―「国民国家」、「相対化の時代」
第4回	国家とは何か	国家
第5回	国家形成と国民形成	国家と国民
第6回	民族とは何か	民族
第7回	現代民族問題の概観（1）―人種、言語、宗教との関わりで―	人種、言語、宗教
第8回	現代民族問題の概観（2）―いくつかの事例を中心に―	民族問題の現状
第9回	「国民国家」と民族問題の将来	国家と民族問題の展望
第10回	Ⅲ．分析枠組	「世界システム論」の方法　世界システム論
第11回	「世界システム論」の意義と問題点	世界システム論
第12回	「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第13回	「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第14回	グローバル・ガヴァナンスとグローバルデモクラシー	グローバル・ガヴァナンス、グローバルデモクラシー
第15回	Ⅳ．まとめと展望：グローバルデモクラシーの可能性を考える	「グローバリゼーション」の時代と私たちの課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞やニュースに普段から接するように心がけることと、分からない言葉や問題があったときに、それを調べる癖を身につけること。そうした探求心や好奇心から、勉強することへの興味が湧いてきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義で話した内容についての理解度・学習到達度を測る
レポート試験	20 %	講義内容あるいは特別講義に関するもの
平常点評価	10 %	出席点を加味する ＊定期試験として実施　成績評価＝単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としますが、毎回出席を取ります。100点満点のうち、10点として総合点に参入します

テキストはとくに指定しないが、授業に際して参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。
現代の世界的状況を理解するための参考書として、D. ヘルド編（中谷義和監訳）『グローバル化とはなにか』法律文化社、2002年10月刊を挙げておきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の中で紹介します。

その他 / Others

「私語」は、自らの学習権の放棄であると同時に、他者のそれへの侵害でもあるので、厳禁する。

コミュニケーション理論（S）

13265

担当者名 / Instructor　池田 知加

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

コミュニケーションとは多義的な意味がこめられる概念です。そのため、コミュニケーションのとらえ方は、社会学、哲学、心理学、社会心理学、情報科学といった多様な分野で様々なアプローチがなされています。この講義では、主に、社会心理学（第2～5回目）と記号論（第6～9回目）からみたコミュニケーションについて理解を深めた上で、現代のコミュニケーションの動向について近代化という社会変動を軸にしながら、社会学的に考察（第10～13回目）します。現代的な事例を出しながら授業を進めますが、コミュニケーションについて、個別的な事象から捉えるのではなく、いくつかの理論的なアプローチを学ぶことで一般化して広く理解することをめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会心理学、記号論それぞれからみたコミュニケーション理論についての理解を深める。
・コミュニケーションへの理論的な理解を深めた上で、現代コミュニケーションの動向について、近代化を軸に社会学的に論述する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	コミュニケーション　コミュニケーション論
第2回	自己を知らせるコミュニケーション	自己開示
第3回	他者の心を動かすコミュニケーション	説得コミュニケーション　簡便法
第4回	マスメディアと説得コミュニケーション①	プロパガンダ　感情
第5回	マスメディアと説得コミュニケーション②	テレビ　効果研究
第6回	コミュニケーションの記号と意味①	記号論　ソシュール　シニフィアン　シニフィエ
第7回	コミュニケーションの記号と意味②	バルト　デノテーション　コノテーション
第8回	記号化した世界	消費社会　欲望　差異
第9回	身体の記号論	文化産業　パノプティコン
第10回	メディアとコミュニケーション	CMC　No sense of place
第11回	コミュニケーションと場所	場所の力　グローバル化
第12回	コミュニケーションと文化	異文化コミュニケーション
第13回	コミュニケーションと社会	ポスト慣習社会　規範
第14回	近代化とコミュニケーション　コミュニケーションの可能性	近代化　ハーバーマス
第15回	全体のまとめと補足	コミュニケーション　近代

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

基礎的な専門用語などについては、各自で社会学事典などを参考にして学習すること。講義内で紹介した文献を読むと、より授業の理解が深まります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観テスト（基礎的事項の理解）60% 論述（テーマ設定・論理的構成力）40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私語は厳禁です。学生証を提示の上、即退出、以後の授業への参加は認めません。レジメは教室でのみ配布します。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。レジメを使用します。参考書については適宜提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
影響力の武器：なぜ、人は動かされるのか	ロバート・B・チャルディーニ／誠信書房／4414302692／
プロパガンダ：広告・政治宣伝のからくりを見抜く	アンソニー・プラトカニス、エリオット・アランソン／誠信書房／4414302854／
記号の知/メディアの知：日常生活批判のためのレッスン	石田英敬／東京大学出版会／4130100947／
場所感の喪失〈上〉電子メディアが社会的行動に及ぼす影響』	ジョシュア・メイロウィッツ／新曜社／4788508699／

人生相談「ニッポン人の悩み」:幸せはどこにある?　池田知加／光文社新書／4334032968／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

特になし

産業技術論（S）

15551

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに絡みついているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、技術に関する問題の解決指針を与えていく。

それには、技術自身について理解すること以上に、それが社会の中でどのように機能しているか、役にたっているかについてのセンスを磨く必要があらわれる。技術を生活や社会の中に正確に位置づけ、その中から、スペックに惑わされない本来的な「技術と社会の発展」のありようについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

技術発展の指標について理解し、現今の技術を評価できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

環境技術論を同時に履修していくことが望ましい（履修順序は問わない）

対象となる科学・技術についての説明に専門概念を使用することもありますが、そうした事項については、その都度丁寧に説明いたします。受講に理系的知識を前提としてません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　技術発展と社会発展	技術発展　社会発展
第2回	発明と普及の時間差について	蒸気船と帆船　動力と制御
第3回	大型化の利得について	スケールメリット　表面効果と体積効果
第4回	産業革命論1　道具と機械	道具と機械　産業革命
第5回	産業革命論2　大量生産社会	大量生産
第6回	工作機械論	工作機械　汎用と専用
第7回	フォーディズム　流れ作業	コンベア流れ生産　大量生産
第8回	フォーディズム2　テーラーシステム	テーラーシステム
第9回	ポストフォーディズム	リーン生産方式
第10回	日本的生産様式	FMS　JIT
第11回	ロボット論	ロボット　Rキューブ
第12回	半導体工業論	半導体　IC
第13回	エレクトロニクス製品の現状　1 楽器の問題	PCM　デジタル
第14回	エレクトロニクス製品の現状　2　PC　通信技術	PC　ケイタイ
第15回	全体まとめ　技術発展とは	技術発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

多数の本、視覚教材を随時紹介していきます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理を正確に理解すること

なし

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1冊のテキストで学習できるものでありませんので、講義を聞き逃さないようにしてください。

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布していきます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『技術と労働』	大沼正則／岩波書店／ISBN4-00-003662-9　c0336／
『アメリカンシステムから大	D.A.ハウンシェル／名古屋大学出版会／ISBN4-8158-0350-1／

上記以外でも参考書は多数に渡りますので、随時紹介し、また抜粋なども配布します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、講義などで紹介していきます。

その他 / Others

なし

質的調査論（SA）　§　質的調査論（SA）

15573

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する（グループ調査および個人調査）ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの向上を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等（情報処理、計量社会学）を受講しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	質的調査入門	
第2回	質的調査と量的調査	帰納法、演繹法、リアリティ
第3回	質的調査の歴史	シカゴ学派、エスノメソドロジー
第4回	インタビュー調査の計画	
第5回	「あたりまえ」を疑う社会学①	生の「固有性」 相互作用　役割演技
第6回	「あたりまえ」を疑う社会学②	実証主義　グラウンデッド・セオリー　対話的構築主義
第7回	「あたりまえ」を疑う社会学③	カテゴリー化　ドミナント・ストーリー　オルタナティヴ・ストーリー
第8回	「あたりまえ」を疑う社会学④	アクティヴ・インタビュー
第9回	トランスクリプションの作り方	トランスクリプション
第10回	ケーススタディ①	
第11回	ケーススタディ②	
第12回	インタビュー調査報告会①	
第13回	インタビュー調査報告会①	
第14回	質的調査のススメ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義外でインタビュー調査を行い、実践的・体験的に質的調査の手法を学ぶ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	インタビュー調査のトランスクリプションおよびレポートの提出
平常点評価	20 %	講義の最後にミニレポートの提出を課す場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「あたりまえ」を疑う社会学－質的調査のセンス	好井裕明／光文社新書／9784334033439／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

質的調査論（SB） § 質的調査論（SB）

15685

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する（グループ調査および個人調査）ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの向上を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等（情報処理、計量社会学）を受講しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	質的調査入門	
第2回	質的調査と量的調査	帰納法、演繹法、リアリティ
第3回	質的調査の歴史	シカゴ学派、エスノメソドロジー
第4回	インタビュー調査の計画	
第5回	「あたりまえ」を疑う社会学①	生の「固有性」 相互作用　役割演技
第6回	「あたりまえ」を疑う社会学②	実証主義　グラウンデッド・セオリー　対話的構築主義
第7回	「あたりまえ」を疑う社会学③	カテゴリー化　ドミナント・ストーリー　オルタナティヴ・ストーリー
第8回	「あたりまえ」を疑う社会学④	アクティヴ・インタビュー
第9回	トランスクリプションの作り方	トランスクリプション
第10回	ケーススタディ①	
第11回	ケーススタディ②	
第12回	インタビュー調査報告会①	
第13回	インタビュー調査報告会①	
第14回	質的調査のススメ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義外でインタビュー調査を行い、実践的・体験的に質的調査の手法を学ぶ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	インタビュー調査のトランスクリプションおよびレポートの提出
平常点評価	20 %	講義の最後にミニレポートの提出を課す場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「あたりまえ」を疑う社会学－質的調査のセンス	好井裕明／光文社新書／9784334033439／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会学史 (S)

13449

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学は、二重革命（産業革命＋市民革命）の激動を通じて中世西ヨーロッパの社会秩序が解体され、いわゆる近代社会（産業社会）が立ち上がってくる歴史状況の中で、いかにして近代社会に秩序をもたらすかという問題意識を基点として、19世紀末から20世紀初頭にかけての時代に出現した学問である。「近代社会の自己認識」というフレーズが社会学の自己規定として語られ、社会学の根本問題は≪秩序問題≫であるとしばしば言われるのは、社会学がそのような誕生の経緯を持っているからである。本講義では、社会学の根本問題であるこの≪秩序問題≫を軸としてどのような学史が紡がれてきたかを概観することとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の根本問題である≪秩序問題≫に対して、主要な社会学者がどのような観点でそれを捉え、どのような理論形成を試みたのかを理解することが第1の目標である。またそのことを通して、社会学という学問が歴史的現実をどう捉え、それに対してどのように応答しようとしてきたのかを理解すること、これが第2の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学の根本問題への誘い	社会秩序
第2回	人間社会の秩序への開眼	マキャベリ
第3回	啓蒙主義の社会秩序像	ホッブズ、ロック
第4回	18世紀市民社会の社会的秩序像	スミス
第5回	19世紀市民社会の矛盾	ヘーゲル
第6回	中間総括① ―― 市民社会秩序の前提と矛盾	ヒューマニズム
第7回	コントの社会的秩序像 ―― 社会設計	実証主義
第8回	マルクスの社会的秩序像 ―― 社会の自己生成①	社会構成体、階級闘争
第9回	マルクスの社会的秩序像 ―― 社会の自己生成②	社会構成体、階級闘争
第10回	スペンサーの社会的秩序像 ―― 社会進化論	適者生存
第11回	中間総括② ―― 草創期社会学の課題	≪社会≫とは何か
第12回	ヴェーバーの近代社会像 ―― 歴史の逆説	支配、合理化
第13回	デュルケムの近代社会再建論 ―― 近代社会の病理	アノミー、道徳
第14回	現代社会学の課題	「社会」とは何か
第15回	最終総括 ―― 社会学の根本問題	≪秩序問題≫

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

情報量が多いので、テキストを読んできていることを絶対の前提条件として講義を進める。したがって、必ず事前に読んで来ること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学的思考とは何か』	三溝信／有信堂(1998)／／

『社会学的思考とは何か』、三溝信、有信堂(1998)をテキストとする。ただし、出版社の在庫数が履修予想者数を下回るので、こちらでコピーして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会学理論（S）

15534

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会の成り立ちを理解するのに有効な社会学理論の基本的な考え方を学んでもらうことを主眼にしている。そのために、デュルケームやヴェーバー、シカゴ学派、システム論を取り上げる。社会的連帯・儀礼・権威・自殺・宗教と資本主義の精神、共同態・都市化・移民などを具体的な事例にして、古典的な社会学理論のエッセンスを解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．基本的な社会学的視点と概念に習熟することで、社会学的なものの見方が可能となる。
2．社会学的な考え方を、具体的な問題状況に適応して、その解決に役立てることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日常性の社会学、社会学史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに：授業の進め方と社会学の主題	共同態・権威・聖なるもの・階層・社会病理
2	デュルケームの社会理論（1）：『社会分業論』	連帯・集合意識・抑止法・復原法
3	デュルケームの社会理論（2）：『自殺論』	欲求と規制（アノミー）・個人と社会・自己本位主義・集団本位主義
4	デュルケームの社会理論（3）：『宗教生活の原初形態』	トーテミズム・儀礼・集合的沸騰・象徴
5	デュルケームの方法論	実証主義・共変法・分類
6	ヴェーバーの社会理論（1）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	世俗内禁欲・資本主義の「精神」・担い手・親和性
7	ヴェーバーの社会理論（2）『儒教と道教』	氏族・家産官僚・読書人層・都市
8	ヴェーバーの方法論	理念型・比較社会・差異法・一致法
9	デュルケームとヴェーバーの比較	理念と思想の意義・行為論対制度論を超えて
10	シカゴ学派の社会理論（1）：『ポーランド農民』	移民・社会解体・再組織スラム・家族解体
11	シカゴ学派の社会理論（2）パークとバージェス	人間生態学・都市空間・適応・逸脱
12	システム論の考え方（1）	機械論・有機体論・パーソンのシステム論・自己組織性
13	システム論の考え方（2）	関係的思考・ブルデュー・ネットワーク
14	社会理論の展開：社会的世界論	ナラティブ・メカニズム・システム
15	理論的視点の総括	社会理論の整理・実践への示唆

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で適宜紹介する文献をできるだけ読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	社会学理論の基本的な概念や考え方についての理解度を試し、どれだけ現実の社会の理解に理論を活用する能力を習得しているのかによって評価する。

授業の理解度を知るために、特定のテーマが終わった段階ごとに、質問紙で質問を行う。こうした質疑への積極的な参加が望ましい。理解を深めるのに的確な質問をした受講生に対しては、評価を考慮する場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まじめな態度で受講して欲しい。授業ではレジメを配布するので、それを熟読し、参考文献にも目を通してもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新　睦人ほか　／有斐閣／4-641-08857-8／

テキストの他に授業では毎回レジメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シカゴ学派の社会学	中野正大・宝月誠／世界思想社　／4-7907-1029-7／

そのほか適宜、授業中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会経済学（S） § 社会経済学（W）

13273

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま日本では所得格差が広がっているといわれています。企業の業績は好調で、好景気もつづいているというのに不思議な話です。その原因は多くあるでしょう。雇用の多様化の中で進む賃金格差や、また教育格差がその直接的な原因のひとつだといっていいかも知れません。しかし、では、なぜ雇用が多様化するのでしょうか。そこには、グローバル化という大きな世界の動きがあります。また知識基盤型経済へと経済の仕組みが変わってきていることがあります。しかし、やはり根本的には、現在経済の舵をとっている経済の考え方が新自由主義的なそれであることに大きな原因があります。経済は、人が動かしている以上どのような考え方でいま経済の舵が取られているのかを考えることはきわめて重要です。本講義では、まずこうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念（言葉）、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような考え方で経済社会がこれまで動いてきたのか、また今動いているのかを考えてみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得（GDP、金融のメカニズムなど）
2）戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
3）現代経済社会に関する諸理論の確認

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済学
経済学理論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	経済空間の構造－資本と市場	資本の3形態、商品市場、金融市場、労働市場
2回目	企業と産業－株式会社	株式会社とは？産業分類
3回目	貨幣と金融－お金の話	貨幣の種類、銀行の役割、金融政策
4回目	国民経済計算の基礎－成長と所得	国民所得、3面等価、成長率
5回目	ケインズの経済学（1）－市場と政府	自由放任主義、エリート主義、国家介入主義
6回目	ケインズの経済学（2）－完全雇用	完全雇用、有効需要政策、財政・金融政策
7回目	戦後日本の蓄積構造と危機－経済と社会の変化	フォード主義的大量生産、消費社会、都市化、核家族
8回目	新自由主義の経済学（1）－市場原理主義と小さな政府	フォーディズムの危機、レーガニズム、規制緩和、民営茄
9回目	新自由主義の経済学（2）－自由と平等	機会の平等、成績主義、個人責任
10回目	グローバル化と経済	新自由主義的グローバル化、直接投資、新国際分業
11回目	所得格差の拡大－排除と貧困	ジニ係数、社会的排除、絶対的・相対的貧困
12回目	雇用の現状－雇用の多様化	正規・非正規労働、女性の労働力化、雇用格差
13回目	「第三の道」の経済学－包含の経済学	ギデンス、ステークホルダー資本主義、社会的包含
14回目	福祉と経済	効率と公正、ワークフェアー、トランポリンネット
15回目	まとめと総括	半年間の講義を振り返って。質問、アンケート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で、そのつど文献を指定するので、読んでおくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考査する
平常点評価	20 %	3～4回の出席をとり、それを点数に換算する。

講義は通して受講することが望ましい。したがって、適時出席をとる。定期試験80点プラス出席点20点＝100点で評価をする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメ、資料は講義での配布時に入手すること。
質問は、講義後に適時受け付ける。また、出席をとる際にも、記入欄を設けるので利用して欲しい。

教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民のための社会経済学	篠田等編／八千代書房／／
ケインズ	伊藤光晴／岩波新書／／
第三の道	ギデンズ・佐和隆光訳／日本経済新聞／／
もうひとつの日本は可能だ	内橋克人／光文社／／
人間回復の経済学	神野直彦／岩波新書／／

なお、上記の参考書以外にも、適時参考文献を講義中に知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.stat.go.jp（政府統計局の『日本統計年鑑』。国民経済計算、産業分類、金融統計など）
http://www.esri.go.jp（内閣府「国民生活白書』。国民生活に関する資料）
http://www.mhlw.go.jp（厚生労働省。雇用、福祉に関する資料） など。

その他 / Others

社会心理学（S）

13357

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人々は社会からさまざまな影響を受けながら日々の生活を送っている。このような個々人の中に見られる社会的影響の産物として社会的態度をとらえることができる。社会的態度はどのように形成され、どのような条件下で変化しうるのか。本講では社会的態度を中心に、個々人の持つパーソナリティや社会的動機、個人と個人との対人認知や対人関係、個人と集団とのかかわりあい、集団と集団との相互作用、さらに比較文化といった複眼的な視点から社会の中の人間行動を考えてみる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間が社会から受ける影響、人間と人間のと相互作用、個々人の態度の形成と変容などについて理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1）社会心理学とは	社会心理学の位置づけ、他の領域との関連性
2	2）社会心理学の歴史・研究方法	社会心理学の研究の流れ、研究方法
3	3）個人の中の社会的影響	社会が個人に与える影響について欲求・動機づけ・本能概念
4	4）達成欲求	達成欲求の測定法、達成欲求と行動特性、達成欲求
5	5）親和欲求	親和欲求、不安と親和欲求
6	6）対人認知	情動の認知、パーソナリティの認知
7	7）印象形成	暗黙裡のパーソナリティ理論、相貌と印象、言語情報からの印象形成、行動観察による印象形成
8	8）社会的態度とは	態度と対象の関係、態度の定義・機能
9	9）態度の形成	態度形成の問題について認知的成分、感情的成分、行動傾向成分
10	10）態度の変化	コミュニケーターの信憑性、コミュニケーションの提示方法
11	11）対人魅力の規定因	空間的近接・身体的魅力・態度の類似度・他者評価
12	12）対人魅力の理論	理論相互依存性理論・バランス理論・錯誤帰属説
13	13）人格とは	パーソナリティの概念、パーソナリティの理論、活動システムとしてのパーソナリティ、心理＝社会的アイデンティティ
14	14）人格の形成	社会化の概念と過程、価値の社会的学習、社会的学習のメカニズム、モデリングとしての同一視、文化的価値の伝達と内在化
15	15）文化と「人格形成」	乳児期からの社会的学習、子育てと文化のパターン

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	重要語句と研究例、理論の理解を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考書 / Reference Books

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

その他 / Others

社会調査情報処理（SA） § 情報処理（SX） § 社会調査情報処理（SA）

15526

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
第2回	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
第3回	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 [教科書pp. 2-20] ・度数分布表とヒストグラム [『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97] ・要約統計量の算出 [教科書pp. 102-111]	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
第4回	・データの変換 [教科書pp. 24-44] ・グラフと図 [教科書pp. 53-73]	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
第5回	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

第6回	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
第7回	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
第8回	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
第9回	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
第10回	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
第11回	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
第12回	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
第13回	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
第14回	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
第15回	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第3版）	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］：　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］：
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

社会調査情報処理（SB） § 情報処理（SY） § 社会調査情報処理（SB）

15537

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
第2回	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
第3回	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ［教科書pp. 2-20］ ・度数分布表とヒストグラム ［『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97］ ・要約統計量の算出 ［教科書pp. 102-111］	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
第4回	・データの変換 ［教科書pp. 24-44］ ・グラフと図 ［教科書pp. 53-73］	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
第5回	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

第6回	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
第7回	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
第8回	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
第9回	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
第10回	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
第11回	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
第12回	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
第13回	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
第14回	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
第15回	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第3版）	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007051／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

社会調査論（S） § 社会調査論（S）

13331

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会統計学、計量社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会学と社会調査： 社会調査とは・社会調査の歴史	社会調査
2	社会調査の種類と特徴(1)： 量的調査、質的調査	調査票法、観察法、自由面接法
3	社会調査の種類と特徴(2)： 量的調査、質的調査	調査票法
4	社会調査の手順： 社会調査の一般的手順・調査の倫理	調査倫理、仮説
5	社会調査と理論(1)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
6	社会調査と理論(2)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
7	標本調査の考え方：サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論	サンプリング
8	標本調査の考え方：サンプリングの方法(2)　無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法
9	標本調査と標本誤差： 標本誤差と非標本誤差・推定の精度	標本誤差、非標本誤差、推定
10	調査票の作成： 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	調査票、ワーディング
11	コーディング： データの整理とチェック・エディティング・コーディング	エディティング、コーディング
12	調査票の集計： データの記述： データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	基礎統計量
13	データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション	クロス表、エラボレーション
14	データの分析(2) 結果の公表　2変量の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成	相関係数、疑似相関、調査研究例、調査倫理
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	試験は「持ち込み不可」です。 簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することを勧めます。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

授業中配布のプリントに記載します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会統計学（S） § 社会統計学（S）

13453

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

統計学の基本的な概念と方法について、説明することができる。
記述統計と推測統計の基本的方法を用いて、調査データの要約、推定、統計的仮説検定を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校レベルの基礎的数学（Σ記号を使った演算、順列・組合せ・確率、微積分の基礎）の知識を前提とするが、簡単に復習しながら進める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	統計データとは、統計的方法とは	統計データ、統計的方法、統計変量、記述統計、推測統計
第2回目	比率と指数	変化率、寄与度・寄与率、指数
第3回目	分布とその特性	度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度
第4回目	相関	相関関係、相関係数
第5回目	回帰	回帰分析、独立変数、従属変数、最小2乗法
第6回目	確率の基礎	順列、組み合わせ、確率、条件付確率、ベイズの定理
第7回目	確率変数と分布	確率変数、確率分布、期待値、分散、2項分布、正規分布
第8回目	母集団と標本、標本調査法	母集団、標本、サンプリング、ランダムサンプリング
第9回目	統計量の標本分布（1）	統計量、母数、標本分布、標本平均の分布
第10回目	統計量の標本分布（2）	大数の法則、中心極限定理
第11回目	統計的推定（1）	点推定、区間推定、良い推定量の基準、信頼区間、母平均の推定、t分布
第12回目	統計的推定（2）	母比率の推定、母平均の差の推定
第13回目	統計的検定（1）	仮説検定、有意水準、第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、母平均・母比率の検定
第14回目	統計的検定（2）	平均値の差の検定
第15回目	クロス集計表とその検定	クロス集計表、カイ2乗分布、適合度検定、独立性の検定

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回の授業内容を必ず復習すること。課題を解きながら考えると理解が深まる。
またEXCELの関数が使える者は、パソコンでも課題を解いて確認してみるとさらによい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	統計学の基本的概念の理解度、基本的方法を使ったデータの分析力をみる。
平常点評価	40 %	ほぼ毎回の授業で復習のための簡単な課題（宿題）を課す。課題の提出状況を平常点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計学は積み立て型の科目なので、遅刻・欠席をすると授業についていくことが困難になります。授業への出席と課題提出は必須です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる統計学 Ⅰ 基礎編	金子治平・上藤一郎編／ミネルヴァ書房／978-4-623-04926-4／教科書に沿って講義を行う

講義は教科書に沿って進める。教科書の説明を補うためにプリントを随時配布する。教科書の練習問題も授業・課題で利用・解説するので、開講までに必ず入手しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・涙なしの統計学	D.ロウントリー／新世社／4-88384-035-2／数式をほとんど使っていないので、数学が苦手な人には読みやすい
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室編／東京大学出版会／4-13-042065-8／入門と書いてあるが、やや高度な内容も含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

電卓を使って練習問題を解くので、毎回の授業に√の計算のできる電卓を必ず持ってきてください。

社会保障論（S） § 社会保障論（SG）

15467

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会保障の総論と各論を区分し、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。
(1) 社会保障制度総論：①社会保障制度の理念・概念・対象、社会保障制度の体系(社会保険、公的扶助、公衆衛生・医療、社会保障関連制度)、③社会保障の機能(生存権･最低生活の制度的保障(ナショナル・ミニマムの保障)、所得再分配、生活と経済の安定化、社会的統合)、④社会保障財源
(2) 社会保障制度各論：①年金制度、②医療保険制度。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は現在の日本の社会保障制度を体系的に把握し、その現代的課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。
(1) 必要に応じて、外国の社会保障制度を取り上げ、日本の社会保障制度との相対比較を行う素養を身につける。
(2)社会保障制度の課題として取り上げられている様々なトピックスー社会保障費の「国民負担率増大抑制」論、「高齢化社会危機」論、「公的年金加入の損得」論などーを概観し、制度の課題について理解を深め、課題に対する解決策を考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲	大きな政府、小さい政府、社会保障制度審議会「50年勧告」、選別主義と普遍主義
2	社会保障制度の成立史	救貧法、産業革命、イギリスにおけるリベラルリフォーム、ビスマルクによる社会保障、『ベヴァリッジ報告』、恤救規則、救護法、生存権と朝日訴訟
3	社会的不平等の現状とその要因	社会階層、経済資本、文化資本、所得再分配制度、アファーマティブ・アクション
4	少子高齢化の現状と問題	平均寿命、産業構造の変化、核家族化、晩婚化、女性の社会進出
5	少子化と社会的支援	育児休業、育児給付、保育所、スウェーデンの少子化対策
6	育児支援策の問題と解決策	性別役割分業、労働時間の短縮、ファミリーフレンドリー企業
7	社会保障財政の現状と問題	社会保障給付費、国民負担率、「高齢化社会＝危機」論、「純負担」、社会保障制度への投資効果
8	年金制度の概要(1)	私的扶養の限界、近視眼性、市場の失敗、経済変動、2階建て方式、給付スライド、被保険者、保険料、国庫負担、保険料納付減免除制度、老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金
9	基礎年金制度の問題と解決策	無年金障害者問題、第三号被保険者問題、国民年金空洞化問題
10	年金制度の概要(2)	厚生年金被保険者、標準報酬、 老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金
11	厚生年金制度の問題と解決策	世代間の給付/保険料の倍率、積立方式、賦課方式、保険料固定方式
12	医療保険制度の概要	民間医療保険の限界、国民医療費、地域保険と職域保険療養の給付、現物給付、現金給付、公費負担医療、医療保険の財源
13	国健康保険制度の問題と解決策	国民健康保険の滞納の要因、国民健康保険制度の滞納対策(短期被保険証、資格証明書) 国民健康保険制度の抜本改革
14	高齢者医療の概要、および、その問題と解決策	前期高齢者医療、および、後期高齢者医療制度における現役世代の支援金負担、高齢世代の保険料負担
15	まとめ	ウーマンフレンドリーな政策、福祉国家の類型(E・アンデルセンによる福祉国家類型と日本の類型)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会保障関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会保障制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	授業内容に関わるミニレポート(400字以上、600字以内)に基づいて評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望ましい。また、社会保障の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会保障―論点・解説・展望(増補改訂版)』	木村敦編著／学文社／9784762017889／
『現代社会保障論―皆保障体制をめざして』	里見賢治／高菅出版／9784901793322／
『福祉社会：社会政策とその考え方(補訂3版)』	武川正吾／有斐閣／4641121192／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西）・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

情報リテラシーI（SA）

12037

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【初級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SB）

12038

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SC）

12039

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SD）

12040

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SE）

12041

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SF）

12042

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	キーワード/Key Word
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	キーワード/Key Word
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	キーワード/Key Word
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	キーワード/Key Word
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	キーワード/Key Word
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SG）

12043

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SH）

12044

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SI）

12052

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SJ）

12053

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SK）

12175

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SL）

12178

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	キーワード/Key Word
第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word

第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】　総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	

第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）	キーワード/Key Word
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）	キーワード/Key Word
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SM）

12179

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	

第12回	(Excel)④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【初級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法(Bbls)、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法(教材フォルダの利用)	
第2回	Webメールの送受信(大学からの重要メールの確認)、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ(Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する)	
第4回	情報の種類と特徴の理解(各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性) 情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21) 情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	総復習(ここまでの内容のまとめ) VPNの設定について 課題1:情報検索・メール送信	
第6回	文書作成(Word)①　案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成(Word)②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	キーワード/Key Word
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算(Excel)①　Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE、MAX、MIN)	キーワード/Key Word
第10回	表計算(Excel)②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	キーワード/Key Word
第11回	表計算(Excel)③　基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)	キーワード/Key Word
第12回	表計算(Excel)④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word
	【中級クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法(Bbls)、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法(教材フォルダの利用)	
第2回	Webメールの送受信(大学からの重要メールの確認)、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	

第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ(Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する)	
第4回	情報の種類と特徴の理解(各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性) 情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21) 情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	総復習(ここまでの内容のまとめ) VPNの設定について(申請方法等紹介) 課題1:情報検索・メール送信	
第6回	文書作成(Word)①　案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷	キーワード/Key Word
第7回	文書作成(Word)②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理	キーワード/Key Word
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	キーワード/Key Word
第9回	表計算(Excel)①　Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE、MAX、MIN)	キーワード/Key Word
第10回	表計算(Excel)②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け	キーワード/Key Word
第11回	表計算(Excel)③　基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)	キーワード/Key Word
第12回	計算(Excel)④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成	キーワード/Key Word
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	キーワード/Key Word
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷	キーワード/Key Word
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式	キーワード/Key Word

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SN）

12180

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	

第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成 課題2:データの集計と複
第12回	(Excel)④ 総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成
第14回	PowerPoint② 表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式
	【初級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法(Bbls)、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法(教材フォルダの利用)
第2回	Webメールの送受信(大学からの重要メールの確認)、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ(Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する)
第4回	情報の種類と特徴の理解(各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性) 情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21) 情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	総復習(ここまでの内容のまとめ) VPNの設定について 課題1:情報検索・メール送信
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE、MAX、MIN)
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法(Bbls)、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法(教材フォルダの利用)

第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

情報活用の基礎　　／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SO）

12181

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	

第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成 課題2:データの集計と複
第12回	(Excel)④ 総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成
第14回	PowerPoint② 表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式
	【初級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法(Bbls)、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法(教材フォルダの利用)
第2回	Webメールの送受信(大学からの重要メールの確認)、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ(Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する)
第4回	情報の種類と特徴の理解(各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性) 情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21) 情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	総復習(ここまでの内容のまとめ) VPNの設定について 課題1:情報検索・メール送信
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE、MAX、MIN)
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法(Bbls)、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法(教材フォルダの利用)

第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント・スタイル設定）タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）
第10回	表計算（Excel）②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）、グラフの使い分け
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）
第12回	計算（Excel）④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

情報活用の基礎　　／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SP）

12182

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	

第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成
第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【初級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義

第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ(Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する)
第4回	情報の種類と特徴の理解(各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性) 情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21) 情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	総復習(ここまでの内容のまとめ) VPNの設定について(申請方法等紹介) 課題1:情報検索・メール送信
第6回	文書作成(Word)①　案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)①　Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE、MAX、MIN)
第10回	表計算(Excel)②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③　基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第12回	計算(Excel)④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SQ）

12188

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	

第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成
第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【初級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義

第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ(Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する)
第4回	情報の種類と特徴の理解(各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性) 情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21) 情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	総復習(ここまでの内容のまとめ) VPNの設定について(申請方法等紹介) 課題1:情報検索・メール送信
第6回	文書作成(Word)①　案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)①　Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE、MAX、MIN)
第10回	表計算(Excel)②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③　基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第12回	計算(Excel)④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SR）

12189

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	

第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成
第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【初級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義

第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ(Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する)
第4回	情報の種類と特徴の理解(各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性) 情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ0、ヨミダス文書館、日経テレコン21) 情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	総復習(ここまでの内容のまとめ) VPNの設定について(申請方法等紹介) 課題1:情報検索・メール送信
第6回	文書作成(Word)①　案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)①　Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE、MAX、MIN)
第10回	表計算(Excel)②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③　基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第12回	計算(Excel)④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（SS）

12190

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	

第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成
第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【初級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義

第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ(Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する)
第4回	情報の種類と特徴の理解(各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性) 情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21) 情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	総復習(ここまでの内容のまとめ) VPNの設定について(申請方法等紹介) 課題1:情報検索・メール送信
第6回	文書作成(Word)①　案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)①　Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE、MAX、MIN)
第10回	表計算(Excel)②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③　基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第12回	計算(Excel)④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーI（ST）

12191

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義	
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）	
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）	
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について（中級のみ申請方法等紹介） 課題1：情報検索・メール送信	
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成（Word）③【課題②】案内文書の作成	
第9回	Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ）、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、関数を使った計算1（SUM、AVERAGE）	
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）	
第11回	表計算（Excel）③　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（値の比較）作成 課題2：データの集計と複	

第12回	（Excel）④　総復習【課題③】Excelを使った表計算とグラフ作成成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成
第14回	PowerPoint②　表、グラフのスライド作成、スライドショーの実行
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【初級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義
第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する）
第4回	情報の種類と特徴の理解（各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性） 情報の探し方（RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21） 情報の活用と著作権（引用の方法）
第5回	総復習（ここまでの内容のまとめ） VPNの設定について 課題1：情報検索・メール送信
第6回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷
第7回	文書作成（Word）②　ワードアート・クリップアートを利用した文書
第8回	文書作成（Word）③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、データ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）、関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）
第10回	表計算（Excel）②　関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定）
第11回	表計算（Excel）③　基本的なグラフ（値の比較・比率）の作成、関数応用（RANK、COUNT、COUNTA）
第12回	表計算（Excel）④　総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙・目次・箇条書き・表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　スライドへの設定（画面切り替え効果・アニメーションの設定）、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説（情報リテラシーIIへのつながり） マークシートによる前期総合多肢選択式
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付ファイルの取り扱い、圧縮・解凍ソフトの利用方法と意義

第3回	Web検索情報の扱い方、情報セキュリティ(Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する)
第4回	情報の種類と特徴の理解(各種資料の特徴、情報の信頼性と速報性) 情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、聞蔵Ⅱ、ヨミダス文書館、日経テレコン21) 情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	総復習(ここまでの内容のまとめ) VPNの設定について(申請方法等紹介) 課題1:情報検索・メール送信
第6回	文書作成(Word)①　案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)②　ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)①　Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE、MAX、MIN)
第10回	表計算(Excel)②　オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③　基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第12回	計算(Excel)④　総復習【課題③】統計的データのまとめ・グラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説(情報リテラシーIIへのつながり) マークシートによる前期総合多肢選択式

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。・
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。・
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。・
宿題を数回、提出してもらう予定。・
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／
情報活用の基礎	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SA）

12097

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	【課題③】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SB）

12098

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用）
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の　対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SC）

12099

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SD）

12100

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SE）

12101

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SF）

12102

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SG）

12103

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SH）

12104

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	前期総復習・問題解説　マークシートによる後期総合多肢選択式（75問）
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII (SI)

12112

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)、図解の概念化、図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成(スライドの提出)と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用(Excel①) 前期の復習(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照)	
第7回	表計算応用(Excel②) 応用関数1(RANK、COUNT、COUNTA)	
第8回	表計算応用(Excel③) 前回の関数の復習、応用関数2(IF)	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成(前期復習)、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ) 課題2:データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法(埋め込みオブジェクト)ヘッダーとフッター、インデント(復習)	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 課題3:課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SJ）

12113

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 複数シート間の計算（3D集計）、シート間のセル参照（リンク）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SK）

12245

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SL）

12246

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える（段組の利用）、Excelからのデータ利用方法 （リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト）、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能（見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式（75問）	
	【初級クラス】	

第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用② 前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷

第8回	表計算応用③ グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④ 3D集計、データベースの利用方法(オートフィルタ、並べ替え)
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習(ここまでの内容の総まとめ) 課題2:データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント(復習)、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③ セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法(埋め込みオブジェクト)
第14回	総復習(ここまでの内容の総まとめ) 課題3:プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SM）

12247

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	

第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善

第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用①　前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SN）

12248

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	

第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善

第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用①　前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SO）

12249

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	

第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善

第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用①　前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SP）

12250

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	

第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善

第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用①　前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	【課題③】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SQ）

12258

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	

第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善

第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用①　前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	【課題③】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SR）

12259

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	

第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善

第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用①　前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	【課題③】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（SS）

12260

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	

第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善

第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用①　前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	【課題③】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
・宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII（ST）

12261

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） カラーリング（配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期の復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）	
第7回	表計算応用（Excel②） 応用関数1（RANK、COUNT、COUNTA）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用関数2（IF）	
第9回	表計算応用④ 関数の復習、グラフ作成（前期復習）、グラフの種類の理解	
第10回	表計算応用⑤ 前回の復習、比率を表すグラフ、複合グラフ、グラフと表の印刷	
第11回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成【課題②】	
第12回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定	
第13回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）ヘッダーとフッター、インデント（復習）	
第14回	文書作成応用③【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ） 課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する	

第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用）
第9回	表計算応用④ 複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用② 脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③【セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：課題1で実施したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現方法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング（文字サイズや図の配置、配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーション技法、発表の準備、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤） 課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）と代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用① 前期Excelの復習・解説、応用的な関数（RANK、COUNT、COUNTA、IF、COUNTIF、SUMIF）

第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　グラフの復習、複数シートの活用、関数の復習
第9回	表計算応用④　3D集計、データベースの利用方法（オートフィルタ、並べ替え）
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　アウトラインでのレポート作成、レポート作成時のルール、ページ設定、アウトライン機能を使った見出しと本文作成、アウトライン番号の設定
第12回	文書作成応用②　脚注の設定、図表の挿入、キャプションの設定、レポートタイトルの設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、スタイルを使った見出しの設定
第13回	文書作成応用③　セクション区切り、表紙の作成、目次作成、ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）
第14回	【課題③】総復習（ここまでの内容の総まとめ） 課題3：プレゼンテーションテーマの内容をまとめ、レポート化する
第15回	到達度試験 1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

□3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
□入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
□フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
□宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義I（SD） § 専門特殊講義（SD） § 特殊講義（総合）（VA）

13370

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

■この科目は、キャンパスプラザ京都（京都駅近く）にて開講し、立命館大学では開講しません。
■キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
■履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

「NHK講座」では、NHKの番組制作取材や技術の最前線で活躍している方々やOBを講師に迎え、日頃それぞれの現場で何を考え追い求めているのか、理念と現実等について語ってもらいます。こうしたメディアの最前線を多角的に紹介し、多様なメディアから噴出するさまざまな情報を主体的に読み解き、参加する能力を養うことを目的としています。
本講座はNHK京都局の企画にもとづき、受講生との「双方向授業」を実施します。授業教室はキャンパスプラザ京都です。

※ 授業は4月11日から6月20日の間で集中して開講します。最終日は1コマの授業のみですが、それ以外は、2コマ連続で講義を実施します。開催日程・時間割に注意をしてください。
※ 講義開始時間は午後1時です。講義終了時間は、最終日は午後2時半、それ以外は、午後4時10分です。
※ 授業内容は、1月14日現在のもので、変更される可能性があります。初回授業にて確定した講義計画を配布します。また、3月下旬から立命館大学HPのオンラインシラバスで参照することができます。

到達目標 / Attainment Objectives

講師の話を聞くことでテレビメディアの現状を理解し、双方向授業への参加によって積極的な学習能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1、2回（4月11日）	藤澤秀敏／解説委員長 【テーマ】総論的な内容	中谷日出／解説委員室 【テーマ】「図解主義」について
第3、4回（4月18日）	杉江亮彦／放技局専任カメラマン 【テーマ】現場のカメラマン経験から	丸山俊一／制作局（爆笑問題のニッポンの教養他）【テーマ】教養系番組制作の現場から
第5、6回（4月25日）	上野智男／京都局制作（双方向の①）【テーマ】双方向授業① 番組制作の基本・提案課題設定	長村中／営業局（受信料制度）【テーマ】受信料と公共放送
第7、8回（5月9日）	吉田照幸／制作局（サラリーマンNeo・エンタテインメント）【テーマ】娯楽番組制作の現場から	飯島徹郎／京都局アナウンス 【若手アナウンサーの体験から】
第9、10回（5月16日）	未定／アナウンサー 【テーマ】未定	青木信也／大阪放送局（ドラマ）【テーマ】ドラマ制作の現場から（だんだんCP）
第11、12回（6月6日）	太勇次郎／京都局ニュース（国際取材）【テーマ】海外取材の現場から	原田誠／国際放送局 【テーマ】国際放送について
第13、14回（6月13日）	田中良憲／視聴者サービス局事業部 【テーマ】NHKのイベント・視聴者サービスについて	篠田恵一／京都局制作（双方向の②）【テーマ】双方向授業② 提案の秘訣・提案課題プレゼンテーション
第15回（6月20日）	今井義典／NHK副会長 【テーマ】未定	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席と講義時に提出する授業内レポート、ならびに双方向授業の際の提出物（番組提案票など）により評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義I（SE） § 専門特殊講義（SE） § 特殊講義（総合）（VB）

13369

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、日本音楽事業者協会、音楽制作者連盟、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、CPRA著作隣接権センターの5つの団体の協力による講座であり、昨年度までのJASRAC（日本音楽著作権協会）寄附講座「音楽・文化産業論」を継承します。
音楽を中心として、エンタテインメントに関わるビジネスやクリエイティブの第一線で活躍する講師陣が、毎回違ったテーマや分野から、現場経験に基づく貴重な講義を行ないます。また、リレー講義であるため、日本レコード大賞審査員なども務められている音楽評論家の反畑誠一先生のコーディネートで進行します。
音楽分野を中心に、映像・放送・表現・レジャーなど広くエンタテインメイント・ビジネスに関心を持つ諸君、あるいは、将来これらの業界で働くことを志望している諸君には、特に受講を勧めます。
※本講義は、毎週土曜日、11時より12時30分まで、京都駅前「キャンパス・プラザ」で開講します。なお、一部に時間を変更する授業日があるので注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際的視野で、音楽コンテンツをはじめエンタテインメント産業の実態を学ぶ
・過去を知り、知識を蓄積する
・現実を直視し、一流を知る
・明日を考え、展望する
・叡智と感性と創造力を培う
・自己の研究課題と進路を見つける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定はしないが、後期の専門特殊講義ⅠSF「エンタテインメント産業論Ⅱ」と連続して受講することが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月11日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	＜開講式・オリエンテーション＞
4月18日(土)	北谷賢司先生（ワシントン州立大メディア経営学教授）	「エンタテインメントビジネス新世紀」
4月25日(土)	永田悦久先生（エイベックス・ライブ・クリエイティヴ株式会社代表取締役社長）	「大規模ライブ運営　a－nation2009」
5月9日(土)	中西健夫先生（株式会社ディスクガレージ代表取締役社長）（社団法人全国コンサートツアー事業者協会副会長）	「MUSIC　DAY　2009～10円で地球の明日を考えよう～」
5月16日(土)	杉本誠司先生（ニワンゴ代表取締役社長）	「ニコニコ動画の世界2009」
6月6日(土)	藤井英也先生（集英社「ロードショー」前編集長）	「日本の映画産業2009」※2限連続講義日　9:30～11:00
6月6日(土)	川上博史先生（株式会社スタジオアルタ　代表取締役社長）	『笑っていいとも』25周年 ファッションスペース・ビジネスの実態 ※2限連続講義日　11:15～12:45
6月13日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	「中間総括」 ※2限連続講義日　9:30～11:00
6月13日(土)	山本裕治先生（株式会社第一興商音楽事業本部部長・社長室長）	「カラオケ文化論2009」 ※2限連続講義日　11:15～12:45
6月20日(土)	和佐田達彦先生（バンド「爆風スランプ」「X. Y. Z」ベース奏者）	「Jーロックで世界市場へ挑戦」
6月27日(土)	後藤豊先生（フォーライフ・ミュージックエンタテインメント社長）	「Revolutionー私たちの望むものはー」
7月4日(土)	武藤英明先生（プラハ放送交響楽団・指揮者）	「ワールド・クラシック・ミュージック」
7月11日(土)	堀義貴先生（株式会社ホリプロ代表取締役社長）（社団法人日本音楽事業者協会常務理事）	「総合マネージメント企業とは」～和田アキ子からミュージカルまで～
7月18日(土)	辻居幸一先生（弁護士・弁理士）（中村合同特許法律事務所）	「エンタテインメントと権利ビジネス」 ※2限連続講義日　9:30～11:00
7月18日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	前期総括・レポート提出 ※2限連続講義日　11:15～12:45
	※講師は都合により変更になることもあります ※授業時間 11:00～12:30 ただし、6月6日(土)・6月13日（土）及び7月18日(土)は2限連続（9:30～11:00、11:15～12:45）となります。 5月2日(土)及び5月30日(土)は授業はありません。開講日程・時間割にご注意願います。	□5月29日（金） 5月23日（土）休講に伴い、スケジュールを変更しました。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーションペーパーと期中2回のレポートにより総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義I（SF）§　専門特殊講義（SF）§　特殊講義（総合）（VC）

15603

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則、反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、日本音楽事業者協会、音楽制作者連盟、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、CPRA著作隣接権センターの5つの団体の協力による講座であり、昨年度までのJASRAC（日本音楽著作権協会）寄附講座「音楽・文化産業論」を継承します。
音楽を中心として、エンタテインメントに関わるビジネスやクリエイティブの第一線で活躍する講師陣が、毎回違ったテーマや分野から、現場経験に基づく貴重な講義を行ないます。また、リレー講義であるため、日本レコード大賞審査員なども務められている音楽評論家の反畑誠一先生のコーディネートで進行します。
音楽分野を中心に、映像・放送・表現・レジャーなど広くエンタテインメイント・ビジネスに関心を持つ諸君、あるいは、将来これらの業界で働くことを志望している諸君には、特に受講を勧めます。
※本講義は、毎週土曜日、11時より12時30分まで、京都駅前「キャンパス・プラザ」で開講します。なお、一部に時間を変更する授業日があるので注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際的視野で、音楽コンテンツをはじめエンタテインメント産業の実態を学ぶ
・過去を知り、知識を蓄積する
・現実を直視し、一流を知る
・明日を考え、展望する
・叡智と感性と創造力を培う
・自己の研究課題と進路を見つける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定はしないが、前期の専門特殊講義ＩSF「エンタテインメント産業論Ｉ」と連続して受講することが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
10月3日（土）	反畑誠一立命館大客員教授	＜開講式・オリエンテーション＞
10月10日（土）	丸山茂雄先生（株式会社247Music取締役会長・エグゼクティブプロデューサー）	「レコード産業に再生策はあるか」（仮）
10月17日（土）	山本たかお先生（株式会社テレビ朝日編成制作局次長・音楽制作CP）	「エンタテインメント産業とテレビメディアの役割」（仮）
10月24日（土）	北川直樹先生（株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役CEO）	「音楽産業の構図」（仮）※2009年10月19日変更
10月31日（土）	堀一貴先生（株式会社ホリプロ取締役副会長・社団法人音楽出版社協会副会長）	「音楽出版ビジネス ～ポール・マッカートニー、マイケルジャクソンを魅了した“Copyright”の魅力～」（仮）
11月7日（土）	椎名和夫先生（実演家著作隣接権センター運営委員・作曲家）	「実演家と著作隣接権」（仮）
11月14日（土）	亀田誠治先生（有限会社誠屋 音楽プロデューサー） ※「東京事変」ベーシスト ※スピッツ、椎名林檎、平井堅などのプロデューサー	「コンサート『亀の恩返し』をプロデュースして」（仮）
11月21日（土）	田口仁先生（株式会社アサツーディ・ケイ　情報開発局主任研究員） ※2限連続講義日　9:30～11:00	「プロモーション戦略・口コミを科学する」（仮）
11月21日（土）	反畑誠一立命館大客員教授 ※2限連続講義日　11:15～12:45	「中間総括」
11月28日（土）	益田祐美子先生（株式会社平成プロジェクト代表取締役）	「主婦から映画プロデューサーに変身・3億5千万円を集めた女」（仮）
12月5日（土）	浅野祐美子先生（株式会社フジクリエイティブコーポレーション制作室制作部）	「テレビドラマのプロデュースという仕事」
12月12日（土）	田村光広先生（株式会社文化放送　取締役　デジタル事業局局長）	「デジタル時代のラジオメディアの現状と課題」（仮）
12月19日（土）	大石征裕先生・山口哲一先生・金井文幸先生（社団法人音楽制作者連盟　理事長・理事・事務局次長）	「JAPAN EXPOと日本ポップカルチャーの海外展開」（仮）
1月16日（土）	福井健策先生（骨董通り法律事務所 弁護士）	「著作権とは何か」（仮） ※2限連続講義日　9:30～11:00
1月16日（土）	反畑誠一立命館大客員教授	「後期総括」 ※2限連続講義日　11:15～12:45
	以上、9月25日現在の予定です。 講師の都合等により、変更が発生する場合もあります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーションペーパーと期中2回のレポートにより総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II（SB）　§　専門特殊講義（SB）

13351

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都がなぜ「日本映画のふるさと」といわれているのか、京都の映画の歴史を中心に、映画誕生期、映画産業形成期、戦時下の映画を利用したプロパガンダ政策、戦後の映画産業の盛衰、現在の映画産業の構造、映画振興政策、今後の映画映像産業の方向、などを、映像資料や最近の統計調査などを使い、映画産業の歴史的縦軸と、日本の産業構造を中心としつつ世界の状況も見通した面的な状況を話す予定。

到達目標 / Attainment Objectives

1、京都でなぜ日本映画が発展していったのかの基本的な理解。
2、第七の芸術といわれる「映画」とは何かの、基本的な理解
3、映画産業の構造の理解と今後の産業としての可能性の検証

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方、ガイダンス	
第2回	映画誕生	リュミエール兄弟の初期作品などの鑑賞とあわせて、映画の誕生の歴史、エジソンの発明との違い等。
第3回	京都の映画史1	稲畑勝太郎
第4回	京都の映画史2	マキノ省三　尾上松之助
第5回	京都の映画史3	日本初の女性映画監督　坂根田鶴子
第6回	戦争と映画1	ナチスドイツの映画法、日本の映画法
第7回	戦争と映画2	満州国　満州映画協会
第8回	権力と映画	参考上映　当時戦意高揚のために作られた作品を上映する。作品は未定。
第9回	戦後の映画産業	大映映画を中心に〜世界に認められた日本映画「羅生門」「雨月物語」など。
第10回	映画産業の構造1	製作、配給などの流通システムについて
第11回	映画産業の構造2	興行〜映画館の歴史とシネコンの展開による変化など
第12回	日本の映画振興政策1	文化庁による映画産業のための振興政策について
第13回	日本の映画振興政策2	経済産業省による、知的財産の観点からのコンテンツビジネスとしての映像産業振興政策について
第14回	フランスの映画振興政策、韓国の映画振興政策	両国の振興政策の特徴と日本との違いなど。
第15回	映画産業の今後の展開、可能性	映画映像産業の未来、コンテンツビジネスとしての発展の方向性等を検証し、全体の講義のまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

映画館や大学内での上映会等で、たくさんの映画をみること。なお、学内での上映映画に関して、有料だが、レポート課題に指定する作品もあるので、事前に了解しておいて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	試験の解答内容で、授業の理解度を判断する
レポート試験	10 %	映画館や学内上映会でで見た日本映画の感想レポートの提出
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーを活用する

毎授業終了時提出してもらうコミュニケーションペーパーの内容のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や参考作品のビデオ、DVDなどの上映を行っている。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画を出来る限りたくさん見て欲しい。学内での上映会（有料）での作品もレポート課題の作品とする場合がある。映画産業は現在進行形でつねに変動している。今の時代の映画館、映画興行の現場の雰囲気を体感することで、今後の映画産業の方向性が見えてくるはずである。ハリウッド大作、日本のメジャー作品だけでなく、世界の様々な国の作品を積極的に見て欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都の映画80年のあゆみ	／京都新聞社／／
シネマがやってきたぺ日本映画事始め	都築政昭／小学館／／日本映画の黎明期の様子が分かる
京都映画図絵	鴇明浩＋映画探偵団／フィルムアート社／／京都の映画史の新記述等もある
別冊太陽　日本映画と京都	／平凡社／／
女人賛歌　甲斐庄楠音の生涯	栗田勇／新潮社／／溝口健二監督のスタッフだった画家の生涯
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割などを詳述した。

上記など。また随時授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

goo映画 http://movie.goo.ne.jp/ all cinema online http://www.allcinema.net キネマ旬報データベース http://walkerplus.com/movie/kinejun/ ミニパラ（全国のミニシアターのportalサイト）
http://www.minipara.com/など。

その他 / Others

1、遅刻は30分以上は認めない。30分以上遅れた学生は、必ず教室の後ろのドアから入ること。遅れた学生には、コミュニケーションペーパーの提出は求めない。
2、私語は厳禁（携帯でのメールのやりとりも禁止する、注意してもやめない場合退出を求める場合もある）
3、最終授業日に試験の内容についてのコメントする。
4、参考上映は、授業の進行と会わせて何回か行う。毎回、京都シネマで上映予定の最新作の予告編を授業の最初に上映する。

専門特殊講義II (SC) § 専門特殊講義 (SC)

13352

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日々届けられる新聞は、どんな取材と論議を経てつくられているのか。事件、事故、政治、経済、国際、芸能、スポーツ・・・。一面からラテ面まで各面にちりばめられた一つひとつの記事には、過去から現在に連なる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む地球的な広がりを示す「横軸」とが交差する中で、各メディアがそれぞれの価値観で、選び取った読者へのメッセージが込められている。「良い記事」「悪い記事」はどう見分けるのか。「特ダネ」はどのようにして生まれるのか。新聞を中心にしたメディアが日々発信しているその「意味」を、社内で交わされている「紙面論議」などを手がかりに同時進行的に紹介、解析していく。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を中心にメディアが日々発信しているメッセージについて、その狙いなどを客観的に理解し、バランスのとれた視点で、その記事などのすぐれた点や不十分な点を評価、指摘できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに。新聞はどのようにしてしてつくられているのか。報道の役割とは。	発掘力
第2回	事件報道と人権(匿名・実名問題など)	個人情報
第3回	事件報道と人権(被害者報道、加熱取材など)	メディアスクラム
第4回	事件報道と人権(歴史的重大事件など)	教訓
第5回	司法取材の現場から(死刑再審など)	冤罪
第6回	調査報道とは(リクルート事件など)	特ダネ
第7回	虚報と誤報(サンゴ事件)	あせり
第8回	報道の自由と取材源の秘匿(沖縄密約など)	スクープ
第9回	社説について(憲法改正論議など)	提言
第10回	教育現場から(日の丸・君が代)	良心
第11回	社風・社論(信頼される報道とは)	綱領
第12回	生活ニュースとは(街だね)	目線
第13回	発表ジャーナリズムからの脱却	記者クラブ
第14回	開かれた新聞とは(市民ネットと投書)	ブログ
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
平常点評価	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味あるテーマについて継続的にウオッチし、各新聞の論調を比べてみる。大きな事件の判決報道で、自分ならどう本記(判決の中身を伝える記事)を書くか、判決要旨などを読んで試してみる。読解力と文章力がつく。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.pressnet.or.jp/ 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。
加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

その他 / Others

専門特殊講義II (SG) § 専門特殊講義 (SG)

13252

担当者名 / Instructor　斎藤 喬

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:'09年のジャーナリズム1

イラク戦争とその後の戦後復興をめぐって、米英とドイツ、フランス、ロシアが対立、その間を縫うように多発するテロ事件など世界は混迷を深めています。アジアに目を転じても中国の経済発展に伴う階層の分裂、北朝鮮の核問題、各国で猛威を振るう鳥インフルエンザなど多難な問題が山積みしています。日本でも自衛隊イラク復興支援部隊をめぐって国民の意見は分裂、マスコミの対応にも違いが大きくなりはじめています。この世界の現在と未来をどう読み解くのか、讀賣テレビと讀賣新聞のリーダーと第一線の記者らが講義します。

到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4/8	中村 仁・読売新聞大阪本社代表取締役社長	「ネット社会における新聞」
4/15	新谷 弘・讀賣テレビ放送報道局次長	「地上波テレビの今」
4/22	森 克二・読売新聞大阪本社社会部長	「社会部は何を伝えるか」
4/29	谷 和男・讀賣テレビ放送編成局企画推進部	「デジタル時代の編成戦略」
5/13	朝日 義樹・読売新聞大阪本社論説委員長	「社説を読み比べる」
5/20	春川 正明・讀賣テレビ放送解説委員	「テレビ報道の現場から」
5/27	上野 昌彦 ・読売新聞大阪本社経済部長	「大恐慌？　1929年と2009年」
6/3	筧 彰夫・讀賣テレビ放送営業局営業業務部	「ビジネスとしてのテレビ」
6/10	吉形 祐司・読売新聞東京本社国際部主任	「世界の紛争と特派員」
6/17	山下 雄司・讀賣テレビ放送コンテンツ開発事業局	「デジタルでどう変わる・デジタルコンテンツ編」
6/24	永田 広道・読売新聞大阪本社 神戸総局長	「裁判員制度が始まった--メディアから見た課題と展望」
7/1	松山 浩士・讀賣テレビ放送コンテンツ開発事業局	「デジタルでどう変わる・ビジネス編」
7/8	岸本 弘一・読売新聞大阪本社常務取締役編集局長	「新聞記者の目指すもの」
7/15	辻出 国彦・讀賣テレビ放送マーケティング部	「視聴率から見たテレビ」
7/22	平井 道子 ・読売新聞大阪本社経済部次長　※5/27休校に伴う講義日の変更 ※6/9講師人事異動に伴う変更	「経済ニュースと学生生活」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テーマ及び講師は変更になる場合もあります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	最終の授業日にレポートを提出

毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

また、読売新聞講師の講義日には、初回の講義で配布する「30分で読売新聞を読む方法」を持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「30分で読売新聞を読む方法」	／／／初回講義時に配布

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースを興味を持って見ている人が対象。

専門特殊講義II（SH） § 専門特殊講義（SH）

15485

担当者名 / Instructor　斎藤 喬

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：讀賣マスコミ講座2～'09年のジャーナリズム～

現場の取材活動のなかで、何が行われているか、また取材における問題関心はどういったところに向けられているかなど、現場で活躍している専門記者の方々がが、各分野にそくした現状等を講義します。

※講義スケジュールについては、変更される場合があります。

到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/30	岩田 公雄・讀賣テレビ放送解説委員長	「テレビと政治」
10/7	本多 宏・読売新聞大阪本社 論説委員	「科学報道の現場」
10/14	吉川 真理・讀賣テレビ放送 報道局 チーフプロデューサー（情報ライブミヤネ屋プロデューサー）	「ミヤネ屋の挑戦」
10/21	深井 康行・読売新聞大阪本社社会部主任	「橋下・大阪府政とメディア」
10/28	千原 徹・讀賣テレビ放送映像グループ	「報道カメラマンの目線」
11/4	柳林 修・読売新聞大阪本社編集委員	「文化財報道と正倉院展」
11/11	相島良樹・讀賣テレビ放送報道グループ	「ニューススクランブルの現場から」
11/18	石井 斉・読売新聞大阪本社編成部主任	「ニュースを料理する」
11/25	脇浜 紀子・讀賣テレビ放送アナウンス部	「アナウンサーの視点から」
12/2	山畑 洋二・読売新聞大阪本社松江支局長	「これからの消費者問題」
12/9	亀田 憲一・讀賣テレビ放送コンプライアンス推進室	「考査から見たテレビ」
12/16	山田 博之・読売新聞大阪本社文化部主任	「囲碁・将棋の勝負師たち」
12/23	藪田 正弘・讀賣テレビ放送報道局次長	「テレビがライフラインであるために」
1/6	吉村 慎吾・読売新聞大阪本社社会部次長	「これからの事件報道―裁判員制度のもとで」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テーマ及び講師については変更になる場合があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答とともに、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースを興味を持って見ている人が対象。

専門特殊講義II（SI） § 専門特殊講義（SI）

13375

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

＊テーマ:「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮らす」「創る」から考える、“私たちのまち京都”
京都市には現在約150万人の市民が住み（平成19年11月）、1年間に4,800万人を超える観光客が訪れる（平成18年）。また、市内には25の大学と12の短期大学があり、約14万人の学生が学んでいる（平成18年度）。京都は世界有数の文化観光都市であり、かつ「大学のまち」である。京都で生活し、学び、働き、そして遊ぶ人々は京都に魅力を抱きながら京都のまちの良さを保持し、それを発展させたいと願っている。こうした願いを底辺からサポートしているのが京都市政（行政）である。京都市には局・区役所があり、それぞれが連携して市民や京都を訪れる人々のために仕事をしている。もちろん、市の形は行政だけでつくられるのではなく、よりよい京都のありようを考える市民自らの市政への参画が欠かせない。
本講義では、京都のまちや人々の諸活動を理解している各局の課長を招聘し、京都のまちを「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮す」「創る」という6つのキーワードから立体的に捉えてみたい。受講生には本講義を通じて、京都のまちに関する諸々の知識を修得するとともに、よりよい京都を創造していくための担い手になって欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

①京都市の現状を理解し、京都の課題を興味を持って探究することができる
②京都市の行政の取り組みを理解することができる
③京都で学ぶ学生として京都市政のありように主体的に関与していくための知識を身につけることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	私たちのまち「京都」ー京都のまちの魅力：見る、歩く、遊ぶ、働く、暮す、創る	京都、まちづくり、京都市行政、講義の課題、評価
2	京都のまちを「見る」①	京都市の大学政策
3	京都のまちを「見る」②	京都市の総合計画，京都創生の取組
4	京都のまちを「歩く」①	「5000万人観光都市・京都」の実現を目指して
5	京都のまちを「歩く」②	京都市の景観政策
6	京都のまちを「歩く」③	文化財保護とその取組
7	京都のまちを「創る」①	京都市の教育改革
8	京都のまちで「遊ぶ」①	京都市のスポーツ振興
9	京都のまちで「暮らす」①	京都市の子育て支援
10	京都のまちで「暮らす」②	京都議定書誕生の地から世界へ～京都市の地球温暖化対策
11	京都のまちで「暮らす」③	京のごみ戦略21
12	京都のまちを「遊ぶ」①	京都市の文化振興
13	京都のまちを「創る」②	都市財政のあらまし
14	京都のまちで「働く」	京都市の産業構造と産業振興策
15	授業内論述テスト（60分）＆再び考えてみよう！私たちのまち「京都」	授業内テスト、私たちのまち、京都
	＊講師の都合により，講義の順番等が変更になる場合があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	0 %	京都のまちの状況を「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮す」「創る」という視点から認識できているかどうか
平常点評価	100 %	①それぞれの講義でのミニレポートがしっかり書けているかどうか（50点）②最終授業日に60分間、論述形式の「授業内レポート試験」を実施（50点）。これまでの授業の理解と応用力がポイントです。

＊レポート試験のテーマについては講義の中で提示し、かつ掲示する。
＊ミニレポートの内容は講義の中で紹介する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、京都のまちのありようを考えていくものであるが、京都市をはじめ公務員を志望する学生にとっても有益である。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、各講師から関連資料が配布される。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

京都は魅力あるまちである。多くの学生が本講義に参加し、京都のまちづくりの担い手となることを期待するものである。

専門特殊講義II（SK） § 専門特殊講義（SK）

15612

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ダーウィンは「人類の起源」の中で、中国の書物に「音楽は天地を覆す力を有す」と言葉を紹介している。またシューマン博士の観察として「何ページもの書物よりも、ただ一曲の音楽の中に、はるかに大きな感動の高まりを凝縮させることができるものがある」と語っている。音楽は人間の感性と理性によって創作された不可欠のコミュケーション手段である。したがってメディアであり、デジタル時代に入りより激しく変貌している。この講座では、人間にとって音楽の存在と音楽文化の本質と変遷について、私たちの身近な存在である「ポピュラー音楽」を通じて、多角的に考察、研究し、体系づけることを目指している。特に満100年になるレコード産業の歴史を通じて、時代背景と大衆音楽との相関関係の追求に成果を残したいと考えている。

到達目標 / Attainment Objectives

①「ポピュラー音楽」を定義づける。
②「日本のポピュラー音楽」の歴史を学ぶ。
③「日本の流行歌」を体系づける。
④「現代的ヒットの構造」を学ぶ
⑤「ポピュラー音楽の著作権の基本」を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回（10/2）	人間と音楽文化	音楽力
第2回（10/9）	私たちの内に流れるリズム・メロディーの深淵	日本人と音楽
第3回（10/16）	日本のレコード産業史　その1（1910～1945）	テクノロジーと流行歌
第4回（10/23）	日本のレコード産業史　その2（1945～2009）	世相と音楽文化
第5回（10/30）	日本の流行歌大系　その1	創作者の存在
第6回（11/6）	日本の流行歌大系　その2	表現者の存在
第7回（11/13）	日本の流行歌大系　その3	J－POPとは
第8回（11/20）	日本の流行歌大系　その4	インディーズとは
第9回（11/27）	日本の流行歌大系　その5	音楽環境
第10回（12/4）	非西欧世界の音楽　その1	民俗音楽と伝統音楽
第11回（12/11）	非西欧世界のポピュラー音楽　その2	アジアの音楽市場
第12回（12/18）	ロック音楽の歴史	ロック音楽とは
第13回（12/25）	サ・ビートルズ	カリスマ性
第14回（1/8）	放送メディアと音楽文化	日本レコード大賞（1958～2009）
第15回（1/15）	インターネットと音楽文化	著作権保護

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	
平常点評価	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

継続的な出席を望む。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
特には指定しない。	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「著作権とは何か」－文化と創造のゆくえー	福井健策著／集英社新書／／
「著作権法入門2008」	文化庁編／社団法人著作隣接権センター刊／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II（SM） § 専門特殊講義（SM）

15596

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢化社会が進行し、若者の活字離れも伴って伝統的なメディアの代表であった「新聞」に北風が吹き続けている。「新聞がなくなる日」「ネットが新聞を殺すのか」などの書物が出回っているが、新聞は本当にIT産業に飲み込まれてしまうのか。双方向メディア・ネットの拡大は、社会や民主主義のありかたにどんな激変をもたらすのか。人員削減、総合情報産業への脱皮、グループ企業間の新たな連携、紙面改革、デジタル化・・・。変容するメディア産業の現状を、過去のとのつながりのからみで立体的に読み解いていく中で今後の姿を探っていく。同時に「格差社会の進行」をメディアとともに検証していく。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアが多様化していく中で、新聞企業が直面している課題が理解できる。ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について・総論	マスコミ四媒体
第2回	日本の新聞業界～この半年の主な動き	デジタル
第3回	世界のメディア事情～韓国・北朝鮮	ネット新聞
第4回	世界のメディア事情～アメリカ	削減
第5回	世界のメディア事情～ヨーロッパ	タブロイド
第6回	世界のメディア事業～中国	自由化
第7回	新聞の連携と地方紙	連合
第8回	フリーペーパーの挑戦	多様化
第9回	新聞経営の合理化	外部化
第10回	電子新聞の模索	動画
第11回	電子電波メディアの現状と行方～テレビと通信	融合
第12回	電子電波メディアの現状と行方～NHK問題	肥大化
第13回	スポーツ紙の世界	元気
第14回	2009年の新聞界展望	淘汰
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の内容についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(各部門共通)I(RA) § 専門特殊講義II(SN) § 人文科学総合講座特殊講義I(LH) § 日本外交論(J) § 専門特殊講義(SN) § 特殊講義(基礎)1(日本外交論)(C)

20345

担当者名 / Instructor　石原 直紀

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本の外交関係について、日本と外国という双方の視点から多角的に考える。わが国の外務省現役職員、OBらによる講義を通じ、日本の外交政策の実態と課題や外交について実務的視点から理解を深める。また、関西地区駐在の諸外国の総領事を講師に招き、外国から見た日本、日本と当該国の関係などについて考えるきっかけを提供する。さらに、外務官僚、外交官や領事、総領事といった職業について紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本外交と外交政策を理解する。
諸外国から見た日本という視点を身につける。
外交官、総領事といった対外関係に携わる職業を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	外交政策と外交	外交と外交官、日本の外交政策、外交政策決定過程
第2回	日本の外交政策 I	
第3回	日本の外交政策 II	
第4回	日本の外交政策 III	
第5回	日本の外交政策 IV	
第6回	日本の外交政策 V	
第7回	日本の外交政策 VI	
第8回	日本の外交政策 VII	
第9回	日本の外交政策 VIII	
第10回	日本の外交政策 IX	
第11回	外国から見た日本 I	
第12回	外国から見た日本II	
第13回	外国から見た日本 III	
第14回	外国から見た日本 IV	
第15回	全体総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各回の授業内容につき、関連参考文献などを読む。
外務省、各国大使館、総領事館主催のセミナー、イベントなどに積極的に参加する。
ウェブサイトなどを通じ、日本の外交政策の動向、諸外国の事情などについて理解を深める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	与えられたテーマにつき、授業内容と自主的な学習を踏まえ、自分の見解を明快且つ説得的に記述できているか。
平常点評価	50 %	授業への出席

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

外務省や各国総領事などのゲスト講師による授業なので、出席のみならず聴講マナーをきちんと守ること。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

授業の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mofa.go.jp(外務省)
各国総領事館等その他の関連ウェブサイトは、授業で紹介する。

その他 / Others

ゲスト講師、テーマの変更があり得る。

政策科学特殊講義（PA） § 法政特殊講義（JI） § 人文科学総合講座特殊講義I（LQ） § 特殊講義（各部門共通）I（RD） 20079
専門特殊講義（SP） § 特殊講義（WA） § 専門特殊講義II（SP）

担当者名 / Instructor　勝村 誠　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は読売新聞社の援助により各府県知事を本学にお迎えし、それぞれの政策的課題などを語っていただくリレー講義である。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情も様々に異なるため、個別政策や個人の政治戦略のレベルでについていえば、講義全体が統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできることは増えてきており、とりわけ、知事のリーダシップによって地方行政は相当に変化しうるようになってきた。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているので、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数回は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の出席票に記載欄を設けるのでこれに書いてもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係（中央政府と地方政府の関係）について総合的に理解を深めることが目標である。知事の講演を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、財政学、地方自治等に関連する科目群

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要	
第2回	埼玉県　上田清司知事	「みどりと川の再生」推進
第3回	三重県　野呂昭彦知事	
第4回	愛知県　神田真秋知事	
第5回	宮城県　村井嘉浩知事	
第6回	新潟県　泉田裕彦知事	
第7回	香川県　真鍋武紀知事	
第8回	慶應義塾大学教授（前宮城県知事）　浅野史郎教授	
第9回	滋賀県　嘉田由紀子知事	
第10回	講義「地方分権改革について」・中間まとめ	
第11回	福岡県　麻生渡知事	
第12回	読売新聞東京本社・青山彰久編集委員	
第13回	富山県　石井隆一知事	
第14回	山梨県　横内正明知事	
第15回	総括講義	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	70点満点の定期試験を実施する。
平常点評価	30 %	1セメスターに2回小レポートを課す。それぞれ15点満点で評価して、評点を加算する。出席点は加算しない。

本講義の受講を希望する者は、エントリーシートを提出して予備登録を行わなければならない。URL参照。
http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻はしないこと。15分以上遅刻した者には、原則的には入室を許可しない。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、入り口で事情を合理的に説明したうえで、目立たぬように後部の出入口より静かに入室すること。

同様の理由で、原則的には中途退室は認めない。やむを得ざる事情で中途退室せざるを得ない時には、密やかに退出し、出口でスタッフに退室理由を説明すること。中途退室した場合には、原則的に再入室は認めないものとするが、再入室を強く望む場合には合理的な理由が説明できる場合に限り再入室を認めるものとする。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話を聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。

受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間外学習が求められることは当然である。

小レポートを2回提出してもらい、そのできばえによる日常評価を30点満点で評価する。知事の講義を真剣に聞き、自分の理解度を小レポートでしっかりと表現してほしい。

ただし、出席点は一切加味しないので、目的意識なく漫然と出席しても何のプラスにもならないことは理解してほしい。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しないが、地方政治や地方行財政をめぐる書籍を手元に置いて日常的に参照すること。参考書に有益な本を掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『テキストブック地方自治』	村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／地方自治の基本的教科書
『概説 日本の地方自治』	新藤宗幸・ 阿部斉／東京大学出版会／4130320386／地方自治の基本的教科書
『市民のための地方自治入門』	佐藤竺監修 ／実務教育出版／4788914158／一般市民向けの概説書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

その他 / Others

政策科学特殊講義（PB） § 法政特殊講義（JK） § 人文科学総合講座特殊講義I（LR） § 特殊講義（各部門共通）I（RJ，S） 20216 専門特殊講義（SQ） § 特殊講義（WB） § 専門特殊講義II（SQ）

担当者名 / Instructor　今仲 康之　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は読売新聞社の援助により各府県知事を本学にお迎えし、それぞれの政策的課題などを語っていただくリレー講義である。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情も様々に異なるため、個別政策や個人の政治戦略のレベルでについていえば、講義全体が統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできることは増えてきており、とりわけ、知事のリーダシップによって地方行政は相当に変化しうるようになってきた。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているので、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数回は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の出席票に記載欄を設けるのでこれに書いてもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係（中央政府と地方政府の関係）について総合的に理解を深めることが目標である。知事の後援を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、財政学、地方自治等に関連する科目群

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	読売新聞大阪本社　論説委員　上田恭規氏	
第2回	担当者講義	
第3回	大分県　広瀬勝貞知事	
第4回	広島市　秋葉忠利市長	
第5回	青森県　三村申吾知事	
第6回	長野県　村井仁知事	
第7回	担当者講義	
第8回	滋賀県　米田耕一郎副知事	
第9回	栃木県　福田富一知事	
第10回	浜松市　鈴木康友市長	
第11回	石原　信雄氏	
第12回	野中　広務氏	
第13回	奈良県　荒井正吾知事	
第14回	愛媛県　加戸守行知事	
第15回	島根県　溝口善兵衛知事	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	70点満点の定期試験を実施する。
平常点評価	30 %	1セメスターに3回小レポートを課す。それぞれ10点満点で評価して、評点を加算する。出席点は加算しない。

本講義の受講を希望する者は、エントリーシートを提出して予備登録を行わなければならない。URL参照。
http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻・早退はしないこと。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、目立たぬように後部の出入口より静かに入退出すること。また、当然であるが、講義中は脱帽。また、言わずもがなであろうが、私語・飲食厳禁である。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話を聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間外学習が求められることは当然である。

小レポートを3回提出してもらい、そのできばえによる日常評価を30点満点で評価する。知事の講義を真剣に聞き、自分の理解度を小レポートでしっかりと表現してほしい。

ただし、出席点は一切加味しないので、目的意識なく漫然と出席しても何のプラスにもならないことは理解してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

教科書は指定しないが、地方政治や地方行財政をめぐる書籍を手元に置いて日常的に参照すること。参考書に有益な本を掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『テキストブック地方自治』	村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／地方自治の基本的教科書
『概説　日本の地方自治』	新藤宗幸・阿部斉／東京大学出版会／4130320386／地方自治の基本的教科書
『市民のための地方自治入門』	佐藤竺監修／実務教育出版／4788914158／一般市民の向けの概説書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

その他 / Others

専門特殊講義II（ST） § 専門特殊講義（ST）

13465

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ドキュメンタリーはフィクションである」は、昨年惜しくも亡くなったドキュメンタリー映画の監督、佐藤真氏の言葉である。一般的にドキュメンタリーは、ノンフィクションと捉えられ、現実をありのままに映し出したもの、とされている。が、20年余り、さまざまなドキュメンタリーを見てきたが、「ドキュメンタリーはフィクションである」という言葉は、重要な指摘だと考える。ドキュメンタリーとは何か。いくつかの作品を見ながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

いくつかのドキュメンタリー作品の考察により、映画、テレビを問わず、広く映像メディア全体を捉え直す。作品ごとの考察は、受講生の積極的な発表を促す形で進める。ドキュメンタリーは、ノンフィクションか、フィクションか。それを越えたものなのか。理解を深めていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリーとは1	ドキュメンタリー、ノンフィクション
第2回	ドキュメンタリーとは2	演出とやらせ
第3回	ドキュメンタリー作品鑑賞	戦うふ兵隊　亀井文夫　1939年
第4回	作品分析発表　4人　意見交換	ランダムに指名した受講生に、作品分析の発表を行ってもらう。
第5回	作品分析についての論評	
第6回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「ドキュメント　路上」　土本典昭監督　64年
第7回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「水俣　患者さんとその世界」土本典昭監督　71年
第8回	作品分析発表　4人　意見交換	
第9回	作品分析についての論評　関連作品の鑑賞　土本監督の短編	
第10回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「阿賀に生きる」佐藤真監督
第11回	作品分析発表　4人	
第12回	作品分析について論評　関連作品の鑑賞　佐藤監督の短編	
第13回	ゲスト監督を招いて（未定）	作品鑑賞
第14回	作品分析の発表　4人	
第15回	ドキュメンタリーとは、ドキュメンタリーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ドキュメンタリー映画やテレビのドキュメンタリー番組を積極的に見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	設問に対する解答の記述内容で、授業の理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館で公開中、および学内上映会での上映作品（有料）のドキュメンタリー作品の感想レポートの提出。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで、理解度を確認する。出席はとらない。

授業への30分以上の遅刻は認めない。私語、メール等も厳禁。注意しても聞かない場合は退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ドキュメンタリー映画は、様々な作品を見ることで、その面白さへの理解が深まる。国内外を問わず、たくさんの作品を見て欲しい。また、テレビのドキュメンタリー番組も、チェックして欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリーの修辞学	佐藤真／みすず書房／9784622072515／ドキュメンタリーとは、最近の傾向など、いまのドキュメンタリーの周辺および監督の思いが伝わる好著

参考図書に関しては適宜紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学内上映会でのレポート課題作品は、有償（500円程度）だが、その点は了解していただきたい。

専門特殊講義II (SU) § 専門特殊講義 (SU)

15674

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本映画はここ数年、実際の製作本数は、公開本数の約2倍という状況で、公開されずに「お蔵入り」となってしまう映画が相変わらず多い。日本映画バブルの状況はまだまだ続きそうである。が、過去の日本映画の名作を見る機会は、学生にはほとんどない。1945年前後の日本映画を鑑賞し、映画と社会との関係を考察する。現代においても、映画と社会は不可分な関係があることの理解を促す。

到達目標 / Attainment Objectives

1、映画と社会の関係、社会的な力によって映画が作られてきた歴史を作品を通して学ぶ。
2、映画と戦争は、プロパガンダとして活用された関係にある。監督や製作現場のスタッフたちは、そうした状況をどのように受け止め、作品に反映させてきたのかを、作品を通して認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画と戦争1	映画法など。戦時中のニュース映画の参考上映
第2回	稲垣浩監督　無法松の一生　1943年　戦前は映画法、戦後はGHQによって2度の検閲を受けた作品　鑑賞	
第3回	1940年代の作品鑑賞　黒澤明監督　「一番美しく」（1944年）女子挺身隊の勤労動員の物語	
第4回	作品分析　意見交換	
第5回	黒澤明監督　「わが青春に悔いなし」1946年鑑賞　戦前戦後、大学の自由を守ることと、日本の自由を勝ち取ることをテーマとした京都も舞台になった作品　鑑賞	
第6回	作品分析　意見交換	
第7回	木下恵介監督　「陸軍」1944年　鑑賞	
第8回	作品分析　意見交換	
第9回	木下恵介監督　「大曽根家の朝」1946年　鑑賞	
第10回	作品分析　意見交換	
第11回	木下恵介監督　「女」1948年　鑑賞	
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲストスピーカー　京都府京都文化博物館映像資料室学芸員　森脇清隆氏　フィルムアーカイブの意義	
第14回	小津安二郎監督　「長屋紳士録」1947年　鑑賞	
第15回	作品分析　意見交換　　全講義を通じて感じたこと、映画と社会の関係等も意見交換する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日本映画をたくさん見て欲しい。ゲスト並びに上映作品は、変更する場合もあるが、事前に説明を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館および学内での上映会(有料)の作品の感想レポートの提出。ただし、作品分析発表者はのぞく。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

30分上の遅刻は認めない。私語、携帯メール等厳禁。私語等注意してもやめない場合は、退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

日本映画を読む	大島渚ほか／ダゲレオ出版／／
ある映画監督の生涯	新藤兼人／岩波新書／／
日本映画批判	双葉十三郎／トパーズプレス／／
日本映画	佐藤忠男／第三文明社／4-476-03175-7／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／／

参考図書は随時提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義III（SO） §　専門特殊講義（SO）

13460

担当者名 / Instructor　是枝 裕和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

主にテレビの問題点と可能性について、具体的な番組を参照しながら学生のみなさんと共に考察してみたいと考えている。

【事務室からの注意事項】
1）本講義は、予備登録の上、受講者を決定します（受講希望レポートにより選考します）。
予備登録の期間・方法は、2009.3.25以降に掲示（または産業社会学部のホームページ）にて確認し、指定された期日内に手続きを行うこと。
（予備登録期間は、通常の事前登録期間よりも早いので気をつけてください）

・配当回生：3回生以上
・定員　：30名
・他学部受講　可

2）講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。
受講を希望する者は、次時限（後期金曜日5限）も受講登録せずにあけておくこと。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	講義の詳細は、第1回授業で説明します。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最低限の映像に対する「興味」は持っていてほしい。

教科書 / Textbooks

講義に関わる資料等は各授業で配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域社会論（S）

15563

担当者名 / Instructor　中川 勝雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要は、地域社会の歴史的展開を概観したうえで、社会と人間生活との相互関係を解明しうるような事象に焦点をあて、全体社会や人間にとっての地域社会の位置と意義について考察しようとするものである。授業内容の基本的な柱は、地域社会論の成り立ち、前近代・近代・現代の地域社会、日本の地域社会の歴史的展開、現代の地域社会の重層構造、新しい地域社会形成、などである。

到達目標 / Attainment Objectives

全体社会や諸個人にとって地域社会の位置と意義が的確に理解でき、地域社会の矛盾あるいは課題を解決しうる素養を習得すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習Ⅰ・Ⅱ、コア科目（現代と社会、現代とメデイア、人間と文化、現代と福祉）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	地域社会論（学）とは何か　その1	農村社会学、都市社会学、全般的都市化
2回目	地域社会学とは何か　その2	地域社会概念、地域社会の重層化
3回目	地域社会論（学）とは何か　その3	地域社会分析の基本視点、資本、住民、地域集団、地方自治体
4回目	地域社会の歴史的展開　その1	共同体としての前近代
5回目	地域社会の歴史的展開　その2	産業都市としての近代、現代の地域社会
6回目	日本における地域社会の歴史的発展の特質　その1	村落共同体、特殊な近代的地域社会の成立
7回目	日本における地域社会の歴史的発展の特質　その2	現代的地域社会の成立
8回目	日本における地域社会の歴史的発展の特質　その3	地域開発政策、企業誘致、地域社会変動、地方行政の広域化
9回目	現代社会における地域社会の構成　その1	地域社会の重層構造、市町村合併の歴史的展開
10回目	現代社会における地域社会の構成　その2	生活の諸側面、生活様式、農村的生活様式、都市的生活様式、共同社会的生活様式
11回目	現代社会における地域社会の構成　その3	生活の社会化・高度化と公共政策、地方分権改革と今後の課題
12回目	現代社会における地域社会の構成　その4	地域社会分析の意味の変化、地域社会分析の有効性、地域社会研究の課題と構成
13回目	新しい地域社会形成の取り組み　その1	村落共同体の現代的再編（行政と住民のパートナーシップによる村づくり）
14回目	新しい地域社会形成の取り組み　その2	ネットワーク型存立形態を有する沖縄村落
15回目	新しい地域社会形成の取り組み　その3	地域福祉センターとしてのNPO活動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

是非読んでほしい参考文献です。

青井和夫監修/蓮見音彦編集『地域社会学』サイエンス社、1991年

佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の社会と人間』法律文化社、1996年

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	地域社会についてのリアルな理解ができているかどうかで評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

居住地での地域生活についての実態に関心を向けること、授業中の私語は厳禁

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
政策型思考と政治	松下圭一／東大出版会／／地域社会を理解するのに有益である
地域再生の経済学	神野直彦／中央公論社／／現代地域社会理解の基本的視点を示している

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ボランティア入門 (S)

15572

担当者名 / Instructor　中根 智子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティア活動や社会貢献活動、非営利活動などの実践的事例を紹介しつつ、そのコンセプトや社会的意義を学びます。さらに、NPO学会やボランティア学会の研究成果を交えながら、実践科学としてのボランティア活動の現状と課題について考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動に関する主要コンセプトを理解し、ボランティアの視点から社会を概観する視座を獲得することが目標です。ただし、ボランティアについて知識を深めるだけでなく、実際のボランティア活動から学ぶ姿勢も重視します。ボランティアを通して社会・他者・自分自身を見つめ直す姿勢が大切です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域参加活動入門ほか
科目の履修だけでなく、普段から新聞記事を読みこなし、ボランティアに関する動向を把握するなどの情報収集を心掛けると授業の理解も深まります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション－講義の進め方、受講のルール、目標などについて－	ボランティア・イメージ、ボランティア概論
2	現代の社会課題とボランティア活動の領域①	災害援助・まちづくりとボランティア
3	現代の社会課題とボランティア活動の領域②	環境問題とボランティア
4	現代の社会課題とボランティア活動の領域③	国際協力と国際ボランティア
5	現代の社会課題とボランティア活動の領域④	国際難民支援とボランティア
6	現代の社会課題とボランティア活動の領域⑤	福祉とボランティア
7	現代の社会課題とボランティア活動の領域⑥	ボランティアの教育への導入
8	中間テスト	希望者によるプレゼンテーション(1)
9	ボランティアの思想	市民的公共性
10	ボランタリーな活動の歴史的背景	地縁型相互扶助、宗教的篤志活動、企業の社会貢献活動、市民(公益)活動
11	ボランティア団体の組織と運営	ボランティアマネジメント
12	行政の変革とボランティア	市民社会、パートナーシップ、地域社会
13	ボランティアニーズの発見と行動	ボランティアコーディネーション
14	諸外国のボランティア動向	意識調査結果の比較
15	期末テスト	希望者によるプレゼンテーション(2)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

積極的な授業外学習を評価します。ボランティア活動経験から学んだことや自主的なリサーチ・フィールドワークの報告をまとめて提出することで、成績に加算します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	第8講に中間テスト(30点)、第15講に期末テスト(40点)を実施します。(70%) 毎回の授業でコミュニケーションペーパーを配布し、授業の感想や質問を記入してもらいます(30点)。(30%) ＊その他: 希望者は、ボランティア活動経験から学んだことや自主的なリサーチ・フィールドワークの報告をまとめて提出してください。また、提出者の中からさらに希望する学生は、授業中に成果をプレゼンテーション形式で発表してください。(授業時間が限られているため、プレゼンテーション希望者が多い場合は、提出された報告書の内容から教員が選考します。)これらは、上記の100点にプラスしてさらに成績に加算します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ライティングリテラシー（SA）

10366

担当者名 / Instructor　南里 一郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告したり意見を述べたりする種類の文章である。それらは、他人に正確な情報を伝え理解させる、または説得するという目的がある。そのため、論理的な構造や定型をもっていて、一定の手順のもとに作られる。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章が書けるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	内容把握力　語彙力　構成力　表現力　作成力　推敲力
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実の記述　意見の記述
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(1)	文　段落
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(2)	段落　トピックセンテンス　文章
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(3)	要旨　アウトライン
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆と推敲　5W1H　一文の長さ
第7回	材料を集めるための技法を身に付ける	ブレイン・スト―ミング
第8回	材料集めから主題を見つける	主題　材料　主題分析
第9回	意見文・論説文の型を知る	事実と意見　論拠
第10回	説得力のある論説文を書く	論理構成
第11回	レポート・小論文の型を知る(1)	学術情報　記述態度　形式と構成　問題提起　結論　論証
第12回	レポート・小論文の型を知る(2)	表題　引用と出典　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文についての基本を身につける	形式と構成　字配り　敬語　はがきと封書
第15回	達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点30%、達成度テスト70%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ライティングリテラシー（SB）

10367

担当者名 / Instructor　松本 朋子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告したり意見を述べたりする種類の文章である。それらは、他人に正確な情報を伝え理解させる、または説得するという目的がある。そのため、論理的な構造や定型をもっていて、一定の手順のもとに作られる。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章が書けるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	内容把握力　語彙力　構成力　表現力　作成力　推敲力
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実の記述　意見の記述
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(1)	文　段落
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(2)	段落　トピックセンテンス　文章
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(3)	要旨　アウトライン
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆と推敲　5W1H　一文の長さ
第7回	材料を集めるための技法を身に付ける	ブレイン・スト―ミング
第8回	材料集めから主題を見つける	主題　材料　主題分析
第9回	意見文・論説文の型を知る	事実と意見　論拠
第10回	説得力のある論説文を書く	論理構成
第11回	レポート・小論文の型を知る(1)	学術情報　記述態度　形式と構成　問題提起　結論　論証
第12回	レポート・小論文の型を知る(2)	表題　引用と出典　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文についての基本を身につける	形式と構成　字配り　敬語　はがきと封書
第15回	達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点30%、達成度テスト70%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ライティングリテラシー（SC）

10368

担当者名 / Instructor　松井 書子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告したり意見を述べたりする種類の文章である。それらは、他人に正確な情報を伝え理解させる、または説得するという目的がある。そのため、論理的な構造や定型をもっていて、一定の手順のもとに作られる。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章が書けるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	内容把握力　語彙力　構成力　表現力　作成力　推敲力
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実の記述　意見の記述
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(1)	文　段落
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(2)	段落　トピックセンテンス　文章
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(3)	要旨　アウトライン
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆と推敲　5W1H　一文の長さ
第7回	材料を集めるための技法を身に付ける	ブレイン・スト―ミング
第8回	材料集めから主題を見つける	主題　材料　主題分析
第9回	意見文・論説文の型を知る	事実と意見　論拠
第10回	説得力のある論説文を書く	論理構成
第11回	レポート・小論文の型を知る(1)	学術情報　記述態度　形式と構成　問題提起　結論　論証
第12回	レポート・小論文の型を知る(2)	表題　引用と出典　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文についての基本を身につける	形式と構成　字配り　敬語　はがきと封書
第15回	達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点30%、達成度テスト70%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ライティングリテラシー（SD）

10515

担当者名 / Instructor　南里 一郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告したり意見を述べたりする種類の文章である。それらは、他人に正確な情報を伝え理解させる、または説得するという目的がある。そのため、論理的な構造や定型をもっていて、一定の手順のもとに作られる。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章が書けるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	内容把握力　語彙力　構成力　表現力　作成力　推敲力
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実の記述　意見の記述
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(1)	文　段落
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(2)	段落　トピックセンテンス　文章
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(3)	要旨　アウトライン
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆と推敲　5W1H　一文の長さ
第7回	材料を集めるための技法を身に付ける	ブレイン・スト―ミング
第8回	材料集めから主題を見つける	主題　材料　主題分析
第9回	意見文・論説文の型を知る	事実と意見　論拠
第10回	説得力のある論説文を書く	論理構成
第11回	レポート・小論文の型を知る(1)	学術情報　記述態度　形式と構成　問題提起　結論　論証
第12回	レポート・小論文の型を知る(2)	表題　引用と出典　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文についての基本を身につける	形式と構成　字配り　敬語　はがきと封書
第15回	達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点30%、達成度テスト70%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ライティングリテラシー（SE）

10516

担当者名 / Instructor　松本 朋子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告したり意見を述べたりする種類の文章である。それらは、他人に正確な情報を伝え理解させる、または説得するという目的がある。そのため、論理的な構造や定型をもっていて、一定の手順のもとに作られる。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章が書けるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	内容把握力　語彙力　構成力　表現力　作成力　推敲力
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実の記述　意見の記述
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(1)	文　段落
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(2)	段落　トピックセンテンス　文章
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(3)	要旨　アウトライン
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆と推敲　5W1H　一文の長さ
第7回	材料を集めるための技法を身に付ける	ブレイン・スト―ミング
第8回	材料集めから主題を見つける	主題　材料　主題分析
第9回	意見文・論説文の型を知る	事実と意見　論拠
第10回	説得力のある論説文を書く	論理構成
第11回	レポート・小論文の型を知る(1)	学術情報　記述態度　形式と構成　問題提起　結論　論証
第12回	レポート・小論文の型を知る(2)	表題　引用と出典　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文についての基本を身につける	形式と構成　字配り　敬語　はがきと封書
第15回	達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点30%、達成度テスト70%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ライティングリテラシー（SF）

10517

担当者名 / Instructor　松井 書子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告したり意見を述べたりする種類の文章である。それらは、他人に正確な情報を伝え理解させる、または説得するという目的がある。そのため、論理的な構造や定型をもっていて、一定の手順のもとに作られる。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章が書けるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	内容把握力　語彙力　構成力　表現力　作成力　推敲力
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実の記述　意見の記述
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(1)	文　段落
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(2)	段落　トピックセンテンス　文章
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する(3)	要旨　アウトライン
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆と推敲　5W1H　一文の長さ
第7回	材料を集めるための技法を身に付ける	ブレイン・スト―ミング
第8回	材料集めから主題を見つける	主題　材料　主題分析
第9回	意見文・論説文の型を知る	事実と意見　論拠
第10回	説得力のある論説文を書く	論理構成
第11回	レポート・小論文の型を知る(1)	学術情報　記述態度　形式と構成　問題提起　結論　論証
第12回	レポート・小論文の型を知る(2)	表題　引用と出典　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文についての基本を身につける	形式と構成　字配り　敬語　はがきと封書
第15回	達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点30%、達成度テスト70%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (1)

12317

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します。

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (2)

12318

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (3)

12319

担当者名 / Instructor　中川 勝雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (4)

12320

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (5)

12321

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (6)

12322

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (7)

12323

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (8)

12324

担当者名 / Instructor　林 堅太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (9)

12325

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (10)

12326

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (11)

12327

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (12)

12328

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (13)

12329

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (14)

12330

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (15)

12331

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I（16）

12332

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (17)

12333

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I（18）

12334

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (19)

12344

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (20)

12335

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I（21）

12336

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (22)

12337

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (23)

12338

担当者名 / Instructor　中山 一樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (24)

12316

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I（25）

12339

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I（26）

12340

担当者名 / Instructor　高橋 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (27)

12341

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (28)

12343

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (29)

12342

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I (30)

12345

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (1)

12402

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (2)

12403

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (3)

12404

担当者名 / Instructor　中川 勝雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (4)

12405

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (5)

12406

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (6)

12407

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (7)

12408

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (8)

12409

担当者名 / Instructor　林 堅太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (9)

12410

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (10)

12411

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (11)

12412

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (12)

12413

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (13)

12414

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (14)

12415

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (15)

12416

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (16)

12417

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (17)

12418

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (18)

12419

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (19)

12430

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (20)

12420

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (21)

12421

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (22)

12422

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (23)

12423

担当者名 / Instructor　中山 一樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (24)

12424

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (25)

12425

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (26)

12426

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (27)

12427

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (28)

12429

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (29)

12428

担当者名 / Instructor　前田 信彦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II (30)

12431

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生，3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1A）

13378

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しい市民社会論をフォローした入門書（篠原一著『市民の政治学－討議デモクラシーとは何か』岩波新書、2004年）取り上げ、公領域と私的世界を繋ぐデモクラシーのあり方および市民の条件について考えていく。

人は他者とのつながりを切断しては生きていけない。では他者と、いいかえれば社会とどうかかわって生きていけばいいのだろうか。自分が自由で、なおかつ社会の中で生きている実感をどうすればえられるのだろうか。一度は考えてみたい。本書は「政治学」とあるが、そんなことを考えさせてくれる名著である。産業社会学部生に是非読んでほしい著書である。

到達目標 / Attainment Objectives

1）テキストの読解と討論の技術の修得
2）テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
3）文献検索の技術の修得
4）論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	自己紹介　テキスト紹介　分担決定
第2回	近代社会はどう変わりつつあるか	近代の流れ　近代の構造
第3回	近代社会はどう変わりつつあるか	変容する近代　自省的近代化
第4回	近代社会はどう変わりつつあるか	ディスカッション
第5回	「第二の近代」とその争点	政治変容の諸相　経済変容の諸相
第6回	「第二の近代」とその争点	地球化のインパクト　「第三の道」とは何か
第7回	「第二の近代」とその争点	ディスカッション
第8回	新しい市民社会論	市民社会論の系譜　ハーバーマスの市民社会論
第9回	新しい市民社会論	ディスカッション
第10回	揺れる市民社会	ポピュリズム　ナショナリズム
第11回	揺れる市民社会	ディスカッション
第12回	討議デモクラシー	行動的市民　コンセンサス会議
第13回	討議デモクラシー	市民陪審制　多段式対話手続き　市民の条件
第14回	討議デモクラシー	ディスカッション
第15回	まとめ	テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）
平常点評価	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3，4回生の演習に向けて、テキストの読解方法、自分の興味あるテーマの発見、文献検索と論文の収集、論文の要約作成など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力が着いていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民の政治学－討議デモクラシーとは何か	篠原一／岩波新書、2004年／／

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェッブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1B）

13379

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しい市民社会論をフォローした入門書（篠原一著『市民の政治学－討議デモクラシーとは何か』岩波新書、2004年）取り上げ、公領域と私的世界を繋ぐデモクラシーのあり方および市民の条件について考えていく。

人は他者とのつながりを切断しては生きていけない。では他者と、いいかえれば社会とどうかかわって生きていけばいいのだろうか。自分が自由で、なおかつ社会の中で生きている実感をどうすればえられるのだろうか。一度は考えてみたい。本書は「政治学」とあるが、そんなことを考えさせてくれる名著である。産業社会学部生に是非読んでほしい著書である。

到達目標 / Attainment Objectives

1）テキストの読解と討論の技術の修得
2）テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
3）文献検索の技術の修得
4）論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	自己紹介　テキスト紹介　分担決定
第2回	近代社会はどう変わりつつあるか	近代の流れ　近代の構造
第3回	近代社会はどう変わりつつあるか	変容する近代　自省的近代化
第4回	近代社会はどう変わりつつあるか	ディスカッション
第5回	「第二の近代」とその争点	政治変容の諸相　経済変容の諸相
第6回	「第二の近代」とその争点	地球化のインパクト　「第三の道」とは何か
第7回	「第二の近代」とその争点	ディスカッション
第8回	新しい市民社会論	市民社会論の系譜　ハーバーマスの市民社会論
第9回	新しい市民社会論	ディスカッション
第10回	揺れる市民社会	ポピュリズム　ナショナリズム
第11回	揺れる市民社会	ディスカッション
第12回	討議デモクラシー	行動的市民　コンセンサス会議
第13回	討議デモクラシー	市民陪審制　多段式対話手続き　市民の条件
第14回	討議デモクラシー	ディスカッション
第15回	まとめ	テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	0 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3，4回生の演習に向けて、テキストの読解方法、自分の興味あるテーマの発見、文献検索と論文の収集、論文の要約作成など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力が着いていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民の政治学－討議デモクラシーとは何か	篠原一／岩波新書、2004年／／

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェッブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1C）

13380

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1D）

13381

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1E）

13382

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1F）

13383

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1G）

13384

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1H）

13385

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (1I)

13386

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な地域まちづくり」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「地域まちづくり」について学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し(レジュメを作成し)3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01:文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「<持続的な社会>を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される(出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「地域再生の条件」	本間義人／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1J）

13387

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な地域まちづくり」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「地域まちづくり」について学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し（レジュメを作成し）3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「地域再生の条件」	本間義人／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1K）

13388

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な地域まちづくり」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「地域まちづくり」について学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し（レジュメを作成し）3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「地域再生の条件」	本間義人／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1L）

13389

担当者名 / Instructor　中川 勝雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な地域まちづくり」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「地域まちづくり」について学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し（レジュメを作成し）3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「地域再生の条件」	本間義人／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1M）

13390

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1N）

13391

担当者名 / Instructor　藤田 悟

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1O）

13392

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1P）

13393

担当者名 / Instructor　藤田 悟

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1Q）

13394

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1R）

13395

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2A）

13397

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか　ー　導入のはなし	（ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう）
第2回	生活の安全・安心（1）	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心（2）	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表　今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識（1）	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第6回	政治と民主主義（1）	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第8回	外交と安全保障（1）	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第10回	スポーツと文化の問題（1）	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第12回	開発とグローバリズム（1）	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第14回	情報とセキュリティ（1）	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ（2）　まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識

6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2B）

13398

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか　ー　導入のはなし	（ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう）
第2回	生活の安全・安心（1）	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心（2）	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表　今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識（1）	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第6回	政治と民主主義（1）	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第8回	外交と安全保障（1）	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第10回	スポーツと文化の問題（1）	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第12回	開発とグローバリズム（1）	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第14回	情報とセキュリティ（1）	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ（2）　まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識

6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2C）

13399

担当者名 / Instructor　登丸 あすか

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2D）

13400

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2E）

13401

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2F）

13402

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2G）

13403

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (2H)

13404

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (2I)

13405

担当者名 / Instructor　平本 毅

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」(景観、芸術、観光、スポーツなど)に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較、また日本の新聞だけではなく、英字新聞も対象として活用するなども行います。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野(景観、芸術、観光、スポーツなど)の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによって下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／2004年
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／1998年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2J）

13406

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較、また日本の新聞だけではなく、英字新聞も対象として活用するなども行います。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによって下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／2004年
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／1998年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2K）

20277

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較、また日本の新聞だけではなく、英字新聞も対象として活用するなども行います。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによって下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／2004年
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／1998年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2L）

13407

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較、また日本の新聞だけではなく、英字新聞も対象として活用するなども行います。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによって下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／2004年
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／1998年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3A)

13411

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ―課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化　（1）身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化　（2）規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化　（3）教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化　（4）競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3B)

13412

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ―課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化　（1）身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化　（2）規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化　（3）教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化　（4）競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3C)

13413

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ―課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化　（1）身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化　（2）規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化　（3）教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化　（4）競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（3D）

13414

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（3E）

13415

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（3F）

13416

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3G)

13417

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3H)

13469

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3I)

16787

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（4A）

13418

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（4B）

13419

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（4C）

13420

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（5A）

13421

担当者名 / Instructor　福嶋 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	[人間福祉専攻]「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2	文献Ⅰ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
3	文献Ⅰ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
4	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
5	文献Ⅰ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
6	文献Ⅰ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
7	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
8	文献Ⅱ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
9	文献Ⅱ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世代モデル、税財源
10	文献Ⅱ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
11	文献Ⅱ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
13	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
14	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
15	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／
『定常型社会』	広井良典／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（5B）

13422

担当者名 / Instructor　北村 健太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	[人間福祉専攻]「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2	文献Ⅰ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
3	文献Ⅰ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
4	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
5	文献Ⅰ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
6	文献Ⅰ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
7	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
8	文献Ⅱ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
9	文献Ⅱ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世代モデル、税財源
10	文献Ⅱ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
11	文献Ⅱ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
13	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
14	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
15	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／
『定常型社会』	広井良典／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（5C）

13423

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	[人間福祉専攻]「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2	文献Ⅰ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
3	文献Ⅰ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
4	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
5	文献Ⅰ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
6	文献Ⅰ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
7	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
8	文献Ⅱ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
9	文献Ⅱ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世代モデル、税財源
10	文献Ⅱ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
11	文献Ⅱ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
13	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
14	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
15	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／
『定常型社会』	広井良典／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（5D）

13424

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得

②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	[人間福祉専攻]「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2	文献Ⅰ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
3	文献Ⅰ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
4	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
5	文献Ⅰ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
6	文献Ⅰ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
7	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
8	文献Ⅱ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
9	文献Ⅱ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世代モデル、税財源
10	文献Ⅱ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
11	文献Ⅱ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
13	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
14	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
15	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／
『定常型社会』	広井良典／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（5E）

13425

担当者名 / Instructor　趙 没名

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	[人間福祉専攻]「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2	文献Ⅰ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
3	文献Ⅰ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
4	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
5	文献Ⅰ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
6	文献Ⅰ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
7	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
8	文献Ⅱ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
9	文献Ⅱ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世代モデル、税財源
10	文献Ⅱ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
11	文献Ⅱ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
13	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
14	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
15	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／
『定常型社会』	広井良典／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5F)

13426

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」(学研)を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,医学誌Webが適している)し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま : 最前線レポート : 連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5G)

13427

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」(学研)を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,医学誌Webが適している)し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま : 最前線レポート : 連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5H)

13428

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」(学研)を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,医学誌Webが適している)し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま : 最前線レポート : 連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5I)

13429

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」(学研)を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,医学誌Webが適している)し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま : 最前線レポート : 連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5J)

13430

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」(学研)を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,医学誌Webが適している)し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま : 最前線レポート : 連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5K)

13431

担当者名 / Instructor　大岡 由佳

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」(学研)を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,医学誌Webが適している)し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま : 最前線レポート : 連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5L)

16794

担当者名 / Instructor　礒部 美也子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」(学研)を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,医学誌Webが適している)し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま : 最前線レポート : 連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5M)

16795

担当者名 / Instructor　鉄川 重利

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」(学研)を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,医学誌Webが適している)し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま : 最前線レポート : 連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1A）

15613

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しい市民社会論をフォローした入門書（篠原一著『市民の政治学－討議デモクラシーとは何か』岩波新書、2004年）取り上げ、公領域と私的世界を繋ぐデモクラシーのあり方および市民の条件について考えていく。

人は他者とのつながりを切断しては生きていけない。では他者と、いいかえれば社会とどうかかわって生きていけばいいのだろうか。自分が自由で、なおかつ社会の中で生きている実感をどうすればえられるのだろうか。一度は考えてみたい。本書は「政治学」とあるが、そんなことを考えさせてくれる名著である。産業社会学部生に是非読んでほしい著書である。

到達目標 / Attainment Objectives

1）テキストの読解と討論の技術の修得
2）テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
3）文献検索の技術の修得
4）論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	自己紹介　テキスト紹介　分担決定
第2回	近代社会はどう変わりつつあるか	近代の流れ　近代の構造
第3回	近代社会はどう変わりつつあるか	変容する近代　自省的近代化
第4回	近代社会はどう変わりつつあるか	ディスカッション
第5回	「第二の近代」とその争点	政治変容の諸相　経済変容の諸相
第6回	「第二の近代」とその争点	地球化のインパクト　「第三の道」とは何か
第7回	「第二の近代」とその争点	ディスカッション
第8回	新しい市民社会論	市民社会論の系譜　ハーバーマスの市民社会論
第9回	新しい市民社会論	ディスカッション
第10回	揺れる市民社会	ポピュリズム　ナショナリズム
第11回	揺れる市民社会	ディスカッション
第12回	討議デモクラシー	行動的市民　コンセンサス会議
第13回	討議デモクラシー	市民陪審制　多段式対話手続き　市民の条件
第14回	討議デモクラシー	ディスカッション
第15回	まとめ	テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3，4回生の演習に向けて、テキストの読解方法、自分の興味あるテーマの発見、文献検索と論文の収集、論文の要約作成など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力が着いていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民の政治学－討議デモクラシーとは何か	篠原一／岩波新書、2004年／／

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェッブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1B）

15614

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しい市民社会論をフォローした入門書（篠原一著『市民の政治学－討議デモクラシーとは何か』岩波新書、2004年）取り上げ、公領域と私的世界を繋ぐデモクラシーのあり方および市民の条件について考えていく。

人は他者とのつながりを切断しては生きていけない。では他者と、いいかえれば社会とどうかかわって生きていけばいいのだろうか。自分が自由で、なおかつ社会の中で生きている実感をどうすればえられるのだろうか。一度は考えてみたい。本書は「政治学」とあるが、そんなことを考えさせてくれる名著である。産業社会学部生に是非読んでほしい著書である。

到達目標 / Attainment Objectives

1）テキストの読解と討論の技術の修得
2）テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
3）文献検索の技術の修得
4）論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	自己紹介　テキスト紹介　分担決定
第2回	近代社会はどう変わりつつあるか	近代の流れ　近代の構造
第3回	近代社会はどう変わりつつあるか	変容する近代　自省的近代化
第4回	近代社会はどう変わりつつあるか	ディスカッション
第5回	「第二の近代」とその争点	政治変容の諸相　経済変容の諸相
第6回	「第二の近代」とその争点	地球化のインパクト　「第三の道」とは何か
第7回	「第二の近代」とその争点	ディスカッション
第8回	新しい市民社会論	市民社会論の系譜　ハーバーマスの市民社会論
第9回	−新しい市民社会論	ディスカッション
第10回	揺れる市民社会	ポピュリズム　ナショナリズム
第11回	揺れる市民社会	ディスカッション
第12回	討議デモクラシー	行動的市民　コンセンサス会議
第13回	討議デモクラシー	市民陪審制　多段式対話手続き　市民の条件
第14回	討議デモクラシー	ディスカッション
第15回	まとめ	テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3，4回生の演習に向けて、テキストの読解方法、自分の興味あるテーマの発見、文献検索と論文の収集、論文の要約作成など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力が着いていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民の政治学－討議デモクラシーとは何か	篠原一／岩波新書、2004年／／

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェッブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1C）

15615

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1D）

15616

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1E）

15617

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1F）

15618

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1G）

15619

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	テキスト第1章　前半（はじめ～23頁）	
3	テキスト第1章　後半（23～38頁）	
4	テキスト第2章　前半（40～56頁）	
5	テキスト第2章　後半（57～68頁）	
6	テキスト第3章	
7	テキスト第4章　前半（88～103頁）	
8	テキスト第4章　後半（103～120頁）	
9	テキスト第5章　前半（122～139頁）	
10	テキスト第5章　後半（139～150頁）	
11	テキスト第6章　152～172頁	
12	テキスト第6章　172～181頁	
13	テキスト第6章　181～最後	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大貧困社会	駒村康平／角川SSC新書／4827550580／

※前期は上記のテキストを使用する。後期については別途指定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／

社会階層―豊かさの中の不平等　　原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1H）

15620

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な地域まちづくり」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「地域まちづくり」について学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し（レジュメを作成し）3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「地域再生の条件」	本間義人／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1I）

15621

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な地域まちづくり」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「地域まちづくり」について学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し（レジュメを作成し）3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「地域再生の条件」	本間義人／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1J）

15622

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な地域まちづくり」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「地域まちづくり」について学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し（レジュメを作成し）3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「地域再生の条件」	本間義人／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1K）

15623

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1L）

15624

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1M）

15625

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1N）

15626

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2A）

15632

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか　ー　導入のはなし	（ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう）
第2回	生活の安全・安心（1）	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心（2）	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表　今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識（1）	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第6回	政治と民主主義（1）	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第8回	外交と安全保障（1）	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第10回	スポーツと文化の問題（1）	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第12回	開発とグローバリズム（1）	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第14回	情報とセキュリティ（1）	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ（2）　まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識

6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2B）

15633

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか　ー　導入のはなし	（ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう）
第2回	生活の安全・安心（1）	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心（2）	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表　今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識（1）	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第6回	政治と民主主義（1）	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第8回	外交と安全保障（1）	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第10回	スポーツと文化の問題（1）	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第12回	開発とグローバリズム（1）	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第14回	情報とセキュリティ（1）	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ（2）　まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識

6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2C）

15634

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか　ー　導入のはなし	（ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう）
第2回	生活の安全・安心（1）	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心（2）	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表　今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識（1）	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第6回	政治と民主主義（1）	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第8回	外交と安全保障（1）	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第10回	スポーツと文化の問題（1）	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第12回	開発とグローバリズム（1）	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第14回	情報とセキュリティ（1）	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ（2）　まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識

6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2D）

15635

担当者名 / Instructor　高井 昌吏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか　ー　導入のはなし	（ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう）
第2回	生活の安全・安心（1）	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心（2）	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表　今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識（1）	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第6回	政治と民主主義（1）	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第8回	外交と安全保障（1）	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第10回	スポーツと文化の問題（1）	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第12回	開発とグローバリズム（1）	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第14回	情報とセキュリティ（1）	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ（2）　まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識

6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2E）

15636

担当者名 / Instructor　高井 昌吏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか　ー　導入のはなし	（ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう）
第2回	生活の安全・安心（1）	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心（2）	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表　今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識（1）	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第6回	政治と民主主義（1）	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第8回	外交と安全保障（1）	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第10回	スポーツと文化の問題（1）	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第12回	開発とグローバリズム（1）	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第14回	情報とセキュリティ（1）	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ（2）　まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識

6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2F）

15637

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか　ー　導入のはなし	（ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう）
第2回	生活の安全・安心（1）	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心（2）	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表　今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識（1）	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第6回	政治と民主主義（1）	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第8回	外交と安全保障（1）	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第10回	スポーツと文化の問題（1）	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第12回	開発とグローバリズム（1）	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第14回	情報とセキュリティ（1）	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ（2）　まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識

6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2G）

15638

担当者名 / Instructor　高井 昌吏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか　ー　導入のはなし	（ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう）
第2回	生活の安全・安心（1）	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心（2）	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表　今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識（1）	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第6回	政治と民主主義（1）	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第8回	外交と安全保障（1）	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第10回	スポーツと文化の問題（1）	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第12回	開発とグローバリズム（1）	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム（2）	（リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション）
第14回	情報とセキュリティ（1）	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ（2）　まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識

6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2H）

15639

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA (2I)

15640

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2J）

15641

担当者名 / Instructor　松田 亜希

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2K）

15642

担当者名 / Instructor　登丸 あすか

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2L）

15643

担当者名 / Instructor　登丸 あすか

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

獲得すべき力は、「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけるところにあります。新聞には記事はもちろん、社説や読者投稿（オピニオン）、広告表現などさまざまな表現が含まれています。そうした表現について学びつつ、自らもそれらを読み、分析し、あるいは作成したり投稿したりというプロセスを通じて、読み解く能力とアクティブにメディアに参加する態度を養うことを目指します。具体的には、例えば新聞に載っている記事や社説、読者からの投稿をもとに、そのメッセージの概要や内容、意図などをつかみ、互いに議論しながら、今度は自分たちなりの実践を行ってみるということなどが考えられます。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を使いながら、文章読解、文章表現、社会への視点、社会への発信について学びつつ、自らの実践というプロセスを通じ、分析する力とメディアに対してアクティブに関わる態度と技術を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と到達目標の説明	新聞とはどのようなメディアか
2	新聞記事を読み、自分の関心とのつながりを考える	新聞を体感する
3	新聞記事を読み、記事内容を分析する1	記事分析
4	新聞記事を読み、記事内容を分析する2	記事分析と討論
5	社説を読み比べる	社説とは何か
6	社説を読む	社説の要約
7	社説を分析する	社説の図解
8	社説を多角的に読み解く	社説を発展させる
9	読者投稿1	読者投稿とは何か
10	読者投稿2	読者投稿の実践
11	新聞作成1	新聞作成の概要説明・記事作成時の注意
12	新聞作成2	取材方法の説明
13	新聞作成3	原稿作成・編集作業
14	新聞作成4	原稿作成・編集作業
15	新聞の発表とコメント	完成新聞のプレゼンと評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞を日常的なメディアとする。どんな形でもよいので、新聞に接する。
新聞を通じて、自分の関心の発見をい行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、今日的問題についてのレポートをまとめ提出する。
平常点評価	50 %	新聞内容分析、社説分析、読者投稿、新聞作成などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著／平凡社／／2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘／ほるぷ出版／／1994年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2M）

15644

担当者名 / Instructor　梁 仁實

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較、また日本の新聞だけではなく、英字新聞も対象として活用するなども行います。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによって下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／2004年
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／1998年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2N）

15645

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較、また日本の新聞だけではなく、英字新聞も対象として活用するなども行います。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによって下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／2004年
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／1998年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2O）

15646

担当者名 / Instructor　平本 毅

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較、また日本の新聞だけではなく、英字新聞も対象として活用するなども行います。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによって下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／2004年
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／1998年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2P）

15679

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較、また日本の新聞だけではなく、英字新聞も対象として活用するなども行います。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによって下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／2004年
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／1998年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2Q）

16777

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較、また日本の新聞だけではなく、英字新聞も対象として活用するなども行います。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによって下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／2004年
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／1998年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2R）

16778

担当者名 / Instructor　平本 毅

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較、また日本の新聞だけではなく、英字新聞も対象として活用するなども行います。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによって下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／2004年
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／1998年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3A）

15647

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ―課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化　（1）身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化　（2）規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化　（3）教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化　（4）競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3B）

15648

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ―課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化　（1）身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化　（2）規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化　（3）教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化　（4）競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3C）

15649

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ―課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化　（1）身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化　（2）規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化　（3）教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化　（4）競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA (3D)

15650

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ―課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化　（1）身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化　（2）規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化　（3）教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化　（4）競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3E）

15651

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ―課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化　（1）身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化　（2）規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化　（3）教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化　（4）競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3F）

15652

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3G）

15653

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3H）

16788

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA (3I)

16789

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4A）

15654

担当者名 / Instructor　伊藤 隆司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4B）

15660

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4C）

15661

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4D）

15671

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4E）

15672

担当者名 / Instructor　藤田 悟

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4F）

15673

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5A）

15662

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	[人間福祉専攻]「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2	文献Ⅰ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
3	文献Ⅰ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
4	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
5	文献Ⅰ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
6	文献Ⅰ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
7	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
8	文献Ⅱ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
9	文献Ⅱ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世代モデル、税財源
10	文献Ⅱ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
11	文献Ⅱ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
13	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
14	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
15	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／
『定常型社会』	広井良典／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5B）

20293

担当者名 / Instructor　前田 信彦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	[人間福祉専攻]「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2	文献Ⅰ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
3	文献Ⅰ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
4	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
5	文献Ⅰ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
6	文献Ⅰ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
7	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
8	文献Ⅱ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
9	文献Ⅱ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世代モデル、税財源
10	文献Ⅱ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
11	文献Ⅱ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
13	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
14	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
15	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／
『定常型社会』	広井良典／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5C）

15663

担当者名 / Instructor　趙 没名

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	[人間福祉専攻]「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2	文献Ⅰ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
3	文献Ⅰ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
4	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
5	文献Ⅰ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
6	文献Ⅰ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
7	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
8	文献Ⅱ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
9	文献Ⅱ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世代モデル、税財源
10	文献Ⅱ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
11	文献Ⅱ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
13	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
14	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
15	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／
『定常型社会』	広井良典／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5D）

15664

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」（学研）を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

（1）発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
（2）テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入：授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索（論文検索はCiNii,医学誌Webが適している）し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま：最前線レポート：連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5E）

20294

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」（学研）を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

（1）発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
（2）テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入：授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索（論文検索はCiNii,医学誌Webが適している）し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま：最前線レポート：連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5F）

15665

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」（学研）を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

（1）発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
（2）テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入：授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索（論文検索はCiNii,医学誌Webが適している）し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま：最前線レポート：連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5G）

20295

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」（学研）を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

（1）発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
（2）テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入：授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索（論文検索はCiNii,医学誌Webが適している）し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま：最前線レポート：連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5H）

15666

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、杉山登志郎著「こども虐待という第四の発達障害」（学研）を用いる。
2. 授業6回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。第15回目においては、反省と相互評価を行い、その結果に関し各自レポートを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入，そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として6週。それ以外に、教員の側から、2週程度、子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読や解析を行う。情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに，後半は、5班に分け、班単位で、子どもや若者の発達に関するテーマを定めたプレゼンテーションを5週行う。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

（1）発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
（2）テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入：授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	子育て　社会　発達障害の分類
3	購読第2回　第2章・第3章	反応性愛着障害　トラウマ　解離
4	購読第3回　第4章・第5章	
5	第6章・第7章	
6	第8章・第9章	
7	第10章・第11章	
8	発達障害や発達保障に関する研究や文献購読　後半の班構成と学習テーマ設定	発達心理　発達障害　発達保障
9	虐待や解離性障害に関する研究や文献購読	虐待　解離性障害
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索（論文検索はCiNii,医学誌Webが適している）し、豊かなテキスト内容の報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントを、毎回提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「こども虐待という第四の発達障害」	杉山登志郎／学研／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
愛着臨床と子ども虐待	藤岡 孝志／ミネルヴァ書房／／2008　虐待
児童虐待はいま：最前線レポート：連携システムの構築に向けて	津崎哲郎, 橋本和明／ミネルヴァ書房／／2008　虐待

マルトリートメント子ども虐待対応ガイド	ジョン・E・B・マイヤーズ 他／明石書店／／2008　虐待
児童虐待のポリティクス：「こころ」の問題から「社会」の問題へ	上野加代子／明石書店／／2006　虐待
発達障害当事者研究：ゆっくりていねいにつながりたい	綾屋紗月, 熊谷晋一郎／医学書院／／2008　発達障害
発達障害の基本理解：子どもの将来を見据えた支援のために	山崎晃資, 宮﨑英憲, 須田初枝／金子書房／／2008　発達障害
解離する子どもたち：ちぎれた心をつなぐ治療	リンダ・シラー著；ハリス淳子訳／明石書店／／2008　解離
解離：若年期における病理と治療	フランク・W.パトナム著中井久夫訳／みすず書房／／2001　解離

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（1A）

14523

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（1B）

14524

担当者名 / Instructor　菊地 真理

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（1C）

14525

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (1D)

14526

担当者名 / Instructor　國廣 敏文

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（1E）

14527

担当者名 / Instructor　櫻井 純理

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（1F）

14528

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（1G）

14529

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (1H)

14530

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (1I)

14531

担当者名 / Instructor　石本 幸良

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (1J)

14532

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（1K）

14533

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（1L）

14534

担当者名 / Instructor　中川 勝雄

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (1M)

14535

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（1N）

14536

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（1O）

14537

担当者名 / Instructor　佐々木 嬉代三

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (1P)

14538

担当者名 / Instructor　佐藤 春吉

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (1Q)

14539

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (1R)

14540

担当者名 / Instructor　仲井 邦佳

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 1S

本文無し

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (1T)

14542

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (1U)

14543

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (AA)

14544

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（AB）

14545

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (AC)

14546

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (AD)

14547

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 AE

本文無し

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（AF）

14549

担当者名 / Instructor　吉田 幸治

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (2A)

14583

担当者名 / Instructor　魚住 真司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (2B)

14584

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (2C)

14585

担当者名 / Instructor　松田 士朗

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (2D)

14586

担当者名 / Instructor　鵜飼 大介

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (2E)

14587

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（2F）

14588

担当者名 / Instructor　松田 亜希

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習Ⅱではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (2G)

14589

担当者名 / Instructor　村瀬 敬子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (2H)

14590

担当者名 / Instructor　梁 仁實

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BA)

14591

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BB)

14592

担当者名 / Instructor　小泉 秀昭

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BC)

14593

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BD)

14594

担当者名 / Instructor　松島 京

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BE)

14595

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BF)

14596

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BG)

14597

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BH)

14598

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BI)

14599

担当者名 / Instructor　赤井 正二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BJ)

14600

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BK)

14601

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BL)

14602

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (BM)

14603

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (3A)

14556

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (3B)

14557

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (3C)

14558

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (3D)

14559

担当者名 / Instructor　金井 淳二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 3E

本文無し

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (3F)

14561

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (CA)

14562

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (CB)

14563

担当者名 / Instructor　石田 智巳

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (CC)

14564

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（CD）

14565

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (CE)

14566

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (DA)

14550

担当者名 / Instructor　伊藤 隆司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (DB)

14551

担当者名 / Instructor　小原 豊

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (DC)

14552

担当者名 / Instructor　笹野 恵理子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (DD)

14553

担当者名 / Instructor　中山 一樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (DE)

14554

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (DF)

14555

担当者名 / Instructor　山下 芳樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5A)

14567

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5B)

14568

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5C)

14569

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5D)

14570

担当者名 / Instructor　高垣 忠一郎

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5E)

14571

担当者名 / Instructor　村本 邦子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5F)

14572

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5G)

14573

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5H)

14574

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5I)

14575

担当者名 / Instructor　植田 章

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5J)

14576

担当者名 / Instructor　津止 正敏

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (5K)

14577

担当者名 / Instructor　久保 佐世

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習（5L）

14578

担当者名 / Instructor　松田 亮三

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (EA)

14579

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (EB)

14580

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (EC)

14581

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門演習 (ED)

14582

担当者名 / Instructor　高橋 正人、松田 亮三

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導もさることながら、むしろゼミ生には個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究が求められ、その蓄積された研究成果は発表と討議を通じ、最終的にレポートや論文などの形で成果物として社会化されることになります。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊演習ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点評価	50 %	＊日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

アジア社会論 (S)

15697

担当者名 / Instructor　宋 基燦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本による植民地統治の記憶にまつわる両国の近現代史は、地理的に最も近い国でありながら、心理的には距離を縮めることのできない関係を作り続けてきた。近年、日本国内における「韓流」の流行は、このような日韓関係に変化をもたらしている。また、韓国内部でも日本の大衆文化開放後、若者を中心に日本の大衆文化の影響力は強まっている。この授業はこのように激変している日韓両国の関係の中で、日本の隣の国、韓国の今日を理解することを通じて日本の東アジアとの付き合い方を考えてみることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

・現代韓国に関するを理解と関連知識を習得する。
・グローバル化が進んでいるなかで、韓国の現在を通じて東アジアの未来を展望する。
・「平和」について現実的な感覚を育てる。
・異文化理解の視野を広げ、さらに自分の文化を相対化して考えることができる訓練をする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	授業の進め方
第 2回	異文化を研究することの意味。	文化相対主義の視座 「国民性」という本質主義を越えて
第 3回	朝鮮半島の地理的概観	自然地理・人文地理・地政学的特徴
第 4回	植民地の記憶と朝鮮半島	
第 5回	朝鮮戦争の記憶と韓国社会	
第 6回	南北分断の理解1	関連映画を視聴し、討論
第 7回	南北分断の理解1	関連映画を視聴し、討論
第 8回	戦争と反共主義と韓国のキリスト教	韓国の宗教事情 親米と反米の狭間で
第 9回	二つの戦争；朝鮮戦争とベトナム戦争1	関連映画を視聴し、討論
第 10回	二つの戦争；朝鮮戦争とベトナム戦争2	関連映画を視聴し、討論
第 11回	韓国の民主化運動の歴史	
第 12回	民主化と経済危機、新自由主義の陰	
第 13回	李明博大統領以後の韓国の展望	
第 14回	東アジアの未来に向けて、東アジア共同体は可能なのか	
第 15回	まとめおよび確認テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進行上、細部項目は変更されることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1. 授業内容に関する具体的知識を問う簡単なテストを最終講義日に行う。 2. 毎回の授業後、受講生が出すコミュニケーションペーパ、出席状況および討論への参加態度などをもとに総合的に判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、講義による一方的な知識の伝達だけにはあまり意味を置かない。授業では、講義の内容として映像資料、映画などを観ることが多い。それらをもとに一緒に考えてみたり、討論を行ったりするのが、この授業の進め方である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代韓国を知るための55章	石坂浩一、舘野晳／明石書店／／
朝鮮を知る事典	伊藤亜人他監修 ／平凡社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

アジア文化論 (S)

13455

担当者名 / Instructor　文 楚雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較しながら、その同質性や異質性を考えることにしたい。この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

◎ 中国、韓国を中心としたアジアの国々の文化に対する理解を深めることができる。
◎ 日本文化に対する再認識を深めることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化とは何か。視点や方法。文化・文明の衝突。	
第2回	日本人・中国人・韓国人の国民性	
第3回	儒教文化とその伝承	
第4回	言語と文化 ――日本語、中国語、英語の比較から――	
第5回	婚姻法から見た儒教思想	
第6回	文学から見た文化――平家物語を中心に――	
第7回	道教・神道・禅	
第8回	日・中・韓の食文化とマナー	
第9回	住まい文化	
第10回	仏教文化	
第11回	本学の留学生との交流	
第12回	金閣寺と銀閣寺	
第13回	祭りの文化	
第14回	スポーツの文化	
第15回	日・中・韓文化の特徴	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終レポートを提出しなければならない。
平常点評価	40 %	出席や日常的な取り組み

期末の最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリント教材、授業時随時配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代中国の生活変動』	飯田哲也編／時潮社／／
『韓国人の心』	李御寧／学生社／／
『日本人・中国人・韓国人』	金文学　／白帝社／／

現代の中国、韓国を知るにはたいへん役に立つ。教科書並みの参考書となる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

エスニシティ論（S）

15699

担当者名 / Instructor　原尻 英樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アメリカと日本のコリアタウンの比較を通して、アメリカと日本の近代国民国家としての普遍性と各国民国家の特殊性を明らかにし、そこにおける「民族」のもつ意味（エスニシティ）について考察する。さらに、今日のグローバリゼーションの状況のなかで、以上の近代性がどのように変容しつつあるのかを記述・分析し、現代世界におけるエスニシティへのアプローチの方法的有効性を検証する。方法論的には、エスニック・スタディーズ、カルチュラル・スタディーズ、ポストコロニアル・スタディーズ、それにグローバリゼーション・スタディーズ、これらを相対化して、新たな方法論の地平を模索するが、特に、フィールドワークによるミクロ・アプローチと、東アジア・太平洋を含む世界全体の構造変化を分析するマクロ・アプローチとを関係づける。さらに、これらの基礎的研究を基にして、多文化共生社会に向けての認識方法、倫理観、実践論を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）エスニシティの普遍的意味を日本の現実との関連で理解すること。

（2）エスニシティに関わる多文化共生社会の可能性を考え、そしてその実現に向けて実践すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「文化人類学入門」、「比較文化論」、「文化人類学」であるが、「エスニシティ」履修後に、これらの三科目を履修することも可能である。これら四つの科目によって、文化人類学についての基本的知識と考え方が修得可能となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	東アジアの前近代における朝鮮半島からの移動（総説）、火田民と海人	前近代、移動、焼畑、海人
2	東アジアの近代における朝鮮半島からの移動（総説）	近代、植民地主義、大量移動
3	日本の植民地主義と朝鮮半島からの移動	強制移住、ダブルバインド、ねじれた形での社会上昇
4	近代国民国家・大韓民国からの移動：アメリカと中国	アメリカンドリーム、中国での投資、グローバル・ファミリー
5	ハワイのコリアン：「アメリカン・コリアン」とHanguk-saram	写真結婚、旧移民と新移民、誰が韓国人か？
6	モダン／ポストモダン都市、ロサンジェルスのコリアタウン：コリアン、ラティーノ、黒人	コリアンとラティーノ、黒人との関係、コリアンドリームと両班意識
7	大阪・生野のコリアタウン：済州島から在日コリアンへの過程	〇〇ムラビトー済州島人ー在日コリアン、日本人意識の形成過程
8	川崎のコリアタウン構想：地域おこしのためのエスニック・タウン	行政の介入、地域社会とは何か？、コリアタウンの表象
9	日米のコリアタウンと国民国家システム：国民国家とエスニシティ	国民国家、エスニシティ
10	コリアンアメリカンとアメリカの人種・民族カテゴリー	「民族」と「人種」のカテゴリー
11	1992年4月29日　ロス暴動：コンフリクトの実像	コンフリクト、マスメディア
12	民族と学校教育：創られる「民族」	「民族学校」、エスニック or 民族、国民教育と民族教育
13	グローバリゼーションのなかのコリアン：境界を越える認識方法	ネットワーク、虹のイメージ、我からわれわれへ
14	新たな関係性を求めて①	他者認識と自己認識、倫理性、人であることの意味
15	新たな関係性を求めて②	構え、関係性、作法

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

教科書及び配布プリントの読書を中心として、その他参考文献の読書。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業と教科書等の内容の理解度及びそれについての自らの批判的考察。
平常点評価	30 %	リアクション・ペーパー（抜き打ち）数回提出。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業はひとつの刺激です。もちろん、上記の授業目標を達成することも重要ですが、それに加えて、例えば、フィールドワーク、アメリカ研究、韓国・朝鮮研究、近現代史等に関心を広げることも可能ですので、この授業をひとつの刺激にして、自らの可能性を発掘・発展させてください。授業中に様々な参考文献を紹介します。また、質問をドシドシしてください。

「求めよさらば与えられん」です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
コリアンタウンの民族誌	原尻英樹／ちくま新書／／教室で配布（割引料金600円）

上記の教科書は絶版なので、教室で配布します（割引料金で一冊600円）。これは基本的文献ですので、この本を補うためのプリントを何回か配布します。

参考書 / Reference Books

参考書、参考文献は、随時、授業時に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

NPO・NGO論（S）

13284

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを1-2回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO——政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②——NGOでの職員の働き方を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係——「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として——	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係——アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として——	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO——地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から——	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度——1998年のNPO法成立の背景から——	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化——NPOの介護保険制度への参入を事例として——	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較——Linuxの成功から——	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発——パブリックリソースセンターの取り組みから——	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「F」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など
②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/

その他 / Others

家族社会学 (S)

13330

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、自分の家族関係を含む現代の家族変動の趨勢を客観化し、批判的に読み解くことを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	家族研究の課題	家族の定義
第2回	家族社会学史①	ライフサイクル　ライフコース　ライフスタイル
第3回	家族社会学史②	パーソンズ　近代家族　社会システム
第4回	「近代家族」以前の家族	伝統家族　直系家族　親族
第5回	「近代家族」の成立	アリエス、子ども、主婦、母性愛
第6回	日本における「近代家族」の成立	戸籍制度、専業主婦、企業戦士、性別役割分業、夫婦別姓
第7回	「近代家族」と結婚①	宮廷恋愛、恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー
第8回	「近代家族」と結婚②	未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望
第9回	「近代家族」の病理	デートDV、恋愛依存症、共依存
第10回	「近代家族」の病理②	閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待
第11回	「近代家族」のゆらぎ①　結婚をめぐる変化	離婚　再婚　同性婚、ドメスティック・パートナー法
第12回	「近代家族」のゆらぎ②　子育ての「社会化」	育児休業制度　パパ・クォータ制
第13回	「近代家族」のゆらぎ③　介護の「社会化」	介護保険制度、遠距離介護、男性介護者
第14回	「近代家族」のゆらぎ④　生殖技術	生殖技術、不妊
第15回	私たちがつくるこれからの家族	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事件、映画、小説といった家族に関するトピックスを意識的にチェックすること。講義の理解を深めるために、講義で関連する参考文献を適宜提示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
平常点評価	50 %	講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメについては、WebCTにおいて公開する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
迷走する家族	山田昌弘／有斐閣／4641173125 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

環境教育論（S）

15702

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

温室効果ガス削減対策、気候変動の影響に対する適応策に関連して、市民向け環境教育の基礎的な知識を学ぶ。
環境教育のなかで、気候変動・温暖化がどのように取り上げられてきたか、市民向け環境教育プログラムの事例について学ぶ。市民レベル、地域自治体レベルで取り組める気候変動対策、気候変動に対する適応策を学ぶ。
授業中に数回の小レポートを実施し、到達度を確認する。

到達目標 / Attainment Objectives

目標
温室効果ガス削減対策、気候変動の影響に対する適応策に関連して、市民向け環境教育の基礎的な知識を学ぶ。
環境教育のなかで、気候変動・温暖化がどのように取り上げられてきたか、市民向け環境教育プログラムの事例について学ぶ。市民レベル、地域自治体レベルで取り組める気候変動対策、気候変動に対する適応策を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	気候変動に関するニュースおよびビデオ。気候変動に関する温室効果ガス削減対策と適応策の概略	
2	温暖化の基礎知識1 （気温上昇予測、海面上昇予測、北極・南極の氷の減少予測）	
3	温暖化の基礎知識2 （水資源への影響予測、食料農産物生産への影響予測、水産資源への影響予測、生態系への影響予測、洪水被害予測、干ばつ被害予測）	
4	EUと日本における気候変動に関する市民啓発プログラムの比較：小レポート①	
5	温室効果ガス削減をめぐる温室効果ガス濃度安定化とemission pathways(削減経路),削減の量と時期の条件、先進国の削減責任。	
6	温室効果ガス削減対策と環境教育1 （再生可能エネルギー教育）	
7	温室効果ガス削減対策と環境教育2 （交通部門の対策と建築部門、省エネ対策）	
8	温室効果ガス削減策に関する環境教育の比較（EUと日本）、小レポート②	
9	日本の学校教育カリキュラムにおける環境教育の歴史：中学校および高校における学習指導要領と環境教育、温暖化問題の位置づけ	
10	自治体における温暖化対策と環境教育1：自治体における再生可能エネルギーの普及政策、省エネ対策	
11	自治体における温暖化対策と環境教育2：自治体における市民啓発の取り組み	
12	環境NGOにおける温暖化対策と温暖化教育： 主な環境NGO，環境NGOによる温暖化キャンペーンの事例、NGOの役割。	
13	気候変動災害と防災教育：洪水と熱波に関する防災対策および防災教育の事例（EU、日本、アメリカ）	
14	ビデオおよび海外の気候変動災害に関するニュース、小レポート③	
15	講義のまとめ、環境教育における気候変動対策の教育の役割について、小レポート④ （単位取得を希望するものは、必ず最終の小レポートを受けること）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義中に数回の小レポートを実施する。これを提出すること。

単位取得を希望する学生は、必ず、最終講義における小レポートを受けること。単位取得を希望するものは、必ず、最終の小レポートを受ける必要がある。
就職活動などで、最終の小レポートを授業中に提出することができないものは、事前に申し出て、別途、期限内にレポートを提出すること。
評価方法は、平常点100%（講義中に課す小レポートにより評価する。提出できなかったものは、授業中に指定する期限内に、代わりのレポートを提出しなければならない。）

就職活動などで、最終の小レポートを授業中に提出することができないものは、事前に申し出て、別途、期限内にレポートを提出すること。
評価方法は、平常点100%（講義中に課す小レポートにより評価する。提出できなかったものは、授業中に指定する期限内に、代わりのレポートを提出しなければならない。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に配布する英文資料について、自分で読めるようにすること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「環境展望」Vol.3,　Vol.4,　Vol.5。	日本科学者会議公害環境問題研究委員会／実教出版／／
、「市民・地域が進める地球温暖化防止」	和田武・田浦健朗／学芸出版社／／
Change: How can you control climate change?	／／／
Carbon calculator (http://www.mycarbonfootprint.eu/)	／／／
「飛躍するドイツの再生可能エネルギー―地球温暖化防止と持続可能社会構築をめざして」	和田武／世界思想社／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

UNFCCC，IPCC、国立環境研究所、環境省の気候変動に関するサイト。

その他 / Others

環境経済学（S）

15701

担当者名 / Instructor　知足 章宏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

大気汚染、水汚染、廃棄物問題、地球温暖化など、世界中で様々な環境問題が深刻化しているなか、環境と経済システムの関係を再考し、適切な環境政策を確立していくことが益々重要になっている。本講義では、特に政治経済学的アプローチからサステイナブル・エコノミー実現のための新たな環境経済政策の確立に向けた展望・課題を考究する。
講義序盤では、環境経済学・環境政策の基礎的概念について概説する。その後、様々な環境問題と環境政策の展開、課題について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・環境経済学の基礎的概念を理解し、環境政策の意義と問題点について理解する。
・環境問題を取り巻く日本の政策の問題点を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要とイントロダクション	講義の視点と目的，評価方法
2	環境経済学概説 I	
3	環境経済学概説 II	
4	環境政策の基本手法	直接規制，税・課徴金，補助金
5	エネルギー政策	エネルギー，原子力，地球温暖化
6	鉱工業政策	公害，鉱工業，環境保全型生産システム
7	都市政策	都市問題，サステイナブル・シティ
8	交通政策	大気汚染，税・財政政策，社会的費用
9	廃棄物政策	ごみ処理，発生抑制インセンティブ，不法投棄
10	森林政策	森林資源，林政
11	海洋環境政策	海洋汚染，海洋環境問題
12	環境政策と技術革新	ポーター仮説，環境規制，技術開発
13	環境保全を促進する貿易政策	環境貿易措置，WTO
14	税財政のグリーン改革	環境税，タックス・シフト，補助金改革
15	講義の総括	各講義のポイント，重要用語の復習

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	重要用語の適切な理解を問う問題（50点満点）と論述式の問題（50点満点）である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい環境経済政策	寺西俊一編／東洋経済新報社／4-492-31327-3／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境経済・政策学の基礎知識	環境経済・政策学会編／有斐閣／4-641-18333-3／
地球環境保全への途	寺西俊一・大島堅一・井上真編／有斐閣／4-641-28101-7／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

環境形成論（S）

13479

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「持続可能な社会」とは何か？いかにして創造しうるのか？「持続可能な社会」構築のためには「空間づくり」「ひとづくり」「関係づくり」を同時に進めていく必要がある。本講座ではランドスケープ・デザインや緑地生態学などが蓄積してきた「空間づくり」の技術や知見、そして教育学、社会学、心理学が蓄積してきた「ひとづくり」「関係づくり」に関する知見を押さえつつ、国内外で展開されている「持続可能な社会」を探求する試みからその様々なイメージを把握し、「持続可能な環境」形成に必要となるプロセス、空間デザインやコミュニケーションの作法を探り、共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）「聴く」「眺める」「表現する」ことを駆使して授業に積極的に参加することの楽しさを体感する。
（2）自分の考えを持つこと、他者の考えを知ること、その上でやりとりすることの楽しさや効果を体感する。
（3）「持続可能な環境、社会って何ですか？」と問われた時に、自分の考えを整理して披露できる。
（4）他者と「持続可能な環境、社会とは何か？」を巡って意見交換ができ、その結果、自分が持っていた考えよりもさらに深い発想や新たな疑問に到達することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

後期に実施される「ネットワーク論」、「参加のデザイン論」、「景観デザイン論」と併せて履修すると持続可能な環境や地域社会が「ひとづくり」「関係づくり」「空間（計画）づくり」の3つを同時に満たす必要があることを深く理解できます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　持続可能な環境や地域社会とは何か？	講義の目的と進め方ならびに成績評価方法についての説明、「持続可能な社会」が求められている背景
第2回	持続可能な環境を形成する試みと作法（入門編）　その1	ステークホルダー間の合意形成（事例：京都市ちびっこ広場再生計画）
第3回	持続可能な環境を形成する試みと作法（入門編）　その2	空間のネットワークと交通システム（事例：尼崎市せせらぎの道計画）
第4回	持続可能な環境を形成する試みと作法（入門編）　その3	環境と経済の融合（事例：大分市府内五番商店街再生計画）
第5回	持続可能な環境を形成する試みと作法（入門編）　その4	地産地消と環境的公正（事例：エディブル・スクールヤード計画）
第6回	持続的な環境を形成する作法と技術の源流　その1	空間学からのアプローチ（サイトアナリシス、利用行動調査）
第7回	持続可能な環境を形成する作法と技術の源流　その2	コミュニティ・デザインからのアプローチ（15のステップ、ワークショップ）
第8回	持続可能な環境を形成する作法と技術の源流　その3	教育学・心理学・社会学からのアプローチ（グループ・カウンセリング、アクション・リサーチ）
第9回	持続可能な環境を形成する試みと作法（チャレンジ編）　その1	排除とソーシャル・インクルージョン（事例：釜ヶ崎の再生プロセス）
第10回	持続可能な環境を形成する試みと作法（チャレンジ編）　その2	共生のためのオルタナティブ（事例：公園とホームレス問題）
第11回	持続可能な環境を形成する試みと作法（チャレンジ編）　その3	流域保全におけるオルタナティブ（事例：脱ダムと緑のダム、吉野川第十堰保全代替案づくり）
第12回	持続可能な環境を形成する試みと作法（チャレンジ編）　その4	地域づくりのオルタナティブ（事例：環境基本計画、持続可能な開発のための教育）
第13回	持続可能な環境を形成するための仕組み　その1	行政と市民のパートナーシップ、市民参画による政策作成と推進
第14回	持続可能な環境を形成するための仕組み　その2	事業者と行政・市民とのパートナーシップ、企業の社会的責任（CSR）
第15回	検証テストの実施とこれまでの講義のふりかえり	持続可能な環境を目指して「その課題と展望」

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、各回テーマに関する「お題」を講師が出し、受講者には所定の用紙に受講者自身の考えを記入してもらう。それを講師が毎回3段階「良・可・不可」で評価し、各回の参加度、習熟度を量る。欠席や用紙未提出の場合は「不可」とみなす。「不可」が連続3回続いた場合、もしくは最終回を除く14回のうち「不可」が合計7回ついた場合には単位を認められず、最終回の「検証テ

スト」の受験資格も失う。逆に14回全て「不可」以外の評価でも、最終回の「検証テスト」で「不可」が付いた場合には、単位は認められない。最終回の「検証テスト」では、講座の全体テーマに関わる「お題」を講師から出し、A4用紙1枚程度の小リポートを提出してもらう。論理構成、オリジナリティーの観点から講師が「良・可・不可」で評価する。「検証テスト」が「不可」の場合、「日常的な授業に対する取り組み状況等の評価」の如何に関わらず、単位は認められない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「持続可能な環境形成の作法」としての「聴く」「眺める」「表現する」ことの大切さや有効性を講義の中で紹介していきますが、この講義に参加する作法としても「聴く」「眺める」「表現する」ことを大切にし、講師からだけでなく受講者同士互いに学び合う姿勢を大事にしたいと思います。「表現する」とは、コミュニケーションの基本であり、議論や合意形成をしていくプロセスを「見えるようにする」技法、そして「思いをカタチにする」技法です。授業の中でもフリップに意見や絵、図をかいてもらい皆で眺める参加型授業を展開しますので、「聴く」「眺める」「表現する」練習の機会として利用して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。適宜、レジュメを配布したり参考書を紹介したりします。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

環境ライフスタイル論（S） § 消費者環境論（S）

13373

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：　気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動（climate change、温暖化）が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。

・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。

・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。

・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia　に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。

・消費者部門から発生する環境負荷のついて、基礎的知識を獲得する。

・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。

気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース.とビデオ。	気候変動と温室効果ガス削減対策、環境教育、環境社会学、消費者教育
2	気候変動の現状に関する海外DVDおよびニュース：　An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	温室効果ガス、放射強制力、climate inertia
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	放射強制力、温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia。海洋における熱エネルギーの蓄積。 重要なthresholds。「危険な気候変動」。2℃上昇のリスク
4	温室効果ガス排出削減パス、必要な排出削減量	温度2℃上昇、3℃上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇リスク。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。先進国と途上国の責任分担
5	京都議定書および主要国の温室効果ガス排出状況	主要国の温室効果ガス排出状況、UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。主要国の温室効果ガス削減目標値、ポスト京都議定書をめぐる議論の要点
6	気候変動の消費者生活への影響	熱波、洪水、台風、高潮の影響。熱波マニュアルについて（イギリスの熱波警報システム（Heat-Health-Watch）、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか。洪水被害の実態ととEUにおける洪水対策。
7	消費者向け温室効果ガス削減対策、その1：	住宅における断熱性能の改善。省エネ性能住宅。
8	消費者向け温室効果ガス削減対策、その2：製品の環境ラベル	家電製品に関する省エネラベルの役割、各種の環境配慮製品の環境ラベルの制度、EUエコラベル。エコマーク、エコリーフの読み方。
9	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入の意味	風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。欧州における再生可能エネルギー産業の成長。住民による再生可能エネルギーの導入例。
10	EUにおける気候保全対策と家庭向けプログラム	EUの再生可能エネルギー目標、EUの温室効果ガス削減目標、家庭向けの削減対策、住宅の省エネ断熱性能改善の取り組み。EUの環境教育における温室効果ガス削減の教育
11	交通部門における温室効果ガス削減策。	EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。

12	食料自給率と気候変動	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率、フードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。
13	温暖化対策における消費者教育の重要性	消費者政策、消費者教育、温暖化に関するEUの消費者教育プログラムの検討
14	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む	海外のメディアが伝える気候変動と温室効果ガス削減対策に関するニュースをよむ。授業中に、各自、最低一つは読んで、分析を行う。
15	講義を振り返り、質疑応答を行う。小レポートについて、コメントする。 家庭からの温室効果ガス削減対策について、事例を紹介する。	講義中に最終の小レポートを行う。温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。
最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりの小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。
気候変動（climate change、または温暖化）は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science（気候変動科学）の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報――温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策――」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」「日本の科学者」2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ（http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka）
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) （http://www.ipcc.ch）

その他 / Others

環境論（S） § 環境問題論（S）

15507

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

環境問題の一層の深刻化を考えれば、21世紀の社会が今日のような経済体制、企業行動、ライフスタイルの単なる延長として存在できないことは明らかであり、人類史のうえで新しい行動規範を必要としている。こうしたなか複雑化する環境破壊現象の法則的解明を目指し、現代社会における公害・環境問題がいかなるメカニズムで発生しているのかを社会科学的に分析し、その解決策を提示することを課題とする「環境論」の発展が求められている。

本講義では、環境破壊の歴史と人間の社会的活動とのかかわりを概観したうえで、公害問題、廃棄物問題、エネルギー問題、自然破壊問題、地球環境問題などについて歴史的・多角的視点から考察する。また、公害・環境問題と人間社会との関係一般についての基礎理論を概説しつつ、持続可能な社会の実現の諸条件について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

・公害・環境問題に関する基礎理論や社会的要因について多角的視点から理解できる。
・公害・環境問題を歴史的脈絡のなかで捉えることができる。
・公害・環境問題の解決の方向性について自己の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代環境論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに－環境論の射程	環境問題とはなにか、物質代謝、労働過程、生産力
第2回目	環境問題の歴史（1）農業と環境問題	狩猟・採集と移動生活、農業の開始と定住社会の成立、家畜と病原菌、農業の意義
第3回目	環境問題の歴史（2）産業革命と環境問題	機械制大工業、工業都市の形成と公害問題、ロンドンスモッグ事件、市場経済と資本主義
第4回目	日本の公害問題の歴史（1）四大鉱害	戦前の公害問題、製銅業の発展、足尾鉱毒事件、別子銅山煙害事件
第5回目	日本の公害問題の歴史（2）四大公害	熊本水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、石油化政策
第6回目	大気汚染公害	コンビナート公害と道路公害、都市型複合大気汚染、西淀川大気汚染公害、尼崎大気汚染公害
第7回目	公害・環境問題に関する諸理論	地球環境問題、外部負経済論、社会的費用論、生産関係論
第8回目	中間試験（60分）	試験範囲は第1回～第7回目まで
第9回目	地球温暖化問題とエネルギー（1）	気候変動問題、京都議定書、日本の温室効果ガス排出量、直接排出と間接排出
第10回目	地球温暖化問題とエネルギー（2）	日本のエネルギー政策、原子力立国論、環境税、国内排出量取引制度
第11回目	廃棄物問題とリサイクル（1）容器包装リサイクル	廃棄物処理の優先順位、拡大生産者責任、容器包装リサイクル法、寝屋川病
第12回目	廃棄物問題とリサイクル（2）耐久消費財のリサイクル	リマニュファクチャリング、自動車リサイクル法、多品種大量生産、リサイクル設計
第13回目	自然（生態系）破壊問題	熱帯林破壊、構造調整プログラム、ODA、貧困と環境破壊
第14回目	まとめ（1）	大量生産・大量消費・大量廃棄社会、資本主義と過剰生産、モノの流れと価値の流れ
第15回目	まとめ（2）	持続可能な社会の構築、循環型社会の形成、レポートの書き方

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	20 %	第8回目に実施する中間試験を評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「現代環境論」を受講していない人は『新・地球環境論』を読んでおくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
破壊されゆく地球	ジョン・ベラミー・フォスター／こぶし書房／4875591616／
緑の世界史（上・下）	クライブ・ポンティング／朝日新聞社／4022596031・402259604X／
新・地球環境論	和田　武／創元社／4422400177／
日本公害論	加藤邦興／青木書店／4250770257／
地球環境「危機」報告	石　弘之／有斐閣／9784641173422／

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企業社会論（S）

15694

担当者名 / Instructor　櫻井 純理

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、企業は、人々の幸福（wellbeing）のありようにきわめて重大な影響を及ぼすアクターのひとつである。「企業社会論」の目的は、企業活動のあり方が社会のメンバー個々や社会全体に対して及ぼすこの大きな影響力を前提として、企業と社会の関係を批判的に分析・検証することにある。この授業では、こうした観点に立ち、以下の3つの側面から、企業と社会の関係の変化について考えていく。①過労社会からワーク・ライフ・バランス社会へ（企業中心の時間軸から個人中心の時間軸へ）、②企業活動の経済的側面と社会的側面（CSRに対する注目の高まり）、③民間企業が担う公共サービスの増大（官から民へ）。

到達目標 / Attainment Objectives

上記テーマに関する現実について的確に理解すること。企業と社会の関係に関わり、自分自身の意見やものの見方を持つこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション（授業内容の説明など）	企業社会論とは何か、企業のあり方をめぐる議論
2	労働時間の推移と生活時間の配分に関する国際比較、時間構造に見る企業中心社会	長時間労働がもたらす短期的・長期的な弊害
3	労働のメタモルフォーズ：働くことの意味（A・ゴルツ）	労働の人間化と労働時間の短縮、ベーシック・インカム論
4	ワーク・ライフ・バランス社会への展望①	労働時間短縮に向けた取り組み事例（日本企業を中心に）
5	ワーク・ライフ・バランス社会への展望②	生涯労働時間の観点から（労働時間貯蓄制度など）
6	企業の社会的責任①企業活動の目的と意義	企業の雇用責任をめぐる議論（「派遣切り」の是非をめぐって）
7	企業の社会的責任②	障害者雇用の現状と課題（雇用率制度、特例子会社制度、ジョブコーチなど）
8	企業の社会的責任③	地球環境問題への取り組み
9	企業の社会的責任④	企業メセナ・企業スポーツの光と影
10	企業の社会的責任⑤	「企業城下町」の繁栄と衰退
11	官から民へ①公共サービスの民営化	三公社の民営化、郵政民営化、自治体機関の民営化
12	官から民へ②民間に「委託」される公共労働（清掃、保育などを事例に）	指定管理者制度、市場化テスト、PFI
13	官から民へ③公益法人改革	自治体「外郭団体」（財団・社団法人）の実態、「公益」法人の役割
14	官から民へ④国と地方自治体の役割と責任	民間企業やNPOとの「協働」、社会的企業への期待
15	授業内容の振り返りとまとめ、企業の道徳的・倫理的責任とは何か	定期試験についての説明

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	授業内容に関連した筆記試験を行う。
平常点評価	20 %	授業時間中に、意見や感想などを提出してもらう（2～3回実施する）。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストは使用せず、レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
企業中心社会の時間構造	森岡孝二／青木書店／／労働時間の分析を切り口に、企業中心社会がどのように成り立ってきたのか、また、解決する（個人の生活時間を取り戻す）には何が必要かを論じている。

ワークフェア：排除から包摂へ	埋橋孝文編著／法律文化社／／雇用を通じた社会保障政策（ワークフェア）の実態と問題点を検証する観点にたち、今後求められる社会政策を展望している。
論争　日本のワーク・ライフ・バランス	山口一男、樋口美雄編／日本経済新聞出版社／／日本のワーク・ライフ・バランス政策の現状について、労働市場や性別役割分業、企業の労務管理などの論点を中心に、具体的な議論を展開している。
地域の生存と社会的企業	柏雅之他／公人の友社／／公共サービスなど公的領域を中心に、社会的な事業を担う主体として「社会的企業」への注目が高まっている。この本では日本とイギリスの事例比較に基づいて、社会的企業の実態と意義についての検討を行っている。
福祉がいまできること	前田正子／岩波書店／／元・横浜市副市長である著者が、自身の経験をふまえて、行政サービス（特に福祉分野）が抱える課題と、そこでのNPOや民間企業との「協働」について、具体的に語っている。

具体的な授業内容に対応し、適宜レジュメで追加して紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業時間中に適宜紹介する。

その他 / Others

キャリアデザイン論 (S)

13476

担当者名 / Instructor　牧野 泰典

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新卒入社から昇格・昇給するには、それに見合った仕事能力が必要となる。それがキャリア熟練形成であり、企業内教育訓練が労務管理制度のなかでどのように位置付けられているかを説明する。そのうえで、正規雇用者中心に実施されている教育訓練であるが、増加する非正規雇用者にも重要であることについて説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

キャリア、熟練形成のための綿密な教育訓練を充分に整備することが、人材育成には欠かせないことを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要	
2	キャリア、熟練形成のプロセス(1)	外部労働市場、内部労働市場
3	キャリア、熟練形成のプロセス(2)	企業内訓練制度OJT(On the Job Training)、Off-JT(Off-the Job Training)
4	人的資源管理(HRM:Human Resource Management)と教育制度	職務再設計、工程再設計
5	労働の人間化(QWL:Quality of Working Life)とキャリア、熟練形成との関連	職務拡大(Job Enlargement)、職務充実(Job Enrichment)
6	昇格・昇給のための職能階層別の教育制度	必須教育、希望制教育、指名選抜教育
7	キャリア、熟練形成の機会をめぐって(1)	労働者選別の判断材料となる人事考課査定制度
8	キャリア、熟練形成の機会をめぐって(2)	正規雇用者と非正規雇用者との企業内教育格差
9	雇用格差のキャリア、熟練形成に対する影響(1)	非正規雇用比率の上昇
10	雇用格差のキャリア、熟練形成に対する影響(2)	新卒一括採用の問題点
11	雇用格差のキャリア、熟練形成に対する影響(3)	非正規雇用者、中途採用者の教育訓練の機会
12	多様な雇用者がキャリア、熟練形成のための権利獲得を目指して	採用機会の多様化、企業内訓練制度のさらなる開放
13	雇用と教育機会の確保と労使関係の課題	欧米の産業別組合と日本の企業別組合
14	小テスト	
15	授業のまとめ	インターンシップ、ジョブローテーション、多能工化などの意義と課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
レポート試験	20 %	
平常点評価	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

雇用格差とは、実はキャリア、熟成形成のための教育訓練をめぐる格差でもある。日本企業の競争力の源泉は技術のみならず、安定した雇用の中で、キャリア、熟練を形成してきた労働力を確保していたことにある。雇用破壊は優秀な人材を育成するプロセスをも崩すものであり、日本の産業にも多大な影響を与えることを学んで欲しい。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『生涯現役-時代への朝鮮』	山口宗秋／産業能率大学出版部／／2006

『産業と労働のニューストーリー--IT・グローバル化と仕事の未来』	久野国夫／法律文化社／／2004
『キャリア教育入門』	三村隆男／実業之日本社／／2004

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

居住環境デザイン論（S） § 都市構造論（G）

13309

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝えたい。
多くの具体的事例を通して、「空間・場（都市・まち）」の質が「ひと」の在り方（社会関係や文化等）を規定し「できごと（生活のドラマ）」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。
講義では、スライド映像等を活用しつつ、多くの事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」を読み解いていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義。

到達目標 / Attainment Objectives

人々が心地よく暮らしうる「場＝居住環境」とはなにかを知り、そのような環境を創出するための考え方や技を身に着けるための糸口を、事例とその解説を通じて自ら学び、発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「居住環境デザイン論」ってなに？「居住環境」ってなに？	本授業の視点の提供：「ひと」と「場所＝都市（まち・地域）」の関係論
第2回	だから都市はおもしろい　その1	京都歴史散歩…京都は千年の都、万古不易って本当？
第3回	だから都市はおもしろい　その2	続・京都歴史散歩…「都市」の魅力は多層性・多義性にある
第4回	だから都市はおもしろい　その3	都市はうつろいゆくもの。網目としての都市・自己創出系としての都市＝「まちづくり」の視座
第5回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その1	都市計画とはなにか
第6回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その2	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(1)
第7回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その3	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(2)
第8回	中間まとめ	
第9回	「都市」の構造を継承するこころみ　その1	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(1)
第10回	「都市」の構造を継承するこころみ　その2	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(2)
第11回	「都市」の構造を継承するこころみ　その3	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(3)
第12回	「都市」（まち）に住み続けるために　その1	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(1)
第13回	「都市」（まち）に住み続けるために　その2	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(2)
第14回	「都市」（まち）に住み続けるために　その3	新しい京都の動き
第15回	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
平常点評価	20 %	適宜（数回／半期）、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

景観デザイン論 (S)

15704

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部の中で「景観デザイン論」を学ぶことにはどのような意味や意義があるのか？本講座では、まず「景観とは何か？人は景観をどう捉え、扱ってきたのか？景観と風景は何がどう違うのか？」という疑問を解きほぐす。この疑問の解きほぐしの次に「デザインとは何か？何をどうすることがデザインなのか？」を考える。その上で、持続可能な環境や社会を形成する作法としての景観デザインの発想法と方法論を学ぶ。その際、工学的、技術的な観点からだけでなく、社会的、経済的、生態学的、身体的、美学的そして政治的な観点からの景観デザインに対する把握と理解が不可欠になる。ここに「景観デザイン論」を産業社会学部の中で学ぶことの意味や意義が見いだせるだろう。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）「景観」や「風景」の概念や捉え方の差異を理解し、自分の経験とも照らし合わせながら説明できる。
（2）景観デザインという行為が、様々な領域や人間の活動に関係していることを理解し、説明できる
（3）持続可能な環境や社会の形成の観点から景観デザインの課題と可能性を自分の言葉で説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションその1	講義の目的と進め方ならびに成績評価方法についての説明、景観デザイン論を学ぶ意義はどこにある？
第2回	オリエンテーションその2	講義の目的と進め方ならびに成績評価方法についての再説明、景観デザイン論を学ぶ意義はどこにある？再考 この講座で大切にしたいこと・大切にしていくこと
第3回	景観、風景、景色という概念の基礎理解その1	「景観」と「風景」はどう違う？どのような時にどちらの言葉を使う？
第4回	景観、風景、景色という概念の基礎理解その2	「景観」と「風景」はどう違う？どのような時にどちらの言葉を使う？再考と解題
第5回	私にとってのSacred Placeその1	自分にとって大切な風景、大切な場所、大切な思い出とは？
第6回	私にとってのSacred Placeその2	私のSacred Placeが壊される時、あなたどう感じますか？あなたは何をしたいと思いますか？あなたには何ができるでしょうか？
第7回	景観や風景を保全する？それとも風景に助けられる？	実際の計画づくりやまちづくりでのSacred Placeや「景観」「風景」の意義や取り扱いを検証する。
第8回	オルタナティブとしての景観デザイン　その1	身近な公園、広場を通してデザインを捉える。
第9回	オルタナティブとしての景観デザイン　その2	商店街のにぎわい再生へのデザインからのアプローチ。
第10回	オルタナティブとしての景観デザイン　その3	地域全体の再生にデザインが寄与できること。
第11回	オルタナティブとしての景観デザイン　その4	カタチはデザイナーの思いつき？それとも？
第12回	京都の景観政策その1	町家は個人のもの？公共のもの？（ゲストスピーカーを招聘予定）
第13回	京都の景観政策その2	まちづくりはひとづくりから（ゲストスピーカーを招聘予定）
第14回	景観デザインの射程	「格差社会」「貧困」「100年に1度の大不況」といわれる現在において景観デザインの意義と射程はどこにあるのか？
第15回	検証テストの実施とこれまでの講義のふりかえり	持続可能な環境形成の作法としての「景観デザイン」の課題と展望

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、各回テーマに関する「お題」を講師が出し、受講者には所定の用紙に受講者自身の考えを記入してもらう。それを講師が毎回3段階「良・可・不可」で評価し、各回の参加度、習熟度を量る。欠席や用紙未提出の場合は「不可」とみなす。「不可」が連続3回続いた場合、もしくは最終回を除く14回のうち「不可」が合計7回ついた場合には単位を認められず、最終回の「検証テ

スト」の受験資格も失う。逆に14回全て「不可」以外の評価でも、最終回の「検証テスト」で「不可」が付いた場合には、単位は認められない。最終回の「検証テスト」では、講座の全体テーマに関わる「お題」を講師から出し、A4用紙1枚程度の小リポートを提出してもらう。論理構成、オリジナリティーの観点から講師が「良・可・不可」で評価する。「検証テスト」が「不可」の場合、「日常的な授業に対する取り組み状況等の評価」の如何に関わらず、単位は認められない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いま世の中に存在するデザイン手法や景観の形成や管理が、持続可能な環境や社会を形成することに寄与しているかどうかを、批判的に検証する視点を大事にしたいと思います。そのためには自分が日常目にする景観や風景（景観という言葉と風景という言葉の概念については講義の中で触れます）、そして出来事の観察、吟味が欠かせません。自分が当たり前と思っていること（認識、景観、風景）は、実は当たり前ではないのだ、という視点が大事になります。好奇心と「疑問に思う力」がその助けになります。この講義に参加する作法としても、好奇心と「疑問に思う力」をフルに働かせて下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。毎回テーマ毎に参考書を紹介したり、必要な場合には、適宜、レジュメを配布したりします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境と都市のデザイン	斉藤潮・土肥真人他／学芸出版社／ISBN4-7615-2346-8／景観工学者とコミュニティ・デザイナーの激突から生まれた本。講師は第5章「市民とデザイナー　共同の可能性」を担当。景観や環境、デザインを扱うことの課題と可能性を理解するための本。
「景観」を再考する	松原隆一郎他／青弓社／ISBN-13: 978-4787232335／「景観」と「風景」の捉え方の違いについては歴史社会学の立場からの佐藤健二氏の批判的論考が秀逸。
風景学入門	中村良夫／中公新書／ISBN-13: 978-4121006509／土木学者として景観工学、景観デザイン学の第1人者である中村先生がなぜ「景観」や「デザイン」という語句を用いずに「風景」や「風景学」という語句を使われるのか？そこから逆に景観デザインの在りようを考察できるスリリングな本。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

言語文化論（S） §　言語コミュニケーション論（S）

15608

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義でどんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	近代言語学の成立とその背景 ソシュール（1）	ｿｼｭｰﾙが求めたﾗﾝｸﾞは、話し手の意識の中にあり、それ以外のどこにもない。
2	ソシュール（2）	
3	ソシュール（3）	
4	ソシュール（4）	
5	ソシュール（5）	
6	ソシュール（6）	
7	言語相対主義の潮流	ｿｼｭｰﾙが提示してみせたのは、これは後に言語論的転回と呼ばれるﾊﾟﾗﾀﾞｲﾑをもたらした考え方である。ｿｼｭｰﾙは、ことばが存在して初めて、概念や対象が誕生する。なぜならば、ことばが、境界のない連続的現実世界を切り取ることにより、概念が作り上げられるからというわけである。
8	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄに始まる言語相対論	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ言語学が近代言語学の三大源泉の一つだと言われる最大の理由は、近現代言語学を一貫して貫く言語相対主義の考え方の発端、すなわち母語の発見と言語と民族との間に生ずる不可分の関係の発見をそこに見いだすことが出来るからである。この考え方は、ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ言語学に端を発し、ｿｼｭｰﾙ言語学で理論的肉付けを完成し、後のｻﾋﾟｱ=ｳｫｰﾌ仮説やﾄﾞｲﾂ意味論学派に受け継がれて行く、言語相対主義に貫かれた言語理論である。
9	ﾄﾞｲﾂ意味論学派＝新ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ学派	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄに端を発する言語相対論の考え方の基本にあるのは、言語共同体に固有の分節・認知の仕組みこそが、その構成員の魂であり、精神であり、ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨである、という積極的な人間のあり方を規定する、というものである。つまり、人間がことばを支配するのではなく、ことばが人間を支配することになる、ということは、まさしくﾌﾝﾎﾞﾙﾄが、言語を創られたものという意味でのｴﾙｺﾞﾝではなく、創るものという意味でのｴﾈﾙｹﾞｲｱとして定着させた、言語に対するﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞな考え方の帰結なのであ
10	ﾚｳﾞｨ=ｽﾄﾛｰｽ	ﾚｳﾞｨ=ｽﾄﾛｰｽの神話論や親族構造の研究は、二項対立、神話を構成する最小限の要素〈神話素〉、交換のｼｽﾃﾑという補助線を引くことによって、経済上の動機と目に見える諸制度の間には、人間の無意識が作り上げている目に見えない制度がはさまっており、むしろこれが社会制度の動きに大きな役割を果たしている、という新しいｲﾒｰｼﾞを提出している。

11	ﾗｶﾝの欲望論（1）	我々の欲望の対象は常にある何ものかの代理であり、そのあるものもまた他のものの代理であるという性格を持つ。そしてそれは果てしなく続く。それをずっと辿っていくと、結局〈Φ〉ﾌｧｲという記号が出てくる。これはﾌｧﾛｽ（=ﾍﾟﾆｽ）で、このように究極の不在を辿ることは、ﾍﾟﾆｽが欠けていることなのだ、とﾗｶﾝは説明する。人間の欲望は、いわばこの根元的に欠けていることへの欲望の代理的連鎖である。
12	ﾗｶﾝの欲望論（2）	
13	ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝ言語ｹﾞｰﾑ論（1）	ｿｼｭｰﾙと同じように、言語をｹﾞｰﾑとして語ることは、ﾙｰﾙに従うということを言語活動の考察の中心におくということに他ならない。ｹﾞｰﾑのﾙｰﾙ問題には、明文化されたﾙｰﾙを持つｹﾞｰﾑ以外では、明確な答えは存在しない。それは言語活動の規則性が、明文化されたﾙｰﾙと根本的に異なっていることを示している。ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝはこのﾙｰﾙ問題を探求して行く。そこで絶えず問われているのは、我々がことばを知り、話すとはどういうことなのか？それは無秩序な現象や自然界の秩序的現象とどう違うのか？ということである。こうした探求において言語的秩序を求めるとき、我々は必然的にそれをことばで説明することになる。しかし我々が今求めているものは、あらゆることばをことばとして機能させる根元的秩序であり、その秩序の説明に、すでにこうした秩序のおかげでことばとして機能しているものを用いるのは、我々の説明がまだ根元そのものには接していないことを暗示している。ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝが求めるものは、あらゆることばがことばとして機能する根本条件であり、それ自身はいかなることばによっても語り得ないような根元である。すなわちｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝが求めるものとは、我々のあらゆる探求の鋤を跳ね返す岩盤なのである。
14	ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝ言語ｹﾞｰﾑ論（2）	
15	言語と現代思想の問題〈まとめ〉	〔1〕欲望論、〔2〕言語ｹﾞｰﾑ〈Sprache Spiel〉、〔3〕ﾊﾟﾌｫｰﾏﾃｨｳﾞｨﾃｨ〈performativity〉（＝行為遂行性）、〔4〕理論より現場への関心、〔5〕ことばと社会、〔6〕言語使用と身体、〔7〕ことばの詩的機能と論理的機能 、〔8〕ｴﾋﾟｽﾃｰﾒｰ〈épistémè〉（＝思考の枠組み）の変換、〔9〕人間諸科学と言語のﾓﾃﾞﾙ、〔10〕ﾎﾟｽﾄ構造主義〈post-structuralisme〉の登場と言語観の変容

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代経済論（S）

13316

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と
企業社会」について考えたうえで、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の
景気回復状況など、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「日本経済論」
と連結しておりその前半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	はじめに－問題の所在	
2.	日本経済の概況	
3.	「高度成長」と企業社会の成立	
4.	企業社会と市民社会	
5.	市民社会の概念規定	
6.	大企業体制の2類型	
7.	貿易関係と資本の対外的展開	
8.	同上（2）	
9.	不良債権問題の経過と問題点	
10.	同上（2）	
11.	六大企業集団と法人資本主義	
12.	同上（2）	
13.	日本的経営について	
14.	まとめ1－現代経済論の課題	
15.	まとめ－2現代経済論の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代市民社会論 (S)

13452

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま社会の中で「人々の絆」が弱くなってきています。「あなたは、見知らぬ他人を信じることができるか」というアンケートに信じることができないと答えた人の割合が以前と比べて増えてきています。それとともに社会的犯罪や病理現象も増えてきているといいます。なぜでしょうか？いろいろな答えがあるかもしれません。しかし、人々が利己的になりつつあること、社会のことを考えなくなってきたことが大きな原因の一つであることは確かです。こうしたなかで市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。人々はどのようにこれまで他人と絆を結びつつ社会を形成してきたのか。またなぜ絆が弱くなりつつあるのか、それを克服することができるのか。本講義は、近代社会が市民社会として形成されてきた歴史をたどりながら、人々が市民社会のなかで個人と社会（他人）との関係をどう捉えてきたのかを思想家の議論をたどりながら見ていくものであり、そのなかで上記の問いを考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

1）近代（市民）社会形成の原理が何であったのかを、ルソー、スミスをとおして理解すること
2）現代(市民）社会の構成原理をハーバマス、パットナム、ハーストをとおして理解すること
3）現代社会において自明とされている社会・人間観を懐疑し、再考すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学
社会倫理
社会ガバナンス論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	近代市民社会の成立－フランス革命	アンシャンレジーム、ブルジョア、革命
2回目	市民社会の原理－フランス人権宣言を読む	自由、平等、博愛、所有
3回目	古典に見る社会像1－ルソーの描いた社会	自然状態、文明社会、不平等、自愛心と慈愛心
4回目	古典に見る社会像2－スミスの描いた社会	商業社会、利己心、同感の原理、正義, ホッブス
5回目	古典に見る社会像3－マルクスの描いた社会	個人と私人、貨幣物神
6回目	小括・まとめ	補足講義、また理解確認のためのアンケート、質問など
7回目	ハーバマスと市民社会1－ハーバマスの課題	東欧革命、システム世界、生活世界、植民地化
8回目	ハーバマスと市民社会2－市民的公共性	批判的公共性、熟議民主主義、公共圏
9回目	パットナムと市民社会1－ボーリング・アローン	市民社会の衰退、政治参加、市民参加、友人、家族
10回目	パットナムと市民社会2－社会関係資本と格差	社会関係資本、信頼、互酬性
10回目	小括・まとめ	補足講義、理解確認のためのアンケート、質問等
11回目	ハーストと市民社会1－社会の統治・ガバナンス	国家の市民社会化、社会ガバナンス、メタガバナンス
12回目	ハーストと市民社会2－ラディカル民主主義	社会への参加、市民社会の公共化、グローバル化と市民社会
13回目	ギデンズと市民社会1－「第三の道」	福祉国家批判、新自由主義批判
14回目	ギデンズと市民社会2－「第三の道」	アクティブ市民社会、社会包含、政府と市民社会とのパートナーシップ
15回目	市民社会とは？	様々な市民社会論の紹介。講義全体のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考査する
平常点評価	20 %	3～4回の出席をとり、それを点数に換算する

評価は、定期試験80点。出席点（5～7点）20点＝100点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中に適時参考文献を知らせるので、読んでおくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

教科書は使わない。講義はレジュメが中心となる。
なお、以下の参考文献を読むことが望ましい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『市民社会論』	山口定／有斐閣／／
『市民の政治学』	篠原一／岩波新書／／
『相対化の時代』	坂本義和／岩波新書／／
『公共性』	斎藤純一／岩波書店／／
『孤独なボーリング』	パットナム（鹿内訳）／柏書房／／

『第三の道』ギデンス（佐和訳）日本経済新聞社。

なお、適時、講義中に参考文献を知らせることとする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代社会専門特殊講義 (S)

15692

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

こんにちフィールドワーク＝現地調査は様々な分野で当たり前のようにおこなわれるようになったが、フィールドワークは特定の時代状況で生まれた調査方法であり、社会との関わり抜きに、その理解を深めることはできない。本講義では、フィールドワークの歴史と多様な方法を解説し、フィールドワークと時代性の問題を考察する。
さらに、受講者自身が「自分たちをフィールドワーク」する機会も設け、フィールドワークの実践的な能力も身につけられるよう解説していく。

到達目標 / Attainment Objectives

フィールドワークと社会の関係についての理解を深める。
フィールドワークの多様な方法についての理解を深める。
フィールドワークの代表的な方法を習得する。
調査方法を企画・実施する能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	フィールドワークの前に	他者との出会い、挨拶と儀礼、外見と徴
2	フィールドワークとは何か	文献調査と野外調査、質的調査と量的調査、言葉とモノ
3	フィールドワークを支える認識1	モノと類似、表と分類、時間と機能
4	フィールドワークを支える認識2	表象と人間、主体と環境
5	フィールドワークと時代1（探検と冒険）	探検記録と日記、地政学と博物学
6	フィールドワークと時代2（近代科学とナショナリズム）	機能主義、生態学、民俗学
7	フィールドワークと時代3（相対主義と権力批判）	イデオロギー、言説、身体化
8	フィールドワークと時代4（グローバル化の時代に生きる）	制度、変革、実践
9	文献調査の方法	先行研究とは、ライブラリーワークの方法、文献整理と論争、テキストの読解
10	フィールドワークの実際（見る）	定点観察、参与観察、物語と役割、観察者の視点
11	フィールドワークの実際（聞くと聴く）	日常会話の記録、インタビュー、ライフ・ヒストリーの聞き取り、聴くことの意味
12	フィールドワークの実際（記録）	記憶と記録、フィールドノートとカード、機材の活用法、トランスクリプトの技法
13	まとめと仮説構築	KJ法、アブダクション、グラウンデッド・セオリー・アプローチ
14	アクション・リサーチと実践	調査者と被調査者、協働とシステムの変革
15	研究倫理と自己批判	社会調査の倫理、講義の総括討論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

自宅でも行える課題を出すので、それをこなして、さらに応用力を高めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回授業中に課題の提出を求め、その内容を評価する。また、授業の進行に応じて、レポートの提出も数回求める。それらを併せて、成績評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業では、講義のほか、フィールドワークの実習的な要素も含むので留意の上、受講して欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発想法	川喜田二郎／中公新書／／
続発想法	川喜田二郎／中公新書／／

フィールドワーク教育入門　　原尻英樹／玉川大学出版部／／

その他、参考書を授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代と社会（SA）§　社会学（SG）

12749

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（山口）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減など、3）（高嶋）グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。

2）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念に関する理解力と教養を深めること。

3）グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、山口、高嶋　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と現代社会（山口）	
第7回	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本（山口）	
第8回	街づくりの課題・景観デザイン（山口）	
第9回	環境配慮型マーケティングとエコライフ（山口）	消費生活から発生する環境負荷
第10回	グローバル化と企業社会の変化（高嶋）	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任（CSR）、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化（高嶋）	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題―社会的不平等をどう考えるか―（高嶋）	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働―労働が多様化することの意味について―（高嶋）	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　（小澤、山口、高嶋　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4－7710－1592－0／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一／ミネルヴァ書房／4－623－03992－7／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

現代と社会（SB）

12750

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1)（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2)（山口）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減など、3)（高嶋）グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1)「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。

2)地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念に関する理解力と教養を深めること。

3)グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、山口、髙嶋　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と現代社会（山口）	
第7回	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本（山口）	
第8回	街づくりの課題・景観デザイン（山口）	
第9回	環境配慮型マーケティングとエコライフ（山口）	消費生活から発生する環境負荷
第10回	グローバル化と企業社会の変化（髙嶋）	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任（CSR）、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化（髙嶋）	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題―社会的不平等をどう考えるか―（髙嶋）	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働―労働が多様化することの意味について―（髙嶋）	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ （小澤、山口、髙嶋　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4－7710－1592－0／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一／ミネルヴァ書房／4－623－03992－7／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

現代と社会 (SC)

12751

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1)（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2)（山口）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減など、3)（高嶋）グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1)「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。

2)地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念に関する理解力と教養を深めること。

3)グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入(小澤、山口、高嶋　輪番)	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」(小澤)	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性(小澤)	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて(小澤)	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの(小澤)	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と現代社会(山口)	
第7回	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本(山口)	
第8回	街づくりの課題・景観デザイン(山口)	
第9回	環境配慮型マーケティングとエコライフ(山口)	消費生活から発生する環境負荷
第10回	グローバル化と企業社会の変化(高嶋)	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任(CSR)、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化(高嶋)	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題―社会的不平等をどう考えるか―(高嶋)	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働―労働が多様化することの意味について―(高嶋)	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　(小澤、山口、高嶋　輪番)
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』　立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4－7710－1592－0／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一／ミネルヴァ書房／4－623－03992－7／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

現代文化論 (S)

15698

担当者名 / Instructor　佐藤 嘉一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化の現在について人間科学の観点から論じます。「もの」の社会的事実よりも「言語」や「記号」や映像の「社会的事実」が「もの」をいう時代の到来を「現代文化」の一大特質として特徴づける文化理論について「論」じます。たとえば「ロビンソン・クルーソー」よりも「ドン・キホーテ」が物語としてより「現代」的であるわけ、社会経済構造として「生産」の契機よりも「消費」の契機がより「現代」的であるわけ、源氏物語が漫画で読まれるのが「現代的」であるわけ、そして、巨匠ヴィスコンテがプルースト『失われた時を求めて』を映画化しようとしたわけ等について論じます。

到達目標 / Attainment Objectives

現代文化の諸相を、人間科学(「生きる・働く・語る」人間についての知の体系)の知見をひも解きながら、社会の〈客観的な構造変動〉のプロセス(大きな歴史)と各個人のユニークな「生きる時間」(体験)の物語(小さな歴史)という二つのレンズから解き明かす試みです。時間と空間のフレームのうちに彩られる文化現象の現在を「社会構造とパーソナリティ」との関わりにおいて考察する社会学の学習です。講義科目「人間論」および「文化理論」の応用と展開を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

一回生配当科目「人間と文化」同「基礎社会学」、二回生配当科目「人間論」同「文化理論」などの受講が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化の現在1:「ドン・キホーテ」を「ロビンソン・クルーソー」と対比することが現代的であるわけ	「資本主義」の文化、ポストモダンの文化、文化と人格と社会構造、孤独な群衆、脱工業社会、メディア・リテラシイ
第2回	文化の現在2:「豊かな社会」と欲望の構造変動—「使用価値」を超える	有閑階級の理論、ソーンスティン・ヴェブレン、誇示的消費、誇示的余暇、制度としての高等教育
第3回	文化の現在3:「豊かな社会」と欲望の構造変動—記号としての「もの」文化	使用価値、交換価値、記号価値、象徴交換、ボードリヤール
第4回	文化の現在4:「複製技術時代における芸術作品」を読む	「芸術作品」、歴史的個性、大量生産と歴史主義、実存と大衆、写真、メディア、ベンヤミン
第5回	文化の現在5:現代文化のフレームとしての「時間」の問題	魂の時間、世界の時間、時間の現われと不可視の時間、暦と歴史:世代の継承—同時代人・先人・後人のカテゴリー
第6回	文化の現在6:ヴィスコンティのシナリオ「失われた時を求めて」を読む	歴史、記憶、忘却、時間の「映像化」、虚構の時間構成、物語、リクール
第7回	文化の現在7:ハンプティダンプティイがおっこちた！—記号論からみた「現代文化」	不思議の国のアリス、記号と自然、物の秩序、言語の秩序、制度と行為、記号を欲望する
第8回	文化の現在8:現代文化と「生の問題」	労働＝創り出す文化、生＝築き上げる文化、言語＝聴き取る文化、文化の三つの形式、多元的現実、A・シュッツ
第9回	文化の現在9:「もの」「こと」「ことば」の現象学的社会学の可能性	諸事物の秩序、労働・生・言語、文化の認識論の3つのモデル:歴史分析・精神分析・制度分析、
第10回	文化の現在10:視覚的人間の問題—雑誌『ライフ』の運命	鼻の先の目で、類型、相貌、表情、クローズ・アップ、表現主義、ミクロとマクロ、写真と「活動写真」
第11回	文化の現在11:音の現象学—「時間」のなかの現代人の現在	音、沈黙、樹、草原、音の余白、魂、自閉、音楽の起源、'making music together'、タケミツ・トオル
第12回	文化の現在12:茶の間と戦争のテロリズム—現代人の「社交」の構造	クレー「顔のない自画像」、情報・画像・映像のなかの「出会い」、遠方の声たち、ちぐはぐな「リアリティ」の現
第13回	まとめ1　われわれは「ドン・キホーテ」のリアリティの複製であるか	第1回から第6回までの「おさらい」:グローバリゼーションのカテゴリーを中心に
第14回	まとめ2　「失われた時間を探すこと」と「時間をふたたび見出すこと」	第7回から第12回までの「おさらい」:「時間・空間・社交」のカテゴリーを中心に「私の物語」の現在を構築する
第15回	まとめ3　現代文化を「生きる」とはどのようなことか	第1回から第14回までのキイワードを用いながら、上記のテーマについて総括討論を行う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	①基礎概念の理解度、②問題を体系的に分析し、総合的に問題を理解する作業(文章表現力)の達成度、以上の二点を評価する

平常点評価	20 %	学期中に2回リポートを課す コメント・シートを毎時間配布し、授業の感想、質問、要望などを記してもらい、次週の講義に反映するように努力します。これは直接評価にはイレリヴァントです。

授業のなかで示される参考文献のうち最小限一冊の文献を読了すること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業のなかで示される参考文献のうち最小限一冊の文献を読了すること。教科書の欄に記された書物は、教科書ではなく、参考書です。教科書は使用しません。勉強の基本姿勢は、「問題そのものへ」Zu den Sachen　selbstの精神で臨むことです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
記号の経済学批判	ボードリヤール／法政大学出版会／？／最重要の参考書
有閑階級の理論	ソーンスティン・ヴェブレン／ちくま学芸文庫／4-480-08416-9／最重要の参考書
言葉と物	ミシェル・フーコー／新潮社／4-10-506701-x／最重要の参考書
複製技術時代の芸術作品	ベンヤミン／晶文社／4-7949-266-8／最重要の参考書
ヴィスコンティ＝プルースト	大篠成昭／筑摩書房／0098-83071-4064／最重要の参考文献
視覚的人間	ベラ=バラージュ／岩波文庫／？／最重要の参考文献

本講義は「教科書」を用いません。上記の図書および参考書欄の図書のいずれか一冊を読了することが受講生には期待されます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドン・キホーテ	セルバンテス／岩波文庫／4-00-327211-0／
言語にとって美とはなにかⅠ・Ⅱ	吉本隆明／河出文庫／？／
ハイ・イメージ論	吉本隆明／福武文庫／4-8288-3283-1／
資本主義の文化的矛盾	ダニエル・ベル／講談社学術文庫／4-06-158085／
消費社会の神話と構造	ジャン・ボードリヤール／紀伊国屋書店／？／
孤独な大衆	リースマン／みすず書房／？／

教科書欄および本欄掲載の参考文献のうちいずれか一冊を読了することが受講生には期待されます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代労働論（S）

15693

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本における賃金、労使関係、技能訓練の特徴を、国際比較を交えながら概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

賃金、労使関係、技能訓練にかかわる新聞記事やテレビニュースを、その背景まで含めて十分に理解できるようになる。
日本の賃金制度や労使関係が、他の先進主要諸国とどのように異なり、また共通性をもっているか理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

労働社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代労働論では何を学ぶか	
2	最低賃金制度と生活賃金（生活できる賃金水準）	
3	賃金水準の国際比較：日本の賃金水準はどのくらい？	
4	アメリカの賃金制度1：職務給とは何か？	
5	アメリカの賃金制度2：アメリカにおける能力主義の実態	
6	日本の賃金制度1：日本の大企業における賃金制度の変遷	
7	日本の賃金制度2：日本とアメリカの能力主義の違い	
8	労働組合にかかわる基礎的な考え方、法律、制度の説明	欧米諸国における労働組合の変遷
9	日本の労使関係の特徴	
10	ドイツの労使関係と働き方1	
11	ドイツの労使関係と働き方2	
12	アメリカの労使関係と働き方1	
13	アメリカの労使関係と働き方2	
14	技能形成の国際比較（自動車産業を事例として）1	
15	技能形成の国際比較（自動車産業を事例として）2	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	授業の理解度。
平常点評価	0 %	場合により出席点を加点することがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やテレビ等で、賃金、労使関係（労働組合）、技能形成にかかわる記事や番組があったら、興味を持って見て欲しい。また、身近に働いている人がいたら、授業で興味を持ったことをいろいろ質問（インタビュー）してみることも有益である。

教科書 / Textbooks

必要な資料は、授業中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アメリカの賃金・評価システム	笹島芳雄／日本経団連出版／4818521035／

授業内容に関連した基本文献については、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

労働政策研究・研修機構　http://www.jil.go.jp/
厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

国際NPO・NGO論（S） § 国際ボランティア論（S）

15609

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデイトな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
・国際協力NGOにおいてなぜマネジメントが重要になり「ビジネス化」が言われるようになったかを理解する
・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当：秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2～3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
4～5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6～7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9～10	NGOの新たな戦略　――マイクロクレジット――	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略　――フェアトレード――	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①―政府とのパートナーシップをめぐって―	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②―国連とのパートナーシップをめぐって――	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③――グローバリゼーションによる社会構造の変化――	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するのですから、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「F」評価となる可能性があるので、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など　②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO――市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編(1998)／明石書店／／

への取り組み――

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際援助論（S）

15696

担当者名 / Instructor　池尾 靖志

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

以前は、国際援助と言えば、開発分野に限られたものであった。それは南北問題の登場とともに、不公正な社会構造を生み出した「原因」を作り出した側（先進国）が、何らかの「援助」をしない限り、グローバル化した社会は成り立たないと考えてきたからである。

しかし、近年では、安全保障分野においても、例えば、核不拡散条約に加わる代わりに、民生用原子力協定を結び、エネルギー供給の手助けをするなど、国際援助のあり方も多岐にわたるようになってきた。

そこで、この講義では、国際援助の歴史と実態をみていく中から、グローバル社会のありようについてみていくことにする。

到達目標 / Attainment Objectives

1）国際援助の実態について、客観的な知識が得られるようになること。
2）日本の国際貢献について、様々なアプローチがあることに気づくことができるようになること。
3）今日のグローバル化した社会構造をよりよく理解できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	国際援助のあらまし	国際援助
2	「人間の安全保障委員会」報告書を読む（1）	
3	「人間の安全保障委員会」報告書を読む（2）	
4	「人間の安全保障委員会」報告書を読む（3）	
5	日本のODAの実態（1）	
6	日本のODAの実態（2）	
7	日本のODAの実態（3）	
8	草の根からの国際援助（1）	
9	草の根からの国際援助（2）	
10	草の根からの国際援助（3）	
11	安全保障と国際援助（1）	
12	安全保障と国際援助（2）	
13	安全保障と国際援助（3）	
14	安全保障と国際援助（4）	
15	今後の国際援助のあり方について考える	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義中に指定された参考文献を読むこと。
平常レポートをまじめに取り組むこと。
WebCTのディスカッション機能を使って、講義外にも活発な議論を展開すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基礎的な概念が身に付いたか（1問）、講義内容を踏まえて、自分なりの考えをまとめる（1問）の2問構成。持ち込み自由。
平常点評価	20 %	WebCTにレポートを3回課す。そのうち、2回以上提出すること。（1回につき10点で採点する）参考文献リストを最後に明記することを求める。

レポートは、講義の進行状況に合わせて、2000字程度のものを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「戦争の歴史と現在」、「立命館で平和を学ぶ（平和と人間の安全保障）」をあらかじめ履修しておくこと（もしくは後期に履修すること）をすすめる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和学をつくる	池尾靖志編／晃洋書房／／2009年4月中旬刊行予定

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
安全保障の今日的課題	人間の安全保障委員会編／朝日新聞社／／2003年

平和政策	大芝亮、山田哲也、藤原帰一／有斐閣／／2006年
日本から発信する平和学	安斎育郎、池尾靖志編／法律文化社／／ODA政策、人間の安全保障に関する章を読んでおくとよい。

以上をとりあえず挙げておく。
あとは、講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義担当者のHP http://www.yikeo.com

その他 / Others

国際環境政策論（S）

15703

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

環境政策は歴史的にはまだ浅く、発展途上の政策科学であるが、現実の公害・環境問題の一層の深刻化に対応して、その問題解決のために、複雑な諸課題に応えうる「環境政策論」への期待は大きい。

本講義では、環境政策の基礎理論・原則・政策手法を概説するとともに、世界各国における環境政策や国際条約などについて考察する。その際、個別環境政策の内容だけでなく、政策立案・決定の合意形成過程にも焦点を当てると同時に、こうした規制を各主体にどのように遵守させ、実質化させるかという枠組みも含めて論じたい。これらの国際比較を通して、日本の環境政策を批判的に分析しつつ、他の諸政策とのポリシーミックスの方向性についても検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

・環境政策に関する基礎理論や諸手法について具体的に理解できる。
・公害・環境問題を国際的脈絡のなかで捉えることができる。
・現代の環境政策の課題について自己の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代環境論」「環境論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに－環境政策とはなにか	政策科学、公害問題、環境問題、国際環境政策
第2回目	環境政策の歴史（1）	公衆衛生、職業衛生、アルカリ法、自然保護運動
第3回目	環境政策の歴史（2）	アメリカ国家環境政策法、公害対策基本法、国連人間環境会議、ストックホルム宣言
第4回目	環境政策の目標と原則	持続可能な発展、環境権、予防原則、発生源対策、汚染者負担原則
第5回目	環境政策の手法（1）	規制的手法、経済的手法、合意的手法、情報的手法、ドイツ排水課徴金制度
第6回目	環境政策の手法（2）炭素税	価格効果、EUの炭素税、ドイツ環境税制改革、税財政のグリーン化
第7回目	環境政策の手法（3）排出量取引	京都メカニズム、EU排出量取引制度、キャップ＆トレード型、グランドファザリング方式
第8回目	中間試験（60分）	試験範囲は第1回～第7回目まで
第9回目	廃棄物・リサイクル政策（1）容器包装リサイクル	拡大生産者責任、ドイツ・フランスの容器包装廃棄物政令、デュアルシステム、エコ・アンバラージュ
第10回目	廃棄物・リサイクル政策（2）耐久消費財のリサイクル	EU廃自動車指令、ドイツ廃自動車政令、EU廃電気・電子機器指令、RoHS指令
第11回目	エネルギー政策（1）再生可能エネルギー	風力発電、太陽光発電、ドイツ電力供給法、再生可能エネルギー法、種類別電力買取補償制度
第12回目	エネルギー政策（2）バイオ燃料	バイオエタノール、バイオディーゼル、カーボンニュートラル、バイオ燃料割当法、アグリビジネス
第13回目	京都議定書と環境外交	モントリオール議定書、気候変動枠組条約、IPCC、ポスト京都議定書
第14回目	まとめ（1）	文化・制度・経済、環境思想、景観論、郷土保護運動
第15回目	まとめ（2）	環境再生、ポリシーミックス、レポートの書き方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	20 %	第8回目に実施する中間試験を評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際産業論（S）

15695

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業は、国や地域の経済的な基盤をなす。このシンプルな事実を念頭においておきたい。グローバル化の進展とともに、産業のあり方は大きく変わってきた。すなわち、人やモノ、サービス、マネー、情報・思想などのグローバル化に乗じて新しい産業が現れ、多様化するとともに、企業はその活動を国外に拡大して、グローバル／リージョナルに多種多様なネットワークを形成し、熾烈な国際競争を展開してきている。

本講義では、現代の産業のあり方について、グローバルかつローカルな視野から、また、組織論的な視点や政策論的な視点を取り入れて、多面的かつ分野ごとに具体的に理解することをねらいとする。そこでは、その社会的インパクトについての分析も含むことになろう。この講義を通じて、産業は国・地域の経済的基盤であるという観点から、企業・産業のグローバル化はいかなる意味を持ち、そして、持続可能な経済社会の実現のために企業・産業のグローバル化の望ましいあり方とはどうあるべきか、そして、企業・産業はその社会的責任をいかに果たすべきか、また、私たちはこれらの問題にどう関わりうるのか、といった諸論点についても考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）グローバル化のなかで現代の産業のあり方がどのように変化してきたのかを理解する
2）企業のグローバル／リージョナルな活動とそれを規定する諸要因について学ぶ
3）産業のグローバル化の社会的インパクト（産業空洞化、雇用）について考える
4）企業および産業のグローバルな社会的責任についての取組みを学ぶ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	グローバル化のなかの現代産業	産業、多国籍企業、グローバル化とポストフォーディズム
第2回	企業活動のグローバル化	輸出、対外直接投資（FDI）、在外子会社
第3回	生産のグローバル化①	生産とサービス、国際分業、輸出加工区、生産連鎖
第4回	生産のグローバル化②	産業の国際化と空洞化、労働（力）の多様化
第5回	製造業の国際的状況と日本のものづくり①	クラスター形成、すり合わせ戦略、アーキテクチャ
第6回	製造業の国際的状況と日本のものづくり②	自動車産業の事例
第7回	製造業の国際的状況と日本のものづくり③	自動車産業の事例（続）
第8回	国際観光業①	国際観光の現状と展望、オルタナティヴ・ツーリズム
第9回	国際観光業②	インバウンド観光振興、ビジット・ジャパン・キャンペーン
第10回	東アジアの地域主義と産業集積・ネットワークの高度化	地域主義、FTA／EPA、東アジア経済交流推進機構
第11回	情報・文化コンテンツ産業にみる新しいグローバル競争	ウェブ2.0、ソフトパワー、ジャパン・クール
第12回	アグロ＝フード・ビジネス　～その国際的状況と日本の政策～	「攻めの農政」、食料自給率、農業の多面的機能
第13回	エネルギー産業	化石燃料、バイオ・エネルギー、クリーン・エネルギー
第14回	持続可能な社会経済のかたち①―産業・企業の取組み―①	国連グローバル・コンパクト、CSR、グリーン経営
第15回	持続可能な社会経済のかたち②―脱資本主義？脱市場？―②	連帯経済、フェアトレード、社会関係資本

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義全体についての理解度を考査する。
平常点評価	40 %	うち20%は、参考文献リストのなかにある書籍についての読書ノートから、個別産業についての知識の習得を考査する。 残る20%は、講義内容に関するミニテスト、あるいは、講義についての感想や質問その他の記入内容から、講義の理解度を考査する。

受講者数が少ない場合には、読書ノートをもとにした発表の機会を設けることもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

図書館で、『日経新聞』や、より専門的な『日経産業新聞』、『日経MJ』、また、『エコノミスト』、『ダイヤモンド』、『東洋経済』、『日経ビジネス』、『ジェトロセンサー』といった週刊経済雑誌などをチェックしてみよう。

また、たとえば、受講生それぞれにとって身近なブランドについて興味を持って調べてみるといったことから、そのグローバルな活動の内容と問題点、あるいは、産業のグローバル化の事例と展望について考えてみてほしい。

教科書 / Textbooks

全体を通じて利用する教科書は定めないが、参考書を講義内容に応じて適宜活用し、その都度明示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『通商白書』、『中小企業白書』、『ものづくり白書』、各年版	経済産業省／ぎょうせい／／経済産業省のHPでも閲覧可能
『国際観光白書』、『訪日旅行誘致ハンドブック』、各年版	日本観光局（JNTO）／国際観光サービスセンター／／
The Global Shift, 5th ed.: Mapping the Changing Countours of the World Economy	P. Dicken／Sage／9781412929554(ペーパーバック版)／
Global Sociology, 2nd ed.	R. Cohen, P. Kennedy／Palgrave／9781403948458(ペーパーバック版)／
『グローバル資本主義―危機か繁栄か―』	R・ギルピン／東洋経済新報社／4492442804／
『フラット化する世界―経済の大転換と人間の未来―』【増補改訂版】上・下巻	T・フリードマン／日本経済新聞社／／2007年の原著新版の翻訳
『グリーン革命』上・下巻	T・フリードマン／日本経済新聞社／／
『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』第12版	P・コトラー＆K・ケラー／ピアソン・エデュケーション・ジャパン／／
『MITチームの調査研究によるグローバル企業の成功戦略』	S・バーガー／草思社／4794215258／
『ネクスト・マーケット』	C・K・プラハラード／英治出版／4901234714／
『マクドナルドはグローバルか―東アジアのファーストフード―』	J・ワトソン（編）／新曜社／4788508362／
『サービス多国籍企業とアジア経済』	関下・板木・中川（編）／ナカニシヤ出版／4779501156／
『クリエイティブ資本論』	R・フロリダ／ダイヤモンド社／9784478001738／
『日米企業のグローバル競争戦略』	塩見・橘川（編）／名古屋大学出版会／9784815805982／
『経験経済―脱コモディティ化のマーケティング戦略―』	B・J・パイン＆J・H・ギルモア／ダイヤモンド社／4478502579／

上記の他、多数の参考書を活用したい。適宜、講義中に紹介したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

経済産業省　http://www.meti.go.jp/
国土交通省　http://www.mlit.go.jp/
農林水産省　http://www.maff.go.jp/
日本貿易振興機構（JETRO＝ジェトロ）http://www.jetro.go.jp/indexj.html
財団法人日本経済団体連合会（経団連）http://www.keidanren.or.jp/indexj.html
トヨタ自動車　http://www.toyota.co.jp/index.html

その他 / Others

国際社会政策論（S） § 国際社会政策論（I）

15489

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

21世紀に入って経済のグローバリゼーションが今後ますます進行すると思われますが、それとともに、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層の国際化が求められています。とはいえ、第一次世界大戦の終結とともにILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を越えて明確に国際化の方向性を示してきました。

本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、つまりグローバル・レイバー・スタンダードからのその大きな乖離の実態を歴史的に解明することを中心的な課題としています。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現れているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図しています。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会政策と国際社会政策の基本的概念をその歴史的発展の中で正確に理解できるようになること。
・日本の労働問題を初めとする多くの労働・福祉・ジェンダー・社会の諸問題に関して国際的な視点から分析できるようになること。
・「社会的公正」と「経済効率」との関係についての国際的経験（例えばCSRやSRIなど）から日本の将来に関する展望を持つことができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修しておかなければならないような科目は特別にありませんが、日常的にテレビや新聞などを通じて、労働問題や社会政策の動向に注目することが求められます。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかについて関心を持つ必要があります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ）社会政策の基礎理論　（1）社会政策とは何か	現実の社会政策、社会政策論、19世紀最大の不況
第2回	（2）社会政策の道義論	ドイツ歴史学派、分配の正義、「講壇社会主義」
第3回	（3）社会政策の政治論	ワイマール憲法、労働者参加の思想、生産政策
第4回	（4）社会政策の経済理論	生産要素としての「労働力」、労働力の創出・保全・掌握政策、譲歩・妥協としての社会政策
第5回	（5）大河内理論の問題性	相対的過剰人口、資本の有機的構成、労働生産性
第6回	Ⅱ）国際社会政策の登場　（1）国際社会政策の概念	国内社会政策、超国家的社会政策、競争条件の平等化
第7回	（2）国際社会政策の内容と性格	労働基準政策、雇用・失業政策、労使関係政策、社会保障政策
第8回	（3）国際社会政策成立への途	ダニエル・ル・グラン、スイスの国際会議提唱、ベルリン会議
第9回	（4）国際労働者保護立法協会の成立	ブリュッセル会議、1906年のベルン条約、1913年のベルン条約案
第10回	（5）第一次世界大戦とILO創設	AFLの1914年大会決議、国際労働法制委員会、ヴェルサーユ条約
第11回	Ⅲ）ILOの機能と日本　（1）ILOの機能と戦前の活動	国際労働総会、国際労働条約、フィラデルフィア宣言
第12回	（2）ILOと日本（そのー）	官選労働者代表問題、ILO第一号条約、日本のILO脱退
第13回	（3）ILOと日本（そのニ）	179号事件、結社の自由委員会、ドライヤー報告
第14回	Ⅳ）現代の国際社会政策　（1）EUの社会政策	ローマ条約、社会憲章、同一価値労働同一賃金
第15回	（2）ジェンダーと国際社会政策	女性差別撤廃条約、ILO156号条約、ポジティブ・アクション

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

既述のように日々のニュースを通じて労働・福祉・ジェンダーに関する世界の動向に注目すると同時に、就活の準備も兼ねて日本の企業や産業の状況について自ら積極的に情報を集めるよう努力して下さい。

また、各講義ごとに内容が段階的に積み重ねられていくために、やむをえない場合を除いて毎回出席しないと理解が困難になりますので、その点に注意して下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度、問題分析能力を評価
レポート試験	20 %	講義に関わる問題についてのレポートを自主的に提出してもらい、その内容（他の著者の文章を引用符も付けずに書き写すのではなく、自分の言葉で解明しているかどうか）の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歴史との関連で国際的な動向について正確に知ることなくして日本社会の科学的分析は困難だと考えられますので、常に国際的な視野からものごとを見るよう努力して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書やテキストは使用せず、毎回講義レジュメや資料を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家とジェンダー・ポリティックス	深澤和子著　／東信堂／／2003年
国際ジェンダー関係論	サンドラ・ウィトワース著・武者小路公秀（代表）監訳　／藤原書店／／2000年
社会政策―国際化、高齢化、雇用の弾力化―	石畑良太郎・牧野富夫編著／ミネルヴァ書房／／1999年
ILOとジェンダー	戸塚悦朗著／日本評論社／／2006年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ilo.org
http://www.socialeurope.com

その他 / Others

国際社会論（S） § 国際社会論（I）

13457

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がいま大きく進んでいます。世界の各国はその中に不可避に巻き込まれています。このことによって、国家の役割が大きく変わったり、また市民権のあり方をも変えつつあります。こうしたグローバル化は、いますべてを市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として進み、このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまで以上に開き、貧困が深刻な問題となってきています。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

1）世界はグローバル化しているのか、しているとすればどのような意味でそうなのかを経済を中心にして理解する。
2）グローバル化を進める多国籍企業について理解する
3）人の移動に伴う市民権概念の変化と多文化の共生のあり方を考える
4）開発途上国における貧困問題を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	グローバル化をめぐる議論	超グローバル化論、グローバル化懐疑論、変容論
2回目	経済のグローバル化－その実態は？	貿易、対外投資、労働力移動
3回目	フォーディズムの危機とグローバル化	いつグローバル化が始まったのか？　なぜグローバル化が進んでいるのか？
4回目	多国籍企業とグローバル化	多国籍企業の定義、企業内貿易、新国際分業
5回目	グローバル化と新自由主義	新自由主義、ワシントンコンセンサス、アメリカ化、対抗ヘゲモニー
6回目	小括・まとめ	補足講義、理解確認のため質問など
7回目	グローバル化と開発　－貧困と格差－	UNDP,国連ミレニアウ目標、貧困、人間の安全保障
8回目	開発理論の展開	輸入代替政策、構造調整、経済開発
9回目	グローバル化と人間開発	アマティア・セン、潜在能力、社会的排除
10回目	グローバル化と開発－貧困と格差	UNDP、ミレニアウム目標、（南北）格差
11回目	グローバル化と市民	反グローバリゼーション、グローバル民主制、グローバル市民社会
12回目	グローバル化と国家	国家とガバナンス、EUとガバナンス、エーレスンド地域にみるガバナンス
13回目	グローバル化と市民権（1）－EUにみる市民権問題	マーシャルの市民権概念、デニズンシップ、国籍とは？
14回目	グローバル化と市民権（2）－多文化共生と市民権	同化政策、文化多様性政策
15回目	日本における市民権問題	外国人労働者、市民権政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で示された参考文献などについては、読んでおくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考査する
平常点評価	20 %	3～4回、出席を取り、それを点数化する

出席点を20点、定期試験80点＝100点として、評価する。
出席表を出す際には、QRコードを使用するので常に持参すること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞の国際欄を読むといい。

教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。特にテキストは指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『グローバル化とは何か』	デヴィッド・ヘルド中谷監訳／法律文化社／／
『人間開発報告』各年度版	UNDP／国際協力出版会／／
『ラテンアメリカは警告する』	内橋・佐野編／新評論／／
『グローバル経済という怪物』	D。コーテン（西川訳）／主プリンガー東京／／
『ヨーロッパの市民権』	宮島喬／岩波新書／／

講義中に適時上記以外にも知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

参加のデザイン論 (S)

15556

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

もはや「参加」を理論化することで事足りる時代ではない。また、制度的・形式的に「参加」を論ずるだけでは不十分である。「参加」を個々人と社会との関わり方や共生の作法としてとらえ、参加の意味と必要性（あるいは必然性）を踏まえながら、実践のなかで「参加」の状況をデザインする態度と力が求められている。
本講義では、環境創造（まちづくり）活動における住民参加・住民主体の事例を紹介しつつ、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割、公共とはなにか、などについて考えていく。あわせて、「参加型まちづくり」を展開するための手法についても学習する。
理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「政治参加」の制度論・政策論ではない。

到達目標 / Attainment Objectives

具体的事例を通して「参加」を概念化するとともに、参加の状況を創りだす（デザインする・マネージメントする）態度と技を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、前期におこなう「居住環境デザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「参加のデザイン」ってなに？	講義の目的と位置づけ
第2回	「参加」の事例を見て考えよう…パート1	コーポラティブハウジング（住み手参加の住まいづくり）ユーコートの事例を見る
第3回	「参加」の事例を見て考えよう…パート2	40年にわたり住民主体のまちづくりに取り組む真野地区の事例を見る
第4回	ユーコートを通して「参加」を考える　その1	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える
第5回	ユーコートを通して「参加」を考える　その2	
第6回	ユーコートを通して「参加」を考える　その3	日本のコーポラティブハウジング
第7回	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その1	まちづくりのプロセスを追いながら、多様な主体が関わる「参加」の特性と成立要件を考える
第8回	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その2	
第9回	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その3	アクティブ参加とパッシブ参加（コミュニティのなかに居場所がある状況）
第10回	市民活動型まちづくりにおける「参加」	「私」からほとばしり出る「公」
第11回	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり　その1	近年の京都の事例を通して、参加における行政や専門家の役割を考える
第12回	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり　その2	
第13回	参加の手法を学ぶ　その1	イキイキとした参加の状況を創る手法である「ワークショップ」の事例を学ぶ
第14回	参加の手法を学ぶ　その2	ワークショップの進め方や考え方を学ぶ（時間が許せばワークショップ実習を行いたい）
第15回	まとめ－参加デザイン論の課題	参加をめぐる哲学・政治学概説＋参加の経験則

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
平常点評価	20 %	適宜（数回／半期）、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望みます。とりわけ第1週・第2週・第3週は問題提起編なので、必ず、絶対、万難を排して、出席のこと（本来講義は出席するものですからこの指示はヘンですが…笑）

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

産業社会学（S）

15525

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル（労働や生活をめぐる生き方）に焦点をしぼり、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、大きく企業社会から新自由主義社会への変容を軸としつつ、雇用（不況）、女性、若もの／子どもなどをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会およびそこに生き／働く日本人の生活スタイルを、理論的／実態的にとらえることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目（現代と社会）、基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1週　講義のオリエンテーション	産業社会学部	社会学
2週　本講義の産業社会学について	産業社会	産業社会学
3週　現代社会と生活スタイル1　現代社会論と日本社会の位置	企業社会	新自由主義社会
4週　現代社会と生活スタイル2　社会学理論と生活スタイル	生活空間／生活史	生活スタイル
5週　現代社会と生活スタイル3　社会学理論と生活スタイル2	本来的志向	手段的志向
6週　日本社会と生活スタイル1　日本人論、日本的集団主義論をめぐって	日本的集団主義	罪と恥
7週　日本社会と生活スタイル2　今までの生活スタイル：私生活志向と企業社会志向	私生活志向	企業社会志向
8週　日本社会と生活スタイル3　両方志向（狭い私生活志向と企業社会志向）をめぐって	両方志向	
9週　日本社会と生活スタイル4　企業社会の病理とその変容	生活優先社会	会社人間
10週　日本社会と日本人の諸層1 働く人々の環境変容	年功制／成果主義賃求	階層化

11週　日本社会と日本人の諸層 2 女性の社会的進出	M字カーブ	母性神話
12週　日本社会と日本人の諸層3 若もの／子どもの意識変容　付　フリーター／ニート現象	知と人間関係	ゆとり教育
13週　日本社会の変容と生活スタイル1　現代社会のこれから	第3の道	日本型新福祉社会
14週　日本社会の変容と生活スタイル 2　日本社会のこれからと新しい生活スタイル	新しい共同性（公共性）	自分たちの社会
15週　まとめ		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

コメントを時には持って帰ってもらい、学んだ箇所の整理と認識、およびそれへの自らのコメントを考えてもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	講義へのコメントをし、全体の成績によって評価に加味する場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント（コミュニケーション・ペーパー）を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。このコメントは、評価に加味する場合もある。決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
浪江巌・木田融男・守屋貴司編『変容する企業と社会ー現代日本の再編ー』八千代出版	／／／
渡辺治『企業社会・日本はどこへ行くのか』教育史料出版会	／／／
佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の人間と社会』法律文化社	／／／
木田融男・佐々木嬉代三編『変貌する社会と文化』法律文化社	／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

自我論 (S)

15518

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

例年通り、コミュニケーション・ペーパーを用いた双方向型講義を行う。本年度の講義では、社会学における日本社会論や「世間学」などを取り上げる予定である。そして考察の中心点は、日本社会の構造原理であり続けてきた「世間」の中に生きる我々の意識と経験の構造はどうなっているのか、である。そして、「世間」という社会編成の原理や、その中での我々の意識や経験が、それ自体我々の人間的可能性に対する阻害要因となっているのだとすれば、さて我々は何をなすべきなのか、について考えをめぐらしてみることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義名からは心理学的内容を連想するかもしれないが、基本的には社会学的視点からの考察である。そして目指すは、社会学的視点から我々自身と日本社会を捉え返す批判的視点を獲得することである。そしてまた、そのような視点に立ちつつ、そこから見える社会的・個人的パースペクティブを言語化できるようになるための基礎的訓練の機会ともしたい。究極的には、社会学が目指す社会的・人間的オルタナティブの提起というものが具体的にいかなるものかを知ることを、到達目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学理論」・「社会学史」・「社会倫理学」・「社会文化論」などの講義を履修していることが望ましい。自分の個人的な体験に寄りかからない次元の想像力や思考力を獲得するために、抽象的な思考の地平を経験してきて欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の主題、展開、手法についての概説、「予備コミュニケーション・ペーパー」(以下CPと記す)	「世間」と「社会」、世間学
2	「予備CP」へのレスポンス、日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(1)	「世間」の構造
3	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(2)	「世間」の歴史①＜平安期・鎌倉期＞
4	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(3)	「世間」の歴史②＜江戸文学＞
5	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(4)	「世間」の歴史③＜近代日本文学＞、CP①
6	CP①へのレスポンス、小括	
7	「世間体」の構造(1)	「世間」の意味
8	「世間体」の構造(2)	「世間」観の変遷
9	「世間体」の構造(3)	「世間」とは何か
10	「世間体」の構造(4)ー「世間」の社会心理①	恥と罪の意識
11	「世間体」の構造(5)ー「世間」の社会心理②、CP②	笑いの文化
12	CP②へのレスポンス、小括	
13	「甘え」の構造(1)ー「世間」の深層心理①	「甘え」現象とは何か
14	「甘え」の構造(2)ー「世間」の深層心理②	「甘え」現象の次元
15	総括 ――「世間」と我々	脱「世間」は可能か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	講義の内容を踏まえた上での、論理的な内容構成力と説得力を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生には少し難しい講義ではないかと思うので、3・4回生での履修を勧めるが、意欲的な2回生の履修はもちろん大歓迎。単位が欲しいだけの学生には無理。みずからの個人的・社会的・文化的経験を意識的に捉え返す、ある意味で厳しい時間になるはずである。そのような心と頭の準備をしてきてもらえればよろしかろう。

教科書 / Textbooks

教科書として特定の著作を使うことはない。講義で使うテキストは、講義の展開に応じつつこちらでプリントして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。紹介する諸著作の中から、各自にとって意義ありと思われるものを読んでもらいたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

資源エネルギー論（S） § 環境技術論（S）

13372

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ライフスタイルと環境負荷の関係を問うものである。
よく知られているように、温暖化をくいとめるために必要な二酸化炭素の削減量は、現状の約60%と伝えられる。この量は、現状の省エネやリサイクル活動を積み重ねることで達成できるレベルをはるかに超え出ているように思われる。これを問題設定の出発点とする。
この問題を根本的に解決していくには、現今の生活スタイルを劇的に転換していく必要がある。基本的にはエネルギー消費を劇的に減らすことであるが、それが可能となるライフスタイルについては、さまざまな選択肢がある。この講義では、現今の技術システム、ライフスタイルがどのような環境負荷をもたらしているのかについて概説し、オルタナティブなライフスタイルを模索していく。

到達目標 / Attainment Objectives

1問題の概要（事実）をつかむこと
2問題を処理する論理の概要をつかむこと

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養の現代環境論をとっていると理解の助けになる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入　資源エネルギーの考え方	資源エネルギー
第2回	地球環境問題概説　1	温暖化
第3回	地球環境問題概観　2	公害論と地球環境問題
第4回	自然史の中の人間	進化　自然
第5回	資源とエネルギー1	エネルギー政策　電力発達史
第6回	資源とエネルギー2	化石燃料　資源寿命
第7回	原子力問題	原子力　放射能
第8回	再生可能エネルギー論1	風力発電　電力コスト
第9回	再生可能エネルギー2	太陽光発電　電力支援政策
第10回	交通体系とエネルギー消費	LRT
第11回	資源とリサイクル　1　概論	3R　消費生活
第12回	資源とリサイクル　2　石油とプラスティック	容器包装法　PET
第13回	資源とリサイクル　3　耐久消費財	家電リサイクル法　PSE法
第14回	資源とリサイクル　4　希少金属	タンタル
第15回	全体まとめ　日本の資源エネルギー政策	エネルギー政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理をよく理解すること

テキストがないので、欠席すると全体の流れがつかめなくなります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

なし

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『エネルギーと私たちの社会』	J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン／新評論／ISBN4-7948-0559-4／
『新・地球環境論』	和田武／創元社／ISBN4-422-40017-7／

随時追加で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中指示します。

その他 / Others

なし

社会階層論 (S)

13363

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の狙いは、受講生が「階層（社会階層）」という概念を理解し、その理解に基づいて日本社会を認識する力を習得することです。「階層」とは、収入などの社会的資源の格差を記述するための概念です。したがって、階層を論じることは「総中流」と言われてきた日本社会の中にある格差を認識することでもあります。講義では、教育、家族、仕事といった身近なトピックと絡めつつ、このテーマについて論じていく予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

社会階層論および関連分野の概念・論理を習得すること。すなわち、そうした概念・論理を用いて（日本）社会を論じることができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。講義では「数字」や「数式」も登場します。しかし、議論の中心は、階層（格差）を維持したり、作りだしたりする仕組みであり、その仕組みを認識するための概念・論理です。「数字アレルギー」「数学アレルギー」の方も毛嫌いせず、受講してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会階層とは何か	社会階層、社会移動
2	階層および階層論の現状(1)	階層、階級、社会移動
3	階層および階層論の現状(2)	社会階層、社会移動、社会的資源の配分
4	現代日本の社会階層(1)	社会階層、社会移動、社会的地位、職業
5	現代日本の社会階層(2)	社会階層、社会移動、開放性
6	現代日本の社会階層(3)	地位達成、階層再生産
7	教育と社会階層(1)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
8	教育と社会階層(2)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
9	教育と社会階層(3)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
10	社会階層とジェンダー(1)	ジェンダー、セグリゲーション
11	社会階層とジェンダー(2)	ジェンダー、セグリゲーション
12	社会階層と家族(1)	家族、世帯
13	社会階層と家族(2)	家族、世帯
14	社会階層と文化	文化的再生産、ハビトゥス
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近年マスメディアには「格差」をめぐる議論があふれています。それらに親しんでおいてください。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

配布のプリントに記載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会ガバナンス論 (S)

15549

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ガバナンス(governance)という言葉は、社会科学の様々な分野で、様々な意味で用いられています。この講義では政治・行政分野における「ガバナンス」を理論的、実証的に示します。

政治・行政の分野ではガバナンスは大きく分けて二つの意味で用いられています。一つは政策の形成過程・運営過程への関係者(住人、NPO、企業等)の参加、もう一つは行政組織の効率化の試みです。両者とも、従来の行政機構(government)が時代のニーズを捉えきれていないことや、行政活動において資源が有効に使われていないことに対する不満から生まれました。

講義では、ガバメントが機能しない理由、ガバメントからガバナンスへの動き、ガバナンスとガバメントの補完関係などについて考えてゆきたいと思います。なお、具体的事例を取り入れながら講義を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

・ガバナンスの必要性を理解していること。
・ガバナンスのための仕組みを理解していること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入:ガバナンスとは何か？	社会ガバナンス、コーポレート・ガバナンス
第2回目	ガバメントとガバナンス	官僚制
第3-4回目	なぜ行政改革が必要なのか？	地方自治改革
第5回目	行政活動をシステムという視点から考える	ネットワーク、資源の交換
第6回目	政策ネットワーク	コーディネート
第7回目	政策ネットワークから見る家族政策の変化	日本型福祉
第8回目	政策決定過程の変容	多元主義
第9回目	小テスト	
第10-11回目	福祉提供の「バランスのとれた」役割分担へ向けて	政府の失敗、市場の失敗、ボランタリーセクターの失敗、福祉多元主義
第12-13回目	NPOの役割	社会サービス、財源、供給、規制・監視
第14回目	政府の役割の変化	財政援助方式
第15回目	まとめ:福祉国家から福祉社会へ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、インターネット上、日常生活の中に見え隠れしている「ガバナンス」の情報に注意しておいて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本問題や概念について理解しているかどうか、また、それを自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。
平常点評価	10 %	出席状況と小テストで判断する。小テストでは、講義内容の理解度を確認する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とかかわらせながら、講義を聞いて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

講義中に適宜、指示します。なお、講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家のガヴァナンス	武智秀之／ミネルヴァ書房／4-623-03772-X／
福祉社会:社会政策とその考え方	武川正吾／有斐閣／4-641-12119-2／

講義中に適宜、指示します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、指示します。

その他 / Others

社会思想 (S)

15540

担当者名 / Instructor　松田 博

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題はますます複雑かつ陰影を伴う分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的文化的生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「人間の安全保障」や「安全社会」などの課題を、自由論・平等論・友愛論という社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げてみたい。社会科学的想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題をとおして、現代社会像を捉える「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい論述能力を身につけるための努力を期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会(科)学の基礎理論。社会(科)学の歴史。社会理論系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　講義計画	
2	メディアのなかの社会像 「8・15の社会思想」	世論、社会イメージ、リテラシー
3	ステレオタイプ論	リップマン、世論、ステレオタイプの功罪
4	エスノセントリズム(自民族中心主義)	サムナー、フォークウエイズ、ナショナリズム
5	権威主義的パーソナリティ	アドルノ、権威主義、社会的性格
6～7	人間の安全保障論(その歴史的背景・基本概念など)	セン、Human Security(HS)、基本的人権
8	中間まとめ　小論文　質疑・討論	HSと人権概念
9～10	国際社会と「人間の安全保障」	寛容、多文化共生、他者理解
11～12	「人間の安全保障」と「ホッブス」問題	ホッブス、『リヴァイアサン』、自然状態
13～14	「ルソー」問題	ルソー、『人間不平等起源論』、『社会契約論』
15	全体まとめ、質疑、レポート注意事項	レポート作成の基本条件

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ(たとえばステレオタイプの実例など)についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点評価	30 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。学生時代の知識は忘れても、一度身に着けたスキル＝技能は、水泳や自転車度同様、忘れないものです。これは脳科学では「エピソード記憶」や「意味記憶」とは異なる「手続き記憶」として知的財産となるものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部のよき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど書く能力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人間の安全保障	A・セン／集英社新書／／人間の安全保障論の基本的文献
貧困の克服	A・セン／集英社新書／／前書を理解するのに有益
フォークウエイズ	サムナー／青木書店／／エスノセントリズム論の古典
権威主義的パーソナリティ	アドルノ／青木書店／／権威主義分析
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／市民社会論など社会思想の検討
自由への大いなる歩み	キング／岩波新書／／キングの代表的著作
ガンジー自立の思想	ガンジー／地湧社／／ガンジー思想の紹介
世論	リップマン／岩波文庫／／ステレオタイプ論の古典

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。「人間の安全保障」に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

ステレオタイプその他本講義でとりあげるテーマは海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽　仮面の上に描くたび　己の顔をうしなう仮面」（現代学生百人一首）。

社会病理学 (S)

15472

担当者名 / Instructor　崎山 治男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、学説史的な展開を踏まえつつ、学生諸氏にとって身近なテーマを取り上げる中で、「社会」病理学の基本的な視点の獲得を目指す。パート1では、なぜ・どのように近代・現代社会に特有の社会病理が登場してきたのかを、社会構造の変化という観点から捉える。主に、「自由」、「平等」、「博愛」といった近代社会で「正しい」とされている考え方が、逆に社会病理を生み出すといった視座を提示する。パート2では、青少年の意識といった側面を社会病理学の視点から掘り下げる。特に、「社会には病理が元々ある」という見方と、「社会病理が社会的に作り出される」という視点との交錯を講義する。パート3では、近年登場してきた「新しい」社会病理への見方を、主に家族臨床から捉え、社会病理学への理解の深化を図る。同時に、「心」を病理とする見方の進展が進んでいる現状に対して、「社会」病理学の視点からそれを懐疑的に見ていく重要性を示す。

到達目標 / Attainment Objectives

・「社会病理」とされる事柄について、社会学的な見方を身につける。
・近代の「善」なる理念が、病理現象を産み出すパラドックスを理解する。
・とりわけ青少年の病理行動の背景を理解する。
・「新しい」病理現象とされる事柄への知識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学史」、「社会学概論」等の基礎的な知識を習得していることが望ましい。近年、マスメディアなどで頻繁に取り上げられる社会問題への関心を持った学生の受講を希望する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	イントロダクション	近代社会の功罪
第二回	Part1:「社会」病理学とは何か:社会構造と社会病理・「自由」であることは良いことなのか?:アノミーという社会心理	アノミー、自由
第三回	「博愛」をどの範囲まで持てるのか?:都市化と社会的連帯の崩壊	アーバニズム、インナーシティ
第四回	「平等」であることはどこまで正しいのか?:「成功神話」の落とし穴	教育、階層
第五回	「勤勉」であるだけで良いのだろうか?:下位文化の光と影	文化的再生産
第六回	Part2:現代の青年意識を「社会」病理学してみる・なぜ「気の合う仲間」が出来るのか?文化的学習理論による「仲間」作り	学習理論
第七回	最近の少年は「キレやすい」のか?:少年犯罪を巡る統計とレイベリング論	統計の陥穽
第八回	少年犯罪は「凶悪化」しているのか?:社会問題の構成主義	マスメディアと少年非行
第九回	地域や家族による支援はどこまで有効なのか:他者との繋がりと紐帯理論	地域、NPO
第十回	「引きこもり」は何故起きるのか?:私事化する社会での青年意識	コミュニケーションの高度化
第十一回	Part3:現代社会の病理の諸相:社会病理の現在・目立つことと目立たぬこと:劇場化する社会	劇場型犯罪
第十二回	なぜ「家族」に問題を求めるのか?:トラウマとアディクション	アダルト・チルドレン
第十三回	「語ること」でラクになる?:ナラティブ・アプローチという相互行為	セルフヘルプ・グループ
第十四回	病理の過剰／病理の過剰:医療化の進展と社会病理	医療化・医療に回収される病理
第十五回	まとめ:「心」の病理と「社会」の病理	「心」の病は本当か?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・毎回指示する、参考課題図書を出来るだけ読むこと。
・各パート毎に、自らの考えを纏めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	授業内容を踏まえ、自らの視点で社会病理を分析出来ているかで判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・社会病理は社会そのものを映し出す鏡である。日頃から新聞やニュース等に注目すること（但し、うのみにしないこと）。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。レジュメ、資料等を必要に応じて配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて紹介するが、社会病理学の学説史を押さえたものとして徳岡秀雄『社会病理を考える』世界思想社、宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣、佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社を挙げておく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会文化論（S） §　文化社会学（W）

15522

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会文化論とは、社会と文化とを一体のものとして捉える方法・領域のことである。つまり社会文化論は、社会を解明するのに文化や習慣・ライフスタイル等を知ることが必要であるとすると同時に、文化もまた社会の中に位置づけられて初めて理解されるとする。この授業では、現代社会における様々な社会文化の現象を、特に諸個人が他者からどのように承認されているか、という視点から取り上げる。というのは、諸個人が「成功した生」を営み自己実現に至りうるためには、他者から様々な形で十分に承認されていなければならないからである。この承認が侵害されるとき、諸個人のアイデンティティに深刻な病理が生まれることになる。この授業では、社会文化の中に現れた承認とコミュニケーションの諸形態と、それが侵害された際の病理現象を具体的に分析することを通じて、現代社会における倫理の形成を考察していきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会文化論の基本的方法、基本概念、基本学説を、隣接する諸領域と関連させながら理解する。
②現代社会における社会文化の基本的特徴を理解し、具体例に即して分析する力を身につける。
③批判理論におけるコミュニケーション・承認についての考察の内容を理解し、現代社会の病理を批判する意義を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会文化をとらえる視点1——フランクフルト学派の文化批判1	アドルノ　文化産業　ベンヤミン　複製芸術
2	社会文化をとらえる視点2——フランクフルト学派の文化批判2	ハーバーマス　生活世界の植民地化　新しい社会運動
3	社会文化をとらえる視点3——フランクフルト学派の文化批判3	ホネット　承認論　病理批判　承認をめぐる闘争
4	社会文化をとらえる視点4——大衆文化論・消費社会論	カルチュラル･スタディーズ　スチュアート・ホール
5	「オタク系文化」と公共圏——ポストモダン、モダンの社会文化1	オタク系文化　ポストモダン　シミュラークル　動物化
6	「オタク系文化」と公共圏——ポストモダン、モダンの社会文化1	オタク系文化　モダン　公共圏　インターネット
7	音楽の社会文化——ジャズ論1	ジャズ　大衆文化　エスニシティ
8	音楽の社会文化——ジャズ論2	ジャズ　文化的承認　疎外
9	コミュニケーションの現在——ケータイ論	ケータイ　ネット縁　極私的対話　モラルとマナー
10	コミュニケーションの病理1——いじめの実態	いじめ　ハラスメント　自己喪失　他者喪失
11	コミュニケーションの病理2——いじめの理論化	ハーバーマスの植民地化論　ホネットの承認論　侵害　心的外傷
12	コミュニケーションの病理3——引きこもり	社会的引きこもり　家族　愛　親密圏　自己決定と自己実現
13	身体の社会文化——スポーツと勝利至上主義	勝利至上主義　スポーツマンシップ　競争　精神性
14	異文化交流の社会文化——ドイツから見た日本	審議的民主主義　社会文化の役割　日本型コミュニケーション　市民的公共性　多文化主義
15	社会文化論のまとめ——新しい倫理へ	社会文化　「成功した生」　自己実現　自己決定　承認とコミュニケーション　病理　新しい倫理

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に取り上げる参考書の何か一冊を、セメスター中にノートを取りながら通読してください。定期試験ではそれを問う出題をします。
試験に役立ちうるように、ふだんから身近な社会文化現象の具体例に注目し、資料等を集めておいてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	評価基準：講義内容を理解し、自分で具体例に応用して考察し、それを表現できているかを問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会文化論の学習にあたっては、自分に身近な社会文化現象を関心と問題意識とを持って取り上げること、先行する研究者や思想家の概念や思考方法を正確に学ぶこと、それらを具体的な現象に応用して考察して表現することが大事です。講義にきちんと出席して正確に学ぶとともに、自分で思考し表現する能力を身につけるように心がけてください。

教科書 / Textbooks

プリントを配布する。視聴覚教材は適宜用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『討議と承認の社会理論』	日暮雅夫著／勁草書房／ISBN978-4-326-10182-5／
『批判的社会理論の現在』	永井彰・日暮雅夫編著／晃洋書房／ISBN4-7710-1462-0／
（上2冊は、ハーバーマスやホネットのフランクフルト学派の理論研究の参考となります）	／／／
『文化論のアリーナ』	文化論研究会編／晃洋書房／ISBN4-7710-1170-2／
『社会文化理論ガイドブック』	大村英昭他編／ナカニシヤ出版／ISBN4-88848-939-4／
（上2冊は、幅広く社会文化論の理論研究の参考となります）。	／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会文化学会ホームページ（社会文化研究の具体例を見ることができます）。
http://japansocio-culture.com/
批判的社会理論研究会ホームページ（批判的社会理論研究が実際にどのように行なわれているかを、見ることができます）。
http://affkt.jpn.org/about/

その他 / Others

授業中の私語は禁止します。従わない場合は、退出させます。
授業中のケータイ・メールは禁止します。従わない場合は、退出させます。
遅刻・途中退出は禁止します。

社会倫理学（S）

15479

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の日本の青少年にとってイジメ経験は最も深く共有された、しかも、生の意味感受性の危機に深くかかわる深刻な経験として成立している。この経験を社会倫理（応答の倫理学）の視点から振り返って、そこに孕まれている実存的諸問題を分析し、あらためて、そこからわれわれの生が直面している問題を自覚しなおすという思考の作業をしてみたい。授業の素材としては、受講生自身のイジメ経験、文学、歌、など、経験を意識化するうえで刺激となるさまざまな生きた材料を多用したい。

到達目標 / Attainment Objectives

自己の経験を哲学的に分析する思考経験をしてみる。「応答の倫理学」と呼びうる代表的思想家の基本観点を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	基礎経験と思想（パースペクティヴ）――イジメ経験を問い返す意義	基礎経験・パースペクティヴ・イジメ経験
第2回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題1	内面的自殺、実存のタマネギ化
第3回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題2	存在の透明化、世界の夢化と他者の消滅、自傷行為をとおしての存在確認
第4回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題3	傍観者化、友情という基礎経験の崩壊
第5回	存在承認による生の解放とジョン・レノンの歌	愛と実存、フランクル、ジョン・レノン
第6回	心的外傷とジュディス・ハーマンからの問題提起	ケアされた経験、ジュディス・ハーマン、治療同盟
第7回	応答の倫理学1――レヴィナス	レヴィナス、傷つきやすさ（vulnerability）
第8回	応答の倫理学2――フロム	応答責任性、フロム
第9回	応答の倫理学3――ブーバー	「私-きみ」関係性
第10回	応答の倫理学3――レイン	自己と他者
第11回	応答の倫理学4――ニーチェとサルトル	暴力のマニ教主義
第12回	応答の倫理学5――フランクル	生の意味への問いのコペルニクス的転換
第13回	実存と意味	実存、意味
第14回	文学と倫理	三島由紀夫、村上春樹
第15回	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	0 %	授業中に課すミニレポートに換える
平常点評価	30 %	授業中に課すミニレポートの評価によっておこなう

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書をよく読み、問題の全体的な相互関連への関心を高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
創造の生へ――小さいけれど別な空間を創る	清眞人／はるか書房／978-4-434-1148-8／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

住民自治論（S）

13496

担当者名 / Instructor　中川 勝雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近代市民社会・近代国家が成立して以降、社会の統治については、すべての構成員の合意に基づいて執行されていくことが追求されようとしている。しかし、経済領域では、市場経済の下で個人の自己責任・競争・規制緩和が重視されている。社会の高度化・複雑化・グローバル化の進展によって、社会の統治と市場経済の関連のありかたについての新たな理論的創造が必要とされている。住民自治は社会の統治と個人の位置・役割を具体的に関連づけて考察できる格好の領域である。日本の近代国家成立以降の住民自治をめぐる問題群の歴史的展開を素材に、これからの住民自治のありかたについて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

1）社会・経済・政治・自治の概念とその関係について理解すること
2）明治維新政府成立以降の日本の地方自治制度と住民自治の動向を理解すること
3）地域社会構造の歴史的変遷と住民生活の変容の関連を理解すること
4）地域諸集団・住民運動・市民活動と住民自治の関連を理解すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習Ⅰ・Ⅱ、コア科目（少なくとも所属専攻科目、基礎社会学）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	住民自治とは何か　その1	本講義の目標：①講義担当者の歴史認識、②現代社会と社会科学
2回目	住民自治とは何か　その2	自治の概念：①自律と自己統治、②完全自治と完全統治、③自治概念の歴史的成立
3回目	住民自治とは何か　その3	地方自治の類型と日本の統治構造：①地方自治の類型、②日本の統治構造、③住民自治概念の　法制度的内容と実体的内容
4回目	日本における地方自治の歴史的展開　その1	戦前の地方制度：①幕藩体制の統治構造、②幕末のむら、③明治維新政府の成立と新しい地方　制度の発足
5回目	日本における地方自治の歴史的展開　その2	戦前の地方制度：①明治地方制度、②明治地方制度の解体
6回目	日本における地方自治の歴史的展開　その3	戦後の地方制度：①戦後国家機構の特徴、②戦後地方自治制度の特徴
7回目	日本における地方自治の歴史的展開　その4	戦後地方自治の確立と中央集権体制の強化：①戦後冷戦構造、②戦後統治体制の成立、③国　家・地方自治体間の中央集権体制の強化
8回目	日本における地方自治の歴史的展開　その5	高度経済成長のひずみと革新自治体の叢生：①高度経済成長のひずみ、②現代的貧困の発生、　③革新自治体の叢生
9回目	日本における地方自治の歴史的展開　その6	戦後統治構造の再編と地方分権化：①中曽根「臨時行政改革」、②地方自治をめぐる支配層の　新たな対応、③地方分権化の進展
10回目	地域社会の歴史的展開と住民生活の変容　その1	戦前の地域社会と住民生活：①村落共同体としての農村社会、②生活組織体としての村落、③　部落自治と行政下部機構の二重構造
11回目	地域社会の歴史的展開と住民生活の変容　その2	戦後の地域社会と住民生活：①都市化（型）社会としての地域社会、②地域住民の共同生活条　件
12回目	住民自治組織と市民活動　その1	住民自治組織と住民自治：①地域各種団体、②町内会・自治会、③地域共同管理論
13回目	住民自治組織と市民活動　その2	住民自治組織の発展形態と市民活動：①住民自治組織の発展形態、②市民活動（ボランテイ　ァ、NPO）
14回目	住民自治組織と市民活動　その3	新しい地域社会形成の取り組み：①都市の事例、②山間地域の事例
15回目	住民自治論のまとめ	住民自治論の課題と展望

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
転換期の社会と人間	佐々木嬉代三・中川勝雄／法律文化社／／
人間らしく生きる福祉学	加藤直樹他／ミネルヴァ書房／／
労働世界への社会学的接近	中川勝雄・藤井史朗／学文社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人口論（S） §　生活構造論（S）

15610

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

マルサスが「人口の原理」で提起した「食糧と人口の関係に関する命題・仮説」の再考をこの講義の「縦糸」とし、人口再生産と生活構造の関係に関する知識・理論を「横糸」とします。そして日本の過去300年の人口規模と人口行動（経験）を、歴史人口学と生活構造論の視点からデータに基づいて概説していく。そうして、現代の先進諸国と開発途上国の人口問題・生活問題の本質を理解する一助とします。トピックは、人口維持と生活水準、人口の少子・高齢化、飢饉疾病と危機的死亡増、中絶と生活水準など。

到達目標 / Attainment Objectives

人口を長期的に観察するどういうメリットがあるのか。日本の歴史人口学と生活学の成果、オリジナル資・史料、省庁公開データなど具体的データ・事例検討を通じて理解し、予測することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論（講義解題、基礎概念、人口の現在）	マルサスの命題、人口の定義、世界の人口問題、現代日本の人口問題、world population clock
2	VTR－1「寿命」（アフリカ・シエラレオネ）＋（小ペイパー）	シエラレオネの概要、乳児死亡、平均余命、GIS data map
3	人口再生産と生活構造－Ⅰ	生活構造概念の生成史、サラリーマンの誕生、家族論
4	人口再生産と生活構造－Ⅱ	家族論、家計論、支出曲線と家族周期
5	VTR－2「サラリーマンの誕生」（日本）＋（小ペイパー）	東京市、産業化・都市化、明治大・正期、腰弁、学歴と賃金（帝大卒と私大卒）
6	人口再生産と生活構造－Ⅲ	労働力の保全、生活時間・空間論
7	人口再生産と生活構造－Ⅳ　world population clock	階級・階層論、現代日本の人口規模・構造（populaion bonus, population onus）・2050年予測
8	VTR－3「医療革命・集団検診」+（小ペイパー）	昭和農村の戦前・戦後（人口増加への助走）、佐久病院、病気と呪術、栄養水準、女性
9	近世人口論－Ⅰ（人口データの取得）	江戸システム、幕府・諸藩の文書体系、細川氏の人口調査
10	近世人口論－Ⅱ（人口データの取得）	村方・町方の文書体系、村絵図の世界、 幕府・諸藩の人口調査、 人口史料の取得法
11	近世人口論－Ⅲ（東北・太平洋諸藩の人口）	なぜ東北地方か？　仙台藩のアウトライン、推計結果の検証
12	VTR－4「20世紀の食糧生産」（インド、アメリカ、カザフスタン）＋（小ペイパー）	マルサスの命題、緑の革命、略奪農法/有機農法、遺伝子操作
13	近世人口論－Ⅳ（凶作・飢饉と栄養供給）	過去帳、天保飢饉、栄養（カロリー）供給－異常年と平常年〖GISデジタルマップ〗　庶民の暮らし、出産/出生比、人口調節（sex selective）
14	近世人口論Ⅴ（東北諸藩の人口対策）　world population clock	近世末期の人口減少対策：社会調査、移民・植民、育児支援
15	近代日本人口論Ⅰ（東北の藩・県）	東北日本の凶作経験と食糧生産・人口移動〖GISデジタルマップ〗 結論（マルサス命題再考）－講義まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。
平常点評価	0 %	

授業進行その他の理由で授業スケジュール・VTR・CD視聴日などに変更が生じる時は、事前に教室でアナウンス。必要に応じて出席を3～4回とり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
18・19世紀の人口変動と地域・村・家族―歴史人口学の課題と方法―	高木正朗／古今書院／978-4-7722-4114-4／授業に直接関連した参考書
人口で見る日本史	鬼頭　宏／PHP研究所／978-4-569-69204-3／日本人口の規模を通史的に概観した入門書
人口学への招待―少子・高齢化はどこまで解明されたか―	河野稠果／中公新書／978-4-12-101910-3／現代日本の人口問題の入門書
我が国の人口動態	厚生労働省大臣官房統計情報部（編）／厚生統計協会／最新版／日本の人口動態指標をコンパクトにグラフ化（安価に入手可能）

人口学の基本用語は「人口学大事典」（日本人口学会,2002）を参照するとよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mhlw.go.jp/（厚生労働省HPの統計を参照）、www.cao.go.jp/（内閣府HP）
www.stat.go.jp/（総務省統計局HP）、www.ipss.go.jp/（国立社会保障・人口問題研究所HP）
google, yahooなどで省庁・機関名を入力してアクセス。

その他 / Others

◎VTR・CDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布する。②残りは、次週まで（1週間）以学館レジュメboxにおかれる。

精神分析論（S）

20308

担当者名 / Instructor　村本 詔司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

わが身に関わるこの上なく重要なことでありながら、自分でも気づいていないこと、そのありかを昔の人はあの世や霊界に想定し、現代人は無意識に求める。私は何に突き動かされて生きてきたのか？私は何に向かって生きているのか？わたしは誰か？私の心の中で何が起こっているのか？

こういった誰にとっても気になる問題に取り組む精神分析は、20世紀の最も代表的な心理療法の流れであるだけでなく、それなしには現代社会を理解できないとさえ言える思想、精神運動、社会文化現象でもある。

本講義では、種々の関連文献や関連サイトを紹介しながら、広い意味での精神分析（意識以外に無意識も認める深層心理学、力動心理学と称される）を代表する3人、フロイトとアードラーとユングの生涯と思想と後継者たちにおける展開を紹介する。最初の3日間の最後の時間は、深層心理学に関連する映画等（タイトルは未定だが、いずれにせよ、比較的見る機会の少ないもの）を鑑賞し、心理学的な映画の見方あるいは映画に示唆される人間理解を学ぶとともに、現代文化における心理学の役割や功罪を冷静に見つめるきっかけを提供したいと思う。できるだけ、DVD,CD、OHC、PCなどの視聴覚教材を駆使して授業内容の理解を促進したい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）教養としての精神分析を学ぶことを通じて、人間や社会文化、歴史についてのリテラシーを広め、深めること。
（2）基本的用語に英語で馴染む。
（3）心理臨床関係の仕事を志望するものにとってのある程度の準備。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定しないが、広く人文科学的教養を身につけられるような科目を意識して履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションとフロイトの精神分析（1）	ユダヤ、ウィーン、唯物論、ヒステリー、性の欲動と自我
第2回	フロイトの精神分析（2）	意識と無意識、快楽原則と現実原則、エディプス・コンプレックス、死の本能
第3回	フロイトの精神分析（3）	文化の解釈、フロイト以降の精神分析の展開
第4回	深層心理学と文化（1）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第3回の後半から始まる可能性がある。
第5回	アードラーの個性心理学（1）	劣等感と優越感、自分だけの理屈、思い込み、ライフスタイル、人生目標
第6回	アードラーの個性心理学（2）	共同体感情、ホーリズム
第7回	アードラーの個性心理学（3）	アードラー以降の展開：フランクルのロゴテラピー、人間性心理学、現存在分析
第8回	深層心理学と文化（2）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第7回の後半から始まる可能性がある。
第9回	ユングの分析心理学（1）	運命としてのキリスト教、内向性と外向性、コンプレックス
第10回	ユングの分析心理学（2）	元型（自我、ペルソナ、影、アニマとアニムス、自己）
第11回	ユングの分析心理学（3）	錬金術、シンクロニシティ、宗教
第12回	深層心理学と文化（3）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第11回の後半から始まる可能性がある。
第13回	思想史における無意識（1）	近代以前と近代における世界観・人間観、科学技術と啓蒙思想、ロマン主義、ゲーテとワーグナー
第14回	思想史における無意識（2） 現代社会における心理学	心理学人間、心理主義、ケアの管理
第15回	まとめと検証テスト	授業内容を振り返り、授業の理解度を問う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

オンライン百科事典Wikipedia（日本語版、できれば英語版も）の関連項目の説明に目を通しておくこと。ただし、記述の真実性に関しては慎重であること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	基準：授業内容の理解、授業への積極的姿勢、授業内容の創造的活用、独創性 予想されるテーマ： ①授業で取り扱った事柄について ②授業で鑑賞した映画の心理学的解釈あるいは映画が示唆する心理学的人間理解 ③授業の感想

①②③いずれも1201-1600字。

平常点評価	80 %	最後の時間（第15回）に実施する。授業全体の内容の理解を問う。 出席。コミュニケーションカードの提出。授業内容の理解、授業への積極的な取り組みなどを主な基準とする。積極的な姿勢と取り組み。毎回の終わりに授業内容理解のチェックを行い、正答をもって出席とみなす

まず非常に重要なことを述べておく。すなわち、レポート試験と平常点評価の両方を受けていることが単位認定の前提であり、たとえ平常点評価が非常に高いものであっても、レポート試験としてのレポートを提出していなければ、単位は認定されない。

毎回終了時に、その回の内容を理解しているかどうかをチェックする設問を行い、その答えを出席カードの裏に書いて提出してもらうことにする。正答をもって出席とする。

レポートのテーマは、現在考えている時点では、①授業で取り扱った心理学者、思想家、芸術家を一人選んで、考えるところ。②授業で提示し、リストに挙げた映画、文学作品、劇、音楽などをひとつ選んで、考えるところ（心理学的解釈、心理学への示唆など）。③授業の感想。①②③いずれも、サイズは1201-1600字。

受講生の数などが明らかになった時点で、授業の内容や予定、方法を若干変更する必要が生じた場合は、授業開始前までに前もって連絡する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に先立って、あらかじめWikipediaなどで授業に関連する項目を読んでおくと、より有利な条件で授業に臨むことができて、授業がよりわかりやすくなる。

集中講義で夏の暑い毎日、朝から夕方まで連続授業を行うので、注意の集中力をいかに持続させるかが課題でとなろう。休憩時間にしっかりと気分をリフレッシュして、新たな気持ちで授業に臨むこと。

授業内容に関する質問は、講師の個人ホームページ（http://www5d.biglobe.ne.jp/~shojimur/）のトップページからメールで行うことができる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガ　フロイト入門	／ブルーバックス／／OHCでも提示する
知的常識シリーズ　ユング	マギー・ハイド／心交社／／絶版状態。OHCで提示する
Adler for Beginners	Anne Hooper & Jeremy Holford／Writers and Readers Publishing, Inc.／／OHCでも提示する

特になし。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
援助者のためのフロイト入門	村本邦子／三学出版／／
フロイト著作集	フロイト／人文書院／／
ユング・コレクション	ユング／人文書院／／品切れ状態になっているものが何巻かある。
ファウスト　第一部・第二部	ゲーテ／岩波文庫、新潮文庫、中公文庫など／／
アドラーの生涯	エドワード・ホフマン／金子書房／4-7608-2139-2／

フロイト、アードラー、ユング関係で比較的廉価な書物がたくさん出回っており、ここにはあえて列挙しない。各自amazon.comなどで検索して、それぞれの著者の立場に注意しながら、目を通すことをお勧めする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Wikipedia（日本語版、英語版）の関連項目
日本精神分析協会http://www.jpas.jp/
日本精神分析学会http://www.seishinbunseki.jp/greeting.html
日本アドラー心理学会http://adler.cside.ne.jp/
アドラー心理学ネットワークhttp://homepage3.nifty.com/adlerian/
ユングネットhttp://www.asahi-net.or.jp/~we7n-hkt/jung.html
ゲーテ自然科学の集いhttp://www.cc.okayama-u.ac.jp/~ohtaro/goethe-natur/index.htm
日本ワーグナー協会http://www.wagner-jp.org/

その他 / Others

生命倫理学（S）

15700

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

生命科学と先端医療の急激な発達により，「生・老・病・死」の諸相は大きく変容しようとしている。本講座では，生命倫理の問題群の倫理的・法的・社会的な問題を考える。
本年度はとくに先端医療の発達と「生命の終わり」をめぐる問題に焦点を当て，そこから考察を発展させる。

到達目標 / Attainment Objectives

・生命倫理をめぐる現代的課題を認識する。
・一市民としてどのように問題を理解し対処すべきか，多角的・多元的に判断するための基盤を獲得する。
・「安楽な死」「尊厳ある死」の言説をめぐる問題についての認識を深め，分析し，考察するための観点を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期に開講されている同担当者による教養科目「生命科学と倫理」を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	ガイダンス／授業の概要と説明	
2.	導入：映画『海を飛ぶ夢』が問いかけるもの（1）映画視聴	
3.	導入：映画『海を飛ぶ夢』が問いかけるもの（2）論点の抽出	
4.	死の「再定義」：「脳死」という基準の登場と背景（1）臓器移植という問題	
5.	死の「再定義」：「脳死」という基準の登場と背景（2）「植物人間」がもたらす表象	
6.	カレン・アン・クインラン事件（1）事件の概要と裁判の経緯	
7.	カレン・アン・クインラン事件（2）ヒポクラテスの誓いと医学	
8.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（1）慈悲による死	
9.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（2）ナチス・ドイツ下の「安楽死」計画	
10.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（3）ナチス後の安楽死運動	
11.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（1）自律原則と「死ぬ権利」	
12.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（2）ホスピス・ムーブメントとメメント・モリ	
13.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（3）スピリチュアリティ・ブームとデス・エデュケーション	
14.	隠された問い：経済をめぐる問題	
15.	残された問い：承認をめぐる問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

生命科学と生命倫理に関連する問題は，ドキュメンタリーや新聞などで日常的に話題になる。また，医療問題をとりあげた映画やTVドラマも多い。複眼的な視点で活用し，自らの問題意識を深める機会にしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	40 %	出席の他、授業終了後に，コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。

一定以上の出席が無い場合，評価対象としない
授業中の私語、途中入退出は厳禁します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生死の問題は，誰もが自分自身の歴史のなかで自分自身を織り込んで考えることのできるテーマである。問題から「自分」を棚上げせず，自身を織り込んで考えることを大切にしつつ，そこにとどまることなく，生死をめぐる社会構造や法理・諸制度の変遷，死をめぐる言説の歴史について，授業で紹介する資料をもとに，各自が自主的・積極的な学習を進めてほしい。

教科書 / Textbooks

大谷いづみ『「尊厳死」言説の誕生』(仮題，勁草書房，2009)を刊行予定。後期開始までに出版されていればそれを用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脳死・臓器移植の本当の話	小松美彦／PHP新書／／
死ぬ権利——カレン・クインラン事件と生命倫理の転回	香川知晶／勁草書房／／

参考文献は以上のほか、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

多文化共生論（S） § 多文化共生論（I）

15496

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）多文化性について理解する。
2）自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する
　方法を理解する。
3）多文化共生問題の本質を理解する。
4）問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5）具体的に提案し活動していく力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入：映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出（以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する）
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？ Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？ Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験（60点）
平常点評価	40 %	レポート4回（40点） ＋その他の感想レポートを総合評価する

ただし、受講生数によっては、最終講義試験をやめて、レポート4回と最終レポートによる総合評価へと変更する可能性もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。な ぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

多文化コミュニケーション (S) § 多文化コミュニケーション論 (S)

20364

担当者名 / Instructor　森田 ゆり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

多様性(diversity)と人権と理解は、21世紀のグローバル社会が共有する最重要理念であるのみならず、個別の企業、行政、民間におけるマネジメントと人材育成に不可欠な研修テーマである。
ここで言う多様性とは、人種・民族や地域性の違いにとどまらず、ジェンダーの違い、性的指向の違い、障害の違い、世代文化の違いなどをも含む広い意味での文化の多様性を指す。
人権を尊重し、文化の多様性を尊重しようと呼びかけるのは簡単だが、それを実践することはたやすいことではない。個性の尊重を掲げながら、個性を抑圧する教育が行われている現実を見ることはしばしばである。一般に社会は放っておくと、異質の文化を拒否、排除しようという力学が動いてしまうようだ。異質の文化や新しい価値観を受容するためには、社会は意識的な努力を必要とする。
文化の多様性を尊重する社会システムは、適切なルールの設定と同時に、互いを理解し合おうとする積極的なコミュニケーションを必要とする。
多様性トレーニングとは、そのための人権認識と知識とコミュニケーションスキルを提供するものである。本コースは、その多様性トレーニングを参加型の手法を駆使して職場や学校で実施することのできるトレーナー／ファシリテーターを養成する。

到達目標 / Attainment Objectives

目的goal:参加型の多様性・人権研修の理論とスキルを持つ多様性トレーナー／ファシリテーターを養成する。
目標objectives:上記の目的のために、参加者が以下のことを学ぶことを目標とする。
1. 参加型研修ファシリテーターとして必要な理論と方法を学ぶ。
2. 多様性/人権啓発・参加型研修の具体的方法を学ぶ。
3. ファシリテーターに必要な実践上のスキルを学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~3	イントロダクション 研修の目的と目標 約束事の確認p.67 参加者の自己紹介アイスブレーカー:わたしのイニシャル＋他人紹介 テキストの使い方 採点基準の説明 参加型学習の理論 フレームワークの重要性:多様性受容力の三つの輪p.42～ 参加型体験学習の理論 ファシリテーターとトレーナーp.40 参加型研修の4要素:目的構成　行動配慮p.49～	宿題 「エンパワメントと人権」p.1～44とp.175～197を読んでくる。 「多様性トレーニングガイド」はじめにi～xiip.3～23を読んでくる。
4～6	チェックイン約束事確認、きのう一日のことで、気のついたこと、聞きたいこと、 アイスブレーカーMY　Name アイスブレーカーとは　p.79 アイスブレーカーの条件 ファシリテーターに求められる7条件と7つ道具　p.65 多様性と人権の理論 多様性・多文化共生とは何か　p3 差別する側　vs　差別される側の図式を超えて エンパワメントと人権	宿題　参加型研修の4要素とその構成を覚える
7～9	チェックイン約束事確認、今迄で、気のついたこと、聞きたいこと、話したいこと、 参加型研修の進め方のステップ　p51 「有名人クイズ」 「読み書きの困難」 「マットの話」のアクティビティーをしてファシリテーションの技術を習得する ファシリテーションのモデリング:基本ステップと7つ道具の使用を習得する。	宿題　明日の小テストの準備

10～12	小テスト アイスブレーカーわたしに縁のある動物p.86 知識の研修 多文化リテラシー　p.181~186 アクティビティー　「プレクイズ」「モザイクゲーム」など スキルの研修 コミュニケーションとノイズp.223 コミュニケーションスキル：人の話を聴く、アサーティブネス、対立の仲介者	
13～15	総まとめの演習 アクティビティー「スダチゲームⅠ」から3日間の復習 多様性社会に求められるリーダーシップは雁行型p.260～264 クロージング 目的はどの程度、達成されたかのふりかえり コメントシート 学びのフォローをいつ、どこでするか 学んだことをどこでどう生かすか 感謝したい人	提出レポートについての説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業の中で説明する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストの「エンパワメントと人権：こころの力のみなもとへ」（森田ゆり著　解放出版社1998年）を受講前に読んでおく。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「多様性トレーニング・ガイド：人権啓発参加型学習の理論と実践」	森田ゆり著／解放出版社／ISBN4－7592－2327－4／2000年
「エンパワメントと人権：こころの力のみなもとへ」	森田ゆり著／解放出版社／ISBN4－7592－6040－4／1998年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.geocities.jp/empowerment9center/　エンパワメント・センター

その他 / Others

都市政策論（G）

13319

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のグランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

都市の地域特性の把握方法、地域特性に対応した政策立案の実例についての知識、政策技法のトレーニング

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「都市論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	教養としての「まちづくり」 －都市政策を学ぶ意義を考える－	まちづくりコーディネーターの職能
第2回	景観の扉を開けると、「まちづくり」が見えてくる	景観、景観保全地区、景観機構、ランドマーク、京町家、国家戦略
第3回	京町家の再生　－市民社会と地域社会－	パリ、パッサージュ、京都の袋路、細街路、密集市街地、建築基準法
第4回	京町家の再生②	国際戦略とファンドレイジング
第5回	住民自治組織の持続性と多様化	京都の都心部のまちづくり活動と住民組織
第6回	コミュニティのパワーが地域を再生する	学区のまちづくり活動
第7回	企業とのパートナーシップで拓く「まちづくり」	住宅開発の新しいシステムの紹介
第8回	地域まちづくりに行政はどう関わるか	行政マンの苦悩を考える
第9回	リサーチ・デイ①	フィールドワーク
第10回	まちづくりとNPO	第二次ハーレムルネッサンス、タイムズスクエア、コモングラウンド、自治体行政
第11回	都市の危機管理①　阪神大震災の教訓	自然災害、人災、復興計画、マンション建て替え問題、コミュニティ
第12回	都市の危機管理②　グラウンド・ゼロの復興をめぐる攻防	建築家、コンペ、政治、闘争、妥協
第13回	都市の危機管理③　犯罪都市の増加と対策	ロンドン、犯罪、監視カメラ、移民排斥運動、コミュニティ、ネットワーク
第14回	人権コミュニティの創造	京都、被差別部落、人権、文化、近代化遺産、保存運動、まちづくり、京都再生
第15回	リサーチ・デイ②	フィールドワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
まちづくりコーディネーター	リム　ボン（編）／学芸出版／／2009年9月刊行予定

開講までに教科書を必ず購入しておいてください。

参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

＊学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。

＊試験の問題はすべて授業中に解説した内容をもとに作成します。

都市論 (S)

13274

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

古代から未来までの時間軸で都市の歴史的変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテクストを解読する能力を養うことを目的としている。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史都市の概念の把握、都市の基本構造の理解、京都を舞台としたフィールドワークの実践力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	歴史都市の光と影	歴史都市、京都、ニューヨーク、プラハ、フィレンツェ、北京、空間、建築
第2回	京都の近代化と都市政策	明治維新、遷都、都市再生、町衆、番組小学校、先端技術、伝統と革新の融合
第3回	京都の地下水脈と都市文化	水上都市、伝統産業、下賀茂神社、上賀茂神社、風水思想
第4回	竜安寺の石庭と京都文化	仏教、石庭、被差別部落、襖絵、ニューヨーク、中国
第5回	ニューヨーク①・マンハッタンの誕生から現在まで	氷河、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第6回	ニューヨーク②・マンハッタンの20世紀	ボヘミアン、経済の隆盛、都市文化の開花、ハーレム・ルネッサンス
第7回	ニューヨーク③・第二次ハーレムルネサンス	アフリカン・アメリカン、ハーレム、スラム、都市再生、NPO
第8回	ニューヨーク④・国連ビルの建築をめぐる建築家たちの攻防	ル・コルビュジエ、建築家、デザイン、権力闘争
第9回	リサーチ・デイ①	フィールドワーク
第10回	ベルリン①・都市文化の紹介	ドイツ、東西冷戦、建築、都市構造、食文化、経済
第11回	ベルリン②・都市構造	古地図、ヒトラー、近代都市計画、統一ドイツ、労働者
第12回	上海の都市と建築	外国人租界、経済成長、未来都市、再開発、住民の立ち退き
第13回	京の都市文化	首都機能、都市設計、四合院の建築、オリンピック、再開発
第14回	韓国の都市文化	ソウル、釜山、植民地経営、近代化遺産、日本町、保存と再生、清渓川の再生
第15回	リサーチ・デイ②	フィールドワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

参考書等は授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

＊学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。
＊試験の問題はすべて授業中に解説した内容をもとに作成します。

日本経済論（S）

13354

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の
景気回復状況および国民生活の諸相について、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「現代経済論」
と連結しておりその後半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	はじめに－日本経済の概況	
2.	市民社会と企業社会	
3.	大企業体制の2類型	
4.	国家財政の動向	
5.	勤労者層の賃金構造	
6.	同上．労働諸条件	
7.	外国人労働者問題の現状	
8.	農民層の経済生活条件	
9.	中小企業経営の現状	
10.	国民の所得構成	
11.	同上．資産構成	
12.	社会保障の現状と問題点	
13.	住宅・土地問題	
14.	まとめ	
15.	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

比較家族論（S）

13477

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

家族は労働力の生産・再生産の核である。市場労働、ケア労働の双方が、先進国・開発途上国などそれぞれの地域や国家で、性や年齢によって分配されている。そのシステムが、家族の担う役割、形態や構成、家族と個人の関係の多様性・共通性を産む土壌となることを、近年蓄積されつつある各地の家族や労働に関する調査研究に依拠して、考察する。
その視点から、先進国や途上国の家族と個人を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

各国・地域の家族の多様性を理解すると同時に、それを生み出す土壌について考える際の、ひとつのとらえかたを獲得する。また、その多様性を貫いてジェンダー関係が織り込まれているという共通性を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代家族論・比較ジェンダー論・国際家族論と関連しているので、平行して履修してほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1－2	1．枠組み 1）生産労働・再生産労働のジェンダー分割と家族	資本制・性別職務分離・ヴェロニカ・ビーチー
3－4	2）労働のグローバルなジェンダー編成－国際分業とジェンダー 3）まとめ	主婦化　氷山モデル　マリア・ミース
5－6	2．途上国の家族と労働 1）1）インフォーマル・セクターの発見	生活時間　アンペイド・ワーク
7－10	2）ジェンダーと開発	キャロライン・モーザ　マイクロ・ファイナンス
10－11	3）途上国の事例から	南アメリカ・アフリカ
12－13	3．女性労働の国際移動と階層化 1）東アジアの国際分業と女性	フィリピン・インドネシアなど
14	2）福祉国家と移民女性	ノルウェー・底辺労働・移民女性
15	全体のまとめ	労働力の女性化　多様性と共通性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	30 %	講義の柱に即して小レポートを課す。

適宜コミュニケーションペーパーを提出してもらう。質問・意見交換の機会として利用してほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は手がかりの提供である。講義中に指示する文献を読み、講義内容を深める努力をしてほしい。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

講義の際に、適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義の際に、適宜指示する。

その他 / Others

比較ジェンダー論 (S)

15527

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

男女の「社会的文化的につくられた性差」ージェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、身の回りの様々な場面をジェンダー状況という視点で見直すことの出来る力量を身につけること。同時に、世界各地についてもその視点を生かした理解の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家論などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー(1)
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用ー続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー(2)
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオ	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当て
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめー日本社会のジェンダー状況ーなぜ前進しないのかー	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。

小レポートを数回行う、理解度の確認などコミュニケーション・ペーパーとして活用する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の進捗状況によって、講義日程と内容に変更を加えることがある。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献・資料等は、講義において適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義において適宜紹介する。

その他 / Others

私語・飲食は慎んでほしい。

比較宗教論（S）

13358

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間の普遍的行為（生き、他者を愛し、死を迎える）への対処法を、比較宗教の視点で通文化的に考察し、個々の価値を信じる他者を理解できる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間はだれでも、有為転変するこの世間で、軽蔑をうけ不安のなかで生きるよりも、誇りと自信をもって生きるほうが、よほど快適である。そのための「知恵」は、人類が長期にかけて蓄積してきているので、われわれはそれを古典から容易に入手できる。世界の宗教・思想が定式化した知恵を素材とし、自分の生き方を形成していけば、個として「現在を生きる力」を構築することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	文化圏とエートス、セクト、支配の諸類型、3つの徳性（合理・論理・倫理性）
2	中国・東アジア文化圏の宗教（1）：氏族と「個」の葛藤（1）	「論語」の世界：孔子「仁＝博愛」の発見、魯迅「阿Q正伝」、師弟関係、葬儀
3	中国・東アジア文化圏の宗教（2）：氏族と「個」の葛藤（2）	「孟子」の世界：4端説、孝道にみる「古代的心性」、宗法と国法
4	中国・東アジア文化圏の宗教（3）：アジア的知識人と隠遁	「老子」「荘子」の世界：玄牝、無為自然、混沌・幽玄、「胡蝶の夢」、逃げるが勝ち
5	中国・東アジア文化圏の宗教（4）:血の連帯、「社会」と「個人」の欠如	◎VTR－1『土楼の生活』＋ 小ペイパー（communication paper）
6	インド・ヒンドゥー文化圏（1）：民族移動と哲学創成	ウパニシャッドの世界：アーリア人（「リグ・ヴェーダ賛歌」）、アートマンとブラフマン、バラモン
7	インド・ヒンドゥー文化圏（2）：民族移動と言葉の誕生（印欧語族とノストラ祖語）	◎VTR－2『言語の起源』（印欧語族を中心に）＋ 小ペイパー
8	インド・ヒンドゥー文化圏（3）：ダルマ・アルタ・カーマ	「マヌの法典」の世界：人生の5周期、euthanasia、疎林と錬行、マヌ法典の女性
9	インド・ヒンドゥー文化圏（4）：出家とニルバーナ（1）	ブディズムの世界：釈迦「苦の発見」、諸学習合、密林と輪廻転生、日本仏教
10	インド・ヒンドゥー文化圏（5）：出家とニルバーナ（2）	◎VTR－3『ブッダの生涯』（バラモン、ヒンドゥー教との相違）＋ 小ペイパー
11	ユダヤ・キリスト教文化圏（1）：部族宗教の論理	「旧約聖書」（映画「ユダ・ベンハー」））の世界：モーセ、十戒、「罪の発見」（Ⅰ）
12	ユダヤ・キリスト教文化圏（2）：「世界宗教」の論理（1）	「新約聖書」（映画「パッション」）の世界：ユダヤ教の隘路とキリスト教、「罪の発見」（Ⅱ）
13	ユダヤ・キリスト教文化圏（3）：「世界宗教」の論理（2）	「新約聖書」（映画「オリバー・ツイスト」）の世界：キリスト教の隘路、ユダヤ問題（ディアスポラ）
14	ユダヤ・キリスト教文化圏（4）：「世界宗教」の論理（3）	◎VTR－4『イエスの生涯』（キリスト教の起源）＋ 小ペイパー
15	ギリシア・ローマ文化圏：ヨーロッパ文明の基礎 講義の結論／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	「イーリアス」「オデュセイア」「アエネーイス」の世界：古代人の生と死、来世・葬儀・墓参 ◎ギリシアJPG画像

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。

授業進行上の理由・その他の理由で、講義スケジュールやVTR視聴日に変更が生じるときは、事前に教室でアナウンスします。必要に応じて出席を3～4回とり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業スケジュール」に挙げた映画・小説・エセー・古典を、下記「参考書」に挙げた本を、1つでもみておくことを勧めます。国際社会で活躍するとき、共通の話題にできるでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
思想をどうとらえるか―比較思想の道標―	中村元／東京書籍／4-487-72157-1／世界思想の核心をわかりやすく解読
孔子・老子・釈迦「三聖対談」	諸橋轍次／講談社学術文庫／4-06-158574-6／東アジアの比較宗教を論じた名著
ヨーガ禅道話	佐保田鶴治／人文書院／4-409-41008-3／仏教・ヒンドゥー思想の血肉化の一典型を示す著書
福音書	塚本虎治訳／岩波文庫／4-00-338031-2／イエス・キリストの行動記録（生涯がわかる）
古代ローマ人と死	K. ホプキンス／晃洋書房／4-7710-0896-5／ローマ人の生活・死・葬儀・墓地墓石
古代ギリシア人と死	R. ガーランド／晃洋書房／978-4-7710-1998-0／アテナイ人の生活・死・葬儀・墓地墓石

その他は「授業スケジュール」に挙げた映画、小説、エセー、古典。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

用語、その概念などは「世界宗教大事典」で確認するとよい（yahoo, googleによるキーワード検索は、あくまで第１次情報とし、「辞書・辞典類」に依拠すること）。

その他 / Others

◎VTR・CDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布する。②残りは、次週まで（１週間）以学館レジュメboxにおかれる。

比較政治論（S）

15541

担当者名 / Instructor　國廣 敏文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人類はこれまで様々な政治制度や体制を経験してきた。だがこれまでに試みられてきたどの政治制度も、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など、人々の生活を十全な形で、平和で公平で安定したものとすることには成功していない。本講義は、こうした状況を踏まえ、主要先進国の政治システムの構造・機能・動態を相互に比較・考察することによって各国政治の特質と問題点とを抽出し、21世紀に相応しい政治の在り方＝"新しい政治"の在り方を模索することを目的とする。その際、何よりも事実に基づく分析によって、各国政治に関する正確で具体的な知識の取得とそれらを昇華させた形で日本政治改革への視点を得ることも視野に入れたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・比較政治の方法と意義を理解する。
・それらを踏まえ、各国政治の歴史と特質を知る。
・自分の国ならびに社会の諸問題を考える視点と材料を発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

グローバルな視点から国家と社会を見るために、「現代政治論」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ．比較政治学の方法	歴史―アリストテレス、モンテスキュー、アロン―　比較政治学
第2回	比較政治学の現代的アプローチ―歴史と構造―	現代の比較政治学の方法と課題
第3回	比較の指標	比較政治の指標
第4回	Ⅱ．各国政治の制度的特質と現状―憲法、中央・地方自治、改革の現状	アメリカ合衆国建国の歴史と憲法の特質　連邦主義と立憲主義
第5回	アメリカ合衆国の政治―大統領制―	現代アメリカ合衆国の政治
第6回	カナダ政治の歴史と特質	カナダ政治
第7回	イギリスの建国と歴史	イギリス政治
第8回	イギリスの政治―議院内閣制―	議院内閣制
第9回	フランス建国の歴史	フランス政治
第10回	フランスの政治―半大統領制―	半大統領制
第11回	ドイツ建国の歴史	ドイツ
第12回	ドイツ政治の歴史と特質	ドイツ政治
第13回	イタリア政治の歴史と特質	イタリア政治
第14回	ヨーロッパ小国の政治	スイス、ベルギー、オランダ
第15回	Ⅲ．まとめ－各国政治の歴史と特質の概括－	新しい政治の在り方を求めて―日本の課題―　日本政治の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

普段から新聞やニュース、各国のHPに目配りをしておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義の内容への理解度と学習の到達度を確認する
レポート試験	20 %	講義内容に関わるレポート、あるいは特定のテーマでのレポート課題を課す
平常点評価	10 %	出席点を加味する

＊定期試験として実施 成績評価＝単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としつつ、レポートと出席点も加味して総合的に判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

内容が盛りだくさんなので、授業のスピードは速い。したがって、テキストを事前に読んでおくことと、授業終了後には、得た知識や視点を振り返って、更なる学習をすることが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新版　比較政治制度論』	田口富久治・中谷義和編／法律文化社／／

授業に際してレジュメを配布するとともに、参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の際に紹介する。

その他 / Others

「私語」は、自の学習権の放棄であると同時に、他人のそれの侵害であるので、厳禁する。

比較文化論（S）

15478

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「恥の比較民族論−日本文化論とネパール先住民族の文化論−」

近年、日常の様々な場面で「恥じ知らず」な行為が目につく、日本人は「恥の感覚」を失った、といった論調が新聞等で目立つようになった。そして、日本人は文化人類学者によって「恥の文化」を持つとされたが一体どうしてしまったのか、とか、「恥の文化」の再生は今日の日本の課題である、といった議論がしばしばそれらに続く。確かに人間関係に関わる「恥」は社会にとって重要な問題である。だが、日本文化は「恥の文化」と言えるのか、そもそも「恥」とは何か、という検討は、十分になされているとは言い難い。

一方「恥の文化」を持つのは日本人だけではない。ネパールやインドにも「恥の民族」とされる人びとがおり、それらの文化も今日大きく変容を遂げつつある、とされる。

本講義では、「恥の文化」を中心に日本文化論、ネパールの民族文化論を取り上げ、その比較検討を行いながら「恥の民族論」の根底を問い直していく。また、その他の「恥」に関わる議論も幅広く取り上げながら、「恥」の現代性や民族文化論にとっての「恥」について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・文化を比較することの問題と可能性を理解する。
・日本文化論やネパール社会論の基本的知識を身につける。
・個別文化の理解や記述といった民族誌的な課題を理解する。
・文化人類学の理論と倫理との関わりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、「恥」の文化について論じながら、文化人類学における国民性研究、文化相対主義、権力・イデオロギー論、近代論といった理論的立場に焦点を当てる。文化人類学や文化研究に馴染みのない学生には、あらかじめ「文化人類学入門」、「文化人類学S」、「エスニシティ論」を履修しておくことを勧めたい。また、本講義の履修後でも、それらの受講により、文化人類学の広範な議論を俯瞰し、そのなかに本講義を位置づけることが可能になる。履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「恥」をめぐる今日の課題	恥、現代社会、日本、ネパール
2	「日本文化論」の祖型を考える1	マルコ・ポーロ、ジャポニスム
3	「日本文化論」の祖型を考える2	100年前の日本
4	国民性研究とその問題	国民性、対称型
5	文化相対主義とその問題	文化相対主義、サバルタン
6	「文化の型」とその問題	ディオニソス、アポロン
7	日本文化論を読む1	ベネディクト、菊と刀
8	日本文化論を読む2	中根千枝、タテ社会の人間関係
9	日本文化論を読む3	土居健郎、甘えの構造
10	日本文化論とイデオロギー	イデオロギー、アルチュセール
11	文化のイデオロギーと方法	ベフハルミ、イデオロギーとしての日本文化論
12	ネパール民族誌　1	国家、カースト
13	ネパール民族誌　2	チェパン社会、平等主義
14	「恥」を考える	アウシュヴィッツ、恥、近代
15	確認テスト（60分）と解説（30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業は、多くの文献を取り上げ、その内容を精査するかたちで進める。文献の原典にあたり、さらに読み込むことで理解を深めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関するテストを2回ほどおこなう。 第6回目頃と第15回目に行う予定。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。講義への参加度を評価する。その他に、数回レポートを課し、採点する。

テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記の参考書を本講義では主に取り上げるが、受講者はそれ以外の日本文化論も各自で探して読んでおくこと。それにより、本講義の議論を応用的に理解することが容易になる。

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、下記の図書のうち前三者は入手しやすいので、できれば購入し参考にして欲しい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
菊と刀	ベネディクト R.／講談社／／日本文化を恥の文化とした古典
タテ社会の人間関係	中根千枝／講談社／／日本社会をタテ社会とした論攷
甘えの構造	土居健郎／弘文堂／／日本文化の根本に甘えがあるとした論攷
イデオロギーとしての日本文化論	ハルミ・ベフ／思想の科学社／／日本文化論全般についての批判的検討
アウシュヴィッツの残りもの	アガンベン G.／月曜社／／恥についての論攷を含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化人類学 (S)

13365

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

グローバリゼーションが展開し、自由が広がる今日の社会では、既存の秩序が様々なかたちで崩壊している。9.11の同時多発テロの背景には、そうした自由に対する危機感から原理主義などの「伝統」へ戻ろうとする力が大きく働いていた、と言われる。「伝統」に戻るべきか、それとも「自由」を推し進めるべきか、私たちの身の回りでもその選択が迫られるが、「自由」とは何か、「伝統」とは何か、問われることはほとんどない。

本講義では、「自由」と「伝統」の成り立ちについて、文化人類学の立場から検討する。すなわち、1. 近代的な「自由の文化」の仕組みとその問題点、2. 「伝統文化」の価値や意味づけの仕組みとその問題点、3. 両者が対立せずに接続される可能性、について考察することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

・「構造主義（関係論）」とはどのような理論か、理解する。
・「伝統文化」と「近代」の構造とその問題を理解する。
・「民族」という枠組みの多様性や歴史性を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、構造主義や関係論という立場からの文化分析を紹介する。理論的な議論が多くなるので、本講義の履修前に（不可能なら履修後でも）「文化人類学入門」（原尻英樹教授，山本勇次教授担当）を履修し、文化人類学理論の基本を学んでおくことを推奨する。さらに「エスニシティ論」（原尻英樹教授担当）、比較文化論（橘健一担当）を受講すれば、文化人類学的な素養を幅広く身につけることができるので、履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	自由の広がりと伝統への回帰	自由、伝統
2	文化とは何か	文化進化論、機能主義、構造主義
3	意味秩序の構造	表現、内容
4	伝統文化論1	神話
5	伝統文化論2	儀礼
6	伝統文化論3	身体加工
7	伝統文化論4	贈与
8	自由の文化論1	市場、貨幣
9	自由の文化論2	資本主義、ファッション
10	自由の文化論3	市民社会、近代科学
11	自由の文化論4	国民国家
12	自由の文化論5	産業社会、フォーディズム
13	自由の文化論6	複製文化
14	自由と伝統	文化相対主義
15	確認テスト（60分）と解説（30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

参考書以外にも構造主義や関係論について論じた著作を読んでおくことを勧めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関するテストを2回ほどおこなう。 第8回目頃と第15回目に行う予定。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。講義への参加度を評価する。その他に、数回レポートを課し、採点する。

テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では映像資料を提示し抽象的な概念や考え方を解説する。抽象度の高い議論を理解するために、参考文献をしっかり読み込むこと。

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、講義内容の理解が難しいときに、下記の図書を参考にして欲しい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめての構造主義	橋爪大三郎／講談社現代新書／／構造主義全般の理解に役立つ

文化人類学15の理論	綾部恒雄編／中公新書／／文化人類学の理論全般を見通す
精神と自然	ベイトソン G.／新思索社／／関係論の理解に参考
精神の生態学	ベイトソン G.／新思索社／／ダブルバインド理論に関する論文
神話と意味	レヴィ＝ストロース／みすず書房／／神話の構造分析の入門書
レヴィ＝ストロース入門	小田亮／ちくま新書／／レヴィ＝ストロースの構造主義の解説書

その他の参考書については、必要に応じて指示する。
なお、本講義では用いないが、「文化人類学入門」の教科書（『フィールドワーク教育入門』原尻英樹、玉川大学出版部、『文化人類学の方法と歴史』原尻英樹、新幹社）を受講者の判断で各自参考にして欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

まちづくりと産業（S）

13480

担当者名 / Instructor　善積 康子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

“まちづくり”という言葉を頻繁に耳にする今日この頃であるが皆さんはどのように考えているだろうか。本授業では、その地域で働き、子育てをし、自らの選択において住み続けることができる、そういった環境を整えていくことを、まちづくりの定義と考える。そのためには経済的な自立、住民間の連携、支え合う意識、地域マネジメント組織の存在などが必要となってくるが、これらの要素が揃っている地域は多くない。当事者である住民が主体的に課題に取り組む必要があるが、それが簡単ではないから問題が生じているのである。京都には、職住共存地区といって、古くよりそこに住みかつ和装といった伝統産業などの仕事の場を持つという生活スタイルが定着しているエリアがある。和装産業の低迷とともにまち全体の力が弱まっているなかで地域力を高めるべくさまざまな取組が展開されている。本授業では、今地域に起きている課題とそれが生じている背景、そこから脱しようとする取り組み、外部から地域に関わる者としてどのように支援するのか、などについて、京都のまちなかの事例を中心に、多様な事例や学生間の討議を交えて具体的に伝えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・地域コミュニティの弱体化や地域経済の低迷など地域を取り巻く問題とそれが生じる背景について理解する。
・問題を整理し、多くの関係者と共有する方法について知る。
・地域が活性化していくための道筋を一種類でもイメージでき、地域と共有できるような提案の形にまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

都市計画法や建築基準法などがわかっていると理解が早いが、必ず履修していなければならないわけではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業ガイダンス（進め方等）、導入（自分の考えを簡単にまとめる）	自分にとってのまちづくりとは
第2回	地域課題の説明	京都・職住共存地区の現状（都市計画、産業面から）
第3回	地域の取組について説明Ⅰ	地域自治とは、本能元学区の取組Ⅰ（平成11～14）
第4回	地域の取組についての説明Ⅱ	歩いて暮らせるまちづくり事業を通して
第5回	地域の取組についての説明Ⅲ	本能元学区の取組Ⅱ（平成15～現在）
第6回	地域活力のあり方Ⅰ	コミュニティビジネスとは
第7回	地域活力のあり方Ⅱ	地域課題を産業活力へ（事例を通して）
第8回	地域活力のあり方Ⅲ	中心市街地活性化について
第9回	地域課題の共有化手法について	ワークショップ、まち歩き等
第10回	地域課題の共有化手法について	ワークショップ（実際の進め方）、そのほかの手法
第11回	地域分析（地域の姿をとらえよう）	データの種類、見方について
第12回	実際に考えてみよう！	学生ワークショップ（仮想のまちの課題分析）Ⅰ
第13回	実際に考えてみよう！	学生ワークショップⅡ
第14回	産業とまちづくり（ブレイクスルーはどこに？）	日本の慣行、法規制等からの限界、視点の持ち方（海外事例）
第15回	総括（ざっくばらんに意見交換）	自分の考え方の提示

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

〇自分の関心ある地域を特定し（自分が生活をしている場所等）、その場所での産業のあり方を観察、授業内容と連動して考え、レポート作成に備える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	状況分析や自己の考え方整理、論理構築力、アピール力（わかりやすさ、他人に興味を持たせる書き方、説得力）
平常点評価	30 %	ワークショップでの発言・関わり方、自分の意見が出せるか

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まちづくりは自分自身が主体となることを想定して関わらないと、他人を動かす力を持ち得ない。周囲の声に耳を傾けながら自分の考えをじっくり育ててほしい。正しい回答が一つというものではないので、自由な着想と現実とのバランスをとれるように考える練習が求められる。

教科書 / Textbooks

まちづくりに関する書籍は多いので、自分が読みやすいものを探して、最低一つは読んでほしい。

参考書 / Reference Books

授業内で都度紹介

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都市景観・まちづくりセンター（京都市のまちづくり支援組織）
http://machi.hitomachi-kyoto.jp/
このほか、全国で産業をキーワードに町おこしをしている事例などを、時間をみてネットサーフィンをしてみてほしい。

その他 / Others

リスク社会論 (S)

13478

担当者名 / Instructor　原 強

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は「リスク社会」といわれる。なぜ「リスク」が強調されるのか。また、どのような「リスク」があるというのか。
この授業は「リスク社会」論入門というべきもので、さまざまなリスクのなかで、食品の安全や化学物質による健康障害、環境問題などに関わるリスクを事例にしながら、「リスク」の考え方や「リスク」管理の方法、「安全・安心な社会」をめざすうえでの課題や問題点を考えることにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業は「リスク社会論」の入門講義というべきものであり、この授業を通じて「リスク」や「リスク社会」をめぐる問題の概要を理解し、本格的な学習・研究にむかううえで必要な手がかりを見つけてもらいたい。同時に、実生活におけるさまざまなリスクとのつきあい方を身につけてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにない。参考文献としてあげたものを事前に学習しておくことによって理解が深まるであろう。また、新聞やテレビなどの「リスク」に関する報道に注意して、関連情報を集めることに心がけてもらいたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	リスク社会　リスクという概念
第2回	『沈黙の春』の警告	レイチェル・カーソン　DDT
第3回	チェルノブイリの衝撃と「危険社会」	チェルノブイリ原発事故　ウルリッヒ・ベックの『危険社会』
第4回	BSEとリスク	BSEによる健康障害　全頭検査
第5回	輸入食品とリスク	中国ギョーザ事件　汚染米
第6回	現代社会と化学物質	ダイオキシン　環境ホルモン
第7回	シックハウス症候群	シックハウス　化学物質過敏症
第8回	感染症とリスク	新型インフルエンザの流行　タミフルの副作用
第9回	気候変動とリスク	気候変動の予測と対策
第10回	補論と中間まとめ	
第11回	化学物質規制の動向	EUの化学物質規制　日本の化学物質規制
第12回	食の安全とリスクアナリシス	食品安全基本法と食品安全委員会
第13回	リスクをマネジメントする	リスクマネジメントの手法
第14回	リスク・コミュニケーション	リスク・コミュニケーションの必要性と実際
第15回	リスクとつきあう	「安全」と「安心」 信頼

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内容の復習により、内容を確認するとともに、授業で紹介する参考文献の学習を通じて問題意識をさらにひろげるように心がけてもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業を通じて「リスク社会」論についてどのように理解が深まったかを確認する。
平常点評価	40 %	出席状況、受講態度と、課題図書についてのレポートで評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストを指定していないので、授業に出席し講義内容を正確に理解するとともに、参考文献で問題意識をひろげていくことが重要である。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リスクとつきあう	吉川肇子／有斐閣／／
安全と安心の科学	村上陽一郎／集英社／／
リスクセンス	ジョン・F・ロス／集英社／／
リスクのモノサシ	中内谷一也／日本放送出版協会／／

授業の中でこれ以外の参考文献を順次紹介する。
日本リスク研究学会編『リスク学事典』（阪急コミュニケーションズ）は高価なものだが、本格的に研究する場合には手元におきたいものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

臨床社会学（S）

13312

担当者名 / Instructor　本田 宏治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、犯罪や非行、虐待、不登校、ひきこもり、社会的格差など社会病理現象が多様化し、増大しているといわれている。こうした社会問題を臨床的課題として捉えなおし、単に個人の「逸脱」や「不適応」としてではなく、社会学的な観点からの支援を模索する知的方法として臨床社会学がある。

本講義では、オムニバス形式で具体的な事例を取り上げ、社会の問題と個人の問題とが交錯する現代社会への諸問題への洞察を深める。そのためには、社会問題の「現在」を洞察するなかで、日常世界を反省的に異化し、社会構造の「ひずみ」を知覚する社会学的な感受性を身につける必要がある。そのうえで、一人ひとりの参加学生が、関心をもつそれぞれの課題に向けて自発的に解決の糸口を探る能力の獲得を目指したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学的な洞察力を深めたうえで、常識的視野のもとで見逃されている臨床的諸課題の「発掘」と解決に向けた社会学的想像力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会問題を臨床社会学で読み解くことの意義について	社会病理学
第2回	逸脱とは何か？	アノミー論、ラベリング論
第3回	「正常」と「異常」	集合意識、ノルム
第4回	逸脱はなぜ生まれるのか？（1）	社会解体、社会的排除
第5回	逸脱はなぜ生まれるのか？（2）	リスク社会、管理権力
第6回	犯罪の厳罰化の流れ	犯罪不安、厳罰化ポピュリズム
第7回	厳罰化による社会のひずみ	刑事施設、過剰収容問題
第8回	犯罪者の社会内処遇	ダイヴァージョン・プログラム
第9回	トラウマと現在	トラウマ、心的外傷
第10回	被害者化過程での家族・友人・社会	犯罪被害者
第11回	アダルト・チルドレンという生き方	機能不全家族、共依存
第12回	「隠蔽」される犯罪者家族（1）	私的領域、パノプティコン
第13回	「隠蔽」される犯罪者家族（2）	侮蔑発話、医療化
第14回	他者を支えるコミュニティとは何か？	コミュニティ・プリズン、コミュニティ・ポリシング
第15回	他者を「支える」ことは何か？	共在者

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での学習を促すため、配布資料や主題に合わせた参考文献などを読み、レポートをまとめるなど宿題があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容を手がかりとして、それぞれが自身の関心とする社会問題を分析する能力を身につけているかを判断する。
平常点評価	30 %	期間中に1回レポートを課し、評価に加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講に際しては、社会学の基礎的な知識を有していることが望ましい。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。配布するプリントを中心に進め、要点は板書する。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

労働社会学 (S)

13297

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

バブルが崩壊してからおよそ15年の間に、日本の雇用（仕事を得ること）や労働のあり方（働き方）は急激に変化し、それが私達の生活や意識にも大きな影響を与えている。授業では、他の国の状況と比較しながら、雇用や労働のあり方がどのように変化し、それが私達の生活にどのような影響を与えているか考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

雇用や賃金に関わる新聞記事やニュースを、その背景まで含めて十分に理解できるようになる。

また授業をきっかけにして、自分はどのような仕事をしたいのか、あるいはどのような働き方をしていきたいのか自分なりのイメージを持てるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	労働社会学で何を学ぶか	
2	労働力の需要構造	
3	多様化する雇用：パート、派遣、請負という働き方	
4	非正規雇用の増大と格差問題	
5	女性雇用の現状：M字型雇用と少子化	
6	女性雇用政策の国際比較1：育児と仕事の両立	
7	女性雇用政策の国際比較2：男女雇用機会均等法	
8	働きすぎと過労死1：労働時間の国際比較	
9	働きすぎと過労死2：長時間労働の背景にあるもの1	
10	「新しい」働き方：変形労働時間制、裁量労働制	
11	失業率とは何か？	
12	各国の失業の状況	
13	若年と高齢者の雇用：フリーターは日本だけの問題か？	
14	フリーターについて考える	
15	高齢者雇用の現状と課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義内容の理解度。
平常点評価	0 %	場合によっては出席を加点することがある。

授業への出席が少ない場合、試験で合格点を取れないことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やテレビ等で、雇用、働き方、賃金にかかわる記事や番組があったら、興味を持って見て欲しい。また、身近に働いている人がいたら、授業で興味を持ったことをいろいろ質問（インタビュー）してみることも有益である。

教科書 / Textbooks

必要な資料は、授業中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の労働問題(第3版)	笹島芳雄／中央経済社／450236150X ／
雇用不安	野村正実／岩波書店／4004305675／
日本的雇用慣行	野村正實／ミネルヴァ書房／4623049248 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

労働政策研究・研修機構　http://www.jil.go.jp/

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

映画芸術論（S） § 映像文化論（S）

13371

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義は映画鑑賞のためのものではありません。理論的講義です。どんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。キーワードは人間・虚構化・文化です。私たちが問題にするのは、私たちの外部に客観的に存在する現象としてのフィルムではなく、私たちの内部に立ち現れてくる虚構化された内的空間です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、観客の外部に客観的に存在するものではなく、観客が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。言い換えると、観客の内部に絶え間なしに立ち現れてくる映像とは、観客によって分節化される時間の密度、すなわちその時間性が観客の内部に絶え間なしに作り上げる、構造化され、時間化されていく生成の世界なのです。つまり重要なこととは、映画作家がフィルムに刻印した時間を、観客がそのフィルムを観ながら分節化する時間のあり方、すなわちその時間性こそが観客の内部に、シネマという内的虚構化空間を現前化させ、現在化させる原動力だ、という点です。一言で言えば、観客によって絶え間なく分節化され、構造化され、時間化されていく、いわゆる生成の世界としてのシネマというものを考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と虚構化と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3	映画芸術論への導入	ﾍｰｹﾞﾙのｱｰﾄ論、空間ｱｰﾄと時間ｱｰﾄ、ﾓﾝﾀｰｼﾞｭとｸﾛｰｽﾞｱｯﾌﾟという映像の操作術
4	モンタージュ論	演劇（＝ﾗｲﾌﾞ・ｱｰﾄ）に対して映画（＝ﾓﾝﾀｰｼﾞｭ・ｱｰﾄ）が獲得した途方もない自由
5	作家主義論	作家主義を標榜するヌーベル・ヴァーグとは、ｲﾀﾘｱ・ﾈｵ・ﾚｱﾘｽﾓの精神を受け継ぎ、さらにﾊﾘｳｯﾄﾞ的なｽﾀｼﾞｵ・ｼｽﾃﾑを否定し、独自のﾘｱﾘｽﾞﾑを追求した映画改革運動である。
6	ショット論	映画の秘密はｼｮｯﾄの中を流れている時間にある。映画の越境性とは、言語の壁を容易に越えてしまうという特性である。
7	創生期の映画	ﾘｭﾐｴｰﾙ兄弟とｴｼﾞｿﾝ、ﾒﾘｴｽ、ｾﾞｯｶ、ﾎﾟｰﾀｰ、ｲﾀﾘｱ史劇、ｸﾞﾘﾌｨｽ、ﾁｬｯﾌﾟﾘﾝ、ﾄﾞｲﾂ表現主義、ｶﾞﾝｽ、ｿｳﾞｨｴﾄ映画、ｴｲｾﾞﾝｼｭﾃｨﾝのﾓﾝﾀｰｼﾞｭ理論、ﾌﾗﾝｽ・ヌーヴェル・ヴァーグのｸﾞﾘﾌｨｽ再評価。
8	アメリカ映画黄金期	ｸﾞﾘﾌｨｽとﾌｫｰﾄﾞはｱﾒﾘｶ映画を代表する二大監督といわれ、時代に翻弄されながらも最後まで自分たちの美学を貫き通したことが彼らに共通する特徴である。しかし作家主義の観点から見ると、ｸﾞﾘﾌｨｽは映画作家が目指すべき作家の映画の原点であるのに比べて、ﾌｫｰﾄﾞは作家の映画とは相容れない、ｽﾀｼﾞｵｼｽﾃﾑの映画、ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰの映画の巨匠と見なされる。その意味で、作家主義を信奉するヌーヴェル・ヴァーグが批判の矛先をﾌｫｰﾄﾞに向けたのは正解である。なぜならば、ｼﾞｮﾝ・ﾌｫｰﾄﾞは良きにつけ悪しきにつけ、ｱﾒﾘｶ映画を代表しうる唯一の映画監督だからだ。第二次大戦後の世界の映画状況が一気に変化する。ｲﾀﾘｱで、新しいﾘｱﾘｽﾞﾑ映画が誕生する。ｲﾀﾘｱ・ﾈｵ・ﾚｱﾘｽﾓの誕生とは、古典的ﾋｭｰﾏﾆｽﾞﾑを越えた新しい社会的ﾘｱﾘｽﾞﾑの誕生を意味する。第二次世界大戦が映画ｽﾀｲﾙを構造的にいかに変えてしまったかが分かる。それは一言で言えば、ｽﾀｼﾞｵ・ｼｽﾃﾑの映画（＝ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰの映画）から、ある映画作家が企画、脚本、ｷｬｽﾃｨﾝｸﾞから撮影、編集までの映画制作の全てを取り仕切る、現場主義の映画への変換である。ｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏとは1960年代後半から70年代前半にかけてﾊﾘｳｯﾄﾞで作られた、既存のｽﾍﾟｸﾀｸﾙ路線とは一線を画した作品を一般には言うが、一言で言えば、作家性に貫かれた映画史に燦然と輝くｱﾒﾘｶB級映画群のことである。
9	日本映画黄金期	50年代日本映画黄金期、溝口健二、小津安二郎、黒澤明、成瀬巳喜男、木下恵介、今井正、小林正樹、市川崑。特に、日本を代表する二人の映画作家、溝口健二と小津安二郎。さらに、ヌーヴェル・ヴァーグの日本映画評

10	フランスヌーヴェル・ヴァーグ	作家主義論を提唱したﾌﾗﾝｽ・ヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛の最大の功績は、ｲﾀﾘｱ・ﾈｵ・ﾚｱﾘｽﾓが果たした現場主義の映画への変換を継承し、さらに映画創造の真の主体を作家に置き、その作家性をｼﾈﾏ・ｱｰﾄの第一要素として捉えたことである。ここに構造主義の手法に共通する二項対立によって、言語と文化の枠を超えた関係の構図を鮮明に描き出すことが可能となった。すなわち、映画の世界には国境はなく、ただ、非作家の映画と作家の映画という二つの種類の映画が存在するだけである、と主張できるようになった。作家とは、自己の哲学と美学とを作品全体にわたって展開する映画人で、多くの場合自ら脚本を書き、台詞を書き、そして演出もする。彼らはこの立場から映画を作り、便宜的なﾓﾝﾀｰｼﾞｭによらず現実の多様性を反復不可能に切り取ることを心がけた。これこそが真のﾘｱﾘｽﾞﾑだと考えた。そして観客の想像力を刺激する作り方の姿勢と、一つ一つのｼｮｯﾄへのこだわりこそ、ヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛の映画作家たちが目指したものである。このように映画のｱｰﾄとしての可能性をもっとも強く証明しようとしたのが、ヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛の映画作家たちであ
11～12	80年代から現在までの映画史	ﾌﾗﾝｽ映画改革運動の理論的ｼﾝﾎﾞﾙである作家主義論は、国境を越えて、他の国の映画改革運動に受け継がれていく。彼らの自由な作風は、後のｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏの監督たちに影響を与える。そしてｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏを見ながら青春時代を送ったﾖｰﾛｯﾊﾟ各国の映画作家らが、一斉に映画を作り始めた。これが80年代ﾖｰﾛｯﾊﾟ映画の復興期である。80年代以降のﾖｰﾛｯﾊﾟ映画作家たちは、ｱﾒﾘｶ映画に比して益々、凋落傾向にある自国映画を復活させようと努力した。これらの映画復興努力は国境を越えて（＝言語と文化の壁を越えて）ﾖｰﾛｯﾊﾟ各国に及んだ。彼らの多くは、日本の溝口健二や小津安二郎、あるいはヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛やｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏから多くのことを学んだ、作家主義の立場に立った映画作家たちである。
13～15	映画芸術論の結論	ｼﾈﾏ・ｱｰﾄとは、事実存在（＝実存）としての人間が出合う、可能性としての時間、その時間のｱｰﾄである。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

映画と社会（S） §　エンタテインメント論（S）

15604

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、戦後の世界の映画史に足跡を残してきた各国の映画について学ぶ。主に、日本を含むアジア各国の近代史と映画とのかかわりを踏まえながら、アジア映画の現状と課題を整理していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・映画と社会や時代との関係について学ぶ。
・アジア各国の映画について学ぶ。
・国境を越える映画について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像や映画、そして、アジアの社会に関わる他の科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、戦後のイタリア映画：ネオリアリスモ	ファシズム、レジスタンス
第2回	日本映画の50年代1：世界に「発見」された日本映画	第二次黄金期、5社協定、小津・黒沢・溝口
第3回	日本映画の50年代2：映画と社会	東映教育映画、自主映画組織
第4回	フランスのヌーヴェルバーグ：1960年代前後の「カイエ・デュ・シネマ」を中心とした映画	作家主義、シネマ・ベリテ派、カイエ派
第5回	日本のヌーヴェルバーグ：1960年代前後の日本映画	大島渚、国家と映画
第6回	韓国の60年代：近代化と映画	メロドラマ、家父長制
第7回	アメリカン・ニューシネマ：1960年代から70年代初頭にかけてのアメリカ社会と映画	プロダクション・コード、レイティング・システム
第8回	東洋のハリウッドと呼ばれた香港映画：1970年代から80年代以降の香港映画	ニューウェイヴ（新浪潮）、香港返還、香港ノワール
第9回	1980年代以降の中国映画：第五世代の登場とその後の変貌	文化大革命、第五世代
第10回	1980年代以降の台湾映画：民主化と映画	戒厳令解除、映画政策
第11回	1990年代以降の韓国映画：民主化と映画産業への関与	韓国ニューウェイヴ、映画振興法
第12回	1990年以降のイラン映画：宗教と映画	イスラム革命、児童映画、9.11
第13回	インド映画の現在：ナショナルシネマの行方	ナショナルシネマ、ボリウッド
第14回	越境する映画：合作とリメイク映画	ディアスポラ、エスニックマイノリティ
第15回	まとめ：映画と社会	映画の越境性と土着性、社会性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・講義で触れた映画作品などは可能な限り、各自が見ておいてほしい。
・映画産業の現状などについては、ニュースでも取り上げられることがあるので、新聞など日々意識して目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったテーマの中から出題し、それについての知識と考えを問う。
平常点評価	40 %	授業中に数回の受講エッセイを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・映画を見るだけの講義ではないので、登録の際、よく検討してほしい。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室を考慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『映像／言説の文化社会学』	中村秀之／岩波書店／4000265172／フィルムノーワルを社会学的に分析している著書

『映画の政治学』	長谷正人編 ／青弓社／4787232207／映画を社会的・政治的な産物として捉え、分析している著書
『男たちの絆、アジア映画』	斉藤綾子編 ／平凡社 ／4582282504／アジア映画研究者たちの論文をまとめた著書

他は授業中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アメリカ映画協会　http://www.mpaa.org/
(社)日本映画製作者連盟　http://www.eiren.org/

その他 / Others

映像ジャーナリズム論（S） § 映像プロデュース論（S） § 映像ジャーナリズム論（W）

15606

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映画やテレビなどの映像によるジャーナリズム活動は、新聞などによる活字のジャーナリズム活動とは違った形で発展してきている。本講義では、まず、映像ジャーナリズムの流れが生まれる前の段階でニュース映画という形態があり、そこにはエンターテインメント性が強く反映されていたことなどについて歴史的にみてゆく。その上で、映像が国家的なプロパガンダを推進するための道具として用いられた時期を経て、最終的にはテレビ映像によるジャーナリズムが誕生してゆく段階を追ってゆく。世界的にさまざまな形態で映像ジャーナリズムが発展してきたが、講義では、特に米国のテレビ・ジャーナリズムの流れについて時間を割くこととする。

1980年代、衛星放送や衛星通信が、東欧の民主化に影響を与えたことなども取り上げ、その中で、映像ジャーナリズムに新しいテクノロジーがどのようなインパクトを与えたかについても考える。さらに新しいテクノロジーが今日の日本の映像ジャーナリズムの現場に、どのような変化を与えようとしているについても検討する。受講生には、映像ジャーナリズムの歴史的変遷を踏まえた上で、映像ジャーナリズムの今日的な課題について、踏み込んで考えてもらえるようになって欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

・映像ジャーナリズムが誕生した歴史的背景が理解できる
・日本や世界の国々において映像ジャーナリズムが直面している課題を理解する
・新しいテクノロジーが映像ジャーナリズムに与えるインパクトについて理解を深める

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム関連科目
映像関連科目
現代史関連科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　映像メディア環境の変化と映像ジャーナリズム	メディアの国際化、メディア資本の集中
2	映像の始まりとエンターテインメント性との関係	リュミエール兄弟、エジソン、ニュース映画
3	映像にジャーナリズム性がどのように加わってきたか	映画とプロパガンダ
4	米国ジャーナリズムの起源と展開（1）	コロニアルプレス、ペニープレス
5	米国ジャーナリズムの起源と展開（2）	ピューリッツアー、ハースト、客観報道
6	電子メディアの台頭と発展（1）米国ラジオ放送の起源とラジオ・ジャーナリズム	ラジオの起源、ウェスティングハウス、KDKA、1920年アメリカ大統領選挙速報
7	電子メディアの台頭と発展（2）テレビ・ジャーナリズムの誕生とニュース・アンカーたち	エド・マロー、マッカーシズム、ウォルター・クロンカイト、ベトナム戦争報道
8	電子メディアの台頭と発展（3）現代の映像ジャーナリズムを支えたニュース・アンカーたち	ピーター・ジェニングス、ダン・ラザー、トム・ブロコウ
9	映像ジャーナリズムが受けた挑戦　メディア・コントロール	スピン、ノーム・チョムスキー、ポリティカル・エコノミー
10	ジャーナリズムとメディアに関する基礎的理論　その1	Media Organization、Source-Reporter Relationships、Simple Gatekeeping Model
11	ジャーナリズムとメディアに関する基礎的理論　その2	Gultung and Ruge's Model、Contexts of News Making
12	テクノロジーが映像ジャーナリズム活動に与えたインパクト	アーサー・クラーク、geosynchronous orbit、衛星放送、CNN、DBS
13	日本の映像ジャーナリズムの台頭と変遷　新聞ジャーナリズムvs.映像ジャーナリズム	日本型映像ジャーナリズム
14	テレビ・ジャーナリズムが政治を動かす時代　1980年代～	サンデーポリティクス、プライムタイムニュース競争
15	まとめ　映像ジャーナリズムの未来	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講生は、日常的に映像ジャーナリズムに連なるニュース番組やドキュメンタリーなどを視聴し、独自の視点で、こだわりをもってそれらを批評できるような力を備えるように努力して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	映像ジャーナリズムを理解する上で重要なキーワード、出来事、概念を的確に理解しているかどうか
平常点評価	30 %	授業出席と授業後のリアクションペーパーの内容評価による

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映像によって世の中の出来事を日々記録してゆく映像ジャーナリズムの営みと理論的な側面をつなぎ合わせながら考えてもらいたい。受講生は、講義内で紹介する議論のポイントや理論的なアプローチについての知識をもとに、映像ジャーナリズム活動の最終プロダクトであるニュースやドキュメンタリーをみながら理解しようとする努力を積み重ねて欲しい。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、講義内容のポイントを示すレジメの配布を通じて読んでおくべき著作や視聴してほしい番組や作品などを紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄・林利隆・大井眞二編／世界思想社／4790710564／
映像情報論	今村庸一／丸善／4621071408／
テレビの自画像	桜井均／筑摩書房／448004244X／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

映像表現論（S）

13325

担当者名 / Instructor　梁 仁實

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、映像メディアと時代とのかかわりを考えつつ、その一つである映画をとりあげる。
映画については、第7芸術と呼ばれた時代の芸術的な側面、そして商業的価値で語られるエンターテイメント性ばかりが重視されてきた。本講義では映画の110年に及ぶ歴史をさぐりながら、そのなかで映像の表現の変化がどのように行なわれてきたのかを考えつつ、映像の社会的意味について考えるきっかけとしてもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・110年に及ぶ世界の映画の発展の歴史の外観が把握できる。
・映画を中心とする映像表現の基礎が理解できる。
・映画を時代や社会との関係から考察することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・映像をはじめとしたメディア分析に関わる科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション：映画の歴史とは？　動く映像のはじまりから映画の誕生までの経緯と時代	リュミエール兄弟、シネマトグラフ、サイレント映画
第2回目	映像のなかの変形：実験アニメーションからアニメーションへ	ディズニ・アニメーション、実験アニメーション、変形、エイゼンシュタインの「アニメーション」論
第3回目	映像の文法1：映画の空間と時間の統辞法　例）『戦艦ポチョムキン』	演出（ミザンセヌ）、モンタージュ
第4回目	1920年代のフランス映画：実験映画を中心とした総合芸術としての映画製作　例）『アンダルシアの犬』	シュルレアリスム、アバンギャルド、第七芸術論
第5回目	ドイツ表現主義とプロパガンダ映画：ドイツと映画　例）『カリガリ博士』『メトロポリス』『民族の祭典』	ウーファ、戦争、第1世界大戦、第3帝国、映画法、レニ・リフェンシュタール
第6回目	日本映画の黄金期：1930年代日本の無声映画と社会　例）『汗』	内田土夢、傾向映画、無声映画
第7回目	プロパガンダと映画2：第二次世界大戦とハリウッド　例）『汝の敵を知れ』	combat film,教育映画
第8回目	プロパガンダ映画と映画3：日本における戦時の映画利用　例）『戦ふ兵隊』	国策映画、文化映画
第9回目	プロパガンダ映画と映画4：「極楽静土」満州　例）『満映ニュース』	満州映画、ニュース映画、李香蘭、大東亜文化圏、5族協和
第10回目	プロパガンダ映画と映画5：娯楽は「敵」なのか。　例）『望楼の決死隊』	国策映画、娯楽映画、戦争映画、映画法
第11回目	戦時中の合作映画：日本とドイツ、日本と朝鮮　例）『新しき土』『愛と誓』	原節子、女優たちと戦争、ナショナル・シネマ
第12回目	ドキュメンタリーの様々な表現　例）『水俣』	土田典昭、ドキュメンタリー、社会派映画
第13回目	映画と社会と政治と歴史の関係　例）『封印された映画～1974年』	インドネシア、日本映画、政治、外交交渉
第14回目	上映禁止、蔵入りされた映画　例）『誤発弾』『異邦人の河』	1960年、韓国、1970年、日本
第15回目	映像表現とは何か　総まとめ、テスト	映像表現、実験映像、表現

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・時間の関係上、講義に関連した作品をすべて見ることは難しいので、できる限り講義で取り上げた作品を各自で見ておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	合計2回のレポートを出してもらい、成績に反映する。
平常点評価	70 %	授業中に受講エッセイを課し、最後の授業で総まとめとテストを行なう。

・受講者の人数等によって、以上のことに変更が生じることがあるが、その場合はなるべくすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・随時具体的な作品を示しつつ授業を進めるが、映画が見られるという安易な考えで受講しても楽しいばかりの作品ではないので、十分に検討し

た後で登録することを勧める。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『映画の教科書	ジェイムズ・モナコ／フィルムアート社／4845983486／映像の文法や映画の記号的性質について、参考になる。
『映画映像史』	出口丈人／小学館／4093874859／映像映画の歴史を概観するのに役立つ。
『ワールド・シネマ・ヒストリー』	アンドレア・グローネマイヤー／昇洋書房／4771015244／『映画映像史』とともに参考にすることを推奨する。
『映画技法のリテラシー〈1〉〈2〉』	ルイス・ジアネッティ／フィルムアート社／4845903547,4845903547／〈1〉と〈2〉合わせて読むと、より参考になる。
『アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷』	増田幸子／大阪大学出版会／4872591771／第2次大戦とハリウッドについての部分を参考にしてほしい。

その他のものについては、随時授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Internet Movie Database(IMDb)　http://www.imdb.com/

その他 / Others

演劇論 (S)

15492

担当者名 / Instructor　池内 靖子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに,60年代～70年代のアングラ小劇場運動に焦点を当て、同時に広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。とりわけ、パフォーマンスとジェンダーの交差について重点的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

演劇的な知、パラダイム、理論的な枠組みについて学ぶと同時に、地域や都市の演劇空間、個別の演劇・パフォーマンスの表現について調べ、考察する。とりわけ、ジェンダーとパフォーマンスの交差に焦点を当て、考察を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス、都市・地域と劇場	シアター・オリンピックス
2	国民国家と演劇	近代演劇と女優の誕生
3	帝国のロマンス	『マダム・バタフライ』『M.バタフライ』『ミス・サイゴン』
4	宝塚歌劇 I	男役と娘役、ジェンダー／セクシュアリティの構築
5	宝塚歌劇 II	ファンは何を求めているか
6	60～70年代のアングラ小劇場運動 I	鈴木忠志、唐十郎、佐藤信
7	60～70年代のアングラ小劇場運動 II	寺山修司の「天井桟敷」
8	舞踏の身体	土方巽、肉体の反乱
9	アングラと女性演劇人	ウーマン・リブ、セクシュアリティ／ジェンダーの脱構築
10	アート・アクテイヴィズム／言説と身体	ダム・タイプ、異性装／越境について
11	ダンスとシアターの間	ピナ・バウシュ、コリオグラフィー
12	パフォーマンス・アート／言語・映像・身体	テレサ・ハッキョン・チャのテクストの舞台化
13	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 I	金満里の劇団「態変」
14	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 II	ニューヨークのコミュニティ・シアター
15	まとめ	近代演劇を超えて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外学習の指示 / Out of class assignment

個人やグループで、演劇やパフォーマンスを観に行き、劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	劇場フィールドワークの(グループ)レポートと試験に代わる最終(個人)レポートを課す。
平常点評価	40 %	ビデオの感想を書き、グループでの議論に参加すること。

レポート課題は2つ実施する。1つは、個人あるいはグループで、地域と劇場についてフィールドワークした調査結果についてまとめる。2つ目は、試験に代わる最終レポート(個人課題)として、受講して興味を持ったテーマを自由に設定し、考察したことをまとめる。

※日常点評価40%

ビデオを資料として使うので、それを見た後、感想を書いたり、適宜グループ・デイスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演劇に関する広い興味、関心をもち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
女優の誕生と終焉ーパフォーマンスとジェンダー	池内靖子／平凡社／978-4-582-47231-8／

踊る帝国主義　宝塚をめぐるセクシュアルポリティクスと大衆文化	ジェニファー・ロバートソン／現代書館／4768467733／
宝塚というユートピア	川崎賢子／岩波書店／978-4-00-430940-6／
迷路と死海	寺山修司／白水社／978-4-560-03254-1／
異郷の身体ーテレサ・ハッキョン・チャをめぐって	池内靖子/西成彦・編／人文書院／4-409-04078-2／

その他、参考文献については、授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

音声メディア論（S）

15705

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

メディアは、特性によってテキスト、画像、音声の3種類に大別できる。この中で、人間にとってもっとも原初的で、コミュニケーションの基礎となるのが音声メディアである。しかし、われわれの日常を見渡してみると、テキストベースの電子メールによって、人間関係のほとんどが構築され、写真や動画はもっとも身近な記録メディアとなっている。

これらは、「携帯電話」という本来音声データによる双方向のコミュニケーション・メディアに組み込まれているものだが、もはやそれは機能の一部でしかなくなっている。また、新聞（テキスト）、テレビ（画像）、ラジオ（音声）という、日常接するメディアを並べてみた場合でも、誰もがテレビ＞新聞＞ラジオの順に自分との関係の深さを示すであろう。このように、音声メディアはわれわれにとって原初的でありながら、もっとも遠い存在となってしまっているように感じる。だが、果たしてそうだろうか？iPodに代表される携帯音楽プレイヤーは若者の多くが利用し、日本のラジオ局は無くなるどころか総数はむしろ増えているのだ。

本講義では、音声メディアの代表である「電話」と「ラジオ」にスポットを当て、メディアとしての歴史、文化、制度、ローカリティについて学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業を通じて学ぶ到達点は、以下の3点である。

1. 音声メディアを学ぶ上で必要な理論と視点の持ち方及び問いの立て方を理解する。
2. 個別の音声メディアと社会との関係を歴史的な観点から知り、メディアが社会の中で存在する意味を考える。
3. 現代社会の中で忘れられがちな音声メディアへの興味・関心をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	音声メディアとしての電話とラジオ	音声メディアとはいったいなんだろうか？
2	電話の誕生	電信から電話へ
3	電話の想像力	放送的電話
4	おしゃべり道具としての電話	大量消費社会と家庭への導入
5	日本の電話	監視と管理
6	電話交換手とジェンダー	声の規格化
7	電話のローカリティ	日本の農村電話網
8	電話の自由化と電話文化	声のメディアが生み出す文化
9	ラジオといはどのようなメディアか	ラジオ体験
10	ラジオの誕生	無線電信からラジオへ
11	日本の草創期ラジオ	日本の歴史とラジオの関係
12	深夜放送とディスクジョッキー	声が創るコミュニケーション
13	ミニFMというラジオ	ラジオのもう一つの楽しみ方
14	コミュニティFMの時代	地域と世界を結ぶ
15	そして、ラジオはどこへいくのか	ラジオは消えるのか？

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観問題と論述問題を併用

レジュメは、webCTに1週間前までにアップするので、各自プリントアウトして持参すること。授業当日は、関連する資料のみを配付する。ただし、開始後30分経過した時点で配布を中止し、以後は一切配布を行わない。試験には、配付資料の内容も含まれる。
各回の授業予定は、最新のトピックスに合わせて変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とメディアの関係を、常に意識することが大切。新聞を読み、社会の動きと問題を確認することも大切。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
コミュニケーション物語	竹内成明／人文書院／／
声の文化と文字の文化	ウォルター・J. オング／藤原書店／／

世界の調律 サウンドスケープとはなにか	マリー・シェーファー／平凡社／／
声の資本主義　電話・ラジオ・蓄音機の社会史	吉見俊哉／講談社／／
「声」の有線メディア史	坂田謙司／世界思想社／／
メディア論・改訂版	吉見俊哉・水越伸／放送大学教育振興会／／
メディアとしての電話	吉見俊哉・水越伸・若林幹夫／弘文堂／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

活字メディア論 (G)

13439

担当者名 / Instructor　三谷 茂

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

活字メディアがこれまで果たしてきた社会的役割と今後の進むべき方向を探る。活字メディア（新聞・出版）の歴史と現在の組織内外の状況を紹介し、活字メディアの役割と限界を実際の出来事を通じて理解してもらう。大事件や大災害など実際の取材・報道経験を通して分かりやすく講義し、併せて日々のニュースの意味についてみんなで考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

民主主義社会の中で、活字メディアが果たす社会的役割をきちんと理解する。その上で活字の背景にあるものを読み解く力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	活字メディア(新聞・出版)の現状	活字離れは本当か？
2	活字メディアの歴史	時代を切り開く
3	他メディアとの比較	インターネットと何を競う
4	ジャーナリズム性	権力と対峙してなんぼ
5	ニュースの作られ方	新聞記事はどこまで正確？
6	政治報道	政治家はタヌキかきつねか
7	行政報道	官僚はそれほどえらいのか
8	事件報道	人権尊重はどこまで
9	災害報道	被災者に寄り添う
10	戦争報道	日本のメディアは逃げ腰
11	メディアの怠慢	ハンセン病報道に見る愚かさ
12	出版は文化の担い手	百花繚乱
13	活字メディアの自主規制	批判をかわすだけでは
14	活字メディアの将来	紙がなくなる？
15	メディアリテラシー	おれにはおれの読み方がある

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったテーマの中から、受講者自らが関心のあるテーマを選び、それについての自分の考えを記述する。自分自身の意見がいかに説得力をもって展開されているかを評価する。
平常点評価	50 %	5回目ころと10回目ころに、授業中に提示したテーマで小リポートを簡潔に書いてもらう。400字詰め原稿用紙1枚程度。理解の程度と言いたいことが明確かどうかを評価する。授業態度も評価対象。

小リポートの提出要請がいつあってもよいように、筆記用具（鉛筆かシャープペン）を持参のこと。消しゴムも必要。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日々のニュース（国際的な動きや政治の動きから京都のタイムリーな話題まで）を新聞やテレビで知っておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫ほか／世界思想社／4-7907-1057-2／事前に読むと授業がより分かる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

観光文化論（S）

15710

担当者名 / Instructor　池田 知加

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在、全世界の国際観光客到着者数は8億人、日本人の海外旅行者数は1700万人を超えており、観光は今日の社会において大きな社会現象となっています。本講義では、文化として観光を理解するために、観光の歴史をみながら、どのような社会の変化があったのかについて検討します。観光について考察するには、単に観光する人だけに焦点をあてるのではなく、観光をつくりだす人や仕掛けやその背景にある文化のあり方までを含めて理解する必要があります。それだけ観光というものは、複合的な現象なのです。講義の最初は西欧にはじまる「近代観光」について扱い、次に観光によって生まれた新しい「まなざし」、そのまなざしが生み出す風景、最後に観光を生み出すしかけについて検討します。

到達目標 / Attainment Objectives

・観光の歴史を近代や新しい視線の誕生という点から理解する
・観光のまなざしが生み出す風景について、異文化、メディアという観点ともからめて理解する
・観光を生み出す仕掛けとして、メディアや政策といった観点から理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	観光
第2回	近代観光の前史	大衆消費　旅と観光
第3回	近代観光①ロンドン万博	ロンドン万国博覧会　水晶宮
第4回	近代観光②パリ万博	パリ万国博覧会　エッフェル塔
第5回	近代観光③近代化と博覧会	明治日本　博覧会
第6回	観光のまなざし①帝国主義と博覧会	まなざし　ジョン・アーリ
第7回	観光のまなざし②チベットの観光化	鉄道　チベット
第8回	観光のまなざし③日本の近代と観光	志賀重昂『日本風景論』 山岳風景
第9回	観光と風景①日本三景から日本新八景へ	日本新八景　メディア・イベント
第10回	観光と風景②大阪万博	マス・ツーリズム　テーマパーク
第11回	観光と風景③新しい風景を求めて	ディスカバー・ジャパン・キャンペーン 「アノニマスな風景」
第12回	観光を生み出すしかけ①メディア	旅行パンフレット　旅行案内書
第13回	観光を生み出すしかけ②政策	観光基本法　ビジット・ジャパン・キャンペーン
第14回	観光が生み出す文化③グローバル化	ホストとゲスト
第15回	講義の総まとめと補足	観光文化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

基礎的な専門用語などについては、各自で観光学辞典や社会学事典などを参考にして学習すること。講義内で紹介した文献を読むと、より授業の理解が深まります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観テスト（基礎的事項の理解）60% 論述（テーマ設定・論理的構成力）40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私語は厳禁です。学生証を提示の上、即退出、以後の授業への参加は認めません。レジメは教室でのみ配布します。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。レジメを使用します。参考書については適宜提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
観光文化学	山下晋司編／新曜者／4-7885-1080-4／
観光学入門：ポスト・マス・ツーリズムの観光学	岡本伸之 編／有斐閣アルマ／4-641-12130-3／
博覧会の政治学：まなざしの近代	吉見俊哉／中央公論社／4121010906／
風景の発見	内田　芳明／朝日選書675朝日新聞社出版局／4-02-259775-5／

観光社会学:ツーリズム研究の冒険的試み　　須藤廣　遠藤英樹／明石書店／4-7503-2118-4／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

特になし

グローバルメディア論（S） §　グローバルメディア論（I）

15544

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代のメディアをめぐる社会的環境の変化の中で、グローバリゼーションは最重要なものの1つである。しかし、グローバリゼーションは一般に知られているより遥かに多様な側面を持つと共に、実に複雑な影響をメディアに与え、また逆にメディアそのものがグローバリゼーションに影響を与えてもいる。

本講義では、最初にグローバリゼーションの基本的な概念を学び、その上で世界で起きている様々な事例を通して、グローバリゼーションのダイナミズムや、メディア・報道とグローバリゼーションの相互影響と、そこから生じる問題を考える。最後にメディア、ジャーナリズムを巡るグローバル化が様々な問題を抱える中で、グローバルな次元での共生、アイデンティティ構築が可能なのか考察する。各回を通して、国際報道、とりわけ現在起きているニュース報道の実例を重視します。

到達目標 / Attainment Objectives

1・グローバリゼーションを巡る様々な概念を、具体的な実例と共に理解し、説明できるようになること。
2・グローバル化時代におけるメディア・ジャーナリズムの構造と様々な問題点の基礎的な理解をし、その上で批判的な視座に立ち、各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～グローバリゼーションとは何か～	グローバリゼーションの定義、時間と空間の圧縮、文化帝国主義、ハイブリディゼーション
第2回	グローバリゼーションの諸理論とメディア、情報の接点	国際コミュニケーション、グローバル・メディア・スタディーズ、マスコミュニケーション理論
第3回	メディアとナショナリズムを考える	日米関係、アンダーソン、ゲルナー、ビリッグほか
第4回	国際報道をめぐるグローバルな地政学	ニュース通信社、海外支局・特派員、中心／周縁、戦後の国際報道、総合商社
第5回	ニュース報道のグローバル化とローカル化	英米の国際報道、ニュースの商業主義、グローカリゼーション、ローカル・ニュース
第6回	メディアとテロリズムを結ぶもの	世界のテロ史、セカンドハンド・テロリズム、イスラム過激派サイト、テロの境界線
第7回	文化摩擦・交流とメディア	多文化主義、日韓文化交流、アジアのメディア、文化的近似性／近時性、モダニティ、ハンチントン
第8回	国際政治とメディア報道の議題設定	G8、先進国メディア、ウオーターゲート事件、ペンタゴン・ペーパーズ事件、ニュースの議題設定、日米関係
第9回	グローバルなメディアの進展と情報格差	CNN、ルパート・マードック、ニューズ・コーポレーション、デジタルデバイド
第10回	オンライン・ジャーナリズムの役割と可能性	コソボ空爆、メディア統制、セカンド・ハンドニュース、NWICO論争、ブログ
第11回	歴史、記憶とメディア①歴史から記憶の優位性へ	E.H.カー、コリングウッド、ピエール・ノラ他、記憶と映画①
第12回	歴史、記憶とメディア②記憶装置としてのメディア	テッサ・モーリス＝スズキ他、記憶と映画②
第13回	モダニティ、消費化する世界とメディア①	ギデンズ、ボードリヤール、モダニティと映画①
第14回	モダニティ、消費化する世界とメディア②	ヘリテージ産業、モダニティと映画②
第15回	グローバルな市民意識は可能か	脱西洋化理論、コスモポリタニズム、バフチン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習・応用を念頭に置いて、授業内に参考資料、応用への取り組み等を適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	
平常点評価	10 %	授業内でレポートを書いてもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・メディアは生き物です。大事件が起きてニュースになれば、授業では、それに関連付けて議論を展開することもありえます。従って、普段から新聞、ニュースにしっかりと触れるようにしてください。それによって講義の理解度に大きな差が出ます。
・受講人数にもよりますが、テーマに応じたディスカッションを随時実施し、問題意識と応用力を鍛えます。

・本科目の性質上、時事問題を重視するため、ニュースを騒がす大きな事件が発生した場合などには、授業内容の変更があったり、授業外学習の指示を中心に授業を行うことがありえます。
・私語は厳禁です。周囲の学生に迷惑な私語には厳しく対処します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル社会とメディア	武市英雄・原寿雄（責任編集）／ミネルヴァ書房／４－６２３－０３６１８－９／特に第1回から第10回の授業内容と密接に関係する。

テキストは、第10回までは、毎回持参すること。

参考書 / Reference Books

参考書、資料については、必要に応じて授業で適宜、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代とメディア（SA）

12662

担当者名 / Instructor　筒井 淳也

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（筒井、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：筒井担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか？メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術の発明は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどう構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か？またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報化とは何か？：漠然と語れることが多い「情報化」について、基礎から説明する。	
9	情報化と政治・経済：具体的な社会的領域に対してメディアがどのように作用するのかを説明する。特に政治と経済の仕組みに注目し、メディアが政治と経済の領域に与える影響を理解する。	
10	情報化と社会的ネットワーク：同じく、対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、教育の位置づけなどその他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：インターネットは社会をどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか？また、その社会的な働きはどこにあり、何が問題になっているのか？	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	不定期に授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。

現代とメディア（SB）

12663

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（筒井、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：筒井担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか。メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術の発明は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどう構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か。またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報化とは何か？：漠然と語れることが多い「情報化」について、基礎から説明する。	
9	情報化と政治・経済：具体的な社会的領域に対してメディアがどのように作用するのかを説明する。特に政治と経済の仕組みに注目し、メディアが政治と経済の領域に与える影響を理解する。	
10	情報化と社会的ネットワーク：同じく、対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、教育の位置づけなどその他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：インターネットは社会をどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか？また、その社会的な働きはどこにあり、何が問題になっているのか？	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	不定期に授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。

現代メディア史（S）

15586

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『はだしのゲン』は「原爆」を扱った代表的なマンガである。これはなぜか、学校図書館や学級文庫に多く蔵書されている。図書館や学級文庫にマンガがほとんど置かれていないことを考えると、それはかなり奇異に思える。

また、われわれは、8月15日を「終戦記念日」として記憶に留めている。だが、その日は他国との「終戦」が成立した日ではない。ポツダム宣言受諾は8月14日、降伏文書調印は9月2日である。にもかかわらず、なぜ、その日を「記念」するのか。ちなみに、沖縄では6月23日（沖縄戦が終わったとされる日）や4月28日（サンフランシスコ講和条約が発効した日）が、戦争をめぐる記念日として多く語られてきたが、日本本土では原爆の日は言及されても、それらの日が記念されることは皆無に近い。

こう考えると、「戦争」をめぐる戦後の「常識」にはさまざまな疑問が思い浮かぶ。この授業では、こうした疑問を念頭に置きながら、戦後のメディア史（ジャーナリズム史・マンガ史・出版史・映画史など）を見渡し、ナショナルな世論やアイデンティティの変容プロセスを検証する。

なお、本講義は史的事実の「暗記」を目的とするものではない。「歴史（メディア史・近現代史）」を通して、「現代」をいかに批判的に読み解くのか―それを考えることに本講義の目的がある。そもそも、現代の状況は、「現在」だけでなく、「歴史」をふまえなければ、十分に見渡すことはできない。こうした観点に立ちながら、本講義は、「メディア史」そのものというよりは、それを「利用」すること、すなわち「〈メディア史〉する」ことを実践し、解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

戦後のメディア史と世論史を歴史社会学的な観点で捉える視点を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	授業の概要・導入
2	「リアリティ」はリアルか～『男たちの大和』『ショア』『人間魚雷回天』	戦後メディア史とリアリティの逆説
3	「原爆マンガ」のメディア史（1）～『はだしのゲン』前史	占領期と原爆の語り，『長崎の鐘』（手記・映画），映画『ひろしま』，原水禁運動の輿論
4	「原爆マンガ」のメディア史（2）～『はだしのゲン』とマンガ雑誌	戦後のマンガ雑誌史と団塊の世代，『週刊少年ジャンプ』，青年コミック誌
5	「原爆マンガ」のメディア史（3）～『はだしのゲン』の正典化	書籍化・映画化，図書館というメディア，左派系論壇誌
6	教養主義と戦争の記憶（1）～遺稿集がベストセラーになった時代	戦前・戦後の教養主義と出版メディア，『きけわだつみのこえ』（遺稿集・映画）
7	教養主義と戦争の記憶（2）～農民兵士論争とカッパ・ブックスの時代	『戦没農民兵士の手紙』，映画『拝啓、天皇陛下様』，カッパ・ブックスの時代
8	教養主義と戦争の記憶（3）～わだつみ像破壊事件（立命館）をめぐって	教養主義の没落，岩波文庫というメディア
9	戦記・映画・「特攻」イメージ（1）～占領終結前後	「わだつみ」の神話，1950年代前半の戦記ブーム，映画『雲ながるる果てに』（1953年）
10	戦記・映画・「特攻」イメージ（2）～任侠映画と全共闘と戦争の語り	『あゝ同期の桜』（遺稿集・映画），任侠映画ブーム，大学紛争，テレビの隆盛と映画の衰退
11	戦記・映画・「特攻」イメージ（3）～1970年代と戦争責任論の逆輸入	戦争責任論，映画『あゝ決戦航空隊』（1974年），忠誠と反逆
12	沖縄における「終戦記念日」の変容（1）～「玉音」が届かなかった島	「8月15日」の神話，戦後沖縄のジャーナリズム史，米軍基地の拡張と土地闘争
13	沖縄における「終戦記念日」の変容（2）～復帰運動をめぐって（1960年代）	復帰運動と「6・23（慰霊の日）」「4・28（屈辱の日）」の発明
14	沖縄における「終戦記念日」の変容（3）～「本土復帰」（1972年）をめぐって	「反復帰」論，メディア・イベント，沖縄に映る戦後日本
15	授業全体を振り返って～まとめ	戦後日本とメディア史

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

【重要】

・授業ではパワーポイントや映像資料を用いるほか、プリントを用いる。

・授業各回のプリントについては、授業用HP（http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/）の「授業に関するご連絡」よりダウンロードし、出力のうえ、授業にのぞむこと。授業時には配布しません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
レポート試験	30 %	中間レポートとして実施。未提出の場合は原則として成績評価対象にならない。
平常点評価	10 %	適宜コミュニケーションペーパー等(平常レポートを含む)の提出を求めることがある。出席点は設けない。

私語や携帯電話の使用をなす者は、即「不可」とし、以後の受講は認めない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

史実は授業の中でわかりやすく解説する予定なので、現時点での歴史の知識の有無は問いません。歴史との対比で現代を読み解いていく面白さを感じてもらえる受講者の履修を望みます。

教科書 / Textbooks

中間レポート等の課題文献は、別途指示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『「戦争体験」の戦後史』	福間良明／中央公論新社／ ／中公新書
『殉国と反逆—「特攻」の語りの戦後史』	福間良明／青弓社／978-4-7872-2022-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/

その他 / Others

広告表現論（S）

15707

担当者名 / Instructor　畑 寿一郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「広告表現分析」
本講義では、広告論での広告の基礎知識を前提として、広告表現の吟味、文化的な側面、グローバルな視点での広告など幅広い内容をカバーする。要所要所で数多くのTV広告等を鑑賞し、自分の目で広告の良さを判断することも学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、広告表現を通し、広告の送り手、そして受け手としてのメディアリテラシーを身につけることを期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

広告論を履修していることが望まれる 。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義 ＝広告の歴史は人類の歴史＝	最古の広告、産業革命と広告、引札、錦絵、ポスター、マスメディア
2	広告表現の構成要素（1） ＝コピー、一行の力＝	コピーライター、言葉によるコミュニケーション
3	広告表現の構成要素（2） ＝アートディレクターの視線の先にあるもの＝	アートディレクター、芸術と広告、ビジュアルの力
4	広告表現を引き出すために ＝アカウントプランニングの役割＝	ターゲットインサイト、プロポジション、ブリーフ、「Got Milk?」
5	広告は時代を映す鏡（1） ＝1950～70年代のCM＝	日本のテレビCM第1号、商品連呼、高度経済成長
6	広告は時代を映す鏡（2） ＝天才・杉山登志が残したもの＝	30秒の狙撃兵、資生堂
7	広告は時代を映す鏡（3） ＝1980～2000年代のCM＝	ジャパン・アズ・ナンバーワン、バブル崩壊
8	深層心理と広告表現	ユング心理学、グレートマザー、シャドー、始源児と老賢者
9	新しい広告表現の息吹 ＝インターネットは広告をどう変えたのか＝	ショートムービー、リスティング広告、CGM
10	ラジオCMは時代遅れか ＝周回遅れのトップランナー＝	音だけだから伝えられるもの、ポッドキャスティング
11	広告に社会性はあるか	公共広告、環境広告、ベネトン
12	世界の広告の潮流	カンヌ国際広告祭
13	体験的広告制作論 ＝誰でもクリエーターになれる、か？＝	クリエーターという職業、コピー制作体験
14	ブランドという物語	ブランド価値、ブランドマネジメント、物語
15	講義の総括 ＝広告表現の向こう側に見えるもの＝	メディアリテラシー、生活者主導

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

配布のレジュメでの復習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	教科書およびノートなどの持込は不可
平常点評価	30 %	不定期に授業内で課題を課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題は7～8回は行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合もある。

教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書 / Reference Books

講義内で随時紹介する

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

アドミュージアム東京：http://www.admt.jp/index.html
全日本シーエム放送連盟：http://www.acc-cm.or.jp/
公共広告機構：http://www.ad-c.or.jp/
CANNES LIONS 公式サイト：http://www.canneslions.com/index.cfm

その他 / Others

特になし

広告文化論（S）

15709

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「広告」「広報」「宣伝」―これらのニュアンスはそれぞれ異なるが、その機能には重なり合う点が多い。むしろ、それらを殊更に区分することで、見えなくなるものも少なくない。たとえば、9･11直後、アメリカ政府は、国内外の宣伝政策の責任者に、大手広告代理店トップを起用した。このことは、「国内広報」「対外宣伝」と「広告」の連続性を示唆するものであろう。本講義では、「宣伝」「広報」も視野に入れながら、「広告＝宣伝」のメディア文化史を俯瞰する。そのうえで、⑴「広告＝宣伝」はナショナリズムや国民統合といかに結びついてきたのか、⑵それらを批判的に読み解いたうえで、いかに「自己＝われわれ」と「他者」との対話を構想することができるのか、という点について考察する。

なお、本講義では、現代の事象のみならず、戦前・戦後の宣伝・広告文化史も多く取り上げる。現代は現代によってのみ見えるのではなく、過去との対比によって見えるものも少なくないためである。本講義では、関連する文化史も解説しながら、近現代の広告文化を読み解いていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・「広告」「広報」「宣伝」の背後にあるポリティクス（ナショナリズム・異文化認識など）を読み解く視点を学ぶ。
・「広告」「広報」「宣伝」の文化を、総力戦体制以降の歴史をふまえながら、理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～広告・広報・宣伝を横断する	授業の概要・導入
2	現代広告に映るジェンダー／セクシュアリティ	テレビCMと「男同士の絆」
3	現代広告に映る「異文化」	異文化認識のポリティクス
4	博覧会と異文化表象～大阪万博の広報学（1）	大阪万博、戦前期の博覧会、異文化・異民族の「展示」
5	博覧会と異文化表象～大阪万博の広報学（2）	岡本太郎、万博から民博（国立民族学博物館）へ
6	戦時期の博覧会と「聖戦」の綻び（1）	日中戦争、擬似戦場体験のメディア、ニュース映画との相違
7	戦時期の博覧会と「聖戦」の綻び（2）	メディア・イベント，戦時期の出版バブル
8	戦時期の博覧会と「聖戦」の綻び（3）	プロパガンダの逆説
9	玉音放送の広報学（1）	終戦記念日の神話
10	玉音放送の広報学（2）	「8・15」の発明と玉音放送のメディア論
11	9･11とプロパガンダの現代史（1）	9･11以降のアメリカと広告・広報・宣伝
12	9･11とプロパガンダの現代史（2）	総力戦体制とアメリカの宣伝政策、映画『大戦前夜』と「敵」の表象
13	9･11とプロパガンダの現代史（3）	日本の戦時プロパガンダ映画（『ハワイ・マレー沖海戦』『陸軍』）と「敵の顔」の不在
14	おわりに：自己と他者の対話の可能性	逆さの世界（丸山眞男）、沈黙の螺旋
15	授業全体を振り返って～「広告文化」を読み解く視点	理論・見取り図の復習

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

【重要】
・授業ではパワーポイントや映像資料を用いるほか、プリントを用いる。
・授業各回のプリントについては、授業用HP（http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/）の「授業に関するご連絡」よりダウンロードし、出力のうえ、授業にのぞむこと。授業時には配布しません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	
レポート試験	30 %	中間レポートとして実施。未提出の場合は原則として成績評価対象にならない。
平常点評価	10 %	適宜コミュニケーションペーパー等（平常レポートを含む）の提出を求めることがある。出席点は設けない。

・本講義は、商業広告に特化するわけではない。「広告・広報・宣伝」を広くとらえ、博覧会やプロパガンダ、宣伝映画も多く扱う。その意味で、どちらかといえば、広義の公共広告（史）に重点を置くことに留意されたい。

・私語や携帯電話の使用をなす場合、即「不可」とし、以後の受講は認めない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書はとくに使用しない。
中間レポート等の課題文献は、別途指示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『情報戦争』	ナンシー・スノー／岩波書店／4000234013／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/

その他 / Others

広告論 (S)

13306

担当者名 / Instructor　小泉 秀昭

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「現代広告論」
本講義では、企業の行う広告活動を中心におき、広告および広告産業を包括的に理解することを目指す。広告の定義、機能、また広告キャンペーン立案プロセスなど幅広い内容を実際の企業のケースを通し解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、市民としての広告に対するリテラシーの向上を目指す一方、実社会において広告活動に関連する場面に直面した際に十分対応のできる知識、考え方を身につけることを望む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の進め方・広告の歴史および定義	マーケティング、宣伝
2	広告の種類と機能(社会的役割と企業のマーケティング活動としての役割)	マス4媒体、SP広告、経済・経営、・社会・文化的機能、
3	広告産業とは:特に広告代理店の役割と今後の方向性	広告費、総合広告代理店、世界の代理店、クリエイティブエージェンシー
4	広告のブランド構築への役割	ブランドエクイティ、ブランド認知、知覚品質、ブランド連想、ブランドロイヤルティ
5	広告戦略立案プロセス(1)	Plan・Do・See、状況分析、SWOT分析、ポジショニング、ターゲティング
6	広告戦略立案プロセス(2)(ケーススタディ)	ツーカーのキャンペーン、高齢者向け広告
7	表現戦略 TVCMの制作プロセス	クリエイティブブリーフ、ストーリーボード、TVCM
8	広告効果(1)	広告調査、AIDMA、AISAS、関与
9	広告効果(2)	精緻化見込みモデル、ロシター＆パーシーグリッド、認知的不協和低減の理論
10	メディア戦略	メディアプランニング、ブランドコンタクトポイント「牛乳に相談だ」のケース
11	ゲストスピーカー	広告主あるいは広告会社の方
12	IMC戦略	統合型マーケティングコミュニケーション、日立マクセルのケース
13	スポーツと広告	adidasのワールドカップのケース
14	Web広告	ネット広告会社、バナー広告、行動ターゲティング広告
15	新しい広告・講義の総括	ステルスマーケティング、バイラル広告 、シームレス広告

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

配布のレジュメでの復習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	教科書およびノートなどの持込は不可
平常点評価	30 %	不定期に授業内で課題を課す

課題は7～8回は行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

比較的な高度な広告理論の解説もあるため、しっかりとした受講態度を希望する
空欄のあるレジュメを毎回配布するため、遅刻をせず出席し空欄を埋めること。

教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

現代広告論(新版)	岸志津江、田中洋、嶋村和恵／有斐閣／4-641-12356-X／
新しい広告	嶋村和恵監修／電通／4-88553-183-7／

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アドミュージアム東京：http://www.admt.jp/parent_J.html
全日本シーエム放送連盟：http://www.acc-cm.or.jp/
公共広告機構：http://www.ad-c.or.jp/

その他 / Others

特になし

国際ジャーナリズム論 (S)

13461

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・海外の報道機関・メディア産業の現状を理解する。
・日本の報道と海外の報道を比較し、優れている点や課題を考察する。
・表現の自由、ジャーナリズムの原則が国際化、インターネットの発達でどう変質したか理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入のはなし／カルチャーギャップ	異文化コミュニケーション・翻訳
第2回	ジャーナリズムとは何か	ニュース・表現の自由・民主主義・権力と監視
第3回	日本で外国のニュースはどのように伝えられているか	ニュースソース・通信社・衛星放送
第4回	権力とメディア	選挙・政治報道・メディアコントロール
第5回	戦争とメディア	プール取材・「埋め込み」ジャーナリスト
第6回	表現の自由のない国で／忘れ去られたニュース	報道の自由・取材の自由・ニュースバリューとサブスタンス
第7回	メディア・ビジネスとニュース	資本集中・FCC・多様性と民主主義
第8回	メディアの倫理と理想をいかに守るか	権力の監視・取材倫理
第9回	(ゲスト・スピーカーに講演と質疑)	
第10回	公共放送を考える	NHK・BBC・公共性・災害報道
第11回	日本は世界からどう見られているか　その1	皇室報道・「コイズミ現象」
第12回	日本は世界からどうみられているか　その2	「ジャパン・クール」・ジャパニメーション
第13回	ニュースの新しい形とプライバシーの問題	ブログ・サイバー社会・ウェブ2．0
第14回	インターネットと創造的な社会(まとめの議論)	著作権・アーキテクチャ・プライバシー
第15回	まとめの議論と記述問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①民主主義とジャーナリズム、表現の自由の関係、豊かな社会をつくるための情報の価値や流通のルールなどが理解できているかを測る記述問題。 ②受講者数によって、発表やクラス内ワークショップの課題を追加する可能性があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・たくさんの文献(英語含む)を読んで、たくさん語り、書いてもらいます。
・新聞・テレビ・雑誌のニュースや情報に触れておいてください(それを前提に授業を進めます)。

教科書 / Textbooks

・クラス内で指示します。

参考書 / Reference Books

・クラス内で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもとメディア (S)

15597

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもは、テレビやラジオ・新聞・雑誌・映画といった従来のメディアのほか、ゲームやインターネットなどのデジタル・メディアに囲まれて育っている。本講義では、子どもとメディアのかかわりについて、社会・教育・心理学的見地から考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「メディアが子どもの日常生活においてどのような役割を果たしているのか」、「子どもはメディアをどのように理解し使用しているのか」、「メディアが子どもの成長にどのような影響を与えるのか」、といったメディアと子どもについての基本的な事柄について理解する。
・子どもにメディアを教えるにあたり、メディア・リテラシーの基本的な概念や教育の実践についての基礎的な知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	
第2回目	子どものメディア環境： 子ども時代の変化	
第3回目	子どもの発育、行動、モラル形成とメディア	
第4回目	子どもとポピュラー・カルチャー	
第5回目	メディアと暴力	
第6回目	メディアとジェンダー： 女の子らしさ・男の子らしさ	
第7回目	消費者としての子ども(1)テレビ番組	
第8回目	消費者としての子ども(2)広告	
第9回目	デジタル時代の子ども： インターネットと子どものメディア発信	
第10回目	子どもの権利とメディア	
第11回目	子どもにメディアを教える(1) メディア・リテラシーとは何か	
第12回目	子どもにメディアを教える(2) メディア・リテラシーの基本概念	
第13回目	子どもにメディアを教える(3) メディア・リテラシー教育の実践	
第14回目	子どもにメディアを教える(4) メディア・リテラシー教育の課題	
第15回目	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日常生活において、自分が使うメディアや子供向けのメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①検証テスト(40%) 最終回の授業で、それまでの授業内容の理解度とそれを踏まえて自分の考えを記述できるかどうかを確認する検証テストを実施する。 ②コミュニケーション・ペーパー(60%) 授業中に毎回A4用紙一枚程度のコミュニケーションペーパーを課す。内容はメディア分析や小レポートなど。0～5点で評価する。単に出席しただけでは点数がつかないので注意。

・授業の内容をよく理解した上で、メディア分析や授業内に提示された課題等に積極的に取り組むことが望まれる。コミュニケーション・ペーパーはその出来によって評価し、0～5点の点数をつける。
・毎回QRコードシールを持参すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講義だけではなく、子ども向けのメディアを分析したり自分なりの考察を深めるなど、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。
・初回に授業の進め方、試験、評価方法などの詳細な説明とともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
・遅刻は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処する。レジュメや資料等も授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい(病欠ややむを得ない事情を除く)。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメと参考文献リストを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと人間の発達　－　テレビ、テレビゲーム、インターネット、そしてロボットの心理的影響	坂元章編／学文社／4762012629／
Children, adolescents, & the media	Victor C. Strasburger & Barbara J.Wilson／Sage Publications／0761921257／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーを伸ばす国語の授業　小学校編	児童言語研究会編／一光社／4752810514／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

The International Clearing House on Children, Youth, & Media http://www.nordicom.gu.se/clearinghouse.php
FCTメディア・リテラシー研究所 http://www.mlpj.org/index.shtml

その他 / Others

コミュニケーション政策論（S）

15495

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、「市民が望む政治実現のために、メディアはいかなる機能を果たしうるか、果たすべきか？」という問題意識を縦軸に探求します。従って、メディアをめぐる責任、モラル、約束事(convention)、制度、商業主義などのイデオロギー、メディア人の専門性、ジャーナリスト教育、権利と権力、市民と政治などのせめぎあいを見つめ、そこから生まれる問題、ジレンマを批判的に考察します。現在、起きているテレビニュース、新聞などのジャーナリズムの実例を大切にしながら学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

政治実現のためのメディア、およびメディア、コミュニケーションの政策に関連する主要なテーマ、すなわちメディアをめぐる責任、モラル、専門性、約束事（convention）、制度と商業主義などのイデオロギーなどのせめぎあいが抱える問題点を批判的に理解し、その上で各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～政治の危機とメディアの危機：戦後日本の歩みから～	歴代日本の首相、メディア・ポリティクス、政治実現、政策
第2回	主要な概念を学ぶ	モダニティ、資本主義、グローバル化、デモクラシー、公共圏ほか
第3回	公共放送制度と国家①NHKの課題と公共圏	NHK、受信料、公共圏、放送法、経営委員会
第4回	公共放送制度と国家②イギリスBBCの制度と模索	公共放送、BBC、ライセンス・フィー、ナショナリズム、ユーロビジョン・ソングコンテスト他
第5回	民放テレビと公共圏のジレンマ	1980年代、民放のニュース番組、ハバーマス、後期モダニティ、ディスコース
第6回	新聞メディアの現在と専門性の変容	専門性、ジャーナリスト教育、OJT、ネットジャーナリズム、論説機能
第7回	ニュース価値と議題設定の問題	ニュース価値、議題設定、フレームワーク
第8回	偏向要因から考える政治実現とメディア	偏向要因、メディア・ルーティン、イデオロギー、記者クラブ、逸脱理論、覇権理論、情報操作
第9回	メディアリテラシーの視点と政治実現	メディアリテラシー、ニュース価値、偏向要因、専門性、公共圏
第10回	ケース・スタディ～現在起きているニュース報道の事例から考える政治実現とメディア	
第11回	シンクタンクおよびその機能と政治実現	欧米のシンクタンク、日本のシンクタンク、アメリカ大統領選挙
第12回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（前）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造
第13回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（後）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造、メディアに描かれたメディア
第14回	情報インテリジェンスの可能性	ネットジャーナリズム、ブログ、外交、総合商社、大学、エコノミスト
第15回	全体総括＆ディスカッション	各回の復習、ディスカッション、リアクション・ペーパー

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習や応用が出来るように、授業内に参考資料や、応用への取り組みなどを適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	授業で学んだことの関連テーマについて、①その基礎的な理解が出来ているか、②その上で論理的かつ独自に批判的な思考がどの程度述べられているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・受講人数にもよるが、テーマに応じたディスカッションを適宜実施することを考えているので、議論を通じての問題意識と批判力を鍛えて欲しい。
・本科目の性質上、現在起きている時事的な問題を扱うことが多いので、シラバスの予定は開講以降に変更される場合や、授業外学習の指示のみに代替されることもありうる。
・私語は厳禁である。周囲の学生に迷惑になるような私語には厳しく対処する。

教科書 / Textbooks

テーマが多岐にわたるので、教科書は特に使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジャーナリズムの科学	門奈直樹／有斐閣選書／４－６４１－２８０４６－０／
メディアの法理と社会的責任	渡辺武達・松井茂記（責任編集）／ミネルヴァ書房／４－６２３－０４０７３－９／
メディア・リテラシー～媒体と情報の構造学	井上泰浩／日本評論社／４－５３５－５８３９０－０／

その他、必要に応じて授業内で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

コミュニティメディア論 (S)

13314

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義で言うところのコミュニティ・メディアは、地理的な範囲を中心とした地域コミュニティのメディアである。

大きな災害が起きるたびに、マス・メディアに登場する小規模なメディアがある。それが、地域メディアと言われる、ローカル新聞やコミュニティFMである。地域メディアは、その名の通りに地域に密着した情報を伝えるために存在している。われわれの生活はマス・メディアを中心に成立しているが、一定範囲の地域を意識し、その地域で生活する人びとを中心に成立しているメディアも確かに存在しているのだ。だが、先述のようにその存在が認識されるのは、大きな災害など特別な状況が起こったときに限られている。

また、われわれが学ぼうとしているメディアにはさまざまな存在理由があり、生まれてきた理由もある。メディアの歴史を学ぶとき、その存在理由はあまり問われることがない。1本の時間軸の上にトピックスとして並べられ、他の可能性や別の時間軸は無視される。特に、地域という一定の地理的範囲や人的なつながりのなかで生み出されたメディアの歴史は、その存在すら忘れられている。

それはなぜなのだろうか？この授業の基本的な関心は、常に疑問と共にある。なぜマスなメディアだけではだめなのだろうか？なぜ、地域コミュニティとメディアが強く結びつくのだろか？なぜ、自らメディアを生み出そうとするのだろうか？自明と思われていることに改めて目を向け、それを確認し、分析し、理解をする。授業は、その繰り返しである。

到達目標 / Attainment Objectives

1. マス・メディア以外のメディアの存在を理解する。
2. コミュニティとメディアの関係を考える。
3. メディアの存在を自明とせずに、さまざまな角度から観察できる。
4. コミュニティ・メディアにアクティブなアプローチができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目（情報メディア学系用）
基礎社会学
メディア社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日常に偏在するコミュニティとメディア	コミュニティの地域性と共同性
2	地域メディアとわれわれ	地域、住民、メディアの循環を創る
3	コミュニティ・メディア研究と調査1	どんな研究視点や方法があるのか
4	コミュニティ・メディアと災害1	災害とメディアの関係性を考える
5	コミュニティ・メディアと災害2	実際の災害とメディア
6	コミュニティ・メディアと災害3	実際の災害とコミュニティ・メディア
7	コミュニティ・メディアと災害4	今後の災害とコミュニティ・メディア
8	コミュニティ・メディアを巡る議論	コミュニティ・メディアをグローバルに見る
9	コミュニティガバナンスとコミュニティ・メディア	地域社会の問題解決とメディア
10	ÿþ³0ß0å0Ë0Æ0£0û0á0Ç0£0ø0n0·tó`h0o0	コミュニティ・メディアの営利／非営利問題
11	ケーブルテレビ	地域からグローバルへ
12	地方新聞	地方新聞の存在
13	コミュニティFM	地域密着とラジオ
14	インターネットとコミュニティ・メディア	地域性のないコミュニティとメディア
15	地域とメディアの新しい関係作り	今の時代にふさわしい地域とメディアの関係とは

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観問題と論述問題を併用

レジュメは、webCTに1週間前までにアップするので、各自プリントアウトして持参すること。授業当日は、関連する資料のみを配付する。ただし、開始後30分経過した時点で配布を中止し、以後は一切配布を行わない。試験には、配付資料の内容も含まれる。
各回の授業予定は、最新のトピックスに合わせて変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とメディアの関係を、常に意識することが大切。新聞を読み、社会の動きと問題を確認することも大切。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域メディアを学ぶ人のために	田村紀雄篇／世界思想社／／
「声」の有線メディア史	坂田謙司／世界思想社／／
地域SNS最前線	庄司昌彦／アスキー／／
コミュニティ・メディア	金山智子／慶応義塾大学出版部／／
現代地域メディア論	田村紀雄・白水繁彦／日本評論社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ジャーナリズム論（S）

13445

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、ジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由について、なぜそれらが私たちにとって重要な意味をなすのかといった観点を起点に、日本のジャーナリズム活動、ジャーナリストたちの言論活動や思想などを歴史的に踏まえながら考えていきます。現在のジャーナリズムの問題点をとらえ、見る眼を養うためにも、政治的社会的側面から見た現代社会におけるジャーナリズムの状況と課題を整理しつつ、時事的・実際的な問題などと関連させながら多面的に考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

ジャーナリズムの本質やその現在的問題を歴史的相対的に捉える視座を獲得し、関連する課題について説明することができることを到達目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～授業の進め方と評価について	ジャーナリズムの視点
第2回	ジャーナリズムとは何か	マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、ジャーナリスト
第3回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（1）明治期日本の新聞記者	ジョセフ・ヒコ、福地源一郎、福澤諭吉
第4回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（2）新聞に対する読者の視線	黒岩涙香、宮武外骨
第5回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（3）言論の力と大正デモクラシー	米騒動、井上江花、白虹事件
第6回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（4）批判の限界と新聞人	菊竹六皷、桐生悠々
第7回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（5）ジャーナリズム批判と言論活動	石橋湛山、高見順
第8回	報道することの難しさ～皇室報道をめぐって	皇室報道、表現の自由
第9回	権力を監視するということ～記者クラブというシステムと取材のあり方	記者クラブ、報道協定、情報公開
第10回	国家秘密と知る権利～外務省密約事件	知る権利、沖縄返還密約事件、記者の倫理
第11回	戦争とジャーナリズム～（1）戦争報道から何を考えればよいか	宣伝、情報操作、報道管制
第12回	戦争とジャーナリズム～（2）メディアは何を伝えているか	映像のリアリティ
第13回	取材と報道のバランス～（1）報道と人権の狭間	犯罪報道、報道被害、メディア・スクラム
第14回	取材と報道のバランス～（2）メディアが作り出す報道被害	スクープ、報道被害、実名・匿名問題
第15回	ジャーナリズムをどうするか～報道規制の動き／まとめの議論	ジャーナリストという職能／ジャーナリズムの可能性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、週刊誌など現代社会の出来事を伝える報道に意識的に接触することです。ジャーナリズム論を深めるための参考文献を授業時に多数紹介しますが、関連する文献を読んで、問題意識を深めて下さい。なお、ジャーナリズム論は近現代史と深く関わっていますので、近現代史の知識を増やすよう努力して下さい。授業は資料を中心にビデオ映像などを使いながら進めていきます。電子掲示板などを活用して授業内容に関する受講者の考察や意見を求める課題を課します。授業の進度によっては予定のテーマが前後・伸縮することもあります。なお、ジャーナリズム現場で仕事をしている方をゲストスピーカーとして行う授業も予定しています。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終的に授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにオンライン（メール）提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視します。
平常点評価	40 %	授業時に講義内容に関連した課題レポート（小レポートに準ずるもの）を課します。決められた期日までに提出（電子掲示板への書き込み提出）することが求められます。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価します。

レポートはメール（オンライン）での提出となりますので、パソコンスキルを身につけておいて下さい。授業期間中に出される課題レポート（電

子掲示板への提出）を全く提出しなかった場合は出席していないと判断します。第1回目に「授業の進め方と評価について」詳細な説明をしますので、受講予定者は必ず出席して下さい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、ジャーナリズムを見る眼を養うための知識を獲得することも必要ですが、むしろ問題意識を啓発することに主眼を置きますので、そこから生じるさまざまなテーマに関する問題意識に対して自分なりに深めることが重要です。問題意識を啓発するための資料を読んだり、ビデオ映像などを視聴し、そこから得る新たな知見、意見などを求めながら授業を構成していきます。ジャーナリズムの歴史など日本の近現代史に関わることもあり、歴史上の人物や著作など事典や文献などでさらに調べることで知識を広げて下さい。なお、時事的な問題を扱うこともありますのでこのシラバスの予定は、開講以降に変更される場合があり、若干講義予定の順序が変動または授業外学習の指示に代替されることがあります。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処します。また、配布物等は事前事後にコースツールに入れておきますので、各自そこから入手するようにしてください。配布物がある場合は授業時教室以外では配布しません。

教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じて資料等を用意する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キーワードで読み解く現代のジャーナリズム	JCJジャーナリズム研究会編／大月書店／4272330454／日本のジャーナリズムについて俯瞰し、ジャーナリズムをめぐる情況を総体的に把握することができる。授業を進める上で基本的な知識を深めたいときの参考書である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

配布物や課題レポート等はコースツール（WebCT）を使いますので、予め「早期利用申請」を申請しておいてください。

情報経済論（S）

13301

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

情報ネットワークインフラの発達は、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革をもたらした。電子商取引の普及とユビキタスネットワークの形成により、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造が変わってきた。電子商取引が引き起こすさまざまな問題に対する諸制度の整備、消費者の側でのリテラシー涵養も求められている。この講義では電子商取引を中心とするネットワーク経済の実態、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・電子商取引の仕組み、構成、現状について理解できる
・電子商取引を支える技術的基盤の基本的しくみについて理解できる
・電子商取引の社会的影響について理解できる
・電子商取引に関わる法的問題、消費者保護の基本的課題について理解できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　情報ネットワーク化と経済活動	情報経済、情報化社会、ICT、ユビキタスネットワーク社会
第2回	電子商取引（EC、Electronic Commerce）とは何か	電子商取引、定義、取引主体、市場規模
第3回	企業・消費者間（BtoC）のEC(1)	ユーザー像、市場の実態、ビジネス・モデルの類型
第4回	企業・消費者間（BtoC）のEC(2)	デジタルコンテンツ市場、ビジネスモデル
第5回	インターネット広告	ネット広告市場、ネット広告の基本類型、ビジネスモデル
第6回	企業間（BtoB）のEC	EDI, サプライチェーンマネジメント、e－マーケットプレース
第7回	デジタル・エコノミーと経済法則の変化	経済性、取引費用、情報財、収穫逓増
第8回	ECの技術的基盤(1) 情報処理システムと通信ネットワーク	コンピュータの発達、分散処理、通信ネットワーク
第9回	ECの技術的基盤(2)　インターネット	パケット通信、プロトコル、TCP/IP、インターネット利用の実態
第10回	ECの技術的基盤(3)　セキュリティ、暗号化と認証	暗号技術、デジタル署名、電子認証、電子公証、PKI
第11回	電子決済システム	ICカード型、ネットワーク型、プリペイド型
第12回	ユビキタスネットワーク（1）	ユビキタス、u-Japan政策、RFID
第13回	ユビキタスネットワーク（2）	トレーサビリティ、トラッキング、プライバシー保護
第14回	ECに関わる犯罪・トラブルと法的規制	特定商取引法、電子契約法、消費者保護、プライバシーマーク
第15回	情報ネットワーク社会における個人情報保護	個人情報漏洩、個人情報、プライバシー、OECD8原則、個人情報保護法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・理解を深めるために、参考文献（あるいは同分野の書籍）を講義の前後に読んでおくこと。
・講義の中で取り上げられた事例をインターネット上で確認してみること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義で取り上げた基本的な用語、概念、基本問題が正確に理解されているかを評価する。
平常点評価	30 %	講義で紹介した事例を実際に自分で調査・確認してもらう。3回の提出課題を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・新聞やWebサイトから講義に関わる内容はかなり勉強することができるので、意識的に目を通すように。
・ネットショッピングの際に、サイトの取引規約・プライバシーポリシーなど、普段あまり目を通さない所を隅々までしっかりと読んでみよう。また提供されているサービスをすみずみまで調べてみよう。これだけでもかなり勉強になる。

教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用せず、教室で提示するスライド、授業中に配布するプリントを使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エレクトロニック・コマース入門	井上英也／日本経済新聞社／4532107571／電子商取引の全体像をざっと理解するのに便利である
IT経済入門	篠崎彰彦／日本経済新聞社／4532109426／第7回目の講義内容の理解が深まる
IT革命を読み解く	岩村充／技術評論社／4774113204／第１回～第5回の講義内容の理解が深まる
デジタルID革命	國領二郎、日経デジタルコアトレーサビリティ研究会／日本経済新聞社／4532311179／第12回・13回の講義内容の理解が深まる
インターネットと法　第3版	高橋和之，松井茂記／有斐閣／4641129460／第１４、15回の講義内容の理解が深まる

上記以外の最近出版されている参考書については授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

次世代電子商取引推進協議会　http://www.ecom.or.jp/
日本通信販売協会　http://www.jadma.org/
総務省　http://www.soumu.go.jp/

その他 / Others

スポーツ変動論（S）

15712

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、近代スポーツという社会現象を可能にした歴史的・社会的諸条件を問い直すことを試みることにある。この試みを通じて、近代スポーツを相対化し、それを再構成する起点を提示する。本講義は、スポーツの実態を紹介、分析するよりは、スポーツを成立させる政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

エリアス、ブルデュー、グートマンのスポーツ研究を通じて、受講生がスポーツの問題を「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。また、スポーツを「人間的自由の獲得」という視点から考察を試み、スポーツを介した豊かな社会構想の糸口を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	エリアスの社会理論を概説する	文明化過程論、フィギュレーション、暴力抑制
3	ブルデューの社会理論を概説する	ハビトゥス、界、象徴的暴力
4	近代スポーツの社会発生①	文明化過程論、議会主義、パブリックスクール、アスレティシズム
5	近代スポーツの社会発生②	界、労働者階級、ヘゲモニー、ジェンダー
6	スポーツと合理化①	世俗化、競争における機会と条件の平等、役割の専門化
7	スポーツと合理化②	合理化、官僚化、数量化、記録の追及
8	スポーツ選択の自由？①	ヘゲモニー、教育、階級、ジェンダー
9	スポーツ選択の自由？②	界、ハビトゥス、メディア
10	スポーツと暴力①	娯楽のスポーツ化、物理的暴力の独占化
11	スポーツと暴力②	フットボール・フーリガニズム
12	スポーツとジェンダー	ホモセクシャル、ゲイゲームズ
13	スポーツとグローバリゼーション①	オリンピック
14	スポーツとグローバリゼーション②	サッカー、ワールドカップ
15	まとめ	これまでの講義を確認し、近代スポーツを相対化し、再構成する起点を提示。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを使用せず、講義毎にレジュメを配布する。なお、講義において視聴覚教材を用いることもある。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Sport and Leisure in Social Thought	Grant Jarvie and Joseph Maguire ／Routledge／／
Sport and Modern Social Theorists	Richard Giulianotti(ed) ／Palgrave／／
Sport:A Critical Sociology	Richard Giulianotti／Polity／／
問題としてのスポーツ	エリック・ダニング／法政大学出版局／／
スポーツと文明化	ノルベルト・エリアス、エリック・ダニング ／法政大学出版局／／
メディア批判	ピエール・ブルデュー／藤原書店／／
社会学の社会学	ピエール・ブルデュー／藤原書店／／
構造と実践 : ブルデュー自身によるブルデュー	ピエール・ブルデュー／藤原書店／／
ディスタンクシオン : 社会的判断力批判	ピエール・ブルデュー／藤原書店／／
文明化の過程	ノルベルト・エリアス／法政大学出版局／／
スポーツと現代アメリカ	アレン・グートマン／TBSブリタニカ／／
スポーツ・権力・文化	ジョン・ハーグリーヴス／不昧堂出版／／
スポーツの近代史社会学	リチャード・グルノー／不昧堂出版／／
ボディ・ランゲージ	アンドリュー・ブレイク／日本エディタースクール出版部／／

講義ごとに改めて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

スポーツメディア論（S）

15564

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

書籍だけで学習することが難しい科目なので，授業に毎回出席して，分からないところがあれば質問をして欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣／同文舘／ISBN4-495-86281-2／メディアイベント論に関わって参考にされたい。
越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画／ISBN4-921164-41-X C3075／「第2章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

伝統芸能論（S）

15559

担当者名 / Instructor　相原 進

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本には、さまざまな伝統芸能があります。この講義では、いくつかの伝統芸能を取り上げ、その歴史や特徴、個々の作品について学びます。そして、伝統芸能が時代や社会とどのように関わってきたのかということや、伝統芸能の現状、今日の日本文化への影響についても学びます。
講義においては、映像、絵画、写真などの資料を用います。また、教養や趣味のひとつとして伝統芸能を楽しめるきっかけになるように、鑑賞方法の案内も行います。

到達目標 / Attainment Objectives

①伝統芸能の歴史や特色について知る。
②各伝統芸能における代表的な作者、作品、演者などの基礎的な知識を得る。
③芸能と、時代、社会、人間とのかかわりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

身体表現論S：伝統芸能論の講義について、芸能と社会、文化、身体表現とを関連させて、より深く理解するための知見を得られます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入	自己紹介／成績評価方法／各回の講義の概要
2	「伝統芸能」の概念と今日の状況	伝統芸能の概念／伝統芸能の分類／伝統芸能をめぐる諸制度／産業としての伝統芸能
3	「伝統芸能」以前	個別の伝統芸能を語る上で必要な歴史的背景について／神事や仏教と芸能との関わり
4	落語の歴史と特色	
5	落語の演目	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について／メディアと落語
6	能の特色	（この回はもともと「能の歴史と特色」というテーマでしたが、「能の特色」に絞り込んだ講義内容としました）
7	能の歴史と作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について（この回はもともと「能の作品」というテーマでしたが、第6回講義予定の歴史をこの回にまわし、能の歴史と作品について解説する回としました）
8	狂言の歴史と特色	
9	狂言の作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について／今日における他の芸能との共演
10	文楽の歴史と特色	
11	文楽の作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について
12	歌舞伎の歴史と特色	
13	歌舞伎の作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について／東西の歌舞伎の違い
14	舞踊と音楽	舞踊と音楽の歴史／作品の鑑賞
15	伝統芸能のこれから／質疑応答	講義のまとめ／講義・試験に関する質問の受付

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の理解度と、講義から各自が修得した知見を問う。
平常点評価	30 %	第7回講義の終了時点でレポートを課す。講義で取り上げた伝統芸能のうちから1つを鑑賞し、各自が学んだことや感じたことについて、講義で得た知見を踏まえた上で記述する。コミュニケーションペーパーの提出を促す場合もあるが、それによって点数の増減は発生しない。また、出席点も加味しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テレビ等どんな形でも良いので、講義で扱う芸能を一度鑑賞してみて下さい。講義を通じて映像や知識として伝統芸能に触れるのと、実際に現物を見るのとでは、印象が全く異なることも多々あります。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本芸能史1	藝能史研究会編／法政大学出版会／1321-25001-7710／全7巻あります。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.genpoo.org/dentou/

ネット上から過去のレジュメをダウンロードできるようにしています。

その他 / Others

毎回レジュメを配布します。そこで参考書なども紹介します。

ニュース論（S） § 電波メディア論（G） § 放送メディア論（G） § 放送文化論（W）

13377

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・テレビ・ラジオ放送の仕組みや関連する法制度を通して社会的な位置づけを理解する。
・映像の製作技術、特にニュースやドキュメンタリーの手法やソフトの進化や問題点を理解する。
・インターネットの発達によるメディア地図の変化を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション：放送の「ことば」と映像	
第2回	放送の仕組み（1） 番組が企画からあなたのもとに届くまで	企画・取材・演出・編集
第3回	放送の仕組み（2） ニュースは儲かるのか？	視聴率・コマーシャル・受信料
第4回	映像の「約束事」と現実	ドキュメンタリー・演出・やらせ
第5回	ニュースとは何か？	ニュースキャスター・ワイドショー
第6回	放送におけるジャーナリズムの危機	取材・インタビュー・ニュースバリュー・ビデオジャーナリズム
第7回	テレポリティクスとメディアコントロールの実際	政治家とテレビ・戦争報道・選挙報道
第8回	メディアの「暴力性」	メディアスクラム・犯罪被害者・プール取材
第9回	「公共放送」は必要なのか	NHK・BBC・FCC・災害報道
第10回	テレビは夢や希望を与えられるのか	バラエティ・ドラマ・エンターテインメント
第11回	（ゲストスピーカー予定）	
第12回	デジタルの基礎知識とその功罪	地上波デジタル・IP放送
第13回	ブロードバンドと新たに生じた問題	ウェブ2．0・オンデマンド放送・コンテンツビジネス
第14回	サイバー社会の諸問題	個人情報・著作権
第15回	まとめの議論と記述問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①ニュースと民主主義、表現の自由の関係などを理解しているかどうかを測る記述問題。 ②受講者数によって、発表やクラス内ワークショップなどの作業を追加する可能性がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・テレビは授業ではほとんど観ません。自分でたくさん観て、たくさん評論してもらいます。
・たくさん読んで、たくさん意見を言って、たくさん文字を書いてもらいます。
・新聞を少なくとも1紙毎日目を通しておいてください。

教科書 / Textbooks

・追って指示します・

参考書 / Reference Books

・追って指示します・

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

パブリックアクセス論 (S)

13359

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パブリックアクセスとは、市民がマス・メディアにアプローチし、それを利用する権利を求めたところから始まった。1970年代前半、アメリカでは地域のケーブルテレビチャンネルへの市民アクセスが可能となり、これは世界に先んじた制度となった。これをパブリックアクセス・チャンネルと呼ぶ。パブリックアクセス・チャンネルはヨーロッパや日本を含むアジアの国々にまで広がりをみせている。

既存のメディア・システムに一般市民がアクセスすることで、自分たちの問題意識や社会的な課題を広く社会に提示することは、民主的な社会の形成にとって必要である。講義ではパブリックアクセスを生んだ社会的な背景をメディア理論の歴史的な変遷と結びつけながら考察し、その上で実践としてのパブリックアクセスに関わる活動や諸課題を検討・考察する。

ブロードバンドネットワーク網がインターネットと結びつき、マスコミ中心の社会はネット社会へ移行している。音声・動画を活用したさまざまな情報・コンテンツを受信するだけでなく、市民自らが自由に情報・コンテンツを発信できるようになってきた。このような状況の中、これまでのマス・メディア中心のパブリックアクセスの見方をどのように変えてゆけばよいかについても踏み込んで考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアアクセスの起源について理解する
・メディアの発達の帰結としてパブリックアクセスが生まれたことを理解する
・北米、ヨーロッパ、アジアのパブリックアクセスの現状について理解する
・変容を続ける現代のメディア環境の中でパブリックアクセスをどのように捉えなおせばよいかを考える

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　パブリックアクセスとは	
2	マス・メディアの機能と操作(1)	情報化社会、近代プロパガンダ理論、大衆説得
3	マス・メディアの機能と操作(2)	政治とメディア、議題設定、沈黙の螺旋理論
4	アクセス権の誕生	ジェローム・バロン、思想の市場論
5	アクセス権論の展開　米国と日本	レッドライオン判決(1969年)、堀部政男
6	アクセス権運動　マス・メディアと市民の立場から	メディア資本の集中、労働運動、市民運動、ポリティカル・エコノミー論
7	アクセス権の類型(1)　批判・抗議・要求・苦情　および意見広告	自主規範　苦情処理委員会
8	アクセス権の類型　(2)　反論　および　紙面・番組参加	反論権　公平原則　投書欄　アクセス番組
9	メディアアクセスとメディアリテラシー	フランシス・ベリガン　アクセス論
10	北米のパブリックアクセス　(1)　背景とテクノロジーの理解	ケーブルシステム、PEG、電磁スペクトル(Electro Magnetic Spectrum)
11	北米のパブリックアクセス(2)　パブリックアクセス・チャンネルの理念と制度	フェアネス・ドクトリン、レッドライオン事件、フランチャイズ・アグリーメント
12	ヨーロッパのパブリックアクセス　メディアアクセスの先駆者、オランダのラジオ	オランダ放送協会(NOS)
13	アジアのパブリックアクセス　上からの改革が進む韓国	KBS、「開かれたチャンネル」、放送制度改革
14	日本のパブリックアクセス	パブリックアクセス・チャンネル、市民メディア
15	日本のパブリックアクセスの諸課題と展望 メディア・システムの変容とパブリックアクセス概念の揺らぎ	情報通信法　ソーシャルメディア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講者は、音声・映像コンテンツ制作の機会を活用し、自らが情報を発信する実践的な学習にも可能な限り取り組んで欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義を通じパブリックアクセスを理解する上で重要なキーワード、出来事、概念を的確に理解しているかどうか。
平常点評価	30 %	授業出席と授業後のリアクションペーパーの内容評価による

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義ではアクセス理論の基礎的な理解力をもとにパブリックアクセスと関連させて主体的に学ぶことが求められる。受講生は日常的に多様なジャンルのニュース報道に触れる中で社会問題や課題を意識するとともに、「市民とメディア」に関わる情報収集やイベントへの参加などによりパブリックアクセスへの理解を深めることが望まれる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新版パブリックアクセスを学ぶ人のために』	津田正夫／平塚千尋[編]／世界思想社／4-7907-1186-2／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アクセス権とは何か』	堀部政男／岩波新書／／
『現代ジャーナリズムを学ぶ人たちのために』	田村紀雄、林利隆、大井眞二編／世界思想社／4-7907-1056-4／
『やさしいマスコミ入門：発信する市民への手引き』	金山勉／金山智子[共著]／勁草書房／978-4-326-65303-4／

その他については、授業内で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都三条ラジオカフェhttp://radiocafe.jp/
Our Planet-TV http://www.ourplanet-tv.org/
CNN ireport http://www.ireport.com/
産経デジタルのニュースブログポータルhttp://www.iza.ne.jp/
イッツコムチャンネルアクセスhttp://www.itscom.net/itscom-ch/access/

その他 / Others

表象文化論（S） § 芸術表現論（S）

15607

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察者の眼が反映しているのか。科学的、思想的、政治的な観点から考える。17世紀オランダのリアリズム、近代の自然描写と思想、あるいは断片的世界観、そして政治的な視線の差異などを中心テーマとする。フェルメール、ヘダ、フリードリヒ、アングル、マネ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ピカソ、ボッチョーニ、モンドリアン、デュシャン、ヘッヒ、ポロック、ボイス、リヒター、キーファーなど17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、観察者の立場で作品に向き合う。

到達目標 / Attainment Objectives

美術、芸術作品を通して、時代の思想や世界観を知る。
作品を観察し、主題を読み取り、思考する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	観察者、自然、断片の世界観、視線の差異
第2回	観察の眼	17世紀オランダの静物画と風景画
第3回	近代の自然描写と思想（1）	風景画の歴史と近代
第4回	近代の自然描写と思想（2）	自然と崇高
第5回	芸術における自然観(2)	都市　vs　田園
第6回	芸術における自然観(3)	20世紀の抽象運動
第7回	芸術における自然観(4)	20世紀のプリミティヴィズム
第8回	芸術における自然観(5)	自然と環境問題
第9回	「断片」の美学（1）	フランス近代、印象派
第10回	「断片」の美学（2）	キュビスム、未来派、新造形主義
第11回	「断片」の美学（3）	フォトモンタージュ
第12回	「自己」と「他者」の視線(1)	プリミティヴ・アート
第13回	「自己」と「他者」の視線(2)	オリエンタリズム、写真、美術
第14回	「自己」と「他者」の視線(3)	今日の展覧会批評
第15回	全体の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
観察者の系譜－視覚空間の変容とモダニティ	ジョナサン・クレーリー／以文社／／
絵画の政治学	リンダ・ノックリン／彩樹社／／
C.D.フリードリヒ、《画家のアトリエからの眺め》－視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
美術史をつくった女性たち－モダニズムの歩みのなかで	神林恒道・仲間裕子編／勁草書房／／
20世紀美術におけるプリミティヴィズム	ウィリアム・ルービン編／淡交社／／
＜方法＞としての人間と文化	佐藤嘉一編／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マンガ文化論 (S)

15708

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：マンガというメディア／文化

「マンガを読む」というとき、われわれは必ずしもその「内容」だけを鑑賞しているわけではない。例えば雑誌連載で読むのか、それとも単行本で読むのかで、同じ作品から受け取る印象が異なることがある。また、マンガを原作にしたアニメやドラマと比較しながら読むこともあるだろう。われわれはいつ、どこで、どうやって、マンガに接しているのか。本講義では、「内容」分析ではこぼれ落ちてしまう、マンガの生産・受容の「形式」に着目するメディア論的アプローチから戦後日本社会におけるマンガの布置を考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

作者の「メッセージ」が読み取られるべきテクストとしてではなく、作者と読者との「あいだ」にあって両者をつなぐモノ＝メディアとしてマンガをとらえ、その「文化」としてのありようを言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

メディア文化論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　＜マンガ＞をどのように考えるのか？	
2	冒険者・手塚治虫(表現論1)	
3	劇画、この劇的なるもの(メディア論＆読者論1)	
4	少年週刊誌と読者の「成長」(メディア論＆読者論2)	
5	「ぼくら」の夢舞台(メディア論＆読者論3)	
6	少女マンガの＜革命＞(表現論2)	
7	“友情・努力・勝利”の方程式　課題：本宮ひろ志『男一匹ガキ大将』	
8	1970年代の「新しい波」 課題：大友克洋『気分はもう戦争』	
9	これってあたし？　課題：吉田秋生『河よりも長くゆるやかに』『桜の園』	
10	リスペクトとパクリのあいだ　課題：石ノ森章太郎＋島本和彦『スカルマン』ほか	
11	一人メディアの逆襲　課題：小林よしのり『ゴーマニズム宣言』	
12	ベタ・マンガ／メタ・マンガ　課題：相原コージ・竹熊健太郎『サルでも描けるまんが教室』	
13	そのマンガは誰のものか？(総括1)	
14	＜マンガ文化＞の現在(総括2)	
15	最終総括　＜マンガ＞はどのように考えられるのか？	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

メール提出による小課題は1960～80年代のマンガも含んでいる(上記授業スケジュール参照)ので、受講者はマンガ喫茶や専門店・古書店、図書館など、これらのマンガを閲覧・購読可能な場所をあらかじめ各自で確保しておくこと(「見つけられない」「手に入れられない」という理由で課題が提出されない場合も未提出とみなす)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で触れた論点をふまえたレポートを課す(4000字以上のレポートを予定)。
平常点評価	40 %	第7回～第12回までは、上記スケジュールに記載したマンガを事前に読み、感想をメールで提出する(詳細は授業プリントで提示する)。小課題のすべてを提出しなくても成績評価の対象とするが、最終レポートのみの提出では単位取得が相当に困難になるはずなので(おそらくはほとんど不可能)、単位取得を目指す場合は小課題もできるだけ提出すること。ちなみに、2008年度の「マンガ文化論」単位取得率(単位取得者÷履修登録者)は50.0%であった。なお、いわゆる「出席点」は存在しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガ産業論	中野晴行／筑摩書房／／
マンガ学入門	竹内オサム・夏目房之介（編著）／ミネルヴァ書房／／
テヅカ　イズ　デッド　ひらかれたマンガ表現論へ	伊藤剛／NTT出版／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア技術史（S）

15543

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ケータイ―携帯電話やデジタルハイビジョン放送などメディアの技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、中世のグーテンベルクの活版印刷術の発明から、今日のインターネット、ケータイ、ユビキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのかを具体的に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

次の3点をめざす。

第一に、メディア論をふまえたメディア技術史全体の流れの理解

第二に、活版印刷、写真、映画、ラジオ、テレビ、インターネット等歴史的に最も重要なメディア技術の基礎的理解

第三に、それらメディア技術の歴史的、社会的意味の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」は履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア・技術・社会	ケータイをめぐって、メディアとは、メディア技術史とは
2	グーテンベルクの銀河系（その1）	「42行聖書」、M. マクルーハン、マクルーハンのメディア論、「人間の拡張」
3	グーテンベルクの銀河系（その2）	紙とインク、ブックの誕生、J.グーテンベルク、活版印刷術の発明
4	電子メディアの誕生	腕木式通信から電信へ、近代テレコミュニケーション技術としての電信と電話、モールスとベル
5	電子とは、電波とは？	マックスウェルの電磁気学、ヘルツと電磁波の発見、マルコーニと無線電信の発明
6	写真と映画の発明	ニエプス、ダゲール、タルボットと近代写真術、エジソンとリュミエール兄弟
7	エジソンと音の複製	フォノグラフからグラモフォンへ
8	ラジオの発明	クルックスの「予言」？、真空管、ドゥ・フォレスト、「第三帝国の同調装置」か？
9	テレビの発明	ブラウン管とニプコー円盤、ツォリキンとアイコノスコープ（撮像管）
10	コンピュータの誕生	コンピュータの起源、ENIACとフォン・ノイマン、ノイマン型コンピュータ
11	シリコンバレーの一粒の麦	電子部品の発達、トランジスターからICへ、R.ノイス
12	シリコンバレーの夢	マイクロプロセッサーの発明からグーグルまで
13	インターネットヒストリー	S.ジョブズ、ビル・ゲイツとパソコンの発明、アーパネットからインターネットへ、M.アンドリーセン
14	ユビキタスとユビキタス社会	M.ワイザーと坂村健、トロンと組み込みコンピュータ、ICタグ
15	マクルーハン再論	L.マンフォードとマクルーハン、メディア史の時代区分、「テトラッド」―メディアの栄枯盛衰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に指示する参考文献を学習することが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	授業中に実施するミニレポートやコミュニケーションペーパーなどから評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論的ベースに関わるテクストのエッセンス、必要最小限の部分は、講義資料として配付するのでそれをよく読むこと、また各メディア技術の原理の基礎に関しては、授業中にできるだけていねいに解説することを心がけるが、不明の点があればその次の回の授業のときに質問すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア論　人間の拡張の諸相	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN4-622-01897-7／
グーテンベルクの銀河系　活字人間の形成	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN-4-622-01896-9／
複製技術時代の芸術	W. ベンヤミン／晶文社／ISBN4-7949-1266-8／
20世紀のメディア①エレクトリックメディアの近代	水越伸篇／ジャストシステム／ISBN4-88309-081-7／

毎回それに添って授業を進めるという意味でのテキストではないが、授業の理論的ベースに関わるテキストとして

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版電気の技術史	山崎俊雄、木本忠昭／オーム社／ISBN4-274-12914-4／
目で見るデジタル計算の道具史	キトウェル、セルージ／ジャストシステム／ISBN4-88309-096-5／
グーテンベルク聖書の行方	富田修二／図書出版社／ISBN4-8099-0504-7-C0090／
起業家エジソン　知的財産・システム・市場開発	名和小太郎／朝日新聞社／ISBN4-02-259771-2／
電子立国日本の自叙伝	相田洋／NHK出版／ISBN4-14-084007-2他／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

映画（キネマトグラフ）や蓄音機（フォノグラフ）の発明者エジソンについて：
http://edison.rutgers.edu/papers.htm

その他 / Others

メディア社会専門特殊講義（SA）

15711

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

20世紀を「映像の世紀」とする観点から、世界に大きな影響を与えているメディアとしての「映画／映像」についての理解を深める。テレビと映画との違いや、プロデュースすることについての基礎的な知識の習得、現場のプロデューサーや監督などの実践的な講義も予定。おもに、映画の制作現場からのアプローチをしていく。

到達目標 / Attainment Objectives

映画／映像メディアの果たしてきた役割、および果たしている役割の理解。
プロデューサーとは、どのような仕事であるのかの理解。
映画／映像メディアの今後の可能性、重要性についての理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画の発明、初期の映画について	リュミエール兄弟、エジソン
第2回	映画発達の歴史　ジャンル映画の確立	記録映画、劇映画、音楽映画、アニメーション映画
第3回	テレビの発明とその歴史	写真の電送からテレビへ
第4回	テレビと権力の関係〜GHQ支配下の日本	日本におけるテレビ放送の開始と、その背景
第5回	映画とテレビの違い	映画は娯楽の王様の座を1950年代後半には、テレビに明け渡し、斜陽化がはじまる。インターネット時代のいま、テレビは？
第6回	映画、映像製作の現場	プロデューサーと監督、ディレクターとは。
第7回	映画「映画監督って何だ」 鑑賞	
第8回	映画の著作権はだれにあるのか？著作権法について考える	
第9回	ゲストスピーカーに予定している監督、プロデューサーの作品の鑑賞	
第10回	ゲストスピーカーによる、現場の話し	
第11回	テレビドキュメンタリー作品の鑑賞	
第12回	放送法について	テレビは、放送法に基づいて運営され、設置に関しては、総務省が許認可権を持っている。今テレビは自由なのか？
第13回	テレビ視聴率　その実態	
第14回	2011年　テレビ地上波の完全デジタル化によって、放送、映画産業がどのように変化していくのか。その方向はどこに向かうのか。	
第15回	映画、映像をプロデュースすると言うこと。プロデューサーに求められるもの。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

30分以上の遅刻は認めない。授業中の私語、携帯電話の使用厳禁、注意してもやめない場合は退出を求める場合もある。
出席は取らない。映画をたくさん見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	設問に対する解答の内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館での上映作品、学内上映会での上映作品（有料）を指定して、感想レポートを提出。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映画プロデューサーの基礎知識	キネマ旬報映画総合研究所編／キネマ旬報社／4-87376-620-6／
映画ビジネス現在と未来	ジェイスン・E・スクワイヤ編／晶文社／4-7949-6132-4／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／978-4-7803-0134-2／映画興行における映画館の役割を詳述。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

課題レポートとして、学内上映会の有料上映の作品を指定することがある。入場料は500円程度。あらかじめ承知しておいて下さい。

メディア社会専門特殊講義（SB）

13472

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映像制作の基本ルールを実際に撮影・編集しながら学ぶ
①何気なく見ている映像の中にある「文法」を知る
②映像にひそむ「ウソ」を理解し、「事実」を誠実に伝えるとはどのようなことかを知る
③基本的なビデオカメラ撮影と映像編集ソフトの使用法をマスターし実際に制作を行う

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	クラスの案内・導入のはなし	
第2回	ビデオカメラの撮影（1）フレーム	
第3回	ビデオカメラの撮影（2）画面に入れるもの・入れないもの	
第4回	映像の文脈（1）映像の「文法」	
第5回	映像の文脈（2）映像に込められる意味	
第6回	企画書（1）何を表現するか見極める	
第7回	企画書（2）「面白い」とはどういうことか	
第8回	取材の基本ルール	
第9回	構成と演出（1）情報を整理する	
第10回	構成と演出（2）話の流れとは	
第11回	構成と演出（3）ナレーション一①書き言葉と話し言葉	
第12回	構成と演出（4）ナレーション一②言葉はいつも必要か	
第13回	最終発表と講評（1）	
第14回	最終発表と講評（2）	
第15回	最終発表と講評（3）・まとめと補足	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講者数によってスケジュールは変更しますので予定は暫定的なものです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①クラスで何回か提出する映像課題（演習） ②クラス最終日までに完成する映像作品

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画、テレビ（ニュースやドラマ、ドキュメンタリーなど）をできるだけ見てください。バラエティやワイドショー（特に関西発の番組）はあまり役に立ちません。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア社会専門特殊講義（SC）

15687

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映像制作の基本ルールを実際に撮影・編集しながら学ぶ
①何気なく見ている映像の中にある「文法」を知る
②映像にひそむ「ウソ」を理解し、「事実」を誠実に伝えるとはどのようなことかを知る
③基本的なビデオカメラ撮影と映像編集ソフトの使用法をマスターし実際に制作を行う

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	クラスの案内・導入のはなし	
第2回	ビデオカメラの撮影（1）フレーム	
第3回	ビデオカメラの撮影（2）画面に入れるもの・入れないもの	
第4回	映像の文脈（1）映像の「文法」	
第5回	映像の文脈（2）映像に込められる意味	
第6回	企画書（1）何を表現するか見極める	
第7回	企画書（2）「面白い」とはどういうことか	
第8回	取材の基本ルール	
第9回	構成と演出（1）情報を整理する	
第10回	構成と演出（2）話の流れとは	
第11回	構成と演出（3）ナレーション一①書き言葉と話し言葉	
第12回	構成と演出（4）ナレーション一②言葉はいつも必要か	
第13回	最終発表と講評（1）	
第14回	最終発表と講評（2）	
第15回	最終発表と講評（3）・まとめと補足	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①クラスで何回か提出する映像課題（演習） ②クラス最終日までに完成する映像作品

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画、テレビ（ニュースやドラマ、ドキュメンタリーなど）をできるだけ見てください。バラエティやワイドショー（特に関西発の番組）はあまり役に立ちません。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア社会論（S）

15490

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

メディアが社会的なテーマを設定し、その“世論”が社会を動かしていくという現代社会の情報循環にあって、とりわけ「映像ジャーナリズム」が果たす役割は決定的ともいえるほどである。この授業では、映像ジャーナリズムの成立と変遷、特に戦争報道の変容を軸として、現代メディアの課題をさぐり、さらにジャーナリズムの原点や、オルタナティブなメディア社会のありかたを考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

●映像ジャーナリズムが登場した歴史的/政治的/文化的背景を知る
●際立った映像ジャーナリズムの属性（機能と特性）を理解する
●その映像を記録した人の生き方、誰がどういう立場で撮ったかを感得する
●現代の映像ジャーナリズムがもたらす課題を批判的に理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　～恐竜の跋扈する中で～	V鳥の巣、授業全体のねらい、20世紀とジャーナリズム
2	「正義のジャーナリズム」	ベトナム戦争報道、戦争報道の3つの時代、プロパガンダへの反省、メディア研究
3	報道グローバリズムの開幕	湾岸戦争報道、情報コントロール、冷戦の終結、ベトナムの教訓、衛星グローバリズム
4	北朝鮮報道	冷戦、メディアコントロール、「再会」、日本の外交と主流メディア
5	イラク戦争報道の諸問題	総合的な統制、NNN戦争報道論点」、電子化した情報・映像、メディアコントロールとのたたかい、戦争広告会社
6	映像の誕生・進化と社会化	リュミエール、テキストジャーナリズム、映像ジャーナリズム、身体感覚性、通俗性、多義性
7	キャパ神話	フォト・ジャーナリズム、キャパ、30年代内戦の時代、カメラ、マグナム、Days Japan、
8	大本営発表	映像の影響力、プロパガンダ、「レイテ」、情報統制、プロパガンダ映画、日本ニュースの表現
9	エド・マローの世界	リベラル・ジャーナリズム、「シー・イット・ナウ」、イデオロギー支配への反省、テレビの時代、マッカーシズム
10	鉄のカーテン崩壊	撮影・中継技術の飛躍、ENG・SNG、FPU、現場中継、アキノ革命、天安門事件・ベルリンの壁報道
11	ドキュメンタリーというジャーナリズム	「苦海浄土」、水俣病、石牟礼道子、木村栄文、演出と構成
12	ダイアナ事件を読む	「ダイアナ事件」、メディア・スクラム、カメラと取材の他者性・暴力性、表現の多義性、エンコーディング/ディコーディング
13	「発掘！あるある大事典Ⅱ」の発掘	テレビ制作の構造と倫理、調査委員会、BPO、企業ジャーナリズム
14	対抗的ジャーナリズム	「瀋陽事件」、増山たづ子、独立ジャーナリスト、フレームの外、アルジャジーラ/目で聴くテレビ
15	市民社会とジャーナリズム・再論	ジャーナリズムの立場性/津田の立場性、当事者/代理者、表現の主体

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・（映像）ニュースをよく見ること
・日常的にドキュメンタリー映像を観察すること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版・ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄/林利隆ほか／世界思想社／／
ドキュメント　戦後放送史　上・下	松田浩／双柿舎／／
国際紛争のメディア学	橋本晃／青弓社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア文化論 (S)

15562

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:テレビ視聴者と／のバラエティ
現在の日本のテレビは「バラエティ」にあふれている。言い換えれば、「ニュース」も「情報番組」も「お笑い」も、すべてが「バラエティ」という括りでひとまとめにできてしまえる、つまり「総バラエティ化」と呼べるような状況になっている。こうした状況は、どのような歴史的経緯を経て出現したのか。そして、われわれ視聴者は、そうした「バラエティ」あふれる(あるいは、「バラエティ」ばかりの)現在のテレビと、どのように関わり合っているのか。本講義では、テレビ番組やテレビを題材にした映画などを資料としながら、戦後日本社会において「テレビ視聴者」の位置がどのように変化してきたのかを考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

テレビが視聴者をどのように構成し、また視聴者がテレビというメディアからどのような「本当らしさ(リアリティ)」を感受しているのか、自身のテレビ体験を相対化しながら、テレビが編制する＜メディア文化＞について言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　テレビ視聴者とバラエティ	
2	「観客」から「視聴者」へ	
3	舞台の「裏」とはどこか？	
4	「素」を見ることの快楽	
5	画面に映っているのは誰か？	
6	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・1	
7	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・2	
8	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・1	
9	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・2	
10	「リアリティ」の作り方・1	
11	「リアリティ」の作り方・2	
12	「リアリティ」の作り方・3	
13	「ただの現在」としてのテレビ・1	
14	「ただの現在」としてのテレビ・2	
15	まとめ　テレビ視聴者のバラエティ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で触れた論点をふまえたレポートを課す(4000字以上のレポートを予定)。
平常点評価	40 %	第5回と第11回頃に小レポート(2000字程度)を課す(詳細は授業プリントで提示する)。最終レポートを含め、計3回のレポートをすべて提出した者のみ成績評価対象者とする。ちなみに、2008年度の「メディア文化論」単位取得率(単位取得者÷履修登録者)は56.7%であった。なお、いわゆる「出席点」は存在しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会は笑う―ボケとツッコミの人間関係	太田省一／青弓社／／
嗤う日本の「ナショナリズム」	北田暁大／NHKブックス／／
広告都市・東京	北田暁大／廣済堂／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディアリテラシー論（S） §　メディア・リテラシー論I（G）

13286

担当者名 / Instructor　浪田 陽子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、メディアは政治・経済・社会・文化など我々の生活のあらゆる側面に影響を及ぼしている。このメディア社会を主体的に生きるには、メディアをクリティカルに読み解き、社会におけるメディアの役割や特性を理解し、また自らメディアを制作する力、すなわちメディア・リテラシーが不可欠である。本講義においては、メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状などを実践を通して学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・ メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状など基本的な事柄を理解する。
・ メディア分析やメディア制作課題などのグループ活動、およびメディアログ等の課題によって、メディアをクリティカルに読み解き、メディアを制作する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	メディア、メディア社会
第2回目	メディア・リテラシーとは何か	メディア・リテラシー
第3回目	メディア・リテラシーの基本概念	リプレゼンテーション（representation）、イデオロギー、価値観
第4回目	メディアとオーディエンス	アクティブ・オーディエンス、エンコーディング・デコーディング
第5回目	広告を考える（1） テレビ・コマーシャル	映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法
第6回目	広告を考える（2） 消費社会	消費社会、ブランド化（Branding）
第7回目	広告を考える（3） 子どもへのマーケティング	ターゲット・オーディエンス
第8回目	カルチュラル・スタディーズとメディア・リテラシー	カルチュラル・スタディーズ、サブカルチャー
第9回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（1） ジェンダー	ジェンダー
第10回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（2） 民族と文化	民族、エスニシティー、文化
第11回目	メディアと暴力	バイオレンス、モラル・パニック
第12回目	産業としてのメディア	メディア・コングロマリット、民主主義とメディア
第13回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（1）/ グループ・プレゼンテーション（1）	メディア・エデュケーション
第14回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（2）/ グループ・プレゼンテーション（2）	カリキュラム、ネットワーキング
第15回目	グローバル時代のメディア / グループ・プレゼンテーション（3）	グローバル化、グローバルメディア、デジタルメディア

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・日常生活において自分が使うメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。
・メディア制作はグループで活動する時間を授業内にも設けるが、授業時間外に資料を集めたり取材や撮影を行わなければならないこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①メディアログ（10%） ②メディア分析レポート（15%） ③コミュニケーション・ペーパー（45%） ④グループ・メディア制作（30%） 詳細は以下の「備考欄」を参照のこと。

・ メディアログ（個人でつけるメディア日記）は第3回目の授業で、メディア分析レポートは第8回目の授業で提出する。分析方法等は授業で紹介・実践する。
・ コミュニケーション・ペーパーは、授業の内容をよく理解した上で、メディア分析やその他の授業内課題を記述するものである。単なる出欠確認ではなく、記述内容の出来によって0～5点で評価する。
・ グループ・メディア制作は、4、5人のグループでメディア（5分程度のビデオクリップや新聞記事など）を制作し、後半3回の授業で発表・ディスカッションを行う。評価は製作技術の高さではなく、この講義で学んだメディア・リテラシーの基本概念を理解し、自分たちのメッセージや制作の意図が伝わるものになっているかどうかを基準とする。成績はグループ・ワークへの貢献度や課題の出来を加味して、個人ごとにつけ

る。グループは、他回生・他学部生がバランスよく混ざるようこちらで指定する。
・ 受講者の人数等により、メディア制作課題の内容などに変更が出ることもあるかもしれないが、その際はすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・ メディア分析やメディア制作など、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。全員でアイディアを出しあい、また互いの意見を尊重しながら協力してグループワークを行うことが要求されることを理解した上で受講登録すること。
・ ほぼ毎回行われるメディア・テクスト分析は日常点であるとともに、この講義の集大成であるメディア制作課題の練習・準備でもあるので、毎回の出席と能動的な参加が必須である。初回に授業の進め方や課題、評価方法について詳細な説明をするとともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
・ QRコードシールを毎回持参すること。
・ 遅刻は他の受講者の迷惑になるだけではなくグループ活動などに支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等は、授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版　Study Guide　メディア・リテラシー[入門編]	鈴木みどり編／リベルタ出版／4947637595／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーの現在と未来	鈴木みどり編／世界思想社／4790708969／
メディア・リテラシー教育：学びと現代文化	D. バッキンガム著、鈴木みどり監訳／世界思想社／4790712265／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Media Awareness Network http://www.media-awareness.ca/english/index.cfm
FCT　メディア・リテラシー研究所　http://www.mlpj.org/index.shtml

その他 / Others

メディア倫理 (S)

15706

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

マスメディアにおけるプライバシーの侵害や集団的過熱取材など取材・報道をめぐる倫理的問題が大きく問われています。巨大な影響力を持つがゆえにその社会的責任も大きいといえます。同時に、メディアを規制する法制化の動きなどが加速しており、言論・表現の自由，とりわけ民主主義社会の根幹と深く関わっているジャーナリズム活動に大きな影響を及ぼしかねない状況にあります。この授業ではジャーナリズム活動が市民社会のなかで制約されるとどうなるのかをまず歴史的に振り返り、メディアの報道・言論活動はいかにあるべきか、権力を監視するメディアの倫理とはどのようなものなのか、過去のメディアのあり方を検証しながら、最近の具体的な問題や事例に即しながらメディアの法制度的諸問題と倫理的諸ルールについて考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業を通して、メディア倫理の問題について基本的な知識と関連する課題認識の枠組みを獲得し、それらについて説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と進め方(内容の視点)	メディア倫理を考える枠組み
第2回	戦前日本のメディア状況と規制法	新聞人の反省、言論法制とメディアの規制、戦時体制、言論統制
第3回	言論表現に対する規制と新聞人	新聞人の態度、知識人の視線、朝日新聞社宣言「国民と共に立たん」、日本新聞協会・新聞倫理綱領
第4回	言論表現の自由と占領下の二重基準	占領期の日本の新聞界、レッド・パージの問題点、「自由」の本質、報道倫理の構築
第5回	皇室報道とメディアを考える　皇室報道に求められるメディアの倫理とは何か	「風流夢譚」事件、紀子妃の右手、表現規制とタブー
第6回	犯罪報道とメディア(1) 松本サリン事件の教訓。この事件報道から何を考えなければならないか。	メディアと世論、犯人視
第7回	犯罪報道とメディア(2)　犯罪報道は現在、どうなっているか。犯罪報道の何が変わり、何がかわらないか	犯罪報道の犯罪、少年犯罪実名報道、犯罪被害者
第8回	取材と報道のバランス(記者の仕事)　取材のモラルとは何か。記者は何を、どこまで取材すべきなのか	集団的過熱取材、脱線事故報道検証、取材のモラル、桶川ストーカー殺人事件、写真週刊誌
第9回	前半の振り返り。メディアの伝えるメッセージ(番組・報道)のどこに問題があると考えられるか。システム(制度)にあるのか。取材報道する人たちにあるのか。また、それを見ている私たち(自分)自身はどう関係しているのか(問題はないか、あるとすればそれは何か)	メディア倫理の視点
第10回	放送と表現の自由　表現の自由は何のためにあるのか。なぜ、自己規制が起きるのか	放送禁止歌、法的規制、表現の自由
第11回	捏造・やらせ・嘘・改ざん　表現者に何が求められるのか。視聴者・読者は何を求めるのか	発掘!あるある大事典2
第12回	報道か人命か～ジャーナリストの使命とは　ピューリッツァー賞「ハゲワシと少女」(ケビン・カーター)写真論争から何を考えなければならないか	フォト・ジャーナリズム、報道写真
第13回	戦争報道　戦争報道は何を伝え、何が伝えられないか。戦争報道で何を伝えるべきなのか。何のための戦争報道なのか	戦争報道、権力とメディア、メディア規制
第14回	後半の振り返り。メディアは何をすべきだ(しなければならない、あるいはしてはならない)と考えるか。それは実現可能か(実現可能にするためにはどうしたら良いと考えるか)。 私たち(自分自身)は何ができるか(しなければならないか)	メディアの責任、市民の立場
第15回	メディアの倫理と私たちの視線	メディア倫理をどう捉えるか

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この授業では、皆さんに参画してもらう参画型授業を行います。関連するビデオ映像や資料を使って受講生のみなさんが自らの視点で考えてもらうように授業を進めたいと考えています。各自、関心のあるテーマをもとに、グループでビデオ映像と文献を参考に考察して、プレゼンテーションをしていただきます。プレゼンテーションが終わったグループは、他のグループの報告をもとに考察し、講評を掲示板に書き込みます。これらは

評価ポイントに加算されます。出席（参加）することを前提として授業を構成します。第1回にその進め方など詳細な説明を行いますので必ず出席してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにオンライン（メール）提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価します。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視します。
平常点評価	60 %	出席を前提に、授業時に講義内容に関連した課題レポート（小レポートに準ずるもの）を課します。決められた期日までに提出（コースツールへの提出）することが求められます。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価します。

レポートはメール（オンライン）での提出です。授業期間中に出されるレポート（コースツールへの提出）を全く提出しなかった場合は出席していないと判断します。第1回目に「授業の進め方と評価について」詳細な説明をしますので、受講予定者は必ず出席してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、はじめに、現在のメディアの法制度的ありようを考える上で過去のメディアのありようを検証していくアプローチをとります。そこから現在のメディア倫理の問題を考える視点を獲得するものです。最初は文献資料などを紹介しながら考察していきます。その後、映像（ビデオ）などを活用し、受講者の皆さんには問題意識を深めていただき、何を考えていくべきなのか認識を深めるような参加型の授業としていきます。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処します。また、配布物等は基本的にコースツールなどを活用して受け取れるようにします。参加型授業を行いますのでグループを構成するためにも初回の授業は大事ですので、必ず出席してください。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。必要に応じて文献資料等を紹介します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディアの法と倫理』	大石　泰彦／嵯峨野書院／／
『法とジャーナリズム』	山田　健太　／学陽書房／／

その他、授業時に適宜紹介します。配布物は事前にコースツールにアップしておきますので、各自そこから入手するようにしてください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

コースツールに紹介しています。

その他 / Others

配布物や課題レポート等はコースツール（WebCT）を使います。

ウエルネス論 (S)

15587

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ウエルネスの概念では，ヘルスに定義されるような単なる心身の健康状態の維持にとどまらず，自らがより積極的に充実した生活を創造していくことが真の健康と考えられている．このような考え方の基礎には，人間は単に健全な個々の要素や部分が集まって総和的に健康となるのではなく，すべての要素が関連しあいながら1つの心身を形成し，その全体において健全となることを重視する発想がある．この関連性に着目した視点から，相互に影響を及ぼし合う個人や環境における「関係」といった集団や社会における問題も，実は生命科学的な仕組みとつながるものであることを理解する必要がある．

本講義では，ヒトの生命維持や身体を支える諸機能の基礎を学び，その全体としての関係性が単に生物学的な問題に限らず，社会を形成する人間行動の問題にもつながることを理解するとともに，そこで機能している人間行動における制御・調整能力という面からウエルネスについて考察していく．

到達目標 / Attainment Objectives

ウエルネスの概念に基づいて，ヒトを個々の部分の総和としてではなく関連性をもった全体としてとらえる考え方および，日常生活においてその実現を支える調整力について理解する．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入　健康とは？	健康
2	ウエルネスの概念	QOL，ウエルネス，生きがい
3	生理学的健康状態	ホメオスタシス
4	生命を支える機能1－エネルギー供給－	代謝，消化器，ATP
5	生命を支える機能2－呼吸－	肺，外呼吸，内呼吸
6	生命を支える機能3－循環－	心臓，循環，血液
7	生命を支える機能4－排泄，体温調節－	腎臓，排泄，体温調節
8	身体活動を支える機能1－筋活動－	骨格・筋
9	身体活動を支える機能2－感覚－	神経，感覚，脳
10	身体活動を支える機能3－情報処理－	脳，反射，階層性
11	ウエルネスとしての身体機能のとらえ方	合目的的，総和性，全体性
12	ウエルネスを支える環境への適応力1	可塑性，調整力，障がい
13	ウエルネスを支える環境への適応力2	環境，社会
14	ウエルネスとスポーツ	生涯スポーツ，育成，セカンドキャリア
15	まとめ	総括，質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	キーワードを理解した上で，自らの言葉で論理的な記述ができる
平常点評価	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しない．
講義内容に応じて，随時資料を配付する．

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生理学	真島英信／文光堂／978-4830602016／講義の前半部分，ヒトの生理機能の理解に役立つ
「地球の時代」の健康を考える	三浦正行／文理閣／4-89259-245-5／

その他，必要に応じて講義内で適宜紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特にない

その他 / Others

衛生学 (SA)

15716

担当者名 / Instructor　池原 賢代、伊藤 ゆり、草野 恵美子、白井 こころ、月野木 ルミ、丸山 広達　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「公衆衛生学・衛生学」の概念と、公衆衛生の各分野における現状や法制度について学ぶことを通して、自分自身の健康と、社会の健康を保持・増進する方法について、理解を深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

「健康」は個人および社会の重要な資源であり、全ての人の生活に関わるものである。しかしながら、その課題および対象は多岐にわたり、国民・地域・社会の健康を守り、増進していくための公衆衛生(学)全体像を把握することは、時に困難を伴う。本講義では、多様化・複雑化する今日の公衆衛生課題について理解し、その解決の方法について、自ら考えることの出来る力を身につけることを目指す。そのための基礎知識や方法論の習得、実践のための学問的基礎体力作りを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前の要履修科目は特にないが、「地域保健論」、「地域社会論」、「地域福祉論」、「現代人とヘルスケア」 等の講義と併せて受講されることで、より理解が深まると考えられる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要と導入 ／ 健康と公衆衛生(担当:白井)	授業の到達目標・進め方・成績評価法等 ／ 公衆衛生学と衛生学 ／ 健康の概念
2	地域保健 (ヘルスプロモーション) (担当:池原)	ヘルスプロモーションの概念 ／ 検診と予防
3	感染症対策と生活習慣病予防 (担当:池原)	感染症対策 ／ 生活習慣病の基礎 ／地域への介入
4	健康の指標(保健・医療統計) ／ 難病 (担当:丸山)	保健統計の役割と基礎 (疾病罹患率・有病率・死亡率 etc) ／ 難病対策
5	食品保健と公衆栄養 (担当:丸山)	栄養 ／ 食行動 と健康
6	疫学・統計概論 (担当:白井)	疫学の方法 ／ 統計 ／ 研究計画
7	がんの疫学Ⅰ (担当:伊藤)	がんの基礎統計 ／ がんのメカニズム
8	がんの疫学Ⅱ (担当:伊藤)	がん登録制度 ／健康教育 ／ 喫煙対策
9	保健・医療制度 (担当:月野木)	医療制度 ／ 保健医療体制 ／ 医療保険
10	環境保健・衛生 (担当:月野木)	化学物質 ／ 職業性疾患 ／ 公害
11	産業保健・精神保健 (担当:月野木)	産業保健 ／ 生活習慣病対策 ／ 労働災害 ／ メンタルヘルス対策
12	母子保健・学校保健 (担当:草野)	母子保健制度 ／ 地域における母子保健事業の実際 ／周産期医療の課題 ／ 学校保健制度 ／ 予防接種
13	老人保健 (担当:草野)	老人保健制度 ／ 介護保険制度 ／高齢期医療
14	国際保健 (担当:草野)	国際保健 ／ WHO ／ 健康格差
15	健康心理 ／ 小テスト実施 (担当:白井)	ストレス・コーピング ／ 対人関係 ／健康行動 ／ 行動変容 ／ 疾病予防

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	レポート課題については、講義時に指示する。 レポートおよび講義時に行う小テストを併せて採点の対象とする。
平常点評価	60 %	講義内で適宜指示を行う 公衆衛生(衛生学)の各論は幅広い分野を網羅するため、各分野ごとの基本知識の習熟度確認のために行う 主に、以下3点を中心に評価する 1)出席状況 2)質問やDiscussionへの参加を含め、講義への主体的な参加と積極的な貢献 3)講義時に行う小テストによる理解度、及び自習学習による学び

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

公衆衛生学および衛生学は、各論分野が多岐に渡るため、全体像の把握と同時に各分野における健康課題および対策への理解が必要とされる。そのため、本講義は複数の講師によるリレー方式で講義を行う。各講師は、2―3回程度の講義担当を予定しているため、講義時の疑問や質

問については、なるべく各講義中および講義後の質問等によって解決することを勧める。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂編著／南江堂／／
国民衛生の動向	厚生統計協会 ／編集／厚生統計協会／／
国民の福祉の動向	厚生統計協会 ／編集／厚生統計協会 ／／
わかりやすい公衆衛生学	清水忠彦・難波正宗編著／廣川出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省http://www.mhlw.go.jp/
WHO　http://www.who.int/en/
CDC　http://www.cdc.gov/

その他 / Others

衛生学 (SB)

15682

担当者名 / Instructor　池原 賢代、伊藤 ゆり、草野 恵美子、白井 こころ、月野木 ルミ、丸山 広達　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「公衆衛生学・衛生学」の概念と、公衆衛生の各分野における現状や法制度について学ぶことを通して、自分自身の健康と、社会の健康を保持・増進する方法について、理解を深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

「健康」は個人および社会の重要な資源であり、全ての人の生活に関わるものである。しかしながら、その課題および対象は多岐にわたり、国民・地域・社会の健康を守り、増進していくための公衆衛生(学)全体像を把握することは、時に困難を伴う。本講義では、多様化・複雑化する今日の公衆衛生課題について理解し、その解決の方法について、自ら考えることの出来る力を身につけることを目指す。そのための基礎知識や方法論の習得、実践のための学問的基礎体力作りを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前の要履修科目は特にないが、「地域保健論」、「地域社会論」、「地域福祉論」、「現代人とヘルスケア」 等の講義と併せて受講されることで、より理解が深まると考えられる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要と導入 ／ 健康と公衆衛生(担当:白井)	授業の到達目標・進め方・成績評価法等 ／ 公衆衛生学と衛生学 ／ 健康の概念
2	地域保健 (ヘルスプロモーション) (担当:池原)	ヘルスプロモーションの概念 ／ 検診と予防
3	感染症対策と生活習慣病予防 (担当:池原)	感染症対策 ／ 生活習慣病の基礎 ／地域への介入
4	健康の指標(保健・医療統計) ／ 難病 (担当:丸山)	保健統計の役割と基礎 (疾病罹患率・有病率・死亡率 etc) ／ 難病対策
5	食品保健と公衆栄養 (担当:丸山)	栄養 ／ 食行動 と健康
6	疫学・統計概論 (担当:白井)	疫学の方法 ／ 統計 ／ 研究計画
7	がんの疫学Ⅰ (担当:伊藤)	がんの基礎統計 ／ がんのメカニズム
8	がんの疫学Ⅱ (担当:伊藤)	がん登録制度 ／健康教育 ／ 喫煙対策
9	保健・医療制度 (担当:月野木)	医療制度 ／ 保健医療体制 ／ 医療保険
10	環境保健・衛生 (担当:月野木)	化学物質 ／ 職業性疾患 ／ 公害
11	産業保健・精神保健 (担当:月野木)	産業保健 ／ 生活習慣病対策 ／ 労働災害 ／ メンタルヘルス対策
12	母子保健・学校保健 (担当:草野)	母子保健制度 ／ 地域における母子保健事業の実際 ／周産期医療の課題 ／ 学校保健制度 ／ 予防接種
13	老人保健 (担当:草野)	老人保健制度 ／ 介護保険制度 ／高齢期医療
14	国際保健 (担当:草野)	国際保健 ／ WHO ／ 健康格差
15	健康心理 ／ 小テスト実施 (担当:白井)	ストレス・コーピング ／ 対人関係 ／健康行動 ／ 行動変容 ／ 疾病予防

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	レポート課題については、講義時に指示する。 レポートおよび講義時に行う小テストを併せて採点の対象とする。
平常点評価	60 %	講義内で適宜指示を行う 公衆衛生(衛生学)の各論は幅広い分野を網羅するため、各分野ごとの基本知識の習熟度確認のために行う 主に、以下3点を中心に評価する 1)出席状況 2)質問やDiscussionへの参加を含め、講義への主体的な参加と積極的な貢献 3)講義時に行う小テストによる理解度、及び自習学習による学び

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

公衆衛生学および衛生学は、各論分野が多岐に渡るため、全体像の把握と同時に各分野における健康課題および対策への理解が必要とされる。そのため、本講義は複数の講師によるリレー方式で講義を行う。各講師は、2−3回程度の講義担当を予定しているため、講義時の疑問や質

問については、なるべく各講義中および講義後の質問等によって解決することを勧める。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂編著／南江堂／／
国民衛生の動向	厚生統計協会 ／編集／厚生統計協会／／
国民の福祉の動向	厚生統計協会 ／編集／厚生統計協会 ／／
わかりやすい公衆衛生学	清水忠彦・難波正宗編著／廣川出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省http://www.mhlw.go.jp/
WHO　http://www.who.int/en/
CDC　http://www.cdc.gov/

その他 / Others

グローバルスポーツ論 (S)

13483

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツのグローバルな展開、とはどのような歴史的経緯を経て形成され、現代におけるいかなる位相においてみることができるのであろうか。本講義では、スポーツがグローバルな単位で伝播する過程と、普及－受容の双方向的な関係に着目することで、その課題に応えることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

①スポーツのグローバル化に伴う歴史的変遷過程と、諸権力との結びつきとを理解する。
②グローバルに展開するスポーツのありようを複眼的に捉えるための眼を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	講義目的、進め方、授業評価について
第2回	近代スポーツの幕開け	民俗フットボール、パブリックスクール、アスレティシズム、アマチュアリズム、プロフェッショナリズム
第3回	サッカーのグローバリゼーション①	国際サッカー連盟、国際大会、ナショナリズム、植民地統治
第4回	サッカーのグローバリゼーション②	ファシズム・社会主義体制下におけるサッカー、ステート・アマ
第5回	サッカーのグローバリゼーション③	商業メディアと産業/生産複合体
第6回	サッカーのグローバリゼーション④	ビデオ鑑賞
第7回	日本から海外への柔術の普及とJiu-Jitsuの受容①	ジャポニズム、オリエンタリズム、日清/日露戦争、帝国主義的心性
第8回	日本から海外への柔術の普及とJiu-Jitsuの受容②	現地社会と受容基盤、異文化への眼差し、商業的身体文化
第9回	還流するスポーツ文化(Jiu-Jitsuの逆輸入)①	ブラジリアン柔術、変種
第10回	還流するスポーツ文化(Jiu-Jitsuの逆輸入)②	スポーツの還流に関するグローバルな見取り図
第11回	還流するスポーツ文化(Jiu-Jitsuの逆輸入)③	日系ブラジル労働移民
第12回	還流するスポーツ文化(Jiu-Jitsuの逆輸入)④	中半まとめ、スライド鑑賞
第13回	グローバルに展開する現代スポーツの光と影(MLB)①	スポーツ労働移民、スポーツにおける南北問題
第14回	グローバルに展開する現代スポーツの光と影(MLB)②	スポーツの「中心」と「周縁」
第15回	グローバルに展開する現代スポーツの光と影(MLB)③	文化帝国主義、ヘゲモニー、「ローカル」の役割

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容の理解度を判定する。
平常点評価	30 %	講義期間中に2回(第8回頃・第14回頃)、ミニ・レポートを課す。それぞれの試験では、授業の前半・後半の理解度を評価する。 自学自習を随時受け付ける。評価基準は提出回数と内容で判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学校体育や民間のスポーツ団体などにおける自らのスポーツ経験、あるいはスポーツニュースなどから得た興味と本講義を批判的に結びつけて受講することが望ましい。そうすれば身近な関心事としてのスポーツを、これまでとは違う角度で見つめ直すための一助になるだろう。

教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学―ブラジルの社会とスポーツ	J.リーヴァー／世界思想社／4790706117／
スポーツ文化論シリーズ①～⑭	中村敏雄編／創文企画／／

日系人とグローバリゼーション―北米、南米、日本	レイン・リョウ・ヒラバヤシ他編／人文書院／4409230395／
問題としてのスポーツ　―サッカー・暴力・文明化	エリック・ダニング／法政大学出版局／4588022229／
スポーツと帝国―近代スポーツと文化帝国主義	A・グットマン／昭和堂／4812297125／
越境するスポーツ―グローバリゼーションとローカリティ	高津勝・尾崎正峰編／創文企画／492116441X／
スポーツと文明化　―興奮の探求	ノルベルト・エリアス　エリック・ダニング／法政大学出版局／4588004921／
海を渡った柔術と柔道　―武道の世界史	坂上康博ら編／青弓社／／2009年2月発刊予定
サッカーで燃える国　野球で儲ける国　―スポーツ文化の経済史	ステファン・シマンスキー、アンドリュー・ジンバリスト／ダイアモンド社／／
帝国化するメジャー・リーグ　―増加する外国人選手とMLBの市場拡大戦略	谷口輝世子／明石書店／／

『日系人とグローバリゼーション―北米、南米、日本』(2006)は、スポーツを主題とするものではないが、本講義で扱う日系社会のありようを知るために一読を勧める。また、上記以外の文献に関しても、講義の際に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代とスポーツ（S）　§　人間と文化（S）

11422

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、08年9月の世界的同時不況のもとで、急変し、予断をもてない深刻な事態を招いている。つまり、「イベント・プロ・ビジネス」が主導する、グローバルな市場経済に翻弄される一方で、スポーツは健康つくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活文化として定着しつつある。「スポーツの価値観の多様化」といわれる現状を分析し、問題点を摘出しながら、「体育・スポーツ国際憲章」でしめされたスポーツ権の実現の方途を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは社会と切り離されて存在はしない。社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係を理解しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を理解し、それを打開していく方向性を考察することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」「スポーツと現代社会」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序章:	【スポーツ社会専攻】での学び、小テスト(クイズ形式)
第2回	序章	「習わなかった体育理論」「スポーツ体験」の対象化
第3回	第1章 「する」スポーツの思想	「ゲーム」内の世界　ゲームの「心構え」論　アマチュアリズムとナショナリズム
第4回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第1節 アマチュアリズムの崩壊 /冷戦体制の中の五輪 / ロス・五輪と「ユベロス」神話
第5回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第2節 プロスポーツとボーダレス化 /グローバリゼーション/スポーツ市場/国籍条項/アメリカナイゼーション
第6回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第3節 イベントビジネスとメデイア資本（文化帝国）/放映権/プロバビリテイ/テレ・メデアの介入
第7回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第4節 スポーツ文化のナショナリテイ /数量化と客観的判定/勝利至上主義とナショナリズム/非合理の美
第8回	第2章のまとめと小テスト	
第9回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節 増大するスポーツ要求 /「スポーツ世論調査」の変遷その1 スポーツの価値と多様性、
第10回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節 増大するスポーツ要求 /「スポーツ世論調査」の変遷その2 スポーツの価値と多様性、/ユネスコ「スポーツ国際憲章」から“スポーツと人権”
第11回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第2節 エリア・スクール・ビジネスの限界、「バブル」の後先、「宴」の後で
第12回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第3節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「総合型地域スポーツクラブ」の発足と展開
第13回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第4節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「スポーツNPO」とスポンサーシップの危うさ、/スポーツ事業と財務、プロのキャリア形成
第14回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第5節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「切り離される」スポーツ、マーケッテイングとマネッジメント: 小テスト
第15回	終章:「する」「見る」時代から「考える」「創る」時代へ	横浜Fマリノス事件から学ぶ/「プロ野球ストライキ」から学ぶ/スポーツ文化の担い手」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは指定しない。講義は章または節毎にまとめたレジュメによって展開する。レジュメは教室でのみ配布。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力
平常点評価	20 %	基礎的な用語・概念についての理解

出欠は取ります。ただし、点数化はしません。小テストをシラバスの予告週および予告なく2回行い、日常点として組み入れます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことは率直に質問すること。用語・概念を正確に理解すること。日々のスポーツ報道に目を配ること。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。講義は毎週、教室内でのみ配布されるﾚｼﾞｭﾒによって展開されます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ルールはなぜあるのだろう-スポーツから法を考える-	大村敦志／岩波ジュニア新書／／
「スポーツ･プロモーション論」	菊幸一･仲澤真／明和出版／／
「サッカーで燃える国・野球で儲ける国―スポーツ文化の経済史―」	シマンスキー・ジンバリスト／ダイヤモンド社／／

参考文献・資料はﾚｼﾞｭﾒの章末に掲載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目･専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

現代余暇論（S） § 余暇論（S）

15535

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

最近の国内経済、世界経済の現状は、私たちに「レジャー・余暇どころではない」といった風潮をもたらしているのではないだろうか。しかし、本講義の目的は、そのような風潮に逆らって「レジャー・余暇」から私たちの生活構造を再構成する糸口を探る試みにある。そのためにも、本講義は、レジャーを介して展開されてきた社会統合様式に焦点を当て、その政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

レジャーを政策的、思想的、政治的な視点から考察し、受講生がレジャーを「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。また、レジャーを「人間的自由の獲得」という視点から考察を試み、レジャーを介した豊かな社会構想の糸口を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	レジャーの誕生①：ヨーロッパ編	産業革命、社会的時間の再編成（労働時間、自由時間）、合理的レクリエーション
3	レジャーの誕生②：アメリカ編	有閑階級、大衆消費社会、フォーディズム
4	レジャーの誕生③：日本編	權田保之助、民衆娯楽論、アノミー、国民娯楽論
5	総力戦体制とレジャー	ファシズム、社会統合、ドーポラヴォーロ、KDF、厚生運動、健民・健兵
6	戦後日本のレジャー政策①：戦後から1970年年代初頭まで	福祉国家体制、高度経済成長、日本型雇用慣行、レジャーブーム
7	戦後日本のレジャー政策②：1970年代中頃から1990年代初頭（バブル崩壊）まで	低成長、日本型福祉社会論、前川リポート、4全総、リゾート法
8	戦後日本のレジャー政策③：1990年代中頃（バブル崩壊後）から現代まで	平成不況、社会福祉基礎構造改革、新自由主義、日本型雇用の再編、グローバリゼーション
9	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向①：創刊号（1977年）から1990年まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、前川リポート、4全総、リゾート法
10	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向②：1991年から2000年まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、利己的余暇、社会的余暇（利他的余暇）
11	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向③：2001年から最新号まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、観光
12	社会的余暇（利他的余暇）の再検討	福祉政策、ボランティア、地域社会
13	レジャーからワークライフバランスを考える①	各国のワークライフバランスに向けた取組を検討
14	レジャーからワークライフバランスを考える②	オランダのワークシェアリングの検討
15	まとめ	これまでの議論を整理し、レジャーを介した豊かな社会構想に向けた試論を提示したい。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
権田保之助著作集	権田保之助／文和書房 ／／
厚生運動概説	磯村英一著／常磐書房／／
柔らかいファシズム：イタリア・ファシズムと余暇の組織化	ヴィクトリア・デ・グラツィア／有斐閣／／
新編 現代の君主	アントニオ・グラムシ／筑摩書房／／
レジャーの誕生	アラン・コルバン [編著]／藤原書店／／
レジャー社会学	J・デュマズディエ／社会思想社／／
怠ける権利	ポール・ラファルグ／平凡社／／
レジャー白書	余暇開発センター→自由時間デザイン協会 (2001-2002)→社会経済生産性本部 (2003-)／／／
論文 戦後日本の社会統合と「レジャー」：レジャー政策から自由時間政策への転換とその意	市井吉興／立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第42巻 第3号（2006年）／／
論文 人間の安全保障としての「レジャー」をめざして：「新自由主義型自由時間政策批判」序説	市井吉興／唯物論研究協会編『唯物論研究年誌』第12号（2007年）／／
企業社会と余暇：働き方の社会学	桝潟俊子／学陽書房／／
時間とは幸せとは：自由時間政策ビジョン	余暇開発センター編／通商産業調査会出版部／／
これからの生活と自由時間：その現状と対策の方向	経済企画庁国民生活政策課編／大蔵省印刷局／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

子どもとスポーツ (S)

15724

担当者名 / Instructor　石田 智巳

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、子ども社会専攻の「子どもと現代社会領域」科目群に位置づく科目です。
スポーツはそれぞれの時代にそれぞれの地域によって楽しみ方を変えてきた。にもかかわらず，学校ではバスケットボール（アメリカ），サッカー（イギリス），剣道（日本）などを教材として指導するが，それぞれにどのような人間形成機能を持たせようとしているのかは不明であることが多い。一方で，スポーツには，特待生や留学生の問題，ボクシングの親子問題，相撲部屋問題，ドーピングなどネガティブな側面もあるし，子どもに勝利至上主義的な価値観を植え付ける機能も果たしている。そこで本授業では，近代スポーツの基礎的な知識を学ぶとともに，今日的な問題を題材にして，子どもとスポーツの関係，特にスポーツと人間形成について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは歴史的社会的な文化であるが，その意味すら忘れ去られてスポーツを享受しているのが現状である。サッカーの試合時間は0からスタートするのに，バスケットではなぜ0へと向かう（カウントダウン）のか，オフサイドは何のためにあるのか，なぜラグビーは両校優勝なのか，これらはスポーツの風土と関係が深い。そこで，これらのことに触れながら，スポーツを子どもに教えることやスポーツと子どもの関係を再考できる力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	スポーツとは何か1	遊びとスポーツ
3	スポーツとは何か2	スポーツの定義の難しさ
4	ボールの授業	スポーツの出自
5	プロスポーツとアマスポーツ	金と楽しみの2つの軸
6	むしばまれる子どもたち	スポーツと金
7	アンケート調査	フェアプレーやスポーツにおける平等・不平等
8	フェアプレーを考えるⅠ	
9	フェアプレーを考えるⅡ	フェアプレーを教える難しさ
10	星野君の二塁打Ⅰ	道徳教材を検討する
11	星野君の二塁打2	集団主義と個人主義，日米の子ども比較
12	部活動問題とその超克	
13	オリンピックと子どもたち　授業のまとめ	
14	子どものスポーツとは	スポーツと人間形成の可能性
15	試験と講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビ，新聞などで流れるスポーツ情報を自分なりに読み解く訓練を行うこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	子どもとスポーツを巡る問題点を読み解き，スポーツによる人間形成の可能性について問う。
平常点評価	40 %	出席，感想文，ミニレポートの点を加味して総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定の教科書は用いない。資料を適宜配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

障害者とスポーツ（S）

15484

担当者名 / Instructor　水谷 裕

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」

障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害のある人々のスポーツ活動」等に関するビデオ画像を通して、障害のある人々のスポーツ活動の実際を知り、社会参加の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育んで欲しいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

＊障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツをとおして社会のあり方を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入、小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人とｽﾎﾟｰﾂに関する知識、体験等
第2回	小レポートについて、講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人数･傾向,戦後の歴史等
第3回	講義「障害について」、ﾋﾞﾃﾞｵ	原因･症状等
第4回	講義「障害を考える」、ﾋﾞﾃﾞｵ	意味･とらえ方等
第5回	講義「障害の受傷時期による相違」、小レポート「水谷を初めて見た時どう思ったか」、ﾋﾞﾃﾞｵ	葛藤･受容･心理等
第6回	講義「障害のある人との関わるための留意点」、ﾋﾞﾃﾞｵ	言葉づかい･態度･考え方等
第7回	講義「障害のある人とスポーツ」、ﾋﾞﾃﾞｵ	ｽﾎﾟｰﾂ観･残存能力･訓練との相違等
第8回	講義「障害のある人に何故スポーツ？」、ﾋﾞﾃﾞｵ	運動は動物存在の基礎条件等
第9回	講義「障害者スポーツの歴史」、ﾋﾞﾃﾞｵ	時代的背景等
第10回	講義「障害者スポーツの組織」、ﾋﾞﾃﾞｵ	施設･団体等
第11回	講義「障害のある人のスポーツ権」、ﾋﾞﾃﾞｵ	背景にある<みんなのｽﾎﾟｰﾂ運動>等
第12回	講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ﾋﾞﾃﾞｵ	身体的･精神的･社会的等
第13回	講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ﾋﾞﾃﾞｵ	阻害要因･視点等
第14回	講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人間的平等･発達保障等,指導者･環境･現状把握等
第15回	確認ﾃｽﾄ(60分)とまとめ(30分)等	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞なのでの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアひいては、社会の理解度を認識する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	特に言葉の言い回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題された課題について論点が押さえられているかどうかを問います。 授業回数15回中、最低3分の1以上の出席を必要とし、満たない場合は不可とします。

＊論述1問とします。
＊確認テストを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講について
＊授業は前の席にて受講すること。
＊出席カード配布後の事由なき遅刻は認めない。
＊講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
＊話の中にある意図を理解すること。

研究について
＊障害のある人々の基礎的な知識を得た上で、スポーツ活動の現状やあり方を広い視野から見ること。

教科書 / Textbooks

＊特に決まったテキストは使用しません。

＊適時、コピー等を配付します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「障害者スポーツ」	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編集／医学書院／／障害のある人々のスポーツに関する紹介本です。
「障害者とスポーツ」	芝田徳造／文理閣／／本学名誉教授の著書で、京都での実践を通して書かれた本です。
「身体障害者のスポーツ指導の手引き」	(財)日本障害者スポーツ協会編集／株式会社ぎょうせい／／身体に障害のある人に対するスポーツ指導に関する本です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

その他 / Others

＊障害のある人のスポーツに興味を持ち、スポーツ活動を通して障害のある人の社会参加活動の理解ある良　きパートナーを目指す学生なら誰でも歓迎します。
＊講師は、脳性マヒ等による四肢機能障害で、車いすを常用しています。
＊京都市障害者スポーツセンターに勤務しています。
＊授業後、気軽に話しかけて来てほしいと思っています。

身体表現論（S）

10136

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、自然・社会・文化などと深くかかわり様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。こうしたことをふまえて、この講義では、1. 身体表現の概念と諸相　2. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と自然・社会・文化とのかかわりを考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

身体表現とは何か、さらに身体表現は自然・社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術と社会にかかわる科目
文化人類学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等
2回	非言語コミュニケーションの概念	肉体、姿勢、しぐさ、空間、色彩、時間等
3回	非言語コミュニケーションと社会・文化	高コンテキスト～低コンテキスト国・文化と非言語コミュニケション
4回	非言語コミュニケーションの分類・役割及び30分間の確認テスト	確認、修飾、代用、コミュニケーション管理、矛盾等
5回	舞踊（様式化された身体表現）の概念・現代における舞踊の意味	舞、踊り、舞踊、ダンスという言葉の意味、舞踊における聖と俗等
6回	日本の伝統舞踊（1）	古典舞踊（雅楽、能楽、歌舞伎、日本舞踊等）と民俗舞踊（神楽、田楽、風流等）のとらえかた
7回	日本の伝統舞踊（2）	表現の様式と技法、表現要素の複合化、序破急の形式、道行の形式、舞踊動作の特性
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	非言語コミュニケーションに関する多面的な討論とプレゼンテーション
9回	世界の舞踊（1）	アフリカ（特にナイジェリア）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
10回	世界の舞踊（2）	アジア（特にインド）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
11回	世界の舞踊（3）	欧米の舞踊（特にフォークダンス、バレエ）と自然・社会・文化
12回	現代の舞踊（4）と30分間の確認テスト実施	欧米の舞踊（特にモダンダンス、ポストモダンダンス、コンテンポラリーダンス）と自然・社会・文化
13回	クロスオーバーする現代の舞踊	現代美術、パフォーマンス等における身体表現、オルターナティブスペース
14回	舞踊教育の思潮と動向、生涯学習時代における舞踊教育	アメリカ、イギリス、日本における舞踊教育の流れ、生涯学習時代における舞踊学習内容
15回	各ジャンルごとの舞踊の特性、聖と俗に関する舞踊、まとめ	身体表現と形式、舞踊の構造と機能、現代社会における舞踊の意味

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する参考文献を読み、自ら関係する文献を検索し、さらには実際の舞踊公演を鑑賞し、身体表現に関する知見を広め深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度などを評価する。
平常点評価	40 %	2回の確認テスト実施と1回のレポート提出：どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

無意識に行っている身体表現を意識化させ、その表現は、自然・社会・文化と深く結びついていることを考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
舞踊学講義	舞踊教育研究会／大修館書店／4-469-26197-1／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
非言語コミュニケーション	マジェリー/F/ヴァーガス／新潮社／4-10-600334-1／
しぐさの世界	野村雅一／日本放送出版協会／4-14-001429-6／
異界へのメッセンジャー	姫野　翠／出帆新社／4－86103－016－1／
おどりの美学	郡司正勝／演劇出版社／4-900256-40-4／
渡来の祭り　渡来の芸能	前田憲二／岩波書店／4－00－024123－0／
舞踊と社会	遠藤保子／文理閣／4-89259-375-3／
手の日本人　足の西欧人	大築立志／徳間書店／4-19-554087-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ規範論 (S)

15530

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【スポーツの構造と規範】スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それ が“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な意味活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から 成り立つのか、変化は何故、起こるのかについて、解明する。第二に、スポーツはーつのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつもの なのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的ス ポーツ観を問い直し、スポーツ競技の意味と評価のあり方を展望する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツにルールがあることは、だれもが知っている。しかし、ルールの原則と意味を理解しているものは少ない。スポーツのビジネス化の中で、変貌を遂げて いる現代スポーツをルールに焦点をあて、スポーツ精神のありようを吟味する。したがって、ルールの原則にかかわる基礎的知識を理解し、スポーツ精神に込められた規範を捉え直す論理力を身につけるとともに、現代スポーツの深部を洞察する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ文化論」を基本に、「余暇論」「スポーツ社会学」「スポーツ史」「比較スポーツ論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	(序)スポーツ・ルールの意味	(1)時事問題からルールを探る (2)ルールの意味空間と技の構成:Wrestring/角力/相撲
第2週	(Ⅰ)2つのルール	(1)慣習からの明文化 (2)ルールの性質: 明示性と暗示性
第3週	(Ⅱ)明示的ルール	(1)明示的ルールの5つの原則
第4週	(Ⅱ)明示的ルール	同上
第5週	(Ⅱ)明示的ルール	(2)明示的ルールの性格と役割:不変性と可変性 (3)明示的ルールの構成
第6週	(Ⅱ)明示的ルール	(4)ルールの変化と要件: 変化の8要因
第7週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(1)ルールを支える条理規範一守能説とフィレリー説を手がかりに一
第8週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(2)「禁止されていない」プレイと「許されていない」プレイの逆進性
第9週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(3)スポーツマンの行動綱領 (3)スポーツマンシップとフェアプレイ:「 競うことの正義」
第10週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(4)日本的スポーツ精神と武士道的倫理(5)欧州会議「フェアプレイ宣言」
第11週	(Ⅳ)現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(1)ドーピング問題の社会的基盤
第12週	(Ⅳ)現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(2)ドーピングの禁止根拠とスポーツモラル:生命の自己決定権と普遍的人間性
第13週	(Ⅴ)スポーツの競争と交流	(1)競争的序列と結果主義
第14週	(Ⅴ)スポーツの競争と交流	(2)『競い合い』かたの美学
第15週	(Ⅴ)スポーツの競争と交流	(3)スポーツの価値と観賞 (4)虚構の中の真実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミから流れるスポーツ情報に鋭く反応し、その言説の深部を探り当てるように感性を研ぎ澄ますこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	スポーツモラルの基本を理解し、現実を洞察する論理力。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ知識は『常識』のようであるが、その『常識』を疑うことから始めること。『ルール』を覚え、守るのではなく、考え、変えていく立場で現実を見据えること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ規範論	草深直臣／文理閣／／09年8月出版予定

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代　下巻	草深直臣他編著／青木書店／／
スポーツ・ルールの社会学	中村敏雄／有斐閣／／
スポーツのモラルを考える	近藤良享／大修館／／
スポーツのモラル	J.フィレーリー／不昧堂／／
スポーツ倫理学講義	川谷茂樹／ナカニシヤ出版／／
スポーツ･ルールの論理	守能信次／大修館／／
スポーツ･ルールはなぜ不公平か	生島淳／新潮選書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

1）解らないことはその場で質問すること。“解った気”にならないこと。

スポーツ教育論実習I（SA）

13485

担当者名 / Instructor　金 尚憲

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

学校体育領域の一つである器械運動種目（マット、跳び箱、鉄棒、平均台）に於ける運動特性を理解し夫々の種目で技を行う際に必要な感覚、筋力、柔軟性等を体感し、それらの適性の獲得を目指し実習・学習する。又、学校体育で指導されている器械運動種目に於ける様々な技の習得・習熟を目指し実習・学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

器械運動の指導者に必要とされる技能及び知識の獲得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス。器械運動各種目の説明、体力作り、各種技の説明及び基本練習等々。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台
2	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒
3	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒、跳び箱の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒、跳び箱
4	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、跳び箱、平均台の基本練習等々。	適性獲得、マット、跳び箱、平均台
5	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習等々。	感覚、筋力、柔軟性
6	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習等々。	感覚、筋力、柔軟性
7	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
8	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
9	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題発表及びその練習。	連続技、テスト課題発表
10	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
11	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
12	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
13	マット及び跳び箱、技能テスト。	マット、跳び箱
14	鉄棒及び平均台、技能テスト。	鉄棒、平均台
15	技能テストまとめ。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各器械運動種目の実技課題テストのできばえ及び課題技実施の確実性等です。 左の50%は出席状況30%、授業姿勢20%です。 尚、出席率が70%未満の者は評価の対象としません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業は体育館で行います。ジーンズ等の普段着での授業参加はできません。体操服・体育館シューズを準備して下さい。

教科書 / Textbooks

必要に応じてプリント配付。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
体操競技研究	金　尚憲ら／タイムス／／

器械運動指導ハンドブック	中島光広ら／大修館書店／／
器械運動の授業づくり	高橋建夫ら／大修館書店／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ教育論実習I（SB）

15717

担当者名 / Instructor　金 尚憲

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

学校体育領域の一つである器械運動種目（マット、跳び箱、鉄棒、平均台）に於ける運動特性を理解し夫々の種目で技を行う際に必要な感覚、筋力、柔軟性等を体感し、それらの適性の獲得を目指し実習・学習する。又、学校体育で指導されている器械運動種目に於ける様々な技の習得・習熟を目指し実習・学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

器械運動の指導者に必要とされる技能及び知識の獲得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス。器械運動各種目の説明、体力作り、各種技の基本練習等々。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台
2	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒
3	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒、跳び箱の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒、跳び箱
4	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、跳び箱、平均台の基本練習等々。	適性獲得、マット、跳び箱、平均台
5	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習等々。	感覚、筋力、柔軟性
6	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習。	感覚、筋力、柔軟性
7	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
8	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
9	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題発表及びその練習。	連続技、テスト課題発表
10	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
11	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
12	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
13	マット及び跳び箱、技能テスト。	マット、跳び箱
14	鉄棒及び平均台、技能テスト。	鉄棒、平均台
15	技能テストまとめ。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各器械運動種目の実技課題テストのできばえ及び課題技実施の確実性等です。 左の50%は出席状況30%、授業姿勢20%です。 尚、出席率が70%未満の者は評価の対象としません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業は体育館で行います。ジーンズ等の普段着での授業参加はできません。体操服・体育館シューズを準備して下さい。

教科書 / Textbooks

必要に応じてプリント配付。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
体操競技研究	金　尚憲ら／タイムス／／

器械運動指導ハンドブック	中島光広ら／大修館書店／／
器械運動の授業づくり	高橋建夫ら／大修館書店／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ教育論実習II（SA）

13470

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

この授業では、スポーツ教育論のなかでも特にダンスに焦点をあてて、理論的な学習をもとに、ダンスの基本動作や技術などを確実に身につけると同時に、ダンス実践を通じてダンスの理念、方法、ダンスの指導法についても習得する。そのために、受講生によるダンスの模擬授業を行ったり、指導案を作成することもある。（ダンスができる服装、靴などを準備すること）

到達目標 / Attainment Objectives

授業の目標は、ダンスの理論的な学習を行い、ダンスの基本動作や技術などを確実に身につけると同時に、ダンスの模擬授業を通じてダンスの理念や方法、ダンスの指導法、ダンスの指導案作成についても習得することにある。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	授業目標、授業のスケジュール、成績評価方法、自己紹介
第2回目	課題学習の原則と進め方	踊り・創る・観る、ダンスの全体験、イメージ課題、運動課題
第3回目	発達課題と学習	イメージと運動、運動課題、イメージ課題、走る－跳ぶ－回る、雷と稲妻等
第4回目	単元計画の進め方	授業の目標、1時間の授業の時間配分、1単元の計画
第5回目	運動課題とイメージをつなぐ指導	メリハリをもった課題の動き、イメージをもって踊る、クラス内での鑑賞、出し合ったイメージから新しい創造
第6回目	1時間完結の学習から作品作りへつなぐ授業	運動課題、イメージ課題、構成課題、全習と分習、作品作り、発表・鑑賞
第7回目	中間のまとめ	課題学習の概念、指導項目、指導内容
第8回目	課題学習の実践（1）	伸びる－縮む、空間の変化と速さの変化、運動からイメージ、イメージから運動
第9回目	課題学習の実践（2）	新聞紙－流れの動きの創造、新聞紙を使用したイメージと動きの体験
第10回目	課題学習の実践（3）	音による動き、鈴、太鼓、カスタネット、マラカス
第11回目	課題学習の実践（4）	コンタクトインプロヴィゼーション、他者と触れ合う、かかわりからできる動き
第12回目	課題の連続・創作	これまでの課題による自由な創作、小作品創作
第13回目	創作	テーマに即した内容、グループによる作品創造
第14回目	創作・発表・鑑賞	題名をつけた作品、作品発表、作品鑑賞
第15回目	総まとめ、レポート提出	課題学習に関する学び、感想・意見の提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	レポート課題に関して、論理的に記述されているのかなどを評価する。
平常点評価	70 %	ダンスの理論と課題学習ができたか、ダンスの指導に関するポイントが習得できたか、などを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
こどもと教師とでひらく表現の世界	松本千代栄／大修館書店／4-469-26107-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ教育論実習II（SB）

15681

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

この授業では、スポーツ教育論のなかでも特にダンスに焦点をあてて、理論的な学習をもとに、ダンスの基本動作や技術などを確実に身につけると同時に、ダンス実践を通じてダンスの理念、方法、ダンスの指導法についても習得する。そのために、受講生によるダンスの模擬授業を行ったり、指導案を作成することもある。（ダンスができる服装、靴などを準備すること）

到達目標 / Attainment Objectives

授業の目標は、ダンスの理論的な学習を行い、ダンスの基本動作や技術などを確実に身につけると同時に、ダンスの模擬授業を通じてダンスの理念や方法、ダンスの指導法、ダンスの指導案作成についても習得することにある。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	授業目標、授業のスケジュール、成績評価方法、自己紹介
第2回目	課題学習の原則と進め方	踊り・創る・観る、ダンスの全体験、イメージ課題、運動課題
第3回目	発達課題と学習	イメージと運動、運動課題、イメージ課題、走る－跳ぶ－回る、雷と稲妻等
第4回目	単元計画の進め方	授業の目標、1時間の授業の時間配分、1単元の計画
第5回目	運動課題とイメージをつなぐ指導	メリハリをもった課題の動き、イメージをもって踊る、クラス内での鑑賞、出し合ったイメージから新しい創造
第6回目	1時間完結の学習から作品作りへつなぐ授業	運動課題、イメージ課題、構成課題、全習と分習、作品作り、発表・鑑賞
第7回目	中間のまとめ	課題学習の概念、指導項目、指導内容
第8回目	課題学習の実践（1）	伸びる－縮む、空間の変化と速さの変化、運動からイメージ、イメージから運動
第9回目	課題学習の実践（2）	新聞紙－流れの動きの創造、新聞紙を使用したイメージと動きの体験
第10回目	課題学習の実践（3）	音による動き、鈴、太鼓、カスタネット、マラカス
第11回目	課題学習の実践（4）	コンタクトインプロヴィゼーション、他者と触れ合う、かかわりからできる動き
第12回目	課題の連続・創作	これまでの課題による自由な創作、小作品創作
第13回目	創作	テーマに即した内容、グループによる作品創造
第14回目	創作・発表・鑑賞	題名をつけた作品、作品発表、作品鑑賞
第15回目	総まとめ、レポート提出	課題学習に関する学び、感想・意見の提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	レポート課題に関して、論理的に記述されているのかなどを評価する。
平常点評価	70 %	ダンスの理論と課題学習ができたか、ダンスの指導に関するポイントが習得できたか、などを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
こどもと教師とでひらく表現の世界	松本千代栄／大修館書店／4-469-26107-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ教育論実習III（SA）

20366

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

本実習では，プールで行う実技を中心として行う．水泳のうち，特に近代4泳法（クロール，平泳ぎ，背泳，バタフライ）を中心として扱うこととし，これらの泳法，スタート，ターンについて学んだ上で，それらの中学生，高校生の水泳初心者に対する指導法を学ぶ．また，学校における水泳指導時に必要とされる水上安全法に関する知識，技術についても学ぶ．

到達目標 / Attainment Objectives

1）近代4泳法（クロール，平泳ぎ，背泳，バタフライ），ターン，スタートの習得
2）初心者指導と各種泳法の指導法の習得
3）水上安全法の知識，技術の習得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	プレテスト
2	泳法指導1	クロール
3	泳法指導2	平泳ぎ
4	泳法指導3	背泳
5	泳法指導4	バタフライ
6	スタートとターン	スタート，ターン
7	苦手な泳法への挑戦1	苦手な泳法の練習
8	苦手な泳法への挑戦2	苦手な泳法の練習
9	指導法1	初心者への指導
10	指導法2	中学生，高校生への指導
11	水泳のトレーニング法	耐乳酸，最大酸素摂取量の向上
12	安全への取り組み1	水上安全法
13	安全への取り組み2	着衣泳と安全の確保
14	様々な泳法	古式泳法，水球
15	ファイナルテストと解説	ファイナルテスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	初心者指導に関する知識と学校における水泳指導の困難さをどう克服するのかを具体的に論述できているかを問う
平常点評価	80 %	ファイナルテストにて各種泳法およびその指導法を評価する（60%） あわせて出席状況や実習期間中の体調管理なども評価する（20%）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

水泳は教員採用の際，実技試験として課されるため教員として採用されるために必要な種目でもあるが，それ以上に，実際に指導者になった時には，他の種目に比べ生命に関わる事故の発生しやすい種目であり，生徒の命を預かる立場として身につけて置かなければならない種目である．このため，自身の泳力はもちろんであるが，正しい指導法，救助法を身につけるために，積極的に取り組んでもらいたい．

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
水泳指導教本	日本水泳連盟編／大修館書店／4-469-26575-6／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
赤十字水上安全法講習教本	日本赤十字社／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

実習を受けるための用具（スイムスーツ，スイミングキャップ，ゴーグルなど）は各自で事前に準備しておくこと

実習前に履修上の必須事項についてオリエンテーションを行うので掲示に注意し，必ず参加すること

スポーツ教育論実習IV（SA）

13486

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

各種球技の技能を習得させ、さらに、ひとりひとりを活かすチーム戦術の考案から個性的なチームづくりの学習に発展させるためには、どんな内容（教材）をどんなかたちで用意したらよいのかを研究する。このテーマを研究するために、受講者自らが球技の模擬授業を計画し、実践する。

到達目標 / Attainment Objectives

●各種球技の特性を理解する。
●球技の授業づくりができる。
●生徒の立場から、それぞれの授業でのめあてが言える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第2回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第3回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第4回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第5回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第6回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第7回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第8回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第9回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第10回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第11回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第12回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その3）	ペア練習、ゲーム運営
第13回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第14回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第15回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その3）	ペア練習、ゲーム運営

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	3分の2以上の出席が必要であり、その上で、模擬授業への協力、授業づくりのアイディア（担当授業時に指導案の提出を求める）などが評価される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボールゲーム指導事典	G. シュテーラー／大修館書店／4469062073／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ教育論実習IV（SB）

15718

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

各種球技の技能を習得させ、さらに、ひとりひとりを活かすチーム戦術の考案から個性的なチームづくりの学習に発展させるためには、どんな内容（教材）をどんなかたちで用意したらよいのかを研究する。このテーマを研究するために、受講者自らが球技の模擬授業を計画し、実践する。

到達目標 / Attainment Objectives

●各種球技の特性を理解する。
●球技の授業づくりができる。
●生徒の立場から、それぞれの授業でのめあてが言える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第2回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第3回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第4回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第5回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第6回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第7回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第8回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第9回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第10回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第11回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第12回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その3）	ペア練習、ゲーム運営
第13回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第14回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第15回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その3）	ペア練習、ゲーム運営

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	3分の2以上の出席が必要であり、その上で、模擬授業への協力、授業づくりのアイディア（担当授業時に指導案の提出を求める）などが評価される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボールゲーム指導事典	G. シュテーラー／大修館書店／4469062073／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ行政論 (S)

15721

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1976年欧州審議会の「ヨーロッパスポーツ・フォー・オール憲章」、1978年ユネスコの「体育・スポーツに関する国際憲章」においてスポーツは人々の基本的権利としてうたわれている。この基本的権利を保障する役割をスポーツ行政は担っていると言える。日本のスポーツ発展は行政と密接に結びついて発展してきたが、本講義では、これまでの日本のスポーツ行政の概要を概観し、現代日本の抱えているスポーツ発展の諸問題について検討するとともに、地域スポーツやスポーツ行政の現場で利用することができる基礎的知識の習得を目指す。

まず、どのような法的根拠によってスポーツ行政が行われているのかを把握し、スポーツ行政における制度、組織体制、財政、スポーツ振興施策について把握してみる。また、地方自治体のスポーツ行政の事例検討と諸外国のスポーツ行政の特徴を検討することによって、日本スポーツ行政に関する問題点と課題を理解していく。

到達目標 / Attainment Objectives

学生の皆さんとともにスポーツ行政について考え、意見を述べあえる授業を目指す。

1)スポーツ行政の概念と目的、意義を理解する。
2)スポーツ行政と法律の関係を理解し、それらを関係づけることができる。
3)スポーツ行政の具体化としての政策・施策を検証し、判断することができる。
4)スポーツ行政の事例を収集・対比し、検証することができる。(地方自治体のスポーツ行政事例を発表する)
5)日本におけるスポーツ行政の歴史的変遷と現状及び課題を理解する。
6)諸外国におけるスポーツ行政を理解する。
7)与えられたテーマに対して自らの考えを表現できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ政策論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ行政についての概要と導入(シラバス説明、本講の目的・内容、学習の進め方、評価などについての概説)	概説、シラバス、評価
2	スポーツ行政の概念・意義や目的、日本のスポーツ行政と関係法令、スポーツ行政における法的根拠	行政、政府、地方自治体、スポーツ振興法、教育基本法、社会教育法、スポーツ振興基本計画
3	国におけるスポーツ行政組織とスポーツ振興施策	文部科学省、経済産業省(通産省)、国土交通省(建設省)、総務省、中央教育審議会(保健体育審議会)
4	スポーツ行政と政治との関係	政治、行政、東京オリンピック、モスクワオリンピック、国家主義
5	スポーツ行政と経済との関係	経済、行政、地域振興
6	スポーツ行政の財政施策　ー　スポーツ財政	財政行政、予算編成、執行
7	競技スポーツ(競技力向上政策)とスポーツ行政	国民体育大会、選手強化体制、勝利至上主義、ナショナリズム、日本オリンピック委員会
8	学校体育・生涯スポーツ振興施策とスポーツ行政	学校、教科体育、部活、スポーツ権、スポーツ振興基本計画、民営化、民間
9	障害者と高齢者、在日外国人のスポーツ振興施策	福祉国家、共生、パラリンピック、ねんりんピック
10	諸外国のスポーツ行政	イギリス、ドイツ、アメリカ、フランス、韓国
11	地方自治体のスポーツ行政組織(スポーツ行政)とスポーツ振興施策	教育委員会、スポーツ振興審議会、地域振興、地方分権
12	地方自治体スポーツ行政の事例検討(1)	地方自治体、スポーツ行政
13	地方自治体スポーツ行政の事例検討(2)	地方自治体、スポーツ行政
14	地方自治体スポーツ行政の事例検討(3)	地方自治体、スポーツ行政
15	日本スポーツ行政の示唆点と意味　ー　ポスト福祉国家とスポーツ行政	まとめ、福祉国家、NPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内容に関してレポートを課す場合がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	1.講義で取り上げたテーマについてきちんと理解できているかどうかを評価する。(講義内容の理解度) 2.主題の明確な把握と論述の根拠、批判・批評の論点、自分の考えを論理的に述べているかどうか、文章の完成度などを総合的に評価。

平常点評価	50 %	1. 講義に関する意見や感想などを書いてもらい、それを評価する。 2. 感想文をもって出欠をとり、それを平常点として評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者は自分の意見や感想などを発表できる力を授業を通して身につけてほしい。積極的に授業に参加することが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは特になし。講義時にプリントを配布し、テキストとする。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの行政学	中村祐司／成文堂／4－7923－3203－6　／スポーツ行政をめぐる政策ネットワークについて
スポーツの法と政策	同志社スポーツ政策フォーラム編／ミネルヴァ書房／4－623－03200－0　／スポーツ振興と行政について
スポーツの経済学	池田勝・守能信次編／杏林書院／4－7644－1554－2　／スポーツと経済の結びつきについて
障害者とスポーツ	高橋　明／岩波書店／4－00－430896－8／障害者スポーツの歴史について
スポーツ・ボランティアへの招待	山口泰雄編／世界思想社／4－7907－1052－1　／スポーツ・ボランティアの社会的側面について

その他、参考文献は毎回の講義時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省　http://www.mext.go.jp/
厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/
長寿社会開発センター　http://www.nenrin.or.jp/center/pic/
(財)日本体育協会　http://www.japan-sports.or.jp/
(財)日本オリンピック委員会　http://www.joc.or.jp/
(財)日本障害者スポーツ協会　http://www.jsad.or.jp/
独立行政法人日本スポーツ振興センター　http://www.naash.go.jp/
(財)日本スポーツクラブ協会　http://www.jsca21.or.jp/
(財)日本体育施設協会　http://www.jp-taiikushisetsu.or.jp/

その他 / Others

ゲストスピーカーによる講義がある。
講義の理解度を高めるため、講義に関連するビデオ鑑賞がある。

スポーツクラブ論 (S)

15723

担当者名 / Instructor　中西 匠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

一概にスポーツクラブといっても、学校の運動部活動、大学でのサークル活動、地域でのスポーツクラブ、職場でのスポーツチームなどその形態は多様である。この授業では、クラブの本質を踏まえたうえですべてのスポーツクラブに該当する組織･運営の原則を明らかにし、さまざまな現場でのその実践課題を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

・スポーツクラブの組織としての特徴を、クラブの歴史的考察から導き出し、説明することができる。
・スポーツクラブでスポーツ組織・運営上の課題を構造的に理解し、説明することができる。
・クラブの形態に応じたクラブワークの方法、留意点を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	全体計画　クラブ経験調査
2	クラブとは何か　スポーツクラブのルーツと基本的特徴	自弁の原則　社交　会則
3	「チーム」と「クラブ」の違い	コート内　コート外　競争と協同
4	クラブの機能論	メンバーの欲求　啓蒙　経済性　コミュニティー　社会性のトレーニング
5	運動部活動論①　クラブとしての部活動の特徴	指導要領　メンバー構成　学校の施設　顧問
6	運動部活動論②　実践課題としての組織・運営能力の育成	組織・運営能力　キャプテン　マネージャー　部則　イベント
7	運動部活動論③　実践に学ぶ運動部活動の方向性	ミーティング　生徒も参加するリーグ運営
8	運動部活動論④　少子化のなかでの部活動実践	合同部活動　外部指導者
9	総合型地域スポーツクラブ論①	総合型地域スポーツクラブの現状　日本型総合クラブ　部活動と総合型クラブ
10	総合型地域スポーツクラブ論②　理想と現実	ヨーロッパ型総合クラブの実態　教室型の位置づけ　クラブハウス
11	体育会とサークル①　体育会の現状と問題点	体育会　施設　交流
12	体育会とサークル②　サークルの現状と問題点	サークル　施設　クラブハウス　規約
13	体育会とサークル③　体育会・サークルの課題	体育会とサークルの違い　体育会とサークルの共通点
14	スポーツの変革とクラブの可能性	
15	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	11回目に、学生自身が関わるクラブに関するレポート、最終回に学習成果を検証する「検証テスト」を実施する。授業内容の構造的な理解にとどまらず、受講生自身が実践課題をいかに形成しているかを重視する。(60%) 毎回提出する「ミニレポート」を参考資料とする。授業終了時に回収し、次の授業時に内容を交流する。(40%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業時に資料を配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じてその都度紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ産業論 (S)

15471

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か，それはどうあるべきかという問いを投げかける。内容としては，1980年代から1990年代にかけて，通産省によってそれが奨励されたのはなぜか，そこで提示されたプランの何がどう問題なのか，なぜ失敗したのかなどについて考えるところから話しを始める。さらにそこから内容を深め，日本の労働生活と余暇生活，地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視して話しを進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・通商産業省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し，その問題を説明できるようにする。
・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し，スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し，レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/日本のスポーツ政策：文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済，「消費革命」「自由時間」，娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働，過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例，戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例，ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自習が難しい対象を扱った講義なので，できるだけ休まずに授業に出席してほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21―スポーツ産業研究会報告書―	通商産業省産業政策局編／（財）通商産業調査会／ISBN4-8065-2360-7／内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	桝潟俊子／学陽書房／ISBN4-313-81401-9／戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

その他 / Others

スポーツ史 (S)

15713

担当者名 / Instructor　西原 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、江戸時代後期から高度経済成長期にかけての日本における近代スポーツの展開過程に加えて、運動会やラジオ体操などといった日本独自の身体運動文化の展開過程についても検討することによって、広い意味での「スポーツ」という視点から日本の近現代史を捉え直していくことを目的としている。したがって受講者には日本近現代史についての最低限の知識を持っていることが望まれるが、あくまでもスポーツの展開過程に関する話題が中心なので、一般的知識については適宜講義の中で補いながら説明することを心がけたいと考えている。

到達目標 / Attainment Objectives

19世紀後半以降に日本に伝播・普及した近代スポーツは、元来日本社会に根を持たない身体運動文化であり、当時の日本人にとってはまさに“異文化”であったと言える。そうした“異文化”としての近代スポーツが日本中に普及したことは、近代日本にとって一体どのような意味を持っていたのか。さらには、日本人にとって近代スポーツとは、真の意味で必要不可欠な文化であると言えるのか。本講義では、そういった「日本人とスポーツの関係性」に関する様々な問いについて受講生にも考えてもらうことによって、日本人に合った形でのスポーツ文化への関与のあり方を常に模索できるような姿勢が養われることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「日本人とスポーツ」の現在	スポーツ実践の「日常化・個人化」
第2回	江戸時代における運動文化とそれらをめぐる諸条件	武芸、相撲、運動量、着物社会、養生術
第3回	明治時代における近代スポーツの普及過程〔1〕	軍隊・学校への体操・スポーツ導入
第4回	明治時代における近代スポーツの普及過程〔2〕	運動会の社会史
第5回	明治時代における近代スポーツの普及過程〔3〕	女性と近代スポーツ
第6回	明治時代における近代スポーツの普及過程〔4〕	“精神野球”の形成
第7回	明治時代における近代スポーツの普及過程〔5〕	“武道”の誕生
第8回	スポーツの「企業化」の始まり:明治後期～大正期	新聞社、私鉄会社、スポーツイベント
第9回	昭和初期におけるスポーツの大衆化〔1〕	“野球狂時代”“スポーツ狂時代”の到来
第10回	昭和初期におけるスポーツの大衆化〔2〕	“権力装置”としてのスポーツ
第11回	昭和初期におけるスポーツの大衆化〔3〕	ラジオ体操の社会史
第12回	戦時体制下におけるスポーツ	「幻の東京オリンピック」とその周辺
第13回	高度経済成長期におけるスポーツ〔1〕	（ビデオ鑑賞）映画『東京オリンピック』など
第14回	高度経済成長期におけるスポーツ〔2〕	東京オリンピック
第15回	高度経済成長期におけるスポーツ〔3〕	スポーツと“根性”の結びつき

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容全体の理解度を重視する。
平常点評価	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近代日本のスポーツに関する社会史研究は、ここ20～30年の間に画期的に進展してきてはいるものの、その通史に関するまとまった文献で、現在入手が容易なものはほとんどない。なので、講義の中で紹介する様々な文献は言わば各論的なものばかりだが、どの文献からも日本のスポーツ史に関する新鮮な知見を得られることは間違いない。積極的に目を通すようにしてもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考文献を適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「健康」の日本史	北澤一利／平凡社／4-582-85068-5／明治時代における「健康」概念と体操の普及に関する文献
運動会と日本近代	吉見俊哉　他／青弓社／4-7872-3167-7／近代日本において運動会が持った意味とは何か？

権力装置としてのスポーツ	坂上康博／講談社／4-06-258136-1／「思想善導」政策としてのスポーツの意味
にっぽん野球の系譜学	坂上康博／青弓社／4-7872-3187-1／日本独特の“精神野球”の実像とは？
ラジオ体操の誕生	黒田勇／青弓社／4-7872-3165-0／ラジオ体操は戦時下の国民を動員し得たか？
武道の誕生	井上俊／吉川弘文館／4-642-05579-7／近代以降の武道の栄光と挫折
日本近代スポーツ史の底流	高津勝／創文企画／40523336／戦前期のスポーツに関する通史的文献
皇紀・万博・オリンピック	古川隆久／中央公論新社／4-12-101406-5／「幻の東京オリンピック」をめぐる欲望の追求
戦後野球マンガ史	米沢嘉博／平凡社／4-582-85154-1／“スポ根マンガ”とその周辺
近代スポーツの実像	中村敏雄／創文企画／978-4-921164-60-7／日本人にとっての近代スポーツの意味とは？
体育史講義	岸野雄三（編著）／大修館書店／978-4-469-26101-1／体育・スポーツの通史および個別史
スポーツ史講義	稲垣正浩・谷釜了正（編著）／大修館書店／4-469-26299-4／同上
ブルマーの社会史	高橋一郎　他／青弓社／4-7872-3242-8／女子体育・スポーツの社会的・歴史的変遷

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

スポーツ文化史料情報館　http://www.eonet.ne.jp/~otagiri/
（「論壇サロン」中の論文「江戸後期百年に探る『スポーツする身体』」や、「日本スポーツ史年表」などが参考になる）

その他 / Others

スポーツ指導論 (S)

13488

担当者名 / Instructor　中西 匠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツがひとびとの生活に深く浸透し、その指導者の役割･責任は非常に大きくなってきている。一概にスポーツを指導するといっても、スポーツの「何を」「だれに」「どのように」指導するのかを指導者自身が明確化できていない場合は、その指導は効果をあげられないばかりではなく、逆効果になることもある。

この授業では、実例や受講生自身の経験を交流しながら、指導対象に応じたスポーツの指導内容と、効果的な指導方法の原則を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・スポーツを文化として捉えたうえでスポーツの指導内容を構造的に理解し、説明することができる。
・受講生自身の経験や具体的事例を踏まえ、今日のスポーツ指導の課題を明らかにすることができる。
・対象者に応じたスポーツ指導の方法、留意点を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要・全体計画提示	スポーツの構造的理解とスポーツ指導の概念
2	過去の経験に学ぶスポーツ指導の現状と魅力	指導者のタイプ
3	スポーツ指導における技術認識と技能習熟の関係	技術認識　技能習熟　パフォーマンス　運動技術
4	戦略･戦術の構造とその指導	戦略　戦術　対人競技　球技　レース　採点競技
5	技術指導の系統性	基礎技術　個別ドリル　スモールステップ
6	直接的な指導と間接的な指導	動機づけ　外発的動機づけ　内発的動機づけ
7	スポーツ指導における計画―実践―評価のサイクル	目標設定　フィードバック　目標設定のサイクル
8	スポーツの指導と情報の与え方	言語指導　視覚的指導　感覚的指導
9	中間総括　プレーヤーの主体的スポーツ活動を引き出すスポーツ指導	技能習熟と技術認識　戦術指導　動機づけと間接指導　計画のサイクル　情報とその利用
10	一貫的な指導と体制づくり スポーツ指導と安全管理	一貫指導　組織的指導　サポート体制
11	「アスリート」と「市民スポーツ」の区別と関連	高度化　大衆化　競技　レジャー
12	「子どもスポーツ」の指導	スポーツ環境　遊びとスポーツ　動きづくり　親とのコミュニケーション
13	「性別」「年齢」とスポーツ指導の焦点	女性とスポーツ　高齢者とスポーツ
14	しょうがい者とスポーツ指導	しょうがい者にとってのスポーツ　個別対応　支援体制
15	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	9回目に中間総括、最終回に学習成果を検証する「検証テスト」を実施する。授業内容の構造的な理解にとどまらず、受講生自身が実践課題をいかに形成しているかを重視する。(60%) 毎回提出する「ミニレポート」を参考資料とする。(40%)授業終了時に回収し、次の授業時に内容を交流する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業ごとに資料を配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じてその都度紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ社会学 (S)

13366

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツを社会学する」とはどのようなことだろうか。そうすることで何が見えてくるのだろうか。本講義では、この問いに答えるためこれまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的研究や理論の紹介を通し、何が、どのように見えてくるのかを示すこととしたい。
またこの講義では同時に、今日のスポーツをスポーツ社会学ではどのように捉え、何を問題として見ようとしているのかを考えていくこととしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・スポーツを社会学的に見るとはどのようなことか、そのことによって得られる新しいスポーツに対する見方とはどのようなものなのかを理解することを目的とします。
・そのことを通して、現代のスポーツの問題を、各自が「社会的文脈」と関連づけてとらえることができる ようになることを、最終的な目的とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・スポーツ社会学は文字通り「社会学」の一つです。従って、社会学の基礎理論的科目をあらかじめ、また は並行して受講することで理解が深まると思います。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ社会学とは;歴史と研究状況	ISSA、日本スポーツ社会学会,スポーツの社会評論との違い
2	スポーツ・バーナウトの構造	バーナウト、ドロップアウト、トランスファー
3	役割期待のアンヴィバレンス	組織、地位、役割
4	組織構造とパフォーマンス	P機能、M機能、権限構造
5	小集団の凝集性	ソシオメトリー、FIRO-B
6	「日本的」スポーツ組織の構造	属性原理、業績原理、擬制家制度
7	スポーツ社会学の代表的理論(1)ブルデューとフランススポーツ社会学	スポーツの選択原理、階級、ハビトゥス
8	スポーツ社会学の代表的理論(2)スポーツの場の理論と日本のスポーツの変容	スポーツの場、状況の「反転」
9	スポーツ社会学の代表的理論(3)カルチュラル・スタディズと英国スポーツ社会学	権力、ジェンダー、階級、表象分析
10	スポーツ社会学の代表的理論(4)ナショナリズムとスポーツ	スペクタクル、モニュメント、象徴
11	スポーツ社会学の代表的理論(5)エリアス「文明化の過程」とスポーツ	近代文化、近代スポーツ、情動の制御
12	スポーツ社会学の代表的理論(6)グローバルスポーツの展開	スポーツ=メディアコンプレックス、スポーツ移民、スポーツ商品
13	日本社会の変容とスポーツ(1)スポーツの産業化とスポーツの社会的基盤の変化	第二臨調・行革、プラザ合意、スポーツビジネス
14	日本社会の変容とスポーツ(2)スポーツの場の反転	Jリーグ、サポーター、地域
15	まとめ:スポーツの新しい可能性と主体	新しい社会運動、スポーツNPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

可能な限り身近な問題から説明し、徐々にマクロなな構造的問題に敷衍していくこととしたい。社会評論ではなく、あくまで社会学であるので、個々の授業では前半は理論的枠組みの説明になる。従って理解を円滑にすすめるため、可能な限り当該領域の理論の予習をされることを望

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	1. 授業内容の理解度(概念の正しい理解が主となる)。2. 自身の問題設定の仕方。

ゲストスピーカーを招き授業時にレポートを課す場合がある。その場合は原則としてレポートを加点として取り扱う。その旨授業時に指示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会学理論を多用し、その応用的展開という性格を持つので、3回生以上の受講が望ましい。2回生が受講する場合は基礎的な社会学の概念や理論についての理解を独自にすすめておくこと。

教科書 / Textbooks

特に使わない。授業時のみレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・レジャー社会学	D. ジェリー、清野正義他編／道和書院／4-8105-4008-1／理論部分の予習用
変容する現代社会とスポーツ	日本スポーツ社会学会編／世界思想社／4-7907-0723-7／現代スポーツの変化について
近代ヨーロッパの探求8、スポーツ	有賀郁敏他著／ミネルヴァ書房／4-623-03509-3／近代スポーツ史、グローバリゼーションの理解に
新しい体育・スポーツ社会学をめざして	体育・スポーツ社会学研究会／道和書院／4-8105-2020-X／体育・スポーツ社会学の到達点を理解するために
スポーツ・権力・文化	ジョン・ハーグリーヴズ／不昧堂／4-8293-0267-4／カルチュラススタディズのスポーツ論
スポーツと文明化	エリアス、ダニング／法政大学出版／4-588-00492-1／エリアス学派のスポーツ論
現代に生きる遊牧民	アルベルト・メルッチ／岩波書店／4-00-000644-4／スポーツボランティアの可能性を考える

その他適宜授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jsss.jp/ （日本スポーツ社会学会HP）

その他 / Others

スポーツ心理学IV (S)

15683

担当者名 / Instructor　藤田 太朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツ心理学は練習内容、行動様式、実験結果を可能な限り数値化し客観的な視点を必要とする学問から、「このような状況がどうして続くのか」「頭でわかっているつもりだけどなかなかできない」「試合前日になると必ず熱がでてしまう」…など内的な作業を必要とする深層心理的アプローチまで存在する。そのため、この授業ではスポーツ心理学を　実験心理学・メンタルトレーニング・スポーツカウンセリングに3分割し、それぞれの考え方・捉え方を学習しつつ、多角的な視点を少しでも増やしていける授業としていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

先行研究からの結果や考察から自分の実践している(してきた)スポーツや今後指導するであろうスポーツに対して、練習内容や感覚的に感じてきた事を比較しながら検討することができる
心理テストからの読み取りや分析の基礎を理解することができる
意識的にコントロールできることとできないことを明確にする
サポートを必要とする競技者や学生に対して、どのような関わりが必要かを考え、指導者として何ができるかを考え続けることができる姿勢を持つことができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/30	ガイダンス	実験心理学　メンタルトレーニング　スポーツカウンセリング
10/7	運動と知覚	視覚　聴覚　絶対域　空間　時間
10/14	運動技能の学習	学習タイプ　レミニッセンス　メモリートレース
10/21	あがりと不安のメカニズム	恐怖体験　失敗　処理資源　過剰な意識
10/28	メンタルトレーニング	リラクセーションの意義　呼吸法　自律訓練法
11/4	心理テスト実習	POMS　DIPCA　TSMI
11/11	心理テスト自己分析と解説	判定　適応性　フィードバック方法
11/18	自信と精神集中	セルフトーク　経験　練習内容　客観的分析
11/25	コンディショニング	追い込み　バーンアウト　個別性　全体性
12/2	コーチングの基礎	指示　命令　パートナーシップ
12/9	敗北から学ぶ	心の動き　振り返り　無力感　逆境
12/16	言語化と身体化	メッセージ　サイン　洞察力　怪我　発熱
12/23	風景構成法	枠付け　構成　投影　発達段階　無意識的
1/6	ケーススタディと検討課題	可能性　見立て　関わり　器
1/13	テスト及び総括	テストとまとめを実施

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基礎的な語句の理解度確認するための内容と、選手に関わるための例題に対する捉え方を検証テストとする 出席を5%理解度を確認するための授業内レポートを25%成績評価の対象とする。レポート内容によっては出席を含めてプラスαする場合とーにする場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

可能な限り授業内でコミュニケーションをとりながら、理解を深めていきたいので積極的な発言を望みます。レポートは提出してください。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。参考書を参照してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ学の視点	江田 昌佑　編／昭和堂／／
風景構成法その後の発展	山中 康裕 編／岩崎学術出版／／
スポーツ心理学の世界	杉原 隆 他／福村出版／／

アスリートの心理臨床	中込四郎／道和書院／／
メンタルトレーニングワークブック	中込四郎／道和書院／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ人類学 (S)

15714

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツ人類学は、スポーツを文化人類学的に研究するものである。これまでのスポーツ研究は、主として有文字社会のスポーツだけを扱ってきた。しかしながら、有文字社会がカバーできる時代と地域はかなり限定されたものであり、無文字社会であった地域におけるスポーツも考察しなけれ、スポーツとは何かを知ることにはならない。そこで、この授業では、無文字社会だった地域におけるスポーツ、例えば北・南米、アジア、アフリカなどのエスニックスポーツを対象にし、スポーツとは何かをさまざまな観点から検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツ人類学とは何か、さらにはスポーツは自然・社会・文化と深く関わって行われていたことを学ぶことによって、受講者にスポーツと社会・文化を多面的にみる視点を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文化人類学
スポーツの歴史と発展
スポーツと現代社会

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績の評価方法等
2回	スポーツ人類学の概要	研究対象、スポーツ人類学の理論モデル等
3回	スポーツ人類学の研究方法	フィールドワークの概要、フィールドワークの諸問題、フィールドワークの展望
4回	スポーツと神話・儀礼・宗教・30分の確認テスト	儀礼的スポーツの意味、儀礼的スポーツの研究展望
5回	スポーツの起源・伝播・文化変容	スポーツと起源と伝播、スポーツと変化、同化と拒絶
6回	スポーツと観光	人類学と観光、観光開発とスポーツ
7回	スポーツの文化化	遊びに見られる文化化機能、学校教育と文化化
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	スポーツ人類学に関する様々な討論とプレゼンテーション
9回	世界のエスニックスポーツ(1)・北米先住民のスポーツ	イヌイットの競技、ボール・ゲーム(球戯)の意味、分布、特性等
10回	世界のエスニックスポーツ(2)・中南米先住民のスポーツ	丸太担ぎレース、カポエイラの意味、特性等
11回	世界のエスニックスポーツ(3)・中国・少数民族のスポーツ	少数民族のスポーツ、伝統体育運動会、生活とスポーツ等
12回	世界のエスニックスポーツ(4)・東南・南アジア稲作民のスポーツ・30分の確認テスト	ボートレース、豊穣祈願、降雨儀礼等
13回	世界のエスニックスポーツ(5)・モンゴルのスポーツ	ナーダム祭、相撲、競馬、弓射等
14回	世界のスポーツ(6)・アフリカのスポーツ	セネガルの相撲、舞踊、豊穣祈願等
15回	定期試験と講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する参考文献、あるいは自らが文献を検索し、さらには実際にエスニックスポーツを体験したり、みることによって、スポーツに関する知見を広め、深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度を評価する。
平常点評価	40 %	2回の確認テストと1回のレポートをもとに、どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世界には、様々なエスニックスポーツがあり、それらは生活と密接に結びついて行われていたことを理解する。
そのことによって、近代スポーツの特性を再確認し、スポーツとは何かを多面的に考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教養としてのスポーツ人類学	寒川恒夫／大修館書店／4-469-26552-7／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ人類学入門	k. ブランチャード他／大修館書店／4-469-26133-5／
舞踊と社会	遠藤保子／文理閣／4-89259-375-3／
スポーツの後近代	稲垣正浩／三省堂／4-385-35675-0／
相撲の人類学	寒川恒夫／大修館書店／4-469-26322-2／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ政策論（S）

13489

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツ政策とは、スポーツにかかわる問題を解決するための手段、方策の体系といえる。今日、あらゆる方面で急速にスポーツの役割とメリットが高まりつつある中、今後どのような方向にどのような手段によってスポーツを発展させるべきか、スポーツ政策の存在価値・目標でもある。

本講義では、スポーツ政策の意義や目的及び政策の策定過程を理解するとともに、近現代日本のスポーツ政策の変遷過程と現状及び課題を把握してみる。また、諸外国のスポーツ政策の現実を検討することによって、今後日本のスポーツ政策が行くべき道、スポーツ政策のあり方を論

到達目標 / Attainment Objectives

学生の皆さんと共にスポーツ政策について考え、意見を述べあえる授業を目指す。

1)スポーツ政策の概念を理解する。

2)スポーツ政策の意義や目的及び政策策定のプロセス・力学を理解する。

3)日本におけるスポーツ政策の歴史的変遷と現状及び課題を理解する。

①学校体育とスポーツ政策、②国際競技力の向上をめぐる政策、③生涯スポーツに関する政策

4)諸外国におけるスポーツ政策を理解する。

5)テーマに対して自らの考えを表現できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツと現代社会」「余暇・スポーツ史S」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ政策についての概要と導入(シラバス説明、本講の目的・内容、学習の進め方、評価など)	概要、シラバス、評価
2	スポーツ政策の概念、スポーツ政策の形成者と体系、スポーツ政策形成のプロセス	政策、政府、行政、民間、統計
3	国におけるスポーツ行政組織とスポーツ振興施策	文部科学省、経済産業省（通産省）、国土交通省（建設省）、総務省、中央教育審議会（保険体育審議会）
4	地方公共団体における行政組織とスポーツ振興施策	教育委員会、スポーツ振興審議会、地域振興、地方分権、まちづくり
5	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（1） ― スポーツ政策の胎動と国民統制	大正デモクラシー、思想善導、身体、鍛錬、文部省、内務省
6	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（2） ― 戦時下のスポーツ	天皇、軍国主義、明治神宮体育大会、厚生省、大日本体育会
7	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（3） ― 戦後初期におけるスポーツ改革政策	GHQ、民主化、大衆化、国民体育大会、冷戦、国際復帰
8	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（4） ― 東京オリンピックと勝利至上主義	オリンピック体制、選手強化体制、スポーツ振興法、勝利至上主義、根性
9	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（5） ― 国民総スポーツ運動の歴史的意味	スポーツ権、新体連、スポーツ振興、生涯スポーツ、コミュニティスポーツ、公害、市民運動
10	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（6） ― スポーツ産業の成長と新自由主義	商業主義、新自由主義、国家主義、民間、合理化、民営化
11	学校体育と生涯・国際競技力向上スポーツ政策の歴史と現状、課題（1）	学校体育、生涯スポーツ、エリートスポーツ
12	学校体育と生涯・国際競技力向上スポーツ政策の歴史と現状、課題（2）	学校体育、生涯スポーツ、エリートスポーツ
13	世界のスポーツ政策の動向（1）	イギリス、ドイツ、アメリカ、フランス
14	世界のスポーツ政策の動向（2）	韓国、中国
15	日本スポーツ政策の示唆点と意味	まとめ、スポーツ政策、示唆点

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内容に関してレポートを課す場合がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	1.講義で取り上げたテーマについてきちんと理解できているかどうかを評価する。(講義内容の理解度) 2.主題の明確な把握と論述の根拠、批判・批評の論点、自分の考えを論理的に述べているかど

うか、文章の完成度などを総合的に評価する。

平常点評価	50 %	1. 講義に関する意見や感想、ビデオ鑑賞の感想などを書いてもらい、それを評価する。 2. 感想文をもって出欠をとり、それを平常点として評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者は自分の意見や感想などを発表できる力を授業を通して身につけてほしい。積極的に授業に参加することが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは特になし。講義時にプリントを配布し、テキストとする。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
戦後スポーツ体制の確立	内海和雄／不昧堂出版／4-8293-0271-2／戦後から1970年代辺りまでの日本のスポーツ政策の成立過程について
戦後日本のスポーツ政策	関春南／大修館書店／4-469-26362-1／現代日本のスポーツ問題とスポーツ政策について
地域のスポーツと政策	中山正吉／大学教育出版／4-88730-392-0／地域のスポーツと政策の問題について
権力装置としてのスポーツ	坂上康博／講談社／4-06-258136-1／近代日本のスポーツ政策と思想善導について
体育・スポーツにみる戦争責任	アジアに対する日本の戦争責任を問う民衆法廷準備会／樹花舎／4-7952-5022-7／帝国日本の体力管理・スポーツ統制と植民地朝鮮における体育政策について
新版　日本現代史	藤原彰・荒川章二・林博史／大月書店／4-272-52040-7／現代日本の社会・歴史について

その他、参考文献は毎回の講義時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省　http://www.mext.go.jp/
(財)日本体育協会　http://www.japan-sports.or.jp/
(財)日本オリンピック委員会　http://www.joc.or.jp/
独立行政法人日本スポーツ振興センター　http://www.naash.go.jp/
(財)日本スポーツクラブ協会　http://www.jsca21.or.jp/
(財)日本体育施設協会　http://www.jp-taiikushisetsu.or.jp/

その他 / Others

講義に対する理解を高めるため、講義内容に関連するビデオ鑑賞がある。
ゲストスピーカーによる講義もありうる。

スポーツとジェンダー（S）

15715

担当者名 / Instructor　片田 孫 朝日

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツの世界は、公式試合が男女別に行われるなど、男女の区別を当たり前のものとしている。また、好まれる競技内容や身体性が、「男らしさ／女らしさ」の意味と密接に関連している。この講義では、こうしたスポーツとジェンダーとの関係について考える。

前半では、社会学的にジェンダーを理解するための概念（「性別役割分業」や「異性愛セクシュアリティ」）について具体的に説明し、日本のスポーツ現象との関わりを読み解く。後半では、近代スポーツと女性の参入、学校体育と性別カリキュラム、部活での体罰やセクシャル・ハラスメントなどをテーマに授業を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

社会的に「女／男として」生きることは、望むと望まざるとにかかわらず、私たちの日常生活の一部である。(1)この「女／男」に関する社会現象を、意識的に対象化する見方や概念を学ぶ。(2)また、このジェンダーの観点からスポーツ現象を読み解く力や、自分の日常生活をふり返り、考える力を育てていくことが授業の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	授業内容、成績評価、女性学と男性学
第2回目	ジェンダーの規範（1）：性別役割分業	異文化、女の町、女性の労働と身体
第3回目	日本の性別役割分業とスポーツ	男は仕事／女は家庭、競技生活と家事育児、競技スポーツと女らしさ
第4回目	ジェンダーの規範（2）：異性愛セクシュアリティ	異性愛主義、恋愛、性的主体／客体
第5回目	異性愛セクシュアリティとスポーツ	マスメディア、美と外見の評価
第6回目	強い男らしさ	運動音痴、強さの魅力、男らしさの困難
第7回目	闘う女の身体	格闘技、女らしさ、葛藤と変容
第8回目	近代化とジェンダー	産業化、都市化、主婦
第9回目	近代スポーツと女性の参入	近代スポーツ、人見絹江、女性の参入と参画
第10回目	学校体育（1）：性別カリキュラム	男女別習、性別期待
第11回目	学校体育（2）：「男女の体力差」	スポーツテスト、持久走、「体力」の規準
第12回目	スポーツと暴力（1）：体罰といじめ	運動部、教育と暴力
第13回目	スポーツと暴力（2）：セクシャル・ハラスメント	認識の特徴、二次被害
第14回目	スポーツの魅力とジェンダー	運動文化、オールタナティブ
第15回目	ジェンダーの視点	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	論述試験を実施する。授業内容の理解を中心に、自らの考察や意見を合わせて判断する。
レポート試験	0 %	
平常点評価	40 %	授業中に、授業内容に関する意見や考えを記すリアクション・ペーパーを何度か書いてもらう。その提出の有無と内容を平常点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・ジェンダー学への招待	飯田貴子・井谷恵子／明石書店／4-7503-1944-9／複数回の授業で参照するため、できるだけ購入すること

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジェンダー秩序	江原由美子／勁草書房／4-326-65251-9／
セクシュアリティをめぐって	河野貴代実／新水社／4-915165-93-0／

目で見る女性スポーツ白書	井谷恵子他／大修館書店／4-469-26459-8／
スポーツする身体とジェンダー	谷口雅子／青弓社／4-7872-3277-9／
女子マネージャーの誕生とメディア	高井昌吏／ミネルヴァ書房／4-6230-4377-0／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツバイオメカニクスIV (S)

15684

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

バイオメカニクスは，生理学，解剖学，力学といった領域における知見を参考にして，身体の動きの仕組みについて解明していこうとする学問である．特にスポーツにおけるバイオメカニクスの知識は，スポーツ技術の習得や指導を行う上で有用となる．

本講義では，数学や物理学が不得意な人でも理解できるよう，バイオメカニクスの基礎となる知識について時間をかけて説明した上で，日常目にしたことのあるスポーツの中での運動を例に，実際の分析作業なども通して，その仕組みについて考えていく．

到達目標 / Attainment Objectives

バイオメカニクスの基礎となる筋収縮や解剖学的知識について理解した上で，スポーツにおける基本的な運動についてバイオメカニクスの知識を基に観察できる力を養う．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

履修していなくとも十分理解できるように講義を進めるが，「生理学」では，バイオメカニクスの基礎となる運動時の筋収縮やエネルギー供給過程などについて扱うため，「スポーツバイオメカニクス」をよりよく理解したいと考えている人には履修を薦める．

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入　スポーツバイオメカニクスとは	スポーツバイオメカニクス
2	からだの構造と運動，筋が収縮する仕組み	骨格，関節運動，骨格筋
3	筋自体が発揮する力，筋の収縮様式	テコ，等尺性収縮，短縮性収縮，伸張性収縮
4	筋を収縮させる仕組み	エネルギー供給，随意運動，不随意運動
5	運動の3法則，力と速度の合成・分解	慣性，作用・反作用，ベクトル
6	仕事	運動量，力積，力学的エネルギー
7	姿勢，重心	重心，合成重心
8	回転運動	慣性モーメント，トルク
9	速さの測定，分析	速度，加速度，角速度
10	動作の記録	高速度カメラ
11	動作の分析	モーションキャプチャ，スティックピクチャー
12	歩行，走運動のバイオメカニクス	歩行，短距離走
13	跳ぶ運動のバイオメカニクス	走り幅跳び，走り高跳び
14	投げる運動，蹴る運動のバイオメカニクス	野球，バスケットボール，柔道，サッカー
15	まとめ	スポーツにおける動作の意味

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義開始時に講義内容に関連する知識や意見を問うことがある．講義内容を身近な運動やスポーツ競技に関連づけながら考えることがより理解を深めることにつながるため，常に講義内容を応用して自分なりに考えておいてもらいたい．

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	基本的な知識を理解した上で、自身の活動に結び付けて論理的な展開ができる．
平常点評価	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する．

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義内容は自然科学的なものになるが，高校時に数学や物理学，大学において関連する領域の科目を履修していない学生にも十分理解できるように講義を進める予定である．また，講義中に授業内容について理解を深めるための簡単な演習課題を課すことがあるので，常に授業に積極的な姿勢で臨んでもらいたい．

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・バイオメカニクス入門	金子公宥／杏林書院／978-4-7644-1079-4／
スポーツバイオメカニクス20講	阿江道良，藤井範久／朝倉書店／978-4-254-69040-8／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ批評論（S）

13482

担当者名 / Instructor　梶原 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツは近代国家の成熟に伴い発展してきたが、それを享受し人生に生かすには、国家、社会の在り方次第というのが現実である。現代人のQOL（クォリティ・オブ・ライフ）向上に欠かせないのがスポーツだが、世界人口67億のうちわずか3分の1しか、その恩恵に浴していないのである。豊かな国では益々スポーツ文化が栄える一方で、途上国は置き去りにされており、背後にある政治、経済の安定という社会科学的要素の多角的検証が欠かせないのである。本講義では近現代史をひもとき、戦争、独裁、貧困、環境悪化といった人類の課題と人間行動を知ることで、スポーツに関する基礎的素養を高めようとするものである。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済がスポーツに及ぼす影響を検証し、人間社会の原理と核心を考える力を養う
②オリンピックなど世界的イベントの経緯を学びスポーツ文化の変遷と本質に迫る

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と社会　　スポーツ社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	講義の内容、講義の進め方、評価方法
第2回	文明とスポーツ①	現代文明、スポーツの起源、自由主義、古代オリンピアとの比較
第3回	文明とスポーツ②	グローバル化、富裕と貧困、地球温暖化とスポーツの未来
第4回	政治経済との関り①	ベルリン五輪の背景、中国台湾問題、パレスチナ、グルジア紛争
第5回	政治経済との関り②	ミュンヘンテロ事件、冷戦、モスクワ五輪ボイコット問題
第6回	政治経済との関り③	商業主義、環境、サブプライムローンと国際金融、バイオエタノールと穀物生産
第7回	政治経済との関り④	ナショナリズム、北京五輪は成功か、ワールドカップ、国威発揚の是非
第8回	プロとアマチュアリズム	熱を帯びる国際大会、不況下の企業スポーツ、市場原理の是非
第9回	メディアとの共存	メディアソフトとしてのプロスポーツ、スペクテ-ター、スポーツビジネス
第10回	ドーピング問題	バリー・ボンズ問題、Jリーグの判断、旧東欧諸国、高地トレーニング、BSE
第11回	規範意識	批判精神、スポーツ奨学生、ハンドボール事件とイスラム文化
第12回	人類の課題①	生物としての人間存在、人類学的見地、地域共同体
第13回	人類の課題②	人口爆発、異常気象、国連、地球公共財、災害防止
第14回	人類の課題③	ノーブレス・オブリージュ、難民救済、伝統文化
第15回	まとめ	問題点の復習、まとめ、ミニテスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

①講義で配布する資料には必ず目を通すこと。参考文献はできる限り読んでおくこと
②新聞、テレビ、オピニオン誌などの政治経済問題に関心を持つこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義内で実施するレポート4回の成果と内容を60ﾊﾟｰｾﾝﾄ、学習態度、質問に対する答え方、出席回数を40ﾊﾟｰｾﾝﾄとする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世界と国内の諸情勢を適宜わかりやすく解説、社会に普段から関心を持つことで視野、教養が広がり、就職活動の自信に繋がる

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

スポーツと政治	坂上康博／山川出版社／4-634－54580－2／歴史と概要が分る
20世紀特派員　4	産経新聞取材班／扶桑社文庫／4-594－03113－7／オリンピック経緯詳細、内容良し
本質を見抜く力（環境、食料、エネルギー）	養老孟司・竹村公太郎／PHP新書／4－569－70194－3／現代社会の課題が一読できる
スポーツとは何か	玉木正之／講談社現代新書／4-06－149454－6／手軽に読め、参考になる
野村再生工場	野村克也／角川書店／4－04－710151－7／鋭い人間観察があらゆるスポーツの理解に役立つ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ文化論 (S)

13271

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2005年は、国連の「体育・スポーツ国際年」であった。スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目されている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツ概念を歴史的に辿どりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構（Institution）の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を社会的・構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを提示し、スポーツ諸科学との関係を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

多くの人が経験的に持つスポーツ観念を打ち破り、スポーツを文化として成り立たせている要素を摘出し、人間－スポーツ－社会の枠組みでスポーツの総体を把握する方法論の基礎を身につける。概念史、理論史を踏まえることによって、現代スポーツの諸問題にアポローチする方法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」、および入門科目「現代とスポーツ」を事前に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	序章：1節 「体験としてのスポーツ」からの脱却	意識・感覚言語とスポーツ用語　体験の対象化
第2週	序章：2節　グローバリゼーションとスポーツ	世界文化としてのスポーツ　スポーツのローカリズム 世界同時不況の中でなにが起こったか？
第3週	Ⅰ章　スポーツ概念の変遷	（1）スポーツの語源　(2)英語圏
第4週	（3）ドイツ語圏・フランス語圏、中国語圏と日本語圏	（4）スポーツ概念の特徴：行為本性説と目的価値的規定。(5)スポーツの外延と内包
第5週	Ⅱ章　スポーツ機構説の土台	(1)競技志向とプレイへの注目(2)ホイジンガ”ホモ・ルーデンス”、(3)カイヨワ”2極4領域”説
第6週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(1)ロイのカイヨワ批判　(2)スポーツの多層的把握
第7週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(3)機構化の指標：a)組織　b)技術　c）シンボル　d）教育
第8週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(4)社会機構としてのスポーツ　：a)プレイヤーノットコントロール（Edward）b)管轄機構の支配力　c)　機構の問題点
第9週	(5)社会状況としてのスポーツ	(6)ロイ「スポーツ機構」説の特徴と問題点
第10週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開	(1)佐伯「スポーツ体系説」
第11週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開と問題点	(2)多々納「スポーツ・シンボル」説　(3)構造－機能主義の問題点
第12週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(1)プレイ論の主観主義　（2）客観的実在としてのスポーツ
第13週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(3)草深「2層3領域」説の提示　(4)スポーツを『動かしている』力：機構の主導性
第14週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(5)ガッツマンの【近代化の指標】の再検討 (6)競技と交流：結果と過程
第15週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(7)応援と観賞 (8)批評　(9)マネッジメント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミにおけるスポーツ言説に惑わされずに、人間にとってスポーツとは何か、スポーツ現象を支える社会機構を見抜くように、リテラシー感覚を磨くこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	基礎的知識の理解、理論的展開の総合的把握、現実の論理的分析力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ･ゲームを体験的、固定的に理解せず、社会的影響によって変化･変質する文化構造を多角的に捉える観点に注視して欲しい。出欠は取らないが、出席しないと理解できないし、高回生配当科目の位置づけも明確にならない。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代、上下	伊藤高弘・草深直臣他編／青木書店／／
スポーツの概念	体育原理分科会編／不昧堂／／
スポーツ文化を学ぶために	スポーツ社会学会編／世界思想社／／
スポーツと文化帝国	A.ガッツマン／平凡社／／
近代スポーツ論	西山孝夫／世界思想社／／

その他、参考文献は各章毎にレジュメに明記する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

1） 解らないことは、できる限りその場で質問すること。
2） ﾚｼﾞｭﾒは区切りの良い章、または節ごとに、教室でのみ配布する。ﾚｼﾞｭﾒ配布は予告する。

スポーツ変動論（S）

15712

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、近代スポーツという社会現象を可能にした歴史的・社会的諸条件を問い直すことを試みることにある。この試みを通じて、近代スポーツを相対化し、それを再構成する起点を提示する。本講義は、スポーツの実態を紹介、分析するよりは、スポーツを成立させる政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

エリアス、ブルデュー、グートマンのスポーツ研究を通じて、受講生がスポーツの問題を「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。また、スポーツを「人間的自由の獲得」という視点から考察を試み、スポーツを介した豊かな社会構想の糸口を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	エリアスの社会理論を概説する	文明化過程論、フィギュレーション、暴力抑制
3	ブルデューの社会理論を概説する	ハビトゥス、界、象徴的暴力
4	近代スポーツの社会発生①	文明化過程論、議会主義、パブリックスクール、アスレティシズム
5	近代スポーツの社会発生②	界、労働者階級、ヘゲモニー、ジェンダー
6	スポーツと合理化①	世俗化、競争における機会と条件の平等、役割の専門化
7	スポーツと合理化②	合理化、官僚化、数量化、記録の追及
8	スポーツ選択の自由？①	ヘゲモニー、教育、階級、ジェンダー
9	スポーツ選択の自由？②	界、ハビトゥス、メディア
10	スポーツと暴力①	娯楽のスポーツ化、物理的暴力の独占化
11	スポーツと暴力②	フットボール・フーリガニズム
12	スポーツとジェンダー	ホモセクシャル、ゲイゲームズ
13	スポーツとグローバリゼーション①	オリンピック
14	スポーツとグローバリゼーション②	サッカー、ワールドカップ
15	まとめ	これまでの講義を確認し、近代スポーツを相対化し、再構成する起点を提示。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを使用せず、講義毎にレジュメを配布する。なお、講義において視聴覚教材を用いることもある。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Sport and Leisure in Social Thought	Grant Jarvie and Joseph Maguire ／Routledge／／
Sport and Modern Social Theorists	Richard Giulianotti(ed) ／Palgrave／／
Sport:A Critical Sociology	Richard Giulianotti／Polity／／
問題としてのスポーツ	エリック・ダニング／法政大学出版局／／
スポーツと文明化	ノルベルト・エリアス、エリック・ダニング ／法政大学出版局／／
メディア批判	ピエール・ブルデュー／藤原書店／／
社会学の社会学	ピエール・ブルデュー／藤原書店／／
構造と実践 : ブルデュー自身によるブルデュー	ピエール・ブルデュー／藤原書店／／
ディスタンクシオン : 社会的判断力批判	ピエール・ブルデュー／藤原書店／／
文明化の過程	ノルベルト・エリアス／法政大学出版局／／
スポーツと現代アメリカ	アレン・グートマン／TBSブリタニカ／／
スポーツ・権力・文化	ジョン・ハーグリーヴス／不昧堂出版／／
スポーツの近代史社会学	リチャード・グルノー／不昧堂出版／／
ボディ・ランゲージ	アンドリュー・ブレイク／日本エディタースクール出版部／／

講義ごとに改めて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

スポーツ法学 (S)

20339

担当者名 / Instructor　吉田 勝光

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在では、スポーツと法とが密接に関わりを持っている。スポーツ法学は、スポーツに関する法を研究する学問であるが、新しい領域であることから、その体系はまだ確立されていない。そこで、体系的観点から講義を進めようとすることはせず、できるだけ、現在問題が発生している分野（論点）を中心に、基礎的事項を織り交ぜながら、個々の問題を取り上げていくこととする。また、スポーツ法学上の諸問題は、スポーツの国際化が進む中、日本の問題にとどまらず、外国との関係で問題となり、類似の事例が外国で発生している等、外国のスポーツ法学の動きにも目を配る必要がある。時間の許す限り、テーマごとにその都度触れることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツに関して、法の具体的適用場面は多い。法自体は、極めて抽象的であるが、適用場面は具体的である。学生諸君は、本講義の履修により現在のスポーツ法学の諸問題を具体的事例を通して理解することができる。具体的事例は、スポーツ事故の判例、新聞記事、雑誌等に掲載されたものを取り上げる。こうした豊富な生きた具体的事例による学習で、学生諸君は、スポーツ法学の基礎知識を習得できるとともに、諸問題について、実状を踏まえた理解ができ、課題解決ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

具体的事例を十分に示すので、特に必要ない。しかし、強いてあげるとすれば、スポーツを取り巻く実状を少しでも知っておくために「現代とスポーツ」を、また法的素養を身につけておくことが学習効果を高めることから、法学系科目（「法学」等）を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	スポーツ法学の現状	スポーツ法学上の諸問題、学生諸君に身近なスポーツ法学の事例、スポーツ審判の法的問題、関連学会
第2回目	スポーツ権と法	憲法上の人権保障、スポーツ権、スポーツ基本法、スポーツ基本条例、スポーツ立法政策
第3回目	スポーツ振興と法	スポーツ振興法、スポーツ振興基本計画、スポーツ立法政策
第4回目	スポーツ団体と法	性格、法人、団体と処分、選手選考
第5回目	法の下の平等とスポーツの法	性差別、国籍による差別、障害者のスポーツ、スポーツ立法政策
第6回目	スポーツ事故と法（1）	私人間のスポーツ事故の法律関係
第7回目	スポーツ事故と法（2）	学校でのスポーツ事故の法律関係(安全配慮義務違反の法理含む)
第8回目	スポーツ事故と法（3）	スポーツ施設・設備の瑕疵による事故の法律関係
第9回目	スポーツビジネスと法	選手契約と代理人、肖像権、命名権ビジネス
第10回目	スポーツメディアと法	スポーツ放送、放送法、スポーツ団体と放送規定、スポーツ放送の著作権、スポーツ立法政策
第11回目	企業スポーツ・プロスポーツと法	企業スポーツ選手の法的地位、日本のプロスポーツ、アメリカのプロスポーツ
第12回目	スポーツの環境と法	スポーツ施設設備の環境とスポーツにより侵害される環境、スポーツ立法政策
第13回目	ドーピング問題	規制の歴史、規制の内容、検査・処分
第14回目	スポーツ問題の紛争解決	スポーツ仲裁裁判所（CAS）、日本スポーツ仲裁機構（JSAA）、その他の裁判外紛争解決制度
第15回目	検証テスト（60分）と解説（30分）	スポーツ法学の基礎知識の確認、スポーツ法学上の諸問題に関する具体的理解度の確認。解説の中で、スポーツ法学全般（最近の問題も含む）にわたり質疑。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

スポーツ関係（経済、社会等の周辺分野も含む）に関心を持ち、テレビ、新聞、インターネット等で情報収集を怠らないこと（収集した情報の提出は求めない）。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	スポーツ法学の基礎知識及び諸問題の理解の程度を測る。第1日目から第4日目まで毎日当日学習した中で、特に自分の関心のあるテーマ（複数可）について法的観点からの意見、感想等のレポートをA4サイズの用紙1枚に書き、翌日提出（手書き可）。各日、4段階（0：不提出、3：もう一歩、6：普通、9：良い）で加点する。

毎日提出のレポートの分量は、少なくとも75パーセント（4分の3）を基準とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1 テレビ、新聞等によりスポーツ情報の継続的入手を怠らないこと。
2 シラバスは教科書の一部と考え、教科書と共に必ず授業に持参すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
導入対話によるスポーツ法学（第2版）	小笠原正監修／不磨書房／978-4-7972-8541-3／基本的なテキストとして使用
スポーツ六法　2009	小笠原正他編集代表／信山社／未定／随時参照。4月には発行予定。

講義は、上記指定の教科書（2冊とも）を携帯していることを前提として進めていく。両教科書とも第1回目の講義から使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地方自治体のスポーツ立法政策論	吉田勝光／成文堂／978-4-7923-9160-7／スポーツ立法政策、スポーツ権、指定管理者制度等の説明で使用
スポーツ政策の現代的課題	諏訪伸夫他編集／日本評論社／978-4-535-58514-0／スポーツ事故訴訟

上記『地方自治体のスポーツ立法政策論』は、スポーツ法学の新たな論点であるスポーツ立法政策関連（スポーツ権、スポーツ基本条例、スポーツの振興、指定管理者制度等）の講義で随時参考とする。上記『スポーツ政策の現代的課題』は、「第5章第2節　体育・スポーツ事故訴訟各論」を吉田が分担執筆しており、スポーツ事故の法律関係を整理し、関連判例の事件内容を示しつつ段階的に解説しているので、「スポーツ事故と法」関連の講義（第6、7、8回）で参考とする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

①日本スポーツ法学会　　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsla/
②日本スポーツ仲裁機構　http://www.jsaa.jp/
③文部科学省　　http://www.mext.go.jp/

その他 / Others

将来の進路としてスポーツ企業、メディア等関係を希望している学生諸君には、現場で必要とされている法的知識を相当程度提供できると考えている。受講を期待する。

スポーツボランティア論 (S)

15722

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツボランティアというアクターは,日本では90年代に着目されるようになり、今日ではスポーツの場で必要不可欠な位置を占めていると言っても過言ではない。にもかかわらずこのスポーツボランティアがどのようなものであり、そこにどのような課題が存在しているか。またその望ましいあり方など、十分に理解されているわけではない。そこで本講座ではゲスト講師も交えスポーツボランティアの現状と課題について浮き彫りにし、それが「グローバルな市民社会」という視角からはどのような可能性を持っているのかを論ずることにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会の中でのスポーツポランティアの位置や役割について理解する。
変化するスポーツの場のなかでスポーツボランティアが果たしている役割を理解し、今後のスポーツの課題について考えられるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要とすすめかた	スポーツボランティアとはなにか
2	ボランティアという存在	市民社会、ボランティア、新自由主義
3	スポーツの場の展開とスポーツボランティアの登場(1)	スポーツボランティア、状況の反転
4	スポーツの場の展開とスポーツボランティアの登場(2)	Jリーグ、サポーター、2002W杯
5	スポーツボランティアの多様性	障害者スポーツ、イベントボランティア、地域総合型スポーツクラブ、プロスポーツ
6	サポーターというアクターとその活動(1)	ゲスト講師予定
7	サポーターというアクターとその活動(2)	ゲスト講師予定
8	地域総合型スポーツクラブとスポーツボランティア	地域、公共事業体
9	障害者スポーツとボランティア	地域、クラブ、イベント
10	プロスポーツとスポーツボランティア	地域、企業スポーツ、プロスポーツ団体
11	ボランティアの経営(1)	情報システム
12	ボランティアの経営(2)	財政システム
13	ボランティアの経営(3)	組織プロセス
14	新しい社会運動としてのボランティア	スタイル、意思表示、市民社会
15	まとめ	ボランティアとは何か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツボランティア論はいまだ十分に総括されているわけではない。一方でそれは進行中の出来事であるであるが、他方で現場の課題に十分なメスが入っていないことや、これまでなかったカテゴリーだっただけにその位置づけも曖昧である。そのため本講義はゲスト講師を中心に現場からの声をまとめ上げる形で授業構成を行うが、講師の都合により内容等一部変更がある旨了解されたい。その場合は事前に指示することとしたい。

教科書 / Textbooks

特に用いない

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・ボランティアへの招待	山口泰雄編／世界思想社／4-7907-1052-1／網羅的に現状を説明している数少ない本。事前に読まれることをお勧めする。
現代に生きる遊牧民	アルベルト・メルッチ／岩波書店／4-00-000644-4／
スポーツ・レジャー社会学	D.ジェリー、J・ホーン、清野正義他編／道和書院／4-8105-4008-1／

その他授業中適宜指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jsss.jp/（日本スポーツ社会学会HP）

その他 / Others

スポーツマネジメント論（S）

13487

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツは個人が楽しむもの、といった時代はとっくに過ぎ去ってしまったようであり、そのことを反映してか、わが国でも、スポーツマネジメントという言葉が次第に定着しつつある。それは、スポーツクラブや球団の「経営」であったり、具体的なスポーツ活動の場を提供する「サービス」であったり、監督・コーチなどの現場スタッフの手による「チームメイク」であったりする。本講義では、そうした広範囲なスポーツマネジメントの知識の中から、とくに基本的なものを整理し、提供する。

到達目標 / Attainment Objectives

●スポーツを動かす力としてのマネジメントの意味内容を幅広く理解できる。
●スポーツの経済的価値や実際の経済活動について知る。
●マーケティング・テクノロジーを各種スポーツ場面やスポーツ組織の運営に応用できる。
●スポーツのコーチングやスポーツのプロデュースに関する基礎知識を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	スポーツを動かす力	スポーツ、マネジメント、スポーツマネジメント
第2回目	スポーツマネジメントのための基礎知識	スポーツ文化、スポーツイノベーション、スポーツアドミニストレーション
第3回目	スポーツ組織の仕事	スポーツビジネス、スポーツマーケティング、スポーツオペレーション
第4回目	スポーツ市場のメカニズム	スポーツコンシューマー、購買プロセス、スポーツブランド
第5回目	スポーツビジネスの発展	スポーツイベント、クラブビジネス、プロフィットチェーン
第6回目	プロスポーツの組織化	サッカー市場、北米プロリーグ、Jリーグ
第7回目	スポーツ組織のビジネス環境	スポーツスポンサー、選手組合、スポーツエージェント
第8回目	スポーツ組織のコントロールシステム	法務的問題、長期ビジョン、スポーツ業績
第9回目	スポーツマーケティング・アプローチ	関係性マーケティング、競争対応、スポーツ倫理
第10回目	スポーツマーケティング・プロセス	ターゲッティング、スポーツ満足ポートフォリオ、スポーツプロモーション
第11回目	スポーツプロダクトの概念	プロダクト構造、プロダクトライフサイクル、プロダクトミックス
第12回目	スポーツサービスの品質管理	サービス、サービスクオリティ、サービス戦略
第13回目	スポーツのチームメイク	ゼネラルマネジャー、スポーツスカウティング、チーム戦略
第14回目	スポーツのコーチング	コーチング、リーダーシップスタイル、モチベーションマネジメント
第15回目	スポーツゲームのプロデュース	スポーツプロデュース、スポーツデバイス、スターマネジメント

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

スポーツの新しい動き（とくに球団経営やチームの運営、法律や規則の改正、スポーツイベントをめぐる問題など）について敏感であること。スポーツに関する新聞記事（単なるゲーム結果ではなくコラム記事のようなもの）は日頃より注意して、よく読んでおいてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業終了後に、その授業内容に関してコメントの提出を求める。授業内容の理解度を確認する小テストを実施する。 3分の2以上の出席を有効評価の基礎条件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

これから何らかのかたちでスポーツを支えていこうとしている人、すでに、あるスポーツチームやスポーツ組織に属しながら実際にスポーツを支えている人、さらには、改めてスポーツマネジメントとは何かを考えてみようと思っている人たちの受講を歓迎する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図解　スポーツマネジメント	山下秋二／大修館書店／4469265713／毎回の授業までに該当の章を予習し、授業日には必ず教科書を持参する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ経営学　改訂版	山下秋二／大修館書店／4469264342／授業内容のうち、とくにスポーツ組織の経営について更に深めたいときの参考書である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

北米スポーツマネジメント学会
http://unb.ca/web/SportManagement/index.html

その他 / Others

スポーツメディア論（S）

15564

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

書籍だけで学習することが難しい科目なので，授業に毎回出席して，分からないところがあれば質問をして欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣／同文舘／ISBN4-495-86281-2／メディアイベント論に関わって参考にされたい。
越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画／ISBN4-921164-41-X C3075／「第2章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

生理学 (SA)

13484

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ヒトの生命は，身体内の様々な機能により維持されている．生理学は，これら個々の機能，そしてそれらが統合された個体全体としての生命現象を解明していこうとする学問分野である．本講義では，まずヒトが最低限その生命を維持するために必要とする植物性機能について，いかにそれらの機能が生命維持という目的のために連動して機能しているのかを中心に，それらの機能が営まれる器官の解剖学的内容もあわせて概説していく．

講義の後半では，生命を維持するだけでなく運動などのより活動的な生活を営むために必要となる動物性機能の中心である骨格筋や神経系の構造および機能について概説し，あわせて運動にともなう身体の生理的な変化についても触れていく．

到達目標 / Attainment Objectives

ヒトの生命維持や運動に関わる構造と機能について，基本的な用語を踏まえて，個々の機能だけでなくその関連について理解する．また，運動に伴う身体の生理的な変化についても理解することもあわせて目指す．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にない.高校で生物などを履修していなくても理解できるように講義を進めていく．

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入　生体内環境の維持	ホメオスタシス，植物性機能，動物性機能
2	細胞の構造と細胞内部環境の維持	動物細胞，能動輸送
3	生命維持のためのエネルギー供給過程	消化器官，代謝，ATP，有酸素性エネルギー供給過程
4	呼吸	肺，外呼吸，内呼吸，ガス分圧
5	循環1	血液，心臓
6	循環2	肺循環，体循環，血圧
7	排泄，体温調節	腎臓，セットポイント
8	植物性機能の調整	内分泌，自律神経
9	骨格筋の収縮様式	骨格筋，速筋線維，遅筋線維，concentric，isometric，eccentric contraction
10	筋収縮のためのエネルギー供給過程	ATP-CP系，解糖系，乳酸
11	運動時の呼吸	最大酸素摂取量
12	運動時の循環	最大心拍数，筋ポンプ作用，血流再分配
13	末梢神経系	神経線維，活動電位，全か無の法則，伝導
14	情報の伝達	シナプス，脊髄，筋紡錘，腱紡錘，伝達，反射
15	運動の発現，まとめ	脳，機能局在

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義開始時に講義内容に関連する知識や意見を問うことがある．また，定期的に授業内容を整理するための簡単な課題を課すことがあるので，常に授業内容について自ら考えておいてもらいたい．

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な用語を理解した上で，自らの言葉で論理的な記述ができる．
平常点評価	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する．

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は，高校で生物を学んでいない学生でも理解しやすいように，基礎的な内容にしぼって概説的にわかりやすく行えるように努めていくが，分からない用語などがあれば，講義中であっても積極的に質問を行うような姿勢で臨んでもらいたい．

教科書 / Textbooks

特に指定しない
講義内容に応じて，随時資料を配付する．

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生理学	真島英信／文光堂／978-4830602016／講義内容についてより理解を深める時に役立つ

解剖学アトラス	越智 淳三 訳／文光堂／978-4830600159／講義内容についてより理解を深める時に役立つ

その他，必要に応じて講義内で適宜紹介する．

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特にない．

その他 / Others

生理学 (SB)

13471

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ヒトの生命は，身体内の様々な機能により維持されている．生理学は，これら個々の機能，そしてそれらが統合された個体全体としての生命現象を解明していこうとする学問分野である．本講義では，まずヒトが最低限その生命を維持するために必要とする植物性機能について，いかにそれらの機能が生命維持という目的のために連動して機能しているのかを中心に，それらの機能が営まれる器官の解剖学的内容もあわせて概説していく．

講義の後半では，生命を維持するだけでなく運動などのより活動的な生活を営むために必要となる動物性機能の中心である骨格筋や神経系の構造および機能について概説し，あわせて運動にともなう身体の生理的な変化についても触れていく．

到達目標 / Attainment Objectives

ヒトの生命維持や運動に関わる構造と機能について，基本的な用語を踏まえて，個々の機能だけでなくその関連について理解する．また，運動に伴う身体の生理的な変化についても理解することもあわせて目指す．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にない.高校で生物などを履修していなくても理解できるように講義を進めていく．

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入　生体内環境の維持	ホメオスタシス，植物性機能，動物性機能
2	細胞の構造と細胞内部環境の維持	動物細胞，能動輸送
3	生命維持のためのエネルギー供給過程	消化器官，代謝，ATP，有酸素性エネルギー供給過程
4	呼吸	肺，外呼吸，内呼吸，ガス分圧
5	循環1	血液，心臓
6	循環2	肺循環，体循環，血圧
7	排泄，体温調節	腎臓，セットポイント
8	植物性機能の調整	内分泌，自律神経
9	骨格筋の収縮様式	骨格筋，速筋線維，遅筋線維，concentric，isometric，eccentric contraction
10	運動時のエネルギー供給過程	ATP-CP系，解糖系，乳酸
11	運動時の呼吸	最大酸素摂取量
12	運動時の循環	最大心拍数，筋ポンプ作用，血流再分配
13	末梢神経系	神経線維，活動電位，全か無の法則，伝導
14	情報の伝達	シナプス，脊髄，筋紡錘，腱紡錘，伝達，反射
15	運動の発現，まとめ	脳，機能局在

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義開始時に講義内容に関連する知識や意見を問うことがある．また，定期的に授業内容を整理するための簡単な課題を課すことがあるので，常に授業内容について自ら考えておいてもらいたい．

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な用語を理解した上で，自らの言葉で論理的な記述ができる．
平常点評価	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する．

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は，高校で生物を学んでいない学生でも理解しやすいように，基礎的な内容にしぼって概説的にわかりやすく行えるように努めていくが，分からない用語などがあれば，講義中であっても積極的に質問を行うような姿勢で臨んでもらいたい．

教科書 / Textbooks

特に指定しない
講義内容に応じて，随時資料を配付する．

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生理学	真島英信／文光堂／978-4830602016／講義内容についてより理解を深める時に役立つ

解剖学アトラス	越智 淳三 訳／文光堂／978-4830600159／講義内容についてより理解を深める時に役立つ

その他，必要に応じて講義内で適宜紹介する．

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特にない．

その他 / Others

地域スポーツ論 (S)

15720

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、スポーツを、まちづくりや地域、あるいは人、住民参加などの視点から考察し、地域に根ざしたスポーツの実態を掘り起こすとともに、スポーツによる地域活性化の足がかりを得ることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

●地域スポーツの新しい文脈について知る。
●豊かなスポーツを生み出す地域スポーツの諸条件をまとめられる。
●対象者の応じたスポーツの展開と課題を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

スポーツマネジメント論（事前に必要な知識を得られる授業を参考程度に紹介しています）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	スポーツとまちづくり	まちづくり、豊かな生活実感、地域意識
第2回目	地域のもつ力を活かすスポーツ	社会環境の変化、スポーツ導入タイプ、地域再生
第3回目	地域スポーツの創造プロセス	Jリーグ百年構想、Jクラブの自立、地域アイデンティティ
第4回目	スポーツ活動の拠点づくり	施設づくり、アクセスビリティ、利用効率
第5回目	スポーツ活動を育てるプログラム	スポーツ行事、スポーツ教室、スポーツの日常化
第6回目	スポーツクラブの育成	集団活動の萌芽、存続発展の条件、ゆるやかな紐帯
第7回目	スポーツイベントの活用	地域振興、経済波及効果、社会的効果
第8回目	スポーツ組織の必要性	組織の機能、行政組織、住民主体のスポーツ経営
第9回目	地域スポーツの演出者①：指導者	指導者の役割、指導者の条件・資質、指導者養成事業
第10回目	地域スポーツの演出者②：ボランティア	スポーツボランティア、住民参加、チェンジエージェント
第11回目	地域スポーツの演出者③：住民	スポーツの自家生産、個人間ネットワーク、水平的影響
第12回目	少年スポーツ	子どもの遊び、精神的疲弊、過程重視の指導
第13回目	女性スポーツ	社会的進出の拡大、スポーツの多様化現象、伝統的家庭観の克服
第14回目	高齢者スポーツ	高齢化社会、ゲートボールの普及、生活に根ざしたスポーツ
第15回目	障害者スポーツ	障害者自立、バリアフリー、クリエイティブスポーツ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて1つのテーマを選び、それについての考えを問う。レポートの客観性や論理性について評価する。
平常点評価	50 %	3分の2以上の出席を有効評価の基礎条件とする。また、第5回頃と第10回頃の授業で、それまでの授業内容に対する理解度を確かめるためのレポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツで地域をつくる	堀　繁／東京大学出版会／9784130530156／
地域スポーツの創造と展開	厨　義弘／大修館書店／4469261890／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

比較スポーツ論 (S)

15528

担当者名 / Instructor　金井 淳二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『スポーツに込められた社会の思い = いかにしてスポーツは生み出され展開されてきたか』

様々な国で様々に展開されるスポーツは、それぞれかってに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的背景とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業の中で、まず自分なりの問題意識を発見することが必要です。そして、比較を通じてどう違うかだけでなくなぜ違うのかが考えられるようになることが必要です。最終的には「スポーツとはこういうものだ」といった自分なりのスポーツ観を明確にもてるようになることをめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

産業社会学部に開講されているスポーツ関連専門科目をできるだけ多く受講し、それらと関連づけて学習してほしい。少なくとも教養科目のスポーツ方法論やスポーツと現代社会、およびスポーツの歴史と発展を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	比較スポーツの視角	脱工業化社会／文化の比較法／比較の枠組み
第2回	近代オリンピックスポーツ比較の課題	巨大化／商業化／アマチュアリズム／プロ化
第3回	スポーツの母国イギリス(その1)	市民革命とブルジョアジー／資本主義と民衆スポーツ
第4回	スポーツの母国イギリス(その2)	近代スポーツの階級性／スポーツの私事性と公共性
第5回	スポーツの母国イギリス(その3)	大衆化と高度化の矛盾／近代オリンピック
第6回	スポーツの母国イギリス(まとめ)	
第7回	スポーツの王国アメリカ(その1)	植民地時代／プロテスタンティズム
第8回	スポーツの王国アメリカ(その2)	南北戦争／過剰労働力／能力主義
第9回	スポーツの王国アメリカ(その3)	アメリカ的スポーツ／ローカリズムとナショナリズム／アメリカ主義
第10回	スポーツの王国アメリカ(まとめ)	
第11回	日本的スポーツ(その1)	英米スポーツの日本的受容／学校教育とスポーツ／
第12回	日本的スポーツ(その2)	農耕祭祀／封建権力／武術と武道
第13回	日本的スポーツ(その3)	スポーツにおける日本的なもの／日本的スポーツの国際化
第14回	日本的スポーツ(まとめ)	
第15回	グローバリゼーションの中のスポーツ	歴史的スポーツ／法則性と蓋然性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

スポーツ学は学際的であるので、授業の中で関係があるなと思ったらスポーツ関係の書籍だけでなく、歴史・経済・文化その他の書籍を幅広く読み、理解を深めてほしい。また、新聞のスポーツ欄ばかりでなく政治や経済・文化欄にも常日頃から目を向けておいてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度および独自な考察視点の有無を重視する。

定期試験を必要十分条件とするが、クラス規模によっては毎回授業内容についてのコメントを提出してもらうことがある。その場合は記述内容を必要十分条件プラスアルファとして評価に反映させる。このことは授業の初期に説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教室でレジメ・資料を配布する。とくにテキストとするものは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている“スポーツ文化シリーズ”のいくつかを読んで欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

武道論 (S)

13481

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、武道に付与される諸々の価値や理念そのものを紹介する科目ではない。むしろ、そうした価値や理念が歴史のいかなる文脈において付与されてきたのか、その過程と背景を探ることを目的とする。他方で、もはや日本のみに収斂しきれない、広義における武道文化を読み解くために、海外への武道の普及史を紐解き、武道の"BUDO"化という現代的課題にも目を向けたい。

到達目標 / Attainment Objectives

①武道の誕生から現代に至るまでの武道理念の歴史的な変遷過程を理解する。
②①を踏まえたうえで、現代における武道を巡る諸状況について、複眼的な立場から考察する力を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	講義目的、進め方、授業評価について
第2回	(日本編)近代文化としての武道①	柔術から柔道へ、講道館柔道の設立と発展、嘉納治五郎の理念
第3回	(日本編)近代文化としての武道②	女性と武道、教育と武道
第4回	(日本編)武道の総本山としての大日本武徳会①	武徳会の設立経緯と発展過程
第5回	(日本編)武道の総本山としての大日本武徳会②	諸武道の統括団体としての武徳会とその理念
第6回	(日本編)スポーツと武道①	外来スポーツと武道、イデオロギー装置としての武道
第7回	(日本編)スポーツと武道②	スポーツの武道化、総力戦体制と武道
第8回	(日本編)戦後の武道	大日本武徳会の解散、武道の復興と再編
第9回	(海外編)武道の海外普及① 日清戦争後から第1次世界大戦まで	武道の海外伝播、普及と受容、エリートと非エリート
第10回	(海外編)武道の海外普及② 第1次世界大戦後から第2次世界大戦まで	ロンドン武道会、世界柔道連盟
第11回	(海外編)武道の海外普及③ 戦後の発展過程	国際柔道連盟の設立、道上伯とヘーシンク
第12回	オリンピックと武道	嘉納治五郎とIOC、オリンピック競技としての武道
第13回	現代社会と武道①	学校－企業－町道場の関係性、競技化と勝利至上主義
第14回	現代社会と柔道②	プロ格闘技と武道、武道とBUDO
第15回	まとめ	歴史のなかの武道と現代的課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容の理解度を判定する。
平常点評価	30 %	講義期間中に2回(第8回頃・第14回頃)、論述形式のレポート課題を課す。それぞれの試験では、授業の前半・後半の理解度を評価する。 また授業ごとに提出する「ミニ・レポート」によって、講義内容の理解度を評価し、出席回数を判定する。 なお、自学自習を随時受け付ける。評価は提出回数と内容による加点式とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義では、武術から武道へと近代化を図るうえで先導的な役割を果たした講道館柔道を中心に授業を進める。もちろん他の武道も適宜扱う予定ではあるが、受講者はぜひ自学自習を行って欲しい。また、随時質問を受け付け、その内容はできる限り講義に反映させたい。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
武道の誕生	井上俊／吉川弘文館／4642055797／
米国対日占領政策と武道教育―大日本武徳会の興亡	山本礼子／日本図書センター ／4820569988／

今、なぜ武道か　―文化と伝統を問う	中村民雄／日本武道館／4583100388 ／
海を渡った柔術と柔道　―武道の世界史	坂上康博ら編／青弓社／／2009年2月発刊予定

上記以外の文献に関しては、講義の際に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ヘルスマネジメント論 (S)

15719

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テレビや雑誌などでは，日々様々な健康にまつわる問題が取り上げられており，健康について意識する人は多い．しかし，病院に入院している患者など他者に健康を管理してもらえる人はわずかで，多くの人が日常生活の中で自らの健康を管理していかなければならない．しかも，その過程は一生涯に及び，自身の健康を管理するためには，健康に対して自分なりの考えを持ち，その健康を維持するための正しい知識の理解と，それを活用する実行力が必要となる．

本講義では，生涯にわたってより人間らしく社会で自立した生活を営むために，特に自分自身で身体的な健康の管理ができる力を身につけるきっかけとして，生活習慣病に関する現状について学び，その解決方法の1つである運動処方について，自身の生活習慣の分析や運動能力の記録も交えながら学んでいく．

到達目標 / Attainment Objectives

生涯にわたる自身の「健康」について自分なり考えることができ，その健康を自分で維持，管理するために運動を活用するための基本的な知識について理解し，それらを日常生活の中で応用していく意識をもつ．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「ウエルネス論」において，健康を考える上で基礎的な概念について学ぶことができるため，事前に履修しておくことにより本講義に対する理解がより深まる．ただし，これらの科目や高校時に生物などの科目を履修していなくとも十分理解できるよう説明していく予定である．

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	健康
2	健康，体力とは	健康の定義，QOL，体力
3	日本がかかえる問題と解決への取り組み	生活習慣病，子どもの体力，健康日本21
4	なぜ運動か	ベッドレスト，運動習慣と病気
5	自分の身体を知る	体脂肪，BMI，基礎代謝量
6	自分の生活を知る	METS，摂取カロリー，消費カロリー
7	自分の生活を考える	生活習慣調査
8	健康のための体力	全身持久力，最大酸素摂取量
9	運動強度を考える	心拍数，RPE
10	最大酸素摂取量の測定	オストランド法，3段階法
11	最大酸素摂取量の推定	測定結果に基づく推定
12	必要となる運動を考える	トレーニングの原則
13	筋力トレーニング	速筋線維，遅筋線維，筋肥大
14	保健行動に対する行動科学的アプローチ	行動変容
15	まとめ	総括，質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義開始時に講義内容に関連する知識や意見を問うことがある．また授業で学んだことを自分たちの日常生活の中で実践して試してもらうために，定期的に授業内容を整理するための簡単な課題を課すことがあるので，常に授業内容について自ら考えておいてもらいたい．

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	キーワードを理解した上で，自らの言葉で論理的な記述ができる．
平常点評価	40 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する(15%)． 期間中に一度，自身の生活習慣について調査し報告してもらう(25%)．

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通して，健康な生活とはどういうことなのか，健康に生き続けていくためにはどのように行動しなければならないのか，自ら考える力を身につけてもらう，またそのきっかけになるような話題を提供していきたいと考えているので，積極的な姿勢で講義にのぞみ，自らの生活に活かしてもらいたい．

教科書 / Textbooks

特に指定しない．
講義内容に応じて，随時資料を配付する．

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

運動処方の実際　池上晴夫／大修館書店／4-469-16321／

その他，必要に応じて講義内で適宜紹介する．

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

余暇の社会史 (S)

15728

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「余暇」という言葉を一義的に理解することは難しい。たとえば「余暇」を非労働時間とした場合、労働（真面目）との対比において、あるいは労働力の回復、再生産の時間や場としてこの言葉が位置づけられ、「余暇」はやや消極的な意味を付与されるという事態がしばしば生じる。しかし、「余暇」は労働と同様に、否、状況によってはそれ以上に、生命や生活に対する固有でかけがいのない意味をわれわれに提供することもある。「余暇」にはまた、現代のわれわれの理解からすると思いもよらぬ不思議な価値が含まれていることもある。日本とヨーロッパの生活史をひもとくなら、「余暇」が日々の生活、宗教、娯楽など、民衆にとって多様で重要な意味をもっていたことに気づく。実は、この民衆の「余暇」活動をいかにして管理していくのかは、とりわけ近代以降、国家をはじめとする諸権力にとって非常に重要な課題であったのである。

本講義では、このような広範囲にわたる「余暇」の意味や活動のなかから、幾つかのサブテーマを選び取り、「余暇」の実相と権力との関連に迫りたい。

到達目標 / Attainment Objectives

①余暇のありようを歴史学、社会科学の視点から考察することができる
②文化あるいはスポーツと諸権力の関係を理解することができる
③余暇に内在している諸々の価値を理解することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とスポーツ、基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	歴史の中の余暇	余暇、歴史学、社会史、社会学、社会科学、成績評価
2	余暇と民衆①ー前近代社会にける暮らしの中の余暇	娯楽、シャリバリ、モラルエコノミー
3	余暇と民衆②ー合理的娯楽とは何か	娯楽の社会的機能、郊外の余暇と室内の余暇、民衆娯楽に対する多様な評価
4	余暇と民衆③ー合理的娯楽と民衆との緊張関係	福音主意、パブと労働組合、カウンターアトラクション
5	映画「ブラス」	労働者文化、「やつら」と「われわれ」
6	余暇の大衆化と市民化①ー市民社会とアソシエーション	市民社会、コルポラツィオン、アソシエーション
7	余暇の大衆化と市民化②ー協会組織の展開	結社と法制度、読書協会、合唱協会
8	余暇の大衆化と市民化③ー社会参加と相互扶助	体操協会、自主消防団、社会国家
9	余暇の大衆化と国民化①ー万国博覧会と帝国のまなざし	帝国主義、万国博覧会、近代オリンピック
10	余暇の大衆化と国民化②ー運動会の社会史①	明治維新、森有礼、運動会
11	余暇の大衆化と国民化③ー運動会の社会史②	通俗道徳、民衆文化、ナショナリズム
12	ファシズム下の余暇①ーやわらかいファシズム	ナチズム、歓喜力行団、ヘゲモニー、ベルリンオリンピック
13	ファシズム下の余暇②ー体力の時代と総力戦	幻のオリンピック、厚生省、体力章検定
14	新しい時代の余暇①	新しい社会運動、公共性
15	新しい時代の余暇②	スポーツ・フォア・オール

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	
平常点評価	50 %	本講義では授業ごとに受講生の自学自習の成果を受理し、それらも評価の対象とする。また、各テーマの最後の時間に簡単なレポートを書いてもらうが、それも評価に加えることとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①講義で配布する資料、紹介する参考文献には必ず目を通すこと
②自学自習をしっかり行うこと

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シャリバリ	蔵持不三也／同文館／4-495-85651-0／

英国社会の民衆娯楽	ロバート・マーカムソン／平凡社／4-582-47325-3／
賭博・暴力・社交	池上俊一／講談社／4-06-258004-7／
近代ヨーロッパの探究8　スポーツ	有賀郁敏他／ミネルヴァ書房／4-623-03509-3／
ハマータウンの野郎ども	ポール・ウィルス／ちくま学芸文庫／4-480-08296-4／
ナチズムの時代	山本秀行／山川出版／4-6343-4490-4／
スポーツと政治	坂上康博／山川出版／4-634-54580-2／
自由からの逃走	E. フロム／東京創元社／4-488-00651-5／
運動会と日本近代	吉見俊哉他／青弓社／4-7872-3167-7／

参考文献は講義ごとにより詳しく紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、当然のことだが、定刻に始まり定刻に終了する。
講義では、参考文献の中から必要な箇所を印刷して受講生に配布する場合があるのでファイルを用意して欲しい。

いのちの教育 (S)

20412

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ここ数年，「尊厳死」をめぐる議論がメディアを賑わせ，教育分野では「死を学ぶ教育」が注目されている。 人は死を免れないのだから，「よく生きること」「尊厳ある生」の末期（まつご）の「よき死」「尊厳ある死」を希うのは当然としても，生と死の「間」には，「死をみつめて生の大切さを知る」という「死を学ぶ教育」でしばしば語られる言葉では尽くせぬ距離があり，そこには老いや病や障害や，「普通」の人々との「異なり」があって，それが時に死を希うほどの生き難さ，生きづらささえも感じさせる。その生き難さは，老いからも病からも障害からも遠い，ごく「普通」の人々の，子どもたちの生き難さともつらなる。それゆえ，「いのちの教育」は，子どもの自殺や殺人という「現実」への処方箋を期待されもする。しかし，問題の「解決」が緩急とされるからこそ，その「解決」が，どのような「解決」を意味する／してしまうか，一片のガイドラインや数時間の授業プログラムに委ねられる「解決」に陥穽はないか，今一度考えてみてもよいだろう。

本講座では、教室の場における生・老・病・死の語りの構造の解析とともに、「いのちの教育」が注目される社会的文脈を検討し、その組み替えを企てる。

到達目標 / Attainment Objectives

・生命倫理学／生命倫理教育・死生学／死を学ぶ教育がもつ生・老・病・死の語りの構造を解析する視点を持つ。
・「いのちの教育」が注目される社会的文脈を認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

同担当者による教養科目「生命科学と倫理」、専門科目「生命倫理学」を履修していること／履修することを強く希望する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	ガイダンス／授業の概要と説明	
2.	「いのちの教育」とは何か	
3.	生命倫理問題（1）	
4.	生命倫理問題（2）	
5.	生命倫理問題（3）	
6.	死を学ぶ？（1）	
7.	死を学ぶ？（2）	
8.	死を学ぶ？（3）	
9.	「討論」の後、「涙」の先	
10	生・老・病・死の語られ方	
11.	生存権／生存圏？	
12.	世代間倫理の倫理	
13.	承認をめぐる闘争	
14.	「私」という物語	
15.	まとめ　生きることの方へ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	40 %	出席の他、授業終了後に，コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。

一定以上の出席が無い場合，評価対象としない
授業中の私語、途中入退出は厳禁します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

家族関係論（S）

13299

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

家庭が安心の場であり、家族の愛情に支えられていると感じる人もいるが、家族により苦痛を味わい、葛藤を抱えている人もいる。家庭内に居場所が無かったり、孤独に苦しむ人も増えている。こうした家族危機の諸相について、育児不安、児童虐待、家庭内暴力、家庭内殺人等の問題を取りあげながら分析を加えてみたい。また、家族福祉の課題や家族援助及び子育て支援についても考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・家族の定義、概念、家族の動向に関する基本的な理解を得る。
・家族問題について幅広く理解できる。
・親子関係、夫婦関係について理解を深める。
・家族援助・子育て支援についての知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	家族とは何か
2	現代家族の諸相（1）	少子化、核家族化 、子どもの価値の変化
3	現代家族の諸相（2）	結婚観の変化、晩婚化、性別役割分業、専業主婦
4	母親一人の子育てと育児不安	子育て家族の孤立化
5	3歳児神話の影響	母性愛剥奪理論 、愛着障害
6	父親の役割、父性と母性のちがい？	育児参加、育児休業
7	児童虐待	貧困問題、親の養育体験、子育ての技術
8	子どもを虐待する家族への援助	家族応援ミーティング、親業訓練
9	思春期、青年期危機と親子関係（1）	「良い子」の苦しみ
10	思春期、青年期危機と親子関係（2）	親からの自立の葛藤
11	機能不全家族の中の子ども	機能不全家族とは何か、アダルトチルドレンと癒し
12	ドメスティック・バイオレンス	家庭内暴力、シェルター
13	カナダにおける家庭福祉と家族支援	アドボカシー、子どもの権利擁護
14	世界に学ぶ子育て支援の方向	保育保障、経済的支援、父親の育児参加
15	総括講義	これからの家族のあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子育て支援の現在	垣内国光，桜谷真理子／ミネルヴァ書房／4-623-03643-XC3336／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大日向雅美	大日向雅美／日本評論社／4-535－56156－7／
個人化する家族	目黒依子／勁草書房／4-326－65074－5／
「家族」と「幸福」の戦後史	三浦展／講談社現代新書／06－149482－1　C0236／
落合恵美子	21世紀家族へ／有斐閣選書／4-641－28091－6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

家族社会学 (S)

13330

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、自分の家族関係を含む現代の家族変動の趨勢を客観化し、批判的に読み解くことを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	家族研究の課題	家族の定義
第2回	家族社会学史①	ライフサイクル　ライフコース　ライフスタイル
第3回	家族社会学史②	パーソンズ　近代家族　社会システム
第4回	「近代家族」以前の家族	伝統家族　直系家族　親族
第5回	「近代家族」の成立	アリエス、子ども、主婦、母性愛
第6回	日本における「近代家族」の成立	戸籍制度、専業主婦、企業戦士、性別役割分業、夫婦別姓
第7回	「近代家族」と結婚①	宮廷恋愛、恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー
第8回	「近代家族」と結婚②	未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望
第9回	「近代家族」の病理	デートDV、恋愛依存症、共依存
第10回	「近代家族」の病理②	閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待
第11回	「近代家族」のゆらぎ①　結婚をめぐる変化	離婚　再婚　同性婚、ドメスティック・パートナー法
第12回	「近代家族」のゆらぎ②　子育ての「社会化」	育児休業制度　パパ・クォータ制
第13回	「近代家族」のゆらぎ③　介護の「社会化」	介護保険制度、遠距離介護、男性介護者
第14回	「近代家族」のゆらぎ④　生殖技術	生殖技術、不妊
第15回	私たちがつくるこれからの家族	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事件、映画、小説といった家族に関するトピックスを意識的にチェックすること。講義の理解を深めるために、講義で関連する参考文献を適宜提示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
平常点評価	50 %	講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメについては、WebCTにおいて公開する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
迷走する家族	山田昌弘／有斐閣／4641173125 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学校カウンセリング論（S）

11616

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
この科目は、子ども社会専攻の「子どもと発達分野」科目群に位置づき、小学校一種免許状取得に際しては必修科目です。
学校という場所は、人の人生に関する指導を行う機会が非常に多いにもかかわらず、その指導方法に関して体系だった構造をなかなか持ち得ないという特性がある。
本講義では、学校という場と、カウンセリングという支援方法とを如何に融合できるのかを考えると同時に、その方法・技法に関しても学ぶきかいとする。
特にカウンセラーではなく、教師としてこの課題にどう取り組むかを中心に考えることとする。

到達目標 / Attainment Objectives

学校におけるカウンセリングの有用性と課題を知り、活用の端緒を経験する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	学校とカウンセリング	
2	学校カウンセリングの特性	
3	カウンセリング活用の場面	
4	カウンセリングにおけるアセスメントの意義	
5	カウンセリングの前提　1　発達	
6	カウンセリングの前提　2　虐待	
7	カウンセリングの方法1　信頼関係	
8	カウンセリングの方法2　場面構造	
9	カウンセリングの方法3　聴くこと	
10	カウンセリングの方法4　聴くに徹する	
11	カウンセリングの方法5　記録	
12	カウンセリングの方法6　指示と支持	
13	学校カウンセリングの役割	
14	スクールカウンセラーとの共同	スクールソーシャルワーカーとの共同
15	学校カウンセリングの課題と展望	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	各自の到達度を表現することを求める
平常点評価	40 %	系統的に学習することが必要となるので、頻繁に小課題を出すので、授業中のアナウンスに留意すること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
相談活動に生かせる15の心理技法	「月刊学校教育相談」編集部／ほんの森出版／4-938874-43-1／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学校カリキュラム論 (S)

10371

担当者名 / Instructor　笹野 恵理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
教育課程やカリキュラムは、教育内容としての教材や、生徒の学習経験を、組織的に編成するために用意された教育計画である。本講義では、我が国の学習指導要領の歴史的展開や社会状況の変化についての理解を踏まえ、現行の学習指導要領の特色、規定内容等について初等教育を念頭におきながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・教育課程・カリキュラム編成の基本的な考え方について理解する。
・日本の教育課程・カリキュラムの特色について理解する。
・教育課程・カリキュラムの諸課題について、問題意識をもって考えることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション―学校カリキュラム論を学ぶ意味とは何か―	オリエンテーション
2	カリキュラムとは何か	カリキュラムと教育課程の概念
3	学校における「学びの内容」の編成(1)―教育課程はどうつくられるか―	教育内容　カリキュラム編成原理　タイラー原理　子ども中心主義　学問中心主義
4	学校における「学びの内容」の編成(2)―学習指導要領とは何か―	学習指導要領　法的拘束力
5	日本の学習指導要領の変遷(1)	占領期の教育改革　学習指導要領(試案)　経験主義
6	日本の学習指導要領の変遷(2)	独立後のカリキュラム　系統主義　スプートニクショック
7	日本の学習指導要領の変遷(3)	ゆとり教育の標榜　生活科　総合的な学習の時間
8	日本の学習指導要領の変遷(4)	ゆとり教育の見直し　学力低下論争
9	日本の教育課程・カリキュラムにおける現代的課題	総合的な学習　学力
10	「学び」をいかに編みかえるか(1)―教育課程の今日的実践研究―	いのちの授業
11	「学び」をいかに編みかえるか(2)―教育課程の今日的実践研究―	市民性教育
12	潜在的カリキュラムと学校文化(1)	潜在的カリキュラム　文化再生産論　文化資本　学校文化
13	潜在的カリキュラムと学校文化(2)	潜在的カリキュラム　文化再生産論　学校文化　教師文化　子ども文化　ジェンダー
14	教育課程・カリキュラム開発と評価	SBCD　カリキュラム評価
15	教育課程・カリキュラム開発研究の課題	総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義の中で必要に応じて適宜指示します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	①講義内容の基本的理解ができているかを評価します。②授業であつかったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいてひとつのテーマを選び、それについての受講者の考え方を問います。講義内容の理解にたって、テーマに対する自分の見解を論理的に述べることができているかを評価します。
平常点評価	40 %	出席、授業時のミニレポート、授業における課題への参加度等、総合的に評価します。

3分の2以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分なりの教育への問題意識をもって、毎時のテーマを自分なりに考えるようにしてください。

教科書 / Textbooks

毎時、レジュメを準備します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新版カリキュラム研究入門』	安彦忠彦編 ／剄草書房／4-326-29815-4／
『現代カリキュラム事典』	日本カリキュラム学会編 ／ぎょうせい／4-324-06211-0／
『新しい時代の教育課程』	田中耕治ほか／有斐閣アルマ／4-641-12246-6／

その他、授業時に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業時に適宜紹介します。

その他 / Others

学校制度と法規（S）

20410

担当者名 / Instructor　鳥居 朋子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

学校とは、どのような制度や法規の枠組みのもとで教育を営んでいる組織なのでしょうか。本授業は、学校に関するさまざまな制度や法規を理解し、それらを現代の教育をめぐる諸問題と関連付けて検討しながら、受講生自身の学校制度に対するイメージを明確にすることを目的とします。具体的には、学校制度と法規の諸側面に注目し、教育行政、教育課程、教員、児童・生徒、学校組織運営等の制度を解説し、受講生の問題意識を深めていきます。

多人数のクラスになる場合は、講義を聴いて自分の意見を個々に文章にまとめる学習活動が中心となりますが、受講人数に応じて学生同士が協力して行う主体的な学習活動も組み入れます。たとえば、小グループを組織して、グループごとにテーマにそった議論や演習を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 学校に関する制度や法規について、その原理や体系、主要な論点を説明できる。
2. 学校に関する制度や法規と現代の教育の諸問題との関連について、教育学の視点に基づき自らの意見を述べることができる。
3. 学校に関する制度や法規に関して興味関心を持ち主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等の説明、各回の授業概要の説明
2	教育法規(1)／国民の教育意思と公教育	日本国憲法、教育基本法、公教育の原理(平等・義務・無償・中立)、教育を受ける権利
3	教育法規(2)／教育の組織化	学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育行政の基本原理(民主性・専門性・地方分権)
4	教育行政	地方教育行政法、教育行政の組織構造、教育委員会制度、地方分権
5	教育課程(1)／教育内容と基準	カリキュラム、学校教育法施行規則、学習指導要領、全国学力・学習状況調査
6	教育課程(2)／教授・学習過程	教科用図書検定規則、検定制度、教科書、補助教材
7	学級編制	学級編制基準、少人数学級編制、小中一貫教育、小学校専科担任制
8	教育公務員	教員の任用と身分、資格・免許、養成、研修
9	学校の組織運営(1)／組織体制	学校組織、職務と権限、校務分掌、職員会議
10	学校の組織運営(2)／ひらかれた学校経営	学校評議員制度、学校運営協議会、学校評価、PDCAサイクル
11	児童・生徒	不登校対策、体罰、いじめ、児童虐待への対応
12	学校保健・学校給食	健康診断、養護教諭、感染症・食中毒対策、栄養管理
13	学校の安全管理	学校事故、安全確保、危機管理、個人情報保護
14	学校と地域社会	アカウンタビリティ、情報公開、学習支援活動、PTA
15	学校制度の今日的課題とまとめ	規制緩和、学校裁量権、自律的な学校運営、学校管理規則

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回の授業を自分の問題関心に照らしながら聴くとともに、積極的な質問や文献検討、新聞記事や各種メディアからの情報収集等に努めてください。とくに、関心あるテーマについて自主的に調べ、十分な授業外学習によって学習成果を高めてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	学校制度と法規に関する定期試験問題を出題し、それぞれの回答において、①学校に関する制度や法規について、その原理や体系、主要な論点を整理し、自分の言葉で論述している、②学校に関する制度や法規と現代の教育の諸問題との関連について、教育学の視点に基づき自らの意見を述べている、を基準とし評価を行います。
平常点評価	45 %	毎回の授業の最後に課すミニペーパー(3点×15回)の課題(400～500字程度)にそくし、学校に関する制度や法規に関して興味関心を持ち主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示していることを基準とし評価を行います。

3分の2以上の授業に出席し定期試験を受けた者のみを成績評価の対象とします。ただし、いわゆる「出席点」の加点は行いません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を聴いて内容を理解するだけではなく、グループでの議論や発表、ミニ演習に積極的にかかわり、主体的に授業に参加してください。また、各自が興味関心を持った個々のテーマについて、自分自身で掘り下げて考えてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携　学校小六法　2010年度版	白石裕他編／協同出版／978-4319641109／

毎回の授業で、個々のテーマに関係する法規の条文を確認することに使用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代教育の制度と行政	河野和清編／福村出版／978-4571101441 ／
要説　教育制度　3訂版	教育制度研究会／学術図書／978-476104004／

この他、授業中に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省　http://www.mext.go.jp/
審議会報告・白書・最新情報などが提供されています。

(財)日本青少年研究所　http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm
児童・生徒に関する各種調査結果や研究の成果などが提供されています。

国立教育政策研究所　http://www.nier.go.jp/
教育施策の判断・立案のもととなる研究を行っている機関です。研究活動の発表のほか、教育情報データ、刊行物、シンポジウムの案内などが掲載されています。

その他 / Others

・障がいをもった学生の学習支援：障がいをもった学生は、すみやかに担当教員に連絡してください。学習を支援できるようなクラス環境や授業方法について検討します。
・不正行為：大学での不正行為とは、カンニング行為によって自分の能力を不正確に伝えたり、他人の論文などを剽窃（ひょうせつ）したりすることで他人の権利を侵害することなどがあたります。万が一、不正行為があった場合は、大学の規則にそって対応します。
・受講のルール：他の受講者の学習環境を阻害するような行動をとる者に対しては、履修を取り消すように求めることがあります。授業への遅刻、途中退出、私語や携帯電話・メールの使用など、他者の迷惑になるような行動をとらず、マナーを守ってください。皆が気持ちよく学べる環境づくりをしましょう。

学校文化・学校空間論 (S)

13493

担当者名 / Instructor　四方 利明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

学校には、学校組織のなかで暗黙に共有された規範や行動様式、すなわち学校文化が存在する。本講義では、学校文化や、学校空間など学校文化を支えるさまざまな装置に焦点をあて、それらを主として社会学的なアプローチから考察することを通して、学校文化をとらえる視座を獲得し、広い視野と深い洞察力でもって学校という場をとらえることができるようになることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

世間に流布された学校の定型的な語りを相対化し、主観的かつ感情論的な学校論から脱して、学校に対して多様で確かな視点でもって考察することができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	学校
2	学校建築論(1)	オープンスペーススクール
3	学校建築論(2)	個性、開かれた学校、生涯学習
4	学校建築論(3)	ツリー／セミラチス
5	学校建築論(4)	学校施設の複合化
6	学校建築論(5)	学校と地域社会
7	映画にみる学校(1)	近代学校
8	映画にみる学校(2)	教える／学ぶ
9	学校文化論(1)	中心／周縁
10	学校文化論(2)	境界
11	学校文化論(3)	境界人
12	学校文化論(4)	他者
13	学校文化論(5)	日常／非日常
14	学校文化論(6)	アジール
15	講義をふりかえって	学校文化、学校空間

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	到達目標にのっとって、まとまったレポートが作成されているかどうか。
平常点評価	10 %	授業内で積極的かつ適切な報告、発言ができたかどうか。

この授業の後半では、テキストを用いた文献講読を行う予定にしており、その際の報告を行ったか否かによって、レポートの内容と枚数が大きく変わってくるので、注意されたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業では、前半は教員が講義し、後半はテキストを用いた文献講読を行う予定にしているので、主体的かつ積極的に参加していただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
未定。	／／／

受講生のみなさんと相談のうえ、決定する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
学校の境界	中島勝住／阿吽社／／
学校のモノ語り	教育解放研究会／東方出版／／
「はだしのゲン」がいた風景	吉村和真・福間良明／梓出版社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学校保健 (SA)

15726

担当者名 / Instructor　三浦 正行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公表される多くの「客観的」データを見る限り、世界中が羨むほどの健康状態にある日本。そして、それを「支えて」いるのが学校保健と言っても過言ではない。学校保健は、教育の場における「保健教育」・「保健管理」が総合されたものである。しかし、その学校保健が本当に「教育的な営み」の中で実施されるかどうかは、真の「健康づくり」のための日常的なさまざまな努力との関係が大きい。
この講義では、とくに学校保健の保健教育に携わる教師として身につけるべき「健康づくり」のうえでの「教養」を大切にしていく。そして、学校教育の場における「健康づくり」の諸問題が、地域・国レベルでの「健康づくり」のあり方と密接に関わっていることをしっかりと結び付けて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

いわゆる「健康の主人公」づくりが、学校保健の目的と考える。子どもたちが「健康の主人公」に育っていくための鍵となるのが「人とコトとモノとの関係性」と言える。ここでは、健康における「人とコトとモノとの関係性」について深い理解まで到達し、授業実践者として、健康をとりまく諸問題の「教材化」への基礎力を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ごくありふれた問題としての「健康とは何か」を考える。	「WHO憲章」、「健康権」
第2回	日本の「健康度(水準)」を考える	「平均寿命」「少子高齢社会」
第3回	「世界の中の日本の健康状態」を考える	「国際保健」「アルマ・アタ宣言」「オタワ憲章」
第4回	「子どものおかしさ」の問題を考える	「虫歯・近視・アレルギー」「生きる力」
第5回	健康づくりの基本「健康の三原則」を考える	「睡眠」「栄養」「運動」
第6回	「中間まとめ」のテスト・レポート	
第7回	「学校保健」の歴史・沿革を知る	「学校病」「身体検査」「保健室」
第8回	「学校保健」を担う人々①	「校医」「養護教諭」
第9回	「学校保健」を担う人々②	「一般教職員」「医療関係者」
第10回	「教育としての学校保健」とは何かを考える	「教育的な営み」「学校保健診断」「保健管理」「保健教育」
第11回	保健教育の重要性を考える	「学習指導要領」「保健学習」「教材編成」
第12回	「中間まとめ」のテスト・レポート	
第13回	学校保健実習―「日赤」による講習①	
第14回	学校保健実習―「日赤」による講習②授業実践への適用を考える	「授業試案」「指導案」
第15回	授業実践への適用を考える―「まとめ」にかえて	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	2回の中間テスト(20×2) 二回の中間小レポート(15×2)と最終レポートとしての「模擬指導案」(30)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞に掲載された健康問題記事等によく目を通しておくことが、講義内容の理解の一助となる。また、身近なところで起こっている健康に関わる諸問題にも敏感でいて欲しい。

教科書 / Textbooks

特に無し

参考書 / Reference Books

講義の中で、紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学校保健（SB）

15686

担当者名 / Instructor　三浦 正行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公表される多くの「客観的」データを見る限り、世界中が羨むほどの健康状態にある日本。そして、それを「支えて」いるのが学校保健と言っても過言ではない。学校保健は、教育の場における「保健教育」・「保健管理」が総合されたものである。しかし、その学校保健が本当に「教育的な営み」の中で実施されるかどうかは、真の「健康づくり」のための日常的なさまざまな努力との関係が大きい。
この講義では、とくに学校保健の保健教育に携わる教師として身につけるべき「健康づくり」のうえでの「教養」を大切にしていく。そして、学校教育の場における「健康づくり」の諸問題が、地域・国レベルでの「健康づくり」のあり方と密接に関わっていることをしっかりと結び付けて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

いわゆる「健康の主人公」づくりが、学校保健の目的と考える。子どもたちが「健康の主人公」に育っていくための鍵となるのが「人とコトとモノとの関係性」と言える。ここでは、健康における「人とコトとモノとの関係性」について深い理解まで到達し、授業実践者として、健康をとりまく諸問題の「教材化」への基礎力を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ごくありふれた問題としての「健康とは何か」を考える。	「WHO憲章」、「健康権」
第2回	日本の「健康度(水準)」を考える	「平均寿命」「少子高齢社会」
第3回	「世界の中の日本の健康状態」を考える	「国際保健」「アルマ・アタ宣言」「オタワ憲章」
第4回	「子どものおかしさ」の問題を考える	「虫歯・近視・アレルギー」「生きる力」
第5回	健康づくりの基本「健康の三原則」を考える	「睡眠」「栄養」「運動」
第6回	「中間まとめ」のテスト・レポート	
第7回	「学校保健」の歴史・沿革を知る	「学校病」「身体検査」「保健室」
第8回	「学校保健」を担う人々①	「校医」「養護教諭」
第9回	「学校保健」を担う人々②	「一般教職員」「医療関係者」
第10回	「教育としての学校保健」とは何かを考える	「教育的な営み」「学校保健診断」「保健管理」「保健教育」
第11回	保健教育の重要性を考える	「学習指導要領」「保健学習」「教材編成」
第12回	「中間まとめ」のテスト・レポート	
第13回	学校保健実習―「日赤」による講習①	
第14回	学校保健実習―「日赤」による講習②授業実践への適用を考える	「授業試案」「指導案」
第15回	授業実践への適用を考える―「まとめ」にかえて	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	2回の中間テスト(20×2) 二回の中間小レポート(15×2)と最終レポートとしての「模擬指導案」(30)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞に掲載された健康問題記事等によく目を通しておくことが、講義内容の理解の一助となる。また、身近なところで起こっている健康に関わる諸問題にも敏感でいて欲しい。

教科書 / Textbooks

特に無し

参考書 / Reference Books

講義の中で、紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学校マネジメント論（S）

20411

担当者名 / Instructor　椋本 洋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

98年中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」は、「統制」と「管理」を前提として学校の責任体制確立を意図した「1956年体制」から、「学校の自主性と自律性の確立」ことを目指す新たなステージを目指すものであった。その特徴は、地方分権と規制緩和として知られるところなり、多くの学校で「学校改善」が図られることとなった。そのことに対応して、今日学校マネージメントの在り方が問われている。答申発表後10年の経た学校現場に即した実践的マネージメント論を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 学校経営・教育経営とは何かを知る
2. 学校組織の現状と課題をつかむ
3. 優れたリーダーになるための要件を考察できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション 「学校経営とは何か」	学校経営と教育経営 学校マネージメントの歴史
2	中央教育審議会答申に見る「学校経営」の概念	中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」 地方分権と規制緩和
3	教育委員会制度の役割と意義	教育委員会制度の特性、首長と教育委員会との関係、 教育委員会と学校の自主性・自律性
4	教育課程の創造と学校経営	カリキュラムマネージメント、学校の特色を生かす総合 的学習のマネージメント、特色ある教育課程
5	教職員評価による学校経営	教職員の評価育成システム，PDCAサイクル
6	保護者、地域の参加連携に着目した学校経営	学校評議員制度、学校評価、授業評価
7	教育経営の実践事例 －小学校	
8	教育経営の実践事例 －中学校	
9	教育経営の実践事例 －高等学校	
10	教育経営の実践事例 －特別教育支援学校	
11	学校教育目標を研究する	演習：母校の学校教育目標を研究し、どのような学校経 営がなされているかを探る
12	学校におけるリーダーシップ論	校長のリーダーシップ、「斉藤喜博」、「大瀬敏昭」、「荒 瀬克弘」
13	危機管理と学校組織の関係	事例研究を行う
14	民間企業のマネージメント	マネージメントサイクル、リーダーシップ、マネージメント 活動とコミュニケーション トレーニング
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	授業中に課す課題　20% 出席など授業への積極的参加　30%

2/3以上の出席を評価要件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

母校のヒヤリング調査やネット検索など、教室外での活動も行う。

教科書 / Textbooks

授業中に必要なハンドアウトを配布する

参考書 / Reference Books

適宜、授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省HP
都道府県委員会HP
母校等のHP

その他 / Others

グローバル教育論（S）

20406

担当者名 / Instructor　中山 京子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

まず、受講者自身の理解に関して「外国」「異文化」「グローバル社会」認識をみつめることからはじめる。次に、グローバル教育や周辺領域にある国際理解教育などの歴史をひもときながら多様な領域や目標を考察し、グローバル時代における教育のあり方を考える。そして、自らの理解を深めるため、実際に教材を活用した学習活動を経験したり実践事例から考えたりし、最後には自らのオリジナル教材を考える。

到達目標 / Attainment Objectives

「グローバル社会に生きる子どもの育成」が現代的教育課題の一つとして言われているが、そもそもグローバル社会に生きるとはどのようなことか、それに関する教育はどうあったらよいのかを学ぶ。本講義では以下のことを到達目標とする。

・自己の「外国」「異文化」「グローバル社会」像を認識する。

・グローバル教育に関する多様な領域や目標がわかる。

・いくつかの教育実践の事例から具体的な学習方法を学ぶ。

授業終了時には、グローバル教育や国際理解教育の概要を理解し、実践事例や教材から学んだ点を生かした教材の素案をまとめることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	オリエンテーション：私のグローバルな体験・国際理解体験	自己体験の認識　体験の共有
第2回目	世界地図から考える	自己に潜む偏見　世界地図を眺める　大陸の認識　カラーリング
第3回目	異文化への「まなざし」に潜む私の問題	自分の認識　構築されるまなざし　メディアとイメージ　先住民
第4回目	絵本「ちびくろサンボ」の出版をめぐる見解	表現の自由と人権問題　絶版の是非　教育現場で活用されることの意味
第5回目	グローバル教育の歴史を概観する	グローバル教育、国際理解教育、多文化教育、異文化間教育、環境教育、持続可能な発展のための教育
第6回目	グローバル時代における多文化教育(1)	不就学　日系外国人労働者　行政支援　多文化共生　地域の力
第7回目	グローバル時代における多文化教育(2)	多文化共生　外国にルーツをもつ子どもたち　未来の学校　国際教室の役割
第8回目	私が飲んでいるコーヒーのかげで起こっていること(1)	コーヒー産業　コーヒーと日本人　スターバックス　フェアトレード　グローバル企業
第9回目	私が飲んでいるコーヒーのかげで起こっていること(2)	1杯のコーヒーから　教育目標　教材開発　授業構想をたてる
第10回目	求める平和と享受する平和(1)	求める平和　享受する平和　生きるための選択　ルワンダ　映画
第11回目	求める平和と享受する平和(2)	1本の映画から　教育目標　教材開発　授業構想をたてる
第12回目	フォトアクティビティ「地球家族]	フォトアクティビティ　地球家族　幸せの概念　一家の所有物
第13回	人の移動「移民」を教える教材	移民　日系人　かるた　紙芝居　プランテーション農作業着　体験
第14回	オリジナル教材の開発にむけて	教材選択　教材研究　グローバル社会をみつめる　発達段階　身近な素材
第15回	オリジナル教材の発表とふりかえり	オリジナル教材の提案　自己変容をメタ認知する　グローバル教育・国際理解教育の必要性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回の講義内容に関して書くコメントシートを蓄積し、自らの学習の深まりを意識してほしい。

終盤のオリジナル教材の作成にむけて日常的に課題意識をもって生活を送ってほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・毎回授業毎に書くコメントシート（60%）と最後に作成するオリジナル教材(25%)を主な評価対象とする。コメントシートは、講義内容について課題を的確に捉え、自らの論考がなされている

かを重視する。オリジナル教材については、作成者自身が問題意識をもって教材作成をしているか、学習者が探究できる工夫した学習活動を設定しているかどうかを重視する。
・5回以上の欠席は不可とし、受講態度の著しく優れた者への加点や著しく劣る者への減点を行う。
・授業期間中に学習到達度を確認する検証テストを実施する。（15%）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

積極的な発言を求める。参加型の授業を展開することもあるので、誰とでも進んでコミュニケーションをとることが出来ることを基本的なスキルとして求める。

教科書 / Textbooks

テキストは指定せず、必要に応じてプリントを作成して配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日系移民学習の理論と実践―グローバル教育と多文化教育をつなぐ―	森茂岳雄・中山京子／明石書店／978-4-7503-2782-2／第13回授業に連動する
地球家族一世界30か国のふつうの暮らし一	マテリアルワールド・プロジェクト　代表ピーター・メンツエル／TOTO出版／4-88706-105-6／第12回授業に連動する
「ちびくろサンボ」絶版を考える	径書房編／径書房／4-7705-0087-4／第4回授業に連動する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代学校教育論 (S)

15588

担当者名 / Instructor　倉本 頼一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「不登校・登校拒否」「いじめ」「子どもの自殺」「暴力・荒れ・学級崩壊」「虐待」「非行・少年事件」「学力問題」「保護者と教師・学校の関係」「教育行政と地域・学校」等　今日の学校教育をめぐる問題は山積しています。これらの課題・問題をどうとらえるのか、今後の学校教育はどうあるべきか考える。そして今後学校現場に教師として入っていく指導力を身につける。

到達目標 / Attainment Objectives

現代教育の混迷の原因、今日の学校教育の諸問題を理解し、これに具体的に取り組む方向と見通しを考えることが出来る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	今日の学校教育をめぐる諸問題・現代の子どもをどうとらえるか。	混迷・迷走する教育行政と学校現場　子どもの「繊細さ」「攻撃性」
第2回	現代の子どもと教育実践・学校教育、(教師像意見交流)	子どもの心・本音　作文・詩から　親の願いと教師の思い
第3回	幼い子どもの不登校・登校拒否	登校しぶりと不登校
第4回	長期の不登校と「引きこもり」	社会的引きこもり、支援・援助体制
第5回	幼い子どもの「いじめ問題」(いじめ対応意見交流)	子どものけんかと「いじめ」
第6回	「いじめ」と子どもの「うつ」「自殺問題」	調査中学2年生「抑うつ」1割
第7回	「子どもの問題行動・非行」(非行対応意見交流)	問題行動・非行の種別
第8回	「少年事件、その子どもの育ちから」	子どものこころ・思い、日記、詩、作文から
第9回	虐待問題と子どもの育ち、学校教育	トラウマ、人格形成、虐待の連鎖
第10回	カウンセリングマインドと学校教育相談	ロジャーズの理論
第11回	「子どもの荒れと学級崩壊」(対応意見交流)	学級崩壊具体的表れ、崩壊段階、対応・援助
第12回	「今日の学力問題と学校・教育行政」	学力低下問題　学力テスト　PISA調査
第13回	父母の教育要求と教師・学校、教師論(教師像交流)	「モンスター」と言う言葉、指導力不足問題
第14回	今日の学校と教育行政、特別支援教育、「授業まとめ」	教育基本法改定、教科書検定、地域と学校づくり
第15回	感想についての講評とまとめの試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

【授業の進め方】
1、授業のはじめに最近の子ども・学校教育関係ニュースを新聞報道で考えます。
2、前時間の感想を文集にして紹介し　復習をします。
3、講義を基本に進めますが、課題設定のグループ討議・交流もします。
4、授業の終わりに毎時間、短い感想を書いてもらいます。(出欠確認を兼ねる)
【授業外の学習】
1、日頃から新聞等の子ども、学校教育関係ニュースに関心を持って見ておく。
2、「不登校」「いじめ」「非行」「虐待」「学級崩壊」「学力問題」等子どもと学校教育についての本を多く読んでおくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎時間のまとめと15回授業まとめ100%。 講義内容が理解できているか、自分の考えが書けているか。グループ討論参加できているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の他にボランティア活動やサークル・現場教師の教育研究会等に機会があったら積極的に
参加して今日の学校現場の状況や子ども、教師の声を聞くことはとても役に立ちます。

教科書 / Textbooks

特別な参考書は指定しません。広く子ども、学校教育についての本を読んで下さい。教育研究団体が発行する月間雑誌も現代の教育現場を知るのに役立ちます。(教科別の研究雑誌、生活指導、教育相談、児童心理、障害児教育の月刊誌、教育誌など)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代教職概論（S）

10271

担当者名 / Instructor　中山 一樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

初等教育課程において教師を志望する学生が履修の意思を固めることを意図した科目です。

志望動機を整理し確認する作業から始めます。受講生の動機が、現実の教師の仕事を踏まえたものでなのかどうかを確認してください。小学生たちとの間で「教え・学ぶ関係」を構築するときにどのような課題が内在化させているのか、自分の学びの体験を越えて考えたいと思います。

このようなねらいから，本講義では知識を蓄積させることよりも、受講生一人ひとりの思考や表現（発言や報告）を強く求めます。

到達目標 / Attainment Objectives

・教師志望の意思を形成することができる。
・初等教育の学びの目標と課題を的確に把握することができる。
・初等教育の教育課程を概括することができる
・教え=学ぶ関係の当事者になる準備ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の意図と構成--受講生自身の初等教育体験を検討する	
2	受講生自身の初等教育体験を報告する	被教育体験
3	受講生の育ちのプロフィールを個別の視点から検討する	教育者　被教育者
4	受講生の教育体験を教育制度の視点から整理する	教育制度の体系
5	教え＝学ぶ関係について1	学ぶ立場は教える立場とどのような関連にあるのか
6	教え＝学ぶ関係について2	教師という大人の存在意義　体系的アプローチと正統的な周辺参加論
7	中間まとめと討論	
8	学校の位置づけ	「家族・学校・生活=労働世界」「家族・学校・消費文化世界」
9	あらためて学びの意義を検討する	学びの空洞化　社会化
10	パターナリズムから社会的シティズンシップへ	社会的主体形成の課題
11	社会の一員として社会参加することと普通教育	教養　リテラシー　社会参加
12	知識や技能の教育と社会の主体形成の教育	教育課程　生活知　学校知
13	戦後教育課程の変遷と90年代以降の課題	受講生の被教育体験を構造化する
14	教育のレリバンスと公共的支援	再生産構造
15	総括的まとめと報告やレポートの講評	教師像

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「学ぶ」ということの意味	佐伯胖／岩波書店／／

各回の講義でレジュメを配付する。また、資料と参考文献を適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代若者論（S）

20340

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発達臨床心理学による社会病理学的研究の知見に触れることを通して、またその観点や認識に対する批判を通して、現代を生きている同時代・同年代の人々がどのような経験の中にいるのかを知り、考える機会としたい。テキストは、『シリーズ 荒れる青少年の心』全9巻。この中からいくつかの巻を選び、さらにその中から、現代の若者世代の経験と共鳴すると思われるテーマを選んで、参加者と議論を深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

同時代を生きる同世代の人々の、社会的・個人的な経験の諸相を知ることを通じて、自分自身のさまざまな経験を確認し、また相対化して、今までの経験知をつかみなおす体験を獲得すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「いじめ・いじめられる青少年の心」①	
2	「いじめ・いじめられる青少年の心」② & 討論	
3	「傷つけ・傷つく青少年の心」①	
4	「傷つけ・傷つく青少年の心」② & 討論	
5	「キレる青少年の心」①	
6	「キレる青少年の心」② & 討論	
7	「ひきこもる青少年の心」①	
8	「ひきこもる青少年の心」② & 討論	
9	「無気力な青少年の心」①	
10	「無気力な青少年の心」② & 討論	
11	「さまよえる青少年の心」①	
12	「さまよえる青少年の心」② & 討論	
13	「もろい青少年の心」①	
14	「もろい青少年の心」② & 討論	
15	全体の振り返りと総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

必要なテキストはこちらで印刷し配布する。

参考書 / Reference Books

講義の展開にあわせて、適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際教育援助論(S) § 国際教育援助論(I)

13322

担当者名 / Instructor　小原 豊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国には不就学児や非識字者が未だに大勢おり，その支援が国際的に急がれている。本授業では，国際教育援助の現状と課題について概説し，国際社会の潮流や歴史的展開にも言及しながら，教育援助における基本的な原理と実践手法を概観し，その論点整理と展望の探究を行う。また，本授業は一方的な講義形式ではなく，受講者小集団によるプレゼンテーションや議論形式を取り入れた参加型学習を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

1　国際教育援助の基本原理を理解し，発展途上国支援の諸課題を探究する力量を形成すること。
2　国際教育援助の歴史的展開を踏まえ，発展途上国支援の実践的手法について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目は特にありません。日頃から，様々な報道機関，諸外国のメディア等にも目を通して情報を比べることで，物事を多角的に考える習慣をつけて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	国際教育援助とは何か？:国境を越えて人が人の学びを支援する	国際社会の潮流，世界識字実験計画(EWLP)，援助理念と政策
第02回	国際教育援助の仕組み	ODA，円借款，無償／有償資金協力，技術協力
第03回	国際教育援助の概略史	ジョムティエン会議，ダカール行動枠組み，成長のための基礎教育イニシアチブ
第04回	世界の基礎教育の現状と課題	量的拡大と質的向上，識字率・就学率，世界銀行，女子教育，
第05回	日本による教育援助①その比較優位性:Jugyou-Kenkyuとは何か	授業研究，カスケード方式とクラスター方式，住民参加
第06回	日本による教育援助②JICAの活動と青年海外協力隊の展開	JICA，JOCV，選考・訓練・実情，自助努力，協力隊5か条
第07回	日本による教育援助③文部科学省による国際教育協力イニシアチブ	拠点システム，日本の教育経験集約，協力知見の体系化・共有化
第08回	途上国理解・支援の原理①文化的アイデンティティ	民族性，多言語・他文化社会，僻地複式モデル
第09回	途上国理解・支援の原理②持続可能性(Sustainability)	技術移転，プロジェクト評価，参加型ガバナンス
第10回	途上国理解・支援の手法①教育開発モデル	社会構造，モデル分析(ハービンソン&マイヤーズ，カミングス)
第11回	途上国理解・支援の手法②教育セクター分析	包括性と選択，優先課題，ファストトラックイニシエティブ(FTI)
第12回	国際教育協力フィールドワーク①NGOの活躍:アフガニスタンを事例に	実際に国際教育協力に勤しむNGOの方を招聘し，議論・懇談する
第13回	国際教育協力フィールドワーク②草の根交流:インドネシアを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ活動家を招聘し，議論・懇談する
第14回	国際教育協力フィールドワーク③専門家派遣:ラオスを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ専門家を招聘し，議論・懇談する
第15回	国際教育援助の論点整理と展望:支援から共生へ	世界人権宣言の理念，Education for All (EFA)，ヨハネスブルグ宣言

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本授業は一方的な伝達形式ではなく，受講者の関心や問題意識に基づいた議論を中心に進めていきます。教員の指示をただ待つのではなく，教育援助に関する課題を様々な一次資料から探究していくことが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	小集団による課題発表に対する自己評価，受講者同士による相互評価，教員評価を参照する。
平常点評価	60 %	出席を重視する。また日常点(学習態度，質問内容，討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り，開講回数の2／3以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

我々は国際社会を生きる上で，自国の文化に根ざしながらも，多様な価値観をもって異なる文化の在り方を尊重し，受け入れねばなりません。

国際教育援助については，ドナー国と被援助国が対等な立場で相互理解を深め，国際社会での共生を目指す立場で学ぶ必要があります。とかく視野が狭窄しがちな教育分野ですが，国際的な視野で教育問題を捉える経験が，受講者各位にとって大きな財産になることを願います。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際教育協力論	内海成治／世界思想社／4-7907-0910-8／教育協力分野の学際的な知識が得られる。
国際教育開発論	黒田一雄，横関祐見子／有斐閣／4-641-07697-9／多様な領域の教養が体系的に得られる。
国際教育協力を志す人のために	千葉杲弘，寺尾明人，永田佳之 ／学文社／4-7620-1359-5／専門的知識が包括的に得られる。

その他，参考図書の内容は随時紹介し，必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際協力機構(JICA)や国際教育イニシアティブの活動関連のweb site 等を随時紹介していきます。

その他 / Others

授業において不明な点，疑問に感じた点を大切にして，まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

子どもと遊び（S）

13492

担当者名 / Instructor　猪俣 紀子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

子どもの遊びを考えるとき、マンガは娯楽として重要な位置を占めてきたといえる。マンガは子どもとどう関わってきたのか、マンガと子どもの関係性について、マンガの歴史や、周辺メディアから考察する。また歴史あるマンガ文化が存在するフランスの場合と比較することで、子どもの「遊び」としてのマンガを多角的に考える。

到達目標 / Attainment Objectives

マンガから子どもを考えることで、子ども文化について知識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	コミック、マンガ雑誌、子どもマンガ市場
2	子どもマンガの歴史（1）	新聞マンガ、絵物語
3	子どもマンガの歴史（2）	赤本、貸本屋、劇画
4	少年マンガ	歴史と現状
5	少女マンガ	歴史と現状
6	子供向けアニメ	メディアミックス
7	日本における「子ども」	若者中心文化、市場価値
8	子どもとマンガの現在	マンガを読まない子ども、娯楽の多様化
9	BDとはなにか	フランス語圏、帯の絵
10	BDと子ども（1）	雑誌創刊、アルバム
11	BDと子ども（2）	二極化する読者層、雑誌の変容
12	フランスにおける「子ども」	小さな大人、経済力
13	フランスの子供向けアニメ	教育的指導、輸入作品
14	子どもと検閲	1949年法律制定、悪書追放運動
15	マンガ・BDにとっての子ども	少子化、読者対象

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ミニプレゼンテーションをしてもらう可能性があります。
適宜授業時に指示します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	講義内容を踏まえて、問題意識を持ち明確に述べているかを見る。
平常点評価	60 %	授業に積極的に参加しているか、また発表や授業に対するコメントで評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
別冊太陽　子どもの昭和史　少年マンガの世界　Ｉ	／平凡社／4582942741／
別冊太陽　子どもの昭和史　少年マンガの世界　ＩＩ	／平凡社／4582942792／
別冊太陽　子どもの昭和史少女マンガの世界 1　昭和20年~37年 (1)	／平凡社／4582942393 ／
別冊太陽　子どもの昭和史少女マンガの世界 2　昭和38年~64年 (2)	／平凡社／4582942407／
戦後マンガ50年史	竹内オサム／筑摩書房／4480052011 ／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもと学習活動 (S)

11985

担当者名 / Instructor　岩下 修

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
現在の子どもの状況、教育現場の状況を学びながら、現場で役に立つ具体的な授業の方法、子どもの学習活動の指導方法を、発見的、体験的に身につける。
本講義は、知識・技法の一方的な伝達ではなく、受講者が、参加し発信する形をとる。講義ではなく、授業である。本授業に積極的に参加することによって、はじめて、教師の仕事が見えてくるであろう。現場で必要な授業力や子どもを指導する方法を身につけることができるであろう。15回のすべての講義への参加を前提に計画を立てている。下記に記したスケジュールは、受講者の実態に対応しながら、変更、修正をしていくことになる。

到達目標 / Attainment Objectives

① 授業(模擬授業…授業者は岩下、受講者)に、規範意識を持ち、積極的に参加する。
② ①を通し、教師として必要な指導技法の基礎・基本を、発見的に体験的に理解し身　につける。
③ ①②を通して、子ども像、教師像、授業思想を構築する。①教師として必要な指導技法の基礎・基本を体験　的に理解し身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業とは　本講義のめざすもの　自己紹介　受講への願い
2	授業を成立させるための基礎技能1	子どもの現状　学ぶとは　教師の声　モジュール体験
3	授業を成立させるための基礎技能2	教師のからだ　漢字の指導法
4	授業を成立させるための基礎技能3	教師の動き子どもの動き　全体指導と個別指導
5	授業を成立させるための基礎技能4	子どもの心を動かす言葉
6	授業を成立させるための基礎技能5	教師の指導言　発問・指示・説明
7	教師の読解力を高める	教材解釈　読解の視点　授業構成　発問づくり
8	教師の作文力を高める表現	作文の指導方法　論理力の育成　説明的作文と物語風作文
9	表現・発信型授業の必要性	身体活動・表現活動を求める子ども達　縦の指導・横の指導　知と美
10	道徳の授業の方法	生き方の指針　知的な道徳授業　規範意識
11	子どもの欲求・教師の願い	この時代、今教師に必要なこと
12	授業作り演習1	学習指導案　授業の構想　授業の構造
13	授業づくり演習2	授業作りの実際　教師になり模擬授業する
14	授業づくり演習3	教師になり模擬授業する　追試　再び授業とは
15	教師として生きる	「学び」のまとめ(テスト)　教育実習と現場

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・毎回の講義での「学びの記録」や与えられたテーマについての作文、講義時の発言、言動に見られる意欲思考力、創造力を評価 ・15回全体を通しての「学び」の筆記から見える意欲、思考力、創造力の評価(まとめのテスト)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・全出席を念頭に置く
・双方向方の授業にしたい。挙手、発言をする

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Aせたいなら Bと言え	岩下修／明治図書／4-18-915719-8／すべての教師の必読書と言われている

教師と子どもの読解力を高める	岩下修／明治図書／4-978-4-18-305419-7／読解力を高めるために教師は何をすべきか具体的実践と共に提言
国語の授業力を劇的に高めるとっておきの技法30	岩下修／明治図書／4-18-305211-4／岩下の最新刊、現場教師によく読まれている
学ぶからだを育てる	岩下修／明治図書／4-18-507917-6／今の子ども達にいかに表現が大切かを述べる

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館小学校http://www.ritsumei.ac.jp/primary/

その他 / Others

子どもと教育の歴史（S）

11525

担当者名 / Instructor　四方 利明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
今日「教育問題」は、マスコミに報道されない日がないほどに、社会の大きな関心事となっている。また、そうした「教育問題」への対処として、「教育改革」が矢継ぎ早に提起され続けている。だが、はたして「教育問題」として語られているものは、本当にそのように「問題」であり、「教育改革」を必要とする「問題」なのであろうか。本講義では、歴史的なアプローチによって、世間に流布されている「教育問題」「教育改革」という「常識」的な教育言説を相対化し、学校や教育を考える際に多様で確かな見方ができるようになることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

世間に流布された教育の定型的な語りを相対化し、主観的かつ感情論的な教育論から脱して、歴史的な視点でもって、学校や教育について考えることができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	学校化
2	ことばと学校教育（1）	単線型／複線型、戦後教育改革
3	ことばと学校教育（2）	近代、国民国家、国語
4	学校建築史（1）	一斉教授、一望監視装置、近代学校
5	学校建築史（2）	擬洋風校舎、学制
6	学校建築史（3）	ゆとり、学力、試験
7	学校建築史（4）	北側片廊下、新制中学校
8	学校建築史（5）	オープン・スペース・スクール、学校施設の複合化、個性、開かれた学校
9	「教育問題」の戦後史（1）	太陽族
10	「教育問題」の戦後史（2）	少年犯罪、教育委員会、学習指導要領
11	「教育問題」の戦後史（3）	校内暴力、体罰、いじめ、管理教育
12	近代の子ども観をめぐって（1）	ルソー、消極教育、学校知／生活知
13	近代の子ども観をめぐって（2）	アリエス、近代の子ども観
14	フリースクールの行方	児童中心主義、デューイ、新教育運動、ニール
15	講義をふりかえって	子ども、教育、歴史

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

教育史の通史については、尾崎ムゲン『日本の教育改革』中公新書等によって各自で年表を作成して学習し、大まかな流れをおさえておくと、本講義の理解に役立つはずである。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	到達目標にのっとって、まとまったレポートが作成されているかどうか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし。	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新訂　教育の歴史	佐藤秀夫／放送大学教育振興会／／
学校のモノ語り	教育解放研究会／東方出版／／
学校ことはじめ事典	佐藤秀夫／小学館／／
学校教育うらおもて事典	佐藤秀夫／小学館／／
戦後公教育の成立	小山静子・菅井凰展・山口和宏／世織書房／／
日本の教育改革	尾崎ムゲン／中央公論社／／

教育の文化史　　佐藤秀夫／阿吽社／／全4巻

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもと社会 (S)

11423

担当者名 / Instructor　中山 一樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

子どもはみずから世界を立ち上げようとするとき、さまざまな関係に出会う。
子どもと社会という時の「社会」とは、そうした関係の総体をさす。
関係は、定位家族との垂直方向の関係に始まり、同輩や集団との交わり（水平方向）へと展開する。
その中で一般的な他者からなる社会を知り、自己像を獲得する。この意味で、外的関係構築への模索と内的世界の変容は分離したものではなく、世界像獲得へのひと続きの過程である。
本講義では、こうした過程を子どもたちの具体的な問題や課題を読み解くかたちで展開してゆく。

到達目標 / Attainment Objectives

この講義は、つぎのような学生を念頭においています。
1教職をはじめとする子どもへの関わりや支援の仕事への序説として、
2そのような仕事を志望する動機が何に由来するのかを確認する場として、
3さらに、自分の好きなこと、したいことを模索する（80年代の言い方では自分探し」）に行き暮れてひと休みしようとする　学生。
したがって、本講のねらいは、子どもの世界立ち上げの姿を知ると同時に、受講生が、みずからの世界を、子どもから現在にいたる遍歴に重ねて理解するところにある。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	開講にあたって　いつ子どもは子どもでなくなるのか	社会的カテゴリーとしての大人と子ども
第2回目	現代の子どものすがた--事件から読み解く関係の質	関係性
第3回目	子ども世界のマイクロポリティクスと個人の歴史	生育史
第4回目	依存と親密な関係--存在の承認	承認関係
第5回	他者像の変遷--垂直関係からの離脱の問題	近代家族　親子カプセル　ハビトゥス
第6回	交わりと対象関係	外的対象　内的対象
第7回	子どもの世界の政治学--異質性の担保と同等な世界の展望	仲間　学級
第8回	公共性としての社会との出会い	公共空間　一般的他者
第9回	子ども社会専攻の展開科目と領域の説明1	中間まとめとディスカッション
第10回	学校的価値とその対抗文化	学校文化　若者文化
第11回	消費文化世界における自分イメージ--消費し消費される自分	消費文化
第12回	社会への過剰適応と自分の奪還	過剰適応
第13回	一般的他者の発見と世界像の確定	社会化の過程
第14回	子ども社会専攻の展開科目と領域の説明2	子ども社会専攻での学びについてのディスカッション
第15回	本講の整理とレポートの講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	数回にわたるレポート論述を通して知識が身についているかを確認し、さらに受講生自身の能動的な理解の程度を確認する。
平常点評価	40 %	基本的な概念の理解を、発言などによってその都度確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・テキスト以外に適宜参考文献を紹介する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの自分くずしと自分つくり	竹内常一／東京大学出版会／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもとスポーツ (S)

15724

担当者名 / Instructor　石田 智巳

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、子ども社会専攻の「子どもと現代社会領域」科目群に位置づく科目です。
スポーツはそれぞれの時代にそれぞれの地域によって楽しみ方を変えてきた。にもかかわらず，学校ではバスケットボール（アメリカ），サッカー（イギリス），剣道（日本）などを教材として指導するが，それぞれにどのような人間形成機能を持たせようとしているのかは不明であることが多い。一方で，スポーツには，特待生や留学生の問題，ボクシングの親子問題，相撲部屋問題，ドーピングなどネガティブな側面もあるし，子どもに勝利至上主義的な価値観を植え付ける機能も果たしている。そこで本授業では，近代スポーツの基礎的な知識を学ぶとともに，今日的な問題を題材にして，子どもとスポーツの関係，特にスポーツと人間形成について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは歴史的社会的な文化であるが，その意味すら忘れ去られてスポーツを享受しているのが現状である。サッカーの試合時間は0からスタートするのに，バスケットではなぜ0へと向かう（カウントダウン）のか，オフサイドは何のためにあるのか，なぜラグビーは両校優勝なのか，これらはスポーツの風土と関係が深い。そこで，これらのことに触れながら，スポーツを子どもに教えることやスポーツと子どもの関係を再考できる力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	スポーツとは何か1	遊びとスポーツ
3	スポーツとは何か2	スポーツの定義の難しさ
4	ボールの授業	スポーツの出自
5	プロスポーツとアマスポーツ	金と楽しみの2つの軸
6	むしばまれる子どもたち	スポーツと金
7	アンケート調査	フェアプレーやスポーツにおける平等・不平等
8	フェアプレーを考えるⅠ	
9	フェアプレーを考えるⅡ	フェアプレーを教える難しさ
10	星野君の二塁打Ⅰ	道徳教材を検討する
11	星野君の二塁打2	集団主義と個人主義，日米の子ども比較
12	部活動問題とその超克	
13	オリンピックと子どもたち　授業のまとめ	
14	子どものスポーツとは	スポーツと人間形成の可能性
15	試験と講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビ，新聞などで流れるスポーツ情報を自分なりに読み解く訓練を行うこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	子どもとスポーツを巡る問題点を読み解き，スポーツによる人間形成の可能性について問う。
平常点評価	40 %	出席，感想文，ミニレポートの点を加味して総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定の教科書は用いない。資料を適宜配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもと地球環境 (S)

13491

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「地球環境問題」がもたらす明確な「ダメージ」は、今すぐというより近未来社会において出現する。ゆえにこの問題解決は、我々の子どもたち（子孫）の生存権にかかわる課題であり、福利厚生課題なのである。環境問題は、なにか特定の「有害物質」を締め出せば解決するものではない。「問題」には、今日のモノの生産と消費のありかた、そのスピードなどが関わっている。言葉をかえると現行の「富」の追及のありかたを見直しすることなしには、問題は解決しない。

本講義では、まず地球環境問題が帰結する未来イメージを正確に伝え、それを回避する処方箋について考えていく。繰り返しになるが、根本的解決のためには、「現行の生活スタイル」そのものの改変が求められている。それは、市民（消費者）側から見たら、「住の問題」や「食生活の問題」であり、「ショッピング（流通）」や交通の問題でもある。こうした「あたりまえにくりかえされている」営為のオルタナティブを構想するのが本講義の主眼である。同時にこうした枠組みを市民全体で共有する道筋を考えること、ひいては子供たちに問題の深刻さをどのように伝えていったらよいか考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

① 子供に理解できる論理枠組みを考察すること

② 言葉としての「対策」ではなく、身近な「実践的課題」を考察できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに　地球環境問題概論	地球環境問題
第2回	地球環境問題の「原因と結果」	IPCCレポート
第3回	地球史、自然史を概観する	地球の年齢　進化
第4回	エネルギー問題を考える　1電力問題概観	エネルギー政策　ロードカーブ
第5回	エネルギー問題を考える　2家庭で電力を生産する（太陽光　コジェネ）	太陽光発電　コジェネレーション　小型分散電力
第6回	エネルギー問題を考える　3原子力の負の遺産	原子力発電　放射性廃棄物　世代間の不公平
第7回	エネルギー問題を考える　4消費削減の課題	省エネ　低エネルギー社会
第8回	食生活を考える　1遺伝子組み換え作物の安全性	遺伝子組み換え技術
第9回	食生活を考える　2外食産業の発展と生活の変容	ファストフード
第10回	消費生活を考える　1揺れ動く「ショッピング形態」	コンビニ　郊外型大店舗　ネットショップ
第11回	消費生活を考える　2電化製品の「発展」	PSE法　家電リサイクル法　デジタル化
第12回	生活空間を考える　1公園の未来	公園　アミューズメントパーク
第13回	生活空間を考える　2交通体系の再編	LRT
第14回	生活空間を考える　3私の住みたい街	まちづくり
第15回	まとめ　環境問題解決にむけての生活スタイル	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

テキストはなし。毎回レジュメ、参考資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『エネルギーと私たちの社会』	J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン／新評論／SBN4-7948-0559-4／

適宜紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する

その他 / Others

特になし

子どもと非行 (S)

20408

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

子ども期の問題行動の典型例である非行をとりあげ、子ども期と非行との関係、その意味を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

非行を様々な切り口から浮かび上がらせると同時に、そのことを通じて子どもや子どもの行動をどう見るのかを考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子どもと非行の見方・考え方	子ども・非行・健全育成
2	非行理論	
3	非行の心理	
4	非行とパーソナリティー	
5	非行の生物的側面	発達障害
6	非行と家族	児童虐待
7	非行と学校	いじめ
8	非行と学校・地域	
9	非行の対応システム	児童相談所・家庭裁判所
10	非行のアセスメント①	
11	非行のアセスメント②	
12	非行の臨床	
13	地域の非行対応	機関連携
14	学校の非行対応	
15	今日の非行課題と対応	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
犯罪・非行の心理学	藤岡淳子／有斐閣／ 978-4-641-18347-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

総務省
http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/070130_1.html

その他 / Others

子どもとまちづくり (S)

20407

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「まちづくり」とは「一人一人が機嫌よう生きていく社会」を創出する営みであり、「子どもとまちづくり」とは、子ども達が成長していくにふさわしい社会を創出する「まちづくり」のことです。
「子どもとまちづくり」には四つの側面があります。ひとつは「子どものためのまちづくり」、二つ目は「子どもによるまちづくり」、三つ目は「子どもに伝えるまちづくり（広い意味での住環境教育）」そして四つ目が「子どもを介しての（親たちの・大人達の）まちづくり」。
本講義では、具体的な事例を示しながら、四つの切り口で「子どもとまちづくり」を語っていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

子ども達が成長していくにふさわしい社会を創出するための「まちづくり」の役割と、そのための考え方や技を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「子どもを育む」視点からのアプローチと、「まちづくり」からのアプローチがあり得ます。本講義は双方をつなぐ学際科目ですから、どちらかのアプローチの他の関連科目の履修を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーリング	「子どもとまちづくり」とはなにか
第2回	「子どもに伝える」まちづくり（1）	絵本をとおしての住環境教育①
第3回	「子どもに伝える」まちづくり（2）	絵本をとおしての住環境教育②
第4回	「子どもに伝える」まちづくり（3）	小学校・PTAなどによる住環境教育
第5回	「子どもに伝える」まちづくり（4）	地域が伝える「わがまち」意識
第6回	「子どものための」まちづくり（1）	子育て環境をととのえる
第7回	「子どものための」まちづくり（2）	子ども達を育む地域活動
第8回	「子どものための」まちづくり（3）	子ども達を育む市民活動
第9回	「子どもによる」まちづくり（1）	子ども達の自主的活動としてのまちづくり
第10回	「子どもによる」まちづくり（2）	子ども達の参加による「場」（居場所・遊び場・自分たちの場）づくり
第11回	「子どもを介して」のまちづくり（1）	環境を守り育むまちづくり
第12回	「子どもを介して」のまちづくり（2）	若い子育て世代のまちづくり参加
第13回	「子どもを介して」のまちづくり（3）	地域コミュニティをつなぐ①
第14回	「子どもを介して」のまちづくり（4）	地域コミュニティをつなぐ②
第15回	まとめ	「子どもとまちづくり」の可能性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

画像教材による事例紹介を中心に行います。
可能なら実際に子どものための活動している方を招いて、お話を伺う機会をつくりたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された試験レポートの質で評価。ただし、それなりに厳しく採点します。
平常点評価	20 %	適宜（数回／半期）、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもとメディア (S)

15597

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもは、テレビやラジオ・新聞・雑誌・映画といった従来のメディアのほか、ゲームやインターネットなどのデジタル・メディアに囲まれて育っている。本講義では、子どもとメディアのかかわりについて、社会・教育・心理学的見地から考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「メディアが子どもの日常生活においてどのような役割を果たしているのか」、「子どもはメディアをどのように理解し使用しているのか」、「メディアが子どもの成長にどのような影響を与えるのか」、といったメディアと子どもについての基本的な事柄について理解する。
・子どもにメディアを教えるにあたり、メディア・リテラシーの基本的な概念や教育の実践についての基礎的な知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	
第2回目	子どものメディア環境： 子ども時代の変化	
第3回目	子どもの発育、行動、モラル形成とメディア	
第4回目	子どもとポピュラー・カルチャー	
第5回目	メディアと暴力	
第6回目	メディアとジェンダー： 女の子らしさ・男の子らしさ	
第7回目	消費者としての子ども(1)テレビ番組	
第8回目	消費者としての子ども(2)広告	
第9回目	デジタル時代の子ども： インターネットと子どものメディア発信	
第10回目	子どもの権利とメディア	
第11回目	子どもにメディアを教える(1) メディア・リテラシーとは何か	
第12回目	子どもにメディアを教える(2) メディア・リテラシーの基本概念	
第13回目	子どもにメディアを教える(3) メディア・リテラシー教育の実践	
第14回目	子どもにメディアを教える(4) メディア・リテラシー教育の課題	
第15回目	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日常生活において、自分が使うメディアや子供向けのメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①検証テスト(40%) 最終回の授業で、それまでの授業内容の理解度とそれを踏まえて自分の考えを記述できるかどうかを確認する検証テストを実施する。 ②コミュニケーション・ペーパー(60%) 授業中に毎回A4用紙一枚程度のコミュニケーションペーパーを課す。内容はメディア分析や小レポートなど。0～5点で評価する。単に出席しただけでは点数がつかないので注意。

・授業の内容をよく理解した上で、メディア分析や授業内に提示された課題等に積極的に取り組むことが望まれる。コミュニケーション・ペーパーはその出来によって評価し、0～5点の点数をつける。
・毎回QRコードシールを持参すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講義だけではなく、子ども向けのメディアを分析したり自分なりの考察を深めるなど、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。
・初回に授業の進め方、試験、評価方法などの詳細な説明とともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
・遅刻は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処する。レジュメや資料等も授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい(病欠ややむを得ない事情を除く)。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメと参考文献リストを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと人間の発達　－　テレビ、テレビゲーム、インターネット、そしてロボットの心理的影響	坂元章編／学文社／4762012629／
Children, adolescents, & the media	Victor C. Strasburger & Barbara J.Wilson／Sage Publications／0761921257／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーを伸ばす国語の授業　小学校編	児童言語研究会編／一光社／4752810514／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

The International Clearing House on Children, Youth, & Media http://www.nordicom.gu.se/clearinghouse.php
FCTメディア・リテラシー研究所 http://www.mlpj.org/index.shtml

その他 / Others

子どもの理解と指導（S）

10861

担当者名 / Instructor　井谷 信彦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

〔本科目は小学校教諭一種免許状課程の必修科目です〕

本講義では、初等教育課程における子どもの発達課題と、教師による理解と指導の可能性について考察を深める。

誰しもが一度は子どもであった。また多くは学校に通い、級友を初めとする仲間と遊び、教師のもとで学んだ経験を持っていることだろう。しかし、いざ自分の体験を振り返ってみても、子ども時代のことはぼんやりとしか思い出せないことが多い。近所で躍り回る児童を眺めていると、子どもほど不思議な存在はないとすら思えてくる。

子どもの成長発達や人間関係について考察するためには、各時期の発達課題や学習理論を把握すると同時に、子どもの持つ魅力や不思議に目を向けることが必要不可欠である。近年の教育心理学や教育人間学の成果に基づいて、児童期の子どもの生やそれを取り巻く世界との関係について検証し、教師による理解と指導の可能性を探究することが、本講義の課題である。

到達目標 / Attainment Objectives

1）児童期の子どもの発達課題について基本事項を把握する。
2）発達課題に囚われない子どもの生の豊かさに目を向ける。
3）子どもに対する教師の役割について考察する力を身につける。
4）自己の体験を授業内容と関連付けて捉え直せるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業オリエンテーション：子どもを理解するとは？	他者を理解すること、教師の子ども理解、発達論と生成論
2	発達論と子どもの理解	ライフサイクル、発達段階論、発達の規定要因
3	生成論と子どもの理解	意義と意味、経験と体験、社会化と脱社会化
4	子どもを取り巻く教育環境	家庭と子ども、学校と子ども、地域社会と子ども
5	子どもの発達の諸相Ⅰ	身体と運動能力の発達、社会性の発達、道徳教育のジレンマ
6	子どもの発達の諸相Ⅱ	認知と言語の発達、人格の発達、情緒障害と不適応行動
7	子どもの人間学	子ども期の歴史学、子どもの遊び、悪の体験と子ども
8	前半の総括と後半への導入：子どもを指導するとは？	子ども期の体験、他者を指導すること、指導か放任か
9	子どもの学習の諸相	学習理論、学習意欲、学びのニヒリズム
10	問題解決と創造性	記憶と問題解決、知識と創造性、模倣と創作
11	学校教育と学校教師	共同体の代理としての教師、教授と評価、社会制度としての教育
12	周縁を生きる教師たち	共同体の外から来る教師、イニシエーション、出来事としての教育
13	現代社会と教育言説	個性の尊重、不登校、いじめ
14	教育のパラドクス	教育のサービス業化、方法論の形式化、メディアの形骸化
15	後半の総括とレポート課題の説明	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本講義では、映像作品や文学作品を用いた授業や、簡単なワークショップなども実施する予定です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	「子どもの理解と指導」に関わる事柄について、授業内容を踏まえて考察することを求める。 課題の詳細については最終回に説明する。

平常点評価	40 %	・中間レポートの成績を平常点評価に含める ・1回欠席するごとに全体の成績から5点減点 ・4回以上（4回を含む）欠席で単位認定不可

止むを得ない事情で欠席する場合は相談に応じます。
中間レポートの課題は第8回に告示する予定です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本音を云えば、平常点の欄に「受講生の主体的な参加を期待する」などと書きたいところです。
しかし、そう書いた途端に、授業への参加は「強制」となり、受講生の「主体性」は失われます。

例えばこんな所にも、「理解と指導」をめぐる悩ましくも興味深い問題を垣間見ることができるでしょう。
身近な体験や記憶を振り返ることも、授業内容について考察を深めるヒントになるかもしれません。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの発達と学習	濱口佳和・宮下一博 編著／北樹出版／4-89384-591-8／

講義の半分程度は教科書の内容の解説と発展に充てます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キーワード 現代の教育学	田中智志・今井康雄 編著／東京大学出版会／978-4-13-052077-5／

この他にも授業内容に応じて随時文献を紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ジェンダーと教育（S）

15727

担当者名 / Instructor　日野 玲子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、近年、教育現象をとらえる視座として重要とされるようになった、ジェンダーの視点から、教育における制度的・文化的な捉えなおしを行うつもりである。ジェンダー概念を理解するとともに、教育を制度的・社会的事項との関連から検討して、教育に対する視野を広く持つような機会を提供したい。また、ジェンダー平等をすすめる教育について考える場として、ジェンダーに敏感な感性を養うとともに、教育課題として男女の対等な関係づくりや公正な社会について考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

ジェンダーの視点で教育を検討する力を身につける。
教科書・教育がつくられていることを見抜く力をつける。
男女平等教育の実践について興味関心をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー論を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	授業の概要と導入――ジェンダーという考え方	
第2講	ジェンダー概念の理解――文化の力を知る	
第3講	暮らしをジェンダー・チェック	
第4講	言葉とジェンダー	
第5講	ジェンダーの視点でメディアを検討（1）	
第6講	ジェンダーの視点でメディアを検討（2）	
第7講	子どもたちのジェンダー意識の形成	
第8講	学校文化の検討――隠れたカリキュラムの視点	
第9講	教科書はつくられている	
第10講	教科書分析	
第11講	教室という場での相互作用	
第12講	男女平等教育のとりくみの検討（1）	
第13講	男女平等教育のとりくみの検討（2）	
第14講	非暴力のための教育とコミュニケーション能力	
第15講	教育とジェンダーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ジェンダーに敏感になって暮らしを検討してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	中間レポート 授業時のミニレポート

評価対象は、授業回数3分の2以上の出席者のみ。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。授業時に資料プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジェンダーで考える教育の現在	木村涼子・古久保さくら編／解放出版社／／

その他の参考図書は授業時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

自我論 (S)

15518

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

例年通り、コミュニケーション・ペーパーを用いた双方向型講義を行う。本年度の講義では、社会学における日本社会論や「世間学」などを取り上げる予定である。そして考察の中心点は、日本社会の構造原理であり続けてきた「世間」の中に生きる我々の意識と経験の構造はどうなっているのか、である。そして、「世間」という社会編成の原理や、その中での我々の意識や経験が、それ自体我々の人間的可能性に対する阻害要因となっているのだとすれば、さて我々は何をなすべきなのか、について考えをめぐらしてみることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義名からは心理学的内容を連想するかもしれないが、基本的には社会学的視点からの考察である。そして目指すは、社会学的視点から我々自身と日本社会を捉え返す批判的視点を獲得することである。そしてまた、そのような視点に立ちつつ、そこから見える社会的・個人的パースペクティブを言語化できるようになるための基礎的訓練の機会ともしたい。究極的には、社会学が目指す社会的・人間的オルタナティブの提起というものが具体的にいかなるものかを知ることを、到達目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学理論」・「社会学史」・「社会倫理学」・「社会文化論」などの講義を履修していることが望ましい。自分の個人的な体験に寄りかからない次元の想像力や思考力を獲得するために、抽象的な思考の地平を経験してきて欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の主題、展開、手法についての概説、「予備コミュニケーション・ペーパー」(以下CPと記す)	「世間」と「社会」、世間学
2	「予備CP」へのレスポンス、日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(1)	「世間」の構造
3	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(2)	「世間」の歴史①＜平安期・鎌倉期＞
4	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(3)	「世間」の歴史②＜江戸文学＞
5	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(4)	「世間」の歴史③＜近代日本文学＞、CP①
6	CP①へのレスポンス、小括	
7	「世間体」の構造(1)	「世間」の意味
8	「世間体」の構造(2)	「世間」観の変遷
9	「世間体」の構造(3)	「世間」とは何か
10	「世間体」の構造(4)ー「世間」の社会心理①	恥と罪の意識
11	「世間体」の構造(5)ー「世間」の社会心理②、CP②	笑いの文化
12	CP②へのレスポンス、小括	
13	「甘え」の構造(1)ー「世間」の深層心理①	「甘え」現象とは何か
14	「甘え」の構造(2)ー「世間」の深層心理②	「甘え」現象の次元
15	総括 ――「世間」と我々	脱「世間」は可能か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	講義の内容を踏まえた上での、論理的な内容構成力と説得力を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生には少し難しい講義ではないかと思うので、3・4回生での履修を勧めるが、意欲的な2回生の履修はもちろん大歓迎。単位が欲しいだけの学生には無理。みずからの個人的・社会的・文化的経験を意識的に捉え返す、ある意味で厳しい時間になるはずである。そのような心と頭の準備をしてきてもらえればよろしかろう。

教科書 / Textbooks

教科書として特定の著作を使うことはない。講義で使うテキストは、講義の展開に応じつつこちらでプリントして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。紹介する諸著作の中から、各自にとって意義ありと思われるものを読んでもらいたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

児童・発達心理学 (S)

11071

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
本講義では、児童期から思春期・青年期における子どもの発達の特徴と課題について概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

① 児童期から思春期・青年期に到る人間発達の道すじについて理解する。
② 学校現場が抱えている「問題」の背景にある、子どもたちの心理について考える。
③ 小学校の教員として必要な心理学の知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生涯発達における児童期のもつ意味	発達の時期区分、発達課題、生涯発達心理学
第2回	学齢期までの子どもの発達と保育(1)	乳幼児期の発達と生活
第3回	学齢期までの子どもの発達と保育(2)	幼児期から児童期へ
第4回	児童期の子どもの発達と教育(1)	小学校低学年の発達と教育
第5回	児童期の子どもの発達と教育(2)	小学校中学年の発達と教育
第6回	児童期の子どもの発達と教育(3)	小学校高学年の発達と教育
第7回	思春期から青年期への発達と教育(1)	中学生の発達と教育
第8回	思春期から青年期への発達と教育(2)	高校生の発達と教育
第9回	障害のある子どもの発達と教育(1)	障害児の基本的理解
第10回	障害のある子どもの発達と教育(2)	特別支援教育(1)
第11回	障害のある子どもの発達と教育(3)	特別支援教育(2)
第12回	子どもの把握と心理テスト(1)	
第13回	子どもの把握と心理テスト(2)	
第14回	まとめ	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点評価	10 %	

随時小テストを実施する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。
参考文献は講義の中で紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

生涯学習論（S）

20409

担当者名 / Instructor　崎野 隆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

生涯学習の意義と現代的特徴
『生涯学習』の意義や考え方を理解し、人々の生涯に亘る学びを援助し、支援する活動について考察する。
あらゆる年齢層の教育、生涯学習体系の中の教育について学ぶ。生涯学習社会の今日的課題についても考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

○ 社会教育を遂行する力量をつける。
○ 生涯学習を鼓舞するリーダーシップ性を身につける。
○ 文化の創造と発展を担う役割の自覚を高め、職務遂行の力量をつける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教育学全般の学習と教養を高める科目の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	生涯学習の意義	学ぶこと
2	生涯学習の課題	社会的課題と個人的課題
3	生涯学習における個人的課題	発達課題と欲求課題
4	生涯学習社会と自己実現	自己実現
5	生涯学習における社会的課題	社会的必要課題と要求課題
6	発達課題の解決を目指す生涯学習	ライフサイクルとライフステージ 人間の生き方、在り方
7	生涯学習の推進体制	生涯学習行政
8	図書館における「情報」からの学習と施設	図書館での学び
9	博物館における「もの」からの学習と社会教育施設	博物館での学び
10	生涯学習とボランティア	社会教育の意義
11	地域社会と生涯学習	公民館・生涯学習センターと社会教育主事
12	生涯学習とまちづくり	地域／まちづくり
13	生涯学習の課題と展望Ⅰ（男女共同参画社会・高齢化社会）	男女共同参画社会・高齢化社会
14	生涯学習の課題と展望Ⅱ（情報化社会・グローバル社会）	情報化社会・グローバル社会 情報モラル、多文化・多言語共生社会
15	生涯学習の課題と展望Ⅲ（生涯学習の方法・社会の要請）	生涯学習の方法・社会の要請・環境問題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

図書館、博物館、生涯学習センター、その他社会教育施設を有効に活用すること。
関連の資料等を十分活用すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	論述試験を行う。
平常点評価	20 %	出席点、意見発表などを加味する。

定期試験を行うが、平常点を含む総合評価である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義はメモを取り、良く聞き、理解しようと努めること。テキストや生涯学習関係の書物を良く読み、生涯学習についての認識と知見を深めるよう努力すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教育学の根本問題	奥川、川村、崎野、竹熊、田中、村島／ミネルヴァ書房／4－623－04749－0／

他は適宜指示

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生涯学習	讃岐幸治・住岡英毅編著／ミネルヴァ書房／／
新しい時代の生涯学習	関口・小池・西岡・鈴木・堀著／有斐閣／／

他は適宜指示

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介

その他 / Others

計画的に学ぶこと。

小学校英語教育研究（S）

11428

担当者名 / Instructor　湯川 笑子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公立小学校で教える「外国語活動」、総合的な学習の時間の中であつかう英語活動、私立小学校や（特区指定や研究指定校の）公立小学校における教科としての英語を指導するための必要な知識と技能を身につける。特にカリキュラム上の「外国語活動」やその他の英語の扱い方の位置づけ、外国語習得と教授法の理論、英語基礎知識、実際の指導案の類型や望ましい指導法について概要を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

1.2011年完全実施の学習指導要領における「外国語活動」の位置づけとそれ以外の英語教育のねらいと内容を理解する。
2.小学校英語指導のために必要な正確な英語の音素の発音、クラスルームイングリッシュ、小学校英語活動・教育の中で扱う英語表現やダイアローグを学ぶ。
3.外国語習得、外国語教授法とその歴史的な変遷について基礎的な知識を得る。
4.コミュニケーション能力という概念、および英語を使ってコミュニケーション能力を育てる方法について学ぶ。
5.小学校英語指導のための望ましい指導案と実際の指導方法を知り、指導案が書けるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に該当する科目はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	この授業のねらいと進め方、学習指導要領における英語活動の目的、カリキュラム上の他のタイプの英語教育	小学生用の英語リスニング力を知る、英語の音素練習1
2	日本の小学校英語教育導入の歴史的変遷、海外の初等外国語教育、外国語習得のメカニズムと外国語教授法のタイプ	小学生の英語スピーキング力を知る、英語の音素練習2
3	早期英語教育と国語力、バイリンガル育成と学校英語教育との対比	授業例1、クラスルームイングリッシュ練習1
4	国際理解教育と小学校英語との関連、実践例	授業例2、クラスルームイングリッシュ練習2
5	『英語ノート』のカリキュラム内容と指導法　5年生	授業例3、クラスルームイングリッシュ練習3
6	『英語ノート』のカリキュラム内容と指導法　6年生	授業例4、英語表現・ダイアローグ1
7	中間テスト	英語表現、ダイアローグ2
8	1時間の授業の組み立て方、フォニックスの指導、	歌、チャンツ、ゲームの効果的な使い方
9	1単元の構成要素、タスクという概念	モジュール用のフレーズ練習の効果的な使い方
10	読み聞かせと様々な絵本の活用、読み聞かせから文字の認識と児童自身による読みへ	
11	教材（カード、pptスライド）・教具（CD、パソコン、スマートボード）の使い方	英語表現、ダイアローグ3
12	授業の善し悪しを評価する（授業分析シート）	英語表現、ダイアローグ4
13	児童の学びを評価する（評価の観点、評価の方法、児童へ返す評価）	英語表現、ダイアローグ5
14	最終課題にとりくむ（1単元の授業案、教具、教材）	
15	最終課題を作成する（1単元の授業案、教具、教材）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

教科書の指定された箇所は必ず読んでから授業にのぞむこと
子ども社会専攻小学校教員養成課程サポートセンターや文学部学校教育臨床研修室（研心館3階）にある資料や授業ビデオなどを積極的に参照してみておくことがのぞましい
全国で開催される公開授業、研究会に参加してできるだけ多くの実践にふれておくとよい

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中に行う中間テスト（40%）、学期末の最終課題（40%）、日常のミニレポートや授業参加（20%）を総合的に判断する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるだけ英語に親しんでおいてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

小学校英語で身に付くコミュニケーション能力	湯川笑子・高梨庸雄・小山哲春／三省堂／／
小学校学習指導要領「外国語活動」解説	文部科学省／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校英語教育の進め方	岡秀夫・金森強／成美堂／4-7919-7141-8／
小学校学習指導要領解説「外国語活動」	文部科学省／東洋館出版社／4491023778／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

小学校英語授業研究 (S)

11994

担当者名 / Instructor　田縁 眞弓

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公立小学校で教える「外国語活動」、総合的な学習の時間の中であつかう英語活動、私立小学校や（特区指定や研究指定校の）公立小学校における教科としての英 語を指導するための必要な知識と技能を身につける。特に公立小学校での「外国語活動」の望ましい指導法が考案・実践できるように演習を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1.2011年完全実施の学習指導要領における「外国語活動」とそれ以外の英語教育のねらいと指導実践の方法を理解し、「外国語活動」の指導案を書くことができる。
2.「外国語活動」の模擬授業ができる。
3.小学校英語指導のために必要な、正確な英語の音素の発音、クラスルームイングリッシュ、小学校英語活動・教育の中で扱う英語表現やダイアローグを習得する。
4. 小学校英語授業を見て、その善し悪しが判断でき、改善案を作ることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

小学校英語教育研究

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	この授業のねらいと進め方、学習指導要領における英語活動の目的、指導案例	自己紹介（名前、挨拶、出身、誕生日）およびフォニックスジングルの指導の体験と英語練習
2	自己紹介（既習のことに加えて、好きなこと、もの、趣味など）の指導の単元構成、復習の仕方 およびチャンツと歌の活用について体験と英語練習	
3	数、形、色、朝食（昼食）のメニュー、文化比較や自己表現と絡めてこのトピックと指導に必要な英語表現の練習、教材の収集と加工	
4	絵本の活用と実習、教材の作成と提示	
5	これまでにでてきた、指導方法の実習、指導に必要な英語の練習、	
6	1時間の指導の組み立て方、指導者と指導形態、マルチメディア教材およびICTの活用法	
7	指導に必要な英語テスト、および、教案作成、模擬授業準備	
8	サンプル授業視聴、模擬授業準備	
9	実践	模擬授業　色やそれにからめたもの（動物、食べ物，衣服他）の学習を含む授業 模擬授業　朝食もしくは昼食のメニューについての学習を含む授業
10	実践	模擬授業　読みきかせの学習を含む授業 模擬授業　時刻やスケジュールの学習を含む授業
11	実践	模擬授業　動作動詞（スポーツ、お手伝い、一日の行動）の学習を含む授業 模擬授業　数字や方向の学習を含む授業
12	実践	模擬授業　季節と季節の行事の学習を含む授業 模擬授業　文字の指導とフォニックスの学習を含む授業
13	実践	模擬授業　テーマ未定 模擬授業　テーマ未定
14	実践	模擬授業　テーマ未定 模擬授業　テーマ未定
15	まとめと課題	ディスカッション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中に行う中間テスト（40%）、模擬授業の実践（40%）、日常のミニレポートや授業参加（20%）を総合的に判断する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校英語教育の進め方	岡秀夫・金森強／成美堂／4-7919-7141-8／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

身体表現論（S）

10136

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、自然・社会・文化などと深くかかわり様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。こうしたことをふまえて、この講義では、1. 身体表現の概念と諸相　2. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と自然・社会・文化とのかかわりを考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

身体表現とは何か、さらに身体表現は自然・社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術と社会にかかわる科目
文化人類学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等
2回	非言語コミュニケーションの概念	肉体、姿勢、しぐさ、空間、色彩、時間等
3回	非言語コミュニケーションと社会・文化	高コンテキスト～低コンテキスト国・文化と非言語コミュニケション
4回	非言語コミュニケーションの分類・役割及び30分間の確認テスト	確認、修飾、代用、コミュニケーション管理、矛盾等
5回	舞踊（様式化された身体表現）の概念・現代における舞踊の意味	舞、踊り、舞踊、ダンスという言葉の意味、舞踊における聖と俗等
6回	日本の伝統舞踊（1）	古典舞踊（雅楽、能楽、歌舞伎、日本舞踊等）と民俗舞踊（神楽、田楽、風流等）のとらえかた
7回	日本の伝統舞踊（2）	表現の様式と技法、表現要素の複合化、序破急の形式、道行の形式、舞踊動作の特性
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	非言語コミュニケーションに関する多面的な討論とプレゼンテーション
9回	世界の舞踊（1）	アフリカ（特にナイジェリア）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
10回	世界の舞踊（2）	アジア（特にインド）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
11回	世界の舞踊（3）	欧米の舞踊（特にフォークダンス、バレエ）と自然・社会・文化
12回	現代の舞踊（4）と30分間の確認テスト実施	欧米の舞踊（特にモダンダンス、ポストモダンダンス、コンテンポラリーダンス）と自然・社会・文化
13回	クロスオーバーする現代の舞踊	現代美術、パフォーマンス等における身体表現、オルターナティブスペース
14回	舞踊教育の思潮と動向、生涯学習時代における舞踊教育	アメリカ、イギリス、日本における舞踊教育の流れ、生涯学習時代における舞踊学習内容
15回	各ジャンルごとの舞踊の特性、聖と俗に関する舞踊、まとめ	身体表現と形式、舞踊の構造と機能、現代社会における舞踊の意味

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する参考文献を読み、自ら関係する文献を検索し、さらには実際の舞踊公演を鑑賞し、身体表現に関する知見を広め深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度などを評価する。
平常点評価	40 %	2回の確認テスト実施と1回のレポート提出：どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

無意識に行っている身体表現を意識化させ、その表現は、自然・社会・文化と深く結びついていることを考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
舞踊学講義	舞踊教育研究会／大修館書店／4-469-26197-1／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
非言語コミュニケーション	マジェリー/F/ヴァーガス／新潮社／4-10-600334-1／
しぐさの世界	野村雅一／日本放送出版協会／4-14-001429-6／
異界へのメッセンジャー	姫野　翠／出帆新社／4－86103－016－1／
おどりの美学	郡司正勝／演劇出版社／4-900256-40-4／
渡来の祭り　渡来の芸能	前田憲二／岩波書店／4－00－024123－0／
舞踊と社会	遠藤保子／文理閣／4-89259-375-3／
手の日本人　足の西欧人	大築立志／徳間書店／4-19-554087-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スクールソーシャルワーク論（S）

13494

担当者名 / Instructor　佐々木 千里

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スクールソーシャルワークは、アメリカにおいてはソーシャルワークの草分け的分野のひとつとして長い歴史をもつものの、日本ではまだ最近知られるようになり、制度化された分野です。
この講義では、スクールソーシャルワークの理解と応用、課題などについて研究します。

到達目標 / Attainment Objectives

子どもの最善の利益を追求する活動であるスクールソーシャルワークを理解したうえで、スクールソーシャルワーカーとして活動することを念頭においての価値・知識・技術を学びます。また、教員などがスクールソーシャルワーカーを活用する場合やスクールソーシャルワーク的な視点を身につけた教育活動のありようを学びます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スクールソーシャルワークの概要	
2	ソーシャルワークの視点の確認	児童福祉分野のソーシャルワーク
3	スクールソーシャルワークの担い手として	
4	日本の学校の特性と支援　初等教育	
5	日本の学校の特性と支援　中等教育	
6	アセスメント　情報の収集と分析	
7	校内ケース会議	スクールソーシャルワーカーの支援とコーディネーターの役割
8	関係機関連携ケース会議	
9	児童虐待について	
10	発達障害について	
11	非行・問題行動について	
12	事例検討1	
13	事例検討2	
14	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー	
15	スクールソーシャルワークの展望	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

スクールソーシャルワークに関するものはもちろんのこと、学校や子どもに関する研修会等に積極的に参加するなど、課題意識を強くもってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業の最後に、その回の授業の内容に関係する「ふりかえり」を書いて提出してもらいます。テーマについては、その都度指示をします。なお、提出は当該回授業に出席した者についてのみとし、授業内容の理解度に応じ、3～6点で評価します。また、課題レポートを1本、最終授業日に提出することとします。課題については、授業の中で指示します。課題レポートは、1～10点で評価します。

2008年度から、スクールソーシャルワークが文科省により制度化されています。さまざまなメディアの報道に関心をもっておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スクールソーシャルワーカー養成テキスト	日本学校ソーシャルワーク学会編／中央法規出版／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スクールソーシャルワークの可能性	山野則子・峯本耕治　／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://jssssw.com/　日本学校ソーシャルワーク学会

その他 / Others

生命倫理学（S）

15700

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

生命科学と先端医療の急激な発達により，「生・老・病・死」の諸相は大きく変容しようとしている。本講座では，生命倫理の問題群の倫理的・法的・社会的な問題を考える。
本年度はとくに先端医療の発達と「生命の終わり」をめぐる問題に焦点を当て，そこから考察を発展させる。

到達目標 / Attainment Objectives

・生命倫理をめぐる現代的課題を認識する。
・一市民としてどのように問題を理解し対処すべきか，多角的・多元的に判断するための基盤を獲得する。
・「安楽な死」「尊厳ある死」の言説をめぐる問題についての認識を深め，分析し，考察するための観点を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期に開講されている同担当者による教養科目「生命科学と倫理」を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	ガイダンス／授業の概要と説明	
2.	導入：映画『海を飛ぶ夢』が問いかけるもの（1）映画視聴	
3.	導入：映画『海を飛ぶ夢』が問いかけるもの（2）論点の抽出	
4.	死の「再定義」：「脳死」という基準の登場と背景（1）臓器移植という問題	
5.	死の「再定義」：「脳死」という基準の登場と背景（2）「植物人間」がもたらす表象	
6.	カレン・アン・クインラン事件（1）事件の概要と裁判の経緯	
7.	カレン・アン・クインラン事件（2）ヒポクラテスの誓いと医学	
8.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（1）慈悲による死	
9.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（2）ナチス・ドイツ下の「安楽死」計画	
10.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（3）ナチス後の安楽死運動	
11.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（1）自律原則と「死ぬ権利」	
12.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（2）ホスピス・ムーブメントとメメント・モリ	
13.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（3）スピリチュアリティ・ブームとデス・エデュケーション	
14.	隠された問い：経済をめぐる問題	
15.	残された問い：承認をめぐる問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

生命科学と生命倫理に関連する問題は，ドキュメンタリーや新聞などで日常的に話題になる。また，医療問題をとりあげた映画やTVドラマも多い。複眼的な視点で活用し，自らの問題意識を深める機会にしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	40 %	出席の他、授業終了後に，コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。

一定以上の出席が無い場合，評価対象としない
授業中の私語、途中入退出は厳禁します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生死の問題は，誰もが自分自身の歴史のなかで自分自身を織り込んで考えることのできるテーマである。問題から「自分」を棚上げせず，自身を織り込んで考えることを大切にしつつ，そこにとどまることなく，生死をめぐる社会構造や法理・諸制度の変遷，死をめぐる言説の歴史について，授業で紹介する資料をもとに，各自が自主的・積極的な学習を進めてほしい。

教科書 / Textbooks

大谷いづみ『「尊厳死」言説の誕生』(仮題，勁草書房，2009)を刊行予定。後期開始までに出版されていればそれを用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脳死・臓器移植の本当の話	小松美彦／PHP新書／／
死ぬ権利——カレン・クインラン事件と生命倫理の転回	香川知晶／勁草書房／／

参考文献は以上のほか、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

世界の子どもと学校（S）

13490

担当者名 / Instructor　高藤 三千代

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近代に誕生した「子ども観」、「子ども時代」のあり方と学校教育制度の関係性の考察を踏まえ、グローバル化する社会における人間形成と学校のあり方を探る。その手続きとして、日本に暮らす外国人在留・定住者家族の体験を手掛かりに、社会・経済のグローバル化の下、国家間の移動を余儀なくされる子どもたちの学校体験を考察する。そして、学校という現実の多元性、オルタナティブ教育の実情を世界の様々な学校の事例に見ていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・「教育」「学校」「子ども時代」の自明性を疑い、その成り立ちの歴史・社会的背景を理解する。
・国家間の移動を余儀なくされている子どもたちが置かれている教育状況と、その政治・経済・社会的背景を理解する。
・以上から既存の学校制度を批判的に考察し、新たなかたちの人間形成と学校のあり方を模索する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	概要	授業計画、進め方、成績評価方法等の説明
2~3	近代と子ども	近代家族、学校制度、大人と子ども、労働と遊び
4~5	グローバル化・労働・国際移住	移住の歴史・政治・経済的背景、国籍・市民権・国民国家
6~7	グローバル化する社会と教育問題	就学と国籍、移住と母語と学校言語、家族と教育、アイデンティティの葛藤、外国人学校
8~9	近代学校制度の成り立ちと学校化社会	国民の形成、国語の普及、学級の発明、通過儀礼、教育の標準化
10~11	学校という現実の多元性と人間形成	人間形成の文脈としての国民国家と学校、実践共同体への参加、ハビトゥスの形成、
12~14	オルタナティブ教育	ホーリスティックな視点と学びのかたち、多数派（マジョリティ）、少数派（マイノリティ）、社会的拘束と創造性、共生
15	グループ討論の講評とまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

主に講義形式をとるが、適宜小グループに分かれての討論の場を設ける。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業内容に関連するテーマを各自で自由に設定し論述（4000字程度）。必ず文献を1点以上参照すること。講義内容や授業内の討論を活かしているか、自身の考察を展開させているか、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点評価	40 %	（授業態度10%[討論への参加]+覚書30%[文献・映像資料・講義に関するコメント・意見・感想・質問等々をまとめたもの。B5・1枚程度]） 覚書は遅れず3回以上提出のこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

配布文献は必ず読んで授業に参加すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『子どもの誕生』	フィリップ・アリエス・著／みすず書房／／授業で適宜参照する
『世界の子どもと学校：教育制度から日常の学校風景まで』	二宮皓・編著／学事出版／／授業で適宜参照する
『オルタナティブ教育：国際比較に見る21世紀の学校づくり』	永田佳之・著／新評論／／授業で適宜参照する

『外国人の子どもの不就学:異文化に開かれた教育とは』	佐久間孝正・著／勁草書房／／授業で適宜参照する
『脱学校社会』	イヴァン・イリイチ／東京創元社／／授業で適宜参照する
『内発的発展と教育』	江原裕美／新評論／／授業で適宜参照する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

道徳教育論（S）

12666

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
およそ人が、人として、人と共に生きていく上で、何らかの法的規制に加えて、内的な規制としての道徳を欠くことはできない。本講座では、善悪に傾く人間の両義性の認識、道徳が持つ「人間＝ジンカン」としての本質的特徴に着目して、道徳をめぐる今日的な問題を学校における課題との関連で考える。

到達目標 / Attainment Objectives

・道徳教育の概観を知る。
・子どもたちの実情を踏まえた上で「よく生きること」を希求する教育的意味を考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	ガイダンス／授業の概要と説明	
2.	子どもたちが生きる世界（1）	
3.	子どもたちが生きる世界（2）	
4.	「道徳」とは何か	
5.	道徳教育の歴史と学習指導要領	
6.	道徳性の発達理論	
7.	ケアの倫理と道徳教育	
8.	実践例の検討（1）	
9.	実践例の検討（2）	
10.	現代社会と道徳教育（1）『青い眼・茶色い眼』の実践	
11.	現代社会と道徳教育（2）『青い眼・茶色い眼』の実践（2）	
12.	現代社会と道徳教育（3）『青い眼・茶色い眼』の波紋と変容	
13.	「道徳」で何をどう教えるか～体験／実験／情報	
14.	人間の両義性：二分法を超えて	
15.	まとめ：問いとともに生きる	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	40 %	出席，授業中に課すコミュニケーション・ペーパーなど

一定以上の出席が無い場合，評価対象としない
授業中の私語、途中入退出は厳禁します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 道徳編	文部科学省／／／

参考書 / Reference Books

授業で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特別活動・学級経営論（S）

10922

担当者名 / Instructor　吉見 博史

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本国憲法にのっとり、わが国の未来を切り拓く教育の基本を確立し、その振興を図るために制定された教育基本法に、
「我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。」
「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなくてはならない。」
とあります。

本授業は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自分の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」ことを目標とする「特別活動」を切り口として、実践的見地から、学校教育活動のあり方について、自らの考えを生み出し、それを実践していく資質を身につけることを目指します。

そにため、授業の中で、学習計画案等の原案づくり、発表、話合い等、ワークショップを行います。

到達目標 / Attainment Objectives

Ⅰ「特別活動」という教科外活動の性質と領域・内容について整理し、学校教育においてどのような役割を果たすのかを理解する。
Ⅱ「特別活動」の指導のあり方について、どのように取組が求められるかを理解し、教科学習、道徳や総合的な学習の時間との効果的な連携のあり方などについて考えられるようにする。
Ⅲ「特別活動」の計画を立てることを通して、教育現場で求められる技能や指導力を身につけていこうとする姿　勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代学校教育論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	学習計画と学習の進め方、評価等についての説明	ワークショップのグループ分け、自己紹介
第2回	新学習指導要領における特別活動の目標と内容	教育課程における特別活動の位置づけと役割
第3回	望ましい学級集団の育成	学級目標の具現化のための学級活動、学級経営案他
第4回	一人一人を生かす学級づくりのために	児童理解の方策、日記指導、児童のカルテ等
第5回	自ら考え自ら学ぶ学習集団の育成	教科学習の中で、グループ活動、話し合い活動等
第6回	道徳教育との関連	特別活動を生かした授業の構築
第7回	文化的行事、健康安全・体育的行事の計画実施について	一人一人の可能性を拓く学芸会、運動会他
第8回	遠足・集団宿泊的行事の計画実施について	責任感、連帯感を育てる遠足、野外学習、修学旅行他
第9回	勤労生産・奉仕的行事、儀式的行事の計画実施について	社会奉仕の精神を養う体験活動、新しい生活への動機づけになる入学式、卒業式他
第10回	家庭、地域との連携について	学級だより、文集、授業参観懇談会他
第11回	学級の諸問題への対応について	生徒指導、いじめ問題、携帯電話に関する問題、保護者対応他
第12回	放課後等の学習について	クラブ、委員会、部活、放課後学び教室、土曜学習、ジュニア京都検定他
第13回	地域と連携した体験学習等について	ふれあい土曜塾推進事業、みやこ子ども土曜塾
第14回	教師として求められる資質と能力	大切にしたいこと、やりたい教育実践、育てたい子ども像
第15回	グループ討議の講評とまとめ（テスト）	「人間関係を結び、よりよい生活を築く自主的、実践的態度を育てる特別活動の役割」

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

可能であれば、特定の日時を設定して、近隣の小学校等にお願いして、学校参観する機会を設けたいと考えています。予定が決定した時点で、授業の中でお知らせします。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	学校教育活動における特別活動の意義、役割の理解とともに、児童理解を生かした学級経営実践のための留意点の理解度を確認します。

学級経営案や学校行事計画実施案等の作成物、グループの話合いを通して考えたこと等のレポートの提出及び内容を評価します。

授業を受けている間、日常的にも関心を持って考えるため、継続して出席することを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学校現場の教育活動の様子や児童の実態を理解するため、時間の余裕があれば、学校ボランティア等を体験することをお勧めします。
ア. 学級担任の補助　イ. 各教科等のティーム・ティーチング補助　ウ. コンピュータや理科実験等の実技の　補助　エ. 特別支援の必要な児童・生徒への支援　オ. 障害のある児童・生徒の学習、生活の支援　カ. 外国　人児童・生徒の学校生活における相談、コミュニケーション支援、通訳　キ. 放課後のおける子どもの学習相　談・遊び　ク. 図書の読み聞かせ、図書館の運営補助　ケ. その他
末尾のホームページへアクセスを。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説特別活動編	文部科学省／東洋館出版／978-4-491-02379-3／￥128＋税

平成23年度より新学習指導要領による教育課程が全面実施されます。新学習指導要領は、昨年3月に告示されました。授業では、昨年8月に出された小学校学習指導要領解説特別活動編にもとづいて行います。
必要に応じて参考資料のプリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領	文部科学省／東京書籍／978-4-487-28695-9／￥227＋税
小学校新学習指導要領ポイントと学習活動の展開　特別活動	宮川八岐編／東洋館出版／978-4-491-02414-1／￥1，900＋税

学習指導要領には、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のすべてについて目標と内容が書かれています。教育課程の全体について理解しておく方がよいと思います。
実際例を知るため、新学習指導要領を意識した実践事例の記された書籍の一例を挙げています。その他、書店等で、実践記録等の載った書籍に触れてください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mext.go.jp/a.menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm

その他 / Others

http://www.city.kyoto.lg.jp/kyouiku/page/0000002772.html
（京都市教育委員会　学生ボランティアの募集）

特別支援教育論 (S)

12348

担当者名 / Instructor　朝野 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の学校教育では、従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めた障害のある児童生徒に、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行っていく特別支援教育の必要が国際的にも国内的にも高まってきている。個々の障害についての基本的知識の理解を促すとともに、発達段階、生活状況などにも配慮した一人ひとりの子どもたちの特別なニーズを把握して、学習や生活上の困難を改善又は克服するために必要な方法を検討していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・教職を志す者として障害についての最低限の知識と理解を目指す。
・特別支援教育の意義について、日本における障害児教育の歴史的変遷から現状と課題について理解する。
・特別支援教育、特に、障害種別によらない教育のあり方や発達障害について理解を深める。
・「ノーマライゼーション理念」の具現化に向けての今日的課題について考察する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門科目ー専門科目の中の障害児の教育、福祉、スポーツなどに関する講座。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	障害児教育をめぐる動向ー特別支援教育とは？	特別支援教育の理念と基本的な考え方、学校制度、福祉・医療・労働等に関わる様々な制度などの概括. 「自分と障害児教育との関わり」についてレポート①
第2回	障害児教育の発展の歴史(1)(義務教育制以前:近世) 障害児教育の発展の歴史(2)(義務教育制以降:近代以降)	近代盲・聾教育の始まり、明治以降の障害児教育、知的障害教育・肢体不自由教育・病弱教育の始まり
第3回	障害児教育の発展の歴史(3)(第2次世界大戦以降)憲法、教育基本法、学校教育法の制定と障害児教育	学校教育法の制定と障害児教育、養護学校の義務制施行後の教育
第4回	障害児教育の発展の歴史(4)(養護学校義務制移行から特別支援教育へ) ＜振り返り自己確認テスト＞	養護学校、特殊学級の発展、軽度の障害のある児童生徒の教育の充実、国際障害者年と障害者対策に関する計画
第5回	障害児教育の制度(1)①就学指導 ②特別支援学校 ③特別支援学級	特別支援教育の対象となる幼児児童生徒、学校教育法施行令、就学制度
第6回	障害児教育の制度(2)①通級制度 ②特別支援コーディネーター	通級による指導、教育課程の編成と配慮事項
第7回	特別支援教育のあり方(1)ー小学校・中学校における特別支援教育	学習指導要領と教育課程の編成および配慮事項、法令障害児教育の歴史および制度についてのまとめ[確認小テスト]
第8回	特別支援教育のあり方(2)ー特別支援学校における教育①	盲・聾・養護学校の学習指導要領の歴史、特別支援学校の教育の概要、障害種別への対応・視覚・聴覚・知的障害
第9回	特別支援教育のあり方(3)ー特別支援学校における教育②	特別支援学校の教育課程の特色、教育課程編成の特色、自立活動、障害種別への対応:肢体・病弱・重複障害
第10回	特別支援教育のあり方(4)ー特別支援学校における教育③	センター的機能とその役割、特別支援コーディネータの役割、専門機関との連携と協働、交流及び共同学習
第11回	特別支援教育のあり方(5)ー地域に根ざす特別支援教育:放課後や長期休暇での障害児者の生活、余暇活動、家族	障害のある子供の余暇活動、地域生活、家庭と家族、福祉施設、障害者自立支援法、障害児タイム・ケアー事業
第12回	特別支援教育のあり方(6)ー地域に根ざす特別支援教育:地域ネットワークと支援のあり方 ＜振り返り自己確認テスト＞	コミュニティ・スクール、ボランティア活動、広域特別支援連携協議会、コミュニティにおける双方向の援助
第13回	国際的な特別支援教育の動向(1)ー特別なニーズ、サマランカ宣言	SEN、「万人のための教育」宣言の理念、ユニバーサル・デザイン、バリア・フリー社会、ノーマライゼーション
第14回	国際的な特別支援教育の動向(2)インクルーシブ教育、バリアフリー社会、慈悲から権利へパラダイム転換、	国際障害者年、障害者の権利条約、びわこミレニアム・フレームワーク、クラスター・オブ・スクール
第15回	まとめ・評価＜振り返り自己確認テスト＞	今後の特別支援教育の展望、新しい学習指導要領に改善点、新しい福祉施策 「自分と特別支援教育との関わり」についてレポート②

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

京都市における特別支援教育に関する公開講座や行事への参加の勧誘を行い、見聞を広める（適宜案内を提示する）

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①自らと特別支援教育とのかかわりについてレポートを課す。授業で扱った内容を生かして論理的説得力をもって記述されているかを見る。 ②授業で扱った特別支援教育に関わる人権・教育制度・福祉施策・援助活動などついての理解度の確認を、自己採点式の小テストを適宜行う。

日常の授業への積極的態度を評価する。そのため出席を最重要視する。20分以上の遅刻・3回以上の欠席ついては、特別支援教育についての課題を設定するので、提出をもって回復を検討する。
適宜コミュニケーションペーパーでもって講義についての感想を求め、疑問・質問に答える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特別支援学校教諭免許状取得に必要な科目であるが、知識的理解のみならず実践的、実証的態度を自ら養うためには、学外での特別支援教育に関する授業参観や講演会及び行事等を紹介するので、積極的に参加する意欲を持って欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
特別支援学校学習指導要領	文部科学省／東京書籍／／H21改正予定
盲聾養護学校学習指導要領及び解説書	文部科学省／国立印刷局／／旧版H11．3，H12．3
小学校・中学校学習指導要領	文部科学省／東京書籍／／H20改正

各講義毎に資料を配布するのでテキストとして使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達障害白書	日本発達障害福祉連盟／日本文化科学社／／2008版、2009版
輝けきょうの子どもたち	京都市総合支援学校長会／ミネルバ書房／／

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のWebサイトを検索して必要な情報を得て、確認をする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省特別支援教育課
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

その他 / Others

比較市民教育論 (S)

15725

担当者名 / Instructor　角田 将士、森田 真樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では，日本の明治期から現代までの各時期における市民教育の特質を概観するとともに，諸外国の事例としてアメリカ合衆国，イギリス，アジア諸国を取り上げ，各国における市民教育の特質を概観し，現代社会における市民教育の特質や課題を探求していく。

到達目標 / Attainment Objectives

日本，アメリカ合衆国，イギリス，アジア諸国における市民教育の特質と課題を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の目的と方法及び導入 （森田・角田）	
2	日本における市民教育(1)－近代学校の成立－ （角田）	
3	日本における市民教育(2)－近代化の推進と教育勅語体制－ （角田）	
4	日本における市民教育(3)－教育の軍国主義化－ （角田）	
5	日本における市民教育(4)－戦後教育改革－ （角田）	
6	日本における市民教育(5)－教育の保守化と高度経済成長－ （角田）	
7	日本における市民教育(6)－現代社会のなかの教育－ （角田）	
8	日本における市民教育(7)－授業のまとめとテスト－ （角田）	
9	諸外国における市民教育(1)－アメリカ合衆国の場合1－ （森田）	
10	諸外国における市民教育(2)－アメリカ合衆国の場合2－ （森田）	
11	諸外国における市民教育(3)－アメリカ合衆国の場合3－ （森田）	
12	諸外国における市民教育(4)－イギリスの場合－ （森田）	
13	諸外国における市民教育(5)－アジア諸国の場合－ （森田）	
14	諸外国における市民教育(6)－21世紀の市民教育をめぐる動向－ （森田）	
15	諸外国における市民教育(7)－授業のまとめとテスト－ （森田）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

問題意識を持って臨むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各担当者の内容ごとに8回目(角田担当分)15回目(森田担当分)に実施する。出席及びコメントペーパーによる。

出席及びコメントペーパーについては複数回，不定期を予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生同士のディスカッションなども行うので，まずは出席すること。

教科書 / Textbooks

授業内容に応じたレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本教育小史	山住正己／岩波書店／／
世界のシティズンシップ教育	嶺井明子編／東信堂／／

これ以外は，授業の中で適宜指示をする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マンガ文化論 (S)

15708

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：マンガというメディア／文化

「マンガを読む」というとき、われわれは必ずしもその「内容」だけを鑑賞しているわけではない。例えば雑誌連載で読むのか、それとも単行本で読むのかで、同じ作品から受け取る印象が異なることがある。また、マンガを原作にしたアニメやドラマと比較しながら読むこともあるだろう。われわれはいつ、どこで、どうやって、マンガに接しているのか。本講義では、「内容」分析ではこぼれ落ちてしまう、マンガの生産・受容の「形式」に着目するメディア論的アプローチから戦後日本社会におけるマンガの布置を考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

作者の「メッセージ」が読み取られるべきテクストとしてではなく、作者と読者との「あいだ」にあって両者をつなぐモノ＝メディアとしてマンガをとらえ、その「文化」としてのありようを言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

メディア文化論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　＜マンガ＞をどのように考えるのか？	
2	冒険者・手塚治虫(表現論1)	
3	劇画、この劇的なるもの(メディア論＆読者論1)	
4	少年週刊誌と読者の「成長」(メディア論＆読者論2)	
5	「ぼくら」の夢舞台(メディア論＆読者論3)	
6	少女マンガの＜革命＞(表現論2)	
7	“友情・努力・勝利”の方程式　課題：本宮ひろ志『男一匹ガキ大将』	
8	1970年代の「新しい波」 課題：大友克洋『気分はもう戦争』	
9	これってあたし？　課題：吉田秋生『河よりも長くゆるやかに』『桜の園』	
10	リスペクトとパクリのあいだ　課題：石ノ森章太郎＋島本和彦『スカルマン』ほか	
11	一人メディアの逆襲　課題：小林よしのり『ゴーマニズム宣言』	
12	ベタ・マンガ／メタ・マンガ　課題：相原コージ・竹熊健太郎『サルでも描けるまんが教室』	
13	そのマンガは誰のものか？(総括1)	
14	＜マンガ文化＞の現在(総括2)	
15	最終総括　＜マンガ＞はどのように考えられるのか？	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

メール提出による小課題は1960～80年代のマンガも含んでいる(上記授業スケジュール参照)ので、受講者はマンガ喫茶や専門店・古書店、図書館など、これらのマンガを閲覧・購読可能な場所をあらかじめ各自で確保しておくこと(「見つけられない」「手に入れられない」という理由で課題が提出されない場合も未提出とみなす)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で触れた論点をふまえたレポートを課す(4000字以上のレポートを予定)。
平常点評価	40 %	第7回～第12回までは、上記スケジュールに記載したマンガを事前に読み、感想をメールで提出する(詳細は授業プリントで提示する)。小課題のすべてを提出しなくても成績評価の対象とするが、最終レポートのみの提出では単位取得が相当に困難になるはずなので(おそらくはほとんど不可能)、単位取得を目指す場合は小課題もできるだけ提出すること。ちなみに、2008年度の「マンガ文化論」単位取得率(単位取得者÷履修登録者)は50.0%であった。なお、いわゆる「出席点」は存在しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガ産業論	中野晴行／筑摩書房／／
マンガ学入門	竹内オサム・夏目房之介（編著）／ミネルヴァ書房／／
テヅカ　イズ　デッド　ひらかれたマンガ表現論へ	伊藤剛／NTT出版／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディアリテラシー論（S） §　メディア・リテラシー論I（G）

13286

担当者名 / Instructor　浪田 陽子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、メディアは政治・経済・社会・文化など我々の生活のあらゆる側面に影響を及ぼしている。このメディア社会を主体的に生きるには、メディアをクリティカルに読み解き、社会におけるメディアの役割や特性を理解し、また自らメディアを制作する力、すなわちメディア・リテラシーが不可欠である。本講義においては、メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状などを実践を通して学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・ メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状など基本的な事柄を理解する。
・ メディア分析やメディア制作課題などのグループ活動、およびメディアログ等の課題によって、メディアをクリティカルに読み解き、メディアを制作する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	メディア、メディア社会
第2回目	メディア・リテラシーとは何か	メディア・リテラシー
第3回目	メディア・リテラシーの基本概念	リプレゼンテーション（representation）、イデオロギー、価値観
第4回目	メディアとオーディエンス	アクティブ・オーディエンス、エンコーディング・デコーディング
第5回目	広告を考える（1） テレビ・コマーシャル	映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法
第6回目	広告を考える（2） 消費社会	消費社会、ブランド化（Branding）
第7回目	広告を考える（3） 子どもへのマーケティング	ターゲット・オーディエンス
第8回目	カルチュラル・スタディーズとメディア・リテラシー	カルチュラル・スタディーズ、サブカルチャー
第9回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（1） ジェンダー	ジェンダー
第10回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（2） 民族と文化	民族、エスニシティー、文化
第11回目	メディアと暴力	バイオレンス、モラル・パニック
第12回目	産業としてのメディア	メディア・コングロマリット、民主主義とメディア
第13回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（1）/ グループ・プレゼンテーション（1）	メディア・エデュケーション
第14回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（2）/ グループ・プレゼンテーション（2）	カリキュラム、ネットワーキング
第15回目	グローバル時代のメディア / グループ・プレゼンテーション（3）	グローバル化、グローバルメディア、デジタルメディア

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・日常生活において自分が使うメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。
・メディア制作はグループで活動する時間を授業内にも設けるが、授業時間外に資料を集めたり取材や撮影を行わなければならないこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①メディアログ（10%） ②メディア分析レポート（15%） ③コミュニケーション・ペーパー（45%） ④グループ・メディア制作（30%） 詳細は以下の「備考欄」を参照のこと。

・ メディアログ（個人でつけるメディア日記）は第3回目の授業で、メディア分析レポートは第8回目の授業で提出する。分析方法等は授業で紹介・実践する。
・ コミュニケーション・ペーパーは、授業の内容をよく理解した上で、メディア分析やその他の授業内課題を記述するものである。単なる出欠確認ではなく、記述内容の出来によって0～5点で評価する。
・ グループ・メディア制作は、4、5人のグループでメディア（5分程度のビデオクリップや新聞記事など）を制作し、後半3回の授業で発表・ディスカッションを行う。評価は製作技術の高さではなく、この講義で学んだメディア・リテラシーの基本概念を理解し、自分たちのメッセージや制作の意図が伝わるものになっているかどうかを基準とする。成績はグループ・ワークへの貢献度や課題の出来を加味して、個人ごとにつけ

る。グループは、他回生・他学部生がバランスよく混ざるようこちらで指定する。
・ 受講者の人数等により、メディア制作課題の内容などに変更が出ることもあるかもしれないが、その際はすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・ メディア分析やメディア制作など、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。全員でアイディアを出しあい、また互いの意見を尊重しながら協力してグループワークを行うことが要求されることを理解した上で受講登録すること。
・ ほぼ毎回行われるメディア・テクスト分析は日常点であるとともに、この講義の集大成であるメディア制作課題の練習・準備でもあるので、毎回の出席と能動的な参加が必須である。初回に授業の進め方や課題、評価方法について詳細な説明をするとともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
・ QRコードシールを毎回持参すること。
・ 遅刻は他の受講者の迷惑になるだけではなくグループ活動などに支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等は、授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版　Study Guide　メディア・リテラシー[入門編]	鈴木みどり編／リベルタ出版／4947637595／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーの現在と未来	鈴木みどり編／世界思想社／4790708969／
メディア・リテラシー教育：学びと現代文化	D. バッキンガム著、鈴木みどり監訳／世界思想社／4790712265／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Media Awareness Network http://www.media-awareness.ca/english/index.cfm
FCT　メディア・リテラシー研究所　http://www.mlpj.org/index.shtml

その他 / Others

臨床人間学（S） § ライフデザイン論（S）

15605

担当者名 / Instructor　松島 京

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちはいろいろなものを抱えながら生活をしている。さまざまな葛藤、苦しみや困難は、私たちの人生の中に訪れないことはない。抱え込んでいるそれらを、私たちはどのように理解しどのように対応することができるだろうか。
「心の世紀」「心のケア」という言葉が表すように、「心」や「心理」への関心は高い。しかし、今後いっそう複雑化する社会状況の中で、人間を理解しサポートする際には、総合的・多面的に捉える視点が必要となるだろう。
本講義では、苦しみや困難を抱えながら生きることや、それらを生み出す社会的な装置に注目しながら、「人間」が「生きる」こと、それに対する援助について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

臨床的な援助課題を社会問題という視点から捉えなおすことができる。
臨床的な援助課題に対するアプローチの仕方について理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

臨床社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と導入／臨床とはなにか	講義の到達目標、講義の進め方、成績評価方法／ベッドサイド、援助課題と社会問題
第2回	臨床人間学の視点（1）	ライフコース、ライフデザイン
第3回	臨床人間学の視点（2）	近代家族、親密性
第4回	臨床人間学の視点（3）	ジェンダー、セクシュアリティ
第5回	臨床人間学的課題（1）	DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待
第6回	臨床人間学的課題（2）	戦災、災害、事故
第7回	臨床人間学的課題（3）	生、死、病
第8回	臨床人間学的課題（4）	性、アイデンティティ
第9回	ケアと回復（1）	careとcure、相互作用性
第10回	ケアと回復（2）	語ること、物語の再構築、聴くこと、共感、受容
第11回	ケアと回復（3）	配慮と責任、他者性、エンパワメント、アドボカシー
第12回	当事者・家族と援助者（1）	ケアの非対称性、依存する／される、支配／被支配
第13回	当事者・家族と援助者（2）	二次受傷、共感疲労、バーンアウト
第14回	臨床人間学の可能性	共生、連帯、再生
第15回	講義総括／あらためて臨床人間学とは	あなたにとって臨床人間学とは／成績評価方法についての最終確認

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

ふだんから、新聞・小説・映画などに触れ、社会的なテーマや人間関係のあり方に興味関心を持つこと。また、講義中に浮上した疑問点や問題点については、講義担当者への質問もよいが、併せて自ら調べることも進めていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	講義中に数回の小レポートを課す。講義内容の理解度に応じて評価する。講義に対する主体的な取り組みを評価する。いわゆる「出席点」による加点は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義スケジュールは目安である。現代的なテーマを持つ講義なので、時事問題を組み込んでいくこともある。その際はスケジュールが若干変動する場合もある（大きく変動することはない。また事前に連絡をする）。
出席を前提としで講義を進める。随時、受講生によるディスカッションやグループワークなども組み込んでいくので、講義への積極的な参加が望まれる。

教科書 / Textbooks

指定しない。必要な資料は講義中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に必要に応じて紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に必要に応じて紹介する。

その他 / Others

アジアの福祉研究（S） § アジアの福祉研究（I）

13353

担当者名 / Instructor　桂 良太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アジアの高齢者とこどもに焦点をおきながら、10年後、20年後のアジアの社会情勢を考える講座である。アジアの高齢者やこどもまたは障がい者の人権保障がどのように守られるか、守られなければならないかについてさまざまな角度から分析したことがらについて考察しながら、ディスカッションしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

未来のアジアの情勢をしっかり人口統計学的な背景からみた場合の予測をもとに、高齢者やこども、とくに障がいをかかえたこどもたちの人権保障がどのように世界的なパースペクティブ（視角）から構築されなければならないかについて検討することと、それによって今後のわが国の社会福祉のあり方を考えることが本講座の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

国際関係論、国際社会学、および国際福祉の視点や分析方法などをしっかりおさえながら講義にのぞんでほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義をはじめるにあたって一講義のすすめかた、目標などについて-	講義の目標
2	今なぜアジアの社会福祉なのか！？	アジア型社会福祉、欧米型社会福祉
3	貧困・不平等の福祉	貧困・不平等の福祉
4	こどもの福祉	こどもの福祉、児童問題、児童憲章
5	ジェンダーと福祉	ジェンダーと福祉
6	障がいと福祉	障がいとは何か、ディスエイブル
7	高齢者と福祉	高齢化、高齢社会、高齢者問題、介護と生きがい
8	難民と福祉	難民問題
9	社会的排除と福祉	社会的排除
10	エコロジーと福祉	持続的発展
11	社会開発と福祉	社会開発
12	国際機関・国際NGO活動と国際協力	グローバル社会、国際協力、ODA、国連
13	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策　東アジア（①中国②韓国）	中国の社会福祉、韓国の社会福祉
14	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策　東南アジア（①シンガポール②タイ③その他）	シンガポールの社会福祉、タイの社会福祉、
15	講義を終えるにあたって（A＋希望学生はプレゼンテーション）	アジアの社会福祉、ソーシャルワーク

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

主に、アジア各国（日本を含む）を中心に世界の平和博物館を調べることによって、各国の平和や福祉社会構築にむけたの取り組みを理解することができようにしたい。そのために、本講義以外に、アジア各国の平和博物館の状況についてリサーチする個人課題がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席60%以上が必要。各自に与えられた課題（アジアの平和博物館の調査等）をクリアーし、なおかつ講義の関するレポートの成績等によって総合的に評価する。 講義をつうじて関心をもったことがらについて、各自で調べたことや、体験したことがらなどをレポートにして提出することを希望する。

A＋を希望する学生は事前に申し出ること。ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝをしてもらいます。
万一出席日数が足りない場合は事前に相談しにくること。特別課題を与えます。
講義終了2回まえに、各自の評価（成績）を公示し、異議申したてするチャンスをあたえる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アジアの社会福祉	萩原康生他／日本出版放送協会／ISBN4－595－30606－7／2006年3月発売

2006年3月発売

放送大学（ラジオ）にて、昨年から「アジアの社会福祉」という講座がはじまっています。桂はそのなかで、アジアの子どもと福祉（第3章）高齢者と福祉（第6章）担当しています。

参考書 / Reference Books

参考書は講義のなかで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

医学一般（S） § 医学一般（SG）

15469

担当者名 / Instructor　中川 克

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士の国家試験では、毎年150問中10問が医学一般から出題されている。本講義は社会福祉士を目指すものの必修講義として、医学・医療の基礎知識を習得し、国家試験に合格することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

① 社会福祉士の試験に合格する。
② 福祉に従事するものとしての医学的基礎知識を習得する。
③ 個人の健康管理に資する知識を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	臨床医学の概観 、人体の構造と機能	医学の歩み、解剖と生理
2	人体の各器官の構造と機能	細胞、血液、呼吸器、消化器・代謝、泌尿器、皮膚、循環器
3	人体の各器官の構造と機能	支持運動器官、内分泌、神経、感覚器、生殖器
4	現代社会と疾病	先天性疾患、遺伝
5	感染症	伝染病予防法、新感染症法
6	感染症	性感染症、国際協力
7	結核、これからの感染症	結核、結核対策、麻疹・風疹、食中毒、疥癬、日和見感染
8	生活習慣病・メトボリックシンドローム	一次・二次・三次予防、悪性新生物、虚血性心疾患、脳血管障害、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症
9	高齢者に多い他の内科疾患、老化と身体的変化	腎疾患、老化現象、寿命、廃用症候群、寝たきり
10	高齢者の病気	痴呆・認知症、骨粗鬆症
11	高齢者の病気	変形性関節症、白内障、難聴、嚥下障害、褥瘡
12	公衆衛生	衛生行政、人口統計、人口静態、人口動態
13	精神保健	精神障害、分類、統合失調症、躁鬱病、アルコール精神病、症状精神病、パニック障害、脅迫性障害
14	精神保健	保健医療対策、精神保健福祉法、人権擁護、社会復帰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

14回の講義のみで上記テーマを詳細に講義することは不可能である。
したがって、各自で予習・復習に努めることが必須である。
特に、国家試験合格を目指すものは、社会福祉士国家試験の問題集に取り組むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	記述問題・択一問題
レポート試験	20 %	11月頃に一回のリポートを求める。 課題は授業にて提示する。

各人が積極的に取り組まない限り習得が困難な科目である。
したがって、出欠を成績評価の基準とはしない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

14回の講義のみで上記テーマを詳細に講義することは不可能である。（最終講義日に試験を行う）
したがって、各自で予習・復習に努めることが必須である。
特に、国家試験合格を目指すものは、社会福祉士国家試験の問題集に取り組むこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版第4版 社会福祉士養成講座 13「医学一般」	福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版／978-4-8058-2826-7／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

第16回－第18回社会福祉士国家試験解説集	社団法人日本社会福祉士養成校協会＝編集／中央法規出版／978-4-8058-2886-1／
第19回社会福祉士国家試験解説集	社団法人日本社会福祉士養成校協会＝編集／中央法規出版／978-4-8058-2887-8／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

国立感染症研究所感染症情報センターhttp://idsc.nih.go.jp/index-j.html

その他 / Others

医療福祉論（S）

13254

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映像や新聞記事などを活用しながら、保健医療福祉諸制度の改革のなかで患者・利用者の主体化を支援する専門職としての関わりを理解するための知識を養う。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 保健医療福祉を臨床的視点から問い直す
2. 患者・利用者のQOLや尊厳について考察する
3. 保健医療福祉をシステムとしてみる
4. 保健医療福祉の制度の変遷と改革動向を探る
5. 患者・利用者理解のモデルを検討する
6. 他の専門職との連携の意義を明確化する
7. 保健医療福祉問題を多次元的に検討する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	保健医療と法制度の歴史	
3	医療保険の法制度と現状・課題	
4	診療報酬制度の概要と課題	
5	保健医療福祉政策の概要	
6	保健医療福祉におけるコーディネート機能	
7	各専門職の役割と機能分担	
8	各専門職の機能と連携	
9	患者、家族、地域などの非専門職との連携	
10	精神障害と精神保健福祉	
11	慢性疾患・難病への対応と保健医療福祉	
12	高齢者の主な疾患と保健医療福祉	
13	ターミナルケアと医療福祉 リハビリテーションと医療福祉	
14	地域における保健医療福祉の現状と課題	
15	授業のふり返り(30分) 事例の活用に関する試験(60分)」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてペーパー試験を行う（試験時間：1時間）。 コミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

NPO・NGO論（S）

13284

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを1-2回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO——政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②——NGOでの職員の働き方を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係——「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として——	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係——アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として——	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO——地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から——	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度——1998年のNPO法成立の背景から——	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化——NPOの介護保険制度への参入を事例として——	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較——Linuxの成功から——	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発——パブリックリソースセンターの取り組みから——	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「F」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など
②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/

その他 / Others

応用精神保健学（S）　§　精神保健学II（S）

20330

担当者名 / Instructor　石橋 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健学で学んだ内容をふまえて、精神保健活動の場としての地域、学校、職場の特性をふまえてそれぞれの場面における精神保健活動のあり方を学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健活動に関する諸理論をふまえて、具体的な精神保健活動のあり方を分析・討論・報告することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健学の履修を終えていることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1,2	人間にとっての精神とは	
3,4	精神保健とは	
5,6	精神を病むということ	
7,8	偏見のなかでつくられた病像	
9,10	精神障害者の充実した生活とは	
11,12	当事者と家族の社会参加	
13,14	障害と共に生きるということ	
15	まとめ 確認テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

精神保健福祉士養成セミナー編集会編「精神保健福祉士養成セミナー第2巻精神保健学」（東京；へるす出版）
石橋典子『呆けを「仕舞」として』中央法規

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

介護概論（S） §　介護概論（SG）

15529

担当者名 / Instructor　沖野 良枝

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本概論では、福祉専門職として必要な介護に関する諸概念および専門知識と援助の方法について学習する。具体的には、今日の介護問題の背景と現状、介護保険制度を主とする社会施策の学習を通して、主として高齢者と家族を中心にその立場や状況を明らかにし、専門職の果たす役割・責任を理解する。さらに、要介護者のニーズに沿ったサービスに必要な視点として健康、生活、自律の概念を学習し、対象の理解、生活援助の意味と認識を深める。問題解決技法としての介護過程、寝たきり、認知症、終末期の対象者・家族に対する根拠に基づいた援助の基本、対象者・家族の生命、身体、精神、生活上の安全と人権尊重の重要性を理解し、専門職者としての責務について自覚を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 介護の概念や基本原則、介護の場や介護に係る専門職の種類と連携など介護の概要を理解する。
2. 今日の介護問題の背景と現状を理解することにより、介護対象者および家族の立場や状況に対する理解と認識ができる。
3. 人にとっての健康、生活、自律の意味、在り方を学ぶことにより、介護対象者・家族の生活援助の意義を認識できる。
4. 介護問題解決の方法論、援助技術の原理を根拠に基づき理解できる。
5. 寝たきり、認知症、終末期など特定領域別の対象者・家族の状況理解、援助の特徴と基本的な関わりの方法がわかる。
6. 対象者・家族の人権尊重の重要性および安全確保のための倫理的、法的根拠が理解できる。
7. 専門職としての理念、態度、在り方について理解でき、その責務を自覚する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、専門知識や関連情報、援助技術の学習に留まることなく、人に関する幅広い視点、多様で相対的思考でマクロに学習する立場で受講される事を希望する。また、社会福祉概論、社会福祉援助技術、ソーシャルワーク、高齢者福祉、家族社会学、医学一般など専門基礎科目の多くを履修している2年次以降の受講が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	1. 介護の理解　1）介護の概念と概要	介護の概念、介護の原則、介護の歴史
第2回目	2）介護の現状と問題とその背景	少子高齢社会、介護問題、介護問題の背景
第3回目	2. 介護対象者の理解　1）人・対象者にとっての生活	人の生活、家族、地域、クオリティ・オブ・ライフ
第4回目	2）人・対象者にとっての健康	健康の概念、健康観の変遷、健康の意味
第5回目	3）人・対象者にとっての自律/自立	自律、自立、自立支援
第6回目	3. 介護のしくみ　1）介護に関する政策、制度　2）介護の場（在宅、施設）	保健・医療・福祉政策、介護の場、施設、在宅
第7回目	3）介護を担う人と役割　4）保健・医療・福祉の連携	介護者、介護者の役割、保健・医療・福祉、専門職、連携
第8回目	5）介護保険制度の概要	介護保険制度、要介護認定、要介護、要支援、在宅サービス、施設サービス、介護予防
第9回目	4. 介護のスキル　1）介護（問題解決）過程　2）ケアマネジメントの方法	介護過程、問題解決技法、ケアマネジメント、ケアプラン
第10回目	2）ADL（日常生活）援助	ADL、IADL、援助の原則
第11回目	3）介護技術の原則　①状態観察　②コミュニケーション	援助技術、観察、コミュニケーション
第12回目	4）主な領域と介護　①寝たきり高齢者と介護	寝たきり高齢者、寝たきりの要因、寝たきり予防、介護の方法、日常生活自立度
第13回目	②認知症高齢者と介護	アルツハイマー病、脳血管性認知症、記憶障害、中核症状、周辺症状、
第14回目	③終末期と尊厳死の理解	人の死、尊厳死、安楽死、高齢者、終末期

第15回目	5. 介護における倫理　1）対象者・家族の人権擁護　2）介護専門職の責務	倫理、人権擁護、守秘義務、プライバシー保護、インフォームド・コンセント、意思決定、専門職の責務、倫理綱領

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義のレジュメ、資料および紹介した著書、文献などによる予習・復習などの自己学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	筆記試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論などの基本的理解、知識の修得状況を評価・判定する。
レポート試験	0 %	定期試験の結果によっては、レポート評価を加味する場合がある。

授業には、原則8割以上の出席をのぞむ。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

提示した授業計画に沿って授業は進める予定である。教科書やレジュメによる事前学習および授業後の復習が、授業理解を円滑に深める前提と考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・社会福祉士養成講座【第13巻】高齢者に対する支援と介護保険制度――高齢者福祉論	社会福祉士養成講座編集委員会＝編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3113-7 ／授業は、独自のレジュメに沿って出来るだけ広範な内容で進める予定であるが、時間の関係で、授業では触れられないこともある。そのため、国家試験に備えて、標準的な知識として教科書で補足していただきたい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アルツハイマー病にならない	井原康夫他／朝日新聞社／／授業で学習する内容については、最新の考え方や研究結果、社会状況、政策などの知識や情報を取り入れ、根拠に基づいた理解を得て頂く事に努めたい。そのために、適宜、適切な文献を資料として活用するが、その出典となった文献には出来るだけ全体に目を通して頂きたい。
知っておきたい認知症の基本	川畑信也／集英社新書／／上記に同じ
死は誰のものか	斉藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ
アメリカおきざりにされる高齢者福祉	斉藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

カウンセリング論 (S)

13296

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

急激な社会の変化にともない，多くの人びとに心身の病やストレスが蔓延している。こうした問題に対して，今こそ心のケアとしてカウンセリングが注目されている。本講義では，カウンセリングが生まれるまでの歴史的経過や心の病の捉え方を論じる。また，カウンセリングに関する基本問題を解説し，主要理論である精神分析，交流分析，認知行動療法などを具体的な事例を交えて紹介する。また，傾聴技法の習得のために，紙上応答訓練や逐語録の検討などの方法を活用する。

到達目標 / Attainment Objectives

①カウンセリングが必要とされた歴史的経緯と心の病に関する理解を深める。
②初回面接から終結に至るまでのカウンセリングにおける基本的な問題を理解する。
③カウンセリングに用いられる代表的な理論を学ぶ。
④カウンセリングに用いられる傾聴技法を習得する。
⑤以上を通じて，自己理解を深めるとともに，対人関係におけるコミュニケーション能力を高める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	カウンセリングとは何か	相談・歴史的ルーツ・カウンセラーの適正
2	心の病とは何か	心身症・臨床心理学の歴史・トラウマ
3	カウンセリングの基本問題1	クライエントとの出会い・面接の構造化・落ち着きのない子ども
4	カウンセリングの基本問題2	面接中期の諸問題・終結・対話分析
5	心の深層の理解1—精神分析	フロイト・無意識・自由連想
6	心の深層の理解2—ユング心理学	コンプレックス・言語連想検査・箱庭療法
7	人間関係の心理学1—アドラー心理学	ライフスタイル・対人関係論・勇気づけ
8	人間関係の心理学2—交流分析	構造分析・エゴグラム・ゲーム分析
9	傾聴技法の習得—クライエント中心療法	ロジャーズ・自己一致・現象学
10	反省してはいけない！—認知行動療法	学習理論・認知の歪み・論理療法
11	心の奥底にある感情に触れてみる—ゲシュタルト療法	「今，ここ」での気づき・空椅子の技法・感情体験
12	家族システムへの介入—家族療法	アダルトチルドレン・円環的因果論・水を飲み続ける少女
13	心理アセスメントの方法—心理テスト	質問紙法テスト・深層心理・フィードバック
14	日本のカウンセリング技法	森田療法・内観療法・ロールレタリング
15	カウンセリング技法の復習・テスト	傾聴技法・対話分析

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	カウンセリングにおける基本問題や主要理論に関する理解を問う。また，具体的なカウンセリング場面を想定した問題も出題する。
平常点評価	20 %	2回程度，講義に対する理解を深めるための小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通じて，興味がわいた内容に関連する図書を積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「カウンセリングの理論」	國分康孝／誠信書房／4-414-40308-1 C3011／
「カウンセリングの実際問題」	河合隼雄／誠信書房／4-414-40119-4 C3011／

「安心して絶望できる人生」　　向谷地生良 浦河べてるの家／日本放送出版協会／4-14-088199-2 C0236／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

家族関係論（S）

13299

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

家庭が安心の場であり、家族の愛情に支えられていると感じる人もいるが、家族により苦痛を味わい、葛藤を抱えている人もいる。家庭内に居場所が無かったり、孤独に苦しむ人も増えている。こうした家族危機の諸相について、育児不安、児童虐待、家庭内暴力、家庭内殺人等の問題を取りあげながら分析を加えてみたい。また、家族福祉の課題や家族援助及び子育て支援についても考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・家族の定義、概念、家族の動向に関する基本的な理解を得る。
・家族問題について幅広く理解できる。
・親子関係、夫婦関係について理解を深める。
・家族援助・子育て支援についての知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	家族とは何か
2	現代家族の諸相（1）	少子化、核家族化 、子どもの価値の変化
3	現代家族の諸相（2）	結婚観の変化、晩婚化、性別役割分業、専業主婦
4	母親一人の子育てと育児不安	子育て家族の孤立化
5	3歳児神話の影響	母性愛剥奪理論 、愛着障害
6	父親の役割、父性と母性のちがい？	育児参加、育児休業
7	児童虐待	貧困問題、親の養育体験、子育ての技術
8	子どもを虐待する家族への援助	家族応援ミーティング、親業訓練
9	思春期、青年期危機と親子関係（1）	「良い子」の苦しみ
10	思春期、青年期危機と親子関係（2）	親からの自立の葛藤
11	機能不全家族の中の子ども	機能不全家族とは何か、アダルトチルドレンと癒し
12	ドメスティック・バイオレンス	家庭内暴力、シェルター
13	カナダにおける家庭福祉と家族支援	アドボカシー、子どもの権利擁護
14	世界に学ぶ子育て支援の方向	保育保障、経済的支援、父親の育児参加
15	総括講義	これからの家族のあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子育て支援の現在	垣内国光，桜谷真理子／ミネルヴァ書房／4-623-03643-XC3336／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大日向雅美	大日向雅美／日本評論社／4-535－56156－7／
個人化する家族	目黒依子／勁草書房／4-326－65074－5／
「家族」と「幸福」の戦後史	三浦展／講談社現代新書／06－149482－1　C0236／
落合恵美子	21世紀家族へ／有斐閣選書／4-641－28091－6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代と福祉（SA）　§　現代と福祉（SA）

11245

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・秋葉・鎮目が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

現代と福祉（SB）　§　現代と福祉（SB）

11246

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・秋葉・鎮目が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

現代と福祉（SC）　§　現代と福祉（SC）

11247

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・秋葉・鎮目が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

公的扶助論（S） §　公的扶助論（SG）

13247

担当者名 / Instructor　濱畑 芳和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「格差社会」の進行の中で、派遣やパート、アルバイトといった不安定な働き方を余儀なくされている非正規雇用労働者が増加しています。働いていても生活に困窮する「ワーキングプア」、近年の経済危機による「派遣切り」など、非正規雇用労働者が真っ先に失業に追いやられ、とたんに生活に困窮する人々が注目を集めています。わたしたちが普通に暮らしていても人間らしく生きていくことそのものが危機に瀕しているといっても過言ではない昨今、これらの生活困窮者に対して所得保障を行う「最後の砦」として、生活保護制度に対する期待がこれまでになく高まってきています。

日本国憲法第25条において「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」（生存権）を規定しており、国が国民に生存権を具体的に保障するための制度が生活保護制度です。この講義では、日本の生活保護制度とその実践を中心にしながら、公的扶助の歴史・国際動向等多角的な観点から、公的扶助制度に期待される役割を検討したいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。
自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉原論、社会保障論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	公的扶助を学ぶにあたって（オリエンテーション）	公的扶助、貧困、生活保護法
第2回	現代社会の中の貧困（1）	所得者の生活実態、低所得者に対する福祉ニーズ
第3回	現代社会の中の貧困（2）	貧困のメカニズム
第4回	公的扶助と関連施策	公的扶助の社会福祉における位置づけ、社会保障制度、低所得者対策
第5回	公的扶助制度の歴史	イギリス救貧法、日本の救貧制度（恤救規則・救護法）、戦後生活保護法の成立
第6回	生活保護制度のしくみ（1）	生活保護法の目的と基本原理、実施上の原則
第7回	生活保護制度のしくみ（2）	生活保護基準
第8回	生活保護制度のしくみ（3）	保護の種類・方法
第9回	生活保護制度のしくみ（4）	保護の実施と費用、被保護者の権利と義務
第10回	生活保護の政策と動向	生活保護制度の展開、生活保護層の動向
第11回	生活保護におけるソーシャルワーク実践（1）	生活保護における対人援助、福祉事務所の役割と実際
第12回	生活保護におけるソーシャルワーク実践（2）	支援・援助の技術と実際
第13回	生活保護におけるソーシャルワーク実践（3）	自立支援プログラムの意義と実際
第14回	海外の公的扶助	アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、韓国
第15回	生活保護制度の課題（講義のまとめ）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

教科書は購入し、講義で指示する該当部分を事前に読んできてください。
新聞・雑誌、テレビ等による報道にも関心を寄せてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	公的扶助に関する基礎的な知識を問う問題、事例に対して論述する問題等
平常点評価	15 %	出席等

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉を学ぶ学生はもちろんのこと、ひろく社会問題、貧困問題に関心のある学生の受講を呼びかけます。

講義中に社会福祉士国家試験対策のための時間を確保する予定はありませんが、講義を受講すれば試験に必要な知識はある程度網羅でき、自習をされる際のコツはつかめると思います。また、国家試験の動向等必要な情報提供は適宜行いたいと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『よくわかる公的扶助　低所得者支援と生活保護制度』	杉村宏・岡部卓・布川日佐史編／ミネルヴァ書房／978-4623050390／

参考書 / Reference Books

講義のなかで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義のなかで紹介します。

その他 / Others

国際NPO・NGO論（S） § 国際ボランティア論（S）

15609

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデイトな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
・国際協力NGOにおいてなぜマネジメントが重要になり「ビジネス化」が言われるようになったかを理解する
・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当：秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2～3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
4～5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6～7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9～10	NGOの新たな戦略　――マイクロクレジット――	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略　――フェアトレード――	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①―政府とのパートナーシップをめぐって―	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②―国連とのパートナーシップをめぐって――	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③――グローバリゼーションによる社会構造の変化――	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するのですから、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「F」評価となる可能性があるので、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など　②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO――市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編(1998)／明石書店／／

への取り組み――

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際福祉社会論(S) § 国際福祉社会論(I)

13339

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

各国の子育ての状況を比較することをとおして、先進諸国の福祉制度の特徴を明らかにします。

公的機関が中心となって問題解決するのが福祉国家であるとするならば、家族、企業、公的機関、NPO 等が互いに協力し合いながら問題解決するのが福祉社会であると考えられます。とはいえ、国によってこの協力関係のあり方は様々です。

講義の中で、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、なぜそれらの方法が採用されたのか考えましょう。そしてそれぞれの方法ごとに、何が解決され、何が新たな問題として生じているのかを考えましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

各国でさまざまな方法で行われている福祉追求のあり方を学び、それらを体系的に理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	リスク管理
第2回目	日本の子育て	家族、性別役割分業
第3回目	スウェーデンの子育て(1)	家族、税制
第4回目	スウェーデンの子育て(2)	保育制度
第5回目	スウェーデンの子育て(3)	両親休暇制度、短時間勤務
第6回目	スウェーデンの子育て(4)	家庭内分業
第7回目	スウェーデンの家族政策を支えるもの	働き方、労働市場政策
第8-9回目	フランスとドイツの子育て	家族、働き方、家族政策
第10回目	アメリカの子育て	家族、働き方、家族政策
第11回	社会的リスクの管理方法	工業社会、脱工業社会、福祉国家
第12回目	福祉国家の基本モデルとサービス産業のジレンマ	
第13-14回目	福祉国家の三類型	自由主義レジーム、保守主義レジーム、社会民主主義レジーム
第15回	まとめ	経済と福祉と家族のつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞、雑誌、映画など様々な機会をとおして、各国の福祉のあり方はさまざまであるということを知り、その社会的背景に注意を向けてみて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本的な問題や概念について理解し、自分の言葉で論じることができているかを評価する。
平常点評価	10 %	小テストおよび出席状況によって評価する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料として使います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の内容と日常生活を関連づけて考えてみて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポスト工業経済の社会的基礎:市場・福祉国家・家族の政治経済学	G.エスピン-アンデルセン／桜井書店／4-921190-00-3／
福祉資本主義の三つの世界:比較福祉国家の理論と動態	G.エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6／

講義中に適宜、紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、紹介します。

その他 / Others

国際福祉政策論（S） § 国際福祉政策論（I）

15575

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちが通常学んでいる「社会福祉」は「国家福祉」を指している。「国際福祉」はそれに対置される概念である。すなわち、前者が「自国民」を対象としているのに対して、後者はより幅広く福祉を捕らえている。人、モノ、サービス、情報が急速にグローバル化して、国境を越えた「移民」「労働移動」、逆に、先進国の国民のなかには老後を途上国で暮らすケースも急増している。先進国の主要都市では、人口の2割以上が外国人というケースさえある。本講義では世界で何が起き、私たちはどのような福祉や社会保障を構築していくかを考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・グローバル化は、社会福祉、社会保障にいかなる影響を与えたかを理解する
・国際福祉の歴史と現状を理解する
・国際福祉政策について受講者なりの意見や考え方を持つ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2-3	グローバリゼーションと社会福祉の変容	グローバル化の具体的現象と「国家福祉」から「国際福祉」へ
4-5	先進国と発展途上国の社会福祉	日米欧と途上国の福祉
6-7	アジアの社会福祉と多様性	韓国、フィリピン等の各国福祉政策
8-9	先進国における在住外国人への福祉政策	在日コリアンへの福祉政策
10-11	日本の政府とNGOの国際福祉への関わり	ODA、日本のNGOの取り組みの歴史
12-13	国際機関の国際福祉への関わり	国連機関（ユニセフ、UNHCR等）の取り組みとその課題
14-15	国際福祉の今後の展望	日本の現在の福祉政策の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	期末レポートを課します
平常点評価	30 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバリゼーションと国際社会福祉（2002）	仲村優一ほか編／中央法規／／

学習をより深めるには、テキストを持っていることが望ましい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際保健医療政策研究（S） § 国際保健医療政策研究（I）

15475

担当者名 / Instructor　高山 一夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

健康と医療に関するグローバルな現状と課題、およびそれらへの政策対応の基礎をなす経済理論について講義する。
国際保健医療（global health）の領域は、決して医療従事者だけの分野ではなく、実務上は多様な専門性をもった人材が関わっている。また、格差や公平についてグローバルな視点から考えるうえで、基本的な視座を学ぶこともできる。
貧困、疾病、格差などに関わる国際的な諸問題について、受講生の皆さんと一緒に考える授業を展開したい。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 国際保健医療の基礎的な概念、歴史、並びに現代的な課題について説明することができる。
2. 保健医療経済学の基本的な考え方を理解し、具体的な保健医療政策を分析し評価する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

国際福祉論，国際社会論，国際社会政策論，国際ボランティア論，地域保健論，現代人とヘルスケア，などが，内容をより立体的に理解する上で有用であろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	国際保健医療政策とは（授業の概要、すすめ方）	健康、健康格差、保健医療
2	国際保健医療政策の歴史的展開	植民地主義、熱帯医学、西洋医学モデル、公衆衛生、アルマ・アタ宣言、ミレニアム目標
3	国際保健医療の現代的課題	グローバル・ヘルス、健康格差、開発、エンパワーメント、WHO
4	保健医療における格差と公平	格差、公平、平等、保健指標、南北問題
5	プライマリ・ヘルスケア	アルマ・アタ宣言、プライマリ・ヘルスケア（PHC）、人間開発、人間の安全保障
6	必須医薬品	必須医薬品、医薬品政策、ジェネリック、多国籍医薬品企業、人体実験
7	国際機関とNGO	国連、WHO、UNICEF、世界銀行、UNDP、NGO
8	中間討議－国際的な母子保健格差の事例	リプロダクティブ・ヘルス、小児保健、HIV/AIDS
9	健康と保健医療サービスの需要	選好、無差別曲線、所得制約、需要、弾力性
10	保健医療サービスの供給	生産可能フロンティア、等量曲線、費用関数、供給関数
11	市場とその失敗	均衡、完全競争、余剰分析、市場の失敗、供給者誘発需要
12	保健医療システム	選択肢、財源、割当、支払方式、インセンティブ
13	保健システムの多様性と制度改革	保健医療支出、健康水準、満足度、自己負担、マネジドケア、契約
14	経済評価と政策選択	経済評価、時間選好、費用、便益、政策選択、経済評価の濫用
15	総括討議－日本版疾病管理（DMP）の事例	疾病管理、メタボリック・シンドローム、高齢者医療確保法、健康の自己責任

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

1. 本授業は国際インスティテュート学生を対象として設計されており、国際的な医療の動向に関心のある学習意欲の高い学生を歓迎する。
2. 重要文献を授業中に指示するので、自分で読んで理解を深めること。
3. 学習の理解を深めるのに、きちんと復習すること（とくに後半の経済理論に関する部分）。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	到達目標に照らして評価する。持ち込み不可。
平常点評価	50 %	授業中の受講態度（討論への参加、ミニレポートの提出等）に照らして評価する。

評価は定期試験と受講態度を総合的に勘案して行います。出席はとりませんが、きちんと出席をして授業内容を確実に理解し、かつ積極的に討論にも参加することが、成績評価の前提となります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、基本的に教員のプレゼンテーションを行い、後半では受講生の討議を行います。また、8回目と15回目に総合的な討論の時間を設けます。予備知識は不要ですが、講義の内容はしっかり理解するよう務めてください。なお、原則として欠席した場合の資料は後日配布しないので、各自で入手するよう努めて下さい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際保健医療学第2版	日本国際保健医療学会／杏林書院／978-4-764405271／国際医療保健学の標準テキスト
国際的視点から学ぶ医療経済学入門	B.マックペイク, L.クマラナヤケ, C.ノルマンド著 ／東京大学出版会／978-4130421195／保健医療経済学の標準テキスト

上記2つは教科書ではないですが、講義内容に密接に関わるテキストとして、とくに提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
世界の医療制度改革	OECD編／明石書店／978-4750320403／比較保健医療政策の専門書
いのち・開発・NGO	D.ワーナー、D.サンダース著／新評論／978-4794804228 ／国際医療保健学の入門テキスト
医療制度改革の国際比較（講座 医療経済・政策学 第6巻）	田中滋・二木立編 ／勁草書房／978-4326748365 ／比較保健医療政策の専門書

詳しい参照文献は別途指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際的には，WHO,UNAIDS，UNDP,EU，世界銀行，OECDなどの国際機関，各種の研究機関，NGOなど多数あります。国内では，外務省，JICA，関係学会など，これも多数あります。
これらの詳細については，授業で紹介します。

その他 / Others

コミュニティケア論（S） § 社会福祉援助技術論III（SG） § 社会福祉援助技術論III（S） § コミュニティケア論（SG）

15503

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、近年注目されているコミュニティ・ケアについて、歴史、方法、政策と課題の各方面から概要を解説する。広くは地域福祉論の一環でもあるが、対人的「ケア」と地域での展開に焦点を置いて、ケアマネジメント、資源とネットワーキング、地域に密着した課題を考察する。近年導入されたケアマネジメント、2006から実施された、改正介護保険法、障害者自立支援法、2008からスタート予定の後期高齢者医療制度も視野に入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

「ケア」「コミュニティ」の概念の検討の上で、地域でのケアのを必要とする人々が地域で暮らす上で持つ生活の困難性を理解する。「コミュニティケア」が政策的に登場した経過と背景を理解し、介護保険制度、障害者自律支援法などにおける地域ケアを検討する。地域からの住民の共同によるケアのありかたを、対人援助、地域活動、自治体の政策の各面から検討する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

介護概論　地域福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入／ケアをめぐる事件	
2	「コミュニティケア」と「ケア」の考え方	コミュニティ、地域、在宅、ネットワーク、共同、くらし
3	「コミュニティケア」と「ケア」の考え方	看護・介護・社会福祉、ケアの思想
4	コミュニティケア政策の生成	グリフィス報告、コミュニティケア法、ケアマネジメント
5	コミュニティケア政策の日本での展開(1)1970年代～1980年代	コミュニティ政策、在宅福祉政策、社会的入院
6	コミュニティケア政策の日本での展開(2)1990年代	社会福祉基礎構造改革、介護保険制度、サービス制限、2006年改定、後期高齢者医療
7	ケアマネジメントの実際(1)介護保険制度の仕組	保険、財源、要介護認定
8	ケアマネジメントの実際(2)ケアマネジメントの考え方	インテーク、アセスメント、ケアプラン、ケアパッケージ、モニタリング
9	ケアマネジメントの実際(3)介護保険制度下でのケアマネジメント	ケアプラン、区分支給限度額、介護報酬、地域ケア会議
10	障害者自立支援法と障害者ケア	支援費制度、自立支援法、見直し
11	障害者と地域生活――ゲストスピーカーによる現状紹介	
12	高齢者を地域で支える①「ケア」を必要とする高齢者・障害者・住民の状態	高齢者像、援助拒否、孤立、潜在化
13	高齢者を地域で支える②ゲストスピーカーによる地域活動	
14	コミュニティケアの課題	在宅、地域、共同
15	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	0 %	。
平常点評価	100 %	検証テストを行う。コミュニティケアの政策と課題の理解を問う コミュニケーションペーパなどにより問題関心の涵養をみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生への学習に関するアドバイス / Educational advice for enrolled students

コミュニティケアと今日政策的焦点である小地域密着型の高齢者施策展開、障害者の地域支援活動に関心を払い、日常的に現実を把握するよう努めてください。

教科書 / Textbooks

指定しない。

参考書 / Reference Books

参考書は授業中に随時紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

児童・青年心理学（S） § 児童青年の心理（S） § 児童青年の心理（SG） § 児童・青年心理学（S）

15466

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では，児童期および青年期における発達的特徴について講述するとともに，そうした発達的特徴を生み出す諸要因について論じる。大まかには，認知発達的側面と対人関係的・感情的側面の両面から，発達的特徴について考察するとともに，統合的な観点としての人格発達についても触れる。児童期における発達にかかわっては，特に学校教育との関係ならびに社会的関係に焦点を当てる。また，青年期における発達にかかわっては，自立と依存という二つのモメントに揺れる心性に焦点を当てるとともに，特に現代的な青年心理の特徴についても考察を行いたい。あわせて，発達障害に触れるとともに，児童期・青年期における発達上の諸困難に関しても論じることとする。

到達目標 / Attainment Objectives

①児童期・青年期の生活や発達的特徴に関心を深めるとともに，それらを捉える視点を獲得すること。
②児童期ならびに青年期を中心とする心理発達上の諸特徴についての資料の読み取りや分析に習熟すること。
③児童期・青年期の発達に影響する諸条件についても基本的な知識を得るとともに，発達を捉えるための理論について知ること。
④これら3点を基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学 S

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の概要と進め方について」及び「児童期・青年期とは何か：発達の時期区分と生涯発達上の位置づけ」	生涯発達，発達段階，歴史の中の児童・青年
第2回	幼児期から児童期への移行	リテラシー，幼児教育，学校教育，環境移行
第3回	児童期前期の発達的特徴	学校適応，具体的操作期
第4回	児童期後期の発達的特徴	集団生活，ギャング・エイジ
第5回	思春期とは何か	性的成熟，アドレッセント・スパート，思春期危機，ジェンダー
第6回	青年期の発達的特徴	自己理解，アイデンティティ
第7回	児童・青年における認知の発達	思考の発達，ピアジェ，9～10歳の発達の節，社会認識，形式的操作期
第8回	児童・青年における感情の発達	共感性、視点取得、自尊感情、怒りと感情制御
第9回	家族の中の児童・青年	家族関係，親の機能，依存と自立
第10回	学校の中の児童・青年	授業，学力，学校知，進路選択
第11回	就職と労働	職業選択，キャリア・発達，日本社会の産業構造
第12回	青年期と非行	薬物乱用，性非行，精神疾患
第13回	不登校と引きこもり	不登校，引きこもり，精神疾患，社会的不適応
第14回	現代の児童・青年の生活と文化	依存、自立、個性、生活時間、生活空間、文化
第15回	児童・青年を理解する方法	行動観察，質問紙，面接，状況の理解，関係の中での理解，権利主体

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業において学んだ知識の獲得状況を評価するとともに、そうした知識を踏まえて児童期・青年期の問題について考察する能力を評価する。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

WebCTに、授業用レジュメや資料を掲載するので、参考にして欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学生の生活とこころの発達	心理科学研究会／福村出版／978-4-571-23045-5／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新 かたりあう青年心理学	心理科学研究会（編）／青木書店／978-4250990090／問題意識を広げるために

児童心理学試論	心理科学研究会「児童心理学試論」編集委員会／三和書房／978-4783300298 ／問題意識を広げるために

上記以外にも，各授業時に参考となる書籍等については紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

児童福祉論（S） § 児童福祉論（SG）

15464

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。そこで、子どもの権利について学んだ上で、児童福祉の展開に関して学び、中でも特に児童虐待や非行など、援助が困難な領域の基本を学ぶ場とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基本を学ぶものである。児童虐待防止法の第1条にあるように、子どもの命とその人生、そして次世代までを視野にいれた援助を学ぶ科目である。本来通年でも不足するボリュームを半期で学ぶため、相当厳しい内容となり、例年相当数がFとなる。教養レベルではないのでこころして受講されたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の系譜	
2	子どもの権利の系譜	
3	子どもの権利条約	
4	日本の子どもの課題	
5	子ども家庭福祉の施策	
6	子ども家庭福祉の実施体制	
7	分野別の課題（子育て支援・保育）	
8	分野別の課題（健全育成）	
9	分野別の課題（自立支援）	
10	分野別の課題（児童虐待）	
11	分野別の課題（非行）	
12	子ども家庭福祉の専門職	
13	子ども家庭ソーシャルワーク	
14	子ども家庭福祉の課題	
15	子ども家庭福祉の今後	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験として実施する。
レポート試験	0 %	講義中に指示し、回収日を指定するので、特に気をつけておくこと。
平常点評価	30 %	コミュニケーションカードを求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉発達史から、具体の援助技術方法論まで言及するので、そのような領域の基本書を一度目を通しておくことをすすめる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子ども家庭福祉論	高橋重宏・才村純編著／建帛社／4-7679-3304-8／必ず必要である。

福祉六法など、最新の児童福祉法、児童虐待防止法、少年法、などの掲載された六法が必須である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの権利と社会的子育て	許斐・望月・野田・桐野／信山社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/index.html

（厚労省子ども子育て支援）

その他 / Others

司法福祉論（S）

15513

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。
従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族への介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになっている。
本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。
留意点として、司法福祉は法学的知識や心理学的知識が求められるものの、あくまで福祉分野の科目であることを認識して受講されたい

到達目標 / Attainment Objectives

司法福祉の分野を理解することと同時に、福祉課題解決のために司法が関与する余地の意義について学習する。非行・虐待・財産保全などに関して、司法活用の余地がある福祉課題であるという側面と、各事例がもつ福祉的側面を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	司法福祉の概念と定義	
2	司法福祉の発見と発展	
3	司法手続の概要とシステム	
4	司法に関わる福祉課題（夫婦）	
5	司法に関わる福祉課題（親子）	
6	司法に関わる福祉課題（虐待）	
7	司法に関わる福祉課題（地域福祉権利擁護事業と成年後見）	
8	少年保護制度と少年法	
9	少年法と児童福祉法	
10	非行へのまなざし	
11	非行を見分けること	
12	非行を施設で克服すること	
13	非行を在宅で克服すること	
14	被害者を支えること	
15	司法福祉の今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レポート課題としても取り上げる予定であるので、07年中の司法福祉に関する社会的事象（事件や制度制定など・特に少年法や児童虐待に関連するものなど）に関心を向けてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	講義中に要求する課題と小レポート

原則毎回コミュニケーションカードの記入を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講期間中は、社会で生じる司法福祉上の課題に関心を持って、収集につとめてください

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる司法福祉	村尾・廣井／ミネルヴァ書房／4-623-04000-3／

少年法・児童福祉法・児童虐待防止法・民法などいくつかの法令を参照するので、できれば小六法などを準備すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
犯罪白書	法務省／／／

司法統計年報	最高裁／／／
家庭裁判月報	最高裁家庭局／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術論（S） § 社会福祉援助技術論I（S） § 社会福祉援助技術論I（SG） § 社会福祉援助技術論（SG） 13245

担当者名 / Instructor　小川 栄二　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉活動（ソーシャルワーク）の総括原理を以下の内容で講義する。社会福祉活動（ソーシャルワーク）の対象である対人援助課題、社会福祉課題、生活問題の現実と出現経路を学び、公的社会福祉制度と社会福祉活動（ソーシャルワーク）との必要性を学ぶ。社会福祉活動（ソーシャルワーク）の概要・体系と社会福祉制度と社会福祉活動（ソーシャルワーク）の関係を学ぶ。社会福祉活動（ソーシャルワーク）展開、関連する方法・技法の基本的な知識と社会福祉援助活動の共通課題を学ぶ。社会福祉活動の場・従事者の実情を学。社会福祉活動の構造を国民生活の状況、改善を求めるイニシアティブ、国家による制度の関係を学ぶ。社会福祉従事者の現状と倫理を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉活動の対象となる国民生活問題を理解する。社会福祉活動の原理と構造を理解する。社会福祉活動の基礎的知識と理論を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、社会福祉六法に関する各福祉論（公的扶助論、老人福祉論など）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	①授業の概要と導入　②社会福祉援助活動を理解するための事例――対人援助課題	「社会福祉援助技術」という用語、生活上の困難性、社会福祉援助
2	社会福祉援助活動を理解するための視点(1)――事例から生活問題の具体的把握へ	生活問題
3	社会福祉援助活動を理解するための視点(2)――生活問題に対応する社会福祉活動具体的把握	生活問題の要因、生活の全体性、生活問題の出現経路、社会福祉課題
4	社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応	生活問題の発生、危機、生活の再設計、児童期の社会的養護、生活障害、在宅ケア、施設ケア、ネットワーク、地域、ボランティア、ターミナル
5	社会福祉が行なわれる「場」・制度・人材	「場」の考え方、社会福祉機関、社会福祉施設、社会福祉活動、社会福祉従事者
6	社会福祉活動の「レパートリー」(1)	三大技術、三大分類、レパートリー、ケースワーク、グループワーク、カウンセリング
7	社会福祉活動の「レパートリー」(2)	グループワーク、、コミュニティワーク、ソーシャルリサーチ、プラニング、ネットワーキング
8	社会福祉活動の「レパートリー」(3)	アドミニストション、スーパビジョン、コンサルテーション、ソーシャルアクション
9	社会福祉活動の歴史と理論(1)	救済、本源的蓄積、救貧法、産業革命、資本性社会、貧困、慈善事業、ソーシャルワーク、COS、セツルメント、恐慌、リッチモンド、ソーシャルワーク学校、
10	社会福祉活動の歴史と理論(2)	ミルフォード会議、統合化、世界恐慌、ニューディール、社会保障、診断主義、機能主義、折衷主義、ベヴァリッジ報告、福祉国家、
11	社会福祉活動の歴史と理論(3)	貧困の再発見、エンパワメント、多様なモデル・アプローチ、ジェネリック志向、エコロジカルシステム、生活モデル
12	日本の社会福祉活動(1)	第二次大戦、GHQ、日本国憲法、社会福祉事業法、社会福祉論争、社会福祉主事、5法ワーカー、専門職
13	日本の社会福祉活動(1)	福祉見直し、多元化、専門職制度、ケアマネジメント、社会福祉基礎構造改革
14	社会福祉「援助」と「技術」	社会福祉の方法、社会福祉の主体、社会福祉の三元構造、社会福祉従事者の倫理、社会福祉労働
15		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	筆記試験による。
平常点評価	20 %	随時の提出物、コミュニケーションペーパによる。

・ソーシャルワーク歴史と理論の概要を問う

・社会福祉課題の基本的性格と社会的対応としての社会福祉活動についての理解がなされているかを問う。
・随時のコミュニケーションペーパにより、社会福祉課題についての問題関心の涵養を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現実の社会福祉課題を知り、いかに対応すべきなのか、個人・家族、地域・自治体、国家の各レベルで主体的に考察してください。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。参考書参照のこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉方法原論	植田章・岡村正幸・結城俊哉／法律文化社／／
新・社会福祉士養成テキストブック2社会福祉援助技術論　上	北島英治／ミネルヴァ書房／／
社会福祉援助技術論Ⅰ	福祉士養成講座編集委員会／中央法規／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉概論（S） § 社会福祉論（S） § 社会福祉原論（SG）

13248

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉サービスは、今日では私たちが地域で生活していく中で必要不可欠な社会サービスとなっている。しかし、必ずしもそのことが市民や学生の皆さんの常識とはなっていない。講義では、社会の歴史的な変化の中で社会福祉サービスがしめる位置とその役割を具体的な事例を通して確認する作業を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

社会の中での社会福祉サービスの位置とその役割について理解する。社会福祉制度の形成と変動の構造について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入：本講義でのねらいや受講の心得について説明する	
2	人間社会のなかでの福祉的営みの意義を考える	ボノボ、共同社会、学習、遺伝
3	家族と地域社会における共同関係と資本主義の発展にともなう変容	合掌造り、複合家族、直系家族、核家族
4	家族・地域社会における共同性の歴史から社会福祉形成の歴史的前提を考える	資本主義、労働力の商品化、国・地方自治体
5	大学生のあなたは次の質問に正確に回答できますか？義務教育で社会保障について何を学んだか？	出産手当、育児手当、医療保障、老後保障、障害者福祉、スウェーデンの教科書
6	社会福祉問題の現代的広がり～児童・青少年問題の今～	児童相談所、家庭裁判所調査官
7	認知症の人と向き合う	痴呆、認知症、デイケア
8	当事者が語る若年認知症の世界	若年認知症、スティグマ、残存能力、ケアパートナー
9	地域福祉と権利擁護の課題	消費者被害、一人暮らし、悪質商法、地域福祉権利擁護事業、成年後見人、消費生活センター
10	社会福祉援助が必要となる場面での自己と他者関係	ミード、Iとme、社会統制、自我意識の獲得
11	ワーキングプア	働く女性、地場産業の崩壊、働く高齢者、貧困の世代連鎖
12	格差拡大社会と社会福祉	非正規雇用、失業率、生活保護率、共働き、就学援助、就労支援、ワーク・ライフバランス、貧困の世代的再生産
13	高次脳機能障害の世界	交通事故、もやもや病、だまされる脳、記憶障害、認知機能障害
14	社会福祉の現実と制度の「目標・理念」からの乖離	慈善事業、サービス業、三元構造、対象化された対象、社会福祉法人、社会福祉基礎構造改革
15	まとめと試験	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

社会福祉、国民の暮らしにかかわるテレビで放送されるニュース、ドクメンタリー、ドラマに注目してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度
平常点評価	20 %	授業の出席

遅刻・欠席は出来るだけ避けてほしい。講義ではビデオを多く観るが、これが講義のポイントの理解を助ける重要な教材と考えているし、課題で出すテーマもビデオに関係させて出すことが多い。遅刻したり欠席するとその肝心のところの理解がおろそかになることを覚悟してほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義に出席し毎回提出する課題を考察する小レポートに取り組むことで、考える力をつけてほしい。大学での勉強はあらかじめ明確なっている問題の答えを覚えることではなく、課題を発見し自ら考察して自分の力で答えをみつけることにあることを理解してほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使わない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『福祉のひろば』	総合社会福祉研究所／かもがわ出版／／福祉の新鮮な情報が満載の月刊誌
『社会福祉辞典』	／大月書店／／基礎用語の学習に役立つ
『現場がつくるあたらしい社会福祉』	石倉ほか／かもがわ出版／978-4-7803-0229-5c0036／新し社会福祉の構築について述べる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/index.html　認知症の人と家族の会：http://www2f.biglobe.ne.jp/~boke/boke2.htm　日本障害者センター：http://shogaisha.jp/　総合社会福祉研究所：http://www.jfast1.net/~sosyaken/　保育研究所：http://www.hoiku-zenhoren.org/kenkai/index.html　全国老人福祉問題研究会：http://members3.jcom.home.ne.jp/0376228901/romonken/　全国障害者問題研究会：http://www.nginet.or.jp/　全国児童養護問題研究会：http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/

その他 / Others

社会福祉法制（S）

13308

担当者名 / Instructor　密田 逸郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在、私たちにとって「社会保障・社会福祉制度」は、必要不可欠な生活の条件となっている。この講義では、社会保障・社会福祉制度の生成・発展の歴史を辿ることで、社会保障・社会福祉の理念、本質、機能について学ぶとともに、21世紀における福祉国家再生のための社会保障・社会福祉のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

今日、社会保障・社会福祉は、テレビ・新聞等に取り上げられない日がないほどポピュラーになっているものの、一方では、学問としてとらえると、難しいと敬遠されているのが現状である。そこで講義では、社会保障・社会福祉の体系や理念を学び、少しでも身近なものと感じ興味を持っていただこうと思っている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義①	所得保障、対人社会サービス、社会保障法（アメリカ、ニュージーランド）
第2回目	社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義②	ILO、ベヴァリッジ・リポート、憲法第25条、社会保障制度審議会
第3回目	社会保障のあゆみとダイナミックス―イギリス及びドイツにおける歴史	救貧法、本源的蓄積、ブース、ラウントリー、飴と鞭の政策、ビスマルク
第4回目	社会保障・社会福祉の基本原理と限界	生活障害、生活危険、生活不能、生活の社会化、労働の価値、社会保険方式、消費税
第5回目	生活保護①	貧困問題、セーフティネット、社会的排除
第6回目	生活保護②	格差社会、ベーシックインカム
第7回目	第1回検証テスト	＊検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性がある。
第8回目	公的年金①	国民年金、厚生年金保険、共済年金、国民年金制度の成立、国民皆年金
第9回目	公的年金②	年金記録管理問題、社会保険方式、消費税
第10回目	社会福祉法の成立、社会福祉基礎構造改革	措置制度の解体、利用料概念、営利企業参入、新自由主義
第11回目	介護保険法と障害者自立支援法	福祉の市場化、福祉サービスの「商品化」、介護保険と障害者自立支援法の将来的統合
第12回目	保健・医療制度	国民皆保険、医療の質と水準、医療の市場化、混合診療、後期高齢者医療制度
第13回目	消費税の本質と福祉目的税化	売上税、輸出戻し税
第14回目	第2回検証テスト	＊検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性がある。
第15回目	新しい社会保障・社会福祉の姿	社会保障基金、社会保障事務所、社会保障税

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	定期試験は70点とする。
平常点評価	30 %	前半、後半に1回ずつ計2回の検証テストを行う。配点は1回を15点とする。

検証テストは、授業の進度によって実施時期を変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会保障の設計	芝田英昭／文理閣／ISBN4－89259－521－7／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会保障の基本原理と将来像　　芝田英昭／法律文化社／ISBN4－589－02724－0／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省：http:/www.mhlw.go.jp

その他 / Others

障害者教育・福祉論（S）

13495

担当者名 / Instructor　峰島 厚、森下 勇

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

障害のある人たちの教育（就学前教育・高等教育を含む）と福祉（雇用、生活など）の現状と課題について論じる。
本講義では、障害者の実態や施策・制度全体について、各種統計、報告書、実践記録、映像などを検討して障害者全体の動向を学べるようにする。また、障害者分野における教育と福祉の関連や連携に関する諸問題についても理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

障害児者の福祉制度は、理念や内容で教育とは大きく異なっている。とくに福祉制度は、この間に大きく転換し混乱さえ生じており複雑である。この授業では、転換の基本的ないようの理解と、利用の基本を押さえられるようにしたい。
なおこの授業では、4回から6回までは森下勇さんが担当し、さらにゲストスピーカーとして7回と9回には土井恵二さん、10回には佐藤貞雄さん、11回には脇中起余子さんをお願いし、障害種別の講義も実施する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	障害児教育・福祉の現状（1）：実態・運動	発達保障の考え方。ノーマライゼーション。インクルージョン。
第2回	障害児教育・福祉の現状（2）：政策・制度 ①	憲法25条。26条。
第3回	障害児教育・福祉の現状（3）：政策・制度 ②	障害の定義・概念。
第4回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状（1）担当・森下勇	就学前教育。修学指導。学校選択。
第5回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状（2）担当・森下勇	教科教育。自立活動。交流教育。
第6回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状（3）担当・森下勇	自立から自律へ。思春期の課題。生活支援。
第7回	視覚障害児・者の理解（1）ゲスト・土井恵二	早期発見・対応。早期教育。
第8回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状（4）	進路指導。障害者雇用促進制度。労働と発達。
第9回	視覚障害児・者の理解（2）ゲスト・土井恵二	弱視児の教育。点字教育。
第10回	聴覚障害者の教育・福祉（1）ゲスト・佐藤貞雄	早期発見・対応。早期教育。
第11回	聴覚障害者の教育・福祉（2）ゲスト・脇中起余子	言語指導。教科教育。9歳の壁。
第12回	障害児教育・福祉の課題（1）	障害者自立支援法の基本的仕組み
第13回	障害児教育・福祉の課題（2）	障害児・者福祉サービスの利用手続き
第14回	障害児教育・福祉の課題（3）	障害児・者福祉の施設・事業体系
第15回	まとめ・評価	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	
平常点評価	20 %	

とくになし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

とくになし。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法と実践の創造	峰島厚／全障研出版部／88134-274-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

障害者とコミュニケーション（S） § 障害者とコミュニケーション（SG）

15553

担当者名 / Instructor　坂井田 美代子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私達はコミュニケーションを通して、人間関係を築き・広げ・豊かに創りだしている。また、コミュニケーションをとることで、さまざまな刺激を受け、考え、判断し人として成長し,社会参加を図っている。音声によるコミュニケーションが中心の社会において聴覚障害者は情報の伝達から阻害され、情報の共有を阻まれてしまううえに、聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニ ケーション手段等の相違からコミュニケーションの壁をつくられやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けている。コミュニケーション保障や情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般の根源的な課題として表出している。

本講義では聴覚障害やコミュニケーションの基礎的な理解を基に、社会生活全般における聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態・課題を明らかにしつつ、情報保障、コミュニケーション保障の現状やあり方を中心に授業を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

:聴覚障害やコミュニケーションの役割について理解し説明することができる。
:コミュニケーション手段や使用方法を理解し、聴覚障害者とコミュニケーションをとる姿勢がもてる。
:聴覚障害者を取り巻く社会環境やコミュニケーション環境について述べることができる。
:バリアーフリー調査を通して共生の視点で地域社会のコミュニケーション課題を整理することができる。
:聴覚障害者のコミュニケーション保障や情報保障について提言ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入／聴覚障害のコミュニケーション環境の概要	授業の目標／進め方／成績評価方法等／新聞記事に見る聴覚障害者の情報保障の実態
第2回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（1）：コミュニケーションの役割	コミュニケーション機能、コミュニケーションサイクル、コミュニケーション障害
第3回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（2）：聴覚障害の基礎的理解	耳の役割、聞こえの仕組み、障害の部位、障害の原因、障害の特徴、聴力レベル
第4回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（3）：聴覚障害者のコミュニケーション手段	コミュニケーション成立の要件、コミュニケーション手段の決定要因、ことばの役割と発達、ろう者・中途失聴難聴者・盲ろう者のコミュニケーション手段と方法、手話、補聴器、触手話等
第5回	聴覚障害者の情報保障（1）聴覚障害者の体験から学ぶ	障害の受容、生活体験、大学でのコミュニケーション保障と情報保障、職場でのコミュニケーション保障と情報保障、ノートテーク、手話通訳等
第6回	聴覚障害者の情報保障（2）手話の成立と発展そして創造	手話発展の歴史、聴覚障害者の暮らしと手話、音声言語と手話、手話の特徴、新しい手話の創造
第7回	聴覚障害者の情報保障（3）手話通訳制度	手話通訳保障の歴史、手話通訳の役割、手話通訳の養成、手話通訳制度
第8回	聴覚障害者の情報保障（3）情報から阻害された聴覚障害者の実態について学ぶ。「ドン（原爆）が聞こえなかった」・「阪神大震災」ビデオから学ぶ	家族・近隣・友人など私的なコミュニケーションの状況、行政等の公的な情報保障の在り方、コミュニケーションから閉ざされた実態、人生に及ぼす影響、災害時における情報保障
第9回	聴覚障害者とバリアフリー（1）聴覚障害者にとってのバリアフリー	バリア・バリアフリーの概念、物理的な障壁、文化・情報面での障壁、意識上の障壁、制度的な障壁、経済的な障壁、聴覚障害者の情報保障
第10回	聴覚障害者とバリアフリー（2）「私の生活圏における聴覚障害者のバリアフリーの実態」の調査と発表	音声情報、視覚情報、ユニバーサルデザイン、社会の聴覚障害者に対する意識、人的資源 共生の視点、個人や地域での取組、必要な制度
第11回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう運動の歴史ー求め続けた情報保障ー	ろう集団の形成の時代、組織の誕生仲間作りの時代、権利運動が生まれた1960年代、手話の市民権確立の時代、社会連帯の運動、更なる運動へと広がる1990年代、ろう運動の展望
第12回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）日常の暮らし、参政権、運転免許	コミュニケーション支援事業、日常生活用具、子育ての工夫、手話サークル、公職選挙法、政見放送、運転免許裁判、道路交通法88条と相対的欠格事由
第13回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう教育	世界のろう教育、日本のろう教育の歴史、現在のろう教育の状況と課題、教育手段の変遷、高等教育機関における聴覚障害者学生支援

第14回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（2）聴覚障害者と労働	障害者雇用に関する労働施策、就労支援、聴覚障害者の雇用及び就労状況、職場でのコミュニケーション課題、障害者が求める労働継続のための要望
第15回	聴覚障害者のコミュニケーション保障の課題（4）：聴覚障害者のコミュニケーション環境の整備	聴覚障害者福祉施策、聴覚障害関連制度の課題、障害者の権利条約、人的社会資源の充実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義終了時に下記のような復習課題、予習課題を提示する。
:自分はどのようなコミュニケーションをしているのか、自分にとってコミュニケーションはどんな役割を果　たしているのかを考察する。
:聴覚障害者の体験記録などを読む。
:テレビ等の公的情報保障の現状について意識し視聴する。
:公表されている資料に目を通す（障害者の権利条約）等

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったキーワードから出題し、到達目標を達成できているかどうかを検証する、記述試験を実施する。
平常点評価	40 %	毎回の授業終了時に、その授業内容に関してのコメント（コミュニケーションレポート）をもとめる。 受講態度のすぐれた者への加点はありうる。 またこのコメントは出席の確認にも使用する。 中間レポート（バリアーフリー調査レポート）の提出を求める。

定期試験はノートの持ち込み可能とする、毎回の講義記録を整理しておくことを望む。
中間レポートの提出は12月頃の予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ビデオ教材、ゲスト講師による聴覚障害者当事者の体験、自分の生活圏におけるバリアフリー調査を通して、コミュニケーションの意味や役割、社会の現状等具体的な課題として実感的に学ぶことを望む。下記にふれているが手に入らない参考書が多いこともあるので、興味関心のあるキーワードについては遠慮なく積極的な質問を望む。

教科書 / Textbooks

毎回の授業で詳細レジメ、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
聴覚・言語障害者とコミュニケーション	共著／一橋出版／978－4－8348－0349－5／聴覚障害・コミュニケーションの基礎的理解を深める
聴覚障害児・者支援の基本と実戦	奥野栄子／中央法規／978－4－8058－4794－7／コミュニケーション環境の制度的の理解を深める
手話通訳問題研究	共著／全国手話通訳問題研究会／／手話通訳や通手話訳制度等の全国情報の提供
新しい聴覚障害者像を求めて	共著@／（財）全日本ろうあ連盟／4－915675－39－4／ろう運動や聴覚障害者のコミュニケーション環境の理解を深めるため

聴覚関係の書物は少なく、聴覚や手話に関わる団体等が、さまざまな調査や研究をし報告書等出されているものの、一般書店や図書館などに置かれておらず、なかなか目に触れることや手にすることが困難な実態にある。各授業のキーワードや関する詳細資料は配布するが、授業の進行に合わせ参考図書、報告書等紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

jdf.or.jp 当事者団体（全日本ろうあ連盟）の考え方、現在の聴覚障害者を取り巻く課題についての運動状況、研究状況などの参考。他キーワードに関する理解を深めるために授業時に紹介する。

その他 / Others

障害者とスポーツ（S）

15484

担当者名 / Instructor　水谷 裕

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」

障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害のある人々のスポーツ活動」等に関するビデオ画像を通して、障害のある人々のスポーツ活動の実際を知り、社会参加の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育んで欲しいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

＊障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツをとおして社会のあり方を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入、小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人とｽﾎﾟｰﾂに関する知識、体験等
第2回	小レポートについて、講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人数･傾向,戦後の歴史等
第3回	講義「障害について」、ﾋﾞﾃﾞｵ	原因･症状等
第4回	講義「障害を考える」、ﾋﾞﾃﾞｵ	意味･とらえ方等
第5回	講義「障害の受傷時期による相違」、小レポート「水谷を初めて見た時どう思ったか」、ﾋﾞﾃﾞｵ	葛藤･受容･心理等
第6回	講義「障害のある人との関わるための留意点」、ﾋﾞﾃﾞｵ	言葉づかい･態度･考え方等
第7回	講義「障害のある人とスポーツ」、ﾋﾞﾃﾞｵ	ｽﾎﾟｰﾂ観･残存能力･訓練との相違等
第8回	講義「障害のある人に何故スポーツ？」、ﾋﾞﾃﾞｵ	運動は動物存在の基礎条件等
第9回	講義「障害者スポーツの歴史」、ﾋﾞﾃﾞｵ	時代的背景等
第10回	講義「障害者スポーツの組織」、ﾋﾞﾃﾞｵ	施設･団体等
第11回	講義「障害のある人のスポーツ権」、ﾋﾞﾃﾞｵ	背景にある<みんなのｽﾎﾟｰﾂ運動>等
第12回	講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ﾋﾞﾃﾞｵ	身体的･精神的･社会的等
第13回	講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ﾋﾞﾃﾞｵ	阻害要因･視点等
第14回	講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人間的平等･発達保障等,指導者･環境･現状把握等
第15回	確認ﾃｽﾄ(60分)とまとめ(30分)等	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞なのでの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアひいては、社会の理解度を認識する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	特に言葉の言い回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題された課題について論点が押さえられているかどうかを問います。 授業回数15回中、最低3分の1以上の出席を必要とし、満たない場合は不可とします。

＊論述1問とします。
＊確認テストを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講について
＊授業は前の席にて受講すること。
＊出席カード配布後の事由なき遅刻は認めない。
＊講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
＊話の中にある意図を理解すること。

研究について
＊障害のある人々の基礎的な知識を得た上で、スポーツ活動の現状やあり方を広い視野から見ること。

教科書 / Textbooks

＊特に決まったテキストは使用しません。

＊適時、コピー等を配付します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「障害者スポーツ」	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編集／医学書院／／障害のある人々のスポーツに関する紹介本です。
「障害者とスポーツ」	芝田徳造／文理閣／／本学名誉教授の著書で、京都での実践を通して書かれた本です。
「身体障害者のスポーツ指導の手引き」	(財)日本障害者スポーツ協会編集／株式会社ぎょうせい／／身体に障害のある人に対するスポーツ指導に関する本です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

その他 / Others

＊障害のある人のスポーツに興味を持ち、スポーツ活動を通して障害のある人の社会参加活動の理解ある良　きパートナーを目指す学生なら誰でも歓迎します。
＊講師は、脳性マヒ等による四肢機能障害で、車いすを常用しています。
＊京都市障害者スポーツセンターに勤務しています。
＊授業後、気軽に話しかけて来てほしいと思っています。

障害者福祉論（S） § 障害者福祉論（SG）

15468

担当者名 / Instructor　趙 没名

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、障害者福祉の基本理念をはじめ、障害者福祉の歴史、障害者の実態、障害者福祉法制の体系と内容、それと障害者福祉とリンクする障害児教育および余暇活動、障害者の就労の6つの分野で構成される。

到達目標 / Attainment Objectives

21世紀の初頭に、日本の障害者福祉制度は措置から契約へと抜本的な転換を成し遂げた。この転換は、「同一年齢の他の国民と同等な生活を障害者に権利として保障する」というノーマライゼーションの原理を尊重したものであろうか。この授業では、障害者福祉に関する基本理念の発生の背景と根源を理解し、そして障害者福祉の歴史と現状を把握し、今日の争点となる障害者福祉の問題点と課題を認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	障害者福祉論を学ぶにあたって	人権、モチベーション、専門職
2	障害者福祉の基本理念（1）	人権、リハビリテーション、完全参加と平等、ノーマライゼーション
3	障害者福祉の基本理念（2）	発達保障
4	障害者の概念	国際的な定義、日本国内での定義
5	障害者福祉の歴史（1）	国際障害者福祉の沿革
6	障害者福祉の歴史（2）	日本における障害者福祉の沿革
7	障害者の実態（1）	在宅の障害者の統計とドキュメンタリー
8	障害者の実態（2）	入所施設内の障害者の統計とドキュメンタリー
9	中間レポートの作成	
10	障害者福祉サービスの体系と内容（1）	サービス体系の仕組み
11	障害者福祉サービスの体系と内容（2）	自立支援法の成立背景と仕組み
12	障害者福祉サービスの体系と内容（3）	自立支援法への評価、ロールプレー、ドキュメンタリー
13	障害者福祉の周辺（1）	障害児保育・療育、特別支援教育、余暇活動
14	障害者福祉の周辺（2）	障害者の雇用と就労
15	ゲストスピーカーの証言	私と障害、私と障害者

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	基礎知識、論述
平常点評価	50 %	3回の月例小テスト

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

障害者福祉に関する日々の現実を複眼的に見る力を養う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法と実践の創造	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部／／
障害者福祉論	手塚直樹等／ミネルヴァ書房／／

教科書を二冊とも備える必要がある。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法の基本と活用	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部／／
福祉の思想	糸賀一雄／日本放送出版協会／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

心理学（S） § 心理学（SG） § 心理学I（S） § 心理学I（SG）

15571

担当者名 / Instructor　内藤 みちよ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間とその行動の心理学的理解への導入となるべく、心理学の様々な領域を紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

心理学的アプローチを学ぶことで、より包括的かつ実践的な人間や社会、そして自己理解が深められること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	心理学とは何か？その歴史と現在 ～「常識的」心理学のウソ？ホント？
2	人間の心理学的理解①	感覚・知覚と生理学的基礎 ～脳がわかれば心がわかる？
3	人間の心理学的理解②	記憶と忘却 ～さまざまな記憶の形
4	人間の心理学的理解③	条件づけと学習 ～行動の形成と変容
5	人間の心理学的理解④	欲求・動機付け・感情 ～人を動かすものは何か？
6	人間の心理学的理解⑤	知能・人格 ～パーソナリティ理論、個人差
7	人間の心理学的理解⑥	社会的行動 ～さまざまな集団の形と集団力動
8	人間の成長・発達とライフサイクル①	乳幼児・児童期
9	人間の成長・発達とライフサイクル②	青年期
10	人間の成長・発達とライフサイクル③	成人・老年期
11	心理学的援助の方法①	適応とは？障害の心理学的理解
12	心理学的援助の方法②	心理検査とアセスメント
13	心理学的援助の方法③	心理療法
14	心理学的援助の方法④	コミュニティ心理学的アプローチと危機介入
15	まとめ	心理学とは何か？ ～学んだことの振り返り

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	全体の講義を通して理解した心理学的アプローチ方に基づき、所与のテーマ（選択）についての論述を課す。心理学的アプローチとその応用への理解度を問う。
平常点評価	60 %	毎回、授業の終わりにアンケートを実施し、理解度と参加度を評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回、授業でレジュメや参考資料の配布や、セルフ・チェックを含むアンケートを実施するので、授業参加は重要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

心理検査法（S）

13338

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、テキストを用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、その意義、心理検査における数量データのとらえ方について具体的に学習する。また、心理検査の実際について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の中から代表的なものを取り上げ、それぞれの検査の意味と具体的手法について学び、教育・福祉分野においてどのように活用されるべきかを考察する力を養う

到達目標 / Attainment Objectives

・心理検査の歴史、基礎となる考え方について正しく理解できる
・心理検査の数量的データの表す内容を考察できる
・心理検査の意義・特性を踏まえ、社会における活用法について考察することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、臨床心理学、発達心理学：できるかぎり、事前に履修しておいて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	心理検査の種類と歴史	
第2～5回	心理検査におけるデータ	標準偏差　回帰分析　相関係数　ルート機能のついた電卓
第6回	心理検査の実際Ⅰ－知能検査法①	知能検査の開発と発展
第7回	心理検査の実際Ⅰ－知能検査法②	ウェクスラー式知能検査
第8回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法①	新版K式発達検査法
第9回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法②	発達診断
第10回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法③	発達相談
第11回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法①	作業検査法
第12回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法②	質問紙法
第13回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法③	投影法
第14回	心理検査の実際Ⅲ-性格検査法④	テストバッテリー
第15回	まとめ－心理検査の活用と心理検査者の倫理	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	
平常点評価	45 %	毎回のコメントカードの提出状況および記述内容に見られる理解度や積極性。講義時間内に中間的に実施する小レポート。最低3回以上の出席を有効評価の基礎条件とする

レポート試験として実施する。日常点評価は小レポートにおいて講義の理解度を問うものと、毎回のコメントカードの提出状況および記述内容によって行う。出席を重視するので、出席が規定回数に満たない場合はレポートを受理しない。出席回数規定については第1回の講義で説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

心理学についての基礎的な知識を得ていることが望ましい。具体例を用いて参加型の講義を予定しているので、出席を重視します。主体的積極的に参加してほしい。データ処理の基礎について学習するので、平方根（ルート）機能のついた電卓を用意すること。いわゆる『心理ゲーム』のようなものは扱わないのでそのつもりで受講してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査法入門－正確な診断と評価のために－	渡部　洋／福村出版／／講義内で使用するため必携

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査の実際	水田善次郎　編／ナカニシヤ出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

心理臨床論（S）

15550

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

複雑多様化する現代社会を背景に，学校では不登校，いじめ，非行や神経症などの問題への対応に教師は苦慮し，青年期においてはひきこもり，リストカット，フリーターやネットカフェ難民といった問題が深刻化している。本講義では，児童期から青年期に至る過程で起きるさまざまな問題を具体的事実から捉え，その背景や要因を分析・検討する。講義では，事例研究やビデオ視聴をはじめ，実際にクライエントが書いた文章も取り上げ，問題をかかえる人の内面理解を深めつつ，支援のあり方を解説していく。

到達目標 / Attainment Objectives

①不登校，ひきこもり，非行などの問題を学ぶなかで，自己の価値観を問い直す。
②思春期の心の病理を通して，青年期の心の病を理解する。
③「人の心を受けとめる」とはどういうことかを体験的に考える。
④以上を通じて，今の自分の生き方とこれからの人間関係を考える契機とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	思春期の心の病理	抑圧・我慢・「いい子」の病理
2	不登校・ひきこもりの心理臨床1	学校恐怖症・学習理論・長期的支援
3	不登校・ひきこもりの心理臨床2	「引き」こもり・家族支援・家庭内暴力
4	非行・犯罪の心理臨床1	「強い子」・非行少年の理解・ロールレタリング
5	非行・犯罪の心理臨床2	少年犯罪の推移・薬物乱用・本音の吐き出し
6	非行・犯罪の心理臨床3	加害者意識・裁判員制度・矯正教育
7	いじめの心理臨床1	スティグマ・4層構造・いじめ自殺
8	いじめの心理臨床2	いじめる子の心理・いじめ指導・不満感情の表出
9	思春期の心の病理1―摂食障害	青年期女子の心理・母子関係・寂しさとストレス
10	思春期の心の病理2―青年期境界例	尾崎豊・幼児的思考・見捨てられ不安
11	思春期の心の病理3―自傷行為	リストカット・行動化・限界設定
12	児童虐待とトラウマ	グリム童話・虐待の5つの形態・心のケア
13	発達障害の心理臨床	LD（学習障害）・発達アセスメント・遊戯療法
14	子どもの心の受けとめ方	ひきこもり・宮本亜門・子どもの願い
15	心のメッセージの読み取り・テスト	わかりにくい行動・クライエントからの質問

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	心の問題や社会病理についての理解を試す問題を出題する。
平常点評価	20 %	2回程度，講義に対する理解を深めるための小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通して，興味がわいた内容に関連する図書を自ら積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「もういちど親子になりたい」	芹沢俊介／主婦の友社／978-4-07-257271-9／
「思春期ポストモダン」	斉藤環／幻冬舎／978-4-344-98059-4／
「少年をいかに罰するか」	宮崎哲弥・藤井誠二／講談社／978-4-06-281143-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

スクールソーシャルワーク論（S）

13494

担当者名 / Instructor　佐々木 千里

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スクールソーシャルワークは、アメリカにおいてはソーシャルワークの草分け的分野のひとつとして長い歴史をもつものの、日本ではまだ最近知られるようになり、制度化された分野です。
この講義では、スクールソーシャルワークの理解と応用、課題などについて研究します。

到達目標 / Attainment Objectives

子どもの最善の利益を追求する活動であるスクールソーシャルワークを理解したうえで、スクールソーシャルワーカーとして活動することを念頭においての価値・知識・技術を学びます。また、教員などがスクールソーシャルワーカーを活用する場合やスクールソーシャルワーク的な視点を身につけた教育活動のありようを学びます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スクールソーシャルワークの概要	
2	ソーシャルワークの視点の確認	児童福祉分野のソーシャルワーク
3	スクールソーシャルワークの担い手として	
4	日本の学校の特性と支援　初等教育	
5	日本の学校の特性と支援　中等教育	
6	アセスメント　情報の収集と分析	
7	校内ケース会議	スクールソーシャルワーカーの支援とコーディネーターの役割
8	関係機関連携ケース会議	
9	児童虐待について	
10	発達障害について	
11	非行・問題行動について	
12	事例検討1	
13	事例検討2	
14	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー	
15	スクールソーシャルワークの展望	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

スクールソーシャルワークに関するものはもちろんのこと、学校や子どもに関する研修会等に積極的に参加するなど、課題意識を強くもってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業の最後に、その回の授業の内容に関係する「ふりかえり」を書いて提出してもらいます。テーマについては、その都度指示をします。なお、提出は当該回授業に出席した者についてのみとし、授業内容の理解度に応じ、3～6点で評価します。また、課題レポートを1本、最終授業日に提出することとします。課題については、授業の中で指示します。課題レポートは、1～10点で評価します。

2008年度から、スクールソーシャルワークが文科省により制度化されています。さまざまなメディアの報道に関心をもっておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スクールソーシャルワーカー養成テキスト	日本学校ソーシャルワーク学会編／中央法規出版／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スクールソーシャルワークの可能性	山野則子・峯本耕治　／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://jssssw.com/　日本学校ソーシャルワーク学会

その他 / Others

精神医学（S） § 精神医学I（S）

13289

担当者名 / Instructor　辻 正之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「こころ」の働きやｽﾄﾚｽ、精神疾患、精神医療など「精神医学」の基礎論を学習します。

到達目標 / Attainment Objectives

「精神医学の基礎となる知識を習得し、概念を理解して、それらを説明できる」水準への到達を目標に致しましょう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
①4/13	授業の概要と導入（科目のｶﾞｲﾀﾞﾝｽ）	ｼﾗﾊﾞｽ、「こころ」の働き、ｽﾄﾚｽ、精神疾患、診断分類、ﾁｰﾑ医療
②4/20	精神科診断(1)　最初の診察・面接	主訴、精神的現在症、問診、聴くこと
③4/27	精神科診断(2)　精神症状	知覚、思考、感情、意欲・行動、表情、自我
④5/11	統合失調症	妄想、幻覚、解体した会話/行動、感情の平板化、4A症状
⑤5/18	気分障害	躁うつ病、躁病、うつ病、内因性、心因性
⑥5/30（土）	神経症　ICD-10の疾病分類	葛藤、不安、ICD-10
⑦6/1	ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨ障害　思春期の精神障害	同一性、思春期心性、登校拒否、対人恐怖、摂食障害
⑧6/8	老年期の精神障害	老化、対象喪失、認知症、老年期うつ病
⑨6/13（土）*	意見交換*（5/25の大学休校に伴う「補講」です）	精神症状、効果的なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、BPRS
⑩6/15	特別講師「講義」：崔秀賢 岩倉病院長	精神医療・精神科病院の歴史、開放医療、「病院」と「地域」
⑪6/22	特別講師「講義」：大谷和世 岩倉病院副看護部長	精神科看護、「こころ」と「身体」、医療現場の実際
⑫6/29	精神療法	精神療法的態度、精神療法的技法、治療ﾒｶﾆｽﾞﾑ、治療的変化、治療構造
⑬7/6	精神科薬物療法　「腕試しﾃｽﾄ」(7/20)の事前説明	向精神薬、ﾌﾟﾗｾﾎﾞ、作用要因、「転移」と「逆転移」
⑭7/13	「ｽﾄﾚｽｹｱ病棟」と職場のﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ	ｽﾄﾚｽｹｱ病棟、うつ病、ﾁｰﾑ医療
⑮7/20(海の日)	45分間の腕試しﾃｽﾄ+45分間の講義（事後説明・解説、科目のまとめ）	ｼﾗﾊﾞｽのﾚﾋﾞｭｰ、「到達目標」と「自己評価」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

①ﾃﾚﾋﾞや新聞の精神医療・精神保健など「精神医学」に関する報道などにも関心が持てれば更に良いと思います　②授業内では症例もご提示します。秘密の保持には十分、ご配慮ください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①授業時間内に書いて頂く簡単なﾚﾎﾟｰﾄに対する評価に加えて、受講状況による加点を行ないます→全評価中の65%に充当します ②第15回授業(7/20)で45分間の「腕試しﾃｽﾄ」を行ないます→全評価中の35%に充当します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

白紙の状態で受講して頂いて構いません。授業内で集中的に学習を致しましょう。

教科書 / Textbooks

ﾃｷｽﾄは用いません。必要時に、ﾚｼﾞｭﾒなどを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ストレスとうつ	徳永雄一郎／西日本新聞社／／特に第5,8,9回の授業内容の理解を深めたいときの参考書的新書です。
事例で学ぶSST	高柴哲次郎／日総研出版／／特に第3,4,14回の授業内容の理解を深めたいときの参考書です。

禅的森田療法	宇佐晋一／三聖病院／／森田療法を原法に忠実に継承して来られている臨床医の貴重な「ｴｯｾｲ」と「日記指導実例」です。

上記の3冊は気軽に読める書籍です。
授業の理解にだけではなく、ご自分自身の健康維持にも役立つかもしれません。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

岩倉病院　http://www.toumonkai.net/
不知火病院　http://shiranui-byoin.or.jp
日本精神神経学会　http://www.jpsn.or.jp
日本うつ病学会　http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/
日本統合失調症学会　http://square.umin.ac.jp/jssr05/index.html
福岡BPRS評価ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ協会　http://www.dia-net.ne.jp/~bprs/home.htm

その他 / Others

精神科リハビリテーション学（S）　§　精神リハビリテーション学II（S）

13454

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

前期の精神科リハビリテーション論では、精神科ソーシャルワーカーとして精神障害者のリハビリテーションに取り組む視座を明確にしスキルの概要を学ぶことに重点をおいた。精神科リハビリテーション学では、精神科リハビリテーションのプロセスや方法につき学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

精神科リハビリテーションを展開する上で必要な資源、プロセス、スキルに関する理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神障害リハビリテーション論を履修しておくことが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに：精神科リハビリテーションの歴史	ILO　呉秀三　治療共同体　生活臨床
第2回	精神科リハビリテーションの概念	リハビリテーション
第3回	精神保健福祉士が行う医学的リハビリテーション	集団精神療法　SST　デイケア　ナイトケア
第4回	精神保健福祉士が行う社会的リハビリテーション	生活のしづらさ
第5回	地域リハビリテーションのベストプラクティス	日本のベストプラクティス
第6回	カナダとイギリスにおける地域リハビリテーション	CALGARY model　住居サービス　Alternative service　ACT　CPN
第7回	OTP（Optimal Treatment Project）と地域生活支援―地域リハビリテーションにとって必要な条件―	多職種支援　統合的アプローチ　ICF
第8回	ACT（Assertive Community Treatment）プログラムと重度精神障害者リハビリテーション	重度障害者　マディソンモデル、
第9回	精神科リハビリテーションのプロセス①	計画　評価
第10回	精神科リハビリテーションのプロセス②	評価尺度　QOL評価尺度　精神症状評価尺度　社会生活評価尺度
第11回	精神科リハビリテーションの場とアプローチの方法①	病院　社会復帰施設
第12回	精神科リハビリテーションの場とアプローチの方法②	地域
第13回	精神科リハビリテーションとケアマネジメント手法①	ケアマネジメントの基本思想
第14回	精神科リハビリテーションとケアマネジメント手法②	類型　活動の手順
第15回	総括講義　点検試験	精神科リハビリテーションの課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と講義への参加姿勢を判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーション学	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／978-4-8058-2813-7／

教科書は、精神障害リハビリテーション論（前期開講科目と共通）。なお、教科書は、精神科リハビリテーションの方が頻回に利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害リハビリテーション学	蜂谷英彦　岡上和夫　他／金剛出版／4-7724-0663-8／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神障害者の人権とくらし（S） § 精神保健福祉論II（S）

13324

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な科目であることから、精神障害者の視点に立って人権とは何か、それを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、その現状と課題を取り上げる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として、精神障害者の人権をどう保障するか。そのためには客観的な視点がどう必要かを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の到達目標、進め方
2	障害者の人権保障	世界人権宣言、国際障害者年、障害者感の変遷
3	精神障害者の人権保障	精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則
4	わが国における障害者の人権保障の枠組み	障害者基本法、障害者プラン
5	精神医療における権利擁護①	インフォームド・コンセント、病院内の審査体制
6	精神医療における権利擁護②	精神医療審査会、実地指導・実地審査
7	権利擁護と市民運動	精神医療オンブズマン
8	人権侵害の現状	宇都宮病院事件、大和川病院事件
9	権利擁護の取り組み	欠格条項、青年後見制度、アドボカシー
10	偏見・差別・スティグマ	権利擁護の担い手としてのPSW
11	精神援助活動①	精神科病院での相談援助
12	精神援助活動②	地域（保健所等）での相談援助
13	精神援助活動③	災害時の相談援助
14	精神保健福祉士の役割・課題	PSWのアイデンティテイ
15	「検証テスト（確認テスト）」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座「第4巻　精神保健福祉論」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／3154／定価2，835円（税込み）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神障害リハビリテーション論（S） §　精神リハビリテーション学I（S）

13288

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人生の途上で精神障害と出会った人が、その障害と向き合い価値ある人生を創造することを科学的に支援する取り組みが精神科リハビリテーションである。この授業では、統合失調症圏を中心に精神障害者の社会参加支援の実際についてふれ、精神障害の生活と支援をどう理解するのかを学び、精神科ソーシャルワーカーとして精神障害者のリハビリテーションに取り組む視座とスキルを明確にする。

到達目標 / Attainment Objectives

生活モデルに立脚しながら精神科リハビリテーションに取り組む専門職として精神科ソーシャルワーカーに求められる視座を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神医学
精神保健福祉援助技術総論・各論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション：精神科リハビリテーションと精神保健福祉支援の歴史	地域居住プログラム、退院患者クラブ
第2回	精神障害者の生活実態	生活困難状態　援助必要性
第3回	精神科リハビリテーションの対象①ー統合失調症圏を中心にー	精神障害　特性　認知の障害　統合の障害
第4回	精神科リハビリテーションの対象②ー統合失調症圏を中心にー	生活の仕方の障害　対人関係の障害　働くことの障害
第5回	精神科リハビリテーションの対象③－神経症圏を中心にー	不安　自己尊厳　自己肯定
第6回	リハビリテーションの場とプロセス①―病院、診療所－	SST、デイケア
第7回	リハビリテーションの場とプロセス②－地域支援機関－	保健所、危機、アウトリーチ　コミュニティ
第8回	リハビリテーションの場とプロセス③－就労－	過渡的雇用、雇用管理、ジョブコーチ
第9回	専門職としてのスタンス	場の力動　エンパワメント
第10回	長い入院とリハビリテーションー当事者へのアプローチー	院内寛解、認知障害、施設症
第11回	親へのアンビバレントな感情や行動とリハビリテーションー家族のアプローチー	EE、危機介入
第12回	地域での生活と支援	ハードな資源　ソフトな資源　当事者の役割　市民の役割
第13回	リハビリテーションとピアスタッフ	セルフヘルプ　ピアスタッフ　ピアアドボケーション
第14回	共同作業所実践が築いてきたリハビリテーションモデル	なかま　当事者観　フレンドシップ
第15回	総括講義　点検試験	精神科リハの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況ならびに講義への積極的参加を評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーション学	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／978-4-8058-2813-7／

教科書は、精神科リハビリテーション学と共通

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーションケースブック	野田文隆　寺田久子／医学書院／4-260-11883-8　C3047／
精神障害リハビリテーション学	蜂谷英彦　岡上和夫　他／金剛出版／4-7724-0663-8／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神保健学（S） § 精神保健学I（S）

13267

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「こころの時代」といわれて久しいが、現代社会は複雑な社会背景から,いじめ・虐待・自殺などさまざまな問題が発生している。特に自殺者は1998年以後10年連続で3万人を越えている。自殺者の多くがうつ病などの精神疾患が原因していると言われている。このように現代人はストレスを感じてており、こころの健康を害しやすくなっている。ストレス社会と言われる所以でもある。精神保健を理解するには、子供から老人までライフサイクルの視点からと、人が生活している家庭、学校、地域、職場などの生活環境の両方の視点からの理解が必要である。 こころの健康問題は個人と家庭や学校、地域、職場など本人をとりまく環境や状況によっても起こることなどの理解が必要である。そのためにはただ単に病気の予防、再発防止、自立的生活の維持だけでなく、広く国民全体の精神保健の保持、増進の必要性について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルにおける精神保健の問題や課題についての取り組みを学び、精神保健福祉士としての概要を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標・進め方
2	精神保健の概要・意義と課題	WHO憲章、わが国の現状と課題
3	ライフサイクルにおける精神保健①	胎児期・乳幼児期における精神保健
4	ライフサイクルにおける精神保健②	学童期・思春期における精神保健
5	ライフサイクルにおける精神保健③	青年期・成人期における精神保健
6	ライフサイクルにおける精神保健④	老年期における精神保健
7	精神障害者対策	歴史と障害者自立支援法・課題
8	アルコール関連問題対策	アルコール関連問題とは・健康日本21
9	薬物乱用防止対策	薬物乱用の現状・特徴・対策
10	地域精神保健対策	危機介入・アウトリーチ
11	家庭における精神保健	少子高齢化・児童虐待・DV
12	学校における精神保健	不登校・いじめ・学校精神保健の課題
13	職場のメンタルヘルス	職場のメンタルヘルス・4つのケア
14	諸外国における精神保健	イタリア・オーストラリア・カナダの精神保健施策
15	検証テストと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉養成講座　第2巻「精神保健学」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／3152／定価2,835円（税込み）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神保健福祉援助技術各論（S） § 精神保健福祉援助技術各論I（S）

13327

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者を対象とした直接援助技術（ケースワーク、グループワーク）について学び、援助技術を習得することを目的とする。講義では、直接援助技術の実践に必要な理論を学び、演習によってこれを体験することで、社会福祉援助活動について総合的に理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

・直接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
・習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉の必修科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークの周辺理論	交流分析、防衛機制
第2回	精神障害者を対象としたケースワーク①	面接の意味と目的
第3回	精神障害者を対象としたケースワーク②	面接技法
第4回	精神障害者を対象としたケースワーク③	記録の内容
第5回	精神障害者を対象としたケースワークの展開①	インテーク、アセスメント
第6回	精神障害者を対象としたケースワークの展開②	プランニング、モニタリング、評価
第7回	事例検討	ケアマネジメント計画
第8回	精神障害者を対象としたグループワーク①	歴史、目的
第9回	精神障害者を対象としたグループワーク②	メンバーの選択、グループワークの準備
第10回	精神障害者を対象としたグループワーク③	グループワークの始め方、規範の形成
第11回	グループの発展段階と構造	発展の5段階
第12回	グループへの介入、評価、終結	個人・環境への介入、グループの葛藤
第13回	まとめ	
第14回	予備日	
第15回	試験日	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてペーパー試験を行う（試験時間：1時間）。 コミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ　http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/
日本精神保健福祉士協会　http://www.mmjp.or.jp/psw/

その他 / Others

精神保健福祉コミュニティワーク（S） § 精神保健福祉援助技術各論II（S）

15574

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる個別援助技術、集団援助技術を踏まえたうえで、コミュニティワークの実践の質をより深めるために必要な間接援助技術やその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・間接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
・習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	コミュニティワークとは	時代に応じた概念の変化
第2回	精神障害者を対象とした地域援助技術	ソーシャルワーク・リサーチ
第3回	間接援助技術の内容と機能	ソーシャル・プランニング
第4回	関連専門援助技術について	心理療法、家族療法、面接技法
第5回	地域福祉の枠組み	地域福祉をめぐる考え方の違い
第6回	これからの地域福祉	ボランティア活動、セルフヘルプグループへの支援
第7回	コミュニティワークの理論①コミュニティ・ディベロップメント	イネーブリング、セツルメントとパターナリズム、ラジカル・ワーカー
第8回	コミュニティワークの理論②ポリティカル・エンパワメント	多元的世界観、マイノリティの参加と社会の安定
第9回	コミュニティワークの理論③プランニング	新しいプランニング理論
第10回	コミュニティワークの理論④プログラム・ディベロップメント	インターグループワーク、多元主義と資源配分
第11回	コミュニティワークの理論⑤コミュニティ・リエゾン	ボランタリズム、当事者参加促進策
第12回	コミュニティワークの将来	理論のまとめ、社会変革の理想
第13回	まとめ	
第14回	予備日	
第15回	試験日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてペーパー試験を行う（試験時間：1時間）。 コミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ　http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/
日本精神保健福祉士協会　http://www.mmjp.or.jp/psw/

その他 / Others

精神保健福祉の現状と課題（S） § 精神保健福祉論III（S）

15480

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神障害者は、長い間にわたる隔離収容政策の下で地域で当たり前に生きる権利が奪われてきた。精神障害当事者の人権を保障する働き手となる際に必要な障害者観や実践観、さらに実践上の現状と課題をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉上の切実な要求を持つ人の人権を保障する為に必要な障害者観や実践観を理解し、政策や実践課題に関心を持つ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	精神障害者観と精神保健福祉の流れ	隔離収容政策　スティグマ　パターナリズム
第2回	PSWと精神障害者の地域生活	危機　連携　包括的地域生活支援
第3回	パートナーとしてのPSW　実践の価値	パートナー　フレンドシップライン
第4回	精神障害者と精神科医療	法34条　受療アクセス
第5回	精神障害者と精神科医療	社会的入院　施設症　当事者ニーズ
第6回	精神障害者と暮らしの場	家族　グループホーム　ケアホーム
第7回	精神障害者といこいの場	なかま　自治　自律
第8回	精神障害者と就労	就労支援　ジョブコーチ　適応から参加
第9回	青年期の課題を持つ当事者達と支援	ひきこもり　摂食障害　リストカット
第10回	災害・事故の被害と支援	トラウマ　PTSD　災害支援
第11回	触法精神障害者と回復支援	池田小学校事件　医療観察法
第12回	他の精神保健福祉ニーズを持つ人の生活と支援	薬害HIV　遺族
第13回	当事者からの発言	薬害HIV遺族
第14回	当事者からの発言	統合失調症　ひきこもり
第15回	総括講義　点検試験	精神保健福祉の政策的課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に試験に代わるレポート課題を提起し、即日作成。 講義は、議論を重視する。積極的に議論に参加すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。
☆精神障害者に関わる議論すべき事例が生じた時には講義計画を変更する。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めないが、講義内で紹介した書籍には必ず目を通すこと

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害をもつ人が地域でくらしていくために―介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平／かもがわ出版／4-87699-840-x／
障害者のくらしはまもれるか	中内福成、植田章、田中智子、井上泰司、峰島厚、山本耕平／かもがわ出版／4-7803-0047-9　／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神保健福祉論（S）　§　精神保健福祉論I（S）

13443

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な科目であることから、精神障害者の視点に立って人権とは何か、それを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、歴史を振り返りながらその現状と課題をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神障害者は長い間、医療という枠組みの中で精神科病院への収容政策が取り入れられて来た。しかし、近年福祉という概念が導入された。そこで精神障害者の「自立と共生」をどうとらえるのかを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方
2	障害の概念	国際生活機能分類、我が国の法律における障害の定義
3	精神保健福祉の歴史①	精神衛生法成立まで
4	精神保健福祉の歴史②	精神衛生法から精神保健法まで
5	精神保健福祉の歴史③	精神保健福祉法
6	精神保健福祉の歴史④	障害者自立支援法
7	精神保健福祉法の概要①	ICD-10、DSM-Ⅳ
8	精神保健福祉法の概要②	移送制度と人権
9	精神保健福祉法の概要③	精神障害者保健福祉手帳
10	精神保健福祉法の概要④	精神障害者社会復帰施設の歴史と課題
11	精神保健福祉施策①	我が国の行政施策の現状と課題
12	精神保健福祉施策②	家族会活動、家族の抱える課題と展望
13	精神保健福祉施策③	退院促進支援事業の現状と課題
14	これからの精神保健福祉	統合失調症モデルからの脱却
15	「検証テスト（確認テスト）」と「解説」	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座「第4巻　精神保健福祉論」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／3154／定価2，835円（税込み）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ソーシャルワーク論（S） § 社会福祉援助技術論II（S） § 社会福祉援助技術論II（SG） § ソーシャルワーク論（SG）　13249

担当者名 / Instructor　岡田 まり　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会福祉援助（ソーシャルワーク）に必要な専門性の礎を築くことである。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方や、実践に必要な理論や専門技術などについてである。ソーシャルワークは、個人から地域、政策までさまざまなレベルで展開されているが、本講義ではソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、グループへの支援に焦点をあてて学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

・ソーシャルワークの専門性と役割について説明できる。
・ソーシャルワーク実践のプロセスと方法について述べることができる。
・ソーシャルワーカーが常に遵守しなければならないことを述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目を可能なかぎり履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークとは	定義、目的、目標、方法
第2回	ソーシャルワークの分野・領域	事例、専門性
第3回	相談援助とは （テキスト第1章）	構成要素、専門職、実践領域、対象とする社会問題、介入の単位
第4回	相談援助の構造と機能（テキスト第2、3章）	視点、基本的な考え方、役割・機能
第5回	援助関係（テキスト第4章）	原則、機能・役割、自己覚知
第6回	援助の展開課程I（テキスト第5章）	インテーク、アセスメント、計画
第7回	援助の展開課程II（テキスト第6章）	モニタリング、評価、開発
第8回	アウトリーチ、契約（テキスト第7，8章）	アウトリーチ、契約
第9回	アセスメント （テキスト第9章）	援助関係、面接、情報
第10回	介入（テキスト第10章）	方法、理論、レパートリー
第11回	モニタリング、評価（テキスト第11章）	モニタリング、再アセスメント、効果測定、サービス開発
第12回	面接（テキスト第12章）	面接の形態、コミュニケーション・スキル
第13回	記録（テキスト第13章）	記録の目的、種類、方法
第14回	交渉、スーパービジョン（テキスト第14章）	交渉、エンパワメント、スーパービジョンの種類と方法
第15回	確認テスト（60分）と解説（30分）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業内容について理解し、自分の言葉で説明できるか、また、それらの内容を課題の事例において活用できるかを評価する。 ミニ課題およびコミュニケーション・ペーパーによって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中には講義だけでなく演習を行うこともあるので主体的な参加が重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新・社会福祉士養成講座7　相談援助の理論と方法I』	社会福祉士養成講座編集委員会編／中央法規／978-4-8058-3107-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会　http://www.jacsw.or.jp/

その他 / Others

地域福祉論（S） §　地域福祉論（SG）

15465

担当者名 / Instructor　津止 正敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

1.高齢・児童・障害等各分野別福祉との比較検討による地域福祉理解を図ると共に、地域福祉の固有の構造と領域、方法,歴史について理解を深める。
2.福祉を通して地域社会への興味・関心を深める。
※原則として、変更されることはありません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

児童、老人、障害の各分野別福祉論並びに社会福祉概論、社会福祉援助技術論等は事前に履修しておくことが望ましい。この講義は、具体的な地域福祉と地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義となる予定である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション－地域福祉論スケッチ－	歴史　社会問題　地域社会　社会福祉
2	地域福祉とコミュニティ －論文「地域福祉とネットワーク」－	コミュニティ　少子高齢化　ネットワーク
3	新しい地域福祉プログラム－論文「福祉とコミュニティ」－	コミュニティ　少子高齢化　ご近所
4	新しい地域福祉活動プログラム 2－ネオ町内会－	町内会･自治会　ソーシャルキャピタル
5	地域福祉と当事者支援①－子育て支援①－	子育て支援　子育てサークル　当事者
6	地域福祉と当事者支援②－子育て支援②－	子育て支援　子育てサークル　当事者
7	地域福祉と当事者支援③－障害児と地域福祉①－	障害児　放課後保障　ボランティア
8	地域福祉と当事者支援④－障害児と地域福祉②－	障害児　放課後保障　ボランティア
9	地域福祉と当事者支援⑤－男性介護者支援①－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
10	地域福祉と当事者支援⑥－男性介護者支援②－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
11	地域福祉の方法①－コミュニティワーク－	ソーシャルワーク　コミュニティワーク　間接援助技術
12	地域福祉の方法②－地域福祉(活動)計画－	地域福祉(活動)計画　市民参画　ワークショップ
13	地域福祉の方法③－地域福祉の機関と担い手－	社会福祉協議会　民生委員　社会福祉施設　NPO
14	地域福祉の方法④－ボランティアリズムと地域福祉－	ボランティアセンター　ボランティアコーディネーター　NPO
15	地域福祉とは何か－地域福祉の歴史的発展を踏まえて－	地域福祉　分野別福祉　住民主体　関係性　当事者性　社会運動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

地域福祉活動やボランティア活動についての体験があれば、講義内容の理解が容易であると思われる。実際に活動に参加・体験してみたり、友人知人の体験談や活動実施機関・団体等のレポートなどにも目を通しておくこととを薦める。ゲストスピーカーも予定し、毎回簡単な感想／意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	40 %	講義内容に即した地域福祉理解について評価する
レポート試験	30 %	2～3回の中間試験又はレポートを課す
平常点評価	30 %	講義時のコミュニケーションペーパーなどを活用する

本講義は、2回生以上の配当科目ではあるが、各分野別福祉論(児童、障害、老人、など)や援助技術論を受講後の方が望ましいし、その方が講義理解を容易にすると思われる。各分野別福祉との比較検討の中で地域福祉固有の構造や領域、方法について具体的に講義していく

予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書としては特に指定はないが、講義中にその都度適宜紹介する。また、社会福祉士の国家試験の受験を予定しているものは、本講義では特にその受験対策は行なわないために、該当テキストによって自学自習すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
男性介護者白書	津止正敏／かもがわ出版／978-4-0117-5／
ボランティアの臨床社会学	津止正敏他／クリエイツかもがわ／／3月発行予定

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

全国社会福祉協議会　http://www.shakyo.or.jp/
厚生労働省　http://www-bm.mhlw.go.jp/index.html
内閣府　http://www.cao.go.jp/

その他 / Others

地域保健論（S）

15474

担当者名 / Instructor　白石 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の地域保健活動は、国から地域及びその構成員個人へと主体がシフトしている。その流れを踏まえつつ、地域保健に関する基本概念や行政の仕組み、行政や諸関連組織の活動などについてみていく。

さらに、疾病構造、生活習慣などを踏まえたうえで、地域や個人を対象とした健康課題やその対策について、保健や医療分野にとどまらず福祉をはじめ多様な視点から多面的・多層的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目を終了した学生は、次のことができるよう期待されている。

1. 地域（市町村）レベルでの保健康課題、取組の理念や仕組みなどに関する基礎知識を身につける。
2. 社会保障における地域保健政策の役割や課題について、身近な事例などを用いて説明できる。
3. 医療をはじめ福祉や環境など他の分野との相互関係を踏まえて議論できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが，地域社会論，地域福祉論，現代人とヘルスケア，衛生学などとあわせて受講することで理解が深まるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	ガイダンス	講座の目標（到達点）、全体の流れ、評価方法などの概要説明
2回	地域保健と健康；各種関連用語及び概念について	地域保健、健康、ヘルスプロモーション、疾病予防、健康増進、介護予防など
3回	健康の指標及び日本の健康の状況	疾病構造、死亡要因、平均寿命など保健関連の各種統計から保健課題を抽出
4－5回	保健政策の流れ（歴史）	・現在のプライマリケア、健康増進（ヘルスプロモーション）までの政策の流れ ・保健サービスが国から市町村に移行する背景
6回	地域保健（1）全体論	地域保健に関する行政制度・サービス、人的資源の概要について
7－8回	地域保健（2）各論	①健康増進対策 →近年、住民の関心が高まるとともに行政においても重点が置かれている健康増進政策の背景と制度・サービスを取り上げる ②高齢者保健、母子保健、精神保健 →国や都道府県から市町村に移譲されてきている保健領域に焦点をあて、府県の保健行政との関係のなかで地域保健を整理する
9回	地域保健と医療	地域保健と関連する医療制度・サービス及びそれらとの連携について →地域医療計画、生活習慣病対策、健康日本21、健やか親子21など
10回	地域保健と福祉	地域保健と関連する福祉制度・サービス及びそれらとの連携について →児童育成計画、障害者福祉計画、高齢者福祉計画、介護保険事業計画など
11回	地域保健推進の手法（1）	地域保健計画、地域保健医療計画、健康日本21地方計画、食育推進地域計画など地域保健にかかわる計画の意義、特徴及び課題など
12回	地域保健推進の手法（2）セーフコミュニティ①	WHOセーフコミュニティ（SC）の概要説明と地域保健の視点からみたSCの意義について
13回	地域保健推進の手法（3）セーフコミュニティ②	WHOセーフコミュニティ活動の事例（海外） →WHOセーフコミュニティの組みの状況と保健面での成果について、海外の事例から紹介（主に、保健が地域レベルで取り組まれているスウェーデンや北欧諸国や近年取り組みが活発なアジアの事例を中心に説明）
14回	地域保健推進の手法（4）セーフコミュニティ③	WHOセーフコミュニティ活動の事例（日本） →日本におけるセーフコミュニティの取り組みと地域保健における成果（高齢者保健、精神保健、職域保健・・・・）への展開を国内の事例（亀岡市、十和田市、厚木市など）

15回	まとめ	これまでの講義内容のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして実施する。 授業の理解度を確認するとともに、学んだ内容をもとに自分の身近な地域における健康課題を取り上げ対策について考察する。
平常点評価	50 %	出席を重視する。 また、小レポートやコメントシートにより関心事や理解の深さを確認する。

・授業は基本的にパワーポイントを用いて行う。
・レポートやワークシートのテーマ、課題については、基本的に授業中に連絡する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1)地域保健は、私たちだれもが日常生活で大きく関っている分野です。日々の生活のなかからも興味深く学ぶために、自分で具体的な健康課題とその取り組みを考えながら学んでいくことを勧めます。最終的にレポート作成にも関わってきますので、自分がとりくむ課題を考えつつ受講してください。

2)前半は地域保健の全体像の理解を目的としています。後半は各論として、実際に他の分野との関係や具体的な取組事例を取り上げます。後半の各論を理解するためには、前半の基礎をしっかり把握しておくことが重要です。前半後半を通して授業に出て内容を把握したうえで自ら取り組む人口と健康問題について考えて、最終的に提出するレポートを作成していくことが求められます。

3)課題については早い時期に授業でお知らせするので、学期終了時に何が求められているかを理解したうえで受講してください。

教科書 / Textbooks

・テキストは利用せず、必要な資料等は授業中で紹介します。
・いくつかの健康問題については、入手しやすい情報源を紹介します。ただし、レポート等でそれらを使う際には、引用のルールをまもって下さい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生・公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂／／／何かを調べる際に
健康づくりと社会環境	松田亮三他／法律文化社／／主に健康づくりについて
国民衛生の動向	／財団法人　厚生統計協会／／公衆衛生の動向など全体的な理解について

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

（行政）
厚生労働省(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
健康日本21　http://www.kenkounippon21.gr.jp/
（研究機関）
国立健康・栄養研究所(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
国立保健医療科学院(http://www.niph.go.jp/)
電子図書館からは、『保健医療科学』（かつての『公衆衛生研究』）が読める
http://www.niph.go.jp/toshokan/denshi-toshokan.htm
厚生労働科学研究のデータベースもある
http://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/index.htm

（ポータルサイト）
健康ネット　http://www.health-net.or.jp/　（健康に関連したNGO）
その他、多数あり。授業中に紹介する。

その他 / Others

特別支援教育論 (S)

12348

担当者名 / Instructor　朝野 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の学校教育では、従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めた障害のある児童生徒に、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行っていく特別支援教育の必要が国際的にも国内的にも高まってきている。個々の障害についての基本的知識の理解を促すとともに、発達段階、生活状況などにも配慮した一人ひとりの子どもたちの特別なニーズを把握して、学習や生活上の困難を改善又は克服するために必要な方法を検討していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・教職を志す者として障害についての最低限の知識と理解を目指す。
・特別支援教育の意義について、日本における障害児教育の歴史的変遷から現状と課題について理解する。
・特別支援教育、特に、障害種別によらない教育のあり方や発達障害について理解を深める。
・「ノーマライゼーション理念」の具現化に向けての今日的課題について考察する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門科目ー専門科目の中の障害児の教育、福祉、スポーツなどに関する講座。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	障害児教育をめぐる動向ー特別支援教育とは？	特別支援教育の理念と基本的な考え方、学校制度、福祉・医療・労働等に関わる様々な制度などの概括. 「自分と障害児教育との関わり」についてレポート①
第2回	障害児教育の発展の歴史(1)(義務教育制以前:近世) 障害児教育の発展の歴史(2)(義務教育制以降:近代以降)	近代盲・聾教育の始まり、明治以降の障害児教育、知的障害教育・肢体不自由教育・病弱教育の始まり
第3回	障害児教育の発展の歴史(3)(第2次世界大戦以降)憲法、教育基本法、学校教育法の制定と障害児教育	学校教育法の制定と障害児教育、養護学校の義務制施行後の教育
第4回	障害児教育の発展の歴史(4)(養護学校義務制移行から特別支援教育へ) ＜振り返り自己確認テスト＞	養護学校、特殊学級の発展、軽度の障害のある児童生徒の教育の充実、国際障害者年と障害者対策に関する計画
第5回	障害児教育の制度(1)①就学指導 ②特別支援学校 ③特別支援学級	特別支援教育の対象となる幼児児童生徒、学校教育法施行令、就学制度
第6回	障害児教育の制度(2)①通級制度 ②特別支援コーディネーター	通級による指導、教育課程の編成と配慮事項
第7回	特別支援教育のあり方(1)ー小学校・中学校における特別支援教育	学習指導要領と教育課程の編成および配慮事項、法令障害児教育の歴史および制度についてのまとめ[確認小テスト]
第8回	特別支援教育のあり方(2)ー特別支援学校における教育①	盲・聾・養護学校の学習指導要領の歴史、特別支援学校の教育の概要、障害種別への対応・視覚・聴覚・知的障害
第9回	特別支援教育のあり方(3)ー特別支援学校における教育②	特別支援学校の教育課程の特色、教育課程編成の特色、自立活動、障害種別への対応:肢体・病弱・重複障害
第10回	特別支援教育のあり方(4)ー特別支援学校における教育③	センター的機能とその役割、特別支援コーディネータの役割、専門機関との連携と協働、交流及び共同学習
第11回	特別支援教育のあり方(5)ー地域に根ざす特別支援教育:放課後や長期休暇での障害児者の生活、余暇活動、家族	障害のある子供の余暇活動、地域生活、家庭と家族、福祉施設、障害者自立支援法、障害児タイム・ケアー事業
第12回	特別支援教育のあり方(6)ー地域に根ざす特別支援教育:地域ネットワークと支援のあり方 ＜振り返り自己確認テスト＞	コミュニティ・スクール、ボランティア活動、広域特別支援連携協議会、コミュニティにおける双方向の援助
第13回	国際的な特別支援教育の動向(1)ー特別なニーズ、サマランカ宣言	SEN、「万人のための教育」宣言の理念、ユニバーサル・デザイン、バリア・フリー社会、ノーマライゼーション
第14回	国際的な特別支援教育の動向(2)インクルーシブ教育、バリアフリー社会、慈悲から権利へパラダイム転換、	国際障害者年、障害者の権利条約、びわこミレニアム・フレームワーク、クラスター・オブ・スクール
第15回	まとめ・評価＜振り返り自己確認テスト＞	今後の特別支援教育の展望、新しい学習指導要領に改善点、新しい福祉施策 「自分と特別支援教育との関わり」についてレポート②

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

京都市における特別支援教育に関する公開講座や行事への参加の勧誘を行い、見聞を広める（適宜案内を提示する）

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①自らと特別支援教育とのかかわりについてレポートを課す。授業で扱った内容を生かして論理的説得力をもって記述されているかを見る。 ②授業で扱った特別支援教育に関わる人権・教育制度・福祉施策・援助活動などついての理解度の確認を、自己採点式の小テストを適宜行う。

日常の授業への積極的態度を評価する。そのため出席を最重要視する。20分以上の遅刻・3回以上の欠席ついては、特別支援教育についての課題を設定するので、提出をもって回復を検討する。
適宜コミュニケーションペーパーでもって講義についての感想を求め、疑問・質問に答える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特別支援学校教諭免許状取得に必要な科目であるが、知識的理解のみならず実践的、実証的態度を自ら養うためには、学外での特別支援教育に関する授業参観や講演会及び行事等を紹介するので、積極的に参加する意欲を持って欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
特別支援学校学習指導要領	文部科学省／東京書籍／／H21改正予定
盲聾養護学校学習指導要領及び解説書	文部科学省／国立印刷局／／旧版H11．3，H12．3
小学校・中学校学習指導要領	文部科学省／東京書籍／／H20改正

各講義毎に資料を配布するのでテキストとして使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達障害白書	日本発達障害福祉連盟／日本文化科学社／／2008版、2009版
輝けきょうの子どもたち	京都市総合支援学校長会／ミネルバ書房／／

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のWebサイトを検索して必要な情報を得て、確認をする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省特別支援教育課
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

その他 / Others

乳幼児心理学 (S)

13300

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、胎生期から児童期までの人間発達について概説するとともに、保育や教育における問題や課題についても論じる。また、障害のある子どもの発達的特徴および保育・療育の課題についても考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

① 子どもへの関心を高め、乳幼児期の発達を捉える視点を明確にする。
② 保育園や幼稚園における子どもたちの生活について学ぶ。
③ 障害のある子どもたちの生活や発達について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「発達」の捉え方、生涯発達における乳幼児期のもつ意味	発達段階、人権としての発達、発達の3つの系、生涯発達心理学
第2回	胎生期の発達	受精、卵体期、胎芽期、胎児期、胎児の知覚世界、胎生期の発達保障
第3回	乳児期前半の発達と保育	赤ちゃんの不思議、新生児微笑、生活リズム
第4回	乳児期後半の発達と保育	8か月不安、定位行動、はいはい、喃語
第5回	1歳児の発達と保育	自我の誕生、直立二足歩行、道具の操作、音声言語、しつけ
第6回	2歳児の発達と保育	対概念、象徴機能、みたて・つもり遊び
第7回	3歳児の発達と保育	イッチョマエの3歳、ごっこ遊び、3歳児の心の揺れ
第8回	4歳児の発達と保育	～シナガラ～スル、心の理論、4歳児のプライド
第9回	5歳児の発達と保育	自我から自己へ、中間世界の成立、自己信頼感、集団あそび
第10回	障害のある子どもの発達と保育(1)	自閉症、ダウン症、発達遅滞、乳幼児健診
第11回	障害のある子どもの発達と保育(2)	肢体不自由、脳性まひ、主体性
第12回	障害のある子どもの発達と保育(3)	発達障害、学習障害(LD)、注意欠陥･多動性障害(ADHD)、アスペルガー症候群
第13回	児童期の発達と教育	小学校、ギャングエイジ、学童保育、接続問題
第14回	まとめ	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	期末試験により授業内容の理解度を問う。
平常点評価	20 %	講義中に課す授業レポートなどの成績。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
育ちあう乳幼児心理学	心理科学研究会(編)／有斐閣／4-641-07634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間コミュニケーション論 (S)

15536

担当者名 / Instructor　団 士郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。一方、得意だと思っている人は、自分のコミュニケーション作法を振り返ってみる機会がありません。上手くやれていると思っているものを、見つめ直す必要を感じないからです。その結果、若くして身についた技術のまま、二十代、三十代を過ごしてしまいます。これが要注意点であることに議論は不要でしょう。

また、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも少し、焦点を当てます。

対人コミュニケーションにおいては「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好なコミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達の手段技術)の両者がうまく備わってこそです。この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。

毎年説明しているように、教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一歩前進です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
(1)	イントロダクション　授業の進め方　第一回の実習　ミニレポート(記述・提出)	
(2)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(3)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(4)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(5)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(6)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(7)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(8)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(9)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(10)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(11)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(12)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(13)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(14)	今日の課題実習(屋外実習)　今日のフィードバック(記述・提出)	
(15)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上（10回）出席できそうにない者は登録しないでください。基本的に毎週フィードバックシートの提出を課します。遅刻してミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。2008年度は登録して出席できない四回生が目立ちました。当然単位は取れません。けじめのある受講登録をしてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の練習問題	団士郎／ホンブロックKK／／マンガです。主に家族のコミュニケーションに焦点をあてたものです。
不登校の解法ー家族のシステムとは何かー	団士郎／文春新書／／読みやすい新書です。家族システム論の視点から、親子のコミュニケーションをテーマに書いています。
家族力×相談力	団士郎／文春新書／／家族関係全般について、様々な事例を書いています。
家族の練習問題（2）	団士郎／ホンブロック／／第二巻です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間発達論（S）

15533

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「人間らしい発達とは何か」という問いをメインテーマとしながら，人間の生涯にわたる発達のプロセスを発達の時期ごとに概観する。その際、人格の発達に焦点を当てるが，それと同時に，認識や感情といった発達の諸相についても、可能な範囲で触れることとしたい。
それに加えて，人間発達に関わる近年の理論的発展についても触れる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

①人間の発達に関して，基本的な知識を得ること。
②人間発達に関わる知識を，福祉や教育の観点と結びつけて理解を深めること
③これらを基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の進め方についての説明」および「発達とは何か」	機能連関，発達権
第2回	人間発達と進化	進化，遺伝と環境，人間性
第3回	胎生期の発達的特徴	受精，着床，胎芽期，胎児期
第4回	乳児期前半の発達的特徴	周産期，新生児期，原始反射，顔の知覚，姿勢
第5回	乳児期後半の発達的特徴	共同注意，三項関係，歩行
第6回	幼児期前半の発達的特徴	言葉の始まり，表象，自我，第一反抗期
第7回	幼児期後半の発達的特徴	認知世界の広がり，素朴理論，自己主張と自己抑制
第8回	児童期前半の発達的特徴	学校への移行，勤勉性，具体的操作
第9回	児童期後半の発達的特徴	ギャング・エイジ，9，10歳の発達の節，仲間関係と自己意識
第10回	青年期の発達的特徴	性的成熟，第二反抗期，アイデンティティ，自立と依存
第11回	成人期の発達的特徴	労働，結婚，親になること
第12回	老年期の発達的特徴	子どもの巣立ち，関係性の変容，衰退，英知
第13回	人間発達理解の新しい展開①：発達の可塑性	経験の意味，進化生物学，遅れからの回復，
第14回	人間発達理解の新しい展開②：知的発達を捉え直す	IQ，経験知，分析的知能，実践的知能
第15回	人間発達理解の新しい展開③：英知に向かう発達を捉える	英知，人生回顧，知識，知能，越境，意志

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	学習内容に関する基本的な理解があること，ならびに，そうした理解に基づく妥当な考察ができること。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代心理学入門2発達心理学	無藤隆 他／岩波書店／4-00-003922-9／講義の一部で言及する
生涯発達のダイナミズム：知の多様性 生き方の可塑性	鈴木忠／東京大学出版会／9784130133012／講義の一部で言及する
家族の関わりから考える生涯発達心理学	尾形和男 他／北大路書房／4-7628-2520-4／理解を深めるために
ライフサイクル、その完結	E. H. エリクソン 他／みすず書房／4-6220-3967-2／理解を深めるために
1歳児の発達診断入門	田中昌人／大月書店／4-2724-0361-3 ／理解を深めるために

上記以外にも，参考となる文献は，随時授業で紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

発達障害論（S）

13337

担当者名 / Instructor　荒木 穂積

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの視点から発達支援の課題と関わらせて考えていきたい。

本講義では、人間発達の過程において発達の質的転換期（例えば、「階層-段階」理論など）との関わりで発達障害をとらえていく。発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・発達障害の基礎的概念や用語を学ぶ。
・発達障害の発生・成立のメカニズムを学ぶ。
・人間発達における質的転換期と発達障害の関係について理解を深める。
・発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学、児童青年の心理、人間コミュニケーション論、障害者福祉論、心理検査法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	1. 発達障害とは（1）－基礎的用語と定義の説明－	発達とは、障害とは、発達障害とは、発達障害者とは、発達障害の定義（広義）、発達障害の定義（狭義）
第2回	発達障害とは（2）－歴史・現状－	発達障害概念の歴史的変遷、発達障害者数、発達障害者支援法
第3回	2. 人間発達と発達障害（1）－系統発生と障害（その1）：ヒトの誕生まで－	人間進化、遺伝病、遺伝子病、障害の発生と進化
第4回	人間発達と発達障害（2）－系統発生と障害（その2）：ヒトの誕生以降－	ヒトの誕生、ネアンデルタール人、共同社会、社会の進歩と障害者、知的障害と能力主義、発達障害とコミュニケーションの発達、障害と社会
第5回	3. 発達の「階層－段階」と発達障害（1）－胎生期（その1）－	卵体期、胎芽期、遺伝病、遺伝子病、染色体異常
第6回	発達の「階層－段階」と発達障害（2）－胎生期（その2）－	胎児期、脳の発達、神経の成長、先天と後天、流産と死産
第7回	発達の「階層－段階」と発達障害（3）－周生期－	未熟児、低体重児、仮死、アプガー指数、脳性マヒ
第8回	発達の「階層－段階」と発達障害（4）－乳児期前半－	原始反射、親と子の絆、運動発達、笑顔の獲得、情緒の発達、親子関係、重度重複障害
第9回	発達の「階層－段階」と発達障害（5）－乳児期後半－	移動、コミュニケーション、注意共有機構（SAM）喃語の獲得、模倣と学習、愛着の発達、対人関係障害、情緒障害
第10回	発達の「階層－段階」と発達障害（6）－幼児期（その1）－	歩行、道具の操作、話しことば獲得期、言語障害、行動障害
第11回	発達の「階層－段階」と発達障害（7）－幼児期（その2）－	早期発見、早期療育、心の理論、マインド・リーディング、自閉症スペクトラム、アスペルガー障害、「三つ組みの障害」
第12回	発達の「階層－段階」と発達障害（8）－幼児期（その3）－	遊び、模倣、学習、ふり遊び、見立て遊び、ごっこ遊び、集団活動と発達障害
第13回	発達の「階層－段階」と発達障害（9）－学童期・青年期（その1）－	書きことば獲得期、社会的自己、集団、学力と人格形成、障害の自己認識、特別支援教育
第14回	発達の「階層－段階」と発達障害（10）－学童期・青年期（その2）	二次障害、いじめ、不登校、ひきこもり、社会参加、障害の自己認識、こだわりと個性、感情コントロール、行動コントロール、行為障害（CD）
第15回	まとめ・評価	全体のまとめ・評価の説明

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・実習やフィールドでの経験があると理解しやすい。
・日頃、耳にする用語や概念を授業で正確に理解してほしい。
・発達障害への基礎知識の習得をすすめる努力をしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	配点にそって採点する。 日本語としの文章や表記が正確でない場合は減点となる。
レポート試験	40 %	事実と自分の意見・感想が区別して述べられているか。 資料や文献の読み込みがしっかりできているか。 資料や文献の紹介が中心のレポートは減点となる。
平常点評価	10 %	授業への参加度と積極性の自己評価を重視する。

コースツールを活用して提出物をもとめることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の途中でレポートの提出をもとめます。必ず提出してください。
授業テーマと関連する教材や文献を活用して知識をひろげる努力をしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達診断と障害児教育	荒木穂積・白石正久／青木書店／／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
自閉症と遊び	ヤニック・ベイヤー＆ローネ・ガメルトフ／クリエイツかもがわ／／乳幼児期の発達障害支援の基礎を学ぶ

レジュメを配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの発達と診断①～⑤	田中昌人・田中杉恵／大月書店／／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
発達障害の臨床	有馬正高・熊谷公明・栗田広／日本文化科学社／／発達障害の医学的基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム学び方ガイド−社会参加をめざした授業づくり−	レベッカ・A・モイズ／クリエイツかもがわ／／発達障害支援の基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム生き方ガイド−自己権利擁護と「障害表明」のすすめ−	スティーブン・ショア／クリエイツかもがわ／／青年・成人期の発達障害支援の基礎を学ぶ
障害医学への招待−特別支援教育・自立支援法時代の基礎知識−	杉本健郎・二木康之・福本良之／クリエイツかもがわ／／障害の医学的基礎を学ぶ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本自閉症協会：http://www.autism.or.jp/
日本ダウン症ネットワーク：http://jdsn.gr.jp/
日本知的障害者福祉連盟：http://www13.ocn.ne.jp/~jlid/
日本発達障害者ネットワーク：http://jddnet.jp/
全国障害者問題研究会：http://www.nginet.or.jp/
文部科学省: http://www.mext.go.jp/
厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

レジュメは当日配布します。授業後はコースツールにアップロードしておきますので各自ダウンロードしてください。授業の連絡事項も授業場面及びコースツールの連絡事項で指示をします。

発達保障論（S）

13451

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要：発達保障とは、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わる、人権や社会保障を根底から成り立しめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとおして、人生のそれぞれの時期にどのような人間的自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

本年度は、人間発達の阻害状況とともに、子どもや障害をもつ人たちの発達の可能性とそれを保障するための理論と実際について考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

発達保障の成り立ってきた歴史的背景、現代社会における人間発達の阻害状況、およびそれを発達の契機として築きあげてきた人間の発達を保障するための諸理論と実践についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、人格発達論、障害者福祉論、現代人権論、ライフサイクル論、発達障害論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	発達保障とは何か（1）	性格と構成要素
第2回	発達保障とは何か（2）	発達保障の系譜
第3回	子どもと発達保障（1）	胎生期及び乳児期の課題
第4回	子どもと発達保障（2）	幼児期の課題
第5回	子どもと発達保障（3）	児童期の課題
第6回	子どもからおとなへの課題と発達保障(1)	思春期の課題
第7回	子どもからおとなへの課題と発達保障(2)	青年期の課題
第8回	成人の課題と発達保障（1）	成人・中年期の課題
第9回	成人の課題と発達保障（2）	高齢期の課題
第10回	現代社会と自立（1）	現代の自立論
第11回	現代社会と自立（2）	自律への課題1
第12回	現代社会と自立（3）	自律への課題2
第13回	現代社会と自立(4)	自律への課題3
第14回	現代社会と自立(5)	自律への課題4
第15回	全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業の途中でレポートの提出をもとめる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	配点にそって採点する。日本語としの文章や表記が正確でない場合は減点となる。
レポート試験	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

参考書は講義の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

バリアフリー論（S）

13303

担当者名 / Instructor　斎藤 正一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この数年間、バリアフリーというテーマで講義をしてきました。バリアフリーという言葉は、最近いろいろなところで耳にします。バリアフリー住宅にバリアフリー施設。乗り物などにもバリアフリーが考えられています。今や障害者だけではなく、一般の健常者でも当たり前のようにバリアフリー環境に慣れ親しんでいます。しかし本当のバリアーとは一体何でしょう。またどうすれば本当の意味でのバリアフリーになるのでしょうか。私は、日々職業柄考えさせられることが多くあります。
バリアフリーには、物の障害だけではなく身体・精神・環境・施設・人・経済といったように様々なバリアーが存在します。講師は、現在も病院で実際に体の不自由な方と共に機能回復の援助を行う理学療法士です。また講師自身視覚障害(先天性弱視)を持っています。仕事では京都市南区の病院で勤務しています。これまでになかった貧困というバリアーを現場から経験しました。日々現場で感じてきた各種の問題、自分自身が体験してきたことを学生諸子にも知っていただき今後社会に出て何らかの役に立てていただければと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

1：各種のバリアフリーの要素をいろいろな角度から知る。学ぶ。
2：バリアーが影響するその実態を自分の身体で心で感じ取る
3：出来る限り実際のものを見て(ビデオなど)その見聞を広げる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に何も知らなくても良いと思いますがもし知っているなら
医学・建築・社会福祉制度

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講義	導入　バリアフリー論について　講義の概要	バリアフリー　リハビリテーション　障害受容　PT　OT　ST
第2～5講義	第一章　身体のバリアフリー　基礎医学　各疾患	筋　骨格系　神経　　脳血管障害　脊髄損傷　リウマチ　パーキンソン病　高齢者に多い骨折　廃用症候群
第6～7講義	第二章　精神のバリアフリー	認知症　高次脳機能　人の心理
第8講義	第三章　体験	本当の車椅子体験　障害者の気持ち
第9～11講義	第四章　住環境のバリアフリー	住環境　福祉用具
第12～14講義	第五章　人・制度・環境のバリアフリー	地域社会　ボランティア　社会福祉制度　行政機関　民間活力　都市環境　経済環境
第15講義	最終章　障害者の限界　バリアフリーって何だろう	パラリンピック　障害者スポーツ　人間の限界

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業で学んだことを正しく理解できているか評価します。
レポート試験	0 %	課題レポートを指示します
平常点評価	30 %	毎回の授業終了時に授業の感想や自分の考えを記載してもらいます。感想がなく名前だけの者は出席と認めません。

＊定期試験として実施
講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。
基本的に講義をまじめに聞いて頂ければ合格点は取れると思います。
ただ全講義出席していても定期試験で間違った答に点数を出すなどのことは致しません。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは配布いたしますが基本事項のテキストです。講義の中で講師がお話しする事を学生自身で
テキストの余白に記入して完全なテキストにして下さい。
質問の時など、教室の遠くで黙って挙手をしていただいてもおそらく見えないと思います。講師は先天性弱視の視覚障害を持っているためです。したがって授業中に何か質問や疑問が出たときは、大きな声を出して挙手をしながら起立などして意思表示してください。また授業最後の出席とともに出していただく感想に質問していただいてもかまいません。必ず返答希望の方は、授業終了後直接質問しに来て頂くかメールアドレスに質問していただければお答えできると思います。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

教科書 / Textbooks

基本テキストは、毎回講義のときに配布いたします。

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

http://yagi.doshisha.ac.jp/bf/guide/guide-top.htm ＜車椅子で回れる京都観光ガイド＞
http://www.jaeic.or.jp/hyk/index.htm ＜ひとにやさしい建築・住宅推進協議会＞
http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm ＜福祉制度：障害者制度集＞
http://www.hcr.or.jp/ ＜国際福祉機器展＞
http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html ＜国際生活機能分類＞
http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/ ＜日本理学療法士協会＞
http://www.jaot.or.jp/ ＜日本作業療法士協会＞
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm ＜学校施設バリアフリー化推進指針＞
http://www.jsad.or.jp/ ＜日本障害者スポーツ協会＞
http://www.asahi-net.or.jp/~ve9k-nkk/toukyuuhyou.htm ＜身体障害者障害程度等級表＞
http://akatan.cool.ne.jp/index.html ＜赤の他人のホントのわたし＞
http://www.npojba.org/ ＜バリアフリー協会＞
http://members.jcom.home.ne.jp/1653895301/top.html ＜バリアフリー住宅＞
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji_.html ＜交通バリアフリー＞
http://www.mlit.go.jp/barrierfree/barrierfree_.html ＜国土交通省のバリアフリー・ユニバーサルデザイン＞
http://www.universal-design.gr.jp/ ＜ユニバーサルデザインフォーラム＞

その他 / Others

福祉行財政論（S）

15538

担当者名 / Instructor　澤井 勝

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会保障の体系の中に社会福祉を位置づけ、国家財政と地方財政の基礎構造を理解する。合わせて福祉を巡る行政システム、特に地域福祉における分権改革と、市民セクターとの間の協働について考える

到達目標 / Attainment Objectives

福祉財政の実務と理論をともに理解する。社会福祉政策と財政の関係を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉政策論、社会保障論、社会福祉原論、地域福祉論。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	我が国の社会保障制度の体系と財政構造（1）	福祉国家、国民皆保険、ベバリッジ報告
2	市民の力と縦割り行政（富山方式を学ぶ）DVD放映	小規模多機能施設、ケアすることとケアされること
3	我が国社会保障制度の体系と財政構造（2）	入りやすく出やすい生活保護、就労支援、ワークフェア
4	社会福祉の財源（1）介護保険の場合	要介護状態、自立支援
5	介護の現場と自立支援　DVD「老いを支えて」	在宅介護支援センター、生活の目標
6	社会福祉の財源（2）消費税の構造、所得税の累進制	介護予防、地域包括支援センター
7	地域福祉計画の意義（1）	コミュニティ・ケア、民生委員、自治会町内会、NPO
8	北欧の福祉（1）　DVD「デンマークの介護」	税方式、国民負担率
9	地域福祉計画の意義（2）	コミュニティ・ソーシャルワーカー、小地域福祉の財源
10	北欧の福祉（2）　DVD「スウェーデンの在宅介護」	24時間介護、医療と福祉の連携
11	介護保険事業計画の作り方（1）	認定率、利用率、適正化計画
12	介護保険事業計画の作り方（2）	第一号被保険者保険料、所得段階別保険料、マイケアプラン
13	障害者自立支援法の改正を巡って（1）	依存と自立、自己決定、当事者主権
14	障害者自立支援法の改正をめぐって（2）	支援費と介護保険、施設解体宣言
15	市民社会と福祉ミックス	三つのセクター、福祉社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

NHKスペシャルなどドキュメンタリーをチェックしておくこと。

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『イギリスの政治行政システム』	竹下謙ほか／ぎょうせい／／2002年
『生活保護があぶない』	産経新聞大阪社会部／扶桑社新書／／2008年
『スウェーデン　高い税金と豊かな生活』	星野泉／イマジン出版／／2008年
『生活保護vsワーキングプア』	大山典宏／PHP新書／／2008年
『現代の貧困』	岩田正美／岩波新書／／2007年
『反貧困』	湯浅誠／岩波新書／／2008年
『日本の経済格差』	橘木俊詔／岩波新書／／1998年
『なぜ資本主義は自壊したのか』	中谷巌／集英社インターナショナル／／2008年12月

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

澤井のホームページ、http://www.zaiseijoho.com　特に「福祉政策」の欄。

その他 / Others

福祉経営論（S）

15487

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会保障構造改革のもとで福祉事業が市場化され、民間営利企業の参入が著しい。その中にあって、真に憲法に保障される生活権、生存権に値する福祉事業の運営と経営のあり方を考える。そのために、社会福祉とは何か、福祉施設・事業は誰のため何のために存在するか、学ぶべき立脚的を明確にする。その上で、福祉事業の運営と経営の実際を学ぶとともに、国民本位の福祉事業の運営と経営のあるべき姿や方向性を見出すことを中心とする。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会福祉と社会福祉事業の役割と使命を理解する。
・公的責任のもとでの福祉事業を営む社会福祉法人の設立と運営及び役割、使命を理解する。
・福祉現場を支える福祉従事者をとりまく環境と働き甲斐、生きがいを学び福祉労働の役割を理解する。
・市場化されている福祉現場の運営と経営の実態を学びながら、国民の権利保障としての福祉事業としての事業運営、経営のあり方を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前学習としては社会保障論や各種の福祉制度及び社会福祉法を学習しておくこと。また、できれば、福祉事業所において見学・ボランテイアなど体験しておくことが望ましい。また、学生としては経営的視点で考えることは難しいこともあるが、講義を聴いて考える力を養うことを重視している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	自己紹介、授業計画
2	福祉経営を学ぶ視点	国民の権利としての社会福祉。ノーマライゼーション。
3	社会福祉の理念	社会福祉の歴史、福祉実践の到達と課題
4	社会福祉法	社会福祉法の概要と社会福祉事業
5	公的福祉を推進する社会福祉法人	社会福祉法人の概要と設立、定款準則
6	社会福祉法人の運営	資産、役員、運営原則、事前規制、監査など
7	福祉事業における財源	措置制度と措置費の仕組み
8	措置制度における福祉事業の運営	公費による老人福祉施設の運営と経営
9	障害施設の運営と経営	障害者福祉をめぐる情勢と共同作業所等の運営と経営
10	保育所の運営と経営	保育をめぐる情勢と保育所運営と経営
11	介護保険制度のもとでの経営	介護保険制度の概要と仕組み
12	市場化のもとでの福祉経営	特別養護老人ホームの運営・経営の実際と特徴
13	市場化のもとでの福祉経営	在宅福祉サービスの運営・経営の実際と特徴
14	福祉労働と専門性	福祉従事者をとりまく法的整備と給与実態等。福祉労働における専門性。
15	社会福祉法人の役割、使命	社会福祉法人のアイデンティティとこれからの姿を求めて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	社会福祉にかかる運営と経営に関する知識と考え方の明確化
平常点評価	60 %	出席　40% 日常のコミュニケーションペーパー等による問題意識の明確化　20% なお、出席率7割以下は及第としない

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

福祉を必要とする人の暮らしと身体や心の痛みを共感できる視点や自らの人間性が重要である。そして、福祉を理解し学ぶということは、知識とともに対人援助事業をとおして行われる専門性豊かな援助実践の役割を理解することが重要である。従って、人を理解し自らの人間性を高めること、そして人と社会を見つめる確かな目を養うよう努力することが大切である。

教科書 / Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会福祉辞典	同編集委員会／大月書店／4-272-36040-x／
民間社会福祉事業と公的責任	福祉労働福祉経営共同研究所／かもがわ出版／4-87699-731-4／
転換期の社会福祉事業経営	石倉康次／かもがわ出版／4-87699-651-2／
福祉の公的責任と社会福祉法人のあり方に関する中間のまとめ	同検討会／同検討会／なし／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/shingi/hosho.html#kaigohoken

その他 / Others

福祉計画論（S） § 社会福祉援助技術論IV（SG） § 社会福祉援助技術論IV（S） § 福祉計画論（SG）

15502

担当者名 / Instructor　岡田 まり　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ソーシャルワーク論の続編である。ミクロレベルでの実践（個人、家族、グループへの支援）の意義と方法を踏まえたうえで、プログラムを開発したり、地域社会によりよい変化をもたらすマクロレベルでの実践において重要となる計画に焦点をあてる。実際の計画を例として取り上げながら、計画の意義と目的について理解できるようにするとともに、モデルや理論に基づいて計画策定を行うための基礎的な知識と技術を習得することをめざす。そして、生活問題の解決・発生予防のためには、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることを認識し、状況に応じて適切な援助技術を選んで活用する力をつけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・計画の意義と重要性について自分の言葉で説明できる。
・計画策定・実施・評価のプロセスと方法およびその留意点について説明できる。
・行政や民間団体が策定した計画およびその実施について、短所と長所を指摘できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ソーシャルワーク論を事前に履修しておくことが望ましい。また、社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修しておくことが、本科目での理解を深めるのに役立つ。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークのマクロレベルでの実践とは	プログラム開発、地域介入
第2回	計画とは①	意義と目的、プロセス
第3回	計画とは②	ゴールドプラン、エンゼルプラン、障害者プラン、高齢者保健福祉計画、地域福祉計画
第4回	計画のモデル	PRECEDE-PROCEED モデル、MIDORI モデル
第5回	アセスメント①	生活の質、生活課題
第6回	アセスメント②	行動、環境
第7回	アセスメント③	準備因子
第8回	アセスメント④	強化因子、実現因子
第9回	アセスメント⑤	組織、プログラム、政策
第10回	計画策定	実施主体、対象、目標と課題、内容、予算
第11回	計画実施	計画実施の留意点、モニタリング
第12回	評価	経過評価、影響評価、結果評価
第13回	計画策定の実際	住民参画、行政の役割、専門職の役割
第14回	自分の町の計画	社会資源、市町村
第15回	確認テスト（60分）と解説（30分）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業前に指定の文献・HPを必ず読んでくること。授業は、受講生がそれらを読んだことを前提として行う。
課題レポートは、受講生が生活する地域について、①地域の概要、②関心のある福祉領域に関する社会資源、③地方自治体が行っている計画についての批評、の3点をまとめたものであり、その作成のためには役所や図書館などを訪問する必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業で取り上げた内容について理解し、自分の言葉で説明することができるか、また、それらの内容を実際に活用できるかを評価する。 課題レポートおよびコミュニケーション・ペーパーをとおして、理解が深まっているか確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、講義だけでなくグループ演習も行うので、主体的な参加が重要。

教科書 / Textbooks

授業時にレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
実践ヘルスプロモーション：PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価	ローレンス W.グリーン・マーシャルW.クロイター著、神馬征峰訳／医学書院／4-260-00171-X／本書より参考となる部分をコピーして配布する予定。

ソーシャルワーク実践とシステム	黒木保博・小林良二・坂田周一・森本佳樹編／有斐閣／4-641-05527-0／2章および3章を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会　http://www.jacsw.or.jp/
国際ソーシャルワーカー連盟　http://www1.ifsw.org/
厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

福祉産業論（S）

13272

担当者名 / Instructor　今井 久人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

福祉産業論と一口に言っても、現状を見る限り自動車産業や鉄鋼産業などの天下国家を支えるほど巨大なものではない。また、明確な共通イメージがあるわけでもない。一般的なイメージでは保健・医療・福祉など日常の生活部面で提供されているサービスが多く見られるところである。少子高齢社会の到来とともに保健・医療・福祉など、それぞれの分野で市場が形成また拡大されつつあり、今後のこれらの分野の成長が見込まれることから既存産業からの参入が図られているところである。本講義では、その現状を見ながらこの分野の将来性とその成長が市民生活の支援等にどう寄与するかを見る。

到達目標 / Attainment Objectives

保健・医療・福祉といった生活関連産業のそれぞれの分野の特徴や具体的な事業展開例から、福祉産業を俯瞰的に広く理解するレベルに達すること。さらにその理解の上にたって、今後、社会人として生活の様々な場面で利用するであろう保健・医療・福祉などのサービスを、供給側・受給側など視点を変えながら、その抱える諸課題や産業としての発展性や可能性を探るレベルまでに高めること。
（若い学生諸君にはまだそれぞれのサービスの利用は身近なものではないが、関心を持つことによりその公的・私的なサービスを消費者として理解するような学習態度を期待する）

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に社会福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、児童福祉論などを履修していることが望ましいが、これらの分野に対して日頃から新聞や雑誌から時事的な話題に関心を持つことが大事である。特に近年は、介護保険制度の改正をはじめ障害者自立支援法の制定、後期高齢者医療制度の改正など大きな変化があった。そのような背景のなか、既存の事業から新規に参入する企業やその商品などを生活実践から学び取る姿勢が大事である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	
2	福祉産業とは何か（講義の概要）	一般産業の動向、生活関連産業と暮らし
3~4	医療産業の市場　日本の医療（医療機関）の現状と課題	厚生動向　医療保険制度　高齢者医療制度　診療報酬
5~6	医療産業の市場　日本の医療（医療周辺産業）の現状と課題	医療機器　医薬品　医療廃棄物
7~8	健康産業市場　日本の健康産業の現状と課題	健康日本21　ヘルスプロモーション
9	健康産業の市場　日本の健康増進ビジネス	フィットネスクラブ　サプリメント市場　健康グッズ
10~11	福祉産業の市場　介護保険制度　障害者自立支援法	介護報酬　介護ビジネス　紙おむつ　介護機器　高齢者住宅　有料老人ホーム
12～13	福祉産業の市場	介護保険関係事業事例（訪問介護、通所介護、施設介護）
14	中国の高齢化と高齢者福祉	
15	総括（まとめ）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして全体の講義を通して、理解度と全体的な視点、気づきを問う。
平常点評価	50 %	出席を重視する。中間に小レポートの提出を求め関心事や理解の深さを確認する。出席時のコメントシートを利用しながら、授業内容のコメントの提出を求める。

定期試験は実施しないが、日頃の受講態度から福祉産業に関する関心事や興味など、視野の広がりや知識の習得度合いを見るため、期間中に1から2回程度、課題を与えて小レポートを提出してもらう。そのため、毎回の出席に占める比重は高い。また、全体のまとめとしての到達度合を測るため期末レポートの提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本を元気にする健康サービス産業	島田晴雄 ／東洋経済新報社／／
シルバーサービス論	シルバーサービス論／ミネルヴァ書房／／
日経ヘルスケア21	／日経BP社／／

参考文献は多くないが、日常から新聞・業界誌等の関連記事に注意を払うこと。
厚生労働省のHP・経済産業省等のHP

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉社会学（S） §　生活福祉論（S）

15611

担当者名 / Instructor　前田 信彦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では次の3点を軸に講義をする。
①福祉国家の考え方について、最近の欧州の事例を踏まえながらレクチャーする。
特に、家族変動にともなう福祉の担い手の変容と国家の役割、およびWelfare to workにみられる「働き方」の変容と福祉国家の役割、について概説する。
②世界共通の課題となっている「高齢化=ageing」と福祉についてレクチャーする。特に社会学の「ソーシャル・ネットワーク研究」「ソーシャル・サポート研究」をベースに、高齢社会における社会的支援のあり方について考察する。
③「リスク社会」にあって、人と人との絆=ヒューマンセーフティ(Human safety net)をどのように構築するかについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

できるだけ国際比較の視点を取り入れて、比較福祉の視点から、家族、地域生活、労働、福祉国家の変容を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学の基本的な講義科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	講義の進め方 成績評価などの説明
第2回目	福祉国家とは何か① 家族変動　福祉国家	
第3回目	福祉国家とは何か② 欧州の福祉国家 Welfare to work	
第4回目	家族の福祉機能と福祉国家 家族の機能　福祉国家の役割	
第5回目	家族と親族ネットワークの役割 家族・親族ネットワーク　拡大家族　サポート	
第6回目	高齢化とソーシャル・ネットワーク 高齢化　ソーシャル・ネットワーク　パーソナル・コミュニティ	
第7回目	高齢化とコミュニティ 高齢社会　地域　ボランティア活動	
第8回目	各論①　テーマ　若者と成人期への移行 若者　成人期への移行	
第9回目	各論②　テーマ　労働市場と社会的ネットワーク 転職　労働市場	
第10回目	各論③　テーマ　高齢者のソーシャル・ネットワーク 定年への移行	
第11回目	各論④　テーマ　子育て支援とサポート 子育て支援　ワーク・ライフ・バランス	
第12回目	各論⑤　テーマ　親族ネットワークとサポート 親族組織　NPO　社会的支援	
第13回目	各論⑥　テーマ　高齢社会におけるヒューマンセーフティ① セーフコミュニティ	
第14回目	各論⑦　高齢社会におけるヒューマンセーフティ② Age friendly cities	
第15回目	講義のまとめ 福祉社会の構築	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席を重視する 遅刻および途中退出は出席とみなさない

講義期間に何度か小テストを実施する。
講義中にあげた参考図書やビデオなどの感想・考察のレポートを課す。レポートを提出しなかったものは定期試験は受験不可とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席を重視し、また最終試験も講義内容に沿ったテーマでの論文試験であり、かなり厳しい条件となる。
出席しないで単位だけ取りたい学生には勧めない。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事と家庭生活の調和 : 日本・オランダ・アメリカの国際比較	前田信彦／日本労働研究機構／／
アクティブ・エイジングの社会学－高齢者・仕事・ネットワーク	前田信彦／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉住環境論（S）

13283

担当者名 / Instructor　蔵田 力

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

世界的な流れである「住まいは福祉の基盤」「住まいは人権」を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義概要、流れ、到達目標等説明	
第2回	住宅総論Ⅰ 「住まい」とは	
第3回	住宅総論Ⅱ 「居住の権利宣言」を学ぶ	
第4回	住宅総論Ⅲ 日本、世界の住宅政策と福祉政策	
第5回	住宅各論Ⅰ バリアフリーの考え方	
第6回	住宅各論Ⅱ-1 「住まいの環境改善」のあり方	
第7回	住宅各論Ⅱ-2 「住まいの環境改善」における専門家の連携	
第8回	住宅各論Ⅱ-3 事例研究	
第9回	住宅各論Ⅲ 「住まい」と家族	
第10回	住宅各論Ⅳ 「住まい」と健康	
第11回	住宅各論Ⅴ ホームレス問題	
第12回	地域論Ⅰ 日本と世界の都市政策	
第13回	地域論Ⅱ-1 高齢者・障害者が住み続けられる“まちづくり”	
第14回	地域論Ⅱ-2 生活圏構想	
第15回	まとめ・超高齢社会を展望する“まちづくり”の課題（討論）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

配布資料および参考書のポイントを復習、また事前に配布された資料の予習

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価
平常点評価	20 %	コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

（1）配布資料は必ず整理し、毎回の講義に持参する。
（2）コミュニケーションカードには、積極的に感想、意見を述べる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「居住福祉」	早川和男／岩波新書／／大学生協等で各自購入

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「住宅の権利・誓約集」	監修・中林 浩／日本住宅会議／／日本住宅会議が注文販売

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉情報論（S）

13275

担当者名 / Instructor　生田 正幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁（バリア）に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なICT（情報通信技術）を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術（Assistive Technology）の発達と普及も著しい。社会全体が、ICTと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・福祉・介護分野におけるICT化・情報化の実態と考え方を知る。
・福祉・介護に関する情報を利用するための基礎的な知識と方法を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作を的確に行えることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	福祉情報論がめざすもの
第2回	インターネットと福祉情報(1)	福祉の情報資源を使いこなす part1
第3回	インターネットと福祉情報(2)	福祉の情報資源を使いこなす part2
第4回	福祉と情報(1)	なぜ、情報を提供するのか
第5回	福祉と情報(2)	福祉が変わる、情報が変える
第6回	福祉情報をどう使うのか(1)	探す・評価する・選択する
第7回	福祉情報をどう使うのか(2)	福祉のための情報システムと情報機器
第8回	福祉情報をどう使うのか(3)	共有する・発信する・結びつける
第9回	福祉情報とは何か(1)	情報は便利なのか？
第10回	福祉情報とは何か(2)	福祉情報の体系と構造
第11回	福祉情報化とは(1)	誰のための情報化なのか
第12回	福祉情報化とは(2)	情報化とは何をすることなのか
第13回	福祉情報化の課題と展望(1)	様々な課題
第14回	福祉情報化の課題と展望(2)	新しい福祉への戦略
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

福祉・介護とICT・情報というと、福祉分野の学生諸君にはあまり関係がないように思われるかもしれません。しかし、私たちの生活が、今やICTや情報の活用なしには成り立たないように、福祉・介護分野におけるサービスの利用や提供もICTや情報の活用と深く関わっています。そして、福祉や介護に関する情報を入手・活用し、あるいは発信することが、当事者や地域住民にとって非常に重要な課題となりつつあります。私たちの生活と福祉・介護を前進させていくためにICTや情報をいかに活用していくのかという観点から、社会の動き、制度や政策の動きに対する関心を深めて授業に臨んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	毎回出席をとります。

講義の要点は『社会福祉情報論へのアプローチ』（生田正幸著・ミネルヴァ書房）に記載されているので必要に応じて購入すること。（ISBN4-623-03054-7）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

WAM　NET（http://www.wam.go.jp/）、厚生労働省（http://www.mhlw.go.jp/）など。その他、必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

福祉政策論（S） § 福祉政策論（SG）

13251

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会福祉制度の総論（理念）と各論を区分し、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。
(1) 社会福祉制度総論：①社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴、②社会保障・福祉制度の成立史、③社会福祉の理念（障害概念の把握、障害文化、ノーマライゼーション、自己決定、脱施設化）、③社会福祉施設、④社会福祉法
(2) 社会保福祉度各論：①障害者福祉、②高齢者福祉。③公的扶助（生活保護）

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は現在の日本の社会福祉制度を体系的に把握し、その現代的課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。
(1)日本の社会福祉制度の今日的課題を諸外国と比較して把握できるような素養を身につける。
(2)日本の社会福祉制度における今日的課題の解決策のあり方について、福祉先進国での取り組みを必要に応じて参照して考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉、社会保障論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴	社会保険、社会福祉、選別主義と普遍主義、社会支出、貧困率
2	イギリスと日本の社会福祉制度の成立史	救貧法、リベラルリフォーム、「ベヴァリッジ報告」、恤救規則、救護法、生活保護法、福祉六法
3	社会福祉の理念(1)―社会福祉と対立する概念―	社会防衛思想、優生思想、出生前診断
4	社会福祉の理念(2)―障害概念の把握―	インペアメント、ディスアビリティ、医療モデル、社会モデル
5	社会福祉の理念(3)―障害文化―	尊厳死、ろう文化
6	社会福祉の理念(4)―ノーマライゼーション―	自己決定、バリアフリー、脱施設
7	社会福祉の理念(5)―脱施設化―	在宅サービス、通所施設
8	社会福祉の施設と脱施設化	グループホーム、里親、施設の社会化、小舎制、ユニットケア
9	社会福祉法	措置制度、契約制度、福祉事務所
10	障害者福祉	障害者自立支援、応益負担、サービス供給の地域格差
11	高齢者福祉	介護保険、保険料、利用者負担、介護報酬、支給限度額
12	現代の貧困と公的扶助（生活保護）制度（1）	貧困率、野宿者(ホームレス)、ワーキングプア、母子世帯
13	現代の貧困と公的扶助（生活保護）制度（2）	生活保護制度の原理と原則、居宅保護、施設保護
14	現代の貧困と公的扶助（生活保護）制度（3）	生活保護適正化、母子加算と老齢加算、ホームレス自立支援プログラム
15	まとめ	社会保障制度に対する人々の支持に関する判断基準(必要性、自助努力、同一性、互酬性)、サービスの普遍性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会福祉制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	授業内容に関わるミニレポート(400字以上、600字以内)に基づいて評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望ましい。また、社会福祉の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『くらしに活かす福祉の視点』	宮本信義編著／ミネルヴァ書房／4-623-04546-3／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西) ・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

福祉調査・統計論（S）

15598

担当者名 / Instructor　岡本 晴美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉調査に関する基本的な方法や課題を理解するとともに、実際に活用できる能力を養う。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉調査の意義を理解し、実際に調査を実施する際の手続きや具体的な方法を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	社会福祉と調査
第2回	権利侵害の防止	調査と倫理
第3回	社会福祉調査の基本	調査研究の意義と課題
第4回	福祉調査の設計（1）	調査の前提と計画
第5回	福祉調査の設計（2）	仮説の構築と検証の手続き
第6回	福祉調査の設計（3）	研究資料の収集と分析
第7回	社会福祉調査と福祉実践	福祉現場に活かす調査
第8回	社会福祉調査の種類とその特徴（1）	量的調査法（1）
第9回	社会福祉調査の種類とその特徴（1）	量的調査法（2）
第10回	社会福祉調査の種類とその特徴（1）	量的調査法（3）
第11回	社会福祉調査の種類とその特徴（2）	質的調査法（1）
第12回	社会福祉調査の種類とその特徴（2）	質的調査法（2）
第13回	社会福祉調査の種類とその特徴（2）	質的調査法（3）
第14回	社会福祉調査の実際（1）	リアリティを捉える
第15回	社会福祉調査の実際（2）	社会福祉調査の意義と課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	出席を前提として実施する授業内課題（グループワーク等）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席することを前提として、グループワーク等を実施する予定。学生自身による主体的な学びを求める。

教科書 / Textbooks

必要に応じて、授業内で提示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて、授業内で提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉発達史（S）

13277

担当者名 / Instructor　福住 節子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2008年からの世界的不況の中、社会福祉の課題はその重要性と緊急性を増している。日本においては、「派遣切り」が社会問題となり、「労働者派遣法」の改正の問題点が指摘されている。このように、過去の出来事がそれ以降の状況へとさまざまな影響を及ぼしていることは、「歴史とは、現在と過去との対話である」（E・H・カー『歴史とは何か』）という言葉の重さを再認識させる。

本講義では、貧困救済から始まったイギリスの社会福祉を出発点として、世界と日本の社会福祉の発達を概観しながら、その過程において、歴史を動かす原動力となったものは何か、また人々の状況はどのようであったか・・・を考え、社会福祉の変遷が、現在に、そして未来に伝えて行くことは何なのかを考え合ってゆきたい。とりわけ、人々が社会的に生きてゆく上での、社会福祉・社会保障の必要性・重要性を、発達の歴史的経過の中で実感するとともに、国の政治・経済という大きな存在と、一般人としての個人との関わりについて、今日的課題と連動させながらみなさんと一緒に考え合ってゆきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

○社会福祉の発達過程を学ぶ中で、それらを「歴史的事実」としてのみ捉えるのではなく、その変遷の意味　することや、今後の社会福祉の発展に何が必要かという課題についても考えることができること。
○社会福祉発達の歴史に、多面的な興味関心を持つこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション：社会福祉の歴史を学ぶ意義	
2	ヨーロッパにおける古代及び中世紀までの貧困の救済	
3	絶対王政下での救貧政策（イギリス救貧法の形成過程）	
4	市民革命期の救貧の在り方	
5	産業革命期の救貧の在り方（新救貧法の形成過程・目的・評価）	
6	社会事業の組織的展開①（慈善組織協会・セツルメント）	
7	社会事業の組織的展開②（教育分野・医療分野）	
8	大恐慌期から1940年代の「福祉国家」と社会福祉	
9	第二次世界大戦後における社会福祉の展開過程	
10	スウェーデンにおける「福祉国家」の建設と発展	
11	日本における社会福祉の発展過程ー戦前①（明治期の福祉政策）	
12	日本における社会福祉の発展過程ー戦前②（民間慈善事業と感化救済事業）	
13	日本における社会福祉の発展過程ー戦後①（戦後改革）	
14	日本における社会福祉の発展過程ー戦後②（「高度経済成長」と社会福祉）	
15	まとめ と テスト（またはレポート）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終講義試験
平常点評価	50 %	小レポート・討論など

○受講者数によっては、可能な限り個別のプレゼンテーションや、グループ討論等も取り入れ、それらへ　の積極的姿勢も併せて評価したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

○文献やTVのドキュメンタリーなどでも、福祉発達史を学ぶ上で参考になるものなどを活用されたい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用せず、随時資料等を配布する。

参考書 / Reference Books

授業にて、適宜提示する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉臨床論（S）

15488

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、生活者が、生活上の諸課題に対峙し、主体的な生活を創造することが可能となるために求められる福祉実践を“子ども”“思春期・青年期”“成人期”“円熟期”の各期に分け取り上げる。そのなかで、人生の各期に共通するソーシャルワークの視座と各期に固有なソーシャルワークの視座及び実践（方法ならびに運動）、政策につき考える。

到達目標 / Attainment Objectives

☆社会福祉を学ぶ学生として、社会の諸要因により国民の生活が阻害されている状況を科学的に捉える力を獲得する。
☆今各分野の実践で共通して求められているソーシャルワーカーの役割りを認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　ソーシャルワークの魅力と科学としての介入、アセスメントの視座とファクター	ソーシャルワークの局面　人と生活、発達
第2回	支援原則と支援理念　―パターナリズムからフレンドシップへ，侵襲的介入から自尊を獲得する介入へ―	自尊心、所属感、依存、自己決定、フレンドシップとパターナリズム
第3回	子どもの発達・生活と福祉課題①　―障害の受容に関わる課題―	早期発見、障害受容
第4回	子どもの発達・生活と福祉課題②　―子どもの虐待と再養育―	通告、緊急保護、措置、再養育、
第5回	子どもの発達・生活と福祉課題③　―　―人親家庭の生活課題	母子と父子
第6回	思春期・青年期の課題①―不登校・ひきこもりと当事者支援―	居場所、スクールソーシャルワーク
第7回	思春期・青年期の課題②―軽度発達障害と思春期危機―	就労支援、家族
第8回	成人期の課題①―中途障害や難病と家族崩壊、スティグマ―	慢性疾患、所得中断、生活崩壊、危機
第9回	成人期の課題②―過労自死と家族―	過労自死
第10回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族1	DV、虐待サイクル、緊急保護、体と心
第11回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族2	自尊心、家族内トラウマ
第12回	円熟期の課題―円熟期と孤立―	高齢者　心理
第13回	精神障害と自立	精神障害　社会的孤立　自立
第14回	福祉実践と協同　―地域福祉要求の組織化と地域づくり―	要求の組織化、乳幼児期から円熟期、麦の郷
第15回	総括講義	アセスメント技法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	30 %	若者のひきこもりアセスメントに関するレポートを、「ひきこもりつつ育つ―若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク」（参考書参照）を参照し第7回終了後に指示する提出日に提出する。評価基準は、文書作法10点、内容20点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いかなる媒体でも結構ですから国民の生活に関するニュースに常に触れて下さい。
コミュニケーションペーパーでの質問や講義への参加を期待します。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童虐待とソーシャルワーク実践	柏女霊峰／ミネルヴァ書房／4-623-03508-5／
貧困と闘う人びと	寺久保光良／あけび書房／487154057X／
激増する過労自殺	ストレス疾患労災研究会／皓星社／4-7744-0292-3／
対人援助の臨床福祉学	佐藤俊一／中央法規／4-8058-2452-2／
ひきこもりつつ育つ一若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク	山本耕平／かもがわ出版／978-4-7803-0240-0／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ccap.or.jp/
http://www.jstss.org/

その他 / Others

福祉労働論（S）

13270

担当者名 / Instructor　今村 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「人権・発達保障のための福祉労働―その阻害要因と克服の展望を探る」
介護保険制度や障害者自立支援法に見られるように、わが国の社会福祉制度はこの10年の間に大きく変化し、さらに今後、保育制度や生活保護制度の抜本的な「改革」が検討されようとしている。そして、このような一連の「改革」によって、福祉の現場には市場原理にもとづく事業者間の競争が持ち込まれ、本来の目的に沿った福祉労働の発展が阻害される状況が生み出されている。この授業では、ビデオや資料を活用して各福祉現場が直面している問題状況を明らかにし、解決と克服のための課題と展望について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉の理念と現実との乖離、それが生み出される要因について理解する
製造業や農業とは異なる福祉労働の固有の特徴について理解する
社会福祉政策、社会福祉の拡充を求める要求や運動との関連で福祉労働の位置と役割を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講師の自己紹介と講義概要の紹介	
2	社会福祉とは何か？　福祉労働とは何か？	貧困、社会問題と生活問題、対人援助とコミュニケーション、生存権と発達権
3	社会福祉の「改革」をめぐる政策動向が意味するもの	措置から契約へ、選択と自己決定、応能負担から応益負担、市場原理
4	高齢者と家族への専門的な相談援助の担い手と援助内容を考える	介護保険、ケアマネジメント、接近困難ケース、権利擁護、地域包括支援センター
5	ホームヘルパーの労働と介護保険制度	トータルに生活を捉える、介護と生活援助（家事援助）、コミュニケーション
6	高齢者施設・グループホームにおける介護労働を考える	「ルポ老人病院」、身体拘束、ノーマライゼーション、ユニットケア
7	障害者福祉分野における制度「改革」と福祉労働（1）―措置制度から支援費制度へ―	社会福祉基礎構造改革、応能負担の維持、支給量決定、障害者ケアマネジメント
8	障害者福祉分野における制度「改革」と福祉労働（1）―支援費制度から障害者自立支援法へ―	介護保険との統合論、グランドデザイン、応益負担、三障害の統合、障害者運動の抵抗と「見直し」の動向
9	精神保健福祉分野における制度「改革」と福祉労働	地域精神医療と精神保健福祉、障害者自立支援法による三障害の統合
10	生活保護「適正化」政策のもとでの管理的・反福祉的公的扶助労働	ヤミの北九州方式と餓死事件、適正化政策、違法な制度運用の蔓延、派遣切りへの対応
11	福祉労働としての公的扶助労働の可能性を示す先進的実践例	3つの自立、自立支援プログラム、板橋区、京都府山城北福祉
12	生活保護制度と公的扶助労働をめぐる歴史的経過と今後の展望	小山進次郎、岸・仲村論争、「自立」概念の歴史的変遷、ワークフェア
13	生活問題をどのように把握し、どのように解決をはかるか	人権視点、生活アセスメント、当面の解決策と抜本的な解決策、ネットワークとソーシャルアクション
14	社会福祉政策、社会福祉の拡充をめざす要求・運動と福祉労働	社会福祉の三元構造、雇用・労働問題、ナショナルミニマム、制度的解決と個別的解決
15	補論・フリーディスカッション・まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

多くの資料を配布する予定であり、授業の中では全てを詳しく説明できないと思われるが、可能な限り事後に目を通して復習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義内容についての理解度とともに、テーマに対して主体的なアプローチがどのようになされているかを評価
平常点評価	20 %	出席状況及びコミュニケーションカードに記載された感想や意見などを総合的に判断して評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

（1）配布資料はファイル等に整理して保管し、毎回の講義に持参すること。

（2）コミュニケーションカードの提出によって出欠確認をおこなうので、最低限、学生番号と氏名については記入して提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	／／／

なし。毎回の授業で資料を配布する他、随時、教材としてビデオを使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉方法原論の展開	植田章・結城俊哉編著／高菅出版／／
現場がつくる新しい社会福祉	総合社会福祉研究所編／かもがわ出版／／
改定新版 これが生活保護だ	尾藤廣喜・松崎喜良／高菅出版／／
高齢・精神障害者とホームヘルパー	石田一紀・泊イクヨ・藤田博久著／萌文社／／
自治体は高齢者介護にどう責任を持つのか	石川満・小川栄二・加茂圭三ほか著／萌文社／／
障害者自立支援法と人間らしく生きる権利	障害者生活支援システム研究会編／かもがわ出版／／

テキストは使用せず、適宜配布する資料、ビデオ等をもとに講義を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/index.html　WAM NET（ワムネット）http://www.wam.go.jp/
総合社会福祉研究所　http://www.sosyaken.jp/
21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会　http://www.roufukuren.jp/index.html
きょうされん　http://www.kyosaren.or.jp/　全国障害者問題研究会　http://www.nginet.or.jp/
生活保護問題対策全国会議　http://seihokaigi.com/default.aspx
全国公的扶助研究会　http://kofuken.main.jp/
全国児童養護問題研究会：http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/

その他 / Others

ライフサイクル論 (S)

15561

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程を概説し、自己形成および人格発達について考察する。なお、各ライフステージにおける心理的危機について注目し、その背景や要因を探り、心理的援助、福祉の課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・ライフサイクル（人生周期）についての理解を深める。
・人格形成の過程で生じる心理的危機とその社会的背景・要因について理解する。
・様々な困難や危機に直面した人々を支えるための心のケアや福祉的援助について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	ライフサイクルとは何か、 人生周期
2	ヒトから人間へ	胎児の発達過程、新生児の能力、母子相互作用
3	乳児期の発達特徴	基本的信頼感 、愛着（アタッチメント）
4	3歳児の発達特徴	自我の芽生え,甘えと自立
5	4歳児の発達特徴	自制心の育ち 、意欲、自発性
6	学童期の発達と心理的危機	愛情を剥奪された子どもの心理的特徴と心のケア
7	思春期の発達と心理的危機	人間関係の不安、葛藤、いじめ、非行
8	自己の連続性、アイデンティティの危機	解離性同一性障害
9	早期教育、教育家族の問題	「良い子」の生きにくさ、親の過剰な期待と挫折
10	思春期・青年期の子どもと親との関係	父と子の葛藤、ひきこもり
11	成人期の発達課題	職業選択、恋愛、結婚
12	成人期の発達と心理的危機	子育てと職業の両立、父親不在と母子密着
13	中年期の心理的特徴	人生の転換期、空の巣症候群、心身の変化、個性化
14	ライフサイクルの中の老い	老いの受容、対象喪失、人格の統合対絶望
15	総括講義	ライフサイクル論のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	発達の特徴、発達課題に対する基本的理解がなされたのか、また、それぞれの段階で生じる問題を克服するために必要な社会的支援についての理解が深まったのか把握するための試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

人間の一生について概説し、様々な問題を扱うために幅広い知識が必要です。そこで、授業中に紹介する文献を読み、理解を深めるように努めてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ライフサイクルの臨床心理学	馬場禮子・永井徹共編／培風館／4-563－05610－3／
女性のためのライフサイクル心理学	岡本祐子・松下美知子編／福村出版／4-571－20051－x／
子育て支援の現在	垣内国光・櫻谷眞理子共編／ミネルヴァ書房／4-623－03643－xc3336／
ライフサイクルの心理学	松尾恒子他／燃焼社／4-88978－992－8／
ライフサイクル、その完結	E. H. エリクソン著村瀬孝雄他訳／みすず書房／4-622－03967－2／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

リハビリテーション論（S）

15486

担当者名 / Instructor　宮崎 博子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

リハビリテーションは、理念的には「全人間的復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあって、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

障害者の置かれている状況や心情などが理解出来る。
リハビリテーションの概念と手法が理解できる。
個々の分野におけるリハビリテーションがイメージ出来、対応が分る。
今、医療・福祉の現場で、何が求められているかが理解出来る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義の詳細なスケジュール(確定版)は最初の講義時に提示する。以下に記載するのは(暫定版)講義の基本的内容で、これを押さえた内容で行うが、講義順序などや詳細は変更することがある。社会福祉士などの取得をめざし、将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用して施行する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	リハビリテーション概論、廃用症候群のリハビリテーション	
第2回	障害論	
第3回	障害者の心理、障害受容	
第4回	運動器疾患のリハビリテーション	
第5回	義肢装具のリハビリテーション	
第6回	小児のリハビリテーション、教育的リハビリテーション	
第7回	精神疾患のリハビリテーション	
第8回	地域リハビリテーション、介護保険	
第9回	摂食嚥下障害のリハビリテーション	
第10回	神経・筋疾患のリハビリテーション	
第11回	排尿障害のリハビリテーション	
第12回	内部障害のリハビリテーション	
第13回	脳卒中、脳外傷のリハビリテーション	
第14回	脊髄疾患のリハビリテーション	
第15回	悪性疾患、加齢性疾患のリハビリテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基本的概念を理解し、自分の言葉で表現出来ているかを、評価する。
平常点評価	20 %	学習意欲や態度を評価する。

試験は、講義プリント、参考書、他、持ち込み自由。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に必要なプリントを作成配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーションの森-ツアーガイド-寝たきりが9割いなくなる！	京都府保険医協会・地域リハビリテーションシステム研究会／かもがわ出版／978-4-7803-0177-9／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーション医療入門	／医学書院／／

目で見るリハビリテーション医学　第2版	上田　敏／東京大学出版会／／
脳卒中のリハビリテーション	／医歯薬出版株式会社／／
狭心症、心筋梗塞のリハビリテーション	／南江堂／／
嚥下障害ポケットマニュアル	藤島一郎／医歯薬出版株式会社／／
障害児の包括的評価法マニュアル	全国肢体不自由児施設運営協議会編／メジカルビュー社／／
変わるリハビリ	上月正博／ヴァンメデイカル社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.copd-info.net/　　COPD情報ネット

その他 / Others

臨床社会学（S）

13312

担当者名 / Instructor　本田 宏治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、犯罪や非行、虐待、不登校、ひきこもり、社会的格差など社会病理現象が多様化し、増大しているといわれている。こうした社会問題を臨床的課題として捉えなおし、単に個人の「逸脱」や「不適応」としてではなく、社会学的な観点からの支援を模索する知的方法として臨床社会学がある。

本講義では、オムニバス形式で具体的な事例を取り上げ、社会の問題と個人の問題とが交錯する現代社会への諸問題への洞察を深める。そのためには、社会問題の「現在」を洞察するなかで、日常世界を反省的に異化し、社会構造の「ひずみ」を知覚する社会学的な感受性を身につける必要がある。そのうえで、一人ひとりの参加学生が、関心をもつそれぞれの課題に向けて自発的に解決の糸口を探る能力の獲得を目指したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学的な洞察力を深めたうえで、常識的視野のもとで見逃されている臨床的諸課題の「発掘」と解決に向けた社会学的想像力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会問題を臨床社会学で読み解くことの意義について	社会病理学
第2回	逸脱とは何か？	アノミー論、ラベリング論
第3回	「正常」と「異常」	集合意識、ノルム
第4回	逸脱はなぜ生まれるのか？（1）	社会解体、社会的排除
第5回	逸脱はなぜ生まれるのか？（2）	リスク社会、管理権力
第6回	犯罪の厳罰化の流れ	犯罪不安、厳罰化ポピュリズム
第7回	厳罰化による社会のひずみ	刑事施設、過剰収容問題
第8回	犯罪者の社会内処遇	ダイヴァージョン・プログラム
第9回	トラウマと現在	トラウマ、心的外傷
第10回	被害者化過程での家族・友人・社会	犯罪被害者
第11回	アダルト・チルドレンという生き方	機能不全家族、共依存
第12回	「隠蔽」される犯罪者家族（1）	私的領域、パノプティコン
第13回	「隠蔽」される犯罪者家族（2）	侮蔑発話、医療化
第14回	他者を支えるコミュニティとは何か？	コミュニティ・プリズン、コミュニティ・ポリシング
第15回	他者を「支える」ことは何か？	共在者

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での学習を促すため、配布資料や主題に合わせた参考文献などを読み、レポートをまとめるなど宿題があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容を手がかりとして、それぞれが自身の関心とする社会問題を分析する能力を身につけているかを判断する。
平常点評価	30 %	期間中に1回レポートを課し、評価に加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講に際しては、社会学の基礎的な知識を有していることが望ましい。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。配布するプリントを中心に進め、要点は板書する。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

臨床精神医学(S)　§　精神医学II(S)

15555

担当者名 / Instructor　北村 隆人　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神医療は、専門家と患者(あるいは利用者)との人間関係を媒介にして営まれる。しかしそれを支えるはずの一般的な精神医学は、孤立した個体の精神活動を生物学的、あるいは精神病理学的に研究することを通じて確立されてきた側面が強い。このため、理論と実践の間には隔たりが生じている。

本講義では、この懸隔を埋めるため、臨床に密着した理論として精神分析的精神医学を基礎にすえ、人間心理と精神障害の概略、および援助の基本について臨床的視点から講じる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

・精神分析的精神医学の基本的な考え方を理解する。
・パーソナリティ障害の基本的な知識を習得する。
・心理的問題に対する基本的な援助方法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総論:イントロダクション、精神分析的精神医学の歴史(1)	
2	総論:精神分析的精神医学の歴史(2)、精神分析の四つの理論	
3	総論:防衛論	
4	総論:アセスメント、治療論	
5	小テスト　総論:脳と神経	
6	各論:解離、心的外傷後ストレス障害	
7	各論:対象喪失、死、自殺	
8	各論:精神病、躁うつ	
9	各論:ボーダーライン	
10	小テスト　各論:スキゾイド	
11	各論:自己愛、マゾヒズム	
12	各論:摂食障害、依存症	
13	各論:自閉症、広汎性発達障害	
14	各論:思春期、青年期	
15	小テスト　各論:組織、社会	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	小テスト60%:第5回、10回、15回の講義中にそれまでの授業内容の理解度を確認する小テストを行う。 小レポート40%:2000～2500字のレポートを2回提出してもらう。一つ目のレポートの課題は、第5講に提示する。締め切りは第9講(11/26)の終了時点までとする。二つ目のレポートは、第10講に課題を提示する。締め切りは第14講の終了時点までとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
パーソナリティ障害の診断と治療	ナンシー・マックウィリアムズ著／創元社／ISBN4-422-11330-5／
ケースの見方・考え方	ナンシー・マックウィリアムズ著／創元社／ISBN4-422-11383-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

臨床人間学（S） §　ライフデザイン論（S）

15605

担当者名 / Instructor　松島 京

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちはいろいろなものを抱えながら生活をしている。さまざまな葛藤、苦しみや困難は、私たちの人生の中に訪れないことはない。抱え込んでいるそれらを、私たちはどのように理解しどのように対応することができるだろうか。
「心の世紀」「心のケア」という言葉が表すように、「心」や「心理」への関心は高い。しかし、今後いっそう複雑化する社会状況の中で、人間を理解しサポートする際には、総合的・多面的に捉える視点が必要となるだろう。
本講義では、苦しみや困難を抱えながら生きることや、それらを生み出す社会的な装置に注目しながら、「人間」が「生きる」こと、それに対する援助について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

臨床的な援助課題を社会問題という視点から捉えなおすことができる。
臨床的な援助課題に対するアプローチの仕方について理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

臨床社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と導入／臨床とはなにか	講義の到達目標、講義の進め方、成績評価方法／ベッドサイド、援助課題と社会問題
第2回	臨床人間学の視点（1）	ライフコース、ライフデザイン
第3回	臨床人間学の視点（2）	近代家族、親密性
第4回	臨床人間学の視点（3）	ジェンダー、セクシュアリティ
第5回	臨床人間学的課題（1）	DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待
第6回	臨床人間学的課題（2）	戦災、災害、事故
第7回	臨床人間学的課題（3）	生、死、病
第8回	臨床人間学的課題（4）	性、アイデンティティ
第9回	ケアと回復（1）	careとcure、相互作用性
第10回	ケアと回復（2）	語ること、物語の再構築、聴くこと、共感、受容
第11回	ケアと回復（3）	配慮と責任、他者性、エンパワメント、アドボカシー
第12回	当事者・家族と援助者（1）	ケアの非対称性、依存する／される、支配／被支配
第13回	当事者・家族と援助者（2）	二次受傷、共感疲労、バーンアウト
第14回	臨床人間学の可能性	共生、連帯、再生
第15回	講義総括／あらためて臨床人間学とは	あなたにとって臨床人間学とは／成績評価方法についての最終確認

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

ふだんから、新聞・小説・映画などに触れ、社会的なテーマや人間関係のあり方に興味関心を持つこと。また、講義中に浮上した疑問点や問題点については、講義担当者への質問もよいが、併せて自ら調べることも進めていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	講義中に数回の小レポートを課す。講義内容の理解度に応じて評価する。講義に対する主体的な取り組みを評価する。いわゆる「出席点」による加点は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義スケジュールは目安である。現代的なテーマを持つ講義なので、時事問題を組み込んでいくこともある。その際はスケジュールが若干変動する場合もある（大きく変動することはない。また事前に連絡をする）。
出席を前提としで講義を進める。随時、受講生によるディスカッションやグループワークなども組み込んでいくので、講義への積極的な参加が望まれる。

教科書 / Textbooks

指定しない。必要な資料は講義中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に必要に応じて紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に必要に応じて紹介する。

その他 / Others

老人福祉論（S） § 老人福祉論（SG）

15463

担当者名 / Instructor　西村 清忠　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

わが国の高齢者福祉制度、サービスに関する基礎知識とそこにおける問題点について講じる。また高齢者の介護問題を中心にして、在宅福祉の展開過程をたどりながら、わが国の高齢者福祉のあり方を福祉先進国といわれる諸外国の高齢者福祉事情と比較しながら検討する。とくに公的介護保険制度の導入にかかわる諸動向について述べ、そこにおける問題点や課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

わが国の高齢者福祉施策の史的展開について理解を深め、かつ諸外国との比較の視点より高齢者福祉の現状を的確に説明できる。さらにそれらを通して高齢者福祉の現代的課題が文化・社会・政治・経済などと連関する社会問題であることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	高齢者福祉の考え方	福祉ニーズ、デマンズと資源などについて
2	人口高齢化	日本的特殊性、問題の予見などについて
3	「家」制度と核家族化	産業化、高齢者問題の現出などについて
4	経済社会と高齢者福祉施策（1）	老人福祉法制定、1970年代の高齢者福祉などについて
5	福祉先進国の高齢者福祉施策	デンマークの在宅福祉などについて
6	経済社会と高齢者福祉施策（2）	高齢者の在宅福祉、福祉理念、日本型福祉などについて
7	経済社会と高齢者福祉施策（3）	1980年代の高齢者福祉施策、老人保健法などについて
8	経済社会と高齢者福祉施策（4）	自助化、多元化、分権化、普遍化、自由化、地域化などについて
9	高齢者福祉と介護問題	介護問題の深刻化などについて
10	高齢者保健福祉推進10カ年戦略	福祉理念と財源問題などについて
11	高齢者福祉と介護保険（1）	福祉理念と財源問題などについて
12	高齢者福祉と介護保険（2）	介護の社会化問題などについて
13	高齢者福祉と介護保険（3）	介護保険の改正ポイントなどについて
14	高齢者の生活と福祉と地域	地域共同性、社会的連帯、公正、社会正義などについて
15	高齢者福祉の展望	市民社会と高齢者福祉施策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞・雑誌等に掲載される高齢者福祉関連の記事に関心をもつこと。自分の住んでいる地域の高齢者福祉について調べたりすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	高齢者福祉制度、政策についての理解を前提に、高齢化社会に対する洞察力を試す問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。
平常点評価	30 %	第5回頃と第10回頃の授業で、それまでの授業内容に対する理解度を確かめるためのレポートを課す。Web-CTを使っての提出を受け付ける。

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「老い」というものを想像し、「自分の問題」としてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉士養成講座（第2巻）「老人福祉論」	／中法法規出版／／標準的な構成と内容をもつテキスト
最新介護福祉全書（8巻）「老人の心理と援助」	／メジカルフレンド社／／標準テキストだが、すこし個性的な内容をもつ
体験ルポ世界の高齢者福祉	山野井和則／岩波新書／／わかりやすい高齢者福祉のレポート
高齢者医療と福祉	岡本祐三／岩波新書／／福祉と医療の視野をあわせもつ高齢者の本

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

老年社会学（S） §　老年社会学（SG）

13250

担当者名 / Instructor　高橋 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

高齢化にともなう社会変化は多様である。高齢化社会の問題に対するアプローチも人口、雇用・就業、家族、医療保健、社会福祉、社会活動・生涯学習、生きがい等と多様である。本講義では高齢化社会の問題を諸データを通じて多角的にとらえつつも、そこに通底する意味を探る。その際、高齢期の問題が世代をこえた課題として実感される接点を提示する。また現代の「老い」の意味を探ることをめざし、社会学的幸福論を主テーマとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学的視点にたち、高齢期に関する諸問題現象を科学的なデータを用いて考察することができ、またその因果的連関を説明できる。さらには現代社会における「老いて生きる」ことの意味を自分の問題としていく探求心を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「老い」を想像する	言語性能力と動作性能力などについて
2	高齢期のこころと身体	個人差、「老い」の多様性などについて
3	高齢期の世代的特性	無限定性、「世代性」などについて
4	高齢期の健康生活と認知症	アルツハイマー型、脳血管性など、認知症について
5	高齢期の経済生活と年金	階層格差、年金の社会的機能などについて
6	高齢期の家族生活と老親扶養慣行	「家」規範と家族変化などについて
7	高齢ねたきりと介護問題	人口高齢化と介護ニーズなどについて
8	高齢期の無為と生きがい・社会活動	喪失のライフイベントなどについて
9	高齢期の孤独・孤立	社会的疎外などについて
10	高齢期の自殺と虐待	自殺率と自殺に関する社会類型などについて
11	エイジズム	「老い」の価値観、「老い」の神話などについて
12	高齢期の社会的役割	活動性と離脱性、受容とあきらめなどについて
13	高齢期の社会的寄与	高齢期の「世代性」などについて
14	「老い」をきく	老いの受容などについて
15	「老い」の意味を考える	「発達と回帰」などについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日常生活の中で、高齢者や高齢者にかかわる事柄に関心をむける。また新聞・雑誌等の高齢者に関する記事を読む際は、「高齢者がどのような生活をしているのか」「高齢者に何が起きているか」を探索しながら読む。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	「高齢社会」、「老い」についての理解を前提に、高齢化社会に対する洞察力を試す問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。
平常点評価	30 %	第5回頃と第10回頃の授業で、それまでの授業内容に対する理解度を確かめるためのレポートを課す。Web-CTを使っての提出を受け付ける。

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「老い」というものを想像し、「老い」に関する問題を「自分の問題」としてとらえてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エイジングの社会学	／日本評論社／／「老い」に関する社会学的な視点を確保するのに役立つ
図説高齢者白書	／全国社会福祉協議会／／「老い」に関する諸現象の客観データをみることができる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SA）

12725

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1)（テキスト第5章、第 10 章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2)（テキスト第5章、第 10 章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2)（テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SB）

12726

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SC）

12727

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SD）

12728

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SE）

12729

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第 10 章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第 10 章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

経済学理論（S）

13311

担当者名 / Instructor　伊藤 正純

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

まず現実の経済を認識するための基礎タームである、国民所得、GDP成長率、国際収支、財政（歳入・歳出）などを説明する。次いで、アメリカ流の「金融資本主義」とは何であったかを考える。アメリカ追随の日本の経済政策は、小さすぎる政府による「公貧社会」、外需依存型の脆弱な経済、大きな格差社会をもたらしている。日本とは対極にある北欧諸国の経済政策を念頭に、日本の経済政策の問題点を考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、新聞の経済欄に興味をもてるようになること、そして実際に読んでみて、少しはわかったという実感がもてるようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4／8	国民所得とは何か	市場経済　GDP（国内総生産）　国民所得　経済成長率
4／15	経済は市場だけでは成り立たない	市場と財政は相互補完関係　「小さな政府」「大きな政府」
4／22	国際収支とは何か	経常収支　資本収支　為替　円高　円安
4／29	アメリカ「金融資本主義」の発生	金融の自由化、グローバル化、直接金融、間接金融、BS規制
5／13	アメリカ「金融資本主義」の繁栄（1）	新自由主義　双子の赤字（財政の赤字と経常収支の赤字）、資本収支の黒字、高金利、低金利
5／20	アメリカ「金融資本主義」の繁栄（2）	過剰な消費、世界の資金循環、外需依存型経済（日本、中国）
5／27	アメリカ「金融資本主義」の破綻	証券化、CDF（クレジット・デフォルト・スワップ）、格付会社
6／3	外需依存型日本経済の「繁栄」	規制緩和、財界の変貌、損益分岐点の「改善」
6／10	外需依存型日本経済の「貧困」	労働分配率　労働市場の規制緩和、ワーキング・プア、労働組合
6／17	「貧困大国」の双璧、アメリカと日本	「トリクル・ダウン」論、税制の問題点、所得再分配機能の放棄
6／24	アメリカン・ドリームとヨーロッピアン・ドリーム	自己責任、「機会平等」、勝者の論理、社会的包摂、「包摂される権利」、システムの責任
7／1	政府の役割　財政と社会保障	北欧諸国にみる「生活の安全」、強い経済と強い財政は両立する
7／8	フレキシキュリティ（Flexicurity）とは何か	デンマーク、オランダ、スウェーデン
7／15	知識基盤社会における人材育成	エンプロイアビリティ　生涯学習
7／22	ワーク・ライフ・バランスを考える	貧困をなくした国、貧困にあえぐ国

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	記述式論文試験。持ち込み不可。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純／桜井書店／ISBN4-921190-16-X／
日本経済を問う	伊東光晴／岩波書店／ISBN4-00-024243-1／
入門社会経済学	宇仁宏幸他／ナカニシヤ出版／ISBN4-88848-879-7／
希望の構想	神野直彦・井手英策／岩波書店／ISBN4-00-022553-7／
貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン	竹崎孜／あけび書房／ISBN978-4-87154-078-0／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

計量社会学（SA） § 計量社会学（SA）

13448

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
第2回目	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
第3回目	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
第4回目	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
第5回目	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
第6回目	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
第7回目	分析実習1	度数分布表、代表値
第8回目	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
第9回目	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
第10回目	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
第11回目	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
第12回目	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
第13回目	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
第14回目	分析実習4	多変量解析
第15回目	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	40 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる

[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。

[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本人の姿	岩井紀子・佐藤博樹編／有斐閣／4641280681／

社会調査へのアプローチ　　大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武／ミネルヴァ書房／4623041042／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

その他 / Others

計量社会学（SB） § 計量社会学（SB）

13459

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
第2回目	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
第3回目	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
第4回目	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
第5回目	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
第6回目	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
第7回目	分析実習1	度数分布表、代表値
第8回目	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
第9回目	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
第10回目	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
第11回目	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
第12回目	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
第13回目	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
第14回目	分析実習4	多変量解析
第15回目	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	40 %	学期中に2～3度程度の平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って参加する態度が望まれる。
[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことをより明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。
[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本人の姿	岩井紀子・佐藤博樹編／有斐閣／4641280681／

社会調査へのアプローチ　　大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武／ミネルヴァ書房／4623041042／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

その他 / Others

現代史 (S)

15514

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:現代日本の世界史的位置。

現代は,多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。この講義では、①20世紀の歴史を振り返り、今日的な諸問題が形成されてきた経過を確認し、そのうえで、②世界的な視点から、今日の日本の産業・労働環境，教育・福祉などをめぐる問題と今後の課題を検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と、日本の経済社会との重層的な構造的連関を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に希望はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	グローバル化のなかで「現代」を考える	現代は、いつから始まるか　近代の再帰性 国民国家の誕生、国軍と司法、国民教育、産業振興
第2回	19世紀末の世界ー 帝国主義と社会主義	後発資本主義国の発展　パックス・ブリタニカ 大衆デモクラシーの台頭　19世紀末の文化
第3回	第1次世界大戦—大衆デモクラシー時代への本格的移行の転機ー	総力戦体制　日本の対応
第4回	戦後の新しい世界秩序	ヴェルサイユ体制とワシントン会議
第5回	1920年代における太平洋地域と中東の新秩序	中東とインド　中国の内戦　　日本の大陸政策
第6回	世界恐慌の諸相	アメリカの恐慌　スターリン体制　日本の恐慌
第7回	ファシズムの台頭	ナチス・ドイツ，イタリア，スペイン
第8回	第二次世界大戦の構図	ファシズム対反ファシズム　日本の総力戦
第9回	東西冷戦と戦後復興	東西冷戦のはじまり　　国際連合　　マーシャル・プラン 朝鮮戦争
第10回	福祉国家の形成と展開	社会主義圏の社会福祉　資本主義諸国の「福祉国家」化とその性格
第11回	ラテンアメリカとアフリカ	移民社会　開発と国際協力　　アフリカの独立
第12回	1970年代の世界の重層構造	フォーディズムからフレキシブル生産体制へ　アジア諸地域の脱植民地化
第13回	新自由主義の世界的な潮流	福祉国家の変質　途上国の債務と経済協力の性格
第14回	教育・文化をめぐる先進国と途上国	少子化　教育　グローバル・メディア
第15回	現代世界とモダニティの変容－1つのまとめー	グローバリズムとセフティーネット

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	基本的に定期試験で評価。
平常点評価	10 %	出席票を配布する際、講義に関する質問を書いて頂き、授業のなかで返事をする機会をつくる。その対応を若干、定期試験の評価に加味する。

出席が一度も確認できなかった受講生は、定期試験を受けても単位を認定しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この講義は、現代社会に生起している諸問題を考える視点や射程を私なりに紹介するものであり，それを、歴史学の方法で、進めているにすぎない。

講義で話題にしたことについて、それに関連する書籍・文献を独自に読み進め、理解を深める学習を切に希望する。

教科書 / Textbooks

教科書は、このシラバスを出稿する時点では、使用しないとする(変更する際は、授業で説明する)。

毎回、レジメにて講義をし、テーマに関連する文献は適宜、講義の中で紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代史への視座	竹内　啓／東洋経済新報社／978-4-492-06143-5／多少刺激的である
新自由主義	デヴィド・ハーヴェイ／作品社／978-4-86182-106-6／一度、通読されることを薦める
昭和史　全2巻	中村隆英／東洋経済新報社／／日本の戦後史の概説書

このほか，講義のなかで，先にも述べたように適宜、参考文献紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

最近は、歴史に関する用語やキー概念を、サーチ・エンジンに入力すれば、関連する用語解説が簡単に検索できるので、まずはどのような用語でも良いから検索してみることである。

その他 / Others

特になし

現代政治論（S）

13310

担当者名 / Instructor　國廣 敏文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

20世紀の科学＝技術や医学の飛躍的進歩によって、人類は宇宙旅行を現実のものとしクローンを作り出すまでになった。だが同時に20世紀は〝紛争と革命の世紀〟でもあり、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など未解決の問題が山積しており、その意味で、人類は自然と社会を統治しえていない。政治学の観点から見ると、20世紀は「国民国家」の時代であるが、その国家が世紀末に至って〝ゆらぎ〟始めている。本講義では、分裂と統合との間を揺れ動く現代国家および世界政治の諸相と諸問題を把握するとともに、現代世界の構造と動態についての政治学的分析に必要な基礎概念や視点・方法を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

・グローバル化の進む中で、国家や人々が解決を迫られている現代的諸問題を広く理解する。
・それらの解決のための方策を考える。
・現代世界を捉えるための理論的枠組みについて理解を深め、自らの社会的視座を形成するとこをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代政治論はグローバルな視点から現代世界の諸問題を考察しますので、各国政治を、より具体的に見ていくには、「比較政治論」もあわせて履修することを推奨します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ．歴史認識と政治学の視点	現代という時代―20世紀から21世紀へ― 科学技術・医学発展の世紀、戦争と革命の世紀 20世紀
第2回	政治学の方法と課題 ―グローバル・プロブレマティークとは何か―	政治学、グローバル・プロブレマティーク
第3回	Ⅱ．現代政治の諸相―国家、民族、紛争―、	「国民国家」の拡大と〝ゆらぎ〟―「相対化の時代」か―「国民国家」、「相対化の時代」
第4回	国家とは何か	国家
第5回	国家形成と国民形成	国家と国民
第6回	民族とは何か	民族
第7回	現代民族問題の概観（1）―人種、言語、宗教との関わりで―	人種、言語、宗教
第8回	現代民族問題の概観（2）―いくつかの事例を中心に―	民族問題の現状
第9回	「国民国家」と民族問題の将来	国家と民族問題の展望
第10回	Ⅲ．分析枠組	「世界システム論」の方法　世界システム論
第11回	「世界システム論」の意義と問題点	世界システム論
第12回	「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第13回	「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第14回	グローバル・ガヴァナンスとグローバルデモクラシー	グローバル・ガヴァナンス、グローバルデモクラシー
第15回	Ⅳ．まとめと展望：グローバルデモクラシーの可能性を考える	「グローバリゼーション」の時代と私たちの課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞やニュースに普段から接するように心がけることと、分からない言葉や問題があったときに、それを調べる癖を身につけること。そうした探求心や好奇心から、勉強することへの興味が湧いてきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義で話した内容についての理解度・学習到達度を測る
レポート試験	20 %	講義内容あるいは特別講義に関するもの
平常点評価	10 %	出席点を加味する ＊定期試験として実施　成績評価＝単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としますが、毎回出席を取ります。100点満点のうち、10点として総合点に参入します

テキストはとくに指定しないが、授業に際して参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。
現代の世界的状況を理解するための参考書として、D. ヘルド編（中谷義和監訳）『グローバル化とはなにか』法律文化社、2002年10月刊を挙げておきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の中で紹介します。

その他 / Others

「私語」は、自らの学習権の放棄であると同時に、他者のそれへの侵害でもあるので、厳禁する。

コミュニケーション理論（S）

13265

担当者名 / Instructor　池田 知加

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

コミュニケーションとは多義的な意味がこめられる概念です。そのため、コミュニケーションのとらえ方は、社会学、哲学、心理学、社会心理学、情報科学といった多様な分野で様々なアプローチがなされています。この講義では、主に、社会心理学（第2～5回目）と記号論（第6～9回目）からみたコミュニケーションについて理解を深めた上で、現代のコミュニケーションの動向について近代化という社会変動を軸にしながら、社会学的に考察（第10～13回目）します。現代的な事例を出しながら授業を進めますが、コミュニケーションについて、個別的な事象から捉えるのではなく、いくつかの理論的なアプローチを学ぶことで一般化して広く理解することをめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会心理学、記号論それぞれからみたコミュニケーション理論についての理解を深める。
・コミュニケーションへの理論的な理解を深めた上で、現代コミュニケーションの動向について、近代化を軸に社会学的に論述する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	コミュニケーション　コミュニケーション論
第2回	自己を知らせるコミュニケーション	自己開示
第3回	他者の心を動かすコミュニケーション	説得コミュニケーション　簡便法
第4回	マスメディアと説得コミュニケーション①	プロパガンダ　感情
第5回	マスメディアと説得コミュニケーション②	テレビ　効果研究
第6回	コミュニケーションの記号と意味①	記号論　ソシュール　シニフィアン　シニフィエ
第7回	コミュニケーションの記号と意味②	バルト　デノテーション　コノテーション
第8回	記号化した世界	消費社会　欲望　差異
第9回	身体の記号論	文化産業　パノプティコン
第10回	メディアとコミュニケーション	CMC　No sense of place
第11回	コミュニケーションと場所	場所の力　グローバル化
第12回	コミュニケーションと文化	異文化コミュニケーション
第13回	コミュニケーションと社会	ポスト慣習社会　規範
第14回	近代化とコミュニケーション　コミュニケーションの可能性	近代化　ハーバーマス
第15回	全体のまとめと補足	コミュニケーション　近代

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

基礎的な専門用語などについては、各自で社会学事典などを参考にして学習すること。講義内で紹介した文献を読むと、より授業の理解が深まります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観テスト（基礎的事項の理解）60% 論述（テーマ設定・論理的構成力）40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私語は厳禁です。学生証を提示の上、即退出、以後の授業への参加は認めません。レジメは教室でのみ配布します。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。レジメを使用します。参考書については適宜提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
影響力の武器：なぜ、人は動かされるのか	ロバート・B・チャルディーニ／誠信書房／4414302692／
プロパガンダ：広告・政治宣伝のからくりを見抜く	アンソニー・プラトカニス、エリオット・アランソン／誠信書房／4414302854／
記号の知/メディアの知：日常生活批判のためのレッスン	石田英敬／東京大学出版会／4130100947／
場所感の喪失〈上〉電子メディアが社会的行動に及ぼす影響』	ジョシュア・メイロウィッツ／新曜社／4788508699／

人生相談「ニッポン人の悩み」:幸せはどこにある?　池田知加／光文社新書／4334032968／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

特になし

産業技術論（S）

15551

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに絡みついているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、技術に関する問題の解決指針を与えていく。

それには、技術自身について理解すること以上に、それが社会の中でどのように機能しているか、役にたっているかについてのセンスを磨く必要があらわれる。技術を生活や社会の中に正確に位置づけ、その中から、スペックに惑わされない本来的な「技術と社会の発展」のありようについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

技術発展の指標について理解し、現今の技術を評価できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

環境技術論を同時に履修していくことが望ましい（履修順序は問わない）

対象となる科学・技術についての説明に専門概念を使用することもありますが、そうした事項については、その都度丁寧に説明いたします。受講に理系的知識を前提としてません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　技術発展と社会発展	技術発展　社会発展
第2回	発明と普及の時間差について	蒸気船と帆船　動力と制御
第3回	大型化の利得について	スケールメリット　表面効果と体積効果
第4回	産業革命論1　道具と機械	道具と機械　産業革命
第5回	産業革命論2　大量生産社会	大量生産
第6回	工作機械論	工作機械　汎用と専用
第7回	フォーディズム　流れ作業	コンベア流れ生産　大量生産
第8回	フォーディズム2　テーラーシステム	テーラーシステム
第9回	ポストフォーディズム	リーン生産方式
第10回	日本的生産様式	FMS　JIT
第11回	ロボット論	ロボット　Rキューブ
第12回	半導体工業論	半導体　IC
第13回	エレクトロニクス製品の現状　1 楽器の問題	PCM　デジタル
第14回	エレクトロニクス製品の現状　2　PC　通信技術	PC　ケイタイ
第15回	全体まとめ　技術発展とは	技術発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

多数の本、視覚教材を随時紹介していきます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理を正確に理解すること

なし

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1冊のテキストで学習できるものでありませんので、講義を聞き逃さないようにしてください。

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布していきます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『技術と労働』	大沼正則／岩波書店／ISBN4-00-003662-9　c0336／
『アメリカンシステムから大	D.A.ハウンシェル／名古屋大学出版会／ISBN4-8158-0350-1／

上記以外でも参考書は多数に渡りますので、随時紹介し、また抜粋なども配布します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、講義などで紹介していきます。

その他 / Others

なし

質的調査論（SA）　§　質的調査論（SA）

15573

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する（グループ調査および個人調査）ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの向上を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等（情報処理、計量社会学）を受講しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	質的調査入門	
第2回	質的調査と量的調査	帰納法、演繹法、リアリティ
第3回	質的調査の歴史	シカゴ学派、エスノメソドロジー
第4回	インタビュー調査の計画	
第5回	「あたりまえ」を疑う社会学①	生の「固有性」 相互作用　役割演技
第6回	「あたりまえ」を疑う社会学②	実証主義　グラウンデッド・セオリー　対話的構築主義
第7回	「あたりまえ」を疑う社会学③	カテゴリー化　ドミナント・ストーリー　オルタナティヴ・ストーリー
第8回	「あたりまえ」を疑う社会学④	アクティヴ・インタビュー
第9回	トランスクリプションの作り方	トランスクリプション
第10回	ケーススタディ①	
第11回	ケーススタディ②	
第12回	インタビュー調査報告会①	
第13回	インタビュー調査報告会①	
第14回	質的調査のススメ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義外でインタビュー調査を行い、実践的・体験的に質的調査の手法を学ぶ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	インタビュー調査のトランスクリプションおよびレポートの提出
平常点評価	20 %	講義の最後にミニレポートの提出を課す場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「あたりまえ」を疑う社会学－質的調査のセンス	好井裕明／光文社新書／9784334033439／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

質的調査論（SB） § 質的調査論（SB）

15685

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する（グループ調査および個人調査）ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの向上を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等（情報処理、計量社会学）を受講しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	質的調査入門	
第2回	質的調査と量的調査	帰納法、演繹法、リアリティ
第3回	質的調査の歴史	シカゴ学派、エスノメソドロジー
第4回	インタビュー調査の計画	
第5回	「あたりまえ」を疑う社会学①	生の「固有性」 相互作用 役割演技
第6回	「あたりまえ」を疑う社会学②	実証主義 グラウンデッド・セオリー 対話的構築主義
第7回	「あたりまえ」を疑う社会学③	カテゴリー化 ドミナント・ストーリー オルタナティヴ・ストーリー
第8回	「あたりまえ」を疑う社会学④	アクティヴ・インタビュー
第9回	トランスクリプションの作り方	トランスクリプション
第10回	ケーススタディ①	
第11回	ケーススタディ②	
第12回	インタビュー調査報告会①	
第13回	インタビュー調査報告会①	
第14回	質的調査のススメ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義外でインタビュー調査を行い、実践的・体験的に質的調査の手法を学ぶ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	インタビュー調査のトランスクリプションおよびレポートの提出
平常点評価	20 %	講義の最後にミニレポートの提出を課す場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「あたりまえ」を疑う社会学－質的調査のセンス	好井裕明／光文社新書／9784334033439／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会学史 (S)

13449

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学は、二重革命（産業革命＋市民革命）の激動を通じて中世西ヨーロッパの社会秩序が解体され、いわゆる近代社会（産業社会）が立ち上がってくる歴史状況の中で、いかにして近代社会に秩序をもたらすかという問題意識を基点として、19世紀末から20世紀初頭にかけての時代に出現した学問である。「近代社会の自己認識」というフレーズが社会学の自己規定として語られ、社会学の根本問題は≪秩序問題≫であるとしばしば言われるのは、社会学がそのような誕生の経緯を持っているからである。本講義では、社会学の根本問題であるこの≪秩序問題≫を軸としてどのような学史が紡がれてきたかを概観することとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の根本問題である≪秩序問題≫に対して、主要な社会学者がどのような観点でそれを捉え、どのような理論形成を試みたのかを理解することが第1の目標である。またそのことを通して、社会学という学問が歴史的現実をどう捉え、それに対してどのように応答しようとしてきたのかを理解すること、これが第2の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学の根本問題への誘い	社会秩序
第2回	人間社会の秩序への開眼	マキャベリ
第3回	啓蒙主義の社会秩序像	ホッブズ、ロック
第4回	18世紀市民社会の社会的秩序像	スミス
第5回	19世紀市民社会の矛盾	ヘーゲル
第6回	中間総括① ―― 市民社会秩序の前提と矛盾	ヒューマニズム
第7回	コントの社会的秩序像 ―― 社会設計	実証主義
第8回	マルクスの社会的秩序像 ―― 社会の自己生成①	社会構成体、階級闘争
第9回	マルクスの社会的秩序像 ―― 社会の自己生成②	社会構成体、階級闘争
第10回	スペンサーの社会的秩序像 ―― 社会進化論	適者生存
第11回	中間総括② ―― 草創期社会学の課題	≪社会≫とは何か
第12回	ヴェーバーの近代社会像 ―― 歴史の逆説	支配、合理化
第13回	デュルケムの近代社会再建論 ―― 近代社会の病理	アノミー、道徳
第14回	現代社会学の課題	「社会」とは何か
第15回	最終総括 ―― 社会学の根本問題	≪秩序問題≫

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

情報量が多いので、テキストを読んできていることを絶対の前提条件として講義を進める。したがって、必ず事前に読んで来ること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学的思考とは何か』	三溝信／有信堂(1998)／／

『社会学的思考とは何か』、三溝信、有信堂(1998)をテキストとする。ただし、出版社の在庫数が履修予想者数を下回るので、こちらでコピーして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会学理論（S）

15534

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会の成り立ちを理解するのに有効な社会学理論の基本的な考え方を学んでもらうことを主眼にしている。そのために、デュルケームやヴェーバー、シカゴ学派、システム論を取り上げる。社会的連帯・儀礼・権威・自殺・宗教と資本主義の精神、共同態・都市化・移民などを具体的な事例にして、古典的な社会学理論のエッセンスを解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．基本的な社会学的視点と概念に習熟することで、社会学的なものの見方が可能となる。
2．社会学的な考え方を、具体的な問題状況に適応して、その解決に役立てることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日常性の社会学、社会学史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに：授業の進め方と社会学の主題	共同態・権威・聖なるもの・階層・社会病理
2	デュルケームの社会理論（1）：『社会分業論』	連帯・集合意識・抑止法・復原法
3	デュルケームの社会理論（2）：『自殺論』	欲求と規制（アノミー）・個人と社会・自己本位主義・集団本位主義
4	デュルケームの社会理論（3）：『宗教生活の原初形態』	トーテミズム・儀礼・集合的沸騰・象徴
5	デュルケームの方法論	実証主義・共変法・分類
6	ヴェーバーの社会理論（1）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	世俗内禁欲・資本主義の「精神」・担い手・親和性
7	ヴェーバーの社会理論（2）『儒教と道教』	氏族・家産官僚・読書人層・都市
8	ヴェーバーの方法論	理念型・比較社会・差異法・一致法
9	デュルケームとヴェーバーの比較	理念と思想の意義・行為論対制度論を超えて
10	シカゴ学派の社会理論（1）：『ポーランド農民』	移民・社会解体・再組織スラム・家族解体
11	シカゴ学派の社会理論（2）パークとバージェス	人間生態学・都市空間・適応・逸脱
12	システム論の考え方（1）	機械論・有機体論・パーソンのシステム論・自己組織性
13	システム論の考え方（2）	関係的思考・ブルデュー・ネットワーク
14	社会理論の展開：社会的世界論	ナラティブ・メカニズム・システム
15	理論的視点の総括	社会理論の整理・実践への示唆

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で適宜紹介する文献をできるだけ読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	社会学理論の基本的な概念や考え方についての理解度を試し、どれだけ現実の社会の理解に理論を活用する能力を習得しているのかによって評価する。

授業の理解度を知るために、特定のテーマが終わった段階ごとに、質問紙で質問を行う。こうした質疑への積極的な参加が望ましい。理解を深めるのに的確な質問をした受講生に対しては、評価を考慮する場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まじめな態度で受講して欲しい。授業ではレジメを配布するので、それを熟読し、参考文献にも目を通してもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新　睦人ほか　／有斐閣／4-641-08857-8／

テキストの他に授業では毎回レジメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シカゴ学派の社会学	中野正大・宝月誠／世界思想社　／4-7907-1029-7／

そのほか適宜、授業中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会経済学（S） § 社会経済学（W）

13273

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま日本では所得格差が広がっているといわれています。企業の業績は好調で、好景気もつづいているというのに不思議な話です。その原因は多くあるでしょう。雇用の多様化の中で進む賃金格差や、また教育格差がその直接的な原因のひとつだといっていいかも知れません。しかし、では、なぜ雇用が多様化するのでしょうか。そこには、グローバル化という大きな世界の動きがあります。また知識基盤型経済へと経済の仕組みが変わってきていることがあります。しかし、やはり根本的には、現在経済の舵をとっている経済の考え方が新自由主義的なそれであることに大きな原因があります。経済は、人が動かしている以上どのような考え方でいま経済の舵が取られているのかを考えることはきわめて重要です。本講義では、まずこうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念（言葉）、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような考え方で経済社会がこれまで動いてきたのか、また今動いているのかを考えてみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得（GDP、金融のメカニズムなど）
2）戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
3）現代経済社会に関する諸理論の確認

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済学
経済学理論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	経済空間の構造－資本と市場	資本の3形態、商品市場、金融市場、労働市場
2回目	企業と産業－株式会社	株式会社とは？産業分類
3回目	貨幣と金融－お金の話	貨幣の種類、銀行の役割、金融政策
4回目	国民経済計算の基礎－成長と所得	国民所得、3面等価、成長率
5回目	ケインズの経済学（1）－市場と政府	自由放任主義、エリート主義、国家介入主義
6回目	ケインズの経済学（2）－完全雇用	完全雇用、有効需要政策、財政・金融政策
7回目	戦後日本の蓄積構造と危機－経済と社会の変化	フォード主義的大量生産、消費社会、都市化、核家族
8回目	新自由主義の経済学（1）－市場原理主義と小さな政府	フォーディズムの危機、レーガニズム、規制緩和、民営茄
9回目	新自由主義の経済学（2）－自由と平等	機会の平等、成績主義、個人責任
10回目	グローバル化と経済	新自由主義的グローバル化、直接投資、新国際分業
11回目	所得格差の拡大－排除と貧困	ジニ係数、社会的排除、絶対的・相対的貧困
12回目	雇用の現状－雇用の多様化	正規・非正規労働、女性の労働力化、雇用格差
13回目	「第三の道」の経済学－包含の経済学	ギデンス、ステークホルダー資本主義、社会的包含
14回目	福祉と経済	効率と公正、ワークフェアー、トランポリンネット
15回目	まとめと総括	半年間の講義を振り返って。質問、アンケート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で、そのつど文献を指定するので、読んでおくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考査する
平常点評価	20 %	3～4回の出席をとり、それを点数に換算する。

講義は通して受講することが望ましい。したがって、適時出席をとる。定期試験80点プラス出席点20点＝100点で評価をする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメ、資料は講義での配布時に入手すること。
質問は、講義後に適時受け付ける。また、出席をとる際にも、記入欄を設けるので利用して欲しい。

教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民のための社会経済学	篠田等編／八千代書房／／
ケインズ	伊藤光晴／岩波新書／／
第三の道	ギデンズ・佐和隆光訳／日本経済新聞／／
もうひとつの日本は可能だ	内橋克人／光文社／／
人間回復の経済学	神野直彦／岩波新書／／

なお、上記の参考書以外にも、適時参考文献を講義中に知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.stat.go.jp（政府統計局の『日本統計年鑑』。国民経済計算、産業分類、金融統計など）
http://www.esri.go.jp（内閣府「国民生活白書』。国民生活に関する資料）
http://www.mhlw.go.jp（厚生労働省。雇用、福祉に関する資料） など。

その他 / Others

社会心理学（S）

13357

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人々は社会からさまざまな影響を受けながら日々の生活を送っている。このような個々人の中に見られる社会的影響の産物として社会的態度をとらえることができる。社会的態度はどのように形成され、どのような条件下で変化しうるのか。本講では社会的態度を中心に、個々人の持つパーソナリティや社会的動機、個人と個人との対人認知や対人関係、個人と集団とのかかわりあい、集団と集団との相互作用、さらに比較文化といった複眼的な視点から社会の中の人間行動を考えてみる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間が社会から受ける影響、人間と人間のと相互作用、個々人の態度の形成と変容などについて理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1）社会心理学とは	社会心理学の位置づけ、他の領域との関連性
2	2）社会心理学の歴史・研究方法	社会心理学の研究の流れ、研究方法
3	3）個人の中の社会的影響	社会が個人に与える影響について欲求・動機づけ・本能概念
4	4）達成欲求	達成欲求の測定法、達成欲求と行動特性、達成欲求
5	5）親和欲求	親和欲求、不安と親和欲求
6	6）対人認知	情動の認知、パーソナリティの認知
7	7）印象形成	暗黙裡のパーソナリティ理論、相貌と印象、言語情報からの印象形成、行動観察による印象形成
8	8）社会的態度とは	態度と対象の関係、態度の定義・機能
9	9）態度の形成	態度形成の問題について認知的成分、感情的成分、行動傾向成分
10	10）態度の変化	コミュニケーターの信憑性、コミュニケーションの提示方法
11	11）対人魅力の規定因	空間的近接・身体的魅力・態度の類似度・他者評価
12	12）対人魅力の理論	理論相互依存性理論・バランス理論・錯誤帰属説
13	13）人格とは	パーソナリティの概念、パーソナリティの理論、活動システムとしてのパーソナリティ、心理＝社会的アイデンティティ
14	14）人格の形成	社会化の概念と過程、価値の社会的学習、社会的学習のメカニズム、モデリングとしての同一視、文化的価値の伝達と内在化
15	15）文化と「人格形成」	乳児期からの社会的学習、子育てと文化のパターン

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	重要語句と研究例、理論の理解を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考書 / Reference Books

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

その他 / Others

社会調査情報処理（SA） § 情報処理（SX） § 社会調査情報処理（SA）

15526

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
第2回	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
第3回	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 [教科書pp. 2-20] ・度数分布表とヒストグラム [『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97] ・要約統計量の算出 [教科書pp. 102-111]	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
第4回	・データの変換 [教科書pp. 24-44] ・グラフと図 [教科書pp. 53-73]	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
第5回	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

第6回	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
第7回	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
第8回	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
第9回	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
第10回	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
第11回	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
第12回	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
第13回	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
第14回	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
第15回	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第3版）	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］：　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］：
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

社会調査情報処理（SB） § 情報処理（SY） § 社会調査情報処理（SB）

15537

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
第2回	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
第3回	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ［教科書pp. 2-20］ ・度数分布表とヒストグラム ［『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97］ ・要約統計量の算出 ［教科書pp. 102-111］	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
第4回	・データの変換 ［教科書pp. 24-44］ ・グラフと図 ［教科書pp. 53-73］	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
第5回	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

第6回	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
第7回	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
第8回	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
第9回	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
第10回	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
第11回	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
第12回	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
第13回	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
第14回	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
第15回	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第3版）	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007051／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

社会調査論（S） § 社会調査論（S）

13331

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会統計学、計量社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会学と社会調査： 社会調査とは・社会調査の歴史	社会調査
2	社会調査の種類と特徴(1)： 量的調査、質的調査	調査票法、観察法、自由面接法
3	社会調査の種類と特徴(2)： 量的調査、質的調査	調査票法
4	社会調査の手順： 社会調査の一般的手順・調査の倫理	調査倫理、仮説
5	社会調査と理論(1)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
6	社会調査と理論(2)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
7	標本調査の考え方：サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論	サンプリング
8	標本調査の考え方：サンプリングの方法(2)　無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法
9	標本調査と標本誤差： 標本誤差と非標本誤差・推定の精度	標本誤差、非標本誤差、推定
10	調査票の作成： 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	調査票、ワーディング
11	コーディング： データの整理とチェック・エディティング・コーディング	エディティング、コーディング
12	調査票の集計： データの記述： データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	基礎統計量
13	データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション	クロス表、エラボレーション
14	データの分析(2) 結果の公表　2変量の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成	相関係数、疑似相関、調査研究例、調査倫理
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	試験は「持ち込み不可」です。 簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することを勧めます。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

授業中配布のプリントに記載します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会統計学（S） § 社会統計学（S）

13453

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

統計学の基本的な概念と方法について、説明することができる。
記述統計と推測統計の基本的方法を用いて、調査データの要約、推定、統計的仮説検定を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校レベルの基礎的数学（Σ記号を使った演算、順列・組合せ・確率、微積分の基礎）の知識を前提とするが、簡単に復習しながら進める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	統計データとは、統計的方法とは	統計データ、統計的方法、統計変量、記述統計、推測統計
第2回目	比率と指数	変化率、寄与度・寄与率、指数
第3回目	分布とその特性	度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度
第4回目	相関	相関関係、相関係数
第5回目	回帰	回帰分析、独立変数、従属変数、最小2乗法
第6回目	確率の基礎	順列、組み合わせ、確率、条件付確率、ベイズの定理
第7回目	確率変数と分布	確率変数、確率分布、期待値、分散、2項分布、正規分布
第8回目	母集団と標本、標本調査法	母集団、標本、サンプリング、ランダムサンプリング
第9回目	統計量の標本分布（1）	統計量、母数、標本分布、標本平均の分布
第10回目	統計量の標本分布（2）	大数の法則、中心極限定理
第11回目	統計的推定（1）	点推定、区間推定、良い推定量の基準、信頼区間、母平均の推定、t分布
第12回目	統計的推定（2）	母比率の推定、母平均の差の推定
第13回目	統計的検定（1）	仮説検定、有意水準、第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、母平均・母比率の検定
第14回目	統計的検定（2）	平均値の差の検定
第15回目	クロス集計表とその検定	クロス集計表、カイ2乗分布、適合度検定、独立性の検定

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回の授業内容を必ず復習すること。課題を解きながら考えると理解が深まる。
またEXCELの関数が使える者は、パソコンでも課題を解いて確認してみるとさらによい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	統計学の基本的概念の理解度、基本的方法を使ったデータの分析力をみる。
平常点評価	40 %	ほぼ毎回の授業で復習のための簡単な課題（宿題）を課す。課題の提出状況を平常点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計学は積み立て型の科目なので、遅刻・欠席をすると授業についていくことが困難になります。授業への出席と課題提出は必須です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる統計学 Ⅰ 基礎編	金子治平・上藤一郎編／ミネルヴァ書房／978-4-623-04926-4／教科書に沿って講義を行う

講義は教科書に沿って進める。教科書の説明を補うためにプリントを随時配布する。教科書の練習問題も授業・課題で利用・解説するので、開講までに必ず入手しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・涙なしの統計学	D.ロウントリー／新世社／4-88384-035-2／数式をほとんど使っていないので、数学が苦手な人には読みやすい
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室編／東京大学出版会／4-13-042065-8／入門と書いてあるが、やや高度な内容も含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

電卓を使って練習問題を解くので、毎回の授業に√の計算のできる電卓を必ず持ってきてください。

社会保障論（S） § 社会保障論（SG）

15467

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会保障の総論と各論を区分し、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。
(1) 社会保障制度総論：①社会保障制度の理念・概念・対象、社会保障制度の体系(社会保険、公的扶助、公衆衛生・医療、社会保障関連制度)、③社会保障の機能(生存権･最低生活の制度的保障(ナショナル・ミニマムの保障)、所得再分配、生活と経済の安定化、社会的統合)、④社会保障財源
(2) 社会保障制度各論：①年金制度、②医療保険制度。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は現在の日本の社会保障制度を体系的に把握し、その現代的課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。
(1) 必要に応じて、外国の社会保障制度を取り上げ、日本の社会保障制度との相対比較を行う素養を身につける。
(2)社会保障制度の課題として取り上げられている様々なトピックスー社会保障費の「国民負担率増大抑制」論、「高齢化社会危機」論、「公的年金加入の損得」論などーを概観し、制度の課題について理解を深め、課題に対する解決策を考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲	大きな政府、小さい政府、社会保障制度審議会「50年勧告」、選別主義と普遍主義
2	社会保障制度の成立史	救貧法、産業革命、イギリスにおけるリベラルリフォーム、ビスマルクによる社会保障、『ベヴァリッジ報告』、恤救規則、救護法、生存権と朝日訴訟
3	社会的不平等の現状とその要因	社会階層、経済資本、文化資本、所得再分配制度、アファーマティブ・アクション
4	少子高齢化の現状と問題	平均寿命、産業構造の変化、核家族化、晩婚化、女性の社会進出
5	少子化と社会的支援	育児休業、育児給付、保育所、スウェーデンの少子化対策
6	育児支援策の問題と解決策	性別役割分業、労働時間の短縮、ファミリーフレンドリー企業
7	社会保障財政の現状と問題	社会保障給付費、国民負担率、「高齢化社会＝危機」論、「純負担」、社会保障制度への投資効果
8	年金制度の概要(1)	私的扶養の限界、近視眼性、市場の失敗、経済変動、2階建て方式、給付スライド、被保険者、保険料、国庫負担、保険料納付減免除制度、老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金
9	基礎年金制度の問題と解決策	無年金障害者問題、第三号被保険者問題、国民年金空洞化問題
10	年金制度の概要(2)	厚生年金被保険者、標準報酬、 老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金
11	厚生年金制度の問題と解決策	世代間の給付/保険料の倍率、積立方式、賦課方式、保険料固定方式
12	医療保険制度の概要	民間医療保険の限界、国民医療費、地域保険と職域保険療養の給付、現物給付、現金給付、公費負担医療、医療保険の財源
13	国健康保険制度の問題と解決策	国民健康保険の滞納の要因、国民健康保険制度の滞納対策(短期被保険証、資格証明書) 国民健康保険制度の抜本改革
14	高齢者医療の概要、および、その問題と解決策	前期高齢者医療、および、後期高齢者医療制度における現役世代の支援金負担、高齢世代の保険料負担
15	まとめ	ウーマンフレンドリーな政策、福祉国家の類型(E・アンデルセンによる福祉国家類型と日本の類型)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会保障関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会保障制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	授業内容に関わるミニレポート(400字以上、600字以内)に基づいて評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望ましい。また、社会保障の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会保障―論点・解説・展望(増補改訂版)』	木村敦編著／学文社／9784762017889／
『現代社会保障論―皆保障体制をめざして』	里見賢治／高菅出版／9784901793322／
『福祉社会：社会政策とその考え方(補訂3版)』	武川正吾／有斐閣／4641121192／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西）・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

情報リテラシーIII（SA） § 情報処理（SA）

13278

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門...(SB、SKと、同内容)
パソコンや携帯でもっと多彩な自己表現を行うために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工したり、ちょっとしたイラストを描き、コメントを付け一つの作品として発表をしていくために必要な基礎知識とスキルを学んでいきます。
画像処理には Adobe Photoshop、イラスト作成にはAdobe Illustrator、ホーム･ページ作成にはAdobe Goliveを用いる予定です。作品は、全世界に向けて発信をする予定です。
（時間の制約上、このクラスは画像処理とホームページ作成が中心となり、イラスト作成はほんの体験です。更にイラスト作成をしっかりやってみたい場合は、『イラスト作成入門』を受講してください。）
ホームページ作成を行うクラスの中では、「入門・初級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
イラスト作成の体験。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本（1）	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本（2）	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本（3）	合成、レタリング、その他
6	イラスト作成の体験	イラスト作成
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	課題：ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SB） § 情報処理（SB）

13282

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門...(SB、SKと、同内容)
パソコンや携帯でもっと多彩な自己表現を行うために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工したり、ちょっとしたイラストを描き、コメントを付け一つの作品として発表をしていくために必要な基礎知識とスキルを学んでいきます。
画像処理には Adobe Photoshop、イラスト作成にはAdobe Illustrator、ホーム･ページ作成にはAdobe Goliveを用いる予定です。作品は、全世界に向けて発信をする予定。
（時間の制約上、このクラスは画像処理とホームページ作成が中心となり、イラスト作成はほんの体験です。更にイラスト作成をしっかりやってみたい場合は、『イラスト作成入門』を受講してください。）
ホームページ作成を行うクラスの中では、「入門・初級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本（1）	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本（2）	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本（3）	合成、レタリング、その他
6	イラスト作成の体験	イラスト作成
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	課題：ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SC）　§　情報処理（SC）

13334

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力　[教科書pp. 2-20] ・度数分布表とヒストグラム　[『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97] ・要約統計量の算出　[教科書pp. 102-111]	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換　[教科書pp. 24-44] ・グラフと図　[教科書pp. 53-73]	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007051／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］：　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］：　http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SD） § 情報処理（SD）

13335

担当者名 / Instructor　破田野 智己

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義ではWorld Wide Wed(WWW)で自分の意見を発信するために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。そのために、Webページを記述する言語HTML（HyperText Markup Language）とHTMLを修飾する仕様CSS（Cascading Style Sheets）の記述法を学び、学内向けの個人サイト作成する。なお、Webサイト作成にはホームページ・ビルダーなどのサイト作成用のソフトは使わないので、注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・数ページからなるWebサイトを企画できる
・基本的なHTMLの文法を理解し、それに従ってHTMLファイルを記述できる
・基本的なスタイルシートの文法を理解し、それに従ってCSSファイルを記述できる
・既存のWebサイトを評価できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。
自分用のUSBメモリを持参すること。
なお、受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。
1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること（ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更）
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要の確認とコンピュータリテラシーについての知識確認	
2	既存のWebサイトを評価する	既存のWebサイトをチェックリストに従って評価する
3	Webページ制作のプロセスを知る	
4	各自のWebページサイトの企画を立てる	自分なりのテーマを見つけ、サイト作成の企画を行う
5	HTML入門基本ルール	基本的なHTMLのルールについて、サンプルファイルを利用しながら実習を行う
6	HTML入門基本的なHTMLタグ	いくつかのサンプルファイルを利用して、HTMLの書き方を身につける
7	スタイルシート入門	スタイルシートを使って、HTMLファイルの修飾を試す
8－14	個人Webサイト制作期間	自分のペースでサイト作成を行う
15	相互批評会	完成したサイトをお互いに評価しあう

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	インターネット上の様々な問題についての考察
平常点評価	80 %	Webサイト構築と毎回の課題提出

課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。積極的に課題に取り組むことが必要である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
HTMLとスタイルシートによる最新Webサイト作成術	／エクスナレッジ／9784767802503／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ユニバーサルHTML/XHTML	神崎正英／毎日コミュニケーションズ／9784839904548／

講義中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義用のWebサイト
http://www.ritsumei.ac.jp/~ytt06067/

その他 / Others

情報リテラシーIII（SE） §　情報処理（SE）

13279

担当者名 / Instructor　破田野 智己

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、C言語によるプログラミングの基本を解説する。対象者としては、プログラミングに興味があるものの「難しそうだ」というイメージから二の足を踏んでいる人や、他のプログラミング言語を少し学んだが、やはりC言語も知っておきたいという人を想定している。このため講義では、実際にC言語を使ったプログラミングを実習するだけではなく、C言語の特徴やしくみ、コンピュータの制御方法などについても解説を行なう。とはいえ難しい数式などは使わず、なるべく平易に解説を行なうので、特別な知識は必要としない。なお、授業の最後には課題を出して、その回の内容を習得できたかどうかをチェックする（これを実施しない回もある）。また、これに加えて、チャレンジ問題（評価に加点するが、提出は自由）を出題する場合もある。

到達目標 / Attainment Objectives

C言語を使った初歩的なプログラミングを行えるようになることを目指す。また授業を通じて、C言語とは何なのか、他者に簡単な説明ができる程度の知識を得ることも目標となる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特別な知識は必要ないが、パソコンに親しんでいることが最低条件となる。「親しんでいる」ことの目安は以下の通りであり、どれかひとつでも当てはまらないものがあれば受講しないことをお勧めする。

・自分のIDとパスワードを知っており、それを使って学校のパソコンを使ったことが多数回ある
・手元をあまり見ずに文字を入力できる。もしくは、今から練習するつもりがある。
・「“教材フォルダ”を開いて、“hatanoフォルダ”の中にある“test.c”をデスクトップに引っ張り出して（ドラッグ&ドロップして）ください」と言われたら、大体何をすれば良いか分かる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	C言語を使ってみる	
2	文字を出す＆計算を行なう	
3	変数とデータ型	
4	コンピュータの仕組みとC言語（その1）	
5	配列を使った表現	
6	命令を繰り返す	
7	場合分けして命令する	
8	ファイルの読み書き	
9	様々な命令を組み合わせる	
10	関数を使う便利に使う	
11	コンピュータの仕組みとC言語（その2）	
12	コンピュータの仕組みとC言語（その3）	
13	最終課題を作る	
14	最終課題の中間発表	
15	最終課題の発表会	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業の終わりに出す課題は、理解してさえいれば授業時間内に終わるものであるが、理解が不足していれば宿題となる。また、チャレンジ問題は基本的に授業外に解くこととなる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の出席：15%（ただし出席が規定の日数に満たない場合には単位を認定しない）、授業後の課題：55%、最終課題：30%。また、以上にチャレンジ問題の成績を加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必須ではないが、データの持ち運び用に、USBメモリなどの記憶媒体を持参することが望ましい。

教科書 / Textbooks

使用しない

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
パソコンプログラミング入門以前	伊藤華子／毎日コミュニケーションズ／978483990723／プログラミング自体に慣れて

	いない人向けの本だが、ある程度知識のある人の復習用にもなる
積み上げ式でコツコツ学ぶ C言語スタートブック問題集	高田美樹／技術評論社／9784774133928／自学自習用だが、やや難しいので復習用に使うと良い
Cの絵本	アンク／翔泳社／9784798101033／絵本」を冠している通り、C言語のことを解り易く、かつ抵抗が少ないように概説してあるので、C言語のことを知りたくなってきた頃に読むと良い
C言語撃退講座	丸岡孝司／技術評論社／9784774135335／読み物として面白く、それでいて読後にはC言語に対する知識や理解が深まっているという怪著。C言語に多少なりとも慣れてきた時に読むと良い

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーIII（SF）　§　情報処理（SF）

13336

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『イラスト作成』入門…(SFと、同内容)
ホーム・ページや、ポスター、ドキュメントなど様々な用途に用いられるイラスト作成の基礎を学んでいきます。また必要な範囲で、デジカメなどの画像処理についても学びます。
作成した作品は、ホーム・ページ上などを用いて公開していきます。
イラスト作成には Adobe Illustrator、画像処理には Adobe PhotoShop、ホーム・ページ作成には、Adobe Goliveを用いる予定です。
（時間の制約上、イラスト作品の制作が中心となります。ホーム・ページ作成については、他の講座を受講してください。）

到達目標 / Attainment Objectives

画像ファイルの基礎。
イラスト作成の基礎。
画像処理の基礎。
ホームページ作成の体験。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい：パソコンの基礎	Windowsとその基礎知識、操作方法
2	画像ファイルの基礎	画像の形式、扱うソフト
3	イラスト作成の基礎（1）	ソフト操作の基礎
4	イラスト作成の基礎（2）	絵を描く（1）
5	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（2）各種効果（1）
6	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（3）各種効果（2）
7	課題（1）	課題作成
8	画像処理の基礎（1）	画像の取り込みと画像処理（1）
9	画像処理の基礎（2）	画像の取り込みと画像処理（2）
10	イラスト作成の基礎（7）＋ホーム・ページ作成の基礎	処理画像との合成など＋ホーム・ページ作成の基礎
11	課題（2）－1	課題作成
12	課題（2）－2	課題作成
13	課題（2）－3	課題作成
14	発表と評価（1）	作品の発表とその評価
15	発表と評価（2）	作品の発表とその評価＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題作成など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、プリントなどを配布予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SG）　§　情報処理（SG）

13307

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『JavaScriptによる動くホーム・ページ作成』入門
「ユビキタス社会」においてよりパワフルに自己表現をしコミュニケーションを行うために、もう一歩進んだWebページ（ホーム・ページ）作りを目指します。
ソフトを用いず、基本であるいわゆるタグ書きをし、様々な「動き」を実現できるJavaScriptの基本を学んでいきます。
Webページ（ホーム・ページ）作成を行うクラスの中では、「中級から上級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

情報倫理の習得。
Webページの構造の理解。
HTML（タグ書き）を用いたWebページ作成方法。
JavaScriptの基本。
プレゼンテーションとコミュニケーション能力の向上。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション、Windowsおさらい、情報処理	Windowsとその基礎知識、情報処理とは
2	情報倫理とネットワークの基礎知識	「インターネット」、「ホーム・ページ」、NET、ネチケット、著作権
3	HTMLの基本1	Webページ、ソース、タグ
4	HTMLの基本2	タグの基本
5	JavaScriptの基本1	HTMLとJavaScriptの関係
6	JavaScriptの基本2	JavaScript、関数、実行
7	サンプル作成1	JavaScriptのサンプル作成
8	サンプル作成2	JavaScriptのサンプル作成
9	サイト作成1	オリジナル・サイトの設計
10	サイト作成2	オリジナル・サイトの作成
11	サイト作成3	中間チェック
12	サイト作成4	公開と修正
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	サイト、プレゼン、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後の作品発表及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SH）　§　情報処理（SH）

15512

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合演習』...(SNクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編です。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでいきます。また、ビジネスにおいて多用されるMicrosoft Excelの実践的応用方法についても学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい（1）	パソコンの基礎知識
2	おさらい（2）	Microsoft Wordのポイント
3	イラスト作成の基礎（1）	Microsoft Excelのポイント（1）
4	おさらい（4）	Microsoft Excelのポイント（2）
5	おさらい（5）	NET及びOLEの利用
6	課題（1）	課題作成
7	中級（1）	Web上のデータ利用とレポート作成（1）
8	中級（2）	Web上のデータ利用とレポート作成（2）
9	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（1）
10	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（2）
11	課題（2）	課題作成
12	応用（1）	Microsoft Excelのその他の機能：データ・ベース機能
13	応用（2）	その他のソフトとの連携
14	最終課題－1	課題作成
15	最終課題－2	課題作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SI） §　情報処理（SI）

15546

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『プログラミング入門』
パソコン上の全ての機能は、プログラムによって提供されています。そのプログラム作成の最初歩を、簡単なゲームなどを学んでいきます。同時に、プログラミングに於いて大切な思考と発想も身につけていきます。
なお、プログラミング言語としては比較的初心者にも親しみやすい、Microsoft Visual Basicを用いる予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラムの役割の理解。
プログラミングの基礎の理解。
プログラミングの基礎的な思考と発想の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション、Windowsおさらい	Windowsとその基礎知識、基本操作
2	アプリケーション・ソフトとプログラミング	OSとアプリケーション・ソフト、プログラミング、Visual Basic
3	プログラミング演習1	Hello World!! :.Visual Basicの基本操作
4	プログラミング演習2	Peace：アニメーションの基本1、移動によるアニメーション、条件、柔軟性
5	プログラミング演習3	Wink：アニメーションの基本2、入れ替えによるアニメーション、シンプルさ
6	プログラミング演習4	Wink：アニメーションの基本2、入れ替えによるアニメーション、シンプルさ
7	プログラミング演習5	Calc：簡単な計算、予期しない結果への対処
8	ゲーム・プログラミング演習1	クリックゲーム（1）：移動と乱数
9	ゲーム・プログラミング演習2	クリックゲーム（2）：点数と制限時間
10	ゲーム・プログラミング演習3	スロット（1）：スピンとストップ
11	ゲーム・プログラミング演習4	スロット（2）：フィーバーの判定
12	ゲーム・プログラミング演習5	スロット（3）：メダルの制御
13	レポート課題作成1	オリジナル・ゲーム作成。
14	レポート課題作成2	オリジナル・ゲーム作成。
15	レポート課題作成3	オリジナル・ゲーム作成。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	レポート課題ほか。
平常点評価	40 %	日常のプログラミング、実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『まなぶ・おしえるプログラミング〔まなぶ編〕』　　上出　浩／ふくろう出版／4-434-04018-9／

上記の他、必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SJ）　§　情報処理（SJ）

15599

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『HTMLによるホーム・ページ作成』入門…(SDクラスと、同内容)。。。HTML入門
ホーム・ページやブログ、携帯用のページなど、Web上の様々なサービスやコンテンツはHTMLと呼ばれるものを基礎に展開している。このHTMLの仕組みを理解し、一歩進んだWeb活用を目指していく。実際に、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を用いて、ホーム・ページを作成し全世界に向けて公開する。
なお、本講座は初心者向けホーム・ページ作成講座の中で、『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門の次のレベルである。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識、ネチケット
2	HTMLの基本（1）	WWWとHTML、タグ
3	HTMLの基本（2）	WWWとHTML、タグ
4	HTMLの基本（3）	WWWとHTML、タグ
5	画像処理	基本的な画像形式と画像処理
6	HTMLの基本（5）とCSS（1）	WWWとHTML、タグ、スタイルシート
7	HTMLの基本（6）とCSS(2)	WWWとHTML、タグ、スタイルシート
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	課題：ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	講義中のチェックなど。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要。

教科書 / Textbooks

必要に応じ講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ講義中に紹介する。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SK）　§　情報処理（SK）

15600

担当者名 / Instructor　宮浦 崇

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門...(SA、SBと、同内容)
パソコンや携帯でもっと多彩な自己表現を行うために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工したり、ちょっとしたイラストを描き、コメントを付け一つの作品として発表をしていくために必要な基礎知識とスキルを学んでいきます。
画像処理には Adobe Photoshop、イラスト作成にはAdobe Illustrator、他にホーム･ページ作成支援ソフトを用いる予定です。作品は、全世界に向けて発信をする予定です。
（時間の制約上、このクラスは画像処理とホームページ作成が中心となり、イラスト作成はほんの体験です。更にイラスト作成をしっかりやってみたい場合は、『イラスト作成入門』を受講してください。）
ホームページ作成を行うクラスの中では、「入門・初級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
イラスト作成の体験。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本（1）	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本（2）	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本（3）	合成、レタリング、その他
6	イラスト作成の体験	イラスト作成
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）	作品発表と採点

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SL） § 情報処理（SL）

15601

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Excel発展（関数とデータベース）』
Excelの基礎知識をベースに、より発展的な利用を考えていきます。
このクラスでは、基本的な関数を学んだ後、Excelのもう一つの機能である、データベース機能を、出来る限り実践的に学んでいきます。情報リテラシで学んだ Excelの表計算機能と本講義で学ぶデータベース機能を習得することで、Excelをよりパワフルな総合ツールとして様々な場面で活用することが可能となります。
本講義修了で、Excelの中級者になることが出来ます。

到達目標 / Attainment Objectives

Excelの基礎の習得。
基本的な関数の習得。
データベース機能の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等以上のスキル・レベル。
なお、情報リテラシーIII（SH,SN)「Officeソフト総合演習」の修了後、受講すると理解しやすくなります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Excelの基本のおさらい	セル、シート、表、グラフ、関数、絶対参照
2	Excelの基本のチェック	
3	Excelの基本的な関数	sum, average, max, min, count, ifなど
4	Excelの便利な関数	日付関数、文字列関数
5	データ・ベースとは	データとデータ・ベース、データ・ベースの設計
6	データ・ベース・ツール1	並び替え
7	データ・ベース・ツール2	オートフィルタ
8	データ・ベース・ツール3	フォーム・集計
9	データ・ベース・ツール4	ピボット・テーブル
10	データ・ベース関数1	検索
11	データ・ベース関数2	その他
12	データ・ベース作成演習1	テーマと設計
13	データ・ベース作成演習2	作成と処理
14	最終課題（1）	課題作成
15	最終課題（1）	課題作成とまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題による評価
平常点評価	50 %	講義中の課題ほか 実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講までに、Windows及びExcelの基礎を復習すると受講しやすくなります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SM）　§　情報処理（SM）

15602

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『イラスト作成』入門…(SMと、同内容)
ホーム・ページや、ポスター、ドキュメントなど様々な用途に用いられるイラスト作成の基礎を学んでいきます。また必要な範囲で、デジカメなどの画像処理についても学びます。
作成した作品は、ホーム・ページ上などを用いて公開していきます。
イラスト作成には Adobe Illustrator、画像処理には Adobe PhotoShop、ホーム・ページ作成には、Adobe Goliveを用いる予定です。
（時間の制約上、イラスト作品の制作が中心となります。ホーム・ページ作成については、他の講座を受講してください。）

到達目標 / Attainment Objectives

画像ファイルの基礎。
イラスト作成の基礎。
画像処理の基礎。
ホームページ作成の体験。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい：パソコンの基礎	Windowsとその基礎知識、操作方法
2	画像ファイルの基礎	画像の形式、扱うソフト
3	イラスト作成の基礎（1）	ソフト操作の基礎
4	イラスト作成の基礎（2）	絵を描く（1）
5	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（2）各種効果（1）
6	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（3）各種効果（2）
7	課題（1）	課題作成
8	画像処理の基礎（1）	画像の取り込みと画像処理（1）
9	画像処理の基礎（2）	画像の取り込みと画像処理（2）
10	イラスト作成の基礎（7）＋ホーム・ページ作成の基礎	処理画像との合成など＋ホーム・ページ作成の基礎
11	課題（2）－1	課題作成
12	課題（2）－2	課題作成
13	課題（2）－3	課題作成
14	発表と評価（1）	作品の発表とその評価
15	発表と評価（2）	作品の発表とその評価＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題作成など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SN）　§　情報処理（SN）

13367

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合演習』...(SHクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編です。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでいきます。また、ビジネスにおいて多用されるMicrosoft Excelの実践的応用方法についても学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい（1）	パソコンの基礎知識
2	おさらい（2）	Microsoft Wordのポイント
3	おさらい（3）	Microsoft Excelのポイント（1）
4	おさらい（4）	Microsoft Excelのポイント（2）
5	おさらい（5）	NET及びOLEの利用
6	課題（1）	課題作成
7	中級（1）	Web上のデータ利用とレポート作成（1）
8	中級（2）	Web上のデータ利用とレポート作成（2）
9	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（1）
10	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（2）
11	課題（2）	課題作成
12	応用（1）	Microsoft Excelのその他の機能：データ・ベース機能
13	応用（2）	その他のソフトとの連携
14	最終課題－1	課題作成
15	最終課題－2	課題作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

心理学（S） § 心理学（SG） § 心理学I（S） § 心理学I（SG）

15571

担当者名 / Instructor　内藤 みちよ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間とその行動の心理学的理解への導入となるべく、心理学の様々な領域を紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

心理学的アプローチを学ぶことで、より包括的かつ実践的な人間や社会、そして自己理解が深められること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	心理学とは何か？その歴史と現在 ～「常識的」心理学のウソ？ホント？
2	人間の心理学的理解①	感覚・知覚と生理学的基礎 ～脳がわかれば心がわかる？
3	人間の心理学的理解②	記憶と忘却 ～さまざまな記憶の形
4	人間の心理学的理解③	条件づけと学習 ～行動の形成と変容
5	人間の心理学的理解④	欲求・動機付け・感情 ～人を動かすものは何か？
6	人間の心理学的理解⑤	知能・人格 ～パーソナリティ理論、個人差
7	人間の心理学的理解⑥	社会的行動 ～さまざまな集団の形と集団力動
8	人間の成長・発達とライフサイクル①	乳幼児・児童期
9	人間の成長・発達とライフサイクル②	青年期
10	人間の成長・発達とライフサイクル③	成人・老年期
11	心理学的援助の方法①	適応とは？障害の心理学的理解
12	心理学的援助の方法②	心理検査とアセスメント
13	心理学的援助の方法③	心理療法
14	心理学的援助の方法④	コミュニティ心理学的アプローチと危機介入
15	まとめ	心理学とは何か？ ～学んだことの振り返り

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	全体の講義を通して理解した心理学的アプローチ方に基づき、所与のテーマ（選択）についての論述を課す。心理学的アプローチとその応用への理解度を問う。
平常点評価	60 %	毎回、授業の終わりにアンケートを実施し、理解度と参加度を評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回、授業でレジュメや参考資料の配布や、セルフ・チェックを含むアンケートを実施するので、授業参加は重要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GA） § 専門特殊講義（SR） § 地域活性化ボランティア（JA） § 地域活性化ボランティア（PA） 56673 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TA） § 特殊講義（自由選択）1（V1） § 特殊講義（自由選択）（V1） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CA）

担当者名 / Instructor　中根 智子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GB） § 専門特殊講義（SX） § 地域活性化ボランティア（JB） § 地域活性化ボランティア（PB） 56681 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TB） § 特殊講義（自由選択）1（V2） § 特殊講義（自由選択）（V2） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CB）

担当者名 / Instructor　小田切 康彦　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GC） § 専門特殊講義（SY） § 地域活性化ボランティア（JC） § 地域活性化ボランティア（PC，S） 56689 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TC） § 特殊講義（自由選択）1（V3） § 特殊講義（自由選択）（V3） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CC）

担当者名 / Instructor　寺村 安道　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GD） § 専門特殊講義（S1） § 地域活性化ボランティア（JD） § 地域活性化ボランティア（PD） 56697 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TD） § 特殊講義（自由選択）1（V4） § 特殊講義（自由選択）（V4） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CD）

担当者名 / Instructor　中根 智子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GE） § 専門特殊講義（S2） § 地域活性化ボランティア（JE） § 地域活性化ボランティア（PE） 56705 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TE） § 特殊講義（自由選択）1（V5） § 特殊講義（自由選択）（V5） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CE）

担当者名 / Instructor　寺村 安道　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GF） § 専門特殊講義（S3） § 地域活性化ボランティア（JF） § 地域活性化ボランティア（PF） 56713 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TF） § 特殊講義（自由選択）1（V6） § 特殊講義（自由選択）（V6） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CF）

担当者名 / Instructor　中根 智子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GG） § 専門特殊講義（S4） § 地域活性化ボランティア（JG） § 地域活性化ボランティア（PG） 56721 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TG） § 特殊講義（自由選択）1（V7） § 特殊講義（自由選択）（V7） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CG）

担当者名 / Instructor　大谷 洋士、角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GH） § 専門特殊講義（S5） § 地域活性化ボランティア（JH） § 地域活性化ボランティア（PH） 56729 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TH） § 特殊講義（自由選択）1（V8） § 特殊講義（自由選択）（V8） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CH）

担当者名 / Instructor　上田 洋平、角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GI） § 専門特殊講義（S6） § 地域活性化ボランティア（JI） § 地域活性化ボランティア（PI） § 56737 殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TI） § 特殊講義（自由選択）1（V9） § 特殊講義（自由選択）（V9） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CI）

担当者名 / Instructor　角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GJ） § 専門特殊講義（S7） § 地域活性化ボランティア（JJ） § 地域活性化ボランティア（PJ） 56745 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TJ） § 特殊講義（自由選択）1（W1） § 特殊講義（自由選択）（W1） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CJ）

担当者名 / Instructor　角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域社会論（S）

15563

担当者名 / Instructor　中川 勝雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要は、地域社会の歴史的展開を概観したうえで、社会と人間生活との相互関係を解明しうるような事象に焦点をあて、全体社会や人間にとっての地域社会の位置と意義について考察しようとするものである。授業内容の基本的な柱は、地域社会論の成り立ち、前近代・近代・現代の地域社会、日本の地域社会の歴史的展開、現代の地域社会の重層構造、新しい地域社会形成、などである。

到達目標 / Attainment Objectives

全体社会や諸個人にとって地域社会の位置と意義が的確に理解でき、地域社会の矛盾あるいは課題を解決しうる素養を習得すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習Ⅰ・Ⅱ、コア科目（現代と社会、現代とメデイア、人間と文化、現代と福祉）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	地域社会論（学）とは何か　その1	農村社会学、都市社会学、全般的都市化
2回目	地域社会学とは何か　その2	地域社会概念、地域社会の重層化
3回目	地域社会論（学）とは何か　その3	地域社会分析の基本視点、資本、住民、地域集団、地方自治体
4回目	地域社会の歴史的展開　その1	共同体としての前近代
5回目	地域社会の歴史的展開　その2	産業都市としての近代、現代の地域社会
6回目	日本における地域社会の歴史的発展の特質　その1	村落共同体、特殊な近代的地域社会の成立
7回目	日本における地域社会の歴史的発展の特質　その2	現代的地域社会の成立
8回目	日本における地域社会の歴史的発展の特質　その3	地域開発政策、企業誘致、地域社会変動、地方行政の広域化
9回目	現代社会における地域社会の構成　その1	地域社会の重層構造、市町村合併の歴史的展開
10回目	現代社会における地域社会の構成　その2	生活の諸側面、生活様式、農村的生活様式、都市的生活様式、共同社会的生活様式
11回目	現代社会における地域社会の構成　その3	生活の社会化・高度化と公共政策、地方分権改革と今後の課題
12回目	現代社会における地域社会の構成　その4	地域社会分析の意味の変化、地域社会分析の有効性、地域社会研究の課題と構成
13回目	新しい地域社会形成の取り組み　その1	村落共同体の現代的再編（行政と住民のパートナーシップによる村づくり）
14回目	新しい地域社会形成の取り組み　その2	ネットワーク型存立形態を有する沖縄村落
15回目	新しい地域社会形成の取り組み　その3	地域福祉センターとしてのNPO活動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

是非読んでほしい参考文献です。

青井和夫監修/蓮見音彦編集『地域社会学』サイエンス社、1991年

佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の社会と人間』法律文化社、1996年

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	地域社会についてのリアルな理解ができているかどうかで評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

居住地での地域生活についての実態に関心を向けること、授業中の私語は厳禁

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
政策型思考と政治	松下圭一／東大出版会／／地域社会を理解するのに有益である
地域再生の経済学	神野直彦／中央公論社／／現代地域社会理解の基本的視点を示している

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間発達論（S）

15533

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「人間らしい発達とは何か」という問いをメインテーマとしながら，人間の生涯にわたる発達のプロセスを発達の時期ごとに概観する。その際、人格の発達に焦点を当てるが，それと同時に，認識や感情といった発達の諸相についても、可能な範囲で触れることとしたい。
それに加えて，人間発達に関わる近年の理論的発展についても触れる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

①人間の発達に関して，基本的な知識を得ること。
②人間発達に関わる知識を，福祉や教育の観点と結びつけて理解を深めること
③これらを基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の進め方についての説明」および「発達とは何か」	機能連関，発達権
第2回	人間発達と進化	進化，遺伝と環境，人間性
第3回	胎生期の発達的特徴	受精，着床，胎芽期，胎児期
第4回	乳児期前半の発達的特徴	周産期，新生児期，原始反射，顔の知覚，姿勢
第5回	乳児期後半の発達的特徴	共同注意，三項関係，歩行
第6回	幼児期前半の発達的特徴	言葉の始まり，表象，自我，第一反抗期
第7回	幼児期後半の発達的特徴	認知世界の広がり，素朴理論，自己主張と自己抑制
第8回	児童期前半の発達的特徴	学校への移行，勤勉性，具体的操作
第9回	児童期後半の発達的特徴	ギャング・エイジ，9，10歳の発達の節，仲間関係と自己意識
第10回	青年期の発達的特徴	性的成熟，第二反抗期，アイデンティティ，自立と依存
第11回	成人期の発達的特徴	労働，結婚，親になること
第12回	老年期の発達的特徴	子どもの巣立ち，関係性の変容，衰退，英知
第13回	人間発達理解の新しい展開①：発達の可塑性	経験の意味，進化生物学，遅れからの回復，
第14回	人間発達理解の新しい展開②：知的発達を捉え直す	IQ，経験知，分析的知能，実践的知能
第15回	人間発達理解の新しい展開③：英知に向かう発達を捉える	英知，人生回顧，知識，知能，越境，意志

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	学習内容に関する基本的な理解があること，ならびに，そうした理解に基づく妥当な考察ができること。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代心理学入門2発達心理学	無藤隆 他／岩波書店／4-00-003922-9／講義の一部で言及する
生涯発達のダイナミズム：知の多様性 生き方の可塑性	鈴木忠／東京大学出版会／9784130133012／講義の一部で言及する
家族の関わりから考える生涯発達心理学	尾形和男 他／北大路書房／4-7628-2520-4／理解を深めるために
ライフサイクル、その完結	E. H. エリクソン 他／みすず書房／4-6220-3967-2／理解を深めるために
1歳児の発達診断入門	田中昌人／大月書店／4-2724-0361-3 ／理解を深めるために

上記以外にも，参考となる文献は，随時授業で紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

フィランソロピィ論（S）

15569

担当者名 / Instructor　松田 弘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

フィランソロピィとは以前は「企業等の慈善活動」や「ボランティア活動」のことでしたが、現在では「企業等の社会的責任」すなわち「CSR論」で語られます。この講義は会社人間OBが語る「現場の企業等の社会的責任論」。現役「淡海フィランスロピィネット」設立発起人が担当します。実学の「フィランソロピィ論」ですから直近の企業等の実例を駆使して学生諸君と意見を交換します。

到達目標 / Attainment Objectives

- ○ フィランソロピィの概念を実学として説明できる。
- ○ 昨今のフィランソロピィを歴史的な背景や経緯から論述する。
- ○ フィランソロピィからCSRについて言及ができる。
- ○ 資本市場においてのフィランソロピィやCSRを社会学的な立場から意見を述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO論とかボランティア論など

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義入門編	授業の概要説明。シラバスの確認。講義受講エントリー。
第2回	講義入門編	フィランソロピィの単純実例を学ぶ。 社会貢献活動の基本的な考え方。
第3回	講義入門編	さまざまなフィランソロピィ事例の対象分野と探索方法。 第1回宿題発表日。社会貢献活動の形態とは。
第4回	基礎編	フィランソロピィやメセナの歴史と老舗の家訓から社是・社訓から学ぶ。
第5回	基礎編	第1回宿題のオーディションと自己評価。フィランソロピィ対象分野再確認。
第6回	基礎編	フィランソロピィ等の実態統計調査と活動形態から課題を考察。
第7回	中級編	フィランソロピィ論からCSR論への展開。第2回宿題発表日。
第8回	中級編	CSR事例具体的の検証。NPOと企業のかかわり。
第9回	中級編	第2回宿題のオーディションと自己評価。攻めのCSR・フィランソロピィ。
第10回	応用編	企業等のCSR報告書等を研究。フィランソロピィ広報とは。
第11回	応用編	社会貢献を推進するための体制づくり。 第3回宿題発表日。
第12回	専門編	CSR論からSRIを研究。資本市場からフィランソロピィを検証する。
第13回	専門編	第3回宿題オデーィション。 CSR報告書などのこれからの課題総括。
第14回	専門編	さまざまな社会貢献活動評価の方法。CSR・フィランソロピィに関する有識者や企業経営者の所見。
第15回	総括（講義到達目標の確認と自己評価）	社会貢献活動の4つの新たなる視点。定期試験諸注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

第3回以降の講義から教科書の予習又は復習が必要になります。講義開始後30分以内の入場を要求します。講義開始30分以降から集中的に質問をすることがあります。不在の学生は遅刻又は欠席と理解することがあります。学生からの質問は出席カード又はコミュニケーションペーパを使用します。質問は講義中に回答するケースと個人的に回答をするケースがあります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	基本概念や語句の理解を前提に、現実のフィランソロピィやCSRに対する真摯な講義出席での勉学を試す問題を出す。答案内容は理論ではなく実学としての事例であるか否かを重点評価します。

平常点評価	50 %	講義中3回は宿題を出します。その内容評価で平常点評価をします。講義出席は所定日数の3分の2以上の授業に出席して、指示した宿題やレポートを提出した学生のみを成績評価の対象とする。宿題提出皆無と講義出席回数が3分2未満の学生は単位認定はしません

講義中は特に質問をして講義秩序の維持及び、出席確認をすることがある。
教科書は講義受講者は必ず購入を条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実学を基調としますから、就職活動や体育関係行事などで講義欠席が多い学生にはこの講義は不向きです。
時事テーマを多用するから、新聞やメディア報道を常時注意してください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
CSR時代の社会貢献活動	日本経団連社会貢献委員会／日本経団連出版／978-4-8185-2833-8／

教科書の在庫状況によって教科書を変更することもあります。教科書以外の教材は毎回講義で配布する。講義資料（レジュメ）の在庫は1週間前のものだけを在庫確保しておきます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
CSR入門	岡本亮二／日経文庫／4-532-11040-8／
社会責任投資の基礎知識	秋山をね・菱山隆二／岩波アクティブ新書／4-00-700108-1／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

宿題の代理虚偽作成、出席カードに不正があれば、単位認定で処分することがあります。宿題指示日はゲストスピーカーの招聘日程の都合で変更することがある。

文化理論 (S)

15557

担当者名 / Instructor　森重 拓三

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「文化を生きる」という観点から、代表的とおもわれる「文化理論」を紹介・整理し、「生きること」と「文化」との関わりを「社会学的」に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

どのような関心から「文化」の問題に出会うのか。「生の形式」としての「文化」に関する問題を、1.文学、2.文化人類学、3.精神分析、4.文化社会学などの様々な切り口からみることで、「生活のなかの文化」を捉える視点を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入　全体構想の提示	
第2回	文化と文化理論の整理軸①　ー文化の語り方ー	学者の語り方 / 小説家の語り方 / 想像力の問題
第3回	文化と文化理論の整理軸②　ー文化の採集の仕方ー	他文化の採集 / 自文化の採集 / インタビュー、民話など
第4回	文化と文化理論の定義　ー文化の「語り方」「採集の仕方」を基準にした整理ー	「文化」と「文化理論」と「文化理論の理解」の関係
第5回	機能主義的な文化理論　ー『西太平洋の遠洋航海者』(B.マリノフスキー著)を読むー	クラの交換・呪術(トロブリアンド諸島のマッシム人) / 装置としての文化 / 有機的全体の仮説
第6回	構造主義的な文化理論(1)　ー構造言語学(F.d.ソシュール)から構造人類学へー	言語体系と言語行為 / 言語記号の内容面と表現面 / 恣意性と必然性
第7回	構造主義的な文化理論(2)　ー『悲しき熱帯』(C.レヴィ=ストロース著)を読むー	身体塗飾と村落形態(ブラジルのインディオ) / 非対称と対称の紋様 / 階級と半族
第8回	解釈学的な文化理論(1)　ー解釈とはー	意味措定・解釈された生活 / テキスト / ローカル・ノレッジ
第9回	解釈学的な文化理論(2)　ー「バリの闘鶏に関するノート」(C.ギアーツ)を読むー	闘鶏(バリ島のバリ人) / 闘鶏の解釈(地位関係の代理闘争) / 解釈図式の問題(誰の解釈か)
第10回	小テスト	
第11回	言語論的な文化理論(1)　ー「甘え」との向き合い方ー	「甘え」の発見 / 「甘え」に関する「ことば」 / 「甘え」の社会関係
第12回	言語論的な文化理論(2)　ー『「甘え」の構造』(土居健郎著)を読むー	「甘え」 の体験 / 言語 / 経験
第13回	言語論的な文化理論(3)　ー『「いき」の構造』(九鬼周造著)を読むー	「いき」の内包的構造(媚態・意気地・諦め) / 「いき」の外延的構造(類似概念との整理)
第14回	文化理論の基礎づけ(1)ー文化の問題を「生の形式」としての言語から考えるー	文化装置としての言語 / 非言語的行為 / 言語的行為
第15回	文化理論の基礎づけ(2)　ー文化の基礎概念(定義、採集、観察、解釈、機能、構造等)の整理ー	言語、行為、意味 / 生の形式 / 生の内容 / 私的体験 / 間主観的体験

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	文化研究の理論と方法、基礎概念などの学習到達度をテスト
平常点評価	20 %	講義で学んだテーマを具体的事例にどのように応用し、また学問的な方法によって適切に言い表すことができるかをテストします

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教室で指示します

教科書 / Textbooks

教科書は未定。講義レジュメを教材として用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
物語のなかの社会とアイデンティティ	佐藤嘉一／晃洋書房／／
社会的世界の意味構成	アルフレッド・シュッツ／木鐸社／／
社会学の根本概念	マックス･ヴェーバー／岩波書店／／
悲しき熱帯	レヴィ＝ストロース／中央公論社／／
「甘え」の構造	土居健郎／弘文堂／／

以下の文献を読むことを薦めます。
佐藤嘉一『物語のなかの社会とアイデンティティ』
M.ウェーバー『社会学の根本概念』

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ボランティア入門 (S)

15572

担当者名 / Instructor　中根 智子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティア活動や社会貢献活動、非営利活動などの実践的事例を紹介しつつ、そのコンセプトや社会的意義を学びます。さらに、NPO学会やボランティア学会の研究成果を交えながら、実践科学としてのボランティア活動の現状と課題について考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動に関する主要コンセプトを理解し、ボランティアの視点から社会を概観する視座を獲得することが目標です。ただし、ボランティアについて知識を深めるだけでなく、実際のボランティア活動から学ぶ姿勢も重視します。ボランティアを通して社会・他者・自分自身を見つめ直す姿勢が大切です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域参加活動入門ほか

科目の履修だけでなく、普段から新聞記事を読みこなし、ボランティアに関する動向を把握するなどの情報収集を心掛けると授業の理解も深まります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション－講義の進め方、受講のルール、目標などについて－	ボランティア・イメージ、ボランティア概論
2	現代の社会課題とボランティア活動の領域①	災害援助・まちづくりとボランティア
3	現代の社会課題とボランティア活動の領域②	環境問題とボランティア
4	現代の社会課題とボランティア活動の領域③	国際協力と国際ボランティア
5	現代の社会課題とボランティア活動の領域④	国際難民支援とボランティア
6	現代の社会課題とボランティア活動の領域⑤	福祉とボランティア
7	現代の社会課題とボランティア活動の領域⑥	ボランティアの教育への導入
8	中間テスト	希望者によるプレゼンテーション(1)
9	ボランティアの思想	市民的公共性
10	ボランタリーな活動の歴史的背景	地縁型相互扶助、宗教的篤志活動、企業の社会貢献活動、市民(公益)活動
11	ボランティア団体の組織と運営	ボランティアマネジメント
12	行政の変革とボランティア	市民社会、パートナーシップ、地域社会
13	ボランティアニーズの発見と行動	ボランティアコーディネーション
14	諸外国のボランティア動向	意識調査結果の比較
15	期末テスト	希望者によるプレゼンテーション(2)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

積極的な授業外学習を評価します。ボランティア活動経験から学んだことや自主的なリサーチ・フィールドワークの報告をまとめて提出することで、成績に加算します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	第8講に中間テスト(30点)、第15講に期末テスト(40点)を実施します。(70%) 毎回の授業でコミュニケーションペーパーを配布し、授業の感想や質問を記入してもらいます(30点)。(30%) ＊その他: 希望者は、ボランティア活動経験から学んだことや自主的なリサーチ・フィールドワークの報告をまとめて提出してください。また、提出者の中からさらに希望する学生は、授業中に成果をプレゼンテーション形式で発表してください。(授業時間が限られているため、プレゼンテーション希望者が多い場合は、提出された報告書の内容から教員が選考します。)これらは、上記の100点にプラスしてさらに成績に加算します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導（1A）

14464

担当者名 / Instructor　角田 将士

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

33回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究（論文など）を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (1B)

14472

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (1C)

14484

担当者名 / Instructor　國廣 敏文

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (1D)

14474

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (1E)

14475

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (1F)

14500

担当者名 / Instructor　中西 仁

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (1G)

14483

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (1H)

14507

担当者名 / Instructor　石本 幸良

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (2A)

14491

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (2B)

14476

担当者名 / Instructor　神保 哲生

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (2C)

14485

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (2D)

14465

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (2E)

14494

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (2F)

14467

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (2G)

14488

担当者名 / Instructor　松田 亜希

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (2H)

14463

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (2I)

14508

担当者名 / Instructor　市井 吉興、鈴木 隆

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (2J)

14522

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (3A)

14468

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (3B)

14473

担当者名 / Instructor　金井 淳二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (3C)

14495

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (3D)

14477

担当者名 / Instructor　佐々木 嬉代三

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (3E)

14486

担当者名 / Instructor　佐藤 春吉

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (3F)

14466

担当者名 / Instructor　高木 正朗　　単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (3G)

14504

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (3H)

14509

担当者名 / Instructor　森田 真樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (3I)

14510

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (4A)

14462

担当者名 / Instructor　荒木 穂積、石井 信子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (4B)

14469

担当者名 / Instructor　生田 正幸

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (4C)

14502

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (4D)

14503

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 4E

本文無し

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (4F)

14478

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (4G)

14496

担当者名 / Instructor　中川 勝雄

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5A)

14479

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5B)

14497

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5C)

14492

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5D)

14490

担当者名 / Instructor　小泉 秀昭

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5E)

14480

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒、筒井 淳也

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5F)

14498

担当者名 / Instructor　池田 知加

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5G)

14470

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5H)

14481

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5I)

14501

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5J)

14487

担当者名 / Instructor　村本 邦子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5K)

14482

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (6A)

14499

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (6B)

14471

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (6D)

14493

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (6E)

14505

担当者名 / Instructor　林 堅太郎

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 6F

本文無し

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 (5L)

14511

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。ここでは個人あるいは共同の研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文などの成果物の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)を提出する。
平常点評価	20 %	＊それぞれの卒業研究において確定される。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が特に要請されます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代と社会（SA）§　社会学（SG）

12749

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（山口）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減など、3）（高嶋）グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。

2）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念に関する理解力と教養を深めること。

3）グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、山口、高嶋　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と現代社会（山口）	
第7回	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本（山口）	
第8回	街づくりの課題・景観デザイン（山口）	
第9回	環境配慮型マーケティングとエコライフ（山口）	消費生活から発生する環境負荷
第10回	グローバル化と企業社会の変化（高嶋）	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任（CSR）、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化（高嶋）	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題―社会的不平等をどう考えるか―（高嶋）	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働―労働が多様化することの意味について―（高嶋）	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ （小澤、山口、高嶋　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4－7710－1592－0／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一／ミネルヴァ書房／4－623－03992－7／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

現代と社会（SB）

12750

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1)（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2)（山口）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減など、3)（高嶋）グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1)「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。

2)地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念に関する理解力と教養を深めること。

3)グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、山口、髙嶋　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と現代社会（山口）	
第7回	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本（山口）	
第8回	街づくりの課題・景観デザイン（山口）	
第9回	環境配慮型マーケティングとエコライフ（山口）	消費生活から発生する環境負荷
第10回	グローバル化と企業社会の変化（髙嶋）	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任（CSR）、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化（髙嶋）	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題―社会的不平等をどう考えるか―（髙嶋）	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働―労働が多様化することの意味について―（髙嶋）	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ （小澤、山口、髙嶋　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4－7710－1592－0／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一／ミネルヴァ書房／4－623－03992－7／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

現代と社会（SC）

12751

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（山口）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減など、3）（高嶋）グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。

2）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念に関する理解力と教養を深めること。

3）グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、山口、高嶋　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と現代社会（山口）	
第7回	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本（山口）	
第8回	街づくりの課題・景観デザイン（山口）	
第9回	環境配慮型マーケティングとエコライフ（山口）	消費生活から発生する環境負荷
第10回	グローバル化と企業社会の変化（高嶋）	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任（CSR）、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化（高嶋）	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題―社会的不平等をどう考えるか―（高嶋）	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働―労働が多様化することの意味について―（高嶋）	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ （小澤、山口、高嶋　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』　立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4－7710－1592－0／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一／ミネルヴァ書房／4－623－03992－7／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

現代と福祉（SA）　§　現代と福祉（SA）

11245

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・秋葉・鎮目が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

現代と福祉（SB）　§　現代と福祉（SB）

11246

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・秋葉・鎮目が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

現代と福祉（SC）　§　現代と福祉（SC）

11247

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・秋葉・鎮目が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

現代とメディア（SA）

12662

担当者名 / Instructor　筒井 淳也

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（筒井、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：筒井担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか？メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術の発明は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどう構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か？またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報化とは何か？：漠然と語れることが多い「情報化」について、基礎から説明する。	
9	情報化と政治・経済：具体的な社会的領域に対してメディアがどのように作用するのかを説明する。特に政治と経済の仕組みに注目し、メディアが政治と経済の領域に与える影響を理解する。	
10	情報化と社会的ネットワーク：同じく、対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、教育の位置づけなどその他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：インターネットは社会をどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか？また、その社会的な働きはどこにあり、何が問題になっているのか？	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	不定期に授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。

現代とメディア（SB）

12663

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（筒井、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：筒井担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか。メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術の発明は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどう構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か。またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報化とは何か？：漠然と語れることが多い「情報化」について、基礎から説明する。	
9	情報化と政治・経済：具体的な社会的領域に対してメディアがどのように作用するのかを説明する。特に政治と経済の仕組みに注目し、メディアが政治と経済の領域に与える影響を理解する。	
10	情報化と社会的ネットワーク：同じく、対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、教育の位置づけなどその他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：インターネットは社会をどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか？また、その社会的な働きはどこにあり、何が問題になっているのか？	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	不定期に授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。

現代とスポーツ（S）　§　人間と文化（S）

11422

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、08年9月の世界的同時不況のもとで、急変し、予断をもてない深刻な事態を招いている。つまり、「イベント・プロ・ビジネス」が主導する、グローバルな市場経済に翻弄される一方で、スポーツは健康つくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活文化として定着しつつある。「スポーツの価値観の多様化」といわれる現状を分析し、問題点を摘出しながら、「体育・スポーツ国際憲章」でしめされたスポーツ権の実現の方途を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは社会と切り離されて存在はしない。社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係を理解しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を理解し、それを打開していく方向性を考察することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」「スポーツと現代社会」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序章:	【スポーツ社会専攻】での学び、小テスト(クイズ形式)
第2回	序章	「習わなかった体育理論」「スポーツ体験」の対象化
第3回	第1章 「する」スポーツの思想	「ゲーム」内の世界　ゲームの「心構え」論　アマチュアリズムとナショナリズム
第4回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第1節 アマチュアリズムの崩壊 /冷戦体制の中の五輪 / ロス・五輪と「ユベロス」神話
第5回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第2節 プロスポーツとボーダレス化 /グローバリゼーション/スポーツ市場/国籍条項/アメリカナイゼーション
第6回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第3節 イベントビジネスとメデイア資本（文化帝国）/放映権/プロバビリテイ/テレ・メデアの介入
第7回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第4節 スポーツ文化のナショナリテイ /数量化と客観的判定/勝利至上主義とナショナリズム/非合理の美
第8回	第2章のまとめと小テスト	
第9回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節 増大するスポーツ要求 /「スポーツ世論調査」の変遷その1 スポーツの価値と多様性、
第10回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節 増大するスポーツ要求 /「スポーツ世論調査」の変遷その2 スポーツの価値と多様性、/ユネスコ「スポーツ国際憲章」から“スポーツと人権”
第11回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第2節 エリア・スクール・ビジネスの限界、「バブル」の後先、「宴」の後で
第12回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第3節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「総合型地域スポーツクラブ」の発足と展開
第13回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第4節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「スポーツNPO」とスポンサーシップの危うさ、/スポーツ事業と財務、プロのキャリア形成
第14回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第5節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「切り離される」スポーツ、マーケッテイングとマネッジメント: 小テスト
第15回	終章:「する」「見る」時代から「考える」「創る」時代へ	横浜Fマリノス事件から学ぶ/「プロ野球ストライキ」から学ぶ/スポーツ文化の担い手」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは指定しない。講義は章または節毎にまとめたレジュメによって展開する。レジュメは教室でのみ配布。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力
平常点評価	20 %	基礎的な用語・概念についての理解

出欠は取ります。ただし、点数化はしません。小テストをシラバスの予告週および予告なく2回行い、日常点として組み入れます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことは率直に質問すること。用語・概念を正確に理解すること。日々のスポーツ報道に目を配ること。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。講義は毎週、教室内でのみ配布されるﾚｼﾞｭﾒによって展開されます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ルールはなぜあるのだろう-スポーツから法を考える-	大村敦志／岩波ジュニア新書／／
「スポーツ･プロモーション論」	菊幸一･仲澤真／明和出版／／
「サッカーで燃える国・野球で儲ける国―スポーツ文化の経済史―」	シマンスキー・ジンバリスト／ダイヤモンド社／／

参考文献・資料はﾚｼﾞｭﾒの章末に掲載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目･専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

NPO・NGO論（S）

13284

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを1-2回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO——政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②——NGOでの職員の働き方を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係——「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として——	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係——アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として——	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO——地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から——	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度——1998年のNPO法成立の背景から——	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化——NPOの介護保険制度への参入を事例として——	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較——Linuxの成功から——	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発——パブリックリソースセンターの取り組みから——	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「F」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など
②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/

その他 / Others

家族社会学 (S)

13330

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、自分の家族関係を含む現代の家族変動の趨勢を客観化し、批判的に読み解くことを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	家族研究の課題	家族の定義
第2回	家族社会学史①	ライフサイクル　ライフコース　ライフスタイル
第3回	家族社会学史②	パーソンズ　近代家族　社会システム
第4回	「近代家族」以前の家族	伝統家族　直系家族　親族
第5回	「近代家族」の成立	アリエス、子ども、主婦、母性愛
第6回	日本における「近代家族」の成立	戸籍制度、専業主婦、企業戦士、性別役割分業、夫婦別姓
第7回	「近代家族」と結婚①	宮廷恋愛、恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー
第8回	「近代家族」と結婚②	未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望
第9回	「近代家族」の病理	デートDV、恋愛依存症、共依存
第10回	「近代家族」の病理②	閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待
第11回	「近代家族」のゆらぎ①　結婚をめぐる変化	離婚　再婚　同性婚、ドメスティック・パートナー法
第12回	「近代家族」のゆらぎ②　子育ての「社会化」	育児休業制度　パパ・クォータ制
第13回	「近代家族」のゆらぎ③　介護の「社会化」	介護保険制度、遠距離介護、男性介護者
第14回	「近代家族」のゆらぎ④　生殖技術	生殖技術、不妊
第15回	私たちがつくるこれからの家族	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事件、映画、小説といった家族に関するトピックスを意識的にチェックすること。講義の理解を深めるために、講義で関連する参考文献を適宜提示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
平常点評価	50 %	講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメについては、WebCTにおいて公開する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
迷走する家族	山田昌弘／有斐閣／4641173125 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

資源エネルギー論（S） § 環境技術論（S）

13372

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ライフスタイルと環境負荷の関係を問うものである。
よく知られているように、温暖化をくいとめるために必要な二酸化炭素の削減量は、現状の約60%と伝えられる。この量は、現状の省エネやリサイクル活動を積み重ねることで達成できるレベルをはるかに超え出ているように思われる。これを問題設定の出発点とする。
この問題を根本的に解決していくには、現今の生活スタイルを劇的に転換していく必要がある。基本的にはエネルギー消費を劇的に減らすことであるが、それが可能となるライフスタイルについては、さまざまな選択肢がある。この講義では、現今の技術システム、ライフスタイルがどのような環境負荷をもたらしているのかについて概説し、オルタナティブなライフスタイルを模索していく。

到達目標 / Attainment Objectives

1問題の概要（事実）をつかむこと
2問題を処理する論理の概要をつかむこと

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養の現代環境論をとっていると理解の助けになる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入　資源エネルギーの考え方	資源エネルギー
第2回	地球環境問題概説　1	温暖化
第3回	地球環境問題概観　2	公害論と地球環境問題
第4回	自然史の中の人間	進化　自然
第5回	資源とエネルギー1	エネルギー政策　電力発達史
第6回	資源とエネルギー2	化石燃料　資源寿命
第7回	原子力問題	原子力　放射能
第8回	再生可能エネルギー論1	風力発電　電力コスト
第9回	再生可能エネルギー2	太陽光発電　電力支援政策
第10回	交通体系とエネルギー消費	LRT
第11回	資源とリサイクル　1　概論	3R　消費生活
第12回	資源とリサイクル　2　石油とプラスティック	容器包装法　PET
第13回	資源とリサイクル　3　耐久消費財	家電リサイクル法　PSE法
第14回	資源とリサイクル　4　希少金属	タンタル
第15回	全体まとめ　日本の資源エネルギー政策	エネルギー政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理をよく理解すること

テキストがないので、欠席すると全体の流れがつかめなくなります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

なし

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『エネルギーと私たちの社会』	J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン／新評論／ISBN4-7948-0559-4／
『新・地球環境論』	和田武／創元社／ISBN4-422-40017-7／

随時追加で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中指示します。

その他 / Others

なし

環境保全論（S）

13362

担当者名 / Instructor　和田 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「地球温暖化を防止する持続可能な社会の構築」 20世紀後半以降、展開されてきた「物」と「エネルギー」の大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持続不可能な社会である。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例の分析に基づいて明らかにし、地球温暖化を防止し、持続可能な社会を構築するための条件を論じる。

到達目標 / Attainment Objectives

地球温暖化防止や、これまでの持続不可能な生産・消費システムの持続可能なものへの転換の国内外の取り組みについての理解を深め、転換するための方策について考察し、実践する力を身につける。さらに、自らの生き方のなかに環境保全的要素を導入し、地球温暖化防止と持続可能な社会構築の主体者として成長する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	地球温暖化問題の現状	大量生産消費システム、化石資源、地球環境問題、地球温暖化、温室効果ガス、気候変動、海面上昇、地球温暖化懐疑論
2	地球温暖化の未来予測	未来社モデル、CO2排出予測、地球温暖化、未来予測、気候変動、海面上昇、不可逆的環境破壊、破滅的環境破壊、地球温暖化懐疑論
3	地球温暖化防止条件と持続可能な社会、生産消費システム	温暖化防止条件、持続可能な社会、持続可能な生産消費システム、持続不可能な生産消費システム、物的生産、エネルギー生産、再生可能エネルギー、資源循環
4	日本の物的生産消費における資源循環利用の現状と問題点	日本、物的生産消費、資源循環利用、廃棄物、3R、リサイクル制度、容器包装リサイクル、製品リサイクル、循環型社会
5	諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツ、欧州諸国の容器包装リサイクル	資源循環利用、ドイツ、EU、容器包装リサイクル、拡大生産者責任、DSD社、環境税、デポジット制度、
6	諸外国の資源循環利用対策(2)製品リサイクル	諸外国、資源循環利用、製品リサイクル、家電製品、自動車、拡大生産者責任、
7	日本の地球温暖化防止、エネルギー利用の現状と問題点	日本、世界、エネルギー、省エネ、化石資源、石油、石炭、天然ガス、原子力、再生可能エネルギー、地球温暖化防止、京都議定書、CO2
8	諸外国の温暖化防止エネルギー対策(1)環境先進国：デンマーク	エネルギー、デンマーク、再生可能エネルギー、風力発電、バイオマス、電力買取補償制度、地域暖房, 市民参加
9	諸外国の温暖化防止エネルギー対策(2)飛躍するドイツの再生可能エネルギー；普及制度と風力発電	エネルギー、ドイツ、再生可能エネルギー、風力発電、アーヘンモデル、電力買取補償制度、再生可能エネルギー法、市民参加、地域活性化
10	諸外国の温暖化防止エネルギー対策(3)飛躍するドイツの再生可能エネルギー；太陽光発電、バイオマス利用、その他	エネルギー、ドイツ、再生可能エネルギー、太陽光発電、バイオマス、電力買取補償制度、改正再生可能エネルギー法、BDF、市民参加、地域活性化
11	諸外国の温暖化防止エネルギー利用(4)発展途上国のエネルギー対策；インドと中国を中心に	温暖化防止、エネルギー、発展途上国、インド、中国、再生可能エネルギー、太陽光発電、風力発電、バイオマス、地域社会、未電化地域、電化、CO2、
12	再生可能エネルギー市民普及論	再生可能エネルギー普及論、住民、市民、自治体、企業、エネルギー生産手段、所有、市民共同発電所、地域社会の発展、
13	軍事活動、戦争と地球温暖化問題	軍事的国家安全保障、環境保全的国家安全保障、軍事活動、戦争、兵器、軍需生産、CO2排出、軍事費、防衛費、環境保全対策費、スターン報告、GDP,
14	新たな地球温暖化防止の国際的枠組みを考える；COP15開催を控えて	COP15、コペンハーゲン、地球温暖化防止、国際的枠組み、中長期目標、先進国、途上国、
15	地球環境保全と社会発展	持続可能な社会、社会発展論、再生可能エネルギー、資源循環、市民の生産関与、生産手段の民主的社会化、社会発展プロセス、

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

参考書等による自主的な学びを積極的に進めてほしい。日常的に環境問題に関わる動向を新聞等を通じて認識することも重要である。そのような環境保全に関する自主的な学習、調査、実践等の成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法、回数は自由。提出期限は最終講義)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
レポート試験	0 %	提出義務のあるレポートは課さないが、自主レポートの提出は何回でも可能である。そのなかで優れたレポートの場合、成績評価にプラスアルファすることがある(下記備考参照)。
平常点評価	20 %	授業の感想、意見、質問等を記述する小レポートは授業期間中、随時、数回提出を求める。

定期試験を実施する。定期試験に日常点(小レポート)を加味して成績評価する。評価の比重は、上記の通り。なお、優れた「自主レポート」については、内容により一つにつき最大10点まで成績評価に加算する(優れていると判断できない場合は加算されないので注意)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義はまじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)の提出を求めるので、必ず提出すること(後日の提出は認めない)。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、参考書のうち『飛躍するドイツの再生可能エネルギー』は準教科書的書籍である。下記のなかで、この書籍を含めて、少なくとも2冊は読むこと。読んだ場合、感想文を自主レポートして提出することを勧める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
飛躍するドイツの再生可能エネルギー	和田　武／世界思想社／978-4-7907-1346-3／ドイツの温暖化防止、再生可能エネルギー普及政策や事例から学ぶ。
市民・地域が進める地球温暖化防止	和田武・田浦健朗／学芸出版／978-4-7615-2407-4／地球温暖化防止の取り組み事例も豊富に掲載。
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク／中央法規／／地球温暖化についての全般的理解を獲得できる。
地球温暖化の予測は正しいか？	江守正多／化学同人／978-7598-1620-3／地球温暖化の未来予測についての科学的理解を深められる。
新・地球環境論	和田　武／創元社／／地球環境問題全般を学べる。
環境事典	日本科学者会議／旬報社／／あらゆる環境問題関連の用語解説
環境問題資料集成	日本科学者会議／旬報社／／国内外の環境関連資料とその解説
地球白書2007-08	C. フレイヴィン／ワールドウヲッチジャパン／978-4-948754-28-7／ワールドウヲッチ研究所が毎年編集。主要環境課題の解説。
地球環境問題入門	和田　武／実教出版／／地球環境問題の入門書
地球環境データブック2007-08	C. フレイヴィン／ワールドウヲッチジャパン／978-4-948754-29-4／「地球白書」のデータ版
必読・環境本100冊	石弘之／丸善／／各分野の環境関連書籍を選択する上で参考になる。
地球温暖化防止の市民戦略	気候ネットワーク／中央法規／／地球温暖化防止のための市民の課題
21世紀世界のリサイク	ジェトロ・ワールドナウ／JETRO／／世界各国のリサイクルを学べる。
環境思想の研究	岩佐茂・劉大椿／創風社／／環境思想に関する研究書
環境問題を哲学する	関西唯物論研究会／文理閣／／環境問題に関する哲学的研究書

その他、和田武『環境問題を学ぶ人のために』世界思想社、循環型社会法制研究会『循環型社会形成推進基本法の解説』ぎょうせい、日本科学者会議『地球温暖化防止とエネルギーの課題』水曜社、佐藤由美「自然エネルギーが地域を変える」学芸出版、エネルギー推進市民フォーラム「よくわかる自然エネルギー」合同出版、などを推薦する。また、これまで環境問題について専門的に学んでいない大学生にとって、『21世紀子ども百科・地球環境館』小学館は、かなり高いレベルの内容を備えており、図表や写真が豊富で理解しやすく参考にできる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省;http://www.env.go.jp/、気候ネットワーク;http://www.jca.apc.org/kikonet/、自然エネルギー市民の会;http://www.bnet.jp./pare/、厚生労働省;http://www.mhlw.go.jp/、日本容器リサイクル協会;http://www.jcpra.or.jp/、環境goo;http://eco.goo.ne.jp/、資源エネルギー庁;http://www.enecho.meti.go.jp/、NEDO(新エネルギー産業技術開発機構);http://www.nedo.go.jp/、 など。

その他 / Others

できるだけ欠席しないこと。自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎するが、メールよりも、授業終了後に直接、質問するほうがやり取りができるので理解しやすい。

環境論（S）§　環境問題論（S）

15507

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

環境問題の一層の深刻化を考えれば、21世紀の社会が今日のような経済体制、企業行動、ライフスタイルの単なる延長として存在できないことは明らかであり、人類史のうえで新しい行動規範を必要としている。こうしたなか複雑化する環境破壊現象の法則的解明を目指し、現代社会における公害・環境問題がいかなるメカニズムで発生しているのかを社会科学的に分析し、その解決策を提示することを課題とする「環境論」の発展が求められている。

本講義では、環境破壊の歴史と人間の社会的活動とのかかわりを概観したうえで、公害問題、廃棄物問題、エネルギー問題、自然破壊問題、地球環境問題などについて歴史的・多角的視点から考察する。また、公害・環境問題と人間社会との関係一般についての基礎理論を概説しつつ、持続可能な社会の実現の諸条件について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

・公害・環境問題に関する基礎理論や社会的要因について多角的視点から理解できる。
・公害・環境問題を歴史的脈絡のなかで捉えることができる。
・公害・環境問題の解決の方向性について自己の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代環境論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに－環境論の射程	環境問題とはなにか、物質代謝、労働過程、生産力
第2回目	環境問題の歴史（1）農業と環境問題	狩猟・採集と移動生活、農業の開始と定住社会の成立、家畜と病原菌、農業の意義
第3回目	環境問題の歴史（2）産業革命と環境問題	機械制大工業、工業都市の形成と公害問題、ロンドンスモッグ事件、市場経済と資本主義
第4回目	日本の公害問題の歴史（1）四大鉱害	戦前の公害問題、製銅業の発展、足尾鉱毒事件、別子銅山煙害事件
第5回目	日本の公害問題の歴史（2）四大公害	熊本水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、石油化政策
第6回目	大気汚染公害	コンビナート公害と道路公害、都市型複合大気汚染、西淀川大気汚染公害、尼崎大気汚染公害
第7回目	公害・環境問題に関する諸理論	地球環境問題、外部負経済論、社会的費用論、生産関係論
第8回目	中間試験（60分）	試験範囲は第1回～第7回目まで
第9回目	地球温暖化問題とエネルギー（1）	気候変動問題、京都議定書、日本の温室効果ガス排出量、直接排出と間接排出
第10回目	地球温暖化問題とエネルギー（2）	日本のエネルギー政策、原子力立国論、環境税、国内排出量取引制度
第11回目	廃棄物問題とリサイクル（1）容器包装リサイクル	廃棄物処理の優先順位、拡大生産者責任、容器包装リサイクル法、寝屋川病
第12回目	廃棄物問題とリサイクル（2）耐久消費財のリサイクル	リマニュファクチャリング、自動車リサイクル法、多品種大量生産、リサイクル設計
第13回目	自然（生態系）破壊問題	熱帯林破壊、構造調整プログラム、ODA、貧困と環境破壊
第14回目	まとめ（1）	大量生産・大量消費・大量廃棄社会、資本主義と過剰生産、モノの流れと価値の流れ
第15回目	まとめ（2）	持続可能な社会の構築、循環型社会の形成、レポートの書き方

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	20 %	第8回目に実施する中間試験を評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「現代環境論」を受講していない人は『新・地球環境論』を読んでおくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
破壊されゆく地球	ジョン・ベラミー・フォスター／こぶし書房／4875591616／
緑の世界史（上・下）	クライブ・ポンティング／朝日新聞社／4022596031・402259604X／
新・地球環境論	和田　武／創元社／4422400177／
日本公害論	加藤邦興／青木書店／4250770257／
地球環境「危機」報告	石　弘之／有斐閣／9784641173422／

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

居住環境デザイン論（S） § 都市構造論（G）

13309

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝えたい。
多くの具体的事例を通して、「空間・場（都市・まち）」の質が「ひと」の在り方（社会関係や文化等）を規定し「できごと（生活のドラマ）」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。
講義では、スライド映像等を活用しつつ、多くの事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」を読み解いていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義。

到達目標 / Attainment Objectives

人々が心地よく暮らしうる「場＝居住環境」とはなにかを知り、そのような環境を創出するための考え方や技を身に着けるための糸口を、事例とその解説を通じて自ら学び、発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「居住環境デザイン論」ってなに？「居住環境」ってなに？	本授業の視点の提供：「ひと」と「場所＝都市（まち・地域）」の関係論
第2回	だから都市はおもしろい　その1	京都歴史散歩…京都は千年の都、万古不易って本当？
第3回	だから都市はおもしろい　その2	続・京都歴史散歩…「都市」の魅力は多層性・多義性にある
第4回	だから都市はおもしろい　その3	都市はうつろいゆくもの。網目としての都市・自己創出系としての都市＝「まちづくり」の視座
第5回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その1	都市計画とはなにか
第6回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その2	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(1)
第7回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その3	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(2)
第8回	中間まとめ	
第9回	「都市」の構造を継承するこころみ　その1	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(1)
第10回	「都市」の構造を継承するこころみ　その2	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(2)
第11回	「都市」の構造を継承するこころみ　その3	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(3)
第12回	「都市」（まち）に住み続けるために　その1	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(1)
第13回	「都市」（まち）に住み続けるために　その2	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(2)
第14回	「都市」（まち）に住み続けるために　その3	新しい京都の動き
第15回	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
平常点評価	20 %	適宜（数回／半期）、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代家族論（S）

13281

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「家族のありかた」に様々な変化が起きている。この科目は、その変化とは何か、その変化の要因とは何か、これからどのような「家族」を私たちは展望出来るのか、について、考えるきっかけとなるものです。社会学を中心にしながら、経済学などその他の学問領域での調査研究をも踏まえて、多面的に現代の家族の変化の様相を見ていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会と家族の関係について理解を深める。
雇用システムの変化と家族の関係を理解する。
女性・男性のライフスタイルの変化と家族の関係理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族社会学、ジェンダー論、家族福祉、企業社会に関連する科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家族の定義	家族の多様化・個人化
2	日本の家族の現状ー統計でみる家族の変容ー	標準家族の解体・貧困家族
3	現代家族の形成	近代・近代家族・母性・性別分業
4	資本主義経済とと家族　その1	資本主義・生産と消費の分離・性別分業・無償労働
5	資本主義経済と家族　その2	家族機能の外部化・共同化・公務労働化・産業化
6	日本における近代家族の形成	日本国憲法24条・家族制度改革
7	日本における標準家族の形成	大企業労働者・性別分業・近代家族イデオロギー
8	企業社会と家族その1	大企業労働者　性別分業型家族　主婦の誕生
9	企業社会と家族　その2	性別分業型家族の標準家族化
10	企業社会と家族　その3	女性のライフコースの多様化・主婦の変容
11	「標準家族」の再生産	規範的家族政策・性別分業の再強化
12	日本型雇用システムの変化と家族　その1	新日本型経営・労働力3類型
13	日本型雇用システムの変化と家族　その2	転職社会・雇用の不安定化・セーフティ・ネット
14	生活領域の市場化と家族	公的福祉の後退　福祉の産業化　第三セクター
15	おわりにー家族のつくりかたー	個人単位・ワークライフバランス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義中に指示する参考文献、ウェブページ、資料などを積極的に活用し、学習を深めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。

数回の小レポートを課す。出席状況と理解状況の確認・コミュニケーション・ペーパーとして活用。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

取り上げる課題の追加や削除、時事的問題の挿入などのため、講義の速度・内容を若干変更する場合がある。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は講義の進行に即して適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義に有用なサイトを適宜紹介する。

その他 / Others

私語・飲食等は厳に謹んで欲しい。

現代企業論（S）

15497

担当者名 / Instructor　櫻井 純理

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1990年代以降、日本企業の多くが正規（典型）社員の長期雇用の見直しや成果主義の導入などを進める一方、非正規（非典型）社員の比率を増大させてきた。2008年には世界的な経済危機を背景に、日本国内における「ワーキング・プア」の増大やいわゆる「派遣切り」問題が表面化した。また、こうした企業の経営環境悪化や雇用慣行の変化は新たな政策課題を生じさせている。この授業では、日本企業における雇用慣行の変化に焦点を当てて、それが労働者と日本社会全体に及ぼしている諸影響について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

上述したテーマに関わる現実を正確に理解し、自分自身の意見を持てるようにすること。また、今後社会に出ていく上で、自分自身の働き方についてもなんらかの展望や指針をもてるようにすること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、雇用や労働に関わる問題に関心を持って受講してほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション（授業概要の説明）、現在の日本企業を取り巻く環境	学生アルバイトに関わる諸問題（労働基準法、労働契約法、パートタイム法）
2	様々な賃金制度（職能賃金、職務賃金の違いを中心に）	年功的賃金制度と成果主義的賃金制度：企業が導入している様々な賃金制度の事例
3	長期雇用慣行と「リストラ」問題、企業再編に伴う雇用問題の発生	解雇規制と労働契約法の制定
4	「キャリア」視点の重要性、企業内キャリア形成の類型	ジェネラリストとスペシャリスト、配属と異動の要因、キャリア・アンカー概念
5	企業間を横断する流動的なキャリア形成の特徴と課題	キャリア形成をめぐる政策の現状と課題
6	雇用の非正規化①派遣労働、請負労働、個人事業主	労働者派遣法の改正、日雇い派遣・業務請負と個人事業主の問題点
7	雇用の非正規化②「パートタイム」の問題、間接差別、均等待遇	男女雇用機会均等法とパートタイム労働法の改正
8	雇用の非正規化③ワーキング・プアの増大と「派遣切り」	新しい労働運動（「ユニオン」の可能性：首都圏青年ユニオン、ガテン系連帯など）
9	企業に「雇用責任」はあるか？	社会的セイフティネットと社会的排除・包摂に関わる課題
10	官民格差と公務労働の民営化・非正規化（公共サービスに従事する臨時・非常勤職員）	公務員バッシングの正当性と公共サービス労働に関する展望
11	長時間過密労働の問題と過労死、過労自殺	日本企業における年間労働時間の推移、なぜ長時間労働がなくならないのか
12	労働時間の弾力化（変形労働時間制・裁量労働制・フレックスタイム制）、管理監督者の労働時間、ホワイトカラー・エグゼンプション	労働時間の短縮を目指した民間企業の取り組み事例
13	ワーク・ライフ・バランスの実態と政策課題①	欧米諸国におけるワーク・ライフ・バランス政策（アメリカ、イギリス、オランダを中心に）
14	ワーク・ライフ・バランスの実態と政策課題②	日本におけるワーク・ライフ・バランスの実態、民間企業が導入している諸制度
15	講義内容のまとめと振り返り、何が雇用慣行の変化をもたらしてきたのか？	定期試験についての説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

必要に応じて適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	授業内容に関連した試験を実施する。
平常点評価	20 %	授業時間中に意見・感想を記入してもらう（15回のうち2～3回実施）。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

きまったテキストは使用せず、レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
労働ダンピング	中野麻美／岩波書店／／近年の雇用の「多様化」の問題点を具体的に論じた書。
ルポ“正社員”の若者たち：就職氷河期世代を追う	小林美希／岩波書店／／いわゆる就職氷河期に就職した若者たちの正社員労働の実態を描いたルポ。
使い捨てられる若者たち	スチュアート・タノック／岩波書店／／アメリカのファストフード労働のルポ。読み物として面白い。
はたらく若者たち　1979～81	後藤正治／岩波書店／／世の中の様々な仕事に携わる人々の労働観が伝わるルポ。社会に出る前にぜひ呼んでほしい一冊。
格差社会ニッポンで働くということ	熊沢誠／岩波書店／／日本の労働を具体的かつ平易に分析し、格差社会問題を労働の観点から検証している。
能力主義と企業社会	熊沢誠／岩波書店／／労働社会学の第一人者による日本型雇用の変化に関する分析の書。
ワーキング・プア	デイヴィッド・K・シプラー／岩波書店／／アメリカにおける低賃金労働者の実態に関するルポ。
キャリアラダーとは何か	J. フィッツジェラルド／勁草書房／／長きにわたって働くに足るような仕事をどう作るのか。アメリカでの事例に基づく議論。
何がサラリーマンを駆りたてるのか	櫻井純理／学文社／／キャリア形成の分析の授業で使用する。

その他の参考書、参考論文については授業中に適宜紹介するが、雑誌では「ビジネス・レーバー・トレンド」（JILPT）が参考になる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

現代経済論（S）

13316

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と
企業社会」について考えたうえで、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の
景気回復状況など、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「日本経済論」
と連結しておりその前半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	はじめに－問題の所在	
2.	日本経済の概況	
3.	「高度成長」と企業社会の成立	
4.	企業社会と市民社会	
5.	市民社会の概念規定	
6.	大企業体制の2類型	
7.	貿易関係と資本の対外的展開	
8.	同上（2）	
9.	不良債権問題の経過と問題点	
10.	同上（2）	
11.	六大企業集団と法人資本主義	
12.	同上（2）	
13.	日本的経営について	
14.	まとめ1－現代経済論の課題	
15.	まとめ－2現代経済論の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代産業論（S）

13318

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、国際化、情報化、サービス化の真直中にある。その土台となり基軸となっているのが諸般の産業活動である。この講義は、最近の世界的な経済危機のもとでの、日本の主要な産業動向を解説しつつ、現代産業の今後の発展方向を探る論議をしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本の主要な産業動向に関する認識を深め、各自それなりの知見に確信が持てるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済論　社会発展論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	なぜ現代産業論かー　その課題をめぐって	世界的な経済危機、日本経済の構造転換と検討を要する課題、この講義の流れの確認
第2回	日本の貿易と国内産業との連関	日本の貿易依存体質　日本産業の強みと弱み　（第3回目から主要産業の動向を検討）
第3回	鉄鋼産業	鉄鋼生産と内需の特徴、海外進出、大規模高炉企業の「合理化」
第4回	自動車産業	海外現地生産、新製品開発、輸出依存体質
第5回	電機産業	生産構造　ICT産業との関連　国際競争の激化
第6回	工作機械工業	ロボット化、世界の工作機械産業との競争と住み分け
第7回	ICT産業の進展	NGNが変えるITと通信の未来　ブロードバンド・ネットワーク、電子政府・電子自治体 メディア・コングリマリット
第8回	石油産業	過剰設備の顕在化と再編、　LPG・石炭との関係
第9回	有機化学産業	高蓄積から「合理化」へ、国際的再編
第10回	繊維産業の担い手たち	伝統産業と繊維産業、アパレル産業
第11回	金融業界の再編（1）銀行業	多国籍銀行、リージョナル・バンク、　保険業・カード会社との連繋
第12回	金融業界の再編（2）保険業	生保と損保　保険業の世界的再編
第13回	流通業界の再編	百貨店、スーパー・マーケット、コンビニ
第14回	日本農業の現状と課題	コメ自由化以後の農業、日本資本主義の再生産構造と農業
第15回	不況からどう脱出するか	雇用・技術・企画力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	基本的に定期試験で評価。
平常点評価	10 %	出席票提出の際、質問を書いて頂き、それに答える機会を設ける。その対応を若干、定期試験の評価に加味する。

出席が一度も確認できなかった受講生は、定期試験を受けても単位を認定しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

個別の産業活動に関する分析を重ねるかたちで、日本の産業構造の特質を浮かび上がらせるようにしたいと思う。それと同時に、産業企業と雇用、企業の社会的責任、企業と環境問題への対応など、のあり方を個別産業に即して言及するように努めたい。講義毎に、さらに読み進めると良い参考文献を、適宜紹介する。

教科書 / Textbooks

特になし。毎回レジメで講義を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代日本産業の構造と動態	産業構造研究会／新日本出版社／4-406-02729-7／2000年刊行、いささか古い

現代日本経済[新版]	橋本寿朗ほか／有斐閣アルマ／4-641-12297-0／2006年の新版が参考になる
日本の不平等	大竹文雄／日本経済新聞社／4-532-13295-9／成果主義賃金制度がわかる

先のも述べたように、このほか講義の中で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義の中で適宜紹介する。

その他 / Others

特になし

現代市民社会論 (S)

13452

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま社会の中で「人々の絆」が弱くなってきています。「あなたは、見知らぬ他人を信じることができるか」というアンケートに信じることができないと答えた人の割合が以前と比べて増えてきています。それとともに社会的犯罪や病理現象も増えてきているといいます。なぜでしょうか？いろいろな答えがあるかもしれません。しかし、人々が利己的になりつつあること、社会のことを考えなくなってきたことが大きな原因の一つであることは確かです。こうしたなかで市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。人々はどのようにこれまで他人と絆を結びつつ社会を形成してきたのか。またなぜ絆が弱くなりつつあるのか、それを克服することができるのか。本講義は、近代社会が市民社会として形成されてきた歴史をたどりながら、人々が市民社会のなかで個人と社会（他人）との関係をどう捉えてきたのかを思想家の議論をたどりながら見ていくものであり、そのなかで上記の問いを考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

1）近代（市民）社会形成の原理が何であったのかを、ルソー、スミスをとおして理解すること
2）現代(市民）社会の構成原理をハーバマス、パットナム、ハーストをとおして理解すること
3）現代社会において自明とされている社会・人間観を懐疑し、再考すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学
社会倫理
社会ガバナンス論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	近代市民社会の成立－フランス革命	アンシャンレジーム、ブルジョア、革命
2回目	市民社会の原理－フランス人権宣言を読む	自由、平等、博愛、所有
3回目	古典に見る社会像1－ルソーの描いた社会	自然状態、文明社会、不平等、自愛心と慈愛心
4回目	古典に見る社会像2－スミスの描いた社会	商業社会、利己心、同感の原理、正義, ホッブス
5回目	古典に見る社会像3－マルクスの描いた社会	個人と私人、貨幣物神
6回目	小括・まとめ	補足講義、また理解確認のためのアンケート、質問など
7回目	ハーバマスと市民社会1－ハーバマスの課題	東欧革命、システム世界、生活世界、植民地化
8回目	ハーバマスと市民社会2－市民的公共性	批判的公共性、熟議民主主義、公共圏
9回目	パットナムと市民社会1－ボーリング・アローン	市民社会の衰退、政治参加、市民参加、友人、家族
10回目	パットナムと市民社会2－社会関係資本と格差	社会関係資本、信頼、互酬性
10回目	小括・まとめ	補足講義、理解確認のためのアンケート、質問等
11回目	ハーストと市民社会1－社会の統治・ガバナンス	国家の市民社会化、社会ガバナンス、メタガバナンス
12回目	ハーストと市民社会2－ラディカル民主主義	社会への参加、市民社会の公共化、グローバル化と市民社会
13回目	ギデンズと市民社会1－「第三の道」	福祉国家批判、新自由主義批判
14回目	ギデンズと市民社会2－「第三の道」	アクティブ市民社会、社会包含、政府と市民社会とのパートナーシップ
15回目	市民社会とは？	様々な市民社会論の紹介。講義全体のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考査する
平常点評価	20 %	3～4回の出席をとり、それを点数に換算する

評価は、定期試験80点。出席点（5～7点）20点＝100点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中に適時参考文献を知らせるので、読んでおくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

教科書は使わない。講義はレジュメが中心となる。
なお、以下の参考文献を読むことが望ましい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『市民社会論』	山口定／有斐閣／／
『市民の政治学』	篠原一／岩波新書／／
『相対化の時代』	坂本義和／岩波新書／／
『公共性』	斎藤純一／岩波書店／／
『孤独なボーリング』	パットナム（鹿内訳）／柏書房／／

『第三の道』ギデンス（佐和訳）日本経済新聞社。

なお、適時、講義中に参考文献を知らせることとする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

公共政策論（S）

13364

担当者名 / Instructor　後藤 玲子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、公共政策の必要性とあり方について考察する。ここでいう公共政策には、広範囲の人々（見知らぬ人々も含む）の間の資源のながれをもとにして、ひとが（それがたった一人の個人であっても）直面するさまざまな困難や困窮に対応する制度や仕組みが広く含まれる。社会思想・哲学・経済学・法学・文学など異なる領域を自由にいききしながら，公共政策のベースにある考え方や心もちを探っていきたい．

到達目標 / Attainment Objectives

公共政策を論ずる際に，決まり文句にしがちな言葉（福祉や権利，自由，平等，正義，民主主義，個人の尊重，共同性，アイデンティティなど）について，自分の直面するさまざまな現実と照らし合わせながら，定義しなおす習慣をつけること．その際に，先人たちの思想や理論から豊かに学ぶこと．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	公共政策をめぐる問い　――問われていること，問うべきこと
2	個人・社会・公共	社会と公共の相違
3	市場と公共政策	再分配政策の機能（日本と世界の状況）
4	公共政策と市場の論理	自由市場の利点（匿名性・効率性・自由）と限界
5	市場の倫理と分配的正義の視点	アダム・スミス，フォン・ハイエク，アリストテレス，ジョン・ロールズの思想の対比
6	公共政策の論理	税と保険の論理的相違，公的扶助の根拠について
7	公共政策の思想1	ジョン・ロールズの正義論と格差原理
8	公共政策の思想2	功利主義，社会厚生関数の考え方
9	公共政策の思想3	アマルティア・センの潜在能力アプローチ
10	社会保障と福祉政策	日本の公共政策の特徴
11	福祉政策の改革動向（ワークフェア政策，ベーシック・インカム論）	欧米日本の福祉改革動向の方向性
12	個人の権利と公共性	社会的選択と民主主義
13	個人・コミュニティ・社会と公共政策	不完全義務と公共的相互性
14	ローカル正義・グローバル正義・世代間正義	福祉は国境を越えるか？
15	＜実質的自由＞の実質的保障に向けて：公共政策の展望	制度をつくり，動かす個人の判断と行動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

福祉や社会政策に関する他の科目を受講する中で、ふと気にかかったものの、あえなく消えてしまいがちな疑問を、できるだけ授業にもちこんでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	自由討議の際に小レポートを3回ほど課す

とにかく考える，考えたプロセスを自分の言葉で表現することが大事です．

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現代社会で進行中の公共政策，とりわけ福祉政策や社会保障に対する関心と，思いっきり抽象的な哲学や思想への関心との間をいったりきたりする講義となります．その意外性を楽しんでください．

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉と正義	アマルティア・セン＝後藤玲子／東京大学出版会／978-4-13-010110-3／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
正義の経済哲学：ロールズとセン	後藤玲子／東洋経済出版社／／

福祉ガバナンス宣言――市場と国家を超えて　　岡澤憲芙・連合総研編／日本経済評論社／／

哲学・思想の古典については文庫本で入手しやすいです．授業中にプリント配布もします．

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際教育援助論(S) § 国際教育援助論(I)

13322

担当者名 / Instructor　小原 豊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国には不就学児や非識字者が未だに大勢おり，その支援が国際的に急がれている。本授業では，国際教育援助の現状と課題について概説し，国際社会の潮流や歴史的展開にも言及しながら，教育援助における基本的な原理と実践手法を概観し，その論点整理と展望の探究を行う。また，本授業は一方的な講義形式ではなく，受講者小集団によるプレゼンテーションや議論形式を取り入れた参加型学習を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

1　国際教育援助の基本原理を理解し，発展途上国支援の諸課題を探究する力量を形成すること。
2　国際教育援助の歴史的展開を踏まえ，発展途上国支援の実践的手法について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目は特にありません。日頃から，様々な報道機関，諸外国のメディア等にも目を通して情報を比べることで，物事を多角的に考える習慣をつけて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	国際教育援助とは何か？:国境を越えて人が人の学びを支援する	国際社会の潮流，世界識字実験計画(EWLP)，援助理念と政策
第02回	国際教育援助の仕組み	ODA，円借款，無償／有償資金協力，技術協力
第03回	国際教育援助の概略史	ジョムティエン会議，ダカール行動枠組み，成長のための基礎教育イニシアチブ
第04回	世界の基礎教育の現状と課題	量的拡大と質的向上，識字率・就学率，世界銀行，女子教育，
第05回	日本による教育援助①その比較優位性:Jugyou-Kenkyuとは何か	授業研究，カスケード方式とクラスター方式，住民参加
第06回	日本による教育援助②JICAの活動と青年海外協力隊の展開	JICA，JOCV，選考・訓練・実情，自助努力，協力隊5か条
第07回	日本による教育援助③文部科学省による国際教育協力イニシアチブ	拠点システム，日本の教育経験集約，協力知見の体系化・共有化
第08回	途上国理解・支援の原理①文化的アイデンティティ	民族性，多言語・他文化社会，僻地複式モデル
第09回	途上国理解・支援の原理②持続可能性(Sustainability)	技術移転，プロジェクト評価，参加型ガバナンス
第10回	途上国理解・支援の手法①教育開発モデル	社会構造，モデル分析(ハービンソン&マイヤーズ，カミングス)
第11回	途上国理解・支援の手法②教育セクター分析	包括性と選択，優先課題，ファストトラックイニシエティブ(FTI)
第12回	国際教育協力フィールドワーク①NGOの活躍:アフガニスタンを事例に	実際に国際教育協力に勤しむNGOの方を招聘し，議論・懇談する
第13回	国際教育協力フィールドワーク②草の根交流:インドネシアを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ活動家を招聘し，議論・懇談する
第14回	国際教育協力フィールドワーク③専門家派遣:ラオスを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ専門家を招聘し，議論・懇談する
第15回	国際教育援助の論点整理と展望:支援から共生へ	世界人権宣言の理念，Education for All (EFA)，ヨハネスブルグ宣言

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本授業は一方的な伝達形式ではなく，受講者の関心や問題意識に基づいた議論を中心に進めていきます。教員の指示をただ待つのではなく，教育援助に関する課題を様々な一次資料から探究していくことが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	小集団による課題発表に対する自己評価，受講者同士による相互評価，教員評価を参照する。
平常点評価	60 %	出席を重視する。また日常点(学習態度，質問内容，討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り，開講回数の2／3以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

我々は国際社会を生きる上で，自国の文化に根ざしながらも，多様な価値観をもって異なる文化の在り方を尊重し，受け入れねばなりません。

国際教育援助については，ドナー国と被援助国が対等な立場で相互理解を深め，国際社会での共生を目指す立場で学ぶ必要があります。とかく視野が狭窄しがちな教育分野ですが，国際的な視野で教育問題を捉える経験が，受講者各位にとって大きな財産になることを願います。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際教育協力論	内海成治／世界思想社／4-7907-0910-8／教育協力分野の学際的な知識が得られる。
国際教育開発論	黒田一雄，横関祐見子／有斐閣／4-641-07697-9／多様な領域の教養が体系的に得られる。
国際教育協力を志す人のために	千葉杲弘，寺尾明人，永田佳之 ／学文社／4-7620-1359-5／専門的知識が包括的に得られる。

その他，参考図書の内容は随時紹介し，必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際協力機構(JICA)や国際教育イニシアティブの活動関連のweb site 等を随時紹介していきます。

その他 / Others

授業において不明な点，疑問に感じた点を大切にして，まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

国際社会政策論（S） § 国際社会政策論（I）

15489

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

21世紀に入って経済のグローバリゼーションが今後ますます進行すると思われますが、それとともに、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層の国際化が求められています。とはいえ、第一次世界大戦の終結とともにILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を越えて明確に国際化の方向性を示してきました。

本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、つまりグローバル・レイバー・スタンダードからのその大きな乖離の実態を歴史的に解明することを中心的な課題としています。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現れているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図しています。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会政策と国際社会政策の基本的概念をその歴史的発展の中で正確に理解できるようになること。
・日本の労働問題を初めとする多くの労働・福祉・ジェンダー・社会の諸問題に関して国際的な視点から分析できるようになること。
・「社会的公正」と「経済効率」との関係についての国際的経験（例えばCSRやSRIなど）から日本の将来に関する展望を持つことができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修しておかなければならないような科目は特別にありませんが、日常的にテレビや新聞などを通じて、労働問題や社会政策の動向に注目することが求められます。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかについて関心を持つ必要があります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ）社会政策の基礎理論　（1）社会政策とは何か	現実の社会政策、社会政策論、19世紀最大の不況
第2回	（2）社会政策の道義論	ドイツ歴史学派、分配の正義、「講壇社会主義」
第3回	（3）社会政策の政治論	ワイマール憲法、労働者参加の思想、生産政策
第4回	（4）社会政策の経済理論	生産要素としての「労働力」、労働力の創出・保全・掌握政策、譲歩・妥協としての社会政策
第5回	（5）大河内理論の問題性	相対的過剰人口、資本の有機的構成、労働生産性
第6回	Ⅱ）国際社会政策の登場　（1）国際社会政策の概念	国内社会政策、超国家的社会政策、競争条件の平等化
第7回	（2）国際社会政策の内容と性格	労働基準政策、雇用・失業政策、労使関係政策、社会保障政策
第8回	（3）国際社会政策成立への途	ダニエル・ル・グラン、スイスの国際会議提唱、ベルリン会議
第9回	（4）国際労働者保護立法協会の成立	ブリュッセル会議、1906年のベルン条約、1913年のベルン条約案
第10回	（5）第一次世界大戦とILO創設	AFLの1914年大会決議、国際労働法制委員会、ヴェルサーユ条約
第11回	Ⅲ）ILOの機能と日本　（1）ILOの機能と戦前の活動	国際労働総会、国際労働条約、フィラデルフィア宣言
第12回	（2）ILOと日本（そのー）	官選労働者代表問題、ILO第一号条約、日本のILO脱退
第13回	（3）ILOと日本（そのニ）	179号事件、結社の自由委員会、ドライヤー報告
第14回	Ⅳ）現代の国際社会政策　（1）EUの社会政策	ローマ条約、社会憲章、同一価値労働同一賃金
第15回	（2）ジェンダーと国際社会政策	女性差別撤廃条約、ILO156号条約、ポジティブ・アクション

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

既述のように日々のニュースを通じて労働・福祉・ジェンダーに関する世界の動向に注目すると同時に、就活の準備も兼ねて日本の企業や産業の状況について自ら積極的に情報を集めるよう努力して下さい。

また、各講義ごとに内容が段階的に積み重ねられていくために、やむをえない場合を除いて毎回出席しないと理解が困難になりますので、その点に注意して下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度、問題分析能力を評価
レポート試験	20 %	講義に関わる問題についてのレポートを自主的に提出してもらい、その内容（他の著者の文章を引用符も付けずに書き写すのではなく、自分の言葉で解明しているかどうか）の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歴史との関連で国際的な動向について正確に知ることなくして日本社会の科学的分析は困難だと考えられますので、常に国際的な視野からものごとを見るよう努力して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書やテキストは使用せず、毎回講義レジュメや資料を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家とジェンダー・ポリティックス	深澤和子著　／東信堂／／2003年
国際ジェンダー関係論	サンドラ・ウィトワース著・武者小路公秀（代表）監訳　／藤原書店／／2000年
社会政策―国際化、高齢化、雇用の弾力化―	石畑良太郎・牧野富夫編著／ミネルヴァ書房／／1999年
ILOとジェンダー	戸塚悦朗著／日本評論社／／2006年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ilo.org
http://www.socialeurope.com

その他 / Others

国際社会論（S） § 国際社会論（I）

13457

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がいま大きく進んでいます。世界の各国はその中に不可避に巻き込まれています。このことによって、国家の役割が大きく変わったり、また市民権のあり方をも変えつつあります。こうしたグローバル化は、いますべてを市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として進み、このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまで以上に開き、貧困が深刻な問題となってきています。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

1）世界はグローバル化しているのか、しているとすればどのような意味でそうなのかを経済を中心にして理解する。
2）グローバル化を進める多国籍企業について理解する
3）人の移動に伴う市民権概念の変化と多文化の共生のあり方を考える
4）開発途上国における貧困問題を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	グローバル化をめぐる議論	超グローバル化論、グローバル化懐疑論、変容論
2回目	経済のグローバル化－その実態は？	貿易、対外投資、労働力移動
3回目	フォーディズムの危機とグローバル化	いつグローバル化が始まったのか？　なぜグローバル化が進んでいるのか？
4回目	多国籍企業とグローバル化	多国籍企業の定義、企業内貿易、新国際分業
5回目	グローバル化と新自由主義	新自由主義、ワシントンコンセンサス、アメリカ化、対抗ヘゲモニー
6回目	小括・まとめ	補足講義、理解確認のため質問など
7回目	グローバル化と開発　－貧困と格差－	UNDP,国連ミレニアウ目標、貧困、人間の安全保障
8回目	開発理論の展開	輸入代替政策、構造調整、経済開発
9回目	グローバル化と人間開発	アマティア・セン、潜在能力、社会的排除
10回目	グローバル化と開発－貧困と格差	UNDP、ミレニアウム目標、（南北）格差
11回目	グローバル化と市民	反グローバリゼーション、グローバル民主制、グローバル市民社会
12回目	グローバル化と国家	国家とガバナンス、EUとガバナンス、エーレスンド地域にみるガバナンス
13回目	グローバル化と市民権（1）－EUにみる市民権問題	マーシャルの市民権概念、デニズンシップ、国籍とは？
14回目	グローバル化と市民権（2）－多文化共生と市民権	同化政策、文化多様性政策
15回目	日本における市民権問題	外国人労働者、市民権政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で示された参考文献などについては、読んでおくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考査する
平常点評価	20 %	3～4回、出席を取り、それを点数化する

出席点を20点、定期試験80点＝100点として、評価する。
出席表を出す際には、QRコードを使用するので常に持参すること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞の国際欄を読むといい。

教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。特にテキストは指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『グローバル化とは何か』	デヴィッド・ヘルド中谷監訳／法律文化社／／
『人間開発報告』各年度版	UNDP／国際協力出版会／／
『ラテンアメリカは警告する』	内橋・佐野編／新評論／／
『グローバル経済という怪物』	D。コーテン（西川訳）／主プリンガー東京／／
『ヨーロッパの市民権』	宮島喬／岩波新書／／

講義中に適時上記以外にも知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際NPO・NGO論（S） § 国際ボランティア論（S）

15609

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデイトな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
・国際協力NGOにおいてなぜマネジメントが重要になり「ビジネス化」が言われるようになったかを理解する
・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当：秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2～3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
4～5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6～7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9～10	NGOの新たな戦略　――マイクロクレジット――	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略　――フェアトレード――	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①―政府とのパートナーシップをめぐって―	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②―国連とのパートナーシップをめぐって――	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③――グローバリゼーションによる社会構造の変化――	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するのですから、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「F」評価となる可能性があるので、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など　②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO――市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編(1998)／明石書店／／

への取り組み――

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

参加のデザイン論 (S)

15556

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

もはや「参加」を理論化することで事足りる時代ではない。また、制度的・形式的に「参加」を論ずるだけでは不十分である。「参加」を個々人と社会との関わり方や共生の作法としてとらえ、参加の意味と必要性（あるいは必然性）を踏まえながら、実践のなかで「参加」の状況をデザインする態度と力が求められている。
本講義では、環境創造（まちづくり）活動における住民参加・住民主体の事例を紹介しつつ、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割、公共とはなにか、などについて考えていく。あわせて、「参加型まちづくり」を展開するための手法についても学習する。
理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「政治参加」の制度論・政策論ではない。

到達目標 / Attainment Objectives

具体的事例を通して「参加」を概念化するとともに、参加の状況を創りだす（デザインする・マネージメントする）態度と技を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、前期におこなう「居住環境デザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「参加のデザイン」ってなに？	講義の目的と位置づけ
第2回	「参加」の事例を見て考えよう…パート1	コーポラティブハウジング（住み手参加の住まいづくり）ユーコートの事例を見る
第3回	「参加」の事例を見て考えよう…パート2	40年にわたり住民主体のまちづくりに取り組む真野地区の事例を見る
第4回	ユーコートを通して「参加」を考える　その1	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える
第5回	ユーコートを通して「参加」を考える　その2	
第6回	ユーコートを通して「参加」を考える　その3	日本のコーポラティブハウジング
第7回	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その1	まちづくりのプロセスを追いながら、多様な主体が関わる「参加」の特性と成立要件を考える
第8回	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その2	
第9回	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その3	アクティブ参加とパッシブ参加（コミュニティのなかに居場所がある状況）
第10回	市民活動型まちづくりにおける「参加」	「私」からほとばしり出る「公」
第11回	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり　その1	近年の京都の事例を通して、参加における行政や専門家の役割を考える
第12回	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり　その2	
第13回	参加の手法を学ぶ　その1	イキイキとした参加の状況を創る手法である「ワークショップ」の事例を学ぶ
第14回	参加の手法を学ぶ　その2	ワークショップの進め方や考え方を学ぶ（時間が許せばワークショップ実習を行いたい）
第15回	まとめ－参加デザイン論の課題	参加をめぐる哲学・政治学概説＋参加の経験則

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
平常点評価	20 %	適宜（数回／半期）、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望みます。とりわけ第1週・第2週・第3週は問題提起編なので、必ず、絶対、万難を排して、出席のこと（本来講義は出席するものですからこの指示はヘンですが…笑）

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

産業社会学（S）

15525

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル（労働や生活をめぐる生き方）に焦点をしぼり、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、大きく企業社会から新自由主義社会への変容を軸としつつ、雇用（不況）、女性、若もの／子どもなどをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会およびそこに生き／働く日本人の生活スタイルを、理論的／実態的にとらえることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目（現代と社会）、基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1週　講義のオリエンテーション	産業社会学部	社会学
2週　本講義の産業社会学について	産業社会	産業社会学
3週　現代社会と生活スタイル1　現代社会論と日本社会の位置	企業社会	新自由主義社会
4週　現代社会と生活スタイル2　社会学理論と生活スタイル	生活空間／生活史	生活スタイル
5週　現代社会と生活スタイル3　社会学理論と生活スタイル2	本来的志向	手段的志向
6週　日本社会と生活スタイル1　日本人論、日本的集団主義論をめぐって	日本的集団主義	罪と恥
7週　日本社会と生活スタイル2　今までの生活スタイル：私生活志向と企業社会志向	私生活志向	企業社会志向
8週　日本社会と生活スタイル3　両方志向（狭い私生活志向と企業社会志向）をめぐって	両方志向	
9週　日本社会と生活スタイル4　企業社会の病理とその変容	生活優先社会	会社人間
10週　日本社会と日本人の諸層1 働く人々の環境変容	年功制／成果主義賃求	階層化

11週　日本社会と日本人の諸層 2 女性の社会的進出	M字カーブ	母性神話
12週　日本社会と日本人の諸層3 若もの／子どもの意識変容　付　フリーター／ニート現象	知と人間関係	ゆとり教育
13週　日本社会の変容と生活スタイル1　現代社会のこれから	第3の道	日本型新福祉社会
14週　日本社会の変容と生活スタイル 2　日本社会のこれからと新しい生活スタイル	新しい共同性（公共性）	自分たちの社会
15週　まとめ		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

コメントを時には持って帰ってもらい、学んだ箇所の整理と認識、およびそれへの自らのコメントを考えてもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	講義へのコメントをし、全体の成績によって評価に加味する場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント（コミュニケーション・ペーパー）を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。このコメントは、評価に加味する場合もある。決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
浪江巌・木田融男・守屋貴司編『変容する企業と社会ー現代日本の再編ー』八千代出版	／／／
渡辺治『企業社会・日本はどこへ行くのか』教育史料出版会	／／／
佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の人間と社会』法律文化社	／／／
木田融男・佐々木嬉代三編『変貌する社会と文化』法律文化社	／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会階層論 (S)

13363

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の狙いは、受講生が「階層（社会階層）」という概念を理解し、その理解に基づいて日本社会を認識する力を習得することです。「階層」とは、収入などの社会的資源の格差を記述するための概念です。したがって、階層を論じることは「総中流」と言われてきた日本社会の中にある格差を認識することでもあります。講義では、教育、家族、仕事といった身近なトピックと絡めつつ、このテーマについて論じていく予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

社会階層論および関連分野の概念・論理を習得すること。すなわち、そうした概念・論理を用いて（日本）社会を論じることができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。講義では「数字」や「数式」も登場します。しかし、議論の中心は、階層（格差）を維持したり、作りだしたりする仕組みであり、その仕組みを認識するための概念・論理です。「数字アレルギー」「数学アレルギー」の方も毛嫌いせず、受講してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会階層とは何か	社会階層、社会移動
2	階層および階層論の現状(1)	階層、階級、社会移動
3	階層および階層論の現状(2)	社会階層、社会移動、社会的資源の配分
4	現代日本の社会階層(1)	社会階層、社会移動、社会的地位、職業
5	現代日本の社会階層(2)	社会階層、社会移動、開放性
6	現代日本の社会階層(3)	地位達成、階層再生産
7	教育と社会階層(1)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
8	教育と社会階層(2)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
9	教育と社会階層(3)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
10	社会階層とジェンダー(1)	ジェンダー、セグリゲーション
11	社会階層とジェンダー(2)	ジェンダー、セグリゲーション
12	社会階層と家族(1)	家族、世帯
13	社会階層と家族(2)	家族、世帯
14	社会階層と文化	文化的再生産、ハビトゥス
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近年マスメディアには「格差」をめぐる議論があふれています。それらに親しんでおいてください。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

配布のプリントに記載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会ガバナンス論 (S)

15549

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ガバナンス(governance)という言葉は、社会科学の様々な分野で、様々な意味で用いられています。この講義では政治・行政分野における「ガバナンス」を理論的、実証的に示します。

政治・行政の分野ではガバナンスは大きく分けて二つの意味で用いられています。一つは政策の形成過程・運営過程への関係者(住人、NPO、企業等)の参加、もう一つは行政組織の効率化の試みです。両者とも、従来の行政機構(government)が時代のニーズを捉えきれていないことや、行政活動において資源が有効に使われていないことに対する不満から生まれました。

講義では、ガバメントが機能しない理由、ガバメントからガバナンスへの動き、ガバナンスとガバメントの補完関係などについて考えてゆきたいと思います。なお、具体的事例を取り入れながら講義を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

・ガバナンスの必要性を理解していること。
・ガバナンスのための仕組みを理解していること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入:ガバナンスとは何か？	社会ガバナンス、コーポレート・ガバナンス
第2回目	ガバメントとガバナンス	官僚制
第3-4回目	なぜ行政改革が必要なのか？	地方自治改革
第5回目	行政活動をシステムという視点から考える	ネットワーク、資源の交換
第6回目	政策ネットワーク	コーディネート
第7回目	政策ネットワークから見る家族政策の変化	日本型福祉
第8回目	政策決定過程の変容	多元主義
第9回目	小テスト	
第10-11回目	福祉提供の「バランスのとれた」役割分担へ向けて	政府の失敗、市場の失敗、ボランタリーセクターの失敗、福祉多元主義
第12-13回目	NPOの役割	社会サービス、財源、供給、規制・監視
第14回目	政府の役割の変化	財政援助方式
第15回目	まとめ:福祉国家から福祉社会へ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、インターネット上、日常生活の中に見え隠れしている「ガバナンス」の情報に注意しておいて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本問題や概念について理解しているかどうか、また、それを自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。
平常点評価	10 %	出席状況と小テストで判断する。小テストでは、講義内容の理解度を確認する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とかかわらせながら、講義を聞いて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

講義中に適宜、指示します。なお、講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家のガヴァナンス	武智秀之／ミネルヴァ書房／4-623-03772-X／
福祉社会:社会政策とその考え方	武川正吾／有斐閣／4-641-12119-2／

講義中に適宜、指示します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、指示します。

その他 / Others

社会史 (S)

15560

担当者名 / Instructor　鈴木 栄樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:明治の文明開化と都市社会の諸相

日本の近代国家の形成過程は、同時に新たな近代都市の建設過程でもあった。それまでに形成されてきた都市社会は、近代国家の建設と資本主義経済の移植過程でどのように変貌していったのであろうか。講義では、ほぼ明治期を広い意味での文明開化の時期としてとらえ、主に京都を事例としつつ、適宜その他の都市にもふれながら、その都市化の過程にみられる特徴的な諸問題について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な問題を抱える現代日本の都市の生成過程について、とくに京都を事例として、その直接の起原にさかのぼり、歴史的な視点から考察する。その際、歴史のなかの様々な都市一般に共通する点と、建設期の日本の近代都市、とくに京都に見られる特徴とを意識的に比較考察する知的姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	近代化と都市化
2	幕末期の京都　1850年代～67年	京都の政治都市化、災害と戦火のなかの京都
3	明治初年の京都(1)　1868年～70年代半ば	天皇東幸(車駕東幸)、遷都と奠都
4	明治初年の京都(2)1860年代末～1888年頃	京都の文明開化、町組から番組へ、番組小学校の建営
5	明治初年の京都(3)1860年代末～1888年頃	京都の殖産興業、専門教育と実業教育、勧業場と舎密局
6	明治中期の京都(1)1880年代を中心に	琵琶湖疏水の開削、伝染病と衛生問題、交通と運輸
7	明治中期の京都(2)1890年代前半	市制特例下の京都市、平安遷都1100年記念祭、第4回内国勧業博覧会
8	明治中期の京都(3)1890年代後半	日清戦争、市制特例の撤廃、公同組合の設立
9	明治後期・大正初期の京都(1)	内地雑居と観光、都市と衛生
10	明治後期・大正初期の京都(2)	日露戦争と地域社会
11	明治後期・大正初期の京都(3)	三大事業の構想と実施、都市経営
12	明治期京都の都市問題	工業化、貧困、差別、衛生
13	明治期京都の娯楽と大衆文化	新京極、演劇と映画、百貨店、性文化
14	大正期の日本の都市と京都	工業化の進展、都市計画法、関東大震災
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講にあたっては、日本近代史全般についての概括的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能なように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述筆記試験。事前にある程度の示唆を与えるので、それに対して準備しておくことが望ましい。
平常点評価	20 %	随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。定期試験の評価を主としつつ、講義に対する積極性如何を加味して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ノートのとり方に工夫を心がけてほしい。板書を機械的に写すだけのノートでは意味がない。黒板のスペースは限られているが、ノートは十分なスペースがあるのだから、口頭で述べたこと、あるいは自分で調べたことなどを書き加えたりするなど、オリジナルノートを作成してもらいたい。また、歴史は現代的な関心から学びとられるものであるから、常に現代の国内外の動きと関わらせながら自分なりの問題関心を培ってほしい。

教科書 / Textbooks

特になし。随時プリントにて配布

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
みやこの近代	丸山宏編・伊從勉編・高木博志編／思文閣出版／978-4-7842-1378-8／2008年3月刊

鈴木の論文も収録

近代京都の改造―都市経営の起源1850～1918年―　伊藤之雄編著／ミネルヴァ書房／4-623-04517-X／2006年4月刊、鈴木の論文も収録

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://web.mac.com/hikonyan070424/Shakaishi/TOPPAGE.html
本講義関係のサイト
http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/index.html
京都市歴史資料館情報提供システム　フィールド・ミュージアム京都
http://www.pref.kyoto.jp/archives/
京都北山アーカイブズ

その他 / Others

社会発展論（S）

15579

担当者名 / Instructor　伊藤 正純

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ヨーロッパ近代市民社会の誕生。20世紀初頭の「社会主義」国家の誕生（ソ連）。大衆消費社会（アメリカ）。スウェーデン型社会民主主義国家の原型。戦後資本主義の黄金時代（高度成長期・フォーディズム）、20世紀末のポスト・フォーディズム。資本主義の多様性。以後、主に北欧諸国（特にスウェーデン）の諸政策（社会科学の実験）を取りあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

社会発展論は、社会的経済的進歩について考察するものである。だが、何をもって社会的経済的進歩とみるか、また何が社会的経済的進歩を牽引しているとみるかで、見方は様々である。本講義では、北欧諸国（特にスウェーデン）を現状では社会発展の先端を行っているとの観点から取りあげる。講義時間数の関係で日本との比較は詳しくはできないので、この点は各自で考えてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9／30	社会発展とは何か	近代市民社会　近代的法規範の成立（アダム・スミス、共感　神の見えざる手）、市場経済、資本主義
10／7	社会主義とは何か	マルクスの個体的所有の再建論、コミュニズム論、ロシア革命（1917年）
10／14	社会民主主義とは何か	スウェーデン社会民主労働党政権の誕生（1930年代）、社会民主主義の理念と実験
10／21	アメリカでの大衆消費社会の出現	自動車（大衆車）、フォード・システム、1920〜30年代
10／28	資本主義の黄金期（高度成長期）とその崩壊（1970年代後半以降）	フォーディズム、ポスト・フォーディズム、レギュラシオン理論
11／4	北欧諸国の豊かさ（1）	政策の組み合わせ（policy mix）、平等と効率の両立、普遍的福祉、強い国際競争力
11／11	北欧諸国の豊かさ（2）	雇用政策と社会保障との連携、デンマーク、スウェーデン、積極的労働市場政策
11／18	北欧諸国の豊かさ（3）	スウェーデンの公正な選挙制度
11／25	北欧諸国の豊かさ（4）	スウェーデンの租税制度の特徴、公共の責任、税に対する高い信頼
12／2	北欧諸国の豊かさ（5）	スウェーデンにおける「分権型」福祉社会への転換
12／9	北欧諸国の豊かさ（6）	スウェーデン　高齢者医療制度改革と年金改革
12／16	北欧諸国の豊かさ（7）	スウェーデンの知識基盤社会に適応した教育改革（1990年代）、高校改革と成人教育改革
12／23	北欧諸国の豊かさ（3）	スウェーデンの知識基盤社会に適応した教育改革（1990年代）、大学改革
1／6	日本社会を考える（1）	財源の確保が不十分。すべての政策が中途半端。たとえば、雇用政策、若者政策。
1／13	日本社会を考える（2）	公共の責任領域と規模を再構築するために。国家形成の理念を再検討することが必要。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純編著／桜井書店／4-921190-16-X／
貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン	竹崎孜／あけび書房／978-4-87154-078-0／

教育改革の国際比較	大桃敏行他編／ミネルヴァ書房／978-4-623-04975-2／
スウェーデンの挑戦	岡沢憲芙／岩波書店／4-00-430177-7／
希望の構想	神野直彦・井手英策編／岩波書店／4-00-022553-7／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

環境ライフスタイル論（S） § 消費者環境論（S）

13373

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：　気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動（climate change、温暖化）が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。

・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。

・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。

・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia　に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。

・消費者部門から発生する環境負荷のついて、基礎的知識を獲得する。

・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。

気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース.とビデオ。	気候変動と温室効果ガス削減対策、環境教育、環境社会学、消費者教育
2	気候変動の現状に関する海外DVDおよびニュース：　An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	温室効果ガス、放射強制力、climate inertia
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	放射強制力、温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia。海洋における熱エネルギーの蓄積。 重要なthresholds。「危険な気候変動」。2℃上昇のリスク
4	温室効果ガス排出削減パス、必要な排出削減量	温度2℃上昇、3℃上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇リスク。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。先進国と途上国の責任分担
5	京都議定書および主要国の温室効果ガス排出状況	主要国の温室効果ガス排出状況、UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。主要国の温室効果ガス削減目標値、ポスト京都議定書をめぐる議論の要点
6	気候変動の消費者生活への影響	熱波、洪水、台風、高潮の影響。熱波マニュアルについて（イギリスの熱波警報システム（Heat-Health-Watch）、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか。洪水被害の実態ととEUにおける洪水対策。
7	消費者向け温室効果ガス削減対策、その1：	住宅における断熱性能の改善。省エネ性能住宅。
8	消費者向け温室効果ガス削減対策、その2：製品の環境ラベル	家電製品に関する省エネラベルの役割、各種の環境配慮製品の環境ラベルの制度、EUエコラベル。エコマーク、エコリーフの読み方。
9	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入の意味	風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。欧州における再生可能エネルギー産業の成長。住民による再生可能エネルギーの導入例。
10	EUにおける気候保全対策と家庭向けプログラム	EUの再生可能エネルギー目標、EUの温室効果ガス削減目標、家庭向けの削減対策、住宅の省エネ断熱性能改善の取り組み。EUの環境教育における温室効果ガス削減の教育
11	交通部門における温室効果ガス削減策。	EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。

12	食料自給率と気候変動	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率、フードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。
13	温暖化対策における消費者教育の重要性	消費者政策、消費者教育、温暖化に関するEUの消費者教育プログラムの検討
14	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む	海外のメディアが伝える気候変動と温室効果ガス削減対策に関するニュースをよむ。授業中に、各自、最低一つは読んで、分析を行う。
15	講義を振り返り、質疑応答を行う。小レポートについて、コメントする。 家庭からの温室効果ガス削減対策について、事例を紹介する。	講義中に最終の小レポートを行う。温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。
最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりの小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。
気候変動（climate change、または温暖化）は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science（気候変動科学）の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報――温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策――」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」「日本の科学者」2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ（http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka）
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) （http://www.ipcc.ch）

その他 / Others

人口論（S） §　生活構造論（S）

15610

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

マルサスが「人口の原理」で提起した「食糧と人口の関係に関する命題・仮説」の再考をこの講義の「縦糸」とし、人口再生産と生活構造の関係に関する知識・理論を「横糸」とします。そして日本の過去300年の人口規模と人口行動（経験）を、歴史人口学と生活構造論の視点からデータに基づいて概説していく。そうして、現代の先進諸国と開発途上国の人口問題・生活問題の本質を理解する一助とします。トピックは、人口維持と生活水準、人口の少子・高齢化、飢饉疾病と危機的死亡増、中絶と生活水準など。

到達目標 / Attainment Objectives

人口を長期的に観察するどういうメリットがあるのか。日本の歴史人口学と生活学の成果、オリジナル資・史料、省庁公開データなど具体的データ・事例検討を通じて理解し、予測することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論（講義解題、基礎概念、人口の現在）	マルサスの命題、人口の定義、世界の人口問題、現代日本の人口問題、world population clock
2	VTR－1「寿命」（アフリカ・シエラレオネ）＋（小ペイパー）	シエラレオネの概要、乳児死亡、平均余命、GIS data map
3	人口再生産と生活構造－Ⅰ	生活構造概念の生成史、サラリーマンの誕生、家族論
4	人口再生産と生活構造－Ⅱ	家族論、家計論、支出曲線と家族周期
5	VTR－2「サラリーマンの誕生」（日本）＋（小ペイパー）	東京市、産業化・都市化、明治大・正期、腰弁、学歴と賃金（帝大卒と私大卒）
6	人口再生産と生活構造－Ⅲ	労働力の保全、生活時間・空間論
7	人口再生産と生活構造－Ⅳ　world population clock	階級・階層論、現代日本の人口規模・構造（populaion bonus, population onus）・2050年予測
8	VTR－3「医療革命・集団検診」+（小ペイパー）	昭和農村の戦前・戦後（人口増加への助走）、佐久病院、病気と呪術、栄養水準、女性
9	近世人口論－Ⅰ（人口データの取得）	江戸システム、幕府・諸藩の文書体系、細川氏の人口調査
10	近世人口論－Ⅱ（人口データの取得）	村方・町方の文書体系、村絵図の世界、 幕府・諸藩の人口調査、 人口史料の取得法
11	近世人口論－Ⅲ（東北・太平洋諸藩の人口）	なぜ東北地方か？　仙台藩のアウトライン、推計結果の検証
12	VTR－4「20世紀の食糧生産」（インド、アメリカ、カザフスタン）＋（小ペイパー）	マルサスの命題、緑の革命、略奪農法/有機農法、遺伝子操作
13	近世人口論－Ⅳ（凶作・飢饉と栄養供給）	過去帳、天保飢饉、栄養（カロリー）供給－異常年と平常年〖GISデジタルマップ〗　庶民の暮らし、出産/出生比、人口調節（sex selective）
14	近世人口論Ⅴ（東北諸藩の人口対策）　world population clock	近世末期の人口減少対策：社会調査、移民・植民、育児支援
15	近代日本人口論Ⅰ（東北の藩・県）	東北日本の凶作経験と食糧生産・人口移動〖GISデジタルマップ〗 結論（マルサス命題再考）－講義まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。
平常点評価	0 %	

授業進行その他の理由で授業スケジュール・VTR・CD視聴日などに変更が生じる時は、事前に教室でアナウンス。必要に応じて出席を3～4回とり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
18・19世紀の人口変動と地域・村・家族―歴史人口学の課題と方法―	高木正朗／古今書院／978-4-7722-4114-4／授業に直接関連した参考書
人口で見る日本史	鬼頭　宏／PHP研究所／978-4-569-69204-3／日本人口の規模を通史的に概観した入門書
人口学への招待―少子・高齢化はどこまで解明されたか―	河野稠果／中公新書／978-4-12-101910-3／現代日本の人口問題の入門書
我が国の人口動態	厚生労働省大臣官房統計情報部（編）／厚生統計協会／最新版／日本の人口動態指標をコンパクトにグラフ化（安価に入手可能）

人口学の基本用語は「人口学大事典」（日本人口学会,2002）を参照するとよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mhlw.go.jp/（厚生労働省HPの統計を参照）、www.cao.go.jp/（内閣府HP）
www.stat.go.jp/（総務省統計局HP）、www.ipss.go.jp/（国立社会保障・人口問題研究所HP）
google, yahooなどで省庁・機関名を入力してアクセス。

その他 / Others

◎VTR・CDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布する。②残りは、次週まで（1週間）以学館レジュメboxにおかれる。

生活文化論（S）

15508

担当者名 / Instructor　中村 治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

環境破壊の原因を思想に求めるのではなく、暮らしの変化に求める。そして戦後に暮らしの大きな変化が起こるまで、どのように暮らしが営まれていたのか、それがどのような過程を経て変化し、その結果、どのような問題が起こってきたのか。昔の暮らしぶりを写した写真を見ることにより、身近な暮らしの変化から、現代社会がかかえる諸問題を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

自分の身近なところで起こっている変化を見つめ、その変化の原因について考え、その変化と自分とのかかわりについて考える力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ　生活文化の消失。現代の暮らしの見つめなおし。	キーワード　生活、文化
第2回	テーマ　かつての暮らしを想い出すための手がかりとしての写真、聞き取り。	キーワード　写真、聞き取り
第3回	テーマ　写真の歴史。生活遺跡。	キーワード　写真、生活遺跡
第4回	テーマ　暮らしの変化が始まる前の京都近郊農家の一年	キーワード　米、麦、野菜、豆、自給自足
第5回	テーマ　食	キーワード　地産地消
第6回	テーマ　農作業の機械化	キーワード　購入費用、保管場所
第7回	テーマ　暮らしの機械化	キーワード　電化
第8回	テーマ　運搬方法の変化	キーワード　汽車、電車、バス、トラック、車
第9回	テーマ　燃料の問題	キーワード　山林荒廃、地球温暖化
第10回	テーマ　廃水処理の問題	キーワード　電動ポンプ、水道、すいも、下水処理、水質悪化。
第11回	テーマ　子どもの暮らしの変化	キーワード　地域共同体、地域の目
第12回	テーマ　冠婚葬祭の変化	キーワード　地域共同体、葬列
第13回	テーマ　小学校卒業写真に見る暮らしと風俗の変化	キーワード　洋服、学生服、髪型、戦争
第14回	テーマ　学生による発表	キーワード
第15回	テーマ　学生による発表	キーワード

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

古い写真を家族、親戚、知人から借りて、コピーし、その写真が暮らしの変化においてどのような意味を持っているのか聞いて、発表すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	0 %	小テスト。
レポート試験	60 %	身近な問題を取り上げること。独自の資料を集めること。聞き取りをしていること。
平常点評価	40 %	身近な問題にどれだけ関心を持っているか。 写真についての聞き取りの成果の発表。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分の身近なところで起こっている変化に注意し、その変化の原因について考え、その変化を自分との関係において考える力を養うこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『あのころ京都の暮らし』	中村治／世界思想社／4-7907-1095-5／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『京都洛北の原風景』	中村治／世界思想社／4-7907-0816-0／2000年
『癒しの里・洛北岩倉』	中村治・青山純／／／2000年
『京都府レッドデータブック』下巻（地形・地質・自然生態系編）	京都府企画環境部企画課／／／2002年

『洛北岩倉研究』第1号～第8号	岩倉の歴史と文化を学ぶ会／／／1997年～2003年
『卒業写真で見る暮らしと風俗の変化』	中村治、岩倉の歴史と文化を学ぶ会／／／2003年
『古写真で語る京都―映像資料の可能性―』	京都映像資料研究会編／淡交社／4-473-03149-7／2004年
『洛北岩倉』	中村治／コトコト／／2007年
『洛北八瀬』	中村治／コトコト／／2008年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

多文化共生論（S） § 多文化共生論（I）

15496

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）多文化性について理解する。
2）自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する
　方法を理解する。
3）多文化共生問題の本質を理解する。
4）問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5）具体的に提案し活動していく力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入：映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出（以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する）
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？ Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？ Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験（60点）
平常点評価	40 %	レポート4回（40点） ＋その他の感想レポートを総合評価する

ただし、受講生数によっては、最終講義試験をやめて、レポート4回と最終レポートによる総合評価へと変更する可能性もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。な ぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

都市政策論（G）

13319

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のグランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

都市の地域特性の把握方法、地域特性に対応した政策立案の実例についての知識、政策技法のトレーニング

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「都市論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	教養としての「まちづくり」 －都市政策を学ぶ意義を考える－	まちづくりコーディネーターの職能
第2回	景観の扉を開けると、「まちづくり」が見えてくる	景観、景観保全地区、景観機構、ランドマーク、京町家、国家戦略
第3回	京町家の再生　－市民社会と地域社会－	パリ、パッサージュ、京都の袋路、細街路、密集市街地、建築基準法
第4回	京町家の再生②	国際戦略とファンドレイジング
第5回	住民自治組織の持続性と多様化	京都の都心部のまちづくり活動と住民組織
第6回	コミュニティのパワーが地域を再生する	学区のまちづくり活動
第7回	企業とのパートナーシップで拓く「まちづくり」	住宅開発の新しいシステムの紹介
第8回	地域まちづくりに行政はどう関わるか	行政マンの苦悩を考える
第9回	リサーチ・デイ①	フィールドワーク
第10回	まちづくりとNPO	第二次ハーレムルネッサンス、タイムズスクエア、コモングラウンド、自治体行政
第11回	都市の危機管理①　阪神大震災の教訓	自然災害、人災、復興計画、マンション建て替え問題、コミュニティ
第12回	都市の危機管理②　グラウンド・ゼロの復興をめぐる攻防	建築家、コンペ、政治、闘争、妥協
第13回	都市の危機管理③　犯罪都市の増加と対策	ロンドン、犯罪、監視カメラ、移民排斥運動、コミュニティ、ネットワーク
第14回	人権コミュニティの創造	京都、被差別部落、人権、文化、近代化遺産、保存運動、まちづくり、京都再生
第15回	リサーチ・デイ②	フィールドワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
まちづくりコーディネーター	リム　ボン（編）／学芸出版／／2009年9月刊行予定

開講までに教科書を必ず購入しておいてください。

参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

＊学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。

＊試験の問題はすべて授業中に解説した内容をもとに作成します。

都市論 (S)

13274

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

古代から未来までの時間軸で都市の歴史的変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテクストを解読する能力を養うことを目的としている。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史都市の概念の把握、都市の基本構造の理解、京都を舞台としたフィールドワークの実践力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	歴史都市の光と影	歴史都市、京都、ニューヨーク、プラハ、フィレンツェ、北京、空間、建築
第2回	京都の近代化と都市政策	明治維新、遷都、都市再生、町衆、番組小学校、先端技術、伝統と革新の融合
第3回	京都の地下水脈と都市文化	水上都市、伝統産業、下賀茂神社、上賀茂神社、風水思想
第4回	竜安寺の石庭と京都文化	仏教、石庭、被差別部落、襖絵、ニューヨーク、中国
第5回	ニューヨーク①・マンハッタンの誕生から現在まで	氷河、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第6回	ニューヨーク②・マンハッタンの20世紀	ボヘミアン、経済の隆盛、都市文化の開花、ハーレム・ルネッサンス
第7回	ニューヨーク③・第二次ハーレムルネサンス	アフリカン・アメリカン、ハーレム、スラム、都市再生、NPO
第8回	ニューヨーク④・国連ビルの建築をめぐる建築家たちの攻防	ル・コルビュジエ、建築家、デザイン、権力闘争
第9回	リサーチ・デイ①	フィールドワーク
第10回	ベルリン①・都市文化の紹介	ドイツ、東西冷戦、建築、都市構造、食文化、経済
第11回	ベルリン②・都市構造	古地図、ヒトラー、近代都市計画、統一ドイツ、労働者
第12回	上海の都市と建築	外国人租界、経済成長、未来都市、再開発、住民の立ち退き
第13回	京の都市文化	首都機能、都市設計、四合院の建築、オリンピック、再開発
第14回	韓国の都市文化	ソウル、釜山、植民地経営、近代化遺産、日本町、保存と再生、清渓川の再生
第15回	リサーチ・デイ②	フィールドワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

参考書等は授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

＊学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。
＊試験の問題はすべて授業中に解説した内容をもとに作成します。

日本経済論（S）

13354

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の景気回復状況および国民生活の諸相について、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「現代経済論」と連結しておりその後半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	はじめに－日本経済の概況	
2.	市民社会と企業社会	
3.	大企業体制の2類型	
4.	国家財政の動向	
5.	勤労者層の賃金構造	
6.	同上．労働諸条件	
7.	外国人労働者問題の現状	
8.	農民層の経済生活条件	
9.	中小企業経営の現状	
10.	国民の所得構成	
11.	同上．資産構成	
12.	社会保障の現状と問題点	
13.	住宅・土地問題	
14.	まとめ	
15.	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ネットワーク論（S）

15545

担当者名 / Instructor　堀 孝弘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ITネットワークを扱う講座ではない。市民活動における人づくり、コミュニケーションスキル、組織運営、ネットワーク構築について原則および実践事例などを紹介する。学園生活だけでなく社会に出てからも役立つスキルや考え方を、座学だけでなく「受講者参加ワーク」も用いて体験的に修得する講座である。知識を提供するだけでなく、「知恵」を育む講座である。

また、理解を深めるうえで情報のもつ意味は大きく、市民セクターの成長やセクター間協働について、講師自らの活動経験を含めて、環境ネットワーク活動の最新事例も紹介し受講者の視野を広げる。

なお、本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

到達目標 / Attainment Objectives

将来にわたり活用できる人的ネットワーク構築、および団体運営の基本スキルの修得（社会の「小さなハブ」になる）
セクターを越えた協働社会の構築に向けた、市民セクターの活動成果と可能性の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

景観デザイン論、環境形成論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業概要および講師紹介 ネットワークの基礎理解と実際 （情報、機会、カネ…、持てる者がますます豊かになる社会とどう向き合う）	事例紹介「世界は6次の隔たりでつながっている？」 【参加ワーク】人と人とのつながりを豊かに（非攻撃的自己主張の体験）
第2回	人と人のつながり 対人コミュニケーションの発想転換　コーチングの基本	ゲームの理論からWin-Winの関係構築へ 【参加ワーク】質問力を高めよう（詰問からOpen Questionへ）
第3回	団体の運営　1 意義のある活動を継続的に生み出すには	目的と目標、問題と課題、ミッションとビジョンの違いなど 【参加ワーク】緊急性と重要性の整理
第4回	団体の運営　2 共感を得る活動企画の基礎理解（マーケティングとポテンシャル）	リーダーとコーディネーター、ネットワークが必要になるとき 【参加ワーク】ポテンシャル分析（あなたの持っている30の顔）
第5回	団体の運営　3 活動構築に必要な手順等の確認（実際の活動事例から）	事例紹介「環境ネットワーク活動の活動事例その1　日本の環境首都コンテスト全国ネットワーク」 ここまで伝えた団体運営に必要な手順などを、実際の活動事例を通じて確認する。 【参加ワーク】リーダーに必要な要件優先順位づけ
第6回	会議の効率的な進め方　1 誰も発言しない会議、何が決まったかわからない会議を卒業しよう	会議での意見の引き出し方、ブレーンストーミングの4つの約束など 【参加ワーク】会議の「次第」をつくろう（会議の議題と進行の整理）
第7回	会議の効率的な進め方　2 会議で出た意見の整理	KJ法の基礎理解　意見の整理分類。関係と階層を考え、課題を明らかにする。 【参加ワーク】意見の分類と整理をしてみよう（滅茶苦茶な意見、反論、質問で混乱した会議をまとめよう）
第8回	会議の効率的な進め方　3 透明性のある合意形成 幾つかの手法紹介と手法活用の留意点	事例紹介「合意形成手法　衆目評価法　一対比較行列評価など」 【参加ワーク】弱小チーム改造計画A～C案　合意形成手法体験
第9回	団体内での人づくり 肯定的指導と弱点の克服。プロセス評価と成長への助言（コンピタンシー評価との違い）	エンパワーメントと次世代リーダー育成 【参加ワーク】プロセス評価を体験しよう
第10回	仲間の拡大　異セクター協働 市民・事業者・行政、立場の違う人たちの協力に何が必要か	事例紹介「地域計画策定への住民参画」 【参加ワーク】コーディネーターの出番（のび夫とスネ太とジョイアンの3すくみを解消しよう）
第11回	ビジョンを実現する力 バックキャストで考える未来　バックキャストとフォアキャスト	事例紹介「スウェーデンの緑の福祉国家構想」から 【参加ワーク】20年後の夢をバックキャストで考える（いかにして自分の夢に近づくか）

第12回	適応力・対応力 先進事例を、自分たちの事情にあわせてアレンジする力	事例紹介「環境ネットワーク活動の活動事例その2　グリーンコンシューマー活動の地域展開とネットワーク」 【参加ワーク】できない理由さがしから、できる条件づくりへ
第13回	思いをかたちにする 活動企画に必要な要件　PDCAサイクルでの活動の展開・深化	「企画」とは、あこがれの人へのアプローチと同じ 【参加ワーク】活動を企画してみよう
第14回	思いを伝える プレゼンテーションの基礎理解	短時間で要点をまとめる「アンチ・クライマックスオーダー」 【参加ワーク】思いを伝える　アンチ・クライマックスオーダー体験
第15回	自己実現に向けて 人権と平和のために闘ってきた人たち	日々の時間の使い方　クワドラント分析 【参加ワーク】学びのふりかえりと分かち合い

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講師が各回提示・提供した情報等を、応用でき得るよう咀嚼・理解しているか
レポート試験	3 %	授業内で提示　市民活動の発展と可能性の理解(A4・1枚程度)
平常点評価	37 %	出席を重視するが、単に「出ている」だけでなく、受講姿勢と授業理解について各回提出の「授業感想」により判断する

本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

下記の行為は授業妨害とみなし、当該学生を「F」評価とすることがあり得る。

他の受講生の受講妨害(授業中の私語、大幅な遅刻や頻繁な途中入退室など)

授業中の携帯電話の使用(Eメールの送受信を含む)

参加ワークの不参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.kankyoshimin.org/

講師堀が事務局長を務める「NPO法人環境市民」のWebサイトである。環境市民は、国内でも活動内容のユニークさや先進性で注目されている団体である(2004年度グリーン購入大賞環境大臣賞受賞、2005年度京都府環境トップランナー賞受賞、京都新聞2005年元旦社説での紹介等)。授業でとり上げる活動が紹介されているので、ホームページの閲覧をすすめる。

その他 / Others

農村環境計画論 (S)

13262

担当者名 / Instructor　浅野 智子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、人的、社会的、自然資源の流出・変容が深刻な農村地域の環境保全にかかる問題構造と計画手法について、総体的に把握することを目的とする。構成は(1)農村地域の環境計画の方法論として、農村の空間的、社会的な特質と制度上の関わり、(2)今日の農村地域における取り組みの現状、(3)ボトムアップ型の計画手法の現状、である。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)農村地域の環境計画の方法論として、農村の空間的、社会的な特質と制度上の関わりについて構造的に把握する
(2)農村地域の環境保全にむけた取り組みの現状と課題について、農村と都市(都市圏および地方都市)との関係から理解する
(3)農村地域のボトムアップ型の計画手法とその現状を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要	自己紹介、講義の目的と進め方、評価方法等の説明
2	環境計画の方法論、農村の社会的・自然的資源	物理的空間と社会的空間、二次的自然、農村集落
3	農村の空間構成と地域単位	集落の空間構造、耕作放棄地、獣害、伝統と近代化、過疎問題
4	農村計画の変遷と現在の計画手法の特徴	都市計画法、農振法、景観法、住民参加
5	農村における住民参加の方法と現状	住民参加、ワークショップ
6	中間まとめ／グループ発表と質疑応答	
7	農村集落保全の取り組み	ナショナルトラスト、世界遺産、古民家活用
8	生産環境保全の取り組み／自然環境保全の取り組み	水田の多面的機能、オーナー制度、中山間地域等直接支払制度、ビオトープ、グラウンドワーク、ため池と流域管理
9	文化・芸術創造の取り組み	語り部、現代アート、エコミュージアム
10	農村と都市の交流事業・グリーンツーリズムの背景	農村と都市の資源の交換、マスツーリズム、ルーラルツーリズム、欧州におけるグリーンツーリズム
11	アジアにおけるグリーンツーリズム	モンスーン気候と農業、地域経営型運営、休暇制度
12	グリーンツーリズムと地域振興および運営組織、規制緩和の現状	ワーキングホリデー、農家民泊、環境教育、旅行業法
13	農村におけるコミュニティづくり	コミュニティにおける階層構造、新規就労支援、高齢者と女性の活躍、定年帰農
14	グループ発表と質疑応答	
15	講義のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回、国内外の農村地域の環境保全、地域振興に取り組む事例を中心に講義を進める。また個人またはグループ作業を課し、提出してもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	講義で紹介した事例や個々人の事例調査から、仮説を組み立てる試験を実施するので講義期間中にフィールドワークを自主的・積極的に行うこと。評価は、仮説の組み立て能力と自主調査能力の2つより行う。
平常点評価	60 %	講義中に個人およびグループでの作業してもらい、2度発表する機会を設け、これを評価の対象とする。作業および発表への不参加は原則として認めない。また講義の中で意見シートを配布、回収し、講義に対する質問や感想等を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近畿圏の事例を積極的に紹介するので、可能な限り視察にいくこと。

教科書 / Textbooks

各講義で資料を配付する。また講義の中で、参考文献やサイトを紹介するので、自習すること。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

15527

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

男女の「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、身の回りの様々な場面をジェンダー状況という視点で見直すことの出来る力量を身につけること。同時に、世界各地についてもその視点を生かした理解の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家論などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオ	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当て
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ－日本社会のジェンダー状況－なぜ前進しないのか－	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。

小レポートを数回行う、理解度の確認などコミュニケーション・ペーパーとして活用する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の進捗状況によって、講義日程と内容に変更を加えることがある。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献・資料等は、講義において適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義において適宜紹介する。

その他 / Others

私語・飲食は慎んでほしい。

比較政治論（S）

15541

担当者名 / Instructor　國廣 敏文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人類はこれまで様々な政治制度や体制を経験してきた。だがこれまでに試みられてきたどの政治制度も、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など、人々の生活を十全な形で、平和で公平で安定したものとすることには成功していない。本講義は、こうした状況を踏まえ、主要先進国の政治システムの構造・機能・動態を相互に比較・考察することによって各国政治の特質と問題点とを抽出し、21世紀に相応しい政治の在り方＝"新しい政治"の在り方を模索することを目的とする。その際、何よりも事実に基づく分析によって、各国政治に関する正確で具体的な知識の取得とそれらを昇華させた形で日本政治改革への視点を得ることも視野に入れたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・比較政治の方法と意義を理解する。
・それらを踏まえ、各国政治の歴史と特質を知る。
・自分の国ならびに社会の諸問題を考える視点と材料を発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

グローバルな視点から国家と社会を見るために、「現代政治論」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ．比較政治学の方法	歴史―アリストテレス、モンテスキュー、アロン―　比較政治学
第2回	比較政治学の現代的アプローチ―歴史と構造―	現代の比較政治学の方法と課題
第3回	比較の指標	比較政治の指標
第4回	Ⅱ．各国政治の制度的特質と現状―憲法、中央・地方自治、改革の現状	アメリカ合衆国建国の歴史と憲法の特質　連邦主義と立憲主義
第5回	アメリカ合衆国の政治―大統領制―	現代アメリカ合衆国の政治
第6回	カナダ政治の歴史と特質	カナダ政治
第7回	イギリスの建国と歴史	イギリス政治
第8回	イギリスの政治―議院内閣制―	議院内閣制
第9回	フランス建国の歴史	フランス政治
第10回	フランスの政治―半大統領制―	半大統領制
第11回	ドイツ建国の歴史	ドイツ
第12回	ドイツ政治の歴史と特質	ドイツ政治
第13回	イタリア政治の歴史と特質	イタリア政治
第14回	ヨーロッパ小国の政治	スイス、ベルギー、オランダ
第15回	Ⅲ．まとめ－各国政治の歴史と特質の概括－	新しい政治の在り方を求めて―日本の課題―　日本政治の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

普段から新聞やニュース、各国のHPに目配りをしておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義の内容への理解度と学習の到達度を確認する
レポート試験	20 %	講義内容に関わるレポート、あるいは特定のテーマでのレポート課題を課す
平常点評価	10 %	出席点を加味する

＊定期試験として実施 成績評価＝単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としつつ、レポートと出席点も加味して総合的に判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

内容が盛りだくさんなので、授業のスピードは速い。したがって、テキストを事前に読んでおくことと、授業終了後には、得た知識や視点を振り返って、更なる学習をすることが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新版　比較政治制度論』	田口富久治・中谷義和編／法律文化社／／

授業に際してレジュメを配布するとともに、参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の際に紹介する。

その他 / Others

「私語」は、自の学習権の放棄であると同時に、他人のそれの侵害であるので、厳禁する。

文化経済論（S） §　文化経済論（W）

15494

担当者名 / Instructor　金武 創

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化経済学の基礎的理解

これまで相反するものと思われがちであった、「文化」と「経済」の関係を価値規範やライフスタイルの変化の視点から捉えなおし、これからの企業やNPO、中央政府・地方自治体のあり方を考える。授業では、理論／実証研究の解説と関連話題（VTRや新聞）の提供という組み合わせで進めていきたい。以下のテーマを順番にすべてやるわけではないが、教科書の内容に即して、できるだけふれていきたいと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

文化経済学の基本問題や概念を幅広く理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	芸術作品とオークション	オークション
2	芸術文化と市場	価格、需要と供給
3	文化的価値と経済的価値	支払い意思
4	芸術文化の消費	1980年代の消費文化
5	芸術文化の生産	高層建築とデザイン
6	芸術文化と情報	出版とブログ
7	文化資本の考え方	世界遺産
8	文化政策と地域文化	インフラストラクチャー
9	慈善事業のためのギャンブル	サッカーくじ
10	温泉観光とまちづくり	情報の非対称問題
11	埋蔵文化財の経済学	町並み保存
12	衰退する音楽CD	ミリオンセラー
13	スポーツNPOの経済的利点	規模の経済と範囲の経済、障害者スポーツ
14	都市空間とパブリックアート	公共財の理論
15	舞台芸能としての落語	メディア戦略とライヴの発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ただし、平常点評価を基礎とすることに注意してほしい
平常点評価	30 %	

割合は高くないですが、平常点評価が成績評価の基礎になります。始業時間すぐに出席確認と授業導入を兼ねた課題を実施しているので、遅刻しないこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・教科書を入手し、毎回の授業で持参してくることを前提に授業を進めます。
・受講人数によっては、成績評価の方法を変えるかもしれません。人数確定後、授業内で伝えます。
・時事問題等を優先して扱うので、授業の順番は入れ替わる可能性がありますが、期間内に教科書全てにふれるつもりです。
・始業時間を守ってください。平常点をいろいろな方法で評価する予定です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文化経済論	金武創・阪本崇／ミネルヴァ書房／／2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

労働社会学 (S)

13297

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

バブルが崩壊してからおよそ15年の間に、日本の雇用（仕事を得ること）や労働のあり方（働き方）は急激に変化し、それが私達の生活や意識にも大きな影響を与えている。授業では、他の国の状況と比較しながら、雇用や労働のあり方がどのように変化し、それが私達の生活にどのような影響を与えているか考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

雇用や賃金に関わる新聞記事やニュースを、その背景まで含めて十分に理解できるようになる。

また授業をきっかけにして、自分はどのような仕事をしたいのか、あるいはどのような働き方をしていきたいのか自分なりのイメージを持てるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	労働社会学で何を学ぶか	
2	労働力の需要構造	
3	多様化する雇用：パート、派遣、請負という働き方	
4	非正規雇用の増大と格差問題	
5	女性雇用の現状：M字型雇用と少子化	
6	女性雇用政策の国際比較1：育児と仕事の両立	
7	女性雇用政策の国際比較2：男女雇用機会均等法	
8	働きすぎと過労死1：労働時間の国際比較	
9	働きすぎと過労死2：長時間労働の背景にあるもの1	
10	「新しい」働き方：変形労働時間制、裁量労働制	
11	失業率とは何か？	
12	各国の失業の状況	
13	若年と高齢者の雇用：フリーターは日本だけの問題か？	
14	フリーターについて考える	
15	高齢者雇用の現状と課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義内容の理解度。
平常点評価	0 %	場合によっては出席を加点することがある。

授業への出席が少ない場合、試験で合格点を取れないことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やテレビ等で、雇用、働き方、賃金にかかわる記事や番組があったら、興味を持って見て欲しい。また、身近に働いている人がいたら、授業で興味を持ったことをいろいろ質問（インタビュー）してみることも有益である。

教科書 / Textbooks

必要な資料は、授業中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の労働問題(第3版)	笹島芳雄／中央経済社／450236150X ／
雇用不安	野村正実／岩波書店／4004305675／
日本的雇用慣行	野村正實／ミネルヴァ書房／4623049248 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

労働政策研究・研修機構　http://www.jil.go.jp/

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

アートマネジメント論（S）

13313

担当者名 / Instructor　森口 まどか　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

そもそもアートマネジメントとは。芸術をmanage（マネージ／運営・管理）するとはどのような事柄を意味するのだろうか。一般に、アートマネジメントによって芸術と社会を結び、双方がより良く生かし生かされる方策を考え出すと捉えられている。しかしながら、その前提である現代社会においてなぜ芸術は必要か、ということをまず問はなくてはならないだろう。

近年、国立博物館・美術館・文化財研究所が独立行政法人化されたり、指定管理者制度の導入に伴い公共文化施設の管理者やその運営方法が審議されたりと、わが国における芸術文化施設の在り方が根本的に問い直されている。さらには現在、世界は同時不況に苦しんでおり、芸術をとりまく環境についても新しい視座が求められる。すなわち、芸術と社会が相互に生かされる方策、アートマネジメント領域からの視点がより必要とされることはいうまでもなく、先の問いに検討をくわえることが重要であろう。

本授業では、芸術は社会になぜ必要かを問い、考察する。そのために、近代的ミュージアム形成の歴史および、主に美術分野における国際展やパブリック・アートなどの実例を紹介しながらさまざまな問題点を検証する。そして、次代の芸術の役割について考えてゆきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・芸術と社会の関係についての知見を幅広く論じることができる。
・わが国における博物館・美術館の現状を確認し、その問題点をさまざまな視点から挙げることができる。
・次代のミュージアム像を描いてみることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術、音楽、文学などの芸術全般にわたる基礎的な知識があることが望まれるが、たとえば、美術史概論が事前に必要な履修科目ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	アートマネジメントとは 今日におけるアートマネジメントの必要性を中心に	
第2～4回目	ミュージアムについて:その歴史、社会、思想的背景から	啓蒙主義思想、公共性、蒐集、美術
第5～7回目	オフ・ミュージアムについて 1960年代以降のインスタレーション・アートを中心として	アートセンター、パブリック・アート
第7～8回目	国際美術展その歴史と運営について	
第9～10回目	アーティスト・イン・レジデンスの考え方	コミュニティ、コミュニケーション
第11～12回目	NPO活動とアートについて	独立行政法人化、指定管理者制度
第13回目	「ワークショップ」という在り方	
第14～15回目	まとめ：1.アートの社会的価値について　2.次代のミュージアム	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容を踏まえ、基本的な語句の理解および、現代社会における芸術の役割などについてを問う。自身の視点で論理的に展開記述できるかを評価する。
平常点評価	30 %	授業内容に関する理解度を確認するための設問を出す。実施時期は、前期中頃。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

さまざまな機会を捉えて美術館、コンサートホールなどの芸術文化施設へ積極的に出かけること。そうした機会を増やすところから、芸術と社会の関係を考えてゆくようにすることが望ましい。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アートマネージメント』	伊東正伸、岡部あおみ、他著／武蔵野美術大学出版局／4-901631-52-7／2003年
『進化するアートマネジメント』	林容子／レイライン／4-902550-01-6／2004年
『二十一世紀博物館－博物資源立国へ地平を拓く』	西野嘉章／東京大学出版会／4-13-003317-4／2000年
『創造－現場から／現場へ』	小林康夫・松浦寿輝編／東京大学出版会／4-13-014116-3／2000年、(『表象のディスクール6』
『美術のアイデンティティー』	佐藤道信／吉川弘文館／978-4-642-03778-5／2007年

『アーツ・マネジメント概論』　伊藤裕夫、小林真理、他著／水曜社／978-4880651323／2004年（新訂版）

その他適宜紹介する。
授業内容全般をより理解するための参考書。（『アートマネージメント』、『進化するアートマネジメント』、『アーツ・マネジメント概論』）
特に、美術館についての理解をより広め、深めるときの参考書。（『二十一世紀博物館－博物資源立国へ地平を拓く』、『創造－現場から／現場へ』、『美術のアイデンティティー』）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.nettam.jp
アートマネジメント全般の知識と現在の動向を知るのに参考となる。その他適宜紹介する。

その他 / Others

映像表現論（S）

13325

担当者名 / Instructor　梁 仁實

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、映像メディアと時代とのかかわりを考えつつ、その一つである映画をとりあげる。
映画については、第7芸術と呼ばれた時代の芸術的な側面、そして商業的価値で語られるエンターテイメント性ばかりが重視されてきた。本講義では映画の110年に及ぶ歴史をさぐりながら、そのなかで映像の表現の変化がどのように行なわれてきたのかを考えつつ、映像の社会的意味について考えるきっかけとしてもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・110年に及ぶ世界の映画の発展の歴史の外観が把握できる。
・映画を中心とする映像表現の基礎が理解できる。
・映画を時代や社会との関係から考察することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・映像をはじめとしたメディア分析に関わる科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション：映画の歴史とは？　動く映像のはじまりから映画の誕生までの経緯と時代	リュミエール兄弟、シネマトグラフ、サイレント映画
第2回目	映像のなかの変形：実験アニメーションからアニメーションへ	ディズニ・アニメーション、実験アニメーション、変形、エイゼンシュタインの「アニメーション」論
第3回目	映像の文法1：映画の空間と時間の統辞法　例）『戦艦ポチョムキン』	演出（ミザンセヌ）、モンタージュ
第4回目	1920年代のフランス映画：実験映画を中心とした総合芸術としての映画製作　例）『アンダルシアの犬』	シュルレアリスム、アバンギャルド、第七芸術論
第5回目	ドイツ表現主義とプロパガンダ映画：ドイツと映画　例）『カリガリ博士』『メトロポリス』『民族の祭典』	ウーファ、戦争、第1世界大戦、第3帝国、映画法、レニ・リフェンシュタール
第6回目	日本映画の黄金期：1930年代日本の無声映画と社会　例）『汗』	内田土夢、傾向映画、無声映画
第7回目	プロパガンダと映画2：第二次世界大戦とハリウッド　例）『汝の敵を知れ』	combat film,教育映画
第8回目	プロパガンダ映画と映画3：日本における戦時の映画利用　例）『戦ふ兵隊』	国策映画、文化映画
第9回目	プロパガンダ映画と映画4：「極楽静土」満州　例）『満映ニュース』	満州映画、ニュース映画、李香蘭、大東亜文化圏、5族協和
第10回目	プロパガンダ映画と映画5：娯楽は「敵」なのか。　例）『望楼の決死隊』	国策映画、娯楽映画、戦争映画、映画法
第11回目	戦時中の合作映画：日本とドイツ、日本と朝鮮　例）『新しき土』『愛と誓』	原節子、女優たちと戦争、ナショナル・シネマ
第12回目	ドキュメンタリーの様々な表現　例）『水俣』	土田典昭、ドキュメンタリー、社会派映画
第13回目	映画と社会と政治と歴史の関係　例）『封印された映画～1974年』	インドネシア、日本映画、政治、外交交渉
第14回目	上映禁止、蔵入りされた映画　例）『誤発弾』『異邦人の河』	1960年、韓国、1970年、日本
第15回目	映像表現とは何か　総まとめ、テスト	映像表現、実験映像、表現

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・時間の関係上、講義に関連した作品をすべて見ることは難しいので、できる限り講義で取り上げた作品を各自で見ておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	合計2回のレポートを出してもらい、成績に反映する。
平常点評価	70 %	授業中に受講エッセイを課し、最後の授業で総まとめとテストを行なう。

・受講者の人数等によって、以上のことに変更が生じることがあるが、その場合はなるべくすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・随時具体的な作品を示しつつ授業を進めるが、映画が見られるという安易な考えで受講しても楽しいばかりの作品ではないので、十分に検討し

た後で登録することを勧める。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『映画の教科書	ジェイムズ・モナコ／フィルムアート社／4845983486／映像の文法や映画の記号的性質について、参考になる。
『映画映像史』	出口丈人／小学館／4093874859／映像映画の歴史を概観するのに役立つ。
『ワールド・シネマ・ヒストリー』	アンドレア・グローネマイヤー／昇洋書房／4771015244／『映画映像史』とともに参考にすることを推奨する。
『映画技法のリテラシー〈1〉〈2〉』	ルイス・ジアネッティ／フィルムアート社／4845903547,4845903547／〈1〉と〈2〉合わせて読むと、より参考になる。
『アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷』	増田幸子／大阪大学出版会／4872591771／第2次大戦とハリウッドについての部分を参考にしてほしい。

その他のものについては、随時授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Internet Movie Database(IMDb)　http://www.imdb.com/

その他 / Others

映像ジャーナリズム論（S） § 映像プロデュース論（S） § 映像ジャーナリズム論（W）

15606

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映画やテレビなどの映像によるジャーナリズム活動は、新聞などによる活字のジャーナリズム活動とは違った形で発展してきている。本講義では、まず、映像ジャーナリズムの流れが生まれる前の段階でニュース映画という形態があり、そこにはエンターテインメント性が強く反映されていたことなどについて歴史的にみてゆく。その上で、映像が国家的なプロパガンダを推進するための道具として用いられた時期を経て、最終的にはテレビ映像によるジャーナリズムが誕生してゆく段階を追ってゆく。世界的にさまざまな形態で映像ジャーナリズムが発展してきたが、講義では、特に米国のテレビ・ジャーナリズムの流れについて時間を割くこととする。

1980年代、衛星放送や衛星通信が、東欧の民主化に影響を与えたことなども取り上げ、その中で、映像ジャーナリズムに新しいテクノロジーがどのようなインパクトを与えたかについても考える。さらに新しいテクノロジーが今日の日本の映像ジャーナリズムの現場に、どのような変化を与えようとしているについても検討する。受講生には、映像ジャーナリズムの歴史的変遷を踏まえた上で、映像ジャーナリズムの今日的な課題について、踏み込んで考えてもらえるようになって欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

・映像ジャーナリズムが誕生した歴史的背景が理解できる
・日本や世界の国々において映像ジャーナリズムが直面している課題を理解する
・新しいテクノロジーが映像ジャーナリズムに与えるインパクトについて理解を深める

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム関連科目
映像関連科目
現代史関連科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　映像メディア環境の変化と映像ジャーナリズム	メディアの国際化、メディア資本の集中
2	映像の始まりとエンターテインメント性との関係	リュミエール兄弟、エジソン、ニュース映画
3	映像にジャーナリズム性がどのように加わってきたか	映画とプロパガンダ
4	米国ジャーナリズムの起源と展開（1）	コロニアルプレス、ペニープレス
5	米国ジャーナリズムの起源と展開（2）	ピューリッツアー、ハースト、客観報道
6	電子メディアの台頭と発展（1）米国ラジオ放送の起源とラジオ・ジャーナリズム	ラジオの起源、ウェスティングハウス、KDKA、1920年アメリカ大統領選挙速報
7	電子メディアの台頭と発展（2）テレビ・ジャーナリズムの誕生とニュース・アンカーたち	エド・マロー、マッカーシズム、ウォルター・クロンカイト、ベトナム戦争報道
8	電子メディアの台頭と発展（3）現代の映像ジャーナリズムを支えたニュース・アンカーたち	ピーター・ジェニングス、ダン・ラザー、トム・ブロコウ
9	映像ジャーナリズムが受けた挑戦　メディア・コントロール	スピン、ノーム・チョムスキー、ポリティカル・エコノミー
10	ジャーナリズムとメディアに関する基礎的理論　その1	Media Organization、Source-Reporter Relationships、Simple Gatekeeping Model
11	ジャーナリズムとメディアに関する基礎的理論　その2	Gultung and Ruge's Model、Contexts of News Making
12	テクノロジーが映像ジャーナリズム活動に与えたインパクト	アーサー・クラーク、geosynchronous orbit、衛星放送、CNN、DBS
13	日本の映像ジャーナリズムの台頭と変遷　新聞ジャーナリズムvs.映像ジャーナリズム	日本型映像ジャーナリズム
14	テレビ・ジャーナリズムが政治を動かす時代　1980年代～	サンデーポリティクス、プライムタイムニュース競争
15	まとめ　映像ジャーナリズムの未来	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講生は、日常的に映像ジャーナリズムに連なるニュース番組やドキュメンタリーなどを視聴し、独自の視点で、こだわりをもってそれらを批評できるような力を備えるように努力して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	映像ジャーナリズムを理解する上で重要なキーワード、出来事、概念を的確に理解しているかどうか
平常点評価	30 %	授業出席と授業後のリアクションペーパーの内容評価による

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映像によって世の中の出来事を日々記録してゆく映像ジャーナリズムの営みと理論的な側面をつなぎ合わせながら考えてもらいたい。受講生は、講義内で紹介する議論のポイントや理論的なアプローチについての知識をもとに、映像ジャーナリズム活動の最終プロダクトであるニュースやドキュメンタリーをみながら理解しようとする努力を積み重ねて欲しい。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、講義内容のポイントを示すレジメの配布を通じて読んでおくべき著作や視聴してほしい番組や作品などを紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄・林利隆・大井眞二編／世界思想社／4790710564／
映像情報論	今村庸一／丸善／4621071408／
テレビの自画像	桜井均／筑摩書房／448004244X／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

映画芸術論（S） § 映像文化論（S）

13371

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義は映画鑑賞のためのものではありません。理論的講義です。どんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。キーワードは人間・虚構化・文化です。私たちが問題にするのは、私たちの外部に客観的に存在する現象としてのフィルムではなく、私たちの内部に立ち現れてくる虚構化された内的空間です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、観客の外部に客観的に存在するものではなく、観客が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。言い換えると、観客の内部に絶え間なしに立ち現れてくる映像とは、観客によって分節化される時間の密度、すなわちその時間性が観客の内部に絶え間なしに作り上げる、構造化され、時間化されていく生成の世界なのです。つまり重要なこととは、映画作家がフィルムに刻印した時間を、観客がそのフィルムを観ながら分節化する時間のあり方、すなわちその時間性こそが観客の内部に、シネマという内的虚構化空間を現前化させ、現在化させる原動力だ、という点です。一言で言えば、観客によって絶え間なく分節化され、構造化され、時間化されていく、いわゆる生成の世界としてのシネマというものを考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と虚構化と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3	映画芸術論への導入	ﾍｰｹﾞﾙのｱｰﾄ論、空間ｱｰﾄと時間ｱｰﾄ、ﾓﾝﾀｰｼﾞｭとｸﾛｰｽﾞｱｯﾌﾟという映像の操作術
4	モンタージュ論	演劇（＝ﾗｲﾌﾞ・ｱｰﾄ）に対して映画（＝ﾓﾝﾀｰｼﾞｭ・ｱｰﾄ）が獲得した途方もない自由
5	作家主義論	作家主義を標榜するヌーベル・ヴァーグとは、ｲﾀﾘｱ・ﾈｵ・ﾚｱﾘｽﾓの精神を受け継ぎ、さらにﾊﾘｳｯﾄﾞ的なｽﾀｼﾞｵ・ｼｽﾃﾑを否定し、独自のﾘｱﾘｽﾞﾑを追求した映画改革運動である。
6	ショット論	映画の秘密はｼｮｯﾄの中を流れている時間にある。映画の越境性とは、言語の壁を容易に越えてしまうという特性である。
7	創生期の映画	ﾘｭﾐｴｰﾙ兄弟とｴｼﾞｿﾝ、ﾒﾘｴｽ、ｾﾞｯｶ、ﾎﾟｰﾀｰ、ｲﾀﾘｱ史劇、ｸﾞﾘﾌｨｽ、ﾁｬｯﾌﾟﾘﾝ、ﾄﾞｲﾂ表現主義、ｶﾞﾝｽ、ｿｳﾞｨｴﾄ映画、ｴｲｾﾞﾝｼｭﾃｨﾝのﾓﾝﾀｰｼﾞｭ理論、ﾌﾗﾝｽ・ヌーヴェル・ヴァーグのｸﾞﾘﾌｨｽ再評価。
8	アメリカ映画黄金期	ｸﾞﾘﾌｨｽとﾌｫｰﾄﾞはｱﾒﾘｶ映画を代表する二大監督といわれ、時代に翻弄されながらも最後まで自分たちの美学を貫き通したことが彼らに共通する特徴である。しかし作家主義の観点から見ると、ｸﾞﾘﾌｨｽは映画作家が目指すべき作家の映画の原点であるのに比べて、ﾌｫｰﾄﾞは作家の映画とは相容れない、ｽﾀｼﾞｵｼｽﾃﾑの映画、ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰの映画の巨匠と見なされる。その意味で、作家主義を信奉するヌーヴェル・ヴァーグが批判の矛先をﾌｫｰﾄﾞに向けたのは正解である。なぜならば、ｼﾞｮﾝ・ﾌｫｰﾄﾞは良きにつけ悪しきにつけ、ｱﾒﾘｶ映画を代表しうる唯一の映画監督だからだ。第二次大戦後の世界の映画状況が一気に変化する。ｲﾀﾘｱで、新しいﾘｱﾘｽﾞﾑ映画が誕生する。ｲﾀﾘｱ・ﾈｵ・ﾚｱﾘｽﾓの誕生とは、古典的ﾋｭｰﾏﾆｽﾞﾑを越えた新しい社会的ﾘｱﾘｽﾞﾑの誕生を意味する。第二次世界大戦が映画ｽﾀｲﾙを構造的にいかに変えてしまったかが分かる。それは一言で言えば、ｽﾀｼﾞｵ・ｼｽﾃﾑの映画（＝ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰの映画）から、ある映画作家が企画、脚本、ｷｬｽﾃｨﾝｸﾞから撮影、編集までの映画制作の全てを取り仕切る、現場主義の映画への変換である。ｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏとは1960年代後半から70年代前半にかけてﾊﾘｳｯﾄﾞで作られた、既存のｽﾍﾟｸﾀｸﾙ路線とは一線を画した作品を一般には言うが、一言で言えば、作家性に貫かれた映画史に燦然と輝くｱﾒﾘｶB級映画群のことである。
9	日本映画黄金期	50年代日本映画黄金期、溝口健二、小津安二郎、黒澤明、成瀬巳喜男、木下恵介、今井正、小林正樹、市川崑。特に、日本を代表する二人の映画作家、溝口健二と小津安二郎。さらに、ヌーヴェル・ヴァーグの日本映画評

10	フランスヌーヴェル・ヴァーグ	作家主義論を提唱したﾌﾗﾝｽ・ヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛の最大の功績は、ｲﾀﾘｱ・ﾈｵ・ﾚｱﾘｽﾓが果たした現場主義の映画への変換を継承し、さらに映画創造の真の主体を作家に置き、その作家性をｼﾈﾏ・ｱｰﾄの第一要素として捉えたことである。ここに構造主義の手法に共通する二項対立によって、言語と文化の枠を超えた関係の構図を鮮明に描き出すことが可能となった。すなわち、映画の世界には国境はなく、ただ、非作家の映画と作家の映画という二つの種類の映画が存在するだけである、と主張できるようになった。作家とは、自己の哲学と美学とを作品全体にわたって展開する映画人で、多くの場合自ら脚本を書き、台詞を書き、そして演出もする。彼らはこの立場から映画を作り、便宜的なﾓﾝﾀｰｼﾞｭによらず現実の多様性を反復不可能に切り取ることを心がけた。これこそが真のﾘｱﾘｽﾞﾑだと考えた。そして観客の想像力を刺激する作り方の姿勢と、一つ一つのｼｮｯﾄへのこだわりこそ、ヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛の映画作家たちが目指したものである。このように映画のｱｰﾄとしての可能性をもっとも強く証明しようとしたのが、ヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛の映画作家たちであ
11～12	80年代から現在までの映画史	ﾌﾗﾝｽ映画改革運動の理論的ｼﾝﾎﾞﾙである作家主義論は、国境を越えて、他の国の映画改革運動に受け継がれていく。彼らの自由な作風は、後のｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏの監督たちに影響を与える。そしてｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏを見ながら青春時代を送ったﾖｰﾛｯﾊﾟ各国の映画作家らが、一斉に映画を作り始めた。これが80年代ﾖｰﾛｯﾊﾟ映画の復興期である。80年代以降のﾖｰﾛｯﾊﾟ映画作家たちは、ｱﾒﾘｶ映画に比して益々、凋落傾向にある自国映画を復活させようと努力した。これらの映画復興努力は国境を越えて（＝言語と文化の壁を越えて）ﾖｰﾛｯﾊﾟ各国に及んだ。彼らの多くは、日本の溝口健二や小津安二郎、あるいはヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛やｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏから多くのことを学んだ、作家主義の立場に立った映画作家たちである。
13～15	映画芸術論の結論	ｼﾈﾏ・ｱｰﾄとは、事実存在（＝実存）としての人間が出合う、可能性としての時間、その時間のｱｰﾄである。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

映像メディア分析（S） § メディア・リテラシー論II（G）

15554

担当者名 / Instructor　篠木 涼

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

多種多様な映像が氾濫する現代社会において、私たちは常に映像に取り囲まれている。しかもその多くは「フィクション」と分類されるであろう映像である。われわれは「フィクション」とどのようにかかわっているのか。本講義では、フィクションとリアリティの関係を主題として扱っている映像作品を取り上げつつ、映像メディアとフィクションの諸問題について社会学的および美学的な観点から検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

映像メディアを中心に、フィクションとノンフィクションの境界、フィクション経験における情動、社会におけるフィクションの位置づけなどについて理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	コース全体の流れと成績評価についての説明
第2回	映画の登場	投影、運動、写真
第3回	テレビの登場	メディア・イベント
第4回	複製技術時代の芸術作品	複製作品による知覚の変容
第5回	DVDが登場する	動画、情報、映像観の変容
第6回	ヴァーチャル・リアリティとは何か	その諸形態と経験
第7回	どうして実在しない登場人物の運命に心動かされるのか	フィクションのパラドックス
第8回	フィクション経験とごっこ遊びは関係あるのか	メイク・ビリーヴ論
第9回	フィクションとドキュメンタリーをどうやって区別しようか	境界線の問題
第10回	イメージと言語が何かを表わす仕方はどの程度似ているか	再現と記号
第11回	映画の種類によって抱く感情は異なるか①	映画、情動、ジャンル
第12回	映画の種類によって抱く感情は異なるか②	映画、情動、ジャンル
第13回	登場人物に感情移入するにもいろいろある	共感とフィクション
第14回	登場人物を尊敬したこともあるが軽蔑したこともある	道徳とフィクション
第15回	確認試験と試験内容の講評	映像とフィクション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終日の確認試験70点 出席30点

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中に適宜指示します。

教科書 / Textbooks

使用しません。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜指示します。

その他 / Others

映画と社会（S） §　エンタテインメント論（S）

15604

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、戦後の世界の映画史に足跡を残してきた各国の映画について学ぶ。主に、日本を含むアジア各国の近代史と映画とのかかわりを踏まえながら、アジア映画の現状と課題を整理していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・映画と社会や時代との関係について学ぶ。
・アジア各国の映画について学ぶ。
・国境を越える映画について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像や映画、そして、アジアの社会に関わる他の科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、戦後のイタリア映画：ネオリアリスモ	ファシズム、レジスタンス
第2回	日本映画の50年代1：世界に「発見」された日本映画	第二次黄金期、5社協定、小津・黒沢・溝口
第3回	日本映画の50年代2：映画と社会	東映教育映画、自主映画組織
第4回	フランスのヌーヴェルバーグ：1960年代前後の「カイエ・デュ・シネマ」を中心とした映画	作家主義、シネマ・ベリテ派、カイエ派
第5回	日本のヌーヴェルバーグ：1960年代前後の日本映画	大島渚、国家と映画
第6回	韓国の60年代：近代化と映画	メロドラマ、家父長制
第7回	アメリカン・ニューシネマ：1960年代から70年代初頭にかけてのアメリカ社会と映画	プロダクション・コード、レイティング・システム
第8回	東洋のハリウッドと呼ばれた香港映画：1970年代から80年代以降の香港映画	ニューウェイヴ（新浪潮）、香港返還、香港ノワール
第9回	1980年代以降の中国映画：第五世代の登場とその後の変貌	文化大革命、第五世代
第10回	1980年代以降の台湾映画：民主化と映画	戒厳令解除、映画政策
第11回	1990年代以降の韓国映画：民主化と映画産業への関与	韓国ニューウェイヴ、映画振興法
第12回	1990年以降のイラン映画：宗教と映画	イスラム革命、児童映画、9.11
第13回	インド映画の現在：ナショナルシネマの行方	ナショナルシネマ、ボリウッド
第14回	越境する映画：合作とリメイク映画	ディアスポラ、エスニックマイノリティ
第15回	まとめ：映画と社会	映画の越境性と土着性、社会性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・講義で触れた映画作品などは可能な限り、各自が見ておいてほしい。
・映画産業の現状などについては、ニュースでも取り上げられることがあるので、新聞など日々意識して目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったテーマの中から出題し、それについての知識と考えを問う。
平常点評価	40 %	授業中に数回の受講エッセイを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・映画を見るだけの講義ではないので、登録の際、よく検討してほしい。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室を考慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『映像／言説の文化社会学』	中村秀之／岩波書店／4000265172／フィルムノーワルを社会学的に分析している著書

『映画の政治学』	長谷正人編 ／青弓社／4787232207／映画を社会的・政治的な産物として捉え、分析している著書
『男たちの絆、アジア映画』	斉藤綾子編 ／平凡社 ／4582282504／アジア映画研究者たちの論文をまとめた著書

他は授業中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アメリカ映画協会　http://www.mpaa.org/
(社)日本映画製作者連盟　http://www.eiren.org/

その他 / Others

活字メディア分析（S）

13317

担当者名 / Instructor　福田 徹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

様々な情報が入り乱れるIT社会、インターネット社会で、新聞を中心とした活字メディアは情報の洪水に押し流されないための確かなメディアに位置づけられる。元新聞記者として国内外の事件や政治・行政などを取材した体験をもとに活字メディアの取材･編集の実態を解説し、テレビのニュース解説者の体験から「読むニュース」と「聞くニュース」の違いを考察。毎週、注目したい記事を取り上げ、時事問題を解説、メディア情報を主体的に読み解く姿勢を啓発する。さらに、新聞を活用する学習活動・NIEや新聞でコミュニケーション力をはぐくむ方策を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）活字メディアに親しむことによって、社会への関心を高め、時事知識、一般常識を身に付ける。
（2）様々なメディアの情報を吟味して読み解く習慣を身に付ける。
（3）活字メディアから、文章の基本的な書き方を学ぶ。
（4）新聞を活用する学習活動・NIEの基本的知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	情報社会を生きる（70分）とメディアとの接触アンケート（20分）	確かな情報、心を揺さぶる記事、生きる力のバトンリレー
第2回目	メディア比較(60分）とアンケート分析（30分）	聞くニュース、読むニュース、インターネットと新聞、この1週間の注目したい記事
第3回目	ニュースとは	ニュースバリュー、人間性、社会性、国際性、地域性、記録性、この1週間の注目したい記事
第4回目	新聞制作の実際	新聞の版建て、面建て、構成、この1週間の注目したい記事
第5回目	言論機関と報道機関	メディアの社会的役割、署名と匿名、この1週間の注目したい記事
第6回目	主観報道と客観報道	新聞社の違い、記者のフィルター、数字の魔術、この1週間の注目したい記事
第7回目	編集のプロの技－取材	取材の心得、夜討ち朝駆け、パソコンの誘惑、この1週間の注目したい記事
第8回目	編集のプロの技－見出し	凝縮の文学、ニュースの顔、分からん3段、昭和史に残る名句、この1週間の注目したい記事
第9回目	編集のプロの技－記事執筆	記事の書き方、間違った表現・言葉、5W1H、この1週間の注目したい記事
第10回目	編集のプロの技－校閲	間違いのない文章、校閲の極意、点検の仕方、この1週間の注目したい記事
第11回目	採点者から見た良い小論文とは	入社試験、かりやすい文章、起承転結、漫画の構成、短文、この1週間の注目したい記事
第12回目	メディアは真実を伝えているか1	真実を伝えない七つのパターン、昭和の三大誤報、平成の三大誤報、合成写真、この1週間の注目したい記事
第13回目	メディアは真実を伝えているか2	新聞社の違い、比べ読み、この1週間の注目したい記事
第14回目	NIE1（70分）とメディアとの接触アンケート（20分）	新聞で高まる5つの力、学びの動機づけ、学力、社会への関心、この1週間の注目したい記事
第15回目	NIE2（70分）とメディアとの接触アンケート分析（20分）	NIEの実際、メディアとの接触アンケート、この1週間の注目したい記事

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業によっては、その日の朝刊を学生に購入してもらうことがある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	受講者は開講期間中、少なくても1回は「この1週間で気になった記事」を紹介し、感想を述べ、課題・問題等を指摘する。発表の内容と議論への発言内容を評価する。 受講者が、授業で扱った内容から、印象に残ったテーマを選び、意見を記す。情報を吟味し、論理的に考え、正しい文章表現で、相手に分かりやすく伝えるように記述されているかどうかを

みる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新聞を知る　新聞で学ぶ	妹尾彰　福田徹／晩成書房／／授業内容を整理して理解する参考書である

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

活字メディア論 (G)

13439

担当者名 / Instructor　三谷 茂

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

活字メディアがこれまで果たしてきた社会的役割と今後の進むべき方向を探る。活字メディア（新聞・出版）の歴史と現在の組織内外の状況を紹介し、活字メディアの役割と限界を実際の出来事を通じて理解してもらう。大事件や大災害など実際の取材・報道経験を通して分かりやすく講義し、併せて日々のニュースの意味についてみんなで考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

民主主義社会の中で、活字メディアが果たす社会的役割をきちんと理解する。その上で活字の背景にあるものを読み解く力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	活字メディア(新聞・出版)の現状	活字離れは本当か？
2	活字メディアの歴史	時代を切り開く
3	他メディアとの比較	インターネットと何を競う
4	ジャーナリズム性	権力と対峙してなんぼ
5	ニュースの作られ方	新聞記事はどこまで正確？
6	政治報道	政治家はタヌキかきつねか
7	行政報道	官僚はそれほどえらいのか
8	事件報道	人権尊重はどこまで
9	災害報道	被災者に寄り添う
10	戦争報道	日本のメディアは逃げ腰
11	メディアの怠慢	ハンセン病報道に見る愚かさ
12	出版は文化の担い手	百花繚乱
13	活字メディアの自主規制	批判をかわすだけでは
14	活字メディアの将来	紙がなくなる？
15	メディアリテラシー	おれにはおれの読み方がある

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったテーマの中から、受講者自らが関心のあるテーマを選び、それについての自分の考えを記述する。自分自身の意見がいかに説得力をもって展開されているかを評価する。
平常点評価	50 %	5回目ころと10回目ころに、授業中に提示したテーマで小リポートを簡潔に書いてもらう。400字詰め原稿用紙1枚程度。理解の程度と言いたいことが明確かどうかを評価する。授業態度も評価対象。

小リポートの提出要請がいつあってもよいように、筆記用具（鉛筆かシャープペン）を持参のこと。消しゴムも必要。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日々のニュース（国際的な動きや政治の動きから京都のタイムリーな話題まで）を新聞やテレビで知っておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫ほか／世界思想社／4-7907-1057-2／事前に読むと授業がより分かる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

グローバルメディア論（S） §　グローバルメディア論（I）

15544

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代のメディアをめぐる社会的環境の変化の中で、グローバリゼーションは最重要なものの1つである。しかし、グローバリゼーションは一般に知られているより遥かに多様な側面を持つと共に、実に複雑な影響をメディアに与え、また逆にメディアそのものがグローバリゼーションに影響を与えてもいる。

本講義では、最初にグローバリゼーションの基本的な概念を学び、その上で世界で起きている様々な事例を通して、グローバリゼーションのダイナミズムや、メディア・報道とグローバリゼーションの相互影響と、そこから生じる問題を考える。最後にメディア、ジャーナリズムを巡るグローバル化が様々な問題を抱える中で、グローバルな次元での共生、アイデンティティ構築が可能なのか考察する。各回を通して、国際報道、とりわけ現在起きているニュース報道の実例を重視します。

到達目標 / Attainment Objectives

1・グローバリゼーションを巡る様々な概念を、具体的な実例と共に理解し、説明できるようになること。
2・グローバル化時代におけるメディア・ジャーナリズムの構造と様々な問題点の基礎的な理解をし、その上で批判的な視座に立ち、各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～グローバリゼーションとは何か～	グローバリゼーションの定義、時間と空間の圧縮、文化帝国主義、ハイブリディゼーション
第2回	グローバリゼーションの諸理論とメディア、情報の接点	国際コミュニケーション、グローバル・メディア・スタディーズ、マスコミュニケーション理論
第3回	メディアとナショナリズムを考える	日米関係、アンダーソン、ゲルナー、ビリッグほか
第4回	国際報道をめぐるグローバルな地政学	ニュース通信社、海外支局・特派員、中心／周縁、戦後の国際報道、総合商社
第5回	ニュース報道のグローバル化とローカル化	英米の国際報道、ニュースの商業主義、グローカリゼーション、ローカル・ニュース
第6回	メディアとテロリズムを結ぶもの	世界のテロ史、セカンドハンド・テロリズム、イスラム過激派サイト、テロの境界線
第7回	文化摩擦・交流とメディア	多文化主義、日韓文化交流、アジアのメディア、文化的近似性／近時性、モダニティ、ハンチントン
第8回	国際政治とメディア報道の議題設定	G8、先進国メディア、ウオーターゲート事件、ペンタゴン・ペーパーズ事件、ニュースの議題設定、日米関係
第9回	グローバルなメディアの進展と情報格差	CNN、ルパート・マードック、ニューズ・コーポレーション、デジタルデバイド
第10回	オンライン・ジャーナリズムの役割と可能性	コソボ空爆、メディア統制、セカンド・ハンドニュース、NWICO論争、ブログ
第11回	歴史、記憶とメディア①歴史から記憶の優位性へ	E.H.カー、コリングウッド、ピエール・ノラ他、記憶と映画①
第12回	歴史、記憶とメディア②記憶装置としてのメディア	テッサ・モーリス＝スズキ他、記憶と映画②
第13回	モダニティ、消費化する世界とメディア①	ギデンズ、ボードリヤール、モダニティと映画①
第14回	モダニティ、消費化する世界とメディア②	ヘリテージ産業、モダニティと映画②
第15回	グローバルな市民意識は可能か	脱西洋化理論、コスモポリタニズム、バフチン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習・応用を念頭に置いて、授業内に参考資料、応用への取り組み等を適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	
平常点評価	10 %	授業内でレポートを書いてもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・メディアは生き物です。大事件が起きてニュースになれば、授業では、それに関連付けて議論を展開することもありえます。従って、普段から新聞、ニュースにしっかりと触れるようにしてください。それによって講義の理解度に大きな差が出ます。
・受講人数にもよりますが、テーマに応じたディスカッションを随時実施し、問題意識と応用力を鍛えます。

・本科目の性質上、時事問題を重視するため、ニュースを騒がす大きな事件が発生した場合などには、授業内容の変更があったり、授業外学習の指示を中心に授業を行うことがありえます。
・私語は厳禁です。周囲の学生に迷惑な私語には厳しく対処します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル社会とメディア	武市英雄・原寿雄（責任編集）／ミネルヴァ書房／４－６２３－０３６１８－９／特に第1回から第10回の授業内容と密接に関係する。

テキストは、第10回までは、毎回持参すること。

参考書 / Reference Books

参考書、資料については、必要に応じて授業で適宜、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際ジャーナリズム論 (S)

13461

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・海外の報道機関・メディア産業の現状を理解する。
・日本の報道と海外の報道を比較し、優れている点や課題を考察する。
・表現の自由、ジャーナリズムの原則が国際化、インターネットの発達でどう変質したか理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入のはなし／カルチャーギャップ	異文化コミュニケーション・翻訳
第2回	ジャーナリズムとは何か	ニュース・表現の自由・民主主義・権力と監視
第3回	日本で外国のニュースはどのように伝えられているか	ニュースソース・通信社・衛星放送
第4回	権力とメディア	選挙・政治報道・メディアコントロール
第5回	戦争とメディア	プール取材・「埋め込み」ジャーナリスト
第6回	表現の自由のない国で／忘れ去られたニュース	報道の自由・取材の自由・ニュースバリューとサブスタンス
第7回	メディア・ビジネスとニュース	資本集中・FCC・多様性と民主主義
第8回	メディアの倫理と理想をいかに守るか	権力の監視・取材倫理
第9回	(ゲスト・スピーカーに講演と質疑)	
第10回	公共放送を考える	NHK・BBC・公共性・災害報道
第11回	日本は世界からどう見られているか　その1	皇室報道・「コイズミ現象」
第12回	日本は世界からどうみられているか　その2	「ジャパン・クール」・ジャパニメーション
第13回	ニュースの新しい形とプライバシーの問題	ブログ・サイバー社会・ウェブ2．0
第14回	インターネットと創造的な社会(まとめの議論)	著作権・アーキテクチャ・プライバシー
第15回	まとめの議論と記述問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①民主主義とジャーナリズム、表現の自由の関係、豊かな社会をつくるための情報の価値や流通のルールなどが理解できているかを測る記述問題。 ②受講者数によって、発表やクラス内ワークショップの課題を追加する可能性があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・たくさんの文献(英語含む)を読んで、たくさん語り、書いてもらいます。
・新聞・テレビ・雑誌のニュースや情報に触れておいてください(それを前提に授業を進めます)。

教科書 / Textbooks

・クラス内で指示します。

参考書 / Reference Books

・クラス内で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

表象文化論（S） § 芸術表現論（S）

15607

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察者の眼が反映しているのか。科学的、思想的、政治的な観点から考える。17世紀オランダのリアリズム、近代の自然描写と思想、あるいは断片的世界観、そして政治的な視線の差異などを中心テーマとする。フェルメール、ヘダ、フリードリヒ、アングル、マネ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ピカソ、ボッチョーニ、モンドリアン、デュシャン、ヘッヒ、ポロック、ボイス、リヒター、キーファーなど17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、観察者の立場で作品に向き合う。

到達目標 / Attainment Objectives

美術、芸術作品を通して、時代の思想や世界観を知る。
作品を観察し、主題を読み取り、思考する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	観察者、自然、断片の世界観、視線の差異
第2回	観察の眼	17世紀オランダの静物画と風景画
第3回	近代の自然描写と思想（1）	風景画の歴史と近代
第4回	近代の自然描写と思想（2）	自然と崇高
第5回	芸術における自然観(2)	都市　vs　田園
第6回	芸術における自然観(3)	20世紀の抽象運動
第7回	芸術における自然観(4)	20世紀のプリミティヴィズム
第8回	芸術における自然観(5)	自然と環境問題
第9回	「断片」の美学（1）	フランス近代、印象派
第10回	「断片」の美学（2）	キュビスム、未来派、新造形主義
第11回	「断片」の美学（3）	フォトモンタージュ
第12回	「自己」と「他者」の視線(1)	プリミティヴ・アート
第13回	「自己」と「他者」の視線(2)	オリエンタリズム、写真、美術
第14回	「自己」と「他者」の視線(3)	今日の展覧会批評
第15回	全体の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
観察者の系譜－視覚空間の変容とモダニティ	ジョナサン・クレーリー／以文社／／
絵画の政治学	リンダ・ノックリン／彩樹社／／
C.D.フリードリヒ、《画家のアトリエからの眺め》－視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
美術史をつくった女性たち－モダニズムの歩みのなかで	神林恒道・仲間裕子編／勁草書房／／
20世紀美術におけるプリミティヴィズム	ウィリアム・ルービン編／淡交社／／
＜方法＞としての人間と文化	佐藤嘉一編／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

言語文化論（S） §　言語コミュニケーション論（S）

15608

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義でどんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	近代言語学の成立とその背景 ソシュール（1）	ｿｼｭｰﾙが求めたﾗﾝｸﾞは、話し手の意識の中にあり、それ以外のどこにもない。
2	ソシュール（2）	
3	ソシュール（3）	
4	ソシュール（4）	
5	ソシュール（5）	
6	ソシュール（6）	
7	言語相対主義の潮流	ｿｼｭｰﾙが提示してみせたのは、これは後に言語論的転回と呼ばれるﾊﾟﾗﾀﾞｲﾑをもたらした考え方である。ｿｼｭｰﾙは、ことばが存在して初めて、概念や対象が誕生する。なぜならば、ことばが、境界のない連続的現実世界を切り取ることにより、概念が作り上げられるからというわけである。
8	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄに始まる言語相対論	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ言語学が近代言語学の三大源泉の一つだと言われる最大の理由は、近現代言語学を一貫して貫く言語相対主義の考え方の発端、すなわち母語の発見と言語と民族との間に生ずる不可分の関係の発見をそこに見いだすことが出来るからである。この考え方は、ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ言語学に端を発し、ｿｼｭｰﾙ言語学で理論的肉付けを完成し、後のｻﾋﾟｱ=ｳｫｰﾌ仮説やﾄﾞｲﾂ意味論学派に受け継がれて行く、言語相対主義に貫かれた言語理論である。
9	ﾄﾞｲﾂ意味論学派＝新ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ学派	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄに端を発する言語相対論の考え方の基本にあるのは、言語共同体に固有の分節・認知の仕組みこそが、その構成員の魂であり、精神であり、ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨである、という積極的な人間のあり方を規定する、というものである。つまり、人間がことばを支配するのではなく、ことばが人間を支配することになる、ということは、まさしくﾌﾝﾎﾞﾙﾄが、言語を創られたものという意味でのｴﾙｺﾞﾝではなく、創るものという意味でのｴﾈﾙｹﾞｲｱとして定着させた、言語に対するﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞな考え方の帰結なのであ
10	ﾚｳﾞｨ=ｽﾄﾛｰｽ	ﾚｳﾞｨ=ｽﾄﾛｰｽの神話論や親族構造の研究は、二項対立、神話を構成する最小限の要素〈神話素〉、交換のｼｽﾃﾑという補助線を引くことによって、経済上の動機と目に見える諸制度の間には、人間の無意識が作り上げている目に見えない制度がはさまっており、むしろこれが社会制度の動きに大きな役割を果たしている、という新しいｲﾒｰｼﾞを提出している。

11	ﾗｶﾝの欲望論（1）	我々の欲望の対象は常にある何ものかの代理であり、そのあるものもまた他のものの代理であるという性格を持つ。そしてそれは果てしなく続く。それをずっと辿っていくと、結局〈Φ〉ﾌｧｲという記号が出てくる。これはﾌｧﾛｽ（=ﾍﾟﾆｽ）で、このように究極の不在を辿ることは、ﾍﾟﾆｽが欠けていることなのだ、とﾗｶﾝは説明する。人間の欲望は、いわばこの根元的に欠けていることへの欲望の代理的連鎖である。
12	ﾗｶﾝの欲望論（2）	
13	ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝ言語ｹﾞｰﾑ論（1）	ｿｼｭｰﾙと同じように、言語をｹﾞｰﾑとして語ることは、ﾙｰﾙに従うということを言語活動の考察の中心におくということに他ならない。ｹﾞｰﾑのﾙｰﾙ問題には、明文化されたﾙｰﾙを持つｹﾞｰﾑ以外では、明確な答えは存在しない。それは言語活動の規則性が、明文化されたﾙｰﾙと根本的に異なっていることを示している。ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝはこのﾙｰﾙ問題を探求して行く。そこで絶えず問われているのは、我々がことばを知り、話すとはどういうことなのか？それは無秩序な現象や自然界の秩序的現象とどう違うのか？ということである。こうした探求において言語的秩序を求めるとき、我々は必然的にそれをことばで説明することになる。しかし我々が今求めているものは、あらゆることばをことばとして機能させる根元的秩序であり、その秩序の説明に、すでにこうした秩序のおかげでことばとして機能しているものを用いるのは、我々の説明がまだ根元そのものには接していないことを暗示している。ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝが求めるものは、あらゆることばがことばとして機能する根本条件であり、それ自身はいかなることばによっても語り得ないような根元である。すなわちｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝが求めるものとは、我々のあらゆる探求の鋤を跳ね返す岩盤なのである。
14	ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝ言語ｹﾞｰﾑ論（2）	
15	言語と現代思想の問題〈まとめ〉	〔1〕欲望論、〔2〕言語ｹﾞｰﾑ〈Sprache Spiel〉、〔3〕ﾊﾟﾌｫｰﾏﾃｨｳﾞｨﾃｨ〈performativity〉（＝行為遂行性）、〔4〕理論より現場への関心、〔5〕ことばと社会、〔6〕言語使用と身体、〔7〕ことばの詩的機能と論理的機能 、〔8〕ｴﾋﾟｽﾃｰﾒｰ〈épistémè〉（＝思考の枠組み）の変換、〔9〕人間諸科学と言語のﾓﾃﾞﾙ、〔10〕ﾎﾟｽﾄ構造主義〈post-structuralisme〉の登場と言語観の変容

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

広告論 (S)

13306

担当者名 / Instructor　小泉 秀昭

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「現代広告論」
本講義では、企業の行う広告活動を中心におき、広告および広告産業を包括的に理解することを目指す。広告の定義、機能、また広告キャンペーン立案プロセスなど幅広い内容を実際の企業のケースを通し解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、市民としての広告に対するリテラシーの向上を目指す一方、実社会において広告活動に関連する場面に直面した際に十分対応のできる知識、考え方を身につけることを望む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の進め方・広告の歴史および定義	マーケティング、宣伝
2	広告の種類と機能(社会的役割と企業のマーケティング活動としての役割)	マス4媒体、SP広告、経済・経営、・社会・文化的機能、
3	広告産業とは:特に広告代理店の役割と今後の方向性	広告費、総合広告代理店、世界の代理店、クリエイティブエージェンシー
4	広告のブランド構築への役割	ブランドエクイティ、ブランド認知、知覚品質、ブランド連想、ブランドロイヤルティ
5	広告戦略立案プロセス(1)	Plan・Do・See、状況分析、SWOT分析、ポジショニング、ターゲティング
6	広告戦略立案プロセス(2)(ケーススタディ)	ツーカーのキャンペーン、高齢者向け広告
7	表現戦略 TVCMの制作プロセス	クリエイティブブリーフ、ストーリーボード、TVCM
8	広告効果(1)	広告調査、AIDMA、AISAS、関与
9	広告効果(2)	精緻化見込みモデル、ロシター＆パーシーグリッド、認知的不協和低減の理論
10	メディア戦略	メディアプランニング、ブランドコンタクトポイント「牛乳に相談だ」のケース
11	ゲストスピーカー	広告主あるいは広告会社の方
12	IMC戦略	統合型マーケティングコミュニケーション、日立マクセルのケース
13	スポーツと広告	adidasのワールドカップのケース
14	Web広告	ネット広告会社、バナー広告、行動ターゲティング広告
15	新しい広告・講義の総括	ステルスマーケティング、バイラル広告 、シームレス広告

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

配布のレジュメでの復習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	教科書およびノートなどの持込は不可
平常点評価	30 %	不定期に授業内で課題を課す

課題は7～8回は行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

比較的な高度な広告理論の解説もあるため、しっかりとした受講態度を希望する
空欄のあるレジュメを毎回配布するため、遅刻をせず出席し空欄を埋めること。

教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

現代広告論(新版)	岸志津江、田中洋、嶋村和恵／有斐閣／4-641-12356-X／
新しい広告	嶋村和恵監修／電通／4-88553-183-7／

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アドミュージアム東京：http://www.admt.jp/parent_J.html
全日本シーエム放送連盟：http://www.acc-cm.or.jp/
公共広告機構：http://www.ad-c.or.jp/

その他 / Others

特になし

子どもとメディア (S)

15597

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもは、テレビやラジオ・新聞・雑誌・映画といった従来のメディアのほか、ゲームやインターネットなどのデジタル・メディアに囲まれて育っている。本講義では、子どもとメディアのかかわりについて、社会・教育・心理学的見地から考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「メディアが子どもの日常生活においてどのような役割を果たしているのか」、「子どもはメディアをどのように理解し使用しているのか」、「メディアが子どもの成長にどのような影響を与えるのか」、といったメディアと子どもについての基本的な事柄について理解する。
・子どもにメディアを教えるにあたり、メディア・リテラシーの基本的な概念や教育の実践についての基礎的な知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	
第2回目	子どものメディア環境： 子ども時代の変化	
第3回目	子どもの発育、行動、モラル形成とメディア	
第4回目	子どもとポピュラー・カルチャー	
第5回目	メディアと暴力	
第6回目	メディアとジェンダー： 女の子らしさ・男の子らしさ	
第7回目	消費者としての子ども(1)テレビ番組	
第8回目	消費者としての子ども(2)広告	
第9回目	デジタル時代の子ども： インターネットと子どものメディア発信	
第10回目	子どもの権利とメディア	
第11回目	子どもにメディアを教える(1) メディア・リテラシーとは何か	
第12回目	子どもにメディアを教える(2) メディア・リテラシーの基本概念	
第13回目	子どもにメディアを教える(3) メディア・リテラシー教育の実践	
第14回目	子どもにメディアを教える(4) メディア・リテラシー教育の課題	
第15回目	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日常生活において、自分が使うメディアや子供向けのメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①検証テスト(40%) 最終回の授業で、それまでの授業内容の理解度とそれを踏まえて自分の考えを記述できるかどうかを確認する検証テストを実施する。 ②コミュニケーション・ペーパー(60%) 授業中に毎回A4用紙一枚程度のコミュニケーションペーパーを課す。内容はメディア分析や小レポートなど。0～5点で評価する。単に出席しただけでは点数がつかないので注意。

・授業の内容をよく理解した上で、メディア分析や授業内に提示された課題等に積極的に取り組むことが望まれる。コミュニケーション・ペーパーはその出来によって評価し、0～5点の点数をつける。
・毎回QRコードシールを持参すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講義だけではなく、子ども向けのメディアを分析したり自分なりの考察を深めるなど、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。
・初回に授業の進め方、試験、評価方法などの詳細な説明とともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
・遅刻は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処する。レジュメや資料等も授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい(病欠ややむを得ない事情を除く)。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメと参考文献リストを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと人間の発達　－　テレビ、テレビゲーム、インターネット、そしてロボットの心理的影響	坂元章編／学文社／4762012629／
Children, adolescents, & the media	Victor C. Strasburger & Barbara J.Wilson／Sage Publications／0761921257／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーを伸ばす国語の授業　小学校編	児童言語研究会編／一光社／4752810514／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

The International Clearing House on Children, Youth, & Media http://www.nordicom.gu.se/clearinghouse.php
FCTメディア・リテラシー研究所 http://www.mlpj.org/index.shtml

その他 / Others

コミュニケーション政策論（S）

15495

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、「市民が望む政治実現のために、メディアはいかなる機能を果たしうるか、果たすべきか？」という問題意識を縦軸に探求します。従って、メディアをめぐる責任、モラル、約束事(convention)、制度、商業主義などのイデオロギー、メディア人の専門性、ジャーナリスト教育、権利と権力、市民と政治などのせめぎあいを見つめ、そこから生まれる問題、ジレンマを批判的に考察します。現在、起きているテレビニュース、新聞などのジャーナリズムの実例を大切にしながら学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

政治実現のためのメディア、およびメディア、コミュニケーションの政策に関連する主要なテーマ、すなわちメディアをめぐる責任、モラル、専門性、約束事（convention）、制度と商業主義などのイデオロギーなどのせめぎあいが抱える問題点を批判的に理解し、その上で各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～政治の危機とメディアの危機：戦後日本の歩みから～	歴代日本の首相、メディア・ポリティクス、政治実現、政策
第2回	主要な概念を学ぶ	モダニティ、資本主義、グローバル化、デモクラシー、公共圏ほか
第3回	公共放送制度と国家①NHKの課題と公共圏	NHK、受信料、公共圏、放送法、経営委員会
第4回	公共放送制度と国家②イギリスBBCの制度と模索	公共放送、BBC、ライセンス・フィー、ナショナリズム、ユーロビジョン・ソングコンテスト他
第5回	民放テレビと公共圏のジレンマ	1980年代、民放のニュース番組、ハバーマス、後期モダニティ、ディスコース
第6回	新聞メディアの現在と専門性の変容	専門性、ジャーナリスト教育、OJT、ネットジャーナリズム、論説機能
第7回	ニュース価値と議題設定の問題	ニュース価値、議題設定、フレームワーク
第8回	偏向要因から考える政治実現とメディア	偏向要因、メディア・ルーティン、イデオロギー、記者クラブ、逸脱理論、覇権理論、情報操作
第9回	メディアリテラシーの視点と政治実現	メディアリテラシー、ニュース価値、偏向要因、専門性、公共圏
第10回	ケース・スタディ～現在起きているニュース報道の事例から考える政治実現とメディア	
第11回	シンクタンクおよびその機能と政治実現	欧米のシンクタンク、日本のシンクタンク、アメリカ大統領選挙
第12回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（前）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造
第13回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（後）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造、メディアに描かれたメディア
第14回	情報インテリジェンスの可能性	ネットジャーナリズム、ブログ、外交、総合商社、大学、エコノミスト
第15回	全体総括＆ディスカッション	各回の復習、ディスカッション、リアクション・ペーパー

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習や応用が出来るように、授業内に参考資料や、応用への取り組みなどを適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	授業で学んだことの関連テーマについて、①その基礎的な理解が出来ているか、②その上で論理的かつ独自に批判的な思考がどの程度述べられているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・受講人数にもよるが、テーマに応じたディスカッションを適宜実施することを考えているので、議論を通じての問題意識と批判力を鍛えて欲しい。
・本科目の性質上、現在起きている時事的な問題を扱うことが多いので、シラバスの予定は開講以降に変更される場合や、授業外学習の指示のみに代替されることもありうる。
・私語は厳禁である。周囲の学生に迷惑になるような私語には厳しく対処する。

教科書 / Textbooks

テーマが多岐にわたるので、教科書は特に使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジャーナリズムの科学	門奈直樹／有斐閣選書／４－６４１－２８０４６－０／
メディアの法理と社会的責任	渡辺武達・松井茂記（責任編集）／ミネルヴァ書房／４－６２３－０４０７３－９／
メディア・リテラシー～媒体と情報の構造学	井上泰浩／日本評論社／４－５３５－５８３９０－０／

その他、必要に応じて授業内で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

コミュニティメディア論 (S)

13314

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義で言うところのコミュニティ・メディアは、地理的な範囲を中心とした地域コミュニティのメディアである。

大きな災害が起きるたびに、マス・メディアに登場する小規模なメディアがある。それが、地域メディアと言われる、ローカル新聞やコミュニティFMである。地域メディアは、その名の通りに地域に密着した情報を伝えるために存在している。われわれの生活はマス・メディアを中心に成立しているが、一定範囲の地域を意識し、その地域で生活する人びとを中心に成立しているメディアも確かに存在しているのだ。だが、先述のようにその存在が認識されるのは、大きな災害など特別な状況が起こったときに限られている。

また、われわれが学ぼうとしているメディアにはさまざまな存在理由があり、生まれてきた理由もある。メディアの歴史を学ぶとき、その存在理由はあまり問われることがない。1本の時間軸の上にトピックスとして並べられ、他の可能性や別の時間軸は無視される。特に、地域という一定の地理的範囲や人的なつながりのなかで生み出されたメディアの歴史は、その存在すら忘れられている。

それはなぜなのだろうか？この授業の基本的な関心は、常に疑問と共にある。なぜマスなメディアだけではだめなのだろうか？なぜ、地域コミュニティとメディアが強く結びつくのだろか？なぜ、自らメディアを生み出そうとするのだろうか？自明と思われていることに改めて目を向け、それを確認し、分析し、理解をする。授業は、その繰り返しである。

到達目標 / Attainment Objectives

1. マス・メディア以外のメディアの存在を理解する。
2. コミュニティとメディアの関係を考える。
3. メディアの存在を自明とせずに、さまざまな角度から観察できる。
4. コミュニティ・メディアにアクティブなアプローチができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目（情報メディア学系用）
基礎社会学
メディア社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日常に偏在するコミュニティとメディア	コミュニティの地域性と共同性
2	地域メディアとわれわれ	地域、住民、メディアの循環を創る
3	コミュニティ・メディア研究と調査1	どんな研究視点や方法があるのか
4	コミュニティ・メディアと災害1	災害とメディアの関係性を考える
5	コミュニティ・メディアと災害2	実際の災害とメディア
6	コミュニティ・メディアと災害3	実際の災害とコミュニティ・メディア
7	コミュニティ・メディアと災害4	今後の災害とコミュニティ・メディア
8	コミュニティ・メディアを巡る議論	コミュニティ・メディアをグローバルに見る
9	コミュニティガバナンスとコミュニティ・メディア	地域社会の問題解決とメディア
10	ÿþ³0ß0å0Ë0Æ0£0û0á0Ç0£0ø0n0·tó`h0o0	コミュニティ・メディアの営利／非営利問題
11	ケーブルテレビ	地域からグローバルへ
12	地方新聞	地方新聞の存在
13	コミュニティFM	地域密着とラジオ
14	インターネットとコミュニティ・メディア	地域性のないコミュニティとメディア
15	地域とメディアの新しい関係作り	今の時代にふさわしい地域とメディアの関係とは

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観問題と論述問題を併用

レジュメは、webCTに1週間前までにアップするので、各自プリントアウトして持参すること。授業当日は、関連する資料のみを配付する。ただし、開始後30分経過した時点で配布を中止し、以後は一切配布を行わない。試験には、配付資料の内容も含まれる。
各回の授業予定は、最新のトピックスに合わせて変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とメディアの関係を、常に意識することが大切。新聞を読み、社会の動きと問題を確認することも大切。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域メディアを学ぶ人のために	田村紀雄篇／世界思想社／／
「声」の有線メディア史	坂田謙司／世界思想社／／
地域SNS最前線	庄司昌彦／アスキー／／
コミュニティ・メディア	金山智子／慶応義塾大学出版部／／
現代地域メディア論	田村紀雄・白水繁彦／日本評論社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

産業デザイン論 (S)

13287

担当者名 / Instructor　要 真理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

デザインは、単に、視覚的におもしろい、格好いいというだけでなく、私たちの思考や感情に働きかけ、ときに政治的な道具となることもある。この講義では、産業革命以後の欧米のデザインに注目し、文化的社会的コンテクストと照応させながら、デザインの機能とその可能性について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・スライドで紹介した装飾品や建造物などのデザインの様式的特徴を理解し、視覚的に区別できる。
・デザインが近代の社会構造や産業の発展と密接なつながりをもっていることを確認したうえで、カタチのうえのみならず、デザインの基本思想についても理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術や産業に関する授業と併行して受講すると、いっそう理解が深まるでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに:あなたにとってのデザイン	デザイン、生産(製品)言語、社会
第2回	「デザイン」という概念	語源、意義、プラクシスとポイエーシス
第3回	産業革命と万国博覧会	新素材、技術の発明、産業化と国際化の功罪
第4回	ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動	モリス商会、工芸ギルド、社会改革運動
第5回	唯美主義とアール・ヌーヴォー	芸術のための芸術、世紀末
第6回	マッキントッシュとゼツエッシオン	伝統様式からの分離、ウィーン
第7回	ユーゲントシュティールとドイツ工作連盟	アーティスト＝デザイナー、「規格論争」
第8回	構成主義とノイエ・ザッハリヒカイト	機能的様式、労働と生産、技術
第9回	モダンデザインと芸術家工房	アトリエ・マルティーヌ／パリ、オメガ工房／ロンドン
第10回	大衆消費社会の到来と趣味の変質	大量生産、多品種少量生産
第11回	複製技術時代の芸術作品	複製、画一化、ファシズム
第12回	新しい消費欲望の形成	イメージの差異、主体の変容
第13回	企業戦略とブランドの誕生	CI、ブランド、製品
第14回	グッドデザインの変遷	デザイナー、工業製品、使用者
第15回	デザインの可能性	現状分析、デザインの理想
	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で紹介する作品を実際に展覧会に足を運んだり、あるいはカタログやDVDなどで確認するなど、進んで作品鑑賞を行ってもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や語句について理解できているかどうかを評価する。
平常点評価	30 %	小テストや授業態度を参考にする。

セメスターの途中で予告なしに小テストを行う場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

パワーポイントとプリントを使用する。授業中に紹介した作品については、そのデータをノートに書き留めておくこと。当然のことだが、私語・携帯メール等は慎んでもらいたい。場合によっては退室を求めることもある。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ロジャー・フライの批評理論』	要真理子／東信堂／4887135890／ヴィジョンとデザインについてより深く学びたい学生向け

その他の参考文献については、授業内で適宜紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

20分を超えての遅刻、途中退室は原則として不可とする。

ジャーナリズム論（S）

13445

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、ジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由について、なぜそれらが私たちにとって重要な意味をなすのかといった観点を起点に、日本のジャーナリズム活動、ジャーナリストたちの言論活動や思想などを歴史的に踏まえながら考えていきます。現在のジャーナリズムの問題点をとらえ、見る眼を養うためにも、政治的社会的側面から見た現代社会におけるジャーナリズムの状況と課題を整理しつつ、時事的・実際的な問題などと関連させながら多面的に考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

ジャーナリズムの本質やその現在的問題を歴史的相対的に捉える視座を獲得し、関連する課題について説明することができることを到達目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～授業の進め方と評価について	ジャーナリズムの視点
第2回	ジャーナリズムとは何か	マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、ジャーナリスト
第3回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（1）明治期日本の新聞記者	ジョセフ・ヒコ、福地源一郎、福澤諭吉
第4回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（2）新聞に対する読者の視線	黒岩涙香、宮武外骨
第5回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（3）言論の力と大正デモクラシー	米騒動、井上江花、白虹事件
第6回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（4）批判の限界と新聞人	菊竹六皷、桐生悠々
第7回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（5）ジャーナリズム批判と言論活動	石橋湛山、高見順
第8回	報道することの難しさ～皇室報道をめぐって	皇室報道、表現の自由
第9回	権力を監視するということ～記者クラブというシステムと取材のあり方	記者クラブ、報道協定、情報公開
第10回	国家秘密と知る権利～外務省密約事件	知る権利、沖縄返還密約事件、記者の倫理
第11回	戦争とジャーナリズム～（1）戦争報道から何を考えればよいか	宣伝、情報操作、報道管制
第12回	戦争とジャーナリズム～（2）メディアは何を伝えているか	映像のリアリティ
第13回	取材と報道のバランス～（1）報道と人権の狭間	犯罪報道、報道被害、メディア・スクラム
第14回	取材と報道のバランス～（2）メディアが作り出す報道被害	スクープ、報道被害、実名・匿名問題
第15回	ジャーナリズムをどうするか～報道規制の動き／まとめの議論	ジャーナリストという職能／ジャーナリズムの可能性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、週刊誌など現代社会の出来事を伝える報道に意識的に接触することです。ジャーナリズム論を深めるための参考文献を授業時に多数紹介しますが、関連する文献を読んで、問題意識を深めて下さい。なお、ジャーナリズム論は近現代史と深く関わっていますので、近現代史の知識を増やすよう努力して下さい。授業は資料を中心にビデオ映像などを使いながら進めていきます。電子掲示板などを活用して授業内容に関する受講者の考察や意見を求める課題を課します。授業の進度によっては予定のテーマが前後・伸縮することもあります。なお、ジャーナリズム現場で仕事をしている方をゲストスピーカーとして行う授業も予定しています。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終的に授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにオンライン（メール）提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視します。
平常点評価	40 %	授業時に講義内容に関連した課題レポート（小レポートに準ずるもの）を課します。決められた期日までに提出（電子掲示板への書き込み提出）することが求められます。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価します。

レポートはメール（オンライン）での提出となりますので、パソコンスキルを身につけておいて下さい。授業期間中に出される課題レポート（電

子掲示板への提出）を全く提出しなかった場合は出席していないと判断します。第1回目に「授業の進め方と評価について」詳細な説明をしますので、受講予定者は必ず出席して下さい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、ジャーナリズムを見る眼を養うための知識を獲得することも必要ですが、むしろ問題意識を啓発することに主眼を置きますので、そこから生じるさまざまなテーマに関する問題意識に対して自分なりに深めることが重要です。問題意識を啓発するための資料を読んだり、ビデオ映像などを視聴し、そこから得る新たな知見、意見などを求めながら授業を構成していきます。ジャーナリズムの歴史など日本の近現代史に関わることもあり、歴史上の人物や著作など事典や文献などでさらに調べることで知識を広げて下さい。なお、時事的な問題を扱うこともありますのでこのシラバスの予定は、開講以降に変更される場合があり、若干講義予定の順序が変動または授業外学習の指示に代替されることがあります。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処します。また、配布物等は事前事後にコースツールに入れておきますので、各自そこから入手するようにしてください。配布物がある場合は授業時教室以外では配布しません。

教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じて資料等を用意する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キーワードで読み解く現代のジャーナリズム	JCJジャーナリズム研究会編／大月書店／4272330454／日本のジャーナリズムについて俯瞰し、ジャーナリズムをめぐる情況を総体的に把握することができる。授業を進める上で基本的な知識を深めたいときの参考書である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

配布物や課題レポート等はコースツール（WebCT）を使いますので、予め「早期利用申請」を申請しておいてください。

社会思想 (S)

15540

担当者名 / Instructor　松田 博

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題はますます複雑かつ陰影を伴う分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的文化的生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「人間の安全保障」や「安全社会」などの課題を、自由論・平等論・友愛論という社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げてみたい。社会科学的想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題をとおして、現代社会像を捉える「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい論述能力を身につけるための努力を期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会(科)学の基礎理論。社会(科)学の歴史。社会理論系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　講義計画	
2	メディアのなかの社会像 「8・15の社会思想」	世論、社会イメージ、リテラシー
3	ステレオタイプ論	リップマン、世論、ステレオタイプの功罪
4	エスノセントリズム(自民族中心主義)	サムナー、フォークウエイズ、ナショナリズム
5	権威主義的パーソナリティ	アドルノ、権威主義、社会的性格
6～7	人間の安全保障論(その歴史的背景・基本概念など)	セン、Human Security(HS)、基本的人権
8	中間まとめ　小論文　質疑・討論	HSと人権概念
9～10	国際社会と「人間の安全保障」	寛容、多文化共生、他者理解
11～12	「人間の安全保障」と「ホッブス」問題	ホッブス、『リヴァイアサン』、自然状態
13～14	「ルソー」問題	ルソー、『人間不平等起源論』、『社会契約論』
15	全体まとめ、質疑、レポート注意事項	レポート作成の基本条件

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ(たとえばステレオタイプの実例など)についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点評価	30 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。学生時代の知識は忘れても、一度身に着けたスキル＝技能は、水泳や自転車度同様、忘れないものです。これは脳科学では「エピソード記憶」や「意味記憶」とは異なる「手続き記憶」として知的財産となるものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部のよき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど書く能力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人間の安全保障	A・セン／集英社新書／／人間の安全保障論の基本的文献
貧困の克服	A・セン／集英社新書／／前書を理解するのに有益
フォークウエイズ	サムナー／青木書店／／エスノセントリズム論の古典
権威主義的パーソナリティ	アドルノ／青木書店／／権威主義分析
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／市民社会論など社会思想の検討
自由への大いなる歩み	キング／岩波新書／／キングの代表的著作
ガンジー自立の思想	ガンジー／地湧社／／ガンジー思想の紹介
世論	リップマン／岩波文庫／／ステレオタイプ論の古典

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。「人間の安全保障」に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

ステレオタイプその他本講義でとりあげるテーマは海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽　仮面の上に描くたび　己の顔をうしなう仮面」（現代学生百人一首）。

社会倫理学（S）

15479

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の日本の青少年にとってイジメ経験は最も深く共有された、しかも、生の意味感受性の危機に深くかかわる深刻な経験として成立している。この経験を社会倫理（応答の倫理学）の視点から振り返って、そこに孕まれている実存的諸問題を分析し、あらためて、そこからわれわれの生が直面している問題を自覚しなおすという思考の作業をしてみたい。授業の素材としては、受講生自身のイジメ経験、文学、歌、など、経験を意識化するうえで刺激となるさまざまな生きた材料を多用したい。

到達目標 / Attainment Objectives

自己の経験を哲学的に分析する思考経験をしてみる。「応答の倫理学」と呼びうる代表的思想家の基本観点を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	基礎経験と思想（パースペクティヴ）――イジメ経験を問い返す意義	基礎経験・パースペクティヴ・イジメ経験
第2回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題1	内面的自殺、実存のタマネギ化
第3回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題2	存在の透明化、世界の夢化と他者の消滅、自傷行為をとおしての存在確認
第4回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題3	傍観者化、友情という基礎経験の崩壊
第5回	存在承認による生の解放とジョン・レノンの歌	愛と実存、フランクル、ジョン・レノン
第6回	心的外傷とジュディス・ハーマンからの問題提起	ケアされた経験、ジュディス・ハーマン、治療同盟
第7回	応答の倫理学1――レヴィナス	レヴィナス、傷つきやすさ（vulnerability）
第8回	応答の倫理学2――フロム	応答責任性、フロム
第9回	応答の倫理学3――ブーバー	「私-きみ」関係性
第10回	応答の倫理学3――レイン	自己と他者
第11回	応答の倫理学4――ニーチェとサルトル	暴力のマニ教主義
第12回	応答の倫理学5――フランクル	生の意味への問いのコペルニクス的転換
第13回	実存と意味	実存、意味
第14回	文学と倫理	三島由紀夫、村上春樹
第15回	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	0 %	授業中に課すミニレポートに換える
平常点評価	30 %	授業中に課すミニレポートの評価によっておこなう

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書をよく読み、問題の全体的な相互関連への関心を高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
創造の生へ――小さいけれど別な空間を創る	清眞人／はるか書房／978-4-434-1148-8／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

環境ライフスタイル論（S） § 消費者環境論（S）

13373

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：　気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動（climate change、温暖化）が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。

・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。

・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。

・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia　に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。

・消費者部門から発生する環境負荷のついて、基礎的知識を獲得する。

・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。

気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース.とビデオ。	気候変動と温室効果ガス削減対策、環境教育、環境社会学、消費者教育
2	気候変動の現状に関する海外DVDおよびニュース：　An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	温室効果ガス、放射強制力、climate inertia
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	放射強制力、温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia。海洋における熱エネルギーの蓄積。 重要なthresholds。「危険な気候変動」。2℃上昇のリスク
4	温室効果ガス排出削減パス、必要な排出削減量	温度2℃上昇、3℃上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇リスク。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。先進国と途上国の責任分担
5	京都議定書および主要国の温室効果ガス排出状況	主要国の温室効果ガス排出状況、UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。主要国の温室効果ガス削減目標値、ポスト京都議定書をめぐる議論の要点
6	気候変動の消費者生活への影響	熱波、洪水、台風、高潮の影響。熱波マニュアルについて（イギリスの熱波警報システム（Heat-Health-Watch）、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか。洪水被害の実態ととEUにおける洪水対策。
7	消費者向け温室効果ガス削減対策、その1：	住宅における断熱性能の改善。省エネ性能住宅。
8	消費者向け温室効果ガス削減対策、その2：製品の環境ラベル	家電製品に関する省エネラベルの役割、各種の環境配慮製品の環境ラベルの制度、EUエコラベル。エコマーク、エコリーフの読み方。
9	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入の意味	風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。欧州における再生可能エネルギー産業の成長。住民による再生可能エネルギーの導入例。
10	EUにおける気候保全対策と家庭向けプログラム	EUの再生可能エネルギー目標、EUの温室効果ガス削減目標、家庭向けの削減対策、住宅の省エネ断熱性能改善の取り組み。EUの環境教育における温室効果ガス削減の教育
11	交通部門における温室効果ガス削減策。	EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。

12	食料自給率と気候変動	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率、フードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。
13	温暖化対策における消費者教育の重要性	消費者政策、消費者教育、温暖化に関するEUの消費者教育プログラムの検討
14	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む	海外のメディアが伝える気候変動と温室効果ガス削減対策に関するニュースをよむ。授業中に、各自、最低一つは読んで、分析を行う。
15	講義を振り返り、質疑応答を行う。小レポートについて、コメントする。 家庭からの温室効果ガス削減対策について、事例を紹介する。	講義中に最終の小レポートを行う。温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。
最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりの小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。
気候変動（climate change、または温暖化）は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science（気候変動科学）の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報――温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策――」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」「日本の科学者」2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ（http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka）
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) （http://www.ipcc.ch）

その他 / Others

情報経済論（S）

13301

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

情報ネットワークインフラの発達は、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革をもたらした。電子商取引の普及とユビキタスネットワークの形成により、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造が変わってきた。電子商取引が引き起こすさまざまな問題に対する諸制度の整備、消費者の側でのリテラシー涵養も求められている。この講義では電子商取引を中心とするネットワーク経済の実態、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・電子商取引の仕組み、構成、現状について理解できる
・電子商取引を支える技術的基盤の基本的しくみについて理解できる
・電子商取引の社会的影響について理解できる
・電子商取引に関わる法的問題、消費者保護の基本的課題について理解できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　情報ネットワーク化と経済活動	情報経済、情報化社会、ICT、ユビキタスネットワーク社会
第2回	電子商取引（EC、Electronic Commerce）とは何か	電子商取引、定義、取引主体、市場規模
第3回	企業・消費者間（BtoC）のEC(1)	ユーザー像、市場の実態、ビジネス・モデルの類型
第4回	企業・消費者間（BtoC）のEC(2)	デジタルコンテンツ市場、ビジネスモデル
第5回	インターネット広告	ネット広告市場、ネット広告の基本類型、ビジネスモデル
第6回	企業間（BtoB）のEC	EDI, サプライチェーンマネジメント、e－マーケットプレース
第7回	デジタル・エコノミーと経済法則の変化	経済性、取引費用、情報財、収穫逓増
第8回	ECの技術的基盤(1) 情報処理システムと通信ネットワーク	コンピュータの発達、分散処理、通信ネットワーク
第9回	ECの技術的基盤(2)　インターネット	パケット通信、プロトコル、TCP/IP、インターネット利用の実態
第10回	ECの技術的基盤(3)　セキュリティ、暗号化と認証	暗号技術、デジタル署名、電子認証、電子公証、PKI
第11回	電子決済システム	ICカード型、ネットワーク型、プリペイド型
第12回	ユビキタスネットワーク（1）	ユビキタス、u-Japan政策、RFID
第13回	ユビキタスネットワーク（2）	トレーサビリティ、トラッキング、プライバシー保護
第14回	ECに関わる犯罪・トラブルと法的規制	特定商取引法、電子契約法、消費者保護、プライバシーマーク
第15回	情報ネットワーク社会における個人情報保護	個人情報漏洩、個人情報、プライバシー、OECD8原則、個人情報保護法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・理解を深めるために、参考文献（あるいは同分野の書籍）を講義の前後に読んでおくこと。
・講義の中で取り上げられた事例をインターネット上で確認してみること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義で取り上げた基本的な用語、概念、基本問題が正確に理解されているかを評価する。
平常点評価	30 %	講義で紹介した事例を実際に自分で調査・確認してもらう。3回の提出課題を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・新聞やWebサイトから講義に関わる内容はかなり勉強することができるので、意識的に目を通すように。
・ネットショッピングの際に、サイトの取引規約・プライバシーポリシーなど、普段あまり目を通さない所を隅々までしっかりと読んでみよう。また提供されているサービスをすみずみまで調べてみよう。これだけでもかなり勉強になる。

教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用せず、教室で提示するスライド、授業中に配布するプリントを使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エレクトロニック・コマース入門	井上英也／日本経済新聞社／4532107571／電子商取引の全体像をざっと理解するのに便利である
IT経済入門	篠崎彰彦／日本経済新聞社／4532109426／第7回目の講義内容の理解が深まる
IT革命を読み解く	岩村充／技術評論社／4774113204／第１回～第5回の講義内容の理解が深まる
デジタルID革命	國領二郎、日経デジタルコアトレーサビリティ研究会／日本経済新聞社／4532311179／第12回・13回の講義内容の理解が深まる
インターネットと法　第3版	高橋和之，松井茂記／有斐閣／4641129460／第１４、15回の講義内容の理解が深まる

上記以外の最近出版されている参考書については授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

次世代電子商取引推進協議会　http://www.ecom.or.jp/
日本通信販売協会　http://www.jadma.org/
総務省　http://www.soumu.go.jp/

その他 / Others

情報法（G） § 情報法（Q）

15311

担当者名 / Instructor　福島 力洋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

高度情報通信社会において情報流通に伴って生じる様々な法的諸問題について、基本的人権としての表現の自由に関する基本的理解を踏まえつつ、現行の枠組みの意義と限界等も視野に入れながら講ずることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

情報流通をめぐる法的問題について、説得力ある理由付けを伴って（＝単なる独りよがりではない）、自分なりの結論を下すことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法（基本的人権）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	授業の概要説明、講義の進め方、アンケート実施	
第2講	表現の自由総論（1）	
第3講	表現の自由総論（2）	
第4講	プライバシー侵害	
第5講	個人情報保護	
第6講	名誉毀損	
第7講	人格権侵害と救済	
第8講	性表現	
第9講	放送	
第10講	インターネット	
第11講	情報媒介者の責任	
第12講	ﾒﾃﾞｨｱの融合と規制	
第13講	取材の自由（1）	
第14講	取材の自由（2）	
第15講	情報公開	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・随時提示される小括的な問いに関し、参考書指定文献等を参照しつつ、自分の言葉で説明できるようなアウトプットを行うこと
・授業中に触れる諸判例について、概要と判旨の確認、授業担当者とは違った視線からの解説に触れること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	問題点を法的に分析し、それに対し説得力ある理由付けを伴った結論を下せているかどうか

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞や雑誌、放送、インターネットなど、身の回りにあるメディアのあり方について、単なる一利用者から脱却し、一歩はなれたところから眺めてみて、「何かおかしい」と思うところを見つけてください。それが学習のスタート地点です。

教科書 / Textbooks

教科書は特定のものは指定しないが、下記参考書が準教科書としての位置づけとなる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ﾒﾃﾞｨｱ判例百選	服部政男・長谷部恭男編 ／有斐閣／464111479X／
情報法（改正版）	宇賀克也・長谷部恭男編 ／放送大学教育振興会／9784595126154／
マスメディア法入門	松井茂記 ／日本評論者／4535513643／

教科書として位置づける。また「事業外学習の指示」参照

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

スポーツ産業論 (S)

15471

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か，それはどうあるべきかという問いを投げかける。内容としては，1980年代から1990年代にかけて，通産省によってそれが奨励されたのはなぜか，そこで提示されたプランの何がどう問題なのか，なぜ失敗したのかなどについて考えるところから話しを始める。さらにそこから内容を深め，日本の労働生活と余暇生活，地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視して話しを進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・通商産業省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し，その問題を説明できるようにする。
・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し，スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し，レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/日本のスポーツ政策：文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済，「消費革命」「自由時間」，娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働，過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例，戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例，ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自習が難しい対象を扱った講義なので，できるだけ休まずに授業に出席してほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21―スポーツ産業研究会報告書―	通商産業省産業政策局編／（財）通商産業調査会／ISBN4-8065-2360-7／内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	桝潟俊子／学陽書房／ISBN4-313-81401-9／戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

その他 / Others

スポーツメディア論（S）

15564

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

書籍だけで学習することが難しい科目なので，授業に毎回出席して，分からないところがあれば質問をして欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣／同文舘／ISBN4-495-86281-2／メディアイベント論に関わって参考にされたい。
越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画／ISBN4-921164-41-X C3075／「第2章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

大衆表現論（S）

13291

担当者名 / Instructor　上柴 とおる

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

長年にわたる放送（ラジオ中心）＆音楽業界での現場体験を生かして（今も現役真最中！）、ラジオがこれまでに果たして来た役割、効用、おもしろさなどを皆さんに再認識してもらえるように経験を交えながら講義をし、そしてラジオを軸に発展を遂げた大衆音楽の流れやそれらを取り巻く産業の発達、新しい大衆文化の芽生え。。。と話を広げて参ります。時代的に言えば終戦（1945年）後から1980年代～1990年代に至る頃までの話が中心となります。そんな中から現代のラジオ媒体や音楽シーンの現状も改めて見えて来るでしょう。はっきり言っていわゆる大学の講座らしからぬ授業です。変わったもの（？）を好む人は是非受講しましょう！私自身の経験に基づく観点から物事を捉えます（ここでしか聞けない話も多い！）。時には映像や楽曲音源なども（レアもの!?も）使用します。将来、マスコミ関連の仕事を目指す皆さんにとっても何らかの参考になるはずです。

●到達目標

到達目標 / Attainment Objectives

戦後（1945年～）大衆の娯楽として発展して行ったラジオの影響力の大きさ、そしてどのような文化を育み現在に至ったのか、またラジオと共に歩んだ大衆音楽のスターたちのさまざまな自己表現のスタイルを生み出した時代の空気感を認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション～講座概要紹介（＆ラジオ、音楽業界の近況など）、自己紹介	
2	‘ラジオ・ネーム’とはなにか？～音声メディアの効用を考える	ハンドル・ネーム、メール、ファックス、ハガキ、リクエスト、メッセージ
3	ラジオの歴史と世相①～戦後洋楽史（1950年代～1960年代）	AMラジオ、ヒット・パレード、本邦初のカウントダウン番組、映画音楽
4	ラジオの歴史と世相②～団塊世代が先鞭をつけた深夜放送ブーム（1960年代後期～1980年代）	高度成長経済時代、大阪万博、受験戦争激化、ユース・カルチュア、オールナイト・ニッポン、ヤング・タウン
5	ラジオの歴史と世相③～FMラジオの時代（1970年代～1990年代）	ステレオ放送、エア・チェック、ウォークマン、FM専門誌、デジタル時代
6	ラジオの歴史と世相④～今年開局20周年、関西地区No.1の座をキープし続ける<FM802>の成功過程を開局前夜から追って検証	イメージ（広報）戦略、物量作戦（ステッカー、グッズ）、クラス・メディア、ヘヴィー・ローテーション、J-POP
7	世界のROCKシーンにおける「武道館」の存在意義	ビートルズ、チープ・トリック、ボブ・ディラン、大阪フェスティバル・ホール閉鎖
8	外国語楽曲に日本語の題名は必要か!?～タイトルの訴求力	ダニエル・パウター「バッド・デイズ～ついてない日の応援歌」、アース・ウィンド＆ファイアー「宇宙のファンタジー」、バングルス「胸いっぱいの愛」、コールドプレイ「美しき生命」。。。
9	ミュージシャンの主張①～ボブ・ゲルドフが全世界に向けて訴えたチャリティー・イヴェント「ライヴ・エイド」の歴史的な意義	エチオピア難民救済、バンド・エイド、ウィ・アー・ザ・ワールド、フジ・テレビ、世界同時中継、ライヴ・エイト、ライヴ・アース
10	ミュージシャンの主張②～米ロック・ミュージシャンと政治	オバマ、ブッシュ、イラク戦争、9.11、ブルース・スプリングスティーン、ニール・ヤング、ディクシー・チックス。。。
11	ミュージシャンの主張③～かつて封印され葬り去られた楽曲	放送禁止、発売禁止、忌野清志郎、タイマーズ、ローリング・ストーンズ、ザ・ドアーズ。。。
12	ミュージシャンの主張④～山下達郎＆竹内まりやの哲学（1970年代からのJ-POPの流れを検証）	ニュー・ミュージック、ユーミン、サザンオールスターズ、小室哲哉、大阪フェスティバル・ホール。。。
13	日本独自の大衆音楽芸能①～ジャニーズ王国の興隆（1960年代~2000年代）	嵐、SMAP、Kinki-kids、NEWS、KAT-TUN、TOKIO、Hey!Say!Jump、V6、関ジャニ∞、少年隊、光ゲンジ、J.J.スペシャル、たのきんトリオ、郷ひろみ、フォー・リーヴス。。。
14	日本独自の大衆音楽芸能②～ヴィジュアル系のルーツと海外進出（ヴェルサイユ、世界デビュー決定）	X JAPAN、Shazna（Izam）、Malice Mizer、Versailles、You-Tube、Megamasso、KISS、Glam Rock、New Romantic、L.A.Metal、宝塚、歌舞伎。。。
15	日本から世界へ～「スキヤキ」（坂本九：1963年全米No.1）の再来は永遠のテーマか？	上を向いて歩こう、YMO、ピンク・レディー、ラウドネス、松田聖子、倖田來未、宇多田ヒカル。。。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容への興味・関心・認識度

毎回授業でレジュメを配布しますがそれだけで試験をクリアするのは無理です(試験の際は一切持ち込み禁止です)。可能な限り授業に出席をして自分はどういう事柄に関心を持ったのか(あるいはどんな事柄が目から鱗だったのか等)、日頃から留意しておくことが定期試験における課題への回答につながるでしょう(学外で販売されている講義ノートの類は全く役に立ちません!)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ラジオは脳にきく	板倉徹／東洋経済新報社／ISBN4-492-04267-9／
亀淵昭信のオールナイト・ニッポン35年目のリクエスト	亀淵昭信／白泉社／ISBN4-592-75012-8／
熱狂の仕掛け人	湯川れい子／小学館／ISBN4-09-387434-4／
放送禁止歌	森達也／光文社／INBN4-334-78225-6／
別冊宝島1499号「流行り歌に隠されたタブー事件史」	別冊宝島編集部／宝島社／ISBN978-4-7966-6178-2／
盗作コピペ病	コピー＆ペースト研究会／茜新社／ISBN978-4-86349-020-8／
『at武道館』をつくった男	和久井光司／アルテスパブリッシング／ISBN978-4-903951-09-6 C0073 ／
季刊「上方芸能」143号特集 '効く聴くラジオ—おとな文化の元気'	上柴とおる他／上方芸能／ISSN-0910-5506／
季刊「上方芸能」162号特集 '団塊の世代と芸能文化'	上柴とおる他／上方芸能／ISSN-0910-5506／

授業への興味・関心を高めるための書籍・ムック・雑誌です。
初回の授業で配布するレジュメに改めて記載しておきます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ネットワーク論（S）

15545

担当者名 / Instructor　堀 孝弘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ITネットワークを扱う講座ではない。市民活動における人づくり、コミュニケーションスキル、組織運営、ネットワーク構築について原則および実践事例などを紹介する。学園生活だけでなく社会に出てからも役立つスキルや考え方を、座学だけでなく「受講者参加ワーク」も用いて体験的に修得する講座である。知識を提供するだけでなく、「知恵」を育む講座である。

また、理解を深めるうえで情報のもつ意味は大きく、市民セクターの成長やセクター間協働について、講師自らの活動経験を含めて、環境ネットワーク活動の最新事例も紹介し受講者の視野を広げる。

なお、本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

到達目標 / Attainment Objectives

将来にわたり活用できる人的ネットワーク構築、および団体運営の基本スキルの修得（社会の「小さなハブ」になる）
セクターを越えた協働社会の構築に向けた、市民セクターの活動成果と可能性の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

景観デザイン論、環境形成論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業概要および講師紹介 ネットワークの基礎理解と実際 （情報、機会、カネ…、持てる者がますます豊かになる社会とどう向き合う）	事例紹介「世界は6次の隔たりでつながっている？」 【参加ワーク】人と人とのつながりを豊かに（非攻撃的自己主張の体験）
第2回	人と人のつながり 対人コミュニケーションの発想転換　コーチングの基本	ゲームの理論からWin-Winの関係構築へ 【参加ワーク】質問力を高めよう（詰問からOpen Questionへ）
第3回	団体の運営　1 意義のある活動を継続的に生み出すには	目的と目標、問題と課題、ミッションとビジョンの違いなど 【参加ワーク】緊急性と重要性の整理
第4回	団体の運営　2 共感を得る活動企画の基礎理解（マーケティングとポテンシャル）	リーダーとコーディネーター、ネットワークが必要になるとき 【参加ワーク】ポテンシャル分析（あなたの持っている30の顔）
第5回	団体の運営　3 活動構築に必要な手順等の確認（実際の活動事例から）	事例紹介「環境ネットワーク活動の活動事例その1　日本の環境首都コンテスト全国ネットワーク」 ここまで伝えた団体運営に必要な手順などを、実際の活動事例を通じて確認する。 【参加ワーク】リーダーに必要な要件優先順位づけ
第6回	会議の効率的な進め方　1 誰も発言しない会議、何が決まったかわからない会議を卒業しよう	会議での意見の引き出し方、ブレーンストーミングの4つの約束など 【参加ワーク】会議の「次第」をつくろう（会議の議題と進行の整理）
第7回	会議の効率的な進め方　2 会議で出た意見の整理	KJ法の基礎理解　意見の整理分類。関係と階層を考え、課題を明らかにする。 【参加ワーク】意見の分類と整理をしてみよう（滅茶苦茶な意見、反論、質問で混乱した会議をまとめよう）
第8回	会議の効率的な進め方　3 透明性のある合意形成 幾つかの手法紹介と手法活用の留意点	事例紹介「合意形成手法　衆目評価法　一対比較行列評価など」 【参加ワーク】弱小チーム改造計画A～C案　合意形成手法体験
第9回	団体内での人づくり 肯定的指導と弱点の克服。プロセス評価と成長への助言（コンピタンシー評価との違い）	エンパワーメントと次世代リーダー育成 【参加ワーク】プロセス評価を体験しよう
第10回	仲間の拡大　異セクター協働 市民・事業者・行政、立場の違う人たちの協力に何が必要か	事例紹介「地域計画策定への住民参画」 【参加ワーク】コーディネーターの出番（のび夫とスネ太とジョイアンの3すくみを解消しよう）
第11回	ビジョンを実現する力 バックキャストで考える未来　バックキャストとフォアキャスト	事例紹介「スウェーデンの緑の福祉国家構想」から 【参加ワーク】20年後の夢をバックキャストで考える（いかにして自分の夢に近づくか）

第12回	適応力・対応力 先進事例を、自分たちの事情にあわせてアレンジする力	事例紹介「環境ネットワーク活動の活動事例その2　グリーンコンシューマー活動の地域展開とネットワーク」 【参加ワーク】できない理由さがしから、できる条件づくりへ
第13回	思いをかたちにする 活動企画に必要な要件　PDCAサイクルでの活動の展開・深化	「企画」とは、あこがれの人へのアプローチと同じ 【参加ワーク】活動を企画してみよう
第14回	思いを伝える プレゼンテーションの基礎理解	短時間で要点をまとめる「アンチ・クライマックスオーダー」 【参加ワーク】思いを伝える　アンチ・クライマックスオーダー体験
第15回	自己実現に向けて 人権と平和のために闘ってきた人たち	日々の時間の使い方　クワドラント分析 【参加ワーク】学びのふりかえりと分かち合い

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講師が各回提示・提供した情報等を、応用でき得るよう咀嚼・理解しているか
レポート試験	3 %	授業内で提示　市民活動の発展と可能性の理解(A4・1枚程度)
平常点評価	37 %	出席を重視するが、単に「出ている」だけでなく、受講姿勢と授業理解について各回提出の「授業感想」により判断する

本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

下記の行為は授業妨害とみなし、当該学生を「F」評価とすることがあり得る。

他の受講生の受講妨害(授業中の私語、大幅な遅刻や頻繁な途中入退室など)

授業中の携帯電話の使用(Eメールの送受信を含む)

参加ワークの不参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.kankyoshimin.org/

講師堀が事務局長を務める「NPO法人環境市民」のWebサイトである。環境市民は、国内でも活動内容のユニークさや先進性で注目されている団体である(2004年度グリーン購入大賞環境大臣賞受賞、2005年度京都府環境トップランナー賞受賞、京都新聞2005年元旦社説での紹介等)。授業でとり上げる活動が紹介されているので、ホームページの閲覧をすすめる。

その他 / Others

パブリックアクセス論 (S)

13359

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パブリックアクセスとは、市民がマス・メディアにアプローチし、それを利用する権利を求めたところから始まった。1970年代前半、アメリカでは地域のケーブルテレビチャンネルへの市民アクセスが可能となり、これは世界に先んじた制度となった。これをパブリックアクセス・チャンネルと呼ぶ。パブリックアクセス・チャンネルはヨーロッパや日本を含むアジアの国々にまで広がりをみせている。

既存のメディア・システムに一般市民がアクセスすることで、自分たちの問題意識や社会的な課題を広く社会に提示することは、民主的な社会の形成にとって必要である。講義ではパブリックアクセスを生んだ社会的な背景をメディア理論の歴史的な変遷と結びつけながら考察し、その上で実践としてのパブリックアクセスに関わる活動や諸課題を検討・考察する。

ブロードバンドネットワーク網がインターネットと結びつき、マスコミ中心の社会はネット社会へ移行している。音声・動画を活用したさまざまな情報・コンテンツを受信するだけでなく、市民自らが自由に情報・コンテンツを発信できるようになってきた。このような状況の中、これまでのマス・メディア中心のパブリックアクセスの見方をどのように変えてゆけばよいかについても踏み込んで考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアアクセスの起源について理解する
・メディアの発達の帰結としてパブリックアクセスが生まれたことを理解する
・北米、ヨーロッパ、アジアのパブリックアクセスの現状について理解する
・変容を続ける現代のメディア環境の中でパブリックアクセスをどのように捉えなおせばよいかを考える

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　パブリックアクセスとは	
2	マス・メディアの機能と操作(1)	情報化社会、近代プロパガンダ理論、大衆説得
3	マス・メディアの機能と操作(2)	政治とメディア、議題設定、沈黙の螺旋理論
4	アクセス権の誕生	ジェローム・バロン、思想の市場論
5	アクセス権論の展開　米国と日本	レッドライオン判決(1969年)、堀部政男
6	アクセス権運動　マス・メディアと市民の立場から	メディア資本の集中、労働運動、市民運動、ポリティカル・エコノミー論
7	アクセス権の類型(1)　批判・抗議・要求・苦情　および意見広告	自主規範　苦情処理委員会
8	アクセス権の類型　(2)　反論　および　紙面・番組参加	反論権　公平原則　投書欄　アクセス番組
9	メディアアクセスとメディアリテラシー	フランシス・ベリガン　アクセス論
10	北米のパブリックアクセス　(1)　背景とテクノロジーの理解	ケーブルシステム、PEG、電磁スペクトル(Electro Magnetic Spectrum)
11	北米のパブリックアクセス(2)　パブリックアクセス・チャンネルの理念と制度	フェアネス・ドクトリン、レッドライオン事件、フランチャイズ・アグリーメント
12	ヨーロッパのパブリックアクセス　メディアアクセスの先駆者、オランダのラジオ	オランダ放送協会(NOS)
13	アジアのパブリックアクセス　上からの改革が進む韓国	KBS、「開かれたチャンネル」、放送制度改革
14	日本のパブリックアクセス	パブリックアクセス・チャンネル、市民メディア
15	日本のパブリックアクセスの諸課題と展望 メディア・システムの変容とパブリックアクセス概念の揺らぎ	情報通信法　ソーシャルメディア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講者は、音声・映像コンテンツ制作の機会を活用し、自らが情報を発信する実践的な学習にも可能な限り取り組んで欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義を通じパブリックアクセスを理解する上で重要なキーワード、出来事、概念を的確に理解しているかどうか。
平常点評価	30 %	授業出席と授業後のリアクションペーパーの内容評価による

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義ではアクセス理論の基礎的な理解力をもとにパブリックアクセスと関連させて主体的に学ぶことが求められる。受講生は日常的に多様なジャンルのニュース報道に触れる中で社会問題や課題を意識するとともに、「市民とメディア」に関わる情報収集やイベントへの参加などによりパブリックアクセスへの理解を深めることが望まれる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新版パブリックアクセスを学ぶ人のために』	津田正夫／平塚千尋[編]／世界思想社／4-7907-1186-2／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アクセス権とは何か』	堀部政男／岩波新書／／
『現代ジャーナリズムを学ぶ人たちのために』	田村紀雄、林利隆、大井眞二編／世界思想社／4-7907-1056-4／
『やさしいマスコミ入門：発信する市民への手引き』	金山勉／金山智子[共著]／勁草書房／978-4-326-65303-4／

その他については、授業内で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都三条ラジオカフェhttp://radiocafe.jp/
Our Planet-TV http://www.ourplanet-tv.org/
CNN ireport http://www.ireport.com/
産経デジタルのニュースブログポータルhttp://www.iza.ne.jp/
イッツコムチャンネルアクセスhttp://www.itscom.net/itscom-ch/access/

その他 / Others

表現の自由論 (S)

15547

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「表現の自由」は近代社会を開き、発展させてきた基本的な理念の一つで、憲法でも保障されている。しかし、高度情報化社会の進展にともなって、「表現の自由」に派生するマスメディアが担う「報道の自由」に対する市民からのまなざしは厳しくなり、ネットでの「匿名情報」の氾濫など負の側面も強調されるようになっている。表現の自由と、プライバシーなど他の人権とどう調和させていくのか。新聞、電波、電子、マスメディアの世界で起きている「表現の自由」にかかわる諸問題をてがかりに、広く市民社会の表現活動の状況を点検し、あるべき表現方法とそれを実現していくための条件を考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

「表現の自由」をめぐる対立、トラブルで問題の本質をとらえ、双方の利害対立を整理したうえで、一定の解決策を提案できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について総論	憲法21条
第2回	いま、世界の「表現の自由度」は	ランキング
第3回	「表現の自由」を求めて	弾圧
第4回	プレスコード「抑えられた原爆報道」	検閲
第5回	言論テロとの闘い「横浜事件」	自白
第6回	言論テロとの闘い「朝日新聞阪神支局襲撃事件」	時効
第7回	取材の自由とその制約①～取材源の秘匿	逮捕
第8回	取材の自由とその制約②～取材資料の目的外使用	押収
第9回	取材の自由とその制約③～公務員の守秘義務とのかかわり	密約
第10回	表現の自由への規制	ビラ配り
第11回	メディア規制～個人除法保護法	匿名
第12回	メディア規制～有事法制	指定機関
第13回	ネット情報の氾濫と規制	炎上
第14回	名誉毀損訴訟の変遷	高額化
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回のミニレポートで、理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

必要に応じてレジュメ・資料を用意する。ビデオを使用することもある

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
言論の不自由	朝日新聞社会部編／径(こみち)書房／／
新聞社襲撃	116号事件取材班／岩波書店／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化経済論（S） §　文化経済論（W）

15494

担当者名 / Instructor　金武 創

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化経済学の基礎的理解

これまで相反するものと思われがちであった、「文化」と「経済」の関係を価値規範やライフスタイルの変化の視点から捉えなおし、これからの企業やNPO、中央政府・地方自治体のあり方を考える。授業では、理論／実証研究の解説と関連話題（VTRや新聞）の提供という組み合わせで進めていきたい。以下のテーマを順番にすべてやるわけではないが、教科書の内容に即して、できるだけふれていきたいと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

文化経済学の基本問題や概念を幅広く理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	芸術作品とオークション	オークション
2	芸術文化と市場	価格、需要と供給
3	文化的価値と経済的価値	支払い意思
4	芸術文化の消費	1980年代の消費文化
5	芸術文化の生産	高層建築とデザイン
6	芸術文化と情報	出版とブログ
7	文化資本の考え方	世界遺産
8	文化政策と地域文化	インフラストラクチャー
9	慈善事業のためのギャンブル	サッカーくじ
10	温泉観光とまちづくり	情報の非対称問題
11	埋蔵文化財の経済学	町並み保存
12	衰退する音楽CD	ミリオンセラー
13	スポーツNPOの経済的利点	規模の経済と範囲の経済、障害者スポーツ
14	都市空間とパブリックアート	公共財の理論
15	舞台芸能としての落語	メディア戦略とライヴの発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ただし、平常点評価を基礎とすることに注意してほしい
平常点評価	30 %	

割合は高くないですが、平常点評価が成績評価の基礎になります。始業時間すぐに出席確認と授業導入を兼ねた課題を実施しているので、遅刻しないこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・教科書を入手し、毎回の授業で持参してくることを前提に授業を進めます。
・受講人数によっては、成績評価の方法を変えるかもしれません。人数確定後、授業内で伝えます。
・時事問題等を優先して扱うので、授業の順番は入れ替わる可能性がありますが、期間内に教科書全てにふれるつもりです。
・始業時間を守ってください。平常点をいろいろな方法で評価する予定です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文化経済論	金武創・阪本崇／ミネルヴァ書房／／2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ニュース論（S） § 電波メディア論（G） § 放送メディア論（G） § 放送文化論（W）

13377

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・テレビ・ラジオ放送の仕組みや関連する法制度を通して社会的な位置づけを理解する。
・映像の製作技術、特にニュースやドキュメンタリーの手法やソフトの進化や問題点を理解する。
・インターネットの発達によるメディア地図の変化を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション：放送の「ことば」と映像	
第2回	放送の仕組み（1） 番組が企画からあなたのもとに届くまで	企画・取材・演出・編集
第3回	放送の仕組み（2） ニュースは儲かるのか？	視聴率・コマーシャル・受信料
第4回	映像の「約束事」と現実	ドキュメンタリー・演出・やらせ
第5回	ニュースとは何か？	ニュースキャスター・ワイドショー
第6回	放送におけるジャーナリズムの危機	取材・インタビュー・ニュースバリュー・ビデオジャーナリズム
第7回	テレポリティクスとメディアコントロールの実際	政治家とテレビ・戦争報道・選挙報道
第8回	メディアの「暴力性」	メディアスクラム・犯罪被害者・プール取材
第9回	「公共放送」は必要なのか	NHK・BBC・FCC・災害報道
第10回	テレビは夢や希望を与えられるのか	バラエティ・ドラマ・エンターテインメント
第11回	（ゲストスピーカー予定）	
第12回	デジタルの基礎知識とその功罪	地上波デジタル・IP放送
第13回	ブロードバンドと新たに生じた問題	ウェブ2．0・オンデマンド放送・コンテンツビジネス
第14回	サイバー社会の諸問題	個人情報・著作権
第15回	まとめの議論と記述問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①ニュースと民主主義、表現の自由の関係などを理解しているかどうかを測る記述問題。 ②受講者数によって、発表やクラス内ワークショップなどの作業を追加する可能性がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・テレビは授業ではほとんど観ません。自分でたくさん観て、たくさん評論してもらいます。
・たくさん読んで、たくさん意見を言って、たくさん文字を書いてもらいます。
・新聞を少なくとも1紙毎日目を通しておいてください。

教科書 / Textbooks

・追って指示します・

参考書 / Reference Books

・追って指示します・

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア技術史（S）

15543

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ケータイ―携帯電話やデジタルハイビジョン放送などメディアの技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、中世のグーテンベルクの活版印刷術の発明から、今日のインターネット、ケータイ、ユビキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのかを具体的に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

次の3点をめざす。

第一に、メディア論をふまえたメディア技術史全体の流れの理解

第二に、活版印刷、写真、映画、ラジオ、テレビ、インターネット等歴史的に最も重要なメディア技術の基礎的理解

第三に、それらメディア技術の歴史的、社会的意味の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」は履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア・技術・社会	ケータイをめぐって、メディアとは、メディア技術史とは
2	グーテンベルクの銀河系（その1）	「42行聖書」、M. マクルーハン、マクルーハンのメディア論、「人間の拡張」
3	グーテンベルクの銀河系（その2）	紙とインク、ブックの誕生、J.グーテンベルク、活版印刷術の発明
4	電子メディアの誕生	腕木式通信から電信へ、近代テレコミュニケーション技術としての電信と電話、モールスとベル
5	電子とは、電波とは？	マックスウェルの電磁気学、ヘルツと電磁波の発見、マルコーニと無線電信の発明
6	写真と映画の発明	ニエプス、ダゲール、タルボットと近代写真術、エジソンとリュミエール兄弟
7	エジソンと音の複製	フォノグラフからグラモフォンへ
8	ラジオの発明	クルックスの「予言」？、真空管、ドゥ・フォレスト、「第三帝国の同調装置」か？
9	テレビの発明	ブラウン管とニプコー円盤、ツォリキンとアイコノスコープ（撮像管）
10	コンピュータの誕生	コンピュータの起源、ENIACとフォン・ノイマン、ノイマン型コンピュータ
11	シリコンバレーの一粒の麦	電子部品の発達、トランジスターからICへ、R.ノイス
12	シリコンバレーの夢	マイクロプロセッサーの発明からグーグルまで
13	インターネットヒストリー	S.ジョブズ、ビル・ゲイツとパソコンの発明、アーパネットからインターネットへ、M.アンドリーセン
14	ユビキタスとユビキタス社会	M.ワイザーと坂村健、トロンと組み込みコンピュータ、ICタグ
15	マクルーハン再論	L.マンフォードとマクルーハン、メディア史の時代区分、「テトラッド」―メディアの栄枯盛衰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に指示する参考文献を学習することが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	授業中に実施するミニレポートやコミュニケーションペーパーなどから評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論的ベースに関わるテクストのエッセンス、必要最小限の部分は、講義資料として配付するのでそれをよく読むこと、また各メディア技術の原理の基礎に関しては、授業中にできるだけていねいに解説することを心がけるが、不明の点があればその次の回の授業のときに質問すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア論　人間の拡張の諸相	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN4-622-01897-7／
グーテンベルクの銀河系　活字人間の形成	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN-4-622-01896-9／
複製技術時代の芸術	W. ベンヤミン／晶文社／ISBN4-7949-1266-8／
20世紀のメディア①エレクトリックメディアの近代	水越伸篇／ジャストシステム／ISBN4-88309-081-7／

毎回それに添って授業を進めるという意味でのテキストではないが、授業の理論的ベースに関わるテキストとして

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版電気の技術史	山崎俊雄、木本忠昭／オーム社／ISBN4-274-12914-4／
目で見るデジタル計算の道具史	キトウェル、セルージ／ジャストシステム／ISBN4-88309-096-5／
グーテンベルク聖書の行方	富田修二／図書出版社／ISBN4-8099-0504-7-C0090／
起業家エジソン　知的財産・システム・市場開発	名和小太郎／朝日新聞社／ISBN4-02-259771-2／
電子立国日本の自叙伝	相田洋／NHK出版／ISBN4-14-084007-2他／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

映画（キネマトグラフ）や蓄音機（フォノグラフ）の発明者エジソンについて：
http://edison.rutgers.edu/papers.htm

その他 / Others

メディア社会論（S）

15490

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

メディアが社会的なテーマを設定し、その“世論”が社会を動かしていくという現代社会の情報循環にあって、とりわけ「映像ジャーナリズム」が果たす役割は決定的ともいえるほどである。この授業では、映像ジャーナリズムの成立と変遷、特に戦争報道の変容を軸として、現代メディアの課題をさぐり、さらにジャーナリズムの原点や、オルタナティブなメディア社会のありかたを考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

●映像ジャーナリズムが登場した歴史的/政治的/文化的背景を知る
●際立った映像ジャーナリズムの属性（機能と特性）を理解する
●その映像を記録した人の生き方、誰がどういう立場で撮ったかを感得する
●現代の映像ジャーナリズムがもたらす課題を批判的に理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　～恐竜の跋扈する中で～	V鳥の巣、授業全体のねらい、20世紀とジャーナリズム
2	「正義のジャーナリズム」	ベトナム戦争報道、戦争報道の3つの時代、プロパガンダへの反省、メディア研究
3	報道グローバリズムの開幕	湾岸戦争報道、情報コントロール、冷戦の終結、ベトナムの教訓、衛星グローバリズム
4	北朝鮮報道	冷戦、メディアコントロール、「再会」、日本の外交と主流メディア
5	イラク戦争報道の諸問題	総合的な統制、NNN戦争報道論点」、電子化した情報・映像、メディアコントロールとのたたかい、戦争広告会社
6	映像の誕生・進化と社会化	リュミエール、テキストジャーナリズム、映像ジャーナリズム、身体感覚性、通俗性、多義性
7	キャパ神話	フォト・ジャーナリズム、キャパ、30年代内戦の時代、カメラ、マグナム、Days Japan、
8	大本営発表	映像の影響力、プロパガンダ、「レイテ」、情報統制、プロパガンダ映画、日本ニュースの表現
9	エド・マローの世界	リベラル・ジャーナリズム、「シー・イット・ナウ」、イデオロギー支配への反省、テレビの時代、マッカーシズム
10	鉄のカーテン崩壊	撮影・中継技術の飛躍、ENG・SNG、FPU、現場中継、アキノ革命、天安門事件・ベルリンの壁報道
11	ドキュメンタリーというジャーナリズム	「苦海浄土」、水俣病、石牟礼道子、木村栄文、演出と構成
12	ダイアナ事件を読む	「ダイアナ事件」、メディア・スクラム、カメラと取材の他者性・暴力性、表現の多義性、エンコーディング/ディコーディング
13	「発掘！あるある大事典Ⅱ」の発掘	テレビ制作の構造と倫理、調査委員会、BPO、企業ジャーナリズム
14	対抗的ジャーナリズム	「瀋陽事件」、増山たづ子、独立ジャーナリスト、フレームの外、アルジャジーラ/目で聴くテレビ
15	市民社会とジャーナリズム・再論	ジャーナリズムの立場性/津田の立場性、当事者/代理者、表現の主体

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・（映像）ニュースをよく見ること
・日常的にドキュメンタリー映像を観察すること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版・ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄/林利隆ほか／世界思想社／／
ドキュメント　戦後放送史　上・下	松田浩／双柿舎／／
国際紛争のメディア学	橋本晃／青弓社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア制作I（SA）

13315

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、メディア表現の一環としてラジオ番組制作を行う。一口にラジオと言っても、現在では電波を使った放送だけでなく、インターネットを使ったさまざまな表現の1つとして、Podcastや音声ブログのような新しい形も存在している。これらに通底しているのは、「音声」による表現という点である。映像に世得る表現と違い、音声表現では聞き手の想像力をいかに活性化し、想像力によって生み出されるものを共有するかにある。赤くておいしそうなリンゴを映像で見せるのではなく、言葉や音を使って「赤くておいしそうなリンゴ」として想像してもらう必要があるのだ。

そこで、この授業ではまず音声を使った表現の方法を知り、技術的な知識を学ぶ。その上で、実際に作品作りを行っていく。作品は中間と最終の2作品を制作するが、そのうち最終作品の提出は必須。また、最終作品は学内・学外ネット上での公開を前提とする。授業は基本的に個人作業で行う。4回以上を対象としているので、出席は就活との兼ね合いで調整すること。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 音声データ編集の方法が理解できる。
2. 音声メディアを使った表現ができる。
3. 音声メディアを使った表現とコミュニケーションとの関係を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業概要説明・音声メディアの表現方法とメディアについて	音声メディアとは？
2	音声データの収集方法とデータの利用方法	MDレコーダとマイク、ICレコーダ、PCとの接続及び取り込み
3	中間作品作りの準備1	著作権、取材方法、発信方法
4	中間作品作りの準備2	10分番組の企画書作成
5	スタジオ収録の方法と実践	録音スタジオでの収録方法
6	音声編集の実践	編集ソフトSound itの使用方法
7	中間作品作り1	実習作業
8	中間作品作り2	実習作業
9	中間作品作り3	実習作業
10	中間作品プレゼン・最終作品企画書作成	実習と最終作品準備
11	最終作品制作作業1	実習作業
12	最終作品制作作業2	実習作業
13	最終作品制作作業3	実習作業
14	最終作品制作作業4	実習作業
15	最終作品プレゼン	作品の発表と評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	作品提出70%、出席30%

最終作品の提出がなければ、単位は認定されない。最終作品は5段階で内容を評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音声メディアの代表であるラジオを聴くこと。
Podcastなどのネットでの音声データに触れること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア制作II SA

本文無し

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア調査法（S）

15516

担当者名 / Instructor　登丸 あすか　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、メディアに関連する調査法について学ぶ。具体的には、効果研究、利用と満足研究、オーディエンス研究などのメディア研究の事例を用いて、調査結果の読み方とそこに潜む政治性の発見に重点を置く。また、メディアの内容分析や、世論調査、視聴率調査などメディアが実施する調査を取り上げ、メディアを研究対象とすることの意味、調査する側とされる側の関係性について考える。講義は大きく3つのパートに分かれている。パート1では、メディア調査の方法論を学ぶにあたって必要な理論の紹介、過去に行われた様々な調査事例を紹介する。パート2では調査の技法として、準備段階からメディア別の調査方法までを取り上げる。パート3では、メディアに関する調査の結果をクリティカルな視点で読み解いていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・それぞれのメディアが持つ特性について理解し、調査方法との関連性を見出す。
・実際に行われている調査の実態を把握し、理解を深める。
・クリティカルな視点でメディアに関する調査を分析する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア調査とは	なぜメディアを研究するのか
2	メディア調査の方法論1	メディア調査とは何か／理論とマス・メディア
3	メディア調査の方法論2	メディア研究と調査
4	メディア調査の方法論3	受け手研究とメディア調査1
5	メディア調査の方法論4	受け手研究とメディア調査2
6	メディア調査の方法論5	カルチュラルスタディーズのオーディエンス研究1
7	メディア調査の方法論6	カルチュラルスタディーズのオーディエンス研究2
8	メディア調査技法1	メディア調査と準備
9	メディア調査技法2	アンケート調査
10	メディア調査技法3	インタビュー調査
11	メディア調査技法4	インターネットと調査、メディアの歴史と調査
12	メディア調査の分析1	調査内容の量的分析手法
13	メディア調査の分析2	内容分析の手法
14	メディア調査の分析3	言説分析の手法
15	まとめ	メディアの調査から見えてくるもの

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	客観問題と論述問題を併用
平常点評価	30 %	授業内で適宜、理解度を知るためのコメントの提出を求める。

講義開始から30分経過した時点でレジュメなどの配布を中止する。以後、一切配付しない。遅刻をしないように注意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア文化論 (S)

15562

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:テレビ視聴者と／のバラエティ
現在の日本のテレビは「バラエティ」にあふれている。言い換えれば、「ニュース」も「情報番組」も「お笑い」も、すべてが「バラエティ」という括りでひとまとめにできてしまえる、つまり「総バラエティ化」と呼べるような状況になっている。こうした状況は、どのような歴史的経緯を経て出現したのか。そして、われわれ視聴者は、そうした「バラエティ」あふれる(あるいは、「バラエティ」ばかりの)現在のテレビと、どのように関わり合っているのか。本講義では、テレビ番組やテレビを題材にした映画などを資料としながら、戦後日本社会において「テレビ視聴者」の位置がどのように変化してきたのかを考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

テレビが視聴者をどのように構成し、また視聴者がテレビというメディアからどのような「本当らしさ(リアリティ)」を感受しているのか、自身のテレビ体験を相対化しながら、テレビが編制する＜メディア文化＞について言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　テレビ視聴者とバラエティ	
2	「観客」から「視聴者」へ	
3	舞台の「裏」とはどこか？	
4	「素」を見ることの快楽	
5	画面に映っているのは誰か？	
6	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・1	
7	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・2	
8	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・1	
9	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・2	
10	「リアリティ」の作り方・1	
11	「リアリティ」の作り方・2	
12	「リアリティ」の作り方・3	
13	「ただの現在」としてのテレビ・1	
14	「ただの現在」としてのテレビ・2	
15	まとめ　テレビ視聴者のバラエティ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で触れた論点をふまえたレポートを課す(4000字以上のレポートを予定)。
平常点評価	40 %	第5回と第11回頃に小レポート(2000字程度)を課す(詳細は授業プリントで提示する)。最終レポートを含め、計3回のレポートをすべて提出した者のみ成績評価対象者とする。ちなみに、2008年度の「メディア文化論」単位取得率(単位取得者÷履修登録者)は56.7%であった。なお、いわゆる「出席点」は存在しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会は笑う―ボケとツッコミの人間関係	太田省一／青弓社／／
嗤う日本の「ナショナリズム」	北田暁大／NHKブックス／／
広告都市・東京	北田暁大／廣済堂／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディアリテラシー論（S） §　メディア・リテラシー論I（G）

13286

担当者名 / Instructor　浪田 陽子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、メディアは政治・経済・社会・文化など我々の生活のあらゆる側面に影響を及ぼしている。このメディア社会を主体的に生きるには、メディアをクリティカルに読み解き、社会におけるメディアの役割や特性を理解し、また自らメディアを制作する力、すなわちメディア・リテラシーが不可欠である。本講義においては、メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状などを実践を通して学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・ メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状など基本的な事柄を理解する。
・ メディア分析やメディア制作課題などのグループ活動、およびメディアログ等の課題によって、メディアをクリティカルに読み解き、メディアを制作する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	メディア、メディア社会
第2回目	メディア・リテラシーとは何か	メディア・リテラシー
第3回目	メディア・リテラシーの基本概念	リプレゼンテーション（representation）、イデオロギー、価値観
第4回目	メディアとオーディエンス	アクティブ・オーディエンス、エンコーディング・デコーディング
第5回目	広告を考える（1） テレビ・コマーシャル	映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法
第6回目	広告を考える（2） 消費社会	消費社会、ブランド化（Branding）
第7回目	広告を考える（3） 子どもへのマーケティング	ターゲット・オーディエンス
第8回目	カルチュラル・スタディーズとメディア・リテラシー	カルチュラル・スタディーズ、サブカルチャー
第9回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（1） ジェンダー	ジェンダー
第10回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（2） 民族と文化	民族、エスニシティー、文化
第11回目	メディアと暴力	バイオレンス、モラル・パニック
第12回目	産業としてのメディア	メディア・コングロマリット、民主主義とメディア
第13回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（1）/ グループ・プレゼンテーション（1）	メディア・エデュケーション
第14回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（2）/ グループ・プレゼンテーション（2）	カリキュラム、ネットワーキング
第15回目	グローバル時代のメディア / グループ・プレゼンテーション（3）	グローバル化、グローバルメディア、デジタルメディア

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・日常生活において自分が使うメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。
・メディア制作はグループで活動する時間を授業内にも設けるが、授業時間外に資料を集めたり取材や撮影を行わなければならないこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①メディアログ（10%） ②メディア分析レポート（15%） ③コミュニケーション・ペーパー（45%） ④グループ・メディア制作（30%） 詳細は以下の「備考欄」を参照のこと。

・ メディアログ（個人でつけるメディア日記）は第3回目の授業で、メディア分析レポートは第8回目の授業で提出する。分析方法等は授業で紹介・実践する。
・ コミュニケーション・ペーパーは、授業の内容をよく理解した上で、メディア分析やその他の授業内課題を記述するものである。単なる出欠確認ではなく、記述内容の出来によって0～5点で評価する。
・ グループ・メディア制作は、4、5人のグループでメディア（5分程度のビデオクリップや新聞記事など）を制作し、後半3回の授業で発表・ディスカッションを行う。評価は製作技術の高さではなく、この講義で学んだメディア・リテラシーの基本概念を理解し、自分たちのメッセージや制作の意図が伝わるものになっているかどうかを基準とする。成績はグループ・ワークへの貢献度や課題の出来を加味して、個人ごとにつけ

る。グループは、他回生・他学部生がバランスよく混ざるようこちらで指定する。
・ 受講者の人数等により、メディア制作課題の内容などに変更が出ることもあるかもしれないが、その際はすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・ メディア分析やメディア制作など、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。全員でアイディアを出しあい、また互いの意見を尊重しながら協力してグループワークを行うことが要求されることを理解した上で受講登録すること。
・ ほぼ毎回行われるメディア・テクスト分析は日常点であるとともに、この講義の集大成であるメディア制作課題の練習・準備でもあるので、毎回の出席と能動的な参加が必須である。初回に授業の進め方や課題、評価方法について詳細な説明をするとともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
・ QRコードシールを毎回持参すること。
・ 遅刻は他の受講者の迷惑になるだけではなくグループ活動などに支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等は、授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版　Study Guide　メディア・リテラシー[入門編]	鈴木みどり編／リベルタ出版／4947637595／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーの現在と未来	鈴木みどり編／世界思想社／4790708969／
メディア・リテラシー教育：学びと現代文化	D. バッキンガム著、鈴木みどり監訳／世界思想社／4790712265／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Media Awareness Network http://www.media-awareness.ca/english/index.cfm
FCT　メディア・リテラシー研究所　http://www.mlpj.org/index.shtml

その他 / Others

メディア理論 (S)

13321

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

あるものとあるものとの「あいだ」にあって両者を媒介するもの。それがメディアである。しかし、それは単に「情報」をそっくりそのまま乗せて届けるパイプや箱のようなものではない。その「あいだ」が「情報」のカタチを変えることもあれば、私たちのコミュニケーションの形式を規定することもある。本講義では、、私たちの日常的なコミュニケーションを媒介する様々な＜メディア＞について考えるための理論的な枠組を、活字・ラジオ・テレビ・インターネットなどを素材にしながら紹介していく。

到達目標 / Attainment Objectives

＜メディア＞の力学について敏感になり、その作用について考え、言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　＜メディア＞について考えるとはどういうことか	
2	洞窟での／からの景色　メディアを「信じる」ということ	
3	ドン・キホーテの銀河系　活字を読む経験	
4	輿論と世論　大衆社会の中の新聞	
5	火星人が来た！　ラジオとプロパガンダ	
6	いつでも、どこでも、同じもの　複製技術時代のアウラ	
7	「現場」で見る／茶の間で見る　テレビとメディア・イベント	
8	その意見は本当に「あなたのもの」ですか？　効果研究の展開	
9	メディアはメッセージである　マクルーハンの誘惑	
10	そのメディアは何色ですか？・1　メディア・リテラシー論とトロント学派	
11	そのメディアは何色ですか？・2　カルチュラル・スタディーズ	
12	「本を読む」とは何事か　読書論の射程	
13	プロレス化する社会　高度情報化時代のテレビ	
14	もし地球がひとつの村だったら　インターネットと「グローバル・ヴィレッジ」	
15	まとめ　＜メディア＞について(さらに)考えるために	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本概念や語句の理解、および「メディア」についての洞察力を試す問題を課す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。

授業終了時に提出するレスポンスカードで内容の理解度を評価する場合もあるが、基本は定期試験で評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マスコミの受容理論	佐藤毅／法政大学出版局／／
現代メディア史	佐藤卓己／岩波書店／／
メディア文化論	吉見俊哉／有斐閣／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

アートマネジメント論（S）

13313

担当者名 / Instructor　森口 まどか　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

そもそもアートマネジメントとは。芸術をmanage（マネージ／運営・管理）するとはどのような事柄を意味するのだろうか。一般に、アートマネジメントによって芸術と社会を結び、双方がより良く生かし生かされる方策を考え出すと捉えられている。しかしながら、その前提である現代社会においてなぜ芸術は必要か、ということをまず問はなくてはならないだろう。

近年、国立博物館・美術館・文化財研究所が独立行政法人化されたり、指定管理者制度の導入に伴い公共文化施設の管理者やその運営方法が審議されたりと、わが国における芸術文化施設の在り方が根本的に問い直されている。さらには現在、世界は同時不況に苦しんでおり、芸術をとりまく環境についても新しい視座が求められる。すなわち、芸術と社会が相互に生かされる方策、アートマネジメント領域からの視点がより必要とされることはいうまでもなく、先の問いに検討をくわえることが重要であろう。

本授業では、芸術は社会になぜ必要かを問い、考察する。そのために、近代的ミュージアム形成の歴史および、主に美術分野における国際展やパブリック・アートなどの実例を紹介しながらさまざまな問題点を検証する。そして、次代の芸術の役割について考えてゆきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・芸術と社会の関係についての知見を幅広く論じることができる。
・わが国における博物館・美術館の現状を確認し、その問題点をさまざまな視点から挙げることができる。
・次代のミュージアム像を描いてみることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術、音楽、文学などの芸術全般にわたる基礎的な知識があることが望まれるが、たとえば、美術史概論が事前に必要な履修科目ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	アートマネジメントとは 今日におけるアートマネジメントの必要性を中心に	
第2～4回目	ミュージアムについて:その歴史、社会、思想的背景から	啓蒙主義思想、公共性、蒐集、美術
第5～7回目	オフ・ミュージアムについて 1960年代以降のインスタレーション・アートを中心として	アートセンター、パブリック・アート
第7～8回目	国際美術展その歴史と運営について	
第9～10回目	アーティスト・イン・レジデンスの考え方	コミュニティ、コミュニケーション
第11～12回目	NPO活動とアートについて	独立行政法人化、指定管理者制度
第13回目	「ワークショップ」という在り方	
第14～15回目	まとめ：1.アートの社会的価値について　2.次代のミュージアム	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容を踏まえ、基本的な語句の理解および、現代社会における芸術の役割などについてを問う。自身の視点で論理的に展開記述できるかを評価する。
平常点評価	30 %	授業内容に関する理解度を確認するための設問を出す。実施時期は、前期中頃。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

さまざまな機会を捉えて美術館、コンサートホールなどの芸術文化施設へ積極的に出かけること。そうした機会を増やすところから、芸術と社会の関係を考えてゆくようにすることが望ましい。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アートマネージメント』	伊東正伸、岡部あおみ、他著／武蔵野美術大学出版局／4-901631-52-7／2003年
『進化するアートマネジメント』	林容子／レイライン／4-902550-01-6／2004年
『二十一世紀博物館－博物資源立国へ地平を拓く』	西野嘉章／東京大学出版会／4-13-003317-4／2000年
『創造－現場から／現場へ』	小林康夫・松浦寿輝編／東京大学出版会／4-13-014116-3／2000年、(『表象のディスクール6』
『美術のアイデンティティー』	佐藤道信／吉川弘文館／978-4-642-03778-5／2007年

『アーツ・マネジメント概論』　伊藤裕夫、小林真理、他著／水曜社／978-4880651323／2004年（新訂版）

その他適宜紹介する。
授業内容全般をより理解するための参考書。（『アートマネージメント』、『進化するアートマネジメント』、『アーツ・マネジメント概論』）
特に、美術館についての理解をより広め、深めるときの参考書。（『二十一世紀博物館－博物資源立国へ地平を拓く』、『創造－現場から／現場へ』、『美術のアイデンティティー』）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.nettam.jp
アートマネジメント全般の知識と現在の動向を知るのに参考となる。その他適宜紹介する。

その他 / Others

アジア文化論 (S)

13455

担当者名 / Instructor　文 楚雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較しながら、その同質性や異質性を考えることにしたい。この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

◎ 中国、韓国を中心としたアジアの国々の文化に対する理解を深めることができる。
◎ 日本文化に対する再認識を深めることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化とは何か。視点や方法。文化・文明の衝突。	
第2回	日本人・中国人・韓国人の国民性	
第3回	儒教文化とその伝承	
第4回	言語と文化 ――日本語、中国語、英語の比較から――	
第5回	婚姻法から見た儒教思想	
第6回	文学から見た文化――平家物語を中心に――	
第7回	道教・神道・禅	
第8回	日・中・韓の食文化とマナー	
第9回	住まい文化	
第10回	仏教文化	
第11回	本学の留学生との交流	
第12回	金閣寺と銀閣寺	
第13回	祭りの文化	
第14回	スポーツの文化	
第15回	日・中・韓文化の特徴	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終レポートを提出しなければならない。
平常点評価	40 %	出席や日常的な取り組み

期末の最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリント教材、授業時随時配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代中国の生活変動』	飯田哲也編／時潮社／／
『韓国人の心』	李御寧／学生社／／
『日本人・中国人・韓国人』	金文学　／白帝社／／

現代の中国、韓国を知るにはたいへん役に立つ。教科書並みの参考書となる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演劇論 (S)

15492

担当者名 / Instructor　池内 靖子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに,60年代～70年代のアングラ小劇場運動に焦点を当て、同時に広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。とりわけ、パフォーマンスとジェンダーの交差について重点的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

演劇的な知、パラダイム、理論的な枠組みについて学ぶと同時に、地域や都市の演劇空間、個別の演劇・パフォーマンスの表現について調べ、考察する。とりわけ、ジェンダーとパフォーマンスの交差に焦点を当て、考察を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス、都市・地域と劇場	シアター・オリンピックス
2	国民国家と演劇	近代演劇と女優の誕生
3	帝国のロマンス	『マダム・バタフライ』『M.バタフライ』『ミス・サイゴン』
4	宝塚歌劇 I	男役と娘役、ジェンダー／セクシュアリティの構築
5	宝塚歌劇 II	ファンは何を求めているか
6	60～70年代のアングラ小劇場運動 I	鈴木忠志、唐十郎、佐藤信
7	60～70年代のアングラ小劇場運動 II	寺山修司の「天井桟敷」
8	舞踏の身体	土方巽、肉体の反乱
9	アングラと女性演劇人	ウーマン・リブ、セクシュアリティ／ジェンダーの脱構築
10	アート・アクテイヴィズム／言説と身体	ダム・タイプ、異性装／越境について
11	ダンスとシアターの間	ピナ・バウシュ、コリオグラフィー
12	パフォーマンス・アート／言語・映像・身体	テレサ・ハッキョン・チャのテクストの舞台化
13	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 I	金満里の劇団「態変」
14	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 II	ニューヨークのコミュニティ・シアター
15	まとめ	近代演劇を超えて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外学習の指示 / Out of class assignment

個人やグループで、演劇やパフォーマンスを観に行き、劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	劇場フィールドワークの(グループ)レポートと試験に代わる最終(個人)レポートを課す。
平常点評価	40 %	ビデオの感想を書き、グループでの議論に参加すること。

レポート課題は2つ実施する。1つは、個人あるいはグループで、地域と劇場についてフィールドワークした調査結果についてまとめる。2つ目は、試験に代わる最終レポート(個人課題)として、受講して興味を持ったテーマを自由に設定し、考察したことをまとめる。

※日常点評価40%

ビデオを資料として使うので、それを見た後、感想を書いたり、適宜グループ・デイスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演劇に関する広い興味、関心をもち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
女優の誕生と終焉ーパフォーマンスとジェンダー	池内靖子／平凡社／978-4-582-47231-8／

踊る帝国主義　宝塚をめぐるセクシュアルポリティクスと大衆文化	ジェニファー・ロバートソン／現代書館／4768467733／
宝塚というユートピア	川崎賢子／岩波書店／978-4-00-430940-6／
迷路と死海	寺山修司／白水社／978-4-560-03254-1／
異郷の身体ーテレサ・ハッキョン・チャをめぐって	池内靖子/西成彦・編／人文書院／4-409-04078-2／

その他、参考文献については、授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演出論 (S)

13361

担当者名 / Instructor　水沼 健

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

演劇についてまたその中における演出の効果、可能性について考察する講義です。映像等の資料を見ながら演劇作品、演劇の持つ精神に触れ、創作の仕組みを研究していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

演劇を通じて現代芸術への関心を高め、見識や興味を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	演劇の歴史1	日本の演劇の成り立ち
2	演劇の歴史2	世界の演劇の成り立ち
3	演劇をめぐる状況1	日本の演劇の現在
4	演劇をめぐる状況2	世界の演劇の現在
5	演出家の仕事1	戯曲について
6	演出家の仕事2	空間について
7	演出家の仕事3	俳優について
8	演劇の特性1	他の表現媒体との比較
9	演劇の特性2	他の表現媒体との接点
10	批評の言葉	作品の批評
11	創作1	演劇の創作
12	創作2	演劇の創作
13	創作3	演劇の創作
14	まとめ	演劇の可能性
レポート作成	テーマは講義最終日までに決定	創作、批評

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	予定なし。
レポート試験	40 %	課題は講義過程で決定。
平常点評価	60 %	出席状況、授業態度等で評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

芸術社会論（S）

15493

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

芸術家はその作品によって来るべき「社会を予兆する」と言われるほど、社会の現象に敏感であり続けた。西洋の美術の歴史を学ぶことによって、まず、美術作品を生み出した時代の文化や社会の様相を見、中世から現代に至る社会の中で、芸術家がいかに彼らをとりまく時代の環境や現実を表現し、独自の世界観を観者に伝えようとしたのかについて考える。美術作品は単なる芸術家の個性表現や制作技術の成果にとどまらず、文化や社会においてメディア的な機能をもつことを認識する。

到達目標 / Attainment Objectives

美術作品を通して、時代の精神や世界観を理解する。
美術作品を観察し、「読む」力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

表象文化論／芸術表現論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義への導入― 西洋美術史の出発点としての古代ギリシア	高貴なる静謐さ、数学的構成、コントラポスト
第2回	《ユスティニアヌス帝と従者たち》	美術と権力、モザイク
第3回	《ロランの聖母》（ヤン・ヴァン・エイク）、《ヴィーナスの誕生》（ボッティチェリ）	聖母像とヴィーナス像の系譜
第4回	《貴婦人と一角獣》	タピスリー、美徳
第5回	《メレンコリアII》（デューラー）	知的創造、人文主義
第6回	《干草の収穫》（ブリューゲル）	地理誌、パノラマ的風景画、月暦図
第7回	《静物》（ヘダ）	静物画、近代資本主義、ヴァニタス
第8回	《海辺の修道士》（フリードリヒ）	ドイツ・ロマン主義、崇高論
第9回	《ラ・グルヌイエール》（モネ）	戸外制作、余暇の文化、瞬間性
第10回	《フォリー・ベルジェールの酒場》（マネ）	近代都市の肖像、断片性
第11回	《坊主としての自画像》（ゴッホ）	ジャポニズム、画家の肖像
第12回	《ヴァイオリンを持つ男》（ピカソ）	視線の複合化、幾何学的抽象
第13回	《ナンバー　50、1950 》（ポロック）	熱い抽象、戦後のアメリカの象徴
第14回	《無題＃93》（シャーマン）	ジェンダー、アプロプリエーション
第15回	《20世紀の終焉》（ボイス）	人間学、環境問題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
西洋美術の歴史	H.W.ジャンソン／創元社／／
芸術学ハンドブック	神林恒道他編／勁草書房／／
世界美術大全集（西洋編）	／小学館／／

各講義で作品に応じた他の参考書も紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

表象文化論（S） § 芸術表現論（S）

15607

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察者の眼が反映しているのか。科学的、思想的、政治的な観点から考える。17世紀オランダのリアリズム、近代の自然描写と思想、あるいは断片的世界観、そして政治的な視線の差異などを中心テーマとする。フェルメール、ヘダ、フリードリヒ、アングル、マネ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ピカソ、ボッチョーニ、モンドリアン、デュシャン、ヘッヒ、ポロック、ボイス、リヒター、キーファーなど17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、観察者の立場で作品に向き合う。

到達目標 / Attainment Objectives

美術、芸術作品を通して、時代の思想や世界観を知る。
作品を観察し、主題を読み取り、思考する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	観察者、自然、断片の世界観、視線の差異
第2回	観察の眼	17世紀オランダの静物画と風景画
第3回	近代の自然描写と思想（1）	風景画の歴史と近代
第4回	近代の自然描写と思想（2）	自然と崇高
第5回	芸術における自然観(2)	都市　vs　田園
第6回	芸術における自然観(3)	20世紀の抽象運動
第7回	芸術における自然観(4)	20世紀のプリミティヴィズム
第8回	芸術における自然観(5)	自然と環境問題
第9回	「断片」の美学（1）	フランス近代、印象派
第10回	「断片」の美学（2）	キュビスム、未来派、新造形主義
第11回	「断片」の美学（3）	フォトモンタージュ
第12回	「自己」と「他者」の視線(1)	プリミティヴ・アート
第13回	「自己」と「他者」の視線(2)	オリエンタリズム、写真、美術
第14回	「自己」と「他者」の視線(3)	今日の展覧会批評
第15回	全体の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
観察者の系譜－視覚空間の変容とモダニティ	ジョナサン・クレーリー／以文社／／
絵画の政治学	リンダ・ノックリン／彩樹社／／
C.D.フリードリヒ、《画家のアトリエからの眺め》－視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
美術史をつくった女性たち－モダニズムの歩みのなかで	神林恒道・仲間裕子編／勁草書房／／
20世紀美術におけるプリミティヴィズム	ウィリアム・ルービン編／淡交社／／
＜方法＞としての人間と文化	佐藤嘉一編／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

言語文化論（S） §　言語コミュニケーション論（S）

15608

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義でどんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	近代言語学の成立とその背景 ソシュール（1）	ｿｼｭｰﾙが求めたﾗﾝｸﾞは、話し手の意識の中にあり、それ以外のどこにもない。
2	ソシュール（2）	
3	ソシュール（3）	
4	ソシュール（4）	
5	ソシュール（5）	
6	ソシュール（6）	
7	言語相対主義の潮流	ｿｼｭｰﾙが提示してみせたのは、これは後に言語論的転回と呼ばれるﾊﾟﾗﾀﾞｲﾑをもたらした考え方である。ｿｼｭｰﾙは、ことばが存在して初めて、概念や対象が誕生する。なぜならば、ことばが、境界のない連続的現実世界を切り取ることにより、概念が作り上げられるからというわけである。
8	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄに始まる言語相対論	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ言語学が近代言語学の三大源泉の一つだと言われる最大の理由は、近現代言語学を一貫して貫く言語相対主義の考え方の発端、すなわち母語の発見と言語と民族との間に生ずる不可分の関係の発見をそこに見いだすことが出来るからである。この考え方は、ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ言語学に端を発し、ｿｼｭｰﾙ言語学で理論的肉付けを完成し、後のｻﾋﾟｱ=ｳｫｰﾌ仮説やﾄﾞｲﾂ意味論学派に受け継がれて行く、言語相対主義に貫かれた言語理論である。
9	ﾄﾞｲﾂ意味論学派＝新ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ学派	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄに端を発する言語相対論の考え方の基本にあるのは、言語共同体に固有の分節・認知の仕組みこそが、その構成員の魂であり、精神であり、ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨである、という積極的な人間のあり方を規定する、というものである。つまり、人間がことばを支配するのではなく、ことばが人間を支配することになる、ということは、まさしくﾌﾝﾎﾞﾙﾄが、言語を創られたものという意味でのｴﾙｺﾞﾝではなく、創るものという意味でのｴﾈﾙｹﾞｲｱとして定着させた、言語に対するﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞな考え方の帰結なのであ
10	ﾚｳﾞｨ=ｽﾄﾛｰｽ	ﾚｳﾞｨ=ｽﾄﾛｰｽの神話論や親族構造の研究は、二項対立、神話を構成する最小限の要素〈神話素〉、交換のｼｽﾃﾑという補助線を引くことによって、経済上の動機と目に見える諸制度の間には、人間の無意識が作り上げている目に見えない制度がはさまっており、むしろこれが社会制度の動きに大きな役割を果たしている、という新しいｲﾒｰｼﾞを提出している。

11	ﾗｶﾝの欲望論（1）	我々の欲望の対象は常にある何ものかの代理であり、そのあるものもまた他のものの代理であるという性格を持つ。そしてそれは果てしなく続く。それをずっと辿っていくと、結局〈Φ〉ﾌｧｲという記号が出てくる。これはﾌｧﾛｽ（=ﾍﾟﾆｽ）で、このように究極の不在を辿ることは、ﾍﾟﾆｽが欠けていることなのだ、とﾗｶﾝは説明する。人間の欲望は、いわばこの根元的に欠けていることへの欲望の代理的連鎖である。
12	ﾗｶﾝの欲望論（2）	
13	ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝ言語ｹﾞｰﾑ論（1）	ｿｼｭｰﾙと同じように、言語をｹﾞｰﾑとして語ることは、ﾙｰﾙに従うということを言語活動の考察の中心におくということに他ならない。ｹﾞｰﾑのﾙｰﾙ問題には、明文化されたﾙｰﾙを持つｹﾞｰﾑ以外では、明確な答えは存在しない。それは言語活動の規則性が、明文化されたﾙｰﾙと根本的に異なっていることを示している。ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝはこのﾙｰﾙ問題を探求して行く。そこで絶えず問われているのは、我々がことばを知り、話すとはどういうことなのか？それは無秩序な現象や自然界の秩序的現象とどう違うのか？ということである。こうした探求において言語的秩序を求めるとき、我々は必然的にそれをことばで説明することになる。しかし我々が今求めているものは、あらゆることばをことばとして機能させる根元的秩序であり、その秩序の説明に、すでにこうした秩序のおかげでことばとして機能しているものを用いるのは、我々の説明がまだ根元そのものには接していないことを暗示している。ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝが求めるものは、あらゆることばがことばとして機能する根本条件であり、それ自身はいかなることばによっても語り得ないような根元である。すなわちｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝが求めるものとは、我々のあらゆる探求の鋤を跳ね返す岩盤なのである。
14	ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝ言語ｹﾞｰﾑ論（2）	
15	言語と現代思想の問題〈まとめ〉	〔1〕欲望論、〔2〕言語ｹﾞｰﾑ〈Sprache Spiel〉、〔3〕ﾊﾟﾌｫｰﾏﾃｨｳﾞｨﾃｨ〈performativity〉（＝行為遂行性）、〔4〕理論より現場への関心、〔5〕ことばと社会、〔6〕言語使用と身体、〔7〕ことばの詩的機能と論理的機能 、〔8〕ｴﾋﾟｽﾃｰﾒｰ〈épistémè〉（＝思考の枠組み）の変換、〔9〕人間諸科学と言語のﾓﾃﾞﾙ、〔10〕ﾎﾟｽﾄ構造主義〈post-structuralisme〉の登場と言語観の変容

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

言語表現論（S）

13295

担当者名 / Instructor　瀧本 和成

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

〈表現〉とは何かをめぐって、近代文学史の流れに沿ってその変遷と共に描写やその表現（方法）がいかに変化していったかを様々な角度から分析・考察を行う。

たんに抽象的な概念把握に終始するのではなく、具体的に作品や作者を取り上げ、（社会や時代状況等を視野に入れつつ）表現をめぐってそれぞれの諸問題や関係（性）が解明できるよう努力したい。

到達目標 / Attainment Objectives

近代文学史の流れに沿ってその変遷と共に描写やその表現（方法）がどのように変化していったかを理解・把握することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	（作者にとって）〈表現〉とはどのような行為か？①	
第2回目	（作者にとって）〈表現〉とはどのような行為か？②	
第3回目	作品と作者についてー作品の主題と作者の意図ー	
第4回目	森鷗外「舞姫」①	
第5回目	森鷗外「舞姫」②	
第6回目	夏目漱石「坊つちやん」①	
第7回目	夏目漱石「坊つちやん」②	
第8回目	井伏鱒二「山椒魚」①	
第9回目	井伏鱒二「山椒魚」②	
第10回目	野坂昭如「火垂るの墓」①	
第11回目	野坂昭如「火垂るの墓」②	
第12回目	大江健三郎「新しい人よ眼ざめよ」①	
第13回目	大江健三郎「新しい人よ眼ざめよ」②	
第14回目	村上春樹「ノルウェイの森」①	
第15回目	村上春樹「ノルウェイの森」②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で取り上げる作品を読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	試験（テキスト・ノート類持込可）によって評価。
平常点評価	20 %	小レポート

定期試験の成績を主とし、これに小レポート等を加味して総合評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考書・研究書を読むときは、鵜呑みにしないで批判摂取することを望む。

教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じてその都度プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治文学史』	上田博・瀧本和成編／晃洋書房／4-7710-1060-9 C3091／1998・11刊
『大正文学史』	上田博・瀧本和成ほか編／晃洋書房／4-7710-1303-9 C3091／2001・11刊

上記以外の参考書・研究書等は講義中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

産業デザイン論 (S)

13287

担当者名 / Instructor　要 真理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

デザインは、単に、視覚的におもしろい、格好いいというだけでなく、私たちの思考や感情に働きかけ、ときに政治的な道具となることもある。この講義では、産業革命以後の欧米のデザインに注目し、文化的社会的コンテクストと照応させながら、デザインの機能とその可能性について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・スライドで紹介した装飾品や建造物などのデザインの様式的特徴を理解し、視覚的に区別できる。
・デザインが近代の社会構造や産業の発展と密接なつながりをもっていることを確認したうえで、カタチのうえのみならず、デザインの基本思想についても理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術や産業に関する授業と併行して受講すると、いっそう理解が深まるでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに:あなたにとってのデザイン	デザイン、生産(製品)言語、社会
第2回	「デザイン」という概念	語源、意義、プラクシスとポイエーシス
第3回	産業革命と万国博覧会	新素材、技術の発明、産業化と国際化の功罪
第4回	ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動	モリス商会、工芸ギルド、社会改革運動
第5回	唯美主義とアール・ヌーヴォー	芸術のための芸術、世紀末
第6回	マッキントッシュとゼツエッシオン	伝統様式からの分離、ウィーン
第7回	ユーゲントシュティールとドイツ工作連盟	アーティスト＝デザイナー、「規格論争」
第8回	構成主義とノイエ・ザッハリヒカイト	機能的様式、労働と生産、技術
第9回	モダンデザインと芸術家工房	アトリエ・マルティーヌ／パリ、オメガ工房／ロンドン
第10回	大衆消費社会の到来と趣味の変質	大量生産、多品種少量生産
第11回	複製技術時代の芸術作品	複製、画一化、ファシズム
第12回	新しい消費欲望の形成	イメージの差異、主体の変容
第13回	企業戦略とブランドの誕生	CI、ブランド、製品
第14回	グッドデザインの変遷	デザイナー、工業製品、使用者
第15回	デザインの可能性	現状分析、デザインの理想
	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で紹介する作品を実際に展覧会に足を運んだり、あるいはカタログやDVDなどで確認するなど、進んで作品鑑賞を行ってもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や語句について理解できているかどうかを評価する。
平常点評価	30 %	小テストや授業態度を参考にする。

セメスターの途中で予告なしに小テストを行う場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

パワーポイントとプリントを使用する。授業中に紹介した作品については、そのデータをノートに書き留めておくこと。当然のことだが、私語・携帯メール等は慎んでもらいたい。場合によっては退室を求めることもある。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ロジャー・フライの批評理論』	要真理子／東信堂／4887135890／ヴィジョンとデザインについてより深く学びたい学生向け

その他の参考文献については、授業内で適宜紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

20分を超えての遅刻、途中退室は原則として不可とする。

自我論 (S)

15518

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

例年通り、コミュニケーション・ペーパーを用いた双方向型講義を行う。本年度の講義では、社会学における日本社会論や「世間学」などを取り上げる予定である。そして考察の中心点は、日本社会の構造原理であり続けてきた「世間」の中に生きる我々の意識と経験の構造はどうなっているのか、である。そして、「世間」という社会編成の原理や、その中での我々の意識や経験が、それ自体我々の人間的可能性に対する阻害要因となっているのだとすれば、さて我々は何をなすべきなのか、について考えをめぐらしてみることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義名からは心理学的内容を連想するかもしれないが、基本的には社会学的視点からの考察である。そして目指すは、社会学的視点から我々自身と日本社会を捉え返す批判的視点を獲得することである。そしてまた、そのような視点に立ちつつ、そこから見える社会的・個人的パースペクティブを言語化できるようになるための基礎的訓練の機会ともしたい。究極的には、社会学が目指す社会的・人間的オルタナティブの提起というものが具体的にいかなるものかを知ることを、到達目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学理論」・「社会学史」・「社会倫理学」・「社会文化論」などの講義を履修していることが望ましい。自分の個人的な体験に寄りかからない次元の想像力や思考力を獲得するために、抽象的な思考の地平を経験してきて欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の主題、展開、手法についての概説、「予備コミュニケーション・ペーパー」(以下CPと記す)	「世間」と「社会」、世間学
2	「予備CP」へのレスポンス、日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(1)	「世間」の構造
3	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(2)	「世間」の歴史①＜平安期・鎌倉期＞
4	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(3)	「世間」の歴史②＜江戸文学＞
5	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(4)	「世間」の歴史③＜近代日本文学＞、CP①
6	CP①へのレスポンス、小括	
7	「世間体」の構造(1)	「世間」の意味
8	「世間体」の構造(2)	「世間」観の変遷
9	「世間体」の構造(3)	「世間」とは何か
10	「世間体」の構造(4)ー「世間」の社会心理①	恥と罪の意識
11	「世間体」の構造(5)ー「世間」の社会心理②、CP②	笑いの文化
12	CP②へのレスポンス、小括	
13	「甘え」の構造(1)ー「世間」の深層心理①	「甘え」現象とは何か
14	「甘え」の構造(2)ー「世間」の深層心理②	「甘え」現象の次元
15	総括 ――「世間」と我々	脱「世間」は可能か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	講義の内容を踏まえた上での、論理的な内容構成力と説得力を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生には少し難しい講義ではないかと思うので、3・4回生での履修を勧めるが、意欲的な2回生の履修はもちろん大歓迎。単位が欲しいだけの学生には無理。みずからの個人的・社会的・文化的経験を意識的に捉え返す、ある意味で厳しい時間になるはずである。そのような心と頭の準備をしてきてもらえればよろしかろう。

教科書 / Textbooks

教科書として特定の著作を使うことはない。講義で使うテキストは、講義の展開に応じつつこちらでプリントして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。紹介する諸著作の中から、各自にとって意義ありと思われるものを読んでもらいたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会意識論（S）

15552

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の日本の青年は社会にその積極的形成者として能動的にアンガージュマン（参与）することにきわめて強い懐疑と無力感をもっている。これは諸外国と比べても異常ともいえる無力感である。この事態をどう考えるかという問題を、「社会」意識と「私」意識とを適切に媒介する社会関与の「中間団体」的場の衰弱という点に的を絞り、西欧社会思想の伝統とも突き合わせながら考える。
この問題視点は、さらに「社会文化運動」の視点によって補完され強化される。今日のコミュニケーション関係の問題性を「私」意識の極度の孤立化形態の問題とつなげ、それに文化運動的に対抗する視点として「小さいけれど、別な空間のコミュニケーション的創出」という文化運動的課題を提起する。
なお話をたんに理論的議論の枠内にとどめず、現実に今日の日本で取り組まれているさまざまな実践を具体的に紹介しながら、問題を考えることにする。

到達目標 / Attainment Objectives

「社会」概念をめぐる社会科学的思考の伝統のアウトラインを基礎知識として身につけると同時に、それを今日の自分自身に適応して、今日の「社会」創造の生きた営みへの視点を獲得すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	カフカ的不安の構造と現代日本社会の社会意識	キーワード　カフカ的不安　不可視化される全体社会権力と孤立化された個人
第2回	「いじめ」のトラウマが社会意識のあり方へ及ぼす問題	キーワード　「いじめ」、「仲間」関係性の疎外形態と暴力
第3回	ルソーの問題提起とシェーラーの「差異価値」批判の論理	ルソーの「自己疎外論」のアクチュアリティーと競争主義的心理構造
第4回	テーマ　和辻哲郎の受けたショックと発見と思索――「社会」をめぐる日本的伝統意識の問題性	キーワード　和辻哲郎 『風土』 「家」社会と「内と外」の論理　西欧的個人と市民的公共性
第5回	テーマ　阿部謹也の「世間」論からの問題提起	キーワード　阿部謹也 「世間」概念 「中間団体」論
第6回	テーマ　ルース・ベネディクトの『菊と刀』の日本人論と「世間」の問題	キーワード　ルース・ベネディクト 『菊と刀』 世間と恥の意識
第7回	チャップリン「モダンタイムズ」「独裁者」からの問題提起	キーワード　チャップリン　モダンタイムス
第8回	「小さいけれど、別な空間」のコミュニケーション的創出という問題提起	キーワード　社会文化運動、転回点としての68年、「新しい社会運動」、アイデンティティ問題と複数主義
第9回	テーマ 「社会文化運動」の視点1――エーリッヒ・フロムの「社会心理学」の視点	キーワード　社会の内面化としての自我、「市場的構え」の問題性、新しいアイデンティティ意識
第10回	テーマ 「社会文化運動」の視点2――街とコミュニティ・カフェ	キーワード 「場」とコミュニケーション、ハーバーマス、公共圏とコミュニケーション、媒体としての芸術・文学・演劇
第11回	テーマ 「社会文化運動」の視点3――街と情報（南野佳代子さんの試み）	キーワード 「街を耕すこととしてのコミュニティ・ペーパー」
第12回	テーマ「社会文化運動」の視点4――街と在日外国人	キーワード　多文化共生とグローバリゼーション、生野の歴史、在日の歴史、複数主義的アイデンティティ
第13回	テーマ　まとめ1	キーワード
第14回	テーマ　まとめ2	キーワード
第15回	テーマ　　試験（レポート）	キーワード

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

自分の住む町や郷里での草の根の市民からの新しい街づくりの試みを発見し、その実際を知り、考察すること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業を他の授業と自分の頭のなかで関連付け、「社会」に関する自分の基礎知識と関心とを《断片的に散在している状態》から《有機的に繋がり総合的となっていく状態》へと高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『経験の危機を生きる――小さいけれど、別な空　　清　眞人／青木書店／／
間の創出』

教科書は、(1)授業中に適宜配るプリントと(2)『経験の危機を生きる――小さいけれど、別な空間の創出』、清眞人、青木書店、(9月末出版予定)との二本立てからなる。
後者は、今日の「社会」の危機を、人間的な生を支え導く意識の形成の土台となる基礎的な「経験」の危機という視点から照らし出そうとしたものであり、またその点で「社会文化運動」の視点の基礎となる考え方を示したものでもあり、本授業での問題考察をより内面的な視点から支え補完するものである。この点で、授業中に関連箇所が適宜指示され、「社会」と「意識」とをたえまなく関連付ける本授業の進行を「意識」の側から支える役割を果たす。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会思想 (S)

15540

担当者名 / Instructor　松田 博

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題はますます複雑かつ陰影を伴う分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的文化的生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「人間の安全保障」や「安全社会」などの課題を、自由論・平等論・友愛論という社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げてみたい。社会科学的想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題をとおして、現代社会像を捉える「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい論述能力を身につけるための努力を期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会(科)学の基礎理論。社会(科)学の歴史。社会理論系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　講義計画	
2	メディアのなかの社会像 「8・15の社会思想」	世論、社会イメージ、リテラシー
3	ステレオタイプ論	リップマン、世論、ステレオタイプの功罪
4	エスノセントリズム(自民族中心主義)	サムナー、フォークウエイズ、ナショナリズム
5	権威主義的パーソナリティ	アドルノ、権威主義、社会的性格
6～7	人間の安全保障論(その歴史的背景・基本概念など)	セン、Human Security(HS)、基本的人権
8	中間まとめ　小論文　質疑・討論	HSと人権概念
9～10	国際社会と「人間の安全保障」	寛容、多文化共生、他者理解
11～12	「人間の安全保障」と「ホッブス」問題	ホッブス、『リヴァイアサン』、自然状態
13～14	「ルソー」問題	ルソー、『人間不平等起源論』、『社会契約論』
15	全体まとめ、質疑、レポート注意事項	レポート作成の基本条件

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ(たとえばステレオタイプの実例など)についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点評価	30 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。学生時代の知識は忘れても、一度身に着けたスキル＝技能は、水泳や自転車度同様、忘れないものです。これは脳科学では「エピソード記憶」や「意味記憶」とは異なる「手続き記憶」として知的財産となるものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部のよき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど書く能力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人間の安全保障	A・セン／集英社新書／／人間の安全保障論の基本的文献
貧困の克服	A・セン／集英社新書／／前書を理解するのに有益
フォークウエイズ	サムナー／青木書店／／エスノセントリズム論の古典
権威主義的パーソナリティ	アドルノ／青木書店／／権威主義分析
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／市民社会論など社会思想の検討
自由への大いなる歩み	キング／岩波新書／／キングの代表的著作
ガンジー自立の思想	ガンジー／地湧社／／ガンジー思想の紹介
世論	リップマン／岩波文庫／／ステレオタイプ論の古典

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。「人間の安全保障」に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

ステレオタイプその他本講義でとりあげるテーマは海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽　仮面の上に描くたび　己の顔をうしなう仮面」（現代学生百人一首）。

社会動機論（S）

13268

担当者名 / Instructor　藤島 寛

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では（1）人間的動機、（2）臨床社会心理学、の2つのトピックを取り上げ、動機付けにおける社会的文化的側面を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会や文化の与える動機づけへの影響についての現代的課題を理解し、その問題点について心理学における動機づけの視点から論理的に考察できるようになることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学の基礎的知識について学習できる科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	人間的動機（1）一次的動機付けにおける感覚的側面	感性
2	人間的動機（2）emotional design	本能、機能、思考
3	人間的動機（3）欲望とその抑制	欲求と欲望
4	人間的動機（4）社会的動機	マレー、達成動機、親和動機
5	人間的動機（5）向社会的行動	援助行動
6	人間的動機（6）道徳	道徳性
7	人間的動機（7）道徳の実際	社会的ジレンマ、囚人のジレンマ、応報戦略、裏切り
8	臨床社会心理学（1）自己意識と不安	私的自己意識、公的自己意識
9	臨床社会心理学（2）自己愛	自己愛的人格、誇大自己
10	臨床社会心理学（3）愛するということ	社会的ジレンマ、自己愛、他者
11	臨床社会心理学（4）ストレス	ストレス・コーピング、ソーシャル・サポート
12	臨床社会心理学（5）パーソナリティとコーピング	パーソナリティ、ビッグ・ファイヴ、遊戯性
13	臨床社会心理学（6）認知療法	ベック、認知行動療法、自己注目理論
14	臨床社会心理学（7）感情の認知	マインドフルネス、気づき
15	臨床社会心理学（8）カウンセリング	カウンセリング・マインド、聴くこと

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ウェブに頼ることなく、学術的な参考文献を読み、各トピックのテーマに対する現代的問題への関心を自ら深めていくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義時に出題されるレポート課題における、各トピックにおける心理学の知識に基づいた現代的問題点への気づきとその問題点に対する深い考察を評価。レポート提出は複数回、各回のレポートは、A4サイズの用紙で2500字以上とする。

講義時に出題されるレポートによる深い自主的学習を重んじます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学術的参考文献に基づいた論理的な思考によるレポート作成を通した思考力の習得を望む。
研究の資料として、ウェブからの情報については厳密なリテラシー・チェックを要求します。

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、講義内容の理解に必要な資料を配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会心理学への招待	高木修（編）／有斐閣／／向社会的行動の参考書

自分のこころから読む臨床心理学入門	丹野義彦・坂本真士／東京大学出版会／／うつへの認知的アプローチに関する参考書
「聴く」ことの力	鷲田清一 ／TBSブリタニカ／／カウンセリング・マインドの参考書
はじめて出会う心理学、改訂版	長谷川寿一・東條正樹・大島尚・丹野義彦／有斐閣アルマ／／社会的ジレンマ、認知療法の参考書

ここに上げた参考書にとどまらず、講義時に紹介する参考文献など、学術的な文献を精読することを望む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

講義に出席し、“静かに”、”深く”、考察すること

社会病理学 (S)

15472

担当者名 / Instructor　崎山 治男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、学説史的な展開を踏まえつつ、学生諸氏にとって身近なテーマを取り上げる中で、「社会」病理学の基本的な視点の獲得を目指す。パート1では、なぜ・どのように近代・現代社会に特有の社会病理が登場してきたのかを、社会構造の変化という観点から捉える。主に、「自由」、「平等」、「博愛」といった近代社会で「正しい」とされている考え方が、逆に社会病理を生み出すといった視座を提示する。パート2では、青少年の意識といった側面を社会病理学の視点から掘り下げる。特に、「社会には病理が元々ある」という見方と、「社会病理が社会的に作り出される」という視点との交錯を講義する。パート3では、近年登場してきた「新しい」社会病理への見方を、主に家族臨床から捉え、社会病理学への理解の深化を図る。同時に、「心」を病理とする見方の進展が進んでいる現状に対して、「社会」病理学の視点からそれを懐疑的に見ていく重要性を示す。

到達目標 / Attainment Objectives

・「社会病理」とされる事柄について、社会学的な見方を身につける。
・近代の「善」なる理念が、病理現象を産み出すパラドックスを理解する。
・とりわけ青少年の病理行動の背景を理解する。
・「新しい」病理現象とされる事柄への知識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学史」、「社会学概論」等の基礎的な知識を習得していることが望ましい。近年、マスメディアなどで頻繁に取り上げられる社会問題への関心を持った学生の受講を希望する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	イントロダクション	近代社会の功罪
第二回	Part1:「社会」病理学とは何か:社会構造と社会病理・「自由」であることは良いことなのか?:アノミーという社会心理	アノミー、自由
第三回	「博愛」をどの範囲まで持てるのか?:都市化と社会的連帯の崩壊	アーバニズム、インナーシティ
第四回	「平等」であることはどこまで正しいのか?:「成功神話」の落とし穴	教育、階層
第五回	「勤勉」であるだけで良いのだろうか?:下位文化の光と影	文化的再生産
第六回	Part2:現代の青年意識を「社会」病理学してみる・なぜ「気の合う仲間」が出来るのか?文化的学習理論による「仲間」作り	学習理論
第七回	最近の少年は「キレやすい」のか?:少年犯罪を巡る統計とレイベリング論	統計の陥穽
第八回	少年犯罪は「凶悪化」しているのか?:社会問題の構成主義	マスメディアと少年非行
第九回	地域や家族による支援はどこまで有効なのか:他者との繋がりと紐帯理論	地域、NPO
第十回	「引きこもり」は何故起きるのか?:私事化する社会での青年意識	コミュニケーションの高度化
第十一回	Part3:現代社会の病理の諸相:社会病理の現在・目立つことと目立たぬこと:劇場化する社会	劇場型犯罪
第十二回	なぜ「家族」に問題を求めるのか?:トラウマとアディクション	アダルト・チルドレン
第十三回	「語ること」でラクになる?:ナラティブ・アプローチという相互行為	セルフヘルプ・グループ
第十四回	病理の過剰／病理の過剰:医療化の進展と社会病理	医療化・医療に回収される病理
第十五回	まとめ:「心」の病理と「社会」の病理	「心」の病は本当か?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・毎回指示する、参考課題図書を出来るだけ読むこと。
・各パート毎に、自らの考えを纏めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	授業内容を踏まえ、自らの視点で社会病理を分析出来ているかで判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・社会病理は社会そのものを映し出す鏡である。日頃から新聞やニュース等に注目すること（但し、うのみにしないこと）。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。レジュメ、資料等を必要に応じて配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて紹介するが、社会病理学の学説史を押さえたものとして徳岡秀雄『社会病理を考える』世界思想社、宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣、佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社を挙げておく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会文化論（S） §　文化社会学（W）

15522

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会文化論とは、社会と文化とを一体のものとして捉える方法・領域のことである。つまり社会文化論は、社会を解明するのに文化や習慣・ライフスタイル等を知ることが必要であるとすると同時に、文化もまた社会の中に位置づけられて初めて理解されるとする。この授業では、現代社会における様々な社会文化の現象を、特に諸個人が他者からどのように承認されているか、という視点から取り上げる。というのは、諸個人が「成功した生」を営み自己実現に至りうるためには、他者から様々な形で十分に承認されていなければならないからである。この承認が侵害されるとき、諸個人のアイデンティティに深刻な病理が生まれることになる。この授業では、社会文化の中に現れた承認とコミュニケーションの諸形態と、それが侵害された際の病理現象を具体的に分析することを通じて、現代社会における倫理の形成を考察していきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会文化論の基本的方法、基本概念、基本学説を、隣接する諸領域と関連させながら理解する。
②現代社会における社会文化の基本的特徴を理解し、具体例に即して分析する力を身につける。
③批判理論におけるコミュニケーション・承認についての考察の内容を理解し、現代社会の病理を批判する意義を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会文化をとらえる視点1——フランクフルト学派の文化批判1	アドルノ　文化産業　ベンヤミン　複製芸術
2	社会文化をとらえる視点2——フランクフルト学派の文化批判2	ハーバーマス　生活世界の植民地化　新しい社会運動
3	社会文化をとらえる視点3——フランクフルト学派の文化批判3	ホネット　承認論　病理批判　承認をめぐる闘争
4	社会文化をとらえる視点4——大衆文化論・消費社会論	カルチュラル･スタディーズ　スチュアート・ホール
5	「オタク系文化」と公共圏——ポストモダン、モダンの社会文化1	オタク系文化　ポストモダン　シミュラークル　動物化
6	「オタク系文化」と公共圏——ポストモダン、モダンの社会文化1	オタク系文化　モダン　公共圏　インターネット
7	音楽の社会文化——ジャズ論1	ジャズ　大衆文化　エスニシティ
8	音楽の社会文化——ジャズ論2	ジャズ　文化的承認　疎外
9	コミュニケーションの現在——ケータイ論	ケータイ　ネット縁　極私的対話　モラルとマナー
10	コミュニケーションの病理1——いじめの実態	いじめ　ハラスメント　自己喪失　他者喪失
11	コミュニケーションの病理2——いじめの理論化	ハーバーマスの植民地化論　ホネットの承認論　侵害　心的外傷
12	コミュニケーションの病理3——引きこもり	社会的引きこもり　家族　愛　親密圏　自己決定と自己実現
13	身体の社会文化——スポーツと勝利至上主義	勝利至上主義　スポーツマンシップ　競争　精神性
14	異文化交流の社会文化——ドイツから見た日本	審議的民主主義　社会文化の役割　日本型コミュニケーション　市民的公共性　多文化主義
15	社会文化論のまとめ——新しい倫理へ	社会文化　「成功した生」　自己実現　自己決定　承認とコミュニケーション　病理　新しい倫理

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に取り上げる参考書の何か一冊を、セメスター中にノートを取りながら通読してください。定期試験ではそれを問う出題をします。
試験に役立ちうるように、ふだんから身近な社会文化現象の具体例に注目し、資料等を集めておいてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	評価基準：講義内容を理解し、自分で具体例に応用して考察し、それを表現できているかを問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会文化論の学習にあたっては、自分に身近な社会文化現象を関心と問題意識とを持って取り上げること、先行する研究者や思想家の概念や思考方法を正確に学ぶこと、それらを具体的な現象に応用して考察して表現することが大事です。講義にきちんと出席して正確に学ぶとともに、自分で思考し表現する能力を身につけるように心がけてください。

教科書 / Textbooks

プリントを配布する。視聴覚教材は適宜用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『討議と承認の社会理論』	日暮雅夫著／勁草書房／ISBN978-4-326-10182-5／
『批判的社会理論の現在』	永井彰・日暮雅夫編著／晃洋書房／ISBN4-7710-1462-0／
（上2冊は、ハーバーマスやホネットのフランクフルト学派の理論研究の参考となります）	／／／
『文化論のアリーナ』	文化論研究会編／晃洋書房／ISBN4-7710-1170-2／
『社会文化理論ガイドブック』	大村英昭他編／ナカニシヤ出版／ISBN4-88848-939-4／
（上2冊は、幅広く社会文化論の理論研究の参考となります）。	／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会文化学会ホームページ（社会文化研究の具体例を見ることができます）。
http://japansocio-culture.com/
批判的社会理論研究会ホームページ（批判的社会理論研究が実際にどのように行なわれているかを、見ることができます）。
http://affkt.jpn.org/about/

その他 / Others

授業中の私語は禁止します。従わない場合は、退出させます。
授業中のケータイ・メールは禁止します。従わない場合は、退出させます。
遅刻・途中退出は禁止します。

社会倫理学（S）

15479

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の日本の青少年にとってイジメ経験は最も深く共有された、しかも、生の意味感受性の危機に深くかかわる深刻な経験として成立している。この経験を社会倫理（応答の倫理学）の視点から振り返って、そこに孕まれている実存的諸問題を分析し、あらためて、そこからわれわれの生が直面している問題を自覚しなおすという思考の作業をしてみたい。授業の素材としては、受講生自身のイジメ経験、文学、歌、など、経験を意識化するうえで刺激となるさまざまな生きた材料を多用したい。

到達目標 / Attainment Objectives

自己の経験を哲学的に分析する思考経験をしてみる。「応答の倫理学」と呼びうる代表的思想家の基本観点を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	基礎経験と思想（パースペクティヴ）――イジメ経験を問い返す意義	基礎経験・パースペクティヴ・イジメ経験
第2回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題1	内面的自殺、実存のタマネギ化
第3回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題2	存在の透明化、世界の夢化と他者の消滅、自傷行為をとおしての存在確認
第4回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題3	傍観者化、友情という基礎経験の崩壊
第5回	存在承認による生の解放とジョン・レノンの歌	愛と実存、フランクル、ジョン・レノン
第6回	心的外傷とジュディス・ハーマンからの問題提起	ケアされた経験、ジュディス・ハーマン、治療同盟
第7回	応答の倫理学1――レヴィナス	レヴィナス、傷つきやすさ（vulnerability）
第8回	応答の倫理学2――フロム	応答責任性、フロム
第9回	応答の倫理学3――ブーバー	「私-きみ」関係性
第10回	応答の倫理学3――レイン	自己と他者
第11回	応答の倫理学4――ニーチェとサルトル	暴力のマニ教主義
第12回	応答の倫理学5――フランクル	生の意味への問いのコペルニクス的転換
第13回	実存と意味	実存、意味
第14回	文学と倫理	三島由紀夫、村上春樹
第15回	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	0 %	授業中に課すミニレポートに換える
平常点評価	30 %	授業中に課すミニレポートの評価によっておこなう

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書をよく読み、問題の全体的な相互関連への関心を高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
創造の生へ――小さいけれど別な空間を創る	清眞人／はるか書房／978-4-434-1148-8／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

身体現象学（S）

13294

担当者名 / Instructor　佐藤 勇一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「身体」というテーマは、現在、実に様々な視角から論じられているテーマです。本講義は、このテーマに対して「哲学」からの接近を試みます。哲学においては、身体は様々な枠組みで語られてきましたが、これが主題的に論じられるには、20世紀の現象学者、メルロ＝ポンティを待たねばなりませんでした。そして、哲学に限らず身体に関する様々な視角へ影響を与えた者として、フーコーの存在は大きいでしょう。本講義では、1）哲学の歴史における身体の取り上げられ方を概観し、2）メルロ＝ポンティやフーコーの身体論とその影響を検討することにします。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生は、次のことができるようになるでしょう。また、そうなるように、真剣に受講することを望みます。

・哲学史における基本概念を幅広く理解し、身体がどのように論じられてきたか説明できる（とくにこの目標に達することを望みます）。

・メルロ＝ポンティの思想において身体が中心テーマの一つであったことを、彼が論じた文脈において説明できる。

・異常性や生政治等に関するフーコーの見解を概説できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。この講義は、哲学に関する予備知識がなくとも十分理解可能です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	1）哲学史における身体―古代ギリシャ哲学（前ソクラテス期）	アルケー、ソーマ・セーマ理論、テオリア、ピュシス、物活論、等
第3回	1）哲学史における身体―古代ギリシャ哲学（ソクラテス、プラトン）	イロニー、国家、魂への配慮、無知の知、等
第4回	1）哲学史における身体―古代ギリシャ哲学（プラトン）	イデア、エロス、狂気、国家、想起、魂の区分、等
第5回	1）哲学史における身体―古代ギリシャ哲学（アリストテレス）	可能態、形相、原因、現実態、質料、魂、同名異義問題、ピュシス、等
第6回	1）哲学史における身体　ーキリスト教	アガペー、栄光の身体、王の二つの身体、サルクス、受肉、贖罪思想、聖体拝領、ソーマ、等。
第7回	1）哲学史における身体　ーキリスト教（中世その1）	カリタス、教父、三位一体論、新プラトン主義、スコラ哲学、目的論的自然観、等。
第8回	1）哲学史における身体　ーキリスト教（中世その2）	カリタス、教父、三位一体論、新プラトン主義、スコラ哲学、目的論的自然観、等。
第9回	1）哲学史における身体ー近世の哲学（ルネサンス）	医学、科学革命、機械論、人文主義、等
第10回	1）哲学史における身体ー近世の哲学（特に17世紀）	因果的相互作用説、コギト、自然的判断、実体、情念、心身の実在的区別、等
第11回	1）哲学史における身体ー近世の哲学（特に17世紀）、2）20世紀以降の哲学における身体―フッサール	エポケー、機会原因説、厳密学、現象学的還元、二側面説、予定調和説、
第12回	2）20世紀以降の哲学における身体―フッサールとメルロ＝ポンティ	感覚、幻影肢、現象学的還元、ゲシュタルト心理学、生活世界、反射、フィー現象、等
第13回	2）20世紀以降の哲学における身体―メルロ＝ポンティ	現象的身体、シュナイダー症例、身体図式、代償行為、手がかり、二重感覚、等
第14回	2）20世紀以降の哲学における身体―患者の役割理論と看護の現象学	医療化、パーソンズ、ベナー/ルーベル、等
第15回	2）20世紀以降の哲学における身体―フーコー、生政治	エピステーメー、狂気、権力、死の医療化、身体の監獄である精神、性、生政治、等
	（講義の進度によりスケジュールには変更の可能性があります）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に指示した文献を学習するとよいでしょう。特に、哲学史に関する部分では、多くの参考文献がありますから、自習しておくと理解が深まるはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	「語句説明」、および概念同士の連関に関する「記述問題」を出します。

平常点評価	40 %	毎回授業終了後に簡単なコミュニケーションペーパーを書いてもらいます。 授業の内容に関する小レポートを2回（原稿用紙1．2枚程度）実施します。小レポートの実施時期は、授業中に指示しますが、おおむね古代、近代に関する講義が終了する度に行うことになります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書を用いない講義形式の授業ですから、毎回の講義内容を真剣に聞くことが大切です。

教科書 / Textbooks

用いません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
西洋哲学史―理性の運命と可能性―	／昭和堂／／哲学の歴史に関する知識を補うことができます。
講義・身体の現象学―身体という自己―	ヴァルデンフェルス／知泉書院／／現象学的な身体論研究について知ることができます。
知覚の現象学	メルロ＝ポンティ／みすず書房／／メルロ＝ポンティの身体論に関しては主にこの著作から扱います。

以上の参考書は講義の全体像をつかむためのものです。その他、小レポートなどのための参考文献は授業中に指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

身体表現論（S）

10136

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、自然・社会・文化などと深くかかわり様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。こうしたことをふまえて、この講義では、1. 身体表現の概念と諸相　2. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と自然・社会・文化とのかかわりを考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

身体表現とは何か、さらに身体表現は自然・社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術と社会にかかわる科目
文化人類学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等
2回	非言語コミュニケーションの概念	肉体、姿勢、しぐさ、空間、色彩、時間等
3回	非言語コミュニケーションと社会・文化	高コンテキスト～低コンテキスト国・文化と非言語コミュニケション
4回	非言語コミュニケーションの分類・役割及び30分間の確認テスト	確認、修飾、代用、コミュニケーション管理、矛盾等
5回	舞踊（様式化された身体表現）の概念・現代における舞踊の意味	舞、踊り、舞踊、ダンスという言葉の意味、舞踊における聖と俗等
6回	日本の伝統舞踊（1）	古典舞踊（雅楽、能楽、歌舞伎、日本舞踊等）と民俗舞踊（神楽、田楽、風流等）のとらえかた
7回	日本の伝統舞踊（2）	表現の様式と技法、表現要素の複合化、序破急の形式、道行の形式、舞踊動作の特性
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	非言語コミュニケーションに関する多面的な討論とプレゼンテーション
9回	世界の舞踊（1）	アフリカ（特にナイジェリア）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
10回	世界の舞踊（2）	アジア（特にインド）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
11回	世界の舞踊（3）	欧米の舞踊（特にフォークダンス、バレエ）と自然・社会・文化
12回	現代の舞踊（4）と30分間の確認テスト実施	欧米の舞踊（特にモダンダンス、ポストモダンダンス、コンテンポラリーダンス）と自然・社会・文化
13回	クロスオーバーする現代の舞踊	現代美術、パフォーマンス等における身体表現、オルターナティブスペース
14回	舞踊教育の思潮と動向、生涯学習時代における舞踊教育	アメリカ、イギリス、日本における舞踊教育の流れ、生涯学習時代における舞踊学習内容
15回	各ジャンルごとの舞踊の特性、聖と俗に関する舞踊、まとめ	身体表現と形式、舞踊の構造と機能、現代社会における舞踊の意味

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する参考文献を読み、自ら関係する文献を検索し、さらには実際の舞踊公演を鑑賞し、身体表現に関する知見を広め深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度などを評価する。
平常点評価	40 %	2回の確認テスト実施と1回のレポート提出：どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

無意識に行っている身体表現を意識化させ、その表現は、自然・社会・文化と深く結びついていることを考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
舞踊学講義	舞踊教育研究会／大修館書店／4-469-26197-1／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
非言語コミュニケーション	マジェリー/F/ヴァーガス／新潮社／4-10-600334-1／
しぐさの世界	野村雅一／日本放送出版協会／4-14-001429-6／
異界へのメッセンジャー	姫野　翠／出帆新社／4－86103－016－1／
おどりの美学	郡司正勝／演劇出版社／4-900256-40-4／
渡来の祭り　渡来の芸能	前田憲二／岩波書店／4－00－024123－0／
舞踊と社会	遠藤保子／文理閣／4-89259-375-3／
手の日本人　足の西欧人	大築立志／徳間書店／4-19-554087-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ規範論 (S)

15530

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【スポーツの構造と規範】スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それ が“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な意味活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から 成り立つのか、変化は何故、起こるのかについて、解明する。第二に、スポーツはーつのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつもの なのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的ス ポーツ観を問い直し、スポーツ競技の意味と評価のあり方を展望する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツにルールがあることは、だれもが知っている。しかし、ルールの原則と意味を理解しているものは少ない。スポーツのビジネス化の中で、変貌を遂げて いる現代スポーツをルールに焦点をあて、スポーツ精神のありようを吟味する。したがって、ルールの原則にかかわる基礎的知識を理解し、スポーツ精神に込められた規範を捉え直す論理力を身につけるとともに、現代スポーツの深部を洞察する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ文化論」を基本に、「余暇論」「スポーツ社会学」「スポーツ史」「比較スポーツ論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	(序)スポーツ・ルールの意味	(1)時事問題からルールを探る (2)ルールの意味空間と技の構成:Wrestring/角力/相撲
第2週	(Ⅰ)2つのルール	(1)慣習からの明文化 (2)ルールの性質: 明示性と暗示性
第3週	(Ⅱ)明示的ルール	(1)明示的ルールの5つの原則
第4週	(Ⅱ)明示的ルール	同上
第5週	(Ⅱ)明示的ルール	(2)明示的ルールの性格と役割:不変性と可変性 (3)明示的ルールの構成
第6週	(Ⅱ)明示的ルール	(4)ルールの変化と要件: 変化の8要因
第7週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(1)ルールを支える条理規範一守能説とフィレリー説を手がかりに一
第8週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(2)「禁止されていない」プレイと「許されていない」プレイの逆進性
第9週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(3)スポーツマンの行動綱領 (3)スポーツマンシップとフェアプレイ:「 競うことの正義」
第10週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(4)日本的スポーツ精神と武士道的倫理(5)欧州会議「フェアプレイ宣言」
第11週	(Ⅳ)現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(1)ドーピング問題の社会的基盤
第12週	(Ⅳ)現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(2)ドーピングの禁止根拠とスポーツモラル:生命の自己決定権と普遍的人間性
第13週	(Ⅴ)スポーツの競争と交流	(1)競争的序列と結果主義
第14週	(Ⅴ)スポーツの競争と交流	(2)『競い合い』かたの美学
第15週	(Ⅴ)スポーツの競争と交流	(3)スポーツの価値と観賞 (4)虚構の中の真実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミから流れるスポーツ情報に鋭く反応し、その言説の深部を探り当てるように感性を研ぎ澄ますこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	スポーツモラルの基本を理解し、現実を洞察する論理力。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ知識は『常識』のようであるが、その『常識』を疑うことから始めること。『ルール』を覚え、守るのではなく、考え、変えていく立場で現実を見据えること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ規範論	草深直臣／文理閣／／09年8月出版予定

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代　下巻	草深直臣他編著／青木書店／／
スポーツ・ルールの社会学	中村敏雄／有斐閣／／
スポーツのモラルを考える	近藤良享／大修館／／
スポーツのモラル	J.フィレーリー／不昧堂／／
スポーツ倫理学講義	川谷茂樹／ナカニシヤ出版／／
スポーツ･ルールの論理	守能信次／大修館／／
スポーツ･ルールはなぜ不公平か	生島淳／新潮選書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

1）解らないことはその場で質問すること。“解った気”にならないこと。

スポーツ行動論（S）

13333

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツは福祉政策において、どのような役割を担うのか？本講義では、現代福祉社会の歴史的発展および構成要素について概観しつつ、なかでも日本における「社会福祉基礎構造改革」を機に、改めて強化されようとしている「予防」や「自立」に注目したうえで、持続可能な福祉社会についての考察をおこなう。そのさい、「健康日本21」と「健康増進法」といった保健・公衆衛生政策とも関連づけながら考察を試みたい。さらに、日本の試みの理解を深めるためにも、イギリスの保健・福祉政策に位置づけられたスポーツ政策に言及し、それとの比較を通じて、日本型福祉社会の特徴と課題を確認し、さらに問題解決方法を模索することを試みたい。

到達目標 / Attainment Objectives

福祉的課題を将来における当事者問題としてとらえながら、「スポーツ」を介した「持続可能な福祉社会とは何か」を探るセンスを身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	日本において「健康」はどのように語られてきたのか①	戦前の厚生運動に見られた「健兵・健民作り」を概観する。
3	日本において「健康」はどのように語られてきたのか②	戦後の「健康ブーム」を概観する。
4	日本において「健康」はどのように語られてきたのか③	「健康日本21」と健康増進法の全体像を概観する。
5	福祉国家類型論	エスピン・アンデルセンの議論（たとえば『福祉資本主義の三つの世界』）を参照しながら、論点整理を試みる。
6	福祉国家と福祉社会	福祉国家と福祉社会の論点整理を行う。
7	福祉多元主義	福祉多元主義の市場志向型と参加志向型との論点整理を行う。
8	イギリスの保健・福祉政策としての「スポーツ」①	「スポーツの権利・公共性の追求」という観点から福祉国家政策のもとでのスポーツ政策を概観する。
9	イギリスの保健・福祉政策としての「スポーツ」②	新自由主義の台頭による社会福祉政策とスポーツ政策の「転回」を概観する。
10	イギリスの保健・福祉政策としての「スポーツ」③	スポーツカウンシル、地方自治体のスポーツ行政に見られる保健・福祉政策を概観する。
11	日本型福祉社会の展開における「予防」と「自立」への関心①	1960年代の福祉国家政策と「スポーツ」とのかかわり
12	日本型福祉社会の展開における「予防」と「自立」への関心②	1970年代の「日本型福祉社会論」と「スポーツ」とのかかわり
13	日本型福祉社会の展開における「予防」と「自立」への関心③	社会福祉基礎構造改革と「スポーツ」とのかかわり
14	日本型福祉社会の展開における「予防」と「自立」への関心④	住民参加による健康づくりと地域づくりの実践を取り上げ、それを検討する。
15	スポーツを介した「持続可能な福祉社会」を展望する（復習とまとめ）	これまでの議論を整理し、「持続可能な福祉社会」への試論を提示したい。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定

として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを使用せず、講義毎にレジュメを配布する。なお、講義において視聴覚教材を用いることもある。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アプローチとしての福祉社会システム論	訓覇法子 ／法律文化社／／
イギリスのスポーツ・フォー・オール：福祉国家のスポーツ政策	内海和雄 ／不昧堂出版／／
日本のスポーツ・フォー・オール：未熟な福祉国家のスポーツ政策	内海和雄 ／不昧堂出版／／
強制された健康：日本ファシズム下の生命と身体	藤野豊 ／吉川弘文館／／
「健康」の日本史	北澤一利 ／平凡社／／
健康日本21と地域保健計画	松下拡、熊谷勝子編 ／勁草書房／／
福祉資本主義の三つの世界	エスピン・アンデルセン／ミネルヴァ書房／／
「健康自己責任」論と公衆衛生行政の課題：保健から医療構造「改革」を見る	篠崎次男 ／自治体研究社／／
健康文化論	瀧澤利行 ／大修館書店／／

他の文献については適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

スポーツ産業論 (S)

15471

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か，それはどうあるべきかという問いを投げかける。内容としては，1980年代から1990年代にかけて，通産省によってそれが奨励されたのはなぜか，そこで提示されたプランの何がどう問題なのか，なぜ失敗したのかなどについて考えるところから話しを始める。さらにそこから内容を深め，日本の労働生活と余暇生活，地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視して話しを進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・通商産業省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し，その問題を説明できるようにする。
・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し，スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し，レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/日本のスポーツ政策：文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済，「消費革命」「自由時間」，娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働，過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例，戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例，ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自習が難しい対象を扱った講義なので，できるだけ休まずに授業に出席してほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21―スポーツ産業研究会報告書―	通商産業省産業政策局編／（財）通商産業調査会／ISBN4-8065-2360-7／内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	桝潟俊子／学陽書房／ISBN4-313-81401-9／戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

その他 / Others

スポーツ社会学 (S)

13366

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツを社会学する」とはどのようなことだろうか。そうすることで何が見えてくるのだろうか。本講義では、この問いに答えるためこれまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的研究や理論の紹介を通し、何が、どのように見えてくるのかを示すこととしたい。
またこの講義では同時に、今日のスポーツをスポーツ社会学ではどのように捉え、何を問題として見ようとしているのかを考えていくこととしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・スポーツを社会学的に見るとはどのようなことか、そのことによって得られる新しいスポーツに対する見方とはどのようなものなのかを理解することを目的とします。
・そのことを通して、現代のスポーツの問題を、各自が「社会的文脈」と関連づけてとらえることができる ようになることを、最終的な目的とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・スポーツ社会学は文字通り「社会学」の一つです。従って、社会学の基礎理論的科目をあらかじめ、また は並行して受講することで理解が深まると思います。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ社会学とは;歴史と研究状況	ISSA、日本スポーツ社会学会,スポーツの社会評論との違い
2	スポーツ・バーナウトの構造	バーナウト、ドロップアウト、トランスファー
3	役割期待のアンヴィバレンス	組織、地位、役割
4	組織構造とパフォーマンス	P機能、M機能、権限構造
5	小集団の凝集性	ソシオメトリー、FIRO-B
6	「日本的」スポーツ組織の構造	属性原理、業績原理、擬制家制度
7	スポーツ社会学の代表的理論(1)ブルデューとフランススポーツ社会学	スポーツの選択原理、階級、ハビトゥス
8	スポーツ社会学の代表的理論(2)スポーツの場の理論と日本のスポーツの変容	スポーツの場、状況の「反転」
9	スポーツ社会学の代表的理論(3)カルチュラル・スタディズと英国スポーツ社会学	権力、ジェンダー、階級、表象分析
10	スポーツ社会学の代表的理論(4)ナショナリズムとスポーツ	スペクタクル、モニュメント、象徴
11	スポーツ社会学の代表的理論(5)エリアス「文明化の過程」とスポーツ	近代文化、近代スポーツ、情動の制御
12	スポーツ社会学の代表的理論(6)グローバルスポーツの展開	スポーツ=メディアコンプレックス、スポーツ移民、スポーツ商品
13	日本社会の変容とスポーツ(1)スポーツの産業化とスポーツの社会的基盤の変化	第二臨調・行革、プラザ合意、スポーツビジネス
14	日本社会の変容とスポーツ(2)スポーツの場の反転	Jリーグ、サポーター、地域
15	まとめ:スポーツの新しい可能性と主体	新しい社会運動、スポーツNPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

可能な限り身近な問題から説明し、徐々にマクロなな構造的問題に敷衍していくこととしたい。社会評論ではなく、あくまで社会学であるので、個々の授業では前半は理論的枠組みの説明になる。従って理解を円滑にすすめるため、可能な限り当該領域の理論の予習をされることを望

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	1. 授業内容の理解度(概念の正しい理解が主となる)。2. 自身の問題設定の仕方。

ゲストスピーカーを招き授業時にレポートを課す場合がある。その場合は原則としてレポートを加点として取り扱う。その旨授業時に指示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会学理論を多用し、その応用的展開という性格を持つので、3回生以上の受講が望ましい。2回生が受講する場合は基礎的な社会学の概念や理論についての理解を独自にすすめておくこと。

教科書 / Textbooks

特に使わない。授業時のみレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・レジャー社会学	D. ジェリー、清野正義他編／道和書院／4-8105-4008-1／理論部分の予習用
変容する現代社会とスポーツ	日本スポーツ社会学会編／世界思想社／4-7907-0723-7／現代スポーツの変化について
近代ヨーロッパの探求8、スポーツ	有賀郁敏他著／ミネルヴァ書房／4-623-03509-3／近代スポーツ史、グローバリゼーションの理解に
新しい体育・スポーツ社会学をめざして	体育・スポーツ社会学研究会／道和書院／4-8105-2020-X／体育・スポーツ社会学の到達点を理解するために
スポーツ・権力・文化	ジョン・ハーグリーヴズ／不昧堂／4-8293-0267-4／カルチュラススタディズのスポーツ論
スポーツと文明化	エリアス、ダニング／法政大学出版／4-588-00492-1／エリアス学派のスポーツ論
現代に生きる遊牧民	アルベルト・メルッチ／岩波書店／4-00-000644-4／スポーツボランティアの可能性を考える

その他適宜授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jsss.jp/ （日本スポーツ社会学会HP）

その他 / Others

スポーツ文化論 (S)

13271

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2005年は、国連の「体育・スポーツ国際年」であった。スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目されている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツ概念を歴史的に辿どりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構（Institution）の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を社会的・構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを提示し、スポーツ諸科学との関係を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

多くの人が経験的に持つスポーツ観念を打ち破り、スポーツを文化として成り立たせている要素を摘出し、人間－スポーツ－社会の枠組みでスポーツの総体を把握する方法論の基礎を身につける。概念史、理論史を踏まえることによって、現代スポーツの諸問題にアポローチする方法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」、および入門科目「現代とスポーツ」を事前に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	序章：1節 「体験としてのスポーツ」からの脱却	意識・感覚言語とスポーツ用語　体験の対象化
第2週	序章：2節　グローバリゼーションとスポーツ	世界文化としてのスポーツ　スポーツのローカリズム 世界同時不況の中でなにが起こったか？
第3週	Ⅰ章　スポーツ概念の変遷	（1）スポーツの語源　(2)英語圏
第4週	（3）ドイツ語圏・フランス語圏、中国語圏と日本語圏	（4）スポーツ概念の特徴：行為本性説と目的価値的規定。(5)スポーツの外延と内包
第5週	Ⅱ章　スポーツ機構説の土台	(1)競技志向とプレイへの注目(2)ホイジンガ”ホモ・ルーデンス”、(3)カイヨワ”2極4領域”説
第6週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(1)ロイのカイヨワ批判　(2)スポーツの多層的把握
第7週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(3)機構化の指標：a)組織　b)技術　c）シンボル　d）教育
第8週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(4)社会機構としてのスポーツ　：a)プレイヤーノットコントロール（Edward）b)管轄機構の支配力　c)　機構の問題点
第9週	(5)社会状況としてのスポーツ	(6)ロイ「スポーツ機構」説の特徴と問題点
第10週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開	(1)佐伯「スポーツ体系説」
第11週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開と問題点	(2)多々納「スポーツ・シンボル」説　(3)構造－機能主義の問題点
第12週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(1)プレイ論の主観主義　（2）客観的実在としてのスポーツ
第13週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(3)草深「2層3領域」説の提示　(4)スポーツを『動かしている』力：機構の主導性
第14週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(5)ガッツマンの【近代化の指標】の再検討 (6)競技と交流：結果と過程
第15週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(7)応援と観賞 (8)批評　(9)マネッジメント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミにおけるスポーツ言説に惑わされずに、人間にとってスポーツとは何か、スポーツ現象を支える社会機構を見抜くように、リテラシー感覚を磨くこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	基礎的知識の理解、理論的展開の総合的把握、現実の論理的分析力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ･ゲームを体験的、固定的に理解せず、社会的影響によって変化･変質する文化構造を多角的に捉える観点に注視して欲しい。出欠は取らないが、出席しないと理解できないし、高回生配当科目の位置づけも明確にならない。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代、上下	伊藤高弘・草深直臣他編／青木書店／／
スポーツの概念	体育原理分科会編／不昧堂／／
スポーツ文化を学ぶために	スポーツ社会学会編／世界思想社／／
スポーツと文化帝国	A.ガッツマン／平凡社／／
近代スポーツ論	西山孝夫／世界思想社／／

その他、参考文献は各章毎にレジュメに明記する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

1） 解らないことは、できる限りその場で質問すること。
2） ﾚｼﾞｭﾒは区切りの良い章、または節ごとに、教室でのみ配布する。ﾚｼﾞｭﾒ配布は予告する。

スポーツメディア論（S）

15564

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

書籍だけで学習することが難しい科目なので，授業に毎回出席して，分からないところがあれば質問をして欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣／同文舘／ISBN4-495-86281-2／メディアイベント論に関わって参考にされたい。
越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画／ISBN4-921164-41-X C3075／「第2章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

精神分析論（S）

20308

担当者名 / Instructor　村本 詔司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

わが身に関わるこの上なく重要なことでありながら、自分でも気づいていないこと、そのありかを昔の人はあの世や霊界に想定し、現代人は無意識に求める。私は何に突き動かされて生きてきたのか？私は何に向かって生きているのか？わたしは誰か？私の心の中で何が起こっているのか？

こういった誰にとっても気になる問題に取り組む精神分析は、20世紀の最も代表的な心理療法の流れであるだけでなく、それなしには現代社会を理解できないとさえ言える思想、精神運動、社会文化現象でもある。

本講義では、種々の関連文献や関連サイトを紹介しながら、広い意味での精神分析（意識以外に無意識も認める深層心理学、力動心理学と称される）を代表する3人、フロイトとアードラーとユングの生涯と思想と後継者たちにおける展開を紹介する。最初の3日間の最後の時間は、深層心理学に関連する映画等（タイトルは未定だが、いずれにせよ、比較的見る機会の少ないもの）を鑑賞し、心理学的な映画の見方あるいは映画に示唆される人間理解を学ぶとともに、現代文化における心理学の役割や功罪を冷静に見つめるきっかけを提供したいと思う。できるだけ、DVD,CD、OHC、PCなどの視聴覚教材を駆使して授業内容の理解を促進したい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）教養としての精神分析を学ぶことを通じて、人間や社会文化、歴史についてのリテラシーを広め、深めること。
（2）基本的用語に英語で馴染む。
（3）心理臨床関係の仕事を志望するものにとってのある程度の準備。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定しないが、広く人文科学的教養を身につけられるような科目を意識して履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションとフロイトの精神分析（1）	ユダヤ、ウィーン、唯物論、ヒステリー、性の欲動と自我
第2回	フロイトの精神分析（2）	意識と無意識、快楽原則と現実原則、エディプス・コンプレックス、死の本能
第3回	フロイトの精神分析（3）	文化の解釈、フロイト以降の精神分析の展開
第4回	深層心理学と文化（1）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第3回の後半から始まる可能性がある。
第5回	アードラーの個性心理学（1）	劣等感と優越感、自分だけの理屈、思い込み、ライフスタイル、人生目標
第6回	アードラーの個性心理学（2）	共同体感情、ホーリズム
第7回	アードラーの個性心理学（3）	アードラー以降の展開：フランクルのロゴテラピー、人間性心理学、現存在分析
第8回	深層心理学と文化（2）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第7回の後半から始まる可能性がある。
第9回	ユングの分析心理学（1）	運命としてのキリスト教、内向性と外向性、コンプレックス
第10回	ユングの分析心理学（2）	元型（自我、ペルソナ、影、アニマとアニムス、自己）
第11回	ユングの分析心理学（3）	錬金術、シンクロニシティ、宗教
第12回	深層心理学と文化（3）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第11回の後半から始まる可能性がある。
第13回	思想史における無意識（1）	近代以前と近代における世界観・人間観、科学技術と啓蒙思想、ロマン主義、ゲーテとワーグナー
第14回	思想史における無意識（2） 現代社会における心理学	心理学人間、心理主義、ケアの管理
第15回	まとめと検証テスト	授業内容を振り返り、授業の理解度を問う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

オンライン百科事典Wikipedia（日本語版、できれば英語版も）の関連項目の説明に目を通しておくこと。ただし、記述の真実性に関しては慎重であること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	基準：授業内容の理解、授業への積極的姿勢、授業内容の創造的活用、独創性 予想されるテーマ： ①授業で取り扱った事柄について ②授業で鑑賞した映画の心理学的解釈あるいは映画が示唆する心理学的人間理解 ③授業の感想

①②③いずれも1201-1600字。

平常点評価	80 %	最後の時間（第15回）に実施する。授業全体の内容の理解を問う。 出席。コミュニケーションカードの提出。授業内容の理解、授業への積極的な取り組みなどを主な基準とする。積極的な姿勢と取り組み。毎回の終わりに授業内容理解のチェックを行い、正答をもって出席とみなす

まず非常に重要なことを述べておく。すなわち、レポート試験と平常点評価の両方を受けていることが単位認定の前提であり、たとえ平常点評価が非常に高いものであっても、レポート試験としてのレポートを提出していなければ、単位は認定されない。

毎回終了時に、その回の内容を理解しているかどうかをチェックする設問を行い、その答えを出席カードの裏に書いて提出してもらうことにする。正答をもって出席とする。

レポートのテーマは、現在考えている時点では、①授業で取り扱った心理学者、思想家、芸術家を一人選んで、考えるところ。②授業で提示し、リストに挙げた映画、文学作品、劇、音楽などをひとつ選んで、考えるところ（心理学的解釈、心理学への示唆など）。③授業の感想。①②③いずれも、サイズは1201-1600字。

受講生の数などが明らかになった時点で、授業の内容や予定、方法を若干変更する必要が生じた場合は、授業開始前までに前もって連絡する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に先立って、あらかじめWikipediaなどで授業に関連する項目を読んでおくと、より有利な条件で授業に臨むことができて、授業がよりわかりやすくなる。

集中講義で夏の暑い毎日、朝から夕方まで連続授業を行うので、注意の集中力をいかに持続させるかが課題でとなろう。休憩時間にしっかりと気分をリフレッシュして、新たな気持ちで授業に臨むこと。

授業内容に関する質問は、講師の個人ホームページ（http://www5d.biglobe.ne.jp/~shojimur/）のトップページからメールで行うことができる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガ　フロイト入門	／ブルーバックス／／OHCでも提示する
知的常識シリーズ　ユング	マギー・ハイド／心交社／／絶版状態。OHCで提示する
Adler for Beginners	Anne Hooper & Jeremy Holford／Writers and Readers Publishing, Inc.／／OHCでも提示する

特になし。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
援助者のためのフロイト入門	村本邦子／三学出版／／
フロイト著作集	フロイト／人文書院／／
ユング・コレクション	ユング／人文書院／／品切れ状態になっているものが何巻かある。
ファウスト　第一部・第二部	ゲーテ／岩波文庫、新潮文庫、中公文庫など／／
アドラーの生涯	エドワード・ホフマン／金子書房／4-7608-2139-2／

フロイト、アードラー、ユング関係で比較的廉価な書物がたくさん出回っており、ここにはあえて列挙しない。各自amazon.comなどで検索して、それぞれの著者の立場に注意しながら、目を通すことをお勧めする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Wikipedia（日本語版、英語版）の関連項目
日本精神分析協会http://www.jpas.jp/
日本精神分析学会http://www.seishinbunseki.jp/greeting.html
日本アドラー心理学会http://adler.cside.ne.jp/
アドラー心理学ネットワークhttp://homepage3.nifty.com/adlerian/
ユングネットhttp://www.asahi-net.or.jp/~we7n-hkt/jung.html
ゲーテ自然科学の集いhttp://www.cc.okayama-u.ac.jp/~ohtaro/goethe-natur/index.htm
日本ワーグナー協会http://www.wagner-jp.org/

その他 / Others

大衆表現論（S）

13291

担当者名 / Instructor　上柴 とおる

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

長年にわたる放送（ラジオ中心）＆音楽業界での現場体験を生かして（今も現役真最中！）、ラジオがこれまでに果たして来た役割、効用、おもしろさなどを皆さんに再認識してもらえるように経験を交えながら講義をし、そしてラジオを軸に発展を遂げた大衆音楽の流れやそれらを取り巻く産業の発達、新しい大衆文化の芽生え。。。と話を広げて参ります。時代的に言えば終戦（1945年）後から1980年代～1990年代に至る頃までの話が中心となります。そんな中から現代のラジオ媒体や音楽シーンの現状も改めて見えて来るでしょう。はっきり言っていわゆる大学の講座らしからぬ授業です。変わったもの（？）を好む人は是非受講しましょう！私自身の経験に基づく観点から物事を捉えます（ここでしか聞けない話も多い！）。時には映像や楽曲音源なども（レアもの!?も）使用します。将来、マスコミ関連の仕事を目指す皆さんにとっても何らかの参考になるはずです。

●到達目標

到達目標 / Attainment Objectives

戦後（1945年～）大衆の娯楽として発展して行ったラジオの影響力の大きさ、そしてどのような文化を育み現在に至ったのか、またラジオと共に歩んだ大衆音楽のスターたちのさまざまな自己表現のスタイルを生み出した時代の空気感を認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション～講座概要紹介（＆ラジオ、音楽業界の近況など）、自己紹介	
2	‘ラジオ・ネーム’とはなにか？～音声メディアの効用を考える	ハンドル・ネーム、メール、ファックス、ハガキ、リクエスト、メッセージ
3	ラジオの歴史と世相①～戦後洋楽史（1950年代～1960年代）	AMラジオ、ヒット・パレード、本邦初のカウントダウン番組、映画音楽
4	ラジオの歴史と世相②～団塊世代が先鞭をつけた深夜放送ブーム（1960年代後期～1980年代）	高度成長経済時代、大阪万博、受験戦争激化、ユース・カルチュア、オールナイト・ニッポン、ヤング・タウン
5	ラジオの歴史と世相③～FMラジオの時代（1970年代～1990年代）	ステレオ放送、エア・チェック、ウォークマン、FM専門誌、デジタル時代
6	ラジオの歴史と世相④～今年開局20周年、関西地区No.1の座をキープし続ける<FM802>の成功過程を開局前夜から追って検証	イメージ（広報）戦略、物量作戦（ステッカー、グッズ）、クラス・メディア、ヘヴィー・ローテーション、J-POP
7	世界のROCKシーンにおける「武道館」の存在意義	ビートルズ、チープ・トリック、ボブ・ディラン、大阪フェスティバル・ホール閉鎖
8	外国語楽曲に日本語の題名は必要か!?～タイトルの訴求力	ダニエル・パウター「バッド・デイズ～ついてない日の応援歌」、アース・ウィンド＆ファイアー「宇宙のファンタジー」、バングルス「胸いっぱいの愛」、コールドプレイ「美しき生命」。。。
9	ミュージシャンの主張①～ボブ・ゲルドフが全世界に向けて訴えたチャリティー・イヴェント「ライヴ・エイド」の歴史的な意義	エチオピア難民救済、バンド・エイド、ウィ・アー・ザ・ワールド、フジ・テレビ、世界同時中継、ライヴ・エイト、ライヴ・アース
10	ミュージシャンの主張②～米ロック・ミュージシャンと政治	オバマ、ブッシュ、イラク戦争、9.11、ブルース・スプリングスティーン、ニール・ヤング、ディクシー・チックス。。。
11	ミュージシャンの主張③～かつて封印され葬り去られた楽曲	放送禁止、発売禁止、忌野清志郎、タイマーズ、ローリング・ストーンズ、ザ・ドアーズ。。。
12	ミュージシャンの主張④～山下達郎＆竹内まりやの哲学（1970年代からのJ-POPの流れを検証）	ニュー・ミュージック、ユーミン、サザンオールスターズ、小室哲哉、大阪フェスティバル・ホール。。。
13	日本独自の大衆音楽芸能①～ジャニーズ王国の興隆（1960年代~2000年代）	嵐、SMAP、Kinki-kids、NEWS、KAT-TUN、TOKIO、Hey!Say!Jump、V6、関ジャニ∞、少年隊、光ゲンジ、J.J.スペシャル、たのきんトリオ、郷ひろみ、フォー・リーヴス。。。
14	日本独自の大衆音楽芸能②～ヴィジュアル系のルーツと海外進出（ヴェルサイユ、世界デビュー決定）	X JAPAN、Shazna（Izam）、Malice Mizer、Versailles、You-Tube、Megamasso、KISS、Glam Rock、New Romantic、L.A.Metal、宝塚、歌舞伎。。。
15	日本から世界へ～「スキヤキ」（坂本九：1963年全米No.1）の再来は永遠のテーマか？	上を向いて歩こう、YMO、ピンク・レディー、ラウドネス、松田聖子、倖田來未、宇多田ヒカル。。。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容への興味・関心・認識度

毎回授業でレジュメを配布しますがそれだけで試験をクリアするのは無理です(試験の際は一切持ち込み禁止です)。可能な限り授業に出席をして自分はどういう事柄に関心を持ったのか(あるいはどんな事柄が目から鱗だったのか等)、日頃から留意しておくことが定期試験における課題への回答につながるでしょう(学外で販売されている講義ノートの類は全く役に立ちません!)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ラジオは脳にきく	板倉徹／東洋経済新報社／ISBN4-492-04267-9／
亀淵昭信のオールナイト・ニッポン35年目のリクエスト	亀淵昭信／白泉社／ISBN4-592-75012-8／
熱狂の仕掛け人	湯川れい子／小学館／ISBN4-09-387434-4／
放送禁止歌	森達也／光文社／INBN4-334-78225-6／
別冊宝島1499号「流行り歌に隠されたタブー事件史」	別冊宝島編集部／宝島社／ISBN978-4-7966-6178-2／
盗作コピペ病	コピー＆ペースト研究会／茜新社／ISBN978-4-86349-020-8／
『at武道館』をつくった男	和久井光司／アルテスパブリッシング／ISBN978-4-903951-09-6 C0073 ／
季刊「上方芸能」143号特集 '効く聴くラジオ—おとな文化の元気'	上柴とおる他／上方芸能／ISSN-0910-5506／
季刊「上方芸能」162号特集 '団塊の世代と芸能文化'	上柴とおる他／上方芸能／ISSN-0910-5506／

授業への興味・関心を高めるための書籍・ムック・雑誌です。
初回の授業で配布するレジュメに改めて記載しておきます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

多文化共生論（S） § 多文化共生論（I）

15496

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）多文化性について理解する。
2）自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する
　方法を理解する。
3）多文化共生問題の本質を理解する。
4）問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5）具体的に提案し活動していく力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入：映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出（以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する）
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？ Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？ Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験（60点）
平常点評価	40 %	レポート4回（40点） ＋その他の感想レポートを総合評価する

ただし、受講生数によっては、最終講義試験をやめて、レポート4回と最終レポートによる総合評価へと変更する可能性もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。な ぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

多文化コミュニケーション (S) § 多文化コミュニケーション論 (S)

20364

担当者名 / Instructor　森田 ゆり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

多様性(diversity)と人権と理解は、21世紀のグローバル社会が共有する最重要理念であるのみならず、個別の企業、行政、民間におけるマネジメントと人材育成に不可欠な研修テーマである。
ここで言う多様性とは、人種・民族や地域性の違いにとどまらず、ジェンダーの違い、性的指向の違い、障害の違い、世代文化の違いなどをも含む広い意味での文化の多様性を指す。
人権を尊重し、文化の多様性を尊重しようと呼びかけるのは簡単だが、それを実践することはたやすいことではない。個性の尊重を掲げながら、個性を抑圧する教育が行われている現実を見ることはしばしばである。一般に社会は放っておくと、異質の文化を拒否、排除しようという力学が動いてしまうようだ。異質の文化や新しい価値観を受容するためには、社会は意識的な努力を必要とする。
文化の多様性を尊重する社会システムは、適切なルールの設定と同時に、互いを理解し合おうとする積極的なコミュニケーションを必要とする。
多様性トレーニングとは、そのための人権認識と知識とコミュニケーションスキルを提供するものである。本コースは、その多様性トレーニングを参加型の手法を駆使して職場や学校で実施することのできるトレーナー／ファシリテーターを養成する。

到達目標 / Attainment Objectives

目的goal:参加型の多様性・人権研修の理論とスキルを持つ多様性トレーナー／ファシリテーターを養成する。
目標objectives:上記の目的のために、参加者が以下のことを学ぶことを目標とする。
1. 参加型研修ファシリテーターとして必要な理論と方法を学ぶ。
2. 多様性/人権啓発・参加型研修の具体的方法を学ぶ。
3. ファシリテーターに必要な実践上のスキルを学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~3	イントロダクション 研修の目的と目標 約束事の確認p.67 参加者の自己紹介アイスブレーカー:わたしのイニシャル＋他人紹介 テキストの使い方 採点基準の説明 参加型学習の理論 フレームワークの重要性:多様性受容力の三つの輪p.42～ 参加型体験学習の理論 ファシリテーターとトレーナーp.40 参加型研修の4要素:目的構成　行動配慮p.49～	宿題 「エンパワメントと人権」p.1～44とp.175～197を読んでくる。 「多様性トレーニングガイド」はじめにi～xiip.3～23を読んでくる。
4～6	チェックイン約束事確認、きのう一日のことで、気のついたこと、聞きたいこと、 アイスブレーカーMY　Name アイスブレーカーとは　p.79 アイスブレーカーの条件 ファシリテーターに求められる7条件と7つ道具　p.65 多様性と人権の理論 多様性・多文化共生とは何か　p3 差別する側　vs　差別される側の図式を超えて エンパワメントと人権	宿題　参加型研修の4要素とその構成を覚える
7～9	チェックイン約束事確認、今迄で、気のついたこと、聞きたいこと、話したいこと、 参加型研修の進め方のステップ　p51 「有名人クイズ」 「読み書きの困難」 「マットの話」のアクティビティーをしてファシリテーションの技術を習得する ファシリテーションのモデリング:基本ステップと7つ道具の使用を習得する。	宿題　明日の小テストの準備

10～12	小テスト アイスブレーカーわたしに縁のある動物p.86 知識の研修 多文化リテラシー　p.181~186 アクティビティー　「プレクイズ」「モザイクゲーム」など スキルの研修 コミュニケーションとノイズp.223 コミュニケーションスキル：人の話を聴く、アサーティブネス、対立の仲介者	
13～15	総まとめの演習 アクティビティー「スダチゲームⅠ」から3日間の復習 多様性社会に求められるリーダーシップは雁行型p.260～264 クロージング 目的はどの程度、達成されたかのふりかえり コメントシート 学びのフォローをいつ、どこでするか 学んだことをどこでどう生かすか 感謝したい人	提出レポートについての説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業の中で説明する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストの「エンパワメントと人権：こころの力のみなもとへ」（森田ゆり著　解放出版社1998年）を受講前に読んでおく。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「多様性トレーニング・ガイド：人権啓発参加型学習の理論と実践」	森田ゆり著／解放出版社／ISBN4－7592－2327－4／2000年
「エンパワメントと人権：こころの力のみなもとへ」	森田ゆり著／解放出版社／ISBN4－7592－6040－4／1998年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.geocities.jp/empowerment9center/　エンパワメント・センター

その他 / Others

伝統芸能論（S）

15559

担当者名 / Instructor　相原 進

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本には、さまざまな伝統芸能があります。この講義では、いくつかの伝統芸能を取り上げ、その歴史や特徴、個々の作品について学びます。そして、伝統芸能が時代や社会とどのように関わってきたのかということや、伝統芸能の現状、今日の日本文化への影響についても学びます。
講義においては、映像、絵画、写真などの資料を用います。また、教養や趣味のひとつとして伝統芸能を楽しめるきっかけになるように、鑑賞方法の案内も行います。

到達目標 / Attainment Objectives

①伝統芸能の歴史や特色について知る。
②各伝統芸能における代表的な作者、作品、演者などの基礎的な知識を得る。
③芸能と、時代、社会、人間とのかかわりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

身体表現論S：伝統芸能論の講義について、芸能と社会、文化、身体表現とを関連させて、より深く理解するための知見を得られます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入	自己紹介／成績評価方法／各回の講義の概要
2	「伝統芸能」の概念と今日の状況	伝統芸能の概念／伝統芸能の分類／伝統芸能をめぐる諸制度／産業としての伝統芸能
3	「伝統芸能」以前	個別の伝統芸能を語る上で必要な歴史的背景について／神事や仏教と芸能との関わり
4	落語の歴史と特色	
5	落語の演目	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について／メディアと落語
6	能の特色	（この回はもともと「能の歴史と特色」というテーマでしたが、「能の特色」に絞り込んだ講義内容としました）
7	能の歴史と作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について（この回はもともと「能の作品」というテーマでしたが、第6回講義予定の歴史をこの回にまわし、能の歴史と作品について解説する回としました）
8	狂言の歴史と特色	
9	狂言の作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について／今日における他の芸能との共演
10	文楽の歴史と特色	
11	文楽の作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について
12	歌舞伎の歴史と特色	
13	歌舞伎の作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について／東西の歌舞伎の違い
14	舞踊と音楽	舞踊と音楽の歴史／作品の鑑賞
15	伝統芸能のこれから／質疑応答	講義のまとめ／講義・試験に関する質問の受付

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の理解度と、講義から各自が修得した知見を問う。
平常点評価	30 %	第7回講義の終了時点でレポートを課す。講義で取り上げた伝統芸能のうちから1つを鑑賞し、各自が学んだことや感じたことについて、講義で得た知見を踏まえた上で記述する。コミュニケーションペーパーの提出を促す場合もあるが、それによって点数の増減は発生しない。また、出席点も加味しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テレビ等どんな形でも良いので、講義で扱う芸能を一度鑑賞してみて下さい。講義を通じて映像や知識として伝統芸能に触れるのと、実際に現物を見るのとでは、印象が全く異なることも多々あります。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本芸能史1	藝能史研究会編／法政大学出版会／1321-25001-7710／全7巻あります。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.genpoo.org/dentou/

ネット上から過去のレジュメをダウンロードできるようにしています。

その他 / Others

毎回レジュメを配布します。そこで参考書なども紹介します。

日常性の社会学 (S)

13332

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日常生活の諸現象のなかから「逸脱」と「コントロール」に注目する。この二つの作用を通じて、日常生活の秩序を構成している社会的メカニズムについて考える。こうした主題に関わる主要な学説を紹介した上で、さらに具体的な事例として、暴力とホワイトカラー犯罪を取り上げる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 逸脱・犯罪についての代表的な社会学的な考え方を習得することができる。
2. 事件などをメディアの報道を自明視せずに、科学的視点から批判的に読み解く能力をつけることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定科目はないが、基本的な社会学的視点を学んでおくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の目的と概要:逸脱を主題とする理由	日常世界・逸脱・コントロール
2	逸脱に対する考え方:3つの視点	相互作用論・行為者論・構造論
3	シカゴ学派の視点	社会解体・人間生態学・都市的世界
4	差異的接触論と学習論の視点	サザランド・プロの窃盗犯・ホワイトカラー犯罪・プロセス
5	社会的コントロール論の視点	スラッシャー・ショウ・ハーシ・社会的絆
6	アノミー論の視点	デュルケーム・マートン・構造的緊張
7	ラベリング論の視点	ベッカー・予言の自己成就・逸脱のエスカレート
8	構築主義の視点	逸脱の社会的定義・クレイム・レトリック
9	合理的選択理論の視点	逸脱者からみた合理性・コントロールの合理的計算・制度設計
10	ライフコース論の視点	サンプソン・転機・キャリア
11	総合理論の視点	コントロールバランス理論・セルフコントロール理論
12	逸脱の事例:街頭の逸脱	コミュニテイ・暴力・監視
13	逸脱の事例:ホワイトカラー犯罪	企業体・組織・専門職の逸脱
14	逸脱とコントロールの新たな理論	社会的世界論・メカニズム・システム
15	まとめ:社会秩序のあり方	制度と社会政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

犯罪報道と公式統計を批判的に読む態度を実践する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	犯罪・逸脱・コントロールなどの基本的な概念や考え方についての理解度を試し、現実の問題への応用能力をどれだけマスターしているのかによって評価する。

ひとつのテーマが終わるたびに、理解の程度と質問事項を確認するための質問紙を配布する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に紹介した文献や資料は図書館を利用して自習することが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
逸脱とコントロールの社会学 大学生協書籍部で購入可能	宝月　誠／有斐閣／4-641-12227-x／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会的コントロールの現在	宝月誠・進藤雄三／世界思想社　／4-7907-1108-0／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間コミュニケーション論 (S)

15536

担当者名 / Instructor　団 士郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。一方、得意だと思っている人は、自分のコミュニケーション作法を振り返ってみる機会がありません。上手くやれていると思っているものを、見つめ直す必要を感じないからです。その結果、若くして身についた技術のまま、二十代、三十代を過ごしてしまいます。これが要注意点であることに議論は不要でしょう。

また、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも少し、焦点を当てます。

対人コミュニケーションにおいては「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好なコミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達の手段技術)の両者がうまく備わってこそです。この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。

毎年説明しているように、教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一歩前進です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
(1)	イントロダクション　授業の進め方　第一回の実習　ミニレポート(記述・提出)	
(2)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(3)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(4)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(5)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(6)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(7)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(8)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(9)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(10)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(11)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(12)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(13)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(14)	今日の課題実習(屋外実習)　今日のフィードバック(記述・提出)	
(15)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上（10回）出席できそうにない者は登録しないでください。基本的に毎週フィードバックシートの提出を課します。遅刻してミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。2008年度は登録して出席できない四回生が目立ちました。当然単位は取れません。けじめのある受講登録をしてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の練習問題	団士郎／ホンブロックKK／／マンガです。主に家族のコミュニケーションに焦点をあてたものです。
不登校の解法ー家族のシステムとは何かー	団士郎／文春新書／／読みやすい新書です。家族システム論の視点から、親子のコミュニケーションをテーマに書いています。
家族力×相談力	団士郎／文春新書／／家族関係全般について、様々な事例を書いています。
家族の練習問題（2）	団士郎／ホンブロック／／第二巻です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間論 (S)

13276

担当者名 / Instructor　佐藤 嘉一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間の社会との「かかわり」の歴史を「民話」や「小説」を題材にして社会学的に論じます。伝統社会に生きる「あかずきんちゃん」、モダンソサエティの到来とロビンソン・クルーソー、変貌する大都会ペテルブルグに生きるアルカイジィー青年などの生き方にみる「人格形成と社会構造」の問題を論じます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学や経済学、精神分析や言語倫理などの学習をとおして「社会の動きと自己アイデンティティの形成」に関するものの見方の習得をめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

一回生科目「基礎社会学」、同「人間と文化」、二回生科目「文化理論」、同「現代文化」の履修を薦めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会とアイデンティティ」問題を「物語」によって語るわけ	アウグスチヌス『告白』、ルソー『告白』、自己論、ポスト・モダンという時代！？　わたくし語りの歴史
第2回	「わたくし」という現象―宮沢賢治の詩を読む:「自分をさがす」とはどのようなことかを考えてみる	「わたくし」という現象、一人称単数で語る、現実は多元的である、現象学的社会学
第3回	「あかずきんちゃん」にみるアイデンティティと社会:民話の世界から「むら社会」(伝統的共同社会)に生きる	あかずきんちゃん、共同体、口承、構造優位、むらともり、民話
第4回	「恩」の構造:日本のプレモダンの共同社会を生きる「伝統的パースナリティ」の特徴を「恩を返すはなし」	「契約における非契約的要素の問題」、「読み直す」ということ
第5回	グリム童話「蛙の王様」と「鶴の恩返し」ー物語にみるヨーロッパの「プレモダン」と日本の「プレモダン」	グリム童話、日本昔話、内発・能動と外発・受動、象徴動物―蛙と鶴・亀
第6回	『ロビンソン・クルーソー』におけるアイデンティティと社会―社会科学者や社会学者によるこの物語の読み方	一人称単数「わたし」の視点、構造の視点、理解社会学の行為の視点、経済的カテゴリー、モダンの理念型
第7回	夏目漱石の『ロビンソン・クルーソー』論ーイギリス留学を体験した漱石の目から見た18世紀のイギリス社会	ロビンソン型人間類型と漱石型人間類型、内発・能動、外発・受動　漱石のイギリス体験、近代と日本
第8回	「わたくし語り」とドストエフスキー:小説『未成年』をよむ―ドストエフスキーの物語世界を「わたくし語り」として読む	「盤根錯節」問題、近代とロシア、ドストエフスキーの創作ノート、「地下室の主人公」、自然的態度の現象学
第9回	「わたくし語り」とドストイフスキー(続き):「わたくし語り」のコンポジション:伝達・表現・叙述の3つ	直接世界、他者のあらわれ、私の身体のあらわれ、私のこころのあらわれ、「いま」と「ここ」
第10回	「わたくし語り」とドストエフスキー(続き):今ここへ「内向する」語りと今ここを「超える」語り	意味連関のモザイク模様、類型化される意味世界、類型化される時間、類型化される空間、類型化される人格
第11回	「わたくし語りとドストエフスキー(結び):「わたし語り」の形式によってなにが、どのように物語られるのか	われわれ関係、汝が関係した私、語る私、「内世界的間主観性」、ポストモダンの自己アイデンティティ問題
第12回	「からだ・こころ・他者」について―「社会とアイデンティティの問題」をめぐる若干の基本カテゴリーについて	肖像画を描く画家の目、文学者の目としての「異化」の方法、日常生活のリズムをとめる、サルトル
第13回	サルトルの「からだ・こころ・他者」を読み直すー『存在と無』からだの4つの位相論	状況の中のからだ、役割演技、キャフェイのボーイ、眼差しの地獄、サデイズムとマゾヒズム
第14回	自己論への道程―ヤヌス的課題を背負って:物語論にみられる「社会とアイデンティティ」問題の三つの視座:	社会科学・社会学・文学の間、現場に居合わせる、社会構造と個人、ドロシー・エメット
第15回	まとめ　物語における社会とアイデンティティ論の射程	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業全体の理解度や基礎概念の学習度などを主に考査する
平常点評価	20 %	授業で学んだ「社会とアイデンティティ」問題を各自が創造的に再構築する作業として位置づける

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レポートを書くことは問題を整理し、理解を早めるばかりでなく、自分の新しい考え方に気づく自己発見の場となります。必ずレポートを書くようにしましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
物語のなかの社会とアイデンティティ	佐藤　嘉一／晃洋書房／4-7710-1525-2／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
未成年	ドストエフスキー／岩波文庫／／授業の理解を深めるために
春と修羅	宮沢賢治／岩波文庫／／授業の理解を深めるために
ロビンソン・クルーソー	ダニエル・デフォー／岩波文庫／／授業の理解を深めるために
グリム童話集1	グリム／岩波文庫／4-00-324131-2／授業の理解を深めるために

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

15527

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

男女の「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、身の回りの様々な場面をジェンダー状況という視点で見直すことの出来る力量を身につけること。同時に、世界各地についてもその視点を生かした理解の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家論などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオ	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当て
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ－日本社会のジェンダー状況－なぜ前進しないのか－	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。

小レポートを数回行う、理解度の確認などコミュニケーション・ペーパーとして活用する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の進捗状況によって、講義日程と内容に変更を加えることがある。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献・資料等は、講義において適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義において適宜紹介する。

その他 / Others

私語・飲食は慎んでほしい。

比較宗教論（S）

13358

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間の普遍的行為（生き、他者を愛し、死を迎える）への対処法を、比較宗教の視点で通文化的に考察し、個々の価値を信じる他者を理解できる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間はだれでも、有為転変するこの世間で、軽蔑をうけ不安のなかで生きるよりも、誇りと自信をもって生きるほうが、よほど快適である。そのための「知恵」は、人類が長期にかけて蓄積してきているので、われわれはそれを古典から容易に入手できる。世界の宗教・思想が定式化した知恵を素材とし、自分の生き方を形成していけば、個として「現在を生きる力」を構築することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	文化圏とエートス、セクト、支配の諸類型、3つの徳性（合理・論理・倫理性）
2	中国・東アジア文化圏の宗教（1）：氏族と「個」の葛藤（1）	「論語」の世界：孔子「仁＝博愛」の発見、魯迅「阿Q正伝」、師弟関係、葬儀
3	中国・東アジア文化圏の宗教（2）：氏族と「個」の葛藤（2）	「孟子」の世界：4端説、孝道にみる「古代的心性」、宗法と国法
4	中国・東アジア文化圏の宗教（3）：アジア的知識人と隠遁	「老子」「荘子」の世界：玄牝、無為自然、混沌・幽玄、「胡蝶の夢」、逃げるが勝ち
5	中国・東アジア文化圏の宗教（4）:血の連帯、「社会」と「個人」の欠如	◎VTR－1『土楼の生活』＋ 小ペイパー（communication paper）
6	インド・ヒンドゥー文化圏（1）：民族移動と哲学創成	ウパニシャッドの世界：アーリア人（「リグ・ヴェーダ賛歌」）、アートマンとブラフマン、バラモン
7	インド・ヒンドゥー文化圏（2）：民族移動と言葉の誕生（印欧語族とノストラ祖語）	◎VTR－2『言語の起源』（印欧語族を中心に）＋ 小ペイパー
8	インド・ヒンドゥー文化圏（3）：ダルマ・アルタ・カーマ	「マヌの法典」の世界：人生の5周期、euthanasia、疎林と錬行、マヌ法典の女性
9	インド・ヒンドゥー文化圏（4）：出家とニルバーナ（1）	ブディズムの世界：釈迦「苦の発見」、諸学習合、密林と輪廻転生、日本仏教
10	インド・ヒンドゥー文化圏（5）：出家とニルバーナ（2）	◎VTR－3『ブッダの生涯』（バラモン、ヒンドゥー教との相違）＋ 小ペイパー
11	ユダヤ・キリスト教文化圏（1）：部族宗教の論理	「旧約聖書」（映画「ユダ・ベンハー」））の世界：モーセ、十戒、「罪の発見」（Ⅰ）
12	ユダヤ・キリスト教文化圏（2）：「世界宗教」の論理（1）	「新約聖書」（映画「パッション」）の世界：ユダヤ教の隘路とキリスト教、「罪の発見」（Ⅱ）
13	ユダヤ・キリスト教文化圏（3）：「世界宗教」の論理（2）	「新約聖書」（映画「オリバー・ツイスト」）の世界：キリスト教の隘路、ユダヤ問題（ディアスポラ）
14	ユダヤ・キリスト教文化圏（4）：「世界宗教」の論理（3）	◎VTR－4『イエスの生涯』（キリスト教の起源）＋ 小ペイパー
15	ギリシア・ローマ文化圏：ヨーロッパ文明の基礎 講義の結論／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	「イーリアス」「オデュセイア」「アエネーイス」の世界：古代人の生と死、来世・葬儀・墓参 ◎ギリシアJPG画像

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。

授業進行上の理由・その他の理由で、講義スケジュールやVTR視聴日に変更が生じるときは、事前に教室でアナウンスします。必要に応じて出席を3～4回とり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業スケジュール」に挙げた映画・小説・エセー・古典を、下記「参考書」に挙げた本を、1つでもみておくことを勧めます。国際社会で活躍するとき、共通の話題にできるでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
思想をどうとらえるか―比較思想の道標―	中村元／東京書籍／4-487-72157-1／世界思想の核心をわかりやすく解読
孔子・老子・釈迦「三聖対談」	諸橋轍次／講談社学術文庫／4-06-158574-6／東アジアの比較宗教を論じた名著
ヨーガ禅道話	佐保田鶴治／人文書院／4-409-41008-3／仏教・ヒンドゥー思想の血肉化の一典型を示す著書
福音書	塚本虎治訳／岩波文庫／4-00-338031-2／イエス・キリストの行動記録（生涯がわかる）
古代ローマ人と死	K. ホプキンス／晃洋書房／4-7710-0896-5／ローマ人の生活・死・葬儀・墓地墓石
古代ギリシア人と死	R. ガーランド／晃洋書房／978-4-7710-1998-0／アテナイ人の生活・死・葬儀・墓地墓石

その他は「授業スケジュール」に挙げた映画、小説、エセー、古典。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

用語、その概念などは「世界宗教大事典」で確認するとよい（yahoo, googleによるキーワード検索は、あくまで第１次情報とし、「辞書・辞典類」に依拠すること）。

その他 / Others

◎VTR・CDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布する。②残りは、次週まで（１週間）以学館レジュメboxにおかれる。

比較スポーツ論 (S)

15528

担当者名 / Instructor　金井 淳二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『スポーツに込められた社会の思い = いかにしてスポーツは生み出され展開されてきたか』

様々な国で様々に展開されるスポーツは、それぞれかってに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的背景とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業の中で、まず自分なりの問題意識を発見することが必要です。そして、比較を通じてどう違うかだけでなくなぜ違うのかが考えられるようになることが必要です。最終的には「スポーツとはこういうものだ」といった自分なりのスポーツ観を明確にもてるようになることをめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

産業社会学部に開講されているスポーツ関連専門科目をできるだけ多く受講し、それらと関連づけて学習してほしい。少なくとも教養科目のスポーツ方法論やスポーツと現代社会、およびスポーツの歴史と発展を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	比較スポーツの視角	脱工業化社会／文化の比較法／比較の枠組み
第2回	近代オリンピックスポーツ比較の課題	巨大化／商業化／アマチュアリズム／プロ化
第3回	スポーツの母国イギリス(その1)	市民革命とブルジョアジー／資本主義と民衆スポーツ
第4回	スポーツの母国イギリス(その2)	近代スポーツの階級性／スポーツの私事性と公共性
第5回	スポーツの母国イギリス(その3)	大衆化と高度化の矛盾／近代オリンピック
第6回	スポーツの母国イギリス(まとめ)	
第7回	スポーツの王国アメリカ(その1)	植民地時代／プロテスタンティズム
第8回	スポーツの王国アメリカ(その2)	南北戦争／過剰労働力／能力主義
第9回	スポーツの王国アメリカ(その3)	アメリカ的スポーツ／ローカリズムとナショナリズム／アメリカ主義
第10回	スポーツの王国アメリカ(まとめ)	
第11回	日本的スポーツ(その1)	英米スポーツの日本的受容／学校教育とスポーツ／
第12回	日本的スポーツ(その2)	農耕祭祀／封建権力／武術と武道
第13回	日本的スポーツ(その3)	スポーツにおける日本的なもの／日本的スポーツの国際化
第14回	日本的スポーツ(まとめ)	
第15回	グローバリゼーションの中のスポーツ	歴史的スポーツ／法則性と蓋然性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

スポーツ学は学際的であるので、授業の中で関係があるなと思ったらスポーツ関係の書籍だけでなく、歴史・経済・文化その他の書籍を幅広く読み、理解を深めてほしい。また、新聞のスポーツ欄ばかりでなく政治や経済・文化欄にも常日頃から目を向けておいてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度および独自な考察視点の有無を重視する。

定期試験を必要十分条件とするが、クラス規模によっては毎回授業内容についてのコメントを提出してもらうことがある。その場合は記述内容を必要十分条件プラスアルファとして評価に反映させる。このことは授業の初期に説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教室でレジメ・資料を配布する。とくにテキストとするものは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている“スポーツ文化シリーズ”のいくつかを読んで欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

比較文化論（S）

15478

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「恥の比較民族論−日本文化論とネパール先住民族の文化論−」

近年、日常の様々な場面で「恥じ知らず」な行為が目につく、日本人は「恥の感覚」を失った、といった論調が新聞等で目立つようになった。そして、日本人は文化人類学者によって「恥の文化」を持つとされたが一体どうしてしまったのか、とか、「恥の文化」の再生は今日の日本の課題である、といった議論がしばしばそれらに続く。確かに人間関係に関わる「恥」は社会にとって重要な問題である。だが、日本文化は「恥の文化」と言えるのか、そもそも「恥」とは何か、という検討は、十分になされているとは言い難い。

一方「恥の文化」を持つのは日本人だけではない。ネパールやインドにも「恥の民族」とされる人びとがおり、それらの文化も今日大きく変容を遂げつつある、とされる。

本講義では、「恥の文化」を中心に日本文化論、ネパールの民族文化論を取り上げ、その比較検討を行いながら「恥の民族論」の根底を問い直していく。また、その他の「恥」に関わる議論も幅広く取り上げながら、「恥」の現代性や民族文化論にとっての「恥」について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・文化を比較することの問題と可能性を理解する。
・日本文化論やネパール社会論の基本的知識を身につける。
・個別文化の理解や記述といった民族誌的な課題を理解する。
・文化人類学の理論と倫理との関わりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、「恥」の文化について論じながら、文化人類学における国民性研究、文化相対主義、権力・イデオロギー論、近代論といった理論的立場に焦点を当てる。文化人類学や文化研究に馴染みのない学生には、あらかじめ「文化人類学入門」、「文化人類学S」、「エスニシティ論」を履修しておくことを勧めたい。また、本講義の履修後でも、それらの受講により、文化人類学の広範な議論を俯瞰し、そのなかに本講義を位置づけることが可能になる。履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「恥」をめぐる今日の課題	恥、現代社会、日本、ネパール
2	「日本文化論」の祖型を考える1	マルコ・ポーロ、ジャポニスム
3	「日本文化論」の祖型を考える2	100年前の日本
4	国民性研究とその問題	国民性、対称型
5	文化相対主義とその問題	文化相対主義、サバルタン
6	「文化の型」とその問題	ディオニソス、アポロン
7	日本文化論を読む1	ベネディクト、菊と刀
8	日本文化論を読む2	中根千枝、タテ社会の人間関係
9	日本文化論を読む3	土居健郎、甘えの構造
10	日本文化論とイデオロギー	イデオロギー、アルチュセール
11	文化のイデオロギーと方法	ベフハルミ、イデオロギーとしての日本文化論
12	ネパール民族誌　1	国家、カースト
13	ネパール民族誌　2	チェパン社会、平等主義
14	「恥」を考える	アウシュヴィッツ、恥、近代
15	確認テスト（60分）と解説（30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業は、多くの文献を取り上げ、その内容を精査するかたちで進める。文献の原典にあたり、さらに読み込むことで理解を深めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関するテストを2回ほどおこなう。 第6回目頃と第15回目に行う予定。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。講義への参加度を評価する。その他に、数回レポートを課し、採点する。

テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記の参考書を本講義では主に取り上げるが、受講者はそれ以外の日本文化論も各自で探して読んでおくこと。それにより、本講義の議論を応用的に理解することが容易になる。

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、下記の図書のうち前三者は入手しやすいので、できれば購入し参考にして欲しい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
菊と刀	ベネディクト R.／講談社／／日本文化を恥の文化とした古典
タテ社会の人間関係	中根千枝／講談社／／日本社会をタテ社会とした論攷
甘えの構造	土居健郎／弘文堂／／日本文化の根本に甘えがあるとした論攷
イデオロギーとしての日本文化論	ハルミ・ベフ／思想の科学社／／日本文化論全般についての批判的検討
アウシュヴィッツの残りもの	アガンベン G.／月曜社／／恥についての論攷を含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化人類学 (S)

13365

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

グローバリゼーションが展開し、自由が広がる今日の社会では、既存の秩序が様々なかたちで崩壊している。9.11の同時多発テロの背景には、そうした自由に対する危機感から原理主義などの「伝統」へ戻ろうとする力が大きく働いていた、と言われる。「伝統」に戻るべきか、それとも「自由」を推し進めるべきか、私たちの身の回りでもその選択が迫られるが、「自由」とは何か、「伝統」とは何か、問われることはほとんどない。

本講義では、「自由」と「伝統」の成り立ちについて、文化人類学の立場から検討する。すなわち、1. 近代的な「自由の文化」の仕組みとその問題点、2. 「伝統文化」の価値や意味づけの仕組みとその問題点、3. 両者が対立せずに接続される可能性、について考察することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

・「構造主義（関係論）」とはどのような理論か、理解する。
・「伝統文化」と「近代」の構造とその問題を理解する。
・「民族」という枠組みの多様性や歴史性を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、構造主義や関係論という立場からの文化分析を紹介する。理論的な議論が多くなるので、本講義の履修前に（不可能なら履修後でも）「文化人類学入門」（原尻英樹教授，山本勇次教授担当）を履修し、文化人類学理論の基本を学んでおくことを推奨する。さらに「エスニシティ論」（原尻英樹教授担当）、比較文化論（橘健一担当）を受講すれば、文化人類学的な素養を幅広く身につけることができるので、履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	自由の広がりと伝統への回帰	自由、伝統
2	文化とは何か	文化進化論、機能主義、構造主義
3	意味秩序の構造	表現、内容
4	伝統文化論1	神話
5	伝統文化論2	儀礼
6	伝統文化論3	身体加工
7	伝統文化論4	贈与
8	自由の文化論1	市場、貨幣
9	自由の文化論2	資本主義、ファッション
10	自由の文化論3	市民社会、近代科学
11	自由の文化論4	国民国家
12	自由の文化論5	産業社会、フォーディズム
13	自由の文化論6	複製文化
14	自由と伝統	文化相対主義
15	確認テスト（60分）と解説（30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

参考書以外にも構造主義や関係論について論じた著作を読んでおくことを勧めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関するテストを2回ほどおこなう。 第8回目頃と第15回目に行う予定。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。講義への参加度を評価する。その他に、数回レポートを課し、採点する。

テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では映像資料を提示し抽象的な概念や考え方を解説する。抽象度の高い議論を理解するために、参考文献をしっかり読み込むこと。

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、講義内容の理解が難しいときに、下記の図書を参考にして欲しい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめての構造主義	橋爪大三郎／講談社現代新書／／構造主義全般の理解に役立つ

文化人類学15の理論	綾部恒雄編／中公新書／／文化人類学の理論全般を見通す
精神と自然	ベイトソン G.／新思索社／／関係論の理解に参考
精神の生態学	ベイトソン G.／新思索社／／ダブルバインド理論に関する論文
神話と意味	レヴィ＝ストロース／みすず書房／／神話の構造分析の入門書
レヴィ＝ストロース入門	小田亮／ちくま新書／／レヴィ＝ストロースの構造主義の解説書

その他の参考書については、必要に応じて指示する。
なお、本講義では用いないが、「文化人類学入門」の教科書（『フィールドワーク教育入門』原尻英樹、玉川大学出版部、『文化人類学の方法と歴史』原尻英樹、新幹社）を受講者の判断で各自参考にして欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

余暇・スポーツ史 (S)

13360

担当者名 / Instructor　西原 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近代スポーツを中心とした近代社会の運動文化は、その成立・発展過程において、「近代余暇」あるいは「近代政治」の力学と常に密接な関係を保ちつつその歴史を歩んできた。その「力学」とは、簡潔に言えば上層階級や商業資本などを中心とした勢力が①「大衆」をターゲットとして②彼らを「良き国民」「良き労働者」へと教化していこうとする志向ということになろうが、近代スポーツはまさに大衆をその支持基盤としているがゆえにそうした「力学」が展開される格好の舞台となり、その要請に沿うことによって発展してきた運動文化であると見ることができるだろう。そのような認識に基づき、本講義では19世紀以降の近代スポーツの成立・発展過程について、それらがいかに「近代余暇」あるいは「近代政治」の力学に深く絡めとられたものであったかという事実を、欧米および日本の事例を取り上げながら概観していくことにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

W杯などを中心として世界中に普及したサッカーや、北米大陸を中心として巨大な市場を形成するアメリカ4大スポーツなどを想起すれば一目瞭然であるように、今や近代スポーツは世界中でその存在を概ね全面的に肯定され、大衆娯楽の王者として君臨していると言っても過言ではないだろう。しかしながら、これほどまでに巨大な存在となった近代スポーツを、私たちはただ無反省にひたすら賛美するだけでいいのであろうか。時にはその存在を少し引いたところから眺め、近代スポーツが世界中の人々の関心を引き付けているさまを、その否定的な面をも含めて反省的に考察し直してみることが、今まさに求められているのではないだろうか。そのような意味で、本講義は私たちが日頃親しんでいる「近代スポーツ」の、いわば存立基盤を問うことを目的とするものであるが、受講者には講義で取り上げる様々な話題について考えることを通じて、「近代スポーツ」をただ娯楽として享受するだけではなく、時には批判的な見解をも持って眺めることのできるような、「賢明な」スポーツ消費者になっていくことを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	近代的レクリエーション・レジャーの誕生	余暇思想の変遷、大衆の国民化
第2回	近代スポーツの誕生〔1〕19世紀イギリスにおける合理的娯楽運動	伝統的民衆娯楽の衰退、レジャーの産業化
第3回	近代スポーツの誕生〔2〕「スポーツマンシップ」の誕生と成長	パブリック・スクール、筋肉的キリスト教
第4回	近代スポーツの誕生〔3〕アメリカの「国技」としての野球の成立	ベースボール起源神話、男性性、サンデー・ベースボール
第5回	近代スポーツの誕生〔4〕1920～30年代におけるスポーツの大衆化	スペクテイタースポーツ、メディア、スタープレーヤー崇拝、“野球狂時代”
第6回	近代政治とスポーツ〔1〕植民地政策とスポーツ	植民地政策、クリケット、サッカー
第7回	近代政治とスポーツ〔2〕もう一つのスポーツ文化	ドイツ体操、デンマーク体操、スウェーデン体操、ソコル運動、ナショナリズム
第8回	近代政治とスポーツ〔3〕ナチスドイツの余暇政策とスポーツ	歓喜力行団、ベルリン五輪
第9回	近代政治とスポーツ〔4〕昭和初期日本のスポーツ政策	文部省、思想善導、厚生省
第10回	近現代日本の余暇とスポーツ〔1〕(ビデオ鑑賞)映画『青春』(1968年)	第50回全国高等学校野球選手権記念大会についての記録映画
第11回	近現代日本の余暇とスポーツ〔2〕甲子園野球の誕生	新聞社、私鉄会社、スポーツイベント、教育
第12回	近現代日本の余暇とスポーツ〔3〕占領期の対日スポーツ政策	GHQ、プロ野球、武道
第13回	近現代日本の余暇とスポーツ〔4〕テレビ時代の到来とスポーツ	長嶋茂雄、力道山
第14回	近現代日本の余暇とスポーツ〔5〕東京オリンピック	東京オリンピックが日本社会にもたらしたもの
第15回	近現代日本の余暇とスポーツ〔6〕スポーツマンガ・アニメの隆盛	高度経済成長、根性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容全体の理解度を重視する。
平常点評価	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では適宜映像資料なども利用していくつもりですが、紹介する参考文献にもできる限り目を通して、話題についての視覚的イメージを各自でうまく作り上げていかれると、理解が深まると思います。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考文献を適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代スポーツマンシップの誕生と成長	阿部生雄／筑波大学出版会／978-4-904074-09-1／オリンピックや日本への影響についても射程に収める
ベースボールの夢	内田隆三／岩波書店／978-4-00-431089-1／19世紀アメリカにおける「国技」としての野球の成立
近代ヨーロッパの探究⑧スポーツ	有賀郁敏　他／ミネルヴァ書房／4-623-03509-3／ドイツ体操、ソコル運動に関する論文あり
権力装置としてのスポーツ	坂上康博／講談社／4-06-258136-1／昭和初期日本における「思想善導」政策としてのスポーツの意味
力道山	岡村正史／ミネルヴァ書房／978-4-623-05255-4／プロレス人気の沸騰と終焉化

上記以外の文献についても、講義中に適宜紹介する。また事典としては、岸野雄三編集代表『最新スポーツ大事典』(大修館書店)が参考になる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

スポーツ文化史料情報館　http://www.eonet.ne.jp/~otagiri/
(「連載　アメリカスポーツ歴史物語」などが参考になる)

その他 / Others

現代余暇論（S） § 余暇論（S）

15535

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

最近の国内経済、世界経済の現状は、私たちに「レジャー・余暇どころではない」といった風潮をもたらしているのではないだろうか。しかし、本講義の目的は、そのような風潮に逆らって「レジャー・余暇」から私たちの生活構造を再構成する糸口を探る試みにある。そのためにも、本講義は、レジャーを介して展開されてきた社会統合様式に焦点を当て、その政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

レジャーを政策的、思想的、政治的な視点から考察し、受講生がレジャーを「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。また、レジャーを「人間的自由の獲得」という視点から考察を試み、レジャーを介した豊かな社会構想の糸口を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	レジャーの誕生①：ヨーロッパ編	産業革命、社会的時間の再編成（労働時間、自由時間）、合理的レクリエーション
3	レジャーの誕生②：アメリカ編	有閑階級、大衆消費社会、フォーディズム
4	レジャーの誕生③：日本編	權田保之助、民衆娯楽論、アノミー、国民娯楽論
5	総力戦体制とレジャー	ファシズム、社会統合、ドーポラヴォーロ、KDF、厚生運動、健民・健兵
6	戦後日本のレジャー政策①：戦後から1970年年代初頭まで	福祉国家体制、高度経済成長、日本型雇用慣行、レジャーブーム
7	戦後日本のレジャー政策②：1970年代中頃から1990年代初頭（バブル崩壊）まで	低成長、日本型福祉社会論、前川リポート、4全総、リゾート法
8	戦後日本のレジャー政策③：1990年代中頃（バブル崩壊後）から現代まで	平成不況、社会福祉基礎構造改革、新自由主義、日本型雇用の再編、グローバリゼーション
9	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向①：創刊号（1977年）から1990年まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、前川リポート、4全総、リゾート法
10	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向②：1991年から2000年まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、利己的余暇、社会的余暇（利他的余暇）
11	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向③：2001年から最新号まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、観光
12	社会的余暇（利他的余暇）の再検討	福祉政策、ボランティア、地域社会
13	レジャーからワークライフバランスを考える①	各国のワークライフバランスに向けた取組を検討
14	レジャーからワークライフバランスを考える②	オランダのワークシェアリングの検討
15	まとめ	これまでの議論を整理し、レジャーを介した豊かな社会構想に向けた試論を提示したい。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
権田保之助著作集	権田保之助／文和書房 ／／
厚生運動概説	磯村英一著／常磐書房／／
柔らかいファシズム：イタリア・ファシズムと余暇の組織化	ヴィクトリア・デ・グラツィア／有斐閣／／
新編 現代の君主	アントニオ・グラムシ／筑摩書房／／
レジャーの誕生	アラン・コルバン [編著]／藤原書店／／
レジャー社会学	J・デュマズディエ／社会思想社／／
怠ける権利	ポール・ラファルグ／平凡社／／
レジャー白書	余暇開発センター→自由時間デザイン協会 (2001-2002)→社会経済生産性本部 (2003-)／／／
論文 戦後日本の社会統合と「レジャー」：レジャー政策から自由時間政策への転換とその意	市井吉興／立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第42巻 第3号（2006年）／／
論文 人間の安全保障としての「レジャー」をめざして：「新自由主義型自由時間政策批判」序説	市井吉興／唯物論研究協会編『唯物論研究年誌』第12号（2007年）／／
企業社会と余暇：働き方の社会学	桝潟俊子／学陽書房／／
時間とは幸せとは：自由時間政策ビジョン	余暇開発センター編／通商産業調査会出版部／／
これからの生活と自由時間：その現状と対策の方向	経済企画庁国民生活政策課編／大蔵省印刷局／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

臨床社会学（S）

13312

担当者名 / Instructor　本田 宏治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、犯罪や非行、虐待、不登校、ひきこもり、社会的格差など社会病理現象が多様化し、増大しているといわれている。こうした社会問題を臨床的課題として捉えなおし、単に個人の「逸脱」や「不適応」としてではなく、社会学的な観点からの支援を模索する知的方法として臨床社会学がある。

本講義では、オムニバス形式で具体的な事例を取り上げ、社会の問題と個人の問題とが交錯する現代社会への諸問題への洞察を深める。そのためには、社会問題の「現在」を洞察するなかで、日常世界を反省的に異化し、社会構造の「ひずみ」を知覚する社会学的な感受性を身につける必要がある。そのうえで、一人ひとりの参加学生が、関心をもつそれぞれの課題に向けて自発的に解決の糸口を探る能力の獲得を目指したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学的な洞察力を深めたうえで、常識的視野のもとで見逃されている臨床的諸課題の「発掘」と解決に向けた社会学的想像力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会問題を臨床社会学で読み解くことの意義について	社会病理学
第2回	逸脱とは何か？	アノミー論、ラベリング論
第3回	「正常」と「異常」	集合意識、ノルム
第4回	逸脱はなぜ生まれるのか？（1）	社会解体、社会的排除
第5回	逸脱はなぜ生まれるのか？（2）	リスク社会、管理権力
第6回	犯罪の厳罰化の流れ	犯罪不安、厳罰化ポピュリズム
第7回	厳罰化による社会のひずみ	刑事施設、過剰収容問題
第8回	犯罪者の社会内処遇	ダイヴァージョン・プログラム
第9回	トラウマと現在	トラウマ、心的外傷
第10回	被害者化過程での家族・友人・社会	犯罪被害者
第11回	アダルト・チルドレンという生き方	機能不全家族、共依存
第12回	「隠蔽」される犯罪者家族（1）	私的領域、パノプティコン
第13回	「隠蔽」される犯罪者家族（2）	侮蔑発話、医療化
第14回	他者を支えるコミュニティとは何か？	コミュニティ・プリズン、コミュニティ・ポリシング
第15回	他者を「支える」ことは何か？	共在者

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での学習を促すため、配布資料や主題に合わせた参考文献などを読み、レポートをまとめるなど宿題があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容を手がかりとして、それぞれが自身の関心とする社会問題を分析する能力を身につけているかを判断する。
平常点評価	30 %	期間中に1回レポートを課し、評価に加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講に際しては、社会学の基礎的な知識を有していることが望ましい。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。配布するプリントを中心に進め、要点は板書する。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

アジアの福祉研究（S） § アジアの福祉研究（I）

13353

担当者名 / Instructor　桂 良太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アジアの高齢者とこどもに焦点をおきながら、10年後、20年後のアジアの社会情勢を考える講座である。アジアの高齢者やこどもまたは障がい者の人権保障がどのように守られるか、守られなければならないかについてさまざまな角度から分析したことがらについて考察しながら、ディスカッションしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

未来のアジアの情勢をしっかり人口統計学的な背景からみた場合の予測をもとに、高齢者やこども、とくに障がいをかかえたこどもたちの人権保障がどのように世界的なパースペクティブ（視角）から構築されなければならないかについて検討することと、それによって今後のわが国の社会福祉のあり方を考えることが本講座の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

国際関係論、国際社会学、および国際福祉の視点や分析方法などをしっかりおさえながら講義にのぞんでほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義をはじめるにあたって一講義のすすめかた、目標などについて-	講義の目標
2	今なぜアジアの社会福祉なのか！？	アジア型社会福祉、欧米型社会福祉
3	貧困・不平等の福祉	貧困・不平等の福祉
4	こどもの福祉	こどもの福祉、児童問題、児童憲章
5	ジェンダーと福祉	ジェンダーと福祉
6	障がいと福祉	障がいとは何か、ディスエイブル
7	高齢者と福祉	高齢化、高齢社会、高齢者問題、介護と生きがい
8	難民と福祉	難民問題
9	社会的排除と福祉	社会的排除
10	エコロジーと福祉	持続的発展
11	社会開発と福祉	社会開発
12	国際機関・国際NGO活動と国際協力	グローバル社会、国際協力、ODA、国連
13	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策　東アジア（①中国②韓国）	中国の社会福祉、韓国の社会福祉
14	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策　東南アジア（①シンガポール②タイ③その他）	シンガポールの社会福祉、タイの社会福祉、
15	講義を終えるにあたって（A＋希望学生はプレゼンテーション）	アジアの社会福祉、ソーシャルワーク

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

主に、アジア各国（日本を含む）を中心に世界の平和博物館を調べることによって、各国の平和や福祉社会構築にむけたの取り組みを理解することができようにしたい。そのために、本講義以外に、アジア各国の平和博物館の状況についてリサーチする個人課題がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席60%以上が必要。各自に与えられた課題（アジアの平和博物館の調査等）をクリアーし、なおかつ講義の関するレポートの成績等によって総合的に評価する。 講義をつうじて関心をもったことがらについて、各自で調べたことや、体験したことがらなどをレポートにして提出することを希望する。

A＋を希望する学生は事前に申し出ること。ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝをしてもらいます。
万一出席日数が足りない場合は事前に相談しにくること。特別課題を与えます。
講義終了2回まえに、各自の評価（成績）を公示し、異議申したてするチャンスをあたえる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アジアの社会福祉	萩原康生他／日本出版放送協会／ISBN4－595－30606－7／2006年3月発売

2006年3月発売

放送大学（ラジオ）にて、昨年から「アジアの社会福祉」という講座がはじまっています。桂はそのなかで、アジアの子どもと福祉（第3章）高齢者と福祉（第6章）担当しています。

参考書 / Reference Books

参考書は講義のなかで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

医療福祉論（S）

13254

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映像や新聞記事などを活用しながら、保健医療福祉諸制度の改革のなかで患者・利用者の主体化を支援する専門職としての関わりを理解するための知識を養う。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 保健医療福祉を臨床的視点から問い直す
2. 患者・利用者のQOLや尊厳について考察する
3. 保健医療福祉をシステムとしてみる
4. 保健医療福祉の制度の変遷と改革動向を探る
5. 患者・利用者理解のモデルを検討する
6. 他の専門職との連携の意義を明確化する
7. 保健医療福祉問題を多次元的に検討する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	保健医療と法制度の歴史	
3	医療保険の法制度と現状・課題	
4	診療報酬制度の概要と課題	
5	保健医療福祉政策の概要	
6	保健医療福祉におけるコーディネート機能	
7	各専門職の役割と機能分担	
8	各専門職の機能と連携	
9	患者、家族、地域などの非専門職との連携	
10	精神障害と精神保健福祉	
11	慢性疾患・難病への対応と保健医療福祉	
12	高齢者の主な疾患と保健医療福祉	
13	ターミナルケアと医療福祉 リハビリテーションと医療福祉	
14	地域における保健医療福祉の現状と課題	
15	授業のふり返り(30分) 事例の活用に関する試験(60分)」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてペーパー試験を行う（試験時間：1時間）。 コミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

NPO・NGO論（S）

13284

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを1-2回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO——政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②——NGOでの職員の働き方を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係——「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として——	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係——アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として——	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO——地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から——	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度——1998年のNPO法成立の背景から——	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化——NPOの介護保険制度への参入を事例として——	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較——Linuxの成功から——	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発——パブリックリソースセンターの取り組みから——	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「F」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など
②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/

その他 / Others

カウンセリング論 (S)

13296

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

急激な社会の変化にともない，多くの人びとに心身の病やストレスが蔓延している。こうした問題に対して，今こそ心のケアとしてカウンセリングが注目されている。本講義では，カウンセリングが生まれるまでの歴史的経過や心の病の捉え方を論じる。また，カウンセリングに関する基本問題を解説し，主要理論である精神分析，交流分析，認知行動療法などを具体的な事例を交えて紹介する。また，傾聴技法の習得のために，紙上応答訓練や逐語録の検討などの方法を活用する。

到達目標 / Attainment Objectives

①カウンセリングが必要とされた歴史的経緯と心の病に関する理解を深める。
②初回面接から終結に至るまでのカウンセリングにおける基本的な問題を理解する。
③カウンセリングに用いられる代表的な理論を学ぶ。
④カウンセリングに用いられる傾聴技法を習得する。
⑤以上を通じて，自己理解を深めるとともに，対人関係におけるコミュニケーション能力を高める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	カウンセリングとは何か	相談・歴史的ルーツ・カウンセラーの適正
2	心の病とは何か	心身症・臨床心理学の歴史・トラウマ
3	カウンセリングの基本問題1	クライエントとの出会い・面接の構造化・落ち着きのない子ども
4	カウンセリングの基本問題2	面接中期の諸問題・終結・対話分析
5	心の深層の理解1—精神分析	フロイト・無意識・自由連想
6	心の深層の理解2—ユング心理学	コンプレックス・言語連想検査・箱庭療法
7	人間関係の心理学1—アドラー心理学	ライフスタイル・対人関係論・勇気づけ
8	人間関係の心理学2—交流分析	構造分析・エゴグラム・ゲーム分析
9	傾聴技法の習得—クライエント中心療法	ロジャーズ・自己一致・現象学
10	反省してはいけない！—認知行動療法	学習理論・認知の歪み・論理療法
11	心の奥底にある感情に触れてみる—ゲシュタルト療法	「今，ここ」での気づき・空椅子の技法・感情体験
12	家族システムへの介入—家族療法	アダルトチルドレン・円環的因果論・水を飲み続ける少女
13	心理アセスメントの方法—心理テスト	質問紙法テスト・深層心理・フィードバック
14	日本のカウンセリング技法	森田療法・内観療法・ロールレタリング
15	カウンセリング技法の復習・テスト	傾聴技法・対話分析

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	カウンセリングにおける基本問題や主要理論に関する理解を問う。また，具体的なカウンセリング場面を想定した問題も出題する。
平常点評価	20 %	2回程度，講義に対する理解を深めるための小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通じて，興味がわいた内容に関連する図書を積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「カウンセリングの理論」	國分康孝／誠信書房／4-414-40308-1 C3011／
「カウンセリングの実際問題」	河合隼雄／誠信書房／4-414-40119-4 C3011／

「安心して絶望できる人生」　　向谷地生良 浦河べてるの家／日本放送出版協会／4-14-088199-2 C0236／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

家族関係論（S）

13299

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

家庭が安心の場であり、家族の愛情に支えられていると感じる人もいるが、家族により苦痛を味わい、葛藤を抱えている人もいる。家庭内に居場所が無かったり、孤独に苦しむ人も増えている。こうした家族危機の諸相について、育児不安、児童虐待、家庭内暴力、家庭内殺人等の問題を取りあげながら分析を加えてみたい。また、家族福祉の課題や家族援助及び子育て支援についても考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・家族の定義、概念、家族の動向に関する基本的な理解を得る。
・家族問題について幅広く理解できる。
・親子関係、夫婦関係について理解を深める。
・家族援助・子育て支援についての知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	家族とは何か
2	現代家族の諸相（1）	少子化、核家族化 、子どもの価値の変化
3	現代家族の諸相（2）	結婚観の変化、晩婚化、性別役割分業、専業主婦
4	母親一人の子育てと育児不安	子育て家族の孤立化
5	3歳児神話の影響	母性愛剥奪理論 、愛着障害
6	父親の役割、父性と母性のちがい？	育児参加、育児休業
7	児童虐待	貧困問題、親の養育体験、子育ての技術
8	子どもを虐待する家族への援助	家族応援ミーティング、親業訓練
9	思春期、青年期危機と親子関係（1）	「良い子」の苦しみ
10	思春期、青年期危機と親子関係（2）	親からの自立の葛藤
11	機能不全家族の中の子ども	機能不全家族とは何か、アダルトチルドレンと癒し
12	ドメスティック・バイオレンス	家庭内暴力、シェルター
13	カナダにおける家庭福祉と家族支援	アドボカシー、子どもの権利擁護
14	世界に学ぶ子育て支援の方向	保育保障、経済的支援、父親の育児参加
15	総括講義	これからの家族のあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子育て支援の現在	垣内国光，桜谷真理子／ミネルヴァ書房／4-623-03643-XC3336／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大日向雅美	大日向雅美／日本評論社／4-535－56156－7／
個人化する家族	目黒依子／勁草書房／4-326－65074－5／
「家族」と「幸福」の戦後史	三浦展／講談社現代新書／06－149482－1　C0236／
落合恵美子	21世紀家族へ／有斐閣選書／4-641－28091－6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

公的扶助論（S） §　公的扶助論（SG）

13247

担当者名 / Instructor　濱畑 芳和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「格差社会」の進行の中で、派遣やパート、アルバイトといった不安定な働き方を余儀なくされている非正規雇用労働者が増加しています。働いていても生活に困窮する「ワーキングプア」、近年の経済危機による「派遣切り」など、非正規雇用労働者が真っ先に失業に追いやられ、とたんに生活に困窮する人々が注目を集めています。わたしたちが普通に暮らしていても人間らしく生きていくことそのものが危機に瀕しているといっても過言ではない昨今、これらの生活困窮者に対して所得保障を行う「最後の砦」として、生活保護制度に対する期待がこれまでになく高まってきています。

日本国憲法第25条において「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」（生存権）を規定しており、国が国民に生存権を具体的に保障するための制度が生活保護制度です。この講義では、日本の生活保護制度とその実践を中心にしながら、公的扶助の歴史・国際動向等多角的な観点から、公的扶助制度に期待される役割を検討したいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。
自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉原論、社会保障論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	公的扶助を学ぶにあたって（オリエンテーション）	公的扶助、貧困、生活保護法
第2回	現代社会の中の貧困（1）	所得者の生活実態、低所得者に対する福祉ニーズ
第3回	現代社会の中の貧困（2）	貧困のメカニズム
第4回	公的扶助と関連施策	公的扶助の社会福祉における位置づけ、社会保障制度、低所得者対策
第5回	公的扶助制度の歴史	イギリス救貧法、日本の救貧制度（恤救規則・救護法）、戦後生活保護法の成立
第6回	生活保護制度のしくみ（1）	生活保護法の目的と基本原理、実施上の原則
第7回	生活保護制度のしくみ（2）	生活保護基準
第8回	生活保護制度のしくみ（3）	保護の種類・方法
第9回	生活保護制度のしくみ（4）	保護の実施と費用、被保護者の権利と義務
第10回	生活保護の政策と動向	生活保護制度の展開、生活保護層の動向
第11回	生活保護におけるソーシャルワーク実践（1）	生活保護における対人援助、福祉事務所の役割と実際
第12回	生活保護におけるソーシャルワーク実践（2）	支援・援助の技術と実際
第13回	生活保護におけるソーシャルワーク実践（3）	自立支援プログラムの意義と実際
第14回	海外の公的扶助	アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、韓国
第15回	生活保護制度の課題（講義のまとめ）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

教科書は購入し、講義で指示する該当部分を事前に読んできてください。
新聞・雑誌、テレビ等による報道にも関心を寄せてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	公的扶助に関する基礎的な知識を問う問題、事例に対して論述する問題等
平常点評価	15 %	出席等

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉を学ぶ学生はもちろんのこと、ひろく社会問題、貧困問題に関心のある学生の受講を呼びかけます。

講義中に社会福祉士国家試験対策のための時間を確保する予定はありませんが、講義を受講すれば試験に必要な知識はある程度網羅でき、自習をされる際のコツはつかめると思います。また、国家試験の動向等必要な情報提供は適宜行いたいと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『よくわかる公的扶助　低所得者支援と生活保護制度』	杉村宏・岡部卓・布川日佐史編／ミネルヴァ書房／978-4623050390／

参考書 / Reference Books

講義のなかで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義のなかで紹介します。

その他 / Others

国際福祉社会論(S) § 国際福祉社会論(I)

13339

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

各国の子育ての状況を比較することをとおして、先進諸国の福祉制度の特徴を明らかにします。

公的機関が中心となって問題解決するのが福祉国家であるとするならば、家族、企業、公的機関、NPO 等が互いに協力し合いながら問題解決するのが福祉社会であると考えられます。とはいえ、国によってこの協力関係のあり方は様々です。

講義の中で、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、なぜそれらの方法が採用されたのか考えましょう。そしてそれぞれの方法ごとに、何が解決され、何が新たな問題として生じているのかを考えましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

各国でさまざまな方法で行われている福祉追求のあり方を学び、それらを体系的に理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	リスク管理
第2回目	日本の子育て	家族、性別役割分業
第3回目	スウェーデンの子育て(1)	家族、税制
第4回目	スウェーデンの子育て(2)	保育制度
第5回目	スウェーデンの子育て(3)	両親休暇制度、短時間勤務
第6回目	スウェーデンの子育て(4)	家庭内分業
第7回目	スウェーデンの家族政策を支えるもの	働き方、労働市場政策
第8-9回目	フランスとドイツの子育て	家族、働き方、家族政策
第10回目	アメリカの子育て	家族、働き方、家族政策
第11回	社会的リスクの管理方法	工業社会、脱工業社会、福祉国家
第12回目	福祉国家の基本モデルとサービス産業のジレンマ	
第13-14回目	福祉国家の三類型	自由主義レジーム、保守主義レジーム、社会民主主義レジーム
第15回	まとめ	経済と福祉と家族のつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞、雑誌、映画など様々な機会をとおして、各国の福祉のあり方はさまざまであるということを知り、その社会的背景に注意を向けてみて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本的な問題や概念について理解し、自分の言葉で論じることができているかを評価する。
平常点評価	10 %	小テストおよび出席状況によって評価する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料として使います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の内容と日常生活を関連づけて考えてみて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポスト工業経済の社会的基礎:市場・福祉国家・家族の政治経済学	G.エスピン-アンデルセン／桜井書店／4-921190-00-3／
福祉資本主義の三つの世界:比較福祉国家の理論と動態	G.エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6／

講義中に適宜、紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、紹介します。

その他 / Others

国際福祉政策論（S） § 国際福祉政策論（I）

15575

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちが通常学んでいる「社会福祉」は「国家福祉」を指している。「国際福祉」はそれに対置される概念である。すなわち、前者が「自国民」を対象としているのに対して、後者はより幅広く福祉を捕らえている。人、モノ、サービス、情報が急速にグローバル化して、国境を越えた「移民」「労働移動」、逆に、先進国の国民のなかには老後を途上国で暮らすケースも急増している。先進国の主要都市では、人口の2割以上が外国人というケースさえある。本講義では世界で何が起き、私たちはどのような福祉や社会保障を構築していくかを考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・グローバル化は、社会福祉、社会保障にいかなる影響を与えたかを理解する
・国際福祉の歴史と現状を理解する
・国際福祉政策について受講者なりの意見や考え方を持つ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2-3	グローバリゼーションと社会福祉の変容	グローバル化の具体的現象と「国家福祉」から「国際福祉」へ
4-5	先進国と発展途上国の社会福祉	日米欧と途上国の福祉
6-7	アジアの社会福祉と多様性	韓国、フィリピン等の各国福祉政策
8-9	先進国における在住外国人への福祉政策	在日コリアンへの福祉政策
10-11	日本の政府とNGOの国際福祉への関わり	ODA、日本のNGOの取り組みの歴史
12-13	国際機関の国際福祉への関わり	国連機関（ユニセフ、UNHCR等）の取り組みとその課題
14-15	国際福祉の今後の展望	日本の現在の福祉政策の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	期末レポートを課します
平常点評価	30 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバリゼーションと国際社会福祉（2002）	仲村優一ほか編／中央法規／／

学習をより深めるには、テキストを持っていることが望ましい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際保健医療政策研究（S） § 国際保健医療政策研究（I）

15475

担当者名 / Instructor　高山 一夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

健康と医療に関するグローバルな現状と課題、およびそれらへの政策対応の基礎をなす経済理論について講義する。
国際保健医療（global health）の領域は、決して医療従事者だけの分野ではなく、実務上は多様な専門性をもった人材が関わっている。また、格差や公平についてグローバルな視点から考えるうえで、基本的な視座を学ぶこともできる。
貧困、疾病、格差などに関わる国際的な諸問題について、受講生の皆さんと一緒に考える授業を展開したい。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 国際保健医療の基礎的な概念、歴史、並びに現代的な課題について説明することができる。
2. 保健医療経済学の基本的な考え方を理解し、具体的な保健医療政策を分析し評価する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

国際福祉論，国際社会論，国際社会政策論，国際ボランティア論，地域保健論，現代人とヘルスケア，などが，内容をより立体的に理解する上で有用であろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	国際保健医療政策とは（授業の概要、すすめ方）	健康、健康格差、保健医療
2	国際保健医療政策の歴史的展開	植民地主義、熱帯医学、西洋医学モデル、公衆衛生、アルマ・アタ宣言、ミレニアム目標
3	国際保健医療の現代的課題	グローバル・ヘルス、健康格差、開発、エンパワーメント、WHO
4	保健医療における格差と公平	格差、公平、平等、保健指標、南北問題
5	プライマリ・ヘルスケア	アルマ・アタ宣言、プライマリ・ヘルスケア（PHC）、人間開発、人間の安全保障
6	必須医薬品	必須医薬品、医薬品政策、ジェネリック、多国籍医薬品企業、人体実験
7	国際機関とNGO	国連、WHO、UNICEF、世界銀行、UNDP、NGO
8	中間討議－国際的な母子保健格差の事例	リプロダクティブ・ヘルス、小児保健、HIV/AIDS
9	健康と保健医療サービスの需要	選好、無差別曲線、所得制約、需要、弾力性
10	保健医療サービスの供給	生産可能フロンティア、等量曲線、費用関数、供給関数
11	市場とその失敗	均衡、完全競争、余剰分析、市場の失敗、供給者誘発需要
12	保健医療システム	選択肢、財源、割当、支払方式、インセンティブ
13	保健システムの多様性と制度改革	保健医療支出、健康水準、満足度、自己負担、マネジドケア、契約
14	経済評価と政策選択	経済評価、時間選好、費用、便益、政策選択、経済評価の濫用
15	総括討議－日本版疾病管理（DMP）の事例	疾病管理、メタボリック・シンドローム、高齢者医療確保法、健康の自己責任

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

1. 本授業は国際インスティテュート学生を対象として設計されており、国際的な医療の動向に関心のある学習意欲の高い学生を歓迎する。
2. 重要文献を授業中に指示するので、自分で読んで理解を深めること。
3. 学習の理解を深めるのに、きちんと復習すること（とくに後半の経済理論に関する部分）。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	到達目標に照らして評価する。持ち込み不可。
平常点評価	50 %	授業中の受講態度（討論への参加、ミニレポートの提出等）に照らして評価する。

評価は定期試験と受講態度を総合的に勘案して行います。出席はとりませんが、きちんと出席をして授業内容を確実に理解し、かつ積極的に討論にも参加することが、成績評価の前提となります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、基本的に教員のプレゼンテーションを行い、後半では受講生の討議を行います。また、8回目と15回目に総合的な討論の時間を設けます。予備知識は不要ですが、講義の内容はしっかり理解するよう務めてください。なお、原則として欠席した場合の資料は後日配布しないので、各自で入手するよう努めて下さい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際保健医療学第2版	日本国際保健医療学会／杏林書院／978-4-764405271／国際医療保健学の標準テキスト
国際的視点から学ぶ医療経済学入門	B.マックペイク, L.クマラナヤケ, C.ノルマンド著 ／東京大学出版会／978-4130421195／保健医療経済学の標準テキスト

上記2つは教科書ではないですが、講義内容に密接に関わるテキストとして、とくに提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
世界の医療制度改革	OECD編／明石書店／978-4750320403／比較保健医療政策の専門書
いのち・開発・NGO	D.ワーナー、D.サンダース著／新評論／978-4794804228 ／国際医療保健学の入門テキスト
医療制度改革の国際比較（講座 医療経済・政策学 第6巻）	田中滋・二木立編 ／勁草書房／978-4326748365 ／比較保健医療政策の専門書

詳しい参照文献は別途指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際的には，WHO,UNAIDS，UNDP,EU，世界銀行，OECDなどの国際機関，各種の研究機関，NGOなど多数あります。国内では，外務省，JICA，関係学会など，これも多数あります。
これらの詳細については，授業で紹介します。

その他 / Others

国際NPO・NGO論（S） § 国際ボランティア論（S）

15609

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデイトな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
・国際協力NGOにおいてなぜマネジメントが重要になり「ビジネス化」が言われるようになったかを理解する
・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当：秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2～3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
4～5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6～7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9～10	NGOの新たな戦略　――マイクロクレジット――	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略　――フェアトレード――	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①―政府とのパートナーシップをめぐって―	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②―国連とのパートナーシップをめぐって――	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③――グローバリゼーションによる社会構造の変化――	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するのですから、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「F」評価となる可能性があるので、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など　②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO――市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編(1998)／明石書店／／

への取り組み――

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

児童・青年心理学（S） § 児童青年の心理（S） § 児童青年の心理（SG） § 児童・青年心理学（S）

15466

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では，児童期および青年期における発達的特徴について講述するとともに，そうした発達的特徴を生み出す諸要因について論じる。大まかには，認知発達的側面と対人関係的・感情的側面の両面から，発達的特徴について考察するとともに，統合的な観点としての人格発達についても触れる。児童期における発達にかかわっては，特に学校教育との関係ならびに社会的関係に焦点を当てる。また，青年期における発達にかかわっては，自立と依存という二つのモメントに揺れる心性に焦点を当てるとともに，特に現代的な青年心理の特徴についても考察を行いたい。あわせて，発達障害に触れるとともに，児童期・青年期における発達上の諸困難に関しても論じることとする。

到達目標 / Attainment Objectives

①児童期・青年期の生活や発達的特徴に関心を深めるとともに，それらを捉える視点を獲得すること。
②児童期ならびに青年期を中心とする心理発達上の諸特徴についての資料の読み取りや分析に習熟すること。
③児童期・青年期の発達に影響する諸条件についても基本的な知識を得るとともに，発達を捉えるための理論について知ること。
④これら3点を基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学 S

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の概要と進め方について」及び「児童期・青年期とは何か：発達の時期区分と生涯発達上の位置づけ」	生涯発達，発達段階，歴史の中の児童・青年
第2回	幼児期から児童期への移行	リテラシー，幼児教育，学校教育，環境移行
第3回	児童期前期の発達的特徴	学校適応，具体的操作期
第4回	児童期後期の発達的特徴	集団生活，ギャング・エイジ
第5回	思春期とは何か	性的成熟，アドレッセント・スパート，思春期危機，ジェンダー
第6回	青年期の発達的特徴	自己理解，アイデンティティ
第7回	児童・青年における認知の発達	思考の発達，ピアジェ，9～10歳の発達の節，社会認識，形式的操作期
第8回	児童・青年における感情の発達	共感性、視点取得、自尊感情、怒りと感情制御
第9回	家族の中の児童・青年	家族関係，親の機能，依存と自立
第10回	学校の中の児童・青年	授業，学力，学校知，進路選択
第11回	就職と労働	職業選択，キャリア・発達，日本社会の産業構造
第12回	青年期と非行	薬物乱用，性非行，精神疾患
第13回	不登校と引きこもり	不登校，引きこもり，精神疾患，社会的不適応
第14回	現代の児童・青年の生活と文化	依存、自立、個性、生活時間、生活空間、文化
第15回	児童・青年を理解する方法	行動観察，質問紙，面接，状況の理解，関係の中での理解，権利主体

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業において学んだ知識の獲得状況を評価するとともに、そうした知識を踏まえて児童期・青年期の問題について考察する能力を評価する。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

WebCTに、授業用レジュメや資料を掲載するので、参考にして欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学生の生活とこころの発達	心理科学研究会／福村出版／978-4-571-23045-5／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新 かたりあう青年心理学	心理科学研究会（編）／青木書店／978-4250990090／問題意識を広げるために

児童心理学試論	心理科学研究会「児童心理学試論」編集委員会／三和書房／978-4783300298 ／問題意識を広げるために

上記以外にも，各授業時に参考となる書籍等については紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

児童福祉論（S） § 児童福祉論（SG）

15464

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。そこで、子どもの権利について学んだ上で、児童福祉の展開に関して学び、中でも特に児童虐待や非行など、援助が困難な領域の基本を学ぶ場とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基本を学ぶものである。児童虐待防止法の第1条にあるように、子どもの命とその人生、そして次世代までを視野にいれた援助を学ぶ科目である。本来通年でも不足するボリュームを半期で学ぶため、相当厳しい内容となり、例年相当数がFとなる。教養レベルではないのでこころして受講されたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の系譜	
2	子どもの権利の系譜	
3	子どもの権利条約	
4	日本の子どもの課題	
5	子ども家庭福祉の施策	
6	子ども家庭福祉の実施体制	
7	分野別の課題（子育て支援・保育）	
8	分野別の課題（健全育成）	
9	分野別の課題（自立支援）	
10	分野別の課題（児童虐待）	
11	分野別の課題（非行）	
12	子ども家庭福祉の専門職	
13	子ども家庭ソーシャルワーク	
14	子ども家庭福祉の課題	
15	子ども家庭福祉の今後	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験として実施する。
レポート試験	0 %	講義中に指示し、回収日を指定するので、特に気をつけておくこと。
平常点評価	30 %	コミュニケーションカードを求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉発達史から、具体の援助技術方法論まで言及するので、そのような領域の基本書を一度目を通しておくことをすすめる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子ども家庭福祉論	高橋重宏・才村純編著／建帛社／4-7679-3304-8／必ず必要である。

福祉六法など、最新の児童福祉法、児童虐待防止法、少年法、などの掲載された六法が必須である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの権利と社会的子育て	許斐・望月・野田・桐野／信山社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/index.html

（厚労省子ども子育て支援）

その他 / Others

司法福祉論（S）

15513

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。
従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族への介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになっている。
本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。
留意点として、司法福祉は法学的知識や心理学的知識が求められるものの、あくまで福祉分野の科目であることを認識して受講されたい

到達目標 / Attainment Objectives

司法福祉の分野を理解することと同時に、福祉課題解決のために司法が関与する余地の意義について学習する。非行・虐待・財産保全などに関して、司法活用の余地がある福祉課題であるという側面と、各事例がもつ福祉的側面を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	司法福祉の概念と定義	
2	司法福祉の発見と発展	
3	司法手続の概要とシステム	
4	司法に関わる福祉課題（夫婦）	
5	司法に関わる福祉課題（親子）	
6	司法に関わる福祉課題（虐待）	
7	司法に関わる福祉課題（地域福祉権利擁護事業と成年後見）	
8	少年保護制度と少年法	
9	少年法と児童福祉法	
10	非行へのまなざし	
11	非行を見分けること	
12	非行を施設で克服すること	
13	非行を在宅で克服すること	
14	被害者を支えること	
15	司法福祉の今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レポート課題としても取り上げる予定であるので、07年中の司法福祉に関する社会的事象（事件や制度制定など・特に少年法や児童虐待に関連するものなど）に関心を向けてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	講義中に要求する課題と小レポート

原則毎回コミュニケーションカードの記入を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講期間中は、社会で生じる司法福祉上の課題に関心を持って、収集につとめてください

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる司法福祉	村尾・廣井／ミネルヴァ書房／4-623-04000-3／

少年法・児童福祉法・児童虐待防止法・民法などいくつかの法令を参照するので、できれば小六法などを準備すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
犯罪白書	法務省／／／

司法統計年報	最高裁／／／
家庭裁判月報	最高裁家庭局／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

障害者とコミュニケーション（S） § 障害者とコミュニケーション（SG）

15553

担当者名 / Instructor　坂井田 美代子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私達はコミュニケーションを通して、人間関係を築き・広げ・豊かに創りだしている。また、コミュニケーションをとることで、さまざまな刺激を受け、考え、判断し人として成長し,社会参加を図っている。音声によるコミュニケーションが中心の社会において聴覚障害者は情報の伝達から阻害され、情報の共有を阻まれてしまううえに、聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニ ケーション手段等の相違からコミュニケーションの壁をつくられやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けている。コミュニケーション保障や情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般の根源的な課題として表出している。

本講義では聴覚障害やコミュニケーションの基礎的な理解を基に、社会生活全般における聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態・課題を明らかにしつつ、情報保障、コミュニケーション保障の現状やあり方を中心に授業を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

:聴覚障害やコミュニケーションの役割について理解し説明することができる。
:コミュニケーション手段や使用方法を理解し、聴覚障害者とコミュニケーションをとる姿勢がもてる。
:聴覚障害者を取り巻く社会環境やコミュニケーション環境について述べることができる。
:バリアーフリー調査を通して共生の視点で地域社会のコミュニケーション課題を整理することができる。
:聴覚障害者のコミュニケーション保障や情報保障について提言ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入／聴覚障害のコミュニケーション環境の概要	授業の目標／進め方／成績評価方法等／新聞記事に見る聴覚障害者の情報保障の実態
第2回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（1）：コミュニケーションの役割	コミュニケーション機能、コミュニケーションサイクル、コミュニケーション障害
第3回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（2）：聴覚障害の基礎的理解	耳の役割、聞こえの仕組み、障害の部位、障害の原因、障害の特徴、聴力レベル
第4回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（3）：聴覚障害者のコミュニケーション手段	コミュニケーション成立の要件、コミュニケーション手段の決定要因、ことばの役割と発達、ろう者・中途失聴難聴者・盲ろう者のコミュニケーション手段と方法、手話、補聴器、触手話等
第5回	聴覚障害者の情報保障（1）聴覚障害者の体験から学ぶ	障害の受容、生活体験、大学でのコミュニケーション保障と情報保障、職場でのコミュニケーション保障と情報保障、ノートテーク、手話通訳等
第6回	聴覚障害者の情報保障（2）手話の成立と発展そして創造	手話発展の歴史、聴覚障害者の暮らしと手話、音声言語と手話、手話の特徴、新しい手話の創造
第7回	聴覚障害者の情報保障（3）手話通訳制度	手話通訳保障の歴史、手話通訳の役割、手話通訳の養成、手話通訳制度
第8回	聴覚障害者の情報保障（3）情報から阻害された聴覚障害者の実態について学ぶ。「ドン（原爆）が聞こえなかった」・「阪神大震災」ビデオから学ぶ	家族・近隣・友人など私的なコミュニケーションの状況、行政等の公的な情報保障の在り方、コミュニケーションから閉ざされた実態、人生に及ぼす影響、災害時における情報保障
第9回	聴覚障害者とバリアフリー（1）聴覚障害者にとってのバリアフリー	バリア・バリアフリーの概念、物理的な障壁、文化・情報面での障壁、意識上の障壁、制度的な障壁、経済的な障壁、聴覚障害者の情報保障
第10回	聴覚障害者とバリアフリー（2）「私の生活圏における聴覚障害者のバリアフリーの実態」の調査と発表	音声情報、視覚情報、ユニバーサルデザイン、社会の聴覚障害者に対する意識、人的資源 共生の視点、個人や地域での取組、必要な制度
第11回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう運動の歴史ー求め続けた情報保障ー	ろう集団の形成の時代、組織の誕生仲間作りの時代、権利運動が生まれた1960年代、手話の市民権確立の時代、社会連帯の運動、更なる運動へと広がる1990年代、ろう運動の展望
第12回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）日常の暮らし、参政権、運転免許	コミュニケーション支援事業、日常生活用具、子育ての工夫、手話サークル、公職選挙法、政見放送、運転免許裁判、道路交通法88条と相対的欠格事由
第13回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう教育	世界のろう教育、日本のろう教育の歴史、現在のろう教育の状況と課題、教育手段の変遷、高等教育機関における聴覚障害者学生支援

第14回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（2）聴覚障害者と労働	障害者雇用に関する労働施策、就労支援、聴覚障害者の雇用及び就労状況、職場でのコミュニケーション課題、障害者が求める労働継続のための要望
第15回	聴覚障害者のコミュニケーション保障の課題（4）：聴覚障害者のコミュニケーション環境の整備	聴覚障害者福祉施策、聴覚障害関連制度の課題、障害者の権利条約、人的社会資源の充実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義終了時に下記のような復習課題、予習課題を提示する。
:自分はどのようなコミュニケーションをしているのか、自分にとってコミュニケーションはどんな役割を果　たしているのかを考察する。
:聴覚障害者の体験記録などを読む。
:テレビ等の公的情報保障の現状について意識し視聴する。
:公表されている資料に目を通す（障害者の権利条約）等

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったキーワードから出題し、到達目標を達成できているかどうかを検証する、記述試験を実施する。
平常点評価	40 %	毎回の授業終了時に、その授業内容に関してのコメント（コミュニケーションレポート）をもとめる。 受講態度のすぐれた者への加点はありうる。 またこのコメントは出席の確認にも使用する。 中間レポート（バリアーフリー調査レポート）の提出を求める。

定期試験はノートの持ち込み可能とする、毎回の講義記録を整理しておくことを望む。
中間レポートの提出は12月頃の予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ビデオ教材、ゲスト講師による聴覚障害者当事者の体験、自分の生活圏におけるバリアフリー調査を通して、コミュニケーションの意味や役割、社会の現状等具体的な課題として実感的に学ぶことを望む。下記にふれているが手に入らない参考書が多いこともあるので、興味関心のあるキーワードについては遠慮なく積極的な質問を望む。

教科書 / Textbooks

毎回の授業で詳細レジメ、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
聴覚・言語障害者とコミュニケーション	共著／一橋出版／978－4－8348－0349－5／聴覚障害・コミュニケーションの基礎的理解を深める
聴覚障害児・者支援の基本と実戦	奥野栄子／中央法規／978－4－8058－4794－7／コミュニケーション環境の制度的の理解を深める
手話通訳問題研究	共著／全国手話通訳問題研究会／／手話通訳や通手話訳制度等の全国情報の提供
新しい聴覚障害者像を求めて	共著@／（財）全日本ろうあ連盟／4－915675－39－4／ろう運動や聴覚障害者のコミュニケーション環境の理解を深めるため

聴覚関係の書物は少なく、聴覚や手話に関わる団体等が、さまざまな調査や研究をし報告書等出されているものの、一般書店や図書館などに置かれておらず、なかなか目に触れることや手にすることが困難な実態にある。各授業のキーワードや関する詳細資料は配布するが、授業の進行に合わせ参考図書、報告書等紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

jdf.or.jp 当事者団体（全日本ろうあ連盟）の考え方、現在の聴覚障害者を取り巻く課題についての運動状況、研究状況などの参考。他キーワードに関する理解を深めるために授業時に紹介する。

その他 / Others

障害者とスポーツ（S）

15484

担当者名 / Instructor　水谷 裕

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」

障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害のある人々のスポーツ活動」等に関するビデオ画像を通して、障害のある人々のスポーツ活動の実際を知り、社会参加の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育んで欲しいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

＊障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツをとおして社会のあり方を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入、小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人とｽﾎﾟｰﾂに関する知識、体験等
第2回	小レポートについて、講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人数･傾向,戦後の歴史等
第3回	講義「障害について」、ﾋﾞﾃﾞｵ	原因･症状等
第4回	講義「障害を考える」、ﾋﾞﾃﾞｵ	意味･とらえ方等
第5回	講義「障害の受傷時期による相違」、小レポート「水谷を初めて見た時どう思ったか」、ﾋﾞﾃﾞｵ	葛藤･受容･心理等
第6回	講義「障害のある人との関わるための留意点」、ﾋﾞﾃﾞｵ	言葉づかい･態度･考え方等
第7回	講義「障害のある人とスポーツ」、ﾋﾞﾃﾞｵ	ｽﾎﾟｰﾂ観･残存能力･訓練との相違等
第8回	講義「障害のある人に何故スポーツ？」、ﾋﾞﾃﾞｵ	運動は動物存在の基礎条件等
第9回	講義「障害者スポーツの歴史」、ﾋﾞﾃﾞｵ	時代的背景等
第10回	講義「障害者スポーツの組織」、ﾋﾞﾃﾞｵ	施設･団体等
第11回	講義「障害のある人のスポーツ権」、ﾋﾞﾃﾞｵ	背景にある<みんなのｽﾎﾟｰﾂ運動>等
第12回	講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ﾋﾞﾃﾞｵ	身体的･精神的･社会的等
第13回	講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ﾋﾞﾃﾞｵ	阻害要因･視点等
第14回	講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人間的平等･発達保障等,指導者･環境･現状把握等
第15回	確認ﾃｽﾄ(60分)とまとめ(30分)等	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞なのでの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアひいては、社会の理解度を認識する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	特に言葉の言い回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題された課題について論点が押さえられているかどうかを問います。 授業回数15回中、最低3分の1以上の出席を必要とし、満たない場合は不可とします。

＊論述1問とします。
＊確認テストを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講について
＊授業は前の席にて受講すること。
＊出席カード配布後の事由なき遅刻は認めない。
＊講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
＊話の中にある意図を理解すること。

研究について
＊障害のある人々の基礎的な知識を得た上で、スポーツ活動の現状やあり方を広い視野から見ること。

教科書 / Textbooks

＊特に決まったテキストは使用しません。

＊適時、コピー等を配付します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「障害者スポーツ」	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編集／医学書院／／障害のある人々のスポーツに関する紹介本です。
「障害者とスポーツ」	芝田徳造／文理閣／／本学名誉教授の著書で、京都での実践を通して書かれた本です。
「身体障害者のスポーツ指導の手引き」	(財)日本障害者スポーツ協会編集／株式会社ぎょうせい／／身体に障害のある人に対するスポーツ指導に関する本です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

その他 / Others

＊障害のある人のスポーツに興味を持ち、スポーツ活動を通して障害のある人の社会参加活動の理解ある良　きパートナーを目指す学生なら誰でも歓迎します。
＊講師は、脳性マヒ等による四肢機能障害で、車いすを常用しています。
＊京都市障害者スポーツセンターに勤務しています。
＊授業後、気軽に話しかけて来てほしいと思っています。

障害者福祉論（S） § 障害者福祉論（SG）

15468

担当者名 / Instructor　趙 没名

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、障害者福祉の基本理念をはじめ、障害者福祉の歴史、障害者の実態、障害者福祉法制の体系と内容、それと障害者福祉とリンクする障害児教育および余暇活動、障害者の就労の6つの分野で構成される。

到達目標 / Attainment Objectives

21世紀の初頭に、日本の障害者福祉制度は措置から契約へと抜本的な転換を成し遂げた。この転換は、「同一年齢の他の国民と同等な生活を障害者に権利として保障する」というノーマライゼーションの原理を尊重したものであろうか。この授業では、障害者福祉に関する基本理念の発生の背景と根源を理解し、そして障害者福祉の歴史と現状を把握し、今日の争点となる障害者福祉の問題点と課題を認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	障害者福祉論を学ぶにあたって	人権、モチベーション、専門職
2	障害者福祉の基本理念（1）	人権、リハビリテーション、完全参加と平等、ノーマライゼーション
3	障害者福祉の基本理念（2）	発達保障
4	障害者の概念	国際的な定義、日本国内での定義
5	障害者福祉の歴史（1）	国際障害者福祉の沿革
6	障害者福祉の歴史（2）	日本における障害者福祉の沿革
7	障害者の実態（1）	在宅の障害者の統計とドキュメンタリー
8	障害者の実態（2）	入所施設内の障害者の統計とドキュメンタリー
9	中間レポートの作成	
10	障害者福祉サービスの体系と内容（1）	サービス体系の仕組み
11	障害者福祉サービスの体系と内容（2）	自立支援法の成立背景と仕組み
12	障害者福祉サービスの体系と内容（3）	自立支援法への評価、ロールプレー、ドキュメンタリー
13	障害者福祉の周辺（1）	障害児保育・療育、特別支援教育、余暇活動
14	障害者福祉の周辺（2）	障害者の雇用と就労
15	ゲストスピーカーの証言	私と障害、私と障害者

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	基礎知識、論述
平常点評価	50 %	3回の月例小テスト

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

障害者福祉に関する日々の現実を複眼的に見る力を養う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法と実践の創造	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部／／
障害者福祉論	手塚直樹等／ミネルヴァ書房／／

教科書を二冊とも備える必要がある。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法の基本と活用	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部／／
福祉の思想	糸賀一雄／日本放送出版協会／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

心理検査法（S）

13338

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、テキストを用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、その意義、心理検査における数量データのとらえ方について具体的に学習する。また、心理検査の実際について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の中から代表的なものを取り上げ、それぞれの検査の意味と具体的手法について学び、教育・福祉分野においてどのように活用されるべきかを考察する力を養う

到達目標 / Attainment Objectives

・心理検査の歴史、基礎となる考え方について正しく理解できる
・心理検査の数量的データの表す内容を考察できる
・心理検査の意義・特性を踏まえ、社会における活用法について考察することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、臨床心理学、発達心理学：できるかぎり、事前に履修しておいて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	心理検査の種類と歴史	
第2～5回	心理検査におけるデータ	標準偏差　回帰分析　相関係数　ルート機能のついた電卓
第6回	心理検査の実際Ⅰ－知能検査法①	知能検査の開発と発展
第7回	心理検査の実際Ⅰ－知能検査法②	ウェクスラー式知能検査
第8回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法①	新版K式発達検査法
第9回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法②	発達診断
第10回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法③	発達相談
第11回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法①	作業検査法
第12回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法②	質問紙法
第13回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法③	投影法
第14回	心理検査の実際Ⅲ-性格検査法④	テストバッテリー
第15回	まとめ－心理検査の活用と心理検査者の倫理	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	
平常点評価	45 %	毎回のコメントカードの提出状況および記述内容に見られる理解度や積極性。講義時間内に中間的に実施する小レポート。最低3回以上の出席を有効評価の基礎条件とする

レポート試験として実施する。日常点評価は小レポートにおいて講義の理解度を問うものと、毎回のコメントカードの提出状況および記述内容によって行う。出席を重視するので、出席が規定回数に満たない場合はレポートを受理しない。出席回数規定については第1回の講義で説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

心理学についての基礎的な知識を得ていることが望ましい。具体例を用いて参加型の講義を予定しているので、出席を重視します。主体的積極的に参加してほしい。データ処理の基礎について学習するので、平方根（ルート）機能のついた電卓を用意すること。いわゆる『心理ゲーム』のようなものは扱わないのでそのつもりで受講してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査法入門－正確な診断と評価のために－	渡部　洋／福村出版／／講義内で使用するため必携

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査の実際	水田善次郎　編／ナカニシヤ出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

心理臨床論（S）

15550

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

複雑多様化する現代社会を背景に，学校では不登校，いじめ，非行や神経症などの問題への対応に教師は苦慮し，青年期においてはひきこもり，リストカット，フリーターやネットカフェ難民といった問題が深刻化している。本講義では，児童期から青年期に至る過程で起きるさまざまな問題を具体的事実から捉え，その背景や要因を分析・検討する。講義では，事例研究やビデオ視聴をはじめ，実際にクライエントが書いた文章も取り上げ，問題をかかえる人の内面理解を深めつつ，支援のあり方を解説していく。

到達目標 / Attainment Objectives

①不登校，ひきこもり，非行などの問題を学ぶなかで，自己の価値観を問い直す。
②思春期の心の病理を通して，青年期の心の病を理解する。
③「人の心を受けとめる」とはどういうことかを体験的に考える。
④以上を通じて，今の自分の生き方とこれからの人間関係を考える契機とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	思春期の心の病理	抑圧・我慢・「いい子」の病理
2	不登校・ひきこもりの心理臨床1	学校恐怖症・学習理論・長期的支援
3	不登校・ひきこもりの心理臨床2	「引き」こもり・家族支援・家庭内暴力
4	非行・犯罪の心理臨床1	「強い子」・非行少年の理解・ロールレタリング
5	非行・犯罪の心理臨床2	少年犯罪の推移・薬物乱用・本音の吐き出し
6	非行・犯罪の心理臨床3	加害者意識・裁判員制度・矯正教育
7	いじめの心理臨床1	スティグマ・4層構造・いじめ自殺
8	いじめの心理臨床2	いじめる子の心理・いじめ指導・不満感情の表出
9	思春期の心の病理1―摂食障害	青年期女子の心理・母子関係・寂しさとストレス
10	思春期の心の病理2―青年期境界例	尾崎豊・幼児的思考・見捨てられ不安
11	思春期の心の病理3―自傷行為	リストカット・行動化・限界設定
12	児童虐待とトラウマ	グリム童話・虐待の5つの形態・心のケア
13	発達障害の心理臨床	LD（学習障害）・発達アセスメント・遊戯療法
14	子どもの心の受けとめ方	ひきこもり・宮本亜門・子どもの願い
15	心のメッセージの読み取り・テスト	わかりにくい行動・クライエントからの質問

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	心の問題や社会病理についての理解を試す問題を出題する。
平常点評価	20 %	2回程度，講義に対する理解を深めるための小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通して，興味がわいた内容に関連する図書を自ら積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「もういちど親子になりたい」	芹沢俊介／主婦の友社／978-4-07-257271-9／
「思春期ポストモダン」	斉藤環／幻冬舎／978-4-344-98059-4／
「少年をいかに罰するか」	宮崎哲弥・藤井誠二／講談社／978-4-06-281143-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

福祉社会学（S） §　生活福祉論（S）

15611

担当者名 / Instructor　前田 信彦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では次の3点を軸に講義をする。
①福祉国家の考え方について、最近の欧州の事例を踏まえながらレクチャーする。
特に、家族変動にともなう福祉の担い手の変容と国家の役割、およびWelfare to workにみられる「働き方」の変容と福祉国家の役割、について概説する。
②世界共通の課題となっている「高齢化=ageing」と福祉についてレクチャーする。特に社会学の「ソーシャル・ネットワーク研究」「ソーシャル・サポート研究」をベースに、高齢社会における社会的支援のあり方について考察する。
③「リスク社会」にあって、人と人との絆=ヒューマンセーフティ(Human safety net)をどのように構築するかについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

できるだけ国際比較の視点を取り入れて、比較福祉の視点から、家族、地域生活、労働、福祉国家の変容を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学の基本的な講義科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	講義の進め方 成績評価などの説明
第2回目	福祉国家とは何か① 家族変動　福祉国家	
第3回目	福祉国家とは何か② 欧州の福祉国家 Welfare to work	
第4回目	家族の福祉機能と福祉国家 家族の機能　福祉国家の役割	
第5回目	家族と親族ネットワークの役割 家族・親族ネットワーク　拡大家族　サポート	
第6回目	高齢化とソーシャル・ネットワーク 高齢化　ソーシャル・ネットワーク　パーソナル・コミュニティ	
第7回目	高齢化とコミュニティ 高齢社会　地域　ボランティア活動	
第8回目	各論①　テーマ　若者と成人期への移行 若者　成人期への移行	
第9回目	各論②　テーマ　労働市場と社会的ネットワーク 転職　労働市場	
第10回目	各論③　テーマ　高齢者のソーシャル・ネットワーク 定年への移行	
第11回目	各論④　テーマ　子育て支援とサポート 子育て支援　ワーク・ライフ・バランス	
第12回目	各論⑤　テーマ　親族ネットワークとサポート 親族組織　NPO　社会的支援	
第13回目	各論⑥　テーマ　高齢社会におけるヒューマンセーフティ① セーフコミュニティ	
第14回目	各論⑦　高齢社会におけるヒューマンセーフティ② Age friendly cities	
第15回目	講義のまとめ 福祉社会の構築	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席を重視する 遅刻および途中退出は出席とみなさない

講義期間に何度か小テストを実施する。
講義中にあげた参考図書やビデオなどの感想・考察のレポートを課す。レポートを提出しなかったものは定期試験は受験不可とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席を重視し、また最終試験も講義内容に沿ったテーマでの論文試験であり、かなり厳しい条件となる。
出席しないで単位だけ取りたい学生には勧めない。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事と家庭生活の調和 : 日本・オランダ・アメリカの国際比較	前田信彦／日本労働研究機構／／
アクティブ・エイジングの社会学－高齢者・仕事・ネットワーク	前田信彦／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

多文化共生論（S） § 多文化共生論（I）

15496

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）多文化性について理解する。
2）自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する
　方法を理解する。
3）多文化共生問題の本質を理解する。
4）問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5）具体的に提案し活動していく力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入：映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出（以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する）
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？ Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？ Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験（60点）
平常点評価	40 %	レポート4回（40点） ＋その他の感想レポートを総合評価する

ただし、受講生数によっては、最終講義試験をやめて、レポート4回と最終レポートによる総合評価へと変更する可能性もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。な ぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

地域福祉論（S） §　地域福祉論（SG）

15465

担当者名 / Instructor　津止 正敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

1.高齢・児童・障害等各分野別福祉との比較検討による地域福祉理解を図ると共に、地域福祉の固有の構造と領域、方法,歴史について理解を深める。
2.福祉を通して地域社会への興味・関心を深める。
※原則として、変更されることはありません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

児童、老人、障害の各分野別福祉論並びに社会福祉概論、社会福祉援助技術論等は事前に履修しておくことが望ましい。この講義は、具体的な地域福祉と地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義となる予定である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション－地域福祉論スケッチ－	歴史　社会問題　地域社会　社会福祉
2	地域福祉とコミュニティ －論文「地域福祉とネットワーク」－	コミュニティ　少子高齢化　ネットワーク
3	新しい地域福祉プログラム－論文「福祉とコミュニティ」－	コミュニティ　少子高齢化　ご近所
4	新しい地域福祉活動プログラム 2－ネオ町内会－	町内会･自治会　ソーシャルキャピタル
5	地域福祉と当事者支援①－子育て支援①－	子育て支援　子育てサークル　当事者
6	地域福祉と当事者支援②－子育て支援②－	子育て支援　子育てサークル　当事者
7	地域福祉と当事者支援③－障害児と地域福祉①－	障害児　放課後保障　ボランティア
8	地域福祉と当事者支援④－障害児と地域福祉②－	障害児　放課後保障　ボランティア
9	地域福祉と当事者支援⑤－男性介護者支援①－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
10	地域福祉と当事者支援⑥－男性介護者支援②－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
11	地域福祉の方法①－コミュニティワーク－	ソーシャルワーク　コミュニティワーク　間接援助技術
12	地域福祉の方法②－地域福祉(活動)計画－	地域福祉(活動)計画　市民参画　ワークショップ
13	地域福祉の方法③－地域福祉の機関と担い手－	社会福祉協議会　民生委員　社会福祉施設　NPO
14	地域福祉の方法④－ボランティアリズムと地域福祉－	ボランティアセンター　ボランティアコーディネーター　NPO
15	地域福祉とは何か－地域福祉の歴史的発展を踏まえて－	地域福祉　分野別福祉　住民主体　関係性　当事者性　社会運動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

地域福祉活動やボランティア活動についての体験があれば、講義内容の理解が容易であると思われる。実際に活動に参加・体験してみたり、友人知人の体験談や活動実施機関・団体等のレポートなどにも目を通しておくこととを薦める。ゲストスピーカーも予定し、毎回簡単な感想／意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	40 %	講義内容に即した地域福祉理解について評価する
レポート試験	30 %	2～3回の中間試験又はレポートを課す
平常点評価	30 %	講義時のコミュニケーションペーパーなどを活用する

本講義は、2回生以上の配当科目ではあるが、各分野別福祉論(児童、障害、老人、など)や援助技術論を受講後の方が望ましいし、その方が講義理解を容易にすると思われる。各分野別福祉との比較検討の中で地域福祉固有の構造や領域、方法について具体的に講義していく

予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書としては特に指定はないが、講義中にその都度適宜紹介する。また、社会福祉士の国家試験の受験を予定しているものは、本講義では特にその受験対策は行なわないために、該当テキストによって自学自習すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
男性介護者白書	津止正敏／かもがわ出版／978-4-0117-5／
ボランティアの臨床社会学	津止正敏他／クリエイツかもがわ／／3月発行予定

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

全国社会福祉協議会　http://www.shakyo.or.jp/
厚生労働省　http://www-bm.mhlw.go.jp/index.html
内閣府　http://www.cao.go.jp/

その他 / Others

地域保健論（S）

15474

担当者名 / Instructor　白石 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の地域保健活動は、国から地域及びその構成員個人へと主体がシフトしている。その流れを踏まえつつ、地域保健に関する基本概念や行政の仕組み、行政や諸関連組織の活動などについてみていく。

さらに、疾病構造、生活習慣などを踏まえたうえで、地域や個人を対象とした健康課題やその対策について、保健や医療分野にとどまらず福祉をはじめ多様な視点から多面的・多層的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目を終了した学生は、次のことができるよう期待されている。

1. 地域（市町村）レベルでの保健康課題、取組の理念や仕組みなどに関する基礎知識を身につける。
2. 社会保障における地域保健政策の役割や課題について、身近な事例などを用いて説明できる。
3. 医療をはじめ福祉や環境など他の分野との相互関係を踏まえて議論できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが，地域社会論，地域福祉論，現代人とヘルスケア，衛生学などとあわせて受講することで理解が深まるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	ガイダンス	講座の目標（到達点）、全体の流れ、評価方法などの概要説明
2回	地域保健と健康；各種関連用語及び概念について	地域保健、健康、ヘルスプロモーション、疾病予防、健康増進、介護予防など
3回	健康の指標及び日本の健康の状況	疾病構造、死亡要因、平均寿命など保健関連の各種統計から保健課題を抽出
4－5回	保健政策の流れ（歴史）	・現在のプライマリケア、健康増進（ヘルスプロモーション）までの政策の流れ ・保健サービスが国から市町村に移行する背景
6回	地域保健（1）全体論	地域保健に関する行政制度・サービス、人的資源の概要について
7－8回	地域保健（2）各論	①健康増進対策 →近年、住民の関心が高まるとともに行政においても重点が置かれている健康増進政策の背景と制度・サービスを取り上げる ②高齢者保健、母子保健、精神保健 →国や都道府県から市町村に移譲されてきている保健領域に焦点をあて、府県の保健行政との関係のなかで地域保健を整理する
9回	地域保健と医療	地域保健と関連する医療制度・サービス及びそれらとの連携について →地域医療計画、生活習慣病対策、健康日本21、健やか親子21など
10回	地域保健と福祉	地域保健と関連する福祉制度・サービス及びそれらとの連携について →児童育成計画、障害者福祉計画、高齢者福祉計画、介護保険事業計画など
11回	地域保健推進の手法（1）	地域保健計画、地域保健医療計画、健康日本21地方計画、食育推進地域計画など地域保健にかかわる計画の意義、特徴及び課題など
12回	地域保健推進の手法（2）セーフコミュニティ①	WHOセーフコミュニティ（SC）の概要説明と地域保健の視点からみたSCの意義について
13回	地域保健推進の手法（3）セーフコミュニティ②	WHOセーフコミュニティ活動の事例（海外） →WHOセーフコミュニティの組みの状況と保健面での成果について、海外の事例から紹介（主に、保健が地域レベルで取り組まれているスウェーデンや北欧諸国や近年取り組みが活発なアジアの事例を中心に説明）
14回	地域保健推進の手法（4）セーフコミュニティ③	WHOセーフコミュニティ活動の事例（日本） →日本におけるセーフコミュニティの取り組みと地域保健における成果（高齢者保健、精神保健、職域保健・・・・）への展開を国内の事例（亀岡市、十和田市、厚木市など）

15回	まとめ	これまでの講義内容のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして実施する。 授業の理解度を確認するとともに、学んだ内容をもとに自分の身近な地域における健康課題を取り上げ対策について考察する。
平常点評価	50 %	出席を重視する。 また、小レポートやコメントシートにより関心事や理解の深さを確認する。

・授業は基本的にパワーポイントを用いて行う。
・レポートやワークシートのテーマ、課題については、基本的に授業中に連絡する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1)地域保健は、私たちだれもが日常生活で大きく関っている分野です。日々の生活のなかからも興味深く学ぶために、自分で具体的な健康課題とその取り組みを考えながら学んでいくことを勧めます。最終的にレポート作成にも関わってきますので、自分がとりくむ課題を考えつつ受講してください。

2)前半は地域保健の全体像の理解を目的としています。後半は各論として、実際に他の分野との関係や具体的な取組事例を取り上げます。後半の各論を理解するためには、前半の基礎をしっかり把握しておくことが重要です。前半後半を通して授業に出て内容を把握したうえで自ら取り組む人口と健康問題について考えて、最終的に提出するレポートを作成していくことが求められます。

3)課題については早い時期に授業でお知らせするので、学期終了時に何が求められているかを理解したうえで受講してください。

教科書 / Textbooks

・テキストは利用せず、必要な資料等は授業中で紹介します。
・いくつかの健康問題については、入手しやすい情報源を紹介します。ただし、レポート等でそれらを使う際には、引用のルールをまもって下さい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生・公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂／／／何かを調べる際に
健康づくりと社会環境	松田亮三他／法律文化社／／主に健康づくりについて
国民衛生の動向	／財団法人　厚生統計協会／／公衆衛生の動向など全体的な理解について

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

（行政）
厚生労働省(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
健康日本21　http://www.kenkounippon21.gr.jp/
（研究機関）
国立健康・栄養研究所(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
国立保健医療科学院(http://www.niph.go.jp/)
電子図書館からは、『保健医療科学』（かつての『公衆衛生研究』）が読める
http://www.niph.go.jp/toshokan/denshi-toshokan.htm
厚生労働科学研究のデータベースもある
http://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/index.htm

（ポータルサイト）
健康ネット　http://www.health-net.or.jp/　（健康に関連したNGO）
その他、多数あり。授業中に紹介する。

その他 / Others

乳幼児心理学 (S)

13300

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、胎生期から児童期までの人間発達について概説するとともに、保育や教育における問題や課題についても論じる。また、障害のある子どもの発達的特徴および保育・療育の課題についても考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

① 子どもへの関心を高め、乳幼児期の発達を捉える視点を明確にする。
② 保育園や幼稚園における子どもたちの生活について学ぶ。
③ 障害のある子どもたちの生活や発達について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「発達」の捉え方、生涯発達における乳幼児期のもつ意味	発達段階、人権としての発達、発達の3つの系、生涯発達心理学
第2回	胎生期の発達	受精、卵体期、胎芽期、胎児期、胎児の知覚世界、胎生期の発達保障
第3回	乳児期前半の発達と保育	赤ちゃんの不思議、新生児微笑、生活リズム
第4回	乳児期後半の発達と保育	8か月不安、定位行動、はいはい、喃語
第5回	1歳児の発達と保育	自我の誕生、直立二足歩行、道具の操作、音声言語、しつけ
第6回	2歳児の発達と保育	対概念、象徴機能、みたて・つもり遊び
第7回	3歳児の発達と保育	イッチョマエの3歳、ごっこ遊び、3歳児の心の揺れ
第8回	4歳児の発達と保育	～シナガラ～スル、心の理論、4歳児のプライド
第9回	5歳児の発達と保育	自我から自己へ、中間世界の成立、自己信頼感、集団あそび
第10回	障害のある子どもの発達と保育(1)	自閉症、ダウン症、発達遅滞、乳幼児健診
第11回	障害のある子どもの発達と保育(2)	肢体不自由、脳性まひ、主体性
第12回	障害のある子どもの発達と保育(3)	発達障害、学習障害(LD)、注意欠陥･多動性障害(ADHD)、アスペルガー症候群
第13回	児童期の発達と教育	小学校、ギャングエイジ、学童保育、接続問題
第14回	まとめ	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	期末試験により授業内容の理解度を問う。
平常点評価	20 %	講義中に課す授業レポートなどの成績。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
育ちあう乳幼児心理学	心理科学研究会(編)／有斐閣／4-641-07634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間コミュニケーション論 (S)

15536

担当者名 / Instructor　団 士郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。一方、得意だと思っている人は、自分のコミュニケーション作法を振り返ってみる機会がありません。上手くやれていると思っているものを、見つめ直す必要を感じないからです。その結果、若くして身についた技術のまま、二十代、三十代を過ごしてしまいます。これが要注意点であることに議論は不要でしょう。

また、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも少し、焦点を当てます。

対人コミュニケーションにおいては「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好なコミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達の手段技術)の両者がうまく備わってこそです。この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。

毎年説明しているように、教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一歩前進です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
(1)	イントロダクション　授業の進め方　第一回の実習　ミニレポート(記述・提出)	
(2)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(3)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(4)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(5)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(6)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(7)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(8)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(9)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(10)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(11)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(12)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(13)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(14)	今日の課題実習(屋外実習)　今日のフィードバック(記述・提出)	
(15)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上（10回）出席できそうにない者は登録しないでください。基本的に毎週フィードバックシートの提出を課します。遅刻してミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。2008年度は登録して出席できない四回生が目立ちました。当然単位は取れません。けじめのある受講登録をしてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の練習問題	団士郎／ホンブロックKK／／マンガです。主に家族のコミュニケーションに焦点をあてたものです。
不登校の解法ー家族のシステムとは何かー	団士郎／文春新書／／読みやすい新書です。家族システム論の視点から、親子のコミュニケーションをテーマに書いています。
家族力×相談力	団士郎／文春新書／／家族関係全般について、様々な事例を書いています。
家族の練習問題（2）	団士郎／ホンブロック／／第二巻です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

発達障害論（S）

13337

担当者名 / Instructor　荒木 穂積

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの視点から発達支援の課題と関わらせて考えていきたい。

本講義では、人間発達の過程において発達の質的転換期（例えば、「階層-段階」理論など）との関わりで発達障害をとらえていく。発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・発達障害の基礎的概念や用語を学ぶ。
・発達障害の発生・成立のメカニズムを学ぶ。
・人間発達における質的転換期と発達障害の関係について理解を深める。
・発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学、児童青年の心理、人間コミュニケーション論、障害者福祉論、心理検査法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	1. 発達障害とは（1）－基礎的用語と定義の説明－	発達とは、障害とは、発達障害とは、発達障害者とは、発達障害の定義（広義）、発達障害の定義（狭義）
第2回	発達障害とは（2）－歴史・現状－	発達障害概念の歴史的変遷、発達障害者数、発達障害者支援法
第3回	2. 人間発達と発達障害（1）－系統発生と障害（その1）：ヒトの誕生まで－	人間進化、遺伝病、遺伝子病、障害の発生と進化
第4回	人間発達と発達障害（2）－系統発生と障害（その2）：ヒトの誕生以降－	ヒトの誕生、ネアンデルタール人、共同社会、社会の進歩と障害者、知的障害と能力主義、発達障害とコミュニケーションの発達、障害と社会
第5回	3. 発達の「階層－段階」と発達障害（1）－胎生期（その1）－	卵体期、胎芽期、遺伝病、遺伝子病、染色体異常
第6回	発達の「階層－段階」と発達障害（2）－胎生期（その2）－	胎児期、脳の発達、神経の成長、先天と後天、流産と死産
第7回	発達の「階層－段階」と発達障害（3）－周生期－	未熟児、低体重児、仮死、アプガー指数、脳性マヒ
第8回	発達の「階層－段階」と発達障害（4）－乳児期前半－	原始反射、親と子の絆、運動発達、笑顔の獲得、情緒の発達、親子関係、重度重複障害
第9回	発達の「階層－段階」と発達障害（5）－乳児期後半－	移動、コミュニケーション、注意共有機構（SAM）喃語の獲得、模倣と学習、愛着の発達、対人関係障害、情緒障害
第10回	発達の「階層－段階」と発達障害（6）－幼児期（その1）－	歩行、道具の操作、話しことば獲得期、言語障害、行動障害
第11回	発達の「階層－段階」と発達障害（7）－幼児期（その2）－	早期発見、早期療育、心の理論、マインド・リーディング、自閉症スペクトラム、アスペルガー障害、「三つ組みの障害」
第12回	発達の「階層－段階」と発達障害（8）－幼児期（その3）－	遊び、模倣、学習、ふり遊び、見立て遊び、ごっこ遊び、集団活動と発達障害
第13回	発達の「階層－段階」と発達障害（9）－学童期・青年期（その1）－	書きことば獲得期、社会的自己、集団、学力と人格形成、障害の自己認識、特別支援教育
第14回	発達の「階層－段階」と発達障害（10）－学童期・青年期（その2）	二次障害、いじめ、不登校、ひきこもり、社会参加、障害の自己認識、こだわりと個性、感情コントロール、行動コントロール、行為障害（CD）
第15回	まとめ・評価	全体のまとめ・評価の説明

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・実習やフィールドでの経験があると理解しやすい。
・日頃、耳にする用語や概念を授業で正確に理解してほしい。
・発達障害への基礎知識の習得をすすめる努力をしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	配点にそって採点する。 日本語としの文章や表記が正確でない場合は減点となる。
レポート試験	40 %	事実と自分の意見・感想が区別して述べられているか。 資料や文献の読み込みがしっかりできているか。 資料や文献の紹介が中心のレポートは減点となる。
平常点評価	10 %	授業への参加度と積極性の自己評価を重視する。

コースツールを活用して提出物をもとめることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の途中でレポートの提出をもとめます。必ず提出してください。
授業テーマと関連する教材や文献を活用して知識をひろげる努力をしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達診断と障害児教育	荒木穂積・白石正久／青木書店／／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
自閉症と遊び	ヤニック・ベイヤー＆ローネ・ガメルトフ／クリエイツかもがわ／／乳幼児期の発達障害支援の基礎を学ぶ

レジュメを配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの発達と診断①～⑤	田中昌人・田中杉恵／大月書店／／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
発達障害の臨床	有馬正高・熊谷公明・栗田広／日本文化科学社／／発達障害の医学的基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム学び方ガイド−社会参加をめざした授業づくり−	レベッカ・A・モイズ／クリエイツかもがわ／／発達障害支援の基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム生き方ガイド−自己権利擁護と「障害表明」のすすめ−	スティーブン・ショア／クリエイツかもがわ／／青年・成人期の発達障害支援の基礎を学ぶ
障害医学への招待−特別支援教育・自立支援法時代の基礎知識−	杉本健郎・二木康之・福本良之／クリエイツかもがわ／／障害の医学的基礎を学ぶ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本自閉症協会：http://www.autism.or.jp/
日本ダウン症ネットワーク：http://jdsn.gr.jp/
日本知的障害者福祉連盟：http://www13.ocn.ne.jp/~jlid/
日本発達障害者ネットワーク：http://jddnet.jp/
全国障害者問題研究会：http://www.nginet.or.jp/
文部科学省: http://www.mext.go.jp/
厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

レジュメは当日配布します。授業後はコースツールにアップロードしておきますので各自ダウンロードしてください。授業の連絡事項も授業場面及びコースツールの連絡事項で指示をします。

発達保障論（S）

13451

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要：発達保障とは、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わる、人権や社会保障を根底から成り立しめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとおして、人生のそれぞれの時期にどのような人間的自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

本年度は、人間発達の阻害状況とともに、子どもや障害をもつ人たちの発達の可能性とそれを保障するための理論と実際について考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

発達保障の成り立ってきた歴史的背景、現代社会における人間発達の阻害状況、およびそれを発達の契機として築きあげてきた人間の発達を保障するための諸理論と実践についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、人格発達論、障害者福祉論、現代人権論、ライフサイクル論、発達障害論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	発達保障とは何か（1）	性格と構成要素
第2回	発達保障とは何か（2）	発達保障の系譜
第3回	子どもと発達保障（1）	胎生期及び乳児期の課題
第4回	子どもと発達保障（2）	幼児期の課題
第5回	子どもと発達保障（3）	児童期の課題
第6回	子どもからおとなへの課題と発達保障(1)	思春期の課題
第7回	子どもからおとなへの課題と発達保障(2)	青年期の課題
第8回	成人の課題と発達保障（1）	成人・中年期の課題
第9回	成人の課題と発達保障（2）	高齢期の課題
第10回	現代社会と自立（1）	現代の自立論
第11回	現代社会と自立（2）	自律への課題1
第12回	現代社会と自立（3）	自律への課題2
第13回	現代社会と自立(4)	自律への課題3
第14回	現代社会と自立(5)	自律への課題4
第15回	全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業の途中でレポートの提出をもとめる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	配点にそって採点する。日本語としの文章や表記が正確でない場合は減点となる。
レポート試験	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

参考書は講義の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

バリアフリー論（S）

13303

担当者名 / Instructor　斎藤 正一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この数年間、バリアフリーというテーマで講義をしてきました。バリアフリーという言葉は、最近いろいろなところで耳にします。バリアフリー住宅にバリアフリー施設。乗り物などにもバリアフリーが考えられています。今や障害者だけではなく、一般の健常者でも当たり前のようにバリアフリー環境に慣れ親しんでいます。しかし本当のバリアーとは一体何でしょう。またどうすれば本当の意味でのバリアフリーになるのでしょうか。私は、日々職業柄考えさせられることが多くあります。
バリアフリーには、物の障害だけではなく身体・精神・環境・施設・人・経済といったように様々なバリアーが存在します。講師は、現在も病院で実際に体の不自由な方と共に機能回復の援助を行う理学療法士です。また講師自身視覚障害(先天性弱視)を持っています。仕事では京都市南区の病院で勤務しています。これまでになかった貧困というバリアーを現場から経験しました。日々現場で感じてきた各種の問題、自分自身が体験してきたことを学生諸子にも知っていただき今後社会に出て何らかの役に立てていただければと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

1：各種のバリアフリーの要素をいろいろな角度から知る。学ぶ。
2：バリアーが影響するその実態を自分の身体で心で感じ取る
3：出来る限り実際のものを見て(ビデオなど)その見聞を広げる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に何も知らなくても良いと思いますがもし知っているなら
医学・建築・社会福祉制度

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講義	導入　バリアフリー論について　講義の概要	バリアフリー　リハビリテーション　障害受容　PT　OT　ST
第2～5講義	第一章　身体のバリアフリー　基礎医学　各疾患	筋　骨格系　神経　　脳血管障害　脊髄損傷　リウマチ　パーキンソン病　高齢者に多い骨折　廃用症候群
第6～7講義	第二章　精神のバリアフリー	認知症　高次脳機能　人の心理
第8講義	第三章　体験	本当の車椅子体験　障害者の気持ち
第9～11講義	第四章　住環境のバリアフリー	住環境　福祉用具
第12～14講義	第五章　人・制度・環境のバリアフリー	地域社会　ボランティア　社会福祉制度　行政機関　民間活力　都市環境　経済環境
第15講義	最終章　障害者の限界　バリアフリーって何だろう	パラリンピック　障害者スポーツ　人間の限界

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業で学んだことを正しく理解できているか評価します。
レポート試験	0 %	課題レポートを指示します
平常点評価	30 %	毎回の授業終了時に授業の感想や自分の考えを記載してもらいます。感想がなく名前だけの者は出席と認めません。

＊定期試験として実施
講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。
基本的に講義をまじめに聞いて頂ければ合格点は取れると思います。
ただ全講義出席していても定期試験で間違った答に点数を出すなどのことは致しません。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは配布いたしますが基本事項のテキストです。講義の中で講師がお話しする事を学生自身で
テキストの余白に記入して完全なテキストにして下さい。
質問の時など、教室の遠くで黙って挙手をしていただいてもおそらく見えないと思います。講師は先天性弱視の視覚障害を持っているためです。したがって授業中に何か質問や疑問が出たときは、大きな声を出して挙手をしながら起立などして意思表示してください。また授業最後の出席とともに出していただく感想に質問していただいてもかまいません。必ず返答希望の方は、授業終了後直接質問しに来て頂くかメールアドレスに質問していただければお答えできると思います。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

教科書 / Textbooks

基本テキストは、毎回講義のときに配布いたします。

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

http://yagi.doshisha.ac.jp/bf/guide/guide-top.htm ＜車椅子で回れる京都観光ガイド＞
http://www.jaeic.or.jp/hyk/index.htm ＜ひとにやさしい建築・住宅推進協議会＞
http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm ＜福祉制度：障害者制度集＞
http://www.hcr.or.jp/ ＜国際福祉機器展＞
http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html ＜国際生活機能分類＞
http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/ ＜日本理学療法士協会＞
http://www.jaot.or.jp/ ＜日本作業療法士協会＞
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm ＜学校施設バリアフリー化推進指針＞
http://www.jsad.or.jp/ ＜日本障害者スポーツ協会＞
http://www.asahi-net.or.jp/~ve9k-nkk/toukyuuhyou.htm ＜身体障害者障害程度等級表＞
http://akatan.cool.ne.jp/index.html ＜赤の他人のホントのわたし＞
http://www.npojba.org/ ＜バリアフリー協会＞
http://members.jcom.home.ne.jp/1653895301/top.html ＜バリアフリー住宅＞
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji_.html ＜交通バリアフリー＞
http://www.mlit.go.jp/barrierfree/barrierfree_.html ＜国土交通省のバリアフリー・ユニバーサルデザイン＞
http://www.universal-design.gr.jp/ ＜ユニバーサルデザインフォーラム＞

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

15527

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

男女の「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、身の回りの様々な場面をジェンダー状況という視点で見直すことの出来る力量を身につけること。同時に、世界各地についてもその視点を生かした理解の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家論などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオ	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当て
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ－日本社会のジェンダー状況－なぜ前進しないのか－	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。

小レポートを数回行う、理解度の確認などコミュニケーション・ペーパーとして活用する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の進捗状況によって、講義日程と内容に変更を加えることがある。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献・資料等は、講義において適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義において適宜紹介する。

その他 / Others

私語・飲食は慎んでほしい。

福祉行財政論（S）

15538

担当者名 / Instructor　澤井 勝

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会保障の体系の中に社会福祉を位置づけ、国家財政と地方財政の基礎構造を理解する。合わせて福祉を巡る行政システム、特に地域福祉における分権改革と、市民セクターとの間の協働について考える

到達目標 / Attainment Objectives

福祉財政の実務と理論をともに理解する。社会福祉政策と財政の関係を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉政策論、社会保障論、社会福祉原論、地域福祉論。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	我が国の社会保障制度の体系と財政構造（1）	福祉国家、国民皆保険、ベバリッジ報告
2	市民の力と縦割り行政（富山方式を学ぶ）DVD放映	小規模多機能施設、ケアすることとケアされること
3	我が国社会保障制度の体系と財政構造（2）	入りやすく出やすい生活保護、就労支援、ワークフェア
4	社会福祉の財源（1）介護保険の場合	要介護状態、自立支援
5	介護の現場と自立支援　DVD「老いを支えて」	在宅介護支援センター、生活の目標
6	社会福祉の財源（2）消費税の構造、所得税の累進制	介護予防、地域包括支援センター
7	地域福祉計画の意義（1）	コミュニティ・ケア、民生委員、自治会町内会、NPO
8	北欧の福祉（1）　DVD「デンマークの介護」	税方式、国民負担率
9	地域福祉計画の意義（2）	コミュニティ・ソーシャルワーカー、小地域福祉の財源
10	北欧の福祉（2）　DVD「スウェーデンの在宅介護」	24時間介護、医療と福祉の連携
11	介護保険事業計画の作り方（1）	認定率、利用率、適正化計画
12	介護保険事業計画の作り方（2）	第一号被保険者保険料、所得段階別保険料、マイケアプラン
13	障害者自立支援法の改正を巡って（1）	依存と自立、自己決定、当事者主権
14	障害者自立支援法の改正をめぐって（2）	支援費と介護保険、施設解体宣言
15	市民社会と福祉ミックス	三つのセクター、福祉社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

NHKスペシャルなどドキュメンタリーをチェックしておくこと。

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『イギリスの政治行政システム』	竹下謙ほか／ぎょうせい／／2002年
『生活保護があぶない』	産経新聞大阪社会部／扶桑社新書／／2008年
『スウェーデン　高い税金と豊かな生活』	星野泉／イマジン出版／／2008年
『生活保護vsワーキングプア』	大山典宏／PHP新書／／2008年
『現代の貧困』	岩田正美／岩波新書／／2007年
『反貧困』	湯浅誠／岩波新書／／2008年
『日本の経済格差』	橘木俊詔／岩波新書／／1998年
『なぜ資本主義は自壊したのか』	中谷巌／集英社インターナショナル／／2008年12月

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

澤井のホームページ、http://www.zaiseijoho.com　特に「福祉政策」の欄。

その他 / Others

福祉経営論（S）

15487

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会保障構造改革のもとで福祉事業が市場化され、民間営利企業の参入が著しい。その中にあって、真に憲法に保障される生活権、生存権に値する福祉事業の運営と経営のあり方を考える。そのために、社会福祉とは何か、福祉施設・事業は誰のため何のために存在するか、学ぶべき立脚的を明確にする。その上で、福祉事業の運営と経営の実際を学ぶとともに、国民本位の福祉事業の運営と経営のあるべき姿や方向性を見出すことを中心とする。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会福祉と社会福祉事業の役割と使命を理解する。
・公的責任のもとでの福祉事業を営む社会福祉法人の設立と運営及び役割、使命を理解する。
・福祉現場を支える福祉従事者をとりまく環境と働き甲斐、生きがいを学び福祉労働の役割を理解する。
・市場化されている福祉現場の運営と経営の実態を学びながら、国民の権利保障としての福祉事業としての事業運営、経営のあり方を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前学習としては社会保障論や各種の福祉制度及び社会福祉法を学習しておくこと。また、できれば、福祉事業所において見学・ボランテイアなど体験しておくことが望ましい。また、学生としては経営的視点で考えることは難しいこともあるが、講義を聴いて考える力を養うことを重視している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	自己紹介、授業計画
2	福祉経営を学ぶ視点	国民の権利としての社会福祉。ノーマライゼーション。
3	社会福祉の理念	社会福祉の歴史、福祉実践の到達と課題
4	社会福祉法	社会福祉法の概要と社会福祉事業
5	公的福祉を推進する社会福祉法人	社会福祉法人の概要と設立、定款準則
6	社会福祉法人の運営	資産、役員、運営原則、事前規制、監査など
7	福祉事業における財源	措置制度と措置費の仕組み
8	措置制度における福祉事業の運営	公費による老人福祉施設の運営と経営
9	障害施設の運営と経営	障害者福祉をめぐる情勢と共同作業所等の運営と経営
10	保育所の運営と経営	保育をめぐる情勢と保育所運営と経営
11	介護保険制度のもとでの経営	介護保険制度の概要と仕組み
12	市場化のもとでの福祉経営	特別養護老人ホームの運営・経営の実際と特徴
13	市場化のもとでの福祉経営	在宅福祉サービスの運営・経営の実際と特徴
14	福祉労働と専門性	福祉従事者をとりまく法的整備と給与実態等。福祉労働における専門性。
15	社会福祉法人の役割、使命	社会福祉法人のアイデンティティとこれからの姿を求めて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	社会福祉にかかる運営と経営に関する知識と考え方の明確化
平常点評価	60 %	出席　40% 日常のコミュニケーションペーパー等による問題意識の明確化　20% なお、出席率7割以下は及第としない

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

福祉を必要とする人の暮らしと身体や心の痛みを共感できる視点や自らの人間性が重要である。そして、福祉を理解し学ぶということは、知識とともに対人援助事業をとおして行われる専門性豊かな援助実践の役割を理解することが重要である。従って、人を理解し自らの人間性を高めること、そして人と社会を見つめる確かな目を養うよう努力することが大切である。

教科書 / Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会福祉辞典	同編集委員会／大月書店／4-272-36040-x／
民間社会福祉事業と公的責任	福祉労働福祉経営共同研究所／かもがわ出版／4-87699-731-4／
転換期の社会福祉事業経営	石倉康次／かもがわ出版／4-87699-651-2／
福祉の公的責任と社会福祉法人のあり方に関する中間のまとめ	同検討会／同検討会／なし／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/shingi/hosho.html#kaigohoken

その他 / Others

福祉計画論（S） § 社会福祉援助技術論IV（SG） § 社会福祉援助技術論IV（S） § 福祉計画論（SG）

15502

担当者名 / Instructor　岡田 まり　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ソーシャルワーク論の続編である。ミクロレベルでの実践（個人、家族、グループへの支援）の意義と方法を踏まえたうえで、プログラムを開発したり、地域社会によりよい変化をもたらすマクロレベルでの実践において重要となる計画に焦点をあてる。実際の計画を例として取り上げながら、計画の意義と目的について理解できるようにするとともに、モデルや理論に基づいて計画策定を行うための基礎的な知識と技術を習得することをめざす。そして、生活問題の解決・発生予防のためには、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることを認識し、状況に応じて適切な援助技術を選んで活用する力をつけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・計画の意義と重要性について自分の言葉で説明できる。
・計画策定・実施・評価のプロセスと方法およびその留意点について説明できる。
・行政や民間団体が策定した計画およびその実施について、短所と長所を指摘できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ソーシャルワーク論を事前に履修しておくことが望ましい。また、社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修しておくことが、本科目での理解を深めるのに役立つ。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークのマクロレベルでの実践とは	プログラム開発、地域介入
第2回	計画とは①	意義と目的、プロセス
第3回	計画とは②	ゴールドプラン、エンゼルプラン、障害者プラン、高齢者保健福祉計画、地域福祉計画
第4回	計画のモデル	PRECEDE-PROCEED モデル、MIDORI モデル
第5回	アセスメント①	生活の質、生活課題
第6回	アセスメント②	行動、環境
第7回	アセスメント③	準備因子
第8回	アセスメント④	強化因子、実現因子
第9回	アセスメント⑤	組織、プログラム、政策
第10回	計画策定	実施主体、対象、目標と課題、内容、予算
第11回	計画実施	計画実施の留意点、モニタリング
第12回	評価	経過評価、影響評価、結果評価
第13回	計画策定の実際	住民参画、行政の役割、専門職の役割
第14回	自分の町の計画	社会資源、市町村
第15回	確認テスト（60分）と解説（30分）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業前に指定の文献・HPを必ず読んでくること。授業は、受講生がそれらを読んだことを前提として行う。
課題レポートは、受講生が生活する地域について、①地域の概要、②関心のある福祉領域に関する社会資源、③地方自治体が行っている計画についての批評、の3点をまとめたものであり、その作成のためには役所や図書館などを訪問する必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業で取り上げた内容について理解し、自分の言葉で説明することができるか、また、それらの内容を実際に活用できるかを評価する。 課題レポートおよびコミュニケーション・ペーパーをとおして、理解が深まっているか確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、講義だけでなくグループ演習も行うので、主体的な参加が重要。

教科書 / Textbooks

授業時にレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
実践ヘルスプロモーション：PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価	ローレンス W.グリーン・マーシャルW.クロイター著、神馬征峰訳／医学書院／4-260-00171-X／本書より参考となる部分をコピーして配布する予定。

ソーシャルワーク実践とシステム	黒木保博・小林良二・坂田周一・森本佳樹編／有斐閣／4-641-05527-0／2章および3章を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会　http://www.jacsw.or.jp/
国際ソーシャルワーカー連盟　http://www1.ifsw.org/
厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

福祉産業論（S）

13272

担当者名 / Instructor　今井 久人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

福祉産業論と一口に言っても、現状を見る限り自動車産業や鉄鋼産業などの天下国家を支えるほど巨大なものではない。また、明確な共通イメージがあるわけでもない。一般的なイメージでは保健・医療・福祉など日常の生活部面で提供されているサービスが多く見られるところである。少子高齢社会の到来とともに保健・医療・福祉など、それぞれの分野で市場が形成また拡大されつつあり、今後のこれらの分野の成長が見込まれることから既存産業からの参入が図られているところである。本講義では、その現状を見ながらこの分野の将来性とその成長が市民生活の支援等にどう寄与するかを見る。

到達目標 / Attainment Objectives

保健・医療・福祉といった生活関連産業のそれぞれの分野の特徴や具体的な事業展開例から、福祉産業を俯瞰的に広く理解するレベルに達すること。さらにその理解の上にたって、今後、社会人として生活の様々な場面で利用するであろう保健・医療・福祉などのサービスを、供給側・受給側など視点を変えながら、その抱える諸課題や産業としての発展性や可能性を探るレベルまでに高めること。
（若い学生諸君にはまだそれぞれのサービスの利用は身近なものではないが、関心を持つことによりその公的・私的なサービスを消費者として理解するような学習態度を期待する）

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に社会福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、児童福祉論などを履修していることが望ましいが、これらの分野に対して日頃から新聞や雑誌から時事的な話題に関心を持つことが大事である。特に近年は、介護保険制度の改正をはじめ障害者自立支援法の制定、後期高齢者医療制度の改正など大きな変化があった。そのような背景のなか、既存の事業から新規に参入する企業やその商品などを生活実践から学び取る姿勢が大事である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	
2	福祉産業とは何か（講義の概要）	一般産業の動向、生活関連産業と暮らし
3~4	医療産業の市場　日本の医療（医療機関）の現状と課題	厚生動向　医療保険制度　高齢者医療制度　診療報酬
5~6	医療産業の市場　日本の医療（医療周辺産業）の現状と課題	医療機器　医薬品　医療廃棄物
7~8	健康産業市場　日本の健康産業の現状と課題	健康日本21　ヘルスプロモーション
9	健康産業の市場　日本の健康増進ビジネス	フィットネスクラブ　サプリメント市場　健康グッズ
10~11	福祉産業の市場　介護保険制度　障害者自立支援法	介護報酬　介護ビジネス　紙おむつ　介護機器　高齢者住宅　有料老人ホーム
12～13	福祉産業の市場	介護保険関係事業事例（訪問介護、通所介護、施設介護）
14	中国の高齢化と高齢者福祉	
15	総括（まとめ）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして全体の講義を通して、理解度と全体的な視点、気づきを問う。
平常点評価	50 %	出席を重視する。中間に小レポートの提出を求め関心事や理解の深さを確認する。出席時のコメントシートを利用しながら、授業内容のコメントの提出を求める。

定期試験は実施しないが、日頃の受講態度から福祉産業に関する関心事や興味など、視野の広がりや知識の習得度合いを見るため、期間中に1から2回程度、課題を与えて小レポートを提出してもらう。そのため、毎回の出席に占める比重は高い。また、全体のまとめとしての到達度合を測るため期末レポートの提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本を元気にする健康サービス産業	島田晴雄 ／東洋経済新報社／／
シルバーサービス論	シルバーサービス論／ミネルヴァ書房／／
日経ヘルスケア21	／日経BP社／／

参考文献は多くないが、日常から新聞・業界誌等の関連記事に注意を払うこと。
厚生労働省のHP・経済産業省等のHP

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉住環境論（S）

13283

担当者名 / Instructor　蔵田 力

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

世界的な流れである「住まいは福祉の基盤」「住まいは人権」を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義概要、流れ、到達目標等説明	
第2回	住宅総論Ⅰ 「住まい」とは	
第3回	住宅総論Ⅱ 「居住の権利宣言」を学ぶ	
第4回	住宅総論Ⅲ 日本、世界の住宅政策と福祉政策	
第5回	住宅各論Ⅰ バリアフリーの考え方	
第6回	住宅各論Ⅱ-1 「住まいの環境改善」のあり方	
第7回	住宅各論Ⅱ-2 「住まいの環境改善」における専門家の連携	
第8回	住宅各論Ⅱ-3 事例研究	
第9回	住宅各論Ⅲ 「住まい」と家族	
第10回	住宅各論Ⅳ 「住まい」と健康	
第11回	住宅各論Ⅴ ホームレス問題	
第12回	地域論Ⅰ 日本と世界の都市政策	
第13回	地域論Ⅱ-1 高齢者・障害者が住み続けられる“まちづくり”	
第14回	地域論Ⅱ-2 生活圏構想	
第15回	まとめ・超高齢社会を展望する“まちづくり”の課題（討論）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

配布資料および参考書のポイントを復習、また事前に配布された資料の予習

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価
平常点評価	20 %	コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

（1）配布資料は必ず整理し、毎回の講義に持参する。
（2）コミュニケーションカードには、積極的に感想、意見を述べる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「居住福祉」	早川和男／岩波新書／／大学生協等で各自購入

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「住宅の権利・誓約集」	監修・中林 浩／日本住宅会議／／日本住宅会議が注文販売

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉情報論（S）

13275

担当者名 / Instructor　生田 正幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁（バリア）に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なICT（情報通信技術）を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術（Assistive Technology）の発達と普及も著しい。社会全体が、ICTと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・福祉・介護分野におけるICT化・情報化の実態と考え方を知る。
・福祉・介護に関する情報を利用するための基礎的な知識と方法を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作を的確に行えることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	福祉情報論がめざすもの
第2回	インターネットと福祉情報(1)	福祉の情報資源を使いこなす part1
第3回	インターネットと福祉情報(2)	福祉の情報資源を使いこなす part2
第4回	福祉と情報(1)	なぜ、情報を提供するのか
第5回	福祉と情報(2)	福祉が変わる、情報が変える
第6回	福祉情報をどう使うのか(1)	探す・評価する・選択する
第7回	福祉情報をどう使うのか(2)	福祉のための情報システムと情報機器
第8回	福祉情報をどう使うのか(3)	共有する・発信する・結びつける
第9回	福祉情報とは何か(1)	情報は便利なのか？
第10回	福祉情報とは何か(2)	福祉情報の体系と構造
第11回	福祉情報化とは(1)	誰のための情報化なのか
第12回	福祉情報化とは(2)	情報化とは何をすることなのか
第13回	福祉情報化の課題と展望(1)	様々な課題
第14回	福祉情報化の課題と展望(2)	新しい福祉への戦略
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

福祉・介護とICT・情報というと、福祉分野の学生諸君にはあまり関係がないように思われるかもしれません。しかし、私たちの生活が、今やICTや情報の活用なしには成り立たないように、福祉・介護分野におけるサービスの利用や提供もICTや情報の活用と深く関わっています。そして、福祉や介護に関する情報を入手・活用し、あるいは発信することが、当事者や地域住民にとって非常に重要な課題となりつつあります。私たちの生活と福祉・介護を前進させていくためにICTや情報をいかに活用していくのかという観点から、社会の動き、制度や政策の動きに対する関心を深めて授業に臨んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	毎回出席をとります。

講義の要点は『社会福祉情報論へのアプローチ』（生田正幸著・ミネルヴァ書房）に記載されているので必要に応じて購入すること。（ISBN4-623-03054-7）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

WAM　NET（http://www.wam.go.jp/）、厚生労働省（http://www.mhlw.go.jp/）など。その他、必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

福祉政策論（S） § 福祉政策論（SG）

13251

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会福祉制度の総論（理念）と各論を区分し、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。
(1) 社会福祉制度総論：①社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴、②社会保障・福祉制度の成立史、③社会福祉の理念（障害概念の把握、障害文化、ノーマライゼーション、自己決定、脱施設化）、③社会福祉施設、④社会福祉法
(2) 社会保福祉度各論：①障害者福祉、②高齢者福祉。③公的扶助（生活保護）

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は現在の日本の社会福祉制度を体系的に把握し、その現代的課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。
(1)日本の社会福祉制度の今日的課題を諸外国と比較して把握できるような素養を身につける。
(2)日本の社会福祉制度における今日的課題の解決策のあり方について、福祉先進国での取り組みを必要に応じて参照して考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉、社会保障論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴	社会保険、社会福祉、選別主義と普遍主義、社会支出、貧困率
2	イギリスと日本の社会福祉制度の成立史	救貧法、リベラルリフォーム、「ベヴァリッジ報告」、恤救規則、救護法、生活保護法、福祉六法
3	社会福祉の理念(1)―社会福祉と対立する概念―	社会防衛思想、優生思想、出生前診断
4	社会福祉の理念(2)―障害概念の把握―	インペアメント、ディスアビリティ、医療モデル、社会モデル
5	社会福祉の理念(3)―障害文化―	尊厳死、ろう文化
6	社会福祉の理念(4)―ノーマライゼーション―	自己決定、バリアフリー、脱施設
7	社会福祉の理念(5)―脱施設化―	在宅サービス、通所施設
8	社会福祉の施設と脱施設化	グループホーム、里親、施設の社会化、小舎制、ユニットケア
9	社会福祉法	措置制度、契約制度、福祉事務所
10	障害者福祉	障害者自立支援、応益負担、サービス供給の地域格差
11	高齢者福祉	介護保険、保険料、利用者負担、介護報酬、支給限度額
12	現代の貧困と公的扶助（生活保護）制度（1）	貧困率、野宿者(ホームレス)、ワーキングプア、母子世帯
13	現代の貧困と公的扶助（生活保護）制度（2）	生活保護制度の原理と原則、居宅保護、施設保護
14	現代の貧困と公的扶助（生活保護）制度（3）	生活保護適正化、母子加算と老齢加算、ホームレス自立支援プログラム
15	まとめ	社会保障制度に対する人々の支持に関する判断基準(必要性、自助努力、同一性、互酬性)、サービスの普遍性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会福祉制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	授業内容に関わるミニレポート(400字以上、600字以内)に基づいて評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望ましい。また、社会福祉の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『くらしに活かす福祉の視点』	宮本信義編著／ミネルヴァ書房／4-623-04546-3／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西) ・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

福祉調査・統計論（S）

15598

担当者名 / Instructor　岡本 晴美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉調査に関する基本的な方法や課題を理解するとともに、実際に活用できる能力を養う。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉調査の意義を理解し、実際に調査を実施する際の手続きや具体的な方法を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	社会福祉と調査
第2回	権利侵害の防止	調査と倫理
第3回	社会福祉調査の基本	調査研究の意義と課題
第4回	福祉調査の設計（1）	調査の前提と計画
第5回	福祉調査の設計（2）	仮説の構築と検証の手続き
第6回	福祉調査の設計（3）	研究資料の収集と分析
第7回	社会福祉調査と福祉実践	福祉現場に活かす調査
第8回	社会福祉調査の種類とその特徴（1）	量的調査法（1）
第9回	社会福祉調査の種類とその特徴（1）	量的調査法（2）
第10回	社会福祉調査の種類とその特徴（1）	量的調査法（3）
第11回	社会福祉調査の種類とその特徴（2）	質的調査法（1）
第12回	社会福祉調査の種類とその特徴（2）	質的調査法（2）
第13回	社会福祉調査の種類とその特徴（2）	質的調査法（3）
第14回	社会福祉調査の実際（1）	リアリティを捉える
第15回	社会福祉調査の実際（2）	社会福祉調査の意義と課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	出席を前提として実施する授業内課題（グループワーク等）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席することを前提として、グループワーク等を実施する予定。学生自身による主体的な学びを求める。

教科書 / Textbooks

必要に応じて、授業内で提示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて、授業内で提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉臨床論（S）

15488

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、生活者が、生活上の諸課題に対峙し、主体的な生活を創造することが可能となるために求められる福祉実践を“子ども”“思春期・青年期”“成人期”“円熟期”の各期に分け取り上げる。そのなかで、人生の各期に共通するソーシャルワークの視座と各期に固有なソーシャルワークの視座及び実践（方法ならびに運動）、政策につき考える。

到達目標 / Attainment Objectives

☆社会福祉を学ぶ学生として、社会の諸要因により国民の生活が阻害されている状況を科学的に捉える力を獲得する。
☆今各分野の実践で共通して求められているソーシャルワーカーの役割りを認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　ソーシャルワークの魅力と科学としての介入、アセスメントの視座とファクター	ソーシャルワークの局面　人と生活、発達
第2回	支援原則と支援理念　―パターナリズムからフレンドシップへ，侵襲的介入から自尊を獲得する介入へ―	自尊心、所属感、依存、自己決定、フレンドシップとパターナリズム
第3回	子どもの発達・生活と福祉課題①　―障害の受容に関わる課題―	早期発見、障害受容
第4回	子どもの発達・生活と福祉課題②　―子どもの虐待と再養育―	通告、緊急保護、措置、再養育、
第5回	子どもの発達・生活と福祉課題③　―　―人親家庭の生活課題	母子と父子
第6回	思春期・青年期の課題①―不登校・ひきこもりと当事者支援―	居場所、スクールソーシャルワーク
第7回	思春期・青年期の課題②―軽度発達障害と思春期危機―	就労支援、家族
第8回	成人期の課題①―中途障害や難病と家族崩壊、スティグマ―	慢性疾患、所得中断、生活崩壊、危機
第9回	成人期の課題②―過労自死と家族―	過労自死
第10回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族1	DV、虐待サイクル、緊急保護、体と心
第11回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族2	自尊心、家族内トラウマ
第12回	円熟期の課題―円熟期と孤立―	高齢者　心理
第13回	精神障害と自立	精神障害　社会的孤立　自立
第14回	福祉実践と協同　―地域福祉要求の組織化と地域づくり―	要求の組織化、乳幼児期から円熟期、麦の郷
第15回	総括講義	アセスメント技法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	30 %	若者のひきこもりアセスメントに関するレポートを、「ひきこもりつつ育つ―若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク」（参考書参照）を参照し第7回終了後に指示する提出日に提出する。評価基準は、文書作法10点、内容20点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いかなる媒体でも結構ですから国民の生活に関するニュースに常に触れて下さい。
コミュニケーションペーパーでの質問や講義への参加を期待します。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童虐待とソーシャルワーク実践	柏女霊峰／ミネルヴァ書房／4-623-03508-5／
貧困と闘う人びと	寺久保光良／あけび書房／487154057X／
激増する過労自殺	ストレス疾患労災研究会／皓星社／4-7744-0292-3／
対人援助の臨床福祉学	佐藤俊一／中央法規／4-8058-2452-2／
ひきこもりつつ育つ一若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク	山本耕平／かもがわ出版／978-4-7803-0240-0／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ccap.or.jp/
http://www.jstss.org/

その他 / Others

福祉労働論（S）

13270

担当者名 / Instructor　今村 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「人権・発達保障のための福祉労働―その阻害要因と克服の展望を探る」
介護保険制度や障害者自立支援法に見られるように、わが国の社会福祉制度はこの10年の間に大きく変化し、さらに今後、保育制度や生活保護制度の抜本的な「改革」が検討されようとしている。そして、このような一連の「改革」によって、福祉の現場には市場原理にもとづく事業者間の競争が持ち込まれ、本来の目的に沿った福祉労働の発展が阻害される状況が生み出されている。この授業では、ビデオや資料を活用して各福祉現場が直面している問題状況を明らかにし、解決と克服のための課題と展望について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉の理念と現実との乖離、それが生み出される要因について理解する
製造業や農業とは異なる福祉労働の固有の特徴について理解する
社会福祉政策、社会福祉の拡充を求める要求や運動との関連で福祉労働の位置と役割を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講師の自己紹介と講義概要の紹介	
2	社会福祉とは何か？　福祉労働とは何か？	貧困、社会問題と生活問題、対人援助とコミュニケーション、生存権と発達権
3	社会福祉の「改革」をめぐる政策動向が意味するもの	措置から契約へ、選択と自己決定、応能負担から応益負担、市場原理
4	高齢者と家族への専門的な相談援助の担い手と援助内容を考える	介護保険、ケアマネジメント、接近困難ケース、権利擁護、地域包括支援センター
5	ホームヘルパーの労働と介護保険制度	トータルに生活を捉える、介護と生活援助（家事援助）、コミュニケーション
6	高齢者施設・グループホームにおける介護労働を考える	「ルポ老人病院」、身体拘束、ノーマライゼーション、ユニットケア
7	障害者福祉分野における制度「改革」と福祉労働（1）―措置制度から支援費制度へ―	社会福祉基礎構造改革、応能負担の維持、支給量決定、障害者ケアマネジメント
8	障害者福祉分野における制度「改革」と福祉労働（1）―支援費制度から障害者自立支援法へ―	介護保険との統合論、グランドデザイン、応益負担、三障害の統合、障害者運動の抵抗と「見直し」の動向
9	精神保健福祉分野における制度「改革」と福祉労働	地域精神医療と精神保健福祉、障害者自立支援法による三障害の統合
10	生活保護「適正化」政策のもとでの管理的・反福祉的公的扶助労働	ヤミの北九州方式と餓死事件、適正化政策、違法な制度運用の蔓延、派遣切りへの対応
11	福祉労働としての公的扶助労働の可能性を示す先進的実践例	3つの自立、自立支援プログラム、板橋区、京都府山城北福祉
12	生活保護制度と公的扶助労働をめぐる歴史的経過と今後の展望	小山進次郎、岸・仲村論争、「自立」概念の歴史的変遷、ワークフェア
13	生活問題をどのように把握し、どのように解決をはかるか	人権視点、生活アセスメント、当面の解決策と抜本的な解決策、ネットワークとソーシャルアクション
14	社会福祉政策、社会福祉の拡充をめざす要求・運動と福祉労働	社会福祉の三元構造、雇用・労働問題、ナショナルミニマム、制度的解決と個別的解決
15	補論・フリーディスカッション・まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

多くの資料を配布する予定であり、授業の中では全てを詳しく説明できないと思われるが、可能な限り事後に目を通して復習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義内容についての理解度とともに、テーマに対して主体的なアプローチがどのようになされているかを評価
平常点評価	20 %	出席状況及びコミュニケーションカードに記載された感想や意見などを総合的に判断して評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

（1）配布資料はファイル等に整理して保管し、毎回の講義に持参すること。

（2）コミュニケーションカードの提出によって出欠確認をおこなうので、最低限、学生番号と氏名については記入して提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	／／／

なし。毎回の授業で資料を配布する他、随時、教材としてビデオを使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉方法原論の展開	植田章・結城俊哉編著／高菅出版／／
現場がつくる新しい社会福祉	総合社会福祉研究所編／かもがわ出版／／
改定新版 これが生活保護だ	尾藤廣喜・松崎喜良／高菅出版／／
高齢・精神障害者とホームヘルパー	石田一紀・泊イクヨ・藤田博久著／萌文社／／
自治体は高齢者介護にどう責任を持つのか	石川満・小川栄二・加茂圭三ほか著／萌文社／／
障害者自立支援法と人間らしく生きる権利	障害者生活支援システム研究会編／かもがわ出版／／

テキストは使用せず、適宜配布する資料、ビデオ等をもとに講義を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/index.html　WAM NET（ワムネット）http://www.wam.go.jp/
総合社会福祉研究所　http://www.sosyaken.jp/
21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会　http://www.roufukuren.jp/index.html
きょうされん　http://www.kyosaren.or.jp/　全国障害者問題研究会　http://www.nginet.or.jp/
生活保護問題対策全国会議　http://seihokaigi.com/default.aspx
全国公的扶助研究会　http://kofuken.main.jp/
全国児童養護問題研究会：http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/

その他 / Others

ライフサイクル論 (S)

15561

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程を概説し、自己形成および人格発達について考察する。なお、各ライフステージにおける心理的危機について注目し、その背景や要因を探り、心理的援助、福祉の課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・ライフサイクル（人生周期）についての理解を深める。
・人格形成の過程で生じる心理的危機とその社会的背景・要因について理解する。
・様々な困難や危機に直面した人々を支えるための心のケアや福祉的援助について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	ライフサイクルとは何か、 人生周期
2	ヒトから人間へ	胎児の発達過程、新生児の能力、母子相互作用
3	乳児期の発達特徴	基本的信頼感 、愛着（アタッチメント）
4	3歳児の発達特徴	自我の芽生え,甘えと自立
5	4歳児の発達特徴	自制心の育ち 、意欲、自発性
6	学童期の発達と心理的危機	愛情を剥奪された子どもの心理的特徴と心のケア
7	思春期の発達と心理的危機	人間関係の不安、葛藤、いじめ、非行
8	自己の連続性、アイデンティティの危機	解離性同一性障害
9	早期教育、教育家族の問題	「良い子」の生きにくさ、親の過剰な期待と挫折
10	思春期・青年期の子どもと親との関係	父と子の葛藤、ひきこもり
11	成人期の発達課題	職業選択、恋愛、結婚
12	成人期の発達と心理的危機	子育てと職業の両立、父親不在と母子密着
13	中年期の心理的特徴	人生の転換期、空の巣症候群、心身の変化、個性化
14	ライフサイクルの中の老い	老いの受容、対象喪失、人格の統合対絶望
15	総括講義	ライフサイクル論のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	発達の特徴、発達課題に対する基本的理解がなされたのか、また、それぞれの段階で生じる問題を克服するために必要な社会的支援についての理解が深まったのか把握するための試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

人間の一生について概説し、様々な問題を扱うために幅広い知識が必要です。そこで、授業中に紹介する文献を読み、理解を深めるように努めてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ライフサイクルの臨床心理学	馬場禮子・永井徹共編／培風館／4-563－05610－3／
女性のためのライフサイクル心理学	岡本祐子・松下美知子編／福村出版／4-571－20051－x／
子育て支援の現在	垣内国光・櫻谷眞理子共編／ミネルヴァ書房／4-623－03643－xc3336／
ライフサイクルの心理学	松尾恒子他／燃焼社／4-88978－992－8／
ライフサイクル、その完結	E. H. エリクソン著村瀬孝雄他訳／みすず書房／4-622－03967－2／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

臨床人間学（S） §　ライフデザイン論（S）

15605

担当者名 / Instructor　松島 京

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちはいろいろなものを抱えながら生活をしている。さまざまな葛藤、苦しみや困難は、私たちの人生の中に訪れないことはない。抱え込んでいるそれらを、私たちはどのように理解しどのように対応することができるだろうか。
「心の世紀」「心のケア」という言葉が表すように、「心」や「心理」への関心は高い。しかし、今後いっそう複雑化する社会状況の中で、人間を理解しサポートする際には、総合的・多面的に捉える視点が必要となるだろう。
本講義では、苦しみや困難を抱えながら生きることや、それらを生み出す社会的な装置に注目しながら、「人間」が「生きる」こと、それに対する援助について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

臨床的な援助課題を社会問題という視点から捉えなおすことができる。
臨床的な援助課題に対するアプローチの仕方について理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

臨床社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と導入／臨床とはなにか	講義の到達目標、講義の進め方、成績評価方法／ベッドサイド、援助課題と社会問題
第2回	臨床人間学の視点（1）	ライフコース、ライフデザイン
第3回	臨床人間学の視点（2）	近代家族、親密性
第4回	臨床人間学の視点（3）	ジェンダー、セクシュアリティ
第5回	臨床人間学的課題（1）	DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待
第6回	臨床人間学的課題（2）	戦災、災害、事故
第7回	臨床人間学的課題（3）	生、死、病
第8回	臨床人間学的課題（4）	性、アイデンティティ
第9回	ケアと回復（1）	careとcure、相互作用性
第10回	ケアと回復（2）	語ること、物語の再構築、聴くこと、共感、受容
第11回	ケアと回復（3）	配慮と責任、他者性、エンパワメント、アドボカシー
第12回	当事者・家族と援助者（1）	ケアの非対称性、依存する／される、支配／被支配
第13回	当事者・家族と援助者（2）	二次受傷、共感疲労、バーンアウト
第14回	臨床人間学の可能性	共生、連帯、再生
第15回	講義総括／あらためて臨床人間学とは	あなたにとって臨床人間学とは／成績評価方法についての最終確認

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

ふだんから、新聞・小説・映画などに触れ、社会的なテーマや人間関係のあり方に興味関心を持つこと。また、講義中に浮上した疑問点や問題点については、講義担当者への質問もよいが、併せて自ら調べることも進めていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	講義中に数回の小レポートを課す。講義内容の理解度に応じて評価する。講義に対する主体的な取り組みを評価する。いわゆる「出席点」による加点は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義スケジュールは目安である。現代的なテーマを持つ講義なので、時事問題を組み込んでいくこともある。その際はスケジュールが若干変動する場合もある（大きく変動することはない。また事前に連絡をする）。
出席を前提としで講義を進める。随時、受講生によるディスカッションやグループワークなども組み込んでいくので、講義への積極的な参加が望まれる。

教科書 / Textbooks

指定しない。必要な資料は講義中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に必要に応じて紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に必要に応じて紹介する。

その他 / Others

リハビリテーション論（S）

15486

担当者名 / Instructor　宮崎 博子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

リハビリテーションは、理念的には「全人間的復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあって、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

障害者の置かれている状況や心情などが理解出来る。
リハビリテーションの概念と手法が理解できる。
個々の分野におけるリハビリテーションがイメージ出来、対応が分る。
今、医療・福祉の現場で、何が求められているかが理解出来る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義の詳細なスケジュール(確定版)は最初の講義時に提示する。以下に記載するのは(暫定版)講義の基本的内容で、これを押さえた内容で行うが、講義順序などや詳細は変更することがある。社会福祉士などの取得をめざし、将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用して施行する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	リハビリテーション概論、廃用症候群のリハビリテーション	
第2回	障害論	
第3回	障害者の心理、障害受容	
第4回	運動器疾患のリハビリテーション	
第5回	義肢装具のリハビリテーション	
第6回	小児のリハビリテーション、教育的リハビリテーション	
第7回	精神疾患のリハビリテーション	
第8回	地域リハビリテーション、介護保険	
第9回	摂食嚥下障害のリハビリテーション	
第10回	神経・筋疾患のリハビリテーション	
第11回	排尿障害のリハビリテーション	
第12回	内部障害のリハビリテーション	
第13回	脳卒中、脳外傷のリハビリテーション	
第14回	脊髄疾患のリハビリテーション	
第15回	悪性疾患、加齢性疾患のリハビリテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基本的概念を理解し、自分の言葉で表現出来ているかを、評価する。
平常点評価	20 %	学習意欲や態度を評価する。

試験は、講義プリント、参考書、他、持ち込み自由。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に必要なプリントを作成配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーションの森-ツアーガイド-寝たきりが9割いなくなる！	京都府保険医協会・地域リハビリテーションシステム研究会／かもがわ出版／978-4-7803-0177-9／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーション医療入門	／医学書院／／

目で見るリハビリテーション医学　第2版	上田　敏／東京大学出版会／／
脳卒中のリハビリテーション	／医歯薬出版株式会社／／
狭心症、心筋梗塞のリハビリテーション	／南江堂／／
嚥下障害ポケットマニュアル	藤島一郎／医歯薬出版株式会社／／
障害児の包括的評価法マニュアル	全国肢体不自由児施設運営協議会編／メジカルビュー社／／
変わるリハビリ	上月正博／ヴァンメデイカル社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.copd-info.net/　　COPD情報ネット

その他 / Others

臨床社会学（S）

13312

担当者名 / Instructor　本田 宏治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、犯罪や非行、虐待、不登校、ひきこもり、社会的格差など社会病理現象が多様化し、増大しているといわれている。こうした社会問題を臨床的課題として捉えなおし、単に個人の「逸脱」や「不適応」としてではなく、社会学的な観点からの支援を模索する知的方法として臨床社会学がある。

本講義では、オムニバス形式で具体的な事例を取り上げ、社会の問題と個人の問題とが交錯する現代社会への諸問題への洞察を深める。そのためには、社会問題の「現在」を洞察するなかで、日常世界を反省的に異化し、社会構造の「ひずみ」を知覚する社会学的な感受性を身につける必要がある。そのうえで、一人ひとりの参加学生が、関心をもつそれぞれの課題に向けて自発的に解決の糸口を探る能力の獲得を目指したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学的な洞察力を深めたうえで、常識的視野のもとで見逃されている臨床的諸課題の「発掘」と解決に向けた社会学的想像力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会問題を臨床社会学で読み解くことの意義について	社会病理学
第2回	逸脱とは何か？	アノミー論、ラベリング論
第3回	「正常」と「異常」	集合意識、ノルム
第4回	逸脱はなぜ生まれるのか？（1）	社会解体、社会的排除
第5回	逸脱はなぜ生まれるのか？（2）	リスク社会、管理権力
第6回	犯罪の厳罰化の流れ	犯罪不安、厳罰化ポピュリズム
第7回	厳罰化による社会のひずみ	刑事施設、過剰収容問題
第8回	犯罪者の社会内処遇	ダイヴァージョン・プログラム
第9回	トラウマと現在	トラウマ、心的外傷
第10回	被害者化過程での家族・友人・社会	犯罪被害者
第11回	アダルト・チルドレンという生き方	機能不全家族、共依存
第12回	「隠蔽」される犯罪者家族（1）	私的領域、パノプティコン
第13回	「隠蔽」される犯罪者家族（2）	侮蔑発話、医療化
第14回	他者を支えるコミュニティとは何か？	コミュニティ・プリズン、コミュニティ・ポリシング
第15回	他者を「支える」ことは何か？	共在者

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での学習を促すため、配布資料や主題に合わせた参考文献などを読み、レポートをまとめるなど宿題があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容を手がかりとして、それぞれが自身の関心とする社会問題を分析する能力を身につけているかを判断する。
平常点評価	30 %	期間中に1回レポートを課し、評価に加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講に際しては、社会学の基礎的な知識を有していることが望ましい。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。配布するプリントを中心に進め、要点は板書する。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

老人福祉論（S） § 老人福祉論（SG）

15463

担当者名 / Instructor　西村 清忠　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

わが国の高齢者福祉制度、サービスに関する基礎知識とそこにおける問題点について講じる。また高齢者の介護問題を中心にして、在宅福祉の展開過程をたどりながら、わが国の高齢者福祉のあり方を福祉先進国といわれる諸外国の高齢者福祉事情と比較しながら検討する。とくに公的介護保険制度の導入にかかわる諸動向について述べ、そこにおける問題点や課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

わが国の高齢者福祉施策の史的展開について理解を深め、かつ諸外国との比較の視点より高齢者福祉の現状を的確に説明できる。さらにそれらを通して高齢者福祉の現代的課題が文化・社会・政治・経済などと連関する社会問題であることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	高齢者福祉の考え方	福祉ニーズ、デマンズと資源などについて
2	人口高齢化	日本的特殊性、問題の予見などについて
3	「家」制度と核家族化	産業化、高齢者問題の現出などについて
4	経済社会と高齢者福祉施策（1）	老人福祉法制定、1970年代の高齢者福祉などについて
5	福祉先進国の高齢者福祉施策	デンマークの在宅福祉などについて
6	経済社会と高齢者福祉施策（2）	高齢者の在宅福祉、福祉理念、日本型福祉などについて
7	経済社会と高齢者福祉施策（3）	1980年代の高齢者福祉施策、老人保健法などについて
8	経済社会と高齢者福祉施策（4）	自助化、多元化、分権化、普遍化、自由化、地域化などについて
9	高齢者福祉と介護問題	介護問題の深刻化などについて
10	高齢者保健福祉推進10カ年戦略	福祉理念と財源問題などについて
11	高齢者福祉と介護保険（1）	福祉理念と財源問題などについて
12	高齢者福祉と介護保険（2）	介護の社会化問題などについて
13	高齢者福祉と介護保険（3）	介護保険の改正ポイントなどについて
14	高齢者の生活と福祉と地域	地域共同性、社会的連帯、公正、社会正義などについて
15	高齢者福祉の展望	市民社会と高齢者福祉施策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞・雑誌等に掲載される高齢者福祉関連の記事に関心をもつこと。自分の住んでいる地域の高齢者福祉について調べたりすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	高齢者福祉制度、政策についての理解を前提に、高齢化社会に対する洞察力を試す問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。
平常点評価	30 %	第5回頃と第10回頃の授業で、それまでの授業内容に対する理解度を確かめるためのレポートを課す。Web-CTを使っての提出を受け付ける。

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「老い」というものを想像し、「自分の問題」としてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉士養成講座（第2巻）「老人福祉論」	／中法法規出版／／標準的な構成と内容をもつテキスト
最新介護福祉全書（8巻）「老人の心理と援助」	／メジカルフレンド社／／標準テキストだが、すこし個性的な内容をもつ
体験ルポ世界の高齢者福祉	山野井和則／岩波新書／／わかりやすい高齢者福祉のレポート
高齢者医療と福祉	岡本祐三／岩波新書／／福祉と医療の視野をあわせもつ高齢者の本

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

老年社会学（S） §　老年社会学（SG）

13250

担当者名 / Instructor　高橋 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

高齢化にともなう社会変化は多様である。高齢化社会の問題に対するアプローチも人口、雇用・就業、家族、医療保健、社会福祉、社会活動・生涯学習、生きがい等と多様である。本講義では高齢化社会の問題を諸データを通じて多角的にとらえつつも、そこに通底する意味を探る。その際、高齢期の問題が世代をこえた課題として実感される接点を提示する。また現代の「老い」の意味を探ることをめざし、社会学的幸福論を主テーマとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学的視点にたち、高齢期に関する諸問題現象を科学的なデータを用いて考察することができ、またその因果的連関を説明できる。さらには現代社会における「老いて生きる」ことの意味を自分の問題としていく探求心を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「老い」を想像する	言語性能力と動作性能力などについて
2	高齢期のこころと身体	個人差、「老い」の多様性などについて
3	高齢期の世代的特性	無限定性、「世代性」などについて
4	高齢期の健康生活と認知症	アルツハイマー型、脳血管性など、認知症について
5	高齢期の経済生活と年金	階層格差、年金の社会的機能などについて
6	高齢期の家族生活と老親扶養慣行	「家」規範と家族変化などについて
7	高齢ねたきりと介護問題	人口高齢化と介護ニーズなどについて
8	高齢期の無為と生きがい・社会活動	喪失のライフイベントなどについて
9	高齢期の孤独・孤立	社会的疎外などについて
10	高齢期の自殺と虐待	自殺率と自殺に関する社会類型などについて
11	エイジズム	「老い」の価値観、「老い」の神話などについて
12	高齢期の社会的役割	活動性と離脱性、受容とあきらめなどについて
13	高齢期の社会的寄与	高齢期の「世代性」などについて
14	「老い」をきく	老いの受容などについて
15	「老い」の意味を考える	「発達と回帰」などについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日常生活の中で、高齢者や高齢者にかかわる事柄に関心をむける。また新聞・雑誌等の高齢者に関する記事を読む際は、「高齢者がどのような生活をしているのか」「高齢者に何が起きているか」を探索しながら読む。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	「高齢社会」、「老い」についての理解を前提に、高齢化社会に対する洞察力を試す問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。
平常点評価	30 %	第5回頃と第10回頃の授業で、それまでの授業内容に対する理解度を確かめるためのレポートを課す。Web-CTを使っての提出を受け付ける。

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「老い」というものを想像し、「老い」に関する問題を「自分の問題」としてとらえてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エイジングの社会学	／日本評論社／／「老い」に関する社会学的な視点を確保するのに役立つ
図説高齢者白書	／全国社会福祉協議会／／「老い」に関する諸現象の客観データをみることができる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外書講読 (SA) § 外国語文献研究 (SA)

13343

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代ドイツ語文献の初歩的理解を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業中に指示する	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Die ersten 180 Tage der neuen EU, 2004.(初級者向け)
J. Kocka, et. al., Europaeische Zivilgesellschaft in Ost und West, 2000.(中・上級者向け)
受講者の希望を基に、その他の文献の可能性を含め、それらの必要部分の資料を配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外書講読（SB） §　外国語文献研究（SB）

13344

担当者名 / Instructor　平本 毅

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、日常生活の社会学者アーヴィン・ゴフマンの『Encounters: Two Studies in the Sociology of Interaction』に収められた二つの論文『Fun in Games』と『Role Distance』の輪読を通じて、日常生活を社会学することの意義を学ぶ。この二つの論文で取り上げられるのは、まず『Fun in Games』で「なぜ我われは（トランプやスポーツなどの）ゲームを面白いと思うのか」、次に『Role Distance』で「我われが授業やサークルといった社会的場面において（学生や先輩／後輩といった）役割を演じるなかで、演じていない〈本当の〉自分はどこに見出されるのか」ということである。この二つの論点の間には一見何の関係もないようにみえるが、じつは重要な共通点を見いだすことができる。それは、一つには我われがどうやってゲームや社会的場面のリアリティ、言い換えれば〈空気〉を作り上げているかという問題であり、二つ目にはそのような〈空気〉の中で、どうすれば「〈空気〉が読めない人」になることなくゲームの勝利者や本当の自分といった「個人」になれるのか、という問題である。日常生活の中で、社会の一員として振舞うと同時に一個の個人であることを、我われはどうやって成し遂げているのか。ゲームや社会的場面における演技といった身近な例を豊富に取り上げて議論しながら、日常生活を社会学的に探究するセンスを身につける感覚を習得する。

到達目標 / Attainment Objectives

・身近な日常生活で行われる些細な行為を、社会学的な事象として捉える感覚を身につける。
・社会学の基本文献の内容を理解する程度の英文読解力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション「Erving Goffmanの社会学」	講義内容の紹介、進め方の決定等
2	『Fun in Games』（1）	輪読
3	『Fun in Games』（2）	輪読
4	『Fun in Games』（3）	輪読
5	『Fun in Games』（4）	輪読
6	『Fun in Games』（5）	輪読
7	『Fun in Games』（6）	輪読
8	『Fun in Games』（7）	輪読
9	『Role Distance』（1）	輪読
10	『Role Distance』（2）	輪読
11	『Role Distance』（3）	輪読
12	『Role Distance』（4）	輪読
13	『Role Distance』（5）	輪読
14	『Role Distance』（6）	輪読
15	『Role Distance』（7）	輪読

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に出席点と授業への取り組み状況を評価するが、レポート等の提出により加点する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

訳出は主に一行ずつの輪読形式で行うが、わからない場合はパスしてもかまわない。量をこなすことによって、皆で徐々に英文読解に慣れてゆくかたちをとる。

教科書 / Textbooks

Erving Goffman（1961）Encounters: Two studies in the sociology of interaction. Bobbs-Merrill.
適宜使用部分をコピーして渡すため、購入の必要はない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

英和辞書があるとよい。英英辞書もあればなおよし。

外書講読（SC） §　外国語文献研究（SC）

15498

担当者名 / Instructor　藤井 友紀

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

デュルケムは、19世紀末、当時の自殺統計をもとに『自殺論』を著しました。そこで示された彼の分析・理論は、現在でも社会分析に重要な役割を果たしています。

翻って現在、日本では、中高年男性の自殺率の増加やリストカット症候群など、自殺が重要な社会問題となっています。

この講義では、『Durkheim et le suicide』を通して『自殺論』の概要と現在のフランスの自殺の傾向について理解を深めつつ、『自殺論』の現代的意義や日本の自殺傾向についても考えていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

①辞書を有効に利用し、フランス語で書かれた文献の概要を正確に把握できるようになる。
②デュルケムと彼の自殺分析について基本的な理解を得る。
③社会理論についての知識を下敷きに、自分なりに社会現象を分析する視野を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	①講義の方針と計画に関する説明、受講者の語学力の確認、予習範囲および担当箇所の分担。 ②デュルケムと『自殺論』に関する説明。
2	introduction 1.Le suicide, un fait social①	
3	1.Le suicide, un fait social②	
4	1.Le suicide, un fait social③	
5	1.Le suicide, un fait social④	
6	2.Que valent les statistiques du suicide?①	
7	2.Que valent les statistiques du suicide?②	
8	2.Que valent les statistiques du suicide?③	
9	2.Que valent les statistiques du suicide?④	
10	3.Fait divers et fait socioal①	
11	3.Fait divers et fait socioal②	
12	4.Le suicide aujourd'hui①	
13	4.Le suicide aujourd'hui②	
14	Conclusion①	
15	Conclusion②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業への出席、予習、議論への参加の具合によって決定します。 ただ黙々とテキストを読み進めるだけでなく、各自が疑問に思ったことなどを積極的に議論していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・受講者は一通りフランス語の基本文法を修得していることが望ましいですが、意欲があれば初心者でも受講可能です。
・一回の予習範囲は少なくはありませんが、読みやすく、図表のページも多いので、辞書を片手に頑張って読んでみて下さい。
・受講者の数や語学力によっては、予習範囲を分担制にし、負担を軽減する場合もあります。

・また進度に応じてレジュメを作成し、それまでの議論の要点を纏めるとともに、疑問点を整理する時間を設けます。
・あまり気負わず、率直な意見交換を通して講義を活性化していきましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Durkheim et le suicide	C. Baudelot, R. Establet／Paris : Pr. Univ. de France ／978-2-13-056018-0／

コピーを用意しますので、購入の必要はありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Le suicide : étude de sociologie	Emile Durkheim／Paris : Pr. Univ. de France ／／
自殺論	デュルケム著、宮島喬訳／中央公論新社／／上記の邦訳版

事前に読んでおくことが望ましいですが、随時解説を加えていきますので、未読でも大丈夫です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外書講読（SD） §　外国語文献研究（SD）

13345

担当者名 / Instructor　吉田 幸治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、ランドル・コリンズによる社会学の入門書、Sociological Insight～An Introduction to Nonobvious Sociology～（『社会学的洞察力～脱常識の社会学への招待～』）を講読する。副題のタイトルにあるnonobvious（脱自明的/脱常識的）には、「わたしたちが社会の中で当たり前とみなしている知識、あるいはそうした理解のしかた（物事を自明視する理解のしかた）から脱する」という意味が込められている。そして著者は、そのための知的トレーニングとして、「社会学を学ぶ意義」を挙げるのである。序文において、著者は以下のように言っている。

「社会学はたしかに、この世界を動かしている重要な原理のいくつかを認識している・・中略・・しかも これらの原理は、私たちの日常的信念の表層よりも深いところで働いている。」（テキスト序文より）

本講義では、この「重要な原理」が示されている第1章「合理性の非合理的基盤」と第2章「神の社会学」を輪読することによって、これまでの社会学が培ってきた社会への脱自明的なものの見方を理解していく。すなわち、近代以降の私たちの社会を形作っている「合理性」の力は、歴史的にも実際的にも非合理的な基盤に支えられていること（M.ウェーバーらによる洞察）、あるいは人間集団を成立させるためには共通の感情と理念を生み出す何らかの非合理的メカニズムが必要とされ、そのメカニズムは宗教の本質を問うことによって明らかになること（E.デュルケムらによる洞察）などを理解していく。

以上のように、このテキストを読み進めることによって、近代社会における合理性の問題や、社会の秩序形成と宗教の関係など、社会の基本的なあり方を把握するうえで重要な論点が考察可能となる。講義ではそれらの考察を通して、社会学を学ぶ際に必要な基礎知識や発想の理解を深めることを目的としたい。なお、テキスト中で言及されているM.ウェーバーやE.デュルケム等の社会学に関する重要な基礎概念については、講義中で適宜解説を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

テキスト本文において論じられている内容の正確な訳出と、社会学的基礎知識の理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	第1回授業時において、次回の翻訳担当者を決定。以下、毎回翻訳担当者を決め、受講者全員によるテキストの読み合わせを進めながら、適宜内容の解説や議論を行う。ただし受講者の人数や講読の進度によって、読み合わせの方法や輪読スケジュールの変更もありうる。
第2回～8回	第1章　合理性の非合理的基盤（The Nonrational Foundations of Rationality）を輪読。	
第9回～14回	第2章　神の社会学（The Sociology of God）を輪読。	
第15回	講義総括	読み進めてきたテキストの内容について、総括を行う。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

事前に社会学史に関する簡単な概説書（入門書程度でよい）を講読しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況、担当箇所の翻訳、講義期間中に実施する小レポートによって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進めるが、その進め方については、第1回講義時に受講生と協議を行う。原則的には輪読形式を予定している。なお、受講にあたっての最低限のルールとして、自分の翻訳担当箇所だけでなく、他の担当者分の箇所も必ず読んでくることが求められる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Sociological Insight	Randall Collins ／Oxford University Press／／

上記テキストのうち、Chapter1.The Nonrational Foundations of Rationality、及びChapter2.The Sociology of Godを講読する。なお使用する部分は講義で配布するので、テキストを購入する必要はない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新睦人 他著／有斐閣（有斐閣新書） ／4641088578 ／
社会学のあゆみパート2～新しい社会学の展開～	新睦人 他著 ／有斐閣（有斐閣新書） ／4641090467 ／
リフレクション～社会学的な感受性へ～	野村一夫 著 ／文化書房博文社 ／4830106964 ／

現代社会学講義　　佐藤慶幸 著 ／有斐閣(有斐閣ブックス)／4641086281 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外書講読 (SE) § 外国語文献研究 (SE)

15585

担当者名 / Instructor　甘 琳樺

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

中国は現在目まぐるしい変化を遂げつつあります。そんな日進月歩の社会の表層を追いかけることを中国語学習の目的と考えているわけではありませんが、本テキストはたまたま中国の最新情報が紹介されています。当世学生気質から、日常生活に対する感覚まで内容は雑然と多方面にわたっており、これらを読むことで現代中国の実態の一端が窺えることでしょう。また、使われている文体も平易で日常的なものです。全体で10課ですから、3回で1課という進度で進めていきます。時間に余裕があるようなら、関連した資料やビデオ等も取り入れて、理解を深めることが出来たらと思っています。一緒に楽しく学んでいきましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

中国語検定2級、3級レベルの実力を身につけることを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

中国語学習歴のある学生の参加を望んでいます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第1課 校园生活	キャンパス・ライフについて
第2回	第1課 校园生活	キャンパス・ライフについて
第3回	第1課 校园生活	キャンパス・ライフについて
第4回	第2課 难关	大学受験について
第5回	第2課 难关	大学受験について
第6回	第2課 难关	大学受験について
第7回	第4課 爱情·亲情·友情	人件関係について
第8回	第4課 爱情·亲情·友情	人件関係について
第9回	第4課 爱情·亲情·友情	人件関係について
第10回	第5課 人是铁，饭是钢	飲食に関する風俗習慣について
第11回	第5課 人是铁，饭是钢	飲食に関する風俗習慣について
第12回	第5課 人是铁，饭是钢	飲食に関する風俗習慣について
第13回	第6課 消费新倾向	暮らしぶりやものの考え方について
第14回	第6課 消费新倾向	暮らしぶりやものの考え方について
第15回	第6課 消费新倾向	暮らしぶりやものの考え方について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『中国は今』	孟　広学・本間　史／白水社／／

参考書 / Reference Books

中日辞書を持参すること。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（自主企画研究）SA 「学生の意見10（より良い社会への提言づくり）」

本文無し

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SB） §　企画研究（自主企画研究）（SB）

14513

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】音楽・エンタテイメント産業の多面的研究
日本にレコード会社が設立されて100周年になるが、レコード産業を軸にした
音楽ビズネスは大きな曲がり角に直面している。アーティストの発掘を川上とするなら
音楽制作・販売は通過点で、今まで川下に位置づけられていたキャラクターグッズの販売に至るまで、経営哲学及び事業展開は「380度発想」に大きく舵をきることになった。

到達目標 / Attainment Objectives

キャンパス・ビジネスのモデルケースとして仮想「多面的ヒット創出集団」を発足させ、各自が業務を分担し、音楽・エンタテイメント産業界に対し学習成果をアピールすることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。産業界の現状と課題を理解し、「ヒット創出集団」を立ち上げる。	
2	日本のインデペンデントレーベルの歴史と現状を研究。	
3	音楽関連企業のオーディションの実態を研究。	
4	集団名、定款の作成。組織づくりと分担の決定。予算の作成。	
5	学外の関連団体、企業との連携に着手。	
6	アーティストの発掘・オーディション実施計画の作成。自薦も可。	
7	オーディションの運営に着手。有効な告知、選考法などを討議。	
8	学外の関連団体、企業との提携の研究と着手。	
9,10	視聴会の実施と研究発表。	
11	アーティストの決定。	
12	市場調査及び商品化・プロモーション計画の作成。	
13	企業と交流会の設定・実施（見学を含む）。	
14,15	学内外での活動成果報告	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学生らしい自由闊達な発想を生かし、積極的な参加を望みます。テーマ別に実態調査を行い、研究の成果を学外へ向けて発信することで、存在をアピールしたいと考えています。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

株式会社フォーライフ　エンタテイメント及びインディーズレーベル協議会のHPを閲覧しておいてください。

その他 / Others

企画研究（SC） § 企画研究（自主企画研究）（SC）

14514

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いえづくり・まちづくりの分野で女性の生き方や家族の変化を踏まえた設計思想を学び、並行して、現在取り組まれているコレクティブ・ハウジングなどのユニークな住まい方について当事者ヒアリングや現地調査を行い、その活動と成果の評価を試み、今後の住まい方を提案する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の現実に欧米に経験を持ち込むことには困難がある。が、現状を評価する重要な視点を提供してくれていることは間違いない。その視点を獲得することが第一の目標である。次に、その視点から、身の回りの居住空間を見直し、当事者や専門家の意見を聞きながら、大きな課題となりつつある高齢者の自立・自律生活をささえる住まいや地域のありかた、さらにその作り出し方について、自分の意見をもてるようになることが第二の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族・女性・地域・まちづくりなどに関連する科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ドロレス・ハイデン『アメリカン・ドリームの再構築ー住宅・仕事・家庭生活の未来ー』にみる設計思想を学ぶ　その1	変わる男女の役割・家族形態・仕事・空間
2	ドロレス・ハイデン『アメリカン・ドリームの再構築ー住宅・仕事・家庭生活の未来ー』にみる設計思想を学ぶ　その2	ジェンダー・公共空間・生活様式
3	ゲスト・スピーカー：働く女性と住まいかた　Hさんの設計思想と住まい方	ライフスタイル・コーポラティブハウス・いえづくり
4	1－3のまとめー個人の生きやすさをささえる住まいとは	個人・家族・ライフスタイル・
5	『女性のための草の根まちづくり』からーノルウェーの取り組みに学ぶーその1	地域計画・女性参画・民主主義と協働
6	『女性のための草の根まちづくり』から、ノルウェーの取り組みに学ぶーその2	地域計画・女性参画・民主主義と協働
7	子どもと市民意識ーまちへの関心ースウェーデンの社会科教科書に学ぶ	子ども・市民教育・地域を見る目
8	ゲスト・スピーカー：ノルウェーの住まいづくり	北欧のいえずくり・まちづくり
9	5－8のまとめー北欧のまちづりいえづくりから何を学ぶかー	市民・参加・協同・パートナーシップ
10	高齢女性のいえづくりー必要性と現状ーその1	単身・ケア・高齢女性・協同性・地域
11	高齢女性のいえづくりー必要性と現状ー	単身・ケア・高齢女性・協同性・地域
12	ゲスト・スピーカー：高齢女性のグループ・リビングに取り組む女性設計者	集まってつくる住まい、コーポラティブ・ハウス、グループ・リビング
13	ゲストスピーカー：高齢女性のグループ・リビングに取り組む当事者	自立と協同・単身・高齢女性
14	10－13のまとめ	自立と協同の住まいとすまいづくりの現在
15	全体のまとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	三回のまとめ二対応するレポート、および全体のまとめに対応するレポートを評価対象とする。
平常点評価	50 %	出席状況、およびディスカッションでの積極性を評価対象とする。

企画研究には自主性・能動性がもとめられるのはもちろんだが、自主研究を支える講義や相互のディスカッションへに必ず参加してほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SD） §　企画研究（自主企画研究）（SD）

14515

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映画興行における宣伝の重要性について、前期は、具体的な作品の事例研究、後期は、自分たちで選んだ作品の上映会を企画運営し、実践的に研究する。なお、上映作品は日本映画、必ず監督かプロデューサーをゲストとして招いて行う。

到達目標 / Attainment Objectives

映画興行における宣伝戦略の重要性の理解。宣伝戦略の立て方の理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	映画興行の現状	
2	映画の宣伝とは	
3	サンプル作品の具体的な宣伝方法について	
4	配給会社の宣伝プロデューサーによる講義	
5	後期上映作品の選定	
6	上映決定作品の宣伝戦略の検討1	
7	上映決定作品の宣伝戦略の検討2	
8	上映会に向けて　役割分担の決定	
9	宣伝チラシなど、宣伝物の作成1	
10	宣伝チラシ等、宣伝物の作成2	
11	上映会の動員対策、当日の役割分担、アンケートの準備	
12	上映会のまとめ　アンケート分析	
13	ゼミナール大会にむけての発表準備	
14	ゼミナール大会のまとめ	
15	論文作成のうちあわせ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業スケジュールは、ゲストの予定ならびに上映作品、上映会の日程等で変更することがあり得る。基本的に上映会は、11月の上旬が望ましい。京都シネマの協力で、作品等の選定は行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	ゼミナール大会への報告レポートで、評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SE） §　企画研究（自主企画研究）（SE）

14516

担当者名 / Instructor　赤井 正二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会学」は面白そうだけど何かいまいち全体がよく見えないという人が多いと思いますが、それは実際「いろいろな社会学」があるからです。柳田国男は民俗学者として有名ですが、その多くの著作は「社会学」といってもよいものだし、とくに『明治大正史世相篇』は、日本の社会学の古典と言えます。

この企画研究では、この本を輪読していきます。新聞に連載された記事がベースになっているので、さっと読んでしまうこともできますが、同時に味わい尽くせない魅力を持っています。色や音の感じ方、外食の普及、風景の感じ方、都市と田舎、旅行の変化、結婚相手の見つけ方、こういう内容を扱っているからこそ、この本が生きた社会学だと見ることもできるのです。この企画研究から「こういう社会学もある」ということを学んでもらいたい。

実際テキストをみんなで読みながら、解説や議論をして丁寧に進めていきます。

基本的な到達目標は、古典的なテキストをじっくり読む力を養うことです。

到達目標 / Attainment Objectives

柳田国男著『明治大正史世相篇』の精読を通して、社会学的研究方法の理解を深めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	柳田国男とはどんな人か？	生涯
2	柳田国男の時代	民俗学と社会学
3	第1章 眼に映ずる世相	1. 新色音論　2. 染物師と禁色　3. まぼろしを現実に　4. 朝顔の予言　5. 木綿より人絹まで　6. 流行に対する誤解　7. 仕事着の捜索　8. 足袋と下駄　9. 時代の音
4	第2章 食物の個人自由	1. 村の香　祭りの香　2. 小鍋立と鍋料理　3. 米大切　4. 魚調理法の変遷　5. 野菜と塩　6. 菓子と砂糖　7. 肉食の新日本式　8. 外で飯食う事
5	第3章 家と住み心地	1. 弱々しい家屋　2. 小屋と長屋の修錬　3. 障子紙から板ガラス　4. 寝間と木綿夜着　5. 床と座敷　6. 出居の衰微　7. 木の浪費　8. 庭園芸術の発生
6	第4章 風光推移	1. 山水と人　2. 都市と旧跡　3. 海の眺め　4. 田園の新色彩　5. 峠から畷へ　6. 武蔵野の鳥　7. 家に属する動物　8. 野獣交渉 5　故郷異郷
7	第5章 故郷異郷	1. 村の昂奮　2. 街道の人気　3. 異郷を知る　4. 世間を見る眼　5. 地方抗争　6. 島と五箇山　6　新交通と文化輸送者
8	第6章 新交通と文化輸送者	1. 人力車の発明　2. 自転車村に入る　3. 汽車の巡礼本位　4. 水路の変化　5. 旅と商業　6. 旅行道の衰頽
9	第7章 酒	1. 酒を要する社交　2. 酒屋の酒　3. 濁密地獄　4. 酒無し日　5. 酒と女性
10	第8章 恋愛技術の消長	1. 非小笠原流の婚姻　2. 高砂業の沿革　3. 変愛教育の旧機関　4. 仮の契り　5. 心中文学の起こり
11	第9章 家永続の願い	1. 家長の拘束　2. 霊魂と土　3. 明治の神道　4. 士族と家移動　5. 職業の分解　6. 家庭愛の成長
12	第10-12章 生産と商業、労力の配賦、貧と病	1. 本職と内職　2. 農業の1つの強味　3. 漁民家業の不安　4. 生産過剰　5. 商業の興味及び弊害
13	第13-14章 伴を慕う心、群を抜く力	1. 零落と貧苦　2. 災厄の新種類　3. 多くの病を知る　4. 医者の不自由　5. 孤立貧と社会病
14	第15章 生活改善の目標	1. 英雄待望　2. 選手の養成　3. 親分割拠　4. 落選者の行方　5. 悪党の衰運
15	いま『世相篇』から学ぶことができる事	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治大正史〈世相篇〉』	柳田国男著／(講談社学術文庫)／ISBN-10: 4061590820／講談社; 〔新装版〕版 (1993/07)

参考書 / Reference Books

授業の中で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SF） §　企画研究（自主企画研究）（SF）

14517

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：京のまち・参加のデザイン実践講座
京都で取り組まれている「参加のデザイン」に参加することで、実践的に参加のデザインを学ぶ演習です。
具体的な実践活動は、下記の通り、「場づくり・ものづくり」系と「政策系」のふたつ（どちらも、乾が関わっているプロジェクト）。受講者は希望により二つの班にわかれて活動します。具体的な取り組み方は受講者と相談のうえ決定。
①長屋を活用したシェアハウス計画（学生と地域をつなぐ）
町家所有者と協力して、町家（長屋）改造による「地域共生型学生居場所づくり」を行い、実践活動を通じて学生が地域に入ることの効果を検証する
②市民参加を考える市審議会支援隊
乾が座長をつとめている「市民参加フォーラム」と「京都市地域コミュニティ活性化を考える懇話会」の活動と連携しつつ（可能な限り委員会に参加し）、学生の立場から以下のような課題を検証し、その成果を委員会に提言する（市政に活かす）
・京都市の市民参加の仕組みの検証・再検討
・審議会における市民参加の検証
・地域コミュニティにおける参加の活性化と行政の役割　など

到達目標 / Attainment Objectives

活動に関わり、体験を通じて「現状を理解する・課題と可能性を考える・解決策（向かうべき方向性）を提起する」力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	課題の概説＜町家プロジェクト編＞	京都・町家・地域・学生・事業化
2	課題の概説＜参加の政策編＞	京都・地域コミュニティ・市民活動・市政参加
3	課題の解題・チーム編成・進め方の検討	
4	課題の展開（1）	チーム毎学習活動
5	課題の共有（1）	全体中間発表・議論
6	課題の展開（2）	チーム毎学習活動
7	課題の共有（2）	全体中間発表・議論
8	課題の展開（3）	チーム毎学習活動
9	課題の共有（3）	全体中間発表・議論
10	課題の展開（4）	チーム毎学習活動
11	課題の共有（4）	全体中間発表・議論
12	課題の展開（5）	チーム毎学習活動
13	課題の共有（5）	全体中間発表・議論
14	成果の発表	
15	成果の発表	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	継続的に活動したかどうか・積極性

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

二つのテーマとも、以下のような進め方をするため、講義時間以外に、会議の傍聴やヒアリング、検討会への参加等、実践活動のための時間を使います。そのことを理解して参加してください。
①町家所有者と企画研究メンバーで検討委員会をつくり、企画案を作成する
②年間を通じて定期的に開催される上記委員会（座長：乾）に傍聴者として参加し、委員会と課題を共有しつつ、調査・検証作業に取り組む

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

適宜指示します

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示します

その他 / Others

企画研究（SG） § 企画研究（自主企画研究）（SG）

20283

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

関西テレビ放送（関テレ）を対象に、関西ローカルにおけるテレビ放送の現状と将来についての考察を行う。デジタル化において、ローカル・コンテンツはその重要度を増している。その一方で、ローカル・コンテンツの中身に関しては、まだまだ模索が続いている。関西という地から、テレビのローカリティを考えるのがこの授業の狙いである。

到達目標 / Attainment Objectives

最終的に関西ローカル放送局の存在を理解し、学生の目線による将来像に関する一定の見解を関西テレビ側にプレゼンすることを目標とする。
中間総括と最終課題の内容は、4月以降に追って指示する。
09年度における主要なテーマは、以下の通り。
1．東京一極集中のテレビ状況における関西ローカルのあり方を考察。
2．関西ローカルの特色を生かしたテレビ番組の考察。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　授業概要説明及びテレビにおける関西とは	
2	関西テレビ担当者とディスカッション1	
3	関西ローカルについて	
4	関西テレビ担当者とディスカッション2	
5	テレビ番組の関西らしさとは	
6	関西テレビ担当者とディスカッション3	
7	関西タレントと関西らしさ	
8	前期総括プレゼンテーション	
9	関西テレビ担当者とディスカッション4	
10	最終課題内容発表・討議	
11	関西テレビ担当者とディスカッション5	
12	最終課題内容発表・討議	
13	関西テレビ担当者とディスカッション6	
14	最終課題内容発表・討議	
15	最終プレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	中間総括と最終課題両方の提出が、単位認定の条件。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テレビの制作現場ではなく、ローカル・テレビ局の現状と今後、あるいはテレビ・メディアにおけるローカリティに関心のある学生を対象とする。単にテレビ局にあこがれを持つのではなく、テレビ局が抱える問題に対して、学生独自の視点を持って積極的に考察を深めることが求められる。関西だけでなく、関西以外を出身とする学生の視点も重要な問題意識に発展するので、積極的な参加を期待する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SH） §　企画研究（自主企画研究）（SH）

14518

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2006年度から実施されていた現代GP「地域活性化ボランティア教育の深化と発展」の一部を継承し、企画研究として新たにスタートさせる。内容は、学生のボランティアに関する知識、実践、地域発信の3者を総合したボランティア教育研究。現代GPで行った知識、実践、発信の連携を基礎としながら、少人数の企画研究の形式において継続していくことを目的としている。学生は、ボランティアの知識修得をまず行い、地域におけるボランティア活動の実践体験を通じてボランティアと関わりを深める。そして、これらの知識・体験をふまえた上で、地域におけるボランティア活動の情報発信を行う。

本研究には、ボランティアセンターの協力を得、知識修得には学生アドバイザーを活用。学生が学生に対する知識の修得に参加することで、学生アドバイザー自身の学びにもつながる「ピア・エディケーション」を行う。また、ボランティア実践は、ボランティアセンターを通じて地域の活動を知り、各人がボランティア実践を行う。最後に、ボランティアに関する情報発信は、地域FM局「京都三条ラジオカフェ」の番組枠を使い、受講生たち自身が地域への情報発信を行う

到達目標 / Attainment Objectives

受講学生はボランティアの総合的な学びと地域への還元方法を修得できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	学生アドバイザーからの前期ボランティア・レクチャー	
2	教員とのディスカッション	
3	ボランティア団体取材1	
4	ボランティア団体取材2	
5	番組作成（スタジオ収録・編集作業）1	
6	番組作成（スタジオ収録・編集作業）2	
7	番組作成（スタジオ収録・編集作業）3	
8	学生アドバイザーからの後期ボランティア・レクチャー	
9	教員とのディスカッション	
10	ボランティア団体取材1	
11	ボランティア団体取材2	
12	番組作成（スタジオ収録・編集作業）1	
13	番組作成（スタジオ収録・編集作業）2	
14	番組作成（スタジオ収録・編集作業）3	
15	総括プレゼン	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	2／3以上の出席と取材、番組作りへの参加は必須。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ボランティアに感心が有る学生、情報発信に関心のある学生、ピア・エデュケーションに関心ある学生など、さまざまな関心をもち、積極的に参加できる学生はぜひ応募してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SI） § 企画研究（自主企画研究）（SI）

20284

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

VISUAL BASICによるプログラミングの学習を通して、情報処理リテラシーをさらに発展させ、応用能力を習得する。

到達目標 / Attainment Objectives

自作のCAIプログラムを作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	VISUAL BASICの特徴と構造	プログラム、イベント・ドリブン、コード
2	プログラミングの基本手順	フォーム
3	プログラミングの基本手順	プロパティ
4	問題の提示方法	デバッグ、ビルト
5	問題の提示方法	ボタン
6	問題の提示方法	button
7	問題の提示方法	textbox
8	反応の記録	label
9	反応の記録	Val関数、Rnd関数
10	課題プログラムの作成	Format
11	課題プログラムの作成	Int関数
12	課題プログラムの作成	Int関数
13	課題プログラムの作成	If文、配列
14	課題プログラムの作成	サブルーチン
15	課題プログラムの作成	ファイル操作

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

隔週通年で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストとなる資料を配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

//www.ritsumei.ac.jp/~monden

その他 / Others

企画研究（SJ） §　企画研究（自主企画研究）（SJ）

14519

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

音楽のあり方を通じて、「現代（の特徴）を明るみに出すこと」を目的としています。注意！音楽史における「現代」（現代音楽）の探求ではございません。音楽を楽しむ上での手段、ネットワーク、「場」等などの現代的姿を見て、現代というモノを解読する試みです。

当然毎回のようにさまざまなジャンルの音楽を聴くことになります。というか、一般的にいった「ジャズ、ロック…」など様式上のジャンルではなく、「これが音楽か？？」というジャンル越えを多々経験していただくことになると思います。最終的には、「音楽とはそもそも何か？」という問いに立ち返る訓練をつうじ、哲学する心を磨きます。

到達目標 / Attainment Objectives

音楽とは何か？という問いが自分の中に生まれること
音楽を通じ、文化的「食わず嫌い」を矯正すること
20世紀というものを鳥瞰できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「音楽とは何か」とは何か	音楽
2	音楽を成立させる、場と手段の考察	楽器　演奏　メディア
3	音楽の時代区分と歴史区分の関係	現代　近代　音楽史
4	20世紀とは何か1　19世紀「世界」の終焉	19世紀　世紀末
5	20世紀とは何か2　20世紀の哲学	20世紀　現代
6	20世紀と音楽1ラジオ	ラジオ
7	20世紀と音楽2レコード	レコード
8	20世紀と音楽3大衆	ポップ　軽音楽
9	20世紀と音楽4民族	民族音楽
10	20世紀と音楽5電気	電気楽器　音響製品
11	20世紀と音楽6電子	電子楽器　デジタル
12	20世紀と音楽7アバンギャルド	前衛　アバンギャルド
13	20世紀と音楽8ノイズ	ノイズ　アンビエント
14	「21世紀の音楽考」	未来派
15	「音楽における現代とは何か」	時間

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の議論を通じて芽生えた考えを 最終的には「成果」としてまとめます

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

とにかく食わず嫌いをする人はだめです
音楽が好きというより　音楽について考えることが好きな人を求めます

教科書 / Textbooks

ありません

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
響きの考古学	藤枝守／音楽の友　／ISBN4-276-33084-X／

他とにかく多数紹介していきます

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

いろいろあり

その他 / Others

企画研究（SK） §　企画研究（自主企画研究）（SK）

20285

担当者名 / Instructor　景井 充、坂田 謙司、山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本企画研究のテーマは、日本の高等教育のあり方に対する批判的検討を行うことである。その際、抽象的な議論だけおこなっても意味がないので、産業社会学部の学際性という学部特性に即した形での「学ぶ主体」とはどのようなものなのかについて、その中身、その形成、そしてそれを実現する具体的な仕掛けのあり方などを論点としながら、学生と共にインテンシブな学習と検討を重ね、実際にその開発に取り組む（産社らしいアクティブ・ラーニング！）。具体的には、大学における学際的教育の取り組みの現状についての調査を踏まえ、大学におけるピア・エデュケーションの可能性を検討することや、「学ぶ主体」を形成する仕掛けとして学生の自主活動・自治活動を脱構築・再構築することなどに取り組んでみたいと考えている。

授業における具体的な活動には、文献や資料を素材とする学習や討論に加えて、他大学への視察、シンポジウムの企画・開催も含めたいと考えている。

前半期（前期セメスター）は、基礎的な資料と文献を素材とする学習と、他大学への視察や専門家へのインタビューを含めた調査活動を行い、シンポジウムへと結実させる。基礎的な文献・資料としては、「学ぶ主体」の内容やその形成を構想することに資する文献および資料を取り上げる。調査・視察の対象としては、九州大学の21世紀プログラム課程など先進的な学際的教育に挑戦している大学やその関係者、また学生の主体的な学びの具体的な中身となる学習理論（教育理論に対応する）や発達科学（発達心理学や学習心理学、青年期研究など）の諸研究・実践に取り組んでいる大学や研究者を考えている。以上の取り組みを総括するものとして、7月中旬頃にシンポジウムを企画・開催したい。

後半期は、前期の活動をフォローする形で文献・資料等を通じた学習・検討および調査・視察活動を継続しつつ、発信・提言能力を育成する観点から、公刊を含めたなんらかの形で本企画研究の成果を社会的に提案することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

本企画は2年間の継続事業として構想しているが、今年度の最終的な到達目標は、シンポジウムや視察の成果を学部内外に向けて広く継続的に情報発信し、また積極的な提言を行うことである。何らかの形で成果を公刊することも視野に入れている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ・活動内容の検討（教員より話題提供および討論）	
第2回	テーマ・活動内容の決定（分野と分担の決定、日程等の決定）	
第3回	シンポジウム開催準備①・調査活動準備（調査先の特定、調査内容の検討など）①	
第4回	シンポジウム開催準備②・調査活動準備①・事前学習①	
第5回	調査活動準備②・事前学習②	
第6回	調査活動①・事前学習③	
第7回	シンポジウム開催準備③・調査活動②・事前学習④	
第8回	シンポジウム開催準備④・調査活動③	
第9回	シンポジウム開催（於：以学館）	
第10回	シンポジウムの総括①、後半のテーマ・活動内容について検討・確定	
第11回	シンポジウムの総括②、事後学習①	
第12回	事後学習②	
第13回	事後学習③、成果の取りまとめ・成果公表に向けた準備①	
第14回	事後学習④、成果の取りまとめ・成果公表に向けた準備②	
第15回	成果公表に向けた最終準備、全体の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

産業社会学部において、大学・学部教育それ自体が検討される機会は今までなかった。大学における学びのあり方について関心を持つ学生の参加を広く求めたい。大学・学部に対する“消費者主権的依存”状態からも、シニカルな傍観者的態度からも自由になって、大学での学びを自分自身にとって意義あるものとしたいと思う学生は、ぜひ参加してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SL） §　企画研究（自主企画研究）（SL）

14609

担当者名 / Instructor　景井 充、高嶋 正晴、中西 仁

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】大学とNPOの協働による地域活性化（京北プロジェクトを中心に）
【概　要】京都市京北町をフィールドワークの対象地として、納豆づくりや、その他、
当該地域での農林業活動を体験し、それらを通じて地域の生活・産業を具体的に知る
とともに、京北地域の課題と活性化に向けての可能性について調査研究を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

本プロジェクトの活動を通じて、大学とNPOの協働による地域活動について、各人の
関心・テーマからフィールドワークや調査研究を行い、その成果を学内・学外で発表する
とともに、年度末に成果報告書としてまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに　～京北プロジェクトの活動の概要および予定の確定～	
第2回	京北の概要　～現地視察から地域的特性を知る～	
第3回	京北の農業と納豆づくり①　～圃場の整備と大豆種まき体験～	
第4回	京北の林業と栃の木植林活動①　～植林現場の視察～	
第5～7回	京北の地域活性化活動の実施　～地域・NPO・大学の協働で～	（7月10日、学内で第2回「京北納豆フェスタ」開催とその企画策定・準備、 また、同下旬には、京北での「カブトムシドーム」イベントのサポートも）
第8回	京北の農業と納豆づくり②　～大豆収穫体験～	
第9回	京北の歴史文化資源　～古城調査の実践から～	
第10回	京北の農業と納豆づくり③　～納豆作りと藁つと作りを体験～	
第11回	京北の林業と栃の木植林活動②　～栃の木植林を体験～	
第12、13回	大学の地域貢献事例の視察　～本学他学部の取組を中心に～	
第14、15回	学内外での活動成果報告（11、12月を予定：納豆フォーラムなど）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義への出席、活動への参加、および学内外のフォーラムでの成果報告など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

京北プロジェクトを中心として、フロンティア協会がアレンジする各種現地活動や
ボランティア活動への積極的参加、とりわけ、毎年の納豆フォーラムや栃の木
フォーラムなど学内外での成果・活動事例の発表への参加を望みます。
（※なお、フィールドワークや地域行事などは、土曜日、日曜日に実施することが
多いので、なるべく多くの活動への参加ができるよう、留意して下さい。）

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
聞き書京都の食事（日本の食生活全集　第26巻）	「日本の食生活全集 京都」編集委員会（編）／農山漁村文化協会／／
伝承写真館　日本の食文化　第8巻　近畿	農文協（編）／農山漁村文化協会／／

納豆本―やっぱり納豆が好き―　／フロム出版／9784894472037／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・京北プロジェクトのブログHP「京北プロジェクト」 http://ritskeihoku.kyo2.jp/
・特定非営利法人フロンティア協会ホームページ http://www.nethousing.co.jp/frontier/
・京北商工会ホームページ http://keihoku.kyoto-fsci.or.jp/
など

その他 / Others

京北プロジェクトの2008年度活動を報告する掲示板が以学館1Fにあります。
納豆フェスタや納豆フォーラムを報じる新聞記事なども掲示されています。
ブログやHPとともに、2009年度の活動の参考としてください。

企画研究（SM） § 企画研究（自主企画研究）（SM）

14610

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

Kielburger兄弟らによって執筆されたカナダにおけるボランティア活動入門書、TAKE ACTION:A GUIDE TO ACTIVE CITIZENSHIPおよびTAKE MORE ACTIONを翻訳を試みたうえで、日本版テイク・アクションを開発・作成していくことを目指す。

日本のあらゆる若者たちを、市民的な行動へと誘うテキストとして、いかなるコンテンツが好ましいかを、上記テキスト読解・分析のうえ、参加者とディスカッションを進めていく、それと並行して、その他参考文献の調査、NPOへのインタビュー調査などフィールド調査も実施していく。

到達目標 / Attainment Objectives

1）英語読解力を増進する。
2）日本版テイク・アクションを開発することによって、自ら、創造的な力量を獲得する。
3）若者たちの社会的活動を活性化しているNPOを調査することにより、ネットワーク形成をめざすとともに、調査能力の獲得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テキストの紹介とメンバー紹介	TAKE ACTION:A GUIDE TO ACTIVE CITIZENSHIP TAKE MORE ACTION
第2回	TAKE ACTION：PATR1 検討会	How to Get Involved
第3回	TAKE ACTION：PATR2 検討会	The How-To Guide
第4回	TAKE ACTION：PATR3 検討会	Where You Can Get Involved---Everywhere
第5回	TAKE ACTION：PATR4 検討会	Tackling Social Issues
第6回	TAKE ACTION：PATR5 検討会	Sources and Resources
第7回	テラ・ルネッサンスについて学習会	テラ・ルネッサンスの活動・組織・スタッフ
第8回	鬼丸昌也著『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』学習会	鬼丸氏のライフヒストリーの分析
第9回	テラ・ルネッサンスとの交流	日本版テイク・アクションの設計と作業分担
第10回	夏休みに実施するNPOインタビューのまとめ・分析　その1	日本におけるパワフルNPOの調査
第11回	夏休みに実施するNPOインタビューのまとめ・分析　その2	日本におけるパワフルNPOの調査
第12回	日本版テイク・アクションの作成　その1	テキスト開発
第13回	日本版テイク・アクションの作成　その2	テキスト開発
第14回	日本版テイク・アクションの作成　その3	テキスト開発
第15回	日本版テイク・アクションの作成　その4	テキスト開発

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	本企画研究への参加度・貢献度によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

一定の英語能力が求められる。また、NPO調査などにおいては、フィールドワークが重視されるので、アクティブな参加姿勢が求められる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
TAKE ACTION:A GUIDE TO ACTIVE CITIZENSHIP	M &C Kielburger／Wiley／0-471-27132-2／

テキストは、こちらで準備する。

参考書 / Reference Books

適時、授業中に紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

こうしたサイトを調査すること自体が、本企画研究の活動テーマとなる。

その他 / Others

本企画研究は、実際に、テキストを開発していくことを目指すことから、高い参加意識が要求される。その点、覚悟のうえで、参加してほしい。

企画研究（SN） §　企画研究（自主企画研究）（SN）

14611

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市ユースアクションプラン（2002年）では、ユースサービスを基本理念に子どもから責任ある大人へ成長する青少年を支援することが示されている。その支援とは、青少年が家庭、学校、地域社会等においてあらゆる場面への参加をとおして、社会と交わり、青少年の興味・関心を豊にし、青少年が必要として場合に助言、情報の提供や人的・物的資質が得られるような機会を提供するものである。このプランの実現にむけて京都市の青少年活動センターでは、様々な事業が展開されている。その後、このプランに関する中間見直しが行なわれ、新たに青少年のキャリアに関する支援を充実させようとする改定版（2007年）が策定された。この授業では、この改定版を再検討し、青少年活動センターの現状を様々な観点から検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

京都市のユースアクションプランを知り、京都市の青少年活動センターの実態調査を行なう力、青少年活動センターに関するレポートをまとめる力、プレゼンテーションする力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業内容と到達目標に関する概要	授業内容、目標、スケジュール確認
第2回	京都市ユースアクションプラン（基本方針1）に関する考察	若き市民、自主活動、体験活動、社会参加活動
第3回	京都市ユースアクションプラン（基本方針2）に関する考察	創造性、国際性、高度情報化社会、人権感覚、環境学習
第4回	京都市ユースアクションプラン（基本方針3）に関する考察	地域社会、活動の場、活動支援、人的支援
第5回	京都市ユースアクションプラン（基本方針4）に関する考察	生きる力、キャリア教育、就業課題、就業支援
第6回	京都市ユースアクションプラン（基本方針5）に関する考察	課題解決、課題解決支援策、社会環境
第7回	出前講義：京都市役所青少年課関係者による上記プランの説明、質疑	ユースサービスの理念、自然・社会・文化、プランの到達目標
第8回	出前講義：京都市ユースサービス協会事業部長による青少年活動センターの説明、質疑	ユースサービス協会の概要、北、中京、東山、南、山科、下京、伏見青少年活動センター
第9回	中京青少年活動センターの実態調査1：事業全体に関する実態調査	相談業務、リーダーバンク、青少年団体支援ネットワーク
第10回	中京青少年活動センターの実態調査2：若者サポートステーションに関する調査	相談事業、就労体験事業、就労支援セミナー、いつでもどこでもサポートモデル
第11回	北青少年活動センターの実態調査1：事業全体に関する実態調査	エコカフェ、エコフェスタ、若者の居場所
第12回	北青少年活動センターの実態調査2：伝記プロジェクトに関する実態調査	伝記プロジェクト、サンタクロースプロジェクト、自主的活動の育成・支援
第13回	プランと青少年活動センターとのかかわりに関する考察1	ユースシンポジウム、アドアドプラス、ボランティア
第14回	プランと青少年活動センターとのかかわりに関する考察2	キャリアサポート、現代の若者像、将来のユースアクションプラン
第15回	プレゼンテーション、質疑応答、まとめ	実態調査のまとめ方、プレゼンテーション力、討論、総括

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	論理的思考 まとめ方 実態把握力 プレゼンテーション力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

これまでの京都市基本計画、第1次京都市青少年基本計画、第2次京都市青少年基本計画(京都市ユースアクションプラン)を調べてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

財団法人京都市ユースサービス協会

その他 / Others

企画研究（SO） § 企画研究（自主企画研究）（SO）

14612

担当者名 / Instructor　荒木 穂積、桂 良太郎、津止 正敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：ベトナムの障害児教育・福祉の調査研究

到達目標 / Attainment Objectives

2009年8月にホーチミン市（予定）で開催される、日本ベトナム友好障害児教育・福祉セミナーに参加し、ベトナムの障害児教育・福祉の現状を調査研究する。

帰国後、調査もとに報告書（レポート）を作成する。また、この調査をもとに2009年12月に開催される産業社会学会主催のゼミナール大会で発表をおこなう。また、日本とベトナムの学生・研究者の交流活動に参加したり、学部内外の関連する授業に参加したりして本授業の補いとする。また、他大学学生との共同研究も積極的にすすめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	顔合わせ/各自の興味や関心を出し合う。	
第2回～4回	昨年度までのセミナーの様子をビデオや写真で見たり、先輩や関係者の話を聞いたりして、研究の方法やイメージをつかむ。	
第5回～8回	8月のセミナーでのフィールド調査、観察、文献研究などの準備を始める。	
第9回～10回	セミナーでの役割分担や、調査方法について打ち合わせを行い、準備をすすめる。	
第11回～12回	帰国後、セミナーおよび調査のふりかえりや反省。ゼミナール大会に向けての発表の打ち合わせを行う。必要に応じて追加調査を実施する。	
第13回	ゼミナール大会にむけての資料とパワーポイントを準備する。	
第14回	ゼミナール大会で発表する。	
第15回	1年間の活動のまとめと来年の課題の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

上記以外に発表（セミナーおよびゼミナール大会）の準備のために集まることがある。
2単位ですが、後期のゼミナール大会をめざして活動する予定です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	ゼミナール大会の発表をレポートとして評価します。
平常点評価	50 %	企画研究への参加度、積極性、役割などを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SP） § 企画研究（自主企画研究）（SP）

14521

担当者名 / Instructor　文 楚雄、野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この企画研究の授業は、教員の指導の下に中国の文化や社会について、学生がそれぞれの関心領域やテーマを設定して、前期の学習、夏休みにおける蘇州大学での特別講義の受講や現地調査及び後期のレポート作成向けての学習の三セクションの勉強を通じて、激変している中国の社会や文化に対する認識を深めると同時に、実用の中国語会話も身につけていくことを目標とする。

前期では、自主的学習や研究を行うと同時に、8回ほどの授業を予定している。夏休みの9月17—23日（予定）は中国の蘇州市へ出かけ、現地調査を行う。と同時に、蘇州大学の教授による特別講義3回を受ける。また、蘇州大学の学生との交流も大いに進めていく。蘇州は二千数百の歴史持つ古い街であると同時に、最先端な工業都市でもある。日本企業が300社あまり進出している。日系企業の調査・見学も視野に入れていく。蘇州大学での特別の講義、蘇州の現地調査などは授業3回分に換算する。後期では、前期の学習、夏休みの現地調査を踏まえて、研究課題を整理学習し、レポート作成の作業を進めていく。レポート集を作る予定。後期では4回程度の授業を予定している。

到達目標 / Attainment Objectives

中国の社会や文化に対する認識を深めることができる。
実用の中国語会話も身につけていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	この授業の性格、内容、達目標などの説明。各自の関心領域やテーマの設定	
第2回	各自の関心領域やテーマの設定、紹介	
第3回	関心領域の先行研究の調査	
第4回	研究討論、言葉の学習	
第5回	研究討論、言葉の学習	
第6回	研究討論、言葉の学習	
第7回	蘇州についての学習	
第8回	上海についての学習	
第9回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（1）を受ける	
第10回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（2）を受ける	
第11回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（3）を受ける	
第12回	現地調査を踏まえた研究討論（1）	
第13回	現地調査を踏まえた研究討論（2）	
第14回	レポート作成の討論学習	
第15回	レポート集の完成・編集	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	現地調査、普段学習50%、最終レポート50%。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

中国語の能力を問わないが、現地へ行って学んでみたい、現地の大学生と交流してみたいという意欲のある者を優先する。中国を訪問して見たい、現地の人々と中国語を使ってみたいという動機の強い者はこのパートに応募してください。

中国現地調査のための渡航費用は10万円程度が必要である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会学講読（S）

15473

担当者名 / Instructor　佐々木 嬉代三

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学の基礎的な知識を修得することを目的とするが、購読という科目の性格を考えて、参加する学生個々人にテキストの分担報告を行ってもらうことになるであろう。ただし、参加する学生数に応じて、授業運営の方法を具体的に考えたい。購読テキストは参加学生が2回生以上ということを考慮して、平易だが内容豊かなものを選んだつもりである。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎的な知識を修得すること、あるいは、社会学的な思考の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員の自己紹介（専門分野の紹介）、授業の進め方に関する相談	
第2回	社会学的パースペクティヴについて	「社会と個人」問題、「脱」常識
第3回	合理性の非合理的基礎	社会類型の変化、機械的連帯と有機的連帯、社会秩序
第4回	合理性の非合理的基礎ー2	フリーライダー問題、連帯の感情
第5回	神の社会学	宗教、象徴、儀礼
第6回	神の社会学ー2	人格崇拝、相互作用儀礼
第7回	権力の逆説	カリスマ、官僚制
第8回	権力の逆説ー2	自明性の支配、不確実性の力
第9回	犯罪の常態性	正常と異常、社会秩序と犯罪
第10回	犯罪の常態性－2	ラベリング、意味付与、犯罪の創出
第11回	愛と所有	家族の運命、運命としての家族
第12回	愛と所有	現代家族の病理
第13回	現代社会の捉え方	ボードリアール、消費社会、アイデンティティ
第14回	現代の問題と病理	消費社会、格差社会、自殺、殺人等
第15回	レポート試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

学生が自ら分担報告する点を考慮して、上記のような評価基準にした。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

デュルケムやウエーバーの著作に親しんで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脱常識の社会学	ランドル・コリンズ著、井上俊・磯部卓三訳／岩波書店／4-00-001275-4／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II（SB）　§　専門特殊講義（SB）

13351

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都がなぜ「日本映画のふるさと」といわれているのか、京都の映画の歴史を中心に、映画誕生期、映画産業形成期、戦時下の映画を利用したプロパガンダ政策、戦後の映画産業の盛衰、現在の映画産業の構造、映画振興政策、今後の映画映像産業の方向、などを、映像資料や最近の統計調査などを使い、映画産業の歴史的縦軸と、日本の産業構造を中心としつつ世界の状況も見通した面的な状況を話す予定。

到達目標 / Attainment Objectives

1、京都でなぜ日本映画が発展していったのかの基本的な理解。
2、第七の芸術といわれる「映画」とは何かの、基本的な理解
3、映画産業の構造の理解と今後の産業としての可能性の検証

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方、ガイダンス	
第2回	映画誕生	リュミエール兄弟の初期作品などの鑑賞とあわせて、映画の誕生の歴史、エジソンの発明との違い等。
第3回	京都の映画史1	稲畑勝太郎
第4回	京都の映画史2	マキノ省三　尾上松之助
第5回	京都の映画史3	日本初の女性映画監督　坂根田鶴子
第6回	戦争と映画1	ナチスドイツの映画法、日本の映画法
第7回	戦争と映画2	満州国　満州映画協会
第8回	権力と映画	参考上映　当時戦意高揚のために作られた作品を上映する。作品は未定。
第9回	戦後の映画産業	大映映画を中心に〜世界に認められた日本映画「羅生門」「雨月物語」など。
第10回	映画産業の構造1	製作、配給などの流通システムについて
第11回	映画産業の構造2	興行〜映画館の歴史とシネコンの展開による変化など
第12回	日本の映画振興政策1	文化庁による映画産業のための振興政策について
第13回	日本の映画振興政策2	経済産業省による、知的財産の観点からのコンテンツビジネスとしての映像産業振興政策について
第14回	フランスの映画振興政策、韓国の映画振興政策	両国の振興政策の特徴と日本との違いなど。
第15回	映画産業の今後の展開、可能性	映画映像産業の未来、コンテンツビジネスとしての発展の方向性等を検証し、全体の講義のまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

映画館や大学内での上映会等で、たくさんの映画をみること。なお、学内での上映映画に関して、有料だが、レポート課題に指定する作品もあるので、事前に了解しておいて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	試験の解答内容で、授業の理解度を判断する
レポート試験	10 %	映画館や学内上映会でで見た日本映画の感想レポートの提出
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーを活用する

毎授業終了時提出してもらうコミュニケーションペーパーの内容のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や参考作品のビデオ、DVDなどの上映を行っている。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画を出来る限りたくさん見て欲しい。学内での上映会（有料）での作品もレポート課題の作品とする場合がある。映画産業は現在進行形でつねに変動している。今の時代の映画館、映画興行の現場の雰囲気を体感することで、今後の映画産業の方向性が見えてくるはずである。ハリウッド大作、日本のメジャー作品だけでなく、世界の様々な国の作品を積極的に見て欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都の映画80年のあゆみ	／京都新聞社／／
シネマがやってきたぺ日本映画事始め	都築政昭／小学館／／日本映画の黎明期の様子が分かる
京都映画図絵	鴇明浩＋映画探偵団／フィルムアート社／／京都の映画史の新記述等もある
別冊太陽　日本映画と京都	／平凡社／／
女人賛歌　甲斐庄楠音の生涯	栗田勇／新潮社／／溝口健二監督のスタッフだった画家の生涯
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割などを詳述した。

上記など。また随時授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

goo映画 http://movie.goo.ne.jp/ all cinema online http://www.allcinema.net キネマ旬報データベース http://walkerplus.com/movie/kinejun/ ミニパラ（全国のミニシアターのportalサイト）
http://www.minipara.com/など。

その他 / Others

1、遅刻は30分以上は認めない。30分以上遅れた学生は、必ず教室の後ろのドアから入ること。遅れた学生には、コミュニケーションペーパーの提出は求めない。
2、私語は厳禁（携帯でのメールのやりとりも禁止する、注意してもやめない場合退出を求める場合もある）
3、最終授業日に試験の内容についてのコメントする。
4、参考上映は、授業の進行と会わせて何回か行う。毎回、京都シネマで上映予定の最新作の予告編を授業の最初に上映する。

専門特殊講義II (SC) § 専門特殊講義 (SC)

13352

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日々届けられる新聞は、どんな取材と論議を経てつくられているのか。事件、事故、政治、経済、国際、芸能、スポーツ・・・。一面からラテ面まで各面にちりばめられた一つひとつの記事には、過去から現在に連なる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む地球的な広がりを示す「横軸」とが交差する中で、各メディアがそれぞれの価値観で、選び取った読者へのメッセージが込められている。「良い記事」「悪い記事」はどう見分けるのか。「特ダネ」はどのようにして生まれるのか。新聞を中心にしたメディアが日々発信しているその「意味」を、社内で交わされている「紙面論議」などを手がかりに同時進行的に紹介、解析していく。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を中心にメディアが日々発信しているメッセージについて、その狙いなどを客観的に理解し、バランスのとれた視点で、その記事などのすぐれた点や不十分な点を評価、指摘できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに。新聞はどのようにしてしてつくられているのか。報道の役割とは。	発掘力
第2回	事件報道と人権(匿名・実名問題など)	個人情報
第3回	事件報道と人権(被害者報道、加熱取材など)	メディアスクラム
第4回	事件報道と人権(歴史的重大事件など)	教訓
第5回	司法取材の現場から(死刑再審など)	冤罪
第6回	調査報道とは(リクルート事件など)	特ダネ
第7回	虚報と誤報(サンゴ事件)	あせり
第8回	報道の自由と取材源の秘匿(沖縄密約など)	スクープ
第9回	社説について(憲法改正論議など)	提言
第10回	教育現場から(日の丸・君が代)	良心
第11回	社風・社論(信頼される報道とは)	綱領
第12回	生活ニュースとは(街だね)	目線
第13回	発表ジャーナリズムからの脱却	記者クラブ
第14回	開かれた新聞とは(市民ネットと投書)	ブログ
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
平常点評価	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味あるテーマについて継続的にウオッチし、各新聞の論調を比べてみる。大きな事件の判決報道で、自分ならどう本記(判決の中身を伝える記事)を書くか、判決要旨などを読んで試してみる。読解力と文章力がつく。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.pressnet.or.jp/ 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。
加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

その他 / Others

専門特殊講義I（SD） § 専門特殊講義（SD） § 特殊講義（総合）（VA）

13370

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

■この科目は、キャンパスプラザ京都（京都駅近く）にて開講し、立命館大学では開講しません。
■キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
■履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

「NHK講座」では、NHKの番組制作取材や技術の最前線で活躍している方々やOBを講師に迎え、日頃それぞれの現場で何を考え追い求めているのか、理念と現実等について語ってもらいます。こうしたメディアの最前線を多角的に紹介し、多様なメディアから噴出するさまざまな情報を主体的に読み解き、参加する能力を養うことを目的としています。
本講座はNHK京都局の企画にもとづき、受講生との「双方向授業」を実施します。授業教室はキャンパスプラザ京都です。

※ 授業は4月11日から6月20日の間で集中して開講します。最終日は1コマの授業のみですが、それ以外は、2コマ連続で講義を実施します。開催日程・時間割に注意をしてください。
※ 講義開始時間は午後1時です。講義終了時間は、最終日は午後2時半、それ以外は、午後4時10分です。
※ 授業内容は、1月14日現在のもので、変更される可能性があります。初回授業にて確定した講義計画を配布します。また、3月下旬から立命館大学HPのオンラインシラバスで参照することができます。

到達目標 / Attainment Objectives

講師の話を聞くことでテレビメディアの現状を理解し、双方向授業への参加によって積極的な学習能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1、2回（4月11日）	藤澤秀敏／解説委員長 【テーマ】総論的な内容	中谷日出／解説委員室 【テーマ】「図解主義」について
第3、4回（4月18日）	杉江亮彦／放技局専任カメラマン 【テーマ】現場のカメラマン経験から	丸山俊一／制作局（爆笑問題のニッポンの教養他）【テーマ】教養系番組制作の現場から
第5、6回（4月25日）	上野智男／京都局制作（双方向の①）【テーマ】双方向授業① 番組制作の基本・提案課題設定	長村中／営業局（受信料制度）【テーマ】受信料と公共放送
第7、8回（5月9日）	吉田照幸／制作局（サラリーマンNeo・エンタテインメント）【テーマ】娯楽番組制作の現場から	飯島徹郎／京都局アナウンス 【若手アナウンサーの体験から】
第9、10回（5月16日）	未定／アナウンサー 【テーマ】未定	青木信也／大阪放送局（ドラマ）【テーマ】ドラマ制作の現場から（だんだんCP）
第11、12回（6月6日）	太勇次郎／京都局ニュース（国際取材）【テーマ】海外取材の現場から	原田誠／国際放送局 【テーマ】国際放送について
第13、14回（6月13日）	田中良憲／視聴者サービス局事業部 【テーマ】NHKのイベント・視聴者サービスについて	篠田恵一／京都局制作（双方向の②）【テーマ】双方向授業② 提案の秘訣・提案課題プレゼンテーション
第15回（6月20日）	今井義典／NHK副会長 【テーマ】未定	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席と講義時に提出する授業内レポート、ならびに双方向授業の際の提出物（番組提案票など）により評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義I（SE） § 専門特殊講義（SE） § 特殊講義（総合）（VB）

13369

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、日本音楽事業者協会、音楽制作者連盟、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、CPRA著作隣接権センターの5つの団体の協力による講座であり、昨年度までのJASRAC（日本音楽著作権協会）寄附講座「音楽・文化産業論」を継承します。
音楽を中心として、エンタテインメントに関わるビジネスやクリエイティブの第一線で活躍する講師陣が、毎回違ったテーマや分野から、現場経験に基づく貴重な講義を行ないます。また、リレー講義であるため、日本レコード大賞審査員なども務められている音楽評論家の反畑誠一先生のコーディネートで進行します。
音楽分野を中心に、映像・放送・表現・レジャーなど広くエンタテインメイント・ビジネスに関心を持つ諸君、あるいは、将来これらの業界で働くことを志望している諸君には、特に受講を勧めます。
※本講義は、毎週土曜日、11時より12時30分まで、京都駅前「キャンパス・プラザ」で開講します。なお、一部に時間を変更する授業日があるので注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際的視野で、音楽コンテンツをはじめエンタテインメント産業の実態を学ぶ
・過去を知り、知識を蓄積する
・現実を直視し、一流を知る
・明日を考え、展望する
・叡智と感性と創造力を培う
・自己の研究課題と進路を見つける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定はしないが、後期の専門特殊講義ⅠSF「エンタテインメント産業論Ⅱ」と連続して受講することが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月11日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	＜開講式・オリエンテーション＞
4月18日(土)	北谷賢司先生（ワシントン州立大メディア経営学教授）	「エンタテインメントビジネス新世紀」
4月25日(土)	永田悦久先生（エイベックス・ライブ・クリエイティヴ株式会社代表取締役社長）	「大規模ライブ運営　a－nation2009」
5月9日(土)	中西健夫先生（株式会社ディスクガレージ代表取締役社長）（社団法人全国コンサートツアー事業者協会副会長）	「MUSIC　DAY　2009～10円で地球の明日を考えよう～」
5月16日(土)	杉本誠司先生（ニワンゴ代表取締役社長）	「ニコニコ動画の世界2009」
6月6日(土)	藤井英也先生（集英社「ロードショー」前編集長）	「日本の映画産業2009」※2限連続講義日　9:30～11:00
6月6日(土)	川上博史先生（株式会社スタジオアルタ　代表取締役社長）	『笑っていいとも』25周年 ファッションスペース・ビジネスの実態 ※2限連続講義日　11:15～12:45
6月13日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	「中間総括」 ※2限連続講義日　9:30～11:00
6月13日(土)	山本裕治先生（株式会社第一興商音楽事業本部部長・社長室長）	「カラオケ文化論2009」 ※2限連続講義日　11:15～12:45
6月20日(土)	和佐田達彦先生（バンド「爆風スランプ」「X. Y. Z」ベース奏者）	「Jーロックで世界市場へ挑戦」
6月27日(土)	後藤豊先生（フォーライフ・ミュージックエンタテインメント社長）	「Revolution－私たちの望むものはー」
7月4日(土)	武藤英明先生（プラハ放送交響楽団・指揮者）	「ワールド・クラシック・ミュージック」
7月11日(土)	堀義貴先生（株式会社ホリプロ代表取締役社長）（社団法人日本音楽事業者協会常務理事）	「総合マネージメント企業とは」～和田アキ子からミュージカルまで～
7月18日(土)	辻居幸一先生（弁護士・弁理士）（中村合同特許法律事務所）	「エンタテインメントと権利ビジネス」 ※2限連続講義日　9:30～11:00
7月18日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	前期総括・レポート提出 ※2限連続講義日　11:15～12:45
	※講師は都合により変更になることもあります ※授業時間 11:00～12:30 ただし、6月6日(土)・6月13日（土）及び7月18日(土)は2限連続（9:30～11:00、11:15～12:45）となります。 5月2日(土)及び5月30日(土)は授業はありません。開講日程・時間割にご注意願います。	□5月29日（金） 5月23日（土）休講に伴い、スケジュールを変更しました。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーションペーパーと期中2回のレポートにより総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義I（SF）§　専門特殊講義（SF）§　特殊講義（総合）（VC）

15603

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則、反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、日本音楽事業者協会、音楽制作者連盟、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、CPRA著作隣接権センターの5つの団体の協力による講座であり、昨年度までのJASRAC（日本音楽著作権協会）寄附講座「音楽・文化産業論」を継承します。
音楽を中心として、エンタテインメントに関わるビジネスやクリエイティブの第一線で活躍する講師陣が、毎回違ったテーマや分野から、現場経験に基づく貴重な講義を行ないます。また、リレー講義であるため、日本レコード大賞審査員なども務められている音楽評論家の反畑誠一先生のコーディネートで進行します。
音楽分野を中心に、映像・放送・表現・レジャーなど広くエンタテインメイント・ビジネスに関心を持つ諸君、あるいは、将来これらの業界で働くことを志望している諸君には、特に受講を勧めます。
※本講義は、毎週土曜日、11時より12時30分まで、京都駅前「キャンパス・プラザ」で開講します。なお、一部に時間を変更する授業日があるので注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際的視野で、音楽コンテンツをはじめエンタテインメント産業の実態を学ぶ
・過去を知り、知識を蓄積する
・現実を直視し、一流を知る
・明日を考え、展望する
・叡智と感性と創造力を培う
・自己の研究課題と進路を見つける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定はしないが、前期の専門特殊講義ＩSF「エンタテインメント産業論Ｉ」と連続して受講することが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
10月3日（土）	反畑誠一立命館大客員教授	＜開講式・オリエンテーション＞
10月10日（土）	丸山茂雄先生（株式会社247Music取締役会長・エグゼクティブプロデューサー）	「レコード産業に再生策はあるか」（仮）
10月17日（土）	山本たかお先生（株式会社テレビ朝日編成制作局次長・音楽制作CP）	「エンタテインメント産業とテレビメディアの役割」（仮）
10月24日（土）	北川直樹先生（株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役CEO）	「音楽産業の構図」（仮）※2009年10月19日変更
10月31日（土）	堀一貴先生（株式会社ホリプロ取締役副会長・社団法人音楽出版社協会副会長）	「音楽出版ビジネス ～ポール・マッカートニー、マイケルジャクソンを魅了した“Copyright”の魅力～」（仮）
11月7日（土）	椎名和夫先生（実演家著作隣接権センター運営委員・作曲家）	「実演家と著作隣接権」（仮）
11月14日（土）	亀田誠治先生（有限会社誠屋 音楽プロデューサー） ※「東京事変」ベーシスト ※スピッツ、椎名林檎、平井堅などのプロデューサー	「コンサート『亀の恩返し』をプロデュースして」（仮）
11月21日（土）	田口仁先生（株式会社アサツーディ・ケイ　情報開発局主任研究員） ※2限連続講義日　9:30～11:00	「プロモーション戦略・口コミを科学する」（仮）
11月21日（土）	反畑誠一立命館大客員教授 ※2限連続講義日　11:15～12:45	「中間総括」
11月28日（土）	益田祐美子先生（株式会社平成プロジェクト代表取締役）	「主婦から映画プロデューサーに変身・3億5千万円を集めた女」（仮）
12月5日（土）	浅野祐美子先生（株式会社フジクリエイティブコーポレーション制作室制作部）	「テレビドラマのプロデュースという仕事」
12月12日（土）	田村光広先生（株式会社文化放送　取締役　デジタル事業局局長）	「デジタル時代のラジオメディアの現状と課題」（仮）
12月19日（土）	大石征裕先生・山口哲一先生・金井文幸先生（社団法人音楽制作者連盟　理事長・理事・事務局次長）	「JAPAN EXPOと日本ポップカルチャーの海外展開」（仮）
1月16日（土）	福井健策先生（骨董通り法律事務所 弁護士）	「著作権とは何か」（仮） ※2限連続講義日　9:30～11:00
1月16日（土）	反畑誠一立命館大客員教授	「後期総括」 ※2限連続講義日　11:15～12:45
	以上、9月25日現在の予定です。 講師の都合等により、変更が発生する場合もあります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーションペーパーと期中2回のレポートにより総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II (SG) § 専門特殊講義 (SG)

13252

担当者名 / Instructor　斎藤 喬

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:'09年のジャーナリズム1

イラク戦争とその後の戦後復興をめぐって、米英とドイツ、フランス、ロシアが対立、その間を縫うように多発するテロ事件など世界は混迷を深めています。アジアに目を転じても中国の経済発展に伴う階層の分裂、北朝鮮の核問題、各国で猛威を振るう鳥インフルエンザなど多難な問題が山積みしています。日本でも自衛隊イラク復興支援部隊をめぐって国民の意見は分裂、マスコミの対応にも違いが大きくなりはじめています。この世界の現在と未来をどう読み解くのか、讀賣テレビと讀賣新聞のリーダーと第一線の記者らが講義します。

到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4/8	中村 仁・読売新聞大阪本社代表取締役社長	「ネット社会における新聞」
4/15	新谷 弘・讀賣テレビ放送報道局次長	「地上波テレビの今」
4/22	森 克二・読売新聞大阪本社社会部長	「社会部は何を伝えるか」
4/29	谷 和男・讀賣テレビ放送編成局企画推進部	「デジタル時代の編成戦略」
5/13	朝日 義樹・読売新聞大阪本社論説委員長	「社説を読み比べる」
5/20	春川 正明・讀賣テレビ放送解説委員	「テレビ報道の現場から」
5/27	上野 昌彦 ・読売新聞大阪本社経済部長	「大恐慌？　1929年と2009年」
6/3	筧 彰夫・讀賣テレビ放送営業局営業業務部	「ビジネスとしてのテレビ」
6/10	吉形 祐司・読売新聞東京本社国際部主任	「世界の紛争と特派員」
6/17	山下 雄司・讀賣テレビ放送コンテンツ開発事業局	「デジタルでどう変わる・デジタルコンテンツ編」
6/24	永田 広道・読売新聞大阪本社 神戸総局長	「裁判員制度が始まった--メディアから見た課題と展望」
7/1	松山 浩士・讀賣テレビ放送コンテンツ開発事業局	「デジタルでどう変わる・ビジネス編」
7/8	岸本 弘一・読売新聞大阪本社常務取締役編集局長	「新聞記者の目指すもの」
7/15	辻出 国彦・讀賣テレビ放送マーケティング部	「視聴率から見たテレビ」
7/22	平井 道子 ・読売新聞大阪本社経済部次長　※5/27休校に伴う講義日の変更 ※6/9講師人事異動に伴う変更	「経済ニュースと学生生活」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テーマ及び講師は変更になる場合もあります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	最終の授業日にレポートを提出

毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

また、読売新聞講師の講義日には、初回の講義で配布する「30分で読売新聞を読む方法」を持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「30分で読売新聞を読む方法」	／／／初回講義時に配布

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースを興味を持って見ている人が対象。

専門特殊講義II (SH) § 専門特殊講義 (SH)

15485

担当者名 / Instructor　斎藤 喬

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:讀賣マスコミ講座2～'09年のジャーナリズム～

現場の取材活動のなかで、何が行われているか、また取材における問題関心はどういったところに向けられているかなど、現場で活躍している専門記者の方々がが、各分野にそくした現状等を講義します。

※講義スケジュールについては、変更される場合があります。

到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/30	岩田 公雄・讀賣テレビ放送解説委員長	「テレビと政治」
10/7	本多 宏・読売新聞大阪本社 論説委員	「科学報道の現場」
10/14	吉川 真理・讀賣テレビ放送 報道局 チーフプロデューサー(情報ライブミヤネ屋プロデューサー)	「ミヤネ屋の挑戦」
10/21	深井 康行・読売新聞大阪本社社会部主任	「橋下・大阪府政とメディア」
10/28	千原 徹・讀賣テレビ放送映像グループ	「報道カメラマンの目線」
11/4	柳林 修・読売新聞大阪本社編集委員	「文化財報道と正倉院展」
11/11	相島良樹・讀賣テレビ放送報道グループ	「ニューススクランブルの現場から」
11/18	石井 斉・読売新聞大阪本社編成部主任	「ニュースを料理する」
11/25	脇浜 紀子・讀賣テレビ放送アナウンス部	「アナウンサーの視点から」
12/2	山畑 洋二・読売新聞大阪本社松江支局長	「これからの消費者問題」
12/9	亀田 憲一・讀賣テレビ放送コンプライアンス推進室	「考査から見たテレビ」
12/16	山田 博之・読売新聞大阪本社文化部主任	「囲碁・将棋の勝負師たち」
12/23	藪田 正弘・讀賣テレビ放送報道局次長	「テレビがライフラインであるために」
1/6	吉村 慎吾・読売新聞大阪本社社会部次長	「これからの事件報道―裁判員制度のもとで」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テーマ及び講師については変更になる場合があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答とともに、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースを興味を持って見ている人が対象。

専門特殊講義II（SI） § 専門特殊講義（SI）

13375

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

＊テーマ:「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮らす」「創る」から考える、“私たちのまち京都”
京都市には現在約150万人の市民が住み（平成19年11月）、1年間に4,800万人を超える観光客が訪れる（平成18年）。また、市内には25の大学と12の短期大学があり、約14万人の学生が学んでいる（平成18年度）。京都は世界有数の文化観光都市であり、かつ「大学のまち」である。京都で生活し、学び、働き、そして遊ぶ人々は京都に魅力を抱きながら京都のまちの良さを保持し、それを発展させたいと願っている。こうした願いを底辺からサポートしているのが京都市政（行政）である。京都市には局・区役所があり、それぞれが連携して市民や京都を訪れる人々のために仕事をしている。もちろん、市の形は行政だけでつくられるのではなく、よりよい京都のありようを考える市民自らの市政への参画が欠かせない。
本講義では、京都のまちや人々の諸活動を理解している各局の課長を招聘し、京都のまちを「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮す」「創る」という6つのキーワードから立体的に捉えてみたい。受講生には本講義を通じて、京都のまちに関する諸々の知識を修得するとともに、よりよい京都を創造していくための担い手になって欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

①京都市の現状を理解し、京都の課題を興味を持って探究することができる
②京都市の行政の取り組みを理解することができる
③京都で学ぶ学生として京都市政のありように主体的に関与していくための知識を身につけることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	私たちのまち「京都」ー京都のまちの魅力：見る、歩く、遊ぶ、働く、暮す、創る	京都、まちづくり、京都市行政、講義の課題、評価
2	京都のまちを「見る」①	京都市の大学政策
3	京都のまちを「見る」②	京都市の総合計画，京都創生の取組
4	京都のまちを「歩く」①	「5000万人観光都市・京都」の実現を目指して
5	京都のまちを「歩く」②	京都市の景観政策
6	京都のまちを「歩く」③	文化財保護とその取組
7	京都のまちを「創る」①	京都市の教育改革
8	京都のまちで「遊ぶ」①	京都市のスポーツ振興
9	京都のまちで「暮らす」①	京都市の子育て支援
10	京都のまちで「暮らす」②	京都議定書誕生の地から世界へ～京都市の地球温暖化対策
11	京都のまちで「暮らす」③	京のごみ戦略21
12	京都のまちを「遊ぶ」①	京都市の文化振興
13	京都のまちを「創る」②	都市財政のあらまし
14	京都のまちで「働く」	京都市の産業構造と産業振興策
15	授業内論述テスト（60分）＆再び考えてみよう！私たちのまち「京都」	授業内テスト、私たちのまち、京都
	＊講師の都合により，講義の順番等が変更になる場合があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	0 %	京都のまちの状況を「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮す」「創る」という視点から認識できているかどうか
平常点評価	100 %	①それぞれの講義でのミニレポートがしっかり書けているかどうか（50点）②最終授業日に60分間、論述形式の「授業内レポート試験」を実施（50点）。これまでの授業の理解と応用力がポイントです。

＊レポート試験のテーマについては講義の中で提示し、かつ掲示する。
＊ミニレポートの内容は講義の中で紹介する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、京都のまちのありようを考えていくものであるが、京都市をはじめ公務員を志望する学生にとっても有益である。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、各講師から関連資料が配布される。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

京都は魅力あるまちである。多くの学生が本講義に参加し、京都のまちづくりの担い手となることを期待するものである。

専門特殊講義II（SK）　§　専門特殊講義（SK）

15612

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ダーウィンは「人類の起源」の中で、中国の書物に「音楽は天地を覆す力を有す」と言葉を紹介している。またシューマン博士の観察として「何ページもの書物よりも、ただ一曲の音楽の中に、はるかに大きな感動の高まりを凝縮させることができるものがある」と語っている。音楽は人間の感性と理性によって創作された不可欠のコミュケーション手段である。したがってメディアであり、デジタル時代に入りより激しく変貌している。この講座では、人間にとって音楽の存在と音楽文化の本質と変遷について、私たちの身近な存在である「ポピュラー音楽」を通じて、多角的に考察、研究し、体系づけることを目指している。特に満100年になるレコード産業の歴史を通じて、時代背景と大衆音楽との相関関係の追求に成果を残したいと考えている。

到達目標 / Attainment Objectives

①「ポピュラー音楽」を定義づける。
②「日本のポピュラー音楽」の歴史を学ぶ。
③「日本の流行歌」を体系づける。
④「現代的ヒットの構造」を学ぶ
⑤「ポピュラー音楽の著作権の基本」を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回（10/2）	人間と音楽文化	音楽力
第2回（10/9）	私たちの内に流れるリズム・メロディーの深淵	日本人と音楽
第3回（10/16）	日本のレコード産業史　その1（1910～1945）	テクノロジーと流行歌
第4回（10/23）	日本のレコード産業史　その2（1945～2009）	世相と音楽文化
第5回（10/30）	日本の流行歌大系　その1	創作者の存在
第6回（11/6）	日本の流行歌大系　その2	表現者の存在
第7回（11/13）	日本の流行歌大系　その3	J－POPとは
第8回（11/20）	日本の流行歌大系　その4	インディーズとは
第9回（11/27）	日本の流行歌大系　その5	音楽環境
第10回（12/4）	非西欧世界の音楽　その1	民俗音楽と伝統音楽
第11回（12/11）	非西欧世界のポピュラー音楽　その2	アジアの音楽市場
第12回（12/18）	ロック音楽の歴史	ロック音楽とは
第13回（12/25）	サ・ビートルズ	カリスマ性
第14回（1/8）	放送メディアと音楽文化	日本レコード大賞（1958～2009）
第15回（1/15）	インターネットと音楽文化	著作権保護

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	
平常点評価	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

継続的な出席を望む。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
特には指定しない。	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「著作権とは何か」－文化と創造のゆくえー	福井健策著／集英社新書／／
「著作権法入門2008」	文化庁編／社団法人著作隣接権センター刊／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II（SM） § 専門特殊講義（SM）

15596

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢化社会が進行し、若者の活字離れも伴って伝統的なメディアの代表であった「新聞」に北風が吹き続けている。「新聞がなくなる日」「ネットが新聞を殺すのか」などの書物が出回っているが、新聞は本当にIT産業に飲み込まれてしまうのか。双方向メディア・ネットの拡大は、社会や民主主義のありかたにどんな激変をもたらすのか。人員削減、総合情報産業への脱皮、グループ企業間の新たな連携、紙面改革、デジタル化・・・。変容するメディア産業の現状を、過去のとのつながりのからみで立体的に読み解いていく中で今後の姿を探っていく。同時に「格差社会の進行」をメディアとともに検証していく。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアが多様化していく中で、新聞企業が直面している課題が理解できる。ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について・総論	マスコミ四媒体
第2回	日本の新聞業界～この半年の主な動き	デジタル
第3回	世界のメディア事情～韓国・北朝鮮	ネット新聞
第4回	世界のメディア事情～アメリカ	削減
第5回	世界のメディア事情～ヨーロッパ	タブロイド
第6回	世界のメディア事業～中国	自由化
第7回	新聞の連携と地方紙	連合
第8回	フリーペーパーの挑戦	多様化
第9回	新聞経営の合理化	外部化
第10回	電子新聞の模索	動画
第11回	電子電波メディアの現状と行方～テレビと通信	融合
第12回	電子電波メディアの現状と行方～NHK問題	肥大化
第13回	スポーツ紙の世界	元気
第14回	2009年の新聞界展望	淘汰
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の内容についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(各部門共通)I(RA) § 専門特殊講義II(SN) § 人文科学総合講座特殊講義I(LH) § 日本外交論(J) § 専門特殊講義(SN) § 特殊講義(基礎)1(日本外交論)(C)

20345

担当者名 / Instructor　石原 直紀

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本の外交関係について、日本と外国という双方の視点から多角的に考える。わが国の外務省現役職員、OBらによる講義を通じ、日本の外交政策の実態と課題や外交について実務的視点から理解を深める。また、関西地区駐在の諸外国の総領事を講師に招き、外国から見た日本、日本と当該国の関係などについて考えるきっかけを提供する。さらに、外務官僚、外交官や領事、総領事といった職業について紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本外交と外交政策を理解する。
諸外国から見た日本という視点を身につける。
外交官、総領事といった対外関係に携わる職業を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	外交政策と外交	外交と外交官、日本の外交政策、外交政策決定過程
第2回	日本の外交政策 I	
第3回	日本の外交政策 II	
第4回	日本の外交政策 III	
第5回	日本の外交政策 IV	
第6回	日本の外交政策 V	
第7回	日本の外交政策 VI	
第8回	日本の外交政策 VII	
第9回	日本の外交政策 VIII	
第10回	日本の外交政策 IX	
第11回	外国から見た日本 I	
第12回	外国から見た日本II	
第13回	外国から見た日本 III	
第14回	外国から見た日本 IV	
第15回	全体総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各回の授業内容につき、関連参考文献などを読む。
外務省、各国大使館、総領事館主催のセミナー、イベントなどに積極的に参加する。
ウェブサイトなどを通じ、日本の外交政策の動向、諸外国の事情などについて理解を深める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	与えられたテーマにつき、授業内容と自主的な学習を踏まえ、自分の見解を明快且つ説得的に記述できているか。
平常点評価	50 %	授業への出席

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

外務省や各国総領事などのゲスト講師による授業なので、出席のみならず聴講マナーをきちんと守ること。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

授業の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mofa.go.jp(外務省)
各国総領事館等その他の関連ウェブサイトは、授業で紹介する。

その他 / Others

ゲスト講師、テーマの変更があり得る。

専門特殊講義III（SO） §　専門特殊講義（SO）

13460

担当者名 / Instructor　是枝 裕和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

主にテレビの問題点と可能性について、具体的な番組を参照しながら学生のみなさんと共に考察してみたいと考えている。

【事務室からの注意事項】
1）本講義は、予備登録の上、受講者を決定します（受講希望レポートにより選考します）。
予備登録の期間・方法は、2009.3.25以降に掲示（または産業社会学部のホームページ）にて確認し、指定された期日内に手続きを行うこと。
（予備登録期間は、通常の事前登録期間よりも早いので気をつけてください）

・配当回生：3回生以上
・定員　：30名
・他学部受講　可

2）講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。
受講を希望する者は、次時限（後期金曜日5限）も受講登録せずにあけておくこと。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	講義の詳細は、第1回授業で説明します。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最低限の映像に対する「興味」は持っていてほしい。

教科書 / Textbooks

講義に関わる資料等は各授業で配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

政策科学特殊講義（PA） § 法政特殊講義（JI） § 人文科学総合講座特殊講義I（LQ） § 特殊講義（各部門共通）I（RD） 20079
専門特殊講義（SP） § 特殊講義（WA） § 専門特殊講義II（SP）

担当者名 / Instructor　勝村 誠　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は読売新聞社の援助により各府県知事を本学にお迎えし、それぞれの政策的課題などを語っていただくリレー講義である。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情も様々に異なるため、個別政策や個人の政治戦略のレベルでについていえば、講義全体が統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできることは増えてきており、とりわけ、知事のリーダシップによって地方行政は相当に変化しうるようになってきた。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているので、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数回は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の出席票に記載欄を設けるのでこれに書いてもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係（中央政府と地方政府の関係）について総合的に理解を深めることが目標である。知事の講演を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、財政学、地方自治等に関連する科目群

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要	
第2回	埼玉県　上田清司知事	「みどりと川の再生」推進
第3回	三重県　野呂昭彦知事	
第4回	愛知県　神田真秋知事	
第5回	宮城県　村井嘉浩知事	
第6回	新潟県　泉田裕彦知事	
第7回	香川県　真鍋武紀知事	
第8回	慶應義塾大学教授（前宮城県知事）　浅野史郎教授	
第9回	滋賀県　嘉田由紀子知事	
第10回	講義「地方分権改革について」・中間まとめ	
第11回	福岡県　麻生渡知事	
第12回	読売新聞東京本社・青山彰久編集委員	
第13回	富山県　石井隆一知事	
第14回	山梨県　横内正明知事	
第15回	総括講義	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	70点満点の定期試験を実施する。
平常点評価	30 %	1セメスターに2回小レポートを課す。それぞれ15点満点で評価して、評点を加算する。出席点は加算しない。

本講義の受講を希望する者は、エントリーシートを提出して予備登録を行わなければならない。URL参照。
http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻はしないこと。15分以上遅刻した者には、原則的には入室を許可しない。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、入り口で事情を合理的に説明したうえで、目立たぬように後部の出入口より静かに入室すること。

同様の理由で、原則的には中途退室は認めない。やむを得ざる事情で中途退室せざるを得ない時には、密やかに退出し、出口でスタッフに退室理由を説明すること。中途退室した場合には、原則的に再入室は認めないものとするが、再入室を強く望む場合には合理的な理由が説明できる場合に限り再入室を認めるものとする。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話を聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。

受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間外学習が求められることは当然である。

小レポートを2回提出してもらい、そのできばえによる日常評価を30点満点で評価する。知事の講義を真剣に聞き、自分の理解度を小レポートでしっかりと表現してほしい。

ただし、出席点は一切加味しないので、目的意識なく漫然と出席しても何のプラスにもならないことは理解してほしい。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しないが、地方政治や地方行財政をめぐる書籍を手元に置いて日常的に参照すること。参考書に有益な本を掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『テキストブック地方自治』	村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／地方自治の基本的教科書
『概説 日本の地方自治』	新藤宗幸・ 阿部斉／東京大学出版会／4130320386／地方自治の基本的教科書
『市民のための地方自治入門』	佐藤竺監修 ／実務教育出版／4788914158／一般市民向けの概説書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

その他 / Others

政策科学特殊講義（PB） § 法政特殊講義（JK） § 人文科学総合講座特殊講義I（LR） § 特殊講義（各部門共通）I（RJ，S） 20216 専門特殊講義（SQ） § 特殊講義（WB） § 専門特殊講義II（SQ）

担当者名 / Instructor　今仲 康之　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は読売新聞社の援助により各府県知事を本学にお迎えし、それぞれの政策的課題などを語っていただくリレー講義である。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情も様々に異なるため、個別政策や個人の政治戦略のレベルでについていえば、講義全体が統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできることは増えてきており、とりわけ、知事のリーダシップによって地方行政は相当に変化しうるようになってきた。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているので、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数回は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の出席票に記載欄を設けるのでこれに書いてもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係（中央政府と地方政府の関係）について総合的に理解を深めることが目標である。知事の後援を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、財政学、地方自治等に関連する科目群

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	読売新聞大阪本社　論説委員　上田恭規氏	
第2回	担当者講義	
第3回	大分県　広瀬勝貞知事	
第4回	広島市　秋葉忠利市長	
第5回	青森県　三村申吾知事	
第6回	長野県　村井仁知事	
第7回	担当者講義	
第8回	滋賀県　米田耕一郎副知事	
第9回	栃木県　福田富一知事	
第10回	浜松市　鈴木康友市長	
第11回	石原　信雄氏	
第12回	野中　広務氏	
第13回	奈良県　荒井正吾知事	
第14回	愛媛県　加戸守行知事	
第15回	島根県　溝口善兵衛知事	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	70点満点の定期試験を実施する。
平常点評価	30 %	1セメスターに3回小レポートを課す。それぞれ10点満点で評価して、評点を加算する。出席点は加算しない。

本講義の受講を希望する者は、エントリーシートを提出して予備登録を行わなければならない。URL参照。
http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻・早退はしないこと。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、目立たぬように後部の出入口より静かに入退出すること。また、当然であるが、講義中は脱帽。また、言わずもがなであろうが、私語・飲食厳禁である。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話を聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間外学習が求められることは当然である。

小レポートを3回提出してもらい、そのできばえによる日常評価を30点満点で評価する。知事の講義を真剣に聞き、自分の理解度を小レポートでしっかりと表現してほしい。

ただし、出席点は一切加味しないので、目的意識なく漫然と出席しても何のプラスにもならないことは理解してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

教科書は指定しないが、地方政治や地方行財政をめぐる書籍を手元に置いて日常的に参照すること。参考書に有益な本を掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『テキストブック地方自治』	村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／地方自治の基本的教科書
『概説　日本の地方自治』	新藤宗幸・阿部斉／東京大学出版会／4130320386／地方自治の基本的教科書
『市民のための地方自治入門』	佐藤竺監修／実務教育出版／4788914158／一般市民の向けの概説書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

その他 / Others

専門特殊講義II（ST） § 専門特殊講義（ST）

13465

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ドキュメンタリーはフィクションである」は、昨年惜しくも亡くなったドキュメンタリー映画の監督、佐藤真氏の言葉である。一般的にドキュメンタリーは、ノンフィクションと捉えられ、現実をありのままに映し出したもの、とされている。が、20年余り、さまざまなドキュメンタリーを見てきたが、「ドキュメンタリーはフィクションである」という言葉は、重要な指摘だと考える。ドキュメンタリーとは何か。いくつかの作品を見ながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

いくつかのドキュメンタリー作品の考察により、映画、テレビを問わず、広く映像メディア全体を捉え直す。作品ごとの考察は、受講生の積極的な発表を促す形で進める。ドキュメンタリーは、ノンフィクションか、フィクションか。それを越えたものなのか。理解を深めていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリーとは1	ドキュメンタリー、ノンフィクション
第2回	ドキュメンタリーとは2	演出とやらせ
第3回	ドキュメンタリー作品鑑賞	戦うふ兵隊　亀井文夫　1939年
第4回	作品分析発表　4人　意見交換	ランダムに指名した受講生に、作品分析の発表を行ってもらう。
第5回	作品分析についての論評	
第6回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「ドキュメント　路上」　土本典昭監督　64年
第7回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「水俣　患者さんとその世界」土本典昭監督　71年
第8回	作品分析発表　4人　意見交換	
第9回	作品分析についての論評　関連作品の鑑賞　土本監督の短編	
第10回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「阿賀に生きる」佐藤真監督
第11回	作品分析発表　4人	
第12回	作品分析について論評　関連作品の鑑賞　佐藤監督の短編	
第13回	ゲスト監督を招いて（未定）	作品鑑賞
第14回	作品分析の発表　4人	
第15回	ドキュメンタリーとは、ドキュメンタリーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ドキュメンタリー映画やテレビのドキュメンタリー番組を積極的に見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	設問に対する解答の記述内容で、授業の理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館で公開中、および学内上映会での上映作品（有料）のドキュメンタリー作品の感想レポートの提出。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで、理解度を確認する。出席はとらない。

授業への30分以上の遅刻は認めない。私語、メール等も厳禁。注意しても聞かない場合は退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ドキュメンタリー映画は、様々な作品を見ることで、その面白さへの理解が深まる。国内外を問わず、たくさんの作品を見て欲しい。また、テレビのドキュメンタリー番組も、チェックして欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリーの修辞学	佐藤真／みすず書房／9784622072515／ドキュメンタリーとは、最近の傾向など、いまのドキュメンタリーの周辺および監督の思いが伝わる好著

参考図書に関しては適宜紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学内上映会でのレポート課題作品は、有償（500円程度）だが、その点は了解していただきたい。

専門特殊講義II (SU) § 専門特殊講義 (SU)

15674

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本映画はここ数年、実際の製作本数は、公開本数の約2倍という状況で、公開されずに「お蔵入り」となってしまう映画が相変わらず多い。日本映画バブルの状況はまだまだ続きそうである。が、過去の日本映画の名作を見る機会は、学生にはほとんどない。1945年前後の日本映画を鑑賞し、映画と社会との関係を考察する。現代においても、映画と社会は不可分な関係があることの理解を促す。

到達目標 / Attainment Objectives

1、映画と社会の関係、社会的な力によって映画が作られてきた歴史を作品を通して学ぶ。
2、映画と戦争は、プロパガンダとして活用された関係にある。監督や製作現場のスタッフたちは、そうした状況をどのように受け止め、作品に反映させてきたのかを、作品を通して認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画と戦争1	映画法など。戦時中のニュース映画の参考上映
第2回	稲垣浩監督　無法松の一生　1943年　戦前は映画法、戦後はGHQによって2度の検閲を受けた作品　鑑賞	
第3回	1940年代の作品鑑賞　黒澤明監督　「一番美しく」（1944年）女子挺身隊の勤労動員の物語	
第4回	作品分析　意見交換	
第5回	黒澤明監督　「わが青春に悔いなし」1946年鑑賞　戦前戦後、大学の自由を守ることと、日本の自由を勝ち取ることをテーマとした京都も舞台になった作品　鑑賞	
第6回	作品分析　意見交換	
第7回	木下恵介監督　「陸軍」1944年　鑑賞	
第8回	作品分析　意見交換	
第9回	木下恵介監督　「大曽根家の朝」1946年　鑑賞	
第10回	作品分析　意見交換	
第11回	木下恵介監督　「女」1948年　鑑賞	
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲストスピーカー　京都府京都文化博物館映像資料室学芸員　森脇清隆氏　フィルムアーカイブの意義	
第14回	小津安二郎監督　「長屋紳士録」1947年　鑑賞	
第15回	作品分析　意見交換　　全講義を通じて感じたこと、映画と社会の関係等も意見交換する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日本映画をたくさん見て欲しい。ゲスト並びに上映作品は、変更する場合もあるが、事前に説明を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館および学内での上映会(有料)の作品の感想レポートの提出。ただし、作品分析発表者はのぞく。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

30分上の遅刻は認めない。私語、携帯メール等厳禁。私語等注意してもやめない場合は、退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

日本映画を読む	大島渚ほか／ダゲレオ出版／／
ある映画監督の生涯	新藤兼人／岩波新書／／
日本映画批判	双葉十三郎／トパーズプレス／／
日本映画	佐藤忠男／第三文明社／4-476-03175-7／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／／

参考図書は随時提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代と社会（SA）§　社会学（SG）

12749

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（山口）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減など、3）（高嶋）グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。

2）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念に関する理解力と教養を深めること。

3）グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、山口、高嶋　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と現代社会（山口）	
第7回	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本（山口）	
第8回	街づくりの課題・景観デザイン（山口）	
第9回	環境配慮型マーケティングとエコライフ（山口）	消費生活から発生する環境負荷
第10回	グローバル化と企業社会の変化（高嶋）	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任（CSR）、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化（高嶋）	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題―社会的不平等をどう考えるか―（高嶋）	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働―労働が多様化することの意味について―（高嶋）	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ （小澤、山口、高嶋　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4－7710－1592－0／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一／ミネルヴァ書房／4－623－03992－7／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

現代と社会（SB）

12750

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1)（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2)（山口）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減など、3)（高嶋）グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1)「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。

2)地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念に関する理解力と教養を深めること。

3)グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、山口、髙嶋　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と現代社会（山口）	
第7回	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本（山口）	
第8回	街づくりの課題・景観デザイン（山口）	
第9回	環境配慮型マーケティングとエコライフ（山口）	消費生活から発生する環境負荷
第10回	グローバル化と企業社会の変化（髙嶋）	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任（CSR）、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化（髙嶋）	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題―社会的不平等をどう考えるか―（髙嶋）	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働―労働が多様化することの意味について―（髙嶋）	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ （小澤、山口、髙嶋　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4－7710－1592－0／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一／ミネルヴァ書房／4－623－03992－7／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

現代と社会（SC）

12751

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（山口）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減など、3）（高嶋）グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。

2）地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念に関する理解力と教養を深めること。

3）グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、山口、高嶋　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と現代社会（山口）	
第7回	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本（山口）	
第8回	街づくりの課題・景観デザイン（山口）	
第9回	環境配慮型マーケティングとエコライフ（山口）	消費生活から発生する環境負荷
第10回	グローバル化と企業社会の変化（高嶋）	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任（CSR）、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化（高嶋）	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題―社会的不平等をどう考えるか―（高嶋）	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働―労働が多様化することの意味について―（高嶋）	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ （小澤、山口、高嶋　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』　立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4－7710－1592－0／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一／ミネルヴァ書房／4－623－03992－7／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

現代と福祉（SA）　§　現代と福祉（SA）

11245

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・秋葉・鎮目が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

現代と福祉（SB）　§　現代と福祉（SB）

11246

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・秋葉・鎮目が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

現代と福祉（SC）　§　現代と福祉（SC）

11247

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・秋葉・鎮目が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

現代とメディア（SA）

12662

担当者名 / Instructor　筒井 淳也

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（筒井、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：筒井担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか？メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術の発明は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどう構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か？またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報化とは何か？：漠然と語れることが多い「情報化」について、基礎から説明する。	
9	情報化と政治・経済：具体的な社会的領域に対してメディアがどのように作用するのかを説明する。特に政治と経済の仕組みに注目し、メディアが政治と経済の領域に与える影響を理解する。	
10	情報化と社会的ネットワーク：同じく、対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、教育の位置づけなどその他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：インターネットは社会をどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか？また、その社会的な働きはどこにあり、何が問題になっているのか？	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	不定期に授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。

現代とメディア（SB）

12663

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（筒井、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：筒井担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか。メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術の発明は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどう構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か。またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報化とは何か？：漠然と語れることが多い「情報化」について、基礎から説明する。	
9	情報化と政治・経済：具体的な社会的領域に対してメディアがどのように作用するのかを説明する。特に政治と経済の仕組みに注目し、メディアが政治と経済の領域に与える影響を理解する。	
10	情報化と社会的ネットワーク：同じく、対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、教育の位置づけなどその他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：インターネットは社会をどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか？また、その社会的な働きはどこにあり、何が問題になっているのか？	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	不定期に授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。

現代とスポーツ（S）　§　人間と文化（S）

11422

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、08年9月の世界的同時不況のもとで、急変し、予断をもてない深刻な事態を招いている。つまり、「イベント・プロ・ビジネス」が主導する、グローバルな市場経済に翻弄される一方で、スポーツは健康つくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活文化として定着しつつある。「スポーツの価値観の多様化」といわれる現状を分析し、問題点を摘出しながら、「体育・スポーツ国際憲章」でしめされたスポーツ権の実現の方途を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは社会と切り離されて存在はしない。社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係を理解しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を理解し、それを打開していく方向性を考察することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」「スポーツと現代社会」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序章:	【スポーツ社会専攻】での学び、小テスト(クイズ形式)
第2回	序章	「習わなかった体育理論」「スポーツ体験」の対象化
第3回	第1章 「する」スポーツの思想	「ゲーム」内の世界　ゲームの「心構え」論　アマチュアリズムとナショナリズム
第4回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第1節 アマチュアリズムの崩壊 /冷戦体制の中の五輪 / ロス・五輪と「ユベロス」神話
第5回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第2節 プロスポーツとボーダレス化 /グローバリゼーション/スポーツ市場/国籍条項/アメリカナイゼーション
第6回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第3節 イベントビジネスとメデイア資本（文化帝国）/放映権/プロバビリテイ/テレ・メデアの介入
第7回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第4節 スポーツ文化のナショナリテイ /数量化と客観的判定/勝利至上主義とナショナリズム/非合理の美
第8回	第2章のまとめと小テスト	
第9回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節 増大するスポーツ要求 /「スポーツ世論調査」の変遷その1 スポーツの価値と多様性、
第10回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節 増大するスポーツ要求 /「スポーツ世論調査」の変遷その2 スポーツの価値と多様性、/ユネスコ「スポーツ国際憲章」から“スポーツと人権”
第11回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第2節 エリア・スクール・ビジネスの限界、「バブル」の後先、「宴」の後で
第12回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第3節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「総合型地域スポーツクラブ」の発足と展開
第13回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第4節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「スポーツNPO」とスポンサーシップの危うさ、/スポーツ事業と財務、プロのキャリア形成
第14回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第5節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「切り離される」スポーツ、マーケッテイングとマネッジメント: 小テスト
第15回	終章:「する」「見る」時代から「考える」「創る」時代へ	横浜Fマリノス事件から学ぶ/「プロ野球ストライキ」から学ぶ/スポーツ文化の担い手」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは指定しない。講義は章または節毎にまとめたレジュメによって展開する。レジュメは教室でのみ配布。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力
平常点評価	20 %	基礎的な用語・概念についての理解

出欠は取ります。ただし、点数化はしません。小テストをシラバスの予告週および予告なく2回行い、日常点として組み入れます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことは率直に質問すること。用語・概念を正確に理解すること。日々のスポーツ報道に目を配ること。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。講義は毎週、教室内でのみ配布されるﾚｼﾞｭﾒによって展開されます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ルールはなぜあるのだろう-スポーツから法を考える-	大村敦志／岩波ジュニア新書／／
「スポーツ･プロモーション論」	菊幸一･仲澤真／明和出版／／
「サッカーで燃える国・野球で儲ける国―スポーツ文化の経済史―」	シマンスキー・ジンバリスト／ダイヤモンド社／／

参考文献・資料はﾚｼﾞｭﾒの章末に掲載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目･専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

外書講読 (SA) § 外国語文献研究 (SA)

13343

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代ドイツ語文献の初歩的理解を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業中に指示する	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Die ersten 180 Tage der neuen EU, 2004.(初級者向け)
J. Kocka, et. al., Europaeische Zivilgesellschaft in Ost und West, 2000.(中・上級者向け)
受講者の希望を基に、その他の文献の可能性を含め、それらの必要部分の資料を配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外書講読（SB） §　外国語文献研究（SB）

13344

担当者名 / Instructor　平本 毅

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、日常生活の社会学者アーヴィン・ゴフマンの『Encounters: Two Studies in the Sociology of Interaction』に収められた二つの論文『Fun in Games』と『Role Distance』の輪読を通じて、日常生活を社会学することの意義を学ぶ。この二つの論文で取り上げられるのは、まず『Fun in Games』で「なぜ我われは（トランプやスポーツなどの）ゲームを面白いと思うのか」、次に『Role Distance』で「我われが授業やサークルといった社会的場面において（学生や先輩／後輩といった）役割を演じるなかで、演じていない〈本当の〉自分はどこに見出されるのか」ということである。この二つの論点の間には一見何の関係もないようにみえるが、じつは重要な共通点を見いだすことができる。それは、一つには我われがどうやってゲームや社会的場面のリアリティ、言い換えれば〈空気〉を作り上げているかという問題であり、二つ目にはそのような〈空気〉の中で、どうすれば「〈空気〉が読めない人」になることなくゲームの勝利者や本当の自分といった「個人」になれるのか、という問題である。日常生活の中で、社会の一員として振舞うと同時に一個の個人であることを、我われはどうやって成し遂げているのか。ゲームや社会的場面における演技といった身近な例を豊富に取り上げて議論しながら、日常生活を社会学的に探究するセンスを身につける感覚を習得する。

到達目標 / Attainment Objectives

・身近な日常生活で行われる些細な行為を、社会学的な事象として捉える感覚を身につける。
・社会学の基本文献の内容を理解する程度の英文読解力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション「Erving Goffmanの社会学」	講義内容の紹介、進め方の決定等
2	『Fun in Games』（1）	輪読
3	『Fun in Games』（2）	輪読
4	『Fun in Games』（3）	輪読
5	『Fun in Games』（4）	輪読
6	『Fun in Games』（5）	輪読
7	『Fun in Games』（6）	輪読
8	『Fun in Games』（7）	輪読
9	『Role Distance』（1）	輪読
10	『Role Distance』（2）	輪読
11	『Role Distance』（3）	輪読
12	『Role Distance』（4）	輪読
13	『Role Distance』（5）	輪読
14	『Role Distance』（6）	輪読
15	『Role Distance』（7）	輪読

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に出席点と授業への取り組み状況を評価するが、レポート等の提出により加点する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

訳出は主に一行ずつの輪読形式で行うが、わからない場合はパスしてもかまわない。量をこなすことによって、皆で徐々に英文読解に慣れてゆくかたちをとる。

教科書 / Textbooks

Erving Goffman（1961）Encounters: Two studies in the sociology of interaction. Bobbs-Merrill.
適宜使用部分をコピーして渡すため、購入の必要はない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

英和辞書があるとよい。英英辞書もあればなおよし。

外書講読（SC） §　外国語文献研究（SC）

15498

担当者名 / Instructor　藤井 友紀

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

デュルケムは、19世紀末、当時の自殺統計をもとに『自殺論』を著しました。そこで示された彼の分析・理論は、現在でも社会分析に重要な役割を果たしています。

翻って現在、日本では、中高年男性の自殺率の増加やリストカット症候群など、自殺が重要な社会問題となっています。

この講義では、『Durkheim et le suicide』を通して『自殺論』の概要と現在のフランスの自殺の傾向について理解を深めつつ、『自殺論』の現代的意義や日本の自殺傾向についても考えていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

①辞書を有効に利用し、フランス語で書かれた文献の概要を正確に把握できるようになる。
②デュルケムと彼の自殺分析について基本的な理解を得る。
③社会理論についての知識を下敷きに、自分なりに社会現象を分析する視野を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	①講義の方針と計画に関する説明、受講者の語学力の確認、予習範囲および担当箇所の分担。 ②デュルケムと『自殺論』に関する説明。
2	introduction 1.Le suicide, un fait social①	
3	1.Le suicide, un fait social②	
4	1.Le suicide, un fait social③	
5	1.Le suicide, un fait social④	
6	2.Que valent les statistiques du suicide?①	
7	2.Que valent les statistiques du suicide?②	
8	2.Que valent les statistiques du suicide?③	
9	2.Que valent les statistiques du suicide?④	
10	3.Fait divers et fait socioal①	
11	3.Fait divers et fait socioal②	
12	4.Le suicide aujourd'hui①	
13	4.Le suicide aujourd'hui②	
14	Conclusion①	
15	Conclusion②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業への出席、予習、議論への参加の具合によって決定します。 ただ黙々とテキストを読み進めるだけでなく、各自が疑問に思ったことなどを積極的に議論していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・受講者は一通りフランス語の基本文法を修得していることが望ましいですが、意欲があれば初心者でも受講可能です。
・一回の予習範囲は少なくはありませんが、読みやすく、図表のページも多いので、辞書を片手に頑張って読んでみて下さい。
・受講者の数や語学力によっては、予習範囲を分担制にし、負担を軽減する場合もあります。

・また進度に応じてレジュメを作成し、それまでの議論の要点を纏めるとともに、疑問点を整理する時間を設けます。
・あまり気負わず、率直な意見交換を通して講義を活性化していきましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Durkheim et le suicide	C. Baudelot, R. Establet／Paris : Pr. Univ. de France ／978-2-13-056018-0／

コピーを用意しますので、購入の必要はありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Le suicide : étude de sociologie	Emile Durkheim／Paris : Pr. Univ. de France ／／
自殺論	デュルケム著、宮島喬訳／中央公論新社／／上記の邦訳版

事前に読んでおくことが望ましいですが、随時解説を加えていきますので、未読でも大丈夫です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外書講読（SD） §　外国語文献研究（SD）

13345

担当者名 / Instructor　吉田 幸治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、ランドル・コリンズによる社会学の入門書、Sociological Insight～An Introduction to Nonobvious Sociology～（『社会学的洞察力～脱常識の社会学への招待～』）を講読する。副題のタイトルにあるnonobvious（脱自明的/脱常識的）には、「わたしたちが社会の中で当たり前とみなしている知識、あるいはそうした理解のしかた（物事を自明視する理解のしかた）から脱する」という意味が込められている。そして著者は、そのための知的トレーニングとして、「社会学を学ぶ意義」を挙げるのである。序文において、著者は以下のように言っている。

「社会学はたしかに、この世界を動かしている重要な原理のいくつかを認識している・・中略・・しかも これらの原理は、私たちの日常的信念の表層よりも深いところで働いている。」（テキスト序文より）

本講義では、この「重要な原理」が示されている第1章「合理性の非合理的基盤」と第2章「神の社会学」を輪読することによって、これまでの社会学が培ってきた社会への脱自明的なものの見方を理解していく。すなわち、近代以降の私たちの社会を形作っている「合理性」の力は、歴史的にも実際的にも非合理的な基盤に支えられていること（M.ウェーバーらによる洞察）、あるいは人間集団を成立させるためには共通の感情と理念を生み出す何らかの非合理的メカニズムが必要とされ、そのメカニズムは宗教の本質を問うことによって明らかになること（E.デュルケムらによる洞察）などを理解していく。

以上のように、このテキストを読み進めることによって、近代社会における合理性の問題や、社会の秩序形成と宗教の関係など、社会の基本的なあり方を把握するうえで重要な論点が考察可能となる。講義ではそれらの考察を通して、社会学を学ぶ際に必要な基礎知識や発想の理解を深めることを目的としたい。なお、テキスト中で言及されているM.ウェーバーやE.デュルケム等の社会学に関する重要な基礎概念については、講義中で適宜解説を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

テキスト本文において論じられている内容の正確な訳出と、社会学的基礎知識の理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	第1回授業時において、次回の翻訳担当者を決定。以下、毎回翻訳担当者を決め、受講者全員によるテキストの読み合わせを進めながら、適宜内容の解説や議論を行う。ただし受講者の人数や講読の進度によって、読み合わせの方法や輪読スケジュールの変更もありうる。
第2回～8回	第1章　合理性の非合理的基盤（The Nonrational Foundations of Rationality）を輪読。	
第9回～14回	第2章　神の社会学（The Sociology of God）を輪読。	
第15回	講義総括	読み進めてきたテキストの内容について、総括を行う。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

事前に社会学史に関する簡単な概説書（入門書程度でよい）を講読しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況、担当箇所の翻訳、講義期間中に実施する小レポートによって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進めるが、その進め方については、第1回講義時に受講生と協議を行う。原則的には輪読形式を予定している。なお、受講にあたっての最低限のルールとして、自分の翻訳担当箇所だけでなく、他の担当者分の箇所も必ず読んでくることが求められる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Sociological Insight	Randall Collins ／Oxford University Press／／

上記テキストのうち、Chapter1.The Nonrational Foundations of Rationality、及びChapter2.The Sociology of Godを講読する。なお使用する部分は講義で配布するので、テキストを購入する必要はない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新睦人 他著／有斐閣（有斐閣新書） ／4641088578 ／
社会学のあゆみパート2～新しい社会学の展開～	新睦人 他著 ／有斐閣（有斐閣新書） ／4641090467 ／
リフレクション～社会学的な感受性へ～	野村一夫 著 ／文化書房博文社 ／4830106964 ／

現代社会学講義　　佐藤慶幸 著 ／有斐閣(有斐閣ブックス)／4641086281 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外書講読 (SE) § 外国語文献研究 (SE)

15585

担当者名 / Instructor　甘 琳樺

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

中国は現在目まぐるしい変化を遂げつつあります。そんな日進月歩の社会の表層を追いかけることを中国語学習の目的と考えているわけではありませんが、本テキストはたまたま中国の最新情報が紹介されています。当世学生気質から、日常生活に対する感覚まで内容は雑然と多方面にわたっており、これらを読むことで現代中国の実態の一端が窺えることでしょう。また、使われている文体も平易で日常的なものです。全体で10課ですから、3回で1課という進度で進めていきます。時間に余裕があるようなら、関連した資料やビデオ等も取り入れて、理解を深めることが出来たらと思っています。一緒に楽しく学んでいきましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

中国語検定2級、3級レベルの実力を身につけることを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

中国語学習歴のある学生の参加を望んでいます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第1課 校园生活	キャンパス・ライフについて
第2回	第1課 校园生活	キャンパス・ライフについて
第3回	第1課 校园生活	キャンパス・ライフについて
第4回	第2課 难关	大学受験について
第5回	第2課 难关	大学受験について
第6回	第2課 难关	大学受験について
第7回	第4課 爱情·亲情·友情	人件関係について
第8回	第4課 爱情·亲情·友情	人件関係について
第9回	第4課 爱情·亲情·友情	人件関係について
第10回	第5課 人是铁，饭是钢	飲食に関する風俗習慣について
第11回	第5課 人是铁，饭是钢	飲食に関する風俗習慣について
第12回	第5課 人是铁，饭是钢	飲食に関する風俗習慣について
第13回	第6課 消费新倾向	暮らしぶりやものの考え方について
第14回	第6課 消费新倾向	暮らしぶりやものの考え方について
第15回	第6課 消费新倾向	暮らしぶりやものの考え方について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『中国は今』	孟　広学・本間　史／白水社／／

参考書 / Reference Books

中日辞書を持参すること。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SA）

12725

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1)（テキスト第5章、第 10 章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2)（テキスト第5章、第 10 章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2)（テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SB）

12726

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SC）

12727

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SD）

12728

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SE）

12729

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1)（テキスト第5章、第 10 章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2)（テキスト第5章、第 10 章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2)（テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

経済学理論（S）

13311

担当者名 / Instructor　伊藤 正純

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

まず現実の経済を認識するための基礎タームである、国民所得、GDP成長率、国際収支、財政（歳入・歳出）などを説明する。次いで、アメリカ流の「金融資本主義」とは何であったかを考える。アメリカ追随の日本の経済政策は、小さすぎる政府による「公貧社会」、外需依存型の脆弱な経済、大きな格差社会をもたらしている。日本とは対極にある北欧諸国の経済政策を念頭に、日本の経済政策の問題点を考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、新聞の経済欄に興味をもてるようになること、そして実際に読んでみて、少しはわかったという実感がもてるようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4／8	国民所得とは何か	市場経済　GDP（国内総生産）　国民所得　経済成長率
4／15	経済は市場だけでは成り立たない	市場と財政は相互補完関係　「小さな政府」「大きな政府」
4／22	国際収支とは何か	経常収支　資本収支　為替　円高　円安
4／29	アメリカ「金融資本主義」の発生	金融の自由化、グローバル化、直接金融、間接金融、BS規制
5／13	アメリカ「金融資本主義」の繁栄（1）	新自由主義　双子の赤字（財政の赤字と経常収支の赤字）、資本収支の黒字、高金利、低金利
5／20	アメリカ「金融資本主義」の繁栄（2）	過剰な消費、世界の資金循環、外需依存型経済（日本、中国）
5／27	アメリカ「金融資本主義」の破綻	証券化、CDF（クレジット・デフォルト・スワップ）、格付会社
6／3	外需依存型日本経済の「繁栄」	規制緩和、財界の変貌、損益分岐点の「改善」
6／10	外需依存型日本経済の「貧困」	労働分配率　労働市場の規制緩和、ワーキング・プア、労働組合
6／17	「貧困大国」の双璧、アメリカと日本	「トリクル・ダウン」論、税制の問題点、所得再分配機能の放棄
6／24	アメリカン・ドリームとヨーロッピアン・ドリーム	自己責任、「機会平等」、勝者の論理、社会的包摂、「包摂される権利」、システムの責任
7／1	政府の役割　財政と社会保障	北欧諸国にみる「生活の安全」、強い経済と強い財政は両立する
7／8	フレキシキュリティ（Flexicurity）とは何か	デンマーク、オランダ、スウェーデン
7／15	知識基盤社会における人材育成	エンプロイアビリティ　生涯学習
7／22	ワーク・ライフ・バランスを考える	貧困をなくした国、貧困にあえぐ国

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	記述式論文試験。持ち込み不可。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純／桜井書店／ISBN4-921190-16-X／
日本経済を問う	伊東光晴／岩波書店／ISBN4-00-024243-1／
入門社会経済学	宇仁宏幸他／ナカニシヤ出版／ISBN4-88848-879-7／
希望の構想	神野直彦・井手英策／岩波書店／ISBN4-00-022553-7／
貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン	竹崎孜／あけび書房／ISBN978-4-87154-078-0／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

計量社会学（SA） § 計量社会学（SA）

13448

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
第2回目	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
第3回目	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
第4回目	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
第5回目	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
第6回目	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
第7回目	分析実習1	度数分布表、代表値
第8回目	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
第9回目	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
第10回目	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
第11回目	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
第12回目	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
第13回目	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
第14回目	分析実習4	多変量解析
第15回目	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	40 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる

[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。

[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本人の姿	岩井紀子・佐藤博樹編／有斐閣／4641280681／

社会調査へのアプローチ　　大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武／ミネルヴァ書房／4623041042／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

その他 / Others

計量社会学（SB） § 計量社会学（SB）

13459

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
第2回目	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
第3回目	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
第4回目	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
第5回目	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
第6回目	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
第7回目	分析実習1	度数分布表、代表値
第8回目	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
第9回目	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
第10回目	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
第11回目	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
第12回目	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
第13回目	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
第14回目	分析実習4	多変量解析
第15回目	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	40 %	学期中に2～3度程度の平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って参加する態度が望まれる。
[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことをより明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。
[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本人の姿	岩井紀子・佐藤博樹編／有斐閣／4641280681／

社会調査へのアプローチ　　大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武／ミネルヴァ書房／4623041042／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

その他 / Others

現代史 (S)

15514

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:現代日本の世界史的位置。

現代は,多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。この講義では、①20世紀の歴史を振り返り、今日的な諸問題が形成されてきた経過を確認し、そのうえで、②世界的な視点から、今日の日本の産業・労働環境，教育・福祉などをめぐる問題と今後の課題を検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と、日本の経済社会との重層的な構造的連関を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に希望はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	グローバル化のなかで「現代」を考える	現代は、いつから始まるか　近代の再帰性 国民国家の誕生、国軍と司法、国民教育、産業振興
第2回	19世紀末の世界ー 帝国主義と社会主義	後発資本主義国の発展　パックス・ブリタニカ 大衆デモクラシーの台頭　19世紀末の文化
第3回	第1次世界大戦—大衆デモクラシー時代への本格的移行の転機ー	総力戦体制　日本の対応
第4回	戦後の新しい世界秩序	ヴェルサイユ体制とワシントン会議
第5回	1920年代における太平洋地域と中東の新秩序	中東とインド　中国の内戦　　日本の大陸政策
第6回	世界恐慌の諸相	アメリカの恐慌　スターリン体制　日本の恐慌
第7回	ファシズムの台頭	ナチス・ドイツ，イタリア，スペイン
第8回	第二次世界大戦の構図	ファシズム対反ファシズム　日本の総力戦
第9回	東西冷戦と戦後復興	東西冷戦のはじまり　　国際連合　　マーシャル・プラン 朝鮮戦争
第10回	福祉国家の形成と展開	社会主義圏の社会福祉　資本主義諸国の「福祉国家」化とその性格
第11回	ラテンアメリカとアフリカ	移民社会　開発と国際協力　　アフリカの独立
第12回	1970年代の世界の重層構造	フォーディズムからフレキシブル生産体制へ　アジア諸地域の脱植民地化
第13回	新自由主義の世界的な潮流	福祉国家の変質　途上国の債務と経済協力の性格
第14回	教育・文化をめぐる先進国と途上国	少子化　教育　グローバル・メディア
第15回	現代世界とモダニティの変容－1つのまとめー	グローバリズムとセフティーネット

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	基本的に定期試験で評価。
平常点評価	10 %	出席票を配布する際、講義に関する質問を書いて頂き、授業のなかで返事をする機会をつくる。その対応を若干、定期試験の評価に加味する。

出席が一度も確認できなかった受講生は、定期試験を受けても単位を認定しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この講義は、現代社会に生起している諸問題を考える視点や射程を私なりに紹介するものであり，それを、歴史学の方法で、進めているにすぎない。

講義で話題にしたことについて、それに関連する書籍・文献を独自に読み進め、理解を深める学習を切に希望する。

教科書 / Textbooks

教科書は、このシラバスを出稿する時点では、使用しないとする(変更する際は、授業で説明する)。

毎回、レジメにて講義をし、テーマに関連する文献は適宜、講義の中で紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代史への視座	竹内　啓／東洋経済新報社／978-4-492-06143-5／多少刺激的である
新自由主義	デヴィド・ハーヴェイ／作品社／978-4-86182-106-6／一度、通読されることを薦める
昭和史　全2巻	中村隆英／東洋経済新報社／／日本の戦後史の概説書

このほか，講義のなかで，先にも述べたように適宜、参考文献紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

最近は、歴史に関する用語やキー概念を、サーチ・エンジンに入力すれば、関連する用語解説が簡単に検索できるので、まずはどのような用語でも良いから検索してみることである。

その他 / Others

特になし

現代政治論（S）

13310

担当者名 / Instructor　國廣 敏文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

20世紀の科学＝技術や医学の飛躍的進歩によって、人類は宇宙旅行を現実のものとしクローンを作り出すまでになった。だが同時に20世紀は〝紛争と革命の世紀〟でもあり、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など未解決の問題が山積しており、その意味で、人類は自然と社会を統治しえていない。政治学の観点から見ると、20世紀は「国民国家」の時代であるが、その国家が世紀末に至って〝ゆらぎ〟始めている。本講義では、分裂と統合との間を揺れ動く現代国家および世界政治の諸相と諸問題を把握するとともに、現代世界の構造と動態についての政治学的分析に必要な基礎概念や視点・方法を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

・グローバル化の進む中で、国家や人々が解決を迫られている現代的諸問題を広く理解する。
・それらの解決のための方策を考える。
・現代世界を捉えるための理論的枠組みについて理解を深め、自らの社会的視座を形成するとこをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代政治論はグローバルな視点から現代世界の諸問題を考察しますので、各国政治を、より具体的に見ていくには、「比較政治論」もあわせて履修することを推奨します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ．歴史認識と政治学の視点	現代という時代―20世紀から21世紀へ― 科学技術・医学発展の世紀、戦争と革命の世紀 20世紀
第2回	政治学の方法と課題 ―グローバル・プロブレマティークとは何か―	政治学、グローバル・プロブレマティーク
第3回	Ⅱ．現代政治の諸相―国家、民族、紛争―、	「国民国家」の拡大と〝ゆらぎ〟―「相対化の時代」か―「国民国家」、「相対化の時代」
第4回	国家とは何か	国家
第5回	国家形成と国民形成	国家と国民
第6回	民族とは何か	民族
第7回	現代民族問題の概観（1）―人種、言語、宗教との関わりで―	人種、言語、宗教
第8回	現代民族問題の概観（2）―いくつかの事例を中心に―	民族問題の現状
第9回	「国民国家」と民族問題の将来	国家と民族問題の展望
第10回	Ⅲ．分析枠組	「世界システム論」の方法　世界システム論
第11回	「世界システム論」の意義と問題点	世界システム論
第12回	「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第13回	「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第14回	グローバル・ガヴァナンスとグローバルデモクラシー	グローバル・ガヴァナンス、グローバルデモクラシー
第15回	Ⅳ．まとめと展望：グローバルデモクラシーの可能性を考える	「グローバリゼーション」の時代と私たちの課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞やニュースに普段から接するように心がけることと、分からない言葉や問題があったときに、それを調べる癖を身につけること。そうした探求心や好奇心から、勉強することへの興味が湧いてきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義で話した内容についての理解度・学習到達度を測る
レポート試験	20 %	講義内容あるいは特別講義に関するもの
平常点評価	10 %	出席点を加味する ＊定期試験として実施　成績評価＝単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としますが、毎回出席を取ります。100点満点のうち、10点として総合点に参入します

テキストはとくに指定しないが、授業に際して参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。
現代の世界的状況を理解するための参考書として、D. ヘルド編（中谷義和監訳）『グローバル化とはなにか』法律文化社、2002年10月刊を挙げておきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の中で紹介します。

その他 / Others

「私語」は、自らの学習権の放棄であると同時に、他者のそれへの侵害でもあるので、厳禁する。

コミュニケーション理論（S）

13265

担当者名 / Instructor　池田 知加

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

コミュニケーションとは多義的な意味がこめられる概念です。そのため、コミュニケーションのとらえ方は、社会学、哲学、心理学、社会心理学、情報科学といった多様な分野で様々なアプローチがなされています。この講義では、主に、社会心理学（第2～5回目）と記号論（第6～9回目）からみたコミュニケーションについて理解を深めた上で、現代のコミュニケーションの動向について近代化という社会変動を軸にしながら、社会学的に考察（第10～13回目）します。現代的な事例を出しながら授業を進めますが、コミュニケーションについて、個別的な事象から捉えるのではなく、いくつかの理論的なアプローチを学ぶことで一般化して広く理解することをめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会心理学、記号論それぞれからみたコミュニケーション理論についての理解を深める。
・コミュニケーションへの理論的な理解を深めた上で、現代コミュニケーションの動向について、近代化を軸に社会学的に論述する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	コミュニケーション　コミュニケーション論
第2回	自己を知らせるコミュニケーション	自己開示
第3回	他者の心を動かすコミュニケーション	説得コミュニケーション　簡便法
第4回	マスメディアと説得コミュニケーション①	プロパガンダ　感情
第5回	マスメディアと説得コミュニケーション②	テレビ　効果研究
第6回	コミュニケーションの記号と意味①	記号論　ソシュール　シニフィアン　シニフィエ
第7回	コミュニケーションの記号と意味②	バルト　デノテーション　コノテーション
第8回	記号化した世界	消費社会　欲望　差異
第9回	身体の記号論	文化産業　パノプティコン
第10回	メディアとコミュニケーション	CMC　No sense of place
第11回	コミュニケーションと場所	場所の力　グローバル化
第12回	コミュニケーションと文化	異文化コミュニケーション
第13回	コミュニケーションと社会	ポスト慣習社会　規範
第14回	近代化とコミュニケーション　コミュニケーションの可能性	近代化　ハーバーマス
第15回	全体のまとめと補足	コミュニケーション　近代

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

基礎的な専門用語などについては、各自で社会学事典などを参考にして学習すること。講義内で紹介した文献を読むと、より授業の理解が深まります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観テスト（基礎的事項の理解）60% 論述（テーマ設定・論理的構成力）40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私語は厳禁です。学生証を提示の上、即退出、以後の授業への参加は認めません。レジメは教室でのみ配布します。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。レジメを使用します。参考書については適宜提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
影響力の武器：なぜ、人は動かされるのか	ロバート・B・チャルディーニ／誠信書房／4414302692／
プロパガンダ：広告・政治宣伝のからくりを見抜く	アンソニー・プラトカニス、エリオット・アランソン／誠信書房／4414302854／
記号の知/メディアの知：日常生活批判のためのレッスン	石田英敬／東京大学出版会／4130100947／
場所感の喪失〈上〉電子メディアが社会的行動に及ぼす影響』	ジョシュア・メイロウィッツ／新曜社／4788508699／

人生相談「ニッポン人の悩み」:幸せはどこにある?　池田知加／光文社新書／4334032968／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

特になし

産業技術論（S）

15551

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに絡みついているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、技術に関する問題の解決指針を与えていく。

それには、技術自身について理解すること以上に、それが社会の中でどのように機能しているか、役にたっているかについてのセンスを磨く必要があらわれる。技術を生活や社会の中に正確に位置づけ、その中から、スペックに惑わされない本来的な「技術と社会の発展」のありようについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

技術発展の指標について理解し、現今の技術を評価できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

環境技術論を同時に履修していくことが望ましい（履修順序は問わない）

対象となる科学・技術についての説明に専門概念を使用することもありますが、そうした事項については、その都度丁寧に説明いたします。受講に理系的知識を前提としてません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　技術発展と社会発展	技術発展　社会発展
第2回	発明と普及の時間差について	蒸気船と帆船　動力と制御
第3回	大型化の利得について	スケールメリット　表面効果と体積効果
第4回	産業革命論1　道具と機械	道具と機械　産業革命
第5回	産業革命論2　大量生産社会	大量生産
第6回	工作機械論	工作機械　汎用と専用
第7回	フォーディズム　流れ作業	コンベア流れ生産　大量生産
第8回	フォーディズム2　テーラーシステム	テーラーシステム
第9回	ポストフォーディズム	リーン生産方式
第10回	日本的生産様式	FMS　JIT
第11回	ロボット論	ロボット　Rキューブ
第12回	半導体工業論	半導体　IC
第13回	エレクトロニクス製品の現状　1 楽器の問題	PCM　デジタル
第14回	エレクトロニクス製品の現状　2　PC　通信技術	PC　ケイタイ
第15回	全体まとめ　技術発展とは	技術発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

多数の本、視覚教材を随時紹介していきます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理を正確に理解すること

なし

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1冊のテキストで学習できるものでありませんので、講義を聞き逃さないようにしてください。

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布していきます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『技術と労働』	大沼正則／岩波書店／ISBN4-00-003662-9　c0336／
『アメリカンシステムから大	D.A.ハウンシェル／名古屋大学出版会／ISBN4-8158-0350-1／

上記以外でも参考書は多数に渡りますので、随時紹介し、また抜粋なども配布します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、講義などで紹介していきます。

その他 / Others

なし

社会学講読（S）

15473

担当者名 / Instructor　佐々木 嬉代三

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学の基礎的な知識を修得することを目的とするが、購読という科目の性格を考えて、参加する学生個々人にテキストの分担報告を行ってもらうことになるであろう。ただし、参加する学生数に応じて、授業運営の方法を具体的に考えたい。購読テキストは参加学生が2回生以上ということを考慮して、平易だが内容豊かなものを選んだつもりである。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎的な知識を修得すること、あるいは、社会学的な思考の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員の自己紹介（専門分野の紹介）、授業の進め方に関する相談	
第2回	社会学的パースペクティヴについて	「社会と個人」問題、「脱」常識
第3回	合理性の非合理的基礎	社会類型の変化、機械的連帯と有機的連帯、社会秩序
第4回	合理性の非合理的基礎ー2	フリーライダー問題、連帯の感情
第5回	神の社会学	宗教、象徴、儀礼
第6回	神の社会学ー2	人格崇拝、相互作用儀礼
第7回	権力の逆説	カリスマ、官僚制
第8回	権力の逆説ー2	自明性の支配、不確実性の力
第9回	犯罪の常態性	正常と異常、社会秩序と犯罪
第10回	犯罪の常態性－2	ラベリング、意味付与、犯罪の創出
第11回	愛と所有	家族の運命、運命としての家族
第12回	愛と所有	現代家族の病理
第13回	現代社会の捉え方	ボードリアール、消費社会、アイデンティティ
第14回	現代の問題と病理	消費社会、格差社会、自殺、殺人等
第15回	レポート試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

学生が自ら分担報告する点を考慮して、上記のような評価基準にした。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

デュルケムやウエーバーの著作に親しんで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脱常識の社会学	ランドル・コリンズ著、井上俊・磯部卓三訳／岩波書店／4-00-001275-4／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会学史 (S)

13449

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学は、二重革命（産業革命＋市民革命）の激動を通じて中世西ヨーロッパの社会秩序が解体され、いわゆる近代社会（産業社会）が立ち上がってくる歴史状況の中で、いかにして近代社会に秩序をもたらすかという問題意識を基点として、19世紀末から20世紀初頭にかけての時代に出現した学問である。「近代社会の自己認識」というフレーズが社会学の自己規定として語られ、社会学の根本問題は≪秩序問題≫であるとしばしば言われるのは、社会学がそのような誕生の経緯を持っているからである。本講義では、社会学の根本問題であるこの≪秩序問題≫を軸としてどのような学史が紡がれてきたかを概観することとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の根本問題である≪秩序問題≫に対して、主要な社会学者がどのような観点でそれを捉え、どのような理論形成を試みたのかを理解することが第1の目標である。またそのことを通して、社会学という学問が歴史的現実をどう捉え、それに対してどのように応答しようとしてきたのかを理解すること、これが第2の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学の根本問題への誘い	社会秩序
第2回	人間社会の秩序への開眼	マキャベリ
第3回	啓蒙主義の社会秩序像	ホッブズ、ロック
第4回	18世紀市民社会の社会的秩序像	スミス
第5回	19世紀市民社会の矛盾	ヘーゲル
第6回	中間総括① ―― 市民社会秩序の前提と矛盾	ヒューマニズム
第7回	コントの社会的秩序像 ―― 社会設計	実証主義
第8回	マルクスの社会的秩序像 ―― 社会の自己生成①	社会構成体、階級闘争
第9回	マルクスの社会的秩序像 ―― 社会の自己生成②	社会構成体、階級闘争
第10回	スペンサーの社会的秩序像 ―― 社会進化論	適者生存
第11回	中間総括② ―― 草創期社会学の課題	≪社会≫とは何か
第12回	ヴェーバーの近代社会像 ―― 歴史の逆説	支配、合理化
第13回	デュルケムの近代社会再建論 ―― 近代社会の病理	アノミー、道徳
第14回	現代社会学の課題	「社会」とは何か
第15回	最終総括 ―― 社会学の根本問題	≪秩序問題≫

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

情報量が多いので、テキストを読んできていることを絶対の前提条件として講義を進める。したがって、必ず事前に読んで来ること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学的思考とは何か』	三溝信／有信堂(1998)／／

『社会学的思考とは何か』、三溝信、有信堂(1998)をテキストとする。ただし、出版社の在庫数が履修予想者数を下回るので、こちらでコピーして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会学理論（S）

15534

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会の成り立ちを理解するのに有効な社会学理論の基本的な考え方を学んでもらうことを主眼にしている。そのために、デュルケームやヴェーバー、シカゴ学派、システム論を取り上げる。社会的連帯・儀礼・権威・自殺・宗教と資本主義の精神、共同態・都市化・移民などを具体的な事例にして、古典的な社会学理論のエッセンスを解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．基本的な社会学的視点と概念に習熟することで、社会学的なものの見方が可能となる。
2．社会学的な考え方を、具体的な問題状況に適応して、その解決に役立てることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日常性の社会学、社会学史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに：授業の進め方と社会学の主題	共同態・権威・聖なるもの・階層・社会病理
2	デュルケームの社会理論（1）：『社会分業論』	連帯・集合意識・抑止法・復原法
3	デュルケームの社会理論（2）：『自殺論』	欲求と規制（アノミー）・個人と社会・自己本位主義・集団本位主義
4	デュルケームの社会理論（3）：『宗教生活の原初形態』	トーテミズム・儀礼・集合的沸騰・象徴
5	デュルケームの方法論	実証主義・共変法・分類
6	ヴェーバーの社会理論（1）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	世俗内禁欲・資本主義の「精神」・担い手・親和性
7	ヴェーバーの社会理論（2）『儒教と道教』	氏族・家産官僚・読書人層・都市
8	ヴェーバーの方法論	理念型・比較社会・差異法・一致法
9	デュルケームとヴェーバーの比較	理念と思想の意義・行為論対制度論を超えて
10	シカゴ学派の社会理論（1）：『ポーランド農民』	移民・社会解体・再組織スラム・家族解体
11	シカゴ学派の社会理論（2）パークとバージェス	人間生態学・都市空間・適応・逸脱
12	システム論の考え方（1）	機械論・有機体論・パーソンのシステム論・自己組織性
13	システム論の考え方（2）	関係的思考・ブルデュー・ネットワーク
14	社会理論の展開：社会的世界論	ナラティブ・メカニズム・システム
15	理論的視点の総括	社会理論の整理・実践への示唆

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で適宜紹介する文献をできるだけ読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	社会学理論の基本的な概念や考え方についての理解度を試し、どれだけ現実の社会の理解に理論を活用する能力を習得しているのかによって評価する。

授業の理解度を知るために、特定のテーマが終わった段階ごとに、質問紙で質問を行う。こうした質疑への積極的な参加が望ましい。理解を深めるのに的確な質問をした受講生に対しては、評価を考慮する場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まじめな態度で受講して欲しい。授業ではレジメを配布するので、それを熟読し、参考文献にも目を通してもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新　睦人ほか　／有斐閣／4-641-08857-8／

テキストの他に授業では毎回レジメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シカゴ学派の社会学	中野正大・宝月誠／世界思想社　／4-7907-1029-7／

そのほか適宜、授業中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会経済学（S） § 社会経済学（W）

13273

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま日本では所得格差が広がっているといわれています。企業の業績は好調で、好景気もつづいているというのに不思議な話です。その原因は多くあるでしょう。雇用の多様化の中で進む賃金格差や、また教育格差がその直接的な原因のひとつだといっていいかも知れません。しかし、では、なぜ雇用が多様化するのでしょうか。そこには、グローバル化という大きな世界の動きがあります。また知識基盤型経済へと経済の仕組みが変わってきていることがあります。しかし、やはり根本的には、現在経済の舵をとっている経済の考え方が新自由主義的なそれであることに大きな原因があります。経済は、人が動かしている以上どのような考え方でいま経済の舵が取られているのかを考えることはきわめて重要です。本講義では、まずこうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念（言葉）、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような考え方で経済社会がこれまで動いてきたのか、また今動いているのかを考えてみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得（GDP、金融のメカニズムなど）
2）戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
3）現代経済社会に関する諸理論の確認

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済学
経済学理論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	経済空間の構造－資本と市場	資本の3形態、商品市場、金融市場、労働市場
2回目	企業と産業－株式会社	株式会社とは？産業分類
3回目	貨幣と金融－お金の話	貨幣の種類、銀行の役割、金融政策
4回目	国民経済計算の基礎－成長と所得	国民所得、3面等価、成長率
5回目	ケインズの経済学（1）－市場と政府	自由放任主義、エリート主義、国家介入主義
6回目	ケインズの経済学（2）－完全雇用	完全雇用、有効需要政策、財政・金融政策
7回目	戦後日本の蓄積構造と危機－経済と社会の変化	フォード主義的大量生産、消費社会、都市化、核家族
8回目	新自由主義の経済学（1）－市場原理主義と小さな政府	フォーディズムの危機、レーガニズム、規制緩和、民営茄
9回目	新自由主義の経済学（2）－自由と平等	機会の平等、成績主義、個人責任
10回目	グローバル化と経済	新自由主義的グローバル化、直接投資、新国際分業
11回目	所得格差の拡大－排除と貧困	ジニ係数、社会的排除、絶対的・相対的貧困
12回目	雇用の現状－雇用の多様化	正規・非正規労働、女性の労働力化、雇用格差
13回目	「第三の道」の経済学－包含の経済学	ギデンス、ステークホルダー資本主義、社会的包含
14回目	福祉と経済	効率と公正、ワークフェアー、トランポリンネット
15回目	まとめと総括	半年間の講義を振り返って。質問、アンケート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で、そのつど文献を指定するので、読んでおくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考査する
平常点評価	20 %	3～4回の出席をとり、それを点数に換算する。

講義は通して受講することが望ましい。したがって、適時出席をとる。定期試験80点プラス出席点20点＝100点で評価をする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメ、資料は講義での配布時に入手すること。
質問は、講義後に適時受け付ける。また、出席をとる際にも、記入欄を設けるので利用して欲しい。

教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民のための社会経済学	篠田等編／八千代書房／／
ケインズ	伊藤光晴／岩波新書／／
第三の道	ギデンズ・佐和隆光訳／日本経済新聞／／
もうひとつの日本は可能だ	内橋克人／光文社／／
人間回復の経済学	神野直彦／岩波新書／／

なお、上記の参考書以外にも、適時参考文献を講義中に知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.stat.go.jp（政府統計局の『日本統計年鑑』。国民経済計算、産業分類、金融統計など）
http://www.esri.go.jp（内閣府「国民生活白書』。国民生活に関する資料）
http://www.mhlw.go.jp（厚生労働省。雇用、福祉に関する資料） など。

その他 / Others

社会心理学（S）

13357

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人々は社会からさまざまな影響を受けながら日々の生活を送っている。このような個々人の中に見られる社会的影響の産物として社会的態度をとらえることができる。社会的態度はどのように形成され、どのような条件下で変化しうるのか。本講では社会的態度を中心に、個々人の持つパーソナリティや社会的動機、個人と個人との対人認知や対人関係、個人と集団とのかかわりあい、集団と集団との相互作用、さらに比較文化といった複眼的な視点から社会の中の人間行動を考えてみる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間が社会から受ける影響、人間と人間のと相互作用、個々人の態度の形成と変容などについて理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1）社会心理学とは	社会心理学の位置づけ、他の領域との関連性
2	2）社会心理学の歴史・研究方法	社会心理学の研究の流れ、研究方法
3	3）個人の中の社会的影響	社会が個人に与える影響について欲求・動機づけ・本能概念
4	4）達成欲求	達成欲求の測定法、達成欲求と行動特性、達成欲求
5	5）親和欲求	親和欲求、不安と親和欲求
6	6）対人認知	情動の認知、パーソナリティの認知
7	7）印象形成	暗黙裡のパーソナリティ理論、相貌と印象、言語情報からの印象形成、行動観察による印象形成
8	8）社会的態度とは	態度と対象の関係、態度の定義・機能
9	9）態度の形成	態度形成の問題について認知的成分、感情的成分、行動傾向成分
10	10）態度の変化	コミュニケーターの信憑性、コミュニケーションの提示方法
11	11）対人魅力の規定因	空間的近接・身体的魅力・態度の類似度・他者評価
12	12）対人魅力の理論	理論相互依存性理論・バランス理論・錯誤帰属説
13	13）人格とは	パーソナリティの概念、パーソナリティの理論、活動システムとしてのパーソナリティ、心理＝社会的アイデンティティ
14	14）人格の形成	社会化の概念と過程、価値の社会的学習、社会的学習のメカニズム、モデリングとしての同一視、文化的価値の伝達と内在化
15	15）文化と「人格形成」	乳児期からの社会的学習、子育てと文化のパターン

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	重要語句と研究例、理論の理解を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考書 / Reference Books

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

その他 / Others

社会調査論（S） § 社会調査論（S）

13331

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会統計学、計量社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会学と社会調査： 社会調査とは・社会調査の歴史	社会調査
2	社会調査の種類と特徴(1)： 量的調査、質的調査	調査票法、観察法、自由面接法
3	社会調査の種類と特徴(2)： 量的調査、質的調査	調査票法
4	社会調査の手順： 社会調査の一般的手順・調査の倫理	調査倫理、仮説
5	社会調査と理論(1)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
6	社会調査と理論(2)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
7	標本調査の考え方：サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論	サンプリング
8	標本調査の考え方：サンプリングの方法(2)　無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法
9	標本調査と標本誤差： 標本誤差と非標本誤差・推定の精度	標本誤差、非標本誤差、推定
10	調査票の作成： 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	調査票、ワーディング
11	コーディング： データの整理とチェック・エディティング・コーディング	エディティング、コーディング
12	調査票の集計： データの記述： データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	基礎統計量
13	データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション	クロス表、エラボレーション
14	データの分析(2) 結果の公表　2変量の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成	相関係数、疑似相関、調査研究例、調査倫理
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	試験は「持ち込み不可」です。 簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することを勧めます。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

授業中配布のプリントに記載します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会統計学（S） § 社会統計学（S）

13453

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

統計学の基本的な概念と方法について、説明することができる。
記述統計と推測統計の基本的方法を用いて、調査データの要約、推定、統計的仮説検定を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校レベルの基礎的数学（Σ記号を使った演算、順列・組合せ・確率、微積分の基礎）の知識を前提とするが、簡単に復習しながら進める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	統計データとは、統計的方法とは	統計データ、統計的方法、統計変量、記述統計、推測統計
第2回目	比率と指数	変化率、寄与度・寄与率、指数
第3回目	分布とその特性	度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度
第4回目	相関	相関関係、相関係数
第5回目	回帰	回帰分析、独立変数、従属変数、最小2乗法
第6回目	確率の基礎	順列、組み合わせ、確率、条件付確率、ベイズの定理
第7回目	確率変数と分布	確率変数、確率分布、期待値、分散、2項分布、正規分布
第8回目	母集団と標本、標本調査法	母集団、標本、サンプリング、ランダムサンプリング
第9回目	統計量の標本分布（1）	統計量、母数、標本分布、標本平均の分布
第10回目	統計量の標本分布（2）	大数の法則、中心極限定理
第11回目	統計的推定（1）	点推定、区間推定、良い推定量の基準、信頼区間、母平均の推定、t分布
第12回目	統計的推定（2）	母比率の推定、母平均の差の推定
第13回目	統計的検定（1）	仮説検定、有意水準、第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、母平均・母比率の検定
第14回目	統計的検定（2）	平均値の差の検定
第15回目	クロス集計表とその検定	クロス集計表、カイ2乗分布、適合度検定、独立性の検定

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回の授業内容を必ず復習すること。課題を解きながら考えると理解が深まる。
またEXCELの関数が使える者は、パソコンでも課題を解いて確認してみるとさらによい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	統計学の基本的概念の理解度、基本的方法を使ったデータの分析力をみる。
平常点評価	40 %	ほぼ毎回の授業で復習のための簡単な課題（宿題）を課す。課題の提出状況を平常点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計学は積み立て型の科目なので、遅刻・欠席をすると授業についていくことが困難になります。授業への出席と課題提出は必須です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる統計学 Ⅰ 基礎編	金子治平・上藤一郎編／ミネルヴァ書房／978-4-623-04926-4／教科書に沿って講義を行う

講義は教科書に沿って進める。教科書の説明を補うためにプリントを随時配布する。教科書の練習問題も授業・課題で利用・解説するので、開講までに必ず入手しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・涙なしの統計学	D.ロウントリー／新世社／4-88384-035-2／数式をほとんど使っていないので、数学が苦手な人には読みやすい
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室編／東京大学出版会／4-13-042065-8／入門と書いてあるが、やや高度な内容も含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

電卓を使って練習問題を解くので、毎回の授業に√の計算のできる電卓を必ず持ってきてください。

情報リテラシーIII（SA） § 情報処理（SA）

13278

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門...(SB、SKと、同内容)
パソコンや携帯でもっと多彩な自己表現を行うために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工したり、ちょっとしたイラストを描き、コメントを付け一つの作品として発表をしていくために必要な基礎知識とスキルを学んでいきます。
画像処理には Adobe Photoshop、イラスト作成にはAdobe Illustrator、ホーム･ページ作成にはAdobe Goliveを用いる予定です。作品は、全世界に向けて発信をする予定です。
（時間の制約上、このクラスは画像処理とホームページ作成が中心となり、イラスト作成はほんの体験です。更にイラスト作成をしっかりやってみたい場合は、『イラスト作成入門』を受講してください。）
ホームページ作成を行うクラスの中では、「入門・初級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
イラスト作成の体験。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本（1）	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本（2）	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本（3）	合成、レタリング、その他
6	イラスト作成の体験	イラスト作成
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	課題：ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SB） § 情報処理（SB）

13282

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門...(SB、SKと、同内容)
パソコンや携帯でもっと多彩な自己表現を行うために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工したり、ちょっとしたイラストを描き、コメントを付け一つの作品として発表をしていくために必要な基礎知識とスキルを学んでいきます。
画像処理には Adobe Photoshop、イラスト作成にはAdobe Illustrator、ホーム･ページ作成にはAdobe Goliveを用いる予定です。作品は、全世界に向けて発信をする予定。
（時間の制約上、このクラスは画像処理とホームページ作成が中心となり、イラスト作成はほんの体験です。更にイラスト作成をしっかりやってみたい場合は、『イラスト作成入門』を受講してください。）
ホームページ作成を行うクラスの中では、「入門・初級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本（1）	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本（2）	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本（3）	合成、レタリング、その他
6	イラスト作成の体験	イラスト作成
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	課題：ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SC）　§　情報処理（SC）

13334

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力　[教科書pp. 2-20] ・度数分布表とヒストグラム　[『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97] ・要約統計量の算出　[教科書pp. 102-111]	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換　[教科書pp. 24-44] ・グラフと図　[教科書pp. 53-73]	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007051／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］：　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］：　http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SD） § 情報処理（SD）

13335

担当者名 / Instructor　破田野 智己

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義ではWorld Wide Wed(WWW)で自分の意見を発信するために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。そのために、Webページを記述する言語HTML（HyperText Markup Language）とHTMLを修飾する仕様CSS（Cascading Style Sheets）の記述法を学び、学内向けの個人サイト作成する。なお、Webサイト作成にはホームページ・ビルダーなどのサイト作成用のソフトは使わないので、注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・数ページからなるWebサイトを企画できる
・基本的なHTMLの文法を理解し、それに従ってHTMLファイルを記述できる
・基本的なスタイルシートの文法を理解し、それに従ってCSSファイルを記述できる
・既存のWebサイトを評価できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。
自分用のUSBメモリを持参すること。
なお、受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。
1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること（ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更）
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要の確認とコンピュータリテラシーについての知識確認	
2	既存のWebサイトを評価する	既存のWebサイトをチェックリストに従って評価する
3	Webページ制作のプロセスを知る	
4	各自のWebページサイトの企画を立てる	自分なりのテーマを見つけ、サイト作成の企画を行う
5	HTML入門基本ルール	基本的なHTMLのルールについて、サンプルファイルを利用しながら実習を行う
6	HTML入門基本的なHTMLタグ	いくつかのサンプルファイルを利用して、HTMLの書き方を身につける
7	スタイルシート入門	スタイルシートを使って、HTMLファイルの修飾を試す
8－14	個人Webサイト制作期間	自分のペースでサイト作成を行う
15	相互批評会	完成したサイトをお互いに評価しあう

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	インターネット上の様々な問題についての考察
平常点評価	80 %	Webサイト構築と毎回の課題提出

課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。積極的に課題に取り組むことが必要である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
HTMLとスタイルシートによる最新Webサイト作成術	／エクスナレッジ／9784767802503／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ユニバーサルHTML/XHTML	神崎正英／毎日コミュニケーションズ／9784839904548／

講義中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義用のWebサイト
http://www.ritsumei.ac.jp/~ytt06067/

その他 / Others

情報リテラシーIII（SE） §　情報処理（SE）

13279

担当者名 / Instructor　破田野 智己

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、C言語によるプログラミングの基本を解説する。対象者としては、プログラミングに興味があるものの「難しそうだ」というイメージから二の足を踏んでいる人や、他のプログラミング言語を少し学んだが、やはりC言語も知っておきたいという人を想定している。このため講義では、実際にC言語を使ったプログラミングを実習するだけではなく、C言語の特徴やしくみ、コンピュータの制御方法などについても解説を行なう。とはいえ難しい数式などは使わず、なるべく平易に解説を行なうので、特別な知識は必要としない。なお、授業の最後には課題を出して、その回の内容を習得できたかどうかをチェックする（これを実施しない回もある）。また、これに加えて、チャレンジ問題（評価に加点するが、提出は自由）を出題する場合もある。

到達目標 / Attainment Objectives

C言語を使った初歩的なプログラミングを行えるようになることを目指す。また授業を通じて、C言語とは何なのか、他者に簡単な説明ができる程度の知識を得ることも目標となる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特別な知識は必要ないが、パソコンに親しんでいることが最低条件となる。「親しんでいる」ことの目安は以下の通りであり、どれかひとつでも当てはまらないものがあれば受講しないことをお勧めする。

・自分のIDとパスワードを知っており、それを使って学校のパソコンを使ったことが多数回ある
・手元をあまり見ずに文字を入力できる。もしくは、今から練習するつもりがある。
・「“教材フォルダ”を開いて、“hatanoフォルダ”の中にある“test.c”をデスクトップに引っ張り出して（ドラッグ&ドロップして）ください」と言われたら、大体何をすれば良いか分かる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	C言語を使ってみる	
2	文字を出す＆計算を行なう	
3	変数とデータ型	
4	コンピュータの仕組みとC言語（その1）	
5	配列を使った表現	
6	命令を繰り返す	
7	場合分けして命令する	
8	ファイルの読み書き	
9	様々な命令を組み合わせる	
10	関数を使う便利に使う	
11	コンピュータの仕組みとC言語（その2）	
12	コンピュータの仕組みとC言語（その3）	
13	最終課題を作る	
14	最終課題の中間発表	
15	最終課題の発表会	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業の終わりに出す課題は、理解してさえいれば授業時間内に終わるものであるが、理解が不足していれば宿題となる。また、チャレンジ問題は基本的に授業外に解くこととなる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の出席：15%（ただし出席が規定の日数に満たない場合には単位を認定しない）、授業後の課題：55%、最終課題：30%。また、以上にチャレンジ問題の成績を加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必須ではないが、データの持ち運び用に、USBメモリなどの記憶媒体を持参することが望ましい。

教科書 / Textbooks

使用しない

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
パソコンプログラミング入門以前	伊藤華子／毎日コミュニケーションズ／978483990723／プログラミング自体に慣れて

	いない人向けの本だが、ある程度知識のある人の復習用にもなる
積み上げ式でコツコツ学ぶ C言語スタートブック問題集	高田美樹／技術評論社／9784774133928／自学自習用だが、やや難しいので復習用に使うと良い
Cの絵本	アンク／翔泳社／9784798101033／絵本」を冠している通り、C言語のことを解り易く、かつ抵抗が少ないように概説してあるので、C言語のことを知りたくなってきた頃に読むと良い
C言語撃退講座	丸岡孝司／技術評論社／9784774135335／読み物として面白く、それでいて読後にはC言語に対する知識や理解が深まっているという怪著。C言語に多少なりとも慣れてきた時に読むと良い

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーIII（SF）　§　情報処理（SF）

13336

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『イラスト作成』入門…(SFと、同内容)
ホーム・ページや、ポスター、ドキュメントなど様々な用途に用いられるイラスト作成の基礎を学んでいきます。また必要な範囲で、デジカメなどの画像処理についても学びます。
作成した作品は、ホーム・ページ上などを用いて公開していきます。
イラスト作成には Adobe Illustrator、画像処理には Adobe PhotoShop、ホーム・ページ作成には、Adobe Goliveを用いる予定です。
（時間の制約上、イラスト作品の制作が中心となります。ホーム・ページ作成については、他の講座を受講してください。）

到達目標 / Attainment Objectives

画像ファイルの基礎。
イラスト作成の基礎。
画像処理の基礎。
ホームページ作成の体験。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい：パソコンの基礎	Windowsとその基礎知識、操作方法
2	画像ファイルの基礎	画像の形式、扱うソフト
3	イラスト作成の基礎（1）	ソフト操作の基礎
4	イラスト作成の基礎（2）	絵を描く（1）
5	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（2）各種効果（1）
6	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（3）各種効果（2）
7	課題（1）	課題作成
8	画像処理の基礎（1）	画像の取り込みと画像処理（1）
9	画像処理の基礎（2）	画像の取り込みと画像処理（2）
10	イラスト作成の基礎（7）＋ホーム・ページ作成の基礎	処理画像との合成など＋ホーム・ページ作成の基礎
11	課題（2）－1	課題作成
12	課題（2）－2	課題作成
13	課題（2）－3	課題作成
14	発表と評価（1）	作品の発表とその評価
15	発表と評価（2）	作品の発表とその評価＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題作成など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、プリントなどを配布予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SG）　§　情報処理（SG）

13307

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『JavaScriptによる動くホーム・ページ作成』入門
「ユビキタス社会」においてよりパワフルに自己表現をしコミュニケーションを行うために、もう一歩進んだWebページ（ホーム・ページ）作りを目指します。
ソフトを用いず、基本であるいわゆるタグ書きをし、様々な「動き」を実現できるJavaScriptの基本を学んでいきます。
Webページ（ホーム・ページ）作成を行うクラスの中では、「中級から上級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

情報倫理の習得。
Webページの構造の理解。
HTML（タグ書き）を用いたWebページ作成方法。
JavaScriptの基本。
プレゼンテーションとコミュニケーション能力の向上。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション、Windowsおさらい、情報処理	Windowsとその基礎知識、情報処理とは
2	情報倫理とネットワークの基礎知識	「インターネット」、「ホーム・ページ」、NET、ネチケット、著作権
3	HTMLの基本1	Webページ、ソース、タグ
4	HTMLの基本2	タグの基本
5	JavaScriptの基本1	HTMLとJavaScriptの関係
6	JavaScriptの基本2	JavaScript、関数、実行
7	サンプル作成1	JavaScriptのサンプル作成
8	サンプル作成2	JavaScriptのサンプル作成
9	サイト作成1	オリジナル・サイトの設計
10	サイト作成2	オリジナル・サイトの作成
11	サイト作成3	中間チェック
12	サイト作成4	公開と修正
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	サイト、プレゼン、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後の作品発表及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SH）　§　情報処理（SH）

15512

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合演習』...(SNクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編です。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでいきます。また、ビジネスにおいて多用されるMicrosoft Excelの実践的応用方法についても学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい（1）	パソコンの基礎知識
2	おさらい（2）	Microsoft Wordのポイント
3	イラスト作成の基礎（1）	Microsoft Excelのポイント（1）
4	おさらい（4）	Microsoft Excelのポイント（2）
5	おさらい（5）	NET及びOLEの利用
6	課題（1）	課題作成
7	中級（1）	Web上のデータ利用とレポート作成（1）
8	中級（2）	Web上のデータ利用とレポート作成（2）
9	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（1）
10	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（2）
11	課題（2）	課題作成
12	応用（1）	Microsoft Excelのその他の機能：データ・ベース機能
13	応用（2）	その他のソフトとの連携
14	最終課題－1	課題作成
15	最終課題－2	課題作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SI） §　情報処理（SI）

15546

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『プログラミング入門』
パソコン上の全ての機能は、プログラムによって提供されています。そのプログラム作成の最初歩を、簡単なゲームなどを学んでいきます。同時に、プログラミングに於いて大切な思考と発想も身につけていきます。
なお、プログラミング言語としては比較的初心者にも親しみやすい、Microsoft Visual Basicを用いる予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラムの役割の理解。
プログラミングの基礎の理解。
プログラミングの基礎的な思考と発想の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション、Windowsおさらい	Windowsとその基礎知識、基本操作
2	アプリケーション・ソフトとプログラミング	OSとアプリケーション・ソフト、プログラミング、Visual Basic
3	プログラミング演習1	Hello World!! :.Visual Basicの基本操作
4	プログラミング演習2	Peace：アニメーションの基本1、移動によるアニメーション、条件、柔軟性
5	プログラミング演習3	Wink：アニメーションの基本2、入れ替えによるアニメーション、シンプルさ
6	プログラミング演習4	Wink：アニメーションの基本2、入れ替えによるアニメーション、シンプルさ
7	プログラミング演習5	Calc：簡単な計算、予期しない結果への対処
8	ゲーム・プログラミング演習1	クリックゲーム（1）：移動と乱数
9	ゲーム・プログラミング演習2	クリックゲーム（2）：点数と制限時間
10	ゲーム・プログラミング演習3	スロット（1）：スピンとストップ
11	ゲーム・プログラミング演習4	スロット（2）：フィーバーの判定
12	ゲーム・プログラミング演習5	スロット（3）：メダルの制御
13	レポート課題作成1	オリジナル・ゲーム作成。
14	レポート課題作成2	オリジナル・ゲーム作成。
15	レポート課題作成3	オリジナル・ゲーム作成。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	レポート課題ほか。
平常点評価	40 %	日常のプログラミング、実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『まなぶ・おしえるプログラミング〔まなぶ編〕』　　上出　浩／ふくろう出版／4-434-04018-9／

上記の他、必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SJ）　§　情報処理（SJ）

15599

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『HTMLによるホーム・ページ作成』入門…(SDクラスと、同内容)。。。HTML入門
ホーム・ページやブログ、携帯用のページなど、Web上の様々なサービスやコンテンツはHTMLと呼ばれるものを基礎に展開している。このHTMLの仕組みを理解し、一歩進んだWeb活用を目指していく。実際に、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を用いて、ホーム・ページを作成し全世界に向けて公開する。
なお、本講座は初心者向けホーム・ページ作成講座の中で、『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門の次のレベルである。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識、ネチケット
2	HTMLの基本（1）	WWWとHTML、タグ
3	HTMLの基本（2）	WWWとHTML、タグ
4	HTMLの基本（3）	WWWとHTML、タグ
5	画像処理	基本的な画像形式と画像処理
6	HTMLの基本（5）とCSS（1）	WWWとHTML、タグ、スタイルシート
7	HTMLの基本（6）とCSS(2)	WWWとHTML、タグ、スタイルシート
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	課題：ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	講義中のチェックなど。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要。

教科書 / Textbooks

必要に応じ講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ講義中に紹介する。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SK）　§　情報処理（SK）

15600

担当者名 / Instructor　宮浦 崇

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門...(SA、SBと、同内容)
パソコンや携帯でもっと多彩な自己表現を行うために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工したり、ちょっとしたイラストを描き、コメントを付け一つの作品として発表をしていくために必要な基礎知識とスキルを学んでいきます。
画像処理には Adobe Photoshop、イラスト作成にはAdobe Illustrator、他にホーム･ページ作成支援ソフトを用いる予定です。作品は、全世界に向けて発信をする予定です。
（時間の制約上、このクラスは画像処理とホームページ作成が中心となり、イラスト作成はほんの体験です。更にイラスト作成をしっかりやってみたい場合は、『イラスト作成入門』を受講してください。）
ホームページ作成を行うクラスの中では、「入門・初級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
イラスト作成の体験。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本（1）	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本（2）	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本（3）	合成、レタリング、その他
6	イラスト作成の体験	イラスト作成
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）	作品発表と採点

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SL） § 情報処理（SL）

15601

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Excel発展（関数とデータベース）』
Excelの基礎知識をベースに、より発展的な利用を考えていきます。
このクラスでは、基本的な関数を学んだ後、Excelのもう一つの機能である、データベース機能を、出来る限り実践的に学んでいきます。情報リテラシで学んだ Excelの表計算機能と本講義で学ぶデータベース機能を習得することで、Excelをよりパワフルな総合ツールとして様々な場面で活用することが可能となります。
本講義修了で、Excelの中級者になることが出来ます。

到達目標 / Attainment Objectives

Excelの基礎の習得。
基本的な関数の習得。
データベース機能の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等以上のスキル・レベル。
なお、情報リテラシーIII（SH,SN)「Officeソフト総合演習」の修了後、受講すると理解しやすくなります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Excelの基本のおさらい	セル、シート、表、グラフ、関数、絶対参照
2	Excelの基本のチェック	
3	Excelの基本的な関数	sum, average, max, min, count, ifなど
4	Excelの便利な関数	日付関数、文字列関数
5	データ・ベースとは	データとデータ・ベース、データ・ベースの設計
6	データ・ベース・ツール1	並び替え
7	データ・ベース・ツール2	オートフィルタ
8	データ・ベース・ツール3	フォーム・集計
9	データ・ベース・ツール4	ピボット・テーブル
10	データ・ベース関数1	検索
11	データ・ベース関数2	その他
12	データ・ベース作成演習1	テーマと設計
13	データ・ベース作成演習2	作成と処理
14	最終課題（1）	課題作成
15	最終課題（1）	課題作成とまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題による評価
平常点評価	50 %	講義中の課題ほか 実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講までに、Windows及びExcelの基礎を復習すると受講しやすくなります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SM）　§　情報処理（SM）

15602

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『イラスト作成』入門…(SMと、同内容)
ホーム・ページや、ポスター、ドキュメントなど様々な用途に用いられるイラスト作成の基礎を学んでいきます。また必要な範囲で、デジカメなどの画像処理についても学びます。
作成した作品は、ホーム・ページ上などを用いて公開していきます。
イラスト作成には Adobe Illustrator、画像処理には Adobe PhotoShop、ホーム・ページ作成には、Adobe Goliveを用いる予定です。
（時間の制約上、イラスト作品の制作が中心となります。ホーム・ページ作成については、他の講座を受講してください。）

到達目標 / Attainment Objectives

画像ファイルの基礎。
イラスト作成の基礎。
画像処理の基礎。
ホームページ作成の体験。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい：パソコンの基礎	Windowsとその基礎知識、操作方法
2	画像ファイルの基礎	画像の形式、扱うソフト
3	イラスト作成の基礎（1）	ソフト操作の基礎
4	イラスト作成の基礎（2）	絵を描く（1）
5	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（2）各種効果（1）
6	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（3）各種効果（2）
7	課題（1）	課題作成
8	画像処理の基礎（1）	画像の取り込みと画像処理（1）
9	画像処理の基礎（2）	画像の取り込みと画像処理（2）
10	イラスト作成の基礎（7）＋ホーム・ページ作成の基礎	処理画像との合成など＋ホーム・ページ作成の基礎
11	課題（2）－1	課題作成
12	課題（2）－2	課題作成
13	課題（2）－3	課題作成
14	発表と評価（1）	作品の発表とその評価
15	発表と評価（2）	作品の発表とその評価＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題作成など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SN）　§　情報処理（SN）

13367

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合演習』...(SHクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編です。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでいきます。また、ビジネスにおいて多用されるMicrosoft Excelの実践的応用方法についても学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい（1）	パソコンの基礎知識
2	おさらい（2）	Microsoft Wordのポイント
3	おさらい（3）	Microsoft Excelのポイント（1）
4	おさらい（4）	Microsoft Excelのポイント（2）
5	おさらい（5）	NET及びOLEの利用
6	課題（1）	課題作成
7	中級（1）	Web上のデータ利用とレポート作成（1）
8	中級（2）	Web上のデータ利用とレポート作成（2）
9	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（1）
10	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（2）
11	課題（2）	課題作成
12	応用（1）	Microsoft Excelのその他の機能：データ・ベース機能
13	応用（2）	その他のソフトとの連携
14	最終課題－1	課題作成
15	最終課題－2	課題作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

社会調査情報処理（SA） § 情報処理（SX） § 社会調査情報処理（SA）

15526

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
第2回	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
第3回	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 [教科書pp. 2-20] ・度数分布表とヒストグラム [『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97] ・要約統計量の算出 [教科書pp. 102-111]	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
第4回	・データの変換 [教科書pp. 24-44] ・グラフと図 [教科書pp. 53-73]	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
第5回	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

第6回	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
第7回	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
第8回	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
第9回	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
第10回	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
第11回	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
第12回	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
第13回	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
第14回	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
第15回	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第3版）	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

社会調査情報処理（SB） § 情報処理（SY） § 社会調査情報処理（SB）

15537

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
第2回	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
第3回	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ［教科書pp. 2-20］ ・度数分布表とヒストグラム ［『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97］ ・要約統計量の算出 ［教科書pp. 102-111］	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
第4回	・データの変換 ［教科書pp. 24-44］ ・グラフと図 ［教科書pp. 53-73］	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
第5回	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

第6回	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
第7回	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
第8回	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
第9回	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
第10回	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
第11回	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
第12回	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
第13回	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
第14回	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
第15回	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第3版）	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007051／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

専門特殊講義II（SB）　§　専門特殊講義（SB）

13351

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都がなぜ「日本映画のふるさと」といわれているのか、京都の映画の歴史を中心に、映画誕生期、映画産業形成期、戦時下の映画を利用したプロパガンダ政策、戦後の映画産業の盛衰、現在の映画産業の構造、映画振興政策、今後の映画映像産業の方向、などを、映像資料や最近の統計調査などを使い、映画産業の歴史的縦軸と、日本の産業構造を中心としつつ世界の状況も見通した面的な状況を話す予定。

到達目標 / Attainment Objectives

1、京都でなぜ日本映画が発展していったのかの基本的な理解。
2、第七の芸術といわれる「映画」とは何かの、基本的な理解
3、映画産業の構造の理解と今後の産業としての可能性の検証

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方、ガイダンス	
第2回	映画誕生	リュミエール兄弟の初期作品などの鑑賞とあわせて、映画の誕生の歴史、エジソンの発明との違い等。
第3回	京都の映画史1	稲畑勝太郎
第4回	京都の映画史2	マキノ省三　尾上松之助
第5回	京都の映画史3	日本初の女性映画監督　坂根田鶴子
第6回	戦争と映画1	ナチスドイツの映画法、日本の映画法
第7回	戦争と映画2	満州国　満州映画協会
第8回	権力と映画	参考上映　当時戦意高揚のために作られた作品を上映する。作品は未定。
第9回	戦後の映画産業	大映映画を中心に〜世界に認められた日本映画「羅生門」「雨月物語」など。
第10回	映画産業の構造1	製作、配給などの流通システムについて
第11回	映画産業の構造2	興行〜映画館の歴史とシネコンの展開による変化など
第12回	日本の映画振興政策1	文化庁による映画産業のための振興政策について
第13回	日本の映画振興政策2	経済産業省による、知的財産の観点からのコンテンツビジネスとしての映像産業振興政策について
第14回	フランスの映画振興政策、韓国の映画振興政策	両国の振興政策の特徴と日本との違いなど。
第15回	映画産業の今後の展開、可能性	映画映像産業の未来、コンテンツビジネスとしての発展の方向性等を検証し、全体の講義のまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

映画館や大学内での上映会等で、たくさんの映画をみること。なお、学内での上映映画に関して、有料だが、レポート課題に指定する作品もあるので、事前に了解しておいて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	試験の解答内容で、授業の理解度を判断する
レポート試験	10 %	映画館や学内上映会でで見た日本映画の感想レポートの提出
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーを活用する

毎授業終了時提出してもらうコミュニケーションペーパーの内容のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や参考作品のビデオ、DVDなどの上映を行っている。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画を出来る限りたくさん見て欲しい。学内での上映会（有料）での作品もレポート課題の作品とする場合がある。映画産業は現在進行形でつねに変動している。今の時代の映画館、映画興行の現場の雰囲気を体感することで、今後の映画産業の方向性が見えてくるはずである。ハリウッド大作、日本のメジャー作品だけでなく、世界の様々な国の作品を積極的に見て欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都の映画80年のあゆみ	／京都新聞社／／
シネマがやってきたぺ日本映画事始め	都築政昭／小学館／／日本映画の黎明期の様子が分かる
京都映画図絵	鴇明浩＋映画探偵団／フィルムアート社／／京都の映画史の新記述等もある
別冊太陽　日本映画と京都	／平凡社／／
女人賛歌　甲斐庄楠音の生涯	栗田勇／新潮社／／溝口健二監督のスタッフだった画家の生涯
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割などを詳述した。

上記など。また随時授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

goo映画 http://movie.goo.ne.jp/ all cinema online http://www.allcinema.net キネマ旬報データベース http://walkerplus.com/movie/kinejun/ ミニパラ（全国のミニシアターのportalサイト）
http://www.minipara.com/など。

その他 / Others

1、遅刻は30分以上は認めない。30分以上遅れた学生は、必ず教室の後ろのドアから入ること。遅れた学生には、コミュニケーションペーパーの提出は求めない。
2、私語は厳禁（携帯でのメールのやりとりも禁止する、注意してもやめない場合退出を求める場合もある）
3、最終授業日に試験の内容についてのコメントする。
4、参考上映は、授業の進行と会わせて何回か行う。毎回、京都シネマで上映予定の最新作の予告編を授業の最初に上映する。

専門特殊講義II (SC) § 専門特殊講義 (SC)

13352

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日々届けられる新聞は、どんな取材と論議を経てつくられているのか。事件、事故、政治、経済、国際、芸能、スポーツ・・・。一面からラテ面まで各面にちりばめられた一つひとつの記事には、過去から現在に連なる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む地球的な広がりを示す「横軸」とが交差する中で、各メディアがそれぞれの価値観で、選び取った読者へのメッセージが込められている。「良い記事」「悪い記事」はどう見分けるのか。「特ダネ」はどのようにして生まれるのか。新聞を中心にしたメディアが日々発信しているその「意味」を、社内で交わされている「紙面論議」などを手がかりに同時進行的に紹介、解析していく。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を中心にメディアが日々発信しているメッセージについて、その狙いなどを客観的に理解し、バランスのとれた視点で、その記事などのすぐれた点や不十分な点を評価、指摘できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに。新聞はどのようにしてしてつくられているのか。報道の役割とは。	発掘力
第2回	事件報道と人権(匿名・実名問題など)	個人情報
第3回	事件報道と人権(被害者報道、加熱取材など)	メディアスクラム
第4回	事件報道と人権(歴史的重大事件など)	教訓
第5回	司法取材の現場から(死刑再審など)	冤罪
第6回	調査報道とは(リクルート事件など)	特ダネ
第7回	虚報と誤報(サンゴ事件)	あせり
第8回	報道の自由と取材源の秘匿(沖縄密約など)	スクープ
第9回	社説について(憲法改正論議など)	提言
第10回	教育現場から(日の丸・君が代)	良心
第11回	社風・社論(信頼される報道とは)	綱領
第12回	生活ニュースとは(街だね)	目線
第13回	発表ジャーナリズムからの脱却	記者クラブ
第14回	開かれた新聞とは(市民ネットと投書)	ブログ
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
平常点評価	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味あるテーマについて継続的にウオッチし、各新聞の論調を比べてみる。大きな事件の判決報道で、自分ならどう本記(判決の中身を伝える記事)を書くか、判決要旨などを読んで試してみる。読解力と文章力がつく。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.pressnet.or.jp/ 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。
加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

その他 / Others

専門特殊講義I（SD） § 専門特殊講義（SD） § 特殊講義（総合）（VA）

13370

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

■この科目は、キャンパスプラザ京都（京都駅近く）にて開講し、立命館大学では開講しません。
■キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
■履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

「NHK講座」では、NHKの番組制作取材や技術の最前線で活躍している方々やOBを講師に迎え、日頃それぞれの現場で何を考え追い求めているのか、理念と現実等について語ってもらいます。こうしたメディアの最前線を多角的に紹介し、多様なメディアから噴出するさまざまな情報を主体的に読み解き、参加する能力を養うことを目的としています。
本講座はNHK京都局の企画にもとづき、受講生との「双方向授業」を実施します。授業教室はキャンパスプラザ京都です。

※ 授業は4月11日から6月20日の間で集中して開講します。最終日は1コマの授業のみですが、それ以外は、2コマ連続で講義を実施します。開催日程・時間割に注意をしてください。
※ 講義開始時間は午後1時です。講義終了時間は、最終日は午後2時半、それ以外は、午後4時10分です。
※ 授業内容は、1月14日現在のもので、変更される可能性があります。初回授業にて確定した講義計画を配布します。また、3月下旬から立命館大学HPのオンラインシラバスで参照することができます。

到達目標 / Attainment Objectives

講師の話を聞くことでテレビメディアの現状を理解し、双方向授業への参加によって積極的な学習能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1、2回（4月11日）	藤澤秀敏／解説委員長 【テーマ】総論的な内容	中谷日出／解説委員室 【テーマ】「図解主義」について
第3、4回（4月18日）	杉江亮彦／放技局専任カメラマン 【テーマ】現場のカメラマン経験から	丸山俊一／制作局（爆笑問題のニッポンの教養他）【テーマ】教養系番組制作の現場から
第5、6回（4月25日）	上野智男／京都局制作（双方向の①）【テーマ】双方向授業① 番組制作の基本・提案課題設定	長村中／営業局（受信料制度）【テーマ】受信料と公共放送
第7、8回（5月9日）	吉田照幸／制作局（サラリーマンNeo・エンタテインメント）【テーマ】娯楽番組制作の現場から	飯島徹郎／京都局アナウンス 【若手アナウンサーの体験から】
第9、10回（5月16日）	未定／アナウンサー 【テーマ】未定	青木信也／大阪放送局（ドラマ）【テーマ】ドラマ制作の現場から（だんだんCP）
第11、12回（6月6日）	太勇次郎／京都局ニュース（国際取材）【テーマ】海外取材の現場から	原田誠／国際放送局 【テーマ】国際放送について
第13、14回（6月13日）	田中良憲／視聴者サービス局事業部 【テーマ】NHKのイベント・視聴者サービスについて	篠田恵一／京都局制作（双方向の②）【テーマ】双方向授業② 提案の秘訣・提案課題プレゼンテーション
第15回（6月20日）	今井義典／NHK副会長 【テーマ】未定	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席と講義時に提出する授業内レポート、ならびに双方向授業の際の提出物（番組提案票など）により評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義I（SE） § 専門特殊講義（SE） § 特殊講義（総合）（VB）

13369

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、日本音楽事業者協会、音楽制作者連盟、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、CPRA著作隣接権センターの5つの団体の協力による講座であり、昨年度までのJASRAC（日本音楽著作権協会）寄附講座「音楽・文化産業論」を継承します。
音楽を中心として、エンタテインメントに関わるビジネスやクリエイティブの第一線で活躍する講師陣が、毎回違ったテーマや分野から、現場経験に基づく貴重な講義を行ないます。また、リレー講義であるため、日本レコード大賞審査員なども務められている音楽評論家の反畑誠一先生のコーディネートで進行します。
音楽分野を中心に、映像・放送・表現・レジャーなど広くエンタテインメイント・ビジネスに関心を持つ諸君、あるいは、将来これらの業界で働くことを志望している諸君には、特に受講を勧めます。
※本講義は、毎週土曜日、11時より12時30分まで、京都駅前「キャンパス・プラザ」で開講します。なお、一部に時間を変更する授業日があるので注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際的視野で、音楽コンテンツをはじめエンタテインメント産業の実態を学ぶ
・過去を知り、知識を蓄積する
・現実を直視し、一流を知る
・明日を考え、展望する
・叡智と感性と創造力を培う
・自己の研究課題と進路を見つける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定はしないが、後期の専門特殊講義ⅠSF「エンタテインメント産業論Ⅱ」と連続して受講することが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月11日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	＜開講式・オリエンテーション＞
4月18日(土)	北谷賢司先生（ワシントン州立大メディア経営学教授）	「エンタテインメントビジネス新世紀」
4月25日(土)	永田悦久先生（エイベックス・ライブ・クリエイティヴ株式会社代表取締役社長）	「大規模ライブ運営　a－nation2009」
5月9日(土)	中西健夫先生（株式会社ディスクガレージ代表取締役社長）（社団法人全国コンサートツアー事業者協会副会長）	「MUSIC　DAY　2009～10円で地球の明日を考えよう～」
5月16日(土)	杉本誠司先生（ニワンゴ代表取締役社長）	「ニコニコ動画の世界2009」
6月6日(土)	藤井英也先生（集英社「ロードショー」前編集長）	「日本の映画産業2009」※2限連続講義日　9:30～11:00
6月6日(土)	川上博史先生（株式会社スタジオアルタ　代表取締役社長）	『笑っていいとも』25周年 ファッションスペース・ビジネスの実態 ※2限連続講義日　11:15～12:45
6月13日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	「中間総括」 ※2限連続講義日　9:30～11:00
6月13日(土)	山本裕治先生（株式会社第一興商音楽事業本部部長・社長室長）	「カラオケ文化論2009」 ※2限連続講義日　11:15～12:45
6月20日(土)	和佐田達彦先生（バンド「爆風スランプ」「X. Y. Z」ベース奏者）	「Jーロックで世界市場へ挑戦」
6月27日(土)	後藤豊先生（フォーライフ・ミュージックエンタテインメント社長）	「Revolution－私たちの望むものはー」
7月4日(土)	武藤英明先生（プラハ放送交響楽団・指揮者）	「ワールド・クラシック・ミュージック」
7月11日(土)	堀義貴先生（株式会社ホリプロ代表取締役社長）（社団法人日本音楽事業者協会常務理事）	「総合マネージメント企業とは」～和田アキ子からミュージカルまで～
7月18日(土)	辻居幸一先生（弁護士・弁理士）（中村合同特許法律事務所）	「エンタテインメントと権利ビジネス」 ※2限連続講義日　9:30～11:00
7月18日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	前期総括・レポート提出 ※2限連続講義日　11:15～12:45
	※講師は都合により変更になることもあります ※授業時間 11:00～12:30 ただし、6月6日(土)・6月13日（土）及び7月18日(土)は2限連続（9:30～11:00、11:15～12:45）となります。 5月2日(土)及び5月30日(土)は授業はありません。開講日程・時間割にご注意願います。	□5月29日（金） 5月23日（土）休講に伴い、スケジュールを変更しました。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーションペーパーと期中2回のレポートにより総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義I（SF）§　専門特殊講義（SF）§　特殊講義（総合）（VC）

15603

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則、反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、日本音楽事業者協会、音楽制作者連盟、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、CPRA著作隣接権センターの5つの団体の協力による講座であり、昨年度までのJASRAC（日本音楽著作権協会）寄附講座「音楽・文化産業論」を継承します。
音楽を中心として、エンタテインメントに関わるビジネスやクリエイティブの第一線で活躍する講師陣が、毎回違ったテーマや分野から、現場経験に基づく貴重な講義を行ないます。また、リレー講義であるため、日本レコード大賞審査員なども務められている音楽評論家の反畑誠一先生のコーディネートで進行します。
音楽分野を中心に、映像・放送・表現・レジャーなど広くエンタテインメイント・ビジネスに関心を持つ諸君、あるいは、将来これらの業界で働くことを志望している諸君には、特に受講を勧めます。
※本講義は、毎週土曜日、11時より12時30分まで、京都駅前「キャンパス・プラザ」で開講します。なお、一部に時間を変更する授業日があるので注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際的視野で、音楽コンテンツをはじめエンタテインメント産業の実態を学ぶ
・過去を知り、知識を蓄積する
・現実を直視し、一流を知る
・明日を考え、展望する
・叡智と感性と創造力を培う
・自己の研究課題と進路を見つける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定はしないが、前期の専門特殊講義ＩSF「エンタテインメント産業論Ｉ」と連続して受講することが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
10月3日（土）	反畑誠一立命館大客員教授	＜開講式・オリエンテーション＞
10月10日（土）	丸山茂雄先生（株式会社247Music取締役会長・エグゼクティブプロデューサー）	「レコード産業に再生策はあるか」（仮）
10月17日（土）	山本たかお先生（株式会社テレビ朝日編成制作局次長・音楽制作CP）	「エンタテインメント産業とテレビメディアの役割」（仮）
10月24日（土）	北川直樹先生（株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役CEO）	「音楽産業の構図」（仮）※2009年10月19日変更
10月31日（土）	堀一貴先生（株式会社ホリプロ取締役副会長・社団法人音楽出版社協会副会長）	「音楽出版ビジネス ～ポール・マッカートニー、マイケルジャクソンを魅了した“Copyright”の魅力～」（仮）
11月7日（土）	椎名和夫先生（実演家著作隣接権センター運営委員・作曲家）	「実演家と著作隣接権」（仮）
11月14日（土）	亀田誠治先生（有限会社誠屋 音楽プロデューサー） ※「東京事変」ベーシスト ※スピッツ、椎名林檎、平井堅などのプロデューサー	「コンサート『亀の恩返し』をプロデュースして」（仮）
11月21日（土）	田口仁先生（株式会社アサツーディ・ケイ　情報開発局主任研究員） ※2限連続講義日　9:30～11:00	「プロモーション戦略・口コミを科学する」（仮）
11月21日（土）	反畑誠一立命館大客員教授 ※2限連続講義日　11:15～12:45	「中間総括」
11月28日（土）	益田祐美子先生（株式会社平成プロジェクト代表取締役）	「主婦から映画プロデューサーに変身・3億5千万円を集めた女」（仮）
12月5日（土）	浅野祐美子先生（株式会社フジクリエイティブコーポレーション制作室制作部）	「テレビドラマのプロデュースという仕事」
12月12日（土）	田村光広先生（株式会社文化放送　取締役　デジタル事業局局長）	「デジタル時代のラジオメディアの現状と課題」（仮）
12月19日（土）	大石征裕先生・山口哲一先生・金井文幸先生（社団法人音楽制作者連盟　理事長・理事・事務局次長）	「JAPAN EXPOと日本ポップカルチャーの海外展開」（仮）
1月16日（土）	福井健策先生（骨董通り法律事務所 弁護士）	「著作権とは何か」（仮） ※2限連続講義日　9:30～11:00
1月16日（土）	反畑誠一立命館大客員教授	「後期総括」 ※2限連続講義日　11:15～12:45
	以上、9月25日現在の予定です。 講師の都合等により、変更が発生する場合もあります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーションペーパーと期中2回のレポートにより総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II (SG) § 専門特殊講義 (SG)

13252

担当者名 / Instructor　斎藤 喬

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:'09年のジャーナリズム1

イラク戦争とその後の戦後復興をめぐって、米英とドイツ、フランス、ロシアが対立、その間を縫うように多発するテロ事件など世界は混迷を深めています。アジアに目を転じても中国の経済発展に伴う階層の分裂、北朝鮮の核問題、各国で猛威を振るう鳥インフルエンザなど多難な問題が山積みしています。日本でも自衛隊イラク復興支援部隊をめぐって国民の意見は分裂、マスコミの対応にも違いが大きくなりはじめています。この世界の現在と未来をどう読み解くのか、讀賣テレビと讀賣新聞のリーダーと第一線の記者らが講義します。

到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4/8	中村 仁・読売新聞大阪本社代表取締役社長	「ネット社会における新聞」
4/15	新谷 弘・讀賣テレビ放送報道局次長	「地上波テレビの今」
4/22	森 克二・読売新聞大阪本社社会部長	「社会部は何を伝えるか」
4/29	谷 和男・讀賣テレビ放送編成局企画推進部	「デジタル時代の編成戦略」
5/13	朝日 義樹・読売新聞大阪本社論説委員長	「社説を読み比べる」
5/20	春川 正明・讀賣テレビ放送解説委員	「テレビ報道の現場から」
5/27	上野 昌彦 ・読売新聞大阪本社経済部長	「大恐慌？　1929年と2009年」
6/3	筧 彰夫・讀賣テレビ放送営業局営業業務部	「ビジネスとしてのテレビ」
6/10	吉形 祐司・読売新聞東京本社国際部主任	「世界の紛争と特派員」
6/17	山下 雄司・讀賣テレビ放送コンテンツ開発事業局	「デジタルでどう変わる・デジタルコンテンツ編」
6/24	永田 広道・読売新聞大阪本社 神戸総局長	「裁判員制度が始まった--メディアから見た課題と展望」
7/1	松山 浩士・讀賣テレビ放送コンテンツ開発事業局	「デジタルでどう変わる・ビジネス編」
7/8	岸本 弘一・読売新聞大阪本社常務取締役編集局長	「新聞記者の目指すもの」
7/15	辻出 国彦・讀賣テレビ放送マーケティング部	「視聴率から見たテレビ」
7/22	平井 道子 ・読売新聞大阪本社経済部次長　※5/27休校に伴う講義日の変更 ※6/9講師人事異動に伴う変更	「経済ニュースと学生生活」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テーマ及び講師は変更になる場合もあります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	最終の授業日にレポートを提出

毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

また、読売新聞講師の講義日には、初回の講義で配布する「30分で読売新聞を読む方法」を持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「30分で読売新聞を読む方法」	／／／初回講義時に配布

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースを興味を持って見ている人が対象。

専門特殊講義II (SH) § 専門特殊講義 (SH)

15485

担当者名 / Instructor　斎藤 喬

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:讀賣マスコミ講座2～'09年のジャーナリズム～

現場の取材活動のなかで、何が行われているか、また取材における問題関心はどういったところに向けられているかなど、現場で活躍している専門記者の方々がが、各分野にそくした現状等を講義します。

※講義スケジュールについては、変更される場合があります。

到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/30	岩田 公雄・讀賣テレビ放送解説委員長	「テレビと政治」
10/7	本多 宏・読売新聞大阪本社 論説委員	「科学報道の現場」
10/14	吉川 真理・讀賣テレビ放送 報道局 チーフプロデューサー(情報ライブミヤネ屋プロデューサー)	「ミヤネ屋の挑戦」
10/21	深井 康行・読売新聞大阪本社社会部主任	「橋下・大阪府政とメディア」
10/28	千原 徹・讀賣テレビ放送映像グループ	「報道カメラマンの目線」
11/4	柳林 修・読売新聞大阪本社編集委員	「文化財報道と正倉院展」
11/11	相島良樹・讀賣テレビ放送報道グループ	「ニューススクランブルの現場から」
11/18	石井 斉・読売新聞大阪本社編成部主任	「ニュースを料理する」
11/25	脇浜 紀子・讀賣テレビ放送アナウンス部	「アナウンサーの視点から」
12/2	山畑 洋二・読売新聞大阪本社松江支局長	「これからの消費者問題」
12/9	亀田 憲一・讀賣テレビ放送コンプライアンス推進室	「考査から見たテレビ」
12/16	山田 博之・読売新聞大阪本社文化部主任	「囲碁・将棋の勝負師たち」
12/23	藪田 正弘・讀賣テレビ放送報道局次長	「テレビがライフラインであるために」
1/6	吉村 慎吾・読売新聞大阪本社社会部次長	「これからの事件報道―裁判員制度のもとで」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テーマ及び講師については変更になる場合があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答とともに、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースを興味を持って見ている人が対象。

専門特殊講義II（SI） § 専門特殊講義（SI）

13375

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

＊テーマ:「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮らす」「創る」から考える、“私たちのまち京都”
京都市には現在約150万人の市民が住み（平成19年11月）、1年間に4,800万人を超える観光客が訪れる（平成18年）。また、市内には25の大学と12の短期大学があり、約14万人の学生が学んでいる（平成18年度）。京都は世界有数の文化観光都市であり、かつ「大学のまち」である。京都で生活し、学び、働き、そして遊ぶ人々は京都に魅力を抱きながら京都のまちの良さを保持し、それを発展させたいと願っている。こうした願いを底辺からサポートしているのが京都市政（行政）である。京都市には局・区役所があり、それぞれが連携して市民や京都を訪れる人々のために仕事をしている。もちろん、市の形は行政だけでつくられるのではなく、よりよい京都のありようを考える市民自らの市政への参画が欠かせない。
本講義では、京都のまちや人々の諸活動を理解している各局の課長を招聘し、京都のまちを「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮す」「創る」という6つのキーワードから立体的に捉えてみたい。受講生には本講義を通じて、京都のまちに関する諸々の知識を修得するとともに、よりよい京都を創造していくための担い手になって欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

①京都市の現状を理解し、京都の課題を興味を持って探究することができる
②京都市の行政の取り組みを理解することができる
③京都で学ぶ学生として京都市政のありように主体的に関与していくための知識を身につけることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	私たちのまち「京都」ー京都のまちの魅力：見る、歩く、遊ぶ、働く、暮す、創る	京都、まちづくり、京都市行政、講義の課題、評価
2	京都のまちを「見る」①	京都市の大学政策
3	京都のまちを「見る」②	京都市の総合計画，京都創生の取組
4	京都のまちを「歩く」①	「5000万人観光都市・京都」の実現を目指して
5	京都のまちを「歩く」②	京都市の景観政策
6	京都のまちを「歩く」③	文化財保護とその取組
7	京都のまちを「創る」①	京都市の教育改革
8	京都のまちで「遊ぶ」①	京都市のスポーツ振興
9	京都のまちで「暮らす」①	京都市の子育て支援
10	京都のまちで「暮らす」②	京都議定書誕生の地から世界へ～京都市の地球温暖化対策
11	京都のまちで「暮らす」③	京のごみ戦略21
12	京都のまちを「遊ぶ」①	京都市の文化振興
13	京都のまちを「創る」②	都市財政のあらまし
14	京都のまちで「働く」	京都市の産業構造と産業振興策
15	授業内論述テスト（60分）＆再び考えてみよう！私たちのまち「京都」	授業内テスト、私たちのまち、京都
	＊講師の都合により，講義の順番等が変更になる場合があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	0 %	京都のまちの状況を「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮す」「創る」という視点から認識できているかどうか
平常点評価	100 %	①それぞれの講義でのミニレポートがしっかり書けているかどうか（50点）②最終授業日に60分間、論述形式の「授業内レポート試験」を実施（50点）。これまでの授業の理解と応用力がポイントです。

＊レポート試験のテーマについては講義の中で提示し、かつ掲示する。
＊ミニレポートの内容は講義の中で紹介する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、京都のまちのありようを考えていくものであるが、京都市をはじめ公務員を志望する学生にとっても有益である。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、各講師から関連資料が配布される。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

京都は魅力あるまちである。多くの学生が本講義に参加し、京都のまちづくりの担い手となることを期待するものである。

専門特殊講義II（SK）　§　専門特殊講義（SK）

15612

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ダーウィンは「人類の起源」の中で、中国の書物に「音楽は天地を覆す力を有す」と言葉を紹介している。またシューマン博士の観察として「何ページもの書物よりも、ただ一曲の音楽の中に、はるかに大きな感動の高まりを凝縮させることができるものがある」と語っている。音楽は人間の感性と理性によって創作された不可欠のコミュケーション手段である。したがってメディアであり、デジタル時代に入りより激しく変貌している。この講座では、人間にとって音楽の存在と音楽文化の本質と変遷について、私たちの身近な存在である「ポピュラー音楽」を通じて、多角的に考察、研究し、体系づけることを目指している。特に満100年になるレコード産業の歴史を通じて、時代背景と大衆音楽との相関関係の追求に成果を残したいと考えている。

到達目標 / Attainment Objectives

①「ポピュラー音楽」を定義づける。
②「日本のポピュラー音楽」の歴史を学ぶ。
③「日本の流行歌」を体系づける。
④「現代的ヒットの構造」を学ぶ
⑤「ポピュラー音楽の著作権の基本」を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回（10/2）	人間と音楽文化	音楽力
第2回（10/9）	私たちの内に流れるリズム・メロディーの深淵	日本人と音楽
第3回（10/16）	日本のレコード産業史　その1（1910～1945）	テクノロジーと流行歌
第4回（10/23）	日本のレコード産業史　その2（1945～2009）	世相と音楽文化
第5回（10/30）	日本の流行歌大系　その1	創作者の存在
第6回（11/6）	日本の流行歌大系　その2	表現者の存在
第7回（11/13）	日本の流行歌大系　その3	J－POPとは
第8回（11/20）	日本の流行歌大系　その4	インディーズとは
第9回（11/27）	日本の流行歌大系　その5	音楽環境
第10回（12/4）	非西欧世界の音楽　その1	民俗音楽と伝統音楽
第11回（12/11）	非西欧世界のポピュラー音楽　その2	アジアの音楽市場
第12回（12/18）	ロック音楽の歴史	ロック音楽とは
第13回（12/25）	サ・ビートルズ	カリスマ性
第14回（1/8）	放送メディアと音楽文化	日本レコード大賞（1958～2009）
第15回（1/15）	インターネットと音楽文化	著作権保護

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	
平常点評価	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

継続的な出席を望む。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
特には指定しない。	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「著作権とは何か」－文化と創造のゆくえー	福井健策著／集英社新書／／
「著作権法入門2008」	文化庁編／社団法人著作隣接権センター刊／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II（SM） § 専門特殊講義（SM）

15596

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢化社会が進行し、若者の活字離れも伴って伝統的なメディアの代表であった「新聞」に北風が吹き続けている。「新聞がなくなる日」「ネットが新聞を殺すのか」などの書物が出回っているが、新聞は本当にIT産業に飲み込まれてしまうのか。双方向メディア・ネットの拡大は、社会や民主主義のありかたにどんな激変をもたらすのか。人員削減、総合情報産業への脱皮、グループ企業間の新たな連携、紙面改革、デジタル化・・・。変容するメディア産業の現状を、過去のとのつながりのからみで立体的に読み解いていく中で今後の姿を探っていく。同時に「格差社会の進行」をメディアとともに検証していく。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアが多様化していく中で、新聞企業が直面している課題が理解できる。ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について・総論	マスコミ四媒体
第2回	日本の新聞業界～この半年の主な動き	デジタル
第3回	世界のメディア事情～韓国・北朝鮮	ネット新聞
第4回	世界のメディア事情～アメリカ	削減
第5回	世界のメディア事情～ヨーロッパ	タブロイド
第6回	世界のメディア事業～中国	自由化
第7回	新聞の連携と地方紙	連合
第8回	フリーペーパーの挑戦	多様化
第9回	新聞経営の合理化	外部化
第10回	電子新聞の模索	動画
第11回	電子電波メディアの現状と行方～テレビと通信	融合
第12回	電子電波メディアの現状と行方～NHK問題	肥大化
第13回	スポーツ紙の世界	元気
第14回	2009年の新聞界展望	淘汰
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の内容についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(各部門共通)I(RA) § 専門特殊講義II(SN) § 人文科学総合講座特殊講義I(LH) § 日本外交論(J) § 専門特殊講義(SN) § 特殊講義(基礎)1(日本外交論)(C)

20345

担当者名 / Instructor　石原 直紀

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本の外交関係について、日本と外国という双方の視点から多角的に考える。わが国の外務省現役職員、OBらによる講義を通じ、日本の外交政策の実態と課題や外交について実務的視点から理解を深める。また、関西地区駐在の諸外国の総領事を講師に招き、外国から見た日本、日本と当該国の関係などについて考えるきっかけを提供する。さらに、外務官僚、外交官や領事、総領事といった職業について紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本外交と外交政策を理解する。
諸外国から見た日本という視点を身につける。
外交官、総領事といった対外関係に携わる職業を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	外交政策と外交	外交と外交官、日本の外交政策、外交政策決定過程
第2回	日本の外交政策 I	
第3回	日本の外交政策 II	
第4回	日本の外交政策 III	
第5回	日本の外交政策 IV	
第6回	日本の外交政策 V	
第7回	日本の外交政策 VI	
第8回	日本の外交政策 VII	
第9回	日本の外交政策 VIII	
第10回	日本の外交政策 IX	
第11回	外国から見た日本 I	
第12回	外国から見た日本II	
第13回	外国から見た日本 III	
第14回	外国から見た日本 IV	
第15回	全体総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各回の授業内容につき、関連参考文献などを読む。
外務省、各国大使館、総領事館主催のセミナー、イベントなどに積極的に参加する。
ウェブサイトなどを通じ、日本の外交政策の動向、諸外国の事情などについて理解を深める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	与えられたテーマにつき、授業内容と自主的な学習を踏まえ、自分の見解を明快且つ説得的に記述できているか。
平常点評価	50 %	授業への出席

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

外務省や各国総領事などのゲスト講師による授業なので、出席のみならず聴講マナーをきちんと守ること。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

授業の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mofa.go.jp(外務省)
各国総領事館等その他の関連ウェブサイトは、授業で紹介する。

その他 / Others

ゲスト講師、テーマの変更があり得る。

専門特殊講義III（SO） §　専門特殊講義（SO）

13460

担当者名 / Instructor　是枝 裕和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

主にテレビの問題点と可能性について、具体的な番組を参照しながら学生のみなさんと共に考察してみたいと考えている。

【事務室からの注意事項】
1）本講義は、予備登録の上、受講者を決定します（受講希望レポートにより選考します）。
予備登録の期間・方法は、2009.3.25以降に掲示（または産業社会学部のホームページ）にて確認し、指定された期日内に手続きを行うこと。
（予備登録期間は、通常の事前登録期間よりも早いので気をつけてください）

・配当回生：3回生以上
・定員　：30名
・他学部受講　可

2）講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。
受講を希望する者は、次時限（後期金曜日5限）も受講登録せずにあけておくこと。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	講義の詳細は、第1回授業で説明します。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最低限の映像に対する「興味」は持っていてほしい。

教科書 / Textbooks

講義に関わる資料等は各授業で配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

政策科学特殊講義（PA） § 法政特殊講義（JI） § 人文科学総合講座特殊講義I（LQ） § 特殊講義（各部門共通）I（RD） 20079
専門特殊講義（SP） § 特殊講義（WA） § 専門特殊講義II（SP）

担当者名 / Instructor　勝村 誠　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は読売新聞社の援助により各府県知事を本学にお迎えし、それぞれの政策的課題などを語っていただくリレー講義である。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情も様々に異なるため、個別政策や個人の政治戦略のレベルでについていえば、講義全体が統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできることは増えてきており、とりわけ、知事のリーダシップによって地方行政は相当に変化しうるようになってきた。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているので、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数回は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の出席票に記載欄を設けるのでこれに書いてもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係（中央政府と地方政府の関係）について総合的に理解を深めることが目標である。知事の講演を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、財政学、地方自治等に関連する科目群

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要	
第2回	埼玉県　上田清司知事	「みどりと川の再生」推進
第3回	三重県　野呂昭彦知事	
第4回	愛知県　神田真秋知事	
第5回	宮城県　村井嘉浩知事	
第6回	新潟県　泉田裕彦知事	
第7回	香川県　真鍋武紀知事	
第8回	慶應義塾大学教授（前宮城県知事）　浅野史郎教授	
第9回	滋賀県　嘉田由紀子知事	
第10回	講義「地方分権改革について」・中間まとめ	
第11回	福岡県　麻生渡知事	
第12回	読売新聞東京本社・青山彰久編集委員	
第13回	富山県　石井隆一知事	
第14回	山梨県　横内正明知事	
第15回	総括講義	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	70点満点の定期試験を実施する。
平常点評価	30 %	1セメスターに2回小レポートを課す。それぞれ15点満点で評価して、評点を加算する。出席点は加算しない。

本講義の受講を希望する者は、エントリーシートを提出して予備登録を行わなければならない。URL参照。
http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻はしないこと。15分以上遅刻した者には、原則的には入室を許可しない。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、入り口で事情を合理的に説明したうえで、目立たぬように後部の出入口より静かに入室すること。

同様の理由で、原則的には中途退室は認めない。やむを得ざる事情で中途退室せざるを得ない時には、密やかに退出し、出口でスタッフに退室理由を説明すること。中途退室した場合には、原則的に再入室は認めないものとするが、再入室を強く望む場合には合理的な理由が説明できる場合に限り再入室を認めるものとする。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話を聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。

受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間外学習が求められることは当然である。

小レポートを2回提出してもらい、そのできばえによる日常評価を30点満点で評価する。知事の講義を真剣に聞き、自分の理解度を小レポートでしっかりと表現してほしい。

ただし、出席点は一切加味しないので、目的意識なく漫然と出席しても何のプラスにもならないことは理解してほしい。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しないが、地方政治や地方行財政をめぐる書籍を手元に置いて日常的に参照すること。参考書に有益な本を掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『テキストブック地方自治』	村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／地方自治の基本的教科書
『概説 日本の地方自治』	新藤宗幸・ 阿部斉／東京大学出版会／4130320386／地方自治の基本的教科書
『市民のための地方自治入門』	佐藤竺監修 ／実務教育出版／4788914158／一般市民向けの概説書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

その他 / Others

政策科学特殊講義（PB） § 法政特殊講義（JK） § 人文科学総合講座特殊講義I（LR） § 特殊講義（各部門共通）I（RJ，S） 20216 専門特殊講義（SQ） § 特殊講義（WB） § 専門特殊講義II（SQ）

担当者名 / Instructor　今仲 康之　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は読売新聞社の援助により各府県知事を本学にお迎えし、それぞれの政策的課題などを語っていただくリレー講義である。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情も様々に異なるため、個別政策や個人の政治戦略のレベルでについていえば、講義全体が統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできることは増えてきており、とりわけ、知事のリーダシップによって地方行政は相当に変化しうるようになってきた。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているので、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数回は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の出席票に記載欄を設けるのでこれに書いてもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係（中央政府と地方政府の関係）について総合的に理解を深めることが目標である。知事の後援を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、財政学、地方自治等に関連する科目群

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	読売新聞大阪本社　論説委員　上田恭規氏	
第2回	担当者講義	
第3回	大分県　広瀬勝貞知事	
第4回	広島市　秋葉忠利市長	
第5回	青森県　三村申吾知事	
第6回	長野県　村井仁知事	
第7回	担当者講義	
第8回	滋賀県　米田耕一郎副知事	
第9回	栃木県　福田富一知事	
第10回	浜松市　鈴木康友市長	
第11回	石原　信雄氏	
第12回	野中　広務氏	
第13回	奈良県　荒井正吾知事	
第14回	愛媛県　加戸守行知事	
第15回	島根県　溝口善兵衛知事	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	70点満点の定期試験を実施する。
平常点評価	30 %	1セメスターに3回小レポートを課す。それぞれ10点満点で評価して、評点を加算する。出席点は加算しない。

本講義の受講を希望する者は、エントリーシートを提出して予備登録を行わなければならない。URL参照。
http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻・早退はしないこと。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、目立たぬように後部の出入口より静かに入退出すること。また、当然であるが、講義中は脱帽。また、言わずもがなであろうが、私語・飲食厳禁である。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話を聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間外学習が求められることは当然である。

小レポートを3回提出してもらい、そのできばえによる日常評価を30点満点で評価する。知事の講義を真剣に聞き、自分の理解度を小レポートでしっかりと表現してほしい。

ただし、出席点は一切加味しないので、目的意識なく漫然と出席しても何のプラスにもならないことは理解してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

教科書は指定しないが、地方政治や地方行財政をめぐる書籍を手元に置いて日常的に参照すること。参考書に有益な本を掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『テキストブック地方自治』	村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／地方自治の基本的教科書
『概説　日本の地方自治』	新藤宗幸・阿部斉／東京大学出版会／4130320386／地方自治の基本的教科書
『市民のための地方自治入門』	佐藤竺監修／実務教育出版／4788914158／一般市民の向けの概説書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GA） § 専門特殊講義（SR） § 地域活性化ボランティア（JA） § 地域活性化ボランティア（PA） 56673 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TA） § 特殊講義（自由選択）1（V1） § 特殊講義（自由選択）（V1） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CA）

担当者名 / Instructor　中根 智子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II（ST） § 専門特殊講義（ST）

13465

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ドキュメンタリーはフィクションである」は、昨年惜しくも亡くなったドキュメンタリー映画の監督、佐藤真氏の言葉である。一般的にドキュメンタリーは、ノンフィクションと捉えられ、現実をありのままに映し出したもの、とされている。が、20年余り、さまざまなドキュメンタリーを見てきたが、「ドキュメンタリーはフィクションである」という言葉は、重要な指摘だと考える。ドキュメンタリーとは何か。いくつかの作品を見ながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

いくつかのドキュメンタリー作品の考察により、映画、テレビを問わず、広く映像メディア全体を捉え直す。作品ごとの考察は、受講生の積極的な発表を促す形で進める。ドキュメンタリーは、ノンフィクションか、フィクションか。それを越えたものなのか。理解を深めていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリーとは1	ドキュメンタリー、ノンフィクション
第2回	ドキュメンタリーとは2	演出とやらせ
第3回	ドキュメンタリー作品鑑賞	戦うふ兵隊　亀井文夫　1939年
第4回	作品分析発表　4人　意見交換	ランダムに指名した受講生に、作品分析の発表を行ってもらう。
第5回	作品分析についての論評	
第6回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「ドキュメント　路上」　土本典昭監督　64年
第7回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「水俣　患者さんとその世界」土本典昭監督　71年
第8回	作品分析発表　4人　意見交換	
第9回	作品分析についての論評　関連作品の鑑賞　土本監督の短編	
第10回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「阿賀に生きる」佐藤真監督
第11回	作品分析発表　4人	
第12回	作品分析について論評　関連作品の鑑賞　佐藤監督の短編	
第13回	ゲスト監督を招いて（未定）	作品鑑賞
第14回	作品分析の発表　4人	
第15回	ドキュメンタリーとは、ドキュメンタリーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ドキュメンタリー映画やテレビのドキュメンタリー番組を積極的に見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	設問に対する解答の記述内容で、授業の理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館で公開中、および学内上映会での上映作品（有料）のドキュメンタリー作品の感想レポートの提出。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで、理解度を確認する。出席はとらない。

授業への30分以上の遅刻は認めない。私語、メール等も厳禁。注意しても聞かない場合は退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ドキュメンタリー映画は、様々な作品を見ることで、その面白さへの理解が深まる。国内外を問わず、たくさんの作品を見て欲しい。また、テレビのドキュメンタリー番組も、チェックして欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリーの修辞学	佐藤真／みすず書房／9784622072515／ドキュメンタリーとは、最近の傾向など、いまのドキュメンタリーの周辺および監督の思いが伝わる好著

参考図書に関しては適宜紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学内上映会でのレポート課題作品は、有償（500円程度）だが、その点は了解していただきたい。

専門特殊講義II (SU) § 専門特殊講義 (SU)

15674

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本映画はここ数年、実際の製作本数は、公開本数の約2倍という状況で、公開されずに「お蔵入り」となってしまう映画が相変わらず多い。日本映画バブルの状況はまだまだ続きそうである。が、過去の日本映画の名作を見る機会は、学生にはほとんどない。1945年前後の日本映画を鑑賞し、映画と社会との関係を考察する。現代においても、映画と社会は不可分な関係があることの理解を促す。

到達目標 / Attainment Objectives

1、映画と社会の関係、社会的な力によって映画が作られてきた歴史を作品を通して学ぶ。
2、映画と戦争は、プロパガンダとして活用された関係にある。監督や製作現場のスタッフたちは、そうした状況をどのように受け止め、作品に反映させてきたのかを、作品を通して認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画と戦争1	映画法など。戦時中のニュース映画の参考上映
第2回	稲垣浩監督　無法松の一生　1943年　戦前は映画法、戦後はGHQによって2度の検閲を受けた作品　鑑賞	
第3回	1940年代の作品鑑賞　黒澤明監督　「一番美しく」（1944年）女子挺身隊の勤労動員の物語	
第4回	作品分析　意見交換	
第5回	黒澤明監督　「わが青春に悔いなし」1946年鑑賞　戦前戦後、大学の自由を守ることと、日本の自由を勝ち取ることをテーマとした京都も舞台になった作品　鑑賞	
第6回	作品分析　意見交換	
第7回	木下恵介監督　「陸軍」1944年　鑑賞	
第8回	作品分析　意見交換	
第9回	木下恵介監督　「大曽根家の朝」1946年　鑑賞	
第10回	作品分析　意見交換	
第11回	木下恵介監督　「女」1948年　鑑賞	
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲストスピーカー　京都府京都文化博物館映像資料室学芸員　森脇清隆氏　フィルムアーカイブの意義	
第14回	小津安二郎監督　「長屋紳士録」1947年　鑑賞	
第15回	作品分析　意見交換　　全講義を通じて感じたこと、映画と社会の関係等も意見交換する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日本映画をたくさん見て欲しい。ゲスト並びに上映作品は、変更する場合もあるが、事前に説明を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館および学内での上映会(有料)の作品の感想レポートの提出。ただし、作品分析発表者はのぞく。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

30分上の遅刻は認めない。私語、携帯メール等厳禁。私語等注意してもやめない場合は、退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

日本映画を読む	大島渚ほか／ダゲレオ出版／／
ある映画監督の生涯	新藤兼人／岩波新書／／
日本映画批判	双葉十三郎／トパーズプレス／／
日本映画	佐藤忠男／第三文明社／4-476-03175-7／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／／

参考図書は随時提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GB） § 専門特殊講義（SX） § 地域活性化ボランティア（JB） § 地域活性化ボランティア（PB） 56681 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TB） § 特殊講義（自由選択）1（V2） § 特殊講義（自由選択）（V2） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CB）

担当者名 / Instructor　小田切 康彦　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GC） § 専門特殊講義（SY） § 地域活性化ボランティア（JC） § 地域活性化ボランティア（PC，S） 56689 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TC） § 特殊講義（自由選択）1（V3） § 特殊講義（自由選択）（V3） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CC）

担当者名 / Instructor　寺村 安道　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GD） § 専門特殊講義（S1） § 地域活性化ボランティア（JD） § 地域活性化ボランティア（PD） 56697 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TD） § 特殊講義（自由選択）1（V4） § 特殊講義（自由選択）（V4） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CD）

担当者名 / Instructor　中根 智子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GE） § 専門特殊講義（S2） § 地域活性化ボランティア（JE） § 地域活性化ボランティア（PE） 56705 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TE） § 特殊講義（自由選択）1（V5） § 特殊講義（自由選択）（V5） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CE）

担当者名 / Instructor　寺村 安道　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GF） § 専門特殊講義（S3） § 地域活性化ボランティア（JF） § 地域活性化ボランティア（PF） 56713 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TF） § 特殊講義（自由選択）1（V6） § 特殊講義（自由選択）（V6） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CF）

担当者名 / Instructor　中根 智子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GG） § 専門特殊講義（S4） § 地域活性化ボランティア（JG） § 地域活性化ボランティア（PG） 56721 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TG） § 特殊講義（自由選択）1（V7） § 特殊講義（自由選択）（V7） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CG）

担当者名 / Instructor　大谷 洋士、角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GH） § 専門特殊講義（S5） § 地域活性化ボランティア（JH） § 地域活性化ボランティア（PH） 56729 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TH） § 特殊講義（自由選択）1（V8） § 特殊講義（自由選択）（V8） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CH）

担当者名 / Instructor　上田 洋平、角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GI） § 専門特殊講義（S6） § 地域活性化ボランティア（JI） § 地域活性化ボランティア（PI） § 56737 殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TI） § 特殊講義（自由選択）1（V9） § 特殊講義（自由選択）（V9） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CI）

担当者名 / Instructor　角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GJ） § 専門特殊講義（S7） § 地域活性化ボランティア（JJ） § 地域活性化ボランティア（PJ） 56745 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TJ） § 特殊講義（自由選択）1（W1） § 特殊講義（自由選択）（W1） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CJ）

担当者名 / Instructor　角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化理論 (S)

15557

担当者名 / Instructor　森重 拓三

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「文化を生きる」という観点から、代表的とおもわれる「文化理論」を紹介・整理し、「生きること」と「文化」との関わりを「社会学的」に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

どのような関心から「文化」の問題に出会うのか。「生の形式」としての「文化」に関する問題を、1.文学、2.文化人類学、3.精神分析、4.文化社会学などの様々な切り口からみることで、「生活のなかの文化」を捉える視点を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入　全体構想の提示	
第2回	文化と文化理論の整理軸①　ー文化の語り方ー	学者の語り方 / 小説家の語り方 / 想像力の問題
第3回	文化と文化理論の整理軸②　ー文化の採集の仕方ー	他文化の採集 / 自文化の採集 / インタビュー、民話など
第4回	文化と文化理論の定義　ー文化の「語り方」「採集の仕方」を基準にした整理ー	「文化」と「文化理論」と「文化理論の理解」の関係
第5回	機能主義的な文化理論　ー『西太平洋の遠洋航海者』(B.マリノフスキー著)を読むー	クラの交換・呪術(トロブリアンド諸島のマッシム人) / 装置としての文化 / 有機的全体の仮説
第6回	構造主義的な文化理論(1)　ー構造言語学(F.d.ソシュール)から構造人類学へー	言語体系と言語行為 / 言語記号の内容面と表現面 / 恣意性と必然性
第7回	構造主義的な文化理論(2)　ー『悲しき熱帯』(C.レヴィ=ストロース著)を読むー	身体塗飾と村落形態(ブラジルのインディオ) / 非対称と対称の紋様 / 階級と半族
第8回	解釈学的な文化理論(1)　ー解釈とはー	意味措定・解釈された生活 / テキスト / ローカル・ノレッジ
第9回	解釈学的な文化理論(2)　ー「バリの闘鶏に関するノート」(C.ギアーツ)を読むー	闘鶏(バリ島のバリ人) / 闘鶏の解釈(地位関係の代理闘争) / 解釈図式の問題(誰の解釈か)
第10回	小テスト	
第11回	言語論的な文化理論(1)　ー「甘え」との向き合い方ー	「甘え」の発見 / 「甘え」に関する「ことば」 / 「甘え」の社会関係
第12回	言語論的な文化理論(2)　ー『「甘え」の構造』(土居健郎著)を読むー	「甘え」 の体験 / 言語 / 経験
第13回	言語論的な文化理論(3)　ー『「いき」の構造』(九鬼周造著)を読むー	「いき」の内包的構造(媚態・意気地・諦め) / 「いき」の外延的構造(類似概念との整理)
第14回	文化理論の基礎づけ(1)ー文化の問題を「生の形式」としての言語から考えるー	文化装置としての言語 / 非言語的行為 / 言語的行為
第15回	文化理論の基礎づけ(2)　ー文化の基礎概念(定義、採集、観察、解釈、機能、構造等)の整理ー	言語、行為、意味 / 生の形式 / 生の内容 / 私的体験 / 間主観的体験

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	文化研究の理論と方法、基礎概念などの学習到達度をテスト
平常点評価	20 %	講義で学んだテーマを具体的事例にどのように応用し、また学問的な方法によって適切に言い表すことができるかをテストします

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教室で指示します

教科書 / Textbooks

教科書は未定。講義レジュメを教材として用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
物語のなかの社会とアイデンティティ	佐藤嘉一／晃洋書房／／
社会的世界の意味構成	アルフレッド・シュッツ／木鐸社／／
社会学の根本概念	マックス･ヴェーバー／岩波書店／／
悲しき熱帯	レヴィ＝ストロース／中央公論社／／
「甘え」の構造	土居健郎／弘文堂／／

以下の文献を読むことを薦めます。
佐藤嘉一『物語のなかの社会とアイデンティティ』
M.ウェーバー『社会学の根本概念』

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

医学一般（S） § 医学一般（SG）

15469

担当者名 / Instructor　中川 克

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士の国家試験では、毎年150問中10問が医学一般から出題されている。本講義は社会福祉士を目指すものの必修講義として、医学・医療の基礎知識を習得し、国家試験に合格することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

① 社会福祉士の試験に合格する。
② 福祉に従事するものとしての医学的基礎知識を習得する。
③ 個人の健康管理に資する知識を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	臨床医学の概観 、人体の構造と機能	医学の歩み、解剖と生理
2	人体の各器官の構造と機能	細胞、血液、呼吸器、消化器・代謝、泌尿器、皮膚、循環器
3	人体の各器官の構造と機能	支持運動器官、内分泌、神経、感覚器、生殖器
4	現代社会と疾病	先天性疾患、遺伝
5	感染症	伝染病予防法、新感染症法
6	感染症	性感染症、国際協力
7	結核、これからの感染症	結核、結核対策、麻疹・風疹、食中毒、疥癬、日和見感染
8	生活習慣病・メトボリックシンドローム	一次・二次・三次予防、悪性新生物、虚血性心疾患、脳血管障害、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症
9	高齢者に多い他の内科疾患、老化と身体的変化	腎疾患、老化現象、寿命、廃用症候群、寝たきり
10	高齢者の病気	痴呆・認知症、骨粗鬆症
11	高齢者の病気	変形性関節症、白内障、難聴、嚥下障害、褥瘡
12	公衆衛生	衛生行政、人口統計、人口静態、人口動態
13	精神保健	精神障害、分類、統合失調症、躁鬱病、アルコール精神病、症状精神病、パニック障害、脅迫性障害
14	精神保健	保健医療対策、精神保健福祉法、人権擁護、社会復帰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

14回の講義のみで上記テーマを詳細に講義することは不可能である。
したがって、各自で予習・復習に努めることが必須である。
特に、国家試験合格を目指すものは、社会福祉士国家試験の問題集に取り組むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	記述問題・択一問題
レポート試験	20 %	11月頃に一回のリポートを求める。 課題は授業にて提示する。

各人が積極的に取り組まない限り習得が困難な科目である。
したがって、出欠を成績評価の基準とはしない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

14回の講義のみで上記テーマを詳細に講義することは不可能である。（最終講義日に試験を行う）
したがって、各自で予習・復習に努めることが必須である。
特に、国家試験合格を目指すものは、社会福祉士国家試験の問題集に取り組むこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版第4版 社会福祉士養成講座 13「医学一般」	福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版／978-4-8058-2826-7／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

第16回－第18回社会福祉士国家試験解説集	社団法人日本社会福祉士養成校協会＝編集／中央法規出版／978-4-8058-2886-1／
第19回社会福祉士国家試験解説集	社団法人日本社会福祉士養成校協会＝編集／中央法規出版／978-4-8058-2887-8／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

国立感染症研究所感染症情報センターhttp://idsc.nih.go.jp/index-j.html

その他 / Others

介護概論（S） §　介護概論（SG）

15529

担当者名 / Instructor　沖野 良枝

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本概論では、福祉専門職として必要な介護に関する諸概念および専門知識と援助の方法について学習する。具体的には、今日の介護問題の背景と現状、介護保険制度を主とする社会施策の学習を通して、主として高齢者と家族を中心にその立場や状況を明らかにし、専門職の果たす役割・責任を理解する。さらに、要介護者のニーズに沿ったサービスに必要な視点として健康、生活、自律の概念を学習し、対象の理解、生活援助の意味と認識を深める。問題解決技法としての介護過程、寝たきり、認知症、終末期の対象者・家族に対する根拠に基づいた援助の基本、対象者・家族の生命、身体、精神、生活上の安全と人権尊重の重要性を理解し、専門職者としての責務について自覚を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 介護の概念や基本原則、介護の場や介護に係る専門職の種類と連携など介護の概要を理解する。
2. 今日の介護問題の背景と現状を理解することにより、介護対象者および家族の立場や状況に対する理解と認識ができる。
3. 人にとっての健康、生活、自律の意味、在り方を学ぶことにより、介護対象者・家族の生活援助の意義を認識できる。
4. 介護問題解決の方法論、援助技術の原理を根拠に基づき理解できる。
5. 寝たきり、認知症、終末期など特定領域別の対象者・家族の状況理解、援助の特徴と基本的な関わりの方法がわかる。
6. 対象者・家族の人権尊重の重要性および安全確保のための倫理的、法的根拠が理解できる。
7. 専門職としての理念、態度、在り方について理解でき、その責務を自覚する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、専門知識や関連情報、援助技術の学習に留まることなく、人に関する幅広い視点、多様で相対的思考でマクロに学習する立場で受講される事を希望する。また、社会福祉概論、社会福祉援助技術、ソーシャルワーク、高齢者福祉、家族社会学、医学一般など専門基礎科目の多くを履修している2年次以降の受講が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	1. 介護の理解　1）介護の概念と概要	介護の概念、介護の原則、介護の歴史
第2回目	2）介護の現状と問題とその背景	少子高齢社会、介護問題、介護問題の背景
第3回目	2. 介護対象者の理解　1）人・対象者にとっての生活	人の生活、家族、地域、クオリティ・オブ・ライフ
第4回目	2）人・対象者にとっての健康	健康の概念、健康観の変遷、健康の意味
第5回目	3）人・対象者にとっての自律/自立	自律、自立、自立支援
第6回目	3. 介護のしくみ　1）介護に関する政策、制度　2）介護の場（在宅、施設）	保健・医療・福祉政策、介護の場、施設、在宅
第7回目	3）介護を担う人と役割　4）保健・医療・福祉の連携	介護者、介護者の役割、保健・医療・福祉、専門職、連携
第8回目	5）介護保険制度の概要	介護保険制度、要介護認定、要介護、要支援、在宅サービス、施設サービス、介護予防
第9回目	4. 介護のスキル　1）介護（問題解決）過程　2）ケアマネジメントの方法	介護過程、問題解決技法、ケアマネジメント、ケアプラン
第10回目	2）ADL（日常生活）援助	ADL、IADL、援助の原則
第11回目	3）介護技術の原則　①状態観察　②コミュニケーション	援助技術、観察、コミュニケーション
第12回目	4）主な領域と介護　①寝たきり高齢者と介護	寝たきり高齢者、寝たきりの要因、寝たきり予防、介護の方法、日常生活自立度
第13回目	②認知症高齢者と介護	アルツハイマー病、脳血管性認知症、記憶障害、中核症状、周辺症状、
第14回目	③終末期と尊厳死の理解	人の死、尊厳死、安楽死、高齢者、終末期

第15回目	5. 介護における倫理　1）対象者・家族の人権擁護　2）介護専門職の責務	倫理、人権擁護、守秘義務、プライバシー保護、インフォームド・コンセント、意思決定、専門職の責務、倫理綱領

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義のレジュメ、資料および紹介した著書、文献などによる予習・復習などの自己学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	筆記試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論などの基本的理解、知識の修得状況を評価・判定する。
レポート試験	0 %	定期試験の結果によっては、レポート評価を加味する場合がある。

授業には、原則8割以上の出席をのぞむ。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

提示した授業計画に沿って授業は進める予定である。教科書やレジュメによる事前学習および授業後の復習が、授業理解を円滑に深める前提と考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・社会福祉士養成講座【第13巻】高齢者に対する支援と介護保険制度――高齢者福祉論	社会福祉士養成講座編集委員会＝編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3113-7 ／授業は、独自のレジュメに沿って出来るだけ広範な内容で進める予定であるが、時間の関係で、授業では触れられないこともある。そのため、国家試験に備えて、標準的な知識として教科書で補足していただきたい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アルツハイマー病にならない	井原康夫他／朝日新聞社／／授業で学習する内容については、最新の考え方や研究結果、社会状況、政策などの知識や情報を取り入れ、根拠に基づいた理解を得て頂く事に努めたい。そのために、適宜、適切な文献を資料として活用するが、その出典となった文献には出来るだけ全体に目を通して頂きたい。
知っておきたい認知症の基本	川畑信也／集英社新書／／上記に同じ
死は誰のものか	斉藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ
アメリカおきざりにされる高齢者福祉	斉藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SA）

12725

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1)（テキスト第5章、第 10 章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2)（テキスト第5章、第 10 章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2)（テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SB）

12726

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SC）

12727

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SD）

12728

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学（SE）

12729

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) （テキスト第3章）	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第 10 章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第 10 章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

経済学理論（S）

13311

担当者名 / Instructor　伊藤 正純

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

まず現実の経済を認識するための基礎タームである、国民所得、GDP成長率、国際収支、財政（歳入・歳出）などを説明する。次いで、アメリカ流の「金融資本主義」とは何であったかを考える。アメリカ追随の日本の経済政策は、小さすぎる政府による「公貧社会」、外需依存型の脆弱な経済、大きな格差社会をもたらしている。日本とは対極にある北欧諸国の経済政策を念頭に、日本の経済政策の問題点を考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、新聞の経済欄に興味をもてるようになること、そして実際に読んでみて、少しはわかったという実感がもてるようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4／8	国民所得とは何か	市場経済　GDP（国内総生産）　国民所得　経済成長率
4／15	経済は市場だけでは成り立たない	市場と財政は相互補完関係　「小さな政府」「大きな政府」
4／22	国際収支とは何か	経常収支　資本収支　為替　円高　円安
4／29	アメリカ「金融資本主義」の発生	金融の自由化、グローバル化、直接金融、間接金融、BS規制
5／13	アメリカ「金融資本主義」の繁栄（1）	新自由主義　双子の赤字（財政の赤字と経常収支の赤字）、資本収支の黒字、高金利、低金利
5／20	アメリカ「金融資本主義」の繁栄（2）	過剰な消費、世界の資金循環、外需依存型経済（日本、中国）
5／27	アメリカ「金融資本主義」の破綻	証券化、CDF（クレジット・デフォルト・スワップ）、格付会社
6／3	外需依存型日本経済の「繁栄」	規制緩和、財界の変貌、損益分岐点の「改善」
6／10	外需依存型日本経済の「貧困」	労働分配率　労働市場の規制緩和、ワーキング・プア、労働組合
6／17	「貧困大国」の双璧、アメリカと日本	「トリクル・ダウン」論、税制の問題点、所得再分配機能の放棄
6／24	アメリカン・ドリームとヨーロッピアン・ドリーム	自己責任、「機会平等」、勝者の論理、社会的包摂、「包摂される権利」、システムの責任
7／1	政府の役割　財政と社会保障	北欧諸国にみる「生活の安全」、強い経済と強い財政は両立する
7／8	フレキシキュリティ（Flexicurity）とは何か	デンマーク、オランダ、スウェーデン
7／15	知識基盤社会における人材育成	エンプロイアビリティ　生涯学習
7／22	ワーク・ライフ・バランスを考える	貧困をなくした国、貧困にあえぐ国

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	記述式論文試験。持ち込み不可。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純／桜井書店／ISBN4-921190-16-X／
日本経済を問う	伊東光晴／岩波書店／ISBN4-00-024243-1／
入門社会経済学	宇仁宏幸他／ナカニシヤ出版／ISBN4-88848-879-7／
希望の構想	神野直彦・井手英策／岩波書店／ISBN4-00-022553-7／
貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン	竹崎孜／あけび書房／ISBN978-4-87154-078-0／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

計量社会学（SA） § 計量社会学（SA）

13448

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
第2回目	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
第3回目	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
第4回目	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
第5回目	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
第6回目	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
第7回目	分析実習1	度数分布表、代表値
第8回目	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
第9回目	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
第10回目	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
第11回目	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
第12回目	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
第13回目	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
第14回目	分析実習4	多変量解析
第15回目	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	40 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる

[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。

[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本人の姿	岩井紀子・佐藤博樹編／有斐閣／4641280681／

社会調査へのアプローチ　　大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武／ミネルヴァ書房／4623041042／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

その他 / Others

計量社会学（SB） § 計量社会学（SB）

13459

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
第2回目	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
第3回目	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
第4回目	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
第5回目	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
第6回目	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
第7回目	分析実習1	度数分布表、代表値
第8回目	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
第9回目	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
第10回目	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
第11回目	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
第12回目	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
第13回目	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
第14回目	分析実習4	多変量解析
第15回目	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	40 %	学期中に2～3度程度の平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って参加する態度が望まれる。
[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことをより明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。
[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本人の姿	岩井紀子・佐藤博樹編／有斐閣／4641280681／

社会調査へのアプローチ　　大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武／ミネルヴァ書房／4623041042／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

その他 / Others

現代史 (S)

15514

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:現代日本の世界史的位置。

現代は,多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。この講義では、①20世紀の歴史を振り返り、今日的な諸問題が形成されてきた経過を確認し、そのうえで、②世界的な視点から、今日の日本の産業・労働環境，教育・福祉などをめぐる問題と今後の課題を検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と、日本の経済社会との重層的な構造的連関を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に希望はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	グローバル化のなかで「現代」を考える	現代は、いつから始まるか　近代の再帰性 国民国家の誕生、国軍と司法、国民教育、産業振興
第2回	19世紀末の世界ー 帝国主義と社会主義	後発資本主義国の発展　パックス・ブリタニカ 大衆デモクラシーの台頭　19世紀末の文化
第3回	第1次世界大戦—大衆デモクラシー時代への本格的移行の転機ー	総力戦体制　日本の対応
第4回	戦後の新しい世界秩序	ヴェルサイユ体制とワシントン会議
第5回	1920年代における太平洋地域と中東の新秩序	中東とインド　中国の内戦　　日本の大陸政策
第6回	世界恐慌の諸相	アメリカの恐慌　スターリン体制　日本の恐慌
第7回	ファシズムの台頭	ナチス・ドイツ，イタリア，スペイン
第8回	第二次世界大戦の構図	ファシズム対反ファシズム　日本の総力戦
第9回	東西冷戦と戦後復興	東西冷戦のはじまり　　国際連合　　マーシャル・プラン 朝鮮戦争
第10回	福祉国家の形成と展開	社会主義圏の社会福祉　資本主義諸国の「福祉国家」化とその性格
第11回	ラテンアメリカとアフリカ	移民社会　開発と国際協力　　アフリカの独立
第12回	1970年代の世界の重層構造	フォーディズムからフレキシブル生産体制へ　アジア諸地域の脱植民地化
第13回	新自由主義の世界的な潮流	福祉国家の変質　途上国の債務と経済協力の性格
第14回	教育・文化をめぐる先進国と途上国	少子化　教育　グローバル・メディア
第15回	現代世界とモダニティの変容－1つのまとめー	グローバリズムとセフティーネット

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	基本的に定期試験で評価。
平常点評価	10 %	出席票を配布する際、講義に関する質問を書いて頂き、授業のなかで返事をする機会をつくる。その対応を若干、定期試験の評価に加味する。

出席が一度も確認できなかった受講生は、定期試験を受けても単位を認定しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この講義は、現代社会に生起している諸問題を考える視点や射程を私なりに紹介するものであり，それを、歴史学の方法で、進めているにすぎない。

講義で話題にしたことについて、それに関連する書籍・文献を独自に読み進め、理解を深める学習を切に希望する。

教科書 / Textbooks

教科書は、このシラバスを出稿する時点では、使用しないとする(変更する際は、授業で説明する)。

毎回、レジメにて講義をし、テーマに関連する文献は適宜、講義の中で紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代史への視座	竹内　啓／東洋経済新報社／978-4-492-06143-5／多少刺激的である
新自由主義	デヴィド・ハーヴェイ／作品社／978-4-86182-106-6／一度、通読されることを薦める
昭和史　全2巻	中村隆英／東洋経済新報社／／日本の戦後史の概説書

このほか，講義のなかで，先にも述べたように適宜、参考文献紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

最近は、歴史に関する用語やキー概念を、サーチ・エンジンに入力すれば、関連する用語解説が簡単に検索できるので、まずはどのような用語でも良いから検索してみることである。

その他 / Others

特になし

公的扶助論（S） §　公的扶助論（SG）

13247

担当者名 / Instructor　濱畑 芳和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「格差社会」の進行の中で、派遣やパート、アルバイトといった不安定な働き方を余儀なくされている非正規雇用労働者が増加しています。働いていても生活に困窮する「ワーキングプア」、近年の経済危機による「派遣切り」など、非正規雇用労働者が真っ先に失業に追いやられ、とたんに生活に困窮する人々が注目を集めています。わたしたちが普通に暮らしていても人間らしく生きていくことそのものが危機に瀕しているといっても過言ではない昨今、これらの生活困窮者に対して所得保障を行う「最後の砦」として、生活保護制度に対する期待がこれまでになく高まってきています。

日本国憲法第25条において「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」（生存権）を規定しており、国が国民に生存権を具体的に保障するための制度が生活保護制度です。この講義では、日本の生活保護制度とその実践を中心にしながら、公的扶助の歴史・国際動向等多角的な観点から、公的扶助制度に期待される役割を検討したいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。
自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉原論、社会保障論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	公的扶助を学ぶにあたって（オリエンテーション）	公的扶助、貧困、生活保護法
第2回	現代社会の中の貧困（1）	所得者の生活実態、低所得者に対する福祉ニーズ
第3回	現代社会の中の貧困（2）	貧困のメカニズム
第4回	公的扶助と関連施策	公的扶助の社会福祉における位置づけ、社会保障制度、低所得者対策
第5回	公的扶助制度の歴史	イギリス救貧法、日本の救貧制度（恤救規則・救護法）、戦後生活保護法の成立
第6回	生活保護制度のしくみ（1）	生活保護法の目的と基本原理、実施上の原則
第7回	生活保護制度のしくみ（2）	生活保護基準
第8回	生活保護制度のしくみ（3）	保護の種類・方法
第9回	生活保護制度のしくみ（4）	保護の実施と費用、被保護者の権利と義務
第10回	生活保護の政策と動向	生活保護制度の展開、生活保護層の動向
第11回	生活保護におけるソーシャルワーク実践（1）	生活保護における対人援助、福祉事務所の役割と実際
第12回	生活保護におけるソーシャルワーク実践（2）	支援・援助の技術と実際
第13回	生活保護におけるソーシャルワーク実践（3）	自立支援プログラムの意義と実際
第14回	海外の公的扶助	アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、韓国
第15回	生活保護制度の課題（講義のまとめ）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

教科書は購入し、講義で指示する該当部分を事前に読んできてください。
新聞・雑誌、テレビ等による報道にも関心を寄せてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	公的扶助に関する基礎的な知識を問う問題、事例に対して論述する問題等
平常点評価	15 %	出席等

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉を学ぶ学生はもちろんのこと、ひろく社会問題、貧困問題に関心のある学生の受講を呼びかけます。

講義中に社会福祉士国家試験対策のための時間を確保する予定はありませんが、講義を受講すれば試験に必要な知識はある程度網羅でき、自習をされる際のコツはつかめると思います。また、国家試験の動向等必要な情報提供は適宜行いたいと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『よくわかる公的扶助　低所得者支援と生活保護制度』	杉村宏・岡部卓・布川日佐史編／ミネルヴァ書房／978-4623050390／

参考書 / Reference Books

講義のなかで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義のなかで紹介します。

その他 / Others

社会学講読（S）

15473

担当者名 / Instructor　佐々木 嬉代三

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学の基礎的な知識を修得することを目的とするが、購読という科目の性格を考えて、参加する学生個々人にテキストの分担報告を行ってもらうことになるであろう。ただし、参加する学生数に応じて、授業運営の方法を具体的に考えたい。購読テキストは参加学生が2回生以上ということを考慮して、平易だが内容豊かなものを選んだつもりである。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎的な知識を修得すること、あるいは、社会学的な思考の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員の自己紹介（専門分野の紹介）、授業の進め方に関する相談	
第2回	社会学的パースペクティヴについて	「社会と個人」問題、「脱」常識
第3回	合理性の非合理的基礎	社会類型の変化、機械的連帯と有機的連帯、社会秩序
第4回	合理性の非合理的基礎ー2	フリーライダー問題、連帯の感情
第5回	神の社会学	宗教、象徴、儀礼
第6回	神の社会学ー2	人格崇拝、相互作用儀礼
第7回	権力の逆説	カリスマ、官僚制
第8回	権力の逆説ー2	自明性の支配、不確実性の力
第9回	犯罪の常態性	正常と異常、社会秩序と犯罪
第10回	犯罪の常態性－2	ラベリング、意味付与、犯罪の創出
第11回	愛と所有	家族の運命、運命としての家族
第12回	愛と所有	現代家族の病理
第13回	現代社会の捉え方	ボードリアール、消費社会、アイデンティティ
第14回	現代の問題と病理	消費社会、格差社会、自殺、殺人等
第15回	レポート試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

学生が自ら分担報告する点を考慮して、上記のような評価基準にした。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

デュルケムやウエーバーの著作に親しんで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脱常識の社会学	ランドル・コリンズ著、井上俊・磯部卓三訳／岩波書店／4-00-001275-4／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会学史 (S)

13449

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学は、二重革命（産業革命＋市民革命）の激動を通じて中世西ヨーロッパの社会秩序が解体され、いわゆる近代社会（産業社会）が立ち上がってくる歴史状況の中で、いかにして近代社会に秩序をもたらすかという問題意識を基点として、19世紀末から20世紀初頭にかけての時代に出現した学問である。「近代社会の自己認識」というフレーズが社会学の自己規定として語られ、社会学の根本問題は≪秩序問題≫であるとしばしば言われるのは、社会学がそのような誕生の経緯を持っているからである。本講義では、社会学の根本問題であるこの≪秩序問題≫を軸としてどのような学史が紡がれてきたかを概観することとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の根本問題である≪秩序問題≫に対して、主要な社会学者がどのような観点でそれを捉え、どのような理論形成を試みたのかを理解することが第1の目標である。またそのことを通して、社会学という学問が歴史的現実をどう捉え、それに対してどのように応答しようとしてきたのかを理解すること、これが第2の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学の根本問題への誘い	社会秩序
第2回	人間社会の秩序への開眼	マキャベリ
第3回	啓蒙主義の社会秩序像	ホッブズ、ロック
第4回	18世紀市民社会の社会的秩序像	スミス
第5回	19世紀市民社会の矛盾	ヘーゲル
第6回	中間総括① ―― 市民社会秩序の前提と矛盾	ヒューマニズム
第7回	コントの社会的秩序像 ―― 社会設計	実証主義
第8回	マルクスの社会的秩序像 ―― 社会の自己生成①	社会構成体、階級闘争
第9回	マルクスの社会的秩序像 ―― 社会の自己生成②	社会構成体、階級闘争
第10回	スペンサーの社会的秩序像 ―― 社会進化論	適者生存
第11回	中間総括② ―― 草創期社会学の課題	≪社会≫とは何か
第12回	ヴェーバーの近代社会像 ―― 歴史の逆説	支配、合理化
第13回	デュルケムの近代社会再建論 ―― 近代社会の病理	アノミー、道徳
第14回	現代社会学の課題	「社会」とは何か
第15回	最終総括 ―― 社会学の根本問題	≪秩序問題≫

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

情報量が多いので、テキストを読んできていることを絶対の前提条件として講義を進める。したがって、必ず事前に読んで来ること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学的思考とは何か』	三溝信／有信堂(1998)／／

『社会学的思考とは何か』、三溝信、有信堂(1998)をテキストとする。ただし、出版社の在庫数が履修予想者数を下回るので、こちらでコピーして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会学理論（S）

15534

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会の成り立ちを理解するのに有効な社会学理論の基本的な考え方を学んでもらうことを主眼にしている。そのために、デュルケームやヴェーバー、シカゴ学派、システム論を取り上げる。社会的連帯・儀礼・権威・自殺・宗教と資本主義の精神、共同態・都市化・移民などを具体的な事例にして、古典的な社会学理論のエッセンスを解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．基本的な社会学的視点と概念に習熟することで、社会学的なものの見方が可能となる。
2．社会学的な考え方を、具体的な問題状況に適応して、その解決に役立てることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日常性の社会学、社会学史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに：授業の進め方と社会学の主題	共同態・権威・聖なるもの・階層・社会病理
2	デュルケームの社会理論（1）：『社会分業論』	連帯・集合意識・抑止法・復原法
3	デュルケームの社会理論（2）：『自殺論』	欲求と規制（アノミー）・個人と社会・自己本位主義・集団本位主義
4	デュルケームの社会理論（3）：『宗教生活の原初形態』	トーテミズム・儀礼・集合的沸騰・象徴
5	デュルケームの方法論	実証主義・共変法・分類
6	ヴェーバーの社会理論（1）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	世俗内禁欲・資本主義の「精神」・担い手・親和性
7	ヴェーバーの社会理論（2）『儒教と道教』	氏族・家産官僚・読書人層・都市
8	ヴェーバーの方法論	理念型・比較社会・差異法・一致法
9	デュルケームとヴェーバーの比較	理念と思想の意義・行為論対制度論を超えて
10	シカゴ学派の社会理論（1）：『ポーランド農民』	移民・社会解体・再組織スラム・家族解体
11	シカゴ学派の社会理論（2）パークとバージェス	人間生態学・都市空間・適応・逸脱
12	システム論の考え方（1）	機械論・有機体論・パーソンのシステム論・自己組織性
13	システム論の考え方（2）	関係的思考・ブルデュー・ネットワーク
14	社会理論の展開：社会的世界論	ナラティブ・メカニズム・システム
15	理論的視点の総括	社会理論の整理・実践への示唆

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で適宜紹介する文献をできるだけ読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	社会学理論の基本的な概念や考え方についての理解度を試し、どれだけ現実の社会の理解に理論を活用する能力を習得しているのかによって評価する。

授業の理解度を知るために、特定のテーマが終わった段階ごとに、質問紙で質問を行う。こうした質疑への積極的な参加が望ましい。理解を深めるのに的確な質問をした受講生に対しては、評価を考慮する場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まじめな態度で受講して欲しい。授業ではレジメを配布するので、それを熟読し、参考文献にも目を通してもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新　睦人ほか　／有斐閣／4-641-08857-8／

テキストの他に授業では毎回レジメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シカゴ学派の社会学	中野正大・宝月誠／世界思想社　／4-7907-1029-7／

そのほか適宜、授業中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会経済学（S） § 社会経済学（W）

13273

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま日本では所得格差が広がっているといわれています。企業の業績は好調で、好景気もつづいているというのに不思議な話です。その原因は多くあるでしょう。雇用の多様化の中で進む賃金格差や、また教育格差がその直接的な原因のひとつだといっていいかも知れません。しかし、では、なぜ雇用が多様化するのでしょうか。そこには、グローバル化という大きな世界の動きがあります。また知識基盤型経済へと経済の仕組みが変わってきていることがあります。しかし、やはり根本的には、現在経済の舵をとっている経済の考え方が新自由主義的なそれであることに大きな原因があります。経済は、人が動かしている以上どのような考え方でいま経済の舵が取られているのかを考えることはきわめて重要です。本講義では、まずこうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念（言葉）、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような考え方で経済社会がこれまで動いてきたのか、また今動いているのかを考えてみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得（GDP、金融のメカニズムなど）
2）戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
3）現代経済社会に関する諸理論の確認

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済学
経済学理論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	経済空間の構造－資本と市場	資本の3形態、商品市場、金融市場、労働市場
2回目	企業と産業－株式会社	株式会社とは？産業分類
3回目	貨幣と金融－お金の話	貨幣の種類、銀行の役割、金融政策
4回目	国民経済計算の基礎－成長と所得	国民所得、3面等価、成長率
5回目	ケインズの経済学（1）－市場と政府	自由放任主義、エリート主義、国家介入主義
6回目	ケインズの経済学（2）－完全雇用	完全雇用、有効需要政策、財政・金融政策
7回目	戦後日本の蓄積構造と危機－経済と社会の変化	フォード主義的大量生産、消費社会、都市化、核家族
8回目	新自由主義の経済学（1）－市場原理主義と小さな政府	フォーディズムの危機、レーガニズム、規制緩和、民営茄
9回目	新自由主義の経済学（2）－自由と平等	機会の平等、成績主義、個人責任
10回目	グローバル化と経済	新自由主義的グローバル化、直接投資、新国際分業
11回目	所得格差の拡大－排除と貧困	ジニ係数、社会的排除、絶対的・相対的貧困
12回目	雇用の現状－雇用の多様化	正規・非正規労働、女性の労働力化、雇用格差
13回目	「第三の道」の経済学－包含の経済学	ギデンス、ステークホルダー資本主義、社会的包含
14回目	福祉と経済	効率と公正、ワークフェアー、トランポリンネット
15回目	まとめと総括	半年間の講義を振り返って。質問、アンケート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で、そのつど文献を指定するので、読んでおくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考査する
平常点評価	20 %	3～4回の出席をとり、それを点数に換算する。

講義は通して受講することが望ましい。したがって、適時出席をとる。定期試験80点プラス出席点20点＝100点で評価をする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメ、資料は講義での配布時に入手すること。
質問は、講義後に適時受け付ける。また、出席をとる際にも、記入欄を設けるので利用して欲しい。

教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民のための社会経済学	篠田等編／八千代書房／／
ケインズ	伊藤光晴／岩波新書／／
第三の道	ギデンズ・佐和隆光訳／日本経済新聞／／
もうひとつの日本は可能だ	内橋克人／光文社／／
人間回復の経済学	神野直彦／岩波新書／／

なお、上記の参考書以外にも、適時参考文献を講義中に知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.stat.go.jp（政府統計局の『日本統計年鑑』。国民経済計算、産業分類、金融統計など）
http://www.esri.go.jp（内閣府「国民生活白書』。国民生活に関する資料）
http://www.mhlw.go.jp（厚生労働省。雇用、福祉に関する資料） など。

その他 / Others

社会史 (S)

15560

担当者名 / Instructor　鈴木 栄樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:明治の文明開化と都市社会の諸相

日本の近代国家の形成過程は、同時に新たな近代都市の建設過程でもあった。それまでに形成されてきた都市社会は、近代国家の建設と資本主義経済の移植過程でどのように変貌していったのであろうか。講義では、ほぼ明治期を広い意味での文明開化の時期としてとらえ、主に京都を事例としつつ、適宜その他の都市にもふれながら、その都市化の過程にみられる特徴的な諸問題について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な問題を抱える現代日本の都市の生成過程について、とくに京都を事例として、その直接の起原にさかのぼり、歴史的な視点から考察する。その際、歴史のなかの様々な都市一般に共通する点と、建設期の日本の近代都市、とくに京都に見られる特徴とを意識的に比較考察する知的姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	近代化と都市化
2	幕末期の京都　1850年代～67年	京都の政治都市化、災害と戦火のなかの京都
3	明治初年の京都(1)　1868年～70年代半ば	天皇東幸(車駕東幸)、遷都と奠都
4	明治初年の京都(2)1860年代末～1888年頃	京都の文明開化、町組から番組へ、番組小学校の建営
5	明治初年の京都(3)1860年代末～1888年頃	京都の殖産興業、専門教育と実業教育、勧業場と舎密局
6	明治中期の京都(1)1880年代を中心に	琵琶湖疏水の開削、伝染病と衛生問題、交通と運輸
7	明治中期の京都(2)1890年代前半	市制特例下の京都市、平安遷都1100年記念祭、第4回内国勧業博覧会
8	明治中期の京都(3)1890年代後半	日清戦争、市制特例の撤廃、公同組合の設立
9	明治後期・大正初期の京都(1)	内地雑居と観光、都市と衛生
10	明治後期・大正初期の京都(2)	日露戦争と地域社会
11	明治後期・大正初期の京都(3)	三大事業の構想と実施、都市経営
12	明治期京都の都市問題	工業化、貧困、差別、衛生
13	明治期京都の娯楽と大衆文化	新京極、演劇と映画、百貨店、性文化
14	大正期の日本の都市と京都	工業化の進展、都市計画法、関東大震災
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講にあたっては、日本近代史全般についての概括的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能なように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述筆記試験。事前にある程度の示唆を与えるので、それに対して準備しておくことが望ましい。
平常点評価	20 %	随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。定期試験の評価を主としつつ、講義に対する積極性如何を加味して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ノートのとり方に工夫を心がけてほしい。板書を機械的に写すだけのノートでは意味がない。黒板のスペースは限られているが、ノートは十分なスペースがあるのだから、口頭で述べたこと、あるいは自分で調べたことなどを書き加えたりするなど、オリジナルノートを作成してもらいたい。また、歴史は現代的な関心から学びとられるものであるから、常に現代の国内外の動きと関わらせながら自分なりの問題関心を培ってほしい。

教科書 / Textbooks

特になし。随時プリントにて配布

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
みやこの近代	丸山宏編・伊從勉編・高木博志編／思文閣出版／978-4-7842-1378-8／2008年3月刊

鈴木の論文も収録

近代京都の改造―都市経営の起源1850～1918年―　伊藤之雄編著／ミネルヴァ書房／4-623-04517-X／2006年4月刊、鈴木の論文も収録

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://web.mac.com/hikonyan070424/Shakaishi/TOPPAGE.html
本講義関係のサイト
http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/index.html
京都市歴史資料館情報提供システム　フィールド・ミュージアム京都
http://www.pref.kyoto.jp/archives/
京都北山アーカイブズ

その他 / Others

社会調査論（S） § 社会調査論（S）

13331

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会統計学、計量社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会学と社会調査： 社会調査とは・社会調査の歴史	社会調査
2	社会調査の種類と特徴(1)： 量的調査、質的調査	調査票法、観察法、自由面接法
3	社会調査の種類と特徴(2)： 量的調査、質的調査	調査票法
4	社会調査の手順： 社会調査の一般的手順・調査の倫理	調査倫理、仮説
5	社会調査と理論(1)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
6	社会調査と理論(2)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
7	標本調査の考え方：サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論	サンプリング
8	標本調査の考え方：サンプリングの方法(2)　無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法
9	標本調査と標本誤差： 標本誤差と非標本誤差・推定の精度	標本誤差、非標本誤差、推定
10	調査票の作成： 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	調査票、ワーディング
11	コーディング： データの整理とチェック・エディティング・コーディング	エディティング、コーディング
12	調査票の集計： データの記述： データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	基礎統計量
13	データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション	クロス表、エラボレーション
14	データの分析(2) 結果の公表　2変量の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成	相関係数、疑似相関、調査研究例、調査倫理
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	試験は「持ち込み不可」です。 簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することを勧めます。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

授業中配布のプリントに記載します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会統計学（S） § 社会統計学（S）

13453

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

統計学の基本的な概念と方法について、説明することができる。
記述統計と推測統計の基本的方法を用いて、調査データの要約、推定、統計的仮説検定を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校レベルの基礎的数学（Σ記号を使った演算、順列・組合せ・確率、微積分の基礎）の知識を前提とするが、簡単に復習しながら進める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	統計データとは、統計的方法とは	統計データ、統計的方法、統計変量、記述統計、推測統計
第2回目	比率と指数	変化率、寄与度・寄与率、指数
第3回目	分布とその特性	度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度
第4回目	相関	相関関係、相関係数
第5回目	回帰	回帰分析、独立変数、従属変数、最小2乗法
第6回目	確率の基礎	順列、組み合わせ、確率、条件付確率、ベイズの定理
第7回目	確率変数と分布	確率変数、確率分布、期待値、分散、2項分布、正規分布
第8回目	母集団と標本、標本調査法	母集団、標本、サンプリング、ランダムサンプリング
第9回目	統計量の標本分布（1）	統計量、母数、標本分布、標本平均の分布
第10回目	統計量の標本分布（2）	大数の法則、中心極限定理
第11回目	統計的推定（1）	点推定、区間推定、良い推定量の基準、信頼区間、母平均の推定、t分布
第12回目	統計的推定（2）	母比率の推定、母平均の差の推定
第13回目	統計的検定（1）	仮説検定、有意水準、第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、母平均・母比率の検定
第14回目	統計的検定（2）	平均値の差の検定
第15回目	クロス集計表とその検定	クロス集計表、カイ2乗分布、適合度検定、独立性の検定

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回の授業内容を必ず復習すること。課題を解きながら考えると理解が深まる。
またEXCELの関数が使える者は、パソコンでも課題を解いて確認してみるとさらによい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	統計学の基本的概念の理解度、基本的方法を使ったデータの分析力をみる。
平常点評価	40 %	ほぼ毎回の授業で復習のための簡単な課題（宿題）を課す。課題の提出状況を平常点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計学は積み立て型の科目なので、遅刻・欠席をすると授業についていくことが困難になります。授業への出席と課題提出は必須です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる統計学 Ⅰ 基礎編	金子治平・上藤一郎編／ミネルヴァ書房／978-4-623-04926-4／教科書に沿って講義を行う

講義は教科書に沿って進める。教科書の説明を補うためにプリントを随時配布する。教科書の練習問題も授業・課題で利用・解説するので、開講までに必ず入手しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・涙なしの統計学	D.ロウントリー／新世社／4-88384-035-2／数式をほとんど使っていないので、数学が苦手な人には読みやすい
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室編／東京大学出版会／4-13-042065-8／入門と書いてあるが、やや高度な内容も含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

電卓を使って練習問題を解くので、毎回の授業に√の計算のできる電卓を必ず持ってきてください。

社会福祉援助技術現場実習（SA） §　社会福祉援助技術現場実習（SG）

20334

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

社会福祉援助技術実習指導I」および「社会福祉援助技術実習指導II」を通じて配属された施設・機関において180時間以上の実習を行う。実習は、夏に集中で行うが、実習先の都合等により後期セメスターに行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

1．社会福祉現場での実習を通して、人や地域が直面している個々の問題について具体的に理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。
2．人や地域が直面している社会問題に対処するために社会福祉士として必要な知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」「社会福祉援助技術実習指導II」の履修は必須である。
また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SC） §　社会福祉援助技術現場実習（SC）

20336

担当者名 / Instructor　井上 公子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」および「社会福祉援助技術実習指導II」を通じて配属された施設・機関において180時間以上の実習を行う。実習は、夏に集中で行うが、実習先の都合等により後期セメスターに行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

1．社会福祉現場での実習を通して、人や地域が直面している個々の問題について具体的に理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。

2．人や地域が直面している社会問題に対処するために社会福祉士として必要な知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」「社会福祉援助技術実習指導II」の履修は必須である。

また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SD）

20337

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」および「社会福祉援助技術実習指導II」を通じて配属された施設・機関において180時間以上の実習を行う。実習は、夏に集中で行うが、実習先の都合等により後期セメスターに行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

1．社会福祉現場での実習を通して、人や地域が直面している個々の問題について具体的に理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。

2．人や地域が直面している社会問題に対処するために社会福祉士として必要な知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」「社会福祉援助技術実習指導II」の履修は必須である。
また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SE）

20338

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」および「社会福祉援助技術実習指導II」を通じて配属された施設・機関において180時間以上の実習を行う。実習は、夏に集中で行うが、実習先の都合等により後期セメスターに行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

1．社会福祉現場での実習を通して、人や地域が直面している個々の問題について具体的に理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。

2．人や地域が直面している社会問題に対処するために社会福祉士として必要な知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」「社会福祉援助技術実習指導II」の履修は必須である。

また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SF）

20331

担当者名 / Instructor　山田 尋志

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」および「社会福祉援助技術実習指導II」を通じて配属された施設・機関において180時間以上の実習を行う。実習は、夏に集中で行うが、実習先の都合等により後期セメスターに行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

1．社会福祉現場での実習を通して、人や地域が直面している個々の問題について具体的に理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。

2．人や地域が直面している社会問題に対処するために社会福祉士として必要な知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」「社会福祉援助技術実習指導II」の履修は必須である。

また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SG）

20332

担当者名 / Instructor　池添 素

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」および「社会福祉援助技術実習指導II」を通じて配属された施設・機関において180時間以上の実習を行う。実習は、夏に集中で行うが、実習先の都合等により後期セメスターに行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

1．社会福祉現場での実習を通して、人や地域が直面している個々の問題について具体的に理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。

2．人や地域が直面している社会問題に対処するために社会福祉士として必要な知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」「社会福祉援助技術実習指導II」の履修は必須である。
また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SH）

20333

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」および「社会福祉援助技術実習指導II」を通じて配属された施設・機関において180時間以上の実習を行う。実習は、夏に集中で行うが、実習先の都合等により後期セメスターに行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

1．社会福祉現場での実習を通して、人や地域が直面している個々の問題について具体的に理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。

2．人や地域が直面している社会問題に対処するために社会福祉士として必要な知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」「社会福祉援助技術実習指導II」の履修は必須である。

また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導I（S）　§　社会福祉援助技術実習指導I（SG）

12793

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格を取得するために履修しなければならない実習関連科目〔「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」（2年次後期）、「社会福祉援助技術現場実習」（3年次前期）、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」（3年次前期）、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」（3年次後期）、「社会福祉援助技術演習・人間福祉演習」（3年次通年）〕のひとつとして、社会福祉現場とその利用者についての理解を深めることをめざす。同時に、社会福祉援助技術現場実習に向けた問題意識を明確にしつつ、社会福祉現場実習に関する諸課題の整理を行って、現場実習を行う「領域」とともに実習施設、実習機関等を決定する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と意義について理解する。
2. 社会福祉援助技術現場実習を履修するための必要な手続きや準備等について理解する。
3. 社会福祉のさまざまな現場についての概要と利用者の状況について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の必須科目をできるだけ履修することが望ましい。特に、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	授業の概要と導入	
第2講	社会福祉現場についての基礎的理解①	
第3講	社会福祉現場についての基礎的理解②	
第4講	社会福祉現場についての基礎的理解③	
第5講	社会福祉現場についての基礎的理解④	
第6講	社会福祉現場についての基礎的理解⑤	
第7講	課題についてのグループ討議①	
第8講	課題についてのグループ討議②	
第9講	課題についてのグループ討議③	
第10講	実習先の決定方法	
第11講	実習先決定にむけて①	
第12講	実習先決定にむけて②	
第13講	実習先決定にむけて③	
第14講	実習報告会	
第15講	ふりかえり	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを課す。レポートでは理解の深さ、客観性、論理性について評価する。また、授業への参加度も評価する。

日常点評価は、ガイダンスや授業への出席、レポート等必要書類の提出をもって厳しく行う。
欠席1回1点、遅刻0.5点、提出なし1点、提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ソーシャルワーク実習	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SA）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SA）

13052

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「人間福祉演習III」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」が効果的に行えるように準備を行う。実習の意義や目的を再確認するとともに、実習計画をたて、実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習施設・機関の機能、役割、体制、現状と課題、利用者とその状況等について事前学習することで、実習中により深く理解できるように準備する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について明確にする。
2. 実習施設・機関に関連する社会福祉制度・政策、関連する社会資源等についての知識をもつ。
3. 実習施設・機関の理念、機能、組織構造、業務内容について理解する。
4. 実習施設・機関の利用者・家族・地域について理解する。
5. 社会福祉士となるために自分に必要なことは何かを理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」の履修は必須である。
また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを課す。レポートでは理解の深さ、客観性、論理性について評価する。また、授業への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SC）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SC）

13054

担当者名 / Instructor　井上 公子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「人間福祉演習III」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」が効果的に行えるように準備を行う。実習の意義や目的を再確認するとともに、実習計画をたて、実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習施設・機関の機能、役割、体制、現状と課題、利用者とその状況等について事前学習することで、実習中により深く理解できるように準備する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について明確にする。
2. 実習施設・機関に関連する社会福祉制度・政策、関連する社会資源等についての知識をもつ。
3. 実習施設・機関の理念、機能、組織構造、業務内容について理解する。
4. 実習施設・機関の利用者・家族・地域について理解する。
5. 社会福祉士となるために自分に必要なことは何かを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」の履修は必須である。
また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを課す。レポートでは理解の深さ、客観性、論理性について評価する。また、授業への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SD）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SD）

13055

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「人間福祉演習III」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」が効果的に行えるように準備を行う。実習の意義や目的を再確認するとともに、実習計画をたて、実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習施設・機関の機能、役割、体制、現状と課題、利用者とその状況等について事前学習することで、実習中により深く理解できるように準備する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について明確にする。
2. 実習施設・機関に関連する社会福祉制度・政策、関連する社会資源等についての知識をもつ。
3. 実習施設・機関の理念、機能、組織構造、業務内容について理解する。
4. 実習施設・機関の利用者・家族・地域について理解する。
5. 社会福祉士となるために自分に必要なことは何かを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」の履修は必須である。
また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを課す。レポートでは理解の深さ、客観性、論理性について評価する。また、授業への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣　／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SE）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SE）

13056

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「人間福祉演習III」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」が効果的に行えるように準備を行う。実習の意義や目的を再確認するとともに、実習計画をたて、実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習施設・機関の機能、役割、体制、現状と課題、利用者とその状況等について事前学習することで、実習中により深く理解できるように準備する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について明確にする。
2. 実習施設・機関に関連する社会福祉制度・政策、関連する社会資源等についての知識をもつ。
3. 実習施設・機関の理念、機能、組織構造、業務内容について理解する。
4. 実習施設・機関の利用者・家族・地域について理解する。
5. 社会福祉士となるために自分に必要なことは何かを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」の履修は必須である。
また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを課す。レポートでは理解の深さ、客観性、論理性について評価する。また、授業への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他　／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ（SF）　§　社会福祉援助技術実習指導Ⅱ（SF）

13057

担当者名 / Instructor　山田 尋志

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した内容とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、実習によって十分な成果が得られるための必要な準備を行う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解（1）	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解（2）	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解（3）	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解（4）	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解（5）	
第7回	課題についてのグループ討議（1）	
第8回	課題についてのグループ討議（2）	
第9回	課題についてのグループ討議（3）	
第10回	課題についてのグループ討議（4）	
第11回	課題についてのグループ討議（5）	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング（1）	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング（2）	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング（3）	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング（4）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。
・4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。
・実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。
・出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SG）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SG）

13058

担当者名 / Instructor　池添 素

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した内容とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、実習によって十分な成果が得られるための必要な準備を行う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解（1）	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解（2）	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解（3）	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解（4）	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解（5）	
第7回	課題についてのグループ討議（1）	
第8回	課題についてのグループ討議（2）	
第9回	課題についてのグループ討議（3）	
第10回	課題についてのグループ討議（4）	
第11回	課題についてのグループ討議（5）	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング（1）	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング（2）	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング（3）	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング（4）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。
・4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。
・実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。
・出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SH）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SH）

13059

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「人間福祉演習III」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」が効果的に行えるように準備を行う。実習の意義や目的を再確認するとともに、実習計画をたて、実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習施設・機関の機能、役割、体制、現状と課題、利用者とその状況等について事前学習することで、実習中により深く理解できるように準備する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について明確にする。
2. 実習施設・機関に関連する社会福祉制度・政策、関連する社会資源等についての知識をもつ。
3. 実習施設・機関の理念、機能、組織構造、業務内容について理解する。
4. 実習施設・機関の利用者・家族・地域について理解する。
5. 社会福祉士となるために自分に必要なことは何かを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」の履修は必須である。
また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	
2	事前学習①	
3	事前学習②	
4	事前学習③	
5	事前学習④	
6	事前学習⑤	
7	実習計画①	
8	実習計画②	
9	実習計画③	
10	実習懇談会	
11	実習計画④	
12	事前学習⑤	
13	実習直前準備①	
14	実習直前準備②	
15	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを課す。レポートでは理解の深さ、客観性、論理性について評価する。また、授業への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SA）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SA）

13082

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「人間福祉演習III」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習を行う。実習体験についてクラスで報告しフィードバックをうけることを通して、利用者や現場の状況、実践のあり方・方法、社会制度や政策との関わり、自らの課題などについて理解を深める。また、実習の目標と計画がどの程度達成できたか、その成果は何か、また今後取り組むことが必要なことは何かを検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 実習で関わった分野、施設・機関、人・組織・地域の現状と課題について具体的に述べることができる。
2. 実習先で見聞した課題について、社会福祉士がとるべき具体的・実際的・倫理的な対処方法を述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術現場実習」の履修は必須である。また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	
2	実習報告①	
3	実習報告②	
4	実習報告③	
5	実習報告④	
6	実習報告⑤	
7	中間報告会①	
8	中間報告会②	
9	課題についてのグループプロジェクト①	
10	課題についてのグループプロジェクト②	
11	課題についてのグループプロジェクト③	
12	実習報告書④	
13	実習報告書⑤	
14	実習総括報告会	
15	ふりかえり	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを課す。レポートでは理解の深さ、客観性、論理性について評価する。また、授業への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SC）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SC）

13084

担当者名 / Instructor　井上 公子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告（1）	
第3回	実習報告（2）	
第4回	実習報告（3）	
第5回	実習報告（4）	
第6回	課題についての合同クラス報告（1）	
第7回	課題についての合同クラス報告（2）	
第8回	課題についての合同クラス報告（3）	
第9回	課題についての合同クラス報告（4）	
第10回	実習報告会の事前討議（1）	
第11回	実習報告会の事前討議（2）	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成（1）	
第14回	報告書作成（2）	
第15回	実習総括討議（シンポジウム開催）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SD）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SD）

13085

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告（1）	
第3回	実習報告（2）	
第4回	実習報告（3）	
第5回	実習報告（4）	
第6回	課題についての合同クラス報告（1）	
第7回	課題についての合同クラス報告（2）	
第8回	課題についての合同クラス報告（3）	
第9回	課題についての合同クラス報告（4）	
第10回	実習報告会の事前討議（1）	
第11回	実習報告会の事前討議（2）	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成（1）	
第14回	報告書作成（2）	
第15回	実習総括討議（シンポジウム開催）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SE）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SE）

13086

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「人間福祉演習III」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習を行う。実習体験についてクラスで報告しフィードバックをうけることを通して、利用者や現場の状況、実践のあり方・方法、社会制度や政策との関わり、自らの課題などについて理解を深める。また、実習の目標と計画がどの程度達成できたか、その成果は何か、また今後取り組むことが必要なことは何かを検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 実習で関わった分野、施設・機関、人・組織・地域の現状と課題について具体的に述べることができる。
2. 実習先で見聞した課題について、社会福祉士がとるべき具体的・実際的・倫理的な対処方法を述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術現場実習」の履修は必須である。また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	
2	実習報告①	
3	実習報告②	
4	実習報告③	
5	実習報告④	
6	実習報告⑤	
7	中間報告会①	
8	中間報告会②	
9	課題についてのグループプロジェクト①	
10	課題についてのグループプロジェクト②	
11	課題についてのグループプロジェクト③	
12	実習報告書④	
13	実習報告書⑤	
14	実習総括報告会	
15	ふりかえり	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを課す。レポートでは理解の深さ、客観性、論理性について評価する。また、授業への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SF）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SF）

13087

担当者名 / Instructor　山田 尋志

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告（1）	
第3回	実習報告（2）	
第4回	実習報告（3）	
第5回	実習報告（4）	
第6回	課題についての合同クラス報告（1）	
第7回	課題についての合同クラス報告（2）	
第8回	課題についての合同クラス報告（3）	
第9回	課題についての合同クラス報告（4）	
第10回	実習報告会の事前討議（1）	
第11回	実習報告会の事前討議（2）	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成（1）	
第14回	報告書作成（2）	
第15回	実習総括討議（シンポジウム開催）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SG）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SG）

13088

担当者名 / Instructor　池添 素

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告（1）	
第3回	実習報告（2）	
第4回	実習報告（3）	
第5回	実習報告（4）	
第6回	課題についての合同クラス報告（1）	
第7回	課題についての合同クラス報告（2）	
第8回	課題についての合同クラス報告（3）	
第9回	課題についての合同クラス報告（4）	
第10回	実習報告会の事前討議（1）	
第11回	実習報告会の事前討議（2）	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成（1）	
第14回	報告書作成（2）	
第15回	実習総括討議（シンポジウム開催）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SH）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SH）

13089

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「人間福祉演習III」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習を行う。実習体験についてクラスで報告しフィードバックをうけることを通して、利用者や現場の状況、実践のあり方・方法、社会制度や政策との関わり、自らの課題などについて理解を深める。また、実習の目標と計画がどの程度達成できたか、その成果は何か、また今後取り組むことが必要なことは何かを検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 実習で関わった分野、施設・機関、人・組織・地域の現状と課題について具体的に述べることができる。
2. 実習先で見聞した課題について、社会福祉士がとるべき具体的・実際的・倫理的な対処方法を述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術現場実習」の履修は必須である。また、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	
2	実習報告①	
3	実習報告②	
4	実習報告③	
5	実習報告④	
6	実習報告⑤	
7	中間報告会①	
8	中間報告会②	
9	課題についてのグループプロジェクト①	
10	課題についてのグループプロジェクト②	
11	課題についてのグループプロジェクト③	
12	実習報告書④	
13	実習報告書⑤	
14	実習総括報告会	
15	ふりかえり	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを課す。レポートでは理解の深さ、客観性、論理性について評価する。また、授業への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術論（S） § 社会福祉援助技術論I（S） § 社会福祉援助技術論I（SG） § 社会福祉援助技術論（SG） 13245

担当者名 / Instructor　小川 栄二　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉活動（ソーシャルワーク）の総括原理を以下の内容で講義する。社会福祉活動（ソーシャルワーク）の対象である対人援助課題、社会福祉課題、生活問題の現実と出現経路を学び、公的社会福祉制度と社会福祉活動（ソーシャルワーク）との必要性を学ぶ。社会福祉活動（ソーシャルワーク）の概要・体系と社会福祉制度と社会福祉活動（ソーシャルワーク）の関係を学ぶ。社会福祉活動（ソーシャルワーク）展開、関連する方法・技法の基本的な知識と社会福祉援助活動の共通課題を学ぶ。社会福祉活動の場・従事者の実情を学。社会福祉活動の構造を国民生活の状況、改善を求めるイニシアティブ、国家による制度の関係を学ぶ。社会福祉従事者の現状と倫理を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉活動の対象となる国民生活問題を理解する。社会福祉活動の原理と構造を理解する。社会福祉活動の基礎的知識と理論を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、社会福祉六法に関する各福祉論（公的扶助論、老人福祉論など）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	①授業の概要と導入　②社会福祉援助活動を理解するための事例――対人援助課題	「社会福祉援助技術」という用語、生活上の困難性、社会福祉援助
2	社会福祉援助活動を理解するための視点(1)――事例から生活問題の具体的把握へ	生活問題
3	社会福祉援助活動を理解するための視点(2)――生活問題に対応する社会福祉活動具体的把握	生活問題の要因、生活の全体性、生活問題の出現経路、社会福祉課題
4	社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応	生活問題の発生、危機、生活の再設計、児童期の社会的養護、生活障害、在宅ケア、施設ケア、ネットワーク、地域、ボランティア、ターミナル
5	社会福祉が行なわれる「場」・制度・人材	「場」の考え方、社会福祉機関、社会福祉施設、社会福祉活動、社会福祉従事者
6	社会福祉活動の「レパートリー」(1)	三大技術、三大分類、レパートリー、ケースワーク、グループワーク、カウンセリング
7	社会福祉活動の「レパートリー」(2)	グループワーク、、コミュニティワーク、ソーシャルリサーチ、プラニング、ネットワーキング
8	社会福祉活動の「レパートリー」(3)	アドミニストション、スーパビジョン、コンサルテーション、ソーシャルアクション
9	社会福祉活動の歴史と理論(1)	救済、本源的蓄積、救貧法、産業革命、資本性社会、貧困、慈善事業、ソーシャルワーク、COS、セツルメント、恐慌、リッチモンド、ソーシャルワーク学校、
10	社会福祉活動の歴史と理論(2)	ミルフォード会議、統合化、世界恐慌、ニューディール、社会保障、診断主義、機能主義、折衷主義、ベヴァリッジ報告、福祉国家、
11	社会福祉活動の歴史と理論(3)	貧困の再発見、エンパワメント、多様なモデル・アプローチ、ジェネリック志向、エコロジカルシステム、生活モデル
12	日本の社会福祉活動(1)	第二次大戦、GHQ、日本国憲法、社会福祉事業法、社会福祉論争、社会福祉主事、5法ワーカー、専門職
13	日本の社会福祉活動(1)	福祉見直し、多元化、専門職制度、ケアマネジメント、社会福祉基礎構造改革
14	社会福祉「援助」と「技術」	社会福祉の方法、社会福祉の主体、社会福祉の三元構造、社会福祉従事者の倫理、社会福祉労働
15		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	筆記試験による。
平常点評価	20 %	随時の提出物、コミュニケーションペーパによる。

・ソーシャルワーク歴史と理論の概要を問う

・社会福祉課題の基本的性格と社会的対応としての社会福祉活動についての理解がなされているかを問う。
・随時のコミュニケーションペーパにより、社会福祉課題についての問題関心の涵養を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現実の社会福祉課題を知り、いかに対応すべきなのか、個人・家族、地域・自治体、国家の各レベルで主体的に考察してください。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。参考書参照のこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉方法原論	植田章・岡村正幸・結城俊哉／法律文化社／／
新・社会福祉士養成テキストブック2社会福祉援助技術論　上	北島英治／ミネルヴァ書房／／
社会福祉援助技術論Ⅰ	福祉士養成講座編集委員会／中央法規／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ソーシャルワーク論（S） § 社会福祉援助技術論II（S） § 社会福祉援助技術論II（SG） § ソーシャルワーク論（SG）　13249

担当者名 / Instructor　岡田 まり　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会福祉援助（ソーシャルワーク）に必要な専門性の礎を築くことである。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方や、実践に必要な理論や専門技術などについてである。ソーシャルワークは、個人から地域、政策までさまざまなレベルで展開されているが、本講義ではソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、グループへの支援に焦点をあてて学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

・ソーシャルワークの専門性と役割について説明できる。
・ソーシャルワーク実践のプロセスと方法について述べることができる。
・ソーシャルワーカーが常に遵守しなければならないことを述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目を可能なかぎり履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークとは	定義、目的、目標、方法
第2回	ソーシャルワークの分野・領域	事例、専門性
第3回	相談援助とは （テキスト第1章）	構成要素、専門職、実践領域、対象とする社会問題、介入の単位
第4回	相談援助の構造と機能（テキスト第2、3章）	視点、基本的な考え方、役割・機能
第5回	援助関係（テキスト第4章）	原則、機能・役割、自己覚知
第6回	援助の展開課程I（テキスト第5章）	インテーク、アセスメント、計画
第7回	援助の展開課程II（テキスト第6章）	モニタリング、評価、開発
第8回	アウトリーチ、契約（テキスト第7，8章）	アウトリーチ、契約
第9回	アセスメント （テキスト第9章）	援助関係、面接、情報
第10回	介入（テキスト第10章）	方法、理論、レパートリー
第11回	モニタリング、評価（テキスト第11章）	モニタリング、再アセスメント、効果測定、サービス開発
第12回	面接（テキスト第12章）	面接の形態、コミュニケーション・スキル
第13回	記録（テキスト第13章）	記録の目的、種類、方法
第14回	交渉、スーパービジョン（テキスト第14章）	交渉、エンパワメント、スーパービジョンの種類と方法
第15回	確認テスト（60分）と解説（30分）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業内容について理解し、自分の言葉で説明できるか、また、それらの内容を課題の事例において活用できるかを評価する。 ミニ課題およびコミュニケーション・ペーパーによって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中には講義だけでなく演習を行うこともあるので主体的な参加が重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新・社会福祉士養成講座7　相談援助の理論と方法I』	社会福祉士養成講座編集委員会編／中央法規／978-4-8058-3107-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会　http://www.jacsw.or.jp/

その他 / Others

コミュニティケア論（S） § 社会福祉援助技術論III（SG） § 社会福祉援助技術論III（S） § コミュニティケア論（SG）

15503

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、近年注目されているコミュニティ・ケアについて、歴史、方法、政策と課題の各方面から概要を解説する。広くは地域福祉論の一環でもあるが、対人的「ケア」と地域での展開に焦点を置いて、ケアマネジメント、資源とネットワーキング、地域に密着した課題を考察する。近年導入されたケアマネジメント、2006から実施された、改正介護保険法、障害者自立支援法、2008からスタート予定の後期高齢者医療制度も視野に入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

「ケア」「コミュニティ」の概念の検討の上で、地域でのケアのを必要とする人々が地域で暮らす上で持つ生活の困難性を理解する。「コミュニティケア」が政策的に登場した経過と背景を理解し、介護保険制度、障害者自律支援法などにおける地域ケアを検討する。地域からの住民の共同によるケアのありかたを、対人援助、地域活動、自治体の政策の各面から検討する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

介護概論　地域福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入／ケアをめぐる事件	
2	「コミュニティケア」と「ケア」の考え方	コミュニティ、地域、在宅、ネットワーク、共同、くらし
3	「コミュニティケア」と「ケア」の考え方	看護・介護・社会福祉、ケアの思想
4	コミュニティケア政策の生成	グリフィス報告、コミュニティケア法、ケアマネジメント
5	コミュニティケア政策の日本での展開(1)1970年代～1980年代	コミュニティ政策、在宅福祉政策、社会的入院
6	コミュニティケア政策の日本での展開(2)1990年代	社会福祉基礎構造改革、介護保険制度、サービス制限、2006年改定、後期高齢者医療
7	ケアマネジメントの実際(1)介護保険制度の仕組	保険、財源、要介護認定
8	ケアマネジメントの実際(2)ケアマネジメントの考え方	インテーク、アセスメント、ケアプラン、ケアパッケージ、モニタリング
9	ケアマネジメントの実際(3)介護保険制度下でのケアマネジメント	ケアプラン、区分支給限度額、介護報酬、地域ケア会議
10	障害者自立支援法と障害者ケア	支援費制度、自立支援法、見直し
11	障害者と地域生活――ゲストスピーカーによる現状紹介	
12	高齢者を地域で支える①「ケア」を必要とする高齢者・障害者・住民の状態	高齢者像、援助拒否、孤立、潜在化
13	高齢者を地域で支える②ゲストスピーカーによる地域活動	
14	コミュニティケアの課題	在宅、地域、共同
15	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	0 %	。
平常点評価	100 %	検証テストを行う。コミュニティケアの政策と課題の理解を問う コミュニケーションペーパなどにより問題関心の涵養をみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生への学習に関するアドバイス / Educational advice for enrolled students

コミュニティケアと今日政策的焦点である小地域密着型の高齢者施策展開、障害者の地域支援活動に関心を払い、日常的に現実を把握するよう努めてください。

教科書 / Textbooks

指定しない。

参考書 / Reference Books

参考書は授業中に随時紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉計画論（S） § 社会福祉援助技術論IV（SG） § 社会福祉援助技術論IV（S） § 福祉計画論（SG）

15502

担当者名 / Instructor　岡田 まり　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ソーシャルワーク論の続編である。ミクロレベルでの実践（個人、家族、グループへの支援）の意義と方法を踏まえたうえで、プログラムを開発したり、地域社会によりよい変化をもたらすマクロレベルでの実践において重要となる計画に焦点をあてる。実際の計画を例として取り上げながら、計画の意義と目的について理解できるようにするとともに、モデルや理論に基づいて計画策定を行うための基礎的な知識と技術を習得することをめざす。そして、生活問題の解決・発生予防のためには、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることを認識し、状況に応じて適切な援助技術を選んで活用する力をつけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・計画の意義と重要性について自分の言葉で説明できる。
・計画策定・実施・評価のプロセスと方法およびその留意点について説明できる。
・行政や民間団体が策定した計画およびその実施について、短所と長所を指摘できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ソーシャルワーク論を事前に履修しておくことが望ましい。また、社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修しておくことが、本科目での理解を深めるのに役立つ。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークのマクロレベルでの実践とは	プログラム開発、地域介入
第2回	計画とは①	意義と目的、プロセス
第3回	計画とは②	ゴールドプラン、エンゼルプラン、障害者プラン、高齢者保健福祉計画、地域福祉計画
第4回	計画のモデル	PRECEDE-PROCEED モデル、MIDORI モデル
第5回	アセスメント①	生活の質、生活課題
第6回	アセスメント②	行動、環境
第7回	アセスメント③	準備因子
第8回	アセスメント④	強化因子、実現因子
第9回	アセスメント⑤	組織、プログラム、政策
第10回	計画策定	実施主体、対象、目標と課題、内容、予算
第11回	計画実施	計画実施の留意点、モニタリング
第12回	評価	経過評価、影響評価、結果評価
第13回	計画策定の実際	住民参画、行政の役割、専門職の役割
第14回	自分の町の計画	社会資源、市町村
第15回	確認テスト（60分）と解説（30分）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業前に指定の文献・HPを必ず読んでくること。授業は、受講生がそれらを読んだことを前提として行う。
課題レポートは、受講生が生活する地域について、①地域の概要、②関心のある福祉領域に関する社会資源、③地方自治体が行っている計画についての批評、の3点をまとめたものであり、その作成のためには役所や図書館などを訪問する必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業で取り上げた内容について理解し、自分の言葉で説明することができるか、また、それらの内容を実際に活用できるかを評価する。 課題レポートおよびコミュニケーション・ペーパーをとおして、理解が深まっているか確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、講義だけでなくグループ演習も行うので、主体的な参加が重要。

教科書 / Textbooks

授業時にレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
実践ヘルスプロモーション：PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価	ローレンス W.グリーン・マーシャルW.クロイター著、神馬征峰訳／医学書院／4-260-00171-X／本書より参考となる部分をコピーして配布する予定。

ソーシャルワーク実践とシステム	黒木保博・小林良二・坂田周一・森本佳樹編／有斐閣／4-641-05527-0／2章および3章を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会　http://www.jacsw.or.jp/
国際ソーシャルワーカー連盟　http://www1.ifsw.org/
厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

社会福祉概論（S） § 社会福祉論（S） § 社会福祉原論（SG）

13248

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉サービスは、今日では私たちが地域で生活していく中で必要不可欠な社会サービスとなっている。しかし、必ずしもそのことが市民や学生の皆さんの常識とはなっていない。講義では、社会の歴史的な変化の中で社会福祉サービスがしめる位置とその役割を具体的な事例を通して確認する作業を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

社会の中での社会福祉サービスの位置とその役割について理解する。社会福祉制度の形成と変動の構造について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入：本講義でのねらいや受講の心得について説明する	
2	人間社会のなかでの福祉的営みの意義を考える	ボノボ、共同社会、学習、遺伝
3	家族と地域社会における共同関係と資本主義の発展にともなう変容	合掌造り、複合家族、直系家族、核家族
4	家族・地域社会における共同性の歴史から社会福祉形成の歴史的前提を考える	資本主義、労働力の商品化、国・地方自治体
5	大学生のあなたは次の質問に正確に回答できますか？義務教育で社会保障について何を学んだか？	出産手当、育児手当、医療保障、老後保障、障害者福祉、スウェーデンの教科書
6	社会福祉問題の現代的広がり～児童・青少年問題の今～	児童相談所、家庭裁判所調査官
7	認知症の人と向き合う	痴呆、認知症、デイケア
8	当事者が語る若年認知症の世界	若年認知症、スティグマ、残存能力、ケアパートナー
9	地域福祉と権利擁護の課題	消費者被害、一人暮らし、悪質商法、地域福祉権利擁護事業、成年後見人、消費生活センター
10	社会福祉援助が必要となる場面での自己と他者関係	ミード、Iとme、社会統制、自我意識の獲得
11	ワーキングプア	働く女性、地場産業の崩壊、働く高齢者、貧困の世代連鎖
12	格差拡大社会と社会福祉	非正規雇用、失業率、生活保護率、共働き、就学援助、就労支援、ワーク・ライフバランス、貧困の世代的再生産
13	高次脳機能障害の世界	交通事故、もやもや病、だまされる脳、記憶障害、認知機能障害
14	社会福祉の現実と制度の「目標・理念」からの乖離	慈善事業、サービス業、三元構造、対象化された対象、社会福祉法人、社会福祉基礎構造改革
15	まとめと試験	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

社会福祉、国民の暮らしにかかわるテレビで放送されるニュース、ドクメンタリー、ドラマに注目してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度
平常点評価	20 %	授業の出席

遅刻・欠席は出来るだけ避けてほしい。講義ではビデオを多く観るが、これが講義のポイントの理解を助ける重要な教材と考えているし、課題で出すテーマもビデオに関係させて出すことが多い。遅刻したり欠席するとその肝心のところの理解がおろそかになることを覚悟してほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義に出席し毎回提出する課題を考察する小レポートに取り組むことで、考える力をつけてほしい。大学での勉強はあらかじめ明確なっている問題の答えを覚えることではなく、課題を発見し自ら考察して自分の力で答えをみつけることにあることを理解してほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使わない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『福祉のひろば』	総合社会福祉研究所／かもがわ出版／／福祉の新鮮な情報が満載の月刊誌
『社会福祉辞典』	／大月書店／／基礎用語の学習に役立つ
『現場がつくるあたらしい社会福祉』	石倉ほか／かもがわ出版／978-4-7803-0229-5c0036／新し社会福祉の構築について述べる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/index.html　認知症の人と家族の会：http://www2f.biglobe.ne.jp/~boke/boke2.htm　日本障害者センター：http://shogaisha.jp/　総合社会福祉研究所：http://www.jfast1.net/~sosyaken/　保育研究所：http://www.hoiku-zenhoren.org/kenkai/index.html　全国老人福祉問題研究会：http://members3.jcom.home.ne.jp/0376228901/romonken/　全国障害者問題研究会：http://www.nginet.or.jp/　全国児童養護問題研究会：http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/

その他 / Others

社会保障論（S） § 社会保障論（SG）

15467

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会保障の総論と各論を区分し、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。
(1) 社会保障制度総論：①社会保障制度の理念・概念・対象、社会保障制度の体系(社会保険、公的扶助、公衆衛生・医療、社会保障関連制度)、③社会保障の機能(生存権･最低生活の制度的保障(ナショナル・ミニマムの保障)、所得再分配、生活と経済の安定化、社会的統合)、④社会保障財源
(2) 社会保障制度各論：①年金制度、②医療保険制度。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は現在の日本の社会保障制度を体系的に把握し、その現代的課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。
(1) 必要に応じて、外国の社会保障制度を取り上げ、日本の社会保障制度との相対比較を行う素養を身につける。
(2)社会保障制度の課題として取り上げられている様々なトピックスー社会保障費の「国民負担率増大抑制」論、「高齢化社会危機」論、「公的年金加入の損得」論などーを概観し、制度の課題について理解を深め、課題に対する解決策を考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲	大きな政府、小さい政府、社会保障制度審議会「50年勧告」、選別主義と普遍主義
2	社会保障制度の成立史	救貧法、産業革命、イギリスにおけるリベラルリフォーム、ビスマルクによる社会保障、『ベヴァリッジ報告』、恤救規則、救護法、生存権と朝日訴訟
3	社会的不平等の現状とその要因	社会階層、経済資本、文化資本、所得再分配制度、アファーマティブ・アクション
4	少子高齢化の現状と問題	平均寿命、産業構造の変化、核家族化、晩婚化、女性の社会進出
5	少子化と社会的支援	育児休業、育児給付、保育所、スウェーデンの少子化対策
6	育児支援策の問題と解決策	性別役割分業、労働時間の短縮、ファミリーフレンドリー企業
7	社会保障財政の現状と問題	社会保障給付費、国民負担率、「高齢化社会＝危機」論、「純負担」、社会保障制度への投資効果
8	年金制度の概要(1)	私的扶養の限界、近視眼性、市場の失敗、経済変動、2階建て方式、給付スライド、被保険者、保険料、国庫負担、保険料納付減免除制度、老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金
9	基礎年金制度の問題と解決策	無年金障害者問題、第三号被保険者問題、国民年金空洞化問題
10	年金制度の概要(2)	厚生年金被保険者、標準報酬、 老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金
11	厚生年金制度の問題と解決策	世代間の給付/保険料の倍率、積立方式、賦課方式、保険料固定方式
12	医療保険制度の概要	民間医療保険の限界、国民医療費、地域保険と職域保険療養の給付、現物給付、現金給付、公費負担医療、医療保険の財源
13	国健康保険制度の問題と解決策	国民健康保険の滞納の要因、国民健康保険制度の滞納対策(短期被保険証、資格証明書) 国民健康保険制度の抜本改革
14	高齢者医療の概要、および、その問題と解決策	前期高齢者医療、および、後期高齢者医療制度における現役世代の支援金負担、高齢世代の保険料負担
15	まとめ	ウーマンフレンドリーな政策、福祉国家の類型(E・アンデルセンによる福祉国家類型と日本の類型)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会保障関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会保障制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	授業内容に関わるミニレポート(400字以上、600字以内)に基づいて評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望ましい。また、社会保障の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会保障―論点・解説・展望(増補改訂版)』	木村敦編著／学文社／9784762017889／
『現代社会保障論―皆保障体制をめざして』	里見賢治／高菅出版／9784901793322／
『福祉社会：社会政策とその考え方(補訂3版)』	武川正吾／有斐閣／4641121192／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西）・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

障害者とスポーツ（S）

15484

担当者名 / Instructor　水谷 裕

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」

障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害のある人々のスポーツ活動」等に関するビデオ画像を通して、障害のある人々のスポーツ活動の実際を知り、社会参加の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育んで欲しいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

＊障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツをとおして社会のあり方を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入、小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人とｽﾎﾟｰﾂに関する知識、体験等
第2回	小レポートについて、講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人数･傾向,戦後の歴史等
第3回	講義「障害について」、ﾋﾞﾃﾞｵ	原因･症状等
第4回	講義「障害を考える」、ﾋﾞﾃﾞｵ	意味･とらえ方等
第5回	講義「障害の受傷時期による相違」、小レポート「水谷を初めて見た時どう思ったか」、ﾋﾞﾃﾞｵ	葛藤･受容･心理等
第6回	講義「障害のある人との関わるための留意点」、ﾋﾞﾃﾞｵ	言葉づかい･態度･考え方等
第7回	講義「障害のある人とスポーツ」、ﾋﾞﾃﾞｵ	ｽﾎﾟｰﾂ観･残存能力･訓練との相違等
第8回	講義「障害のある人に何故スポーツ？」、ﾋﾞﾃﾞｵ	運動は動物存在の基礎条件等
第9回	講義「障害者スポーツの歴史」、ﾋﾞﾃﾞｵ	時代的背景等
第10回	講義「障害者スポーツの組織」、ﾋﾞﾃﾞｵ	施設･団体等
第11回	講義「障害のある人のスポーツ権」、ﾋﾞﾃﾞｵ	背景にある<みんなのｽﾎﾟｰﾂ運動>等
第12回	講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ﾋﾞﾃﾞｵ	身体的･精神的･社会的等
第13回	講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ﾋﾞﾃﾞｵ	阻害要因･視点等
第14回	講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人間的平等･発達保障等,指導者･環境･現状把握等
第15回	確認ﾃｽﾄ(60分)とまとめ(30分)等	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞なのでの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアひいては、社会の理解度を認識する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	特に言葉の言い回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題された課題について論点が押さえられているかどうかを問います。 授業回数15回中、最低3分の1以上の出席を必要とし、満たない場合は不可とします。

＊論述1問とします。
＊確認テストを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講について
＊授業は前の席にて受講すること。
＊出席カード配布後の事由なき遅刻は認めない。
＊講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
＊話の中にある意図を理解すること。

研究について
＊障害のある人々の基礎的な知識を得た上で、スポーツ活動の現状やあり方を広い視野から見ること。

教科書 / Textbooks

＊特に決まったテキストは使用しません。

＊適時、コピー等を配付します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「障害者スポーツ」	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編集／医学書院／／障害のある人々のスポーツに関する紹介本です。
「障害者とスポーツ」	芝田徳造／文理閣／／本学名誉教授の著書で、京都での実践を通して書かれた本です。
「身体障害者のスポーツ指導の手引き」	(財)日本障害者スポーツ協会編集／株式会社ぎょうせい／／身体に障害のある人に対するスポーツ指導に関する本です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

その他 / Others

＊障害のある人のスポーツに興味を持ち、スポーツ活動を通して障害のある人の社会参加活動の理解ある良　きパートナーを目指す学生なら誰でも歓迎します。
＊講師は、脳性マヒ等による四肢機能障害で、車いすを常用しています。
＊京都市障害者スポーツセンターに勤務しています。
＊授業後、気軽に話しかけて来てほしいと思っています。

情報リテラシーIII（SA） § 情報処理（SA）

13278

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門...(SB、SKと、同内容)
パソコンや携帯でもっと多彩な自己表現を行うために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工したり、ちょっとしたイラストを描き、コメントを付け一つの作品として発表をしていくために必要な基礎知識とスキルを学んでいきます。
画像処理には Adobe Photoshop、イラスト作成にはAdobe Illustrator、ホーム･ページ作成にはAdobe Goliveを用いる予定です。作品は、全世界に向けて発信をする予定です。
（時間の制約上、このクラスは画像処理とホームページ作成が中心となり、イラスト作成はほんの体験です。更にイラスト作成をしっかりやってみたい場合は、『イラスト作成入門』を受講してください。）
ホームページ作成を行うクラスの中では、「入門・初級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
イラスト作成の体験。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本（1）	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本（2）	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本（3）	合成、レタリング、その他
6	イラスト作成の体験	イラスト作成
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	課題：ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SB） § 情報処理（SB）

13282

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門...(SB、SKと、同内容)
パソコンや携帯でもっと多彩な自己表現を行うために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工したり、ちょっとしたイラストを描き、コメントを付け一つの作品として発表をしていくために必要な基礎知識とスキルを学んでいきます。
画像処理には Adobe Photoshop、イラスト作成にはAdobe Illustrator、ホーム･ページ作成にはAdobe Goliveを用いる予定です。作品は、全世界に向けて発信をする予定。
（時間の制約上、このクラスは画像処理とホームページ作成が中心となり、イラスト作成はほんの体験です。更にイラスト作成をしっかりやってみたい場合は、『イラスト作成入門』を受講してください。）
ホームページ作成を行うクラスの中では、「入門・初級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本（1）	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本（2）	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本（3）	合成、レタリング、その他
6	イラスト作成の体験	イラスト作成
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	課題：ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SC）　§　情報処理（SC）

13334

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力　[教科書pp. 2-20] ・度数分布表とヒストグラム　[『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97] ・要約統計量の算出　[教科書pp. 102-111]	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換　[教科書pp. 24-44] ・グラフと図　[教科書pp. 53-73]	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007051／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］：　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］：　http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SD） § 情報処理（SD）

13335

担当者名 / Instructor　破田野 智己

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義ではWorld Wide Wed(WWW)で自分の意見を発信するために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。そのために、Webページを記述する言語HTML（HyperText Markup Language）とHTMLを修飾する仕様CSS（Cascading Style Sheets）の記述法を学び、学内向けの個人サイト作成する。なお、Webサイト作成にはホームページ・ビルダーなどのサイト作成用のソフトは使わないので、注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・数ページからなるWebサイトを企画できる
・基本的なHTMLの文法を理解し、それに従ってHTMLファイルを記述できる
・基本的なスタイルシートの文法を理解し、それに従ってCSSファイルを記述できる
・既存のWebサイトを評価できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。
自分用のUSBメモリを持参すること。
なお、受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。
1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること（ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更）
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要の確認とコンピュータリテラシーについての知識確認	
2	既存のWebサイトを評価する	既存のWebサイトをチェックリストに従って評価する
3	Webページ制作のプロセスを知る	
4	各自のWebページサイトの企画を立てる	自分なりのテーマを見つけ、サイト作成の企画を行う
5	HTML入門基本ルール	基本的なHTMLのルールについて、サンプルファイルを利用しながら実習を行う
6	HTML入門基本的なHTMLタグ	いくつかのサンプルファイルを利用して、HTMLの書き方を身につける
7	スタイルシート入門	スタイルシートを使って、HTMLファイルの修飾を試す
8－14	個人Webサイト制作期間	自分のペースでサイト作成を行う
15	相互批評会	完成したサイトをお互いに評価しあう

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	インターネット上の様々な問題についての考察
平常点評価	80 %	Webサイト構築と毎回の課題提出

課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。積極的に課題に取り組むことが必要である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
HTMLとスタイルシートによる最新Webサイト作成術	／エクスナレッジ／9784767802503／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ユニバーサルHTML/XHTML	神崎正英／毎日コミュニケーションズ／9784839904548／

講義中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義用のWebサイト
http://www.ritsumei.ac.jp/~ytt06067/

その他 / Others

情報リテラシーIII（SE） §　情報処理（SE）

13279

担当者名 / Instructor　破田野 智己

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、C言語によるプログラミングの基本を解説する。対象者としては、プログラミングに興味があるものの「難しそうだ」というイメージから二の足を踏んでいる人や、他のプログラミング言語を少し学んだが、やはりC言語も知っておきたいという人を想定している。このため講義では、実際にC言語を使ったプログラミングを実習するだけではなく、C言語の特徴やしくみ、コンピュータの制御方法などについても解説を行なう。とはいえ難しい数式などは使わず、なるべく平易に解説を行なうので、特別な知識は必要としない。なお、授業の最後には課題を出して、その回の内容を習得できたかどうかをチェックする（これを実施しない回もある）。また、これに加えて、チャレンジ問題（評価に加点するが、提出は自由）を出題する場合もある。

到達目標 / Attainment Objectives

C言語を使った初歩的なプログラミングを行えるようになることを目指す。また授業を通じて、C言語とは何なのか、他者に簡単な説明ができる程度の知識を得ることも目標となる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特別な知識は必要ないが、パソコンに親しんでいることが最低条件となる。「親しんでいる」ことの目安は以下の通りであり、どれかひとつでも当てはまらないものがあれば受講しないことをお勧めする。

・自分のIDとパスワードを知っており、それを使って学校のパソコンを使ったことが多数回ある
・手元をあまり見ずに文字を入力できる。もしくは、今から練習するつもりがある。
・「“教材フォルダ”を開いて、“hatanoフォルダ”の中にある“test.c”をデスクトップに引っ張り出して（ドラッグ&ドロップして）ください」と言われたら、大体何をすれば良いか分かる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	C言語を使ってみる	
2	文字を出す＆計算を行なう	
3	変数とデータ型	
4	コンピュータの仕組みとC言語（その1）	
5	配列を使った表現	
6	命令を繰り返す	
7	場合分けして命令する	
8	ファイルの読み書き	
9	様々な命令を組み合わせる	
10	関数を使う便利に使う	
11	コンピュータの仕組みとC言語（その2）	
12	コンピュータの仕組みとC言語（その3）	
13	最終課題を作る	
14	最終課題の中間発表	
15	最終課題の発表会	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業の終わりに出す課題は、理解してさえいれば授業時間内に終わるものであるが、理解が不足していれば宿題となる。また、チャレンジ問題は基本的に授業外に解くこととなる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の出席：15%（ただし出席が規定の日数に満たない場合には単位を認定しない）、授業後の課題：55%、最終課題：30%。また、以上にチャレンジ問題の成績を加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必須ではないが、データの持ち運び用に、USBメモリなどの記憶媒体を持参することが望ましい。

教科書 / Textbooks

使用しない

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
パソコンプログラミング入門以前	伊藤華子／毎日コミュニケーションズ／978483990723／プログラミング自体に慣れて

	いない人向けの本だが、ある程度知識のある人の復習用にもなる
積み上げ式でコツコツ学ぶ C言語スタートブック問題集	高田美樹／技術評論社／9784774133928／自学自習用だが、やや難しいので復習用に使うと良い
Cの絵本	アンク／翔泳社／9784798101033／絵本」を冠している通り、C言語のことを解り易く、かつ抵抗が少ないように概説してあるので、C言語のことを知りたくなってきた頃に読むと良い
C言語撃退講座	丸岡孝司／技術評論社／9784774135335／読み物として面白く、それでいて読後にはC言語に対する知識や理解が深まっているという怪著。C言語に多少なりとも慣れてきた時に読むと良い

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーIII（SF）　§　情報処理（SF）

13336

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『イラスト作成』入門…(SFと、同内容)
ホーム・ページや、ポスター、ドキュメントなど様々な用途に用いられるイラスト作成の基礎を学んでいきます。また必要な範囲で、デジカメなどの画像処理についても学びます。
作成した作品は、ホーム・ページ上などを用いて公開していきます。
イラスト作成には Adobe Illustrator、画像処理には Adobe PhotoShop、ホーム・ページ作成には、Adobe Goliveを用いる予定です。
（時間の制約上、イラスト作品の制作が中心となります。ホーム・ページ作成については、他の講座を受講してください。）

到達目標 / Attainment Objectives

画像ファイルの基礎。
イラスト作成の基礎。
画像処理の基礎。
ホームページ作成の体験。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい：パソコンの基礎	Windowsとその基礎知識、操作方法
2	画像ファイルの基礎	画像の形式、扱うソフト
3	イラスト作成の基礎（1）	ソフト操作の基礎
4	イラスト作成の基礎（2）	絵を描く（1）
5	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（2）各種効果（1）
6	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（3）各種効果（2）
7	課題（1）	課題作成
8	画像処理の基礎（1）	画像の取り込みと画像処理（1）
9	画像処理の基礎（2）	画像の取り込みと画像処理（2）
10	イラスト作成の基礎（7）＋ホーム・ページ作成の基礎	処理画像との合成など＋ホーム・ページ作成の基礎
11	課題（2）－1	課題作成
12	課題（2）－2	課題作成
13	課題（2）－3	課題作成
14	発表と評価（1）	作品の発表とその評価
15	発表と評価（2）	作品の発表とその評価＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題作成など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、プリントなどを配布予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SG）　§　情報処理（SG）

13307

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『JavaScriptによる動くホーム・ページ作成』入門
「ユビキタス社会」においてよりパワフルに自己表現をしコミュニケーションを行うために、もう一歩進んだWebページ（ホーム・ページ）作りを目指します。
ソフトを用いず、基本であるいわゆるタグ書きをし、様々な「動き」を実現できるJavaScriptの基本を学んでいきます。
Webページ（ホーム・ページ）作成を行うクラスの中では、「中級から上級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

情報倫理の習得。
Webページの構造の理解。
HTML（タグ書き）を用いたWebページ作成方法。
JavaScriptの基本。
プレゼンテーションとコミュニケーション能力の向上。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション、Windowsおさらい、情報処理	Windowsとその基礎知識、情報処理とは
2	情報倫理とネットワークの基礎知識	「インターネット」、「ホーム・ページ」、NET、ネチケット、著作権
3	HTMLの基本1	Webページ、ソース、タグ
4	HTMLの基本2	タグの基本
5	JavaScriptの基本1	HTMLとJavaScriptの関係
6	JavaScriptの基本2	JavaScript、関数、実行
7	サンプル作成1	JavaScriptのサンプル作成
8	サンプル作成2	JavaScriptのサンプル作成
9	サイト作成1	オリジナル・サイトの設計
10	サイト作成2	オリジナル・サイトの作成
11	サイト作成3	中間チェック
12	サイト作成4	公開と修正
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	サイト、プレゼン、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後の作品発表及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SH）　§　情報処理（SH）

15512

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合演習』...(SNクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編です。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでいきます。また、ビジネスにおいて多用されるMicrosoft Excelの実践的応用方法についても学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい（1）	パソコンの基礎知識
2	おさらい（2）	Microsoft Wordのポイント
3	イラスト作成の基礎（1）	Microsoft Excelのポイント（1）
4	おさらい（4）	Microsoft Excelのポイント（2）
5	おさらい（5）	NET及びOLEの利用
6	課題（1）	課題作成
7	中級（1）	Web上のデータ利用とレポート作成（1）
8	中級（2）	Web上のデータ利用とレポート作成（2）
9	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（1）
10	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（2）
11	課題（2）	課題作成
12	応用（1）	Microsoft Excelのその他の機能：データ・ベース機能
13	応用（2）	その他のソフトとの連携
14	最終課題－1	課題作成
15	最終課題－2	課題作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SI） §　情報処理（SI）

15546

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『プログラミング入門』
パソコン上の全ての機能は、プログラムによって提供されています。そのプログラム作成の最初歩を、簡単なゲームなどを学んでいきます。同時に、プログラミングに於いて大切な思考と発想も身につけていきます。
なお、プログラミング言語としては比較的初心者にも親しみやすい、Microsoft Visual Basicを用いる予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラムの役割の理解。
プログラミングの基礎の理解。
プログラミングの基礎的な思考と発想の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション、Windowsおさらい	Windowsとその基礎知識、基本操作
2	アプリケーション・ソフトとプログラミング	OSとアプリケーション・ソフト、プログラミング、Visual Basic
3	プログラミング演習1	Hello World!! :.Visual Basicの基本操作
4	プログラミング演習2	Peace：アニメーションの基本1、移動によるアニメーション、条件、柔軟性
5	プログラミング演習3	Wink：アニメーションの基本2、入れ替えによるアニメーション、シンプルさ
6	プログラミング演習4	Wink：アニメーションの基本2、入れ替えによるアニメーション、シンプルさ
7	プログラミング演習5	Calc：簡単な計算、予期しない結果への対処
8	ゲーム・プログラミング演習1	クリックゲーム（1）：移動と乱数
9	ゲーム・プログラミング演習2	クリックゲーム（2）：点数と制限時間
10	ゲーム・プログラミング演習3	スロット（1）：スピンとストップ
11	ゲーム・プログラミング演習4	スロット（2）：フィーバーの判定
12	ゲーム・プログラミング演習5	スロット（3）：メダルの制御
13	レポート課題作成1	オリジナル・ゲーム作成。
14	レポート課題作成2	オリジナル・ゲーム作成。
15	レポート課題作成3	オリジナル・ゲーム作成。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	レポート課題ほか。
平常点評価	40 %	日常のプログラミング、実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『まなぶ・おしえるプログラミング〔まなぶ編〕』　　上出　浩／ふくろう出版／4-434-04018-9／

上記の他、必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SJ）　§　情報処理（SJ）

15599

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『HTMLによるホーム・ページ作成』入門…(SDクラスと、同内容)。。。HTML入門
ホーム・ページやブログ、携帯用のページなど、Web上の様々なサービスやコンテンツはHTMLと呼ばれるものを基礎に展開している。このHTMLの仕組みを理解し、一歩進んだWeb活用を目指していく。実際に、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を用いて、ホーム・ページを作成し全世界に向けて公開する。
なお、本講座は初心者向けホーム・ページ作成講座の中で、『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門の次のレベルである。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識、ネチケット
2	HTMLの基本（1）	WWWとHTML、タグ
3	HTMLの基本（2）	WWWとHTML、タグ
4	HTMLの基本（3）	WWWとHTML、タグ
5	画像処理	基本的な画像形式と画像処理
6	HTMLの基本（5）とCSS（1）	WWWとHTML、タグ、スタイルシート
7	HTMLの基本（6）とCSS(2)	WWWとHTML、タグ、スタイルシート
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	課題：ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）＋まとめ	作品発表と採点＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	講義中のチェックなど。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要。

教科書 / Textbooks

必要に応じ講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ講義中に紹介する。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SK）　§　情報処理（SK）

15600

担当者名 / Instructor　宮浦 崇

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『フォトレタッチとホーム・ページ作成』入門...(SA、SBと、同内容)
パソコンや携帯でもっと多彩な自己表現を行うために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工したり、ちょっとしたイラストを描き、コメントを付け一つの作品として発表をしていくために必要な基礎知識とスキルを学んでいきます。
画像処理には Adobe Photoshop、イラスト作成にはAdobe Illustrator、他にホーム･ページ作成支援ソフトを用いる予定です。作品は、全世界に向けて発信をする予定です。
（時間の制約上、このクラスは画像処理とホームページ作成が中心となり、イラスト作成はほんの体験です。更にイラスト作成をしっかりやってみたい場合は、『イラスト作成入門』を受講してください。）
ホームページ作成を行うクラスの中では、「入門・初級」の位置づけです。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
イラスト作成の体験。
ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本（1）	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本（2）	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本（3）	合成、レタリング、その他
6	イラスト作成の体験	イラスト作成
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題：ホーム・ページ作成（1）	
9	ホーム・ページ作成（2）	
10	課題：ホーム・ページ作成（3）	
11	課題：ホーム・ページ作成（4）	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション（1）	作品発表と採点
14	プレゼンテーション（2）	作品発表と採点
15	プレゼンテーション（3）	作品発表と採点

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SL） § 情報処理（SL）

15601

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Excel発展（関数とデータベース）』
Excelの基礎知識をベースに、より発展的な利用を考えていきます。
このクラスでは、基本的な関数を学んだ後、Excelのもう一つの機能である、データベース機能を、出来る限り実践的に学んでいきます。情報リテラシで学んだ Excelの表計算機能と本講義で学ぶデータベース機能を習得することで、Excelをよりパワフルな総合ツールとして様々な場面で活用することが可能となります。
本講義修了で、Excelの中級者になることが出来ます。

到達目標 / Attainment Objectives

Excelの基礎の習得。
基本的な関数の習得。
データベース機能の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等以上のスキル・レベル。
なお、情報リテラシーIII（SH,SN)「Officeソフト総合演習」の修了後、受講すると理解しやすくなります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Excelの基本のおさらい	セル、シート、表、グラフ、関数、絶対参照
2	Excelの基本のチェック	
3	Excelの基本的な関数	sum, average, max, min, count, ifなど
4	Excelの便利な関数	日付関数、文字列関数
5	データ・ベースとは	データとデータ・ベース、データ・ベースの設計
6	データ・ベース・ツール1	並び替え
7	データ・ベース・ツール2	オートフィルタ
8	データ・ベース・ツール3	フォーム・集計
9	データ・ベース・ツール4	ピボット・テーブル
10	データ・ベース関数1	検索
11	データ・ベース関数2	その他
12	データ・ベース作成演習1	テーマと設計
13	データ・ベース作成演習2	作成と処理
14	最終課題（1）	課題作成
15	最終課題（1）	課題作成とまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題による評価
平常点評価	50 %	講義中の課題ほか 実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講までに、Windows及びExcelの基礎を復習すると受講しやすくなります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SM）　§　情報処理（SM）

15602

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『イラスト作成』入門…(SMと、同内容)
ホーム・ページや、ポスター、ドキュメントなど様々な用途に用いられるイラスト作成の基礎を学んでいきます。また必要な範囲で、デジカメなどの画像処理についても学びます。
作成した作品は、ホーム・ページ上などを用いて公開していきます。
イラスト作成には Adobe Illustrator、画像処理には Adobe PhotoShop、ホーム・ページ作成には、Adobe Goliveを用いる予定です。
（時間の制約上、イラスト作品の制作が中心となります。ホーム・ページ作成については、他の講座を受講してください。）

到達目標 / Attainment Objectives

画像ファイルの基礎。
イラスト作成の基礎。
画像処理の基礎。
ホームページ作成の体験。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい：パソコンの基礎	Windowsとその基礎知識、操作方法
2	画像ファイルの基礎	画像の形式、扱うソフト
3	イラスト作成の基礎（1）	ソフト操作の基礎
4	イラスト作成の基礎（2）	絵を描く（1）
5	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（2）各種効果（1）
6	イラスト作成の基礎（3）	絵を描く（3）各種効果（2）
7	課題（1）	課題作成
8	画像処理の基礎（1）	画像の取り込みと画像処理（1）
9	画像処理の基礎（2）	画像の取り込みと画像処理（2）
10	イラスト作成の基礎（7）＋ホーム・ページ作成の基礎	処理画像との合成など＋ホーム・ページ作成の基礎
11	課題（2）－1	課題作成
12	課題（2）－2	課題作成
13	課題（2）－3	課題作成
14	発表と評価（1）	作品の発表とその評価
15	発表と評価（2）	作品の発表とその評価＋まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題作成など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分があります。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要があります。
USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SN）　§　情報処理（SN）

13367

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合演習』...(SHクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編です。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでいきます。また、ビジネスにおいて多用されるMicrosoft Excelの実践的応用方法についても学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい（1）	パソコンの基礎知識
2	おさらい（2）	Microsoft Wordのポイント
3	おさらい（3）	Microsoft Excelのポイント（1）
4	おさらい（4）	Microsoft Excelのポイント（2）
5	おさらい（5）	NET及びOLEの利用
6	課題（1）	課題作成
7	中級（1）	Web上のデータ利用とレポート作成（1）
8	中級（2）	Web上のデータ利用とレポート作成（2）
9	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（1）
10	中級（3）	Microsoft Excelの便利な関数（2）
11	課題（2）	課題作成
12	応用（1）	Microsoft Excelのその他の機能：データ・ベース機能
13	応用（2）	その他のソフトとの連携
14	最終課題－1	課題作成
15	最終課題－2	課題作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行います。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要です。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合があります。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定です

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介します。

その他 / Others

社会調査情報処理（SA） § 情報処理（SX） § 社会調査情報処理（SA）

15526

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
第2回	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
第3回	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 [教科書pp. 2-20] ・度数分布表とヒストグラム [『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97] ・要約統計量の算出 [教科書pp. 102-111]	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
第4回	・データの変換 [教科書pp. 24-44] ・グラフと図 [教科書pp. 53-73]	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
第5回	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

第6回	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
第7回	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
第8回	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
第9回	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
第10回	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
第11回	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
第12回	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
第13回	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
第14回	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
第15回	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第3版）	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］：　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］：
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

社会調査情報処理（SB） § 情報処理（SY） § 社会調査情報処理（SB）

15537

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば学歴）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
第2回	・統計学の基礎概念	データの種類[『入門はじめての統計解析』p. 2]、（要約）統計量[同書pp. 16-31、『統計学入門』pp. 182-185]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-131]
第3回	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ［教科書pp. 2-20］ ・度数分布表とヒストグラム ［『マンガでわかる統計学』pp. 32-58、教科書pp. 81-97］ ・要約統計量の算出 ［教科書pp. 102-111］	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
第4回	・データの変換 ［教科書pp. 24-44］ ・グラフと図 ［教科書pp. 53-73］	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
第5回	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

第6回	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
第7回	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
第8回	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-241、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
第9回	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
第10回	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
第11回	・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
第12回	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
第13回	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
第14回	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
第15回	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回の教科書・参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的に毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことになる。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになろう。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第3版）	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020074／超初級レベル。SPSSで統計解析をするための基本的な操作法を学べる。本授業では、まずはこの教科書を手元に置きながら、実習を進めてもらう。よって、購入するか、各回の該当ページを図書館でコピーするなどして、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／初級レベル（＝「統計学の授業を受けたことがないor受けたけど忘れたor統計学が苦手……だけど知りたい！」という人向け）。どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／初級レベル。上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／初級レベル。上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／初級レベル。「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／中級レベル（＝「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け）。2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／中級レベル。上の続編。3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／中級レベル。統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）	石村貞夫／東京図書／4489007175／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）	石村貞夫／東京図書／4489007051／中級レベル。本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／上級レベル（＝「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け）。「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
人文・社会科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420666／上級レベル。上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
自然科学の統計学	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420674／上級レベル。上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／上級レベル。心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門	太郎丸博／ナカニシヤ出版／4888489645／上級レベル。社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。
パネルデータ分析	北村行伸／岩波書店／4000099116／発展レベル。同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理	劉晨・盧志和・石村貞夫／東京図書／4489007027／発展レベル。本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
基礎から学ぶマルチレベルモデル	Ita Kreft and Jan de Leeuw／ナカニシヤ出版／4779501237／発展レベル。マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

本授業では、いずれも購入する必要はない。すべて、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。また、講義中にも適宜紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

その他 / Others

心理検査法（S）

13338

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、テキストを用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、その意義、心理検査における数量データのとらえ方について具体的に学習する。また、心理検査の実際について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の中から代表的なものを取り上げ、それぞれの検査の意味と具体的手法について学び、教育・福祉分野においてどのように活用されるべきかを考察する力を養う

到達目標 / Attainment Objectives

・心理検査の歴史、基礎となる考え方について正しく理解できる
・心理検査の数量的データの表す内容を考察できる
・心理検査の意義・特性を踏まえ、社会における活用法について考察することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、臨床心理学、発達心理学：できるかぎり、事前に履修しておいて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	心理検査の種類と歴史	
第2～5回	心理検査におけるデータ	標準偏差　回帰分析　相関係数　ルート機能のついた電卓
第6回	心理検査の実際Ⅰ－知能検査法①	知能検査の開発と発展
第7回	心理検査の実際Ⅰ－知能検査法②	ウェクスラー式知能検査
第8回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法①	新版K式発達検査法
第9回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法②	発達診断
第10回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法③	発達相談
第11回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法①	作業検査法
第12回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法②	質問紙法
第13回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法③	投影法
第14回	心理検査の実際Ⅲ-性格検査法④	テストバッテリー
第15回	まとめ－心理検査の活用と心理検査者の倫理	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	
平常点評価	45 %	毎回のコメントカードの提出状況および記述内容に見られる理解度や積極性。講義時間内に中間的に実施する小レポート。最低3回以上の出席を有効評価の基礎条件とする

レポート試験として実施する。日常点評価は小レポートにおいて講義の理解度を問うものと、毎回のコメントカードの提出状況および記述内容によって行う。出席を重視するので、出席が規定回数に満たない場合はレポートを受理しない。出席回数規定については第1回の講義で説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

心理学についての基礎的な知識を得ていることが望ましい。具体例を用いて参加型の講義を予定しているので、出席を重視します。主体的積極的に参加してほしい。データ処理の基礎について学習するので、平方根（ルート）機能のついた電卓を用意すること。いわゆる『心理ゲーム』のようなものは扱わないのでそのつもりで受講してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査法入門－正確な診断と評価のために－	渡部　洋／福村出版／／講義内で使用するため必携

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査の実際	水田善次郎　編／ナカニシヤ出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神医学（S） § 精神医学I（S）

13289

担当者名 / Instructor　辻 正之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「こころ」の働きやｽﾄﾚｽ、精神疾患、精神医療など「精神医学」の基礎論を学習します。

到達目標 / Attainment Objectives

「精神医学の基礎となる知識を習得し、概念を理解して、それらを説明できる」水準への到達を目標に致しましょう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
①4/13	授業の概要と導入（科目のｶﾞｲﾀﾞﾝｽ）	ｼﾗﾊﾞｽ、「こころ」の働き、ｽﾄﾚｽ、精神疾患、診断分類、ﾁｰﾑ医療
②4/20	精神科診断(1)　最初の診察・面接	主訴、精神的現在症、問診、聴くこと
③4/27	精神科診断(2)　精神症状	知覚、思考、感情、意欲・行動、表情、自我
④5/11	統合失調症	妄想、幻覚、解体した会話/行動、感情の平板化、4A症状
⑤5/18	気分障害	躁うつ病、躁病、うつ病、内因性、心因性
⑥5/30（土）	神経症　ICD-10の疾病分類	葛藤、不安、ICD-10
⑦6/1	ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨ障害　思春期の精神障害	同一性、思春期心性、登校拒否、対人恐怖、摂食障害
⑧6/8	老年期の精神障害	老化、対象喪失、認知症、老年期うつ病
⑨6/13（土）*	意見交換*（5/25の大学休校に伴う「補講」です）	精神症状、効果的なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、BPRS
⑩6/15	特別講師「講義」：崔秀賢 岩倉病院長	精神医療・精神科病院の歴史、開放医療、「病院」と「地域」
⑪6/22	特別講師「講義」：大谷和世 岩倉病院副看護部長	精神科看護、「こころ」と「身体」、医療現場の実際
⑫6/29	精神療法	精神療法的態度、精神療法的技法、治療ﾒｶﾆｽﾞﾑ、治療的変化、治療構造
⑬7/6	精神科薬物療法　「腕試しﾃｽﾄ」(7/20)の事前説明	向精神薬、ﾌﾟﾗｾﾎﾞ、作用要因、「転移」と「逆転移」
⑭7/13	「ｽﾄﾚｽｹｱ病棟」と職場のﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ	ｽﾄﾚｽｹｱ病棟、うつ病、ﾁｰﾑ医療
⑮7/20(海の日)	45分間の腕試しﾃｽﾄ+45分間の講義（事後説明・解説、科目のまとめ）	ｼﾗﾊﾞｽのﾚﾋﾞｭｰ、「到達目標」と「自己評価」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

①ﾃﾚﾋﾞや新聞の精神医療・精神保健など「精神医学」に関する報道などにも関心が持てれば更に良いと思います　②授業内では症例もご提示します。秘密の保持には十分、ご配慮ください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①授業時間内に書いて頂く簡単なﾚﾎﾟｰﾄに対する評価に加えて、受講状況による加点を行ないます→全評価中の65%に充当します ②第15回授業(7/20)で45分間の「腕試しﾃｽﾄ」を行ないます→全評価中の35%に充当します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

白紙の状態で受講して頂いて構いません。授業内で集中的に学習を致しましょう。

教科書 / Textbooks

ﾃｷｽﾄは用いません。必要時に、ﾚｼﾞｭﾒなどを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ストレスとうつ	徳永雄一郎／西日本新聞社／／特に第5,8,9回の授業内容の理解を深めたいときの参考書的新書です。
事例で学ぶSST	高柴哲次郎／日総研出版／／特に第3,4,14回の授業内容の理解を深めたいときの参考書です。

禅的森田療法	宇佐晋一／三聖病院／／森田療法を原法に忠実に継承して来られている臨床医の貴重な「ｴｯｾｲ」と「日記指導実例」です。

上記の3冊は気軽に読める書籍です。
授業の理解にだけではなく、ご自分自身の健康維持にも役立つかもしれません。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

岩倉病院　http://www.toumonkai.net/
不知火病院　http://shiranui-byoin.or.jp
日本精神神経学会　http://www.jpsn.or.jp
日本うつ病学会　http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/
日本統合失調症学会　http://square.umin.ac.jp/jssr05/index.html
福岡BPRS評価ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ協会　http://www.dia-net.ne.jp/~bprs/home.htm

その他 / Others

臨床精神医学(S)　§　精神医学II(S)

15555

担当者名 / Instructor　北村 隆人　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神医療は、専門家と患者(あるいは利用者)との人間関係を媒介にして営まれる。しかしそれを支えるはずの一般的な精神医学は、孤立した個体の精神活動を生物学的、あるいは精神病理学的に研究することを通じて確立されてきた側面が強い。このため、理論と実践の間には隔たりが生じている。

本講義では、この懸隔を埋めるため、臨床に密着した理論として精神分析的精神医学を基礎にすえ、人間心理と精神障害の概略、および援助の基本について臨床的視点から講じる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

・精神分析的精神医学の基本的な考え方を理解する。
・パーソナリティ障害の基本的な知識を習得する。
・心理的問題に対する基本的な援助方法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総論:イントロダクション、精神分析的精神医学の歴史(1)	
2	総論:精神分析的精神医学の歴史(2)、精神分析の四つの理論	
3	総論:防衛論	
4	総論:アセスメント、治療論	
5	小テスト　総論:脳と神経	
6	各論:解離、心的外傷後ストレス障害	
7	各論:対象喪失、死、自殺	
8	各論:精神病、躁うつ	
9	各論:ボーダーライン	
10	小テスト　各論:スキゾイド	
11	各論:自己愛、マゾヒズム	
12	各論:摂食障害、依存症	
13	各論:自閉症、広汎性発達障害	
14	各論:思春期、青年期	
15	小テスト　各論:組織、社会	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	小テスト60%:第5回、10回、15回の講義中にそれまでの授業内容の理解度を確認する小テストを行う。 小レポート40%:2000～2500字のレポートを2回提出してもらう。一つ目のレポートの課題は、第5講に提示する。締め切りは第9講(11/26)の終了時点までとする。二つ目のレポートは、第10講に課題を提示する。締め切りは第14講の終了時点までとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
パーソナリティ障害の診断と治療	ナンシー・マックウィリアムズ著／創元社／ISBN4-422-11330-5／
ケースの見方・考え方	ナンシー・マックウィリアムズ著／創元社／ISBN4-422-11383-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神保健学（S） § 精神保健学I（S）

13267

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「こころの時代」といわれて久しいが、現代社会は複雑な社会背景から,いじめ・虐待・自殺などさまざまな問題が発生している。特に自殺者は1998年以後10年連続で3万人を越えている。自殺者の多くがうつ病などの精神疾患が原因していると言われている。このように現代人はストレスを感じてており、こころの健康を害しやすくなっている。ストレス社会と言われる所以でもある。精神保健を理解するには、子供から老人までライフサイクルの視点からと、人が生活している家庭、学校、地域、職場などの生活環境の両方の視点からの理解が必要である。 こころの健康問題は個人と家庭や学校、地域、職場など本人をとりまく環境や状況によっても起こることなどの理解が必要である。そのためにはただ単に病気の予防、再発防止、自立的生活の維持だけでなく、広く国民全体の精神保健の保持、増進の必要性について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルにおける精神保健の問題や課題についての取り組みを学び、精神保健福祉士としての概要を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標・進め方
2	精神保健の概要・意義と課題	WHO憲章、わが国の現状と課題
3	ライフサイクルにおける精神保健①	胎児期・乳幼児期における精神保健
4	ライフサイクルにおける精神保健②	学童期・思春期における精神保健
5	ライフサイクルにおける精神保健③	青年期・成人期における精神保健
6	ライフサイクルにおける精神保健④	老年期における精神保健
7	精神障害者対策	歴史と障害者自立支援法・課題
8	アルコール関連問題対策	アルコール関連問題とは・健康日本21
9	薬物乱用防止対策	薬物乱用の現状・特徴・対策
10	地域精神保健対策	危機介入・アウトリーチ
11	家庭における精神保健	少子高齢化・児童虐待・DV
12	学校における精神保健	不登校・いじめ・学校精神保健の課題
13	職場のメンタルヘルス	職場のメンタルヘルス・4つのケア
14	諸外国における精神保健	イタリア・オーストラリア・カナダの精神保健施策
15	検証テストと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉養成講座　第2巻「精神保健学」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／3152／定価2,835円（税込み）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

応用精神保健学（S）　§　精神保健学II（S）

20330

担当者名 / Instructor　石橋 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健学で学んだ内容をふまえて、精神保健活動の場としての地域、学校、職場の特性をふまえてそれぞれの場面における精神保健活動のあり方を学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健活動に関する諸理論をふまえて、具体的な精神保健活動のあり方を分析・討論・報告することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健学の履修を終えていることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1,2	人間にとっての精神とは	
3,4	精神保健とは	
5,6	精神を病むということ	
7,8	偏見のなかでつくられた病像	
9,10	精神障害者の充実した生活とは	
11,12	当事者と家族の社会参加	
13,14	障害と共に生きるということ	
15	まとめ 確認テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

精神保健福祉士養成セミナー編集会編「精神保健福祉士養成セミナー第2巻精神保健学」（東京；へるす出版）
石橋典子『呆けを「仕舞」として』中央法規

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神保健福祉援助演習（S）

14460

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

精神科ソーシャルワーカーの養成において重要な役割を果たすのが精神保健福祉援助演習である。精神保健福祉に関する他の科目で学んだ理論を、教員と学生の共同作業により具象化し、精神科ソーシャルワーカーの専門性（価値・倫理、知識、技術）を培う。当事者の生活と権利を護り、当事者のパートナーとして実践を展開するために必要な倫理や価値、さらに技術をディベート、グループワーク、ロールプレイ等々を活用し獲得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

①揺れながら共に学び、共に育つ。
②討論できる精神科ソーシャルワーカーとして育つ。
③生きづらさを持つ個々の精神障害者と同様の課題を持つ仲間達が、社会に参加する力を獲得するプロセスを提示できる力を獲得する。
④専門性を獲得する為に自己に求められている課題と対峙する力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉実習は本科目と同時に履修しなければならない。
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	援助演習の約束　自己開示
第2回	精神障害者の生活と支援①	KJ法　当事者理解
第3回	精神障害者の生活と支援②	リフレーミング　ストレングス
第4回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル①	話す人としての役割　聞く人としての役割
第5回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル②	バイスティック7原則　循環的関係
第6回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル③	非言語的コミュニケーション　ロールプレイ
第7回	課題の発見・分析と支援計画①　－統合失調症－	マッピング技法　ICF　資源
第8回	課題の発見・分析と支援計画②　－アディクション－	マッピング技法　家族支援
第9回	課題の発見・分析と支援計画③　－思春期・青年期－	マッピング技法　家族システム　多機関連携
第10回	保健所におけるソーシャルワーク事例	危機対応　受療支援　退院促進
第11回	精神科病院におけるソーシャルワーク事例	権利擁護　家族調整　住居設定
第12回	社会復帰施設におけるソーシャルワーク事例	柔らかな危機対応　自立支援　結婚　スティグマ
第13回	自己覚知	自身の長所・短所　ゲーム　他己紹介
第14回	自己覚知	強さに視点をあてた自己理解
第15回	前期のまとめ	実習前課題
第16回	グループワーク①	SST　日常生活場面　デイケア
第17回	グループワーク②	心理教育　統合失調症圏　思春期・青年期圏　アディクション圏
第18回～第23回	スーパービジョン	限界と課題　自己の可能性
第24回～第29回	各領域でのソーシャルワーク	実習報告
第30回	まとめ	精神保健福祉士としての価値

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への参加回数と参加意欲で判断する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として育っていく為に、常に当事者の暮らしに関心を持って欲しい。
②この演習は、精神障害者の生活支援スキルを学ぶことを目的としており、各自の悩みを解決する場ではない。

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

授業のなかで指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神保健福祉援助技術各論（S） § 精神保健福祉援助技術各論I（S）

13327

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者を対象とした直接援助技術（ケースワーク、グループワーク）について学び、援助技術を習得することを目的とする。講義では、直接援助技術の実践に必要な理論を学び、演習によってこれを体験することで、社会福祉援助活動について総合的に理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

・直接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
・習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉の必修科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークの周辺理論	交流分析、防衛機制
第2回	精神障害者を対象としたケースワーク①	面接の意味と目的
第3回	精神障害者を対象としたケースワーク②	面接技法
第4回	精神障害者を対象としたケースワーク③	記録の内容
第5回	精神障害者を対象としたケースワークの展開①	インテーク、アセスメント
第6回	精神障害者を対象としたケースワークの展開②	プランニング、モニタリング、評価
第7回	事例検討	ケアマネジメント計画
第8回	精神障害者を対象としたグループワーク①	歴史、目的
第9回	精神障害者を対象としたグループワーク②	メンバーの選択、グループワークの準備
第10回	精神障害者を対象としたグループワーク③	グループワークの始め方、規範の形成
第11回	グループの発展段階と構造	発展の5段階
第12回	グループへの介入、評価、終結	個人・環境への介入、グループの葛藤
第13回	まとめ	
第14回	予備日	
第15回	試験日	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてペーパー試験を行う（試験時間：1時間）。 コミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ　http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/
日本精神保健福祉士協会　http://www.mmjp.or.jp/psw/

その他 / Others

精神保健福祉コミュニティワーク（S） § 精神保健福祉援助技術各論II（S）

15574

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる個別援助技術、集団援助技術を踏まえたうえで、コミュニティワークの実践の質をより深めるために必要な間接援助技術やその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・間接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
・習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	コミュニティワークとは	時代に応じた概念の変化
第2回	精神障害者を対象とした地域援助技術	ソーシャルワーク・リサーチ
第3回	間接援助技術の内容と機能	ソーシャル・プランニング
第4回	関連専門援助技術について	心理療法、家族療法、面接技法
第5回	地域福祉の枠組み	地域福祉をめぐる考え方の違い
第6回	これからの地域福祉	ボランティア活動、セルフヘルプグループへの支援
第7回	コミュニティワークの理論①コミュニティ・ディベロップメント	イネーブリング、セツルメントとパターナリズム、ラジカル・ワーカー
第8回	コミュニティワークの理論②ポリティカル・エンパワメント	多元的世界観、マイノリティの参加と社会の安定
第9回	コミュニティワークの理論③プランニング	新しいプランニング理論
第10回	コミュニティワークの理論④プログラム・ディベロップメント	インターグループワーク、多元主義と資源配分
第11回	コミュニティワークの理論⑤コミュニティ・リエゾン	ボランタリズム、当事者参加促進策
第12回	コミュニティワークの将来	理論のまとめ、社会変革の理想
第13回	まとめ	
第14回	予備日	
第15回	試験日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてペーパー試験を行う（試験時間：1時間）。 コミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ　http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/
日本精神保健福祉士協会　http://www.mmjp.or.jp/psw/

その他 / Others

精神保健福祉援助実習（S）

14461

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉援助実習は、通年の授業と180時間以上の現場実習で構成されている。現場実習は、精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として、精神障害者の伴走者となる初めての体験である。180時間という限定された時間であるが精神障害を持つ当事者や家族と直接関わるなかで、講義で学んだ理論や演習で間接的に体験した知識を活用することが求められる。その直接的な関わりのなかで、専門職としてのスキルや価値、倫理を高め、支援者として自らの課せられている課題を知ることが必要である。

到達目標 / Attainment Objectives

①精神障害者の生活課題を理解し、地域生活支援のありかたにつき考察する力を獲得する。
②医療・生活の現場における専門職の実践課題と現状につき分析する力を獲得するする。
③支援者として自らが求められている課題を明確にできる。
④最低限の倫理や義務につき理解し護ることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉援助演習は本科目と同時に履修しなければならない。
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	実習の意義　目的　一年間の課題
第2回	事前学習の内容と方法	現場が求めている実習生　現場が求めない実習生　実習に期待すること　KJ法
第3回	事前学習①－実習計画立案にあたって①－	実習先の情報収集　実習報告からの学び
第4回	事前学習②－精神障害者と家族に関する文献学習－	精神科医療　精神保健福祉　家族間力動　偏見
第5回	事前学習③－精神障害者の地域生活資源に関する文献学習	精神保健福祉法　自立支援法
第6回	実習計画の立て方	目的、意義、目標、課題、評価方法
第7回	実習計画の発表	目的　意義　目標　課題
第8回	実習計画の再発表	目的　意義　目標　課題
第9回	精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）の視点と実践①	パートナーシップ　バウンダリー
第10回	精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）の視点と実践②	抵抗　逆抵抗　共感　自己覚知
第11回	精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）の視点と実践③	マイクロカウンセリング技法
第12回	精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）の視点と実践④	バーンアウト要因
第13回	実践と記録	客観的描写　自己評価　気づき（課題発見）
第14回	実習生の心得	倫理、課題、スーパービジョン
第15回	実習直前ガイダンス	手続き、必要書類、様々な状況への対処
第16～17回	実習の振り返り	当事者　支援者　自己　地域
第18～23回	実習報告	実習概要　学び　成長　今後の課題
第24～26回	実習報告会	報告の準備、報告
第27～29回	共通課題についてのグループ演習	視点　対処法　倫理　自己覚知など
第30回	総括的演習　まとめ	今後の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

実習前に、実習施設を訪問し、オリエンテーションを受けるとともに、実習計画について相談する。
前期には、実習に関連する事前学習を行い、その内容の発表準備とレポート作成が必要。また、実習計画書の作成は必須。後期には、実習についてのクラス発表の準備、実習報告会の準備、実習報告書の作成を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習活動への参加、事前学習レポート、実習計画、実習報告、実習記録などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①文献学習とは、各自が文献を検索し、自己学習結果を報告することを意図する。
②実習計画は、グループで発表し指摘を受けた項目を考慮し再発表する機会を与える。
③実習には、受講生が主体的に取り組むことがなによりも求められる。

教科書 / Textbooks

指定しない

参考書 / Reference Books

授業進行と共に紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神保健福祉論（S）　§　精神保健福祉論I（S）

13443

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な科目であることから、精神障害者の視点に立って人権とは何か、それを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、歴史を振り返りながらその現状と課題をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神障害者は長い間、医療という枠組みの中で精神科病院への収容政策が取り入れられて来た。しかし、近年福祉という概念が導入された。そこで精神障害者の「自立と共生」をどうとらえるのかを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方
2	障害の概念	国際生活機能分類、我が国の法律における障害の定義
3	精神保健福祉の歴史①	精神衛生法成立まで
4	精神保健福祉の歴史②	精神衛生法から精神保健法まで
5	精神保健福祉の歴史③	精神保健福祉法
6	精神保健福祉の歴史④	障害者自立支援法
7	精神保健福祉法の概要①	ICD-10、DSM-Ⅳ
8	精神保健福祉法の概要②	移送制度と人権
9	精神保健福祉法の概要③	精神障害者保健福祉手帳
10	精神保健福祉法の概要④	精神障害者社会復帰施設の歴史と課題
11	精神保健福祉施策①	我が国の行政施策の現状と課題
12	精神保健福祉施策②	家族会活動、家族の抱える課題と展望
13	精神保健福祉施策③	退院促進支援事業の現状と課題
14	これからの精神保健福祉	統合失調症モデルからの脱却
15	「検証テスト（確認テスト）」と「解説」	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座「第4巻　精神保健福祉論」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／3154／定価2，835円（税込み）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神障害者の人権とくらし（S） § 精神保健福祉論II（S）

13324

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な科目であることから、精神障害者の視点に立って人権とは何か、それを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、その現状と課題を取り上げる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として、精神障害者の人権をどう保障するか。そのためには客観的な視点がどう必要かを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の到達目標、進め方
2	障害者の人権保障	世界人権宣言、国際障害者年、障害者感の変遷
3	精神障害者の人権保障	精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則
4	わが国における障害者の人権保障の枠組み	障害者基本法、障害者プラン
5	精神医療における権利擁護①	インフォームド・コンセント、病院内の審査体制
6	精神医療における権利擁護②	精神医療審査会、実地指導・実地審査
7	権利擁護と市民運動	精神医療オンブズマン
8	人権侵害の現状	宇都宮病院事件、大和川病院事件
9	権利擁護の取り組み	欠格条項、青年後見制度、アドボカシー
10	偏見・差別・スティグマ	権利擁護の担い手としてのPSW
11	精神援助活動①	精神科病院での相談援助
12	精神援助活動②	地域（保健所等）での相談援助
13	精神援助活動③	災害時の相談援助
14	精神保健福祉士の役割・課題	PSWのアイデンティテイ
15	「検証テスト（確認テスト）」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座「第4巻　精神保健福祉論」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／3154／定価2，835円（税込み）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神保健福祉の現状と課題（S） § 精神保健福祉論III（S）

15480

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神障害者は、長い間にわたる隔離収容政策の下で地域で当たり前に生きる権利が奪われてきた。精神障害当事者の人権を保障する働き手となる際に必要な障害者観や実践観、さらに実践上の現状と課題をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉上の切実な要求を持つ人の人権を保障する為に必要な障害者観や実践観を理解し、政策や実践課題に関心を持つ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	精神障害者観と精神保健福祉の流れ	隔離収容政策　スティグマ　パターナリズム
第2回	PSWと精神障害者の地域生活	危機　連携　包括的地域生活支援
第3回	パートナーとしてのPSW　実践の価値	パートナー　フレンドシップライン
第4回	精神障害者と精神科医療	法34条　受療アクセス
第5回	精神障害者と精神科医療	社会的入院　施設症　当事者ニーズ
第6回	精神障害者と暮らしの場	家族　グループホーム　ケアホーム
第7回	精神障害者といこいの場	なかま　自治　自律
第8回	精神障害者と就労	就労支援　ジョブコーチ　適応から参加
第9回	青年期の課題を持つ当事者達と支援	ひきこもり　摂食障害　リストカット
第10回	災害・事故の被害と支援	トラウマ　PTSD　災害支援
第11回	触法精神障害者と回復支援	池田小学校事件　医療観察法
第12回	他の精神保健福祉ニーズを持つ人の生活と支援	薬害HIV　遺族
第13回	当事者からの発言	薬害HIV遺族
第14回	当事者からの発言	統合失調症　ひきこもり
第15回	総括講義　点検試験	精神保健福祉の政策的課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に試験に代わるレポート課題を提起し、即日作成。 講義は、議論を重視する。積極的に議論に参加すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。
☆精神障害者に関わる議論すべき事例が生じた時には講義計画を変更する。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めないが、講義内で紹介した書籍には必ず目を通すこと

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害をもつ人が地域でくらしていくために―介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平／かもがわ出版／4-87699-840-x／
障害者のくらしはまもれるか	中内福成、植田章、田中智子、井上泰司、峰島厚、山本耕平／かもがわ出版／4-7803-0047-9　／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神障害リハビリテーション論（S） §　精神リハビリテーション学I（S）

13288

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人生の途上で精神障害と出会った人が、その障害と向き合い価値ある人生を創造することを科学的に支援する取り組みが精神科リハビリテーションである。この授業では、統合失調症圏を中心に精神障害者の社会参加支援の実際についてふれ、精神障害の生活と支援をどう理解するのかを学び、精神科ソーシャルワーカーとして精神障害者のリハビリテーションに取り組む視座とスキルを明確にする。

到達目標 / Attainment Objectives

生活モデルに立脚しながら精神科リハビリテーションに取り組む専門職として精神科ソーシャルワーカーに求められる視座を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神医学
精神保健福祉援助技術総論・各論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション：精神科リハビリテーションと精神保健福祉支援の歴史	地域居住プログラム、退院患者クラブ
第2回	精神障害者の生活実態	生活困難状態　援助必要性
第3回	精神科リハビリテーションの対象①ー統合失調症圏を中心にー	精神障害　特性　認知の障害　統合の障害
第4回	精神科リハビリテーションの対象②ー統合失調症圏を中心にー	生活の仕方の障害　対人関係の障害　働くことの障害
第5回	精神科リハビリテーションの対象③－神経症圏を中心にー	不安　自己尊厳　自己肯定
第6回	リハビリテーションの場とプロセス①―病院、診療所－	SST、デイケア
第7回	リハビリテーションの場とプロセス②－地域支援機関－	保健所、危機、アウトリーチ　コミュニティ
第8回	リハビリテーションの場とプロセス③－就労－	過渡的雇用、雇用管理、ジョブコーチ
第9回	専門職としてのスタンス	場の力動　エンパワメント
第10回	長い入院とリハビリテーションー当事者へのアプローチー	院内寛解、認知障害、施設症
第11回	親へのアンビバレントな感情や行動とリハビリテーションー家族のアプローチー	EE、危機介入
第12回	地域での生活と支援	ハードな資源　ソフトな資源　当事者の役割　市民の役割
第13回	リハビリテーションとピアスタッフ	セルフヘルプ　ピアスタッフ　ピアアドボケーション
第14回	共同作業所実践が築いてきたリハビリテーションモデル	なかま　当事者観　フレンドシップ
第15回	総括講義　点検試験	精神科リハの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況ならびに講義への積極的参加を評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーション学	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／978-4-8058-2813-7／

教科書は、精神科リハビリテーション学と共通

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーションケースブック	野田文隆　寺田久子／医学書院／4-260-11883-8　C3047／
精神障害リハビリテーション学	蜂谷英彦　岡上和夫　他／金剛出版／4-7724-0663-8／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神科リハビリテーション学（S）　§　精神リハビリテーション学II（S）

13454

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

前期の精神科リハビリテーション論では、精神科ソーシャルワーカーとして精神障害者のリハビリテーションに取り組む視座を明確にしスキルの概要を学ぶことに重点をおいた。精神科リハビリテーション学では、精神科リハビリテーションのプロセスや方法につき学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

精神科リハビリテーションを展開する上で必要な資源、プロセス、スキルに関する理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神障害リハビリテーション論を履修しておくことが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに：精神科リハビリテーションの歴史	ILO　呉秀三　治療共同体　生活臨床
第2回	精神科リハビリテーションの概念	リハビリテーション
第3回	精神保健福祉士が行う医学的リハビリテーション	集団精神療法　SST　デイケア　ナイトケア
第4回	精神保健福祉士が行う社会的リハビリテーション	生活のしづらさ
第5回	地域リハビリテーションのベストプラクティス	日本のベストプラクティス
第6回	カナダとイギリスにおける地域リハビリテーション	CALGARY model　住居サービス　Alternative service　ACT　CPN
第7回	OTP（Optimal Treatment Project）と地域生活支援―地域リハビリテーションにとって必要な条件―	多職種支援　統合的アプローチ　ICF
第8回	ACT（Assertive Community Treatment）プログラムと重度精神障害者リハビリテーション	重度障害者　マディソンモデル、
第9回	精神科リハビリテーションのプロセス①	計画　評価
第10回	精神科リハビリテーションのプロセス②	評価尺度　QOL評価尺度　精神症状評価尺度　社会生活評価尺度
第11回	精神科リハビリテーションの場とアプローチの方法①	病院　社会復帰施設
第12回	精神科リハビリテーションの場とアプローチの方法②	地域
第13回	精神科リハビリテーションとケアマネジメント手法①	ケアマネジメントの基本思想
第14回	精神科リハビリテーションとケアマネジメント手法②	類型　活動の手順
第15回	総括講義　点検試験	精神科リハビリテーションの課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と講義への参加姿勢を判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーション学	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／978-4-8058-2813-7／

教科書は、精神障害リハビリテーション論（前期開講科目と共通）。なお、教科書は、精神科リハビリテーションの方が頻回に利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害リハビリテーション学	蜂谷英彦　岡上和夫　他／金剛出版／4-7724-0663-8／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II（SB）　§　専門特殊講義（SB）

13351

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都がなぜ「日本映画のふるさと」といわれているのか、京都の映画の歴史を中心に、映画誕生期、映画産業形成期、戦時下の映画を利用したプロパガンダ政策、戦後の映画産業の盛衰、現在の映画産業の構造、映画振興政策、今後の映画映像産業の方向、などを、映像資料や最近の統計調査などを使い、映画産業の歴史的縦軸と、日本の産業構造を中心としつつ世界の状況も見通した面的な状況を話す予定。

到達目標 / Attainment Objectives

1、京都でなぜ日本映画が発展していったのかの基本的な理解。
2、第七の芸術といわれる「映画」とは何かの、基本的な理解
3、映画産業の構造の理解と今後の産業としての可能性の検証

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方、ガイダンス	
第2回	映画誕生	リュミエール兄弟の初期作品などの鑑賞とあわせて、映画の誕生の歴史、エジソンの発明との違い等。
第3回	京都の映画史1	稲畑勝太郎
第4回	京都の映画史2	マキノ省三　尾上松之助
第5回	京都の映画史3	日本初の女性映画監督　坂根田鶴子
第6回	戦争と映画1	ナチスドイツの映画法、日本の映画法
第7回	戦争と映画2	満州国　満州映画協会
第8回	権力と映画	参考上映　当時戦意高揚のために作られた作品を上映する。作品は未定。
第9回	戦後の映画産業	大映映画を中心に〜世界に認められた日本映画「羅生門」「雨月物語」など。
第10回	映画産業の構造1	製作、配給などの流通システムについて
第11回	映画産業の構造2	興行〜映画館の歴史とシネコンの展開による変化など
第12回	日本の映画振興政策1	文化庁による映画産業のための振興政策について
第13回	日本の映画振興政策2	経済産業省による、知的財産の観点からのコンテンツビジネスとしての映像産業振興政策について
第14回	フランスの映画振興政策、韓国の映画振興政策	両国の振興政策の特徴と日本との違いなど。
第15回	映画産業の今後の展開、可能性	映画映像産業の未来、コンテンツビジネスとしての発展の方向性等を検証し、全体の講義のまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

映画館や大学内での上映会等で、たくさんの映画をみること。なお、学内での上映映画に関して、有料だが、レポート課題に指定する作品もあるので、事前に了解しておいて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	試験の解答内容で、授業の理解度を判断する
レポート試験	10 %	映画館や学内上映会でで見た日本映画の感想レポートの提出
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーを活用する

毎授業終了時提出してもらうコミュニケーションペーパーの内容のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や参考作品のビデオ、DVDなどの上映を行っている。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画を出来る限りたくさん見て欲しい。学内での上映会（有料）での作品もレポート課題の作品とする場合がある。映画産業は現在進行形でつねに変動している。今の時代の映画館、映画興行の現場の雰囲気を体感することで、今後の映画産業の方向性が見えてくるはずである。ハリウッド大作、日本のメジャー作品だけでなく、世界の様々な国の作品を積極的に見て欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都の映画80年のあゆみ	／京都新聞社／／
シネマがやってきたぺ日本映画事始め	都築政昭／小学館／／日本映画の黎明期の様子が分かる
京都映画図絵	鴇明浩＋映画探偵団／フィルムアート社／／京都の映画史の新記述等もある
別冊太陽　日本映画と京都	／平凡社／／
女人賛歌　甲斐庄楠音の生涯	栗田勇／新潮社／／溝口健二監督のスタッフだった画家の生涯
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割などを詳述した。

上記など。また随時授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

goo映画 http://movie.goo.ne.jp/ all cinema online http://www.allcinema.net キネマ旬報データベース http://walkerplus.com/movie/kinejun/ ミニパラ（全国のミニシアターのportalサイト）
http://www.minipara.com/など。

その他 / Others

1、遅刻は30分以上は認めない。30分以上遅れた学生は、必ず教室の後ろのドアから入ること。遅れた学生には、コミュニケーションペーパーの提出は求めない。
2、私語は厳禁（携帯でのメールのやりとりも禁止する、注意してもやめない場合退出を求める場合もある）
3、最終授業日に試験の内容についてのコメントする。
4、参考上映は、授業の進行と会わせて何回か行う。毎回、京都シネマで上映予定の最新作の予告編を授業の最初に上映する。

専門特殊講義II (SC) § 専門特殊講義 (SC)

13352

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日々届けられる新聞は、どんな取材と論議を経てつくられているのか。事件、事故、政治、経済、国際、芸能、スポーツ・・・。一面からラテ面まで各面にちりばめられた一つひとつの記事には、過去から現在に連なる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む地球的な広がりを示す「横軸」とが交差する中で、各メディアがそれぞれの価値観で、選び取った読者へのメッセージが込められている。「良い記事」「悪い記事」はどう見分けるのか。「特ダネ」はどのようにして生まれるのか。新聞を中心にしたメディアが日々発信しているその「意味」を、社内で交わされている「紙面論議」などを手がかりに同時進行的に紹介、解析していく。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を中心にメディアが日々発信しているメッセージについて、その狙いなどを客観的に理解し、バランスのとれた視点で、その記事などのすぐれた点や不十分な点を評価、指摘できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに。新聞はどのようにしてしてつくられているのか。報道の役割とは。	発掘力
第2回	事件報道と人権(匿名・実名問題など)	個人情報
第3回	事件報道と人権(被害者報道、加熱取材など)	メディアスクラム
第4回	事件報道と人権(歴史的重大事件など)	教訓
第5回	司法取材の現場から(死刑再審など)	冤罪
第6回	調査報道とは(リクルート事件など)	特ダネ
第7回	虚報と誤報(サンゴ事件)	あせり
第8回	報道の自由と取材源の秘匿(沖縄密約など)	スクープ
第9回	社説について(憲法改正論議など)	提言
第10回	教育現場から(日の丸・君が代)	良心
第11回	社風・社論(信頼される報道とは)	綱領
第12回	生活ニュースとは(街だね)	目線
第13回	発表ジャーナリズムからの脱却	記者クラブ
第14回	開かれた新聞とは(市民ネットと投書)	ブログ
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
平常点評価	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味あるテーマについて継続的にウオッチし、各新聞の論調を比べてみる。大きな事件の判決報道で、自分ならどう本記(判決の中身を伝える記事)を書くか、判決要旨などを読んで試してみる。読解力と文章力がつく。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.pressnet.or.jp/ 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。
加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

その他 / Others

専門特殊講義I（SD） § 専門特殊講義（SD） § 特殊講義（総合）（VA）

13370

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

■この科目は、キャンパスプラザ京都（京都駅近く）にて開講し、立命館大学では開講しません。
■キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
■履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

「NHK講座」では、NHKの番組制作取材や技術の最前線で活躍している方々やOBを講師に迎え、日頃それぞれの現場で何を考え追い求めているのか、理念と現実等について語ってもらいます。こうしたメディアの最前線を多角的に紹介し、多様なメディアから噴出するさまざまな情報を主体的に読み解き、参加する能力を養うことを目的としています。
本講座はNHK京都局の企画にもとづき、受講生との「双方向授業」を実施します。授業教室はキャンパスプラザ京都です。

※ 授業は4月11日から6月20日の間で集中して開講します。最終日は1コマの授業のみですが、それ以外は、2コマ連続で講義を実施します。開催日程・時間割に注意をしてください。
※ 講義開始時間は午後1時です。講義終了時間は、最終日は午後2時半、それ以外は、午後4時10分です。
※ 授業内容は、1月14日現在のもので、変更される可能性があります。初回授業にて確定した講義計画を配布します。また、3月下旬から立命館大学HPのオンラインシラバスで参照することができます。

到達目標 / Attainment Objectives

講師の話を聞くことでテレビメディアの現状を理解し、双方向授業への参加によって積極的な学習能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1、2回（4月11日）	藤澤秀敏／解説委員長 【テーマ】総論的な内容	中谷日出／解説委員室 【テーマ】「図解主義」について
第3、4回（4月18日）	杉江亮彦／放技局専任カメラマン 【テーマ】現場のカメラマン経験から	丸山俊一／制作局（爆笑問題のニッポンの教養他）【テーマ】教養系番組制作の現場から
第5、6回（4月25日）	上野智男／京都局制作（双方向の①）【テーマ】双方向授業① 番組制作の基本・提案課題設定	長村中／営業局（受信料制度）【テーマ】受信料と公共放送
第7、8回（5月9日）	吉田照幸／制作局（サラリーマンNeo・エンタテインメント）【テーマ】娯楽番組制作の現場から	飯島徹郎／京都局アナウンス 【若手アナウンサーの体験から】
第9、10回（5月16日）	未定／アナウンサー 【テーマ】未定	青木信也／大阪放送局（ドラマ）【テーマ】ドラマ制作の現場から（だんだんCP）
第11、12回（6月6日）	太勇次郎／京都局ニュース（国際取材）【テーマ】海外取材の現場から	原田誠／国際放送局 【テーマ】国際放送について
第13、14回（6月13日）	田中良憲／視聴者サービス局事業部 【テーマ】NHKのイベント・視聴者サービスについて	篠田恵一／京都局制作（双方向の②）【テーマ】双方向授業② 提案の秘訣・提案課題プレゼンテーション
第15回（6月20日）	今井義典／NHK副会長 【テーマ】未定	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席と講義時に提出する授業内レポート、ならびに双方向授業の際の提出物（番組提案票など）により評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義I（SE） § 専門特殊講義（SE） § 特殊講義（総合）（VB）

13369

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、日本音楽事業者協会、音楽制作者連盟、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、CPRA著作隣接権センターの5つの団体の協力による講座であり、昨年度までのJASRAC（日本音楽著作権協会）寄附講座「音楽・文化産業論」を継承します。
音楽を中心として、エンタテインメントに関わるビジネスやクリエイティブの第一線で活躍する講師陣が、毎回違ったテーマや分野から、現場経験に基づく貴重な講義を行ないます。また、リレー講義であるため、日本レコード大賞審査員なども務められている音楽評論家の反畑誠一先生のコーディネートで進行します。
音楽分野を中心に、映像・放送・表現・レジャーなど広くエンタテインメイント・ビジネスに関心を持つ諸君、あるいは、将来これらの業界で働くことを志望している諸君には、特に受講を勧めます。
※本講義は、毎週土曜日、11時より12時30分まで、京都駅前「キャンパス・プラザ」で開講します。なお、一部に時間を変更する授業日があるので注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際的視野で、音楽コンテンツをはじめエンタテインメント産業の実態を学ぶ
・過去を知り、知識を蓄積する
・現実を直視し、一流を知る
・明日を考え、展望する
・叡智と感性と創造力を培う
・自己の研究課題と進路を見つける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定はしないが、後期の専門特殊講義ⅠSF「エンタテインメント産業論Ⅱ」と連続して受講することが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月11日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	＜開講式・オリエンテーション＞
4月18日(土)	北谷賢司先生（ワシントン州立大メディア経営学教授）	「エンタテインメントビジネス新世紀」
4月25日(土)	永田悦久先生（エイベックス・ライブ・クリエイティヴ株式会社代表取締役社長）	「大規模ライブ運営　a－nation2009」
5月9日(土)	中西健夫先生（株式会社ディスクガレージ代表取締役社長）（社団法人全国コンサートツアー事業者協会副会長）	「MUSIC　DAY　2009～10円で地球の明日を考えよう～」
5月16日(土)	杉本誠司先生（ニワンゴ代表取締役社長）	「ニコニコ動画の世界2009」
6月6日(土)	藤井英也先生（集英社「ロードショー」前編集長）	「日本の映画産業2009」※2限連続講義日　9:30～11:00
6月6日(土)	川上博史先生（株式会社スタジオアルタ　代表取締役社長）	『笑っていいとも』25周年 ファッションスペース・ビジネスの実態 ※2限連続講義日　11:15～12:45
6月13日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	「中間総括」 ※2限連続講義日　9:30～11:00
6月13日(土)	山本裕治先生（株式会社第一興商音楽事業本部部長・社長室長）	「カラオケ文化論2009」 ※2限連続講義日　11:15～12:45
6月20日(土)	和佐田達彦先生（バンド「爆風スランプ」「X. Y. Z」ベース奏者）	「Jーロックで世界市場へ挑戦」
6月27日(土)	後藤豊先生（フォーライフ・ミュージックエンタテインメント社長）	「Revolution－私たちの望むものはー」
7月4日(土)	武藤英明先生（プラハ放送交響楽団・指揮者）	「ワールド・クラシック・ミュージック」
7月11日(土)	堀義貴先生（株式会社ホリプロ代表取締役社長）（社団法人日本音楽事業者協会常務理事）	「総合マネージメント企業とは」～和田アキ子からミュージカルまで～
7月18日(土)	辻居幸一先生（弁護士・弁理士）（中村合同特許法律事務所）	「エンタテインメントと権利ビジネス」 ※2限連続講義日　9:30～11:00
7月18日(土)	反畑誠一立命館大客員教授	前期総括・レポート提出 ※2限連続講義日　11:15～12:45
	※講師は都合により変更になることもあります ※授業時間 11:00～12:30 ただし、6月6日(土)・6月13日（土）及び7月18日(土)は2限連続（9:30～11:00、11:15～12:45）となります。 5月2日(土)及び5月30日(土)は授業はありません。開講日程・時間割にご注意願います。	□5月29日（金） 5月23日（土）休講に伴い、スケジュールを変更しました。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーションペーパーと期中2回のレポートにより総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義I（SF）§　専門特殊講義（SF）§　特殊講義（総合）（VC）

15603

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則、反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、日本音楽事業者協会、音楽制作者連盟、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、CPRA著作隣接権センターの5つの団体の協力による講座であり、昨年度までのJASRAC（日本音楽著作権協会）寄附講座「音楽・文化産業論」を継承します。
音楽を中心として、エンタテインメントに関わるビジネスやクリエイティブの第一線で活躍する講師陣が、毎回違ったテーマや分野から、現場経験に基づく貴重な講義を行ないます。また、リレー講義であるため、日本レコード大賞審査員なども務められている音楽評論家の反畑誠一先生のコーディネートで進行します。
音楽分野を中心に、映像・放送・表現・レジャーなど広くエンタテインメイント・ビジネスに関心を持つ諸君、あるいは、将来これらの業界で働くことを志望している諸君には、特に受講を勧めます。
※本講義は、毎週土曜日、11時より12時30分まで、京都駅前「キャンパス・プラザ」で開講します。なお、一部に時間を変更する授業日があるので注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際的視野で、音楽コンテンツをはじめエンタテインメント産業の実態を学ぶ
・過去を知り、知識を蓄積する
・現実を直視し、一流を知る
・明日を考え、展望する
・叡智と感性と創造力を培う
・自己の研究課題と進路を見つける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定はしないが、前期の専門特殊講義ＩSF「エンタテインメント産業論Ｉ」と連続して受講することが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
10月3日（土）	反畑誠一立命館大客員教授	＜開講式・オリエンテーション＞
10月10日（土）	丸山茂雄先生（株式会社247Music取締役会長・エグゼクティブプロデューサー）	「レコード産業に再生策はあるか」（仮）
10月17日（土）	山本たかお先生（株式会社テレビ朝日編成制作局次長・音楽制作CP）	「エンタテインメント産業とテレビメディアの役割」（仮）
10月24日（土）	北川直樹先生（株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役CEO）	「音楽産業の構図」（仮）※2009年10月19日変更
10月31日（土）	堀一貴先生（株式会社ホリプロ取締役副会長・社団法人音楽出版社協会副会長）	「音楽出版ビジネス ～ポール・マッカートニー、マイケルジャクソンを魅了した“Copyright”の魅力～」（仮）
11月7日（土）	椎名和夫先生（実演家著作隣接権センター運営委員・作曲家）	「実演家と著作隣接権」（仮）
11月14日（土）	亀田誠治先生（有限会社誠屋 音楽プロデューサー） ※「東京事変」ベーシスト ※スピッツ、椎名林檎、平井堅などのプロデューサー	「コンサート『亀の恩返し』をプロデュースして」（仮）
11月21日（土）	田口仁先生（株式会社アサツーディ・ケイ　情報開発局主任研究員） ※2限連続講義日　9:30～11:00	「プロモーション戦略・口コミを科学する」（仮）
11月21日（土）	反畑誠一立命館大客員教授 ※2限連続講義日　11:15～12:45	「中間総括」
11月28日（土）	益田祐美子先生（株式会社平成プロジェクト代表取締役）	「主婦から映画プロデューサーに変身・3億5千万円を集めた女」（仮）
12月5日（土）	浅野祐美子先生（株式会社フジクリエイティブコーポレーション制作室制作部）	「テレビドラマのプロデュースという仕事」
12月12日（土）	田村光広先生（株式会社文化放送　取締役　デジタル事業局局長）	「デジタル時代のラジオメディアの現状と課題」（仮）
12月19日（土）	大石征裕先生・山口哲一先生・金井文幸先生（社団法人音楽制作者連盟　理事長・理事・事務局次長）	「JAPAN EXPOと日本ポップカルチャーの海外展開」（仮）
1月16日（土）	福井健策先生（骨董通り法律事務所 弁護士）	「著作権とは何か」（仮） ※2限連続講義日　9:30～11:00
1月16日（土）	反畑誠一立命館大客員教授	「後期総括」 ※2限連続講義日　11:15～12:45
	以上、9月25日現在の予定です。 講師の都合等により、変更が発生する場合もあります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーションペーパーと期中2回のレポートにより総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II (SG) § 専門特殊講義 (SG)

13252

担当者名 / Instructor　斎藤 喬

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:'09年のジャーナリズム1

イラク戦争とその後の戦後復興をめぐって、米英とドイツ、フランス、ロシアが対立、その間を縫うように多発するテロ事件など世界は混迷を深めています。アジアに目を転じても中国の経済発展に伴う階層の分裂、北朝鮮の核問題、各国で猛威を振るう鳥インフルエンザなど多難な問題が山積みしています。日本でも自衛隊イラク復興支援部隊をめぐって国民の意見は分裂、マスコミの対応にも違いが大きくなりはじめています。この世界の現在と未来をどう読み解くのか、讀賣テレビと讀賣新聞のリーダーと第一線の記者らが講義します。

到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4/8	中村 仁・読売新聞大阪本社代表取締役社長	「ネット社会における新聞」
4/15	新谷 弘・讀賣テレビ放送報道局次長	「地上波テレビの今」
4/22	森 克二・読売新聞大阪本社社会部長	「社会部は何を伝えるか」
4/29	谷 和男・讀賣テレビ放送編成局企画推進部	「デジタル時代の編成戦略」
5/13	朝日 義樹・読売新聞大阪本社論説委員長	「社説を読み比べる」
5/20	春川 正明・讀賣テレビ放送解説委員	「テレビ報道の現場から」
5/27	上野 昌彦 ・読売新聞大阪本社経済部長	「大恐慌？　1929年と2009年」
6/3	筧 彰夫・讀賣テレビ放送営業局営業業務部	「ビジネスとしてのテレビ」
6/10	吉形 祐司・読売新聞東京本社国際部主任	「世界の紛争と特派員」
6/17	山下 雄司・讀賣テレビ放送コンテンツ開発事業局	「デジタルでどう変わる・デジタルコンテンツ編」
6/24	永田 広道・読売新聞大阪本社 神戸総局長	「裁判員制度が始まった--メディアから見た課題と展望」
7/1	松山 浩士・讀賣テレビ放送コンテンツ開発事業局	「デジタルでどう変わる・ビジネス編」
7/8	岸本 弘一・読売新聞大阪本社常務取締役編集局長	「新聞記者の目指すもの」
7/15	辻出 国彦・讀賣テレビ放送マーケティング部	「視聴率から見たテレビ」
7/22	平井 道子 ・読売新聞大阪本社経済部次長　※5/27休校に伴う講義日の変更 ※6/9講師人事異動に伴う変更	「経済ニュースと学生生活」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テーマ及び講師は変更になる場合もあります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	最終の授業日にレポートを提出

毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

また、読売新聞講師の講義日には、初回の講義で配布する「30分で読売新聞を読む方法」を持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「30分で読売新聞を読む方法」	／／／初回講義時に配布

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースを興味を持って見ている人が対象。

専門特殊講義II (SH) § 専門特殊講義 (SH)

15485

担当者名 / Instructor　斎藤 喬

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:讀賣マスコミ講座2～'09年のジャーナリズム～

現場の取材活動のなかで、何が行われているか、また取材における問題関心はどういったところに向けられているかなど、現場で活躍している専門記者の方々がが、各分野にそくした現状等を講義します。

※講義スケジュールについては、変更される場合があります。

到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/30	岩田 公雄・讀賣テレビ放送解説委員長	「テレビと政治」
10/7	本多 宏・読売新聞大阪本社 論説委員	「科学報道の現場」
10/14	吉川 真理・讀賣テレビ放送 報道局 チーフプロデューサー(情報ライブミヤネ屋プロデューサー)	「ミヤネ屋の挑戦」
10/21	深井 康行・読売新聞大阪本社社会部主任	「橋下・大阪府政とメディア」
10/28	千原 徹・讀賣テレビ放送映像グループ	「報道カメラマンの目線」
11/4	柳林 修・読売新聞大阪本社編集委員	「文化財報道と正倉院展」
11/11	相島良樹・讀賣テレビ放送報道グループ	「ニューススクランブルの現場から」
11/18	石井 斉・読売新聞大阪本社編成部主任	「ニュースを料理する」
11/25	脇浜 紀子・讀賣テレビ放送アナウンス部	「アナウンサーの視点から」
12/2	山畑 洋二・読売新聞大阪本社松江支局長	「これからの消費者問題」
12/9	亀田 憲一・讀賣テレビ放送コンプライアンス推進室	「考査から見たテレビ」
12/16	山田 博之・読売新聞大阪本社文化部主任	「囲碁・将棋の勝負師たち」
12/23	藪田 正弘・讀賣テレビ放送報道局次長	「テレビがライフラインであるために」
1/6	吉村 慎吾・読売新聞大阪本社社会部次長	「これからの事件報道―裁判員制度のもとで」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テーマ及び講師については変更になる場合があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答とともに、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースを興味を持って見ている人が対象。

専門特殊講義II（SI） § 専門特殊講義（SI）

13375

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

＊テーマ:「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮らす」「創る」から考える、“私たちのまち京都”
京都市には現在約150万人の市民が住み（平成19年11月）、1年間に4,800万人を超える観光客が訪れる（平成18年）。また、市内には25の大学と12の短期大学があり、約14万人の学生が学んでいる（平成18年度）。京都は世界有数の文化観光都市であり、かつ「大学のまち」である。京都で生活し、学び、働き、そして遊ぶ人々は京都に魅力を抱きながら京都のまちの良さを保持し、それを発展させたいと願っている。こうした願いを底辺からサポートしているのが京都市政（行政）である。京都市には局・区役所があり、それぞれが連携して市民や京都を訪れる人々のために仕事をしている。もちろん、市の形は行政だけでつくられるのではなく、よりよい京都のありようを考える市民自らの市政への参画が欠かせない。
本講義では、京都のまちや人々の諸活動を理解している各局の課長を招聘し、京都のまちを「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮す」「創る」という6つのキーワードから立体的に捉えてみたい。受講生には本講義を通じて、京都のまちに関する諸々の知識を修得するとともに、よりよい京都を創造していくための担い手になって欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

①京都市の現状を理解し、京都の課題を興味を持って探究することができる
②京都市の行政の取り組みを理解することができる
③京都で学ぶ学生として京都市政のありように主体的に関与していくための知識を身につけることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	私たちのまち「京都」ー京都のまちの魅力：見る、歩く、遊ぶ、働く、暮す、創る	京都、まちづくり、京都市行政、講義の課題、評価
2	京都のまちを「見る」①	京都市の大学政策
3	京都のまちを「見る」②	京都市の総合計画，京都創生の取組
4	京都のまちを「歩く」①	「5000万人観光都市・京都」の実現を目指して
5	京都のまちを「歩く」②	京都市の景観政策
6	京都のまちを「歩く」③	文化財保護とその取組
7	京都のまちを「創る」①	京都市の教育改革
8	京都のまちで「遊ぶ」①	京都市のスポーツ振興
9	京都のまちで「暮らす」①	京都市の子育て支援
10	京都のまちで「暮らす」②	京都議定書誕生の地から世界へ～京都市の地球温暖化対策
11	京都のまちで「暮らす」③	京のごみ戦略21
12	京都のまちを「遊ぶ」①	京都市の文化振興
13	京都のまちを「創る」②	都市財政のあらまし
14	京都のまちで「働く」	京都市の産業構造と産業振興策
15	授業内論述テスト（60分）＆再び考えてみよう！私たちのまち「京都」	授業内テスト、私たちのまち、京都
	＊講師の都合により，講義の順番等が変更になる場合があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	0 %	京都のまちの状況を「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮す」「創る」という視点から認識できているかどうか
平常点評価	100 %	①それぞれの講義でのミニレポートがしっかり書けているかどうか（50点）②最終授業日に60分間、論述形式の「授業内レポート試験」を実施（50点）。これまでの授業の理解と応用力がポイントです。

＊レポート試験のテーマについては講義の中で提示し、かつ掲示する。
＊ミニレポートの内容は講義の中で紹介する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、京都のまちのありようを考えていくものであるが、京都市をはじめ公務員を志望する学生にとっても有益である。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、各講師から関連資料が配布される。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

京都は魅力あるまちである。多くの学生が本講義に参加し、京都のまちづくりの担い手となることを期待するものである。

専門特殊講義II（SK）　§　専門特殊講義（SK）

15612

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ダーウィンは「人類の起源」の中で、中国の書物に「音楽は天地を覆す力を有す」と言葉を紹介している。またシューマン博士の観察として「何ページもの書物よりも、ただ一曲の音楽の中に、はるかに大きな感動の高まりを凝縮させることができるものがある」と語っている。音楽は人間の感性と理性によって創作された不可欠のコミュケーション手段である。したがってメディアであり、デジタル時代に入りより激しく変貌している。この講座では、人間にとって音楽の存在と音楽文化の本質と変遷について、私たちの身近な存在である「ポピュラー音楽」を通じて、多角的に考察、研究し、体系づけることを目指している。特に満100年になるレコード産業の歴史を通じて、時代背景と大衆音楽との相関関係の追求に成果を残したいと考えている。

到達目標 / Attainment Objectives

①「ポピュラー音楽」を定義づける。
②「日本のポピュラー音楽」の歴史を学ぶ。
③「日本の流行歌」を体系づける。
④「現代的ヒットの構造」を学ぶ
⑤「ポピュラー音楽の著作権の基本」を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回（10/2）	人間と音楽文化	音楽力
第2回（10/9）	私たちの内に流れるリズム・メロディーの深淵	日本人と音楽
第3回（10/16）	日本のレコード産業史　その1（1910～1945）	テクノロジーと流行歌
第4回（10/23）	日本のレコード産業史　その2（1945～2009）	世相と音楽文化
第5回（10/30）	日本の流行歌大系　その1	創作者の存在
第6回（11/6）	日本の流行歌大系　その2	表現者の存在
第7回（11/13）	日本の流行歌大系　その3	J－POPとは
第8回（11/20）	日本の流行歌大系　その4	インディーズとは
第9回（11/27）	日本の流行歌大系　その5	音楽環境
第10回（12/4）	非西欧世界の音楽　その1	民俗音楽と伝統音楽
第11回（12/11）	非西欧世界のポピュラー音楽　その2	アジアの音楽市場
第12回（12/18）	ロック音楽の歴史	ロック音楽とは
第13回（12/25）	サ・ビートルズ	カリスマ性
第14回（1/8）	放送メディアと音楽文化	日本レコード大賞（1958～2009）
第15回（1/15）	インターネットと音楽文化	著作権保護

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	
平常点評価	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

継続的な出席を望む。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
特には指定しない。	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「著作権とは何か」－文化と創造のゆくえー	福井健策著／集英社新書／／
「著作権法入門2008」	文化庁編／社団法人著作隣接権センター刊／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II（SM） § 専門特殊講義（SM）

15596

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢化社会が進行し、若者の活字離れも伴って伝統的なメディアの代表であった「新聞」に北風が吹き続けている。「新聞がなくなる日」「ネットが新聞を殺すのか」などの書物が出回っているが、新聞は本当にIT産業に飲み込まれてしまうのか。双方向メディア・ネットの拡大は、社会や民主主義のありかたにどんな激変をもたらすのか。人員削減、総合情報産業への脱皮、グループ企業間の新たな連携、紙面改革、デジタル化・・・。変容するメディア産業の現状を、過去のとのつながりのからみで立体的に読み解いていく中で今後の姿を探っていく。同時に「格差社会の進行」をメディアとともに検証していく。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアが多様化していく中で、新聞企業が直面している課題が理解できる。ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について・総論	マスコミ四媒体
第2回	日本の新聞業界～この半年の主な動き	デジタル
第3回	世界のメディア事情～韓国・北朝鮮	ネット新聞
第4回	世界のメディア事情～アメリカ	削減
第5回	世界のメディア事情～ヨーロッパ	タブロイド
第6回	世界のメディア事業～中国	自由化
第7回	新聞の連携と地方紙	連合
第8回	フリーペーパーの挑戦	多様化
第9回	新聞経営の合理化	外部化
第10回	電子新聞の模索	動画
第11回	電子電波メディアの現状と行方～テレビと通信	融合
第12回	電子電波メディアの現状と行方～NHK問題	肥大化
第13回	スポーツ紙の世界	元気
第14回	2009年の新聞界展望	淘汰
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の内容についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(各部門共通)I(RA) § 専門特殊講義II(SN) § 人文科学総合講座特殊講義I(LH) § 日本外交論(J) § 専門特殊講義(SN) § 特殊講義(基礎)1(日本外交論)(C)

20345

担当者名 / Instructor　石原 直紀

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本の外交関係について、日本と外国という双方の視点から多角的に考える。わが国の外務省現役職員、OBらによる講義を通じ、日本の外交政策の実態と課題や外交について実務的視点から理解を深める。また、関西地区駐在の諸外国の総領事を講師に招き、外国から見た日本、日本と当該国の関係などについて考えるきっかけを提供する。さらに、外務官僚、外交官や領事、総領事といった職業について紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本外交と外交政策を理解する。
諸外国から見た日本という視点を身につける。
外交官、総領事といった対外関係に携わる職業を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	外交政策と外交	外交と外交官、日本の外交政策、外交政策決定過程
第2回	日本の外交政策 I	
第3回	日本の外交政策 II	
第4回	日本の外交政策 III	
第5回	日本の外交政策 IV	
第6回	日本の外交政策 V	
第7回	日本の外交政策 VI	
第8回	日本の外交政策 VII	
第9回	日本の外交政策 VIII	
第10回	日本の外交政策 IX	
第11回	外国から見た日本 I	
第12回	外国から見た日本II	
第13回	外国から見た日本 III	
第14回	外国から見た日本 IV	
第15回	全体総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各回の授業内容につき、関連参考文献などを読む。
外務省、各国大使館、総領事館主催のセミナー、イベントなどに積極的に参加する。
ウェブサイトなどを通じ、日本の外交政策の動向、諸外国の事情などについて理解を深める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	与えられたテーマにつき、授業内容と自主的な学習を踏まえ、自分の見解を明快且つ説得的に記述できているか。
平常点評価	50 %	授業への出席

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

外務省や各国総領事などのゲスト講師による授業なので、出席のみならず聴講マナーをきちんと守ること。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

授業の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mofa.go.jp(外務省)
各国総領事館等その他の関連ウェブサイトは、授業で紹介する。

その他 / Others

ゲスト講師、テーマの変更があり得る。

専門特殊講義III（SO） §　専門特殊講義（SO）

13460

担当者名 / Instructor　是枝 裕和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

主にテレビの問題点と可能性について、具体的な番組を参照しながら学生のみなさんと共に考察してみたいと考えている。

【事務室からの注意事項】
1）本講義は、予備登録の上、受講者を決定します（受講希望レポートにより選考します）。
予備登録の期間・方法は、2009.3.25以降に掲示（または産業社会学部のホームページ）にて確認し、指定された期日内に手続きを行うこと。
（予備登録期間は、通常の事前登録期間よりも早いので気をつけてください）

・配当回生：3回生以上
・定員　：30名
・他学部受講　可

2）講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。
受講を希望する者は、次時限（後期金曜日5限）も受講登録せずにあけておくこと。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	講義の詳細は、第1回授業で説明します。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最低限の映像に対する「興味」は持っていてほしい。

教科書 / Textbooks

講義に関わる資料等は各授業で配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

政策科学特殊講義（PA） § 法政特殊講義（JI） § 人文科学総合講座特殊講義I（LQ） § 特殊講義（各部門共通）I（RD） 20079
専門特殊講義（SP） § 特殊講義（WA） § 専門特殊講義II（SP）

担当者名 / Instructor　勝村 誠　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は読売新聞社の援助により各府県知事を本学にお迎えし、それぞれの政策的課題などを語っていただくリレー講義である。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情も様々に異なるため、個別政策や個人の政治戦略のレベルでについていえば、講義全体が統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできることは増えてきており、とりわけ、知事のリーダシップによって地方行政は相当に変化しうるようになってきた。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているので、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数回は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の出席票に記載欄を設けるのでこれに書いてもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係（中央政府と地方政府の関係）について総合的に理解を深めることが目標である。知事の講演を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、財政学、地方自治等に関連する科目群

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要	
第2回	埼玉県　上田清司知事	「みどりと川の再生」推進
第3回	三重県　野呂昭彦知事	
第4回	愛知県　神田真秋知事	
第5回	宮城県　村井嘉浩知事	
第6回	新潟県　泉田裕彦知事	
第7回	香川県　真鍋武紀知事	
第8回	慶應義塾大学教授（前宮城県知事）　浅野史郎教授	
第9回	滋賀県　嘉田由紀子知事	
第10回	講義「地方分権改革について」・中間まとめ	
第11回	福岡県　麻生渡知事	
第12回	読売新聞東京本社・青山彰久編集委員	
第13回	富山県　石井隆一知事	
第14回	山梨県　横内正明知事	
第15回	総括講義	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	70点満点の定期試験を実施する。
平常点評価	30 %	1セメスターに2回小レポートを課す。それぞれ15点満点で評価して、評点を加算する。出席点は加算しない。

本講義の受講を希望する者は、エントリーシートを提出して予備登録を行わなければならない。URL参照。
http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻はしないこと。15分以上遅刻した者には、原則的には入室を許可しない。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、入り口で事情を合理的に説明したうえで、目立たぬように後部の出入口より静かに入室すること。

同様の理由で、原則的には中途退室は認めない。やむを得ざる事情で中途退室せざるを得ない時には、密やかに退出し、出口でスタッフに退室理由を説明すること。中途退室した場合には、原則的に再入室は認めないものとするが、再入室を強く望む場合には合理的な理由が説明できる場合に限り再入室を認めるものとする。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話を聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。

受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間外学習が求められることは当然である。

小レポートを2回提出してもらい、そのできばえによる日常評価を30点満点で評価する。知事の講義を真剣に聞き、自分の理解度を小レポートでしっかりと表現してほしい。

ただし、出席点は一切加味しないので、目的意識なく漫然と出席しても何のプラスにもならないことは理解してほしい。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しないが、地方政治や地方行財政をめぐる書籍を手元に置いて日常的に参照すること。参考書に有益な本を掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『テキストブック地方自治』	村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／地方自治の基本的教科書
『概説 日本の地方自治』	新藤宗幸・ 阿部斉／東京大学出版会／4130320386／地方自治の基本的教科書
『市民のための地方自治入門』	佐藤竺監修 ／実務教育出版／4788914158／一般市民向けの概説書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

その他 / Others

政策科学特殊講義（PB） § 法政特殊講義（JK） § 人文科学総合講座特殊講義I（LR） § 特殊講義（各部門共通）I（RJ，S） 20216 専門特殊講義（SQ） § 特殊講義（WB） § 専門特殊講義II（SQ）

担当者名 / Instructor　今仲 康之　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は読売新聞社の援助により各府県知事を本学にお迎えし、それぞれの政策的課題などを語っていただくリレー講義である。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情も様々に異なるため、個別政策や個人の政治戦略のレベルでについていえば、講義全体が統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできることは増えてきており、とりわけ、知事のリーダシップによって地方行政は相当に変化しうるようになってきた。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているので、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数回は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の出席票に記載欄を設けるのでこれに書いてもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係（中央政府と地方政府の関係）について総合的に理解を深めることが目標である。知事の後援を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、財政学、地方自治等に関連する科目群

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	読売新聞大阪本社　論説委員　上田恭規氏	
第2回	担当者講義	
第3回	大分県　広瀬勝貞知事	
第4回	広島市　秋葉忠利市長	
第5回	青森県　三村申吾知事	
第6回	長野県　村井仁知事	
第7回	担当者講義	
第8回	滋賀県　米田耕一郎副知事	
第9回	栃木県　福田富一知事	
第10回	浜松市　鈴木康友市長	
第11回	石原　信雄氏	
第12回	野中　広務氏	
第13回	奈良県　荒井正吾知事	
第14回	愛媛県　加戸守行知事	
第15回	島根県　溝口善兵衛知事	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	70点満点の定期試験を実施する。
平常点評価	30 %	1セメスターに3回小レポートを課す。それぞれ10点満点で評価して、評点を加算する。出席点は加算しない。

本講義の受講を希望する者は、エントリーシートを提出して予備登録を行わなければならない。URL参照。
http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻・早退はしないこと。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、目立たぬように後部の出入口より静かに入退出すること。また、当然であるが、講義中は脱帽。また、言わずもがなであろうが、私語・飲食厳禁である。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話を聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間外学習が求められることは当然である。

小レポートを3回提出してもらい、そのできばえによる日常評価を30点満点で評価する。知事の講義を真剣に聞き、自分の理解度を小レポートでしっかりと表現してほしい。

ただし、出席点は一切加味しないので、目的意識なく漫然と出席しても何のプラスにもならないことは理解してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

教科書は指定しないが、地方政治や地方行財政をめぐる書籍を手元に置いて日常的に参照すること。参考書に有益な本を掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『テキストブック地方自治』	村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／地方自治の基本的教科書
『概説　日本の地方自治』	新藤宗幸・阿部斉／東京大学出版会／4130320386／地方自治の基本的教科書
『市民のための地方自治入門』	佐藤竺監修／実務教育出版／4788914158／一般市民の向けの概説書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/chiji/2009/index.htm

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GA） § 専門特殊講義（SR） § 地域活性化ボランティア（JA） § 地域活性化ボランティア（PA） 56673 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TA） § 特殊講義（自由選択）1（V1） § 特殊講義（自由選択）（V1） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CA）

担当者名 / Instructor　中根 智子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

専門特殊講義II（ST） § 専門特殊講義（ST）

13465

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ドキュメンタリーはフィクションである」は、昨年惜しくも亡くなったドキュメンタリー映画の監督、佐藤真氏の言葉である。一般的にドキュメンタリーは、ノンフィクションと捉えられ、現実をありのままに映し出したもの、とされている。が、20年余り、さまざまなドキュメンタリーを見てきたが、「ドキュメンタリーはフィクションである」という言葉は、重要な指摘だと考える。ドキュメンタリーとは何か。いくつかの作品を見ながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

いくつかのドキュメンタリー作品の考察により、映画、テレビを問わず、広く映像メディア全体を捉え直す。作品ごとの考察は、受講生の積極的な発表を促す形で進める。ドキュメンタリーは、ノンフィクションか、フィクションか。それを越えたものなのか。理解を深めていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリーとは1	ドキュメンタリー、ノンフィクション
第2回	ドキュメンタリーとは2	演出とやらせ
第3回	ドキュメンタリー作品鑑賞	戦うふ兵隊　亀井文夫　1939年
第4回	作品分析発表　4人　意見交換	ランダムに指名した受講生に、作品分析の発表を行ってもらう。
第5回	作品分析についての論評	
第6回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「ドキュメント　路上」　土本典昭監督　64年
第7回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「水俣　患者さんとその世界」土本典昭監督　71年
第8回	作品分析発表　4人　意見交換	
第9回	作品分析についての論評　関連作品の鑑賞　土本監督の短編	
第10回	ドキュメンタリー作品鑑賞	「阿賀に生きる」佐藤真監督
第11回	作品分析発表　4人	
第12回	作品分析について論評　関連作品の鑑賞　佐藤監督の短編	
第13回	ゲスト監督を招いて（未定）	作品鑑賞
第14回	作品分析の発表　4人	
第15回	ドキュメンタリーとは、ドキュメンタリーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ドキュメンタリー映画やテレビのドキュメンタリー番組を積極的に見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	設問に対する解答の記述内容で、授業の理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館で公開中、および学内上映会での上映作品（有料）のドキュメンタリー作品の感想レポートの提出。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで、理解度を確認する。出席はとらない。

授業への30分以上の遅刻は認めない。私語、メール等も厳禁。注意しても聞かない場合は退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ドキュメンタリー映画は、様々な作品を見ることで、その面白さへの理解が深まる。国内外を問わず、たくさんの作品を見て欲しい。また、テレビのドキュメンタリー番組も、チェックして欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリーの修辞学	佐藤真／みすず書房／9784622072515／ドキュメンタリーとは、最近の傾向など、いまのドキュメンタリーの周辺および監督の思いが伝わる好著

参考図書に関しては適宜紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学内上映会でのレポート課題作品は、有償（500円程度）だが、その点は了解していただきたい。

専門特殊講義II (SU) § 専門特殊講義 (SU)

15674

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本映画はここ数年、実際の製作本数は、公開本数の約2倍という状況で、公開されずに「お蔵入り」となってしまう映画が相変わらず多い。日本映画バブルの状況はまだまだ続きそうである。が、過去の日本映画の名作を見る機会は、学生にはほとんどない。1945年前後の日本映画を鑑賞し、映画と社会との関係を考察する。現代においても、映画と社会は不可分な関係があることの理解を促す。

到達目標 / Attainment Objectives

1、映画と社会の関係、社会的な力によって映画が作られてきた歴史を作品を通して学ぶ。
2、映画と戦争は、プロパガンダとして活用された関係にある。監督や製作現場のスタッフたちは、そうした状況をどのように受け止め、作品に反映させてきたのかを、作品を通して認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画と戦争1	映画法など。戦時中のニュース映画の参考上映
第2回	稲垣浩監督　無法松の一生　1943年　戦前は映画法、戦後はGHQによって2度の検閲を受けた作品　鑑賞	
第3回	1940年代の作品鑑賞　黒澤明監督　「一番美しく」（1944年）女子挺身隊の勤労動員の物語	
第4回	作品分析　意見交換	
第5回	黒澤明監督　「わが青春に悔いなし」1946年鑑賞　戦前戦後、大学の自由を守ることと、日本の自由を勝ち取ることをテーマとした京都も舞台になった作品　鑑賞	
第6回	作品分析　意見交換	
第7回	木下恵介監督　「陸軍」1944年　鑑賞	
第8回	作品分析　意見交換	
第9回	木下恵介監督　「大曽根家の朝」1946年　鑑賞	
第10回	作品分析　意見交換	
第11回	木下恵介監督　「女」1948年　鑑賞	
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲストスピーカー　京都府京都文化博物館映像資料室学芸員　森脇清隆氏　フィルムアーカイブの意義	
第14回	小津安二郎監督　「長屋紳士録」1947年　鑑賞	
第15回	作品分析　意見交換　　全講義を通じて感じたこと、映画と社会の関係等も意見交換する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日本映画をたくさん見て欲しい。ゲスト並びに上映作品は、変更する場合もあるが、事前に説明を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館および学内での上映会(有料)の作品の感想レポートの提出。ただし、作品分析発表者はのぞく。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

30分上の遅刻は認めない。私語、携帯メール等厳禁。私語等注意してもやめない場合は、退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

日本映画を読む	大島渚ほか／ダゲレオ出版／／
ある映画監督の生涯	新藤兼人／岩波新書／／
日本映画批判	双葉十三郎／トパーズプレス／／
日本映画	佐藤忠男／第三文明社／4-476-03175-7／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／／

参考図書は随時提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GB） § 専門特殊講義（SX） § 地域活性化ボランティア（JB） § 地域活性化ボランティア（PB） 56681 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TB） § 特殊講義（自由選択）1（V2） § 特殊講義（自由選択）（V2） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CB）

担当者名 / Instructor　小田切 康彦　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GC） § 専門特殊講義（SY） § 地域活性化ボランティア（JC） § 地域活性化ボランティア（PC，S） 56689 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TC） § 特殊講義（自由選択）1（V3） § 特殊講義（自由選択）（V3） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CC）

担当者名 / Instructor　寺村 安道　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GD） § 専門特殊講義（S1） § 地域活性化ボランティア（JD） § 地域活性化ボランティア（PD） 56697 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TD） § 特殊講義（自由選択）1（V4） § 特殊講義（自由選択）（V4） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CD）

担当者名 / Instructor　中根 智子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GE） § 専門特殊講義（S2） § 地域活性化ボランティア（JE） § 地域活性化ボランティア（PE） 56705 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TE） § 特殊講義（自由選択）1（V5） § 特殊講義（自由選択）（V5） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CE）

担当者名 / Instructor　寺村 安道　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GF） § 専門特殊講義（S3） § 地域活性化ボランティア（JF） § 地域活性化ボランティア（PF） 56713 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TF） § 特殊講義（自由選択）1（V6） § 特殊講義（自由選択）（V6） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CF）

担当者名 / Instructor　中根 智子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GG） § 専門特殊講義（S4） § 地域活性化ボランティア（JG） § 地域活性化ボランティア（PG） 56721 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TG） § 特殊講義（自由選択）1（V7） § 特殊講義（自由選択）（V7） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CG）

担当者名 / Instructor　大谷 洋士、角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GH） § 専門特殊講義（S5） § 地域活性化ボランティア（JH） § 地域活性化ボランティア（PH） 56729 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TH） § 特殊講義（自由選択）1（V8） § 特殊講義（自由選択）（V8） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CH）

担当者名 / Instructor　上田 洋平、角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GI） § 専門特殊講義（S6） § 地域活性化ボランティア（JI） § 地域活性化ボランティア（PI） § 56737 殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TI） § 特殊講義（自由選択）1（V9） § 特殊講義（自由選択）（V9） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CI）

担当者名 / Instructor　角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GJ） § 専門特殊講義（S7） § 地域活性化ボランティア（JJ） § 地域活性化ボランティア（PJ） 56745 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TJ） § 特殊講義（自由選択）1（W1） § 特殊講義（自由選択）（W1） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CJ）

担当者名 / Instructor　角谷 嘉則　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ	ボランティア活動の基礎知識、サービスラーニングの学び方
3	オリエンテーション	活動現場にて実施：地域課題の理解と活動開始のための導入
4	事前学習Ⅱ	活動目標および学びの目標設定
5～10	ボランティア活動（42時間以上）	各プログラムへの参加
11	中間振り返り	ボランティア活動（前半）の振り返り、後半の活動計画の見直し
12～13	事後学習	ボランティア活動の振り返り、目標の達成度の検証
14～15	活動報告会	プログラムごとに活動の成果と学びについて発表

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席し、所定の時間以上のボランティア活動に参加し、かつ定められた評価対象物（レポートなど）を提出すること。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定している。またそれらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定する。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

乳幼児心理学 (S)

13300

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、胎生期から児童期までの人間発達について概説するとともに、保育や教育における問題や課題についても論じる。また、障害のある子どもの発達的特徴および保育・療育の課題についても考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

① 子どもへの関心を高め、乳幼児期の発達を捉える視点を明確にする。
② 保育園や幼稚園における子どもたちの生活について学ぶ。
③ 障害のある子どもたちの生活や発達について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「発達」の捉え方、生涯発達における乳幼児期のもつ意味	発達段階、人権としての発達、発達の3つの系、生涯発達心理学
第2回	胎生期の発達	受精、卵体期、胎芽期、胎児期、胎児の知覚世界、胎生期の発達保障
第3回	乳児期前半の発達と保育	赤ちゃんの不思議、新生児微笑、生活リズム
第4回	乳児期後半の発達と保育	8か月不安、定位行動、はいはい、喃語
第5回	1歳児の発達と保育	自我の誕生、直立二足歩行、道具の操作、音声言語、しつけ
第6回	2歳児の発達と保育	対概念、象徴機能、みたて・つもり遊び
第7回	3歳児の発達と保育	イッチョマエの3歳、ごっこ遊び、3歳児の心の揺れ
第8回	4歳児の発達と保育	～シナガラ～スル、心の理論、4歳児のプライド
第9回	5歳児の発達と保育	自我から自己へ、中間世界の成立、自己信頼感、集団あそび
第10回	障害のある子どもの発達と保育(1)	自閉症、ダウン症、発達遅滞、乳幼児健診
第11回	障害のある子どもの発達と保育(2)	肢体不自由、脳性まひ、主体性
第12回	障害のある子どもの発達と保育(3)	発達障害、学習障害(LD)、注意欠陥･多動性障害(ADHD)、アスペルガー症候群
第13回	児童期の発達と教育	小学校、ギャングエイジ、学童保育、接続問題
第14回	まとめ	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	期末試験により授業内容の理解度を問う。
平常点評価	20 %	講義中に課す授業レポートなどの成績。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
育ちあう乳幼児心理学	心理科学研究会(編)／有斐閣／4-641-07634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

フィランソロピィ論（S）

15569

担当者名 / Instructor　松田 弘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

フィランソロピィとは以前は「企業等の慈善活動」や「ボランティア活動」のことでしたが、現在では「企業等の社会的責任」すなわち「CSR論」で語られます。この講義は会社人間OBが語る「現場の企業等の社会的責任論」。現役「淡海フィランスロピィネット」設立発起人が担当します。実学の「フィランソロピィ論」ですから直近の企業等の実例を駆使して学生諸君と意見を交換します。

到達目標 / Attainment Objectives

- ○ フィランソロピィの概念を実学として説明できる。
- ○ 昨今のフィランソロピィを歴史的な背景や経緯から論述する。
- ○ フィランソロピィからCSRについて言及ができる。
- ○ 資本市場においてのフィランソロピィやCSRを社会学的な立場から意見を述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO論とかボランティア論など

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義入門編	授業の概要説明。シラバスの確認。講義受講エントリー。
第2回	講義入門編	フィランソロピィの単純実例を学ぶ。 社会貢献活動の基本的な考え方。
第3回	講義入門編	さまざまなフィランソロピィ事例の対象分野と探索方法。 第1回宿題発表日。社会貢献活動の形態とは。
第4回	基礎編	フィランソロピィやメセナの歴史と老舗の家訓から社是・社訓から学ぶ。
第5回	基礎編	第1回宿題のオーディションと自己評価。フィランソロピィ対象分野再確認。
第6回	基礎編	フィランソロピィ等の実態統計調査と活動形態から課題を考察。
第7回	中級編	フィランソロピィ論からCSR論への展開。第2回宿題発表日。
第8回	中級編	CSR事例具体的の検証。NPOと企業のかかわり。
第9回	中級編	第2回宿題のオーディションと自己評価。攻めのCSR・フィランソロピィ。
第10回	応用編	企業等のCSR報告書等を研究。フィランソロピィ広報とは。
第11回	応用編	社会貢献を推進するための体制づくり。 第3回宿題発表日。
第12回	専門編	CSR論からSRIを研究。資本市場からフィランソロピィを検証する。
第13回	専門編	第3回宿題オデーィション。 CSR報告書などのこれからの課題総括。
第14回	専門編	さまざまな社会貢献活動評価の方法。CSR・フィランソロピィに関する有識者や企業経営者の所見。
第15回	総括（講義到達目標の確認と自己評価）	社会貢献活動の4つの新たなる視点。定期試験諸注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

第3回以降の講義から教科書の予習又は復習が必要になります。講義開始後30分以内の入場を要求します。講義開始30分以降から集中的に質問をすることがあります。不在の学生は遅刻又は欠席と理解することがあります。学生からの質問は出席カード又はコミュニケーションペーパを使用します。質問は講義中に回答するケースと個人的に回答をするケースがあります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	基本概念や語句の理解を前提に、現実のフィランソロピィやCSRに対する真摯な講義出席での勉学を試す問題を出す。答案内容は理論ではなく実学としての事例であるか否かを重点評価します。

平常点評価	50 %	講義中3回は宿題を出します。その内容評価で平常点評価をします。講義出席は所定日数の3分の2以上の授業に出席して、指示した宿題やレポートを提出した学生のみを成績評価の対象とする。宿題提出皆無と講義出席回数が3分2未満の学生は単位認定はしません

講義中は特に質問をして講義秩序の維持及び、出席確認をすることがある。
教科書は講義受講者は必ず購入を条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実学を基調としますから、就職活動や体育関係行事などで講義欠席が多い学生にはこの講義は不向きです。
時事テーマを多用するから、新聞やメディア報道を常時注意してください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
CSR時代の社会貢献活動	日本経団連社会貢献委員会／日本経団連出版／978-4-8185-2833-8／

教科書の在庫状況によって教科書を変更することもあります。教科書以外の教材は毎回講義で配布する。講義資料（レジュメ）の在庫は1週間前のものだけを在庫確保しておきます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
CSR入門	岡本亮二／日経文庫／4-532-11040-8／
社会責任投資の基礎知識	秋山をね・菱山隆二／岩波アクティブ新書／4-00-700108-1／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

宿題の代理虚偽作成、出席カードに不正があれば、単位認定で処分することがあります。宿題指示日はゲストスピーカーの招聘日程の都合で変更することがある。

福祉政策論（S） § 福祉政策論（SG）

13251

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会福祉制度の総論（理念）と各論を区分し、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。
(1) 社会福祉制度総論：①社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴、②社会保障・福祉制度の成立史、③社会福祉の理念（障害概念の把握、障害文化、ノーマライゼーション、自己決定、脱施設化）、③社会福祉施設、④社会福祉法
(2) 社会保福祉度各論：①障害者福祉、②高齢者福祉。③公的扶助（生活保護）

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は現在の日本の社会福祉制度を体系的に把握し、その現代的課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。
(1)日本の社会福祉制度の今日的課題を諸外国と比較して把握できるような素養を身につける。
(2)日本の社会福祉制度における今日的課題の解決策のあり方について、福祉先進国での取り組みを必要に応じて参照して考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉、社会保障論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴	社会保険、社会福祉、選別主義と普遍主義、社会支出、貧困率
2	イギリスと日本の社会福祉制度の成立史	救貧法、リベラルリフォーム、「ベヴァリッジ報告」、恤救規則、救護法、生活保護法、福祉六法
3	社会福祉の理念(1)―社会福祉と対立する概念―	社会防衛思想、優生思想、出生前診断
4	社会福祉の理念(2)―障害概念の把握―	インペアメント、ディスアビリティ、医療モデル、社会モデル
5	社会福祉の理念(3)―障害文化―	尊厳死、ろう文化
6	社会福祉の理念(4)―ノーマライゼーション―	自己決定、バリアフリー、脱施設
7	社会福祉の理念(5)―脱施設化―	在宅サービス、通所施設
8	社会福祉の施設と脱施設化	グループホーム、里親、施設の社会化、小舎制、ユニットケア
9	社会福祉法	措置制度、契約制度、福祉事務所
10	障害者福祉	障害者自立支援、応益負担、サービス供給の地域格差
11	高齢者福祉	介護保険、保険料、利用者負担、介護報酬、支給限度額
12	現代の貧困と公的扶助（生活保護）制度（1）	貧困率、野宿者(ホームレス)、ワーキングプア、母子世帯
13	現代の貧困と公的扶助（生活保護）制度（2）	生活保護制度の原理と原則、居宅保護、施設保護
14	現代の貧困と公的扶助（生活保護）制度（3）	生活保護適正化、母子加算と老齢加算、ホームレス自立支援プログラム
15	まとめ	社会保障制度に対する人々の支持に関する判断基準(必要性、自助努力、同一性、互酬性)、サービスの普遍性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会福祉制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	授業内容に関わるミニレポート(400字以上、600字以内)に基づいて評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望ましい。また、社会福祉の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『くらしに活かす福祉の視点』	宮本信義編著／ミネルヴァ書房／4-623-04546-3／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西) ・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

福祉発達史（S）

13277

担当者名 / Instructor　福住 節子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2008年からの世界的不況の中、社会福祉の課題はその重要性と緊急性を増している。日本においては、「派遣切り」が社会問題となり、「労働者派遣法」の改正の問題点が指摘されている。このように、過去の出来事がそれ以降の状況へとさまざまな影響を及ぼしていることは、「歴史とは、現在と過去との対話である」（E・H・カー『歴史とは何か』）という言葉の重さを再認識させる。

本講義では、貧困救済から始まったイギリスの社会福祉を出発点として、世界と日本の社会福祉の発達を概観しながら、その過程において、歴史を動かす原動力となったものは何か、また人々の状況はどのようであったか・・・を考え、社会福祉の変遷が、現在に、そして未来に伝えて行くことは何なのかを考え合ってゆきたい。とりわけ、人々が社会的に生きてゆく上での、社会福祉・社会保障の必要性・重要性を、発達の歴史的経過の中で実感するとともに、国の政治・経済という大きな存在と、一般人としての個人との関わりについて、今日的課題と連動させながらみなさんと一緒に考え合ってゆきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

○社会福祉の発達過程を学ぶ中で、それらを「歴史的事実」としてのみ捉えるのではなく、その変遷の意味　することや、今後の社会福祉の発展に何が必要かという課題についても考えることができること。
○社会福祉発達の歴史に、多面的な興味関心を持つこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション：社会福祉の歴史を学ぶ意義	
2	ヨーロッパにおける古代及び中世紀までの貧困の救済	
3	絶対王政下での救貧政策（イギリス救貧法の形成過程）	
4	市民革命期の救貧の在り方	
5	産業革命期の救貧の在り方（新救貧法の形成過程・目的・評価）	
6	社会事業の組織的展開①（慈善組織協会・セツルメント）	
7	社会事業の組織的展開②（教育分野・医療分野）	
8	大恐慌期から1940年代の「福祉国家」と社会福祉	
9	第二次世界大戦後における社会福祉の展開過程	
10	スウェーデンにおける「福祉国家」の建設と発展	
11	日本における社会福祉の発展過程ー戦前①（明治期の福祉政策）	
12	日本における社会福祉の発展過程ー戦前②（民間慈善事業と感化救済事業）	
13	日本における社会福祉の発展過程ー戦後①（戦後改革）	
14	日本における社会福祉の発展過程ー戦後②（「高度経済成長」と社会福祉）	
15	まとめ と テスト（またはレポート）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終講義試験
平常点評価	50 %	小レポート・討論など

○受講者数によっては、可能な限り個別のプレゼンテーションや、グループ討論等も取り入れ、それらへ　の積極的姿勢も併せて評価したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

○文献やTVのドキュメンタリーなどでも、福祉発達史を学ぶ上で参考になるものなどを活用されたい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用せず、随時資料等を配布する。

参考書 / Reference Books

授業にて、適宜提示する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉労働論（S）

13270

担当者名 / Instructor　今村 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「人権・発達保障のための福祉労働―その阻害要因と克服の展望を探る」
介護保険制度や障害者自立支援法に見られるように、わが国の社会福祉制度はこの10年の間に大きく変化し、さらに今後、保育制度や生活保護制度の抜本的な「改革」が検討されようとしている。そして、このような一連の「改革」によって、福祉の現場には市場原理にもとづく事業者間の競争が持ち込まれ、本来の目的に沿った福祉労働の発展が阻害される状況が生み出されている。この授業では、ビデオや資料を活用して各福祉現場が直面している問題状況を明らかにし、解決と克服のための課題と展望について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉の理念と現実との乖離、それが生み出される要因について理解する
製造業や農業とは異なる福祉労働の固有の特徴について理解する
社会福祉政策、社会福祉の拡充を求める要求や運動との関連で福祉労働の位置と役割を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講師の自己紹介と講義概要の紹介	
2	社会福祉とは何か？　福祉労働とは何か？	貧困、社会問題と生活問題、対人援助とコミュニケーション、生存権と発達権
3	社会福祉の「改革」をめぐる政策動向が意味するもの	措置から契約へ、選択と自己決定、応能負担から応益負担、市場原理
4	高齢者と家族への専門的な相談援助の担い手と援助内容を考える	介護保険、ケアマネジメント、接近困難ケース、権利擁護、地域包括支援センター
5	ホームヘルパーの労働と介護保険制度	トータルに生活を捉える、介護と生活援助（家事援助）、コミュニケーション
6	高齢者施設・グループホームにおける介護労働を考える	「ルポ老人病院」、身体拘束、ノーマライゼーション、ユニットケア
7	障害者福祉分野における制度「改革」と福祉労働（1）―措置制度から支援費制度へ―	社会福祉基礎構造改革、応能負担の維持、支給量決定、障害者ケアマネジメント
8	障害者福祉分野における制度「改革」と福祉労働（1）―支援費制度から障害者自立支援法へ―	介護保険との統合論、グランドデザイン、応益負担、三障害の統合、障害者運動の抵抗と「見直し」の動向
9	精神保健福祉分野における制度「改革」と福祉労働	地域精神医療と精神保健福祉、障害者自立支援法による三障害の統合
10	生活保護「適正化」政策のもとでの管理的・反福祉的公的扶助労働	ヤミの北九州方式と餓死事件、適正化政策、違法な制度運用の蔓延、派遣切りへの対応
11	福祉労働としての公的扶助労働の可能性を示す先進的実践例	3つの自立、自立支援プログラム、板橋区、京都府山城北福祉
12	生活保護制度と公的扶助労働をめぐる歴史的経過と今後の展望	小山進次郎、岸・仲村論争、「自立」概念の歴史的変遷、ワークフェア
13	生活問題をどのように把握し、どのように解決をはかるか	人権視点、生活アセスメント、当面の解決策と抜本的な解決策、ネットワークとソーシャルアクション
14	社会福祉政策、社会福祉の拡充をめざす要求・運動と福祉労働	社会福祉の三元構造、雇用・労働問題、ナショナルミニマム、制度的解決と個別的解決
15	補論・フリーディスカッション・まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

多くの資料を配布する予定であり、授業の中では全てを詳しく説明できないと思われるが、可能な限り事後に目を通して復習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義内容についての理解度とともに、テーマに対して主体的なアプローチがどのようになされているかを評価
平常点評価	20 %	出席状況及びコミュニケーションカードに記載された感想や意見などを総合的に判断して評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

（1）配布資料はファイル等に整理して保管し、毎回の講義に持参すること。

（2）コミュニケーションカードの提出によって出欠確認をおこなうので、最低限、学生番号と氏名については記入して提出すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	／／／

なし。毎回の授業で資料を配布する他、随時、教材としてビデオを使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉方法原論の展開	植田章・結城俊哉編著／高菅出版／／
現場がつくる新しい社会福祉	総合社会福祉研究所編／かもがわ出版／／
改定新版 これが生活保護だ	尾藤廣喜・松崎喜良／高菅出版／／
高齢・精神障害者とホームヘルパー	石田一紀・泊イクヨ・藤田博久著／萌文社／／
自治体は高齢者介護にどう責任を持つのか	石川満・小川栄二・加茂圭三ほか著／萌文社／／
障害者自立支援法と人間らしく生きる権利	障害者生活支援システム研究会編／かもがわ出版／／

テキストは使用せず、適宜配布する資料、ビデオ等をもとに講義を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/index.html　WAM NET（ワムネット）http://www.wam.go.jp/
総合社会福祉研究所　http://www.sosyaken.jp/
21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会　http://www.roufukuren.jp/index.html
きょうされん　http://www.kyosaren.or.jp/　全国障害者問題研究会　http://www.nginet.or.jp/
生活保護問題対策全国会議　http://seihokaigi.com/default.aspx
全国公的扶助研究会　http://kofuken.main.jp/
全国児童養護問題研究会：http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/

その他 / Others

文化理論 (S)

15557

担当者名 / Instructor　森重 拓三

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「文化を生きる」という観点から、代表的とおもわれる「文化理論」を紹介・整理し、「生きること」と「文化」との関わりを「社会学的」に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

どのような関心から「文化」の問題に出会うのか。「生の形式」としての「文化」に関する問題を、1.文学、2.文化人類学、3.精神分析、4.文化社会学などの様々な切り口からみることで、「生活のなかの文化」を捉える視点を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入　全体構想の提示	
第2回	文化と文化理論の整理軸①　ー文化の語り方ー	学者の語り方 / 小説家の語り方 / 想像力の問題
第3回	文化と文化理論の整理軸②　ー文化の採集の仕方ー	他文化の採集 / 自文化の採集 / インタビュー、民話など
第4回	文化と文化理論の定義　ー文化の「語り方」「採集の仕方」を基準にした整理ー	「文化」と「文化理論」と「文化理論の理解」の関係
第5回	機能主義的な文化理論　ー『西太平洋の遠洋航海者』(B.マリノフスキー著)を読むー	クラの交換・呪術(トロブリアンド諸島のマッシム人) / 装置としての文化 / 有機的全体の仮説
第6回	構造主義的な文化理論(1)　ー構造言語学(F.d.ソシュール)から構造人類学へー	言語体系と言語行為 / 言語記号の内容面と表現面 / 恣意性と必然性
第7回	構造主義的な文化理論(2)　ー『悲しき熱帯』(C.レヴィ=ストロース著)を読むー	身体塗飾と村落形態(ブラジルのインディオ) / 非対称と対称の紋様 / 階級と半族
第8回	解釈学的な文化理論(1)　ー解釈とはー	意味措定・解釈された生活 / テキスト / ローカル・ノレッジ
第9回	解釈学的な文化理論(2)　ー「バリの闘鶏に関するノート」(C.ギアーツ)を読むー	闘鶏(バリ島のバリ人) / 闘鶏の解釈(地位関係の代理闘争) / 解釈図式の問題(誰の解釈か)
第10回	小テスト	
第11回	言語論的な文化理論(1)　ー「甘え」との向き合い方ー	「甘え」の発見 / 「甘え」に関する「ことば」 / 「甘え」の社会関係
第12回	言語論的な文化理論(2)　ー『「甘え」の構造』(土居健郎著)を読むー	「甘え」 の体験 / 言語 / 経験
第13回	言語論的な文化理論(3)　ー『「いき」の構造』(九鬼周造著)を読むー	「いき」の内包的構造(媚態・意気地・諦め) / 「いき」の外延的構造(類似概念との整理)
第14回	文化理論の基礎づけ(1)ー文化の問題を「生の形式」としての言語から考えるー	文化装置としての言語 / 非言語的行為 / 言語的行為
第15回	文化理論の基礎づけ(2)　ー文化の基礎概念(定義、採集、観察、解釈、機能、構造等)の整理ー	言語、行為、意味 / 生の形式 / 生の内容 / 私的体験 / 間主観的体験

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	文化研究の理論と方法、基礎概念などの学習到達度をテスト
平常点評価	20 %	講義で学んだテーマを具体的事例にどのように応用し、また学問的な方法によって適切に言い表すことができるかをテストします

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教室で指示します

教科書 / Textbooks

教科書は未定。講義レジュメを教材として用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
物語のなかの社会とアイデンティティ	佐藤嘉一／晃洋書房／／
社会的世界の意味構成	アルフレッド・シュッツ／木鐸社／／
社会学の根本概念	マックス･ヴェーバー／岩波書店／／
悲しき熱帯	レヴィ＝ストロース／中央公論社／／
「甘え」の構造	土居健郎／弘文堂／／

以下の文献を読むことを薦めます。
佐藤嘉一『物語のなかの社会とアイデンティティ』
M.ウェーバー『社会学の根本概念』

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア社会論（S）

15490

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

メディアが社会的なテーマを設定し、その“世論”が社会を動かしていくという現代社会の情報循環にあって、とりわけ「映像ジャーナリズム」が果たす役割は決定的ともいえるほどである。この授業では、映像ジャーナリズムの成立と変遷、特に戦争報道の変容を軸として、現代メディアの課題をさぐり、さらにジャーナリズムの原点や、オルタナティブなメディア社会のありかたを考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

●映像ジャーナリズムが登場した歴史的/政治的/文化的背景を知る
●際立った映像ジャーナリズムの属性（機能と特性）を理解する
●その映像を記録した人の生き方、誰がどういう立場で撮ったかを感得する
●現代の映像ジャーナリズムがもたらす課題を批判的に理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　～恐竜の跋扈する中で～	V鳥の巣、授業全体のねらい、20世紀とジャーナリズム
2	「正義のジャーナリズム」	ベトナム戦争報道、戦争報道の3つの時代、プロパガンダへの反省、メディア研究
3	報道グローバリズムの開幕	湾岸戦争報道、情報コントロール、冷戦の終結、ベトナムの教訓、衛星グローバリズム
4	北朝鮮報道	冷戦、メディアコントロール、「再会」、日本の外交と主流メディア
5	イラク戦争報道の諸問題	総合的な統制、NNN戦争報道論点」、電子化した情報・映像、メディアコントロールとのたたかい、戦争広告会社
6	映像の誕生・進化と社会化	リュミエール、テキストジャーナリズム、映像ジャーナリズム、身体感覚性、通俗性、多義性
7	キャパ神話	フォト・ジャーナリズム、キャパ、30年代内戦の時代、カメラ、マグナム、Days Japan、
8	大本営発表	映像の影響力、プロパガンダ、「レイテ」、情報統制、プロパガンダ映画、日本ニュースの表現
9	エド・マローの世界	リベラル・ジャーナリズム、「シー・イット・ナウ」、イデオロギー支配への反省、テレビの時代、マッカーシズム
10	鉄のカーテン崩壊	撮影・中継技術の飛躍、ENG・SNG、FPU、現場中継、アキノ革命、天安門事件・ベルリンの壁報道
11	ドキュメンタリーというジャーナリズム	「苦海浄土」、水俣病、石牟礼道子、木村栄文、演出と構成
12	ダイアナ事件を読む	「ダイアナ事件」、メディア・スクラム、カメラと取材の他者性・暴力性、表現の多義性、エンコーディング/ディコーディング
13	「発掘！あるある大事典Ⅱ」の発掘	テレビ制作の構造と倫理、調査委員会、BPO、企業ジャーナリズム
14	対抗的ジャーナリズム	「瀋陽事件」、増山たづ子、独立ジャーナリスト、フレームの外、アルジャジーラ/目で聴くテレビ
15	市民社会とジャーナリズム・再論	ジャーナリズムの立場性/津田の立場性、当事者/代理者、表現の主体

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・（映像）ニュースをよく見ること
・日常的にドキュメンタリー映像を観察すること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版・ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄/林利隆ほか／世界思想社／／
ドキュメント　戦後放送史　上・下	松田浩／双柿舎／／
国際紛争のメディア学	橋本晃／青弓社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Issues of Democracy (SA)

12837

担当者名 / Instructor　HOSACK IAN

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

到達目標 / Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukunsenko Programme.
Preferably, students will already have completed Academic English I, II & III before taking this course.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Defining democracy: key concepts and questions Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
2	Athenian democracy Reading from Robert Dahl, 'Democracy & Its Critics'	
3	How democratic was Athenian democracy? Reading from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
4	The Second Transformation: Democracy as Representative Government　Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
5	Virtual Democracy? The democratizing potential of the Internet#1 Reading: 'Virtual Democracy?' tapescript	
6	Digital democracy: The democratizing potential of the Internet#2 Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
7	Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'?　Written assignment: Should voting be compulsory?	
8	Should voting be compulsory?　Readings Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuiness, 'The case against compulsory voting'	
9	Measuring democracy: Basic criteria Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
10	Measuring democracy: The Freedom House index Reading from Freedom House, 'Freedom In The World'	
11	The Third Wave of Democracy Reading Renske Doorenspleet, 'Reassessing the Three Waves of Democratization'	
12	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#1 Reading & Research activity – Afghan democracy	
13	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#2 Reading from James Fishkin, 'The Voice of the People'	
14	Deliberative Polls – a new initiative for democracy	
15	Final Examination and Course Summary	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenko Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.
2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts – that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).
2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)
3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly – either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
On Democracy	Robert Dahl／Yale University Press／0300084552／A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Freedom House http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1
International IDEA http://www.idea.int/

その他 / Others

Issues of Democracy (SB)

10078

担当者名 / Instructor　HOSACK IAN

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

到達目標 / Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukunsenko Programme.
Preferably, students will already have completed Academic English I, II & III before taking this course.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Defining democracy: key concepts and questions Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
2	Athenian democracy Reading from Robert Dahl, 'Democracy & Its Critics'	
3	How democratic was Athenian democracy? Reading from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
4	The Second Transformation: Democracy as Representative Government Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
5	Virtual Democracy? The democratizing potential of the Internet#1 Reading:'Virtual Democracy?' tapescript	
6	Digital democracy: The democratizing potential of the Internet#2 Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
7	Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'? Written assignment: Should voting be compulsory?	
8	Should voting be compulsory? Readings Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuiness, 'The case against compulsory voting'	
9	Measuring democracy: Basic criteria Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
10	Measuring democracy: The Freedom House index Reading from Freedom House, 'Freedom In The World'	
11	The Third Wave of Democracy Reading Renske Doorenspleet, 'Reassessing the Three Waves of Democratization'	
12	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#1 Reading & Research activity – Afghan democracy	
13	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#2 Reading from James Fishkin, 'The Voice of the People'	
14	Deliberative Polls – a new initiative for democracy	
15	Final Examination and Course Summary	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenko Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	assessment based on weekly homework assignments, quizzes and in-class participation

1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.
2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts – that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).
2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)
3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly – either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
On Democracy	Robert Dahl／Yale University Press／0300084552／A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Freedom House　http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1
International IDEA　http://www.idea.int/

その他 / Others

NPO・NGO論（S）

13284

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを1-2回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO——政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②——NGOでの職員の働き方を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係——「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として——	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係——アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として——	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO——地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から——	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度——1998年のNPO法成立の背景から——	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化——NPOの介護保険制度への参入を事例として——	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較——Linuxの成功から——	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発——パブリックリソースセンターの取り組みから——	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「F」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など
②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/

その他 / Others

家族社会学 (S)

13330

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、自分の家族関係を含む現代の家族変動の趨勢を客観化し、批判的に読み解くことを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	家族研究の課題	家族の定義
第2回	家族社会学史①	ライフサイクル　ライフコース　ライフスタイル
第3回	家族社会学史②	パーソンズ　近代家族　社会システム
第4回	「近代家族」以前の家族	伝統家族　直系家族　親族
第5回	「近代家族」の成立	アリエス、子ども、主婦、母性愛
第6回	日本における「近代家族」の成立	戸籍制度、専業主婦、企業戦士、性別役割分業、夫婦別姓
第7回	「近代家族」と結婚①	宮廷恋愛、恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー
第8回	「近代家族」と結婚②	未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望
第9回	「近代家族」の病理	デートDV、恋愛依存症、共依存
第10回	「近代家族」の病理②	閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待
第11回	「近代家族」のゆらぎ①　結婚をめぐる変化	離婚　再婚　同性婚、ドメスティック・パートナー法
第12回	「近代家族」のゆらぎ②　子育ての「社会化」	育児休業制度　パパ・クォータ制
第13回	「近代家族」のゆらぎ③　介護の「社会化」	介護保険制度、遠距離介護、男性介護者
第14回	「近代家族」のゆらぎ④　生殖技術	生殖技術、不妊
第15回	私たちがつくるこれからの家族	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事件、映画、小説といった家族に関するトピックスを意識的にチェックすること。講義の理解を深めるために、講義で関連する参考文献を適宜提示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
平常点評価	50 %	講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメについては、WebCTにおいて公開する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
迷走する家族	山田昌弘／有斐閣／4641173125 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

資源エネルギー論（S） § 環境技術論（S）

13372

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ライフスタイルと環境負荷の関係を問うものである。
よく知られているように、温暖化をくいとめるために必要な二酸化炭素の削減量は、現状の約60%と伝えられる。この量は、現状の省エネやリサイクル活動を積み重ねることで達成できるレベルをはるかに超え出ているように思われる。これを問題設定の出発点とする。
この問題を根本的に解決していくには、現今の生活スタイルを劇的に転換していく必要がある。基本的にはエネルギー消費を劇的に減らすことであるが、それが可能となるライフスタイルについては、さまざまな選択肢がある。この講義では、現今の技術システム、ライフスタイルがどのような環境負荷をもたらしているのかについて概説し、オルタナティブなライフスタイルを模索していく。

到達目標 / Attainment Objectives

1問題の概要（事実）をつかむこと
2問題を処理する論理の概要をつかむこと

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養の現代環境論をとっていると理解の助けになる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入　資源エネルギーの考え方	資源エネルギー
第2回	地球環境問題概説　1	温暖化
第3回	地球環境問題概観　2	公害論と地球環境問題
第4回	自然史の中の人間	進化　自然
第5回	資源とエネルギー1	エネルギー政策　電力発達史
第6回	資源とエネルギー2	化石燃料　資源寿命
第7回	原子力問題	原子力　放射能
第8回	再生可能エネルギー論1	風力発電　電力コスト
第9回	再生可能エネルギー2	太陽光発電　電力支援政策
第10回	交通体系とエネルギー消費	LRT
第11回	資源とリサイクル　1　概論	3R　消費生活
第12回	資源とリサイクル　2　石油とプラスティック	容器包装法　PET
第13回	資源とリサイクル　3　耐久消費財	家電リサイクル法　PSE法
第14回	資源とリサイクル　4　希少金属	タンタル
第15回	全体まとめ　日本の資源エネルギー政策	エネルギー政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理をよく理解すること

テキストがないので、欠席すると全体の流れがつかめなくなります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

なし

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『エネルギーと私たちの社会』	J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン／新評論／ISBN4-7948-0559-4／
『新・地球環境論』	和田武／創元社／ISBN4-422-40017-7／

随時追加で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中指示します。

その他 / Others

なし

環境保全論（S）

13362

担当者名 / Instructor　和田 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「地球温暖化を防止する持続可能な社会の構築」 20世紀後半以降、展開されてきた「物」と「エネルギー」の大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持続不可能な社会である。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例の分析に基づいて明らかにし、地球温暖化を防止し、持続可能な社会を構築するための条件を論じる。

到達目標 / Attainment Objectives

地球温暖化防止や、これまでの持続不可能な生産・消費システムの持続可能なものへの転換の国内外の取り組みについての理解を深め、転換するための方策について考察し、実践する力を身につける。さらに、自らの生き方のなかに環境保全的要素を導入し、地球温暖化防止と持続可能な社会構築の主体者として成長する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	地球温暖化問題の現状	大量生産消費システム、化石資源、地球環境問題、地球温暖化、温室効果ガス、気候変動、海面上昇、地球温暖化懐疑論
2	地球温暖化の未来予測	未来社モデル、CO2排出予測、地球温暖化、未来予測、気候変動、海面上昇、不可逆的環境破壊、破滅的環境破壊、地球温暖化懐疑論
3	地球温暖化防止条件と持続可能な社会、生産消費システム	温暖化防止条件、持続可能な社会、持続可能な生産消費システム、持続不可能な生産消費システム、物的生産、エネルギー生産、再生可能エネルギー、資源循環
4	日本の物的生産消費における資源循環利用の現状と問題点	日本、物的生産消費、資源循環利用、廃棄物、3R、リサイクル制度、容器包装リサイクル、製品リサイクル、循環型社会
5	諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツ、欧州諸国の容器包装リサイクル	資源循環利用、ドイツ、EU、容器包装リサイクル、拡大生産者責任、DSD社、環境税、デポジット制度、
6	諸外国の資源循環利用対策(2)製品リサイクル	諸外国、資源循環利用、製品リサイクル、家電製品、自動車、拡大生産者責任、
7	日本の地球温暖化防止、エネルギー利用の現状と問題点	日本、世界、エネルギー、省エネ、化石資源、石油、石炭、天然ガス、原子力、再生可能エネルギー、地球温暖化防止、京都議定書、CO2
8	諸外国の温暖化防止エネルギー対策(1)環境先進国：デンマーク	エネルギー、デンマーク、再生可能エネルギー、風力発電、バイオマス、電力買取補償制度、地域暖房, 市民参加
9	諸外国の温暖化防止エネルギー対策(2)飛躍するドイツの再生可能エネルギー；普及制度と風力発電	エネルギー、ドイツ、再生可能エネルギー、風力発電、アーヘンモデル、電力買取補償制度、再生可能エネルギー法、市民参加、地域活性化
10	諸外国の温暖化防止エネルギー対策(3)飛躍するドイツの再生可能エネルギー；太陽光発電、バイオマス利用、その他	エネルギー、ドイツ、再生可能エネルギー、太陽光発電、バイオマス、電力買取補償制度、改正再生可能エネルギー法、BDF、市民参加、地域活性化
11	諸外国の温暖化防止エネルギー利用(4)発展途上国のエネルギー対策；インドと中国を中心に	温暖化防止、エネルギー、発展途上国、インド、中国、再生可能エネルギー、太陽光発電、風力発電、バイオマス、地域社会、未電化地域、電化、CO2、
12	再生可能エネルギー市民普及論	再生可能エネルギー普及論、住民、市民、自治体、企業、エネルギー生産手段、所有、市民共同発電所、地域社会の発展、
13	軍事活動、戦争と地球温暖化問題	軍事的国家安全保障、環境保全的国家安全保障、軍事活動、戦争、兵器、軍需生産、CO2排出、軍事費、防衛費、環境保全対策費、スターン報告、GDP,
14	新たな地球温暖化防止の国際的枠組みを考える；COP15開催を控えて	COP15、コペンハーゲン、地球温暖化防止、国際的枠組み、中長期目標、先進国、途上国、
15	地球環境保全と社会発展	持続可能な社会、社会発展論、再生可能エネルギー、資源循環、市民の生産関与、生産手段の民主的社会化、社会発展プロセス、

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

参考書等による自主的な学びを積極的に進めてほしい。日常的に環境問題に関わる動向を新聞等を通じて認識することも重要である。そのような環境保全に関する自主的な学習、調査、実践等の成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法、回数は自由。提出期限は最終講義)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
レポート試験	0 %	提出義務のあるレポートは課さないが、自主レポートの提出は何回でも可能である。そのなかで優れたレポートの場合、成績評価にプラスアルファすることがある(下記備考参照)。
平常点評価	20 %	授業の感想、意見、質問等を記述する小レポートは授業期間中、随時、数回提出を求める。

定期試験を実施する。定期試験に日常点(小レポート)を加味して成績評価する。評価の比重は、上記の通り。なお、優れた「自主レポート」については、内容により一つにつき最大10点まで成績評価に加算する(優れていると判断できない場合は加算されないので注意)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義はまじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)の提出を求めるので、必ず提出すること(後日の提出は認めない)。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、参考書のうち『飛躍するドイツの再生可能エネルギー』は準教科書的書籍である。下記のなかで、この書籍を含めて、少なくとも2冊は読むこと。読んだ場合、感想文を自主レポートして提出することを勧める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
飛躍するドイツの再生可能エネルギー	和田　武／世界思想社／978-4-7907-1346-3／ドイツの温暖化防止、再生可能エネルギー普及政策や事例から学ぶ。
市民・地域が進める地球温暖化防止	和田武・田浦健朗／学芸出版／978-4-7615-2407-4／地球温暖化防止の取り組み事例も豊富に掲載。
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク／中央法規／／地球温暖化についての全般的理解を獲得できる。
地球温暖化の予測は正しいか？	江守正多／化学同人／978-7598-1620-3／地球温暖化の未来予測についての科学的理解を深められる。
新・地球環境論	和田　武／創元社／／地球環境問題全般を学べる。
環境事典	日本科学者会議／旬報社／／あらゆる環境問題関連の用語解説
環境問題資料集成	日本科学者会議／旬報社／／国内外の環境関連資料とその解説
地球白書2007-08	C. フレイヴィン／ワールドウヲッチジャパン／978-4-948754-28-7／ワールドウヲッチ研究所が毎年編集。主要環境課題の解説。
地球環境問題入門	和田　武／実教出版／／地球環境問題の入門書
地球環境データブック2007-08	C. フレイヴィン／ワールドウヲッチジャパン／978-4-948754-29-4／「地球白書」のデータ版
必読・環境本100冊	石弘之／丸善／／各分野の環境関連書籍を選択する上で参考になる。
地球温暖化防止の市民戦略	気候ネットワーク／中央法規／／地球温暖化防止のための市民の課題
21世紀世界のリサイク	ジェトロ・ワールドナウ／JETRO／／世界各国のリサイクルを学べる。
環境思想の研究	岩佐茂・劉大椿／創風社／／環境思想に関する研究書
環境問題を哲学する	関西唯物論研究会／文理閣／／環境問題に関する哲学的研究書

その他、和田武『環境問題を学ぶ人のために』世界思想社、循環型社会法制研究会『循環型社会形成推進基本法の解説』ぎょうせい、日本科学者会議『地球温暖化防止とエネルギーの課題』水曜社、佐藤由美「自然エネルギーが地域を変える」学芸出版、エネルギー推進市民フォーラム「よくわかる自然エネルギー」合同出版、などを推薦する。また、これまで環境問題について専門的に学んでいない大学生にとって、『21世紀子ども百科・地球環境館』小学館は、かなり高いレベルの内容を備えており、図表や写真が豊富で理解しやすく参考にできる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省;http://www.env.go.jp/、気候ネットワーク;http://www.jca.apc.org/kikonet/、自然エネルギー市民の会;http://www.bnet.jp./pare/、厚生労働省;http://www.mhlw.go.jp/、日本容器リサイクル協会;http://www.jcpra.or.jp/、環境goo;http://eco.goo.ne.jp/、資源エネルギー庁;http://www.enecho.meti.go.jp/、NEDO(新エネルギー産業技術開発機構);http://www.nedo.go.jp/、 など。

その他 / Others

できるだけ欠席しないこと。自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎するが、メールよりも、授業終了後に直接、質問するほうがやり取りができるので理解しやすい。

環境論（S）§　環境問題論（S）

15507

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

環境問題の一層の深刻化を考えれば、21世紀の社会が今日のような経済体制、企業行動、ライフスタイルの単なる延長として存在できないことは明らかであり、人類史のうえで新しい行動規範を必要としている。こうしたなか複雑化する環境破壊現象の法則的解明を目指し、現代社会における公害・環境問題がいかなるメカニズムで発生しているのかを社会科学的に分析し、その解決策を提示することを課題とする「環境論」の発展が求められている。

本講義では、環境破壊の歴史と人間の社会的活動とのかかわりを概観したうえで、公害問題、廃棄物問題、エネルギー問題、自然破壊問題、地球環境問題などについて歴史的・多角的視点から考察する。また、公害・環境問題と人間社会との関係一般についての基礎理論を概説しつつ、持続可能な社会の実現の諸条件について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

・公害・環境問題に関する基礎理論や社会的要因について多角的視点から理解できる。
・公害・環境問題を歴史的脈絡のなかで捉えることができる。
・公害・環境問題の解決の方向性について自己の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代環境論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに－環境論の射程	環境問題とはなにか、物質代謝、労働過程、生産力
第2回目	環境問題の歴史（1）農業と環境問題	狩猟・採集と移動生活、農業の開始と定住社会の成立、家畜と病原菌、農業の意義
第3回目	環境問題の歴史（2）産業革命と環境問題	機械制大工業、工業都市の形成と公害問題、ロンドンスモッグ事件、市場経済と資本主義
第4回目	日本の公害問題の歴史（1）四大鉱害	戦前の公害問題、製銅業の発展、足尾鉱毒事件、別子銅山煙害事件
第5回目	日本の公害問題の歴史（2）四大公害	熊本水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、石油化政策
第6回目	大気汚染公害	コンビナート公害と道路公害、都市型複合大気汚染、西淀川大気汚染公害、尼崎大気汚染公害
第7回目	公害・環境問題に関する諸理論	地球環境問題、外部負経済論、社会的費用論、生産関係論
第8回目	中間試験（60分）	試験範囲は第1回～第7回目まで
第9回目	地球温暖化問題とエネルギー（1）	気候変動問題、京都議定書、日本の温室効果ガス排出量、直接排出と間接排出
第10回目	地球温暖化問題とエネルギー（2）	日本のエネルギー政策、原子力立国論、環境税、国内排出量取引制度
第11回目	廃棄物問題とリサイクル（1）容器包装リサイクル	廃棄物処理の優先順位、拡大生産者責任、容器包装リサイクル法、寝屋川病
第12回目	廃棄物問題とリサイクル（2）耐久消費財のリサイクル	リマニュファクチャリング、自動車リサイクル法、多品種大量生産、リサイクル設計
第13回目	自然（生態系）破壊問題	熱帯林破壊、構造調整プログラム、ODA、貧困と環境破壊
第14回目	まとめ（1）	大量生産・大量消費・大量廃棄社会、資本主義と過剰生産、モノの流れと価値の流れ
第15回目	まとめ（2）	持続可能な社会の構築、循環型社会の形成、レポートの書き方

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	20 %	第8回目に実施する中間試験を評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「現代環境論」を受講していない人は『新・地球環境論』を読んでおくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
破壊されゆく地球	ジョン・ベラミー・フォスター／こぶし書房／4875591616／
緑の世界史（上・下）	クライブ・ポンティング／朝日新聞社／4022596031・402259604X／
新・地球環境論	和田　武／創元社／4422400177／
日本公害論	加藤邦興／青木書店／4250770257／
地球環境「危機」報告	石　弘之／有斐閣／9784641173422／

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

居住環境デザイン論（S） § 都市構造論（G）

13309

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝えたい。
多くの具体的事例を通して、「空間・場（都市・まち）」の質が「ひと」の在り方（社会関係や文化等）を規定し「できごと（生活のドラマ）」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。
講義では、スライド映像等を活用しつつ、多くの事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」を読み解いていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義。

到達目標 / Attainment Objectives

人々が心地よく暮らしうる「場＝居住環境」とはなにかを知り、そのような環境を創出するための考え方や技を身に着けるための糸口を、事例とその解説を通じて自ら学び、発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「居住環境デザイン論」ってなに？「居住環境」ってなに？	本授業の視点の提供：「ひと」と「場所＝都市（まち・地域）」の関係論
第2回	だから都市はおもしろい　その1	京都歴史散歩…京都は千年の都、万古不易って本当？
第3回	だから都市はおもしろい　その2	続・京都歴史散歩…「都市」の魅力は多層性・多義性にある
第4回	だから都市はおもしろい　その3	都市はうつろいゆくもの。網目としての都市・自己創出系としての都市＝「まちづくり」の視座
第5回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その1	都市計画とはなにか
第6回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その2	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(1)
第7回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その3	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(2)
第8回	中間まとめ	
第9回	「都市」の構造を継承するこころみ　その1	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(1)
第10回	「都市」の構造を継承するこころみ　その2	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(2)
第11回	「都市」の構造を継承するこころみ　その3	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(3)
第12回	「都市」（まち）に住み続けるために　その1	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(1)
第13回	「都市」（まち）に住み続けるために　その2	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(2)
第14回	「都市」（まち）に住み続けるために　その3	新しい京都の動き
第15回	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
平常点評価	20 %	適宜（数回／半期）、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代家族論（S）

13281

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「家族のありかた」に様々な変化が起きている。この科目は、その変化とは何か、その変化の要因とは何か、これからどのような「家族」を私たちは展望出来るのか、について、考えるきっかけとなるものです。社会学を中心にしながら、経済学などその他の学問領域での調査研究をも踏まえて、多面的に現代の家族の変化の様相を見ていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会と家族の関係について理解を深める。
雇用システムの変化と家族の関係を理解する。
女性・男性のライフスタイルの変化と家族の関係理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族社会学、ジェンダー論、家族福祉、企業社会に関連する科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家族の定義	家族の多様化・個人化
2	日本の家族の現状ー統計でみる家族の変容ー	標準家族の解体・貧困家族
3	現代家族の形成	近代・近代家族・母性・性別分業
4	資本主義経済とと家族　その1	資本主義・生産と消費の分離・性別分業・無償労働
5	資本主義経済と家族　その2	家族機能の外部化・共同化・公務労働化・産業化
6	日本における近代家族の形成	日本国憲法24条・家族制度改革
7	日本における標準家族の形成	大企業労働者・性別分業・近代家族イデオロギー
8	企業社会と家族その1	大企業労働者　性別分業型家族　主婦の誕生
9	企業社会と家族　その2	性別分業型家族の標準家族化
10	企業社会と家族　その3	女性のライフコースの多様化・主婦の変容
11	「標準家族」の再生産	規範的家族政策・性別分業の再強化
12	日本型雇用システムの変化と家族　その1	新日本型経営・労働力3類型
13	日本型雇用システムの変化と家族　その2	転職社会・雇用の不安定化・セーフティ・ネット
14	生活領域の市場化と家族	公的福祉の後退　福祉の産業化　第三セクター
15	おわりにー家族のつくりかたー	個人単位・ワークライフバランス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義中に指示する参考文献、ウェブページ、資料などを積極的に活用し、学習を深めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。

数回の小レポートを課す。出席状況と理解状況の確認・コミュニケーション・ペーパーとして活用。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

取り上げる課題の追加や削除、時事的問題の挿入などのため、講義の速度・内容を若干変更する場合がある。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は講義の進行に即して適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義に有用なサイトを適宜紹介する。

その他 / Others

私語・飲食等は厳に謹んで欲しい。

現代企業論（S）

15497

担当者名 / Instructor　櫻井 純理

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1990年代以降、日本企業の多くが正規（典型）社員の長期雇用の見直しや成果主義の導入などを進める一方、非正規（非典型）社員の比率を増大させてきた。2008年には世界的な経済危機を背景に、日本国内における「ワーキング・プア」の増大やいわゆる「派遣切り」問題が表面化した。また、こうした企業の経営環境悪化や雇用慣行の変化は新たな政策課題を生じさせている。この授業では、日本企業における雇用慣行の変化に焦点を当てて、それが労働者と日本社会全体に及ぼしている諸影響について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

上述したテーマに関わる現実を正確に理解し、自分自身の意見を持てるようにすること。また、今後社会に出ていく上で、自分自身の働き方についてもなんらかの展望や指針をもてるようにすること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、雇用や労働に関わる問題に関心を持って受講してほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション（授業概要の説明）、現在の日本企業を取り巻く環境	学生アルバイトに関わる諸問題（労働基準法、労働契約法、パートタイム法）
2	様々な賃金制度（職能賃金、職務賃金の違いを中心に）	年功的賃金制度と成果主義的賃金制度：企業が導入している様々な賃金制度の事例
3	長期雇用慣行と「リストラ」問題、企業再編に伴う雇用問題の発生	解雇規制と労働契約法の制定
4	「キャリア」視点の重要性、企業内キャリア形成の類型	ジェネラリストとスペシャリスト、配属と異動の要因、キャリア・アンカー概念
5	企業間を横断する流動的なキャリア形成の特徴と課題	キャリア形成をめぐる政策の現状と課題
6	雇用の非正規化①派遣労働、請負労働、個人事業主	労働者派遣法の改正、日雇い派遣・業務請負と個人事業主の問題点
7	雇用の非正規化②「パートタイム」の問題、間接差別、均等待遇	男女雇用機会均等法とパートタイム労働法の改正
8	雇用の非正規化③ワーキング・プアの増大と「派遣切り」	新しい労働運動（「ユニオン」の可能性：首都圏青年ユニオン、ガテン系連帯など）
9	企業に「雇用責任」はあるか？	社会的セイフティネットと社会的排除・包摂に関わる課題
10	官民格差と公務労働の民営化・非正規化（公共サービスに従事する臨時・非常勤職員）	公務員バッシングの正当性と公共サービス労働に関する展望
11	長時間過密労働の問題と過労死、過労自殺	日本企業における年間労働時間の推移、なぜ長時間労働がなくならないのか
12	労働時間の弾力化（変形労働時間制・裁量労働制・フレックスタイム制）、管理監督者の労働時間、ホワイトカラー・エグゼンプション	労働時間の短縮を目指した民間企業の取り組み事例
13	ワーク・ライフ・バランスの実態と政策課題①	欧米諸国におけるワーク・ライフ・バランス政策（アメリカ、イギリス、オランダを中心に）
14	ワーク・ライフ・バランスの実態と政策課題②	日本におけるワーク・ライフ・バランスの実態、民間企業が導入している諸制度
15	講義内容のまとめと振り返り、何が雇用慣行の変化をもたらしてきたのか？	定期試験についての説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

必要に応じて適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	授業内容に関連した試験を実施する。
平常点評価	20 %	授業時間中に意見・感想を記入してもらう（15回のうち2～3回実施）。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

きまったテキストは使用せず、レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
労働ダンピング	中野麻美／岩波書店／／近年の雇用の「多様化」の問題点を具体的に論じた書。
ルポ“正社員”の若者たち：就職氷河期世代を追う	小林美希／岩波書店／／いわゆる就職氷河期に就職した若者たちの正社員労働の実態を描いたルポ。
使い捨てられる若者たち	スチュアート・タノック／岩波書店／／アメリカのファストフード労働のルポ。読み物として面白い。
はたらく若者たち　1979～81	後藤正治／岩波書店／／世の中の様々な仕事に携わる人々の労働観が伝わるルポ。社会に出る前にぜひ呼んでほしい一冊。
格差社会ニッポンで働くということ	熊沢誠／岩波書店／／日本の労働を具体的かつ平易に分析し、格差社会問題を労働の観点から検証している。
能力主義と企業社会	熊沢誠／岩波書店／／労働社会学の第一人者による日本型雇用の変化に関する分析の書。
ワーキング・プア	デイヴィッド・K・シプラー／岩波書店／／アメリカにおける低賃金労働者の実態に関するルポ。
キャリアラダーとは何か	J. フィッツジェラルド／勁草書房／／長きにわたって働くに足るような仕事をどう作るのか。アメリカでの事例に基づく議論。
何がサラリーマンを駆りたてるのか	櫻井純理／学文社／／キャリア形成の分析の授業で使用する。

その他の参考書、参考論文については授業中に適宜紹介するが、雑誌では「ビジネス・レーバー・トレンド」（JILPT）が参考になる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

現代経済論（S）

13316

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と
企業社会」について考えたうえで、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の
景気回復状況など、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「日本経済論」
と連結しておりその前半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	はじめに－問題の所在	
2.	日本経済の概況	
3.	「高度成長」と企業社会の成立	
4.	企業社会と市民社会	
5.	市民社会の概念規定	
6.	大企業体制の2類型	
7.	貿易関係と資本の対外的展開	
8.	同上（2）	
9.	不良債権問題の経過と問題点	
10.	同上（2）	
11.	六大企業集団と法人資本主義	
12.	同上（2）	
13.	日本的経営について	
14.	まとめ1－現代経済論の課題	
15.	まとめ－2現代経済論の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代産業論（S）

13318

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、国際化、情報化、サービス化の真直中にある。その土台となり基軸となっているのが諸般の産業活動である。この講義は、最近の世界的な経済危機のもとでの、日本の主要な産業動向を解説しつつ、現代産業の今後の発展方向を探る論議をしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本の主要な産業動向に関する認識を深め、各自それなりの知見に確信が持てるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済論　社会発展論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	なぜ現代産業論かー　その課題をめぐって	世界的な経済危機、日本経済の構造転換と検討を要する課題、この講義の流れの確認
第2回	日本の貿易と国内産業との連関	日本の貿易依存体質　日本産業の強みと弱み　（第3回目から主要産業の動向を検討）
第3回	鉄鋼産業	鉄鋼生産と内需の特徴、海外進出、大規模高炉企業の「合理化」
第4回	自動車産業	海外現地生産、新製品開発、輸出依存体質
第5回	電機産業	生産構造　ICT産業との関連　国際競争の激化
第6回	工作機械工業	ロボット化、世界の工作機械産業との競争と住み分け
第7回	ICT産業の進展	NGNが変えるITと通信の未来　ブロードバンド・ネットワーク、電子政府・電子自治体 メディア・コングリマリット
第8回	石油産業	過剰設備の顕在化と再編、　LPG・石炭との関係
第9回	有機化学産業	高蓄積から「合理化」へ、国際的再編
第10回	繊維産業の担い手たち	伝統産業と繊維産業、アパレル産業
第11回	金融業界の再編（1）銀行業	多国籍銀行、リージョナル・バンク、　保険業・カード会社との連繋
第12回	金融業界の再編（2）保険業	生保と損保　保険業の世界的再編
第13回	流通業界の再編	百貨店、スーパー・マーケット、コンビニ
第14回	日本農業の現状と課題	コメ自由化以後の農業、日本資本主義の再生産構造と農業
第15回	不況からどう脱出するか	雇用・技術・企画力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	基本的に定期試験で評価。
平常点評価	10 %	出席票提出の際、質問を書いて頂き、それに答える機会を設ける。その対応を若干、定期試験の評価に加味する。

出席が一度も確認できなかった受講生は、定期試験を受けても単位を認定しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

個別の産業活動に関する分析を重ねるかたちで、日本の産業構造の特質を浮かび上がらせるようにしたいと思う。それと同時に、産業企業と雇用、企業の社会的責任、企業と環境問題への対応など、のあり方を個別産業に即して言及するように努めたい。講義毎に、さらに読み進めると良い参考文献を、適宜紹介する。

教科書 / Textbooks

特になし。毎回レジメで講義を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代日本産業の構造と動態	産業構造研究会／新日本出版社／4-406-02729-7／2000年刊行、いささか古い

現代日本経済[新版]	橋本寿朗ほか／有斐閣アルマ／4-641-12297-0／2006年の新版が参考になる
日本の不平等	大竹文雄／日本経済新聞社／4-532-13295-9／成果主義賃金制度がわかる

先のも述べたように、このほか講義の中で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義の中で適宜紹介する。

その他 / Others

特になし

現代市民社会論 (S)

13452

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま社会の中で「人々の絆」が弱くなってきています。「あなたは、見知らぬ他人を信じることができるか」というアンケートに信じることができないと答えた人の割合が以前と比べて増えてきています。それとともに社会的犯罪や病理現象も増えてきているといいます。なぜでしょうか？いろいろな答えがあるかもしれません。しかし、人々が利己的になりつつあること、社会のことを考えなくなってきたことが大きな原因の一つであることは確かです。こうしたなかで市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。人々はどのようにこれまで他人と絆を結びつつ社会を形成してきたのか。またなぜ絆が弱くなりつつあるのか、それを克服することができるのか。本講義は、近代社会が市民社会として形成されてきた歴史をたどりながら、人々が市民社会のなかで個人と社会（他人）との関係をどう捉えてきたのかを思想家の議論をたどりながら見ていくものであり、そのなかで上記の問いを考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

1）近代（市民）社会形成の原理が何であったのかを、ルソー、スミスをとおして理解すること
2）現代(市民）社会の構成原理をハーバマス、パットナム、ハーストをとおして理解すること
3）現代社会において自明とされている社会・人間観を懐疑し、再考すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学
社会倫理
社会ガバナンス論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	近代市民社会の成立－フランス革命	アンシャンレジーム、ブルジョア、革命
2回目	市民社会の原理－フランス人権宣言を読む	自由、平等、博愛、所有
3回目	古典に見る社会像1－ルソーの描いた社会	自然状態、文明社会、不平等、自愛心と慈愛心
4回目	古典に見る社会像2－スミスの描いた社会	商業社会、利己心、同感の原理、正義, ホッブス
5回目	古典に見る社会像3－マルクスの描いた社会	個人と私人、貨幣物神
6回目	小括・まとめ	補足講義、また理解確認のためのアンケート、質問など
7回目	ハーバマスと市民社会1－ハーバマスの課題	東欧革命、システム世界、生活世界、植民地化
8回目	ハーバマスと市民社会2－市民的公共性	批判的公共性、熟議民主主義、公共圏
9回目	パットナムと市民社会1－ボーリング・アローン	市民社会の衰退、政治参加、市民参加、友人、家族
10回目	パットナムと市民社会2－社会関係資本と格差	社会関係資本、信頼、互酬性
10回目	小括・まとめ	補足講義、理解確認のためのアンケート、質問等
11回目	ハーストと市民社会1－社会の統治・ガバナンス	国家の市民社会化、社会ガバナンス、メタガバナンス
12回目	ハーストと市民社会2－ラディカル民主主義	社会への参加、市民社会の公共化、グローバル化と市民社会
13回目	ギデンズと市民社会1－「第三の道」	福祉国家批判、新自由主義批判
14回目	ギデンズと市民社会2－「第三の道」	アクティブ市民社会、社会包含、政府と市民社会とのパートナーシップ
15回目	市民社会とは？	様々な市民社会論の紹介。講義全体のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考査する
平常点評価	20 %	3～4回の出席をとり、それを点数に換算する

評価は、定期試験80点。出席点（5～7点）20点＝100点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中に適時参考文献を知らせるので、読んでおくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

教科書は使わない。講義はレジュメが中心となる。
なお、以下の参考文献を読むことが望ましい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『市民社会論』	山口定／有斐閣／／
『市民の政治学』	篠原一／岩波新書／／
『相対化の時代』	坂本義和／岩波新書／／
『公共性』	斎藤純一／岩波書店／／
『孤独なボーリング』	パットナム（鹿内訳）／柏書房／／

『第三の道』ギデンス（佐和訳）日本経済新聞社。

なお、適時、講義中に参考文献を知らせることとする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

公共政策論（S）

13364

担当者名 / Instructor　後藤 玲子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、公共政策の必要性とあり方について考察する。ここでいう公共政策には、広範囲の人々（見知らぬ人々も含む）の間の資源のながれをもとにして、ひとが（それがたった一人の個人であっても）直面するさまざまな困難や困窮に対応する制度や仕組みが広く含まれる。社会思想・哲学・経済学・法学・文学など異なる領域を自由にいききしながら，公共政策のベースにある考え方や心もちを探っていきたい．

到達目標 / Attainment Objectives

公共政策を論ずる際に，決まり文句にしがちな言葉（福祉や権利，自由，平等，正義，民主主義，個人の尊重，共同性，アイデンティティなど）について，自分の直面するさまざまな現実と照らし合わせながら，定義しなおす習慣をつけること．その際に，先人たちの思想や理論から豊かに学ぶこと．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	公共政策をめぐる問い　――問われていること，問うべきこと
2	個人・社会・公共	社会と公共の相違
3	市場と公共政策	再分配政策の機能（日本と世界の状況）
4	公共政策と市場の論理	自由市場の利点（匿名性・効率性・自由）と限界
5	市場の倫理と分配的正義の視点	アダム・スミス，フォン・ハイエク，アリストテレス，ジョン・ロールズの思想の対比
6	公共政策の論理	税と保険の論理的相違，公的扶助の根拠について
7	公共政策の思想1	ジョン・ロールズの正義論と格差原理
8	公共政策の思想2	功利主義，社会厚生関数の考え方
9	公共政策の思想3	アマルティア・センの潜在能力アプローチ
10	社会保障と福祉政策	日本の公共政策の特徴
11	福祉政策の改革動向（ワークフェア政策，ベーシック・インカム論）	欧米日本の福祉改革動向の方向性
12	個人の権利と公共性	社会的選択と民主主義
13	個人・コミュニティ・社会と公共政策	不完全義務と公共的相互性
14	ローカル正義・グローバル正義・世代間正義	福祉は国境を越えるか？
15	＜実質的自由＞の実質的保障に向けて：公共政策の展望	制度をつくり，動かす個人の判断と行動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

福祉や社会政策に関する他の科目を受講する中で、ふと気にかかったものの、あえなく消えてしまいがちな疑問を、できるだけ授業にもちこんでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	自由討議の際に小レポートを3回ほど課す

とにかく考える，考えたプロセスを自分の言葉で表現することが大事です．

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現代社会で進行中の公共政策，とりわけ福祉政策や社会保障に対する関心と，思いっきり抽象的な哲学や思想への関心との間をいったりきたりする講義となります．その意外性を楽しんでください．

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉と正義	アマルティア・セン＝後藤玲子／東京大学出版会／978-4-13-010110-3／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
正義の経済哲学：ロールズとセン	後藤玲子／東洋経済出版社／／

福祉ガバナンス宣言――市場と国家を超えて　　岡澤憲芙・連合総研編／日本経済評論社／／

哲学・思想の古典については文庫本で入手しやすいです．授業中にプリント配布もします．

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際教育援助論(S) § 国際教育援助論(I)

13322

担当者名 / Instructor　小原 豊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国には不就学児や非識字者が未だに大勢おり，その支援が国際的に急がれている。本授業では，国際教育援助の現状と課題について概説し，国際社会の潮流や歴史的展開にも言及しながら，教育援助における基本的な原理と実践手法を概観し，その論点整理と展望の探究を行う。また，本授業は一方的な講義形式ではなく，受講者小集団によるプレゼンテーションや議論形式を取り入れた参加型学習を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

1　国際教育援助の基本原理を理解し，発展途上国支援の諸課題を探究する力量を形成すること。
2　国際教育援助の歴史的展開を踏まえ，発展途上国支援の実践的手法について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目は特にありません。日頃から，様々な報道機関，諸外国のメディア等にも目を通して情報を比べることで，物事を多角的に考える習慣をつけて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	国際教育援助とは何か？:国境を越えて人が人の学びを支援する	国際社会の潮流，世界識字実験計画(EWLP)，援助理念と政策
第02回	国際教育援助の仕組み	ODA，円借款，無償／有償資金協力，技術協力
第03回	国際教育援助の概略史	ジョムティエン会議，ダカール行動枠組み，成長のための基礎教育イニシアチブ
第04回	世界の基礎教育の現状と課題	量的拡大と質的向上，識字率・就学率，世界銀行，女子教育，
第05回	日本による教育援助①その比較優位性:Jugyou-Kenkyuとは何か	授業研究，カスケード方式とクラスター方式，住民参加
第06回	日本による教育援助②JICAの活動と青年海外協力隊の展開	JICA，JOCV，選考・訓練・実情，自助努力，協力隊5か条
第07回	日本による教育援助③文部科学省による国際教育協力イニシアチブ	拠点システム，日本の教育経験集約，協力知見の体系化・共有化
第08回	途上国理解・支援の原理①文化的アイデンティティ	民族性，多言語・他文化社会，僻地複式モデル
第09回	途上国理解・支援の原理②持続可能性(Sustainability)	技術移転，プロジェクト評価，参加型ガバナンス
第10回	途上国理解・支援の手法①教育開発モデル	社会構造，モデル分析(ハービンソン&マイヤーズ，カミングス)
第11回	途上国理解・支援の手法②教育セクター分析	包括性と選択，優先課題，ファストトラックイニシエティブ(FTI)
第12回	国際教育協力フィールドワーク①NGOの活躍:アフガニスタンを事例に	実際に国際教育協力に勤しむNGOの方を招聘し，議論・懇談する
第13回	国際教育協力フィールドワーク②草の根交流:インドネシアを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ活動家を招聘し，議論・懇談する
第14回	国際教育協力フィールドワーク③専門家派遣:ラオスを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ専門家を招聘し，議論・懇談する
第15回	国際教育援助の論点整理と展望:支援から共生へ	世界人権宣言の理念，Education for All (EFA)，ヨハネスブルグ宣言

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本授業は一方的な伝達形式ではなく，受講者の関心や問題意識に基づいた議論を中心に進めていきます。教員の指示をただ待つのではなく，教育援助に関する課題を様々な一次資料から探究していくことが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	小集団による課題発表に対する自己評価，受講者同士による相互評価，教員評価を参照する。
平常点評価	60 %	出席を重視する。また日常点(学習態度，質問内容，討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り，開講回数の2／3以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

我々は国際社会を生きる上で，自国の文化に根ざしながらも，多様な価値観をもって異なる文化の在り方を尊重し，受け入れねばなりません。

国際教育援助については，ドナー国と被援助国が対等な立場で相互理解を深め，国際社会での共生を目指す立場で学ぶ必要があります。とかく視野が狭窄しがちな教育分野ですが，国際的な視野で教育問題を捉える経験が，受講者各位にとって大きな財産になることを願います。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際教育協力論	内海成治／世界思想社／4-7907-0910-8／教育協力分野の学際的な知識が得られる。
国際教育開発論	黒田一雄，横関祐見子／有斐閣／4-641-07697-9／多様な領域の教養が体系的に得られる。
国際教育協力を志す人のために	千葉杲弘，寺尾明人，永田佳之 ／学文社／4-7620-1359-5／専門的知識が包括的に得られる。

その他，参考図書の内容は随時紹介し，必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際協力機構(JICA)や国際教育イニシアティブの活動関連のweb site 等を随時紹介していきます。

その他 / Others

授業において不明な点，疑問に感じた点を大切にして，まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

国際社会政策論（S） § 国際社会政策論（I）

15489

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

21世紀に入って経済のグローバリゼーションが今後ますます進行すると思われますが、それとともに、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層の国際化が求められています。とはいえ、第一次世界大戦の終結とともにILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を越えて明確に国際化の方向性を示してきました。

本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、つまりグローバル・レイバー・スタンダードからのその大きな乖離の実態を歴史的に解明することを中心的な課題としています。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現れているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図しています。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会政策と国際社会政策の基本的概念をその歴史的発展の中で正確に理解できるようになること。
・日本の労働問題を初めとする多くの労働・福祉・ジェンダー・社会の諸問題に関して国際的な視点から分析できるようになること。
・「社会的公正」と「経済効率」との関係についての国際的経験（例えばCSRやSRIなど）から日本の将来に関する展望を持つことができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修しておかなければならないような科目は特別にありませんが、日常的にテレビや新聞などを通じて、労働問題や社会政策の動向に注目することが求められます。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかについて関心を持つ必要があります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ）社会政策の基礎理論　（1）社会政策とは何か	現実の社会政策、社会政策論、19世紀最大の不況
第2回	（2）社会政策の道義論	ドイツ歴史学派、分配の正義、「講壇社会主義」
第3回	（3）社会政策の政治論	ワイマール憲法、労働者参加の思想、生産政策
第4回	（4）社会政策の経済理論	生産要素としての「労働力」、労働力の創出・保全・掌握政策、譲歩・妥協としての社会政策
第5回	（5）大河内理論の問題性	相対的過剰人口、資本の有機的構成、労働生産性
第6回	Ⅱ）国際社会政策の登場　（1）国際社会政策の概念	国内社会政策、超国家的社会政策、競争条件の平等化
第7回	（2）国際社会政策の内容と性格	労働基準政策、雇用・失業政策、労使関係政策、社会保障政策
第8回	（3）国際社会政策成立への途	ダニエル・ル・グラン、スイスの国際会議提唱、ベルリン会議
第9回	（4）国際労働者保護立法協会の成立	ブリュッセル会議、1906年のベルン条約、1913年のベルン条約案
第10回	（5）第一次世界大戦とILO創設	AFLの1914年大会決議、国際労働法制委員会、ヴェルサーユ条約
第11回	Ⅲ）ILOの機能と日本　（1）ILOの機能と戦前の活動	国際労働総会、国際労働条約、フィラデルフィア宣言
第12回	（2）ILOと日本（そのー）	官選労働者代表問題、ILO第一号条約、日本のILO脱退
第13回	（3）ILOと日本（そのニ）	179号事件、結社の自由委員会、ドライヤー報告
第14回	Ⅳ）現代の国際社会政策　（1）EUの社会政策	ローマ条約、社会憲章、同一価値労働同一賃金
第15回	（2）ジェンダーと国際社会政策	女性差別撤廃条約、ILO156号条約、ポジティブ・アクション

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

既述のように日々のニュースを通じて労働・福祉・ジェンダーに関する世界の動向に注目すると同時に、就活の準備も兼ねて日本の企業や産業の状況について自ら積極的に情報を集めるよう努力して下さい。

また、各講義ごとに内容が段階的に積み重ねられていくために、やむをえない場合を除いて毎回出席しないと理解が困難になりますので、その点に注意して下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度、問題分析能力を評価
レポート試験	20 %	講義に関わる問題についてのレポートを自主的に提出してもらい、その内容（他の著者の文章を引用符も付けずに書き写すのではなく、自分の言葉で解明しているかどうか）の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歴史との関連で国際的な動向について正確に知ることなくして日本社会の科学的分析は困難だと考えられますので、常に国際的な視野からものごとを見るよう努力して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書やテキストは使用せず、毎回講義レジュメや資料を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家とジェンダー・ポリティックス	深澤和子著　／東信堂／／2003年
国際ジェンダー関係論	サンドラ・ウィトワース著・武者小路公秀（代表）監訳　／藤原書店／／2000年
社会政策―国際化、高齢化、雇用の弾力化―	石畑良太郎・牧野富夫編著／ミネルヴァ書房／／1999年
ILOとジェンダー	戸塚悦朗著／日本評論社／／2006年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ilo.org
http://www.socialeurope.com

その他 / Others

国際社会論（S） § 国際社会論（I）

13457

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がいま大きく進んでいます。世界の各国はその中に不可避に巻き込まれています。このことによって、国家の役割が大きく変わったり、また市民権のあり方をも変えつつあります。こうしたグローバル化は、いますべてを市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として進み、このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまで以上に開き、貧困が深刻な問題となってきています。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

1）世界はグローバル化しているのか、しているとすればどのような意味でそうなのかを経済を中心にして理解する。
2）グローバル化を進める多国籍企業について理解する
3）人の移動に伴う市民権概念の変化と多文化の共生のあり方を考える
4）開発途上国における貧困問題を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	グローバル化をめぐる議論	超グローバル化論、グローバル化懐疑論、変容論
2回目	経済のグローバル化－その実態は？	貿易、対外投資、労働力移動
3回目	フォーディズムの危機とグローバル化	いつグローバル化が始まったのか？　なぜグローバル化が進んでいるのか？
4回目	多国籍企業とグローバル化	多国籍企業の定義、企業内貿易、新国際分業
5回目	グローバル化と新自由主義	新自由主義、ワシントンコンセンサス、アメリカ化、対抗ヘゲモニー
6回目	小括・まとめ	補足講義、理解確認のため質問など
7回目	グローバル化と開発　－貧困と格差－	UNDP,国連ミレニアウ目標、貧困、人間の安全保障
8回目	開発理論の展開	輸入代替政策、構造調整、経済開発
9回目	グローバル化と人間開発	アマティア・セン、潜在能力、社会的排除
10回目	グローバル化と開発－貧困と格差	UNDP、ミレニアウム目標、（南北）格差
11回目	グローバル化と市民	反グローバリゼーション、グローバル民主制、グローバル市民社会
12回目	グローバル化と国家	国家とガバナンス、EUとガバナンス、エーレスンド地域にみるガバナンス
13回目	グローバル化と市民権（1）－EUにみる市民権問題	マーシャルの市民権概念、デニズンシップ、国籍とは？
14回目	グローバル化と市民権（2）－多文化共生と市民権	同化政策、文化多様性政策
15回目	日本における市民権問題	外国人労働者、市民権政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で示された参考文献などについては、読んでおくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考査する
平常点評価	20 %	3～4回、出席を取り、それを点数化する

出席点を20点、定期試験80点＝100点として、評価する。
出席表を出す際には、QRコードを使用するので常に持参すること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞の国際欄を読むといい。

教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。特にテキストは指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『グローバル化とは何か』	デヴィッド・ヘルド中谷監訳／法律文化社／／
『人間開発報告』各年度版	UNDP／国際協力出版会／／
『ラテンアメリカは警告する』	内橋・佐野編／新評論／／
『グローバル経済という怪物』	D。コーテン（西川訳）／主プリンガー東京／／
『ヨーロッパの市民権』	宮島喬／岩波新書／／

講義中に適時上記以外にも知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際NPO・NGO論（S） § 国際ボランティア論（S）

15609

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデイトな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
・国際協力NGOにおいてなぜマネジメントが重要になり「ビジネス化」が言われるようになったかを理解する
・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当：秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2～3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
4～5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6～7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9～10	NGOの新たな戦略　――マイクロクレジット――	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略　――フェアトレード――	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①―政府とのパートナーシップをめぐって―	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②―国連とのパートナーシップをめぐって――	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③――グローバリゼーションによる社会構造の変化――	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するのですから、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「F」評価となる可能性があるので、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など　②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO――市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編(1998)／明石書店／／

への取り組み――

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

参加のデザイン論 (S)

15556

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

もはや「参加」を理論化することで事足りる時代ではない。また、制度的・形式的に「参加」を論ずるだけでは不十分である。「参加」を個々人と社会との関わり方や共生の作法としてとらえ、参加の意味と必要性（あるいは必然性）を踏まえながら、実践のなかで「参加」の状況をデザインする態度と力が求められている。
本講義では、環境創造（まちづくり）活動における住民参加・住民主体の事例を紹介しつつ、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割、公共とはなにか、などについて考えていく。あわせて、「参加型まちづくり」を展開するための手法についても学習する。
理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「政治参加」の制度論・政策論ではない。

到達目標 / Attainment Objectives

具体的事例を通して「参加」を概念化するとともに、参加の状況を創りだす（デザインする・マネージメントする）態度と技を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、前期におこなう「居住環境デザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「参加のデザイン」ってなに？	講義の目的と位置づけ
第2回	「参加」の事例を見て考えよう…パート1	コーポラティブハウジング（住み手参加の住まいづくり）ユーコートの事例を見る
第3回	「参加」の事例を見て考えよう…パート2	40年にわたり住民主体のまちづくりに取り組む真野地区の事例を見る
第4回	ユーコートを通して「参加」を考える　その1	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える
第5回	ユーコートを通して「参加」を考える　その2	
第6回	ユーコートを通して「参加」を考える　その3	日本のコーポラティブハウジング
第7回	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その1	まちづくりのプロセスを追いながら、多様な主体が関わる「参加」の特性と成立要件を考える
第8回	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その2	
第9回	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その3	アクティブ参加とパッシブ参加（コミュニティのなかに居場所がある状況）
第10回	市民活動型まちづくりにおける「参加」	「私」からほとばしり出る「公」
第11回	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり　その1	近年の京都の事例を通して、参加における行政や専門家の役割を考える
第12回	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり　その2	
第13回	参加の手法を学ぶ　その1	イキイキとした参加の状況を創る手法である「ワークショップ」の事例を学ぶ
第14回	参加の手法を学ぶ　その2	ワークショップの進め方や考え方を学ぶ（時間が許せばワークショップ実習を行いたい）
第15回	まとめ－参加デザイン論の課題	参加をめぐる哲学・政治学概説＋参加の経験則

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
平常点評価	20 %	適宜（数回／半期）、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望みます。とりわけ第1週・第2週・第3週は問題提起編なので、必ず、絶対、万難を排して、出席のこと（本来講義は出席するものですからこの指示はヘンですが…笑）

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

産業社会学（S）

15525

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル（労働や生活をめぐる生き方）に焦点をしぼり、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、大きく企業社会から新自由主義社会への変容を軸としつつ、雇用（不況）、女性、若もの／子どもなどをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会およびそこに生き／働く日本人の生活スタイルを、理論的／実態的にとらえることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目（現代と社会）、基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1週　講義のオリエンテーション	産業社会学部	社会学
2週　本講義の産業社会学について	産業社会	産業社会学
3週　現代社会と生活スタイル1　現代社会論と日本社会の位置	企業社会	新自由主義社会
4週　現代社会と生活スタイル2　社会学理論と生活スタイル	生活空間／生活史	生活スタイル
5週　現代社会と生活スタイル3　社会学理論と生活スタイル2	本来的志向	手段的志向
6週　日本社会と生活スタイル1　日本人論、日本的集団主義論をめぐって	日本的集団主義	罪と恥
7週　日本社会と生活スタイル2　今までの生活スタイル：私生活志向と企業社会志向	私生活志向	企業社会志向
8週　日本社会と生活スタイル3　両方志向（狭い私生活志向と企業社会志向）をめぐって	両方志向	
9週　日本社会と生活スタイル4　企業社会の病理とその変容	生活優先社会	会社人間
10週　日本社会と日本人の諸層1 働く人々の環境変容	年功制／成果主義賃求	階層化

11週　日本社会と日本人の諸層 2 女性の社会的進出	M字カーブ	母性神話
12週　日本社会と日本人の諸層3 若もの／子どもの意識変容　付　フリーター／ニート現象	知と人間関係	ゆとり教育
13週　日本社会の変容と生活スタイル1　現代社会のこれから	第3の道	日本型新福祉社会
14週　日本社会の変容と生活スタイル 2　日本社会のこれからと新しい生活スタイル	新しい共同性（公共性）	自分たちの社会
15週　まとめ		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

コメントを時には持って帰ってもらい、学んだ箇所の整理と認識、およびそれへの自らのコメントを考えてもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	講義へのコメントをし、全体の成績によって評価に加味する場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント（コミュニケーション・ペーパー）を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。このコメントは、評価に加味する場合もある。決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
浪江巌・木田融男・守屋貴司編『変容する企業と社会ー現代日本の再編ー』八千代出版	／／／
渡辺治『企業社会・日本はどこへ行くのか』教育史料出版会	／／／
佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の人間と社会』法律文化社	／／／
木田融男・佐々木嬉代三編『変貌する社会と文化』法律文化社	／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会階層論 (S)

13363

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の狙いは、受講生が「階層（社会階層）」という概念を理解し、その理解に基づいて日本社会を認識する力を習得することです。「階層」とは、収入などの社会的資源の格差を記述するための概念です。したがって、階層を論じることは「総中流」と言われてきた日本社会の中にある格差を認識することでもあります。講義では、教育、家族、仕事といった身近なトピックと絡めつつ、このテーマについて論じていく予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

社会階層論および関連分野の概念・論理を習得すること。すなわち、そうした概念・論理を用いて（日本）社会を論じることができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。講義では「数字」や「数式」も登場します。しかし、議論の中心は、階層（格差）を維持したり、作りだしたりする仕組みであり、その仕組みを認識するための概念・論理です。「数字アレルギー」「数学アレルギー」の方も毛嫌いせず、受講してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会階層とは何か	社会階層、社会移動
2	階層および階層論の現状(1)	階層、階級、社会移動
3	階層および階層論の現状(2)	社会階層、社会移動、社会的資源の配分
4	現代日本の社会階層(1)	社会階層、社会移動、社会的地位、職業
5	現代日本の社会階層(2)	社会階層、社会移動、開放性
6	現代日本の社会階層(3)	地位達成、階層再生産
7	教育と社会階層(1)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
8	教育と社会階層(2)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
9	教育と社会階層(3)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
10	社会階層とジェンダー(1)	ジェンダー、セグリゲーション
11	社会階層とジェンダー(2)	ジェンダー、セグリゲーション
12	社会階層と家族(1)	家族、世帯
13	社会階層と家族(2)	家族、世帯
14	社会階層と文化	文化的再生産、ハビトゥス
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近年マスメディアには「格差」をめぐる議論があふれています。それらに親しんでおいてください。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

配布のプリントに記載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会ガバナンス論 (S)

15549

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ガバナンス(governance)という言葉は、社会科学の様々な分野で、様々な意味で用いられています。この講義では政治・行政分野における「ガバナンス」を理論的、実証的に示します。

政治・行政の分野ではガバナンスは大きく分けて二つの意味で用いられています。一つは政策の形成過程・運営過程への関係者(住人、NPO、企業等)の参加、もう一つは行政組織の効率化の試みです。両者とも、従来の行政機構(government)が時代のニーズを捉えきれていないことや、行政活動において資源が有効に使われていないことに対する不満から生まれました。

講義では、ガバメントが機能しない理由、ガバメントからガバナンスへの動き、ガバナンスとガバメントの補完関係などについて考えてゆきたいと思います。なお、具体的事例を取り入れながら講義を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

・ガバナンスの必要性を理解していること。
・ガバナンスのための仕組みを理解していること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入:ガバナンスとは何か？	社会ガバナンス、コーポレート・ガバナンス
第2回目	ガバメントとガバナンス	官僚制
第3-4回目	なぜ行政改革が必要なのか？	地方自治改革
第5回目	行政活動をシステムという視点から考える	ネットワーク、資源の交換
第6回目	政策ネットワーク	コーディネート
第7回目	政策ネットワークから見る家族政策の変化	日本型福祉
第8回目	政策決定過程の変容	多元主義
第9回目	小テスト	
第10-11回目	福祉提供の「バランスのとれた」役割分担へ向けて	政府の失敗、市場の失敗、ボランタリーセクターの失敗、福祉多元主義
第12-13回目	NPOの役割	社会サービス、財源、供給、規制・監視
第14回目	政府の役割の変化	財政援助方式
第15回目	まとめ:福祉国家から福祉社会へ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、インターネット上、日常生活の中に見え隠れしている「ガバナンス」の情報に注意しておいて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本問題や概念について理解しているかどうか、また、それを自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。
平常点評価	10 %	出席状況と小テストで判断する。小テストでは、講義内容の理解度を確認する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とかかわらせながら、講義を聞いて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

講義中に適宜、指示します。なお、講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家のガヴァナンス	武智秀之／ミネルヴァ書房／4-623-03772-X／
福祉社会:社会政策とその考え方	武川正吾／有斐閣／4-641-12119-2／

講義中に適宜、指示します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、指示します。

その他 / Others

社会史 (S)

15560

担当者名 / Instructor　鈴木 栄樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:明治の文明開化と都市社会の諸相

日本の近代国家の形成過程は、同時に新たな近代都市の建設過程でもあった。それまでに形成されてきた都市社会は、近代国家の建設と資本主義経済の移植過程でどのように変貌していったのであろうか。講義では、ほぼ明治期を広い意味での文明開化の時期としてとらえ、主に京都を事例としつつ、適宜その他の都市にもふれながら、その都市化の過程にみられる特徴的な諸問題について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な問題を抱える現代日本の都市の生成過程について、とくに京都を事例として、その直接の起原にさかのぼり、歴史的な視点から考察する。その際、歴史のなかの様々な都市一般に共通する点と、建設期の日本の近代都市、とくに京都に見られる特徴とを意識的に比較考察する知的姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	近代化と都市化
2	幕末期の京都　1850年代～67年	京都の政治都市化、災害と戦火のなかの京都
3	明治初年の京都(1)　1868年～70年代半ば	天皇東幸(車駕東幸)、遷都と奠都
4	明治初年の京都(2)1860年代末～1888年頃	京都の文明開化、町組から番組へ、番組小学校の建営
5	明治初年の京都(3)1860年代末～1888年頃	京都の殖産興業、専門教育と実業教育、勧業場と舎密局
6	明治中期の京都(1)1880年代を中心に	琵琶湖疏水の開削、伝染病と衛生問題、交通と運輸
7	明治中期の京都(2)1890年代前半	市制特例下の京都市、平安遷都1100年記念祭、第4回内国勧業博覧会
8	明治中期の京都(3)1890年代後半	日清戦争、市制特例の撤廃、公同組合の設立
9	明治後期・大正初期の京都(1)	内地雑居と観光、都市と衛生
10	明治後期・大正初期の京都(2)	日露戦争と地域社会
11	明治後期・大正初期の京都(3)	三大事業の構想と実施、都市経営
12	明治期京都の都市問題	工業化、貧困、差別、衛生
13	明治期京都の娯楽と大衆文化	新京極、演劇と映画、百貨店、性文化
14	大正期の日本の都市と京都	工業化の進展、都市計画法、関東大震災
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講にあたっては、日本近代史全般についての概括的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能なように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述筆記試験。事前にある程度の示唆を与えるので、それに対して準備しておくことが望ましい。
平常点評価	20 %	随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。定期試験の評価を主としつつ、講義に対する積極性如何を加味して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ノートのとり方に工夫を心がけてほしい。板書を機械的に写すだけのノートでは意味がない。黒板のスペースは限られているが、ノートは十分なスペースがあるのだから、口頭で述べたこと、あるいは自分で調べたことなどを書き加えたりするなど、オリジナルノートを作成してもらいたい。また、歴史は現代的な関心から学びとられるものであるから、常に現代の国内外の動きと関わらせながら自分なりの問題関心を培ってほしい。

教科書 / Textbooks

特になし。随時プリントにて配布

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
みやこの近代	丸山宏編・伊從勉編・高木博志編／思文閣出版／978-4-7842-1378-8／2008年3月刊

鈴木の論文も収録

近代京都の改造―都市経営の起源1850～1918年―　伊藤之雄編著／ミネルヴァ書房／4-623-04517-X／2006年4月刊、鈴木の論文も収録

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://web.mac.com/hikonyan070424/Shakaishi/TOPPAGE.html
本講義関係のサイト
http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/index.html
京都市歴史資料館情報提供システム　フィールド・ミュージアム京都
http://www.pref.kyoto.jp/archives/
京都北山アーカイブズ

その他 / Others

社会発展論（S）

15579

担当者名 / Instructor　伊藤 正純

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ヨーロッパ近代市民社会の誕生。20世紀初頭の「社会主義」国家の誕生（ソ連）。大衆消費社会（アメリカ）。スウェーデン型社会民主主義国家の原型。戦後資本主義の黄金時代（高度成長期・フォーディズム）、20世紀末のポスト・フォーディズム。資本主義の多様性。以後、主に北欧諸国（特にスウェーデン）の諸政策（社会科学の実験）を取りあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

社会発展論は、社会的経済的進歩について考察するものである。だが、何をもって社会的経済的進歩とみるか、また何が社会的経済的進歩を牽引しているとみるかで、見方は様々である。本講義では、北欧諸国（特にスウェーデン）を現状では社会発展の先端を行っているとの観点から取りあげる。講義時間数の関係で日本との比較は詳しくはできないので、この点は各自で考えてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9／30	社会発展とは何か	近代市民社会　近代的法規範の成立（アダム・スミス、共感　神の見えざる手）、市場経済、資本主義
10／7	社会主義とは何か	マルクスの個体的所有の再建論、コミュニズム論、ロシア革命（1917年）
10／14	社会民主主義とは何か	スウェーデン社会民主労働党政権の誕生（1930年代）、社会民主主義の理念と実験
10／21	アメリカでの大衆消費社会の出現	自動車（大衆車）、フォード・システム、1920〜30年代
10／28	資本主義の黄金期（高度成長期）とその崩壊（1970年代後半以降）	フォーディズム、ポスト・フォーディズム、レギュラシオン理論
11／4	北欧諸国の豊かさ（1）	政策の組み合わせ（policy mix）、平等と効率の両立、普遍的福祉、強い国際競争力
11／11	北欧諸国の豊かさ（2）	雇用政策と社会保障との連携、デンマーク、スウェーデン、積極的労働市場政策
11／18	北欧諸国の豊かさ（3）	スウェーデンの公正な選挙制度
11／25	北欧諸国の豊かさ（4）	スウェーデンの租税制度の特徴、公共の責任、税に対する高い信頼
12／2	北欧諸国の豊かさ（5）	スウェーデンにおける「分権型」福祉社会への転換
12／9	北欧諸国の豊かさ（6）	スウェーデン　高齢者医療制度改革と年金改革
12／16	北欧諸国の豊かさ（7）	スウェーデンの知識基盤社会に適応した教育改革（1990年代）、高校改革と成人教育改革
12／23	北欧諸国の豊かさ（3）	スウェーデンの知識基盤社会に適応した教育改革（1990年代）、大学改革
1／6	日本社会を考える（1）	財源の確保が不十分。すべての政策が中途半端。たとえば、雇用政策、若者政策。
1／13	日本社会を考える（2）	公共の責任領域と規模を再構築するために。国家形成の理念を再検討することが必要。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純編著／桜井書店／4-921190-16-X／
貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン	竹崎孜／あけび書房／978-4-87154-078-0／

教育改革の国際比較	大桃敏行他編／ミネルヴァ書房／978-4-623-04975-2／
スウェーデンの挑戦	岡沢憲芙／岩波書店／4-00-430177-7／
希望の構想	神野直彦・井手英策編／岩波書店／4-00-022553-7／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

環境ライフスタイル論（S） § 消費者環境論（S）

13373

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：　気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動（climate change、温暖化）が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。

・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。

・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。

・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia　に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。

・消費者部門から発生する環境負荷のついて、基礎的知識を獲得する。

・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。

気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース.とビデオ。	気候変動と温室効果ガス削減対策、環境教育、環境社会学、消費者教育
2	気候変動の現状に関する海外DVDおよびニュース：　An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	温室効果ガス、放射強制力、climate inertia
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	放射強制力、温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia。海洋における熱エネルギーの蓄積。 重要なthresholds。「危険な気候変動」。2℃上昇のリスク
4	温室効果ガス排出削減パス、必要な排出削減量	温度2℃上昇、3℃上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇リスク。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。先進国と途上国の責任分担
5	京都議定書および主要国の温室効果ガス排出状況	主要国の温室効果ガス排出状況、UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。主要国の温室効果ガス削減目標値、ポスト京都議定書をめぐる議論の要点
6	気候変動の消費者生活への影響	熱波、洪水、台風、高潮の影響。熱波マニュアルについて（イギリスの熱波警報システム（Heat-Health-Watch）、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか。洪水被害の実態ととEUにおける洪水対策。
7	消費者向け温室効果ガス削減対策、その1：	住宅における断熱性能の改善。省エネ性能住宅。
8	消費者向け温室効果ガス削減対策、その2：製品の環境ラベル	家電製品に関する省エネラベルの役割、各種の環境配慮製品の環境ラベルの制度、EUエコラベル。エコマーク、エコリーフの読み方。
9	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入の意味	風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。欧州における再生可能エネルギー産業の成長。住民による再生可能エネルギーの導入例。
10	EUにおける気候保全対策と家庭向けプログラム	EUの再生可能エネルギー目標、EUの温室効果ガス削減目標、家庭向けの削減対策、住宅の省エネ断熱性能改善の取り組み。EUの環境教育における温室効果ガス削減の教育
11	交通部門における温室効果ガス削減策。	EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。

12	食料自給率と気候変動	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率、フードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。
13	温暖化対策における消費者教育の重要性	消費者政策、消費者教育、温暖化に関するEUの消費者教育プログラムの検討
14	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む	海外のメディアが伝える気候変動と温室効果ガス削減対策に関するニュースをよむ。授業中に、各自、最低一つは読んで、分析を行う。
15	講義を振り返り、質疑応答を行う。小レポートについて、コメントする。 家庭からの温室効果ガス削減対策について、事例を紹介する。	講義中に最終の小レポートを行う。温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。
最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりの小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。
気候変動（climate change、または温暖化）は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science（気候変動科学）の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報――温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策――」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」「日本の科学者」2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ（http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka）
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) （http://www.ipcc.ch）

その他 / Others

人口論（S） §　生活構造論（S）

15610

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

マルサスが「人口の原理」で提起した「食糧と人口の関係に関する命題・仮説」の再考をこの講義の「縦糸」とし、人口再生産と生活構造の関係に関する知識・理論を「横糸」とします。そして日本の過去300年の人口規模と人口行動（経験）を、歴史人口学と生活構造論の視点からデータに基づいて概説していく。そうして、現代の先進諸国と開発途上国の人口問題・生活問題の本質を理解する一助とします。トピックは、人口維持と生活水準、人口の少子・高齢化、飢饉疾病と危機的死亡増、中絶と生活水準など。

到達目標 / Attainment Objectives

人口を長期的に観察するどういうメリットがあるのか。日本の歴史人口学と生活学の成果、オリジナル資・史料、省庁公開データなど具体的データ・事例検討を通じて理解し、予測することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論（講義解題、基礎概念、人口の現在）	マルサスの命題、人口の定義、世界の人口問題、現代日本の人口問題、world population clock
2	VTR－1「寿命」（アフリカ・シエラレオネ）＋（小ペイパー）	シエラレオネの概要、乳児死亡、平均余命、GIS data map
3	人口再生産と生活構造－Ⅰ	生活構造概念の生成史、サラリーマンの誕生、家族論
4	人口再生産と生活構造－Ⅱ	家族論、家計論、支出曲線と家族周期
5	VTR－2「サラリーマンの誕生」（日本）＋（小ペイパー）	東京市、産業化・都市化、明治大・正期、腰弁、学歴と賃金（帝大卒と私大卒）
6	人口再生産と生活構造－Ⅲ	労働力の保全、生活時間・空間論
7	人口再生産と生活構造－Ⅳ　world population clock	階級・階層論、現代日本の人口規模・構造（populaion bonus, population onus）・2050年予測
8	VTR－3「医療革命・集団検診」+（小ペイパー）	昭和農村の戦前・戦後（人口増加への助走）、佐久病院、病気と呪術、栄養水準、女性
9	近世人口論－Ⅰ（人口データの取得）	江戸システム、幕府・諸藩の文書体系、細川氏の人口調査
10	近世人口論－Ⅱ（人口データの取得）	村方・町方の文書体系、村絵図の世界、 幕府・諸藩の人口調査、 人口史料の取得法
11	近世人口論－Ⅲ（東北・太平洋諸藩の人口）	なぜ東北地方か？　仙台藩のアウトライン、推計結果の検証
12	VTR－4「20世紀の食糧生産」（インド、アメリカ、カザフスタン）＋（小ペイパー）	マルサスの命題、緑の革命、略奪農法/有機農法、遺伝子操作
13	近世人口論－Ⅳ（凶作・飢饉と栄養供給）	過去帳、天保飢饉、栄養（カロリー）供給－異常年と平常年〖GISデジタルマップ〗　庶民の暮らし、出産/出生比、人口調節（sex selective）
14	近世人口論Ⅴ（東北諸藩の人口対策）　world population clock	近世末期の人口減少対策：社会調査、移民・植民、育児支援
15	近代日本人口論Ⅰ（東北の藩・県）	東北日本の凶作経験と食糧生産・人口移動〖GISデジタルマップ〗 結論（マルサス命題再考）－講義まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。
平常点評価	0 %	

授業進行その他の理由で授業スケジュール・VTR・CD視聴日などに変更が生じる時は、事前に教室でアナウンス。必要に応じて出席を3～4回とり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
18・19世紀の人口変動と地域・村・家族―歴史人口学の課題と方法―	高木正朗／古今書院／978-4-7722-4114-4／授業に直接関連した参考書
人口で見る日本史	鬼頭　宏／PHP研究所／978-4-569-69204-3／日本人口の規模を通史的に概観した入門書
人口学への招待―少子・高齢化はどこまで解明されたか―	河野稠果／中公新書／978-4-12-101910-3／現代日本の人口問題の入門書
我が国の人口動態	厚生労働省大臣官房統計情報部（編）／厚生統計協会／最新版／日本の人口動態指標をコンパクトにグラフ化（安価に入手可能）

人口学の基本用語は「人口学大事典」（日本人口学会,2002）を参照するとよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mhlw.go.jp/（厚生労働省HPの統計を参照）、www.cao.go.jp/（内閣府HP）
www.stat.go.jp/（総務省統計局HP）、www.ipss.go.jp/（国立社会保障・人口問題研究所HP）
google, yahooなどで省庁・機関名を入力してアクセス。

その他 / Others

◎VTR・CDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布する。②残りは、次週まで（1週間）以学館レジュメboxにおかれる。

生活文化論（S）

15508

担当者名 / Instructor　中村 治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

環境破壊の原因を思想に求めるのではなく、暮らしの変化に求める。そして戦後に暮らしの大きな変化が起こるまで、どのように暮らしが営まれていたのか、それがどのような過程を経て変化し、その結果、どのような問題が起こってきたのか。昔の暮らしぶりを写した写真を見ることにより、身近な暮らしの変化から、現代社会がかかえる諸問題を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

自分の身近なところで起こっている変化を見つめ、その変化の原因について考え、その変化と自分とのかかわりについて考える力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ　生活文化の消失。現代の暮らしの見つめなおし。	キーワード　生活、文化
第2回	テーマ　かつての暮らしを想い出すための手がかりとしての写真、聞き取り。	キーワード　写真、聞き取り
第3回	テーマ　写真の歴史。生活遺跡。	キーワード　写真、生活遺跡
第4回	テーマ　暮らしの変化が始まる前の京都近郊農家の一年	キーワード　米、麦、野菜、豆、自給自足
第5回	テーマ　食	キーワード　地産地消
第6回	テーマ　農作業の機械化	キーワード　購入費用、保管場所
第7回	テーマ　暮らしの機械化	キーワード　電化
第8回	テーマ　運搬方法の変化	キーワード　汽車、電車、バス、トラック、車
第9回	テーマ　燃料の問題	キーワード　山林荒廃、地球温暖化
第10回	テーマ　廃水処理の問題	キーワード　電動ポンプ、水道、すいも、下水処理、水質悪化。
第11回	テーマ　子どもの暮らしの変化	キーワード　地域共同体、地域の目
第12回	テーマ　冠婚葬祭の変化	キーワード　地域共同体、葬列
第13回	テーマ　小学校卒業写真に見る暮らしと風俗の変化	キーワード　洋服、学生服、髪型、戦争
第14回	テーマ　学生による発表	キーワード
第15回	テーマ　学生による発表	キーワード

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

古い写真を家族、親戚、知人から借りて、コピーし、その写真が暮らしの変化においてどのような意味を持っているのか聞いて、発表すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	0 %	小テスト。
レポート試験	60 %	身近な問題を取り上げること。独自の資料を集めること。聞き取りをしていること。
平常点評価	40 %	身近な問題にどれだけ関心を持っているか。 写真についての聞き取りの成果の発表。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分の身近なところで起こっている変化に注意し、その変化の原因について考え、その変化を自分との関係において考える力を養うこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『あのころ京都の暮らし』	中村治／世界思想社／4-7907-1095-5／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『京都洛北の原風景』	中村治／世界思想社／4-7907-0816-0／2000年
『癒しの里・洛北岩倉』	中村治・青山純／／／2000年
『京都府レッドデータブック』下巻（地形・地質・自然生態系編）	京都府企画環境部企画課／／／2002年

『洛北岩倉研究』第1号～第8号	岩倉の歴史と文化を学ぶ会／／／1997年～2003年
『卒業写真で見る暮らしと風俗の変化』	中村治、岩倉の歴史と文化を学ぶ会／／／2003年
『古写真で語る京都―映像資料の可能性―』	京都映像資料研究会編／淡交社／4-473-03149-7／2004年
『洛北岩倉』	中村治／コトコト／／2007年
『洛北八瀬』	中村治／コトコト／／2008年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

多文化共生論（S） § 多文化共生論（I）

15496

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）多文化性について理解する。
2）自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する
　方法を理解する。
3）多文化共生問題の本質を理解する。
4）問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5）具体的に提案し活動していく力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入：映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出（以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する）
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？ Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？ Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験（60点）
平常点評価	40 %	レポート4回（40点） ＋その他の感想レポートを総合評価する

ただし、受講生数によっては、最終講義試験をやめて、レポート4回と最終レポートによる総合評価へと変更する可能性もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。な ぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

都市政策論（G）

13319

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のグランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

都市の地域特性の把握方法、地域特性に対応した政策立案の実例についての知識、政策技法のトレーニング

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「都市論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	教養としての「まちづくり」 －都市政策を学ぶ意義を考える－	まちづくりコーディネーターの職能
第2回	景観の扉を開けると、「まちづくり」が見えてくる	景観、景観保全地区、景観機構、ランドマーク、京町家、国家戦略
第3回	京町家の再生　－市民社会と地域社会－	パリ、パッサージュ、京都の袋路、細街路、密集市街地、建築基準法
第4回	京町家の再生②	国際戦略とファンドレイジング
第5回	住民自治組織の持続性と多様化	京都の都心部のまちづくり活動と住民組織
第6回	コミュニティのパワーが地域を再生する	学区のまちづくり活動
第7回	企業とのパートナーシップで拓く「まちづくり」	住宅開発の新しいシステムの紹介
第8回	地域まちづくりに行政はどう関わるか	行政マンの苦悩を考える
第9回	リサーチ・デイ①	フィールドワーク
第10回	まちづくりとNPO	第二次ハーレムルネッサンス、タイムズスクエア、コモングラウンド、自治体行政
第11回	都市の危機管理①　阪神大震災の教訓	自然災害、人災、復興計画、マンション建て替え問題、コミュニティ
第12回	都市の危機管理②　グラウンド・ゼロの復興をめぐる攻防	建築家、コンペ、政治、闘争、妥協
第13回	都市の危機管理③　犯罪都市の増加と対策	ロンドン、犯罪、監視カメラ、移民排斥運動、コミュニティ、ネットワーク
第14回	人権コミュニティの創造	京都、被差別部落、人権、文化、近代化遺産、保存運動、まちづくり、京都再生
第15回	リサーチ・デイ②	フィールドワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
まちづくりコーディネーター	リム　ボン（編）／学芸出版／／2009年9月刊行予定

開講までに教科書を必ず購入しておいてください。

参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

＊学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。

＊試験の問題はすべて授業中に解説した内容をもとに作成します。

都市論 (S)

13274

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

古代から未来までの時間軸で都市の歴史的変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテクストを解読する能力を養うことを目的としている。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史都市の概念の把握、都市の基本構造の理解、京都を舞台としたフィールドワークの実践力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	歴史都市の光と影	歴史都市、京都、ニューヨーク、プラハ、フィレンツェ、北京、空間、建築
第2回	京都の近代化と都市政策	明治維新、遷都、都市再生、町衆、番組小学校、先端技術、伝統と革新の融合
第3回	京都の地下水脈と都市文化	水上都市、伝統産業、下賀茂神社、上賀茂神社、風水思想
第4回	竜安寺の石庭と京都文化	仏教、石庭、被差別部落、襖絵、ニューヨーク、中国
第5回	ニューヨーク①・マンハッタンの誕生から現在まで	氷河、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第6回	ニューヨーク②・マンハッタンの20世紀	ボヘミアン、経済の隆盛、都市文化の開花、ハーレム・ルネッサンス
第7回	ニューヨーク③・第二次ハーレムルネサンス	アフリカン・アメリカン、ハーレム、スラム、都市再生、NPO
第8回	ニューヨーク④・国連ビルの建築をめぐる建築家たちの攻防	ル・コルビュジエ、建築家、デザイン、権力闘争
第9回	リサーチ・デイ①	フィールドワーク
第10回	ベルリン①・都市文化の紹介	ドイツ、東西冷戦、建築、都市構造、食文化、経済
第11回	ベルリン②・都市構造	古地図、ヒトラー、近代都市計画、統一ドイツ、労働者
第12回	上海の都市と建築	外国人租界、経済成長、未来都市、再開発、住民の立ち退き
第13回	京の都市文化	首都機能、都市設計、四合院の建築、オリンピック、再開発
第14回	韓国の都市文化	ソウル、釜山、植民地経営、近代化遺産、日本町、保存と再生、清渓川の再生
第15回	リサーチ・デイ②	フィールドワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

参考書等は授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

＊学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。
＊試験の問題はすべて授業中に解説した内容をもとに作成します。

日本経済論（S）

13354

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の景気回復状況および国民生活の諸相について、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「現代経済論」と連結しておりその後半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	はじめに－日本経済の概況	
2.	市民社会と企業社会	
3.	大企業体制の2類型	
4.	国家財政の動向	
5.	勤労者層の賃金構造	
6.	同上．労働諸条件	
7.	外国人労働者問題の現状	
8.	農民層の経済生活条件	
9.	中小企業経営の現状	
10.	国民の所得構成	
11.	同上．資産構成	
12.	社会保障の現状と問題点	
13.	住宅・土地問題	
14.	まとめ	
15.	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ネットワーク論（S）

15545

担当者名 / Instructor　堀 孝弘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ITネットワークを扱う講座ではない。市民活動における人づくり、コミュニケーションスキル、組織運営、ネットワーク構築について原則および実践事例などを紹介する。学園生活だけでなく社会に出てからも役立つスキルや考え方を、座学だけでなく「受講者参加ワーク」も用いて体験的に修得する講座である。知識を提供するだけでなく、「知恵」を育む講座である。

また、理解を深めるうえで情報のもつ意味は大きく、市民セクターの成長やセクター間協働について、講師自らの活動経験を含めて、環境ネットワーク活動の最新事例も紹介し受講者の視野を広げる。

なお、本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

到達目標 / Attainment Objectives

将来にわたり活用できる人的ネットワーク構築、および団体運営の基本スキルの修得（社会の「小さなハブ」になる）
セクターを越えた協働社会の構築に向けた、市民セクターの活動成果と可能性の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

景観デザイン論、環境形成論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業概要および講師紹介 ネットワークの基礎理解と実際 （情報、機会、カネ…、持てる者がますます豊かになる社会とどう向き合う）	事例紹介「世界は6次の隔たりでつながっている？」 【参加ワーク】人と人とのつながりを豊かに（非攻撃的自己主張の体験）
第2回	人と人のつながり 対人コミュニケーションの発想転換　コーチングの基本	ゲームの理論からWin-Winの関係構築へ 【参加ワーク】質問力を高めよう（詰問からOpen Questionへ）
第3回	団体の運営　1 意義のある活動を継続的に生み出すには	目的と目標、問題と課題、ミッションとビジョンの違いなど 【参加ワーク】緊急性と重要性の整理
第4回	団体の運営　2 共感を得る活動企画の基礎理解（マーケティングとポテンシャル）	リーダーとコーディネーター、ネットワークが必要になるとき 【参加ワーク】ポテンシャル分析（あなたの持っている30の顔）
第5回	団体の運営　3 活動構築に必要な手順等の確認（実際の活動事例から）	事例紹介「環境ネットワーク活動の活動事例その1　日本の環境首都コンテスト全国ネットワーク」 ここまで伝えた団体運営に必要な手順などを、実際の活動事例を通じて確認する。 【参加ワーク】リーダーに必要な要件優先順位づけ
第6回	会議の効率的な進め方　1 誰も発言しない会議、何が決まったかわからない会議を卒業しよう	会議での意見の引き出し方、ブレーンストーミングの4つの約束など 【参加ワーク】会議の「次第」をつくろう（会議の議題と進行の整理）
第7回	会議の効率的な進め方　2 会議で出た意見の整理	KJ法の基礎理解　意見の整理分類。関係と階層を考え、課題を明らかにする。 【参加ワーク】意見の分類と整理をしてみよう（滅茶苦茶な意見、反論、質問で混乱した会議をまとめよう）
第8回	会議の効率的な進め方　3 透明性のある合意形成 幾つかの手法紹介と手法活用の留意点	事例紹介「合意形成手法　衆目評価法　一対比較行列評価など」 【参加ワーク】弱小チーム改造計画A～C案　合意形成手法体験
第9回	団体内での人づくり 肯定的指導と弱点の克服。プロセス評価と成長への助言（コンピタンシー評価との違い）	エンパワーメントと次世代リーダー育成 【参加ワーク】プロセス評価を体験しよう
第10回	仲間の拡大　異セクター協働 市民・事業者・行政、立場の違う人たちの協力に何が必要か	事例紹介「地域計画策定への住民参画」 【参加ワーク】コーディネーターの出番（のび夫とスネ太とジョイアンの3すくみを解消しよう）
第11回	ビジョンを実現する力 バックキャストで考える未来　バックキャストとフォアキャスト	事例紹介「スウェーデンの緑の福祉国家構想」から 【参加ワーク】20年後の夢をバックキャストで考える（いかにして自分の夢に近づくか）

第12回	適応力・対応力 先進事例を、自分たちの事情にあわせてアレンジする力	事例紹介「環境ネットワーク活動の活動事例その2　グリーンコンシューマー活動の地域展開とネットワーク」 【参加ワーク】できない理由さがしから、できる条件づくりへ
第13回	思いをかたちにする 活動企画に必要な要件　PDCAサイクルでの活動の展開・深化	「企画」とは、あこがれの人へのアプローチと同じ 【参加ワーク】活動を企画してみよう
第14回	思いを伝える プレゼンテーションの基礎理解	短時間で要点をまとめる「アンチ・クライマックスオーダー」 【参加ワーク】思いを伝える　アンチ・クライマックスオーダー体験
第15回	自己実現に向けて 人権と平和のために闘ってきた人たち	日々の時間の使い方　クワドラント分析 【参加ワーク】学びのふりかえりと分かち合い

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講師が各回提示・提供した情報等を、応用でき得るよう咀嚼・理解しているか
レポート試験	3 %	授業内で提示　市民活動の発展と可能性の理解(A4・1枚程度)
平常点評価	37 %	出席を重視するが、単に「出ている」だけでなく、受講姿勢と授業理解について各回提出の「授業感想」により判断する

本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

下記の行為は授業妨害とみなし、当該学生を「F」評価とすることがあり得る。

他の受講生の受講妨害(授業中の私語、大幅な遅刻や頻繁な途中入退室など)

授業中の携帯電話の使用(Eメールの送受信を含む)

参加ワークの不参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.kankyoshimin.org/

講師堀が事務局長を務める「NPO法人環境市民」のWebサイトである。環境市民は、国内でも活動内容のユニークさや先進性で注目されている団体である(2004年度グリーン購入大賞環境大臣賞受賞、2005年度京都府環境トップランナー賞受賞、京都新聞2005年元旦社説での紹介等)。授業でとり上げる活動が紹介されているので、ホームページの閲覧をすすめる。

その他 / Others

農村環境計画論 (S)

13262

担当者名 / Instructor　浅野 智子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、人的、社会的、自然資源の流出・変容が深刻な農村地域の環境保全にかかる問題構造と計画手法について、総体的に把握することを目的とする。構成は(1)農村地域の環境計画の方法論として、農村の空間的、社会的な特質と制度上の関わり、(2)今日の農村地域における取り組みの現状、(3)ボトムアップ型の計画手法の現状、である。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)農村地域の環境計画の方法論として、農村の空間的、社会的な特質と制度上の関わりについて構造的に把握する
(2)農村地域の環境保全にむけた取り組みの現状と課題について、農村と都市(都市圏および地方都市)との関係から理解する
(3)農村地域のボトムアップ型の計画手法とその現状を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要	自己紹介、講義の目的と進め方、評価方法等の説明
2	環境計画の方法論、農村の社会的・自然的資源	物理的空間と社会的空間、二次的自然、農村集落
3	農村の空間構成と地域単位	集落の空間構造、耕作放棄地、獣害、伝統と近代化、過疎問題
4	農村計画の変遷と現在の計画手法の特徴	都市計画法、農振法、景観法、住民参加
5	農村における住民参加の方法と現状	住民参加、ワークショップ
6	中間まとめ／グループ発表と質疑応答	
7	農村集落保全の取り組み	ナショナルトラスト、世界遺産、古民家活用
8	生産環境保全の取り組み／自然環境保全の取り組み	水田の多面的機能、オーナー制度、中山間地域等直接支払制度、ビオトープ、グラウンドワーク、ため池と流域管理
9	文化・芸術創造の取り組み	語り部、現代アート、エコミュージアム
10	農村と都市の交流事業・グリーンツーリズムの背景	農村と都市の資源の交換、マスツーリズム、ルーラルツーリズム、欧州におけるグリーンツーリズム
11	アジアにおけるグリーンツーリズム	モンスーン気候と農業、地域経営型運営、休暇制度
12	グリーンツーリズムと地域振興および運営組織、規制緩和の現状	ワーキングホリデー、農家民泊、環境教育、旅行業法
13	農村におけるコミュニティづくり	コミュニティにおける階層構造、新規就労支援、高齢者と女性の活躍、定年帰農
14	グループ発表と質疑応答	
15	講義のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回、国内外の農村地域の環境保全、地域振興に取り組む事例を中心に講義を進める。また個人またはグループ作業を課し、提出してもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	講義で紹介した事例や個々人の事例調査から、仮説を組み立てる試験を実施するので講義期間中にフィールドワークを自主的・積極的に行うこと。評価は、仮説の組み立て能力と自主調査能力の2つより行う。
平常点評価	60 %	講義中に個人およびグループでの作業してもらい、2度発表する機会を設け、これを評価の対象とする。作業および発表への不参加は原則として認めない。また講義の中で意見シートを配布、回収し、講義に対する質問や感想等を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近畿圏の事例を積極的に紹介するので、可能な限り視察にいくこと。

教科書 / Textbooks

各講義で資料を配付する。また講義の中で、参考文献やサイトを紹介するので、自習すること。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

15527

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

男女の「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、身の回りの様々な場面をジェンダー状況という視点で見直すことの出来る力量を身につけること。同時に、世界各地についてもその視点を生かした理解の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家論などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオ	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当て
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ－日本社会のジェンダー状況－なぜ前進しないのか－	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。

小レポートを数回行う、理解度の確認などコミュニケーション・ペーパーとして活用する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の進捗状況によって、講義日程と内容に変更を加えることがある。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献・資料等は、講義において適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義において適宜紹介する。

その他 / Others

私語・飲食は慎んでほしい。

比較政治論（S）

15541

担当者名 / Instructor　國廣 敏文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人類はこれまで様々な政治制度や体制を経験してきた。だがこれまでに試みられてきたどの政治制度も、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など、人々の生活を十全な形で、平和で公平で安定したものとすることには成功していない。本講義は、こうした状況を踏まえ、主要先進国の政治システムの構造・機能・動態を相互に比較・考察することによって各国政治の特質と問題点とを抽出し、21世紀に相応しい政治の在り方＝"新しい政治"の在り方を模索することを目的とする。その際、何よりも事実に基づく分析によって、各国政治に関する正確で具体的な知識の取得とそれらを昇華させた形で日本政治改革への視点を得ることも視野に入れたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・比較政治の方法と意義を理解する。
・それらを踏まえ、各国政治の歴史と特質を知る。
・自分の国ならびに社会の諸問題を考える視点と材料を発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

グローバルな視点から国家と社会を見るために、「現代政治論」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ．比較政治学の方法	歴史―アリストテレス、モンテスキュー、アロン―　比較政治学
第2回	比較政治学の現代的アプローチ―歴史と構造―	現代の比較政治学の方法と課題
第3回	比較の指標	比較政治の指標
第4回	Ⅱ．各国政治の制度的特質と現状―憲法、中央・地方自治、改革の現状	アメリカ合衆国建国の歴史と憲法の特質　連邦主義と立憲主義
第5回	アメリカ合衆国の政治―大統領制―	現代アメリカ合衆国の政治
第6回	カナダ政治の歴史と特質	カナダ政治
第7回	イギリスの建国と歴史	イギリス政治
第8回	イギリスの政治―議院内閣制―	議院内閣制
第9回	フランス建国の歴史	フランス政治
第10回	フランスの政治―半大統領制―	半大統領制
第11回	ドイツ建国の歴史	ドイツ
第12回	ドイツ政治の歴史と特質	ドイツ政治
第13回	イタリア政治の歴史と特質	イタリア政治
第14回	ヨーロッパ小国の政治	スイス、ベルギー、オランダ
第15回	Ⅲ．まとめ－各国政治の歴史と特質の概括－	新しい政治の在り方を求めて―日本の課題―　日本政治の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

普段から新聞やニュース、各国のHPに目配りをしておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義の内容への理解度と学習の到達度を確認する
レポート試験	20 %	講義内容に関わるレポート、あるいは特定のテーマでのレポート課題を課す
平常点評価	10 %	出席点を加味する

＊定期試験として実施 成績評価＝単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としつつ、レポートと出席点も加味して総合的に判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

内容が盛りだくさんなので、授業のスピードは速い。したがって、テキストを事前に読んでおくことと、授業終了後には、得た知識や視点を振り返って、更なる学習をすることが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新版　比較政治制度論』	田口富久治・中谷義和編／法律文化社／／

授業に際してレジュメを配布するとともに、参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の際に紹介する。

その他 / Others

「私語」は、自の学習権の放棄であると同時に、他人のそれの侵害であるので、厳禁する。

文化経済論（S） §　文化経済論（W）

15494

担当者名 / Instructor　金武 創

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化経済学の基礎的理解

これまで相反するものと思われがちであった、「文化」と「経済」の関係を価値規範やライフスタイルの変化の視点から捉えなおし、これからの企業やNPO、中央政府・地方自治体のあり方を考える。授業では、理論／実証研究の解説と関連話題（VTRや新聞）の提供という組み合わせで進めていきたい。以下のテーマを順番にすべてやるわけではないが、教科書の内容に即して、できるだけふれていきたいと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

文化経済学の基本問題や概念を幅広く理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	芸術作品とオークション	オークション
2	芸術文化と市場	価格、需要と供給
3	文化的価値と経済的価値	支払い意思
4	芸術文化の消費	1980年代の消費文化
5	芸術文化の生産	高層建築とデザイン
6	芸術文化と情報	出版とブログ
7	文化資本の考え方	世界遺産
8	文化政策と地域文化	インフラストラクチャー
9	慈善事業のためのギャンブル	サッカーくじ
10	温泉観光とまちづくり	情報の非対称問題
11	埋蔵文化財の経済学	町並み保存
12	衰退する音楽CD	ミリオンセラー
13	スポーツNPOの経済的利点	規模の経済と範囲の経済、障害者スポーツ
14	都市空間とパブリックアート	公共財の理論
15	舞台芸能としての落語	メディア戦略とライヴの発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ただし、平常点評価を基礎とすることに注意してほしい
平常点評価	30 %	

割合は高くないですが、平常点評価が成績評価の基礎になります。始業時間すぐに出席確認と授業導入を兼ねた課題を実施しているので、遅刻しないこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・教科書を入手し、毎回の授業で持参してくることを前提に授業を進めます。
・受講人数によっては、成績評価の方法を変えるかもしれません。人数確定後、授業内で伝えます。
・時事問題等を優先して扱うので、授業の順番は入れ替わる可能性がありますが、期間内に教科書全てにふれるつもりです。
・始業時間を守ってください。平常点をいろいろな方法で評価する予定です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文化経済論	金武創・阪本崇／ミネルヴァ書房／／2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア社会論（S）

15490

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

メディアが社会的なテーマを設定し、その“世論”が社会を動かしていくという現代社会の情報循環にあって、とりわけ「映像ジャーナリズム」が果たす役割は決定的ともいえるほどである。この授業では、映像ジャーナリズムの成立と変遷、特に戦争報道の変容を軸として、現代メディアの課題をさぐり、さらにジャーナリズムの原点や、オルタナティブなメディア社会のありかたを考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

●映像ジャーナリズムが登場した歴史的/政治的/文化的背景を知る
●際立った映像ジャーナリズムの属性（機能と特性）を理解する
●その映像を記録した人の生き方、誰がどういう立場で撮ったかを感得する
●現代の映像ジャーナリズムがもたらす課題を批判的に理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　～恐竜の跋扈する中で～	V鳥の巣、授業全体のねらい、20世紀とジャーナリズム
2	「正義のジャーナリズム」	ベトナム戦争報道、戦争報道の3つの時代、プロパガンダへの反省、メディア研究
3	報道グローバリズムの開幕	湾岸戦争報道、情報コントロール、冷戦の終結、ベトナムの教訓、衛星グローバリズム
4	北朝鮮報道	冷戦、メディアコントロール、「再会」、日本の外交と主流メディア
5	イラク戦争報道の諸問題	総合的な統制、NNN戦争報道論点」、電子化した情報・映像、メディアコントロールとのたたかい、戦争広告会社
6	映像の誕生・進化と社会化	リュミエール、テキストジャーナリズム、映像ジャーナリズム、身体感覚性、通俗性、多義性
7	キャパ神話	フォト・ジャーナリズム、キャパ、30年代内戦の時代、カメラ、マグナム、Days Japan、
8	大本営発表	映像の影響力、プロパガンダ、「レイテ」、情報統制、プロパガンダ映画、日本ニュースの表現
9	エド・マローの世界	リベラル・ジャーナリズム、「シー・イット・ナウ」、イデオロギー支配への反省、テレビの時代、マッカーシズム
10	鉄のカーテン崩壊	撮影・中継技術の飛躍、ENG・SNG、FPU、現場中継、アキノ革命、天安門事件・ベルリンの壁報道
11	ドキュメンタリーというジャーナリズム	「苦海浄土」、水俣病、石牟礼道子、木村栄文、演出と構成
12	ダイアナ事件を読む	「ダイアナ事件」、メディア・スクラム、カメラと取材の他者性・暴力性、表現の多義性、エンコーディング/ディコーディング
13	「発掘！あるある大事典Ⅱ」の発掘	テレビ制作の構造と倫理、調査委員会、BPO、企業ジャーナリズム
14	対抗的ジャーナリズム	「瀋陽事件」、増山たづ子、独立ジャーナリスト、フレームの外、アルジャジーラ/目で聴くテレビ
15	市民社会とジャーナリズム・再論	ジャーナリズムの立場性/津田の立場性、当事者/代理者、表現の主体

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・（映像）ニュースをよく見ること
・日常的にドキュメンタリー映像を観察すること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版・ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄/林利隆ほか／世界思想社／／
ドキュメント　戦後放送史　上・下	松田浩／双柿舎／／
国際紛争のメディア学	橋本晃／青弓社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

労働社会学 (S)

13297

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

バブルが崩壊してからおよそ15年の間に、日本の雇用（仕事を得ること）や労働のあり方（働き方）は急激に変化し、それが私達の生活や意識にも大きな影響を与えている。授業では、他の国の状況と比較しながら、雇用や労働のあり方がどのように変化し、それが私達の生活にどのような影響を与えているか考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

雇用や賃金に関わる新聞記事やニュースを、その背景まで含めて十分に理解できるようになる。

また授業をきっかけにして、自分はどのような仕事をしたいのか、あるいはどのような働き方をしていきたいのか自分なりのイメージを持てるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	労働社会学で何を学ぶか	
2	労働力の需要構造	
3	多様化する雇用：パート、派遣、請負という働き方	
4	非正規雇用の増大と格差問題	
5	女性雇用の現状：M字型雇用と少子化	
6	女性雇用政策の国際比較1：育児と仕事の両立	
7	女性雇用政策の国際比較2：男女雇用機会均等法	
8	働きすぎと過労死1：労働時間の国際比較	
9	働きすぎと過労死2：長時間労働の背景にあるもの1	
10	「新しい」働き方：変形労働時間制、裁量労働制	
11	失業率とは何か？	
12	各国の失業の状況	
13	若年と高齢者の雇用：フリーターは日本だけの問題か？	
14	フリーターについて考える	
15	高齢者雇用の現状と課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義内容の理解度。
平常点評価	0 %	場合によっては出席を加点することがある。

授業への出席が少ない場合、試験で合格点を取れないことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やテレビ等で、雇用、働き方、賃金にかかわる記事や番組があったら、興味を持って見て欲しい。また、身近に働いている人がいたら、授業で興味を持ったことをいろいろ質問（インタビュー）してみることも有益である。

教科書 / Textbooks

必要な資料は、授業中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の労働問題(第3版)	笹島芳雄／中央経済社／450236150X ／
雇用不安	野村正実／岩波書店／4004305675／
日本的雇用慣行	野村正實／ミネルヴァ書房／4623049248 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

労働政策研究・研修機構　http://www.jil.go.jp/

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

アートマネジメント論（S）

13313

担当者名 / Instructor　森口 まどか　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

そもそもアートマネジメントとは。芸術をmanage（マネージ／運営・管理）するとはどのような事柄を意味するのだろうか。一般に、アートマネジメントによって芸術と社会を結び、双方がより良く生かし生かされる方策を考え出すと捉えられている。しかしながら、その前提である現代社会においてなぜ芸術は必要か、ということをまず問はなくてはならないだろう。

近年、国立博物館・美術館・文化財研究所が独立行政法人化されたり、指定管理者制度の導入に伴い公共文化施設の管理者やその運営方法が審議されたりと、わが国における芸術文化施設の在り方が根本的に問い直されている。さらには現在、世界は同時不況に苦しんでおり、芸術をとりまく環境についても新しい視座が求められる。すなわち、芸術と社会が相互に生かされる方策、アートマネジメント領域からの視点がより必要とされることはいうまでもなく、先の問いに検討をくわえることが重要であろう。

本授業では、芸術は社会になぜ必要かを問い、考察する。そのために、近代的ミュージアム形成の歴史および、主に美術分野における国際展やパブリック・アートなどの実例を紹介しながらさまざまな問題点を検証する。そして、次代の芸術の役割について考えてゆきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・芸術と社会の関係についての知見を幅広く論じることができる。
・わが国における博物館・美術館の現状を確認し、その問題点をさまざまな視点から挙げることができる。
・次代のミュージアム像を描いてみることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術、音楽、文学などの芸術全般にわたる基礎的な知識があることが望まれるが、たとえば、美術史概論が事前に必要な履修科目ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	アートマネジメントとは 今日におけるアートマネジメントの必要性を中心に	
第2～4回目	ミュージアムについて:その歴史、社会、思想的背景から	啓蒙主義思想、公共性、蒐集、美術
第5～7回目	オフ・ミュージアムについて 1960年代以降のインスタレーション・アートを中心として	アートセンター、パブリック・アート
第7～8回目	国際美術展その歴史と運営について	
第9～10回目	アーティスト・イン・レジデンスの考え方	コミュニティ、コミュニケーション
第11～12回目	NPO活動とアートについて	独立行政法人化、指定管理者制度
第13回目	「ワークショップ」という在り方	
第14～15回目	まとめ：1.アートの社会的価値について　2.次代のミュージアム	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容を踏まえ、基本的な語句の理解および、現代社会における芸術の役割などについてを問う。自身の視点で論理的に展開記述できるかを評価する。
平常点評価	30 %	授業内容に関する理解度を確認するための設問を出す。実施時期は、前期中頃。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

さまざまな機会を捉えて美術館、コンサートホールなどの芸術文化施設へ積極的に出かけること。そうした機会を増やすところから、芸術と社会の関係を考えてゆくようにすることが望ましい。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アートマネージメント』	伊東正伸、岡部あおみ、他著／武蔵野美術大学出版局／4-901631-52-7／2003年
『進化するアートマネジメント』	林容子／レイライン／4-902550-01-6／2004年
『二十一世紀博物館－博物資源立国へ地平を拓く』	西野嘉章／東京大学出版会／4-13-003317-4／2000年
『創造－現場から／現場へ』	小林康夫・松浦寿輝編／東京大学出版会／4-13-014116-3／2000年、(『表象のディスクール6』
『美術のアイデンティティー』	佐藤道信／吉川弘文館／978-4-642-03778-5／2007年

『アーツ・マネジメント概論』　伊藤裕夫、小林真理、他著／水曜社／978-4880651323／2004年（新訂版）

その他適宜紹介する。
授業内容全般をより理解するための参考書。（『アートマネージメント』、『進化するアートマネジメント』、『アーツ・マネジメント概論』）
特に、美術館についての理解をより広め、深めるときの参考書。（『二十一世紀博物館－博物資源立国へ地平を拓く』、『創造－現場から／現場へ』、『美術のアイデンティティー』）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.nettam.jp
アートマネジメント全般の知識と現在の動向を知るのに参考となる。その他適宜紹介する。

その他 / Others

映像表現論（S）

13325

担当者名 / Instructor　梁 仁實

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、映像メディアと時代とのかかわりを考えつつ、その一つである映画をとりあげる。
映画については、第7芸術と呼ばれた時代の芸術的な側面、そして商業的価値で語られるエンターテイメント性ばかりが重視されてきた。本講義では映画の110年に及ぶ歴史をさぐりながら、そのなかで映像の表現の変化がどのように行なわれてきたのかを考えつつ、映像の社会的意味について考えるきっかけとしてもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・110年に及ぶ世界の映画の発展の歴史の外観が把握できる。
・映画を中心とする映像表現の基礎が理解できる。
・映画を時代や社会との関係から考察することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・映像をはじめとしたメディア分析に関わる科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション：映画の歴史とは？　動く映像のはじまりから映画の誕生までの経緯と時代	リュミエール兄弟、シネマトグラフ、サイレント映画
第2回目	映像のなかの変形：実験アニメーションからアニメーションへ	ディズニ・アニメーション、実験アニメーション、変形、エイゼンシュタインの「アニメーション」論
第3回目	映像の文法1：映画の空間と時間の統辞法　例）『戦艦ポチョムキン』	演出（ミザンセヌ）、モンタージュ
第4回目	1920年代のフランス映画：実験映画を中心とした総合芸術としての映画製作　例）『アンダルシアの犬』	シュルレアリスム、アバンギャルド、第七芸術論
第5回目	ドイツ表現主義とプロパガンダ映画：ドイツと映画　例）『カリガリ博士』『メトロポリス』『民族の祭典』	ウーファ、戦争、第1世界大戦、第3帝国、映画法、レニ・リフェンシュタール
第6回目	日本映画の黄金期：1930年代日本の無声映画と社会　例）『汗』	内田土夢、傾向映画、無声映画
第7回目	プロパガンダと映画2：第二次世界大戦とハリウッド　例）『汝の敵を知れ』	combat film,教育映画
第8回目	プロパガンダ映画と映画3：日本における戦時の映画利用　例）『戦ふ兵隊』	国策映画、文化映画
第9回目	プロパガンダ映画と映画4：「極楽静土」満州　例）『満映ニュース』	満州映画、ニュース映画、李香蘭、大東亜文化圏、5族協和
第10回目	プロパガンダ映画と映画5：娯楽は「敵」なのか。　例）『望楼の決死隊』	国策映画、娯楽映画、戦争映画、映画法
第11回目	戦時中の合作映画：日本とドイツ、日本と朝鮮　例）『新しき土』『愛と誓』	原節子、女優たちと戦争、ナショナル・シネマ
第12回目	ドキュメンタリーの様々な表現　例）『水俣』	土田典昭、ドキュメンタリー、社会派映画
第13回目	映画と社会と政治と歴史の関係　例）『封印された映画～1974年』	インドネシア、日本映画、政治、外交交渉
第14回目	上映禁止、蔵入りされた映画　例）『誤発弾』『異邦人の河』	1960年、韓国、1970年、日本
第15回目	映像表現とは何か　総まとめ、テスト	映像表現、実験映像、表現

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・時間の関係上、講義に関連した作品をすべて見ることは難しいので、できる限り講義で取り上げた作品を各自で見ておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	合計2回のレポートを出してもらい、成績に反映する。
平常点評価	70 %	授業中に受講エッセイを課し、最後の授業で総まとめとテストを行なう。

・受講者の人数等によって、以上のことに変更が生じることがあるが、その場合はなるべくすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・随時具体的な作品を示しつつ授業を進めるが、映画が見られるという安易な考えで受講しても楽しいばかりの作品ではないので、十分に検討し

た後で登録することを勧める。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『映画の教科書	ジェイムズ・モナコ／フィルムアート社／4845983486／映像の文法や映画の記号的性質について、参考になる。
『映画映像史』	出口丈人／小学館／4093874859／映像映画の歴史を概観するのに役立つ。
『ワールド・シネマ・ヒストリー』	アンドレア・グローネマイヤー／昇洋書房／4771015244／『映画映像史』とともに参考にすることを推奨する。
『映画技法のリテラシー〈1〉〈2〉』	ルイス・ジアネッティ／フィルムアート社／4845903547,4845903547／〈1〉と〈2〉合わせて読むと、より参考になる。
『アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷』	増田幸子／大阪大学出版会／4872591771／第2次大戦とハリウッドについての部分を参考にしてほしい。

その他のものについては、随時授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Internet Movie Database(IMDb)　http://www.imdb.com/

その他 / Others

映画芸術論（S） § 映像文化論（S）

13371

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義は映画鑑賞のためのものではありません。理論的講義です。どんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。キーワードは人間・虚構化・文化です。私たちが問題にするのは、私たちの外部に客観的に存在する現象としてのフィルムではなく、私たちの内部に立ち現れてくる虚構化された内的空間です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、観客の外部に客観的に存在するものではなく、観客が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。言い換えると、観客の内部に絶え間なしに立ち現れてくる映像とは、観客によって分節化される時間の密度、すなわちその時間性が観客の内部に絶え間なしに作り上げる、構造化され、時間化されていく生成の世界なのです。つまり重要なこととは、映画作家がフィルムに刻印した時間を、観客がそのフィルムを観ながら分節化する時間のあり方、すなわちその時間性こそが観客の内部に、シネマという内的虚構化空間を現前化させ、現在化させる原動力だ、という点です。一言で言えば、観客によって絶え間なく分節化され、構造化され、時間化されていく、いわゆる生成の世界としてのシネマというものを考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と虚構化と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3	映画芸術論への導入	ﾍｰｹﾞﾙのｱｰﾄ論、空間ｱｰﾄと時間ｱｰﾄ、ﾓﾝﾀｰｼﾞｭとｸﾛｰｽﾞｱｯﾌﾟという映像の操作術
4	モンタージュ論	演劇（＝ﾗｲﾌﾞ・ｱｰﾄ）に対して映画（＝ﾓﾝﾀｰｼﾞｭ・ｱｰﾄ）が獲得した途方もない自由
5	作家主義論	作家主義を標榜するヌーベル・ヴァーグとは、ｲﾀﾘｱ・ﾈｵ・ﾚｱﾘｽﾓの精神を受け継ぎ、さらにﾊﾘｳｯﾄﾞ的なｽﾀｼﾞｵ・ｼｽﾃﾑを否定し、独自のﾘｱﾘｽﾞﾑを追求した映画改革運動である。
6	ショット論	映画の秘密はｼｮｯﾄの中を流れている時間にある。映画の越境性とは、言語の壁を容易に越えてしまうという特性である。
7	創生期の映画	ﾘｭﾐｴｰﾙ兄弟とｴｼﾞｿﾝ、ﾒﾘｴｽ、ｾﾞｯｶ、ﾎﾟｰﾀｰ、ｲﾀﾘｱ史劇、ｸﾞﾘﾌｨｽ、ﾁｬｯﾌﾟﾘﾝ、ﾄﾞｲﾂ表現主義、ｶﾞﾝｽ、ｿｳﾞｨｴﾄ映画、ｴｲｾﾞﾝｼｭﾃｨﾝのﾓﾝﾀｰｼﾞｭ理論、ﾌﾗﾝｽ・ヌーヴェル・ヴァーグのｸﾞﾘﾌｨｽ再評価。
8	アメリカ映画黄金期	ｸﾞﾘﾌｨｽとﾌｫｰﾄﾞはｱﾒﾘｶ映画を代表する二大監督といわれ、時代に翻弄されながらも最後まで自分たちの美学を貫き通したことが彼らに共通する特徴である。しかし作家主義の観点から見ると、ｸﾞﾘﾌｨｽは映画作家が目指すべき作家の映画の原点であるのに比べて、ﾌｫｰﾄﾞは作家の映画とは相容れない、ｽﾀｼﾞｵｼｽﾃﾑの映画、ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰの映画の巨匠と見なされる。その意味で、作家主義を信奉するヌーヴェル・ヴァーグが批判の矛先をﾌｫｰﾄﾞに向けたのは正解である。なぜならば、ｼﾞｮﾝ・ﾌｫｰﾄﾞは良きにつけ悪しきにつけ、ｱﾒﾘｶ映画を代表しうる唯一の映画監督だからだ。第二次大戦後の世界の映画状況が一気に変化する。ｲﾀﾘｱで、新しいﾘｱﾘｽﾞﾑ映画が誕生する。ｲﾀﾘｱ・ﾈｵ・ﾚｱﾘｽﾓの誕生とは、古典的ﾋｭｰﾏﾆｽﾞﾑを越えた新しい社会的ﾘｱﾘｽﾞﾑの誕生を意味する。第二次世界大戦が映画ｽﾀｲﾙを構造的にいかに変えてしまったかが分かる。それは一言で言えば、ｽﾀｼﾞｵ・ｼｽﾃﾑの映画（＝ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰの映画）から、ある映画作家が企画、脚本、ｷｬｽﾃｨﾝｸﾞから撮影、編集までの映画制作の全てを取り仕切る、現場主義の映画への変換である。ｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏとは1960年代後半から70年代前半にかけてﾊﾘｳｯﾄﾞで作られた、既存のｽﾍﾟｸﾀｸﾙ路線とは一線を画した作品を一般には言うが、一言で言えば、作家性に貫かれた映画史に燦然と輝くｱﾒﾘｶB級映画群のことである。
9	日本映画黄金期	50年代日本映画黄金期、溝口健二、小津安二郎、黒澤明、成瀬巳喜男、木下恵介、今井正、小林正樹、市川崑。特に、日本を代表する二人の映画作家、溝口健二と小津安二郎。さらに、ヌーヴェル・ヴァーグの日本映画評

10	フランスヌーヴェル・ヴァーグ	作家主義論を提唱したﾌﾗﾝｽ・ヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛の最大の功績は、ｲﾀﾘｱ・ﾈｵ・ﾚｱﾘｽﾓが果たした現場主義の映画への変換を継承し、さらに映画創造の真の主体を作家に置き、その作家性をｼﾈﾏ・ｱｰﾄの第一要素として捉えたことである。ここに構造主義の手法に共通する二項対立によって、言語と文化の枠を超えた関係の構図を鮮明に描き出すことが可能となった。すなわち、映画の世界には国境はなく、ただ、非作家の映画と作家の映画という二つの種類の映画が存在するだけである、と主張できるようになった。作家とは、自己の哲学と美学とを作品全体にわたって展開する映画人で、多くの場合自ら脚本を書き、台詞を書き、そして演出もする。彼らはこの立場から映画を作り、便宜的なﾓﾝﾀｰｼﾞｭによらず現実の多様性を反復不可能に切り取ることを心がけた。これこそが真のﾘｱﾘｽﾞﾑだと考えた。そして観客の想像力を刺激する作り方の姿勢と、一つ一つのｼｮｯﾄへのこだわりこそ、ヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛の映画作家たちが目指したものである。このように映画のｱｰﾄとしての可能性をもっとも強く証明しようとしたのが、ヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛の映画作家たちであ
11～12	80年代から現在までの映画史	ﾌﾗﾝｽ映画改革運動の理論的ｼﾝﾎﾞﾙである作家主義論は、国境を越えて、他の国の映画改革運動に受け継がれていく。彼らの自由な作風は、後のｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏの監督たちに影響を与える。そしてｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏを見ながら青春時代を送ったﾖｰﾛｯﾊﾟ各国の映画作家らが、一斉に映画を作り始めた。これが80年代ﾖｰﾛｯﾊﾟ映画の復興期である。80年代以降のﾖｰﾛｯﾊﾟ映画作家たちは、ｱﾒﾘｶ映画に比して益々、凋落傾向にある自国映画を復活させようと努力した。これらの映画復興努力は国境を越えて（＝言語と文化の壁を越えて）ﾖｰﾛｯﾊﾟ各国に及んだ。彼らの多くは、日本の溝口健二や小津安二郎、あるいはヌーヴ゛ェル・ヴ゛ァーグ゛やｱﾒﾘｶﾝ・ﾆｭｰ・ｼﾈﾏから多くのことを学んだ、作家主義の立場に立った映画作家たちである。
13～15	映画芸術論の結論	ｼﾈﾏ・ｱｰﾄとは、事実存在（＝実存）としての人間が出合う、可能性としての時間、その時間のｱｰﾄである。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

映像メディア分析（S） § メディア・リテラシー論II（G）

15554

担当者名 / Instructor　篠木 涼

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

多種多様な映像が氾濫する現代社会において、私たちは常に映像に取り囲まれている。しかもその多くは「フィクション」と分類されるであろう映像である。われわれは「フィクション」とどのようにかかわっているのか。本講義では、フィクションとリアリティの関係を主題として扱っている映像作品を取り上げつつ、映像メディアとフィクションの諸問題について社会学的および美学的な観点から検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

映像メディアを中心に、フィクションとノンフィクションの境界、フィクション経験における情動、社会におけるフィクションの位置づけなどについて理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	コース全体の流れと成績評価についての説明
第2回	映画の登場	投影、運動、写真
第3回	テレビの登場	メディア・イベント
第4回	複製技術時代の芸術作品	複製作品による知覚の変容
第5回	DVDが登場する	動画、情報、映像観の変容
第6回	ヴァーチャル・リアリティとは何か	その諸形態と経験
第7回	どうして実在しない登場人物の運命に心動かされるのか	フィクションのパラドックス
第8回	フィクション経験とごっこ遊びは関係あるのか	メイク・ビリーヴ論
第9回	フィクションとドキュメンタリーをどうやって区別しようか	境界線の問題
第10回	イメージと言語が何かを表わす仕方はどの程度似ているか	再現と記号
第11回	映画の種類によって抱く感情は異なるか①	映画、情動、ジャンル
第12回	映画の種類によって抱く感情は異なるか②	映画、情動、ジャンル
第13回	登場人物に感情移入するにもいろいろある	共感とフィクション
第14回	登場人物を尊敬したこともあるが軽蔑したこともある	道徳とフィクション
第15回	確認試験と試験内容の講評	映像とフィクション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終日の確認試験70点 出席30点

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中に適宜指示します。

教科書 / Textbooks

使用しません。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜指示します。

その他 / Others

映画と社会（S） §　エンタテインメント論（S）

15604

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、戦後の世界の映画史に足跡を残してきた各国の映画について学ぶ。主に、日本を含むアジア各国の近代史と映画とのかかわりを踏まえながら、アジア映画の現状と課題を整理していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・映画と社会や時代との関係について学ぶ。
・アジア各国の映画について学ぶ。
・国境を越える映画について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像や映画、そして、アジアの社会に関わる他の科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、戦後のイタリア映画：ネオリアリスモ	ファシズム、レジスタンス
第2回	日本映画の50年代1：世界に「発見」された日本映画	第二次黄金期、5社協定、小津・黒沢・溝口
第3回	日本映画の50年代2：映画と社会	東映教育映画、自主映画組織
第4回	フランスのヌーヴェルバーグ：1960年代前後の「カイエ・デュ・シネマ」を中心とした映画	作家主義、シネマ・ベリテ派、カイエ派
第5回	日本のヌーヴェルバーグ：1960年代前後の日本映画	大島渚、国家と映画
第6回	韓国の60年代：近代化と映画	メロドラマ、家父長制
第7回	アメリカン・ニューシネマ：1960年代から70年代初頭にかけてのアメリカ社会と映画	プロダクション・コード、レイティング・システム
第8回	東洋のハリウッドと呼ばれた香港映画：1970年代から80年代以降の香港映画	ニューウェイヴ（新浪潮）、香港返還、香港ノワール
第9回	1980年代以降の中国映画：第五世代の登場とその後の変貌	文化大革命、第五世代
第10回	1980年代以降の台湾映画：民主化と映画	戒厳令解除、映画政策
第11回	1990年代以降の韓国映画：民主化と映画産業への関与	韓国ニューウェイヴ、映画振興法
第12回	1990年以降のイラン映画：宗教と映画	イスラム革命、児童映画、9.11
第13回	インド映画の現在：ナショナルシネマの行方	ナショナルシネマ、ボリウッド
第14回	越境する映画：合作とリメイク映画	ディアスポラ、エスニックマイノリティ
第15回	まとめ：映画と社会	映画の越境性と土着性、社会性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・講義で触れた映画作品などは可能な限り、各自が見ておいてほしい。
・映画産業の現状などについては、ニュースでも取り上げられることがあるので、新聞など日々意識して目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったテーマの中から出題し、それについての知識と考えを問う。
平常点評価	40 %	授業中に数回の受講エッセイを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・映画を見るだけの講義ではないので、登録の際、よく検討してほしい。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室を考慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『映像／言説の文化社会学』	中村秀之／岩波書店／4000265172／フィルムノーワルを社会学的に分析している著書

『映画の政治学』	長谷正人編 ／青弓社／4787232207／映画を社会的・政治的な産物として捉え、分析している著書
『男たちの絆、アジア映画』	斉藤綾子編 ／平凡社 ／4582282504／アジア映画研究者たちの論文をまとめた著書

他は授業中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アメリカ映画協会　http://www.mpaa.org/
(社)日本映画製作者連盟　http://www.eiren.org/

その他 / Others

活字メディア分析（S）

13317

担当者名 / Instructor　福田 徹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

様々な情報が入り乱れるIT社会、インターネット社会で、新聞を中心とした活字メディアは情報の洪水に押し流されないための確かなメディアに位置づけられる。元新聞記者として国内外の事件や政治・行政などを取材した体験をもとに活字メディアの取材･編集の実態を解説し、テレビのニュース解説者の体験から「読むニュース」と「聞くニュース」の違いを考察。毎週、注目したい記事を取り上げ、時事問題を解説、メディア情報を主体的に読み解く姿勢を啓発する。さらに、新聞を活用する学習活動・NIEや新聞でコミュニケーション力をはぐくむ方策を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）活字メディアに親しむことによって、社会への関心を高め、時事知識、一般常識を身に付ける。
（2）様々なメディアの情報を吟味して読み解く習慣を身に付ける。
（3）活字メディアから、文章の基本的な書き方を学ぶ。
（4）新聞を活用する学習活動・NIEの基本的知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	情報社会を生きる（70分）とメディアとの接触アンケート（20分）	確かな情報、心を揺さぶる記事、生きる力のバトンリレー
第2回目	メディア比較(60分）とアンケート分析（30分）	聞くニュース、読むニュース、インターネットと新聞、この1週間の注目したい記事
第3回目	ニュースとは	ニュースバリュー、人間性、社会性、国際性、地域性、記録性、この1週間の注目したい記事
第4回目	新聞制作の実際	新聞の版建て、面建て、構成、この1週間の注目したい記事
第5回目	言論機関と報道機関	メディアの社会的役割、署名と匿名、この1週間の注目したい記事
第6回目	主観報道と客観報道	新聞社の違い、記者のフィルター、数字の魔術、この1週間の注目したい記事
第7回目	編集のプロの技－取材	取材の心得、夜討ち朝駆け、パソコンの誘惑、この1週間の注目したい記事
第8回目	編集のプロの技－見出し	凝縮の文学、ニュースの顔、分からん3段、昭和史に残る名句、この1週間の注目したい記事
第9回目	編集のプロの技－記事執筆	記事の書き方、間違った表現・言葉、5W1H、この1週間の注目したい記事
第10回目	編集のプロの技－校閲	間違いのない文章、校閲の極意、点検の仕方、この1週間の注目したい記事
第11回目	採点者から見た良い小論文とは	入社試験、かりやすい文章、起承転結、漫画の構成、短文、この1週間の注目したい記事
第12回目	メディアは真実を伝えているか1	真実を伝えない七つのパターン、昭和の三大誤報、平成の三大誤報、合成写真、この1週間の注目したい記事
第13回目	メディアは真実を伝えているか2	新聞社の違い、比べ読み、この1週間の注目したい記事
第14回目	NIE1（70分）とメディアとの接触アンケート（20分）	新聞で高まる5つの力、学びの動機づけ、学力、社会への関心、この1週間の注目したい記事
第15回目	NIE2（70分）とメディアとの接触アンケート分析（20分）	NIEの実際、メディアとの接触アンケート、この1週間の注目したい記事

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業によっては、その日の朝刊を学生に購入してもらうことがある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	受講者は開講期間中、少なくても1回は「この1週間で気になった記事」を紹介し、感想を述べ、課題・問題等を指摘する。発表の内容と議論への発言内容を評価する。 受講者が、授業で扱った内容から、印象に残ったテーマを選び、意見を記す。情報を吟味し、論理的に考え、正しい文章表現で、相手に分かりやすく伝えるように記述されているかどうかを

みる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新聞を知る　新聞で学ぶ	妹尾彰　福田徹／晩成書房／／授業内容を整理して理解する参考書である

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

活字メディア論 (G)

13439

担当者名 / Instructor　三谷 茂

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

活字メディアがこれまで果たしてきた社会的役割と今後の進むべき方向を探る。活字メディア（新聞・出版）の歴史と現在の組織内外の状況を紹介し、活字メディアの役割と限界を実際の出来事を通じて理解してもらう。大事件や大災害など実際の取材・報道経験を通して分かりやすく講義し、併せて日々のニュースの意味についてみんなで考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

民主主義社会の中で、活字メディアが果たす社会的役割をきちんと理解する。その上で活字の背景にあるものを読み解く力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	活字メディア(新聞・出版)の現状	活字離れは本当か？
2	活字メディアの歴史	時代を切り開く
3	他メディアとの比較	インターネットと何を競う
4	ジャーナリズム性	権力と対峙してなんぼ
5	ニュースの作られ方	新聞記事はどこまで正確？
6	政治報道	政治家はタヌキかきつねか
7	行政報道	官僚はそれほどえらいのか
8	事件報道	人権尊重はどこまで
9	災害報道	被災者に寄り添う
10	戦争報道	日本のメディアは逃げ腰
11	メディアの怠慢	ハンセン病報道に見る愚かさ
12	出版は文化の担い手	百花繚乱
13	活字メディアの自主規制	批判をかわすだけでは
14	活字メディアの将来	紙がなくなる？
15	メディアリテラシー	おれにはおれの読み方がある

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったテーマの中から、受講者自らが関心のあるテーマを選び、それについての自分の考えを記述する。自分自身の意見がいかに説得力をもって展開されているかを評価する。
平常点評価	50 %	5回目ころと10回目ころに、授業中に提示したテーマで小リポートを簡潔に書いてもらう。400字詰め原稿用紙1枚程度。理解の程度と言いたいことが明確かどうかを評価する。授業態度も評価対象。

小リポートの提出要請がいつあってもよいように、筆記用具（鉛筆かシャープペン）を持参のこと。消しゴムも必要。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日々のニュース（国際的な動きや政治の動きから京都のタイムリーな話題まで）を新聞やテレビで知っておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫ほか／世界思想社／4-7907-1057-2／事前に読むと授業がより分かる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

グローバルメディア論（S） §　グローバルメディア論（I）

15544

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代のメディアをめぐる社会的環境の変化の中で、グローバリゼーションは最重要なものの1つである。しかし、グローバリゼーションは一般に知られているより遥かに多様な側面を持つと共に、実に複雑な影響をメディアに与え、また逆にメディアそのものがグローバリゼーションに影響を与えてもいる。

本講義では、最初にグローバリゼーションの基本的な概念を学び、その上で世界で起きている様々な事例を通して、グローバリゼーションのダイナミズムや、メディア・報道とグローバリゼーションの相互影響と、そこから生じる問題を考える。最後にメディア、ジャーナリズムを巡るグローバル化が様々な問題を抱える中で、グローバルな次元での共生、アイデンティティ構築が可能なのか考察する。各回を通して、国際報道、とりわけ現在起きているニュース報道の実例を重視します。

到達目標 / Attainment Objectives

1・グローバリゼーションを巡る様々な概念を、具体的な実例と共に理解し、説明できるようになること。
2・グローバル化時代におけるメディア・ジャーナリズムの構造と様々な問題点の基礎的な理解をし、その上で批判的な視座に立ち、各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～グローバリゼーションとは何か～	グローバリゼーションの定義、時間と空間の圧縮、文化帝国主義、ハイブリディゼーション
第2回	グローバリゼーションの諸理論とメディア、情報の接点	国際コミュニケーション、グローバル・メディア・スタディーズ、マスコミュニケーション理論
第3回	メディアとナショナリズムを考える	日米関係、アンダーソン、ゲルナー、ビリッグほか
第4回	国際報道をめぐるグローバルな地政学	ニュース通信社、海外支局・特派員、中心／周縁、戦後の国際報道、総合商社
第5回	ニュース報道のグローバル化とローカル化	英米の国際報道、ニュースの商業主義、グローカリゼーション、ローカル・ニュース
第6回	メディアとテロリズムを結ぶもの	世界のテロ史、セカンドハンド・テロリズム、イスラム過激派サイト、テロの境界線
第7回	文化摩擦・交流とメディア	多文化主義、日韓文化交流、アジアのメディア、文化的近似性／近時性、モダニティ、ハンチントン
第8回	国際政治とメディア報道の議題設定	G8、先進国メディア、ウオーターゲート事件、ペンタゴン・ペーパーズ事件、ニュースの議題設定、日米関係
第9回	グローバルなメディアの進展と情報格差	CNN、ルパート・マードック、ニューズ・コーポレーション、デジタルデバイド
第10回	オンライン・ジャーナリズムの役割と可能性	コソボ空爆、メディア統制、セカンド・ハンドニュース、NWICO論争、ブログ
第11回	歴史、記憶とメディア①歴史から記憶の優位性へ	E.H.カー、コリングウッド、ピエール・ノラ他、記憶と映画①
第12回	歴史、記憶とメディア②記憶装置としてのメディア	テッサ・モーリス＝スズキ他、記憶と映画②
第13回	モダニティ、消費化する世界とメディア①	ギデンズ、ボードリヤール、モダニティと映画①
第14回	モダニティ、消費化する世界とメディア②	ヘリテージ産業、モダニティと映画②
第15回	グローバルな市民意識は可能か	脱西洋化理論、コスモポリタニズム、バフチン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習・応用を念頭に置いて、授業内に参考資料、応用への取り組み等を適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	
平常点評価	10 %	授業内でレポートを書いてもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・メディアは生き物です。大事件が起きてニュースになれば、授業では、それに関連付けて議論を展開することもありえます。従って、普段から新聞、ニュースにしっかりと触れるようにしてください。それによって講義の理解度に大きな差が出ます。
・受講人数にもよりますが、テーマに応じたディスカッションを随時実施し、問題意識と応用力を鍛えます。

・本科目の性質上、時事問題を重視するため、ニュースを騒がす大きな事件が発生した場合などには、授業内容の変更があったり、授業外学習の指示を中心に授業を行うことがありえます。
・私語は厳禁です。周囲の学生に迷惑な私語には厳しく対処します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル社会とメディア	武市英雄・原寿雄（責任編集）／ミネルヴァ書房／４－６２３－０３６１８－９／特に第1回から第10回の授業内容と密接に関係する。

テキストは、第10回までは、毎回持参すること。

参考書 / Reference Books

参考書、資料については、必要に応じて授業で適宜、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

表象文化論（S） § 芸術表現論（S）

15607

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察者の眼が反映しているのか。科学的、思想的、政治的な観点から考える。17世紀オランダのリアリズム、近代の自然描写と思想、あるいは断片的世界観、そして政治的な視線の差異などを中心テーマとする。フェルメール、ヘダ、フリードリヒ、アングル、マネ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ピカソ、ボッチョーニ、モンドリアン、デュシャン、ヘッヒ、ポロック、ボイス、リヒター、キーファーなど17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、観察者の立場で作品に向き合う。

到達目標 / Attainment Objectives

美術、芸術作品を通して、時代の思想や世界観を知る。
作品を観察し、主題を読み取り、思考する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	観察者、自然、断片の世界観、視線の差異
第2回	観察の眼	17世紀オランダの静物画と風景画
第3回	近代の自然描写と思想（1）	風景画の歴史と近代
第4回	近代の自然描写と思想（2）	自然と崇高
第5回	芸術における自然観(2)	都市　vs　田園
第6回	芸術における自然観(3)	20世紀の抽象運動
第7回	芸術における自然観(4)	20世紀のプリミティヴィズム
第8回	芸術における自然観(5)	自然と環境問題
第9回	「断片」の美学（1）	フランス近代、印象派
第10回	「断片」の美学（2）	キュビスム、未来派、新造形主義
第11回	「断片」の美学（3）	フォトモンタージュ
第12回	「自己」と「他者」の視線(1)	プリミティヴ・アート
第13回	「自己」と「他者」の視線(2)	オリエンタリズム、写真、美術
第14回	「自己」と「他者」の視線(3)	今日の展覧会批評
第15回	全体の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
観察者の系譜－視覚空間の変容とモダニティ	ジョナサン・クレーリー／以文社／／
絵画の政治学	リンダ・ノックリン／彩樹社／／
C.D.フリードリヒ、《画家のアトリエからの眺め》－視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
美術史をつくった女性たち－モダニズムの歩みのなかで	神林恒道・仲間裕子編／勁草書房／／
20世紀美術におけるプリミティヴィズム	ウィリアム・ルービン編／淡交社／／
＜方法＞としての人間と文化	佐藤嘉一編／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

言語文化論（S） §　言語コミュニケーション論（S）

15608

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義でどんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	近代言語学の成立とその背景 ソシュール（1）	ｿｼｭｰﾙが求めたﾗﾝｸﾞは、話し手の意識の中にあり、それ以外のどこにもない。
2	ソシュール（2）	
3	ソシュール（3）	
4	ソシュール（4）	
5	ソシュール（5）	
6	ソシュール（6）	
7	言語相対主義の潮流	ｿｼｭｰﾙが提示してみせたのは、これは後に言語論的転回と呼ばれるﾊﾟﾗﾀﾞｲﾑをもたらした考え方である。ｿｼｭｰﾙは、ことばが存在して初めて、概念や対象が誕生する。なぜならば、ことばが、境界のない連続的現実世界を切り取ることにより、概念が作り上げられるからというわけである。
8	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄに始まる言語相対論	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ言語学が近代言語学の三大源泉の一つだと言われる最大の理由は、近現代言語学を一貫して貫く言語相対主義の考え方の発端、すなわち母語の発見と言語と民族との間に生ずる不可分の関係の発見をそこに見いだすことが出来るからである。この考え方は、ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ言語学に端を発し、ｿｼｭｰﾙ言語学で理論的肉付けを完成し、後のｻﾋﾟｱ=ｳｫｰﾌ仮説やﾄﾞｲﾂ意味論学派に受け継がれて行く、言語相対主義に貫かれた言語理論である。
9	ﾄﾞｲﾂ意味論学派＝新ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ学派	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄに端を発する言語相対論の考え方の基本にあるのは、言語共同体に固有の分節・認知の仕組みこそが、その構成員の魂であり、精神であり、ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨである、という積極的な人間のあり方を規定する、というものである。つまり、人間がことばを支配するのではなく、ことばが人間を支配することになる、ということは、まさしくﾌﾝﾎﾞﾙﾄが、言語を創られたものという意味でのｴﾙｺﾞﾝではなく、創るものという意味でのｴﾈﾙｹﾞｲｱとして定着させた、言語に対するﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞな考え方の帰結なのであ
10	ﾚｳﾞｨ=ｽﾄﾛｰｽ	ﾚｳﾞｨ=ｽﾄﾛｰｽの神話論や親族構造の研究は、二項対立、神話を構成する最小限の要素〈神話素〉、交換のｼｽﾃﾑという補助線を引くことによって、経済上の動機と目に見える諸制度の間には、人間の無意識が作り上げている目に見えない制度がはさまっており、むしろこれが社会制度の動きに大きな役割を果たしている、という新しいｲﾒｰｼﾞを提出している。

11	ﾗｶﾝの欲望論（1）	我々の欲望の対象は常にある何ものかの代理であり、そのあるものもまた他のものの代理であるという性格を持つ。そしてそれは果てしなく続く。それをずっと辿っていくと、結局〈Φ〉ﾌｧｲという記号が出てくる。これはﾌｧﾛｽ（=ﾍﾟﾆｽ）で、このように究極の不在を辿ることは、ﾍﾟﾆｽが欠けていることなのだ、とﾗｶﾝは説明する。人間の欲望は、いわばこの根元的に欠けていることへの欲望の代理的連鎖である。
12	ﾗｶﾝの欲望論（2）	
13	ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝ言語ｹﾞｰﾑ論（1）	ｿｼｭｰﾙと同じように、言語をｹﾞｰﾑとして語ることは、ﾙｰﾙに従うということを言語活動の考察の中心におくということに他ならない。ｹﾞｰﾑのﾙｰﾙ問題には、明文化されたﾙｰﾙを持つｹﾞｰﾑ以外では、明確な答えは存在しない。それは言語活動の規則性が、明文化されたﾙｰﾙと根本的に異なっていることを示している。ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝはこのﾙｰﾙ問題を探求して行く。そこで絶えず問われているのは、我々がことばを知り、話すとはどういうことなのか？それは無秩序な現象や自然界の秩序的現象とどう違うのか？ということである。こうした探求において言語的秩序を求めるとき、我々は必然的にそれをことばで説明することになる。しかし我々が今求めているものは、あらゆることばをことばとして機能させる根元的秩序であり、その秩序の説明に、すでにこうした秩序のおかげでことばとして機能しているものを用いるのは、我々の説明がまだ根元そのものには接していないことを暗示している。ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝが求めるものは、あらゆることばがことばとして機能する根本条件であり、それ自身はいかなることばによっても語り得ないような根元である。すなわちｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝが求めるものとは、我々のあらゆる探求の鋤を跳ね返す岩盤なのである。
14	ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝ言語ｹﾞｰﾑ論（2）	
15	言語と現代思想の問題〈まとめ〉	〔1〕欲望論、〔2〕言語ｹﾞｰﾑ〈Sprache Spiel〉、〔3〕ﾊﾟﾌｫｰﾏﾃｨｳﾞｨﾃｨ〈performativity〉（＝行為遂行性）、〔4〕理論より現場への関心、〔5〕ことばと社会、〔6〕言語使用と身体、〔7〕ことばの詩的機能と論理的機能 、〔8〕ｴﾋﾟｽﾃｰﾒｰ〈épistémè〉（＝思考の枠組み）の変換、〔9〕人間諸科学と言語のﾓﾃﾞﾙ、〔10〕ﾎﾟｽﾄ構造主義〈post-structuralisme〉の登場と言語観の変容

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

広告論 (S)

13306

担当者名 / Instructor　小泉 秀昭

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「現代広告論」
本講義では、企業の行う広告活動を中心におき、広告および広告産業を包括的に理解することを目指す。広告の定義、機能、また広告キャンペーン立案プロセスなど幅広い内容を実際の企業のケースを通し解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、市民としての広告に対するリテラシーの向上を目指す一方、実社会において広告活動に関連する場面に直面した際に十分対応のできる知識、考え方を身につけることを望む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の進め方・広告の歴史および定義	マーケティング、宣伝
2	広告の種類と機能(社会的役割と企業のマーケティング活動としての役割)	マス4媒体、SP広告、経済・経営、・社会・文化的機能、
3	広告産業とは:特に広告代理店の役割と今後の方向性	広告費、総合広告代理店、世界の代理店、クリエイティブエージェンシー
4	広告のブランド構築への役割	ブランドエクイティ、ブランド認知、知覚品質、ブランド連想、ブランドロイヤルティ
5	広告戦略立案プロセス(1)	Plan・Do・See、状況分析、SWOT分析、ポジショニング、ターゲティング
6	広告戦略立案プロセス(2)(ケーススタディ)	ツーカーのキャンペーン、高齢者向け広告
7	表現戦略 TVCMの制作プロセス	クリエイティブブリーフ、ストーリーボード、TVCM
8	広告効果(1)	広告調査、AIDMA、AISAS、関与
9	広告効果(2)	精緻化見込みモデル、ロシター＆パーシーグリッド、認知的不協和低減の理論
10	メディア戦略	メディアプランニング、ブランドコンタクトポイント「牛乳に相談だ」のケース
11	ゲストスピーカー	広告主あるいは広告会社の方
12	IMC戦略	統合型マーケティングコミュニケーション、日立マクセルのケース
13	スポーツと広告	adidasのワールドカップのケース
14	Web広告	ネット広告会社、バナー広告、行動ターゲティング広告
15	新しい広告・講義の総括	ステルスマーケティング、バイラル広告 、シームレス広告

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

配布のレジュメでの復習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	教科書およびノートなどの持込は不可
平常点評価	30 %	不定期に授業内で課題を課す

課題は7～8回は行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

比較的な高度な広告理論の解説もあるため、しっかりとした受講態度を希望する
空欄のあるレジュメを毎回配布するため、遅刻をせず出席し空欄を埋めること。

教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

現代広告論(新版)	岸志津江、田中洋、嶋村和恵／有斐閣／4-641-12356-X／
新しい広告	嶋村和恵監修／電通／4-88553-183-7／

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アドミュージアム東京：http://www.admt.jp/parent_J.html
全日本シーエム放送連盟：http://www.acc-cm.or.jp/
公共広告機構：http://www.ad-c.or.jp/

その他 / Others

特になし

コミュニケーション政策論（S）

15495

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、「市民が望む政治実現のために、メディアはいかなる機能を果たしうるか、果たすべきか？」という問題意識を縦軸に探求します。従って、メディアをめぐる責任、モラル、約束事(convention)、制度、商業主義などのイデオロギー、メディア人の専門性、ジャーナリスト教育、権利と権力、市民と政治などのせめぎあいを見つめ、そこから生まれる問題、ジレンマを批判的に考察します。現在、起きているテレビニュース、新聞などのジャーナリズムの実例を大切にしながら学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

政治実現のためのメディア、およびメディア、コミュニケーションの政策に関連する主要なテーマ、すなわちメディアをめぐる責任、モラル、専門性、約束事（convention）、制度と商業主義などのイデオロギーなどのせめぎあいが抱える問題点を批判的に理解し、その上で各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～政治の危機とメディアの危機：戦後日本の歩みから～	歴代日本の首相、メディア・ポリティクス、政治実現、政策
第2回	主要な概念を学ぶ	モダニティ、資本主義、グローバル化、デモクラシー、公共圏ほか
第3回	公共放送制度と国家①NHKの課題と公共圏	NHK、受信料、公共圏、放送法、経営委員会
第4回	公共放送制度と国家②イギリスBBCの制度と模索	公共放送、BBC、ライセンス・フィー、ナショナリズム、ユーロビジョン・ソングコンテスト他
第5回	民放テレビと公共圏のジレンマ	1980年代、民放のニュース番組、ハバーマス、後期モダニティ、ディスコース
第6回	新聞メディアの現在と専門性の変容	専門性、ジャーナリスト教育、OJT、ネットジャーナリズム、論説機能
第7回	ニュース価値と議題設定の問題	ニュース価値、議題設定、フレームワーク
第8回	偏向要因から考える政治実現とメディア	偏向要因、メディア・ルーティン、イデオロギー、記者クラブ、逸脱理論、覇権理論、情報操作
第9回	メディアリテラシーの視点と政治実現	メディアリテラシー、ニュース価値、偏向要因、専門性、公共圏
第10回	ケース・スタディ～現在起きているニュース報道の事例から考える政治実現とメディア	
第11回	シンクタンクおよびその機能と政治実現	欧米のシンクタンク、日本のシンクタンク、アメリカ大統領選挙
第12回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（前）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造
第13回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（後）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造、メディアに描かれたメディア
第14回	情報インテリジェンスの可能性	ネットジャーナリズム、ブログ、外交、総合商社、大学、エコノミスト
第15回	全体総括＆ディスカッション	各回の復習、ディスカッション、リアクション・ペーパー

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習や応用が出来るように、授業内に参考資料や、応用への取り組みなどを適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	授業で学んだことの関連テーマについて、①その基礎的な理解が出来ているか、②その上で論理的かつ独自に批判的な思考がどの程度述べられているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・受講人数にもよるが、テーマに応じたディスカッションを適宜実施することを考えているので、議論を通じての問題意識と批判力を鍛えて欲しい。
・本科目の性質上、現在起きている時事的な問題を扱うことが多いので、シラバスの予定は開講以降に変更される場合や、授業外学習の指示のみに代替されることもありうる。
・私語は厳禁である。周囲の学生に迷惑になるような私語には厳しく対処する。

教科書 / Textbooks

テーマが多岐にわたるので、教科書は特に使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジャーナリズムの科学	門奈直樹／有斐閣選書／４－６４１－２８０４６－０／
メディアの法理と社会的責任	渡辺武達・松井茂記（責任編集）／ミネルヴァ書房／４－６２３－０４０７３－９／
メディア・リテラシー～媒体と情報の構造学	井上泰浩／日本評論社／４－５３５－５８３９０－０／

その他、必要に応じて授業内で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

コミュニティメディア論 (S)

13314

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義で言うところのコミュニティ・メディアは、地理的な範囲を中心とした地域コミュニティのメディアである。

大きな災害が起きるたびに、マス・メディアに登場する小規模なメディアがある。それが、地域メディアと言われる、ローカル新聞やコミュニティFMである。地域メディアは、その名の通りに地域に密着した情報を伝えるために存在している。われわれの生活はマス・メディアを中心に成立しているが、一定範囲の地域を意識し、その地域で生活する人びとを中心に成立しているメディアも確かに存在しているのだ。だが、先述のようにその存在が認識されるのは、大きな災害など特別な状況が起こったときに限られている。

また、われわれが学ぼうとしているメディアにはさまざまな存在理由があり、生まれてきた理由もある。メディアの歴史を学ぶとき、その存在理由はあまり問われることがない。1本の時間軸の上にトピックスとして並べられ、他の可能性や別の時間軸は無視される。特に、地域という一定の地理的範囲や人的なつながりのなかで生み出されたメディアの歴史は、その存在すら忘れられている。

それはなぜなのだろうか？この授業の基本的な関心は、常に疑問と共にある。なぜマスなメディアだけではだめなのだろうか？なぜ、地域コミュニティとメディアが強く結びつくのだろか？なぜ、自らメディアを生み出そうとするのだろうか？自明と思われていることに改めて目を向け、それを確認し、分析し、理解をする。授業は、その繰り返しである。

到達目標 / Attainment Objectives

1. マス・メディア以外のメディアの存在を理解する。
2. コミュニティとメディアの関係を考える。
3. メディアの存在を自明とせずに、さまざまな角度から観察できる。
4. コミュニティ・メディアにアクティブなアプローチができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目（情報メディア学系用）
基礎社会学
メディア社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日常に偏在するコミュニティとメディア	コミュニティの地域性と共同性
2	地域メディアとわれわれ	地域、住民、メディアの循環を創る
3	コミュニティ・メディア研究と調査1	どんな研究視点や方法があるのか
4	コミュニティ・メディアと災害1	災害とメディアの関係性を考える
5	コミュニティ・メディアと災害2	実際の災害とメディア
6	コミュニティ・メディアと災害3	実際の災害とコミュニティ・メディア
7	コミュニティ・メディアと災害4	今後の災害とコミュニティ・メディア
8	コミュニティ・メディアを巡る議論	コミュニティ・メディアをグローバルに見る
9	コミュニティガバナンスとコミュニティ・メディア	地域社会の問題解決とメディア
10	ÿþ³0ß0å0Ë0Æ0£0û0á0Ç0£0ø0n0·tó`h0o0	コミュニティ・メディアの営利／非営利問題
11	ケーブルテレビ	地域からグローバルへ
12	地方新聞	地方新聞の存在
13	コミュニティFM	地域密着とラジオ
14	インターネットとコミュニティ・メディア	地域性のないコミュニティとメディア
15	地域とメディアの新しい関係作り	今の時代にふさわしい地域とメディアの関係とは

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観問題と論述問題を併用

レジュメは、webCTに1週間前までにアップするので、各自プリントアウトして持参すること。授業当日は、関連する資料のみを配付する。ただし、開始後30分経過した時点で配布を中止し、以後は一切配布を行わない。試験には、配付資料の内容も含まれる。
各回の授業予定は、最新のトピックスに合わせて変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とメディアの関係を、常に意識することが大切。新聞を読み、社会の動きと問題を確認することも大切。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域メディアを学ぶ人のために	田村紀雄篇／世界思想社／／
「声」の有線メディア史	坂田謙司／世界思想社／／
地域SNS最前線	庄司昌彦／アスキー／／
コミュニティ・メディア	金山智子／慶応義塾大学出版部／／
現代地域メディア論	田村紀雄・白水繁彦／日本評論社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

産業デザイン論 (S)

13287

担当者名 / Instructor　要 真理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

デザインは、単に、視覚的におもしろい、格好いいというだけでなく、私たちの思考や感情に働きかけ、ときに政治的な道具となることもある。この講義では、産業革命以後の欧米のデザインに注目し、文化的社会的コンテクストと照応させながら、デザインの機能とその可能性について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・スライドで紹介した装飾品や建造物などのデザインの様式的特徴を理解し、視覚的に区別できる。
・デザインが近代の社会構造や産業の発展と密接なつながりをもっていることを確認したうえで、カタチのうえのみならず、デザインの基本思想についても理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術や産業に関する授業と併行して受講すると、いっそう理解が深まるでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに:あなたにとってのデザイン	デザイン、生産(製品)言語、社会
第2回	「デザイン」という概念	語源、意義、プラクシスとポイエーシス
第3回	産業革命と万国博覧会	新素材、技術の発明、産業化と国際化の功罪
第4回	ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動	モリス商会、工芸ギルド、社会改革運動
第5回	唯美主義とアール・ヌーヴォー	芸術のための芸術、世紀末
第6回	マッキントッシュとゼツエッシオン	伝統様式からの分離、ウィーン
第7回	ユーゲントシュティールとドイツ工作連盟	アーティスト＝デザイナー、「規格論争」
第8回	構成主義とノイエ・ザッハリヒカイト	機能的様式、労働と生産、技術
第9回	モダンデザインと芸術家工房	アトリエ・マルティーヌ／パリ、オメガ工房／ロンドン
第10回	大衆消費社会の到来と趣味の変質	大量生産、多品種少量生産
第11回	複製技術時代の芸術作品	複製、画一化、ファシズム
第12回	新しい消費欲望の形成	イメージの差異、主体の変容
第13回	企業戦略とブランドの誕生	CI、ブランド、製品
第14回	グッドデザインの変遷	デザイナー、工業製品、使用者
第15回	デザインの可能性	現状分析、デザインの理想
	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で紹介する作品を実際に展覧会に足を運んだり、あるいはカタログやDVDなどで確認するなど、進んで作品鑑賞を行ってもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や語句について理解できているかどうかを評価する。
平常点評価	30 %	小テストや授業態度を参考にする。

セメスターの途中で予告なしに小テストを行う場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

パワーポイントとプリントを使用する。授業中に紹介した作品については、そのデータをノートに書き留めておくこと。当然のことだが、私語・携帯メール等は慎んでもらいたい。場合によっては退室を求めることもある。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ロジャー・フライの批評理論』	要真理子／東信堂／4887135890／ヴィジョンとデザインについてより深く学びたい学生向け

その他の参考文献については、授業内で適宜紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

20分を超えての遅刻、途中退室は原則として不可とする。

ジャーナリズム論（S）

13445

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、ジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由について、なぜそれらが私たちにとって重要な意味をなすのかといった観点を起点に、日本のジャーナリズム活動、ジャーナリストたちの言論活動や思想などを歴史的に踏まえながら考えていきます。現在のジャーナリズムの問題点をとらえ、見る眼を養うためにも、政治的社会的側面から見た現代社会におけるジャーナリズムの状況と課題を整理しつつ、時事的・実際的な問題などと関連させながら多面的に考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

ジャーナリズムの本質やその現在的問題を歴史的相対的に捉える視座を獲得し、関連する課題について説明することができることを到達目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～授業の進め方と評価について	ジャーナリズムの視点
第2回	ジャーナリズムとは何か	マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、ジャーナリスト
第3回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（1）明治期日本の新聞記者	ジョセフ・ヒコ、福地源一郎、福澤諭吉
第4回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（2）新聞に対する読者の視線	黒岩涙香、宮武外骨
第5回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（3）言論の力と大正デモクラシー	米騒動、井上江花、白虹事件
第6回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（4）批判の限界と新聞人	菊竹六皷、桐生悠々
第7回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（5）ジャーナリズム批判と言論活動	石橋湛山、高見順
第8回	報道することの難しさ～皇室報道をめぐって	皇室報道、表現の自由
第9回	権力を監視するということ～記者クラブというシステムと取材のあり方	記者クラブ、報道協定、情報公開
第10回	国家秘密と知る権利～外務省密約事件	知る権利、沖縄返還密約事件、記者の倫理
第11回	戦争とジャーナリズム～（1）戦争報道から何を考えればよいか	宣伝、情報操作、報道管制
第12回	戦争とジャーナリズム～（2）メディアは何を伝えているか	映像のリアリティ
第13回	取材と報道のバランス～（1）報道と人権の狭間	犯罪報道、報道被害、メディア・スクラム
第14回	取材と報道のバランス～（2）メディアが作り出す報道被害	スクープ、報道被害、実名・匿名問題
第15回	ジャーナリズムをどうするか～報道規制の動き／まとめの議論	ジャーナリストという職能／ジャーナリズムの可能性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、週刊誌など現代社会の出来事を伝える報道に意識的に接触することです。ジャーナリズム論を深めるための参考文献を授業時に多数紹介しますが、関連する文献を読んで、問題意識を深めて下さい。なお、ジャーナリズム論は近現代史と深く関わっていますので、近現代史の知識を増やすよう努力して下さい。授業は資料を中心にビデオ映像などを使いながら進めていきます。電子掲示板などを活用して授業内容に関する受講者の考察や意見を求める課題を課します。授業の進度によっては予定のテーマが前後・伸縮することもあります。なお、ジャーナリズム現場で仕事をしている方をゲストスピーカーとして行う授業も予定しています。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終的に授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにオンライン（メール）提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視します。
平常点評価	40 %	授業時に講義内容に関連した課題レポート（小レポートに準ずるもの）を課します。決められた期日までに提出（電子掲示板への書き込み提出）することが求められます。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価します。

レポートはメール（オンライン）での提出となりますので、パソコンスキルを身につけておいて下さい。授業期間中に出される課題レポート（電

子掲示板への提出）を全く提出しなかった場合は出席していないと判断します。第1回目に「授業の進め方と評価について」詳細な説明をしますので、受講予定者は必ず出席して下さい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、ジャーナリズムを見る眼を養うための知識を獲得することも必要ですが、むしろ問題意識を啓発することに主眼を置きますので、そこから生じるさまざまなテーマに関する問題意識に対して自分なりに深めることが重要です。問題意識を啓発するための資料を読んだり、ビデオ映像などを視聴し、そこから得る新たな知見、意見などを求めながら授業を構成していきます。ジャーナリズムの歴史など日本の近現代史に関わることもあり、歴史上の人物や著作など事典や文献などでさらに調べることで知識を広げて下さい。なお、時事的な問題を扱うこともありますのでこのシラバスの予定は、開講以降に変更される場合があり、若干講義予定の順序が変動または授業外学習の指示に代替されることがあります。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処します。また、配布物等は事前事後にコースツールに入れておきますので、各自そこから入手するようにしてください。配布物がある場合は授業時教室以外では配布しません。

教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じて資料等を用意する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キーワードで読み解く現代のジャーナリズム	JCJジャーナリズム研究会編／大月書店／4272330454／日本のジャーナリズムについて俯瞰し、ジャーナリズムをめぐる情況を総体的に把握することができる。授業を進める上で基本的な知識を深めたいときの参考書である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

配布物や課題レポート等はコースツール（WebCT）を使いますので、予め「早期利用申請」を申請しておいてください。

社会思想 (S)

15540

担当者名 / Instructor　松田 博

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題はますます複雑かつ陰影を伴う分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的文化的生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「人間の安全保障」や「安全社会」などの課題を、自由論・平等論・友愛論という社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げてみたい。社会科学的想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題をとおして、現代社会像を捉える「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい論述能力を身につけるための努力を期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会(科)学の基礎理論。社会(科)学の歴史。社会理論系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　講義計画	
2	メディアのなかの社会像 「8・15の社会思想」	世論、社会イメージ、リテラシー
3	ステレオタイプ論	リップマン、世論、ステレオタイプの功罪
4	エスノセントリズム(自民族中心主義)	サムナー、フォークウエイズ、ナショナリズム
5	権威主義的パーソナリティ	アドルノ、権威主義、社会的性格
6～7	人間の安全保障論(その歴史的背景・基本概念など)	セン、Human Security(HS)、基本的人権
8	中間まとめ　小論文　質疑・討論	HSと人権概念
9～10	国際社会と「人間の安全保障」	寛容、多文化共生、他者理解
11～12	「人間の安全保障」と「ホッブス」問題	ホッブス、『リヴァイアサン』、自然状態
13～14	「ルソー」問題	ルソー、『人間不平等起源論』、『社会契約論』
15	全体まとめ、質疑、レポート注意事項	レポート作成の基本条件

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ(たとえばステレオタイプの実例など)についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点評価	30 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。学生時代の知識は忘れても、一度身に着けたスキル＝技能は、水泳や自転車度同様、忘れないものです。これは脳科学では「エピソード記憶」や「意味記憶」とは異なる「手続き記憶」として知的財産となるものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部のよき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど書く能力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人間の安全保障	A・セン／集英社新書／／人間の安全保障論の基本的文献
貧困の克服	A・セン／集英社新書／／前書を理解するのに有益
フォークウエイズ	サムナー／青木書店／／エスノセントリズム論の古典
権威主義的パーソナリティ	アドルノ／青木書店／／権威主義分析
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／市民社会論など社会思想の検討
自由への大いなる歩み	キング／岩波新書／／キングの代表的著作
ガンジー自立の思想	ガンジー／地湧社／／ガンジー思想の紹介
世論	リップマン／岩波文庫／／ステレオタイプ論の古典

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。「人間の安全保障」に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

ステレオタイプその他本講義でとりあげるテーマは海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽　仮面の上に描くたび　己の顔をうしなう仮面」（現代学生百人一首）。

社会倫理学（S）

15479

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の日本の青少年にとってイジメ経験は最も深く共有された、しかも、生の意味感受性の危機に深くかかわる深刻な経験として成立している。この経験を社会倫理（応答の倫理学）の視点から振り返って、そこに孕まれている実存的諸問題を分析し、あらためて、そこからわれわれの生が直面している問題を自覚しなおすという思考の作業をしてみたい。授業の素材としては、受講生自身のイジメ経験、文学、歌、など、経験を意識化するうえで刺激となるさまざまな生きた材料を多用したい。

到達目標 / Attainment Objectives

自己の経験を哲学的に分析する思考経験をしてみる。「応答の倫理学」と呼びうる代表的思想家の基本観点を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	基礎経験と思想（パースペクティヴ）――イジメ経験を問い返す意義	基礎経験・パースペクティヴ・イジメ経験
第2回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題1	内面的自殺、実存のタマネギ化
第3回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題2	存在の透明化、世界の夢化と他者の消滅、自傷行為をとおしての存在確認
第4回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題3	傍観者化、友情という基礎経験の崩壊
第5回	存在承認による生の解放とジョン・レノンの歌	愛と実存、フランクル、ジョン・レノン
第6回	心的外傷とジュディス・ハーマンからの問題提起	ケアされた経験、ジュディス・ハーマン、治療同盟
第7回	応答の倫理学1――レヴィナス	レヴィナス、傷つきやすさ（vulnerability）
第8回	応答の倫理学2――フロム	応答責任性、フロム
第9回	応答の倫理学3――ブーバー	「私-きみ」関係性
第10回	応答の倫理学3――レイン	自己と他者
第11回	応答の倫理学4――ニーチェとサルトル	暴力のマニ教主義
第12回	応答の倫理学5――フランクル	生の意味への問いのコペルニクス的転換
第13回	実存と意味	実存、意味
第14回	文学と倫理	三島由紀夫、村上春樹
第15回	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	0 %	授業中に課すミニレポートに換える
平常点評価	30 %	授業中に課すミニレポートの評価によっておこなう

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書をよく読み、問題の全体的な相互関連への関心を高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
創造の生へ――小さいけれど別な空間を創る	清眞人／はるか書房／978-4-434-1148-8／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

環境ライフスタイル論（S） § 消費者環境論（S）

13373

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：　気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動（climate change、温暖化）が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。

・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。

・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。

・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia　に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。

・消費者部門から発生する環境負荷のついて、基礎的知識を獲得する。

・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。

気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース.とビデオ。	気候変動と温室効果ガス削減対策、環境教育、環境社会学、消費者教育
2	気候変動の現状に関する海外DVDおよびニュース：　An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	温室効果ガス、放射強制力、climate inertia
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	放射強制力、温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia。海洋における熱エネルギーの蓄積。 重要なthresholds。「危険な気候変動」。2℃上昇のリスク
4	温室効果ガス排出削減パス、必要な排出削減量	温度2℃上昇、3℃上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇リスク。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。先進国と途上国の責任分担
5	京都議定書および主要国の温室効果ガス排出状況	主要国の温室効果ガス排出状況、UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。主要国の温室効果ガス削減目標値、ポスト京都議定書をめぐる議論の要点
6	気候変動の消費者生活への影響	熱波、洪水、台風、高潮の影響。熱波マニュアルについて（イギリスの熱波警報システム（Heat-Health-Watch）、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか。洪水被害の実態ととEUにおける洪水対策。
7	消費者向け温室効果ガス削減対策、その1：	住宅における断熱性能の改善。省エネ性能住宅。
8	消費者向け温室効果ガス削減対策、その2：製品の環境ラベル	家電製品に関する省エネラベルの役割、各種の環境配慮製品の環境ラベルの制度、EUエコラベル。エコマーク、エコリーフの読み方。
9	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入の意味	風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。欧州における再生可能エネルギー産業の成長。住民による再生可能エネルギーの導入例。
10	EUにおける気候保全対策と家庭向けプログラム	EUの再生可能エネルギー目標、EUの温室効果ガス削減目標、家庭向けの削減対策、住宅の省エネ断熱性能改善の取り組み。EUの環境教育における温室効果ガス削減の教育
11	交通部門における温室効果ガス削減策。	EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。

12	食料自給率と気候変動	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率、フードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。
13	温暖化対策における消費者教育の重要性	消費者政策、消費者教育、温暖化に関するEUの消費者教育プログラムの検討
14	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む	海外のメディアが伝える気候変動と温室効果ガス削減対策に関するニュースをよむ。授業中に、各自、最低一つは読んで、分析を行う。
15	講義を振り返り、質疑応答を行う。小レポートについて、コメントする。 家庭からの温室効果ガス削減対策について、事例を紹介する。	講義中に最終の小レポートを行う。温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。
最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりの小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。
気候変動（climate change、または温暖化）は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science（気候変動科学）の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報――温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策――」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」「日本の科学者」2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ（http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka）
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) （http://www.ipcc.ch）

その他 / Others

情報経済論（S）

13301

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

情報ネットワークインフラの発達は、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革をもたらした。電子商取引の普及とユビキタスネットワークの形成により、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造が変わってきた。電子商取引が引き起こすさまざまな問題に対する諸制度の整備、消費者の側でのリテラシー涵養も求められている。この講義では電子商取引を中心とするネットワーク経済の実態、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・電子商取引の仕組み、構成、現状について理解できる
・電子商取引を支える技術的基盤の基本的しくみについて理解できる
・電子商取引の社会的影響について理解できる
・電子商取引に関わる法的問題、消費者保護の基本的課題について理解できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　情報ネットワーク化と経済活動	情報経済、情報化社会、ICT、ユビキタスネットワーク社会
第2回	電子商取引（EC、Electronic Commerce）とは何か	電子商取引、定義、取引主体、市場規模
第3回	企業・消費者間（BtoC）のEC(1)	ユーザー像、市場の実態、ビジネス・モデルの類型
第4回	企業・消費者間（BtoC）のEC(2)	デジタルコンテンツ市場、ビジネスモデル
第5回	インターネット広告	ネット広告市場、ネット広告の基本類型、ビジネスモデル
第6回	企業間（BtoB）のEC	EDI, サプライチェーンマネジメント、e－マーケットプレース
第7回	デジタル・エコノミーと経済法則の変化	経済性、取引費用、情報財、収穫逓増
第8回	ECの技術的基盤(1) 情報処理システムと通信ネットワーク	コンピュータの発達、分散処理、通信ネットワーク
第9回	ECの技術的基盤(2)　インターネット	パケット通信、プロトコル、TCP/IP、インターネット利用の実態
第10回	ECの技術的基盤(3)　セキュリティ、暗号化と認証	暗号技術、デジタル署名、電子認証、電子公証、PKI
第11回	電子決済システム	ICカード型、ネットワーク型、プリペイド型
第12回	ユビキタスネットワーク（1）	ユビキタス、u-Japan政策、RFID
第13回	ユビキタスネットワーク（2）	トレーサビリティ、トラッキング、プライバシー保護
第14回	ECに関わる犯罪・トラブルと法的規制	特定商取引法、電子契約法、消費者保護、プライバシーマーク
第15回	情報ネットワーク社会における個人情報保護	個人情報漏洩、個人情報、プライバシー、OECD8原則、個人情報保護法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・理解を深めるために、参考文献（あるいは同分野の書籍）を講義の前後に読んでおくこと。
・講義の中で取り上げられた事例をインターネット上で確認してみること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義で取り上げた基本的な用語、概念、基本問題が正確に理解されているかを評価する。
平常点評価	30 %	講義で紹介した事例を実際に自分で調査・確認してもらう。3回の提出課題を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・新聞やWebサイトから講義に関わる内容はかなり勉強することができるので、意識的に目を通すように。
・ネットショッピングの際に、サイトの取引規約・プライバシーポリシーなど、普段あまり目を通さない所を隅々までしっかりと読んでみよう。また提供されているサービスをすみずみまで調べてみよう。これだけでもかなり勉強になる。

教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用せず、教室で提示するスライド、授業中に配布するプリントを使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エレクトロニック・コマース入門	井上英也／日本経済新聞社／4532107571／電子商取引の全体像をざっと理解するのに便利である
IT経済入門	篠崎彰彦／日本経済新聞社／4532109426／第7回目の講義内容の理解が深まる
IT革命を読み解く	岩村充／技術評論社／4774113204／第１回～第5回の講義内容の理解が深まる
デジタルID革命	國領二郎、日経デジタルコアトレーサビリティ研究会／日本経済新聞社／4532311179／第12回・13回の講義内容の理解が深まる
インターネットと法　第3版	高橋和之，松井茂記／有斐閣／4641129460／第１４、15回の講義内容の理解が深まる

上記以外の最近出版されている参考書については授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

次世代電子商取引推進協議会　http://www.ecom.or.jp/
日本通信販売協会　http://www.jadma.org/
総務省　http://www.soumu.go.jp/

その他 / Others

情報法（G） § 情報法（Q）

15311

担当者名 / Instructor　福島 力洋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

高度情報通信社会において情報流通に伴って生じる様々な法的諸問題について、基本的人権としての表現の自由に関する基本的理解を踏まえつつ、現行の枠組みの意義と限界等も視野に入れながら講ずることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

情報流通をめぐる法的問題について、説得力ある理由付けを伴って（＝単なる独りよがりではない）、自分なりの結論を下すことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法（基本的人権）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	授業の概要説明、講義の進め方、アンケート実施	
第2講	表現の自由総論（1）	
第3講	表現の自由総論（2）	
第4講	プライバシー侵害	
第5講	個人情報保護	
第6講	名誉毀損	
第7講	人格権侵害と救済	
第8講	性表現	
第9講	放送	
第10講	インターネット	
第11講	情報媒介者の責任	
第12講	ﾒﾃﾞｨｱの融合と規制	
第13講	取材の自由（1）	
第14講	取材の自由（2）	
第15講	情報公開	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・随時提示される小括的な問いに関し、参考書指定文献等を参照しつつ、自分の言葉で説明できるようなアウトプットを行うこと
・授業中に触れる諸判例について、概要と判旨の確認、授業担当者とは違った視線からの解説に触れること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	問題点を法的に分析し、それに対し説得力ある理由付けを伴った結論を下せているかどうか

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞や雑誌、放送、インターネットなど、身の回りにあるメディアのあり方について、単なる一利用者から脱却し、一歩はなれたところから眺めてみて、「何かおかしい」と思うところを見つけてください。それが学習のスタート地点です。

教科書 / Textbooks

教科書は特定のものは指定しないが、下記参考書が準教科書としての位置づけとなる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ﾒﾃﾞｨｱ判例百選	服部政男・長谷部恭男編 ／有斐閣／464111479X／
情報法（改正版）	宇賀克也・長谷部恭男編 ／放送大学教育振興会／9784595126154／
マスメディア法入門	松井茂記 ／日本評論者／4535513643／

教科書として位置づける。また「事業外学習の指示」参照

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

スポーツ産業論 (S)

15471

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か，それはどうあるべきかという問いを投げかける。内容としては，1980年代から1990年代にかけて，通産省によってそれが奨励されたのはなぜか，そこで提示されたプランの何がどう問題なのか，なぜ失敗したのかなどについて考えるところから話しを始める。さらにそこから内容を深め，日本の労働生活と余暇生活，地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視して話しを進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・通商産業省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し，その問題を説明できるようにする。
・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し，スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し，レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/日本のスポーツ政策：文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済，「消費革命」「自由時間」，娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働，過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例，戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例，ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自習が難しい対象を扱った講義なので，できるだけ休まずに授業に出席してほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21―スポーツ産業研究会報告書―	通商産業省産業政策局編／（財）通商産業調査会／ISBN4-8065-2360-7／内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	桝潟俊子／学陽書房／ISBN4-313-81401-9／戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

その他 / Others

スポーツメディア論（S）

15564

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

書籍だけで学習することが難しい科目なので，授業に毎回出席して，分からないところがあれば質問をして欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣／同文舘／ISBN4-495-86281-2／メディアイベント論に関わって参考にされたい。
越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画／ISBN4-921164-41-X C3075／「第2章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

大衆表現論（S）

13291

担当者名 / Instructor　上柴 とおる

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

長年にわたる放送（ラジオ中心）＆音楽業界での現場体験を生かして（今も現役真最中！）、ラジオがこれまでに果たして来た役割、効用、おもしろさなどを皆さんに再認識してもらえるように経験を交えながら講義をし、そしてラジオを軸に発展を遂げた大衆音楽の流れやそれらを取り巻く産業の発達、新しい大衆文化の芽生え。。。と話を広げて参ります。時代的に言えば終戦（1945年）後から1980年代～1990年代に至る頃までの話が中心となります。そんな中から現代のラジオ媒体や音楽シーンの現状も改めて見えて来るでしょう。はっきり言っていわゆる大学の講座らしからぬ授業です。変わったもの（？）を好む人は是非受講しましょう！私自身の経験に基づく観点から物事を捉えます（ここでしか聞けない話も多い！）。時には映像や楽曲音源なども（レアもの!?も）使用します。将来、マスコミ関連の仕事を目指す皆さんにとっても何らかの参考になるはずです。

●到達目標

到達目標 / Attainment Objectives

戦後（1945年～）大衆の娯楽として発展して行ったラジオの影響力の大きさ、そしてどのような文化を育み現在に至ったのか、またラジオと共に歩んだ大衆音楽のスターたちのさまざまな自己表現のスタイルを生み出した時代の空気感を認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション～講座概要紹介（＆ラジオ、音楽業界の近況など）、自己紹介	
2	‘ラジオ・ネーム’とはなにか？～音声メディアの効用を考える	ハンドル・ネーム、メール、ファックス、ハガキ、リクエスト、メッセージ
3	ラジオの歴史と世相①～戦後洋楽史（1950年代～1960年代）	AMラジオ、ヒット・パレード、本邦初のカウントダウン番組、映画音楽
4	ラジオの歴史と世相②～団塊世代が先鞭をつけた深夜放送ブーム（1960年代後期～1980年代）	高度成長経済時代、大阪万博、受験戦争激化、ユース・カルチュア、オールナイト・ニッポン、ヤング・タウン
5	ラジオの歴史と世相③～FMラジオの時代（1970年代～1990年代）	ステレオ放送、エア・チェック、ウォークマン、FM専門誌、デジタル時代
6	ラジオの歴史と世相④～今年開局20周年、関西地区No.1の座をキープし続ける<FM802>の成功過程を開局前夜から追って検証	イメージ（広報）戦略、物量作戦（ステッカー、グッズ）、クラス・メディア、ヘヴィー・ローテーション、J-POP
7	世界のROCKシーンにおける「武道館」の存在意義	ビートルズ、チープ・トリック、ボブ・ディラン、大阪フェスティバル・ホール閉鎖
8	外国語楽曲に日本語の題名は必要か!?～タイトルの訴求力	ダニエル・パウター「バッド・デイズ～ついてない日の応援歌」、アース・ウィンド＆ファイアー「宇宙のファンタジー」、バングルス「胸いっぱいの愛」、コールドプレイ「美しき生命」。。。
9	ミュージシャンの主張①～ボブ・ゲルドフが全世界に向けて訴えたチャリティー・イヴェント「ライヴ・エイド」の歴史的な意義	エチオピア難民救済、バンド・エイド、ウィ・アー・ザ・ワールド、フジ・テレビ、世界同時中継、ライヴ・エイト、ライヴ・アース
10	ミュージシャンの主張②～米ロック・ミュージシャンと政治	オバマ、ブッシュ、イラク戦争、9.11、ブルース・スプリングスティーン、ニール・ヤング、ディクシー・チックス。。。
11	ミュージシャンの主張③～かつて封印され葬り去られた楽曲	放送禁止、発売禁止、忌野清志郎、タイマーズ、ローリング・ストーンズ、ザ・ドアーズ。。。
12	ミュージシャンの主張④～山下達郎＆竹内まりやの哲学（1970年代からのJ-POPの流れを検証）	ニュー・ミュージック、ユーミン、サザンオールスターズ、小室哲哉、大阪フェスティバル・ホール。。。
13	日本独自の大衆音楽芸能①～ジャニーズ王国の興隆（1960年代~2000年代）	嵐、SMAP、Kinki-kids、NEWS、KAT-TUN、TOKIO、Hey!Say!Jump、V6、関ジャニ∞、少年隊、光ゲンジ、J.J.スペシャル、たのきんトリオ、郷ひろみ、フォー・リーヴス。。。
14	日本独自の大衆音楽芸能②～ヴィジュアル系のルーツと海外進出（ヴェルサイユ、世界デビュー決定）	X JAPAN、Shazna（Izam）、Malice Mizer、Versailles、You-Tube、Megamasso、KISS、Glam Rock、New Romantic、L.A.Metal、宝塚、歌舞伎。。。
15	日本から世界へ～「スキヤキ」（坂本九：1963年全米No.1）の再来は永遠のテーマか？	上を向いて歩こう、YMO、ピンク・レディー、ラウドネス、松田聖子、倖田來未、宇多田ヒカル。。。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容への興味・関心・認識度

毎回授業でレジュメを配布しますがそれだけで試験をクリアするのは無理です(試験の際は一切持ち込み禁止です)。可能な限り授業に出席をして自分はどういう事柄に関心を持ったのか(あるいはどんな事柄が目から鱗だったのか等)、日頃から留意しておくことが定期試験における課題への回答につながるでしょう(学外で販売されている講義ノートの類は全く役に立ちません!)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ラジオは脳にきく	板倉徹／東洋経済新報社／ISBN4-492-04267-9／
亀淵昭信のオールナイト・ニッポン35年目のリクエスト	亀淵昭信／白泉社／ISBN4-592-75012-8／
熱狂の仕掛け人	湯川れい子／小学館／ISBN4-09-387434-4／
放送禁止歌	森達也／光文社／INBN4-334-78225-6／
別冊宝島1499号「流行り歌に隠されたタブー事件史」	別冊宝島編集部／宝島社／ISBN978-4-7966-6178-2／
盗作コピペ病	コピー＆ペースト研究会／茜新社／ISBN978-4-86349-020-8／
『at武道館』をつくった男	和久井光司／アルテスパブリッシング／ISBN978-4-903951-09-6 C0073 ／
季刊「上方芸能」143号特集 '効く聴くラジオ—おとな文化の元気'	上柴とおる他／上方芸能／ISSN-0910-5506／
季刊「上方芸能」162号特集 '団塊の世代と芸能文化'	上柴とおる他／上方芸能／ISSN-0910-5506／

授業への興味・関心を高めるための書籍・ムック・雑誌です。
初回の授業で配布するレジュメに改めて記載しておきます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ネットワーク論（S）

15545

担当者名 / Instructor　堀 孝弘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ITネットワークを扱う講座ではない。市民活動における人づくり、コミュニケーションスキル、組織運営、ネットワーク構築について原則および実践事例などを紹介する。学園生活だけでなく社会に出てからも役立つスキルや考え方を、座学だけでなく「受講者参加ワーク」も用いて体験的に修得する講座である。知識を提供するだけでなく、「知恵」を育む講座である。

また、理解を深めるうえで情報のもつ意味は大きく、市民セクターの成長やセクター間協働について、講師自らの活動経験を含めて、環境ネットワーク活動の最新事例も紹介し受講者の視野を広げる。

なお、本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

到達目標 / Attainment Objectives

将来にわたり活用できる人的ネットワーク構築、および団体運営の基本スキルの修得（社会の「小さなハブ」になる）
セクターを越えた協働社会の構築に向けた、市民セクターの活動成果と可能性の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

景観デザイン論、環境形成論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業概要および講師紹介 ネットワークの基礎理解と実際 （情報、機会、カネ…、持てる者がますます豊かになる社会とどう向き合う）	事例紹介「世界は6次の隔たりでつながっている？」 【参加ワーク】人と人とのつながりを豊かに（非攻撃的自己主張の体験）
第2回	人と人のつながり 対人コミュニケーションの発想転換　コーチングの基本	ゲームの理論からWin-Winの関係構築へ 【参加ワーク】質問力を高めよう（詰問からOpen Questionへ）
第3回	団体の運営　1 意義のある活動を継続的に生み出すには	目的と目標、問題と課題、ミッションとビジョンの違いなど 【参加ワーク】緊急性と重要性の整理
第4回	団体の運営　2 共感を得る活動企画の基礎理解（マーケティングとポテンシャル）	リーダーとコーディネーター、ネットワークが必要になるとき 【参加ワーク】ポテンシャル分析（あなたの持っている30の顔）
第5回	団体の運営　3 活動構築に必要な手順等の確認（実際の活動事例から）	事例紹介「環境ネットワーク活動の活動事例その1　日本の環境首都コンテスト全国ネットワーク」 ここまで伝えた団体運営に必要な手順などを、実際の活動事例を通じて確認する。 【参加ワーク】リーダーに必要な要件優先順位づけ
第6回	会議の効率的な進め方　1 誰も発言しない会議、何が決まったかわからない会議を卒業しよう	会議での意見の引き出し方、ブレーンストーミングの4つの約束など 【参加ワーク】会議の「次第」をつくろう（会議の議題と進行の整理）
第7回	会議の効率的な進め方　2 会議で出た意見の整理	KJ法の基礎理解　意見の整理分類。関係と階層を考え、課題を明らかにする。 【参加ワーク】意見の分類と整理をしてみよう（滅茶苦茶な意見、反論、質問で混乱した会議をまとめよう）
第8回	会議の効率的な進め方　3 透明性のある合意形成 幾つかの手法紹介と手法活用の留意点	事例紹介「合意形成手法　衆目評価法　一対比較行列評価など」 【参加ワーク】弱小チーム改造計画A～C案　合意形成手法体験
第9回	団体内での人づくり 肯定的指導と弱点の克服。プロセス評価と成長への助言（コンピタンシー評価との違い）	エンパワーメントと次世代リーダー育成 【参加ワーク】プロセス評価を体験しよう
第10回	仲間の拡大　異セクター協働 市民・事業者・行政、立場の違う人たちの協力に何が必要か	事例紹介「地域計画策定への住民参画」 【参加ワーク】コーディネーターの出番（のび夫とスネ太とジョイアンの3すくみを解消しよう）
第11回	ビジョンを実現する力 バックキャストで考える未来　バックキャストとフォアキャスト	事例紹介「スウェーデンの緑の福祉国家構想」から 【参加ワーク】20年後の夢をバックキャストで考える（いかにして自分の夢に近づくか）

第12回	適応力・対応力 先進事例を、自分たちの事情にあわせてアレンジする力	事例紹介「環境ネットワーク活動の活動事例その2　グリーンコンシューマー活動の地域展開とネットワーク」 【参加ワーク】できない理由さがしから、できる条件づくりへ
第13回	思いをかたちにする 活動企画に必要な要件　PDCAサイクルでの活動の展開・深化	「企画」とは、あこがれの人へのアプローチと同じ 【参加ワーク】活動を企画してみよう
第14回	思いを伝える プレゼンテーションの基礎理解	短時間で要点をまとめる「アンチ・クライマックスオーダー」 【参加ワーク】思いを伝える　アンチ・クライマックスオーダー体験
第15回	自己実現に向けて 人権と平和のために闘ってきた人たち	日々の時間の使い方　クワドラント分析 【参加ワーク】学びのふりかえりと分かち合い

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講師が各回提示・提供した情報等を、応用でき得るよう咀嚼・理解しているか
レポート試験	3 %	授業内で提示　市民活動の発展と可能性の理解(A4・1枚程度)
平常点評価	37 %	出席を重視するが、単に「出ている」だけでなく、受講姿勢と授業理解について各回提出の「授業感想」により判断する

本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

下記の行為は授業妨害とみなし、当該学生を「F」評価とすることがあり得る。

他の受講生の受講妨害(授業中の私語、大幅な遅刻や頻繁な途中入退室など)

授業中の携帯電話の使用(Eメールの送受信を含む)

参加ワークの不参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.kankyoshimin.org/

講師堀が事務局長を務める「NPO法人環境市民」のWebサイトである。環境市民は、国内でも活動内容のユニークさや先進性で注目されている団体である(2004年度グリーン購入大賞環境大臣賞受賞、2005年度京都府環境トップランナー賞受賞、京都新聞2005年元旦社説での紹介等)。授業でとり上げる活動が紹介されているので、ホームページの閲覧をすすめる。

その他 / Others

パブリックアクセス論 (S)

13359

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パブリックアクセスとは、市民がマス・メディアにアプローチし、それを利用する権利を求めたところから始まった。1970年代前半、アメリカでは地域のケーブルテレビチャンネルへの市民アクセスが可能となり、これは世界に先んじた制度となった。これをパブリックアクセス・チャンネルと呼ぶ。パブリックアクセス・チャンネルはヨーロッパや日本を含むアジアの国々にまで広がりをみせている。

既存のメディア・システムに一般市民がアクセスすることで、自分たちの問題意識や社会的な課題を広く社会に提示することは、民主的な社会の形成にとって必要である。講義ではパブリックアクセスを生んだ社会的な背景をメディア理論の歴史的な変遷と結びつけながら考察し、その上で実践としてのパブリックアクセスに関わる活動や諸課題を検討・考察する。

ブロードバンドネットワーク網がインターネットと結びつき、マスコミ中心の社会はネット社会へ移行している。音声・動画を活用したさまざまな情報・コンテンツを受信するだけでなく、市民自らが自由に情報・コンテンツを発信できるようになってきた。このような状況の中、これまでのマス・メディア中心のパブリックアクセスの見方をどのように変えてゆけばよいかについても踏み込んで考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアアクセスの起源について理解する
・メディアの発達の帰結としてパブリックアクセスが生まれたことを理解する
・北米、ヨーロッパ、アジアのパブリックアクセスの現状について理解する
・変容を続ける現代のメディア環境の中でパブリックアクセスをどのように捉えなおせばよいかを考える

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　パブリックアクセスとは	
2	マス・メディアの機能と操作(1)	情報化社会、近代プロパガンダ理論、大衆説得
3	マス・メディアの機能と操作(2)	政治とメディア、議題設定、沈黙の螺旋理論
4	アクセス権の誕生	ジェローム・バロン、思想の市場論
5	アクセス権論の展開　米国と日本	レッドライオン判決(1969年)、堀部政男
6	アクセス権運動　マス・メディアと市民の立場から	メディア資本の集中、労働運動、市民運動、ポリティカル・エコノミー論
7	アクセス権の類型(1)　批判・抗議・要求・苦情　および意見広告	自主規範　苦情処理委員会
8	アクセス権の類型　(2)　反論　および　紙面・番組参加	反論権　公平原則　投書欄　アクセス番組
9	メディアアクセスとメディアリテラシー	フランシス・ベリガン　アクセス論
10	北米のパブリックアクセス　(1)　背景とテクノロジーの理解	ケーブルシステム、PEG、電磁スペクトル(Electro Magnetic Spectrum)
11	北米のパブリックアクセス(2)　パブリックアクセス・チャンネルの理念と制度	フェアネス・ドクトリン、レッドライオン事件、フランチャイズ・アグリーメント
12	ヨーロッパのパブリックアクセス　メディアアクセスの先駆者、オランダのラジオ	オランダ放送協会(NOS)
13	アジアのパブリックアクセス　上からの改革が進む韓国	KBS、「開かれたチャンネル」、放送制度改革
14	日本のパブリックアクセス	パブリックアクセス・チャンネル、市民メディア
15	日本のパブリックアクセスの諸課題と展望 メディア・システムの変容とパブリックアクセス概念の揺らぎ	情報通信法　ソーシャルメディア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講者は、音声・映像コンテンツ制作の機会を活用し、自らが情報を発信する実践的な学習にも可能な限り取り組んで欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義を通じパブリックアクセスを理解する上で重要なキーワード、出来事、概念を的確に理解しているかどうか。
平常点評価	30 %	授業出席と授業後のリアクションペーパーの内容評価による

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義ではアクセス理論の基礎的な理解力をもとにパブリックアクセスと関連させて主体的に学ぶことが求められる。受講生は日常的に多様なジャンルのニュース報道に触れる中で社会問題や課題を意識するとともに、「市民とメディア」に関わる情報収集やイベントへの参加などによりパブリックアクセスへの理解を深めることが望まれる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新版パブリックアクセスを学ぶ人のために』	津田正夫／平塚千尋[編]／世界思想社／4-7907-1186-2／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アクセス権とは何か』	堀部政男／岩波新書／／
『現代ジャーナリズムを学ぶ人たちのために』	田村紀雄、林利隆、大井眞二編／世界思想社／4-7907-1056-4／
『やさしいマスコミ入門：発信する市民への手引き』	金山勉／金山智子[共著]／勁草書房／978-4-326-65303-4／

その他については、授業内で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都三条ラジオカフェhttp://radiocafe.jp/
Our Planet-TV http://www.ourplanet-tv.org/
CNN ireport http://www.ireport.com/
産経デジタルのニュースブログポータルhttp://www.iza.ne.jp/
イッツコムチャンネルアクセスhttp://www.itscom.net/itscom-ch/access/

その他 / Others

表現の自由論 (S)

15547

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「表現の自由」は近代社会を開き、発展させてきた基本的な理念の一つで、憲法でも保障されている。しかし、高度情報化社会の進展にともなって、「表現の自由」に派生するマスメディアが担う「報道の自由」に対する市民からのまなざしは厳しくなり、ネットでの「匿名情報」の氾濫など負の側面も強調されるようになっている。表現の自由と、プライバシーなど他の人権とどう調和させていくのか。新聞、電波、電子、マスメディアの世界で起きている「表現の自由」にかかわる諸問題をてがかりに、広く市民社会の表現活動の状況を点検し、あるべき表現方法とそれを実現していくための条件を考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

「表現の自由」をめぐる対立、トラブルで問題の本質をとらえ、双方の利害対立を整理したうえで、一定の解決策を提案できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について総論	憲法21条
第2回	いま、世界の「表現の自由度」は	ランキング
第3回	「表現の自由」を求めて	弾圧
第4回	プレスコード「抑えられた原爆報道」	検閲
第5回	言論テロとの闘い「横浜事件」	自白
第6回	言論テロとの闘い「朝日新聞阪神支局襲撃事件」	時効
第7回	取材の自由とその制約①～取材源の秘匿	逮捕
第8回	取材の自由とその制約②～取材資料の目的外使用	押収
第9回	取材の自由とその制約③～公務員の守秘義務とのかかわり	密約
第10回	表現の自由への規制	ビラ配り
第11回	メディア規制～個人除法保護法	匿名
第12回	メディア規制～有事法制	指定機関
第13回	ネット情報の氾濫と規制	炎上
第14回	名誉毀損訴訟の変遷	高額化
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回のミニレポートで、理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

必要に応じてレジュメ・資料を用意する。ビデオを使用することもある

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
言論の不自由	朝日新聞社会部編／径(こみち)書房／／
新聞社襲撃	116号事件取材班／岩波書店／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化経済論（S） §　文化経済論（W）

15494

担当者名 / Instructor　金武 創

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化経済学の基礎的理解

これまで相反するものと思われがちであった、「文化」と「経済」の関係を価値規範やライフスタイルの変化の視点から捉えなおし、これからの企業やNPO、中央政府・地方自治体のあり方を考える。授業では、理論／実証研究の解説と関連話題（VTRや新聞）の提供という組み合わせで進めていきたい。以下のテーマを順番にすべてやるわけではないが、教科書の内容に即して、できるだけふれていきたいと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

文化経済学の基本問題や概念を幅広く理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	芸術作品とオークション	オークション
2	芸術文化と市場	価格、需要と供給
3	文化的価値と経済的価値	支払い意思
4	芸術文化の消費	1980年代の消費文化
5	芸術文化の生産	高層建築とデザイン
6	芸術文化と情報	出版とブログ
7	文化資本の考え方	世界遺産
8	文化政策と地域文化	インフラストラクチャー
9	慈善事業のためのギャンブル	サッカーくじ
10	温泉観光とまちづくり	情報の非対称問題
11	埋蔵文化財の経済学	町並み保存
12	衰退する音楽CD	ミリオンセラー
13	スポーツNPOの経済的利点	規模の経済と範囲の経済、障害者スポーツ
14	都市空間とパブリックアート	公共財の理論
15	舞台芸能としての落語	メディア戦略とライヴの発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ただし、平常点評価を基礎とすることに注意してほしい
平常点評価	30 %	

割合は高くないですが、平常点評価が成績評価の基礎になります。始業時間すぐに出席確認と授業導入を兼ねた課題を実施しているので、遅刻しないこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・教科書を入手し、毎回の授業で持参してくることを前提に授業を進めます。
・受講人数によっては、成績評価の方法を変えるかもしれません。人数確定後、授業内で伝えます。
・時事問題等を優先して扱うので、授業の順番は入れ替わる可能性がありますが、期間内に教科書全てにふれるつもりです。
・始業時間を守ってください。平常点をいろいろな方法で評価する予定です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文化経済論	金武創・阪本崇／ミネルヴァ書房／／2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ニュース論（S） § 電波メディア論（G） § 放送メディア論（G） § 放送文化論（W）

13377

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・テレビ・ラジオ放送の仕組みや関連する法制度を通して社会的な位置づけを理解する。
・映像の製作技術、特にニュースやドキュメンタリーの手法やソフトの進化や問題点を理解する。
・インターネットの発達によるメディア地図の変化を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション：放送の「ことば」と映像	
第2回	放送の仕組み（1） 番組が企画からあなたのもとに届くまで	企画・取材・演出・編集
第3回	放送の仕組み（2） ニュースは儲かるのか？	視聴率・コマーシャル・受信料
第4回	映像の「約束事」と現実	ドキュメンタリー・演出・やらせ
第5回	ニュースとは何か？	ニュースキャスター・ワイドショー
第6回	放送におけるジャーナリズムの危機	取材・インタビュー・ニュースバリュー・ビデオジャーナリズム
第7回	テレポリティクスとメディアコントロールの実際	政治家とテレビ・戦争報道・選挙報道
第8回	メディアの「暴力性」	メディアスクラム・犯罪被害者・プール取材
第9回	「公共放送」は必要なのか	NHK・BBC・FCC・災害報道
第10回	テレビは夢や希望を与えられるのか	バラエティ・ドラマ・エンターテインメント
第11回	（ゲストスピーカー予定）	
第12回	デジタルの基礎知識とその功罪	地上波デジタル・IP放送
第13回	ブロードバンドと新たに生じた問題	ウェブ2．0・オンデマンド放送・コンテンツビジネス
第14回	サイバー社会の諸問題	個人情報・著作権
第15回	まとめの議論と記述問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①ニュースと民主主義、表現の自由の関係などを理解しているかどうかを測る記述問題。 ②受講者数によって、発表やクラス内ワークショップなどの作業を追加する可能性がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・テレビは授業ではほとんど観ません。自分でたくさん観て、たくさん評論してもらいます。
・たくさん読んで、たくさん意見を言って、たくさん文字を書いてもらいます。
・新聞を少なくとも1紙毎日目を通しておいてください。

教科書 / Textbooks

・追って指示します・

参考書 / Reference Books

・追って指示します・

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア技術史（S）

15543

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ケータイ―携帯電話やデジタルハイビジョン放送などメディアの技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、中世のグーテンベルクの活版印刷術の発明から、今日のインターネット、ケータイ、ユビキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのかを具体的に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

次の3点をめざす。

第一に、メディア論をふまえたメディア技術史全体の流れの理解

第二に、活版印刷、写真、映画、ラジオ、テレビ、インターネット等歴史的に最も重要なメディア技術の基礎的理解

第三に、それらメディア技術の歴史的、社会的意味の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」は履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア・技術・社会	ケータイをめぐって、メディアとは、メディア技術史とは
2	グーテンベルクの銀河系（その1）	「42行聖書」、M. マクルーハン、マクルーハンのメディア論、「人間の拡張」
3	グーテンベルクの銀河系（その2）	紙とインク、ブックの誕生、J.グーテンベルク、活版印刷術の発明
4	電子メディアの誕生	腕木式通信から電信へ、近代テレコミュニケーション技術としての電信と電話、モールスとベル
5	電子とは、電波とは？	マックスウェルの電磁気学、ヘルツと電磁波の発見、マルコーニと無線電信の発明
6	写真と映画の発明	ニエプス、ダゲール、タルボットと近代写真術、エジソンとリュミエール兄弟
7	エジソンと音の複製	フォノグラフからグラモフォンへ
8	ラジオの発明	クルックスの「予言」？、真空管、ドゥ・フォレスト、「第三帝国の同調装置」か？
9	テレビの発明	ブラウン管とニプコー円盤、ツォリキンとアイコノスコープ（撮像管）
10	コンピュータの誕生	コンピュータの起源、ENIACとフォン・ノイマン、ノイマン型コンピュータ
11	シリコンバレーの一粒の麦	電子部品の発達、トランジスターからICへ、R.ノイス
12	シリコンバレーの夢	マイクロプロセッサーの発明からグーグルまで
13	インターネットヒストリー	S.ジョブズ、ビル・ゲイツとパソコンの発明、アーパネットからインターネットへ、M.アンドリーセン
14	ユビキタスとユビキタス社会	M.ワイザーと坂村健、トロンと組み込みコンピュータ、ICタグ
15	マクルーハン再論	L.マンフォードとマクルーハン、メディア史の時代区分、「テトラッド」―メディアの栄枯盛衰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に指示する参考文献を学習することが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	授業中に実施するミニレポートやコミュニケーションペーパーなどから評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論的ベースに関わるテクストのエッセンス、必要最小限の部分は、講義資料として配付するのでそれをよく読むこと、また各メディア技術の原理の基礎に関しては、授業中にできるだけていねいに解説することを心がけるが、不明の点があればその次の回の授業のときに質問すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア論　人間の拡張の諸相	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN4-622-01897-7／
グーテンベルクの銀河系　活字人間の形成	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN-4-622-01896-9／
複製技術時代の芸術	W. ベンヤミン／晶文社／ISBN4-7949-1266-8／
20世紀のメディア①エレクトリックメディアの近代	水越伸篇／ジャストシステム／ISBN4-88309-081-7／

毎回それに添って授業を進めるという意味でのテキストではないが、授業の理論的ベースに関わるテキストとして

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版電気の技術史	山崎俊雄、木本忠昭／オーム社／ISBN4-274-12914-4／
目で見るデジタル計算の道具史	キトウェル、セルージ／ジャストシステム／ISBN4-88309-096-5／
グーテンベルク聖書の行方	富田修二／図書出版社／ISBN4-8099-0504-7-C0090／
起業家エジソン　知的財産・システム・市場開発	名和小太郎／朝日新聞社／ISBN4-02-259771-2／
電子立国日本の自叙伝	相田洋／NHK出版／ISBN4-14-084007-2他／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

映画（キネマトグラフ）や蓄音機（フォノグラフ）の発明者エジソンについて：
http://edison.rutgers.edu/papers.htm

その他 / Others

メディア社会論（S）

15490

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

メディアが社会的なテーマを設定し、その“世論”が社会を動かしていくという現代社会の情報循環にあって、とりわけ「映像ジャーナリズム」が果たす役割は決定的ともいえるほどである。この授業では、映像ジャーナリズムの成立と変遷、特に戦争報道の変容を軸として、現代メディアの課題をさぐり、さらにジャーナリズムの原点や、オルタナティブなメディア社会のありかたを考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

●映像ジャーナリズムが登場した歴史的/政治的/文化的背景を知る
●際立った映像ジャーナリズムの属性（機能と特性）を理解する
●その映像を記録した人の生き方、誰がどういう立場で撮ったかを感得する
●現代の映像ジャーナリズムがもたらす課題を批判的に理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　～恐竜の跋扈する中で～	V鳥の巣、授業全体のねらい、20世紀とジャーナリズム
2	「正義のジャーナリズム」	ベトナム戦争報道、戦争報道の3つの時代、プロパガンダへの反省、メディア研究
3	報道グローバリズムの開幕	湾岸戦争報道、情報コントロール、冷戦の終結、ベトナムの教訓、衛星グローバリズム
4	北朝鮮報道	冷戦、メディアコントロール、「再会」、日本の外交と主流メディア
5	イラク戦争報道の諸問題	総合的な統制、NNN戦争報道論点」、電子化した情報・映像、メディアコントロールとのたたかい、戦争広告会社
6	映像の誕生・進化と社会化	リュミエール、テキストジャーナリズム、映像ジャーナリズム、身体感覚性、通俗性、多義性
7	キャパ神話	フォト・ジャーナリズム、キャパ、30年代内戦の時代、カメラ、マグナム、Days Japan、
8	大本営発表	映像の影響力、プロパガンダ、「レイテ」、情報統制、プロパガンダ映画、日本ニュースの表現
9	エド・マローの世界	リベラル・ジャーナリズム、「シー・イット・ナウ」、イデオロギー支配への反省、テレビの時代、マッカーシズム
10	鉄のカーテン崩壊	撮影・中継技術の飛躍、ENG・SNG、FPU、現場中継、アキノ革命、天安門事件・ベルリンの壁報道
11	ドキュメンタリーというジャーナリズム	「苦海浄土」、水俣病、石牟礼道子、木村栄文、演出と構成
12	ダイアナ事件を読む	「ダイアナ事件」、メディア・スクラム、カメラと取材の他者性・暴力性、表現の多義性、エンコーディング/ディコーディング
13	「発掘！あるある大事典Ⅱ」の発掘	テレビ制作の構造と倫理、調査委員会、BPO、企業ジャーナリズム
14	対抗的ジャーナリズム	「瀋陽事件」、増山たづ子、独立ジャーナリスト、フレームの外、アルジャジーラ/目で聴くテレビ
15	市民社会とジャーナリズム・再論	ジャーナリズムの立場性/津田の立場性、当事者/代理者、表現の主体

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・（映像）ニュースをよく見ること
・日常的にドキュメンタリー映像を観察すること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版・ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄/林利隆ほか／世界思想社／／
ドキュメント　戦後放送史　上・下	松田浩／双柿舎／／
国際紛争のメディア学	橋本晃／青弓社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア制作I（SA）

13315

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、メディア表現の一環としてラジオ番組制作を行う。一口にラジオと言っても、現在では電波を使った放送だけでなく、インターネットを使ったさまざまな表現の1つとして、Podcastや音声ブログのような新しい形も存在している。これらに通底しているのは、「音声」による表現という点である。映像に世得る表現と違い、音声表現では聞き手の想像力をいかに活性化し、想像力によって生み出されるものを共有するかにある。赤くておいしそうなリンゴを映像で見せるのではなく、言葉や音を使って「赤くておいしそうなリンゴ」として想像してもらう必要があるのだ。

そこで、この授業ではまず音声を使った表現の方法を知り、技術的な知識を学ぶ。その上で、実際に作品作りを行っていく。作品は中間と最終の2作品を制作するが、そのうち最終作品の提出は必須。また、最終作品は学内・学外ネット上での公開を前提とする。授業は基本的に個人作業で行う。4回以上を対象としているので、出席は就活との兼ね合いで調整すること。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 音声データ編集の方法が理解できる。
2. 音声メディアを使った表現ができる。
3. 音声メディアを使った表現とコミュニケーションとの関係を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業概要説明・音声メディアの表現方法とメディアについて	音声メディアとは？
2	音声データの収集方法とデータの利用方法	MDレコーダとマイク、ICレコーダ、PCとの接続及び取り込み
3	中間作品作りの準備1	著作権、取材方法、発信方法
4	中間作品作りの準備2	10分番組の企画書作成
5	スタジオ収録の方法と実践	録音スタジオでの収録方法
6	音声編集の実践	編集ソフトSound itの使用方法
7	中間作品作り1	実習作業
8	中間作品作り2	実習作業
9	中間作品作り3	実習作業
10	中間作品プレゼン・最終作品企画書作成	実習と最終作品準備
11	最終作品制作作業1	実習作業
12	最終作品制作作業2	実習作業
13	最終作品制作作業3	実習作業
14	最終作品制作作業4	実習作業
15	最終作品プレゼン	作品の発表と評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	作品提出70%、出席30%

最終作品の提出がなければ、単位は認定されない。最終作品は5段階で内容を評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音声メディアの代表であるラジオを聴くこと。
Podcastなどのネットでの音声データに触れること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア制作II SA

本文無し

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア調査法（S）

15516

担当者名 / Instructor　登丸 あすか　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、メディアに関連する調査法について学ぶ。具体的には、効果研究、利用と満足研究、オーディエンス研究などのメディア研究の事例を用いて、調査結果の読み方とそこに潜む政治性の発見に重点を置く。また、メディアの内容分析や、世論調査、視聴率調査などメディアが実施する調査を取り上げ、メディアを研究対象とすることの意味、調査する側とされる側の関係性について考える。講義は大きく3つのパートに分かれている。パート1では、メディア調査の方法論を学ぶにあたって必要な理論の紹介、過去に行われた様々な調査事例を紹介する。パート2では調査の技法として、準備段階からメディア別の調査方法までを取り上げる。パート3では、メディアに関する調査の結果をクリティカルな視点で読み解いていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・それぞれのメディアが持つ特性について理解し、調査方法との関連性を見出す。
・実際に行われている調査の実態を把握し、理解を深める。
・クリティカルな視点でメディアに関する調査を分析する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア調査とは	なぜメディアを研究するのか
2	メディア調査の方法論1	メディア調査とは何か／理論とマス・メディア
3	メディア調査の方法論2	メディア研究と調査
4	メディア調査の方法論3	受け手研究とメディア調査1
5	メディア調査の方法論4	受け手研究とメディア調査2
6	メディア調査の方法論5	カルチュラルスタディーズのオーディエンス研究1
7	メディア調査の方法論6	カルチュラルスタディーズのオーディエンス研究2
8	メディア調査技法1	メディア調査と準備
9	メディア調査技法2	アンケート調査
10	メディア調査技法3	インタビュー調査
11	メディア調査技法4	インターネットと調査、メディアの歴史と調査
12	メディア調査の分析1	調査内容の量的分析手法
13	メディア調査の分析2	内容分析の手法
14	メディア調査の分析3	言説分析の手法
15	まとめ	メディアの調査から見えてくるもの

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	客観問題と論述問題を併用
平常点評価	30 %	授業内で適宜、理解度を知るためのコメントの提出を求める。

講義開始から30分経過した時点でレジュメなどの配布を中止する。以後、一切配付しない。遅刻をしないように注意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア文化論 (S)

15562

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:テレビ視聴者と／のバラエティ
現在の日本のテレビは「バラエティ」にあふれている。言い換えれば、「ニュース」も「情報番組」も「お笑い」も、すべてが「バラエティ」という括りでひとまとめにできてしまえる、つまり「総バラエティ化」と呼べるような状況になっている。こうした状況は、どのような歴史的経緯を経て出現したのか。そして、われわれ視聴者は、そうした「バラエティ」あふれる(あるいは、「バラエティ」ばかりの)現在のテレビと、どのように関わり合っているのか。本講義では、テレビ番組やテレビを題材にした映画などを資料としながら、戦後日本社会において「テレビ視聴者」の位置がどのように変化してきたのかを考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

テレビが視聴者をどのように構成し、また視聴者がテレビというメディアからどのような「本当らしさ(リアリティ)」を感受しているのか、自身のテレビ体験を相対化しながら、テレビが編制する＜メディア文化＞について言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　テレビ視聴者とバラエティ	
2	「観客」から「視聴者」へ	
3	舞台の「裏」とはどこか？	
4	「素」を見ることの快楽	
5	画面に映っているのは誰か？	
6	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・1	
7	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・2	
8	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・1	
9	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・2	
10	「リアリティ」の作り方・1	
11	「リアリティ」の作り方・2	
12	「リアリティ」の作り方・3	
13	「ただの現在」としてのテレビ・1	
14	「ただの現在」としてのテレビ・2	
15	まとめ　テレビ視聴者のバラエティ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で触れた論点をふまえたレポートを課す(4000字以上のレポートを予定)。
平常点評価	40 %	第5回と第11回頃に小レポート(2000字程度)を課す(詳細は授業プリントで提示する)。最終レポートを含め、計3回のレポートをすべて提出した者のみ成績評価対象者とする。ちなみに、2008年度の「メディア文化論」単位取得率(単位取得者÷履修登録者)は56.7%であった。なお、いわゆる「出席点」は存在しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会は笑う―ボケとツッコミの人間関係	太田省一／青弓社／／
嗤う日本の「ナショナリズム」	北田暁大／NHKブックス／／
広告都市・東京	北田暁大／廣済堂／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディアリテラシー論（S） §　メディア・リテラシー論I（G）

13286

担当者名 / Instructor　浪田 陽子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、メディアは政治・経済・社会・文化など我々の生活のあらゆる側面に影響を及ぼしている。このメディア社会を主体的に生きるには、メディアをクリティカルに読み解き、社会におけるメディアの役割や特性を理解し、また自らメディアを制作する力、すなわちメディア・リテラシーが不可欠である。本講義においては、メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状などを実践を通して学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・ メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状など基本的な事柄を理解する。
・ メディア分析やメディア制作課題などのグループ活動、およびメディアログ等の課題によって、メディアをクリティカルに読み解き、メディアを制作する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	メディア、メディア社会
第2回目	メディア・リテラシーとは何か	メディア・リテラシー
第3回目	メディア・リテラシーの基本概念	リプレゼンテーション（representation）、イデオロギー、価値観
第4回目	メディアとオーディエンス	アクティブ・オーディエンス、エンコーディング・デコーディング
第5回目	広告を考える（1） テレビ・コマーシャル	映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法
第6回目	広告を考える（2） 消費社会	消費社会、ブランド化（Branding）
第7回目	広告を考える（3） 子どもへのマーケティング	ターゲット・オーディエンス
第8回目	カルチュラル・スタディーズとメディア・リテラシー	カルチュラル・スタディーズ、サブカルチャー
第9回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（1） ジェンダー	ジェンダー
第10回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（2） 民族と文化	民族、エスニシティー、文化
第11回目	メディアと暴力	バイオレンス、モラル・パニック
第12回目	産業としてのメディア	メディア・コングロマリット、民主主義とメディア
第13回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（1）/ グループ・プレゼンテーション（1）	メディア・エデュケーション
第14回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（2）/ グループ・プレゼンテーション（2）	カリキュラム、ネットワーキング
第15回目	グローバル時代のメディア / グループ・プレゼンテーション（3）	グローバル化、グローバルメディア、デジタルメディア

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・日常生活において自分が使うメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。
・メディア制作はグループで活動する時間を授業内にも設けるが、授業時間外に資料を集めたり取材や撮影を行わなければならないこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①メディアログ（10%） ②メディア分析レポート（15%） ③コミュニケーション・ペーパー（45%） ④グループ・メディア制作（30%） 詳細は以下の「備考欄」を参照のこと。

・ メディアログ（個人でつけるメディア日記）は第3回目の授業で、メディア分析レポートは第8回目の授業で提出する。分析方法等は授業で紹介・実践する。
・ コミュニケーション・ペーパーは、授業の内容をよく理解した上で、メディア分析やその他の授業内課題を記述するものである。単なる出欠確認ではなく、記述内容の出来によって0～5点で評価する。
・ グループ・メディア制作は、4、5人のグループでメディア（5分程度のビデオクリップや新聞記事など）を制作し、後半3回の授業で発表・ディスカッションを行う。評価は製作技術の高さではなく、この講義で学んだメディア・リテラシーの基本概念を理解し、自分たちのメッセージや制作の意図が伝わるものになっているかどうかを基準とする。成績はグループ・ワークへの貢献度や課題の出来を加味して、個人ごとにつけ

る。グループは、他回生・他学部生がバランスよく混ざるようこちらで指定する。
・ 受講者の人数等により、メディア制作課題の内容などに変更が出ることもあるかもしれないが、その際はすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・ メディア分析やメディア制作など、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。全員でアイディアを出しあい、また互いの意見を尊重しながら協力してグループワークを行うことが要求されることを理解した上で受講登録すること。
・ ほぼ毎回行われるメディア・テクスト分析は日常点であるとともに、この講義の集大成であるメディア制作課題の練習・準備でもあるので、毎回の出席と能動的な参加が必須である。初回に授業の進め方や課題、評価方法について詳細な説明をするとともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
・ QRコードシールを毎回持参すること。
・ 遅刻は他の受講者の迷惑になるだけではなくグループ活動などに支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等は、授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版　Study Guide　メディア・リテラシー[入門編]	鈴木みどり編／リベルタ出版／4947637595／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーの現在と未来	鈴木みどり編／世界思想社／4790708969／
メディア・リテラシー教育：学びと現代文化	D. バッキンガム著、鈴木みどり監訳／世界思想社／4790712265／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Media Awareness Network http://www.media-awareness.ca/english/index.cfm
FCT　メディア・リテラシー研究所　http://www.mlpj.org/index.shtml

その他 / Others

メディア理論 (S)

13321

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

あるものとあるものとの「あいだ」にあって両者を媒介するもの。それがメディアである。しかし、それは単に「情報」をそっくりそのまま乗せて届けるパイプや箱のようなものではない。その「あいだ」が「情報」のカタチを変えることもあれば、私たちのコミュニケーションの形式を規定することもある。本講義では、、私たちの日常的なコミュニケーションを媒介する様々な＜メディア＞について考えるための理論的な枠組を、活字・ラジオ・テレビ・インターネットなどを素材にしながら紹介していく。

到達目標 / Attainment Objectives

＜メディア＞の力学について敏感になり、その作用について考え、言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　＜メディア＞について考えるとはどういうことか	
2	洞窟での／からの景色　メディアを「信じる」ということ	
3	ドン・キホーテの銀河系　活字を読む経験	
4	輿論と世論　大衆社会の中の新聞	
5	火星人が来た！　ラジオとプロパガンダ	
6	いつでも、どこでも、同じもの　複製技術時代のアウラ	
7	「現場」で見る／茶の間で見る　テレビとメディア・イベント	
8	その意見は本当に「あなたのもの」ですか？　効果研究の展開	
9	メディアはメッセージである　マクルーハンの誘惑	
10	そのメディアは何色ですか？・1　メディア・リテラシー論とトロント学派	
11	そのメディアは何色ですか？・2　カルチュラル・スタディーズ	
12	「本を読む」とは何事か　読書論の射程	
13	プロレス化する社会　高度情報化時代のテレビ	
14	もし地球がひとつの村だったら　インターネットと「グローバル・ヴィレッジ」	
15	まとめ　＜メディア＞について(さらに)考えるために	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本概念や語句の理解、および「メディア」についての洞察力を試す問題を課す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。

授業終了時に提出するレスポンスカードで内容の理解度を評価する場合もあるが、基本は定期試験で評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マスコミの受容理論	佐藤毅／法政大学出版局／／
現代メディア史	佐藤卓己／岩波書店／／
メディア文化論	吉見俊哉／有斐閣／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代余暇論（S） § 余暇論（S）

15535

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

最近の国内経済、世界経済の現状は、私たちに「レジャー・余暇どころではない」といった風潮をもたらしているのではないだろうか。しかし、本講義の目的は、そのような風潮に逆らって「レジャー・余暇」から私たちの生活構造を再構成する糸口を探る試みにある。そのためにも、本講義は、レジャーを介して展開されてきた社会統合様式に焦点を当て、その政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

レジャーを政策的、思想的、政治的な視点から考察し、受講生がレジャーを「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。また、レジャーを「人間的自由の獲得」という視点から考察を試み、レジャーを介した豊かな社会構想の糸口を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	レジャーの誕生①：ヨーロッパ編	産業革命、社会的時間の再編成（労働時間、自由時間）、合理的レクリエーション
3	レジャーの誕生②：アメリカ編	有閑階級、大衆消費社会、フォーディズム
4	レジャーの誕生③：日本編	權田保之助、民衆娯楽論、アノミー、国民娯楽論
5	総力戦体制とレジャー	ファシズム、社会統合、ドーポラヴォーロ、KDF、厚生運動、健民・健兵
6	戦後日本のレジャー政策①：戦後から1970年年代初頭まで	福祉国家体制、高度経済成長、日本型雇用慣行、レジャーブーム
7	戦後日本のレジャー政策②：1970年代中頃から1990年代初頭（バブル崩壊）まで	低成長、日本型福祉社会論、前川リポート、4全総、リゾート法
8	戦後日本のレジャー政策③：1990年代中頃（バブル崩壊後）から現代まで	平成不況、社会福祉基礎構造改革、新自由主義、日本型雇用の再編、グローバリゼーション
9	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向①：創刊号（1977年）から1990年まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、前川リポート、4全総、リゾート法
10	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向②：1991年から2000年まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、利己的余暇、社会的余暇（利他的余暇）
11	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向③：2001年から最新号まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、観光
12	社会的余暇（利他的余暇）の再検討	福祉政策、ボランティア、地域社会
13	レジャーからワークライフバランスを考える①	各国のワークライフバランスに向けた取組を検討
14	レジャーからワークライフバランスを考える②	オランダのワークシェアリングの検討
15	まとめ	これまでの議論を整理し、レジャーを介した豊かな社会構想に向けた試論を提示したい。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
権田保之助著作集	権田保之助／文和書房 ／／
厚生運動概説	磯村英一著／常磐書房／／
柔らかいファシズム：イタリア・ファシズムと余暇の組織化	ヴィクトリア・デ・グラツィア／有斐閣／／
新編 現代の君主	アントニオ・グラムシ／筑摩書房／／
レジャーの誕生	アラン・コルバン [編著]／藤原書店／／
レジャー社会学	J・デュマズディエ／社会思想社／／
怠ける権利	ポール・ラファルグ／平凡社／／
レジャー白書	余暇開発センター→自由時間デザイン協会 (2001-2002)→社会経済生産性本部 (2003-)／／／
論文 戦後日本の社会統合と「レジャー」：レジャー政策から自由時間政策への転換とその意	市井吉興／立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第42巻 第3号（2006年）／／
論文 人間の安全保障としての「レジャー」をめざして：「新自由主義型自由時間政策批判」序説	市井吉興／唯物論研究協会編『唯物論研究年誌』第12号（2007年）／／
企業社会と余暇：働き方の社会学	桝潟俊子／学陽書房／／
時間とは幸せとは：自由時間政策ビジョン	余暇開発センター編／通商産業調査会出版部／／
これからの生活と自由時間：その現状と対策の方向	経済企画庁国民生活政策課編／大蔵省印刷局／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

アートマネジメント論（S）

13313

担当者名 / Instructor　森口 まどか　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

そもそもアートマネジメントとは。芸術をmanage（マネージ／運営・管理）するとはどのような事柄を意味するのだろうか。一般に、アートマネジメントによって芸術と社会を結び、双方がより良く生かし生かされる方策を考え出すと捉えられている。しかしながら、その前提である現代社会においてなぜ芸術は必要か、ということをまず問はなくてはならないだろう。

近年、国立博物館・美術館・文化財研究所が独立行政法人化されたり、指定管理者制度の導入に伴い公共文化施設の管理者やその運営方法が審議されたりと、わが国における芸術文化施設の在り方が根本的に問い直されている。さらには現在、世界は同時不況に苦しんでおり、芸術をとりまく環境についても新しい視座が求められる。すなわち、芸術と社会が相互に生かされる方策、アートマネジメント領域からの視点がより必要とされることはいうまでもなく、先の問いに検討をくわえることが重要であろう。

本授業では、芸術は社会になぜ必要かを問い、考察する。そのために、近代的ミュージアム形成の歴史および、主に美術分野における国際展やパブリック・アートなどの実例を紹介しながらさまざまな問題点を検証する。そして、次代の芸術の役割について考えてゆきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・芸術と社会の関係についての知見を幅広く論じることができる。
・わが国における博物館・美術館の現状を確認し、その問題点をさまざまな視点から挙げることができる。
・次代のミュージアム像を描いてみることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術、音楽、文学などの芸術全般にわたる基礎的な知識があることが望まれるが、たとえば、美術史概論が事前に必要な履修科目ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	アートマネジメントとは 今日におけるアートマネジメントの必要性を中心に	
第2～4回目	ミュージアムについて:その歴史、社会、思想的背景から	啓蒙主義思想、公共性、蒐集、美術
第5～7回目	オフ・ミュージアムについて 1960年代以降のインスタレーション・アートを中心として	アートセンター、パブリック・アート
第7～8回目	国際美術展その歴史と運営について	
第9～10回目	アーティスト・イン・レジデンスの考え方	コミュニティ、コミュニケーション
第11～12回目	NPO活動とアートについて	独立行政法人化、指定管理者制度
第13回目	「ワークショップ」という在り方	
第14～15回目	まとめ：1.アートの社会的価値について　2.次代のミュージアム	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容を踏まえ、基本的な語句の理解および、現代社会における芸術の役割などについてを問う。自身の視点で論理的に展開記述できるかを評価する。
平常点評価	30 %	授業内容に関する理解度を確認するための設問を出す。実施時期は、前期中頃。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

さまざまな機会を捉えて美術館、コンサートホールなどの芸術文化施設へ積極的に出かけること。そうした機会を増やすところから、芸術と社会の関係を考えてゆくようにすることが望ましい。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アートマネージメント』	伊東正伸、岡部あおみ、他著／武蔵野美術大学出版局／4-901631-52-7／2003年
『進化するアートマネジメント』	林容子／レイライン／4-902550-01-6／2004年
『二十一世紀博物館－博物資源立国へ地平を拓く』	西野嘉章／東京大学出版会／4-13-003317-4／2000年
『創造－現場から／現場へ』	小林康夫・松浦寿輝編／東京大学出版会／4-13-014116-3／2000年、(『表象のディスクール6』
『美術のアイデンティティー』	佐藤道信／吉川弘文館／978-4-642-03778-5／2007年

『アーツ・マネジメント概論』　伊藤裕夫、小林真理、他著／水曜社／978-4880651323／2004年（新訂版）

その他適宜紹介する。
授業内容全般をより理解するための参考書。（『アートマネージメント』、『進化するアートマネジメント』、『アーツ・マネジメント概論』）
特に、美術館についての理解をより広め、深めるときの参考書。（『二十一世紀博物館－博物資源立国へ地平を拓く』、『創造－現場から／現場へ』、『美術のアイデンティティー』）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.nettam.jp
アートマネジメント全般の知識と現在の動向を知るのに参考となる。その他適宜紹介する。

その他 / Others

アジア文化論 (S)

13455

担当者名 / Instructor　文 楚雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較しながら、その同質性や異質性を考えることにしたい。この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

◎ 中国、韓国を中心としたアジアの国々の文化に対する理解を深めることができる。
◎ 日本文化に対する再認識を深めることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化とは何か。視点や方法。文化・文明の衝突。	
第2回	日本人・中国人・韓国人の国民性	
第3回	儒教文化とその伝承	
第4回	言語と文化 ――日本語、中国語、英語の比較から――	
第5回	婚姻法から見た儒教思想	
第6回	文学から見た文化――平家物語を中心に――	
第7回	道教・神道・禅	
第8回	日・中・韓の食文化とマナー	
第9回	住まい文化	
第10回	仏教文化	
第11回	本学の留学生との交流	
第12回	金閣寺と銀閣寺	
第13回	祭りの文化	
第14回	スポーツの文化	
第15回	日・中・韓文化の特徴	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終レポートを提出しなければならない。
平常点評価	40 %	出席や日常的な取り組み

期末の最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリント教材、授業時随時配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代中国の生活変動』	飯田哲也編／時潮社／／
『韓国人の心』	李御寧／学生社／／
『日本人・中国人・韓国人』	金文学　／白帝社／／

現代の中国、韓国を知るにはたいへん役に立つ。教科書並みの参考書となる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演劇論 (S)

15492

担当者名 / Instructor　池内 靖子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに,60年代～70年代のアングラ小劇場運動に焦点を当て、同時に広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。とりわけ、パフォーマンスとジェンダーの交差について重点的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

演劇的な知、パラダイム、理論的な枠組みについて学ぶと同時に、地域や都市の演劇空間、個別の演劇・パフォーマンスの表現について調べ、考察する。とりわけ、ジェンダーとパフォーマンスの交差に焦点を当て、考察を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス、都市・地域と劇場	シアター・オリンピックス
2	国民国家と演劇	近代演劇と女優の誕生
3	帝国のロマンス	『マダム・バタフライ』『M.バタフライ』『ミス・サイゴン』
4	宝塚歌劇 I	男役と娘役、ジェンダー／セクシュアリティの構築
5	宝塚歌劇 II	ファンは何を求めているか
6	60～70年代のアングラ小劇場運動 I	鈴木忠志、唐十郎、佐藤信
7	60～70年代のアングラ小劇場運動 II	寺山修司の「天井桟敷」
8	舞踏の身体	土方巽、肉体の反乱
9	アングラと女性演劇人	ウーマン・リブ、セクシュアリティ／ジェンダーの脱構築
10	アート・アクテイヴィズム／言説と身体	ダム・タイプ、異性装／越境について
11	ダンスとシアターの間	ピナ・バウシュ、コリオグラフィー
12	パフォーマンス・アート／言語・映像・身体	テレサ・ハッキョン・チャのテクストの舞台化
13	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 I	金満里の劇団「態変」
14	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 II	ニューヨークのコミュニティ・シアター
15	まとめ	近代演劇を超えて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外学習の指示 / Out of class assignment

個人やグループで、演劇やパフォーマンスを観に行き、劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	劇場フィールドワークの(グループ)レポートと試験に代わる最終(個人)レポートを課す。
平常点評価	40 %	ビデオの感想を書き、グループでの議論に参加すること。

レポート課題は2つ実施する。1つは、個人あるいはグループで、地域と劇場についてフィールドワークした調査結果についてまとめる。2つ目は、試験に代わる最終レポート(個人課題)として、受講して興味を持ったテーマを自由に設定し、考察したことをまとめる。

※日常点評価40%

ビデオを資料として使うので、それを見た後、感想を書いたり、適宜グループ・デイスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演劇に関する広い興味、関心をもち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
女優の誕生と終焉ーパフォーマンスとジェンダー	池内靖子／平凡社／978-4-582-47231-8／

踊る帝国主義　宝塚をめぐるセクシュアルポリティクスと大衆文化	ジェニファー・ロバートソン／現代書館／4768467733／
宝塚というユートピア	川崎賢子／岩波書店／978-4-00-430940-6／
迷路と死海	寺山修司／白水社／978-4-560-03254-1／
異郷の身体ーテレサ・ハッキョン・チャをめぐって	池内靖子/西成彦・編／人文書院／4-409-04078-2／

その他、参考文献については、授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演出論 (S)

13361

担当者名 / Instructor　水沼 健

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

演劇についてまたその中における演出の効果、可能性について考察する講義です。映像等の資料を見ながら演劇作品、演劇の持つ精神に触れ、創作の仕組みを研究していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

演劇を通じて現代芸術への関心を高め、見識や興味を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	演劇の歴史1	日本の演劇の成り立ち
2	演劇の歴史2	世界の演劇の成り立ち
3	演劇をめぐる状況1	日本の演劇の現在
4	演劇をめぐる状況2	世界の演劇の現在
5	演出家の仕事1	戯曲について
6	演出家の仕事2	空間について
7	演出家の仕事3	俳優について
8	演劇の特性1	他の表現媒体との比較
9	演劇の特性2	他の表現媒体との接点
10	批評の言葉	作品の批評
11	創作1	演劇の創作
12	創作2	演劇の創作
13	創作3	演劇の創作
14	まとめ	演劇の可能性
レポート作成	テーマは講義最終日までに決定	創作、批評

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	予定なし。
レポート試験	40 %	課題は講義過程で決定。
平常点評価	60 %	出席状況、授業態度等で評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

芸術社会論（S）

15493

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

芸術家はその作品によって来るべき「社会を予兆する」と言われるほど、社会の現象に敏感であり続けた。西洋の美術の歴史を学ぶことによって、まず、美術作品を生み出した時代の文化や社会の様相を見、中世から現代に至る社会の中で、芸術家がいかに彼らをとりまく時代の環境や現実を表現し、独自の世界観を観者に伝えようとしたのかについて考える。美術作品は単なる芸術家の個性表現や制作技術の成果にとどまらず、文化や社会においてメディア的な機能をもつことを認識する。

到達目標 / Attainment Objectives

美術作品を通して、時代の精神や世界観を理解する。
美術作品を観察し、「読む」力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

表象文化論／芸術表現論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義への導入― 西洋美術史の出発点としての古代ギリシア	高貴なる静謐さ、数学的構成、コントラポスト
第2回	《ユスティニアヌス帝と従者たち》	美術と権力、モザイク
第3回	《ロランの聖母》（ヤン・ヴァン・エイク）、《ヴィーナスの誕生》（ボッティチェリ）	聖母像とヴィーナス像の系譜
第4回	《貴婦人と一角獣》	タピスリー、美徳
第5回	《メレンコリアII》（デューラー）	知的創造、人文主義
第6回	《干草の収穫》（ブリューゲル）	地理誌、パノラマ的風景画、月暦図
第7回	《静物》（ヘダ）	静物画、近代資本主義、ヴァニタス
第8回	《海辺の修道士》（フリードリヒ）	ドイツ・ロマン主義、崇高論
第9回	《ラ・グルヌイエール》（モネ）	戸外制作、余暇の文化、瞬間性
第10回	《フォリー・ベルジェールの酒場》（マネ）	近代都市の肖像、断片性
第11回	《坊主としての自画像》（ゴッホ）	ジャポニズム、画家の肖像
第12回	《ヴァイオリンを持つ男》（ピカソ）	視線の複合化、幾何学的抽象
第13回	《ナンバー　50、1950 》（ポロック）	熱い抽象、戦後のアメリカの象徴
第14回	《無題＃93》（シャーマン）	ジェンダー、アプロプリエーション
第15回	《20世紀の終焉》（ボイス）	人間学、環境問題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
西洋美術の歴史	H.W.ジャンソン／創元社／／
芸術学ハンドブック	神林恒道他編／勁草書房／／
世界美術大全集（西洋編）	／小学館／／

各講義で作品に応じた他の参考書も紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

表象文化論（S） § 芸術表現論（S）

15607

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察者の眼が反映しているのか。科学的、思想的、政治的な観点から考える。17世紀オランダのリアリズム、近代の自然描写と思想、あるいは断片的世界観、そして政治的な視線の差異などを中心テーマとする。フェルメール、ヘダ、フリードリヒ、アングル、マネ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ピカソ、ボッチョーニ、モンドリアン、デュシャン、ヘッヒ、ポロック、ボイス、リヒター、キーファーなど17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、観察者の立場で作品に向き合う。

到達目標 / Attainment Objectives

美術、芸術作品を通して、時代の思想や世界観を知る。
作品を観察し、主題を読み取り、思考する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	観察者、自然、断片の世界観、視線の差異
第2回	観察の眼	17世紀オランダの静物画と風景画
第3回	近代の自然描写と思想（1）	風景画の歴史と近代
第4回	近代の自然描写と思想（2）	自然と崇高
第5回	芸術における自然観(2)	都市　vs　田園
第6回	芸術における自然観(3)	20世紀の抽象運動
第7回	芸術における自然観(4)	20世紀のプリミティヴィズム
第8回	芸術における自然観(5)	自然と環境問題
第9回	「断片」の美学（1）	フランス近代、印象派
第10回	「断片」の美学（2）	キュビスム、未来派、新造形主義
第11回	「断片」の美学（3）	フォトモンタージュ
第12回	「自己」と「他者」の視線(1)	プリミティヴ・アート
第13回	「自己」と「他者」の視線(2)	オリエンタリズム、写真、美術
第14回	「自己」と「他者」の視線(3)	今日の展覧会批評
第15回	全体の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
観察者の系譜－視覚空間の変容とモダニティ	ジョナサン・クレーリー／以文社／／
絵画の政治学	リンダ・ノックリン／彩樹社／／
C.D.フリードリヒ、《画家のアトリエからの眺め》－視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
美術史をつくった女性たち－モダニズムの歩みのなかで	神林恒道・仲間裕子編／勁草書房／／
20世紀美術におけるプリミティヴィズム	ウィリアム・ルービン編／淡交社／／
＜方法＞としての人間と文化	佐藤嘉一編／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

言語文化論（S） §　言語コミュニケーション論（S）

15608

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義でどんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	近代言語学の成立とその背景 ソシュール（1）	ｿｼｭｰﾙが求めたﾗﾝｸﾞは、話し手の意識の中にあり、それ以外のどこにもない。
2	ソシュール（2）	
3	ソシュール（3）	
4	ソシュール（4）	
5	ソシュール（5）	
6	ソシュール（6）	
7	言語相対主義の潮流	ｿｼｭｰﾙが提示してみせたのは、これは後に言語論的転回と呼ばれるﾊﾟﾗﾀﾞｲﾑをもたらした考え方である。ｿｼｭｰﾙは、ことばが存在して初めて、概念や対象が誕生する。なぜならば、ことばが、境界のない連続的現実世界を切り取ることにより、概念が作り上げられるからというわけである。
8	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄに始まる言語相対論	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ言語学が近代言語学の三大源泉の一つだと言われる最大の理由は、近現代言語学を一貫して貫く言語相対主義の考え方の発端、すなわち母語の発見と言語と民族との間に生ずる不可分の関係の発見をそこに見いだすことが出来るからである。この考え方は、ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ言語学に端を発し、ｿｼｭｰﾙ言語学で理論的肉付けを完成し、後のｻﾋﾟｱ=ｳｫｰﾌ仮説やﾄﾞｲﾂ意味論学派に受け継がれて行く、言語相対主義に貫かれた言語理論である。
9	ﾄﾞｲﾂ意味論学派＝新ﾌﾝﾎﾞﾙﾄ学派	ﾌﾝﾎﾞﾙﾄに端を発する言語相対論の考え方の基本にあるのは、言語共同体に固有の分節・認知の仕組みこそが、その構成員の魂であり、精神であり、ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨである、という積極的な人間のあり方を規定する、というものである。つまり、人間がことばを支配するのではなく、ことばが人間を支配することになる、ということは、まさしくﾌﾝﾎﾞﾙﾄが、言語を創られたものという意味でのｴﾙｺﾞﾝではなく、創るものという意味でのｴﾈﾙｹﾞｲｱとして定着させた、言語に対するﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞな考え方の帰結なのであ
10	ﾚｳﾞｨ=ｽﾄﾛｰｽ	ﾚｳﾞｨ=ｽﾄﾛｰｽの神話論や親族構造の研究は、二項対立、神話を構成する最小限の要素〈神話素〉、交換のｼｽﾃﾑという補助線を引くことによって、経済上の動機と目に見える諸制度の間には、人間の無意識が作り上げている目に見えない制度がはさまっており、むしろこれが社会制度の動きに大きな役割を果たしている、という新しいｲﾒｰｼﾞを提出している。

11	ﾗｶﾝの欲望論（1）	我々の欲望の対象は常にある何ものかの代理であり、そのあるものもまた他のものの代理であるという性格を持つ。そしてそれは果てしなく続く。それをずっと辿っていくと、結局〈Φ〉ﾌｧｲという記号が出てくる。これはﾌｧﾛｽ（=ﾍﾟﾆｽ）で、このように究極の不在を辿ることは、ﾍﾟﾆｽが欠けていることなのだ、とﾗｶﾝは説明する。人間の欲望は、いわばこの根元的に欠けていることへの欲望の代理的連鎖である。
12	ﾗｶﾝの欲望論（2）	
13	ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝ言語ｹﾞｰﾑ論（1）	ｿｼｭｰﾙと同じように、言語をｹﾞｰﾑとして語ることは、ﾙｰﾙに従うということを言語活動の考察の中心におくということに他ならない。ｹﾞｰﾑのﾙｰﾙ問題には、明文化されたﾙｰﾙを持つｹﾞｰﾑ以外では、明確な答えは存在しない。それは言語活動の規則性が、明文化されたﾙｰﾙと根本的に異なっていることを示している。ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝはこのﾙｰﾙ問題を探求して行く。そこで絶えず問われているのは、我々がことばを知り、話すとはどういうことなのか？それは無秩序な現象や自然界の秩序的現象とどう違うのか？ということである。こうした探求において言語的秩序を求めるとき、我々は必然的にそれをことばで説明することになる。しかし我々が今求めているものは、あらゆることばをことばとして機能させる根元的秩序であり、その秩序の説明に、すでにこうした秩序のおかげでことばとして機能しているものを用いるのは、我々の説明がまだ根元そのものには接していないことを暗示している。ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝが求めるものは、あらゆることばがことばとして機能する根本条件であり、それ自身はいかなることばによっても語り得ないような根元である。すなわちｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝが求めるものとは、我々のあらゆる探求の鋤を跳ね返す岩盤なのである。
14	ｳﾞｨﾄｹﾞﾝｼｭﾀｲﾝ言語ｹﾞｰﾑ論（2）	
15	言語と現代思想の問題〈まとめ〉	〔1〕欲望論、〔2〕言語ｹﾞｰﾑ〈Sprache Spiel〉、〔3〕ﾊﾟﾌｫｰﾏﾃｨｳﾞｨﾃｨ〈performativity〉（＝行為遂行性）、〔4〕理論より現場への関心、〔5〕ことばと社会、〔6〕言語使用と身体、〔7〕ことばの詩的機能と論理的機能 、〔8〕ｴﾋﾟｽﾃｰﾒｰ〈épistémè〉（＝思考の枠組み）の変換、〔9〕人間諸科学と言語のﾓﾃﾞﾙ、〔10〕ﾎﾟｽﾄ構造主義〈post-structuralisme〉の登場と言語観の変容

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

言語表現論（S）

13295

担当者名 / Instructor　瀧本 和成

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

〈表現〉とは何かをめぐって、近代文学史の流れに沿ってその変遷と共に描写やその表現（方法）がいかに変化していったかを様々な角度から分析・考察を行う。

たんに抽象的な概念把握に終始するのではなく、具体的に作品や作者を取り上げ、（社会や時代状況等を視野に入れつつ）表現をめぐってそれぞれの諸問題や関係（性）が解明できるよう努力したい。

到達目標 / Attainment Objectives

近代文学史の流れに沿ってその変遷と共に描写やその表現（方法）がどのように変化していったかを理解・把握することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	（作者にとって）〈表現〉とはどのような行為か？①	
第2回目	（作者にとって）〈表現〉とはどのような行為か？②	
第3回目	作品と作者についてー作品の主題と作者の意図ー	
第4回目	森鷗外「舞姫」①	
第5回目	森鷗外「舞姫」②	
第6回目	夏目漱石「坊つちやん」①	
第7回目	夏目漱石「坊つちやん」②	
第8回目	井伏鱒二「山椒魚」①	
第9回目	井伏鱒二「山椒魚」②	
第10回目	野坂昭如「火垂るの墓」①	
第11回目	野坂昭如「火垂るの墓」②	
第12回目	大江健三郎「新しい人よ眼ざめよ」①	
第13回目	大江健三郎「新しい人よ眼ざめよ」②	
第14回目	村上春樹「ノルウェイの森」①	
第15回目	村上春樹「ノルウェイの森」②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で取り上げる作品を読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	試験（テキスト・ノート類持込可）によって評価。
平常点評価	20 %	小レポート

定期試験の成績を主とし、これに小レポート等を加味して総合評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考書・研究書を読むときは、鵜呑みにしないで批判摂取することを望む。

教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じてその都度プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治文学史』	上田博・瀧本和成編／晃洋書房／4-7710-1060-9 C3091／1998・11刊
『大正文学史』	上田博・瀧本和成ほか編／晃洋書房／4-7710-1303-9 C3091／2001・11刊

上記以外の参考書・研究書等は講義中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

産業デザイン論 (S)

13287

担当者名 / Instructor　要 真理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

デザインは、単に、視覚的におもしろい、格好いいというだけでなく、私たちの思考や感情に働きかけ、ときに政治的な道具となることもある。この講義では、産業革命以後の欧米のデザインに注目し、文化的社会的コンテクストと照応させながら、デザインの機能とその可能性について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・スライドで紹介した装飾品や建造物などのデザインの様式的特徴を理解し、視覚的に区別できる。
・デザインが近代の社会構造や産業の発展と密接なつながりをもっていることを確認したうえで、カタチのうえのみならず、デザインの基本思想についても理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術や産業に関する授業と併行して受講すると、いっそう理解が深まるでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに:あなたにとってのデザイン	デザイン、生産(製品)言語、社会
第2回	「デザイン」という概念	語源、意義、プラクシスとポイエーシス
第3回	産業革命と万国博覧会	新素材、技術の発明、産業化と国際化の功罪
第4回	ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動	モリス商会、工芸ギルド、社会改革運動
第5回	唯美主義とアール・ヌーヴォー	芸術のための芸術、世紀末
第6回	マッキントッシュとゼツエッシオン	伝統様式からの分離、ウィーン
第7回	ユーゲントシュティールとドイツ工作連盟	アーティスト＝デザイナー、「規格論争」
第8回	構成主義とノイエ・ザッハリヒカイト	機能的様式、労働と生産、技術
第9回	モダンデザインと芸術家工房	アトリエ・マルティーヌ／パリ、オメガ工房／ロンドン
第10回	大衆消費社会の到来と趣味の変質	大量生産、多品種少量生産
第11回	複製技術時代の芸術作品	複製、画一化、ファシズム
第12回	新しい消費欲望の形成	イメージの差異、主体の変容
第13回	企業戦略とブランドの誕生	CI、ブランド、製品
第14回	グッドデザインの変遷	デザイナー、工業製品、使用者
第15回	デザインの可能性	現状分析、デザインの理想
	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で紹介する作品を実際に展覧会に足を運んだり、あるいはカタログやDVDなどで確認するなど、進んで作品鑑賞を行ってもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や語句について理解できているかどうかを評価する。
平常点評価	30 %	小テストや授業態度を参考にする。

セメスターの途中で予告なしに小テストを行う場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

パワーポイントとプリントを使用する。授業中に紹介した作品については、そのデータをノートに書き留めておくこと。当然のことだが、私語・携帯メール等は慎んでもらいたい。場合によっては退室を求めることもある。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ロジャー・フライの批評理論』	要真理子／東信堂／4887135890／ヴィジョンとデザインについてより深く学びたい学生向け

その他の参考文献については、授業内で適宜紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

20分を超えての遅刻、途中退室は原則として不可とする。

自我論 (S)

15518

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

例年通り、コミュニケーション・ペーパーを用いた双方向型講義を行う。本年度の講義では、社会学における日本社会論や「世間学」などを取り上げる予定である。そして考察の中心点は、日本社会の構造原理であり続けてきた「世間」の中に生きる我々の意識と経験の構造はどうなっているのか、である。そして、「世間」という社会編成の原理や、その中での我々の意識や経験が、それ自体我々の人間的可能性に対する阻害要因となっているのだとすれば、さて我々は何をなすべきなのか、について考えをめぐらしてみることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義名からは心理学的内容を連想するかもしれないが、基本的には社会学的視点からの考察である。そして目指すは、社会学的視点から我々自身と日本社会を捉え返す批判的視点を獲得することである。そしてまた、そのような視点に立ちつつ、そこから見える社会的・個人的パースペクティブを言語化できるようになるための基礎的訓練の機会ともしたい。究極的には、社会学が目指す社会的・人間的オルタナティブの提起というものが具体的にいかなるものかを知ることを、到達目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学理論」・「社会学史」・「社会倫理学」・「社会文化論」などの講義を履修していることが望ましい。自分の個人的な体験に寄りかからない次元の想像力や思考力を獲得するために、抽象的な思考の地平を経験してきて欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の主題、展開、手法についての概説、「予備コミュニケーション・ペーパー」(以下CPと記す)	「世間」と「社会」、世間学
2	「予備CP」へのレスポンス、日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(1)	「世間」の構造
3	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(2)	「世間」の歴史①＜平安期・鎌倉期＞
4	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(3)	「世間」の歴史②＜江戸文学＞
5	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(4)	「世間」の歴史③＜近代日本文学＞、CP①
6	CP①へのレスポンス、小括	
7	「世間体」の構造(1)	「世間」の意味
8	「世間体」の構造(2)	「世間」観の変遷
9	「世間体」の構造(3)	「世間」とは何か
10	「世間体」の構造(4)ー「世間」の社会心理①	恥と罪の意識
11	「世間体」の構造(5)ー「世間」の社会心理②、CP②	笑いの文化
12	CP②へのレスポンス、小括	
13	「甘え」の構造(1)ー「世間」の深層心理①	「甘え」現象とは何か
14	「甘え」の構造(2)ー「世間」の深層心理②	「甘え」現象の次元
15	総括 ――「世間」と我々	脱「世間」は可能か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	講義の内容を踏まえた上での、論理的な内容構成力と説得力を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生には少し難しい講義ではないかと思うので、3・4回生での履修を勧めるが、意欲的な2回生の履修はもちろん大歓迎。単位が欲しいだけの学生には無理。みずからの個人的・社会的・文化的経験を意識的に捉え返す、ある意味で厳しい時間になるはずである。そのような心と頭の準備をしてきてもらえればよろしかろう。

教科書 / Textbooks

教科書として特定の著作を使うことはない。講義で使うテキストは、講義の展開に応じつつこちらでプリントして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。紹介する諸著作の中から、各自にとって意義ありと思われるものを読んでもらいたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会意識論（S）

15552

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の日本の青年は社会にその積極的形成者として能動的にアンガージュマン（参与）することにきわめて強い懐疑と無力感をもっている。これは諸外国と比べても異常ともいえる無力感である。この事態をどう考えるかという問題を、「社会」意識と「私」意識とを適切に媒介する社会関与の「中間団体」的場の衰弱という点に的を絞り、西欧社会思想の伝統とも突き合わせながら考える。
この問題視点は、さらに「社会文化運動」の視点によって補完され強化される。今日のコミュニケーション関係の問題性を「私」意識の極度の孤立化形態の問題とつなげ、それに文化運動的に対抗する視点として「小さいけれど、別な空間のコミュニケーション的創出」という文化運動的課題を提起する。
なお話をたんに理論的議論の枠内にとどめず、現実に今日の日本で取り組まれているさまざまな実践を具体的に紹介しながら、問題を考えることにする。

到達目標 / Attainment Objectives

「社会」概念をめぐる社会科学的思考の伝統のアウトラインを基礎知識として身につけると同時に、それを今日の自分自身に適応して、今日の「社会」創造の生きた営みへの視点を獲得すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	カフカ的不安の構造と現代日本社会の社会意識	キーワード　カフカ的不安　不可視化される全体社会権力と孤立化された個人
第2回	「いじめ」のトラウマが社会意識のあり方へ及ぼす問題	キーワード　「いじめ」、「仲間」関係性の疎外形態と暴力
第3回	ルソーの問題提起とシェーラーの「差異価値」批判の論理	ルソーの「自己疎外論」のアクチュアリティーと競争主義的心理構造
第4回	テーマ　和辻哲郎の受けたショックと発見と思索――「社会」をめぐる日本的伝統意識の問題性	キーワード　和辻哲郎 『風土』 「家」社会と「内と外」の論理　西欧的個人と市民的公共性
第5回	テーマ　阿部謹也の「世間」論からの問題提起	キーワード　阿部謹也 「世間」概念 「中間団体」論
第6回	テーマ　ルース・ベネディクトの『菊と刀』の日本人論と「世間」の問題	キーワード　ルース・ベネディクト 『菊と刀』 世間と恥の意識
第7回	チャップリン「モダンタイムズ」「独裁者」からの問題提起	キーワード　チャップリン　モダンタイムス
第8回	「小さいけれど、別な空間」のコミュニケーション的創出という問題提起	キーワード　社会文化運動、転回点としての68年、「新しい社会運動」、アイデンティティ問題と複数主義
第9回	テーマ 「社会文化運動」の視点1――エーリッヒ・フロムの「社会心理学」の視点	キーワード　社会の内面化としての自我、「市場的構え」の問題性、新しいアイデンティティ意識
第10回	テーマ 「社会文化運動」の視点2――街とコミュニティ・カフェ	キーワード 「場」とコミュニケーション、ハーバーマス、公共圏とコミュニケーション、媒体としての芸術・文学・演劇
第11回	テーマ 「社会文化運動」の視点3――街と情報（南野佳代子さんの試み）	キーワード 「街を耕すこととしてのコミュニティ・ペーパー」
第12回	テーマ「社会文化運動」の視点4――街と在日外国人	キーワード　多文化共生とグローバリゼーション、生野の歴史、在日の歴史、複数主義的アイデンティティ
第13回	テーマ　まとめ1	キーワード
第14回	テーマ　まとめ2	キーワード
第15回	テーマ　　試験（レポート）	キーワード

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

自分の住む町や郷里での草の根の市民からの新しい街づくりの試みを発見し、その実際を知り、考察すること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業を他の授業と自分の頭のなかで関連付け、「社会」に関する自分の基礎知識と関心とを《断片的に散在している状態》から《有機的に繋がり総合的となっていく状態》へと高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『経験の危機を生きる――小さいけれど、別な空　　清　眞人／青木書店／／
間の創出』

教科書は、(1)授業中に適宜配るプリントと(2)『経験の危機を生きる――小さいけれど、別な空間の創出』、清眞人、青木書店、(9月末出版予定)との二本立てからなる。
後者は、今日の「社会」の危機を、人間的な生を支え導く意識の形成の土台となる基礎的な「経験」の危機という視点から照らし出そうとしたものであり、またその点で「社会文化運動」の視点の基礎となる考え方を示したものでもあり、本授業での問題考察をより内面的な視点から支え補完するものである。この点で、授業中に関連箇所が適宜指示され、「社会」と「意識」とをたえまなく関連付ける本授業の進行を「意識」の側から支える役割を果たす。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会思想 (S)

15540

担当者名 / Instructor　松田 博

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題はますます複雑かつ陰影を伴う分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的文化的生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「人間の安全保障」や「安全社会」などの課題を、自由論・平等論・友愛論という社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げてみたい。社会科学的想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題をとおして、現代社会像を捉える「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい論述能力を身につけるための努力を期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会(科)学の基礎理論。社会(科)学の歴史。社会理論系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　講義計画	
2	メディアのなかの社会像 「8・15の社会思想」	世論、社会イメージ、リテラシー
3	ステレオタイプ論	リップマン、世論、ステレオタイプの功罪
4	エスノセントリズム(自民族中心主義)	サムナー、フォークウエイズ、ナショナリズム
5	権威主義的パーソナリティ	アドルノ、権威主義、社会的性格
6～7	人間の安全保障論(その歴史的背景・基本概念など)	セン、Human Security(HS)、基本的人権
8	中間まとめ　小論文　質疑・討論	HSと人権概念
9～10	国際社会と「人間の安全保障」	寛容、多文化共生、他者理解
11～12	「人間の安全保障」と「ホッブス」問題	ホッブス、『リヴァイアサン』、自然状態
13～14	「ルソー」問題	ルソー、『人間不平等起源論』、『社会契約論』
15	全体まとめ、質疑、レポート注意事項	レポート作成の基本条件

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ(たとえばステレオタイプの実例など)についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点評価	30 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。学生時代の知識は忘れても、一度身に着けたスキル＝技能は、水泳や自転車度同様、忘れないものです。これは脳科学では「エピソード記憶」や「意味記憶」とは異なる「手続き記憶」として知的財産となるものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部のよき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど書く能力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人間の安全保障	A・セン／集英社新書／／人間の安全保障論の基本的文献
貧困の克服	A・セン／集英社新書／／前書を理解するのに有益
フォークウエイズ	サムナー／青木書店／／エスノセントリズム論の古典
権威主義的パーソナリティ	アドルノ／青木書店／／権威主義分析
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／市民社会論など社会思想の検討
自由への大いなる歩み	キング／岩波新書／／キングの代表的著作
ガンジー自立の思想	ガンジー／地湧社／／ガンジー思想の紹介
世論	リップマン／岩波文庫／／ステレオタイプ論の古典

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。「人間の安全保障」に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

ステレオタイプその他本講義でとりあげるテーマは海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽　仮面の上に描くたび　己の顔をうしなう仮面」（現代学生百人一首）。

社会動機論（S）

13268

担当者名 / Instructor　藤島 寛

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では（1）人間的動機、（2）臨床社会心理学、の2つのトピックを取り上げ、動機付けにおける社会的文化的側面を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会や文化の与える動機づけへの影響についての現代的課題を理解し、その問題点について心理学における動機づけの視点から論理的に考察できるようになることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学の基礎的知識について学習できる科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	人間的動機（1）一次的動機付けにおける感覚的側面	感性
2	人間的動機（2）emotional design	本能、機能、思考
3	人間的動機（3）欲望とその抑制	欲求と欲望
4	人間的動機（4）社会的動機	マレー、達成動機、親和動機
5	人間的動機（5）向社会的行動	援助行動
6	人間的動機（6）道徳	道徳性
7	人間的動機（7）道徳の実際	社会的ジレンマ、囚人のジレンマ、応報戦略、裏切り
8	臨床社会心理学（1）自己意識と不安	私的自己意識、公的自己意識
9	臨床社会心理学（2）自己愛	自己愛的人格、誇大自己
10	臨床社会心理学（3）愛するということ	社会的ジレンマ、自己愛、他者
11	臨床社会心理学（4）ストレス	ストレス・コーピング、ソーシャル・サポート
12	臨床社会心理学（5）パーソナリティとコーピング	パーソナリティ、ビッグ・ファイヴ、遊戯性
13	臨床社会心理学（6）認知療法	ベック、認知行動療法、自己注目理論
14	臨床社会心理学（7）感情の認知	マインドフルネス、気づき
15	臨床社会心理学（8）カウンセリング	カウンセリング・マインド、聴くこと

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ウェブに頼ることなく、学術的な参考文献を読み、各トピックのテーマに対する現代的問題への関心を自ら深めていくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義時に出題されるレポート課題における、各トピックにおける心理学の知識に基づいた現代的問題点への気づきとその問題点に対する深い考察を評価。レポート提出は複数回、各回のレポートは、A4サイズの用紙で2500字以上とする。

講義時に出題されるレポートによる深い自主的学習を重んじます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学術的参考文献に基づいた論理的な思考によるレポート作成を通した思考力の習得を望む。
研究の資料として、ウェブからの情報については厳密なリテラシー・チェックを要求します。

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、講義内容の理解に必要な資料を配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会心理学への招待	高木修（編）／有斐閣／／向社会的行動の参考書

自分のこころから読む臨床心理学入門	丹野義彦・坂本真士／東京大学出版会／／うつへの認知的アプローチに関する参考書
「聴く」ことの力	鷲田清一 ／TBSブリタニカ／／カウンセリング・マインドの参考書
はじめて出会う心理学、改訂版	長谷川寿一・東條正樹・大島尚・丹野義彦／有斐閣アルマ／／社会的ジレンマ、認知療法の参考書

ここに上げた参考書にとどまらず、講義時に紹介する参考文献など、学術的な文献を精読することを望む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

講義に出席し、“静かに”、”深く”、考察すること

社会病理学 (S)

15472

担当者名 / Instructor　崎山 治男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、学説史的な展開を踏まえつつ、学生諸氏にとって身近なテーマを取り上げる中で、「社会」病理学の基本的な視点の獲得を目指す。パート1では、なぜ・どのように近代・現代社会に特有の社会病理が登場してきたのかを、社会構造の変化という観点から捉える。主に、「自由」、「平等」、「博愛」といった近代社会で「正しい」とされている考え方が、逆に社会病理を生み出すといった視座を提示する。パート2では、青少年の意識といった側面を社会病理学の視点から掘り下げる。特に、「社会には病理が元々ある」という見方と、「社会病理が社会的に作り出される」という視点との交錯を講義する。パート3では、近年登場してきた「新しい」社会病理への見方を、主に家族臨床から捉え、社会病理学への理解の深化を図る。同時に、「心」を病理とする見方の進展が進んでいる現状に対して、「社会」病理学の視点からそれを懐疑的に見ていく重要性を示す。

到達目標 / Attainment Objectives

・「社会病理」とされる事柄について、社会学的な見方を身につける。
・近代の「善」なる理念が、病理現象を産み出すパラドックスを理解する。
・とりわけ青少年の病理行動の背景を理解する。
・「新しい」病理現象とされる事柄への知識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学史」、「社会学概論」等の基礎的な知識を習得していることが望ましい。近年、マスメディアなどで頻繁に取り上げられる社会問題への関心を持った学生の受講を希望する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	イントロダクション	近代社会の功罪
第二回	Part1:「社会」病理学とは何か:社会構造と社会病理・「自由」であることは良いことなのか?:アノミーという社会心理	アノミー、自由
第三回	「博愛」をどの範囲まで持てるのか?:都市化と社会的連帯の崩壊	アーバニズム、インナーシティ
第四回	「平等」であることはどこまで正しいのか?:「成功神話」の落とし穴	教育、階層
第五回	「勤勉」であるだけで良いのだろうか?:下位文化の光と影	文化的再生産
第六回	Part2:現代の青年意識を「社会」病理学してみる・なぜ「気の合う仲間」が出来るのか?文化的学習理論による「仲間」作り	学習理論
第七回	最近の少年は「キレやすい」のか?:少年犯罪を巡る統計とレイベリング論	統計の陥穽
第八回	少年犯罪は「凶悪化」しているのか?:社会問題の構成主義	マスメディアと少年非行
第九回	地域や家族による支援はどこまで有効なのか:他者との繋がりと紐帯理論	地域、NPO
第十回	「引きこもり」は何故起きるのか?:私事化する社会での青年意識	コミュニケーションの高度化
第十一回	Part3:現代社会の病理の諸相:社会病理の現在・目立つことと目立たぬこと:劇場化する社会	劇場型犯罪
第十二回	なぜ「家族」に問題を求めるのか?:トラウマとアディクション	アダルト・チルドレン
第十三回	「語ること」でラクになる?:ナラティブ・アプローチという相互行為	セルフヘルプ・グループ
第十四回	病理の過剰／病理の過剰:医療化の進展と社会病理	医療化・医療に回収される病理
第十五回	まとめ:「心」の病理と「社会」の病理	「心」の病は本当か?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・毎回指示する、参考課題図書を出来るだけ読むこと。
・各パート毎に、自らの考えを纏めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	授業内容を踏まえ、自らの視点で社会病理を分析出来ているかで判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・社会病理は社会そのものを映し出す鏡である。日頃から新聞やニュース等に注目すること（但し、うのみにしないこと）。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。レジュメ、資料等を必要に応じて配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて紹介するが、社会病理学の学説史を押さえたものとして徳岡秀雄『社会病理を考える』世界思想社、宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣、佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社を挙げておく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会文化論（S） §　文化社会学（W）

15522

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会文化論とは、社会と文化とを一体のものとして捉える方法・領域のことである。つまり社会文化論は、社会を解明するのに文化や習慣・ライフスタイル等を知ることが必要であるとすると同時に、文化もまた社会の中に位置づけられて初めて理解されるとする。この授業では、現代社会における様々な社会文化の現象を、特に諸個人が他者からどのように承認されているか、という視点から取り上げる。というのは、諸個人が「成功した生」を営み自己実現に至りうるためには、他者から様々な形で十分に承認されていなければならないからである。この承認が侵害されるとき、諸個人のアイデンティティに深刻な病理が生まれることになる。この授業では、社会文化の中に現れた承認とコミュニケーションの諸形態と、それが侵害された際の病理現象を具体的に分析することを通じて、現代社会における倫理の形成を考察していきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会文化論の基本的方法、基本概念、基本学説を、隣接する諸領域と関連させながら理解する。
②現代社会における社会文化の基本的特徴を理解し、具体例に即して分析する力を身につける。
③批判理論におけるコミュニケーション・承認についての考察の内容を理解し、現代社会の病理を批判する意義を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会文化をとらえる視点1——フランクフルト学派の文化批判1	アドルノ　文化産業　ベンヤミン　複製芸術
2	社会文化をとらえる視点2——フランクフルト学派の文化批判2	ハーバーマス　生活世界の植民地化　新しい社会運動
3	社会文化をとらえる視点3——フランクフルト学派の文化批判3	ホネット　承認論　病理批判　承認をめぐる闘争
4	社会文化をとらえる視点4——大衆文化論・消費社会論	カルチュラル･スタディーズ　スチュアート・ホール
5	「オタク系文化」と公共圏——ポストモダン、モダンの社会文化1	オタク系文化　ポストモダン　シミュラークル　動物化
6	「オタク系文化」と公共圏——ポストモダン、モダンの社会文化1	オタク系文化　モダン　公共圏　インターネット
7	音楽の社会文化——ジャズ論1	ジャズ　大衆文化　エスニシティ
8	音楽の社会文化——ジャズ論2	ジャズ　文化的承認　疎外
9	コミュニケーションの現在——ケータイ論	ケータイ　ネット縁　極私的対話　モラルとマナー
10	コミュニケーションの病理1——いじめの実態	いじめ　ハラスメント　自己喪失　他者喪失
11	コミュニケーションの病理2——いじめの理論化	ハーバーマスの植民地化論　ホネットの承認論　侵害　心的外傷
12	コミュニケーションの病理3——引きこもり	社会的引きこもり　家族　愛　親密圏　自己決定と自己実現
13	身体の社会文化——スポーツと勝利至上主義	勝利至上主義　スポーツマンシップ　競争　精神性
14	異文化交流の社会文化——ドイツから見た日本	審議的民主主義　社会文化の役割　日本型コミュニケーション　市民的公共性　多文化主義
15	社会文化論のまとめ——新しい倫理へ	社会文化　「成功した生」　自己実現　自己決定　承認とコミュニケーション　病理　新しい倫理

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に取り上げる参考書の何か一冊を、セメスター中にノートを取りながら通読してください。定期試験ではそれを問う出題をします。
試験に役立ちうるように、ふだんから身近な社会文化現象の具体例に注目し、資料等を集めておいてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	評価基準：講義内容を理解し、自分で具体例に応用して考察し、それを表現できているかを問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会文化論の学習にあたっては、自分に身近な社会文化現象を関心と問題意識とを持って取り上げること、先行する研究者や思想家の概念や思考方法を正確に学ぶこと、それらを具体的な現象に応用して考察して表現することが大事です。講義にきちんと出席して正確に学ぶとともに、自分で思考し表現する能力を身につけるように心がけてください。

教科書 / Textbooks

プリントを配布する。視聴覚教材は適宜用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『討議と承認の社会理論』	日暮雅夫著／勁草書房／ISBN978-4-326-10182-5／
『批判的社会理論の現在』	永井彰・日暮雅夫編著／晃洋書房／ISBN4-7710-1462-0／
（上2冊は、ハーバーマスやホネットのフランクフルト学派の理論研究の参考となります）	／／／
『文化論のアリーナ』	文化論研究会編／晃洋書房／ISBN4-7710-1170-2／
『社会文化理論ガイドブック』	大村英昭他編／ナカニシヤ出版／ISBN4-88848-939-4／
（上2冊は、幅広く社会文化論の理論研究の参考となります）。	／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会文化学会ホームページ（社会文化研究の具体例を見ることができます）。
http://japansocio-culture.com/
批判的社会理論研究会ホームページ（批判的社会理論研究が実際にどのように行なわれているかを、見ることができます）。
http://affkt.jpn.org/about/

その他 / Others

授業中の私語は禁止します。従わない場合は、退出させます。
授業中のケータイ・メールは禁止します。従わない場合は、退出させます。
遅刻・途中退出は禁止します。

社会倫理学（S）

15479

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の日本の青少年にとってイジメ経験は最も深く共有された、しかも、生の意味感受性の危機に深くかかわる深刻な経験として成立している。この経験を社会倫理（応答の倫理学）の視点から振り返って、そこに孕まれている実存的諸問題を分析し、あらためて、そこからわれわれの生が直面している問題を自覚しなおすという思考の作業をしてみたい。授業の素材としては、受講生自身のイジメ経験、文学、歌、など、経験を意識化するうえで刺激となるさまざまな生きた材料を多用したい。

到達目標 / Attainment Objectives

自己の経験を哲学的に分析する思考経験をしてみる。「応答の倫理学」と呼びうる代表的思想家の基本観点を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	基礎経験と思想（パースペクティヴ）――イジメ経験を問い返す意義	基礎経験・パースペクティヴ・イジメ経験
第2回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題1	内面的自殺、実存のタマネギ化
第3回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題2	存在の透明化、世界の夢化と他者の消滅、自傷行為をとおしての存在確認
第4回	イジメ経験が生みだす実存的諸問題3	傍観者化、友情という基礎経験の崩壊
第5回	存在承認による生の解放とジョン・レノンの歌	愛と実存、フランクル、ジョン・レノン
第6回	心的外傷とジュディス・ハーマンからの問題提起	ケアされた経験、ジュディス・ハーマン、治療同盟
第7回	応答の倫理学1――レヴィナス	レヴィナス、傷つきやすさ（vulnerability）
第8回	応答の倫理学2――フロム	応答責任性、フロム
第9回	応答の倫理学3――ブーバー	「私-きみ」関係性
第10回	応答の倫理学3――レイン	自己と他者
第11回	応答の倫理学4――ニーチェとサルトル	暴力のマニ教主義
第12回	応答の倫理学5――フランクル	生の意味への問いのコペルニクス的転換
第13回	実存と意味	実存、意味
第14回	文学と倫理	三島由紀夫、村上春樹
第15回	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	0 %	授業中に課すミニレポートに換える
平常点評価	30 %	授業中に課すミニレポートの評価によっておこなう

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書をよく読み、問題の全体的な相互関連への関心を高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
創造の生へ――小さいけれど別な空間を創る	清眞人／はるか書房／978-4-434-1148-8／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

身体現象学（S）

13294

担当者名 / Instructor　佐藤 勇一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「身体」というテーマは、現在、実に様々な視角から論じられているテーマです。本講義は、このテーマに対して「哲学」からの接近を試みます。哲学においては、身体は様々な枠組みで語られてきましたが、これが主題的に論じられるには、20世紀の現象学者、メルロ＝ポンティを待たねばなりませんでした。そして、哲学に限らず身体に関する様々な視角へ影響を与えた者として、フーコーの存在は大きいでしょう。本講義では、1）哲学の歴史における身体の取り上げられ方を概観し、2）メルロ＝ポンティやフーコーの身体論とその影響を検討することにします。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生は、次のことができるようになるでしょう。また、そうなるように、真剣に受講することを望みます。

・哲学史における基本概念を幅広く理解し、身体がどのように論じられてきたか説明できる（とくにこの目標に達することを望みます）。

・メルロ＝ポンティの思想において身体が中心テーマの一つであったことを、彼が論じた文脈において説明できる。

・異常性や生政治等に関するフーコーの見解を概説できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。この講義は、哲学に関する予備知識がなくとも十分理解可能です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	1）哲学史における身体―古代ギリシャ哲学（前ソクラテス期）	アルケー、ソーマ・セーマ理論、テオリア、ピュシス、物活論、等
第3回	1）哲学史における身体―古代ギリシャ哲学（ソクラテス、プラトン）	イロニー、国家、魂への配慮、無知の知、等
第4回	1）哲学史における身体―古代ギリシャ哲学（プラトン）	イデア、エロス、狂気、国家、想起、魂の区分、等
第5回	1）哲学史における身体―古代ギリシャ哲学（アリストテレス）	可能態、形相、原因、現実態、質料、魂、同名異義問題、ピュシス、等
第6回	1）哲学史における身体　ーキリスト教	アガペー、栄光の身体、王の二つの身体、サルクス、受肉、贖罪思想、聖体拝領、ソーマ、等。
第7回	1）哲学史における身体　ーキリスト教（中世その1）	カリタス、教父、三位一体論、新プラトン主義、スコラ哲学、目的論的自然観、等。
第8回	1）哲学史における身体　ーキリスト教（中世その2）	カリタス、教父、三位一体論、新プラトン主義、スコラ哲学、目的論的自然観、等。
第9回	1）哲学史における身体ー近世の哲学（ルネサンス）	医学、科学革命、機械論、人文主義、等
第10回	1）哲学史における身体ー近世の哲学（特に17世紀）	因果的相互作用説、コギト、自然的判断、実体、情念、心身の実在的区別、等
第11回	1）哲学史における身体ー近世の哲学（特に17世紀）、2）20世紀以降の哲学における身体―フッサール	エポケー、機会原因説、厳密学、現象学的還元、二側面説、予定調和説、
第12回	2）20世紀以降の哲学における身体―フッサールとメルロ＝ポンティ	感覚、幻影肢、現象学的還元、ゲシュタルト心理学、生活世界、反射、フィー現象、等
第13回	2）20世紀以降の哲学における身体―メルロ＝ポンティ	現象的身体、シュナイダー症例、身体図式、代償行為、手がかり、二重感覚、等
第14回	2）20世紀以降の哲学における身体―患者の役割理論と看護の現象学	医療化、パーソンズ、ベナー/ルーベル、等
第15回	2）20世紀以降の哲学における身体―フーコー、生政治	エピステーメー、狂気、権力、死の医療化、身体の監獄である精神、性、生政治、等
	（講義の進度によりスケジュールには変更の可能性があります）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に指示した文献を学習するとよいでしょう。特に、哲学史に関する部分では、多くの参考文献がありますから、自習しておくと理解が深まるはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	「語句説明」、および概念同士の連関に関する「記述問題」を出します。

平常点評価	40 %	毎回授業終了後に簡単なコミュニケーションペーパーを書いてもらいます。 授業の内容に関する小レポートを2回（原稿用紙1．2枚程度）実施します。小レポートの実施時期は、授業中に指示しますが、おおむね古代、近代に関する講義が終了する度に行うことになります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書を用いない講義形式の授業ですから、毎回の講義内容を真剣に聞くことが大切です。

教科書 / Textbooks

用いません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
西洋哲学史―理性の運命と可能性―	／昭和堂／／哲学の歴史に関する知識を補うことができます。
講義・身体の現象学―身体という自己―	ヴァルデンフェルス／知泉書院／／現象学的な身体論研究について知ることができます。
知覚の現象学	メルロ＝ポンティ／みすず書房／／メルロ＝ポンティの身体論に関しては主にこの著作から扱います。

以上の参考書は講義の全体像をつかむためのものです。その他、小レポートなどのための参考文献は授業中に指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

身体表現論（S）

10136

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、自然・社会・文化などと深くかかわり様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。こうしたことをふまえて、この講義では、1. 身体表現の概念と諸相　2. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と自然・社会・文化とのかかわりを考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

身体表現とは何か、さらに身体表現は自然・社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術と社会にかかわる科目
文化人類学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等
2回	非言語コミュニケーションの概念	肉体、姿勢、しぐさ、空間、色彩、時間等
3回	非言語コミュニケーションと社会・文化	高コンテキスト～低コンテキスト国・文化と非言語コミュニケション
4回	非言語コミュニケーションの分類・役割及び30分間の確認テスト	確認、修飾、代用、コミュニケーション管理、矛盾等
5回	舞踊（様式化された身体表現）の概念・現代における舞踊の意味	舞、踊り、舞踊、ダンスという言葉の意味、舞踊における聖と俗等
6回	日本の伝統舞踊（1）	古典舞踊（雅楽、能楽、歌舞伎、日本舞踊等）と民俗舞踊（神楽、田楽、風流等）のとらえかた
7回	日本の伝統舞踊（2）	表現の様式と技法、表現要素の複合化、序破急の形式、道行の形式、舞踊動作の特性
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	非言語コミュニケーションに関する多面的な討論とプレゼンテーション
9回	世界の舞踊（1）	アフリカ（特にナイジェリア）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
10回	世界の舞踊（2）	アジア（特にインド）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
11回	世界の舞踊（3）	欧米の舞踊（特にフォークダンス、バレエ）と自然・社会・文化
12回	現代の舞踊（4）と30分間の確認テスト実施	欧米の舞踊（特にモダンダンス、ポストモダンダンス、コンテンポラリーダンス）と自然・社会・文化
13回	クロスオーバーする現代の舞踊	現代美術、パフォーマンス等における身体表現、オルターナティブスペース
14回	舞踊教育の思潮と動向、生涯学習時代における舞踊教育	アメリカ、イギリス、日本における舞踊教育の流れ、生涯学習時代における舞踊学習内容
15回	各ジャンルごとの舞踊の特性、聖と俗に関する舞踊、まとめ	身体表現と形式、舞踊の構造と機能、現代社会における舞踊の意味

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する参考文献を読み、自ら関係する文献を検索し、さらには実際の舞踊公演を鑑賞し、身体表現に関する知見を広め深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度などを評価する。
平常点評価	40 %	2回の確認テスト実施と1回のレポート提出：どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

無意識に行っている身体表現を意識化させ、その表現は、自然・社会・文化と深く結びついていることを考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
舞踊学講義	舞踊教育研究会／大修館書店／4-469-26197-1／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
非言語コミュニケーション	マジェリー/F/ヴァーガス／新潮社／4-10-600334-1／
しぐさの世界	野村雅一／日本放送出版協会／4-14-001429-6／
異界へのメッセンジャー	姫野　翠／出帆新社／4－86103－016－1／
おどりの美学	郡司正勝／演劇出版社／4-900256-40-4／
渡来の祭り　渡来の芸能	前田憲二／岩波書店／4－00－024123－0／
舞踊と社会	遠藤保子／文理閣／4-89259-375-3／
手の日本人　足の西欧人	大築立志／徳間書店／4-19-554087-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ規範論 (S)

15530

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【スポーツの構造と規範】スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それ が“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な意味活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から 成り立つのか、変化は何故、起こるのかについて、解明する。第二に、スポーツはーつのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつもの なのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的ス ポーツ観を問い直し、スポーツ競技の意味と評価のあり方を展望する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツにルールがあることは、だれもが知っている。しかし、ルールの原則と意味を理解しているものは少ない。スポーツのビジネス化の中で、変貌を遂げて いる現代スポーツをルールに焦点をあて、スポーツ精神のありようを吟味する。したがって、ルールの原則にかかわる基礎的知識を理解し、スポーツ精神に込められた規範を捉え直す論理力を身につけるとともに、現代スポーツの深部を洞察する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ文化論」を基本に、「余暇論」「スポーツ社会学」「スポーツ史」「比較スポーツ論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	(序)スポーツ・ルールの意味	(1)時事問題からルールを探る (2)ルールの意味空間と技の構成:Wrestring/角力/相撲
第2週	(Ⅰ)2つのルール	(1)慣習からの明文化 (2)ルールの性質: 明示性と暗示性
第3週	(Ⅱ)明示的ルール	(1)明示的ルールの5つの原則
第4週	(Ⅱ)明示的ルール	同上
第5週	(Ⅱ)明示的ルール	(2)明示的ルールの性格と役割:不変性と可変性 (3)明示的ルールの構成
第6週	(Ⅱ)明示的ルール	(4)ルールの変化と要件: 変化の8要因
第7週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(1)ルールを支える条理規範一守能説とフィレリー説を手がかりに一
第8週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(2)「禁止されていない」プレイと「許されていない」プレイの逆進性
第9週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(3)スポーツマンの行動綱領 (3)スポーツマンシップとフェアプレイ:「 競うことの正義」
第10週	(Ⅲ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(4)日本的スポーツ精神と武士道的倫理(5)欧州会議「フェアプレイ宣言」
第11週	(Ⅳ)現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(1)ドーピング問題の社会的基盤
第12週	(Ⅳ)現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(2)ドーピングの禁止根拠とスポーツモラル:生命の自己決定権と普遍的人間性
第13週	(Ⅴ)スポーツの競争と交流	(1)競争的序列と結果主義
第14週	(Ⅴ)スポーツの競争と交流	(2)『競い合い』かたの美学
第15週	(Ⅴ)スポーツの競争と交流	(3)スポーツの価値と観賞 (4)虚構の中の真実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミから流れるスポーツ情報に鋭く反応し、その言説の深部を探り当てるように感性を研ぎ澄ますこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	スポーツモラルの基本を理解し、現実を洞察する論理力。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ知識は『常識』のようであるが、その『常識』を疑うことから始めること。『ルール』を覚え、守るのではなく、考え、変えていく立場で現実を見据えること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ規範論	草深直臣／文理閣／／09年8月出版予定

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代　下巻	草深直臣他編著／青木書店／／
スポーツ・ルールの社会学	中村敏雄／有斐閣／／
スポーツのモラルを考える	近藤良享／大修館／／
スポーツのモラル	J.フィレーリー／不昧堂／／
スポーツ倫理学講義	川谷茂樹／ナカニシヤ出版／／
スポーツ･ルールの論理	守能信次／大修館／／
スポーツ･ルールはなぜ不公平か	生島淳／新潮選書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

1）解らないことはその場で質問すること。“解った気”にならないこと。

スポーツ行動論（S）

13333

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツは福祉政策において、どのような役割を担うのか？本講義では、現代福祉社会の歴史的発展および構成要素について概観しつつ、なかでも日本における「社会福祉基礎構造改革」を機に、改めて強化されようとしている「予防」や「自立」に注目したうえで、持続可能な福祉社会についての考察をおこなう。そのさい、「健康日本21」と「健康増進法」といった保健・公衆衛生政策とも関連づけながら考察を試みたい。さらに、日本の試みの理解を深めるためにも、イギリスの保健・福祉政策に位置づけられたスポーツ政策に言及し、それとの比較を通じて、日本型福祉社会の特徴と課題を確認し、さらに問題解決方法を模索することを試みたい。

到達目標 / Attainment Objectives

福祉的課題を将来における当事者問題としてとらえながら、「スポーツ」を介した「持続可能な福祉社会とは何か」を探るセンスを身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	日本において「健康」はどのように語られてきたのか①	戦前の厚生運動に見られた「健兵・健民作り」を概観する。
3	日本において「健康」はどのように語られてきたのか②	戦後の「健康ブーム」を概観する。
4	日本において「健康」はどのように語られてきたのか③	「健康日本21」と健康増進法の全体像を概観する。
5	福祉国家類型論	エスピン・アンデルセンの議論（たとえば『福祉資本主義の三つの世界』）を参照しながら、論点整理を試みる。
6	福祉国家と福祉社会	福祉国家と福祉社会の論点整理を行う。
7	福祉多元主義	福祉多元主義の市場志向型と参加志向型との論点整理を行う。
8	イギリスの保健・福祉政策としての「スポーツ」①	「スポーツの権利・公共性の追求」という観点から福祉国家政策のもとでのスポーツ政策を概観する。
9	イギリスの保健・福祉政策としての「スポーツ」②	新自由主義の台頭による社会福祉政策とスポーツ政策の「転回」を概観する。
10	イギリスの保健・福祉政策としての「スポーツ」③	スポーツカウンシル、地方自治体のスポーツ行政に見られる保健・福祉政策を概観する。
11	日本型福祉社会の展開における「予防」と「自立」への関心①	1960年代の福祉国家政策と「スポーツ」とのかかわり
12	日本型福祉社会の展開における「予防」と「自立」への関心②	1970年代の「日本型福祉社会論」と「スポーツ」とのかかわり
13	日本型福祉社会の展開における「予防」と「自立」への関心③	社会福祉基礎構造改革と「スポーツ」とのかかわり
14	日本型福祉社会の展開における「予防」と「自立」への関心④	住民参加による健康づくりと地域づくりの実践を取り上げ、それを検討する。
15	スポーツを介した「持続可能な福祉社会」を展望する（復習とまとめ）	これまでの議論を整理し、「持続可能な福祉社会」への試論を提示したい。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定

として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを使用せず、講義毎にレジュメを配布する。なお、講義において視聴覚教材を用いることもある。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アプローチとしての福祉社会システム論	訓覇法子 ／法律文化社／／
イギリスのスポーツ・フォー・オール：福祉国家のスポーツ政策	内海和雄 ／不昧堂出版／／
日本のスポーツ・フォー・オール：未熟な福祉国家のスポーツ政策	内海和雄 ／不昧堂出版／／
強制された健康：日本ファシズム下の生命と身体	藤野豊 ／吉川弘文館／／
「健康」の日本史	北澤一利 ／平凡社／／
健康日本21と地域保健計画	松下拡、熊谷勝子編 ／勁草書房／／
福祉資本主義の三つの世界	エスピン・アンデルセン／ミネルヴァ書房／／
「健康自己責任」論と公衆衛生行政の課題：保健から医療構造「改革」を見る	篠崎次男 ／自治体研究社／／
健康文化論	瀧澤利行 ／大修館書店／／

他の文献については適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

スポーツ産業論 (S)

15471

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か，それはどうあるべきかという問いを投げかける。内容としては，1980年代から1990年代にかけて，通産省によってそれが奨励されたのはなぜか，そこで提示されたプランの何がどう問題なのか，なぜ失敗したのかなどについて考えるところから話しを始める。さらにそこから内容を深め，日本の労働生活と余暇生活，地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視して話しを進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・通商産業省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し，その問題を説明できるようにする。
・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し，スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し，レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/日本のスポーツ政策：文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済，「消費革命」「自由時間」，娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働，過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例，戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例，ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自習が難しい対象を扱った講義なので，できるだけ休まずに授業に出席してほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21―スポーツ産業研究会報告書―	通商産業省産業政策局編／（財）通商産業調査会／ISBN4-8065-2360-7／内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	桝潟俊子／学陽書房／ISBN4-313-81401-9／戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

その他 / Others

スポーツ社会学 (S)

13366

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツを社会学する」とはどのようなことだろうか。そうすることで何が見えてくるのだろうか。本講義では、この問いに答えるためこれまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的研究や理論の紹介を通し、何が、どのように見えてくるのかを示すこととしたい。
またこの講義では同時に、今日のスポーツをスポーツ社会学ではどのように捉え、何を問題として見ようとしているのかを考えていくこととしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・スポーツを社会学的に見るとはどのようなことか、そのことによって得られる新しいスポーツに対する見方とはどのようなものなのかを理解することを目的とします。
・そのことを通して、現代のスポーツの問題を、各自が「社会的文脈」と関連づけてとらえることができる ようになることを、最終的な目的とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・スポーツ社会学は文字通り「社会学」の一つです。従って、社会学の基礎理論的科目をあらかじめ、また は並行して受講することで理解が深まると思います。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ社会学とは;歴史と研究状況	ISSA、日本スポーツ社会学会,スポーツの社会評論との違い
2	スポーツ・バーナウトの構造	バーナウト、ドロップアウト、トランスファー
3	役割期待のアンヴィバレンス	組織、地位、役割
4	組織構造とパフォーマンス	P機能、M機能、権限構造
5	小集団の凝集性	ソシオメトリー、FIRO-B
6	「日本的」スポーツ組織の構造	属性原理、業績原理、擬制家制度
7	スポーツ社会学の代表的理論(1)ブルデューとフランススポーツ社会学	スポーツの選択原理、階級、ハビトゥス
8	スポーツ社会学の代表的理論(2)スポーツの場の理論と日本のスポーツの変容	スポーツの場、状況の「反転」
9	スポーツ社会学の代表的理論(3)カルチュラル・スタディズと英国スポーツ社会学	権力、ジェンダー、階級、表象分析
10	スポーツ社会学の代表的理論(4)ナショナリズムとスポーツ	スペクタクル、モニュメント、象徴
11	スポーツ社会学の代表的理論(5)エリアス「文明化の過程」とスポーツ	近代文化、近代スポーツ、情動の制御
12	スポーツ社会学の代表的理論(6)グローバルスポーツの展開	スポーツ=メディアコンプレックス、スポーツ移民、スポーツ商品
13	日本社会の変容とスポーツ(1)スポーツの産業化とスポーツの社会的基盤の変化	第二臨調・行革、プラザ合意、スポーツビジネス
14	日本社会の変容とスポーツ(2)スポーツの場の反転	Jリーグ、サポーター、地域
15	まとめ:スポーツの新しい可能性と主体	新しい社会運動、スポーツNPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

可能な限り身近な問題から説明し、徐々にマクロなな構造的問題に敷衍していくこととしたい。社会評論ではなく、あくまで社会学であるので、個々の授業では前半は理論的枠組みの説明になる。従って理解を円滑にすすめるため、可能な限り当該領域の理論の予習をされることを望

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	1. 授業内容の理解度(概念の正しい理解が主となる)。2. 自身の問題設定の仕方。

ゲストスピーカーを招き授業時にレポートを課す場合がある。その場合は原則としてレポートを加点として取り扱う。その旨授業時に指示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会学理論を多用し、その応用的展開という性格を持つので、3回生以上の受講が望ましい。2回生が受講する場合は基礎的な社会学の概念や理論についての理解を独自にすすめておくこと。

教科書 / Textbooks

特に使わない。授業時のみレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・レジャー社会学	D. ジェリー、清野正義他編／道和書院／4-8105-4008-1／理論部分の予習用
変容する現代社会とスポーツ	日本スポーツ社会学会編／世界思想社／4-7907-0723-7／現代スポーツの変化について
近代ヨーロッパの探求8、スポーツ	有賀郁敏他著／ミネルヴァ書房／4-623-03509-3／近代スポーツ史、グローバリゼーションの理解に
新しい体育・スポーツ社会学をめざして	体育・スポーツ社会学研究会／道和書院／4-8105-2020-X／体育・スポーツ社会学の到達点を理解するために
スポーツ・権力・文化	ジョン・ハーグリーヴズ／不昧堂／4-8293-0267-4／カルチュラススタディズのスポーツ論
スポーツと文明化	エリアス、ダニング／法政大学出版／4-588-00492-1／エリアス学派のスポーツ論
現代に生きる遊牧民	アルベルト・メルッチ／岩波書店／4-00-000644-4／スポーツボランティアの可能性を考える

その他適宜授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jsss.jp/ （日本スポーツ社会学会HP）

その他 / Others

スポーツ文化論 (S)

13271

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2005年は、国連の「体育・スポーツ国際年」であった。スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目されている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツ概念を歴史的に辿どりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構（Institution）の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を社会的・構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを提示し、スポーツ諸科学との関係を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

多くの人が経験的に持つスポーツ観念を打ち破り、スポーツを文化として成り立たせている要素を摘出し、人間－スポーツ－社会の枠組みでスポーツの総体を把握する方法論の基礎を身につける。概念史、理論史を踏まえることによって、現代スポーツの諸問題にアポローチする方法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」、および入門科目「現代とスポーツ」を事前に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	序章：1節 「体験としてのスポーツ」からの脱却	意識・感覚言語とスポーツ用語　体験の対象化
第2週	序章：2節　グローバリゼーションとスポーツ	世界文化としてのスポーツ　スポーツのローカリズム 世界同時不況の中でなにが起こったか？
第3週	Ⅰ章　スポーツ概念の変遷	（1）スポーツの語源　(2)英語圏
第4週	（3）ドイツ語圏・フランス語圏、中国語圏と日本語圏	（4）スポーツ概念の特徴：行為本性説と目的価値的規定。(5)スポーツの外延と内包
第5週	Ⅱ章　スポーツ機構説の土台	(1)競技志向とプレイへの注目(2)ホイジンガ”ホモ・ルーデンス”、(3)カイヨワ”2極4領域”説
第6週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(1)ロイのカイヨワ批判　(2)スポーツの多層的把握
第7週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(3)機構化の指標：a)組織　b)技術　c）シンボル　d）教育
第8週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(4)社会機構としてのスポーツ　：a)プレイヤーノットコントロール（Edward）b)管轄機構の支配力　c)　機構の問題点
第9週	(5)社会状況としてのスポーツ	(6)ロイ「スポーツ機構」説の特徴と問題点
第10週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開	(1)佐伯「スポーツ体系説」
第11週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開と問題点	(2)多々納「スポーツ・シンボル」説　(3)構造－機能主義の問題点
第12週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(1)プレイ論の主観主義　（2）客観的実在としてのスポーツ
第13週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(3)草深「2層3領域」説の提示　(4)スポーツを『動かしている』力：機構の主導性
第14週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(5)ガッツマンの【近代化の指標】の再検討 (6)競技と交流：結果と過程
第15週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(7)応援と観賞 (8)批評　(9)マネッジメント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミにおけるスポーツ言説に惑わされずに、人間にとってスポーツとは何か、スポーツ現象を支える社会機構を見抜くように、リテラシー感覚を磨くこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	基礎的知識の理解、理論的展開の総合的把握、現実の論理的分析力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ･ゲームを体験的、固定的に理解せず、社会的影響によって変化･変質する文化構造を多角的に捉える観点に注視して欲しい。出欠は取らないが、出席しないと理解できないし、高回生配当科目の位置づけも明確にならない。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代、上下	伊藤高弘・草深直臣他編／青木書店／／
スポーツの概念	体育原理分科会編／不昧堂／／
スポーツ文化を学ぶために	スポーツ社会学会編／世界思想社／／
スポーツと文化帝国	A.ガッツマン／平凡社／／
近代スポーツ論	西山孝夫／世界思想社／／

その他、参考文献は各章毎にレジュメに明記する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

1） 解らないことは、できる限りその場で質問すること。
2） ﾚｼﾞｭﾒは区切りの良い章、または節ごとに、教室でのみ配布する。ﾚｼﾞｭﾒ配布は予告する。

スポーツメディア論（S）

15564

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

書籍だけで学習することが難しい科目なので，授業に毎回出席して，分からないところがあれば質問をして欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣／同文舘／ISBN4-495-86281-2／メディアイベント論に関わって参考にされたい。
越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画／ISBN4-921164-41-X C3075／「第2章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

精神分析論（S）

20308

担当者名 / Instructor　村本 詔司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

わが身に関わるこの上なく重要なことでありながら、自分でも気づいていないこと、そのありかを昔の人はあの世や霊界に想定し、現代人は無意識に求める。私は何に突き動かされて生きてきたのか？私は何に向かって生きているのか？わたしは誰か？私の心の中で何が起こっているのか？

こういった誰にとっても気になる問題に取り組む精神分析は、20世紀の最も代表的な心理療法の流れであるだけでなく、それなしには現代社会を理解できないとさえ言える思想、精神運動、社会文化現象でもある。

本講義では、種々の関連文献や関連サイトを紹介しながら、広い意味での精神分析（意識以外に無意識も認める深層心理学、力動心理学と称される）を代表する3人、フロイトとアードラーとユングの生涯と思想と後継者たちにおける展開を紹介する。最初の3日間の最後の時間は、深層心理学に関連する映画等（タイトルは未定だが、いずれにせよ、比較的見る機会の少ないもの）を鑑賞し、心理学的な映画の見方あるいは映画に示唆される人間理解を学ぶとともに、現代文化における心理学の役割や功罪を冷静に見つめるきっかけを提供したいと思う。できるだけ、DVD,CD、OHC、PCなどの視聴覚教材を駆使して授業内容の理解を促進したい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）教養としての精神分析を学ぶことを通じて、人間や社会文化、歴史についてのリテラシーを広め、深めること。
（2）基本的用語に英語で馴染む。
（3）心理臨床関係の仕事を志望するものにとってのある程度の準備。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定しないが、広く人文科学的教養を身につけられるような科目を意識して履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションとフロイトの精神分析（1）	ユダヤ、ウィーン、唯物論、ヒステリー、性の欲動と自我
第2回	フロイトの精神分析（2）	意識と無意識、快楽原則と現実原則、エディプス・コンプレックス、死の本能
第3回	フロイトの精神分析（3）	文化の解釈、フロイト以降の精神分析の展開
第4回	深層心理学と文化（1）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第3回の後半から始まる可能性がある。
第5回	アードラーの個性心理学（1）	劣等感と優越感、自分だけの理屈、思い込み、ライフスタイル、人生目標
第6回	アードラーの個性心理学（2）	共同体感情、ホーリズム
第7回	アードラーの個性心理学（3）	アードラー以降の展開：フランクルのロゴテラピー、人間性心理学、現存在分析
第8回	深層心理学と文化（2）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第7回の後半から始まる可能性がある。
第9回	ユングの分析心理学（1）	運命としてのキリスト教、内向性と外向性、コンプレックス
第10回	ユングの分析心理学（2）	元型（自我、ペルソナ、影、アニマとアニムス、自己）
第11回	ユングの分析心理学（3）	錬金術、シンクロニシティ、宗教
第12回	深層心理学と文化（3）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第11回の後半から始まる可能性がある。
第13回	思想史における無意識（1）	近代以前と近代における世界観・人間観、科学技術と啓蒙思想、ロマン主義、ゲーテとワーグナー
第14回	思想史における無意識（2） 現代社会における心理学	心理学人間、心理主義、ケアの管理
第15回	まとめと検証テスト	授業内容を振り返り、授業の理解度を問う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

オンライン百科事典Wikipedia（日本語版、できれば英語版も）の関連項目の説明に目を通しておくこと。ただし、記述の真実性に関しては慎重であること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	基準：授業内容の理解、授業への積極的姿勢、授業内容の創造的活用、独創性 予想されるテーマ： ①授業で取り扱った事柄について ②授業で鑑賞した映画の心理学的解釈あるいは映画が示唆する心理学的人間理解 ③授業の感想

①②③いずれも1201-1600字。

平常点評価	80 %	最後の時間（第15回）に実施する。授業全体の内容の理解を問う。 出席。コミュニケーションカードの提出。授業内容の理解、授業への積極的な取り組みなどを主な基準とする。積極的な姿勢と取り組み。毎回の終わりに授業内容理解のチェックを行い、正答をもって出席とみなす

まず非常に重要なことを述べておく。すなわち、レポート試験と平常点評価の両方を受けていることが単位認定の前提であり、たとえ平常点評価が非常に高いものであっても、レポート試験としてのレポートを提出していなければ、単位は認定されない。

毎回終了時に、その回の内容を理解しているかどうかをチェックする設問を行い、その答えを出席カードの裏に書いて提出してもらうことにする。正答をもって出席とする。

レポートのテーマは、現在考えている時点では、①授業で取り扱った心理学者、思想家、芸術家を一人選んで、考えるところ。②授業で提示し、リストに挙げた映画、文学作品、劇、音楽などをひとつ選んで、考えるところ（心理学的解釈、心理学への示唆など）。③授業の感想。①②③いずれも、サイズは1201-1600字。

受講生の数などが明らかになった時点で、授業の内容や予定、方法を若干変更する必要が生じた場合は、授業開始前までに前もって連絡する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に先立って、あらかじめWikipediaなどで授業に関連する項目を読んでおくと、より有利な条件で授業に臨むことができて、授業がよりわかりやすくなる。

集中講義で夏の暑い毎日、朝から夕方まで連続授業を行うので、注意の集中力をいかに持続させるかが課題でとなろう。休憩時間にしっかりと気分をリフレッシュして、新たな気持ちで授業に臨むこと。

授業内容に関する質問は、講師の個人ホームページ（http://www5d.biglobe.ne.jp/~shojimur/）のトップページからメールで行うことができる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガ　フロイト入門	／ブルーバックス／／OHCでも提示する
知的常識シリーズ　ユング	マギー・ハイド／心交社／／絶版状態。OHCで提示する
Adler for Beginners	Anne Hooper & Jeremy Holford／Writers and Readers Publishing, Inc.／／OHCでも提示する

特になし。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
援助者のためのフロイト入門	村本邦子／三学出版／／
フロイト著作集	フロイト／人文書院／／
ユング・コレクション	ユング／人文書院／／品切れ状態になっているものが何巻かある。
ファウスト　第一部・第二部	ゲーテ／岩波文庫、新潮文庫、中公文庫など／／
アドラーの生涯	エドワード・ホフマン／金子書房／4-7608-2139-2／

フロイト、アードラー、ユング関係で比較的廉価な書物がたくさん出回っており、ここにはあえて列挙しない。各自amazon.comなどで検索して、それぞれの著者の立場に注意しながら、目を通すことをお勧めする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Wikipedia（日本語版、英語版）の関連項目
日本精神分析協会http://www.jpas.jp/
日本精神分析学会http://www.seishinbunseki.jp/greeting.html
日本アドラー心理学会http://adler.cside.ne.jp/
アドラー心理学ネットワークhttp://homepage3.nifty.com/adlerian/
ユングネットhttp://www.asahi-net.or.jp/~we7n-hkt/jung.html
ゲーテ自然科学の集いhttp://www.cc.okayama-u.ac.jp/~ohtaro/goethe-natur/index.htm
日本ワーグナー協会http://www.wagner-jp.org/

その他 / Others

大衆表現論（S）

13291

担当者名 / Instructor　上柴 とおる

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

長年にわたる放送（ラジオ中心）＆音楽業界での現場体験を生かして（今も現役真最中！）、ラジオがこれまでに果たして来た役割、効用、おもしろさなどを皆さんに再認識してもらえるように経験を交えながら講義をし、そしてラジオを軸に発展を遂げた大衆音楽の流れやそれらを取り巻く産業の発達、新しい大衆文化の芽生え。。。と話を広げて参ります。時代的に言えば終戦（1945年）後から1980年代～1990年代に至る頃までの話が中心となります。そんな中から現代のラジオ媒体や音楽シーンの現状も改めて見えて来るでしょう。はっきり言っていわゆる大学の講座らしからぬ授業です。変わったもの（？）を好む人は是非受講しましょう！私自身の経験に基づく観点から物事を捉えます（ここでしか聞けない話も多い！）。時には映像や楽曲音源なども（レアもの!?も）使用します。将来、マスコミ関連の仕事を目指す皆さんにとっても何らかの参考になるはずです。

●到達目標

到達目標 / Attainment Objectives

戦後（1945年～）大衆の娯楽として発展して行ったラジオの影響力の大きさ、そしてどのような文化を育み現在に至ったのか、またラジオと共に歩んだ大衆音楽のスターたちのさまざまな自己表現のスタイルを生み出した時代の空気感を認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション～講座概要紹介（＆ラジオ、音楽業界の近況など）、自己紹介	
2	‘ラジオ・ネーム’とはなにか？～音声メディアの効用を考える	ハンドル・ネーム、メール、ファックス、ハガキ、リクエスト、メッセージ
3	ラジオの歴史と世相①～戦後洋楽史（1950年代～1960年代）	AMラジオ、ヒット・パレード、本邦初のカウントダウン番組、映画音楽
4	ラジオの歴史と世相②～団塊世代が先鞭をつけた深夜放送ブーム（1960年代後期～1980年代）	高度成長経済時代、大阪万博、受験戦争激化、ユース・カルチュア、オールナイト・ニッポン、ヤング・タウン
5	ラジオの歴史と世相③～FMラジオの時代（1970年代～1990年代）	ステレオ放送、エア・チェック、ウォークマン、FM専門誌、デジタル時代
6	ラジオの歴史と世相④～今年開局20周年、関西地区No.1の座をキープし続ける<FM802>の成功過程を開局前夜から追って検証	イメージ（広報）戦略、物量作戦（ステッカー、グッズ）、クラス・メディア、ヘヴィー・ローテーション、J-POP
7	世界のROCKシーンにおける「武道館」の存在意義	ビートルズ、チープ・トリック、ボブ・ディラン、大阪フェスティバル・ホール閉鎖
8	外国語楽曲に日本語の題名は必要か!?～タイトルの訴求力	ダニエル・パウター「バッド・デイズ～ついてない日の応援歌」、アース・ウィンド＆ファイアー「宇宙のファンタジー」、バングルス「胸いっぱいの愛」、コールドプレイ「美しき生命」。。。
9	ミュージシャンの主張①～ボブ・ゲルドフが全世界に向けて訴えたチャリティー・イヴェント「ライヴ・エイド」の歴史的な意義	エチオピア難民救済、バンド・エイド、ウィ・アー・ザ・ワールド、フジ・テレビ、世界同時中継、ライヴ・エイト、ライヴ・アース
10	ミュージシャンの主張②～米ロック・ミュージシャンと政治	オバマ、ブッシュ、イラク戦争、9.11、ブルース・スプリングスティーン、ニール・ヤング、ディクシー・チックス。。。
11	ミュージシャンの主張③～かつて封印され葬り去られた楽曲	放送禁止、発売禁止、忌野清志郎、タイマーズ、ローリング・ストーンズ、ザ・ドアーズ。。。
12	ミュージシャンの主張④～山下達郎＆竹内まりやの哲学（1970年代からのJ-POPの流れを検証）	ニュー・ミュージック、ユーミン、サザンオールスターズ、小室哲哉、大阪フェスティバル・ホール。。。
13	日本独自の大衆音楽芸能①～ジャニーズ王国の興隆（1960年代~2000年代）	嵐、SMAP、Kinki-kids、NEWS、KAT-TUN、TOKIO、Hey!Say!Jump、V6、関ジャニ∞、少年隊、光ゲンジ、J.J.スペシャル、たのきんトリオ、郷ひろみ、フォー・リーヴス。。。
14	日本独自の大衆音楽芸能②～ヴィジュアル系のルーツと海外進出（ヴェルサイユ、世界デビュー決定）	X JAPAN、Shazna（Izam）、Malice Mizer、Versailles、You-Tube、Megamasso、KISS、Glam Rock、New Romantic、L.A.Metal、宝塚、歌舞伎。。。
15	日本から世界へ～「スキヤキ」（坂本九：1963年全米No.1）の再来は永遠のテーマか？	上を向いて歩こう、YMO、ピンク・レディー、ラウドネス、松田聖子、倖田來未、宇多田ヒカル。。。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容への興味・関心・認識度

毎回授業でレジュメを配布しますがそれだけで試験をクリアするのは無理です(試験の際は一切持ち込み禁止です)。可能な限り授業に出席をして自分はどういう事柄に関心を持ったのか(あるいはどんな事柄が目から鱗だったのか等)、日頃から留意しておくことが定期試験における課題への回答につながるでしょう(学外で販売されている講義ノートの類は全く役に立ちません!)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ラジオは脳にきく	板倉徹／東洋経済新報社／ISBN4-492-04267-9／
亀淵昭信のオールナイト・ニッポン35年目のリクエスト	亀淵昭信／白泉社／ISBN4-592-75012-8／
熱狂の仕掛け人	湯川れい子／小学館／ISBN4-09-387434-4／
放送禁止歌	森達也／光文社／INBN4-334-78225-6／
別冊宝島1499号「流行り歌に隠されたタブー事件史」	別冊宝島編集部／宝島社／ISBN978-4-7966-6178-2／
盗作コピペ病	コピー＆ペースト研究会／茜新社／ISBN978-4-86349-020-8／
『at武道館』をつくった男	和久井光司／アルテスパブリッシング／ISBN978-4-903951-09-6 C0073 ／
季刊「上方芸能」143号特集 '効く聴くラジオ—おとな文化の元気'	上柴とおる他／上方芸能／ISSN-0910-5506／
季刊「上方芸能」162号特集 '団塊の世代と芸能文化'	上柴とおる他／上方芸能／ISSN-0910-5506／

授業への興味・関心を高めるための書籍・ムック・雑誌です。
初回の授業で配布するレジュメに改めて記載しておきます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

多文化共生論（S） § 多文化共生論（I）

15496

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）多文化性について理解する。
2）自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する
　方法を理解する。
3）多文化共生問題の本質を理解する。
4）問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5）具体的に提案し活動していく力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入：映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出（以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する）
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？ Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？ Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験（60点）
平常点評価	40 %	レポート4回（40点） ＋その他の感想レポートを総合評価する

ただし、受講生数によっては、最終講義試験をやめて、レポート4回と最終レポートによる総合評価へと変更する可能性もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。な ぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

多文化コミュニケーション (S) § 多文化コミュニケーション論 (S)

20364

担当者名 / Instructor　森田 ゆり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

多様性(diversity)と人権と理解は、21世紀のグローバル社会が共有する最重要理念であるのみならず、個別の企業、行政、民間におけるマネジメントと人材育成に不可欠な研修テーマである。
ここで言う多様性とは、人種・民族や地域性の違いにとどまらず、ジェンダーの違い、性的指向の違い、障害の違い、世代文化の違いなどをも含む広い意味での文化の多様性を指す。
人権を尊重し、文化の多様性を尊重しようと呼びかけるのは簡単だが、それを実践することはたやすいことではない。個性の尊重を掲げながら、個性を抑圧する教育が行われている現実を見ることはしばしばである。一般に社会は放っておくと、異質の文化を拒否、排除しようという力学が動いてしまうようだ。異質の文化や新しい価値観を受容するためには、社会は意識的な努力を必要とする。
文化の多様性を尊重する社会システムは、適切なルールの設定と同時に、互いを理解し合おうとする積極的なコミュニケーションを必要とする。
多様性トレーニングとは、そのための人権認識と知識とコミュニケーションスキルを提供するものである。本コースは、その多様性トレーニングを参加型の手法を駆使して職場や学校で実施することのできるトレーナー／ファシリテーターを養成する。

到達目標 / Attainment Objectives

目的goal:参加型の多様性・人権研修の理論とスキルを持つ多様性トレーナー／ファシリテーターを養成する。
目標objectives:上記の目的のために、参加者が以下のことを学ぶことを目標とする。
1. 参加型研修ファシリテーターとして必要な理論と方法を学ぶ。
2. 多様性/人権啓発・参加型研修の具体的方法を学ぶ。
3. ファシリテーターに必要な実践上のスキルを学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~3	イントロダクション 研修の目的と目標 約束事の確認p.67 参加者の自己紹介アイスブレーカー:わたしのイニシャル＋他人紹介 テキストの使い方 採点基準の説明 参加型学習の理論 フレームワークの重要性:多様性受容力の三つの輪p.42～ 参加型体験学習の理論 ファシリテーターとトレーナーp.40 参加型研修の4要素:目的構成　行動配慮p.49～	宿題 「エンパワメントと人権」p.1～44とp.175～197を読んでくる。 「多様性トレーニングガイド」はじめにi～xiip.3～23を読んでくる。
4～6	チェックイン約束事確認、きのう一日のことで、気のついたこと、聞きたいこと、 アイスブレーカーMY　Name アイスブレーカーとは　p.79 アイスブレーカーの条件 ファシリテーターに求められる7条件と7つ道具　p.65 多様性と人権の理論 多様性・多文化共生とは何か　p3 差別する側　vs　差別される側の図式を超えて エンパワメントと人権	宿題　参加型研修の4要素とその構成を覚える
7～9	チェックイン約束事確認、今迄で、気のついたこと、聞きたいこと、話したいこと、 参加型研修の進め方のステップ　p51 「有名人クイズ」 「読み書きの困難」 「マットの話」のアクティビティーをしてファシリテーションの技術を習得する ファシリテーションのモデリング:基本ステップと7つ道具の使用を習得する。	宿題　明日の小テストの準備

10～12	小テスト アイスブレーカーわたしに縁のある動物p.86 知識の研修 多文化リテラシー　p.181~186 アクティビティー　「プレクイズ」「モザイクゲーム」など スキルの研修 コミュニケーションとノイズp.223 コミュニケーションスキル：人の話を聴く、アサーティブネス、対立の仲介者	
13～15	総まとめの演習 アクティビティー「スダチゲームⅠ」から3日間の復習 多様性社会に求められるリーダーシップは雁行型p.260～264 クロージング 目的はどの程度、達成されたかのふりかえり コメントシート 学びのフォローをいつ、どこでするか 学んだことをどこでどう生かすか 感謝したい人	提出レポートについての説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業の中で説明する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストの「エンパワメントと人権：こころの力のみなもとへ」（森田ゆり著　解放出版社1998年）を受講前に読んでおく。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「多様性トレーニング・ガイド：人権啓発参加型学習の理論と実践」	森田ゆり著／解放出版社／ISBN4－7592－2327－4／2000年
「エンパワメントと人権：こころの力のみなもとへ」	森田ゆり著／解放出版社／ISBN4－7592－6040－4／1998年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.geocities.jp/empowerment9center/　エンパワメント・センター

その他 / Others

伝統芸能論（S）

15559

担当者名 / Instructor　相原 進

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本には、さまざまな伝統芸能があります。この講義では、いくつかの伝統芸能を取り上げ、その歴史や特徴、個々の作品について学びます。そして、伝統芸能が時代や社会とどのように関わってきたのかということや、伝統芸能の現状、今日の日本文化への影響についても学びます。
講義においては、映像、絵画、写真などの資料を用います。また、教養や趣味のひとつとして伝統芸能を楽しめるきっかけになるように、鑑賞方法の案内も行います。

到達目標 / Attainment Objectives

①伝統芸能の歴史や特色について知る。
②各伝統芸能における代表的な作者、作品、演者などの基礎的な知識を得る。
③芸能と、時代、社会、人間とのかかわりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

身体表現論S：伝統芸能論の講義について、芸能と社会、文化、身体表現とを関連させて、より深く理解するための知見を得られます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入	自己紹介／成績評価方法／各回の講義の概要
2	「伝統芸能」の概念と今日の状況	伝統芸能の概念／伝統芸能の分類／伝統芸能をめぐる諸制度／産業としての伝統芸能
3	「伝統芸能」以前	個別の伝統芸能を語る上で必要な歴史的背景について／神事や仏教と芸能との関わり
4	落語の歴史と特色	
5	落語の演目	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について／メディアと落語
6	能の特色	（この回はもともと「能の歴史と特色」というテーマでしたが、「能の特色」に絞り込んだ講義内容としました）
7	能の歴史と作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について（この回はもともと「能の作品」というテーマでしたが、第6回講義予定の歴史をこの回にまわし、能の歴史と作品について解説する回としました）
8	狂言の歴史と特色	
9	狂言の作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について／今日における他の芸能との共演
10	文楽の歴史と特色	
11	文楽の作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について
12	歌舞伎の歴史と特色	
13	歌舞伎の作品	作品の鑑賞／作品についての解説／表現について／東西の歌舞伎の違い
14	舞踊と音楽	舞踊と音楽の歴史／作品の鑑賞
15	伝統芸能のこれから／質疑応答	講義のまとめ／講義・試験に関する質問の受付

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の理解度と、講義から各自が修得した知見を問う。
平常点評価	30 %	第7回講義の終了時点でレポートを課す。講義で取り上げた伝統芸能のうちから1つを鑑賞し、各自が学んだことや感じたことについて、講義で得た知見を踏まえた上で記述する。コミュニケーションペーパーの提出を促す場合もあるが、それによって点数の増減は発生しない。また、出席点も加味しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テレビ等どんな形でも良いので、講義で扱う芸能を一度鑑賞してみて下さい。講義を通じて映像や知識として伝統芸能に触れるのと、実際に現物を見るのとでは、印象が全く異なることも多々あります。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本芸能史1	藝能史研究会編／法政大学出版会／1321-25001-7710／全7巻あります。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.genpoo.org/dentou/

ネット上から過去のレジュメをダウンロードできるようにしています。

その他 / Others

毎回レジュメを配布します。そこで参考書なども紹介します。

日常性の社会学 (S)

13332

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日常生活の諸現象のなかから「逸脱」と「コントロール」に注目する。この二つの作用を通じて、日常生活の秩序を構成している社会的メカニズムについて考える。こうした主題に関わる主要な学説を紹介した上で、さらに具体的な事例として、暴力とホワイトカラー犯罪を取り上げる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 逸脱・犯罪についての代表的な社会学的な考え方を習得することができる。
2. 事件などをメディアの報道を自明視せずに、科学的視点から批判的に読み解く能力をつけることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定科目はないが、基本的な社会学的視点を学んでおくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の目的と概要:逸脱を主題とする理由	日常世界・逸脱・コントロール
2	逸脱に対する考え方:3つの視点	相互作用論・行為者論・構造論
3	シカゴ学派の視点	社会解体・人間生態学・都市的世界
4	差異的接触論と学習論の視点	サザランド・プロの窃盗犯・ホワイトカラー犯罪・プロセス
5	社会的コントロール論の視点	スラッシャー・ショウ・ハーシ・社会的絆
6	アノミー論の視点	デュルケーム・マートン・構造的緊張
7	ラベリング論の視点	ベッカー・予言の自己成就・逸脱のエスカレート
8	構築主義の視点	逸脱の社会的定義・クレイム・レトリック
9	合理的選択理論の視点	逸脱者からみた合理性・コントロールの合理的計算・制度設計
10	ライフコース論の視点	サンプソン・転機・キャリア
11	総合理論の視点	コントロールバランス理論・セルフコントロール理論
12	逸脱の事例:街頭の逸脱	コミュニテイ・暴力・監視
13	逸脱の事例:ホワイトカラー犯罪	企業体・組織・専門職の逸脱
14	逸脱とコントロールの新たな理論	社会的世界論・メカニズム・システム
15	まとめ:社会秩序のあり方	制度と社会政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

犯罪報道と公式統計を批判的に読む態度を実践する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	犯罪・逸脱・コントロールなどの基本的な概念や考え方についての理解度を試し、現実の問題への応用能力をどれだけマスターしているのかによって評価する。

ひとつのテーマが終わるたびに、理解の程度と質問事項を確認するための質問紙を配布する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に紹介した文献や資料は図書館を利用して自習することが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
逸脱とコントロールの社会学 大学生協書籍部で購入可能	宝月　誠／有斐閣／4-641-12227-x／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会的コントロールの現在	宝月誠・進藤雄三／世界思想社　／4-7907-1108-0／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間コミュニケーション論 (S)

15536

担当者名 / Instructor　団 士郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。一方、得意だと思っている人は、自分のコミュニケーション作法を振り返ってみる機会がありません。上手くやれていると思っているものを、見つめ直す必要を感じないからです。その結果、若くして身についた技術のまま、二十代、三十代を過ごしてしまいます。これが要注意点であることに議論は不要でしょう。

また、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも少し、焦点を当てます。

対人コミュニケーションにおいては「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好なコミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達の手段技術)の両者がうまく備わってこそです。この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。

毎年説明しているように、教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一歩前進です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
(1)	イントロダクション　授業の進め方　第一回の実習　ミニレポート(記述・提出)	
(2)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(3)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(4)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(5)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(6)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(7)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(8)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(9)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(10)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(11)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(12)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(13)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(14)	今日の課題実習(屋外実習)　今日のフィードバック(記述・提出)	
(15)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上（10回）出席できそうにない者は登録しないでください。基本的に毎週フィードバックシートの提出を課します。遅刻してミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。2008年度は登録して出席できない四回生が目立ちました。当然単位は取れません。けじめのある受講登録をしてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の練習問題	団士郎／ホンブロックKK／／マンガです。主に家族のコミュニケーションに焦点をあてたものです。
不登校の解法ー家族のシステムとは何かー	団士郎／文春新書／／読みやすい新書です。家族システム論の視点から、親子のコミュニケーションをテーマに書いています。
家族力×相談力	団士郎／文春新書／／家族関係全般について、様々な事例を書いています。
家族の練習問題（2）	団士郎／ホンブロック／／第二巻です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間発達論（S）

15533

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「人間らしい発達とは何か」という問いをメインテーマとしながら，人間の生涯にわたる発達のプロセスを発達の時期ごとに概観する。その際、人格の発達に焦点を当てるが，それと同時に，認識や感情といった発達の諸相についても、可能な範囲で触れることとしたい。
それに加えて，人間発達に関わる近年の理論的発展についても触れる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

①人間の発達に関して，基本的な知識を得ること。
②人間発達に関わる知識を，福祉や教育の観点と結びつけて理解を深めること
③これらを基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の進め方についての説明」および「発達とは何か」	機能連関，発達権
第2回	人間発達と進化	進化，遺伝と環境，人間性
第3回	胎生期の発達的特徴	受精，着床，胎芽期，胎児期
第4回	乳児期前半の発達的特徴	周産期，新生児期，原始反射，顔の知覚，姿勢
第5回	乳児期後半の発達的特徴	共同注意，三項関係，歩行
第6回	幼児期前半の発達的特徴	言葉の始まり，表象，自我，第一反抗期
第7回	幼児期後半の発達的特徴	認知世界の広がり，素朴理論，自己主張と自己抑制
第8回	児童期前半の発達的特徴	学校への移行，勤勉性，具体的操作
第9回	児童期後半の発達的特徴	ギャング・エイジ，9，10歳の発達の節，仲間関係と自己意識
第10回	青年期の発達的特徴	性的成熟，第二反抗期，アイデンティティ，自立と依存
第11回	成人期の発達的特徴	労働，結婚，親になること
第12回	老年期の発達的特徴	子どもの巣立ち，関係性の変容，衰退，英知
第13回	人間発達理解の新しい展開①：発達の可塑性	経験の意味，進化生物学，遅れからの回復，
第14回	人間発達理解の新しい展開②：知的発達を捉え直す	IQ，経験知，分析的知能，実践的知能
第15回	人間発達理解の新しい展開③：英知に向かう発達を捉える	英知，人生回顧，知識，知能，越境，意志

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	学習内容に関する基本的な理解があること，ならびに，そうした理解に基づく妥当な考察ができること。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代心理学入門2発達心理学	無藤隆 他／岩波書店／4-00-003922-9／講義の一部で言及する
生涯発達のダイナミズム：知の多様性 生き方の可塑性	鈴木忠／東京大学出版会／9784130133012／講義の一部で言及する
家族の関わりから考える生涯発達心理学	尾形和男 他／北大路書房／4-7628-2520-4／理解を深めるために
ライフサイクル、その完結	E. H. エリクソン 他／みすず書房／4-6220-3967-2／理解を深めるために
1歳児の発達診断入門	田中昌人／大月書店／4-2724-0361-3 ／理解を深めるために

上記以外にも，参考となる文献は，随時授業で紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間論 (S)

13276

担当者名 / Instructor　佐藤 嘉一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間の社会との「かかわり」の歴史を「民話」や「小説」を題材にして社会学的に論じます。伝統社会に生きる「あかずきんちゃん」、モダンソサエティの到来とロビンソン・クルーソー、変貌する大都会ペテルブルグに生きるアルカイジィー青年などの生き方にみる「人格形成と社会構造」の問題を論じます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学や経済学、精神分析や言語倫理などの学習をとおして「社会の動きと自己アイデンティティの形成」に関するものの見方の習得をめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

一回生科目「基礎社会学」、同「人間と文化」、二回生科目「文化理論」、同「現代文化」の履修を薦めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会とアイデンティティ」問題を「物語」によって語るわけ	アウグスチヌス『告白』、ルソー『告白』、自己論、ポスト・モダンという時代！？　わたくし語りの歴史
第2回	「わたくし」という現象―宮沢賢治の詩を読む:「自分をさがす」とはどのようなことかを考えてみる	「わたくし」という現象、一人称単数で語る、現実は多元的である、現象学的社会学
第3回	「あかずきんちゃん」にみるアイデンティティと社会:民話の世界から「むら社会」(伝統的共同社会)に生きる	あかずきんちゃん、共同体、口承、構造優位、むらともり、民話
第4回	「恩」の構造:日本のプレモダンの共同社会を生きる「伝統的パースナリティ」の特徴を「恩を返すはなし」	「契約における非契約的要素の問題」、「読み直す」ということ
第5回	グリム童話「蛙の王様」と「鶴の恩返し」ー物語にみるヨーロッパの「プレモダン」と日本の「プレモダン」	グリム童話、日本昔話、内発・能動と外発・受動、象徴動物―蛙と鶴・亀
第6回	『ロビンソン・クルーソー』におけるアイデンティティと社会―社会科学者や社会学者によるこの物語の読み方	一人称単数「わたし」の視点、構造の視点、理解社会学の行為の視点、経済的カテゴリー、モダンの理念型
第7回	夏目漱石の『ロビンソン・クルーソー』論ーイギリス留学を体験した漱石の目から見た18世紀のイギリス社会	ロビンソン型人間類型と漱石型人間類型、内発・能動、外発・受動　漱石のイギリス体験、近代と日本
第8回	「わたくし語り」とドストエフスキー:小説『未成年』をよむ―ドストエフスキーの物語世界を「わたくし語り」として読む	「盤根錯節」問題、近代とロシア、ドストエフスキーの創作ノート、「地下室の主人公」、自然的態度の現象学
第9回	「わたくし語り」とドストイフスキー(続き):「わたくし語り」のコンポジション:伝達・表現・叙述の3つ	直接世界、他者のあらわれ、私の身体のあらわれ、私のこころのあらわれ、「いま」と「ここ」
第10回	「わたくし語り」とドストエフスキー(続き):今ここへ「内向する」語りと今ここを「超える」語り	意味連関のモザイク模様、類型化される意味世界、類型化される時間、類型化される空間、類型化される人格
第11回	「わたくし語りとドストエフスキー(結び):「わたし語り」の形式によってなにが、どのように物語られるのか	われわれ関係、汝が関係した私、語る私、「内世界的間主観性」、ポストモダンの自己アイデンティティ問題
第12回	「からだ・こころ・他者」について―「社会とアイデンティティの問題」をめぐる若干の基本カテゴリーについて	肖像画を描く画家の目、文学者の目としての「異化」の方法、日常生活のリズムをとめる、サルトル
第13回	サルトルの「からだ・こころ・他者」を読み直すー『存在と無』からだの4つの位相論	状況の中のからだ、役割演技、キャフェイのボーイ、眼差しの地獄、サデイズムとマゾヒズム
第14回	自己論への道程―ヤヌス的課題を背負って:物語論にみられる「社会とアイデンティティ」問題の三つの視座:	社会科学・社会学・文学の間、現場に居合わせる、社会構造と個人、ドロシー・エメット
第15回	まとめ　物語における社会とアイデンティティ論の射程	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業全体の理解度や基礎概念の学習度などを主に考査する
平常点評価	20 %	授業で学んだ「社会とアイデンティティ」問題を各自が創造的に再構築する作業として位置づける

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レポートを書くことは問題を整理し、理解を早めるばかりでなく、自分の新しい考え方に気づく自己発見の場となります。必ずレポートを書くようにしましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
物語のなかの社会とアイデンティティ	佐藤　嘉一／晃洋書房／4-7710-1525-2／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
未成年	ドストエフスキー／岩波文庫／／授業の理解を深めるために
春と修羅	宮沢賢治／岩波文庫／／授業の理解を深めるために
ロビンソン・クルーソー	ダニエル・デフォー／岩波文庫／／授業の理解を深めるために
グリム童話集1	グリム／岩波文庫／4-00-324131-2／授業の理解を深めるために

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

15527

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

男女の「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、身の回りの様々な場面をジェンダー状況という視点で見直すことの出来る力量を身につけること。同時に、世界各地についてもその視点を生かした理解の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家論などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオ	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当て
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ－日本社会のジェンダー状況－なぜ前進しないのか－	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。

小レポートを数回行う、理解度の確認などコミュニケーション・ペーパーとして活用する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の進捗状況によって、講義日程と内容に変更を加えることがある。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献・資料等は、講義において適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義において適宜紹介する。

その他 / Others

私語・飲食は慎んでほしい。

比較宗教論（S）

13358

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間の普遍的行為（生き、他者を愛し、死を迎える）への対処法を、比較宗教の視点で通文化的に考察し、個々の価値を信じる他者を理解できる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間はだれでも、有為転変するこの世間で、軽蔑をうけ不安のなかで生きるよりも、誇りと自信をもって生きるほうが、よほど快適である。そのための「知恵」は、人類が長期にかけて蓄積してきているので、われわれはそれを古典から容易に入手できる。世界の宗教・思想が定式化した知恵を素材とし、自分の生き方を形成していけば、個として「現在を生きる力」を構築することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	文化圏とエートス、セクト、支配の諸類型、3つの徳性（合理・論理・倫理性）
2	中国・東アジア文化圏の宗教（1）：氏族と「個」の葛藤（1）	「論語」の世界：孔子「仁＝博愛」の発見、魯迅「阿Q正伝」、師弟関係、葬儀
3	中国・東アジア文化圏の宗教（2）：氏族と「個」の葛藤（2）	「孟子」の世界：4端説、孝道にみる「古代的心性」、宗法と国法
4	中国・東アジア文化圏の宗教（3）：アジア的知識人と隠遁	「老子」「荘子」の世界：玄牝、無為自然、混沌・幽玄、「胡蝶の夢」、逃げるが勝ち
5	中国・東アジア文化圏の宗教（4）:血の連帯、「社会」と「個人」の欠如	◎VTR－1『土楼の生活』＋ 小ペイパー（communication paper）
6	インド・ヒンドゥー文化圏（1）：民族移動と哲学創成	ウパニシャッドの世界：アーリア人（「リグ・ヴェーダ賛歌」）、アートマンとブラフマン、バラモン
7	インド・ヒンドゥー文化圏（2）：民族移動と言葉の誕生（印欧語族とノストラ祖語）	◎VTR－2『言語の起源』（印欧語族を中心に）＋ 小ペイパー
8	インド・ヒンドゥー文化圏（3）：ダルマ・アルタ・カーマ	「マヌの法典」の世界：人生の5周期、euthanasia、疎林と錬行、マヌ法典の女性
9	インド・ヒンドゥー文化圏（4）：出家とニルバーナ（1）	ブディズムの世界：釈迦「苦の発見」、諸学習合、密林と輪廻転生、日本仏教
10	インド・ヒンドゥー文化圏（5）：出家とニルバーナ（2）	◎VTR－3『ブッダの生涯』（バラモン、ヒンドゥー教との相違）＋ 小ペイパー
11	ユダヤ・キリスト教文化圏（1）：部族宗教の論理	「旧約聖書」（映画「ユダ・ベンハー」））の世界：モーセ、十戒、「罪の発見」（Ⅰ）
12	ユダヤ・キリスト教文化圏（2）：「世界宗教」の論理（1）	「新約聖書」（映画「パッション」）の世界：ユダヤ教の隘路とキリスト教、「罪の発見」（Ⅱ）
13	ユダヤ・キリスト教文化圏（3）：「世界宗教」の論理（2）	「新約聖書」（映画「オリバー・ツイスト」）の世界：キリスト教の隘路、ユダヤ問題（ディアスポラ）
14	ユダヤ・キリスト教文化圏（4）：「世界宗教」の論理（3）	◎VTR－4『イエスの生涯』（キリスト教の起源）＋ 小ペイパー
15	ギリシア・ローマ文化圏：ヨーロッパ文明の基礎 講義の結論／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	「イーリアス」「オデュセイア」「アエネーイス」の世界：古代人の生と死、来世・葬儀・墓参 ◎ギリシアJPG画像

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。

授業進行上の理由・その他の理由で、講義スケジュールやVTR視聴日に変更が生じるときは、事前に教室でアナウンスします。必要に応じて出席を3～4回とり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業スケジュール」に挙げた映画・小説・エセー・古典を、下記「参考書」に挙げた本を、1つでもみておくことを勧めます。国際社会で活躍するとき、共通の話題にできるでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
思想をどうとらえるか―比較思想の道標―	中村元／東京書籍／4-487-72157-1／世界思想の核心をわかりやすく解読
孔子・老子・釈迦「三聖対談」	諸橋轍次／講談社学術文庫／4-06-158574-6／東アジアの比較宗教を論じた名著
ヨーガ禅道話	佐保田鶴治／人文書院／4-409-41008-3／仏教・ヒンドゥー思想の血肉化の一典型を示す著書
福音書	塚本虎治訳／岩波文庫／4-00-338031-2／イエス・キリストの行動記録（生涯がわかる）
古代ローマ人と死	K. ホプキンス／晃洋書房／4-7710-0896-5／ローマ人の生活・死・葬儀・墓地墓石
古代ギリシア人と死	R. ガーランド／晃洋書房／978-4-7710-1998-0／アテナイ人の生活・死・葬儀・墓地墓石

その他は「授業スケジュール」に挙げた映画、小説、エセー、古典。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

用語、その概念などは「世界宗教大事典」で確認するとよい（yahoo, googleによるキーワード検索は、あくまで第１次情報とし、「辞書・辞典類」に依拠すること）。

その他 / Others

◎VTR・CDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布する。②残りは、次週まで（１週間）以学館レジュメboxにおかれる。

比較スポーツ論 (S)

15528

担当者名 / Instructor　金井 淳二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『スポーツに込められた社会の思い = いかにしてスポーツは生み出され展開されてきたか』

様々な国で様々に展開されるスポーツは、それぞれかってに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的背景とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業の中で、まず自分なりの問題意識を発見することが必要です。そして、比較を通じてどう違うかだけでなくなぜ違うのかが考えられるようになることが必要です。最終的には「スポーツとはこういうものだ」といった自分なりのスポーツ観を明確にもてるようになることをめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

産業社会学部に開講されているスポーツ関連専門科目をできるだけ多く受講し、それらと関連づけて学習してほしい。少なくとも教養科目のスポーツ方法論やスポーツと現代社会、およびスポーツの歴史と発展を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	比較スポーツの視角	脱工業化社会／文化の比較法／比較の枠組み
第2回	近代オリンピックスポーツ比較の課題	巨大化／商業化／アマチュアリズム／プロ化
第3回	スポーツの母国イギリス(その1)	市民革命とブルジョアジー／資本主義と民衆スポーツ
第4回	スポーツの母国イギリス(その2)	近代スポーツの階級性／スポーツの私事性と公共性
第5回	スポーツの母国イギリス(その3)	大衆化と高度化の矛盾／近代オリンピック
第6回	スポーツの母国イギリス(まとめ)	
第7回	スポーツの王国アメリカ(その1)	植民地時代／プロテスタンティズム
第8回	スポーツの王国アメリカ(その2)	南北戦争／過剰労働力／能力主義
第9回	スポーツの王国アメリカ(その3)	アメリカ的スポーツ／ローカリズムとナショナリズム／アメリカ主義
第10回	スポーツの王国アメリカ(まとめ)	
第11回	日本的スポーツ(その1)	英米スポーツの日本的受容／学校教育とスポーツ／
第12回	日本的スポーツ(その2)	農耕祭祀／封建権力／武術と武道
第13回	日本的スポーツ(その3)	スポーツにおける日本的なもの／日本的スポーツの国際化
第14回	日本的スポーツ(まとめ)	
第15回	グローバリゼーションの中のスポーツ	歴史的スポーツ／法則性と蓋然性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

スポーツ学は学際的であるので、授業の中で関係があるなと思ったらスポーツ関係の書籍だけでなく、歴史・経済・文化その他の書籍を幅広く読み、理解を深めてほしい。また、新聞のスポーツ欄ばかりでなく政治や経済・文化欄にも常日頃から目を向けておいてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度および独自な考察視点の有無を重視する。

定期試験を必要十分条件とするが、クラス規模によっては毎回授業内容についてのコメントを提出してもらうことがある。その場合は記述内容を必要十分条件プラスアルファとして評価に反映させる。このことは授業の初期に説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教室でレジメ・資料を配布する。とくにテキストとするものは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている“スポーツ文化シリーズ”のいくつかを読んで欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

比較文化論（S）

15478

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「恥の比較民族論−日本文化論とネパール先住民族の文化論−」

近年、日常の様々な場面で「恥じ知らず」な行為が目につく、日本人は「恥の感覚」を失った、といった論調が新聞等で目立つようになった。そして、日本人は文化人類学者によって「恥の文化」を持つとされたが一体どうしてしまったのか、とか、「恥の文化」の再生は今日の日本の課題である、といった議論がしばしばそれらに続く。確かに人間関係に関わる「恥」は社会にとって重要な問題である。だが、日本文化は「恥の文化」と言えるのか、そもそも「恥」とは何か、という検討は、十分になされているとは言い難い。

一方「恥の文化」を持つのは日本人だけではない。ネパールやインドにも「恥の民族」とされる人びとがおり、それらの文化も今日大きく変容を遂げつつある、とされる。

本講義では、「恥の文化」を中心に日本文化論、ネパールの民族文化論を取り上げ、その比較検討を行いながら「恥の民族論」の根底を問い直していく。また、その他の「恥」に関わる議論も幅広く取り上げながら、「恥」の現代性や民族文化論にとっての「恥」について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・文化を比較することの問題と可能性を理解する。
・日本文化論やネパール社会論の基本的知識を身につける。
・個別文化の理解や記述といった民族誌的な課題を理解する。
・文化人類学の理論と倫理との関わりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、「恥」の文化について論じながら、文化人類学における国民性研究、文化相対主義、権力・イデオロギー論、近代論といった理論的立場に焦点を当てる。文化人類学や文化研究に馴染みのない学生には、あらかじめ「文化人類学入門」、「文化人類学S」、「エスニシティ論」を履修しておくことを勧めたい。また、本講義の履修後でも、それらの受講により、文化人類学の広範な議論を俯瞰し、そのなかに本講義を位置づけることが可能になる。履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「恥」をめぐる今日の課題	恥、現代社会、日本、ネパール
2	「日本文化論」の祖型を考える1	マルコ・ポーロ、ジャポニスム
3	「日本文化論」の祖型を考える2	100年前の日本
4	国民性研究とその問題	国民性、対称型
5	文化相対主義とその問題	文化相対主義、サバルタン
6	「文化の型」とその問題	ディオニソス、アポロン
7	日本文化論を読む1	ベネディクト、菊と刀
8	日本文化論を読む2	中根千枝、タテ社会の人間関係
9	日本文化論を読む3	土居健郎、甘えの構造
10	日本文化論とイデオロギー	イデオロギー、アルチュセール
11	文化のイデオロギーと方法	ベフハルミ、イデオロギーとしての日本文化論
12	ネパール民族誌　1	国家、カースト
13	ネパール民族誌　2	チェパン社会、平等主義
14	「恥」を考える	アウシュヴィッツ、恥、近代
15	確認テスト（60分）と解説（30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業は、多くの文献を取り上げ、その内容を精査するかたちで進める。文献の原典にあたり、さらに読み込むことで理解を深めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関するテストを2回ほどおこなう。 第6回目頃と第15回目に行う予定。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。講義への参加度を評価する。その他に、数回レポートを課し、採点する。

テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記の参考書を本講義では主に取り上げるが、受講者はそれ以外の日本文化論も各自で探して読んでおくこと。それにより、本講義の議論を応用的に理解することが容易になる。

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、下記の図書のうち前三者は入手しやすいので、できれば購入し参考にして欲しい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
菊と刀	ベネディクト R.／講談社／／日本文化を恥の文化とした古典
タテ社会の人間関係	中根千枝／講談社／／日本社会をタテ社会とした論攷
甘えの構造	土居健郎／弘文堂／／日本文化の根本に甘えがあるとした論攷
イデオロギーとしての日本文化論	ハルミ・ベフ／思想の科学社／／日本文化論全般についての批判的検討
アウシュヴィッツの残りもの	アガンベン G.／月曜社／／恥についての論攷を含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化人類学 (S)

13365

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

グローバリゼーションが展開し、自由が広がる今日の社会では、既存の秩序が様々なかたちで崩壊している。9.11の同時多発テロの背景には、そうした自由に対する危機感から原理主義などの「伝統」へ戻ろうとする力が大きく働いていた、と言われる。「伝統」に戻るべきか、それとも「自由」を推し進めるべきか、私たちの身の回りでもその選択が迫られるが、「自由」とは何か、「伝統」とは何か、問われることはほとんどない。

本講義では、「自由」と「伝統」の成り立ちについて、文化人類学の立場から検討する。すなわち、1. 近代的な「自由の文化」の仕組みとその問題点、2. 「伝統文化」の価値や意味づけの仕組みとその問題点、3. 両者が対立せずに接続される可能性、について考察することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

・「構造主義（関係論）」とはどのような理論か、理解する。
・「伝統文化」と「近代」の構造とその問題を理解する。
・「民族」という枠組みの多様性や歴史性を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、構造主義や関係論という立場からの文化分析を紹介する。理論的な議論が多くなるので、本講義の履修前に（不可能なら履修後でも）「文化人類学入門」（原尻英樹教授，山本勇次教授担当）を履修し、文化人類学理論の基本を学んでおくことを推奨する。さらに「エスニシティ論」（原尻英樹教授担当）、比較文化論（橘健一担当）を受講すれば、文化人類学的な素養を幅広く身につけることができるので、履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	自由の広がりと伝統への回帰	自由、伝統
2	文化とは何か	文化進化論、機能主義、構造主義
3	意味秩序の構造	表現、内容
4	伝統文化論1	神話
5	伝統文化論2	儀礼
6	伝統文化論3	身体加工
7	伝統文化論4	贈与
8	自由の文化論1	市場、貨幣
9	自由の文化論2	資本主義、ファッション
10	自由の文化論3	市民社会、近代科学
11	自由の文化論4	国民国家
12	自由の文化論5	産業社会、フォーディズム
13	自由の文化論6	複製文化
14	自由と伝統	文化相対主義
15	確認テスト（60分）と解説（30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

参考書以外にも構造主義や関係論について論じた著作を読んでおくことを勧めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関するテストを2回ほどおこなう。 第8回目頃と第15回目に行う予定。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。講義への参加度を評価する。その他に、数回レポートを課し、採点する。

テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では映像資料を提示し抽象的な概念や考え方を解説する。抽象度の高い議論を理解するために、参考文献をしっかり読み込むこと。

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、講義内容の理解が難しいときに、下記の図書を参考にして欲しい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめての構造主義	橋爪大三郎／講談社現代新書／／構造主義全般の理解に役立つ

文化人類学15の理論	綾部恒雄編／中公新書／／文化人類学の理論全般を見通す
精神と自然	ベイトソン G.／新思索社／／関係論の理解に参考
精神の生態学	ベイトソン G.／新思索社／／ダブルバインド理論に関する論文
神話と意味	レヴィ＝ストロース／みすず書房／／神話の構造分析の入門書
レヴィ＝ストロース入門	小田亮／ちくま新書／／レヴィ＝ストロースの構造主義の解説書

その他の参考書については、必要に応じて指示する。
なお、本講義では用いないが、「文化人類学入門」の教科書（『フィールドワーク教育入門』原尻英樹、玉川大学出版部、『文化人類学の方法と歴史』原尻英樹、新幹社）を受講者の判断で各自参考にして欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

余暇・スポーツ史 (S)

13360

担当者名 / Instructor　西原 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近代スポーツを中心とした近代社会の運動文化は、その成立・発展過程において、「近代余暇」あるいは「近代政治」の力学と常に密接な関係を保ちつつその歴史を歩んできた。その「力学」とは、簡潔に言えば上層階級や商業資本などを中心とした勢力が①「大衆」をターゲットとして②彼らを「良き国民」「良き労働者」へと教化していこうとする志向ということになろうが、近代スポーツはまさに大衆をその支持基盤としているがゆえにそうした「力学」が展開される格好の舞台となり、その要請に沿うことによって発展してきた運動文化であると見ることができるだろう。そのような認識に基づき、本講義では19世紀以降の近代スポーツの成立・発展過程について、それらがいかに「近代余暇」あるいは「近代政治」の力学に深く絡めとられたものであったかという事実を、欧米および日本の事例を取り上げながら概観していくことにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

W杯などを中心として世界中に普及したサッカーや、北米大陸を中心として巨大な市場を形成するアメリカ4大スポーツなどを想起すれば一目瞭然であるように、今や近代スポーツは世界中でその存在を概ね全面的に肯定され、大衆娯楽の王者として君臨していると言っても過言ではないだろう。しかしながら、これほどまでに巨大な存在となった近代スポーツを、私たちはただ無反省にひたすら賛美するだけでいいのであろうか。時にはその存在を少し引いたところから眺め、近代スポーツが世界中の人々の関心を引き付けているさまを、その否定的な面をも含めて反省的に考察し直してみることが、今まさに求められているのではないだろうか。そのような意味で、本講義は私たちが日頃親しんでいる「近代スポーツ」の、いわば存立基盤を問うことを目的とするものであるが、受講者には講義で取り上げる様々な話題について考えることを通じて、「近代スポーツ」をただ娯楽として享受するだけではなく、時には批判的な見解をも持って眺めることのできるような、「賢明な」スポーツ消費者になっていくことを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	近代的レクリエーション・レジャーの誕生	余暇思想の変遷、大衆の国民化
第2回	近代スポーツの誕生〔1〕19世紀イギリスにおける合理的娯楽運動	伝統的民衆娯楽の衰退、レジャーの産業化
第3回	近代スポーツの誕生〔2〕「スポーツマンシップ」の誕生と成長	パブリック・スクール、筋肉的キリスト教
第4回	近代スポーツの誕生〔3〕アメリカの「国技」としての野球の成立	ベースボール起源神話、男性性、サンデー・ベースボール
第5回	近代スポーツの誕生〔4〕1920～30年代におけるスポーツの大衆化	スペクテイタースポーツ、メディア、スタープレーヤー崇拝、“野球狂時代”
第6回	近代政治とスポーツ〔1〕植民地政策とスポーツ	植民地政策、クリケット、サッカー
第7回	近代政治とスポーツ〔2〕もう一つのスポーツ文化	ドイツ体操、デンマーク体操、スウェーデン体操、ソコル運動、ナショナリズム
第8回	近代政治とスポーツ〔3〕ナチスドイツの余暇政策とスポーツ	歓喜力行団、ベルリン五輪
第9回	近代政治とスポーツ〔4〕昭和初期日本のスポーツ政策	文部省、思想善導、厚生省
第10回	近現代日本の余暇とスポーツ〔1〕(ビデオ鑑賞)映画『青春』(1968年)	第50回全国高等学校野球選手権記念大会についての記録映画
第11回	近現代日本の余暇とスポーツ〔2〕甲子園野球の誕生	新聞社、私鉄会社、スポーツイベント、教育
第12回	近現代日本の余暇とスポーツ〔3〕占領期の対日スポーツ政策	GHQ、プロ野球、武道
第13回	近現代日本の余暇とスポーツ〔4〕テレビ時代の到来とスポーツ	長嶋茂雄、力道山
第14回	近現代日本の余暇とスポーツ〔5〕東京オリンピック	東京オリンピックが日本社会にもたらしたもの
第15回	近現代日本の余暇とスポーツ〔6〕スポーツマンガ・アニメの隆盛	高度経済成長、根性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容全体の理解度を重視する。
平常点評価	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では適宜映像資料なども利用していくつもりですが、紹介する参考文献にもできる限り目を通して、話題についての視覚的イメージを各自でうまく作り上げていかれると、理解が深まると思います。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考文献を適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代スポーツマンシップの誕生と成長	阿部生雄／筑波大学出版会／978-4-904074-09-1／オリンピックや日本への影響についても射程に収める
ベースボールの夢	内田隆三／岩波書店／978-4-00-431089-1／19世紀アメリカにおける「国技」としての野球の成立
近代ヨーロッパの探究⑧スポーツ	有賀郁敏　他／ミネルヴァ書房／4-623-03509-3／ドイツ体操、ソコル運動に関する論文あり
権力装置としてのスポーツ	坂上康博／講談社／4-06-258136-1／昭和初期日本における「思想善導」政策としてのスポーツの意味
力道山	岡村正史／ミネルヴァ書房／978-4-623-05255-4／プロレス人気の沸騰と終焉化

上記以外の文献についても、講義中に適宜紹介する。また事典としては、岸野雄三編集代表『最新スポーツ大事典』(大修館書店)が参考になる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

スポーツ文化史料情報館　http://www.eonet.ne.jp/~otagiri/
(「連載　アメリカスポーツ歴史物語」などが参考になる)

その他 / Others

現代余暇論（S） § 余暇論（S）

15535

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

最近の国内経済、世界経済の現状は、私たちに「レジャー・余暇どころではない」といった風潮をもたらしているのではないだろうか。しかし、本講義の目的は、そのような風潮に逆らって「レジャー・余暇」から私たちの生活構造を再構成する糸口を探る試みにある。そのためにも、本講義は、レジャーを介して展開されてきた社会統合様式に焦点を当て、その政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

レジャーを政策的、思想的、政治的な視点から考察し、受講生がレジャーを「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。また、レジャーを「人間的自由の獲得」という視点から考察を試み、レジャーを介した豊かな社会構想の糸口を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	レジャーの誕生①：ヨーロッパ編	産業革命、社会的時間の再編成（労働時間、自由時間）、合理的レクリエーション
3	レジャーの誕生②：アメリカ編	有閑階級、大衆消費社会、フォーディズム
4	レジャーの誕生③：日本編	權田保之助、民衆娯楽論、アノミー、国民娯楽論
5	総力戦体制とレジャー	ファシズム、社会統合、ドーポラヴォーロ、KDF、厚生運動、健民・健兵
6	戦後日本のレジャー政策①：戦後から1970年年代初頭まで	福祉国家体制、高度経済成長、日本型雇用慣行、レジャーブーム
7	戦後日本のレジャー政策②：1970年代中頃から1990年代初頭（バブル崩壊）まで	低成長、日本型福祉社会論、前川リポート、4全総、リゾート法
8	戦後日本のレジャー政策③：1990年代中頃（バブル崩壊後）から現代まで	平成不況、社会福祉基礎構造改革、新自由主義、日本型雇用の再編、グローバリゼーション
9	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向①：創刊号（1977年）から1990年まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、前川リポート、4全総、リゾート法
10	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向②：1991年から2000年まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、利己的余暇、社会的余暇（利他的余暇）
11	『レジャー白書』に記されたレジャーの動向③：2001年から最新号まで	労働時間、休暇、自由時間関連支出、レジャー産業、観光
12	社会的余暇（利他的余暇）の再検討	福祉政策、ボランティア、地域社会
13	レジャーからワークライフバランスを考える①	各国のワークライフバランスに向けた取組を検討
14	レジャーからワークライフバランスを考える②	オランダのワークシェアリングの検討
15	まとめ	これまでの議論を整理し、レジャーを介した豊かな社会構想に向けた試論を提示したい。

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
権田保之助著作集	権田保之助／文和書房 ／／
厚生運動概説	磯村英一著／常磐書房／／
柔らかいファシズム：イタリア・ファシズムと余暇の組織化	ヴィクトリア・デ・グラツィア／有斐閣／／
新編 現代の君主	アントニオ・グラムシ／筑摩書房／／
レジャーの誕生	アラン・コルバン [編著]／藤原書店／／
レジャー社会学	J・デュマズディエ／社会思想社／／
怠ける権利	ポール・ラファルグ／平凡社／／
レジャー白書	余暇開発センター→自由時間デザイン協会 (2001-2002)→社会経済生産性本部 (2003-)／／／
論文 戦後日本の社会統合と「レジャー」：レジャー政策から自由時間政策への転換とその意	市井吉興／立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第42巻 第3号（2006年）／／
論文 人間の安全保障としての「レジャー」をめざして：「新自由主義型自由時間政策批判」序説	市井吉興／唯物論研究協会編『唯物論研究年誌』第12号（2007年）／／
企業社会と余暇：働き方の社会学	桝潟俊子／学陽書房／／
時間とは幸せとは：自由時間政策ビジョン	余暇開発センター編／通商産業調査会出版部／／
これからの生活と自由時間：その現状と対策の方向	経済企画庁国民生活政策課編／大蔵省印刷局／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

臨床社会学（S）

13312

担当者名 / Instructor　本田 宏治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、犯罪や非行、虐待、不登校、ひきこもり、社会的格差など社会病理現象が多様化し、増大しているといわれている。こうした社会問題を臨床的課題として捉えなおし、単に個人の「逸脱」や「不適応」としてではなく、社会学的な観点からの支援を模索する知的方法として臨床社会学がある。

本講義では、オムニバス形式で具体的な事例を取り上げ、社会の問題と個人の問題とが交錯する現代社会への諸問題への洞察を深める。そのためには、社会問題の「現在」を洞察するなかで、日常世界を反省的に異化し、社会構造の「ひずみ」を知覚する社会学的な感受性を身につける必要がある。そのうえで、一人ひとりの参加学生が、関心をもつそれぞれの課題に向けて自発的に解決の糸口を探る能力の獲得を目指したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学的な洞察力を深めたうえで、常識的視野のもとで見逃されている臨床的諸課題の「発掘」と解決に向けた社会学的想像力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会問題を臨床社会学で読み解くことの意義について	社会病理学
第2回	逸脱とは何か？	アノミー論、ラベリング論
第3回	「正常」と「異常」	集合意識、ノルム
第4回	逸脱はなぜ生まれるのか？（1）	社会解体、社会的排除
第5回	逸脱はなぜ生まれるのか？（2）	リスク社会、管理権力
第6回	犯罪の厳罰化の流れ	犯罪不安、厳罰化ポピュリズム
第7回	厳罰化による社会のひずみ	刑事施設、過剰収容問題
第8回	犯罪者の社会内処遇	ダイヴァージョン・プログラム
第9回	トラウマと現在	トラウマ、心的外傷
第10回	被害者化過程での家族・友人・社会	犯罪被害者
第11回	アダルト・チルドレンという生き方	機能不全家族、共依存
第12回	「隠蔽」される犯罪者家族（1）	私的領域、パノプティコン
第13回	「隠蔽」される犯罪者家族（2）	侮蔑発話、医療化
第14回	他者を支えるコミュニティとは何か？	コミュニティ・プリズン、コミュニティ・ポリシング
第15回	他者を「支える」ことは何か？	共在者

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での学習を促すため、配布資料や主題に合わせた参考文献などを読み、レポートをまとめるなど宿題があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容を手がかりとして、それぞれが自身の関心とする社会問題を分析する能力を身につけているかを判断する。
平常点評価	30 %	期間中に1回レポートを課し、評価に加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講に際しては、社会学の基礎的な知識を有していることが望ましい。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。配布するプリントを中心に進め、要点は板書する。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（自主企画研究）SA 「学生の意見10（より良い社会への提言づくり）」

本文無し

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SB） §　企画研究（自主企画研究）（SB）

14513

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】音楽・エンタテイメント産業の多面的研究
日本にレコード会社が設立されて100周年になるが、レコード産業を軸にした
音楽ビズネスは大きな曲がり角に直面している。アーティストの発掘を川上とするなら
音楽制作・販売は通過点で、今まで川下に位置づけられていたキャラクターグッズの販売に至るまで、経営哲学及び事業展開は「380度発想」に大きく舵をきることになった。

到達目標 / Attainment Objectives

キャンパス・ビジネスのモデルケースとして仮想「多面的ヒット創出集団」を発足させ、各自が業務を分担し、音楽・エンタテイメント産業界に対し学習成果をアピールすることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。産業界の現状と課題を理解し、「ヒット創出集団」を立ち上げる。	
2	日本のインデペンデントレーベルの歴史と現状を研究。	
3	音楽関連企業のオーディションの実態を研究。	
4	集団名、定款の作成。組織づくりと分担の決定。予算の作成。	
5	学外の関連団体、企業との連携に着手。	
6	アーティストの発掘・オーディション実施計画の作成。自薦も可。	
7	オーディションの運営に着手。有効な告知、選考法などを討議。	
8	学外の関連団体、企業との提携の研究と着手。	
9,10	視聴会の実施と研究発表。	
11	アーティストの決定。	
12	市場調査及び商品化・プロモーション計画の作成。	
13	企業と交流会の設定・実施（見学を含む）。	
14,15	学内外での活動成果報告	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学生らしい自由闊達な発想を生かし、積極的な参加を望みます。テーマ別に実態調査を行い、研究の成果を学外へ向けて発信することで、存在をアピールしたいと考えています。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

株式会社フォーライフ　エンタテイメント及びインディーズレーベル協議会のHPを閲覧しておいてください。

その他 / Others

企画研究（SC） § 企画研究（自主企画研究）（SC）

14514

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いえづくり・まちづくりの分野で女性の生き方や家族の変化を踏まえた設計思想を学び、並行して、現在取り組まれているコレクティブ・ハウジングなどのユニークな住まい方について当事者ヒアリングや現地調査を行い、その活動と成果の評価を試み、今後の住まい方を提案する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の現実に欧米に経験を持ち込むことには困難がある。が、現状を評価する重要な視点を提供してくれていることは間違いない。その視点を獲得することが第一の目標である。次に、その視点から、身の回りの居住空間を見直し、当事者や専門家の意見を聞きながら、大きな課題となりつつある高齢者の自立・自律生活をささえる住まいや地域のありかた、さらにその作り出し方について、自分の意見をもてるようになることが第二の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族・女性・地域・まちづくりなどに関連する科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ドロレス・ハイデン『アメリカン・ドリームの再構築ー住宅・仕事・家庭生活の未来ー』にみる設計思想を学ぶ　その1	変わる男女の役割・家族形態・仕事・空間
2	ドロレス・ハイデン『アメリカン・ドリームの再構築ー住宅・仕事・家庭生活の未来ー』にみる設計思想を学ぶ　その2	ジェンダー・公共空間・生活様式
3	ゲスト・スピーカー：働く女性と住まいかた　Hさんの設計思想と住まい方	ライフスタイル・コーポラティブハウス・いえづくり
4	1－3のまとめー個人の生きやすさをささえる住まいとは	個人・家族・ライフスタイル・
5	『女性のための草の根まちづくり』からーノルウェーの取り組みに学ぶーその1	地域計画・女性参画・民主主義と協働
6	『女性のための草の根まちづくり』から、ノルウェーの取り組みに学ぶーその2	地域計画・女性参画・民主主義と協働
7	子どもと市民意識ーまちへの関心ースウェーデンの社会科教科書に学ぶ	子ども・市民教育・地域を見る目
8	ゲスト・スピーカー：ノルウェーの住まいづくり	北欧のいえずくり・まちづくり
9	5－8のまとめー北欧のまちづりいえづくりから何を学ぶかー	市民・参加・協同・パートナーシップ
10	高齢女性のいえづくりー必要性と現状ーその1	単身・ケア・高齢女性・協同性・地域
11	高齢女性のいえづくりー必要性と現状ー	単身・ケア・高齢女性・協同性・地域
12	ゲスト・スピーカー：高齢女性のグループ・リビングに取り組む女性設計者	集まってつくる住まい、コーポラティブ・ハウス、グループ・リビング
13	ゲストスピーカー：高齢女性のグループ・リビングに取り組む当事者	自立と協同・単身・高齢女性
14	10－13のまとめ	自立と協同の住まいとすまいづくりの現在
15	全体のまとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	三回のまとめ二対応するレポート、および全体のまとめに対応するレポートを評価対象とする。
平常点評価	50 %	出席状況、およびディスカッションでの積極性を評価対象とする。

企画研究には自主性・能動性がもとめられるのはもちろんだが、自主研究を支える講義や相互のディスカッションへに必ず参加してほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SD） §　企画研究（自主企画研究）（SD）

14515

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映画興行における宣伝の重要性について、前期は、具体的な作品の事例研究、後期は、自分たちで選んだ作品の上映会を企画運営し、実践的に研究する。なお、上映作品は日本映画、必ず監督かプロデューサーをゲストとして招いて行う。

到達目標 / Attainment Objectives

映画興行における宣伝戦略の重要性の理解。宣伝戦略の立て方の理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	映画興行の現状	
2	映画の宣伝とは	
3	サンプル作品の具体的な宣伝方法について	
4	配給会社の宣伝プロデューサーによる講義	
5	後期上映作品の選定	
6	上映決定作品の宣伝戦略の検討1	
7	上映決定作品の宣伝戦略の検討2	
8	上映会に向けて　役割分担の決定	
9	宣伝チラシなど、宣伝物の作成1	
10	宣伝チラシ等、宣伝物の作成2	
11	上映会の動員対策、当日の役割分担、アンケートの準備	
12	上映会のまとめ　アンケート分析	
13	ゼミナール大会にむけての発表準備	
14	ゼミナール大会のまとめ	
15	論文作成のうちあわせ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業スケジュールは、ゲストの予定ならびに上映作品、上映会の日程等で変更することがあり得る。基本的に上映会は、11月の上旬が望ましい。京都シネマの協力で、作品等の選定は行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	ゼミナール大会への報告レポートで、評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SE） §　企画研究（自主企画研究）（SE）

14516

担当者名 / Instructor　赤井 正二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会学」は面白そうだけど何かいまいち全体がよく見えないという人が多いと思いますが、それは実際「いろいろな社会学」があるからです。柳田国男は民俗学者として有名ですが、その多くの著作は「社会学」といってもよいものだし、とくに『明治大正史世相篇』は、日本の社会学の古典と言えます。

この企画研究では、この本を輪読していきます。新聞に連載された記事がベースになっているので、さっと読んでしまうこともできますが、同時に味わい尽くせない魅力を持っています。色や音の感じ方、外食の普及、風景の感じ方、都市と田舎、旅行の変化、結婚相手の見つけ方、こういう内容を扱っているからこそ、この本が生きた社会学だと見ることもできるのです。この企画研究から「こういう社会学もある」ということを学んでもらいたい。

実際テキストをみんなで読みながら、解説や議論をして丁寧に進めていきます。

基本的な到達目標は、古典的なテキストをじっくり読む力を養うことです。

到達目標 / Attainment Objectives

柳田国男著『明治大正史世相篇』の精読を通して、社会学的研究方法の理解を深めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	柳田国男とはどんな人か？	生涯
2	柳田国男の時代	民俗学と社会学
3	第1章 眼に映ずる世相	1. 新色音論　2. 染物師と禁色　3. まぼろしを現実に　4. 朝顔の予言　5. 木綿より人絹まで　6. 流行に対する誤解　7. 仕事着の捜索　8. 足袋と下駄　9. 時代の音
4	第2章 食物の個人自由	1. 村の香　祭りの香　2. 小鍋立と鍋料理　3. 米大切　4. 魚調理法の変遷　5. 野菜と塩　6. 菓子と砂糖　7. 肉食の新日本式　8. 外で飯食う事
5	第3章 家と住み心地	1. 弱々しい家屋　2. 小屋と長屋の修錬　3. 障子紙から板ガラス　4. 寝間と木綿夜着　5. 床と座敷　6. 出居の衰微　7. 木の浪費　8. 庭園芸術の発生
6	第4章 風光推移	1. 山水と人　2. 都市と旧跡　3. 海の眺め　4. 田園の新色彩　5. 峠から畷へ　6. 武蔵野の鳥　7. 家に属する動物　8. 野獣交渉 5　故郷異郷
7	第5章 故郷異郷	1. 村の昂奮　2. 街道の人気　3. 異郷を知る　4. 世間を見る眼　5. 地方抗争　6. 島と五箇山　6　新交通と文化輸送者
8	第6章 新交通と文化輸送者	1. 人力車の発明　2. 自転車村に入る　3. 汽車の巡礼本位　4. 水路の変化　5. 旅と商業　6. 旅行道の衰頽
9	第7章 酒	1. 酒を要する社交　2. 酒屋の酒　3. 濁密地獄　4. 酒無し日　5. 酒と女性
10	第8章 恋愛技術の消長	1. 非小笠原流の婚姻　2. 高砂業の沿革　3. 変愛教育の旧機関　4. 仮の契り　5. 心中文学の起こり
11	第9章 家永続の願い	1. 家長の拘束　2. 霊魂と土　3. 明治の神道　4. 士族と家移動　5. 職業の分解　6. 家庭愛の成長
12	第10-12章 生産と商業、労力の配賦、貧と病	1. 本職と内職　2. 農業の1つの強味　3. 漁民家業の不安　4. 生産過剰　5. 商業の興味及び弊害
13	第13-14章 伴を慕う心、群を抜く力	1. 零落と貧苦　2. 災厄の新種類　3. 多くの病を知る　4. 医者の不自由　5. 孤立貧と社会病
14	第15章 生活改善の目標	1. 英雄待望　2. 選手の養成　3. 親分割拠　4. 落選者の行方　5. 悪党の衰運
15	いま『世相篇』から学ぶことができる事	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治大正史〈世相篇〉』	柳田国男著／(講談社学術文庫)／ISBN-10: 4061590820／講談社; 〔新装版〕版 (1993/07)

参考書 / Reference Books

授業の中で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SF） §　企画研究（自主企画研究）（SF）

14517

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：京のまち・参加のデザイン実践講座
京都で取り組まれている「参加のデザイン」に参加することで、実践的に参加のデザインを学ぶ演習です。
具体的な実践活動は、下記の通り、「場づくり・ものづくり」系と「政策系」のふたつ（どちらも、乾が関わっているプロジェクト）。受講者は希望により二つの班にわかれて活動します。具体的な取り組み方は受講者と相談のうえ決定。
①長屋を活用したシェアハウス計画（学生と地域をつなぐ）
町家所有者と協力して、町家（長屋）改造による「地域共生型学生居場所づくり」を行い、実践活動を通じて学生が地域に入ることの効果を検証する
②市民参加を考える市審議会支援隊
乾が座長をつとめている「市民参加フォーラム」と「京都市地域コミュニティ活性化を考える懇話会」の活動と連携しつつ（可能な限り委員会に参加し）、学生の立場から以下のような課題を検証し、その成果を委員会に提言する（市政に活かす）
・京都市の市民参加の仕組みの検証・再検討
・審議会における市民参加の検証
・地域コミュニティにおける参加の活性化と行政の役割　など

到達目標 / Attainment Objectives

活動に関わり、体験を通じて「現状を理解する・課題と可能性を考える・解決策（向かうべき方向性）を提起する」力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	課題の概説＜町家プロジェクト編＞	京都・町家・地域・学生・事業化
2	課題の概説＜参加の政策編＞	京都・地域コミュニティ・市民活動・市政参加
3	課題の解題・チーム編成・進め方の検討	
4	課題の展開（1）	チーム毎学習活動
5	課題の共有（1）	全体中間発表・議論
6	課題の展開（2）	チーム毎学習活動
7	課題の共有（2）	全体中間発表・議論
8	課題の展開（3）	チーム毎学習活動
9	課題の共有（3）	全体中間発表・議論
10	課題の展開（4）	チーム毎学習活動
11	課題の共有（4）	全体中間発表・議論
12	課題の展開（5）	チーム毎学習活動
13	課題の共有（5）	全体中間発表・議論
14	成果の発表	
15	成果の発表	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	継続的に活動したかどうか・積極性

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

二つのテーマとも、以下のような進め方をするため、講義時間以外に、会議の傍聴やヒアリング、検討会への参加等、実践活動のための時間を使います。そのことを理解して参加してください。
①町家所有者と企画研究メンバーで検討委員会をつくり、企画案を作成する
②年間を通じて定期的に開催される上記委員会（座長：乾）に傍聴者として参加し、委員会と課題を共有しつつ、調査・検証作業に取り組む

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

適宜指示します

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示します

その他 / Others

企画研究（SG） § 企画研究（自主企画研究）（SG）

20283

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

関西テレビ放送（関テレ）を対象に、関西ローカルにおけるテレビ放送の現状と将来についての考察を行う。デジタル化において、ローカル・コンテンツはその重要度を増している。その一方で、ローカル・コンテンツの中身に関しては、まだまだ模索が続いている。関西という地から、テレビのローカリティを考えるのがこの授業の狙いである。

到達目標 / Attainment Objectives

最終的に関西ローカル放送局の存在を理解し、学生の目線による将来像に関する一定の見解を関西テレビ側にプレゼンすることを目標とする。
中間総括と最終課題の内容は、4月以降に追って指示する。
09年度における主要なテーマは、以下の通り。
1．東京一極集中のテレビ状況における関西ローカルのあり方を考察。
2．関西ローカルの特色を生かしたテレビ番組の考察。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　授業概要説明及びテレビにおける関西とは	
2	関西テレビ担当者とディスカッション1	
3	関西ローカルについて	
4	関西テレビ担当者とディスカッション2	
5	テレビ番組の関西らしさとは	
6	関西テレビ担当者とディスカッション3	
7	関西タレントと関西らしさ	
8	前期総括プレゼンテーション	
9	関西テレビ担当者とディスカッション4	
10	最終課題内容発表・討議	
11	関西テレビ担当者とディスカッション5	
12	最終課題内容発表・討議	
13	関西テレビ担当者とディスカッション6	
14	最終課題内容発表・討議	
15	最終プレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	中間総括と最終課題両方の提出が、単位認定の条件。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テレビの制作現場ではなく、ローカル・テレビ局の現状と今後、あるいはテレビ・メディアにおけるローカリティに関心のある学生を対象とする。単にテレビ局にあこがれを持つのではなく、テレビ局が抱える問題に対して、学生独自の視点を持って積極的に考察を深めることが求められる。関西だけでなく、関西以外を出身とする学生の視点も重要な問題意識に発展するので、積極的な参加を期待する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SH） §　企画研究（自主企画研究）（SH）

14518

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2006年度から実施されていた現代GP「地域活性化ボランティア教育の深化と発展」の一部を継承し、企画研究として新たにスタートさせる。内容は、学生のボランティアに関する知識、実践、地域発信の3者を総合したボランティア教育研究。現代GPで行った知識、実践、発信の連携を基礎としながら、少人数の企画研究の形式において継続していくことを目的としている。学生は、ボランティアの知識修得をまず行い、地域におけるボランティア活動の実践体験を通じてボランティアと関わりを深める。そして、これらの知識・体験をふまえた上で、地域におけるボランティア活動の情報発信を行う。

本研究には、ボランティアセンターの協力を得、知識修得には学生アドバイザーを活用。学生が学生に対する知識の修得に参加することで、学生アドバイザー自身の学びにもつながる「ピア・エディケーション」を行う。また、ボランティア実践は、ボランティアセンターを通じて地域の活動を知り、各人がボランティア実践を行う。最後に、ボランティアに関する情報発信は、地域FM局「京都三条ラジオカフェ」の番組枠を使い、受講生たち自身が地域への情報発信を行う

到達目標 / Attainment Objectives

受講学生はボランティアの総合的な学びと地域への還元方法を修得できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	学生アドバイザーからの前期ボランティア・レクチャー	
2	教員とのディスカッション	
3	ボランティア団体取材1	
4	ボランティア団体取材2	
5	番組作成（スタジオ収録・編集作業）1	
6	番組作成（スタジオ収録・編集作業）2	
7	番組作成（スタジオ収録・編集作業）3	
8	学生アドバイザーからの後期ボランティア・レクチャー	
9	教員とのディスカッション	
10	ボランティア団体取材1	
11	ボランティア団体取材2	
12	番組作成（スタジオ収録・編集作業）1	
13	番組作成（スタジオ収録・編集作業）2	
14	番組作成（スタジオ収録・編集作業）3	
15	総括プレゼン	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	2／3以上の出席と取材、番組作りへの参加は必須。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ボランティアに感心が有る学生、情報発信に関心のある学生、ピア・エデュケーションに関心ある学生など、さまざまな関心をもち、積極的に参加できる学生はぜひ応募してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SI） § 企画研究（自主企画研究）（SI）

20284

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

VISUAL BASICによるプログラミングの学習を通して、情報処理リテラシーをさらに発展させ、応用能力を習得する。

到達目標 / Attainment Objectives

自作のCAIプログラムを作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	VISUAL BASICの特徴と構造	プログラム、イベント・ドリブン、コード
2	プログラミングの基本手順	フォーム
3	プログラミングの基本手順	プロパティ
4	問題の提示方法	デバッグ、ビルト
5	問題の提示方法	ボタン
6	問題の提示方法	button
7	問題の提示方法	textbox
8	反応の記録	label
9	反応の記録	Val関数、Rnd関数
10	課題プログラムの作成	Format
11	課題プログラムの作成	Int関数
12	課題プログラムの作成	Int関数
13	課題プログラムの作成	If文、配列
14	課題プログラムの作成	サブルーチン
15	課題プログラムの作成	ファイル操作

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

隔週通年で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストとなる資料を配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

//www.ritsumei.ac.jp/~monden

その他 / Others

企画研究（SJ） §　企画研究（自主企画研究）（SJ）

14519

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

音楽のあり方を通じて、「現代（の特徴）を明るみに出すこと」を目的としています。注意！音楽史における「現代」（現代音楽）の探求ではございません。音楽を楽しむ上での手段、ネットワーク、「場」等などの現代的姿を見て、現代というモノを解読する試みです。

当然毎回のようにさまざまなジャンルの音楽を聴くことになります。というか、一般的にいった「ジャズ、ロック…」など様式上のジャンルではなく、「これが音楽か？？」というジャンル越えを多々経験していただくことになると思います。最終的には、「音楽とはそもそも何か？」という問いに立ち返る訓練をつうじ、哲学する心を磨きます。

到達目標 / Attainment Objectives

音楽とは何か？という問いが自分の中に生まれること
音楽を通じ、文化的「食わず嫌い」を矯正すること
20世紀というものを鳥瞰できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「音楽とは何か」とは何か	音楽
2	音楽を成立させる、場と手段の考察	楽器　演奏　メディア
3	音楽の時代区分と歴史区分の関係	現代　近代　音楽史
4	20世紀とは何か1　19世紀「世界」の終焉	19世紀　世紀末
5	20世紀とは何か2　20世紀の哲学	20世紀　現代
6	20世紀と音楽1ラジオ	ラジオ
7	20世紀と音楽2レコード	レコード
8	20世紀と音楽3大衆	ポップ　軽音楽
9	20世紀と音楽4民族	民族音楽
10	20世紀と音楽5電気	電気楽器　音響製品
11	20世紀と音楽6電子	電子楽器　デジタル
12	20世紀と音楽7アバンギャルド	前衛　アバンギャルド
13	20世紀と音楽8ノイズ	ノイズ　アンビエント
14	「21世紀の音楽考」	未来派
15	「音楽における現代とは何か」	時間

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の議論を通じて芽生えた考えを 最終的には「成果」としてまとめます

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

とにかく食わず嫌いをする人はだめです
音楽が好きというより　音楽について考えることが好きな人を求めます

教科書 / Textbooks

ありません

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
響きの考古学	藤枝守／音楽の友　／ISBN4-276-33084-X／

他とにかく多数紹介していきます

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

いろいろあり

その他 / Others

企画研究（SK） §　企画研究（自主企画研究）（SK）

20285

担当者名 / Instructor　景井 充、坂田 謙司、山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本企画研究のテーマは、日本の高等教育のあり方に対する批判的検討を行うことである。その際、抽象的な議論だけおこなっても意味がないので、産業社会学部の学際性という学部特性に即した形での「学ぶ主体」とはどのようなものなのかについて、その中身、その形成、そしてそれを実現する具体的な仕掛けのあり方などを論点としながら、学生と共にインテンシブな学習と検討を重ね、実際にその開発に取り組む（産社らしいアクティブ・ラーニング！）。具体的には、大学における学際的教育の取り組みの現状についての調査を踏まえ、大学におけるピア・エデュケーションの可能性を検討することや、「学ぶ主体」を形成する仕掛けとして学生の自主活動・自治活動を脱構築・再構築することなどに取り組んでみたいと考えている。

授業における具体的な活動には、文献や資料を素材とする学習や討論に加えて、他大学への視察、シンポジウムの企画・開催も含めたいと考えている。

前半期（前期セメスター）は、基礎的な資料と文献を素材とする学習と、他大学への視察や専門家へのインタビューを含めた調査活動を行い、シンポジウムへと結実させる。基礎的な文献・資料としては、「学ぶ主体」の内容やその形成を構想することに資する文献および資料を取り上げる。調査・視察の対象としては、九州大学の21世紀プログラム課程など先進的な学際的教育に挑戦している大学やその関係者、また学生の主体的な学びの具体的な中身となる学習理論（教育理論に対応する）や発達科学（発達心理学や学習心理学、青年期研究など）の諸研究・実践に取り組んでいる大学や研究者を考えている。以上の取り組みを総括するものとして、7月中旬頃にシンポジウムを企画・開催したい。

後半期は、前期の活動をフォローする形で文献・資料等を通じた学習・検討および調査・視察活動を継続しつつ、発信・提言能力を育成する観点から、公刊を含めたなんらかの形で本企画研究の成果を社会的に提案することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

本企画は2年間の継続事業として構想しているが、今年度の最終的な到達目標は、シンポジウムや視察の成果を学部内外に向けて広く継続的に情報発信し、また積極的な提言を行うことである。何らかの形で成果を公刊することも視野に入れている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ・活動内容の検討（教員より話題提供および討論）	
第2回	テーマ・活動内容の決定（分野と分担の決定、日程等の決定）	
第3回	シンポジウム開催準備①・調査活動準備（調査先の特定、調査内容の検討など）①	
第4回	シンポジウム開催準備②・調査活動準備①・事前学習①	
第5回	調査活動準備②・事前学習②	
第6回	調査活動①・事前学習③	
第7回	シンポジウム開催準備③・調査活動②・事前学習④	
第8回	シンポジウム開催準備④・調査活動③	
第9回	シンポジウム開催（於：以学館）	
第10回	シンポジウムの総括①、後半のテーマ・活動内容について検討・確定	
第11回	シンポジウムの総括②、事後学習①	
第12回	事後学習②	
第13回	事後学習③、成果の取りまとめ・成果公表に向けた準備①	
第14回	事後学習④、成果の取りまとめ・成果公表に向けた準備②	
第15回	成果公表に向けた最終準備、全体の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

産業社会学部において、大学・学部教育それ自体が検討される機会は今までなかった。大学における学びのあり方について関心を持つ学生の参加を広く求めたい。大学・学部に対する“消費者主権的依存”状態からも、シニカルな傍観者的態度からも自由になって、大学での学びを自分自身にとって意義あるものとしたいと思う学生は、ぜひ参加してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SL） §　企画研究（自主企画研究）（SL）

14609

担当者名 / Instructor　景井 充、高嶋 正晴、中西 仁

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】大学とNPOの協働による地域活性化（京北プロジェクトを中心に）
【概　要】京都市京北町をフィールドワークの対象地として、納豆づくりや、その他、
当該地域での農林業活動を体験し、それらを通じて地域の生活・産業を具体的に知る
とともに、京北地域の課題と活性化に向けての可能性について調査研究を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

本プロジェクトの活動を通じて、大学とNPOの協働による地域活動について、各人の
関心・テーマからフィールドワークや調査研究を行い、その成果を学内・学外で発表する
とともに、年度末に成果報告書としてまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに　～京北プロジェクトの活動の概要および予定の確定～	
第2回	京北の概要　～現地視察から地域的特性を知る～	
第3回	京北の農業と納豆づくり①　～圃場の整備と大豆種まき体験～	
第4回	京北の林業と栃の木植林活動①　～植林現場の視察～	
第5～7回	京北の地域活性化活動の実施　～地域・NPO・大学の協働で～	（7月10日、学内で第2回「京北納豆フェスタ」開催とその企画策定・準備、 また、同下旬には、京北での「カブトムシドーム」イベントのサポートも）
第8回	京北の農業と納豆づくり②　～大豆収穫体験～	
第9回	京北の歴史文化資源　～古城調査の実践から～	
第10回	京北の農業と納豆づくり③　～納豆作りと藁つと作りを体験～	
第11回	京北の林業と栃の木植林活動②　～栃の木植林を体験～	
第12、13回	大学の地域貢献事例の視察　～本学他学部の取組を中心に～	
第14、15回	学内外での活動成果報告（11、12月を予定：納豆フォーラムなど）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義への出席、活動への参加、および学内外のフォーラムでの成果報告など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

京北プロジェクトを中心として、フロンティア協会がアレンジする各種現地活動や
ボランティア活動への積極的参加、とりわけ、毎年の納豆フォーラムや栃の木
フォーラムなど学内外での成果・活動事例の発表への参加を望みます。
（※なお、フィールドワークや地域行事などは、土曜日、日曜日に実施することが
多いので、なるべく多くの活動への参加ができるよう、留意して下さい。）

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
聞き書京都の食事（日本の食生活全集　第26巻）	「日本の食生活全集 京都」編集委員会（編）／農山漁村文化協会／／
伝承写真館　日本の食文化　第8巻　近畿	農文協（編）／農山漁村文化協会／／

納豆本―やっぱり納豆が好き―　／フロム出版／9784894472037／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・京北プロジェクトのブログHP「京北プロジェクト」 http://ritskeihoku.kyo2.jp/
・特定非営利法人フロンティア協会ホームページ http://www.nethousing.co.jp/frontier/
・京北商工会ホームページ http://keihoku.kyoto-fsci.or.jp/
など

その他 / Others

京北プロジェクトの2008年度活動を報告する掲示板が以学館1Fにあります。
納豆フェスタや納豆フォーラムを報じる新聞記事なども掲示されています。
ブログやHPとともに、2009年度の活動の参考としてください。

企画研究（SM） § 企画研究（自主企画研究）（SM）

14610

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

Kielburger兄弟らによって執筆されたカナダにおけるボランティア活動入門書、TAKE ACTION:A GUIDE TO ACTIVE CITIZENSHIPおよびTAKE MORE ACTIONを翻訳を試みたうえで、日本版テイク・アクションを開発・作成していくことを目指す。

日本のあらゆる若者たちを、市民的な行動へと誘うテキストとして、いかなるコンテンツが好ましいかを、上記テキスト読解・分析のうえ、参加者とディスカッションを進めていく、それと並行して、その他参考文献の調査、NPOへのインタビュー調査などフィールド調査も実施していく。

到達目標 / Attainment Objectives

1）英語読解力を増進する。
2）日本版テイク・アクションを開発することによって、自ら、創造的な力量を獲得する。
3）若者たちの社会的活動を活性化しているNPOを調査することにより、ネットワーク形成をめざすとともに、調査能力の獲得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テキストの紹介とメンバー紹介	TAKE ACTION:A GUIDE TO ACTIVE CITIZENSHIP TAKE MORE ACTION
第2回	TAKE ACTION：PATR1 検討会	How to Get Involved
第3回	TAKE ACTION：PATR2 検討会	The How-To Guide
第4回	TAKE ACTION：PATR3 検討会	Where You Can Get Involved---Everywhere
第5回	TAKE ACTION：PATR4 検討会	Tackling Social Issues
第6回	TAKE ACTION：PATR5 検討会	Sources and Resources
第7回	テラ・ルネッサンスについて学習会	テラ・ルネッサンスの活動・組織・スタッフ
第8回	鬼丸昌也著『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』学習会	鬼丸氏のライフヒストリーの分析
第9回	テラ・ルネッサンスとの交流	日本版テイク・アクションの設計と作業分担
第10回	夏休みに実施するNPOインタビューのまとめ・分析　その1	日本におけるパワフルNPOの調査
第11回	夏休みに実施するNPOインタビューのまとめ・分析　その2	日本におけるパワフルNPOの調査
第12回	日本版テイク・アクションの作成　その1	テキスト開発
第13回	日本版テイク・アクションの作成　その2	テキスト開発
第14回	日本版テイク・アクションの作成　その3	テキスト開発
第15回	日本版テイク・アクションの作成　その4	テキスト開発

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	本企画研究への参加度・貢献度によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

一定の英語能力が求められる。また、NPO調査などにおいては、フィールドワークが重視されるので、アクティブな参加姿勢が求められる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
TAKE ACTION:A GUIDE TO ACTIVE CITIZENSHIP	M &C Kielburger／Wiley／0-471-27132-2／

テキストは、こちらで準備する。

参考書 / Reference Books

適時、授業中に紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

こうしたサイトを調査すること自体が、本企画研究の活動テーマとなる。

その他 / Others

本企画研究は、実際に、テキストを開発していくことを目指すことから、高い参加意識が要求される。その点、覚悟のうえで、参加してほしい。

企画研究（SN） §　企画研究（自主企画研究）（SN）

14611

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市ユースアクションプラン（2002年）では、ユースサービスを基本理念に子どもから責任ある大人へ成長する青少年を支援することが示されている。その支援とは、青少年が家庭、学校、地域社会等においてあらゆる場面への参加をとおして、社会と交わり、青少年の興味・関心を豊にし、青少年が必要として場合に助言、情報の提供や人的・物的資質が得られるような機会を提供するものである。このプランの実現にむけて京都市の青少年活動センターでは、様々な事業が展開されている。その後、このプランに関する中間見直しが行なわれ、新たに青少年のキャリアに関する支援を充実させようとする改定版（2007年）が策定された。この授業では、この改定版を再検討し、青少年活動センターの現状を様々な観点から検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

京都市のユースアクションプランを知り、京都市の青少年活動センターの実態調査を行なう力、青少年活動センターに関するレポートをまとめる力、プレゼンテーションする力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業内容と到達目標に関する概要	授業内容、目標、スケジュール確認
第2回	京都市ユースアクションプラン（基本方針1）に関する考察	若き市民、自主活動、体験活動、社会参加活動
第3回	京都市ユースアクションプラン（基本方針2）に関する考察	創造性、国際性、高度情報化社会、人権感覚、環境学習
第4回	京都市ユースアクションプラン（基本方針3）に関する考察	地域社会、活動の場、活動支援、人的支援
第5回	京都市ユースアクションプラン（基本方針4）に関する考察	生きる力、キャリア教育、就業課題、就業支援
第6回	京都市ユースアクションプラン（基本方針5）に関する考察	課題解決、課題解決支援策、社会環境
第7回	出前講義：京都市役所青少年課関係者による上記プランの説明、質疑	ユースサービスの理念、自然・社会・文化、プランの到達目標
第8回	出前講義：京都市ユースサービス協会事業部長による青少年活動センターの説明、質疑	ユースサービス協会の概要、北、中京、東山、南、山科、下京、伏見青少年活動センター
第9回	中京青少年活動センターの実態調査1：事業全体に関する実態調査	相談業務、リーダーバンク、青少年団体支援ネットワーク
第10回	中京青少年活動センターの実態調査2：若者サポートステーションに関する調査	相談事業、就労体験事業、就労支援セミナー、いつでもどこでもサポートモデル
第11回	北青少年活動センターの実態調査1：事業全体に関する実態調査	エコカフェ、エコフェスタ、若者の居場所
第12回	北青少年活動センターの実態調査2：伝記プロジェクトに関する実態調査	伝記プロジェクト、サンタクロースプロジェクト、自主的活動の育成・支援
第13回	プランと青少年活動センターとのかかわりに関する考察1	ユースシンポジウム、アドアドプラス、ボランティア
第14回	プランと青少年活動センターとのかかわりに関する考察2	キャリアサポート、現代の若者像、将来のユースアクションプラン
第15回	プレゼンテーション、質疑応答、まとめ	実態調査のまとめ方、プレゼンテーション力、討論、総括

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	論理的思考 まとめ方 実態把握力 プレゼンテーション力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

これまでの京都市基本計画、第1次京都市青少年基本計画、第2次京都市青少年基本計画(京都市ユースアクションプラン)を調べてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

財団法人京都市ユースサービス協会

その他 / Others

企画研究（SO） § 企画研究（自主企画研究）（SO）

14612

担当者名 / Instructor　荒木 穂積、桂 良太郎、津止 正敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：ベトナムの障害児教育・福祉の調査研究

到達目標 / Attainment Objectives

2009年8月にホーチミン市（予定）で開催される、日本ベトナム友好障害児教育・福祉セミナーに参加し、ベトナムの障害児教育・福祉の現状を調査研究する。

帰国後、調査もとに報告書（レポート）を作成する。また、この調査をもとに2009年12月に開催される産業社会学会主催のゼミナール大会で発表をおこなう。また、日本とベトナムの学生・研究者の交流活動に参加したり、学部内外の関連する授業に参加したりして本授業の補いとする。また、他大学学生との共同研究も積極的にすすめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	顔合わせ/各自の興味や関心を出し合う。	
第2回～4回	昨年度までのセミナーの様子をビデオや写真で見たり、先輩や関係者の話を聞いたりして、研究の方法やイメージをつかむ。	
第5回～8回	8月のセミナーでのフィールド調査、観察、文献研究などの準備を始める。	
第9回～10回	セミナーでの役割分担や、調査方法について打ち合わせを行い、準備をすすめる。	
第11回～12回	帰国後、セミナーおよび調査のふりかえりや反省。ゼミナール大会に向けての発表の打ち合わせを行う。必要に応じて追加調査を実施する。	
第13回	ゼミナール大会にむけての資料とパワーポイントを準備する。	
第14回	ゼミナール大会で発表する。	
第15回	1年間の活動のまとめと来年の課題の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

上記以外に発表（セミナーおよびゼミナール大会）の準備のために集まることがある。
2単位ですが、後期のゼミナール大会をめざして活動する予定です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	ゼミナール大会の発表をレポートとして評価します。
平常点評価	50 %	企画研究への参加度、積極性、役割などを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究（SP） § 企画研究（自主企画研究）（SP）

14521

担当者名 / Instructor　文 楚雄、野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この企画研究の授業は、教員の指導の下に中国の文化や社会について、学生がそれぞれの関心領域やテーマを設定して、前期の学習、夏休みにおける蘇州大学での特別講義の受講や現地調査及び後期のレポート作成向けての学習の三セクションの勉強を通じて、激変している中国の社会や文化に対する認識を深めると同時に、実用の中国語会話も身につけていくことを目標とする。

前期では、自主的学習や研究を行うと同時に、8回ほどの授業を予定している。夏休みの9月17—23日（予定）は中国の蘇州市へ出かけ、現地調査を行う。と同時に、蘇州大学の教授による特別講義3回を受ける。また、蘇州大学の学生との交流も大いに進めていく。蘇州は二千数百の歴史持つ古い街であると同時に、最先端な工業都市でもある。日本企業が300社あまり進出している。日系企業の調査・見学も視野に入れていく。蘇州大学での特別の講義、蘇州の現地調査などは授業3回分に換算する。後期では、前期の学習、夏休みの現地調査を踏まえて、研究課題を整理学習し、レポート作成の作業を進めていく。レポート集を作る予定。後期では4回程度の授業を予定している。

到達目標 / Attainment Objectives

中国の社会や文化に対する認識を深めることができる。
実用の中国語会話も身につけていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	この授業の性格、内容、達目標などの説明。各自の関心領域やテーマの設定	
第2回	各自の関心領域やテーマの設定、紹介	
第3回	関心領域の先行研究の調査	
第4回	研究討論、言葉の学習	
第5回	研究討論、言葉の学習	
第6回	研究討論、言葉の学習	
第7回	蘇州についての学習	
第8回	上海についての学習	
第9回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（1）を受ける	
第10回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（2）を受ける	
第11回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（3）を受ける	
第12回	現地調査を踏まえた研究討論（1）	
第13回	現地調査を踏まえた研究討論（2）	
第14回	レポート作成の討論学習	
第15回	レポート集の完成・編集	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	現地調査、普段学習50%、最終レポート50%。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

中国語の能力を問わないが、現地へ行って学んでみたい、現地の大学生と交流してみたいという意欲のある者を優先する。中国を訪問して見たい、現地の人々と中国語を使ってみたいという動機の強い者はこのパートに応募してください。

中国現地調査のための渡航費用は10万円程度が必要である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

コーオプ演習（GA） § コーオプ演習（IA） § インターンシップ演習（LA） § 政策科学特殊講義（コーオプ演習）（P1） § 51664 講義（コーオプ演習）（WA）

担当者名 / Instructor　加藤 敏明　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムで、二つの特長を備えています。

一つは、後期セメスター期間を通じて、企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム（5名程度）が取り組む実践的で自律的な学習プログラムであること。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

二つ目は、本科目が文部科学省の「平成17年度派遣型高度人材育成協同プラン」の選定プログラムであることです。日本ではまだ数少ないコーオプ教育プログラムとして学内外の注目を集めているばかりか、国の委託事業として各チームに専用のパソコンが貸与されたり、活発な学習活動への支援が行われます。こうして、キャンパス内にとどまらない幅広い学習活動がサポートされます。

本演習は4月中旬～5月頃に募集と選考を行います。詳細は4月上旬頃にガイダンスを行いますので、学部事務室の掲示板またはインターンシップオフィスで日程を確認してください。なお、選考合格後には履修料（1万円）の納入が必要となります。

到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオプ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオプ教育（Cooperative Education）に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」（研究科および3回生以上配当科目、BKC開講）が夏期集中講義として開講されます。本学の大学院生のほか、大学コンソーシアム京都を通じて学外からも受講生が参加する科目で、受講により本演習の理解は一段と深まります。

また、本演習は全学型キャリア教育科目にも位置づけられていて、同じ科目群の「キャリア形成論Ⅰ」（1回生前期配当科目）、「キャリア形成論Ⅱ」（2回生前期配当科目）、「インターンシップ入門」（2回生後期配当科目）、「キャリア形成論Ⅲ」（3回生前期配当科目）の受講も望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
（開講前）	【学内公募】	①参加企業からの課題が2008年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2009年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考（リポート、面接）が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
	【リスクマネジメント研修】	7月に実施される、全学インターンシップ・プログラムの「リスクマネジメント研修」等を受講します。
（開講）	【学内研究会】	7月初旬に第1回（チームの顔合わせ、課題・会社研究）が、そして9月下旬から年末まで原則として毎週、授業形式で学内研究会が両キャンパスで行われます。内容は、チームによる自主的学習活動です。
	【プレゼンテーション研修】	9月上旬に、専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表、中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
	【企業研修】	9月中に会社研究を目的に、2日間限定で参加企業に出向き研修（インターンシップ）を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	【企画立案研修】	9月下旬に、専門家を学外から招き、企画立案に関する基本的なノウハウを習得します。
	【中間発表】	11月上旬に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。
	【成果発表】	2009年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。

【総括評価】	2010年1月初旬の学内研究会で、自己評価と他者評価を通じた総括評価を評価シートをもとに行うほか、リーダーに関してはグループワーク形式で別途総括授業を行います。
【報告書作成】	2009年度内に、チーム単位で報告書（120ページ程度）を作成します。報告書は受講生にも配布されますので、就職活動などに大いに活用できます。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、②各種レポートの提出（随時）、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、④成果発表における受入者評価、⑤報告書、の5要素をもとに総合的に評価します。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員（加藤）が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取ろうという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／／国内外のコーオプ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／／産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント（ミレニアム版）	フィリップ・コトラー／ピアソン・エデュケーション／／問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。

コーオプ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

コーオプ演習（GB） § インターンシップ演習（LB） § 政策科学特殊講義（コーオプ演習）（P2） § コーオプ演習（IB） § 特殊講義（コーオプ演習）（WB）

51665

担当者名 / Instructor　廣瀬 幸弘　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムで、二つの特長を備えています。

一つは、後期セメスター期間を通じて、企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム（5名程度）が取り組む実践的で自律的な学習プログラムであること。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

二つ目は、本科目が文部科学省の「平成17年度派遣型高度人材育成協同プラン」の選定プログラムであることです。日本ではまだ数少ないコーオプ教育プログラムとして学内外の注目を集めているばかりか、国の委託事業として各チームに専用のパソコンが貸与されたり、活発な学習活動への支援が行われます。こうして、キャンパス内にとどまらない幅広い学習活動がサポートされます。

本演習は4月中旬～5月頃に募集と選考を行います。詳細は4月上旬頃にガイダンスを行いますので、学部事務室の掲示板またはインターンシップオフィスで日程を確認してください。なお、選考合格後には履修料（1万円）の納入が必要となります。

到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオプ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオプ教育（Cooperative Education）に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」（研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講）が夏期集中講義として開講されます。本学の大学院生のほか、大学コンソーシアム京都を通じて学外からも受講生が参加する科目で、受講により本演習の理解は一段と深まります。

また、本演習は全学型キャリア教育科目にも位置づけられていて、同じ科目群の「キャリア形成論Ⅰ」（1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講）、「キャリア形成論Ⅱ」（2回生前期配当科目、衣笠開講）、「インターンシップ入門」（2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講）、「キャリア形成論Ⅲ」（3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講）の受講も望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
（開講前）	【学内公募】	①参加企業からの課題が2008年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2009年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考（リポート、面接）が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
	【リスクマネジメント研修】	7月に実施される、全学インターンシップ・プログラムの「リスクマネジメント研修」等を受講します。
（開講）	【学内研究会】	7月初旬に第1回（チームの顔合わせ、課題・会社研究）が、9月下旬から年末まで原則として毎週、授業形式で学内研究会が両キャンパスで行われます。内容は、チームによる自主的学習活動です。
	【プレゼンテーション研修】	9月上旬に、専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表、中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
	【企業研修】	9月中に会社研究を目的に、2日間限定で参加企業に出向き研修（インターンシップ）を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	【企画立案研修】	9月下旬に、専門家を学外から招き、企画立案に関する基本的なノウハウを習得します。
	【中間発表】	11月上旬に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を、原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。
	【成果発表】	2009年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。

【総括評価】	2010年1月初旬の学内研究会で、自己評価と他者評価を通じた総括評価を評価シートをもとに行うほか、リーダーに関してはヒアリング形式で別途総括評価を行います。
【報告書作成】	2009年度内に、チーム単位で報告書（120ページ程度）を作成します。報告書は受講生にも配布されますので、就職活動などに大いに活用できます。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、②各種レポートの提出（随時）、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、④成果発表における受入者評価、⑤報告書、の5要素をもとに総合的に評価します。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員（加藤）が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取ろうという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／／国内外のコーオプ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／／産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント（ミレニアム版）	フィリップ・コトラー／ピアソン・エデュケーション／／問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。

コーオプ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

国内インターンシップ（専門）（GA） § 国内インターンシップ（GA） § 海外インターンシップ（GA） § 海外インターンシップ（専門）（GA） § 国内インターンシップ（IA） § 海外インターンシップ（IA） § 学校インターンシップ（GA）

54822

担当者名 / Instructor　加藤 敏明　　単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生（2回生以上）を対象に単位認定を行いますが、そのためにはインターンシップ受入先機関の決定後、①受講登録を行い、②履修料（1万円）を納入し、③「事前、事後研修」をすべて受講し、④最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末から5月にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部やインスティチュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問（あるいは興味関心をもっている学問領域）の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、関連科目の「キャリア形成論Ⅰ」（1回生前期配当科目）、「キャリア形成論Ⅱ」（2回生前期配当科目）、「インターンシップ入門」（2回生後期配当科目）および「キャリア形成論Ⅲ」（3回生前期配当科目）の受講が望まれます。
また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」（3回生以上後期配当科目）の受講にもぜひチャレンジしてください。
なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」（研究科および3回生以上配当科目、BKC開講）が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1、2	事前研修Ⅰ／総合オリエンテーション、インターンシップとは何か（基本的視点）、グループワーク（専攻学問の再検証と問題発見への挑戦）	
	事前研修Ⅱ／ビジネスマインド研修、ビジネスマナー研修	事前研修Ⅲ／リスクマネジメント研修、企業研究研修（エントリー対策、財務分析等）
3	インターンシップ研修（原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の、授業がない時期に実施されるものを基本とします）	
4	事後研修／インターンシップ研修における学びの成果発表、グループワーク（就業体験を通じての学びの確認と今後の学習目標設定）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業（団体）に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常点（事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習の内容をもとに評価します）：70%、最終レポートなど：20%、その他（研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります）：10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物（最終レポートなど）を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修に遅刻や欠席をしたり、各種提出物の締め切り後の提出は、その時点でF評価になります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

当たり前のことですが、インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

仕事！	スタッズ・ターケル／晶文社／ISBN4-7949-5661-4／1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編／日本経済新聞社／ISBN4-532-35114-6／日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上　龍／幻冬舎／ISBN4-344-00429-9／人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立ちそうな3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

3月末から5月にかけて開催される学内の様々なインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、関連サイトが紹介されます。

その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

国内インターンシップ（専門）（GA） § 国内インターンシップ（GA） § 海外インターンシップ（GA） § 海外インターンシップ（専門）（GA） § 国内インターンシップ（IA） § 海外インターンシップ（IA） § 学校インターンシップ（GA）

54824

担当者名 / Instructor　加藤 敏明　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生（2回生以上）を対象に単位認定を行いますが、そのためにはインターンシップ受入先機関の決定後、①受講登録を行い、②履修料（1万円）を納入し、③「事前、事後研修」をすべて受講し、④最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末から5月にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部やインスティチュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問（あるいは興味関心をもっている学問領域）の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、関連科目の「キャリア形成論Ⅰ」（1回生前期配当科目）、「キャリア形成論Ⅱ」（2回生前期配当科目）、「インターンシップ入門」（2回生後期配当科目）および「キャリア形成論Ⅲ」（3回生前期配当科目）の受講が望まれます。
また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」（3回生以上後期配当科目）の受講にもぜひチャレンジしてください。
なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」（研究科および3回生以上配当科目、BKC開講）が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1、2	事前研修Ⅰ／総合オリエンテーション、インターンシップとは何か（基本的視点）、グループワーク（専攻学問の再検証と問題発見への挑戦）	
	事前研修Ⅱ／ビジネスマインド研修、ビジネスマナー研修	事前研修Ⅲ／リスクマネジメント研修、企業研究研修（エントリー対策、財務分析等）
3	インターンシップ研修（原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の、授業がない時期に実施されるものを基本とします）	
4	事後研修／インターンシップ研修における学びの成果発表、グループワーク（就業体験を通じての学びの確認と今後の学習目標設定）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業（団体）に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常点（事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します）：70%、最終レポートなど：20%、その他（研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります）：10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物（最終レポートなど）を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修を遅刻や欠席したり、各種提出物の締め切り後提出は、その時点でF評価になります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

当たり前のことですが、インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

仕事！	スタッズ・ターケル／晶文社／ISBN4-7949-5661-4／1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編／日本経済新聞社／ISBN4-532-35114-6／日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上　龍／幻冬舎／ISBN4-344-00429-9／人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立ちそうな3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

3月末から5月にかけて開催される様々な学内のインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、関連サイトが紹介されます。

その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

医療福祉論（S）

13254

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映像や新聞記事などを活用しながら、保健医療福祉諸制度の改革のなかで患者・利用者の主体化を支援する専門職としての関わりを理解するための知識を養う。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 保健医療福祉を臨床的視点から問い直す
2. 患者・利用者のQOLや尊厳について考察する
3. 保健医療福祉をシステムとしてみる
4. 保健医療福祉の制度の変遷と改革動向を探る
5. 患者・利用者理解のモデルを検討する
6. 他の専門職との連携の意義を明確化する
7. 保健医療福祉問題を多次元的に検討する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	保健医療と法制度の歴史	
3	医療保険の法制度と現状・課題	
4	診療報酬制度の概要と課題	
5	保健医療福祉政策の概要	
6	保健医療福祉におけるコーディネート機能	
7	各専門職の役割と機能分担	
8	各専門職の機能と連携	
9	患者、家族、地域などの非専門職との連携	
10	精神障害と精神保健福祉	
11	慢性疾患・難病への対応と保健医療福祉	
12	高齢者の主な疾患と保健医療福祉	
13	ターミナルケアと医療福祉 リハビリテーションと医療福祉	
14	地域における保健医療福祉の現状と課題	
15	授業のふり返り(30分) 事例の活用に関する試験(60分)」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてペーパー試験を行う（試験時間：1時間）。 コミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

NPO・NGO論（S）

13284

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを1-2回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO——政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②——NGOでの職員の働き方を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係——「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として——	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係——アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として——	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO——地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から——	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度——1998年のNPO法成立の背景から——	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化——NPOの介護保険制度への参入を事例として——	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較——Linuxの成功から——	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発——パブリックリソースセンターの取り組みから——	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点評価	20 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「F」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など
②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/

その他 / Others

カウンセリング論 (S)

13296

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

急激な社会の変化にともない，多くの人びとに心身の病やストレスが蔓延している。こうした問題に対して，今こそ心のケアとしてカウンセリングが注目されている。本講義では，カウンセリングが生まれるまでの歴史的経過や心の病の捉え方を論じる。また，カウンセリングに関する基本問題を解説し，主要理論である精神分析，交流分析，認知行動療法などを具体的な事例を交えて紹介する。また，傾聴技法の習得のために，紙上応答訓練や逐語録の検討などの方法を活用する。

到達目標 / Attainment Objectives

①カウンセリングが必要とされた歴史的経緯と心の病に関する理解を深める。
②初回面接から終結に至るまでのカウンセリングにおける基本的な問題を理解する。
③カウンセリングに用いられる代表的な理論を学ぶ。
④カウンセリングに用いられる傾聴技法を習得する。
⑤以上を通じて，自己理解を深めるとともに，対人関係におけるコミュニケーション能力を高める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	カウンセリングとは何か	相談・歴史的ルーツ・カウンセラーの適正
2	心の病とは何か	心身症・臨床心理学の歴史・トラウマ
3	カウンセリングの基本問題1	クライエントとの出会い・面接の構造化・落ち着きのない子ども
4	カウンセリングの基本問題2	面接中期の諸問題・終結・対話分析
5	心の深層の理解1—精神分析	フロイト・無意識・自由連想
6	心の深層の理解2—ユング心理学	コンプレックス・言語連想検査・箱庭療法
7	人間関係の心理学1—アドラー心理学	ライフスタイル・対人関係論・勇気づけ
8	人間関係の心理学2—交流分析	構造分析・エゴグラム・ゲーム分析
9	傾聴技法の習得—クライエント中心療法	ロジャーズ・自己一致・現象学
10	反省してはいけない！—認知行動療法	学習理論・認知の歪み・論理療法
11	心の奥底にある感情に触れてみる—ゲシュタルト療法	「今，ここ」での気づき・空椅子の技法・感情体験
12	家族システムへの介入—家族療法	アダルトチルドレン・円環的因果論・水を飲み続ける少女
13	心理アセスメントの方法—心理テスト	質問紙法テスト・深層心理・フィードバック
14	日本のカウンセリング技法	森田療法・内観療法・ロールレタリング
15	カウンセリング技法の復習・テスト	傾聴技法・対話分析

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	カウンセリングにおける基本問題や主要理論に関する理解を問う。また，具体的なカウンセリング場面を想定した問題も出題する。
平常点評価	20 %	2回程度，講義に対する理解を深めるための小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通じて，興味がわいた内容に関連する図書を積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「カウンセリングの理論」	國分康孝／誠信書房／4-414-40308-1 C3011／
「カウンセリングの実際問題」	河合隼雄／誠信書房／4-414-40119-4 C3011／

「安心して絶望できる人生」　　向谷地生良 浦河べてるの家／日本放送出版協会／4-14-088199-2 C0236／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

家族関係論（S）

13299

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

家庭が安心の場であり、家族の愛情に支えられていると感じる人もいるが、家族により苦痛を味わい、葛藤を抱えている人もいる。家庭内に居場所が無かったり、孤独に苦しむ人も増えている。こうした家族危機の諸相について、育児不安、児童虐待、家庭内暴力、家庭内殺人等の問題を取りあげながら分析を加えてみたい。また、家族福祉の課題や家族援助及び子育て支援についても考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・家族の定義、概念、家族の動向に関する基本的な理解を得る。
・家族問題について幅広く理解できる。
・親子関係、夫婦関係について理解を深める。
・家族援助・子育て支援についての知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	家族とは何か
2	現代家族の諸相（1）	少子化、核家族化 、子どもの価値の変化
3	現代家族の諸相（2）	結婚観の変化、晩婚化、性別役割分業、専業主婦
4	母親一人の子育てと育児不安	子育て家族の孤立化
5	3歳児神話の影響	母性愛剥奪理論 、愛着障害
6	父親の役割、父性と母性のちがい？	育児参加、育児休業
7	児童虐待	貧困問題、親の養育体験、子育ての技術
8	子どもを虐待する家族への援助	家族応援ミーティング、親業訓練
9	思春期、青年期危機と親子関係（1）	「良い子」の苦しみ
10	思春期、青年期危機と親子関係（2）	親からの自立の葛藤
11	機能不全家族の中の子ども	機能不全家族とは何か、アダルトチルドレンと癒し
12	ドメスティック・バイオレンス	家庭内暴力、シェルター
13	カナダにおける家庭福祉と家族支援	アドボカシー、子どもの権利擁護
14	世界に学ぶ子育て支援の方向	保育保障、経済的支援、父親の育児参加
15	総括講義	これからの家族のあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子育て支援の現在	垣内国光，桜谷真理子／ミネルヴァ書房／4-623-03643-XC3336／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大日向雅美	大日向雅美／日本評論社／4-535－56156－7／
個人化する家族	目黒依子／勁草書房／4-326－65074－5／
「家族」と「幸福」の戦後史	三浦展／講談社現代新書／06－149482－1　C0236／
落合恵美子	21世紀家族へ／有斐閣選書／4-641－28091－6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際福祉社会論(S) § 国際福祉社会論(I)

13339

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

各国の子育ての状況を比較することをとおして、先進諸国の福祉制度の特徴を明らかにします。

公的機関が中心となって問題解決するのが福祉国家であるとするならば、家族、企業、公的機関、NPO 等が互いに協力し合いながら問題解決するのが福祉社会であると考えられます。とはいえ、国によってこの協力関係のあり方は様々です。

講義の中で、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、なぜそれらの方法が採用されたのか考えましょう。そしてそれぞれの方法ごとに、何が解決され、何が新たな問題として生じているのかを考えましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

各国でさまざまな方法で行われている福祉追求のあり方を学び、それらを体系的に理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	リスク管理
第2回目	日本の子育て	家族、性別役割分業
第3回目	スウェーデンの子育て(1)	家族、税制
第4回目	スウェーデンの子育て(2)	保育制度
第5回目	スウェーデンの子育て(3)	両親休暇制度、短時間勤務
第6回目	スウェーデンの子育て(4)	家庭内分業
第7回目	スウェーデンの家族政策を支えるもの	働き方、労働市場政策
第8-9回目	フランスとドイツの子育て	家族、働き方、家族政策
第10回目	アメリカの子育て	家族、働き方、家族政策
第11回	社会的リスクの管理方法	工業社会、脱工業社会、福祉国家
第12回目	福祉国家の基本モデルとサービス産業のジレンマ	
第13-14回目	福祉国家の三類型	自由主義レジーム、保守主義レジーム、社会民主主義レジーム
第15回	まとめ	経済と福祉と家族のつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞、雑誌、映画など様々な機会をとおして、各国の福祉のあり方はさまざまであるということを知り、その社会的背景に注意を向けてみて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本的な問題や概念について理解し、自分の言葉で論じることができているかを評価する。
平常点評価	10 %	小テストおよび出席状況によって評価する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料として使います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の内容と日常生活を関連づけて考えてみて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポスト工業経済の社会的基礎:市場・福祉国家・家族の政治経済学	G.エスピン-アンデルセン／桜井書店／4-921190-00-3／
福祉資本主義の三つの世界:比較福祉国家の理論と動態	G.エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6／

講義中に適宜、紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、紹介します。

その他 / Others

児童・青年心理学（S） § 児童青年の心理（S） § 児童青年の心理（SG） § 児童・青年心理学（S）

15466

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では，児童期および青年期における発達的特徴について講述するとともに，そうした発達的特徴を生み出す諸要因について論じる。大まかには，認知発達的側面と対人関係的・感情的側面の両面から，発達的特徴について考察するとともに，統合的な観点としての人格発達についても触れる。児童期における発達にかかわっては，特に学校教育との関係ならびに社会的関係に焦点を当てる。また，青年期における発達にかかわっては，自立と依存という二つのモメントに揺れる心性に焦点を当てるとともに，特に現代的な青年心理の特徴についても考察を行いたい。あわせて，発達障害に触れるとともに，児童期・青年期における発達上の諸困難に関しても論じることとする。

到達目標 / Attainment Objectives

①児童期・青年期の生活や発達的特徴に関心を深めるとともに，それらを捉える視点を獲得すること。
②児童期ならびに青年期を中心とする心理発達上の諸特徴についての資料の読み取りや分析に習熟すること。
③児童期・青年期の発達に影響する諸条件についても基本的な知識を得るとともに，発達を捉えるための理論について知ること。
④これら3点を基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学 S

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の概要と進め方について」及び「児童期・青年期とは何か：発達の時期区分と生涯発達上の位置づけ」	生涯発達，発達段階，歴史の中の児童・青年
第2回	幼児期から児童期への移行	リテラシー，幼児教育，学校教育，環境移行
第3回	児童期前期の発達的特徴	学校適応，具体的操作期
第4回	児童期後期の発達的特徴	集団生活，ギャング・エイジ
第5回	思春期とは何か	性的成熟，アドレッセント・スパート，思春期危機，ジェンダー
第6回	青年期の発達的特徴	自己理解，アイデンティティ
第7回	児童・青年における認知の発達	思考の発達，ピアジェ，9～10歳の発達の節，社会認識，形式的操作期
第8回	児童・青年における感情の発達	共感性、視点取得、自尊感情、怒りと感情制御
第9回	家族の中の児童・青年	家族関係，親の機能，依存と自立
第10回	学校の中の児童・青年	授業，学力，学校知，進路選択
第11回	就職と労働	職業選択，キャリア・発達，日本社会の産業構造
第12回	青年期と非行	薬物乱用，性非行，精神疾患
第13回	不登校と引きこもり	不登校，引きこもり，精神疾患，社会的不適応
第14回	現代の児童・青年の生活と文化	依存、自立、個性、生活時間、生活空間、文化
第15回	児童・青年を理解する方法	行動観察，質問紙，面接，状況の理解，関係の中での理解，権利主体

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業において学んだ知識の獲得状況を評価するとともに、そうした知識を踏まえて児童期・青年期の問題について考察する能力を評価する。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

WebCTに、授業用レジュメや資料を掲載するので、参考にして欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学生の生活とこころの発達	心理科学研究会／福村出版／978-4-571-23045-5／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新 かたりあう青年心理学	心理科学研究会（編）／青木書店／978-4250990090／問題意識を広げるために

児童心理学試論	心理科学研究会「児童心理学試論」編集委員会／三和書房／978-4783300298 ／問題意識を広げるために

上記以外にも，各授業時に参考となる書籍等については紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

児童福祉論（S） § 児童福祉論（SG）

15464

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。そこで、子どもの権利について学んだ上で、児童福祉の展開に関して学び、中でも特に児童虐待や非行など、援助が困難な領域の基本を学ぶ場とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基本を学ぶものである。児童虐待防止法の第1条にあるように、子どもの命とその人生、そして次世代までを視野にいれた援助を学ぶ科目である。本来通年でも不足するボリュームを半期で学ぶため、相当厳しい内容となり、例年相当数がFとなる。教養レベルではないのでこころして受講されたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の系譜	
2	子どもの権利の系譜	
3	子どもの権利条約	
4	日本の子どもの課題	
5	子ども家庭福祉の施策	
6	子ども家庭福祉の実施体制	
7	分野別の課題（子育て支援・保育）	
8	分野別の課題（健全育成）	
9	分野別の課題（自立支援）	
10	分野別の課題（児童虐待）	
11	分野別の課題（非行）	
12	子ども家庭福祉の専門職	
13	子ども家庭ソーシャルワーク	
14	子ども家庭福祉の課題	
15	子ども家庭福祉の今後	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験として実施する。
レポート試験	0 %	講義中に指示し、回収日を指定するので、特に気をつけておくこと。
平常点評価	30 %	コミュニケーションカードを求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉発達史から、具体の援助技術方法論まで言及するので、そのような領域の基本書を一度目を通しておくことをすすめる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子ども家庭福祉論	高橋重宏・才村純編著／建帛社／4-7679-3304-8／必ず必要である。

福祉六法など、最新の児童福祉法、児童虐待防止法、少年法、などの掲載された六法が必須である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの権利と社会的子育て	許斐・望月・野田・桐野／信山社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/index.html

（厚労省子ども子育て支援）

その他 / Others

司法福祉論（S）

15513

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。
従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族への介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになっている。
本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。
留意点として、司法福祉は法学的知識や心理学的知識が求められるものの、あくまで福祉分野の科目であることを認識して受講されたい

到達目標 / Attainment Objectives

司法福祉の分野を理解することと同時に、福祉課題解決のために司法が関与する余地の意義について学習する。非行・虐待・財産保全などに関して、司法活用の余地がある福祉課題であるという側面と、各事例がもつ福祉的側面を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	司法福祉の概念と定義	
2	司法福祉の発見と発展	
3	司法手続の概要とシステム	
4	司法に関わる福祉課題（夫婦）	
5	司法に関わる福祉課題（親子）	
6	司法に関わる福祉課題（虐待）	
7	司法に関わる福祉課題（地域福祉権利擁護事業と成年後見）	
8	少年保護制度と少年法	
9	少年法と児童福祉法	
10	非行へのまなざし	
11	非行を見分けること	
12	非行を施設で克服すること	
13	非行を在宅で克服すること	
14	被害者を支えること	
15	司法福祉の今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レポート課題としても取り上げる予定であるので、07年中の司法福祉に関する社会的事象（事件や制度制定など・特に少年法や児童虐待に関連するものなど）に関心を向けてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	講義中に要求する課題と小レポート

原則毎回コミュニケーションカードの記入を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講期間中は、社会で生じる司法福祉上の課題に関心を持って、収集につとめてください

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる司法福祉	村尾・廣井／ミネルヴァ書房／4-623-04000-3／

少年法・児童福祉法・児童虐待防止法・民法などいくつかの法令を参照するので、できれば小六法などを準備すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
犯罪白書	法務省／／／

司法統計年報	最高裁／／／
家庭裁判月報	最高裁家庭局／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉法制（S）

13308

担当者名 / Instructor　密田 逸郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在、私たちにとって「社会保障・社会福祉制度」は、必要不可欠な生活の条件となっている。この講義では、社会保障・社会福祉制度の生成・発展の歴史を辿ることで、社会保障・社会福祉の理念、本質、機能について学ぶとともに、21世紀における福祉国家再生のための社会保障・社会福祉のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

今日、社会保障・社会福祉は、テレビ・新聞等に取り上げられない日がないほどポピュラーになっているものの、一方では、学問としてとらえると、難しいと敬遠されているのが現状である。そこで講義では、社会保障・社会福祉の体系や理念を学び、少しでも身近なものと感じ興味を持っていただこうと思っている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義①	所得保障、対人社会サービス、社会保障法（アメリカ、ニュージーランド）
第2回目	社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義②	ILO、ベヴァリッジ・リポート、憲法第25条、社会保障制度審議会
第3回目	社会保障のあゆみとダイナミックス―イギリス及びドイツにおける歴史	救貧法、本源的蓄積、ブース、ラウントリー、飴と鞭の政策、ビスマルク
第4回目	社会保障・社会福祉の基本原理と限界	生活障害、生活危険、生活不能、生活の社会化、労働の価値、社会保険方式、消費税
第5回目	生活保護①	貧困問題、セーフティネット、社会的排除
第6回目	生活保護②	格差社会、ベーシックインカム
第7回目	第1回検証テスト	＊検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性がある。
第8回目	公的年金①	国民年金、厚生年金保険、共済年金、国民年金制度の成立、国民皆年金
第9回目	公的年金②	年金記録管理問題、社会保険方式、消費税
第10回目	社会福祉法の成立、社会福祉基礎構造改革	措置制度の解体、利用料概念、営利企業参入、新自由主義
第11回目	介護保険法と障害者自立支援法	福祉の市場化、福祉サービスの「商品化」、介護保険と障害者自立支援法の将来的統合
第12回目	保健・医療制度	国民皆保険、医療の質と水準、医療の市場化、混合診療、後期高齢者医療制度
第13回目	消費税の本質と福祉目的税化	売上税、輸出戻し税
第14回目	第2回検証テスト	＊検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性がある。
第15回目	新しい社会保障・社会福祉の姿	社会保障基金、社会保障事務所、社会保障税

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	定期試験は70点とする。
平常点評価	30 %	前半、後半に1回ずつ計2回の検証テストを行う。配点は1回を15点とする。

検証テストは、授業の進度によって実施時期を変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会保障の設計	芝田英昭／文理閣／ISBN4－89259－521－7／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会保障の基本原理と将来像　　芝田英昭／法律文化社／ISBN4－589－02724－0／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省：http:/www.mhlw.go.jp

その他 / Others

障害者とコミュニケーション（S） § 障害者とコミュニケーション（SG）

15553

担当者名 / Instructor　坂井田 美代子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私達はコミュニケーションを通して、人間関係を築き・広げ・豊かに創りだしている。また、コミュニケーションをとることで、さまざまな刺激を受け、考え、判断し人として成長し,社会参加を図っている。音声によるコミュニケーションが中心の社会において聴覚障害者は情報の伝達から阻害され、情報の共有を阻まれてしまううえに、聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニ ケーション手段等の相違からコミュニケーションの壁をつくられやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けている。コミュニケーション保障や情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般の根源的な課題として表出している。

本講義では聴覚障害やコミュニケーションの基礎的な理解を基に、社会生活全般における聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態・課題を明らかにしつつ、情報保障、コミュニケーション保障の現状やあり方を中心に授業を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

:聴覚障害やコミュニケーションの役割について理解し説明することができる。
:コミュニケーション手段や使用方法を理解し、聴覚障害者とコミュニケーションをとる姿勢がもてる。
:聴覚障害者を取り巻く社会環境やコミュニケーション環境について述べることができる。
:バリアーフリー調査を通して共生の視点で地域社会のコミュニケーション課題を整理することができる。
:聴覚障害者のコミュニケーション保障や情報保障について提言ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入／聴覚障害のコミュニケーション環境の概要	授業の目標／進め方／成績評価方法等／新聞記事に見る聴覚障害者の情報保障の実態
第2回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（1）：コミュニケーションの役割	コミュニケーション機能、コミュニケーションサイクル、コミュニケーション障害
第3回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（2）：聴覚障害の基礎的理解	耳の役割、聞こえの仕組み、障害の部位、障害の原因、障害の特徴、聴力レベル
第4回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（3）：聴覚障害者のコミュニケーション手段	コミュニケーション成立の要件、コミュニケーション手段の決定要因、ことばの役割と発達、ろう者・中途失聴難聴者・盲ろう者のコミュニケーション手段と方法、手話、補聴器、触手話等
第5回	聴覚障害者の情報保障（1）聴覚障害者の体験から学ぶ	障害の受容、生活体験、大学でのコミュニケーション保障と情報保障、職場でのコミュニケーション保障と情報保障、ノートテーク、手話通訳等
第6回	聴覚障害者の情報保障（2）手話の成立と発展そして創造	手話発展の歴史、聴覚障害者の暮らしと手話、音声言語と手話、手話の特徴、新しい手話の創造
第7回	聴覚障害者の情報保障（3）手話通訳制度	手話通訳保障の歴史、手話通訳の役割、手話通訳の養成、手話通訳制度
第8回	聴覚障害者の情報保障（3）情報から阻害された聴覚障害者の実態について学ぶ。「ドン（原爆）が聞こえなかった」・「阪神大震災」ビデオから学ぶ	家族・近隣・友人など私的なコミュニケーションの状況、行政等の公的な情報保障の在り方、コミュニケーションから閉ざされた実態、人生に及ぼす影響、災害時における情報保障
第9回	聴覚障害者とバリアフリー（1）聴覚障害者にとってのバリアフリー	バリア・バリアフリーの概念、物理的な障壁、文化・情報面での障壁、意識上の障壁、制度的な障壁、経済的な障壁、聴覚障害者の情報保障
第10回	聴覚障害者とバリアフリー（2）「私の生活圏における聴覚障害者のバリアフリーの実態」の調査と発表	音声情報、視覚情報、ユニバーサルデザイン、社会の聴覚障害者に対する意識、人的資源 共生の視点、個人や地域での取組、必要な制度
第11回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう運動の歴史ー求め続けた情報保障ー	ろう集団の形成の時代、組織の誕生仲間作りの時代、権利運動が生まれた1960年代、手話の市民権確立の時代、社会連帯の運動、更なる運動へと広がる1990年代、ろう運動の展望
第12回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）日常の暮らし、参政権、運転免許	コミュニケーション支援事業、日常生活用具、子育ての工夫、手話サークル、公職選挙法、政見放送、運転免許裁判、道路交通法88条と相対的欠格事由
第13回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう教育	世界のろう教育、日本のろう教育の歴史、現在のろう教育の状況と課題、教育手段の変遷、高等教育機関における聴覚障害者学生支援

第14回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（2）聴覚障害者と労働	障害者雇用に関する労働施策、就労支援、聴覚障害者の雇用及び就労状況、職場でのコミュニケーション課題、障害者が求める労働継続のための要望
第15回	聴覚障害者のコミュニケーション保障の課題（4）：聴覚障害者のコミュニケーション環境の整備	聴覚障害者福祉施策、聴覚障害関連制度の課題、障害者の権利条約、人的社会資源の充実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義終了時に下記のような復習課題、予習課題を提示する。
:自分はどのようなコミュニケーションをしているのか、自分にとってコミュニケーションはどんな役割を果　たしているのかを考察する。
:聴覚障害者の体験記録などを読む。
:テレビ等の公的情報保障の現状について意識し視聴する。
:公表されている資料に目を通す（障害者の権利条約）等

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったキーワードから出題し、到達目標を達成できているかどうかを検証する、記述試験を実施する。
平常点評価	40 %	毎回の授業終了時に、その授業内容に関してのコメント（コミュニケーションレポート）をもとめる。 受講態度のすぐれた者への加点はありうる。 またこのコメントは出席の確認にも使用する。 中間レポート（バリアーフリー調査レポート）の提出を求める。

定期試験はノートの持ち込み可能とする、毎回の講義記録を整理しておくことを望む。
中間レポートの提出は12月頃の予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ビデオ教材、ゲスト講師による聴覚障害者当事者の体験、自分の生活圏におけるバリアフリー調査を通して、コミュニケーションの意味や役割、社会の現状等具体的な課題として実感的に学ぶことを望む。下記にふれているが手に入らない参考書が多いこともあるので、興味関心のあるキーワードについては遠慮なく積極的な質問を望む。

教科書 / Textbooks

毎回の授業で詳細レジメ、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
聴覚・言語障害者とコミュニケーション	共著／一橋出版／978－4－8348－0349－5／聴覚障害・コミュニケーションの基礎的理解を深める
聴覚障害児・者支援の基本と実戦	奥野栄子／中央法規／978－4－8058－4794－7／コミュニケーション環境の制度的の理解を深める
手話通訳問題研究	共著／全国手話通訳問題研究会／／手話通訳や通手話訳制度等の全国情報の提供
新しい聴覚障害者像を求めて	共著@／（財）全日本ろうあ連盟／4－915675－39－4／ろう運動や聴覚障害者のコミュニケーション環境の理解を深めるため

聴覚関係の書物は少なく、聴覚や手話に関わる団体等が、さまざまな調査や研究をし報告書等出されているものの、一般書店や図書館などに置かれておらず、なかなか目に触れることや手にすることが困難な実態にある。各授業のキーワードや関する詳細資料は配布するが、授業の進行に合わせ参考図書、報告書等紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

jdf.or.jp 当事者団体（全日本ろうあ連盟）の考え方、現在の聴覚障害者を取り巻く課題についての運動状況、研究状況などの参考。他キーワードに関する理解を深めるために授業時に紹介する。

その他 / Others

障害者福祉論（S） § 障害者福祉論（SG）

15468

担当者名 / Instructor　趙 没名

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、障害者福祉の基本理念をはじめ、障害者福祉の歴史、障害者の実態、障害者福祉法制の体系と内容、それと障害者福祉とリンクする障害児教育および余暇活動、障害者の就労の6つの分野で構成される。

到達目標 / Attainment Objectives

21世紀の初頭に、日本の障害者福祉制度は措置から契約へと抜本的な転換を成し遂げた。この転換は、「同一年齢の他の国民と同等な生活を障害者に権利として保障する」というノーマライゼーションの原理を尊重したものであろうか。この授業では、障害者福祉に関する基本理念の発生の背景と根源を理解し、そして障害者福祉の歴史と現状を把握し、今日の争点となる障害者福祉の問題点と課題を認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	障害者福祉論を学ぶにあたって	人権、モチベーション、専門職
2	障害者福祉の基本理念（1）	人権、リハビリテーション、完全参加と平等、ノーマライゼーション
3	障害者福祉の基本理念（2）	発達保障
4	障害者の概念	国際的な定義、日本国内での定義
5	障害者福祉の歴史（1）	国際障害者福祉の沿革
6	障害者福祉の歴史（2）	日本における障害者福祉の沿革
7	障害者の実態（1）	在宅の障害者の統計とドキュメンタリー
8	障害者の実態（2）	入所施設内の障害者の統計とドキュメンタリー
9	中間レポートの作成	
10	障害者福祉サービスの体系と内容（1）	サービス体系の仕組み
11	障害者福祉サービスの体系と内容（2）	自立支援法の成立背景と仕組み
12	障害者福祉サービスの体系と内容（3）	自立支援法への評価、ロールプレー、ドキュメンタリー
13	障害者福祉の周辺（1）	障害児保育・療育、特別支援教育、余暇活動
14	障害者福祉の周辺（2）	障害者の雇用と就労
15	ゲストスピーカーの証言	私と障害、私と障害者

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	基礎知識、論述
平常点評価	50 %	3回の月例小テスト

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

障害者福祉に関する日々の現実を複眼的に見る力を養う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法と実践の創造	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部／／
障害者福祉論	手塚直樹等／ミネルヴァ書房／／

教科書を二冊とも備える必要がある。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法の基本と活用	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部／／
福祉の思想	糸賀一雄／日本放送出版協会／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

心理臨床論（S）

15550

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

複雑多様化する現代社会を背景に，学校では不登校，いじめ，非行や神経症などの問題への対応に教師は苦慮し，青年期においてはひきこもり，リストカット，フリーターやネットカフェ難民といった問題が深刻化している。本講義では，児童期から青年期に至る過程で起きるさまざまな問題を具体的事実から捉え，その背景や要因を分析・検討する。講義では，事例研究やビデオ視聴をはじめ，実際にクライエントが書いた文章も取り上げ，問題をかかえる人の内面理解を深めつつ，支援のあり方を解説していく。

到達目標 / Attainment Objectives

①不登校，ひきこもり，非行などの問題を学ぶなかで，自己の価値観を問い直す。
②思春期の心の病理を通して，青年期の心の病を理解する。
③「人の心を受けとめる」とはどういうことかを体験的に考える。
④以上を通じて，今の自分の生き方とこれからの人間関係を考える契機とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	思春期の心の病理	抑圧・我慢・「いい子」の病理
2	不登校・ひきこもりの心理臨床1	学校恐怖症・学習理論・長期的支援
3	不登校・ひきこもりの心理臨床2	「引き」こもり・家族支援・家庭内暴力
4	非行・犯罪の心理臨床1	「強い子」・非行少年の理解・ロールレタリング
5	非行・犯罪の心理臨床2	少年犯罪の推移・薬物乱用・本音の吐き出し
6	非行・犯罪の心理臨床3	加害者意識・裁判員制度・矯正教育
7	いじめの心理臨床1	スティグマ・4層構造・いじめ自殺
8	いじめの心理臨床2	いじめる子の心理・いじめ指導・不満感情の表出
9	思春期の心の病理1―摂食障害	青年期女子の心理・母子関係・寂しさとストレス
10	思春期の心の病理2―青年期境界例	尾崎豊・幼児的思考・見捨てられ不安
11	思春期の心の病理3―自傷行為	リストカット・行動化・限界設定
12	児童虐待とトラウマ	グリム童話・虐待の5つの形態・心のケア
13	発達障害の心理臨床	LD（学習障害）・発達アセスメント・遊戯療法
14	子どもの心の受けとめ方	ひきこもり・宮本亜門・子どもの願い
15	心のメッセージの読み取り・テスト	わかりにくい行動・クライエントからの質問

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	心の問題や社会病理についての理解を試す問題を出題する。
平常点評価	20 %	2回程度，講義に対する理解を深めるための小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通して，興味がわいた内容に関連する図書を自ら積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「もういちど親子になりたい」	芹沢俊介／主婦の友社／978-4-07-257271-9／
「思春期ポストモダン」	斉藤環／幻冬舎／978-4-344-98059-4／
「少年をいかに罰するか」	宮崎哲弥・藤井誠二／講談社／978-4-06-281143-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

福祉社会学（S） §　生活福祉論（S）

15611

担当者名 / Instructor　前田 信彦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では次の3点を軸に講義をする。
①福祉国家の考え方について、最近の欧州の事例を踏まえながらレクチャーする。
特に、家族変動にともなう福祉の担い手の変容と国家の役割、およびWelfare to workにみられる「働き方」の変容と福祉国家の役割、について概説する。
②世界共通の課題となっている「高齢化=ageing」と福祉についてレクチャーする。特に社会学の「ソーシャル・ネットワーク研究」「ソーシャル・サポート研究」をベースに、高齢社会における社会的支援のあり方について考察する。
③「リスク社会」にあって、人と人との絆=ヒューマンセーフティ(Human safety net)をどのように構築するかについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

できるだけ国際比較の視点を取り入れて、比較福祉の視点から、家族、地域生活、労働、福祉国家の変容を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学の基本的な講義科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	講義の進め方 成績評価などの説明
第2回目	福祉国家とは何か① 家族変動　福祉国家	
第3回目	福祉国家とは何か② 欧州の福祉国家 Welfare to work	
第4回目	家族の福祉機能と福祉国家 家族の機能　福祉国家の役割	
第5回目	家族と親族ネットワークの役割 家族・親族ネットワーク　拡大家族　サポート	
第6回目	高齢化とソーシャル・ネットワーク 高齢化　ソーシャル・ネットワーク　パーソナル・コミュニティ	
第7回目	高齢化とコミュニティ 高齢社会　地域　ボランティア活動	
第8回目	各論①　テーマ　若者と成人期への移行 若者　成人期への移行	
第9回目	各論②　テーマ　労働市場と社会的ネットワーク 転職　労働市場	
第10回目	各論③　テーマ　高齢者のソーシャル・ネットワーク 定年への移行	
第11回目	各論④　テーマ　子育て支援とサポート 子育て支援　ワーク・ライフ・バランス	
第12回目	各論⑤　テーマ　親族ネットワークとサポート 親族組織　NPO　社会的支援	
第13回目	各論⑥　テーマ　高齢社会におけるヒューマンセーフティ① セーフコミュニティ	
第14回目	各論⑦　高齢社会におけるヒューマンセーフティ② Age friendly cities	
第15回目	講義のまとめ 福祉社会の構築	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席を重視する 遅刻および途中退出は出席とみなさない

講義期間に何度か小テストを実施する。
講義中にあげた参考図書やビデオなどの感想・考察のレポートを課す。レポートを提出しなかったものは定期試験は受験不可とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席を重視し、また最終試験も講義内容に沿ったテーマでの論文試験であり、かなり厳しい条件となる。
出席しないで単位だけ取りたい学生には勧めない。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事と家庭生活の調和 : 日本・オランダ・アメリカの国際比較	前田信彦／日本労働研究機構／／
アクティブ・エイジングの社会学－高齢者・仕事・ネットワーク	前田信彦／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

多文化共生論（S） § 多文化共生論（I）

15496

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）多文化性について理解する。
2）自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する
　方法を理解する。
3）多文化共生問題の本質を理解する。
4）問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5）具体的に提案し活動していく力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入：映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出（以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する）
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？ Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？ Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験（60点）
平常点評価	40 %	レポート4回（40点） ＋その他の感想レポートを総合評価する

ただし、受講生数によっては、最終講義試験をやめて、レポート4回と最終レポートによる総合評価へと変更する可能性もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。な ぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

地域社会論（S）

15563

担当者名 / Instructor　中川 勝雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要は、地域社会の歴史的展開を概観したうえで、社会と人間生活との相互関係を解明しうるような事象に焦点をあて、全体社会や人間にとっての地域社会の位置と意義について考察しようとするものである。授業内容の基本的な柱は、地域社会論の成り立ち、前近代・近代・現代の地域社会、日本の地域社会の歴史的展開、現代の地域社会の重層構造、新しい地域社会形成、などである。

到達目標 / Attainment Objectives

全体社会や諸個人にとって地域社会の位置と意義が的確に理解でき、地域社会の矛盾あるいは課題を解決しうる素養を習得すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習Ⅰ・Ⅱ、コア科目（現代と社会、現代とメデイア、人間と文化、現代と福祉）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	地域社会論（学）とは何か　その1	農村社会学、都市社会学、全般的都市化
2回目	地域社会学とは何か　その2	地域社会概念、地域社会の重層化
3回目	地域社会論（学）とは何か　その3	地域社会分析の基本視点、資本、住民、地域集団、地方自治体
4回目	地域社会の歴史的展開　その1	共同体としての前近代
5回目	地域社会の歴史的展開　その2	産業都市としての近代、現代の地域社会
6回目	日本における地域社会の歴史的発展の特質　その1	村落共同体、特殊な近代的地域社会の成立
7回目	日本における地域社会の歴史的発展の特質　その2	現代的地域社会の成立
8回目	日本における地域社会の歴史的発展の特質　その3	地域開発政策、企業誘致、地域社会変動、地方行政の広域化
9回目	現代社会における地域社会の構成　その1	地域社会の重層構造、市町村合併の歴史的展開
10回目	現代社会における地域社会の構成　その2	生活の諸側面、生活様式、農村的生活様式、都市的生活様式、共同社会的生活様式
11回目	現代社会における地域社会の構成　その3	生活の社会化・高度化と公共政策、地方分権改革と今後の課題
12回目	現代社会における地域社会の構成　その4	地域社会分析の意味の変化、地域社会分析の有効性、地域社会研究の課題と構成
13回目	新しい地域社会形成の取り組み　その1	村落共同体の現代的再編（行政と住民のパートナーシップによる村づくり）
14回目	新しい地域社会形成の取り組み　その2	ネットワーク型存立形態を有する沖縄村落
15回目	新しい地域社会形成の取り組み　その3	地域福祉センターとしてのNPO活動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

是非読んでほしい参考文献です。

青井和夫監修/蓮見音彦編集『地域社会学』サイエンス社、1991年

佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の社会と人間』法律文化社、1996年

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	地域社会についてのリアルな理解ができているかどうかで評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

居住地での地域生活についての実態に関心を向けること、授業中の私語は厳禁

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
政策型思考と政治	松下圭一／東大出版会／／地域社会を理解するのに有益である
地域再生の経済学	神野直彦／中央公論社／／現代地域社会理解の基本的視点を示している

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域福祉論（S） §　地域福祉論（SG）

15465

担当者名 / Instructor　津止 正敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

1.高齢・児童・障害等各分野別福祉との比較検討による地域福祉理解を図ると共に、地域福祉の固有の構造と領域、方法,歴史について理解を深める。
2.福祉を通して地域社会への興味・関心を深める。
※原則として、変更されることはありません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

児童、老人、障害の各分野別福祉論並びに社会福祉概論、社会福祉援助技術論等は事前に履修しておくことが望ましい。この講義は、具体的な地域福祉と地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義となる予定である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション－地域福祉論スケッチ－	歴史　社会問題　地域社会　社会福祉
2	地域福祉とコミュニティ －論文「地域福祉とネットワーク」－	コミュニティ　少子高齢化　ネットワーク
3	新しい地域福祉プログラム－論文「福祉とコミュニティ」－	コミュニティ　少子高齢化　ご近所
4	新しい地域福祉活動プログラム 2－ネオ町内会－	町内会･自治会　ソーシャルキャピタル
5	地域福祉と当事者支援①－子育て支援①－	子育て支援　子育てサークル　当事者
6	地域福祉と当事者支援②－子育て支援②－	子育て支援　子育てサークル　当事者
7	地域福祉と当事者支援③－障害児と地域福祉①－	障害児　放課後保障　ボランティア
8	地域福祉と当事者支援④－障害児と地域福祉②－	障害児　放課後保障　ボランティア
9	地域福祉と当事者支援⑤－男性介護者支援①－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
10	地域福祉と当事者支援⑥－男性介護者支援②－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
11	地域福祉の方法①－コミュニティワーク－	ソーシャルワーク　コミュニティワーク　間接援助技術
12	地域福祉の方法②－地域福祉(活動)計画－	地域福祉(活動)計画　市民参画　ワークショップ
13	地域福祉の方法③－地域福祉の機関と担い手－	社会福祉協議会　民生委員　社会福祉施設　NPO
14	地域福祉の方法④－ボランティアリズムと地域福祉－	ボランティアセンター　ボランティアコーディネーター　NPO
15	地域福祉とは何か－地域福祉の歴史的発展を踏まえて－	地域福祉　分野別福祉　住民主体　関係性　当事者性　社会運動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

地域福祉活動やボランティア活動についての体験があれば、講義内容の理解が容易であると思われる。実際に活動に参加・体験してみたり、友人知人の体験談や活動実施機関・団体等のレポートなどにも目を通しておくこととを薦める。ゲストスピーカーも予定し、毎回簡単な感想／意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	40 %	講義内容に即した地域福祉理解について評価する
レポート試験	30 %	2～3回の中間試験又はレポートを課す
平常点評価	30 %	講義時のコミュニケーションペーパーなどを活用する

本講義は、2回生以上の配当科目ではあるが、各分野別福祉論(児童、障害、老人、など)や援助技術論を受講後の方が望ましいし、その方が講義理解を容易にすると思われる。各分野別福祉との比較検討の中で地域福祉固有の構造や領域、方法について具体的に講義していく

予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書としては特に指定はないが、講義中にその都度適宜紹介する。また、社会福祉士の国家試験の受験を予定しているものは、本講義では特にその受験対策は行なわないために、該当テキストによって自学自習すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
男性介護者白書	津止正敏／かもがわ出版／978-4-0117-5／
ボランティアの臨床社会学	津止正敏他／クリエイツかもがわ／／3月発行予定

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

全国社会福祉協議会　http://www.shakyo.or.jp/
厚生労働省　http://www-bm.mhlw.go.jp/index.html
内閣府　http://www.cao.go.jp/

その他 / Others

地域保健論（S）

15474

担当者名 / Instructor　白石 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の地域保健活動は、国から地域及びその構成員個人へと主体がシフトしている。その流れを踏まえつつ、地域保健に関する基本概念や行政の仕組み、行政や諸関連組織の活動などについてみていく。

さらに、疾病構造、生活習慣などを踏まえたうえで、地域や個人を対象とした健康課題やその対策について、保健や医療分野にとどまらず福祉をはじめ多様な視点から多面的・多層的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目を終了した学生は、次のことができるよう期待されている。

1. 地域（市町村）レベルでの保健康課題、取組の理念や仕組みなどに関する基礎知識を身につける。
2. 社会保障における地域保健政策の役割や課題について、身近な事例などを用いて説明できる。
3. 医療をはじめ福祉や環境など他の分野との相互関係を踏まえて議論できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが，地域社会論，地域福祉論，現代人とヘルスケア，衛生学などとあわせて受講することで理解が深まるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	ガイダンス	講座の目標（到達点）、全体の流れ、評価方法などの概要説明
2回	地域保健と健康；各種関連用語及び概念について	地域保健、健康、ヘルスプロモーション、疾病予防、健康増進、介護予防など
3回	健康の指標及び日本の健康の状況	疾病構造、死亡要因、平均寿命など保健関連の各種統計から保健課題を抽出
4－5回	保健政策の流れ（歴史）	・現在のプライマリケア、健康増進（ヘルスプロモーション）までの政策の流れ ・保健サービスが国から市町村に移行する背景
6回	地域保健（1）全体論	地域保健に関する行政制度・サービス、人的資源の概要について
7－8回	地域保健（2）各論	①健康増進対策 →近年、住民の関心が高まるとともに行政においても重点が置かれている健康増進政策の背景と制度・サービスを取り上げる ②高齢者保健、母子保健、精神保健 →国や都道府県から市町村に移譲されてきている保健領域に焦点をあて、府県の保健行政との関係のなかで地域保健を整理する
9回	地域保健と医療	地域保健と関連する医療制度・サービス及びそれらとの連携について →地域医療計画、生活習慣病対策、健康日本21、健やか親子21など
10回	地域保健と福祉	地域保健と関連する福祉制度・サービス及びそれらとの連携について →児童育成計画、障害者福祉計画、高齢者福祉計画、介護保険事業計画など
11回	地域保健推進の手法（1）	地域保健計画、地域保健医療計画、健康日本21地方計画、食育推進地域計画など地域保健にかかわる計画の意義、特徴及び課題など
12回	地域保健推進の手法（2）セーフコミュニティ①	WHOセーフコミュニティ（SC）の概要説明と地域保健の視点からみたSCの意義について
13回	地域保健推進の手法（3）セーフコミュニティ②	WHOセーフコミュニティ活動の事例（海外） →WHOセーフコミュニティの組みの状況と保健面での成果について、海外の事例から紹介（主に、保健が地域レベルで取り組まれているスウェーデンや北欧諸国や近年取り組みが活発なアジアの事例を中心に説明）
14回	地域保健推進の手法（4）セーフコミュニティ③	WHOセーフコミュニティ活動の事例（日本） →日本におけるセーフコミュニティの取り組みと地域保健における成果（高齢者保健、精神保健、職域保健・・・・）への展開を国内の事例（亀岡市、十和田市、厚木市など）

15回	まとめ	これまでの講義内容のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして実施する。 授業の理解度を確認するとともに、学んだ内容をもとに自分の身近な地域における健康課題を取り上げ対策について考察する。
平常点評価	50 %	出席を重視する。 また、小レポートやコメントシートにより関心事や理解の深さを確認する。

・授業は基本的にパワーポイントを用いて行う。
・レポートやワークシートのテーマ、課題については、基本的に授業中に連絡する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1)地域保健は、私たちだれもが日常生活で大きく関っている分野です。日々の生活のなかからも興味深く学ぶために、自分で具体的な健康課題とその取り組みを考えながら学んでいくことを勧めます。最終的にレポート作成にも関わってきますので、自分がとりくむ課題を考えつつ受講してください。

2)前半は地域保健の全体像の理解を目的としています。後半は各論として、実際に他の分野との関係や具体的な取組事例を取り上げます。後半の各論を理解するためには、前半の基礎をしっかり把握しておくことが重要です。前半後半を通して授業に出て内容を把握したうえで自ら取り組む人口と健康問題について考えて、最終的に提出するレポートを作成していくことが求められます。

3)課題については早い時期に授業でお知らせするので、学期終了時に何が求められているかを理解したうえで受講してください。

教科書 / Textbooks

・テキストは利用せず、必要な資料等は授業中で紹介します。
・いくつかの健康問題については、入手しやすい情報源を紹介します。ただし、レポート等でそれらを使う際には、引用のルールをまもって下さい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生・公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂／／／何かを調べる際に
健康づくりと社会環境	松田亮三他／法律文化社／／主に健康づくりについて
国民衛生の動向	／財団法人　厚生統計協会／／公衆衛生の動向など全体的な理解について

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

（行政）
厚生労働省(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
健康日本21　http://www.kenkounippon21.gr.jp/
（研究機関）
国立健康・栄養研究所(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
国立保健医療科学院(http://www.niph.go.jp/)
電子図書館からは、『保健医療科学』（かつての『公衆衛生研究』）が読める
http://www.niph.go.jp/toshokan/denshi-toshokan.htm
厚生労働科学研究のデータベースもある
http://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/index.htm

（ポータルサイト）
健康ネット　http://www.health-net.or.jp/　（健康に関連したNGO）
その他、多数あり。授業中に紹介する。

その他 / Others

人間コミュニケーション論 (S)

15536

担当者名 / Instructor　団 士郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。一方、得意だと思っている人は、自分のコミュニケーション作法を振り返ってみる機会がありません。上手くやれていると思っているものを、見つめ直す必要を感じないからです。その結果、若くして身についた技術のまま、二十代、三十代を過ごしてしまいます。これが要注意点であることに議論は不要でしょう。

また、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも少し、焦点を当てます。

対人コミュニケーションにおいては「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好なコミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達の手段技術)の両者がうまく備わってこそです。この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。

毎年説明しているように、教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一歩前進です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
(1)	イントロダクション　授業の進め方　第一回の実習　ミニレポート(記述・提出)	
(2)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(3)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(4)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(5)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(6)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(7)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(8)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(9)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(10)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(11)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(12)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(13)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
(14)	今日の課題実習(屋外実習)　今日のフィードバック(記述・提出)	
(15)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上（10回）出席できそうにない者は登録しないでください。基本的に毎週フィードバックシートの提出を課します。遅刻してミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。2008年度は登録して出席できない四回生が目立ちました。当然単位は取れません。けじめのある受講登録をしてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の練習問題	団士郎／ホンブロックKK／／マンガです。主に家族のコミュニケーションに焦点をあてたものです。
不登校の解法ー家族のシステムとは何かー	団士郎／文春新書／／読みやすい新書です。家族システム論の視点から、親子のコミュニケーションをテーマに書いています。
家族力×相談力	団士郎／文春新書／／家族関係全般について、様々な事例を書いています。
家族の練習問題（2）	団士郎／ホンブロック／／第二巻です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

人間発達論（S）

15533

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「人間らしい発達とは何か」という問いをメインテーマとしながら，人間の生涯にわたる発達のプロセスを発達の時期ごとに概観する。その際、人格の発達に焦点を当てるが，それと同時に，認識や感情といった発達の諸相についても、可能な範囲で触れることとしたい。
それに加えて，人間発達に関わる近年の理論的発展についても触れる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

①人間の発達に関して，基本的な知識を得ること。
②人間発達に関わる知識を，福祉や教育の観点と結びつけて理解を深めること
③これらを基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の進め方についての説明」および「発達とは何か」	機能連関，発達権
第2回	人間発達と進化	進化，遺伝と環境，人間性
第3回	胎生期の発達的特徴	受精，着床，胎芽期，胎児期
第4回	乳児期前半の発達的特徴	周産期，新生児期，原始反射，顔の知覚，姿勢
第5回	乳児期後半の発達的特徴	共同注意，三項関係，歩行
第6回	幼児期前半の発達的特徴	言葉の始まり，表象，自我，第一反抗期
第7回	幼児期後半の発達的特徴	認知世界の広がり，素朴理論，自己主張と自己抑制
第8回	児童期前半の発達的特徴	学校への移行，勤勉性，具体的操作
第9回	児童期後半の発達的特徴	ギャング・エイジ，9，10歳の発達の節，仲間関係と自己意識
第10回	青年期の発達的特徴	性的成熟，第二反抗期，アイデンティティ，自立と依存
第11回	成人期の発達的特徴	労働，結婚，親になること
第12回	老年期の発達的特徴	子どもの巣立ち，関係性の変容，衰退，英知
第13回	人間発達理解の新しい展開①：発達の可塑性	経験の意味，進化生物学，遅れからの回復，
第14回	人間発達理解の新しい展開②：知的発達を捉え直す	IQ，経験知，分析的知能，実践的知能
第15回	人間発達理解の新しい展開③：英知に向かう発達を捉える	英知，人生回顧，知識，知能，越境，意志

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	学習内容に関する基本的な理解があること，ならびに，そうした理解に基づく妥当な考察ができること。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代心理学入門2発達心理学	無藤隆 他／岩波書店／4-00-003922-9／講義の一部で言及する
生涯発達のダイナミズム：知の多様性 生き方の可塑性	鈴木忠／東京大学出版会／9784130133012／講義の一部で言及する
家族の関わりから考える生涯発達心理学	尾形和男 他／北大路書房／4-7628-2520-4／理解を深めるために
ライフサイクル、その完結	E. H. エリクソン 他／みすず書房／4-6220-3967-2／理解を深めるために
1歳児の発達診断入門	田中昌人／大月書店／4-2724-0361-3 ／理解を深めるために

上記以外にも，参考となる文献は，随時授業で紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

発達障害論（S）

13337

担当者名 / Instructor　荒木 穂積

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの視点から発達支援の課題と関わらせて考えていきたい。

本講義では、人間発達の過程において発達の質的転換期（例えば、「階層-段階」理論など）との関わりで発達障害をとらえていく。発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・発達障害の基礎的概念や用語を学ぶ。
・発達障害の発生・成立のメカニズムを学ぶ。
・人間発達における質的転換期と発達障害の関係について理解を深める。
・発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学、児童青年の心理、人間コミュニケーション論、障害者福祉論、心理検査法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	1. 発達障害とは（1）－基礎的用語と定義の説明－	発達とは、障害とは、発達障害とは、発達障害者とは、発達障害の定義（広義）、発達障害の定義（狭義）
第2回	発達障害とは（2）－歴史・現状－	発達障害概念の歴史的変遷、発達障害者数、発達障害者支援法
第3回	2. 人間発達と発達障害（1）－系統発生と障害（その1）：ヒトの誕生まで－	人間進化、遺伝病、遺伝子病、障害の発生と進化
第4回	人間発達と発達障害（2）－系統発生と障害（その2）：ヒトの誕生以降－	ヒトの誕生、ネアンデルタール人、共同社会、社会の進歩と障害者、知的障害と能力主義、発達障害とコミュニケーションの発達、障害と社会
第5回	3. 発達の「階層－段階」と発達障害（1）－胎生期（その1）－	卵体期、胎芽期、遺伝病、遺伝子病、染色体異常
第6回	発達の「階層－段階」と発達障害（2）－胎生期（その2）－	胎児期、脳の発達、神経の成長、先天と後天、流産と死産
第7回	発達の「階層－段階」と発達障害（3）－周生期－	未熟児、低体重児、仮死、アプガー指数、脳性マヒ
第8回	発達の「階層－段階」と発達障害（4）－乳児期前半－	原始反射、親と子の絆、運動発達、笑顔の獲得、情緒の発達、親子関係、重度重複障害
第9回	発達の「階層－段階」と発達障害（5）－乳児期後半－	移動、コミュニケーション、注意共有機構（SAM）喃語の獲得、模倣と学習、愛着の発達、対人関係障害、情緒障害
第10回	発達の「階層－段階」と発達障害（6）－幼児期（その1）－	歩行、道具の操作、話しことば獲得期、言語障害、行動障害
第11回	発達の「階層－段階」と発達障害（7）－幼児期（その2）－	早期発見、早期療育、心の理論、マインド・リーディング、自閉症スペクトラム、アスペルガー障害、「三つ組みの障害」
第12回	発達の「階層－段階」と発達障害（8）－幼児期（その3）－	遊び、模倣、学習、ふり遊び、見立て遊び、ごっこ遊び、集団活動と発達障害
第13回	発達の「階層－段階」と発達障害（9）－学童期・青年期（その1）－	書きことば獲得期、社会的自己、集団、学力と人格形成、障害の自己認識、特別支援教育
第14回	発達の「階層－段階」と発達障害（10）－学童期・青年期（その2）	二次障害、いじめ、不登校、ひきこもり、社会参加、障害の自己認識、こだわりと個性、感情コントロール、行動コントロール、行為障害（CD）
第15回	まとめ・評価	全体のまとめ・評価の説明

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・実習やフィールドでの経験があると理解しやすい。
・日頃、耳にする用語や概念を授業で正確に理解してほしい。
・発達障害への基礎知識の習得をすすめる努力をしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	配点にそって採点する。 日本語としの文章や表記が正確でない場合は減点となる。
レポート試験	40 %	事実と自分の意見・感想が区別して述べられているか。 資料や文献の読み込みがしっかりできているか。 資料や文献の紹介が中心のレポートは減点となる。
平常点評価	10 %	授業への参加度と積極性の自己評価を重視する。

コースツールを活用して提出物をもとめることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の途中でレポートの提出をもとめます。必ず提出してください。
授業テーマと関連する教材や文献を活用して知識をひろげる努力をしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達診断と障害児教育	荒木穂積・白石正久／青木書店／／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
自閉症と遊び	ヤニック・ベイヤー＆ローネ・ガメルトフ／クリエイツかもがわ／／乳幼児期の発達障害支援の基礎を学ぶ

レジュメを配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの発達と診断①～⑤	田中昌人・田中杉恵／大月書店／／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
発達障害の臨床	有馬正高・熊谷公明・栗田広／日本文化科学社／／発達障害の医学的基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム学び方ガイド−社会参加をめざした授業づくり−	レベッカ・A・モイズ／クリエイツかもがわ／／発達障害支援の基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム生き方ガイド−自己権利擁護と「障害表明」のすすめ−	スティーブン・ショア／クリエイツかもがわ／／青年・成人期の発達障害支援の基礎を学ぶ
障害医学への招待−特別支援教育・自立支援法時代の基礎知識−	杉本健郎・二木康之・福本良之／クリエイツかもがわ／／障害の医学的基礎を学ぶ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本自閉症協会：http://www.autism.or.jp/
日本ダウン症ネットワーク：http://jdsn.gr.jp/
日本知的障害者福祉連盟：http://www13.ocn.ne.jp/~jlid/
日本発達障害者ネットワーク：http://jddnet.jp/
全国障害者問題研究会：http://www.nginet.or.jp/
文部科学省: http://www.mext.go.jp/
厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/

その他 / Others

レジュメは当日配布します。授業後はコースツールにアップロードしておきますので各自ダウンロードしてください。授業の連絡事項も授業場面及びコースツールの連絡事項で指示をします。

発達保障論（S）

13451

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要：発達保障とは、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わる、人権や社会保障を根底から成り立しめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとおして、人生のそれぞれの時期にどのような人間的自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

本年度は、人間発達の阻害状況とともに、子どもや障害をもつ人たちの発達の可能性とそれを保障するための理論と実際について考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

発達保障の成り立ってきた歴史的背景、現代社会における人間発達の阻害状況、およびそれを発達の契機として築きあげてきた人間の発達を保障するための諸理論と実践についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、人格発達論、障害者福祉論、現代人権論、ライフサイクル論、発達障害論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	発達保障とは何か（1）	性格と構成要素
第2回	発達保障とは何か（2）	発達保障の系譜
第3回	子どもと発達保障（1）	胎生期及び乳児期の課題
第4回	子どもと発達保障（2）	幼児期の課題
第5回	子どもと発達保障（3）	児童期の課題
第6回	子どもからおとなへの課題と発達保障(1)	思春期の課題
第7回	子どもからおとなへの課題と発達保障(2)	青年期の課題
第8回	成人の課題と発達保障（1）	成人・中年期の課題
第9回	成人の課題と発達保障（2）	高齢期の課題
第10回	現代社会と自立（1）	現代の自立論
第11回	現代社会と自立（2）	自律への課題1
第12回	現代社会と自立（3）	自律への課題2
第13回	現代社会と自立(4)	自律への課題3
第14回	現代社会と自立(5)	自律への課題4
第15回	全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業の途中でレポートの提出をもとめる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	配点にそって採点する。日本語としの文章や表記が正確でない場合は減点となる。
レポート試験	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

参考書は講義の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

バリアフリー論（S）

13303

担当者名 / Instructor　斎藤 正一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この数年間、バリアフリーというテーマで講義をしてきました。バリアフリーという言葉は、最近いろいろなところで耳にします。バリアフリー住宅にバリアフリー施設。乗り物などにもバリアフリーが考えられています。今や障害者だけではなく、一般の健常者でも当たり前のようにバリアフリー環境に慣れ親しんでいます。しかし本当のバリアーとは一体何でしょう。またどうすれば本当の意味でのバリアフリーになるのでしょうか。私は、日々職業柄考えさせられることが多くあります。
バリアフリーには、物の障害だけではなく身体・精神・環境・施設・人・経済といったように様々なバリアーが存在します。講師は、現在も病院で実際に体の不自由な方と共に機能回復の援助を行う理学療法士です。また講師自身視覚障害(先天性弱視)を持っています。仕事では京都市南区の病院で勤務しています。これまでになかった貧困というバリアーを現場から経験しました。日々現場で感じてきた各種の問題、自分自身が体験してきたことを学生諸子にも知っていただき今後社会に出て何らかの役に立てていただければと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

1：各種のバリアフリーの要素をいろいろな角度から知る。学ぶ。
2：バリアーが影響するその実態を自分の身体で心で感じ取る
3：出来る限り実際のものを見て(ビデオなど)その見聞を広げる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に何も知らなくても良いと思いますがもし知っているなら
医学・建築・社会福祉制度

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講義	導入　バリアフリー論について　講義の概要	バリアフリー　リハビリテーション　障害受容　PT　OT　ST
第2～5講義	第一章　身体のバリアフリー　基礎医学　各疾患	筋　骨格系　神経　　脳血管障害　脊髄損傷　リウマチ　パーキンソン病　高齢者に多い骨折　廃用症候群
第6～7講義	第二章　精神のバリアフリー	認知症　高次脳機能　人の心理
第8講義	第三章　体験	本当の車椅子体験　障害者の気持ち
第9～11講義	第四章　住環境のバリアフリー	住環境　福祉用具
第12～14講義	第五章　人・制度・環境のバリアフリー	地域社会　ボランティア　社会福祉制度　行政機関　民間活力　都市環境　経済環境
第15講義	最終章　障害者の限界　バリアフリーって何だろう	パラリンピック　障害者スポーツ　人間の限界

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業で学んだことを正しく理解できているか評価します。
レポート試験	0 %	課題レポートを指示します
平常点評価	30 %	毎回の授業終了時に授業の感想や自分の考えを記載してもらいます。感想がなく名前だけの者は出席と認めません。

＊定期試験として実施
講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。
基本的に講義をまじめに聞いて頂ければ合格点は取れると思います。
ただ全講義出席していても定期試験で間違った答に点数を出すなどのことは致しません。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは配布いたしますが基本事項のテキストです。講義の中で講師がお話しする事を学生自身で
テキストの余白に記入して完全なテキストにして下さい。
質問の時など、教室の遠くで黙って挙手をしていただいてもおそらく見えないと思います。講師は先天性弱視の視覚障害を持っているためです。したがって授業中に何か質問や疑問が出たときは、大きな声を出して挙手をしながら起立などして意思表示してください。また授業最後の出席とともに出していただく感想に質問していただいてもかまいません。必ず返答希望の方は、授業終了後直接質問しに来て頂くかメールアドレスに質問していただければお答えできると思います。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

教科書 / Textbooks

基本テキストは、毎回講義のときに配布いたします。

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

http://yagi.doshisha.ac.jp/bf/guide/guide-top.htm ＜車椅子で回れる京都観光ガイド＞
http://www.jaeic.or.jp/hyk/index.htm ＜ひとにやさしい建築・住宅推進協議会＞
http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm ＜福祉制度：障害者制度集＞
http://www.hcr.or.jp/ ＜国際福祉機器展＞
http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html ＜国際生活機能分類＞
http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/ ＜日本理学療法士協会＞
http://www.jaot.or.jp/ ＜日本作業療法士協会＞
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm ＜学校施設バリアフリー化推進指針＞
http://www.jsad.or.jp/ ＜日本障害者スポーツ協会＞
http://www.asahi-net.or.jp/~ve9k-nkk/toukyuuhyou.htm ＜身体障害者障害程度等級表＞
http://akatan.cool.ne.jp/index.html ＜赤の他人のホントのわたし＞
http://www.npojba.org/ ＜バリアフリー協会＞
http://members.jcom.home.ne.jp/1653895301/top.html ＜バリアフリー住宅＞
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji_.html ＜交通バリアフリー＞
http://www.mlit.go.jp/barrierfree/barrierfree_.html ＜国土交通省のバリアフリー・ユニバーサルデザイン＞
http://www.universal-design.gr.jp/ ＜ユニバーサルデザインフォーラム＞

その他 / Others

福祉行財政論（S）

15538

担当者名 / Instructor　澤井 勝

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会保障の体系の中に社会福祉を位置づけ、国家財政と地方財政の基礎構造を理解する。合わせて福祉を巡る行政システム、特に地域福祉における分権改革と、市民セクターとの間の協働について考える

到達目標 / Attainment Objectives

福祉財政の実務と理論をともに理解する。社会福祉政策と財政の関係を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉政策論、社会保障論、社会福祉原論、地域福祉論。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	我が国の社会保障制度の体系と財政構造（1）	福祉国家、国民皆保険、ベバリッジ報告
2	市民の力と縦割り行政（富山方式を学ぶ）DVD放映	小規模多機能施設、ケアすることとケアされること
3	我が国社会保障制度の体系と財政構造（2）	入りやすく出やすい生活保護、就労支援、ワークフェア
4	社会福祉の財源（1）介護保険の場合	要介護状態、自立支援
5	介護の現場と自立支援　DVD「老いを支えて」	在宅介護支援センター、生活の目標
6	社会福祉の財源（2）消費税の構造、所得税の累進制	介護予防、地域包括支援センター
7	地域福祉計画の意義（1）	コミュニティ・ケア、民生委員、自治会町内会、NPO
8	北欧の福祉（1）　DVD「デンマークの介護」	税方式、国民負担率
9	地域福祉計画の意義（2）	コミュニティ・ソーシャルワーカー、小地域福祉の財源
10	北欧の福祉（2）　DVD「スウェーデンの在宅介護」	24時間介護、医療と福祉の連携
11	介護保険事業計画の作り方（1）	認定率、利用率、適正化計画
12	介護保険事業計画の作り方（2）	第一号被保険者保険料、所得段階別保険料、マイケアプラン
13	障害者自立支援法の改正を巡って（1）	依存と自立、自己決定、当事者主権
14	障害者自立支援法の改正をめぐって（2）	支援費と介護保険、施設解体宣言
15	市民社会と福祉ミックス	三つのセクター、福祉社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

NHKスペシャルなどドキュメンタリーをチェックしておくこと。

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『イギリスの政治行政システム』	竹下謙ほか／ぎょうせい／／2002年
『生活保護があぶない』	産経新聞大阪社会部／扶桑社新書／／2008年
『スウェーデン　高い税金と豊かな生活』	星野泉／イマジン出版／／2008年
『生活保護vsワーキングプア』	大山典宏／PHP新書／／2008年
『現代の貧困』	岩田正美／岩波新書／／2007年
『反貧困』	湯浅誠／岩波新書／／2008年
『日本の経済格差』	橘木俊詔／岩波新書／／1998年
『なぜ資本主義は自壊したのか』	中谷巌／集英社インターナショナル／／2008年12月

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

澤井のホームページ、http://www.zaiseijoho.com　特に「福祉政策」の欄。

その他 / Others

福祉経営論（S）

15487

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会保障構造改革のもとで福祉事業が市場化され、民間営利企業の参入が著しい。その中にあって、真に憲法に保障される生活権、生存権に値する福祉事業の運営と経営のあり方を考える。そのために、社会福祉とは何か、福祉施設・事業は誰のため何のために存在するか、学ぶべき立脚的を明確にする。その上で、福祉事業の運営と経営の実際を学ぶとともに、国民本位の福祉事業の運営と経営のあるべき姿や方向性を見出すことを中心とする。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会福祉と社会福祉事業の役割と使命を理解する。
・公的責任のもとでの福祉事業を営む社会福祉法人の設立と運営及び役割、使命を理解する。
・福祉現場を支える福祉従事者をとりまく環境と働き甲斐、生きがいを学び福祉労働の役割を理解する。
・市場化されている福祉現場の運営と経営の実態を学びながら、国民の権利保障としての福祉事業としての事業運営、経営のあり方を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前学習としては社会保障論や各種の福祉制度及び社会福祉法を学習しておくこと。また、できれば、福祉事業所において見学・ボランテイアなど体験しておくことが望ましい。また、学生としては経営的視点で考えることは難しいこともあるが、講義を聴いて考える力を養うことを重視している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	自己紹介、授業計画
2	福祉経営を学ぶ視点	国民の権利としての社会福祉。ノーマライゼーション。
3	社会福祉の理念	社会福祉の歴史、福祉実践の到達と課題
4	社会福祉法	社会福祉法の概要と社会福祉事業
5	公的福祉を推進する社会福祉法人	社会福祉法人の概要と設立、定款準則
6	社会福祉法人の運営	資産、役員、運営原則、事前規制、監査など
7	福祉事業における財源	措置制度と措置費の仕組み
8	措置制度における福祉事業の運営	公費による老人福祉施設の運営と経営
9	障害施設の運営と経営	障害者福祉をめぐる情勢と共同作業所等の運営と経営
10	保育所の運営と経営	保育をめぐる情勢と保育所運営と経営
11	介護保険制度のもとでの経営	介護保険制度の概要と仕組み
12	市場化のもとでの福祉経営	特別養護老人ホームの運営・経営の実際と特徴
13	市場化のもとでの福祉経営	在宅福祉サービスの運営・経営の実際と特徴
14	福祉労働と専門性	福祉従事者をとりまく法的整備と給与実態等。福祉労働における専門性。
15	社会福祉法人の役割、使命	社会福祉法人のアイデンティティとこれからの姿を求めて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	社会福祉にかかる運営と経営に関する知識と考え方の明確化
平常点評価	60 %	出席　40% 日常のコミュニケーションペーパー等による問題意識の明確化　20% なお、出席率7割以下は及第としない

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

福祉を必要とする人の暮らしと身体や心の痛みを共感できる視点や自らの人間性が重要である。そして、福祉を理解し学ぶということは、知識とともに対人援助事業をとおして行われる専門性豊かな援助実践の役割を理解することが重要である。従って、人を理解し自らの人間性を高めること、そして人と社会を見つめる確かな目を養うよう努力することが大切である。

教科書 / Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会福祉辞典	同編集委員会／大月書店／4-272-36040-x／
民間社会福祉事業と公的責任	福祉労働福祉経営共同研究所／かもがわ出版／4-87699-731-4／
転換期の社会福祉事業経営	石倉康次／かもがわ出版／4-87699-651-2／
福祉の公的責任と社会福祉法人のあり方に関する中間のまとめ	同検討会／同検討会／なし／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/shingi/hosho.html#kaigohoken

その他 / Others

福祉産業論（S）

13272

担当者名 / Instructor　今井 久人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

福祉産業論と一口に言っても、現状を見る限り自動車産業や鉄鋼産業などの天下国家を支えるほど巨大なものではない。また、明確な共通イメージがあるわけでもない。一般的なイメージでは保健・医療・福祉など日常の生活部面で提供されているサービスが多く見られるところである。少子高齢社会の到来とともに保健・医療・福祉など、それぞれの分野で市場が形成また拡大されつつあり、今後のこれらの分野の成長が見込まれることから既存産業からの参入が図られているところである。本講義では、その現状を見ながらこの分野の将来性とその成長が市民生活の支援等にどう寄与するかを見る。

到達目標 / Attainment Objectives

保健・医療・福祉といった生活関連産業のそれぞれの分野の特徴や具体的な事業展開例から、福祉産業を俯瞰的に広く理解するレベルに達すること。さらにその理解の上にたって、今後、社会人として生活の様々な場面で利用するであろう保健・医療・福祉などのサービスを、供給側・受給側など視点を変えながら、その抱える諸課題や産業としての発展性や可能性を探るレベルまでに高めること。
（若い学生諸君にはまだそれぞれのサービスの利用は身近なものではないが、関心を持つことによりその公的・私的なサービスを消費者として理解するような学習態度を期待する）

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に社会福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、児童福祉論などを履修していることが望ましいが、これらの分野に対して日頃から新聞や雑誌から時事的な話題に関心を持つことが大事である。特に近年は、介護保険制度の改正をはじめ障害者自立支援法の制定、後期高齢者医療制度の改正など大きな変化があった。そのような背景のなか、既存の事業から新規に参入する企業やその商品などを生活実践から学び取る姿勢が大事である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	
2	福祉産業とは何か（講義の概要）	一般産業の動向、生活関連産業と暮らし
3~4	医療産業の市場　日本の医療（医療機関）の現状と課題	厚生動向　医療保険制度　高齢者医療制度　診療報酬
5~6	医療産業の市場　日本の医療（医療周辺産業）の現状と課題	医療機器　医薬品　医療廃棄物
7~8	健康産業市場　日本の健康産業の現状と課題	健康日本21　ヘルスプロモーション
9	健康産業の市場　日本の健康増進ビジネス	フィットネスクラブ　サプリメント市場　健康グッズ
10~11	福祉産業の市場　介護保険制度　障害者自立支援法	介護報酬　介護ビジネス　紙おむつ　介護機器　高齢者住宅　有料老人ホーム
12～13	福祉産業の市場	介護保険関係事業事例（訪問介護、通所介護、施設介護）
14	中国の高齢化と高齢者福祉	
15	総括（まとめ）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして全体の講義を通して、理解度と全体的な視点、気づきを問う。
平常点評価	50 %	出席を重視する。中間に小レポートの提出を求め関心事や理解の深さを確認する。出席時のコメントシートを利用しながら、授業内容のコメントの提出を求める。

定期試験は実施しないが、日頃の受講態度から福祉産業に関する関心事や興味など、視野の広がりや知識の習得度合いを見るため、期間中に1から2回程度、課題を与えて小レポートを提出してもらう。そのため、毎回の出席に占める比重は高い。また、全体のまとめとしての到達度合を測るため期末レポートの提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本を元気にする健康サービス産業	島田晴雄 ／東洋経済新報社／／
シルバーサービス論	シルバーサービス論／ミネルヴァ書房／／
日経ヘルスケア21	／日経BP社／／

参考文献は多くないが、日常から新聞・業界誌等の関連記事に注意を払うこと。
厚生労働省のHP・経済産業省等のHP

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉住環境論（S）

13283

担当者名 / Instructor　蔵田 力

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

世界的な流れである「住まいは福祉の基盤」「住まいは人権」を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義概要、流れ、到達目標等説明	
第2回	住宅総論Ⅰ 「住まい」とは	
第3回	住宅総論Ⅱ 「居住の権利宣言」を学ぶ	
第4回	住宅総論Ⅲ 日本、世界の住宅政策と福祉政策	
第5回	住宅各論Ⅰ バリアフリーの考え方	
第6回	住宅各論Ⅱ-1 「住まいの環境改善」のあり方	
第7回	住宅各論Ⅱ-2 「住まいの環境改善」における専門家の連携	
第8回	住宅各論Ⅱ-3 事例研究	
第9回	住宅各論Ⅲ 「住まい」と家族	
第10回	住宅各論Ⅳ 「住まい」と健康	
第11回	住宅各論Ⅴ ホームレス問題	
第12回	地域論Ⅰ 日本と世界の都市政策	
第13回	地域論Ⅱ-1 高齢者・障害者が住み続けられる“まちづくり”	
第14回	地域論Ⅱ-2 生活圏構想	
第15回	まとめ・超高齢社会を展望する“まちづくり”の課題（討論）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

配布資料および参考書のポイントを復習、また事前に配布された資料の予習

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価
平常点評価	20 %	コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

（1）配布資料は必ず整理し、毎回の講義に持参する。
（2）コミュニケーションカードには、積極的に感想、意見を述べる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「居住福祉」	早川和男／岩波新書／／大学生協等で各自購入

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「住宅の権利・誓約集」	監修・中林 浩／日本住宅会議／／日本住宅会議が注文販売

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉情報論（S）

13275

担当者名 / Instructor　生田 正幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁（バリア）に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なICT（情報通信技術）を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術（Assistive Technology）の発達と普及も著しい。社会全体が、ICTと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・福祉・介護分野におけるICT化・情報化の実態と考え方を知る。
・福祉・介護に関する情報を利用するための基礎的な知識と方法を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作を的確に行えることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	福祉情報論がめざすもの
第2回	インターネットと福祉情報(1)	福祉の情報資源を使いこなす part1
第3回	インターネットと福祉情報(2)	福祉の情報資源を使いこなす part2
第4回	福祉と情報(1)	なぜ、情報を提供するのか
第5回	福祉と情報(2)	福祉が変わる、情報が変える
第6回	福祉情報をどう使うのか(1)	探す・評価する・選択する
第7回	福祉情報をどう使うのか(2)	福祉のための情報システムと情報機器
第8回	福祉情報をどう使うのか(3)	共有する・発信する・結びつける
第9回	福祉情報とは何か(1)	情報は便利なのか？
第10回	福祉情報とは何か(2)	福祉情報の体系と構造
第11回	福祉情報化とは(1)	誰のための情報化なのか
第12回	福祉情報化とは(2)	情報化とは何をすることなのか
第13回	福祉情報化の課題と展望(1)	様々な課題
第14回	福祉情報化の課題と展望(2)	新しい福祉への戦略
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

福祉・介護とICT・情報というと、福祉分野の学生諸君にはあまり関係がないように思われるかもしれません。しかし、私たちの生活が、今やICTや情報の活用なしには成り立たないように、福祉・介護分野におけるサービスの利用や提供もICTや情報の活用と深く関わっています。そして、福祉や介護に関する情報を入手・活用し、あるいは発信することが、当事者や地域住民にとって非常に重要な課題となりつつあります。私たちの生活と福祉・介護を前進させていくためにICTや情報をいかに活用していくのかという観点から、社会の動き、制度や政策の動きに対する関心を深めて授業に臨んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	毎回出席をとります。

講義の要点は『社会福祉情報論へのアプローチ』（生田正幸著・ミネルヴァ書房）に記載されているので必要に応じて購入すること。（ISBN4-623-03054-7）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

WAM　NET（http://www.wam.go.jp/）、厚生労働省（http://www.mhlw.go.jp/）など。その他、必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

福祉臨床論（S）

15488

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、生活者が、生活上の諸課題に対峙し、主体的な生活を創造することが可能となるために求められる福祉実践を“子ども”“思春期・青年期”“成人期”“円熟期”の各期に分け取り上げる。そのなかで、人生の各期に共通するソーシャルワークの視座と各期に固有なソーシャルワークの視座及び実践（方法ならびに運動）、政策につき考える。

到達目標 / Attainment Objectives

☆社会福祉を学ぶ学生として、社会の諸要因により国民の生活が阻害されている状況を科学的に捉える力を獲得する。
☆今各分野の実践で共通して求められているソーシャルワーカーの役割りを認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　ソーシャルワークの魅力と科学としての介入、アセスメントの視座とファクター	ソーシャルワークの局面　人と生活、発達
第2回	支援原則と支援理念　―パターナリズムからフレンドシップへ，侵襲的介入から自尊を獲得する介入へ―	自尊心、所属感、依存、自己決定、フレンドシップとパターナリズム
第3回	子どもの発達・生活と福祉課題①　―障害の受容に関わる課題―	早期発見、障害受容
第4回	子どもの発達・生活と福祉課題②　―子どもの虐待と再養育―	通告、緊急保護、措置、再養育、
第5回	子どもの発達・生活と福祉課題③　―　―人親家庭の生活課題	母子と父子
第6回	思春期・青年期の課題①―不登校・ひきこもりと当事者支援―	居場所、スクールソーシャルワーク
第7回	思春期・青年期の課題②―軽度発達障害と思春期危機―	就労支援、家族
第8回	成人期の課題①―中途障害や難病と家族崩壊、スティグマ―	慢性疾患、所得中断、生活崩壊、危機
第9回	成人期の課題②―過労自死と家族―	過労自死
第10回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族1	DV、虐待サイクル、緊急保護、体と心
第11回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族2	自尊心、家族内トラウマ
第12回	円熟期の課題―円熟期と孤立―	高齢者　心理
第13回	精神障害と自立	精神障害　社会的孤立　自立
第14回	福祉実践と協同　―地域福祉要求の組織化と地域づくり―	要求の組織化、乳幼児期から円熟期、麦の郷
第15回	総括講義	アセスメント技法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	30 %	若者のひきこもりアセスメントに関するレポートを、「ひきこもりつつ育つ―若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク」（参考書参照）を参照し第7回終了後に指示する提出日に提出する。評価基準は、文書作法10点、内容20点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いかなる媒体でも結構ですから国民の生活に関するニュースに常に触れて下さい。
コミュニケーションペーパーでの質問や講義への参加を期待します。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童虐待とソーシャルワーク実践	柏女霊峰／ミネルヴァ書房／4-623-03508-5／
貧困と闘う人びと	寺久保光良／あけび書房／487154057X／
激増する過労自殺	ストレス疾患労災研究会／皓星社／4-7744-0292-3／
対人援助の臨床福祉学	佐藤俊一／中央法規／4-8058-2452-2／
ひきこもりつつ育つ一若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク	山本耕平／かもがわ出版／978-4-7803-0240-0／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ccap.or.jp/
http://www.jstss.org/

その他 / Others

ライフサイクル論 (S)

15561

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程を概説し、自己形成および人格発達について考察する。なお、各ライフステージにおける心理的危機について注目し、その背景や要因を探り、心理的援助、福祉の課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・ライフサイクル（人生周期）についての理解を深める。
・人格形成の過程で生じる心理的危機とその社会的背景・要因について理解する。
・様々な困難や危機に直面した人々を支えるための心のケアや福祉的援助について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	ライフサイクルとは何か、 人生周期
2	ヒトから人間へ	胎児の発達過程、新生児の能力、母子相互作用
3	乳児期の発達特徴	基本的信頼感 、愛着（アタッチメント）
4	3歳児の発達特徴	自我の芽生え,甘えと自立
5	4歳児の発達特徴	自制心の育ち 、意欲、自発性
6	学童期の発達と心理的危機	愛情を剥奪された子どもの心理的特徴と心のケア
7	思春期の発達と心理的危機	人間関係の不安、葛藤、いじめ、非行
8	自己の連続性、アイデンティティの危機	解離性同一性障害
9	早期教育、教育家族の問題	「良い子」の生きにくさ、親の過剰な期待と挫折
10	思春期・青年期の子どもと親との関係	父と子の葛藤、ひきこもり
11	成人期の発達課題	職業選択、恋愛、結婚
12	成人期の発達と心理的危機	子育てと職業の両立、父親不在と母子密着
13	中年期の心理的特徴	人生の転換期、空の巣症候群、心身の変化、個性化
14	ライフサイクルの中の老い	老いの受容、対象喪失、人格の統合対絶望
15	総括講義	ライフサイクル論のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	発達の特徴、発達課題に対する基本的理解がなされたのか、また、それぞれの段階で生じる問題を克服するために必要な社会的支援についての理解が深まったのか把握するための試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

人間の一生について概説し、様々な問題を扱うために幅広い知識が必要です。そこで、授業中に紹介する文献を読み、理解を深めるように努めてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ライフサイクルの臨床心理学	馬場禮子・永井徹共編／培風館／4-563－05610－3／
女性のためのライフサイクル心理学	岡本祐子・松下美知子編／福村出版／4-571－20051－x／
子育て支援の現在	垣内国光・櫻谷眞理子共編／ミネルヴァ書房／4-623－03643－xc3336／
ライフサイクルの心理学	松尾恒子他／燃焼社／4-88978－992－8／
ライフサイクル、その完結	E. H. エリクソン著村瀬孝雄他訳／みすず書房／4-622－03967－2／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

臨床人間学（S） § ライフデザイン論（S）

15605

担当者名 / Instructor　松島 京

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちはいろいろなものを抱えながら生活をしている。さまざまな葛藤、苦しみや困難は、私たちの人生の中に訪れないことはない。抱え込んでいるそれらを、私たちはどのように理解しどのように対応することができるだろうか。
「心の世紀」「心のケア」という言葉が表すように、「心」や「心理」への関心は高い。しかし、今後いっそう複雑化する社会状況の中で、人間を理解しサポートする際には、総合的・多面的に捉える視点が必要となるだろう。
本講義では、苦しみや困難を抱えながら生きることや、それらを生み出す社会的な装置に注目しながら、「人間」が「生きる」こと、それに対する援助について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

臨床的な援助課題を社会問題という視点から捉えなおすことができる。
臨床的な援助課題に対するアプローチの仕方について理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

臨床社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と導入／臨床とはなにか	講義の到達目標、講義の進め方、成績評価方法／ベッドサイド、援助課題と社会問題
第2回	臨床人間学の視点（1）	ライフコース、ライフデザイン
第3回	臨床人間学の視点（2）	近代家族、親密性
第4回	臨床人間学の視点（3）	ジェンダー、セクシュアリティ
第5回	臨床人間学的課題（1）	DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待
第6回	臨床人間学的課題（2）	戦災、災害、事故
第7回	臨床人間学的課題（3）	生、死、病
第8回	臨床人間学的課題（4）	性、アイデンティティ
第9回	ケアと回復（1）	careとcure、相互作用性
第10回	ケアと回復（2）	語ること、物語の再構築、聴くこと、共感、受容
第11回	ケアと回復（3）	配慮と責任、他者性、エンパワメント、アドボカシー
第12回	当事者・家族と援助者（1）	ケアの非対称性、依存する／される、支配／被支配
第13回	当事者・家族と援助者（2）	二次受傷、共感疲労、バーンアウト
第14回	臨床人間学の可能性	共生、連帯、再生
第15回	講義総括／あらためて臨床人間学とは	あなたにとって臨床人間学とは／成績評価方法についての最終確認

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

ふだんから、新聞・小説・映画などに触れ、社会的なテーマや人間関係のあり方に興味関心を持つこと。また、講義中に浮上した疑問点や問題点については、講義担当者への質問もよいが、併せて自ら調べることも進めていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	講義中に数回の小レポートを課す。講義内容の理解度に応じて評価する。講義に対する主体的な取り組みを評価する。いわゆる「出席点」による加点は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義スケジュールは目安である。現代的なテーマを持つ講義なので、時事問題を組み込んでいくこともある。その際はスケジュールが若干変動する場合もある（大きく変動することはない。また事前に連絡をする）。
出席を前提としで講義を進める。随時、受講生によるディスカッションやグループワークなども組み込んでいくので、講義への積極的な参加が望まれる。

教科書 / Textbooks

指定しない。必要な資料は講義中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に必要に応じて紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に必要に応じて紹介する。

その他 / Others

リハビリテーション論（S）

15486

担当者名 / Instructor　宮崎 博子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

リハビリテーションは、理念的には「全人間的復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあって、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

障害者の置かれている状況や心情などが理解出来る。
リハビリテーションの概念と手法が理解できる。
個々の分野におけるリハビリテーションがイメージ出来、対応が分る。
今、医療・福祉の現場で、何が求められているかが理解出来る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義の詳細なスケジュール(確定版)は最初の講義時に提示する。以下に記載するのは(暫定版)講義の基本的内容で、これを押さえた内容で行うが、講義順序などや詳細は変更することがある。社会福祉士などの取得をめざし、将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用して施行する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	リハビリテーション概論、廃用症候群のリハビリテーション	
第2回	障害論	
第3回	障害者の心理、障害受容	
第4回	運動器疾患のリハビリテーション	
第5回	義肢装具のリハビリテーション	
第6回	小児のリハビリテーション、教育的リハビリテーション	
第7回	精神疾患のリハビリテーション	
第8回	地域リハビリテーション、介護保険	
第9回	摂食嚥下障害のリハビリテーション	
第10回	神経・筋疾患のリハビリテーション	
第11回	排尿障害のリハビリテーション	
第12回	内部障害のリハビリテーション	
第13回	脳卒中、脳外傷のリハビリテーション	
第14回	脊髄疾患のリハビリテーション	
第15回	悪性疾患、加齢性疾患のリハビリテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基本的概念を理解し、自分の言葉で表現出来ているかを、評価する。
平常点評価	20 %	学習意欲や態度を評価する。

試験は、講義プリント、参考書、他、持ち込み自由。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に必要なプリントを作成配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーションの森-ツアーガイド-寝たきりが9割いなくなる！	京都府保険医協会・地域リハビリテーションシステム研究会／かもがわ出版／978-4-7803-0177-9／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーション医療入門	／医学書院／／

目で見るリハビリテーション医学　第2版	上田　敏／東京大学出版会／／
脳卒中のリハビリテーション	／医歯薬出版株式会社／／
狭心症、心筋梗塞のリハビリテーション	／南江堂／／
嚥下障害ポケットマニュアル	藤島一郎／医歯薬出版株式会社／／
障害児の包括的評価法マニュアル	全国肢体不自由児施設運営協議会編／メジカルビュー社／／
変わるリハビリ	上月正博／ヴァンメデイカル社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.copd-info.net/　　COPD情報ネット

その他 / Others

臨床社会学（S）

13312

担当者名 / Instructor　本田 宏治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、犯罪や非行、虐待、不登校、ひきこもり、社会的格差など社会病理現象が多様化し、増大しているといわれている。こうした社会問題を臨床的課題として捉えなおし、単に個人の「逸脱」や「不適応」としてではなく、社会学的な観点からの支援を模索する知的方法として臨床社会学がある。

本講義では、オムニバス形式で具体的な事例を取り上げ、社会の問題と個人の問題とが交錯する現代社会への諸問題への洞察を深める。そのためには、社会問題の「現在」を洞察するなかで、日常世界を反省的に異化し、社会構造の「ひずみ」を知覚する社会学的な感受性を身につける必要がある。そのうえで、一人ひとりの参加学生が、関心をもつそれぞれの課題に向けて自発的に解決の糸口を探る能力の獲得を目指したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学的な洞察力を深めたうえで、常識的視野のもとで見逃されている臨床的諸課題の「発掘」と解決に向けた社会学的想像力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会問題を臨床社会学で読み解くことの意義について	社会病理学
第2回	逸脱とは何か？	アノミー論、ラベリング論
第3回	「正常」と「異常」	集合意識、ノルム
第4回	逸脱はなぜ生まれるのか？（1）	社会解体、社会的排除
第5回	逸脱はなぜ生まれるのか？（2）	リスク社会、管理権力
第6回	犯罪の厳罰化の流れ	犯罪不安、厳罰化ポピュリズム
第7回	厳罰化による社会のひずみ	刑事施設、過剰収容問題
第8回	犯罪者の社会内処遇	ダイヴァージョン・プログラム
第9回	トラウマと現在	トラウマ、心的外傷
第10回	被害者化過程での家族・友人・社会	犯罪被害者
第11回	アダルト・チルドレンという生き方	機能不全家族、共依存
第12回	「隠蔽」される犯罪者家族（1）	私的領域、パノプティコン
第13回	「隠蔽」される犯罪者家族（2）	侮蔑発話、医療化
第14回	他者を支えるコミュニティとは何か？	コミュニティ・プリズン、コミュニティ・ポリシング
第15回	他者を「支える」ことは何か？	共在者

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での学習を促すため、配布資料や主題に合わせた参考文献などを読み、レポートをまとめるなど宿題があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業内容を手がかりとして、それぞれが自身の関心とする社会問題を分析する能力を身につけているかを判断する。
平常点評価	30 %	期間中に1回レポートを課し、評価に加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講に際しては、社会学の基礎的な知識を有していることが望ましい。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。配布するプリントを中心に進め、要点は板書する。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

老人福祉論（S） § 老人福祉論（SG）

15463

担当者名 / Instructor　西村 清忠　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

わが国の高齢者福祉制度、サービスに関する基礎知識とそこにおける問題点について講じる。また高齢者の介護問題を中心にして、在宅福祉の展開過程をたどりながら、わが国の高齢者福祉のあり方を福祉先進国といわれる諸外国の高齢者福祉事情と比較しながら検討する。とくに公的介護保険制度の導入にかかわる諸動向について述べ、そこにおける問題点や課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

わが国の高齢者福祉施策の史的展開について理解を深め、かつ諸外国との比較の視点より高齢者福祉の現状を的確に説明できる。さらにそれらを通して高齢者福祉の現代的課題が文化・社会・政治・経済などと連関する社会問題であることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	高齢者福祉の考え方	福祉ニーズ、デマンズと資源などについて
2	人口高齢化	日本的特殊性、問題の予見などについて
3	「家」制度と核家族化	産業化、高齢者問題の現出などについて
4	経済社会と高齢者福祉施策（1）	老人福祉法制定、1970年代の高齢者福祉などについて
5	福祉先進国の高齢者福祉施策	デンマークの在宅福祉などについて
6	経済社会と高齢者福祉施策（2）	高齢者の在宅福祉、福祉理念、日本型福祉などについて
7	経済社会と高齢者福祉施策（3）	1980年代の高齢者福祉施策、老人保健法などについて
8	経済社会と高齢者福祉施策（4）	自助化、多元化、分権化、普遍化、自由化、地域化などについて
9	高齢者福祉と介護問題	介護問題の深刻化などについて
10	高齢者保健福祉推進10カ年戦略	福祉理念と財源問題などについて
11	高齢者福祉と介護保険（1）	福祉理念と財源問題などについて
12	高齢者福祉と介護保険（2）	介護の社会化問題などについて
13	高齢者福祉と介護保険（3）	介護保険の改正ポイントなどについて
14	高齢者の生活と福祉と地域	地域共同性、社会的連帯、公正、社会正義などについて
15	高齢者福祉の展望	市民社会と高齢者福祉施策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞・雑誌等に掲載される高齢者福祉関連の記事に関心をもつこと。自分の住んでいる地域の高齢者福祉について調べたりすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	高齢者福祉制度、政策についての理解を前提に、高齢化社会に対する洞察力を試す問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。
平常点評価	30 %	第5回頃と第10回頃の授業で、それまでの授業内容に対する理解度を確かめるためのレポートを課す。Web-CTを使っての提出を受け付ける。

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「老い」というものを想像し、「自分の問題」としてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉士養成講座（第2巻）「老人福祉論」	／中法法規出版／／標準的な構成と内容をもつテキスト
最新介護福祉全書（8巻）「老人の心理と援助」	／メジカルフレンド社／／標準テキストだが、すこし個性的な内容をもつ
体験ルポ世界の高齢者福祉	山野井和則／岩波新書／／わかりやすい高齢者福祉のレポート
高齢者医療と福祉	岡本祐三／岩波新書／／福祉と医療の視野をあわせもつ高齢者の本

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

老年社会学（S） §　老年社会学（SG）

13250

担当者名 / Instructor　高橋 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

高齢化にともなう社会変化は多様である。高齢化社会の問題に対するアプローチも人口、雇用・就業、家族、医療保健、社会福祉、社会活動・生涯学習、生きがい等と多様である。本講義では高齢化社会の問題を諸データを通じて多角的にとらえつつも、そこに通底する意味を探る。その際、高齢期の問題が世代をこえた課題として実感される接点を提示する。また現代の「老い」の意味を探ることをめざし、社会学的幸福論を主テーマとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学的視点にたち、高齢期に関する諸問題現象を科学的なデータを用いて考察することができ、またその因果的連関を説明できる。さらには現代社会における「老いて生きる」ことの意味を自分の問題としていく探求心を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「老い」を想像する	言語性能力と動作性能力などについて
2	高齢期のこころと身体	個人差、「老い」の多様性などについて
3	高齢期の世代的特性	無限定性、「世代性」などについて
4	高齢期の健康生活と認知症	アルツハイマー型、脳血管性など、認知症について
5	高齢期の経済生活と年金	階層格差、年金の社会的機能などについて
6	高齢期の家族生活と老親扶養慣行	「家」規範と家族変化などについて
7	高齢ねたきりと介護問題	人口高齢化と介護ニーズなどについて
8	高齢期の無為と生きがい・社会活動	喪失のライフイベントなどについて
9	高齢期の孤独・孤立	社会的疎外などについて
10	高齢期の自殺と虐待	自殺率と自殺に関する社会類型などについて
11	エイジズム	「老い」の価値観、「老い」の神話などについて
12	高齢期の社会的役割	活動性と離脱性、受容とあきらめなどについて
13	高齢期の社会的寄与	高齢期の「世代性」などについて
14	「老い」をきく	老いの受容などについて
15	「老い」の意味を考える	「発達と回帰」などについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日常生活の中で、高齢者や高齢者にかかわる事柄に関心をむける。また新聞・雑誌等の高齢者に関する記事を読む際は、「高齢者がどのような生活をしているのか」「高齢者に何が起きているか」を探索しながら読む。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	「高齢社会」、「老い」についての理解を前提に、高齢化社会に対する洞察力を試す問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。
平常点評価	30 %	第5回頃と第10回頃の授業で、それまでの授業内容に対する理解度を確かめるためのレポートを課す。Web-CTを使っての提出を受け付ける。

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「老い」というものを想像し、「老い」に関する問題を「自分の問題」としてとらえてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エイジングの社会学	／日本評論社／／「老い」に関する社会学的な視点を確保するのに役立つ
図説高齢者白書	／全国社会福祉協議会／／「老い」に関する諸現象の客観データをみることができる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others